満支旅行年鑑



16年

ジャパン・ツーリスト・ビューロー編纂

昭和十六年

滿支旅行年鑑

ジャパン・ツーリスト・ビューロー
（日本國際觀光局）
滿洲支部編纂

資本金五千萬圓

朝鮮無煙炭株式會社

本社・朝鮮京城府本町一ノ五三
鑛業所・朝鮮平壤府若松町二
出張所・東京丸ビル・大阪堂ビル

取締役會長	人見次郎
常務取締役	加藤五十造
〃	近藤重治
取締役	大橋新太郎
〃	濱岡清次
〃	三谷一二
〃	田淵勳
〃	安宅彌吉
〃	鈴木四郎
取締役	山本定次
〃	松本幹一郎
〃	齋藤力
監査役	西田藤市
〃	諸戸清六
〃	須藤素
〃	上内彦策
〃	山中清三郎

東京ハット



よい帽子
これがあなたの
生活の表情

東京帽子株式會社　東京・大阪

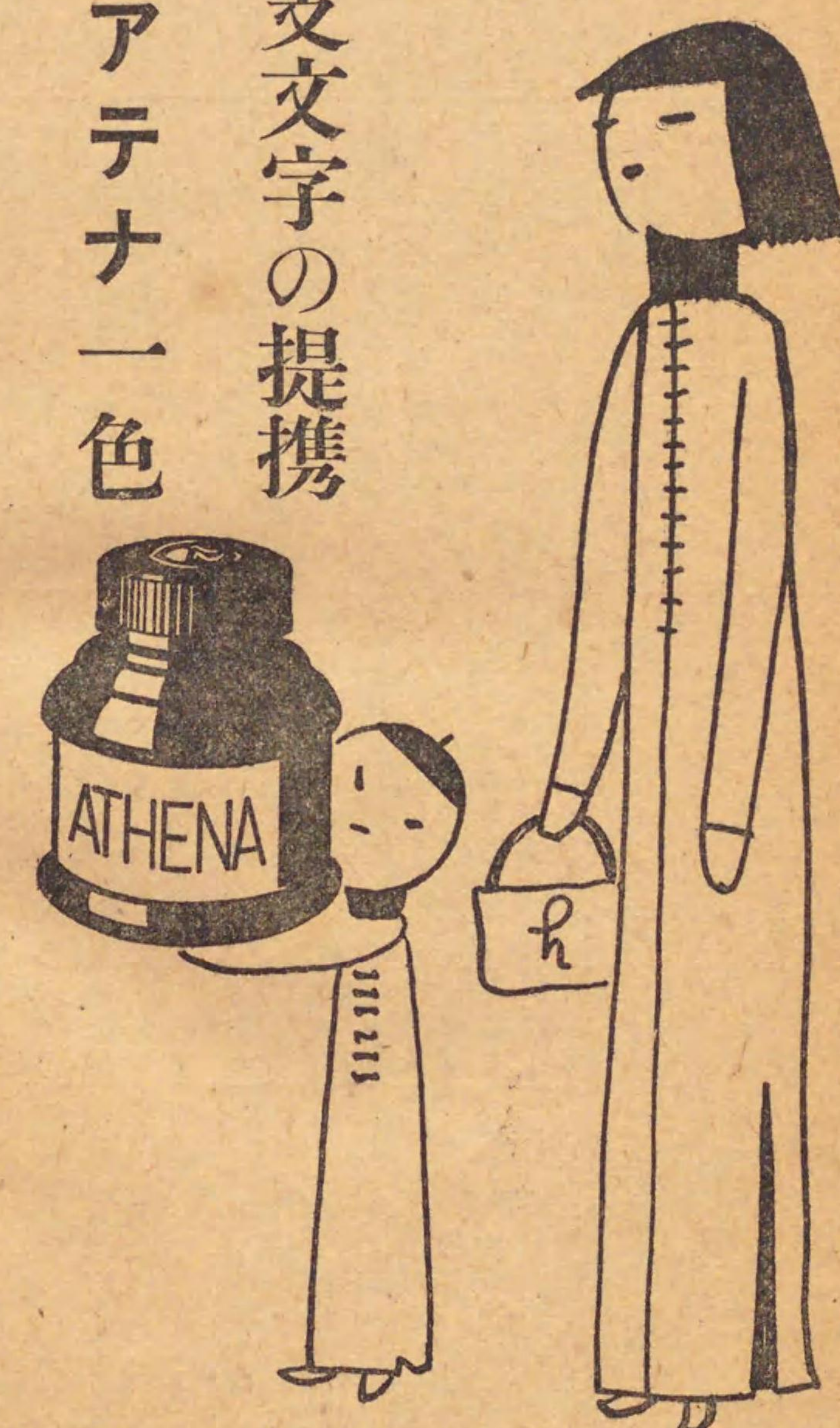
昭和十六年滿支旅行年鑑目次

MARUZEN MARUZEN MARUZEN MARUZEN MARUZEN MARUZEN

日滿支文字の提携

清鮮アテナ一色

丸善アテナインキ



昭和十六年・康德八年・辛巳略曆

日本紀元二六〇一年

西曆紀元一九四一年

陽曆(平年)三百六十五日　陰曆(閏月あり)三百八十四日

陽曆	
大	一　三　五　七　八　十　十二
小	二　四　六　九　十一

陰曆	
大	辛巳　正　二　四　五　閏六　九　十一
小	庚辰十二　三　六　七　八　十　十二

滿洲國

元旦	一月一日
春節	一月二十七日
萬壽節	二月六日
元宵節	二月十日
春丁祀孔	二月二十八日
建國節	三月一日
祈穀祭	四月二十日
訪日宣詔紀念日	五月二日
端午節	五月三十日
建國忠靈廟春祭	五月三十一日
建國神廟創建紀念日	七月十五日
建國忠靈廟秋祭	九月十九日
秋丁祀孔	九月二十六日
中秋節	十月五日
嘗新祭	十月十七日
協和會創立紀念日	七月二十五日
日本承認滿洲國紀念日	九月十五日
除夕	一月二十六日
釋迦佛廟會	三月十六日
祀關岳	三月二十一日
湯崗子娘娘廟會	四月十八日
植樹節	四月二十日
天齊佛廟會	四月二十四日
佛誕廟會	五月三日
娘娘廟會	五月十三日
藥王廟會	五月二十三日
關帝廟會	六月七日
祀關岳	九月二十七日
孔誕	十月十七日

日本

四方拜	一月一日
元始祭	一月三日
新年宴會	一月五日
紀元節	二月十一日
春季皇靈祭	三月二十一日
神武天皇祭	四月三日
天長節	四月二十九日
秋季皇靈祭	九月二十三日
神嘗祭	十月十七日
明治節	十一月三日
新嘗祭	十一月二十三日
大正天皇祭	十二月二十五日
陸軍記念日	三月十日
海軍記念日	五月二十七日
明治神宮祭	十一月三日
靖國神社祭	四月三十日・十月二十三日

二十四節氣

節氣	月日	時分
小寒	一月六日	前三・〇五
大寒	一月二十日	後七・二四
立春	二月四日	後一・五〇
雨水	二月十九日	前九・五七
驚蟄	三月六日	前八・二一
春分	三月二十一日	前九・二三
清明	四月五日	後一・二五
穀雨	四月二十日	後八・五一
立夏	五月六日	前七・一〇
小滿	五月二十一日	後八・二三
芒種	六月六日	前二・四〇
夏至	六月二十二日	前四・三四
小暑	七月七日	後一〇・〇三
大暑	七月二十三日	後三・二七
立秋	八月八日	前七・四六
處暑	八月二十三日	後一〇・一七
白露	九月八日	前一〇・二四
秋分	九月二十三日	後七・三三
寒露	十月九日	前一・三九
霜降	十月二十四日	前四・二八
立冬	十一月八日	前四・二五
小雪	十一月二十三日	前一・三八
大雪	十二月七日	後八・五七
冬至	十二月二十二日	後二・四五

雜節

節分	二月三日
八十八夜	五月三日
入梅	六月十一日
半夏生	七月二日
彼岸	三月十八日・九月二十日
二百十日	九月一日
土用	一月十七日・四月十七日・七月二十日・十月廿一日
三伏	七月廿一日・七月卅一日・八月十日
社日	三月廿一日・九月廿七日

月食　三月十三日

初虧　後七時五五分(方向左)
食甚　後八時五五分(方向左偏上)
復圓　後九時五六分(方向上偏左)
食分　三分三厘

(新京)九月六日

初虧　前二時一九分(方向左下の間)
食甚　前二時四七分(方向左下の間)
復圓　前三時一五分(方向左下の間)
食分　六厘

日食　九月廿一日(新京)

初虧　後零時一〇分八(方向右)
食甚　後一時二四分七(方向下偏右)
復圓　後二時三六分六(方向左偏下)
食分　五分七厘

滿月表

一月	二月	三月	四月	五月	六月
十三日	十二日	十三日	十二日	十一日	九日
七月	**八月**	**九月**	**十月**	**十一月**	**十二月**
九日	七日	六日	五日	四日	四日

日曜表

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
5	2	2	6	4	1	6	3	7	5	2	7
12	9	9	13	11	8	13	10	14	12	9	14
19	16	16	20	18	15	20	17	21	19	16	21
26	23	23	27	25	22	27	24	28	26	23	28
		30			29		31			30	

滿支年代表

年代(皇紀)：神代　前二三五〇頃　前一九八〇頃　前一六九五頃　前一五九五頃　前一五四五頃　前一一〇六頃　前四六一頃

帝國：開創之世　夏(17主)　商(28主)

王號：燧人　伏犧　神農　黄帝　顓頊　帝嚳　帝堯　帝舜（三皇五帝）　禹王　桀王（439年）　湯王　紂王（644年）

重要記事：漢族西方より東南下苗族を追ひ黄河畔に部落す　支部最初の統一(版圖北支全般に及ぶ)　暦法を定む　舜に讓る(禪讓の始)　九官を任じ學校を置く　禹の治水　貢法、車制を定む、子啓王に讓る(王位世襲の始)　商に亡ぼさる(放伐の始)　周に亡ぼさる

年代(皇紀)：神武　前四六二頃　前一一一頃　綏靖　一　一一〇　孝安　二九〇　孝靈　四〇五　四四〇　孝元　四五五　四五九　四六九　開化　五〇七　五二一　五三一　五五三　崇神　六〇一　垂仁　六六八　六八三

帝國：周(36主)　秦(3主)　西漢(12主)　新注―

王號：武王　康王　平王　惠王　威烈王　安王　赧王（867年）　始皇帝　三世（15年）　高祖　武帝　宣帝　孺子嬰（210年）　王莽（15年）　光武帝

重要記事：周公制度を定む(周治)　周寶東遷　春秋の世(293年)　孔子生る　孟子生る　戰國之世(183年)　周滅亡　天下一統　亡ぶ　項羽楚を打ち帝位に踐く　衞滿(燕人)朝鮮王を稱す、吳楚七國の亂　年號の始　儒學振興　匈奴を征す　衞滿朝鮮亡ぶ　西域諸國を降す　王莽簒奪　新亡ぶ　倭人印綬を受く

年代(皇紀)：景行　七二七　七五一　七五七　仲哀　八六〇　八六八　神功(攝政)　八八〇　應神　九二五　九四〇　九六〇　仁德　九七七　允恭　一〇八〇　仁賢　一一五四　欽明　一二〇五　一二一二

帝國：東漢(14主)　蜀(2主)　魏(5主)　吳(4主)　西晉(4主)　東晉(11主)　南朝　北朝

王號：明帝　獻帝（196年）　劉備(48)　曹操(46)　孫權(52)　武帝(52)　元帝(104)　後魏(一三主一三七年)　西魏(四主二四年)　東魏(一主一七年)　北齊(五主二八年)　北周(五主二五年)　宋(八主六〇年)　齊(七主二四年)　梁(四主五六年)　陳(五主三三年)

重要記事：佛教渡來　ローマ帝國との交通　西域都護を置く　神功三韓親征　赤壁の戰(三國分立)　東漢滅亡　三國時代(60年)　晉建國　王仁日本に文學を傳ふ　八王の亂　建康(南京)に都す(文化江南に移る)　東晉滅亡　龍門石佛開造　大同石佛開造　佛教日本傳來　南北朝時代

年代(皇紀)：推古　一二六四　一二七八　齊明　一三二〇　天智　一三二八　持統　一三五〇　一三六五　一三七二　元明　一三七三　孝謙　一四一五　淳仁　一四二三　陽成　一五四〇　宇多　一五五五　醍醐　一五六七　一五六八　一五七六　一五八六　村上　一六〇七　一六二〇

帝國：隋(4主)　唐(20主)　五代

王號：文帝(30)　高祖　太宗　中宗　睿宗　玄宗　肅宗　代宗　僖宗　昭宗　哀帝（290年）　梁(二主一六年)　唐(四主一三年)　晉(二主一一年)　漢(二主四年)　周(三主九年)（53年）　太祖

重要記事：天下統一　隋滅亡　百濟亡ぶ　高麗亡ぶ　諸國との修交(遣唐使)　武后國號を周と稱す　中宗唐に復す　韋后の禍　渤海建國　安祿山の叛　祿山平定　黄巣の亂　節度使暴兵　朱全忠簒奪　高麗朝鮮を統一　契丹阿保機帝を稱す　渤海遼に亡ぼさる(十四主二一五年)　遼(契丹)建國　周を簒奪

年代(皇紀)：圓融　一六三九　一六四〇　花山　一六四六　一條　一六五四　一六六四　御朱雀　一七〇四　鳥羽　一七七五　崇德　一七八五　一七八六　一七八九　御白河　一八一六　土御門　一八六六　一八六九　順德　一八七五　一八七八　一八七九　後堀河　一八八二　一八八三　一八八七

帝國：宋(18主)　北宋　南宋（320年）

王號：太宗　眞宗　仁宗　徽宗　欽宗　高宗　孝宗　寧宗　理宗

重要記事：天下統一　安南半獨立　遼に破らる　遼高麗を下し強大　遼と和す　西夏と和す　金(女眞)建國　遼金に亡ぼさる(九主二一〇年)　金大擧入寇　金北支を奪取　商杭州に遷都　金と和す　鐵木眞汗位に即く(成吉思汗―太祖)　成吉思汗西夏を降す　成吉思汗燕京を陷す　蒙古金の諸州を取る　成吉思汗西域を征す　蒙古印度に迫る　蒙古ロシヤを破る　成吉思汗死す

年代(皇紀)：一八八九　四條　一八九四　一八九五　後御深草　一九一一　一九一八　龜山　一九二〇　一九二四　一九二六　一九三一　一九三四　後宇多　一九三九　一九四一　後醍醐　一九八一　後村上　二〇一五　二〇一六　二〇二二　二〇二四　長慶　二〇二八

帝國：元(11主)

王號：慶宗　世祖　英宗　順宗（105年）　太祖

重要記事：オゴタイ汗位に即く(大宗)　金蒙古に亡ぼさる(九主一二〇年)　蒙古和稱に都す　蒙古憲宗建つ　蒙古西域を平ぐ　忽必烈即位(世祖)　世祖北京に都す　オゴタイ汗叛す　國號を元と稱す　元日本寇其を侵す(文永の役)　宋滅亡　元再九州に來寇(弘安の役)　オゴタイ汗亡ぶ　朱元璋安徽に叛す　朱元璋吳國公を稱す　元軍高麗兵に破る　朱元璋吳王を稱す　吳王國號を明と稱し、元を滅す(太祖より一五三)(一六五年)

後小松 二〇五二・二〇六二・二〇七〇／稱光 二〇七四・二〇八一／後花園 二一〇九／正親町 二二四二／後陽成 二二五二・二二五六・二二六一／後水尾 二二七六・二二八五・二二八七／明正 二二九一・二二九六・二二九七／後光明 二三〇四／後西 二三二一

明（17主）：惠帝　成祖　英宗　神宗　毅宗（277年）
世祖

- 李成桂朝鮮王となる
- 燕王簒立（成祖）
- 韃靼親征
- 安南を征す
- 北京に遷都
- 瓦剌部を親征し大敗擒となる
- ロシヤ西比利亞に侵入
- 文祿の役
- 慶長の役
- キリスト教來る
- 奴爾哈赤國號を後金と稱す（清太祖）
- 後金・瀋陽（奉天）に都す
- 後金大宗立つ
- 李自成叛す
- 後金國號を清とす
- 清朝鮮を降す
- 李自成京師を陷し明滅ぶ
- 清北京に都す
- 清兵緬甸に至る國人王を執へて清に獻ず

東山 二三四九／中御門 二三八七／桃園 二四一七／仁孝 二五〇〇・二五〇二・二五〇四・二五一〇／孝明 二五一六・二五一八・二五二〇・二五二四／明治 二五三一・二五四五・二五五四・二五五五・二五五六・二五五九・二五六一・二五六二

清（10主）：聖祖　高宗　宣宗　文宗　穆宗　德宗（269年）

- ネルチンスク條約露清境界確定
- 外國貿易を廣東に制限す
- 阿片戰爭起る
- 南京條約締結
- 佛米と條約締結
- 長髮賊の亂
- アロー號事件起る
- 天津條約・愛琿條約
- 英佛軍北京燒打、北京條約
- 長髮賊平定
- 日清條約締結
- 安南佛領となる
- 日清戰役起る
- 下關條約
- 露清條約
- 義和團の亂
- 義和團平定
- 日英同盟

二五六四・二五六五・二五七一・二五七二／大正 二五七三・二五七四・二五七七・二五七七・二五八五／昭和 二五八七・二五八八・二五九一・二五九二・二五九四・二五九六・二五九七・二六〇〇

宣統　中華民國　滿洲國／中華民國

- 日露戰役起る
- 日露講和
- 革命起る
- 清朝退位（太祖より二九七年）
- 中華民國成立
- 支那國會開設
- 日本軍青島占領
- 張勳復辟運動
- 廣東軍政府組織（孫文大元帥）
- 廣東國民政府組織
- 國民革命軍漢口を陷す
- 國民政府南京に移る
- 國民黨中國統一
- 滿洲事變
- 滿洲建國
- 滿洲國帝制
- 百靈廟事件
- 日支事變起る、蒙古聯盟自治政府成立
- 南京新政權成立、日獨伊三國同盟

旅行時事

昭和十五年

一月〔一日〕・中華航空では上海台北廣東間の定期空路を開始・東郷大使とモロトフ外務人民委員との間に交渉中の日ソ漁業暫行協定正式調印を了す、本條約は兩國の折衝を俟ち今年中に締結される事となつた・滿鐵では滿洲國の國民教育普及の特殊使命遂行の爲在滿邦人及半島人學童は勿論滿露各民族の兒童に對し一日から汽車通學運賃の全免を實施したが、此等の兒童に對し從來の定期乘車券に代る學生無賃定期乘車券の發行を實施した〔五日〕・大村滿鐵總裁は新年に於ける關係各機關への年頭挨拶並に業務打合を了へ亞細亞で歸奉・滿洲氷協では四五日に亙る詮衡競技會終了後奉天千代田通商業飯店に於て詮衡委員會を開いた結果滿鮮對抗全日本選手權神宮大會に派遣する選手を定めた・全滿日本人百貨店組合員、日本視察團十一名一行奉天發「光」で內地へ出發・哈爾濱の支那經濟視察團一行廿名は瀨藤哈爾濱驛長引率の下に「亞細亞」で出發したが約三週間に亙り北中南支主要都市の視察の筈〔六日〕本年度第十回崇敬會一行十二名は山岡光宣氏に引率されて光輝ある皇紀二千六百年新春劈頭の大廟に萬壽を祈念しようと船出〔七日〕・滿洲氷上協會主催第二回全滿洲第二部氷上競技選手權大會第二日は午前十一時から引續き撫順中央滑氷場に於いて擧行・第廿二回全國中等學校ラグビー大會最終日に於て滿洲代表撫順中學は東北代表秋田工業を破り二年連勝優勝した奉天實業旅行協會台灣視察團入江英一郎以下三十三名は興安丸で下關着〔九日〕・李交通部大臣は工業都市奉天の交通諸機關視察と鐵道總局訪問の爲「アジア」で來奉〔十日〕・滿鐵では逐年繁忙化する新線業務遂行のため齊齊哈爾に鐵道建設事務所を新設・鐵道總局鴨林線八道、林子頭間假營業を開始〔十二日〕曩に上海・廣東間の定期航空を開始した中華航空では上海・漢口間の直行定期空路を開始使用機はダグラス型廿二人乘りの豪華機・滿洲空務協會では日航森歐亞部長の來京を迎へドイツを中心に航空座談會を開催・滿洲觀光聯盟の本年度事業計畫に關する打合會は聯盟及全滿各都市の觀光協會滿鐵其他關係者新京に參集開催本年度觀光客滿洲誘致の根本方針を決定泰國印度の觀光客も誘致のことゝなる。〔十五日〕・大命米內大將に降下・滿鐵では豫て工事中の蓮湯線蓮江口湯原間、汪老線北荒嶺、老里山間の二鐵道が大體完成したので假營業を開始・總局自動車康平・遼陽・窩堡間・錦縣驛老邊間、輯安外岔溝間の營業開始〔十七日〕・日滿をつなぐ無裝荷ケーブルは舊臘廿八日來朝鮮海峽海底線が潮流のため斷線して以來不通となつたが、本日遂に完成〔十八日〕・全滿第四回觀光協會業務打合會ハルビン市公署に開催〔二十二日〕・大阪商船神洋丸は從來大連─天津─高雄航路に就航してゐたが今回新たに大連高雄直航船として就航本日大連より高雄へ向ふ・年末、年始に母國を訪れる旅客の洪水に備えて關釜連絡船及滿鐵でも增發して旅客の緩和に努めてゐたが、それでも輸送し切れぬので二十二日より三十一日迄上下便とも奉天、釜山間臨時列車を運轉〔二十三日〕・北鮮線經由日本行旅客に種痘證明書必要となる〔二十六日〕・新事態に備えて旅客輸送關係業務の圓滑なる遂行を確立する第三回滿鐵旅客係長會議は二十六、七日の兩日鐵道總局第一會議室で行はれ

た〔二十七日〕・待望の滿洲空務協會二十七日誕生〔二十九日〕・第十回ツーリスト・ビューロー滿洲支部主任會議は鐵道總局に足立佐原兩滿洲支部副支部長、野間口常務理事以下各主任八十餘及係員其他本部より宇治橋經理部長出席開會・奉天ヤマトホテル鏡の間で鐵道總局弘報課主催の下に「開拓研究座談會」を開く〔三十一日〕・滿洲空務協會主催航空關係者打合會新京國防會館で開催。

二月〔一日〕・方正（江岸・珠河─濱綏線）間、沈家（濱北線）─東興（木蘭背後地）間の總局自動車路二線營業を開始・牡鐵旅客係では豫てより管內著名驛の旅行記念スタンプ圖案研究中であつたが、この程完成配布本日より一般旅客の押捺に供する事になつた。設置驛は虎林・横道河子・鹿道・汪清・山市・平陽・鐵道總局では鐵道省のローカル貨物運賃の改正に伴ひ北鮮羅津と裏日本を結ぶ北日本汽船會社航路の連體貨物運賃及料金の計算手續を改正實施〔五日〕・鐵道總局では年末年始に於ける貨物の激增を豫想しつゝ運送能力の平調化と貨物事故防止の見地より本日より一週間『貨物取扱訓練規正週間』を實施〔六日〕・滿洲レーススキー界のメーン・エヴエントたる第二回全滿スキー選手權大會吉林北山スキー場に於いて開會〔十一日〕・舊臘設立を見た日本海汽船會社營業開始・日滿連絡交通史上に一エポックを劃する新京─東京間二晝夜半スピード連絡は紀元二千六百年紀元の佳節を期して實施され、この爲滿鐵の新京・羅新間ダイヤ一部改正・滿鐵旅客課では紀元二千六百年奉祝記念行事として本日より十三日迄三日間全滿の列車食堂構內食堂を裝飾して記念料理を調進〔十三日〕・牡丹江驛列車發着時刻一部改正さる・滿洲出版協會の奉天地區打合會は滿日社二階で開催。〔十五日〕・事變勃發以來上海の虹橋・閘北・楊樹浦地域に於て通行許可證所持者以外の一般支那人の交通を制限し來つたが最近に於ける治安の狀況に鑑み本日午前零時を期し右地域の陸戰隊警備地區內に於ける支那人及第三國人の通行制限夜間通行制限も解除となる・北支艦隊では本日より一切の船舶戎克の威海衞より青島に至る山東半島沿岸の出入を禁ずる事になり最高指揮官より發表〔十六日〕・「遼西熱河の古蹟を探る」寫眞展は錦州鐵道局滿日・共同主催、ビューロー滿洲支部觀光聯盟後援の下に先づ奉天に開催〔二十一日〕・第十五回鮮滿支輸送及映畫事務擔當者打合會は本日より三日間奉天に開催〔二十二日〕・北鮮東邊道を襲ひ奉天附近で猖獗してゐる天然痘が徐州及中支方面でも猛烈を極めてゐるとの情報に接した奉天警察署では今後同方面旅行者は種痘證明所要の旨發表した〔二十六日〕・日泰直通航空路開拓の爲佛印上空を通過せず同半島を大きく迂回して廣東─盤谷迄一氣に洋上翔破を實施した。使用機は「大和號」「そよ風號」「龍風號」

三月〔一日〕・鐵道總局では春期旅客の輻輳に備へて、五月末日迄四〇七列車を山海關迄延長又山海關錦縣間は四一八列車を增發・鐵道總局では歐亞聯絡貨物運送及日滿聯絡旅客小荷物運輸に適用すべき換算率を百米弗につき四百二拾六圓六十六錢に又シベリヤ經由歐亞旅客及手小荷物聯絡運輸に適用すべき換算率を一運賃單位につき七圓廿二錢三厘に改正實施〔七日〕・滿洲の獵天狗待望の猛獸狩（大猪狩）奉吉沿線に始まる・眞冬の滿洲を紹介しようと滿映が撮影する觀光映畫ロケーション開始〔十五日〕・鐵道總局は興城→新台門間、興城→李樹溝間、興城→海岸間、建昌→番北間の自動車運輸營業を開始〔二十三日〕・滿鐵の繪畫展覽會本日より四日間、厚生會館で開

催〔二十三日〕・解氷期に入り大陸行旅客が激增してゐるので朝鮮鐵道局では釜山・奉天間に一〇〇七列車一〇〇八列車の急行二本を運行春の旅客ラッシュに備へた〔二十五日〕・泰東日報主催全關東州公學堂選拔代表橿原神宮參拜團五名うすりい丸で內地へ向つた〔二十六日〕・二千六百年記念奉贊展覽會は森嚴極りなき肇國の大繪卷をくり展げ本日より新京を皮切りに奉天、哈市にも開催。

四月〔一日〕・中華航空上海廣東線上海發廣東行第一便として就航することとなり當分の間月曜木曜は上海から廣東へ、火曜金曜は廣東から上海へそれ〴〵一週二回の直接連絡をなす事になつた・奉天交通會社の觀光バス長コースは愈本日より開始したが、今年は一般觀光客の要望に應じ從來の史蹟名所の一部を滿洲事變日露戰役等の戰跡地に變更した・特急「あじあ」に無電設備を設置全滿の列車食堂車內で酒類販賣を制限・日航ダイヤ改正し、大陸との連絡に主力を置き、尚滿航、華航も本日より新ダイヤ編成・日滿支を結ぶ交通路に一エポックを劃する新定期航空路は上海を中心として大連―廣東―台灣を接續する中華航空南方コースは諸般の準備を進めてゐたが先づ上海―廣東―台灣は四月一日より開通―同十一日より大連―上海間の開通を見る事になつた・伸び行く東亞新航空路網の目覺しい增設に伴ひ郵政總局では航空發着時刻の全面的改正を實施〔五日〕・本日より實施される南洋定期航空ダイヤの中下り便は第一、第三水曜橫濱發サイパンに二泊の上パラオに向ふ豫定の所サイパンに一泊直ちにパラオを出發する事に變更・奉祝紀元二千六百年の記念旅行として、奉鐵局並びにビューロー各案內所で募集の聖地參拜團奉天を出發日本へ向つた・北鮮鐵道還元問題に就ては、滿鐵鮮鐵當事者間に於いて、屢々折衝を重ねてゐたが、本日鮮鐵から「現在滿鐵に經營を委任せる北鮮鐵道の一部上三峰淸津間及會寧新鷄林間及び淸津港終端施設に關する經營は朝鮮總督府に復歸する」と正式發表・紀元二千六百年記念、大陸都市早廻り競爭はビューロー、滿日主催の下に奉天―大連―新京―哈爾濱―牡丹江―羅津―北京―張家口―靑島―濟南―上海―南京を走破地として鐵道班竝ビューロー班選手奉天發・臨時休業中の興城溫泉ホテル從前通り開業〔十三日〕・中華航空では今回本年度新設線の第一として上海と滿洲の玄關たる大連を結ぶ空の新ルート一千十粁の定期連絡航路を開設業務を開始・〔十五日〕「手荷物輸送完璧週間」は滿鐵一般社員を始め直接輸送に關係する民間業者もあげて之に參加輸送業務の圓滑なる遂行と輸送力の增大に努めるべく本日より實施〔二十三日〕・雪解けの大陸に早くも旅客が殺到するのでこれが輸送に對して滿鐵では當分奉天釜山間に特別臨時列車一往復を運轉開始〔二十四日〕・鐵道省では日滿支連絡運輸統一規程制定に關する第三回日滿支聯合協議會を開き鐵道省・朝鮮・台灣兩總督府各關係官及鮮鐵・滿鐵・台鐵・華北・華中の各鐵道會社及北日本汽船東亞海運會社大日本・滿洲・中華の各航空會社關係者約百名參集・奉天鐵道局日本國際觀光局滿洲支部共同主催の滿系訪日視察團一行は團長福元弘氏引率の下に二十五日間の豫定で日本各地の視察を了し大連入港黑龍丸で歸連〔二十六日〕・奉天旅行倶樂部はヤマトホテルで第一回集會開催滿赤太田、不破兩醫學博士、東國滿洲住友工作課長外二名その他鐵道總局奉鐵局・ビューロー支部北條事業課長外係員出席盛會裡に散會。

五月〔一日〕・南支方面に於けるコレラ猖獗期の到來に備え上海港上陸の船客は

コレラ豫防注射證明書携帶を要することになつた・關釜間の旅客往來增加のため十日迄上下便とも大型連絡船の折返し運轉を實施大陸連絡の完璧を期す。〔五日〕・滿洲に於ける唯一の蒙古子弟の教育機關である蒙古實務學院では成吉思汗の誕生日にあたる本日を期し成吉思汗祭を執行〔六日〕・百貨店組合では豫て店員の福祉增進を計るため週休制を協議中の處組合加盟の日系十三、滿系二の百貨店が全滿一齊に月曜休業を實施・滿洲觀光聯盟の第五回各地觀光協會打合會を大連市役所で開催關係者三十名出席〔七日〕・支那沿海交通遮斷續行に付支那方面艦隊司令長官島田海軍中將より宣言・國民政府南京還都を機として渡支邦人の質的制限と、法幣慘落防止のため圓貨持込みを阻止する必要あり、これが對策として四日の興亞院會議は新支那建設に必要なる邦人を除く他は支那渡航者に對し當分の間大量制限を行ふ事に決定し本日の定例閣議において正式決定を見たので來る廿日より實施する事となる〔八日〕・四月十九日以來日本を視察中のブラジル訪日學生團一行廿二名はマリオ・ボデーリヨ・デ・ミランダ氏引率の下に「はと」で大連より來奉〔九日〕奉天驛主催貨物事故事務打合會は、奉天驛階上元電信室に於いて開催事故絕滅を協議〔十一日〕・ドイツ對英佛に積極的行動をとり白蘭兩國に進駐、我貿易にあたえる影響大〔十四日〕・第十八回滿洲旅館定時總會は十四、五の兩日新京に於て、同協會役員その他關係者二百十餘名出席の下に開催會務報告、役員改選後、非常時國策輸送に協力し旅館報國をなすため各地提案につき愼重協議を遂げ、旅客取扱及連絡業務の向上改善に積極的に乘り出す事になつた〔十五日〕・大連―天津航路に新たに就航する大連汽船新造船北海丸は本日處女航海につくが從來同航路に就航してゐた濟通丸はこれによつて、天津―大連ラインから退く事になつた・滿鐵の列車食堂、構內食堂で販賣の食料品は事變前の値段のまゝであるが最近の法外な物價騰貴と物資不足のため十五日より値上げを實施全面的に料金を改正・奉天のタクシー深夜十一時以後は運轉休止、節約線上自肅のハンドルである〔十八日〕・鐵道總局第一會議室に於て全滿鐵道局長會議を開催〔十九日〕・自動車事業の基本的諸計畫に當らしむる外、一般民營自動車會社竝に大連都市交通株式會社との業務の調整及連絡を行はしむる爲滿鐵自動車局に計畫課を設置。〔二十日〕・鐵道に關聯する小運送の本格的對策の實施に當らしむると共に特に國際運輸株式會社小口運送業務の指揮調整を行はしむる爲滿鐵は營業局に小運送課を設置・支那に於る圓系通貨氾濫防止の爲、これが對策の一つとして內地より漫然渡支慰問等に藉口する不要不急の旅行者を全面的に制限し大連經由も廿日から實施・全滿百貨店組合では取敢えず雜品類の公定價格外商品に對する百貨店組合の協定價格を決定全滿一齊に實施した・奉天觀光協會臨時總會はヤマトホテルで關係者四十五名列席の下に開催・滿鐵の保健週間開幕奉天の第一日は保健課から滿鐵機關現場に係員が出掛けて朝來社員の保健相談に應じた外浪速高女に社員の奧樣達集めて營養食の講習會を開催・奉天鐵道局では社員外の從事員で構內營業關係者たる新京・奉天・大連・安東・四平街の滿鐵弘濟會及鐵道沿線各驛の立賣業者の質的改善サービスの向上を期して「構內營業從事員訓練週間」を實施。〔二十五日〕・日滿支を通ずる國際列車「のぞみ」「光」「興亞」「大陸」の乘客の便宜を圖り、從來の切り替へ切符の不便を除き、東京―北京間の急行寢台券は通し切符を滿洲側

は奉天新京哈爾濱その他主要驛で、內地側は東京、大阪、下關で發賣することになつた〔二十七日〕・鐵道荷物輸送の萬全を圖るため內鮮滿連絡荷物事務打合會は奉天鐵道局主催の下に本日より四日間大連に於いて開催。

六月〔一日〕・四月十四日開通した大連—青島—上海航空路は南京還都新政府成立後颯爽とデヴューしたが每週三回の就航では希望者を捌き得ず、本日より愈々日發制を實施・ビューロー滿洲支部では上海に華中出張所を設置、中南支の各主要都市に案內所の新設擴充を圖る事になつた・新大陸と日本を結ぶ交通を簡易化する爲鐵道省は內地朝鮮臺灣のどの驛からでも一枚の切符で滿洲北中支へ旅行が自由に而も立體的に出來る事を計畫本日から實施・寫眞で滿洲國を紹介しようと全日本の雜誌社寫眞クラブ等で組織してゐる日本寫眞雜誌聯盟では各社から二名のカメラマンを選拔、本日より約一月大陸派遣滿洲の現狀をカメラにをさめる〔三日〕・奉鐵の內鮮滿連絡荷物事務打合會は本日より三日間大連市遼東ホテルに於て鐵道省鮮鐵滿鐵華北交通の各代表並びに大商大汽の關係者百五十名列席のもとに開催。〔六日〕・交通安全協會主催首都警察廳始め各交通機關が協力する國都交通訓練は本日より三日間新京全市に亘つて實施〔十日〕・遞信省では日泰定期航空を每週一往復で開設〔十一日〕・ビューロー竝滿日主催大陸都市早廻り競爭所要時間懸賞當選者の聖地參拜團の一行十名は奉天神社參拜後午後三時十五分發列車で日本へ向つた〔十四日〕・滿洲旅館協會十八回定期總會は新京國防會館で開催され全滿各支部から約二百名の會員が出席宿泊料金改正、營業必需品購入方法宿泊團體客に割當てられた米配給の件について種々協議を重ねた〔十五日〕・北支旅行者の携帶金の交換、聯銀券價格維持のため北支關係銀行では本日から聯銀券以外の一切通貨受入を停止すると共に、旅行者の携帶金に對しては反復交換に基き制限外流出入を抑制する事となつた・奉鐵ビューロー共同主催で過般來滿人訪日視察團を募集既にその一、二、三班計六十名は日本の建國聖地を始め主要都市の視察を終へて歸還したが引續き四、五班計四十名も出發〔十六日〕・中華航空は北京開封間定期航路を開設A・T機又はロックヒード機を就航せしめ每週三回往復飛行を發表〔十七日〕・滿洲國に於ける爲替相場强化のため大連汽船では同航路經由臺灣行の旅客に對しても携帶貨幣を制限取扱ふ事となつだ。

七月〔一日〕・內地から滿洲支那向けの鐵道小荷物並びに貨物の通關事務は安東に於ける通關施設の不備と內地發送驛との連絡困難なため延着未着誤配等の事故頻出と最近の大陸向貨物、小荷物の增加に鑑み爾後下關驛で行ふ事になつた・滿鐵委託經營中の上三峰淸津間鐵道を朝鮮總督府に返還する事となり、これに伴ふ基本的運營方針、同區間旅客貨物運送、連體貨物運送等の補正に關し關係機關と協議成案を得たので關係當局に請願中の處この內同線區間並に連體運送規程調整關係は愈々認可となり本日より實施となる・日本海汽船の北鮮航路は偶數は朝羅津着一泊、奇數は午前八時淸津著とダイヤを改正・關東州及滿洲國より北支向旅行者の携帶通貨に關しては六月二十四日より交換限度を五十圓に引下げたが日本及び蒙疆よりの北支向け旅行者の携帶通貨の交換限度についても二百圓に縮小實施・日滿支連絡鐵道小荷物の輻輳に備へて滿鐵では本年四月一日より實施の所管線手小荷物制限同樣連絡小荷物の輸送制限を實施すべく關係者と打合中であつたが滿鐵ローカルで實施してゐるガラス、

陶器を除き滿鐵線同樣の制限を實施、滿支連絡手小荷物の圓滑なる輸送を圖ることになつた〔十日〕・新京國防會館に田村剛博士を聘し、國立公園設置に關する座談會開催〔十二日〕・本日より四日間鐵道總局第一會議室に於いて日滿支連絡運輸會議を開催〔二十日〕・伸びる自動車路線、北安…德都間、興隆鎭、東興間の總局經營兩自動車路線を開通旅客及び荷物運輸を開始・內地稅關所在驛の增加による日本輸出入手續代辦驛の變更と北鮮西部線の鮮鐵への返還により華北交通會社では荷物通關取扱規則を改正し七月一日から實施中であつたがこれが要旨に就いて正式發表〔二十二日〕・滿鐵では第一四半期に於ける鐵道收入が豫定より可成の減少となり、現狀では下半期に於ても增收期待困難と見られ一方鐵鋼値上げその他による經費增加も相當額に上り一部資金操りに影響があるので、奉天總裁公館に於て大村總裁佐々木佐藤兩副總裁以下各理事出席重役會議を開催增收具體策その他につき協議〔二十三日〕・滿鐵の事業遂行に關する重役會議、奉天總裁邸に於て、大村・佐々木・佐藤正副總裁外全理事出席の下に開催、本年度の營業實績より觀て明年度事業を如何に遂行すべきかの方針につき協議〔二十八日〕・觀光聯盟招聘の米國加州女教員を始め米國教育家マーフイ氏レイノルズ氏外第七回日米會議出席米國派遣學生一行二十七名大連着〔二十九日〕・哈市の觀光客六月中一萬三千三百八名と發表。

八月〔一日〕・鐵道總局では手小荷物を制限し・小口貨物のスピード輸送を實現すべく對策を研究中の所、劃期的な貨物速達扱ひ制度を創設實施、主要都市間の小口貨物輸送の刷新を期する事になつた・滿鐵では東京に於ける資材關係折衝事務の增加に備へ東京支社に資材課を設け商工省企畫院その他關係方面との折衝に當らしむ〔六日〕・ビューロー主催北滿映畫大會先づ齊々哈爾に開く〔七日〕・通化省公署では白頭山國立公園開發委員會を組織し準備に乘り出す〔八日〕・大海林地區の森林資源の開發を側面から助成する爲め滿鐵林業事務所では牡丹江鐵道局管內海林長汀間五十五粁の地點に木材運搬線を敷設運營する事となり、起工式を擧行。五大蓮池へ哈鐵觀光バス運行開始〔十日〕・奉天ヤマトホテルで觀光滿洲の座談會開催・自動車運送貨物の取扱範圍を擴大す・華北交通では所管一萬二千粁に亘る自動車營業の運行暫行規定を改正實施〔十三日〕・上海敵前上陸地點に輝く忠靈公園建設と大日本忠靈顯彰會發表。

九月〔一日〕・中華航空は青島、濟南、北京、石門、太原間の定期航空を開始、航空路にはA・T機を使用し每週三往復で旅客貨物の輸送を行ふこととなつた。ガソリン二割の配給制限を受けた大連都市交通では、これが對策として、停留所三十ヶ所を廢し運轉回數の維持に努めてゐたが、一日から第二次配給制限で一割の制限强化を被りその對應策として觀光バス運行を中止國策線に添ふこととなつた・漸く具體化新築と決まつた奉天驛のバラック建三等待合所は資材難を押切つて工事に着手、新築待合所は工費卅三萬圓、敷地二百平方米七百人を收容出來る・一般の要望に應へ滿鐵集團割引本日より無期延期實施となる〔三日〕・鐵道總局に開催された工人輸送打合會は、滿鐵、船會社、華北交通、勞務協會、勞工協會等關係各機關より出席本年度輸送實績を基礎に檢討を行つたが、本年度入滿工人の輸送は計畫的に準備された爲昨年に比較して頗る順調にゆき入滿豫定數百四十萬人に對し既に百二十萬を輸送、豫期以上の好成績をさめてゐるので、明年度

輸送も大體本年度同樣の方針で進む事になつた〔四日〕・滿洲觀光聯盟主催觀光週間に魁けて觀光美術展覽會奉天滿蒙竝三中井兩百貨店に開く〔五日〕・鐵道總局では自動車營業の合理化を圖るため關係規程の改正を行つたが主なる改正點は二十七線に亘つて粁程を改め・停留所名の冗長なるを整理明確にし、業務取扱數を增加、二路線以上相互間の旅客に對しても一樣の自動車券で足りる事等である・靑島、萊陽間の定期バス復活さる〔十一日〕ガソリン消費規定强化され自動車用ガソリンは此迄數回節約を行つて來たが依然として競馬場劇場花柳街等に自動車が氾濫してゐるので商工省ではこの贅澤使用にも禁令を下す事となり商工、鐵道、內務三省通牒が各地方長官に發せられ來月一日から全國的にガソリンの贅澤使用は絕對禁止となる。〔十二日〕・鐵道省主催のシベリヤ經由歐亞貨物連絡會議は鐵道省に於て開催、關係各代表者六十名參集、現行歐亞貨物連絡運輸取扱方法の改善に關する件を中心議題として協議〔十三日〕・大連市民體育會、大連觀光協會、ビューロー、大連都市交通共催「ハイキングと觀光展」本日より十八日迄三越百貨店に開く尙觀光映畫會も共催〔十五日〕・滿洲最初の觀光週間開幕、觀光聯盟はもとより各地觀光協會に於ては夫々地方色豐かな催行を實施・新京タクシー組合相乘制採用實施〔二十日〕・渡支證明願樣式一部變更す〔二十六日〕・第九回全滿觀光事務打合會熱河に開く。

十月〔一日〕・滿鐵ダイヤ改正・華北交通ダイヤ大改正を行ひ全線に亘り列車增發・滿洲航空會社では空のダイヤ改正・滿航では同時に承德、多倫、張家口を結ぶ新線を設定す・靑島內地間の直通電話開通・日滿支交通一元化が實施される事になり、この機會に日滿支を貫く畫期的なダイヤ大改正・奉天交通會社電車バス共料金改正・大連貸切自動車營業組合では相乘制を實施す・滿鐵旅客運賃十二月一日より引上げ、社國線の運賃統一を發表・大連哈爾濱間に於いて小荷物の輸送を緩和するため小荷物專用列車運轉す・新京奉天間の空輸賃金改正(滿航)・鏡泊湖調査に京大鳥山博士來京〔五日〕・上海新亞細亞ホテル內にビューロー上海新亞出張所を開設〔七日〕・防疫本部より新京向け旅客はペスト豫防注射證明書携帶すべしと發表あり〔八日〕・大連觀光協會が船客の便宜を圖るため改築中であつた埠頭觀光案內所開設・國務院弘報處懸賞寫眞募集を發表〔十日〕・埠頭局旅客係員を派遣船內にてあじあ特別急行券發賣・關東海務局檢疫課では去る七月七日よりコレラ侵入に備へて天津上海方面からの各船舶乘組員乘客に對し强制檢便を施行してゐたが天津方面のコレラ流行終熄により檢便廢止す・渡支旅行者制限一層强化となる・鮮鐵では內鮮北支を繫ぐ貨客輸送ダイヤ大改正斷行・華北交通の天津北站四粁三天津驛張貴莊站間十一粁一計十五粁四の複線工事が完成〔十五日〕・ペスト發生のため新京觀光バス一時中止。

十一月〔三日〕・東滿鐵道株式會社で建設中の廟嶺支線の工事竣工運輸營業開始す〔五日〕・適正價格を維持確立するため北支輸入統制實施さる〔七日〕・哈爾濱交通會社では運輸料金一齊値上げを實施した・來年十月に大々的に實施される開拓十週年事業完遂のため三江省開拓科では豫算二百萬圓で新京に開拓會館を建設する計畫を發表〔九日〕・大連觀光協會ではガソリン配給統制の對應策として型もスマートな乘心地のよい觀光馬車を製作する計畫を發表。



日滿支連絡

日・滿・支間の交通連絡狀況を日本滿洲間、滿洲支那間、日本支那間に分ち更に鐵道、海路、航空に分類すれば次の通りである。尙△印は主要ルートを示す。

(一) 日本―滿洲間

【鐵道】△東京―下關―(連絡船)―釜山―安東―新京(所要五五時間四六分)

【海路】△東京―神戸＝大連―新京(所要九〇時間五五分大阪商船)△東京―下關(門司)＝大連―新京(所要七四時間五五分大阪商船)△東京―敦賀＝羅津―新京(所要七一時間一六分日本海汽船)△東京―新潟＝羅津―新京(所要七一時間五五分日本海汽船)神戸＝關門＝淸津、羅津、雄基(大阪商船)・那覇＝鹿兒島＝三角＝大連(大阪商船)・鹿兒島＝長崎＝大連(日本郵船)・高雄＝基隆＝大連(大連汽船)・新潟＝伏木＝大連(大連汽船)・伏木＝淸津＝羅津(日本海汽船)

【航空】△東京―大阪―福岡―京城―奉天―新京(所要一〇時間二〇分大日本航空)

(二) 滿洲―支那間

【鐵道】△奉天―山海關―北京(所要一五時間)・奉天―承德―古北口―北京(所要四四時間三〇分)

【海路】△大連＝青島＝上海(所要五一時間大連汽船)△大連＝天津(所要二〇時間大連汽船)・大連＝芝罘＝威海衞＝青島(東亞海運)

【航空】△奉天―錦州―天津―北京(所要四時間滿洲航空)△大連―天津―北京(所要二一時間中華航空)承德―張家口―大同―厚和―包頭(滿洲航空)承德―多倫―張家口(滿洲航空)

(三) 日本―支那間

【鐵道】△東京―下關―(連絡船)―釜山―奉天―北京(所要六九時間五〇分)

【海路】△神戸＝門司＝天津(所要一一〇時間東亞海運)△神戸＝門司＝青島(所要七二時間東亞海運)△長崎＝上海(所要二六時間東亞海運)・阪神＝門司＝上海＝(日本郵船)・仁川＝上海(朝鮮郵船)・仁川＝青島(朝鮮郵船)・高雄＝基隆＝上海(日本郵船)・基隆＝廈門＝高雄＝(東亞海運)

【航空】△東京―大阪―福岡―上海―南京(所要一〇時間大日本航空)△東京―大阪―福岡―青島―北京(所要一〇時間二〇分大日本航空)

鮮滿觀光ルート

第一案（往路朝鮮經由）

日次	地名	發著	時刻	列車番號	備考	宿泊
一日	下關	發	一〇・三〇	一便		連絡船
同	釜山	著	一八・〇〇			
同	同	發	一九・二〇	三		
二日	京城	著	三・三〇		旅館―朝鮮神宮―博文寺―經學院―昌慶苑―總督府（廳舍見學、朝鮮事情紹介の映畫等）―博物館―德壽宮―朝鮮美術品製作所―旅館	京城
三日	同	發	八・一〇	四三		
同	平壤	著	一五・〇七		驛―大神宮前―七星門―博物館―乙密臺―箕子廟―玄武門―牡丹臺―永明寺―お牧の茶屋―浮碧堂―清流壁―大同江（舟で下る）―大同門―練光亭―妓生學校―驛	
同	同	發	二〇・三五	九		
四日	安東	著	一・一〇			
同	同	發	一・四〇	九		
同	奉天	著	七・四〇		旅館―奉天神社―忠靈塔―國立博物館―同善堂―北陵―北大營―宮殿前通過―吉順絲房―滿毛百貨店（又は三中井百貨店）―旅館	奉天
五日	同	發	七・三五	六四一		
五日	撫順	著	八・五二		驛―炭礦事務所―古城子露天堀―製油工場―新市街―驛	
同	同	發	一五・三五	六五二		
同	奉天	著	一六・四九			
同	同	發	二三・〇〇	二一		
六日	新京	著	七・三七		旅館―日本橋通―商埠地―國務院―宮廷府―北大營―城內―南嶺戰跡―大同廣場―關東軍司令部―西公園―守備隊―大使館―寬城子戰跡―旅館	新京
七日	同	發	八・〇五	一五急		
同	哈爾濱	著	一三・三四		驛―郵政管理局―濱江省公署―博物館―中央寺院―飛行場―志士の碑―ミルレル兵營―鐵路クラブ―鐵路局―極樂寺―露人墓地―孔子廟―傳家甸―ヨットクラブ―旅館	哈爾濱
八日	同	發	一七・〇〇	一六急		
九日	大連	著	九・四三		旅館―滿洲資源館―埠頭―油房―滿鐵本社―大廣場―遊覽道路―露天市場―星ケ浦―旅館	大連
十日	同	發	七・三〇	六〇一		
同	旅順	著	八・五九			
同	同	發	一六・〇〇	バス		
同	大連	著	一七・〇〇		驛―白玉山表忠塔―博物館―二〇三高地―戰利品記念館―東鷄冠山―北堡壘―バス停留所	大連
十一日	同	發	一一・〇〇	大阪商船		
十二日	航海中					
十三日	門司	著	早朝			

（2）一人當費用概算　二等團體　一八三・四三圓　三等團體　一二四・七九圓（團員二〇名以上週遊團體内鮮滿としての一切の割引運賃及び料金）

費目	内譯	合計
乘車船運賃	二等運賃 七六・四六 三等運賃 四一・六二	二等 七六・四六 三等 四一・六二
急行寢臺料金	急行料金　二等　三等 京城 平壤 一・〇〇 ・五〇 新京 哈爾濱 一・〇〇 ・五〇 哈爾濱 大連 三・五〇 一・七五 寢臺料金（五回使用） 二等 一八・七五 三等 七・二〇	二等 二三・二五 三等 九・四五
宿泊料金	特等（一泊二食附六・〇〇 二等團體に適用） 三六・〇〇（六泊分） 並等（一泊二食附四・五〇 三等團體に適用） 二七・〇〇（六泊分）	二等 三六・〇〇 三等 二七・〇〇
食事料金	（一）旅館食事 朝食 京城、奉天、新京、大連 四・八〇（一食一・二〇） 夕食 二・四〇（一食二・四〇） （二）奉天市中食事 朝食 一・四〇（一食・七〇 二回分） 晝食 八・〇〇（一食一・〇〇 八回分） （三）車中食事 晝食 二・四〇（一食一・二〇 二回分） 夕食 三・六〇（一食一・二〇 三回分）	二二・六〇
乘物料金	京城バス二〇人乘一日貸切 三・五〇 平壤電車二區分 ・一〇 奉天バス二〇人乘一日貸切 三・五〇 撫順電車二區分 ・二〇 新京バス二〇人乘四時間貸切 一・四〇 哈爾濱バス二〇人乘四時間貸切 三・〇〇 大連バス二一人乘五時間貸切 一・六〇 旅順馬車一臺三人乘 三・五〇 一・一七 旅順大連間バス料金 一・〇〇	一四・四七
觀覽料	京城 昌慶苑 五錢 德壽宮 五錢 博物館 五錢 平壤 博物館 五錢 奉天 北陵 一五錢 博物館 五錢 旅順 博物館 五錢 記念館 五錢	・四五
雜費	一、旅館使用人心附支拂額の一割 二等 四・三〇 三等 三・三〇 二、食堂車使用人心附支拂額の一割 ・六〇 三、赤帽運搬賃（一箇に付五錢）三箇とし一〇回分 一・五〇 四、驛旅館間荷物運搬賃 三・三〇（一箇に付一〇錢）三箇とし一一回分 五、奉天同善堂寄附金 ・五〇	二等 一〇・二〇 三等 九・二〇

第二案（往路大連經由）

（1）旅行日程

日次	地名	發著	時刻	列車船名	視察箇所竝順路	宿泊
一日	門司	發	一二・〇〇	大阪商船〇〇丸		船中
二日						同
三日	大連	著	九・〇〇		旅館―滿洲資源館―埠頭―油房―滿鐵本社―大廣場―遊覽道路―露天市場―星ケ浦―旅館	大連
四日	同	發	七・三〇	六〇一	驛―白玉山表忠塔―博物館―二〇三高地―戰利品記念陳列館―東鷄冠山―北堡壘―バス停留所	同
同	旅順	著	八・五九	バス		
同	同	發	一六・四五			
同	大連	著	一八・二六	六一二		
五日	大連	發	一〇・三〇	二五		奉天
同	奉天	著	一八・五七			
六日	同	發	七・三五	六四一	驛―炭礦事務所―古城子露天堀―製油工場―新市街―驛	同
同	撫順	著	八・五二			
同	同	發	一五・三五	六五二		
同	奉天	著	一六・四九			
七日	奉天	發	二三・〇〇	二一	旅館―奉天神社―忠靈塔―國立博物館―同善堂―北陵―北大營―宮殿前通過―吉順絲房―滿毛百貨店（又は三中井百貨店）―旅館	車中

八日	新京 著	七・三七		旅館―日本橋通―商埠地―國務院―宮廷府―北大營―城內―南嶺戰跡―大同廣場―關東軍司令部―大使館―西公園―守備隊―寬城子驛戰跡―旅館	新京
九日	同 發 哈爾濱 著	八・〇五 一三・三四	一五	驛―郵政管理局―濱江省公署―博物館―中央寺院―飛行場―志士の碑―ミルレル兵營―鐵路クラブ―鐵路局―極樂寺―露人墓地―孔子廟―傅家甸―ヨットクラブ―旅館	哈爾濱
十日	同 發 奉天 著 同 發	七・〇〇 二〇・一九 二一・四八	三六 急行のぞみ八		車中
十一日	平壤 著	八・四二		驛―大神宮前―七星門―博物館―乙密臺―箕子廟―玄武門―牡丹臺―永明寺―お牧の茶屋―浮碧樓―淸流壁―大同江(舟にて下る)―大同門―練光亭―妓生學校―旅館	平壤
十二日	同 發 京城 著	八・四七 一三・三五	急行(のぞみ)八		京城
十三日	京城 發	二二・三五	四	旅館―朝鮮神宮―博文寺―經學院―昌慶苑―總督府(廳舍見學)―朝鮮事情紹介映畫(等)―博物館―德壽宮―朝鮮美術品製作所―旅館	車中
十四日	釜山 著 同 發 下關 著	一〇・三五 一二・〇〇 一九・三〇	二便		連絡船

(2) 一人當費用概算 二等團體 一八〇・九四圓 三等團體 一二四・四八圓

乘車船運賃	急行寢臺料金	宿泊料金	食事料金	乘物料金	觀覽料	雜費
二等運賃 七三・一三 三等運賃 三七・一三	急行料金 二等 三等 奉天平壤 二・〇〇 一・〇〇 平壤京城 一・〇〇 ・五〇 寢臺料金(三回使用) 二等 一一・二五 三等 四・三二	特等(一泊二食附六・〇〇 二等團體に適用) 四八・〇〇(八泊分) 並等(一泊二食附四・五〇 三等團體に適用) 三六・〇〇(八泊分)	(一)旅館食事 夕食(京城) 二・〇〇 (二)市中食事 晝食(一食・八〇錢 九食分) 七・二〇 (三)車及船中食事 朝食(一食・八〇錢 二食分) 一・六〇 晝食(一食一・二〇 三食分) 三・六〇 夕食(一食一・二〇 二食分) 二・四〇	大連バス二一人乘五時間貸切 一・六〇 旅順馬車一臺三人乘 三・五〇 一・一七 旅順大連間バス料金 一・〇〇 撫順電車二區分 ・二〇 奉天バス二〇人乘一日貸切 三・五〇 新京バス二〇人乘四時間貸切 一・四〇 哈爾濱バス二〇人乘四時間貸切 二・二〇 平壤電車二區分 ・一〇 京城バス二〇人乘一日貸切 一・九一 各地驛―旅館間乘物料馬車・八〇(一臺二人乘・二〇(八回使用)) タクシー・二〇(一臺四人乘・八〇京城一回使用)	旅順 博物館 五錢 記念館 五錢 奉天 北陵 一五錢 博物館 五錢 平壤 博物館 五錢 京城 博物館 五錢 昌慶苑 五錢 德壽宮 五錢	一、旅館使用人心附支拂額の一割 二等 五・〇〇 三等 三・八〇 二、食堂車使用人心附支拂額の一割 三、赤帽運搬賃 一・五〇(一箇に付五錢)三箇とし一〇回分 四、驛旅館間荷物運搬賃 三・三〇(一箇に付一〇錢)三箇とし一一回分 五、奉天同善堂寄附金 ・
合計 二等 一七六・四六 三等 一二一・六二	二等 一四・二四 三等 五・八二	二等 四八・〇〇 三等 三六・〇〇	一六・八〇	一三・六八	・五〇	二等 一一・〇六 三等 九・八六

第三案 (往路北鮮經由)

(1) 旅行日程

日次	地名	發著時刻	列車船名	視察箇所並に順路	宿泊
一日	敦賀 發	一六・〇〇	日本海汽船〇〇丸		船中二泊
三日	淸津 著 同 發	六・〇〇 一〇・〇〇		市內概觀一巡	
同	羅津 著	一三・〇〇		同	羅津
四日	同 發 吉林 著	九・〇〇 二〇・二八	二〇二		吉林
五日	同 發 新京 著	一七・五四 二〇・五〇	二〇八	旅館―大馬路―日本總領事館―文廟―河南街―牛馬街―德勝門―北山―小白山―吉林省公署―園山子―龍潭山―驛	新京
六日	新京 滯在			旅館―日本橋通―商埠地―國務院―宮內府―北大營―城內―南嶺戰跡―大同廣場―關東軍司令部―大使館―西公園―守備隊―寬城子戰跡―旅館	
七日	同 發 哈爾濱 著	二三・五〇 七・五〇	九〇三	旅館―郵政管理局―濱江省公署―博物館―中央寺院―飛行場―志士の碑―ミルレル兵營―鐵道クラブ―鐵路局―極樂寺―露人墓地―孔子廟―傅家甸―ヨットクラブ―旅館	哈爾濱
八日	同 發	二二・〇二	一八		
九日	奉天 著	八・〇〇		旅館―奉天神社―忠靈塔―國立博物館―同善堂―北陵―北大營―宮殿前通―滿毛百貨店―吉順絲房―(又は三中井百貨店)―旅館	奉天
十日	奉天 發 撫順 著 同 發 奉天 著	七・三五 八・五二 一五・三五 一六・四九	六四一 六五二	驛―露天堀―炭礦事務所―製油工場―古城子―新市街―驛	車中
十一日	同 發 大連 著	二三・五五 八・二五	二〇	旅館―滿洲資源館―埠頭―油房―滿鐵本社―大廣場―遊覽道路―露天市場―星ヶ浦―旅館	大連
十二日	同 發 旅順 著 同 發 大連 著	八・三〇 九・三〇 一四・〇〇 一五・〇〇	バス バス	白玉山表忠塔―博物館―二〇三高地―戰利品記念館―東鷄冠山―北堡壘―水師營會見所	同
十三日	同 發 奉天 著	一二・四〇 二二・四七	二		車中
十四日	同 發 平壤 著 同 發	二一・四八 八・四二 一三・五七	急行(のぞみ)八	驛―大神宮前―七星門―博物館―乙密臺―箕子廟―玄武門―牡丹臺―永明寺―お牧の茶屋―浮碧樓―淸流壁―大同江(舟で下る)―大同門―練光亭―妓生學校―旅館	同
十五日	京城 著	七・五五	四八	旅館―朝鮮神宮―博文寺―經學院―昌慶苑―總督府(廳舍見學)―朝鮮事情紹介映畫等)―博物館―德壽宮―朝鮮美術品製作所―旅館	京城
十六日	同 發 釜山 著 同 發	一三・四三 二二・一五 二三・四五	急行(のぞみ)八 八便		船中
十七日	下關 著	七・一五			

（3）一人當費用概算　二等團體　二一八・九一　三等團體　一五五・八七

項目	内容	合計
乘車船運賃	二等運賃　八二・三五 三等運賃　四六・五九	二等　八二・三五 三等　四六・五九
急行寢臺料金	急行料金　二等　三等 圖們 吉林　一・五〇　・七五 奉天 平壤　三・〇〇　一・〇〇 京城 釜山　一・五〇　・七五 寢臺料金（五回使用） 二等　一八・七五 三等　七・二〇	二等　二三・七五 三等　九・七〇
宿泊料金	特等（一泊一食附 六・〇〇 三等團體に適用） 四八・〇〇（八泊分） 並等（一泊二食附 四・五〇 三等團體に適用） 三六・〇〇（八泊分）	二等　四八・〇〇 三等　三六・〇〇
食事料金	（一）旅館食事 朝食　四・八〇（哈爾濱、奉天、大連、京城、四食分一食一・二〇） 晝食　一・五〇（大連一食分一食一・五〇） 夕食　八・〇〇（新京、哈爾濱、奉天、平壤、四食分一食二・〇〇） （二）市中食事　八・八〇（一食八〇錢二食分） （三）車中食事 晝食　一・二〇（一食一・二〇　一食分） 夕食　三・六〇（一食一・二〇　三食分）	二七・九〇
乘物料金	津浦タクシー二時間貸切　八・〇〇　二・〇〇 羅津タクシー三時間貸切　八・〇〇　二・〇〇 吉林バス二〇人乘三時間貸切　・九〇 新京バス二〇人乘四時間貸切　一・四〇 哈爾濱バス二〇人乘四時間貸切　二・〇〇 奉天バス二〇人乘一日貸切　三・五〇 大連バス二二人乘五時間貸切　一・六〇 旅順バス二〇人乘一日貸切（大連旅順往復を含む）　四・二〇 平壤電車三區分　・一〇 京城バス二〇人乘一日貸切　三・五〇 各地驛旅館相互間乘物料馬車一・四〇（一臺二人乘二〇錢四回使用） タクシー・二〇（一臺四人乘八〇錢京城一回使用）	三一・九〇
觀覽料	奉天　北陵　一五錢　博物館　五錢 旅順　博物館　五錢　記念館　五錢 平壤　博物館　五錢 京城　博物館　五錢　昌慶苑　五錢　德壽宮　五錢	・五〇
雜費	一、旅館使用人心附支拂額の一割　二等　六・二三　三等　五・〇〇 二、食堂車使用人心附　・四八 三、赤帽運搬賃　二・四〇（一箇に付五錢三箇とし一六回分） 四、驛旅館相互間荷物運搬賃　二・九〇（一箇に付一〇錢三箇とし一三回分） 五、奉天同善堂寄附金　・五〇	二等　一三・二三 三等　一二・六八

滿支觀光ルート

コース

【一號コース】發驛—下關…釜山—京城—安東—奉天—錦縣—山海關—（北支）（塘沽）…三ノ宮—發驛

【二號コース】發驛—三ノ宮（門司）…天津（塘沽）—（北支）

【三號コース】發驛—三ノ宮（門司）…大連…天津（塘沽）—（北支）山海關—錦縣—奉天—大連…三ノ宮—發驛

【四號コース】發驛—下關…釜山—京城—安東—奉天—錦縣—山海關—（北支）—天津

【五號コース】發驛—下關…釜山—京城—安東—奉天—山海關—（北支）—山海關—錦縣—奉天—大連…三ノ宮—發驛

【六號コース】發驛（長崎）—上海—南京—濟南—北京—山海關—奉天—安東—釜山—發驛

【七號コース】發驛—三ノ宮（門司）青島—濟南—北京—山海關—奉天—安東—釜山—發驛

以上の外敦賀又は新潟より清津—羅津に上陸新京を經て北支入コース、滿洲主要地を一巡して北支入コース等がある。

汽車汽船賃概算（東京發北京著）昭和十五十二月一日現在

コース番號	種別	全區間一等	汽船一等汽車二等	全區間二等	汽船二等汽車三等	全區間三等	記事
一號	片道	一三六・四五	九一・四三	八六・三八	五〇・二八	四六・七三	
一號	往復	二一八・一三	一四六・二八	一三八・二〇	八〇・四四	七四・七六	
二號	片道	九六・八五	八七・九〇	六五・九〇	五六・九五	三〇・九五	乘船は神戸、上陸地は塘沽とす 航路一等はB、二等は和食とす
二號	往復	一六八・九六	一五四・六四	一一五・〇四	一〇〇・七二	五三・九二	
三號	廻遊	三三五・五六	一九五・二〇	一五九・三〇	一三四・二六	七〇・三六	一、乘船地は神戸、上陸地は塘沽とす 二、大連天津（塘沽）間は二等設備なきため二等運賃欄の同區間は一等として計算せり
四號	廻遊	一九〇・四四	一四四・五〇	一三四・七〇	八六・五九	六三・一九	
五號	廻遊	二四三・九六	一七九・三三	一五七・二九	一〇六・八三	八四・五五	

滿洲國內觀光ルート

第一ルート

（A）大連發—旅順—鞍山—奉天—撫順—新京—吉林—哈爾濱—佳木斯—牡丹江—羅津

（B）大連著—旅順—大連—金州—湯崗子—鞍山—奉天—撫順—吉林—新京—哈爾濱—林口—佳木斯—牡丹江—羅津

（A）の逆

（B）の逆

第二ルート

（A）安東—新京—吉林—哈爾濱—孫呉—黑河—孫呉—北安—齊齊哈爾—奉天—撫順—奉天—鞍山—大連—旅順—大連發

（B）安東—新京—吉林—哈爾濱—呼蘭—哈爾濱—黑河—孫呉—北安—齊齊哈爾—奉天—撫順—奉天—湯崗子—鞍山—大連—旅順—大連發

（A）の逆

（B）の逆

第三ルート

（A）第二ルート逆（B）旅程と大連發より吉林著迄同一（吉林—南陽—羅津發）

（B）第二ルート逆（B）旅程と大連發より吉林著迄同一（吉林—圖們—南崗—雄基—羅津發）

（A）の逆　第二ルート（A）新京より大連發迄同一（羅津—南陽—吉林—新京發）

（B）の逆　第二ルート（B）新京發より大連發迄同一（羅津—雄基—圖們—吉林—新京發）

第四ルート

（A）大連發—旅順—大連—鞍山—奉天—撫順—奉天—錦縣—承德—古北口—北京—天津—山海關—安東

（B）大連發—旅順—大連—金州—湯崗子—鞍山—奉天—撫順—奉天—錦縣—承德—古北口—北京—青龍橋—北京—天津—山海關—奉天—安東

訪日觀光ルート

滿支人訪日觀光團或は視察團のルートに就ては考慮す可き點多きに鑑み、當ビユーロー滿洲支部に於て過去の體驗に基き種々研究の結果次の七コースを選び、代表ルートとして推奬することとなつた。

コース、日程、費用概算は次の通りである。

コース（—印は陸路、…印は海路）

第一ルート

大連…門司—九州各地—別府…大阪—東京—日光—横須賀—奈良—京都—嚴島—下關…釜山—京城—（蘇家屯）—大連

第二ルート

奉天—大連…神戸—大阪—奈良—名古屋—東京—横須賀—日光—鬼怒川溫泉—仙臺—松島—靑森—山中溫泉—福井—京都—嚴島—下關…釜山—京城—奉天

第三ルート

新京—奉天—京城—釜山…下關—嚴島—京城—奈良—名古屋—東京—日光—横須賀—鎌倉—江ノ島—箱根—熱海—大阪…別府—中、北九州—門司…大連—新京

第四ルート

哈爾濱—（奉天）—京城—（釜山）…下關—嚴島—大阪—奈良—二見ヶ浦—伊勢神宮—名古屋—東京—日光—横須賀—京都—神戸—別府—八幡—博多—門司…大連—哈爾濱

第五ルート

新京—清津…敦賀—長野—東京—日光—横須賀—箱根—熱海—名古屋—京都—奈良—大阪—神戸…別府—中、北九州—門司…下關…釜山—京城—奉天—新京

第六ルート

哈爾濱—新京—清津…敦賀—長野—東京—日光—横須賀—名古屋—伊勢神宮—二見ヶ浦—奈良—京都—大阪—嚴島—下關…門司—八幡—下關…釜山—京城—奉天—哈爾濱

第七ルート

牡丹江—哈爾濱—新京—奉天—京城—釜山—下關—門司—別府—大阪—奈良—京都—東京—日光—東京—新潟—淸津—朱乙—輸城—牡丹江（又はこの反對コース）

費用概算

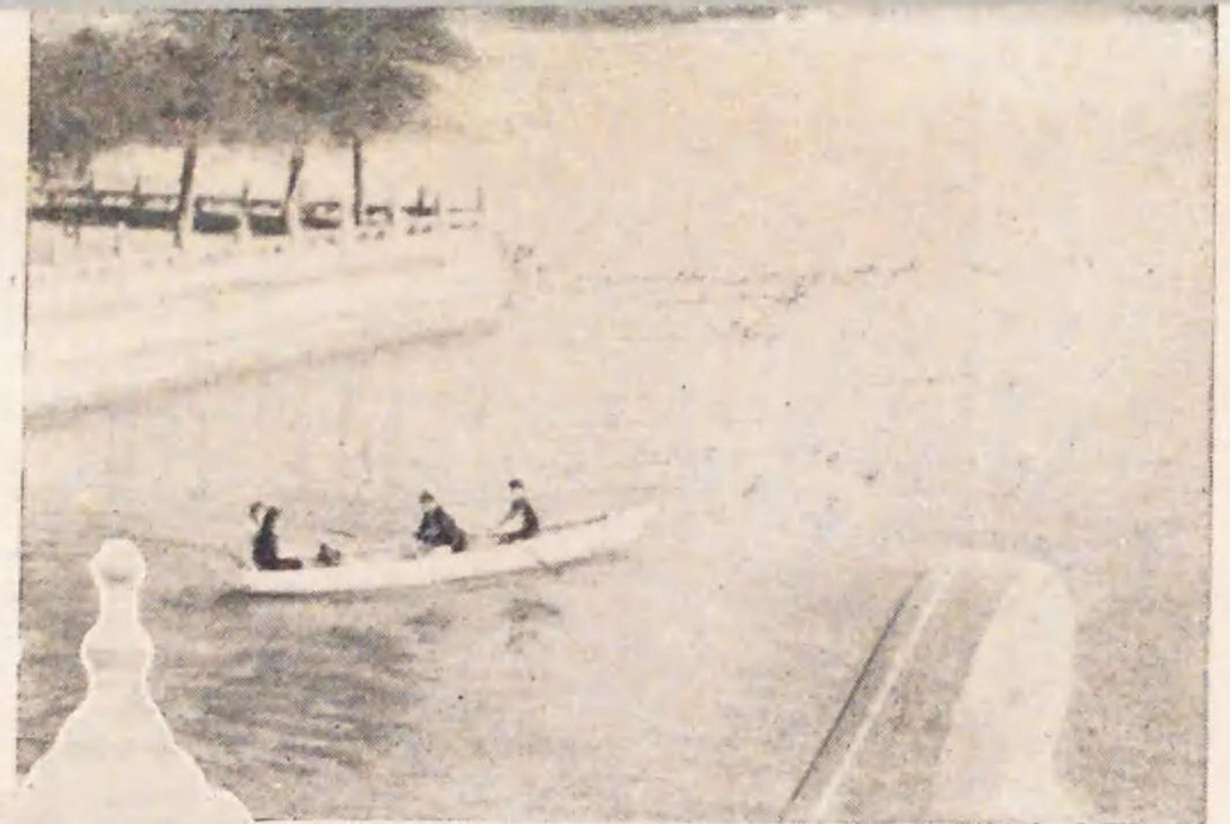
出發地	ルート	種別	所要日數	二等 三〇人團體 個人當り	二等 個人當り	三等 三〇人團體 個人當り	三等 個人當り
大連	第一ルート	含九州	15日	295.00圓	272.00圓	211.00圓	211.00圓
奉天	第二ルート	含奥州	13日	273.00	255.00	193.00	177.00
新京	第三ルート	普通	11日	256.00	233.00	180.00	175.00
哈爾濱	第四ルート	特種	13日	268.00	276.00	200.00	187.00
新京	第五ルート	普通	11日	265.00	237.00	190.00	196.00
哈爾濱	第六ルート	特種	11日	253.00	250.00	190.00	185.00
牡丹江	第七ルート	含新潟	11日	245.00	230.00	185.00	166.00

・註　乘船車賃、寢臺急行料、宿泊食事料、手荷物赤帽代、心附、記念寫眞代等一切を含む

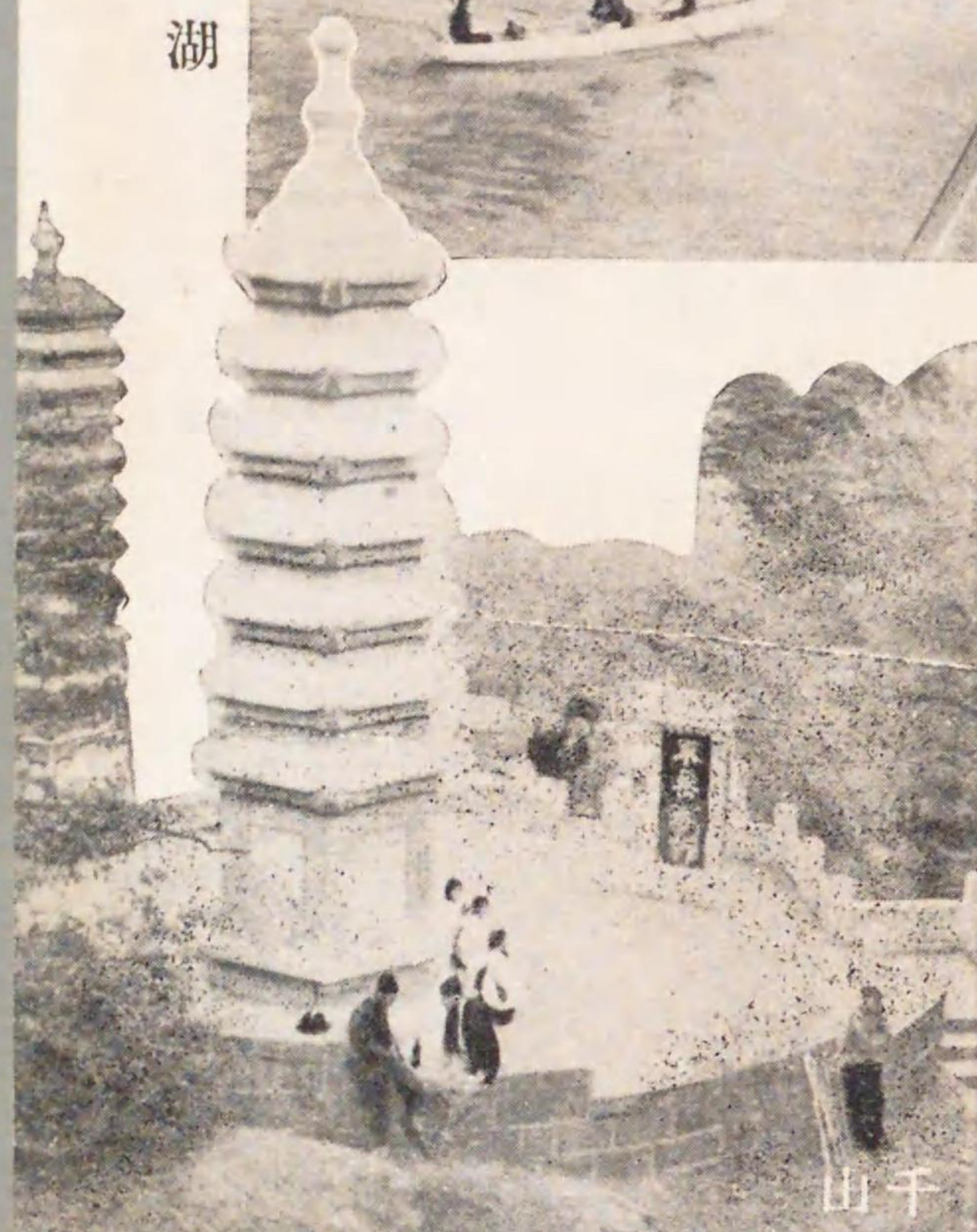
都市と風光

新京……
奉天……
ハルピン……





北京昆明湖

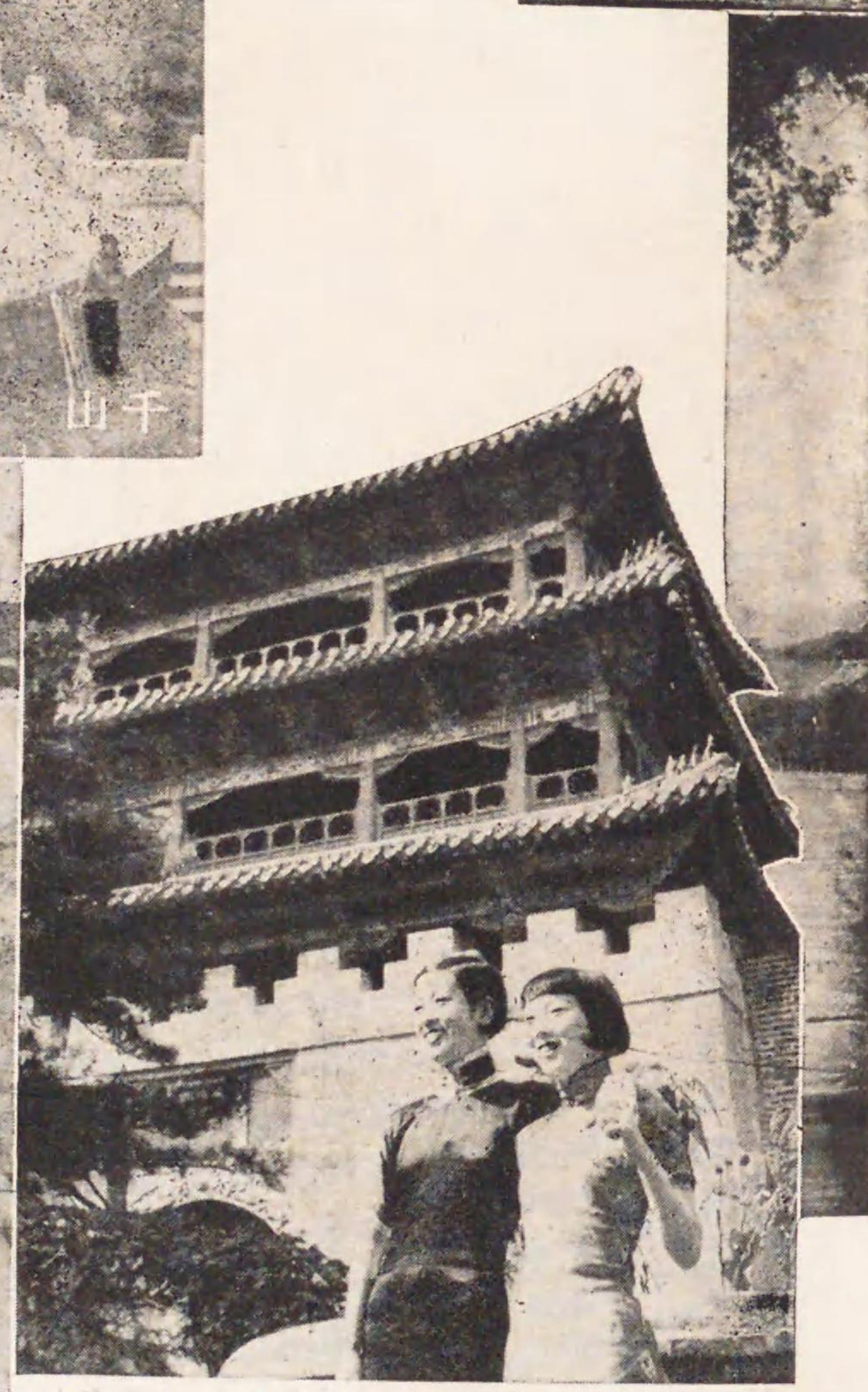


千山

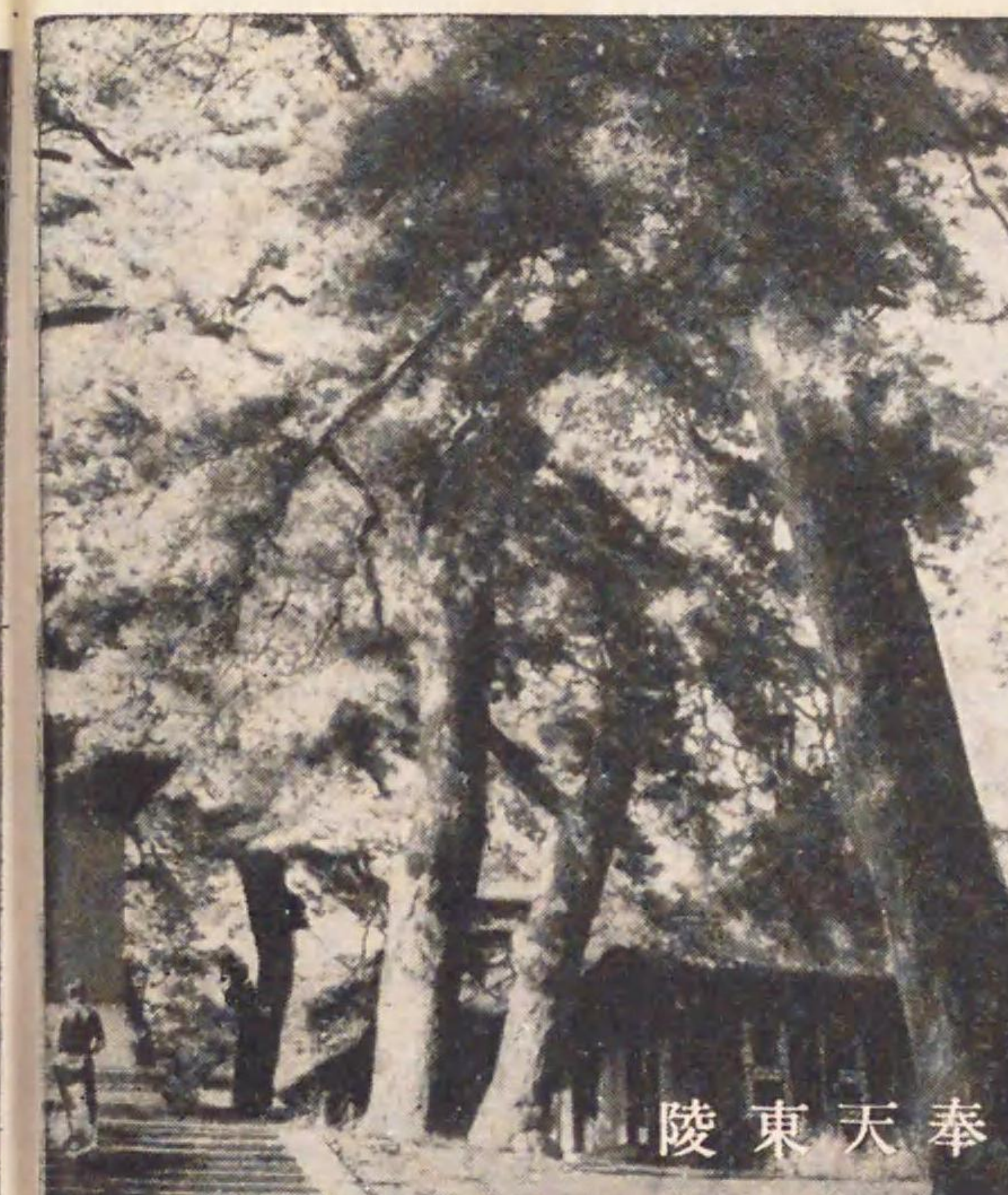




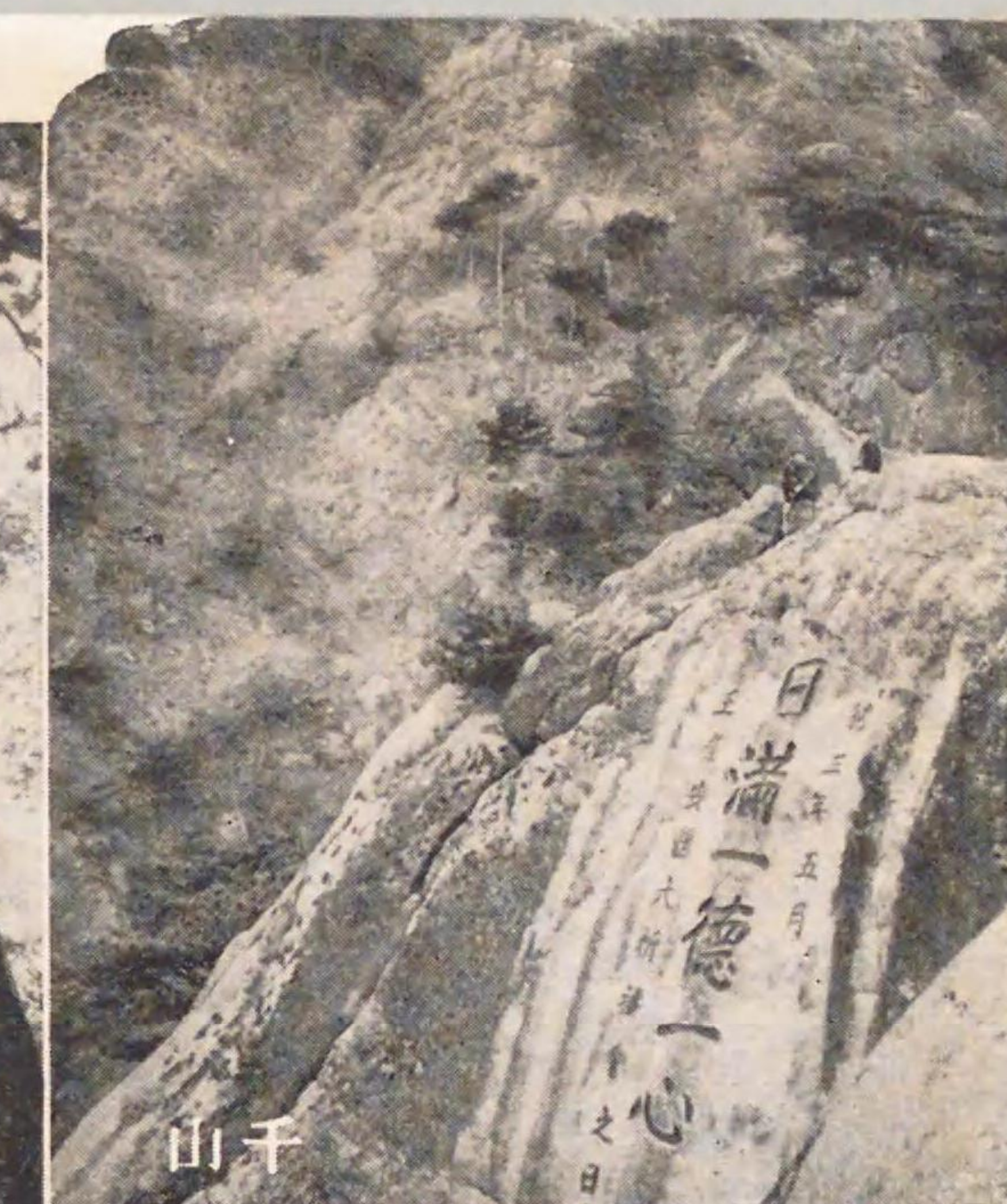
北京中海



奉天 東陵



奉天東陵



千山



北京 萬壽山



奉天 北陵



都市

滿洲及關東州

(　)內は鐵道線名

大連(京連)

大連は全滿洲を背後地として、そこで產出する豐富な特產物を輸出する大貿易港であり諸施設完備せる近代都市である。今市街となつてゐる地は青泥窪と稱し極めて淋しい漁村が散在してゐるに過ぎなかつたが、一八九九年(明治三十二年)露國が此處にダールニイ市を建設し未だ完成を見ずして日露戰によつて我軍の占領するところとなり明治三十八年「大連」と命名され露治時代の市街計畫を踏襲し、一九〇三年の四萬餘の人口は三十七年後の今日五十八萬四千六百四十三人(內地人十七萬四千餘、半島人、四千五百餘、滿洲人、四十萬餘、外人一千六百餘、昭和十四年六月現在)を數ふるに至り極東に於ける自由港として又大陸の關門、歐亞連絡の要衝港として年一千萬瓲の貨物と百萬の旅客を吞吐する、名實ともに新興滿洲國の大玄關たるの揺ぎなき基礎を築くに至つた。大連港の消長が滿洲に於ける我が經濟的活動のバロメーターとなることに關しては今更呶々を要しない。

〔視察〕普通團體及學生コース(乘物タクシー、バスは當分の間運行休止)山ノ茶屋—忠靈塔—大連神社—大廣場—滿洲資源舘—大佛—星ケ浦(晝食)—露天市場—油房—碧山莊—埠頭、タクシー三人乘五圓。

〔土產〕(玩具、文房具、反物、茶、素麵、麻雀、寶石、洋酒、硝子、陶磁器、煙草、寫眞機、望遠鏡等。)

〔視察斡旋〕驛鐵道案內所、ツーリスト・ビユーロー(伊勢町、連鎖街、監部通、三越內、ヤマトホテル內)大連觀光協會(市役所內)。

旅順(旅順)

元獅子口と稱へられ唐代日本の使節なども往復の途次立寄つてゐた處であるが明朝に到つて南方移民の渡來するもの多く、船舶の寄港頻繁を極め水陸行旅の順路に當つたので旅順の名を稱ふるに至つたと云ふ。

日清日露の兩役起るに及んで二度まで戰亂の巷と化したが、爾來軍政署より關東都督府そして關東廳制による關東州廳となり昭和十二年同廳の大連移管に至る間の旅順は州內日本行政機關の中核地であつた。それだけに旅順は日本人に忘れ難い戰蹟地としてまた避暑地避寒地として名が高い。

市街は中央を龍河によつて二分せられ、東を舊市街、西を新市街と呼ぶ。舊市街は大體に於て旅順の商業區で、乃木町、青葉町迎橋一帶が賑つてゐる。新市街は工科大學を始め官衙學校多く且つ住宅區である。昭和十四年二月現在人口は三萬二千四百七十六人(日本人一萬二千六百餘)である。

〔視察〕戰跡旅順參照

・金州(連京)

古來遼東半島の都城として地方の中心であつた。それ故城內にはどことなく落附いた氣分が漂ひ、附近は名所に富み風景に勝れてゐる。新市街は工業都市としての性質を有し金城線の基點であり、驛から城內へ通ずる街路を中心に略扇狀の市街が計畫されてゐる。此の地は苹果の產地であり又日露戰蹟地としても名高い。人口約十六萬、日本人約三千人。



〔觀　察〕（半日行程）城内—天齊廟—三崎山—南山（一日行程）南山—露國墓地—城内、天齊廟—永慶寺—三崎山—龍王廟（大和尚山一日行程）八里莊乃木中尉墓—山頂城跡及石鼓寺—朝陽寺—響水寺

〔土　產〕果物、初茸、蛤、漬物、繪ハガキ等

營　口（營口）

今日十七萬一千九百十一人（滿漢人、十五萬八千九百三十六人、內地人七千百三十一人、半島人一千三百八十五人、外人六十二人、昭和十五年七月調）の人口を有する營口も百十餘年前は海中であつた。それが海岸線の隆起と遼河による泥土の堆積のため道光初年に至り陸地として出現し、海港の性質を帶ぶるに至つて村落を形づくつた。爾後上流に在る牛莊城及び田莊臺が河口港としての價値を減じその商勢が次第に營口に移り遂に今日の大をなしたものであり、市街は河口から十三浬の處にあり河岸に沿うた狹長な街にして新舊市街に分れてゐる。營口港は今も沿岸貿易に於ては大連安東二港に比べて特殊の勢力を有し輸出入總額の四割乃至五割は該貿易で占めてゐる。

〔觀　察〕楞嚴寺、油房、營口神社、忠靈塔、旭公園、東亞煙草會社製造所、滿洲タルク會社、田莊臺營口農村、東稅關附近海岸、支那街、滿鐵埠頭附近海岸、河北驛、防衞記念碑、遼河巡覽（關憚は驛ビューローに中込めば小蒸氣船乘用の便もある）

東稅關—河北驛渡船三等一〇錢、二等二〇錢、遊覽用舢板（東稅關—西稅關）二〇錢。

〔土　產〕支那織物、銀飴、娘々豆、蛤、關東人參、蛤蝦佃煮、繪葉書、銀製アイスヨット、蛤細工カフス釦、帶止等。

〔觀察斡旋〕驛鐵道案內所、驛內ツーリスト・ビューロー。

鞍　山（連京）

同市は製鐵所の所在によつて興された純粹な鑛業都市である。故に製鐵事業と其の盛衰を共にすべき運命に在る。大正六年鞍山製鐵所は出銑量百萬噸とその事業に伴ふ人口十五萬を目標として工場及び市場を設計されたが世界大戰終熄して製鐵業に影響を及ぼすや急轉直下總てが緊縮され、昭和八年六月一日を以て製鐵所は滿鐵より昭和製鋼所に讓渡されて獨立企業としての經營をみることゝなつた。

昭和製鋼所の誕生は鐵都鞍山をして滿洲に於ける一大商工業都市に急轉向せしめ昭和十五年七月現在で人口二十萬七千二百四十五人、內地人四萬二千六百七十人を數ふるに至つた。

〔觀　察〕驛—製鋼所—忠魂碑—市街—驛料金馬車四時間一圓二〇錢、人力車七五錢、自動車一〇圓。

〔土　產〕繪葉書、鞍山名所煎餅、鐵羊羹

〔觀察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（北二條町）

遼　陽（連京）

滿洲最古の都城の一で久しく滿洲に於ける政治の中心地であり且朝鮮支那本土に通ずる舊交通系統の中樞に衝つてゐた。此の地は戰國以後史上に現はるゝこと多く遼陽城の研究は同時に滿洲歷史研究の大きな部分を成すものであり、その附近は史蹟に富み舊都の面影を遺すものが多い。遼陽は特に白塔のある地として又日露役の激戰地として世人に廣く知られてゐる。昭和十四年一月に於ける人口は九萬二千六百五十七人、うち內地人は五千九百十五人である。

〔觀　察〕驛—白塔—天齊廟—金銀庫—魁星樓—孔子廟—玉皇廟—蓮花寺—關帝廟—忠魂碑—（所要時間馬車四時間）

〔土　產〕白塔煎餅、繪葉書、白塔饅頭、葡萄飴

奉　天（連京）

六條の鐵道を放射せしめ運河の水路を加へ滿洲稀に見る惠まれた地點である。治外法權撤廢に伴ふ滿鐵附屬地行政權移讓と同時に、市政區域を擴大した奉天は昭和十四年十月末現在人口八十八萬四千百八十二人（滿洲人七十五萬一千九百四人、日本人十一萬百五十三人、半島人二萬一千六百一人、外人六百六十六人）を數へ更に在奉苦力十六萬三千二百二人を加ふれば優に百萬を突破し、全滿一の大都市である。滿蒙に於ける交通、經濟、工業の心臟部としての役割は北支の既に明朗化した今日愈々確固たるものとなり目下人口三百萬を抱擁する「大奉天」の建設に邁進してゐる。古來この地を相して城を置き又都するもの、遠く渤海の時代より元、明、淸の諸代、名も瀋州、瀋陽、盛京、奉天と變遷し滿洲事變の起るまでは瀋陽の故名に復して張學良が東北四省の覇權を握つた土地、新に滿洲國の創建となつて首都は新京に移つたが今尙人口一千餘萬の奉天省公署の所在地であり、滿洲第一都として貫錄と實力を遺憾なく發揮してゐる。又日露戰役に於ける兩軍の雌雄を決した屍山血河の巷として、更に滿洲事變發生の地として永遠に我が光輝ある歷史に大書せらるべき記念の地である。一度日々二萬の乘降客を呑吐する奉天驛前に立てばあらゆる人種と交通機關は蝟集去來して大奉天の繁榮振りを如實に物語つてゐる。

〔觀　察〕定期觀光バス、長コース大人二圓二〇錢、小學生以下一圓一〇錢。

驛—忠靈塔—國立博物館—北陵—北塔—柳條湖—北大營—天齊廟—城內—同善堂—奉天神社—鐵道總局—鐵西工業地區—南部住宅街—驛

短コース、大人一圓五〇錢、小學生以下七五錢。

驛—忠靈塔—北陵—北塔—柳條湖—北大營—城內—奉天神社—驛。

〔土　產〕毛皮、支那反物、雜貨、麻雀、トランプ、寶石類、露西亞菓子、撫順琥珀細工、同石炭細工、寫眞帳、繪葉書、高粱餅、甘栗等。

〔觀察斡旋〕驛構內「鐵道案內所」、ツーリスト・ビューロー（驛前、瀋陽區一德街一段、ヤマトホテル內）、驛前奉天觀光協會。

撫　順（撫順）

撫順の市街は全く炭礦あるが爲に興つた鑛業都市で、石炭の埋藏量十億瓲、世界無比の露天堀と重油工業發電所等を持つてゐる。日露役後日本人の集住するに至る迄は千金寨に僅々四、五十戶の滿洲人部落があつたばかりでそれが滿鐵の炭礦經營に依つて一市街を形成今の舊市街となつたのであるが、此の地に日本側の總ての機關施設が置かれ商民が集り渾河對岸に古くからある撫順城內からは撫順縣公署を初め大部分こゝへ移轉し來た爲に撫順城內は甚しく寂れ取毀された屋敷跡が夥しく目立つの逆現象を呈した。斯くして一旦完備した市街地が炭層上に建設せられたる爲露天堀擴張に伴ひ大正十三年には滿洲街のみを殘し日本人街は小官屯、山嘴子方面に移動して再び建設せられたのが今の新市街である。而して更にまた露天堀大擴張計畫は既存の滿洲街全部をも破壞する事となり千金寨市街は擧げて大官屯驛北方渾河畔の埋立地域に移動することに決定してゐる。現在人口は約二十一萬九千人（內地人二萬八千四百五人）

〔觀　察〕▼半日行程古城子露天堀、東鄉坑或は大山坑（炭坑事務所の許可を要す）、製油工場。

▼一日行程　古城子露天堀、東鄉坑或は大山坑、製油工場、歡樂園、永安臺、各炭坑一巡、撫順城、觀音閣（佛塔）

▼觀光地　東公園遊覽地帶（撫順驛北東部、渾河畔、琴ケ岡、泉ケ岡、御室ケ岡、蓮池、一帶の地域風景頗る佳良）新屯公園、ゴルフ場、老古臺スキー場、塔灣釣魚場、龍鳳公園（定期見學バス）大人一圓二〇錢、小人七〇錢、所要時間約二時間。

驛—炭礦事務所—大山坑—古城子露天堀—撫順神社—殉職碑—驛。

（土　產）石炭細工（卷煙草入、パイプ、灰皿、花瓶、筆立、印材、人形、置物等）、琥珀細工（ネクタイピン、帶留、齊玉、カフスボタン、パイプ、首飾、數珠等）、油と炭の參考標本、化石（第二露天堀其他に於て化石を含む頁岩を容易に採集し得）、繪葉書

〔觀察斡旋〕鐵道案內所、ツーリスト・ビューロー（驛前通り）

鐵　嶺（連京）

北に柴河流れ東に龍首山の峙つ麓、三基の佛塔に護られた鐵嶺の町は見るからに平和である。史上古く渤海時代は富州、遼代は銀州の名に現はれ明代に至つて鐵嶺衞が

觀光地（都市）

置かれた地である。こゝは綿糸布の産地で鐵嶺綿布の名に廣く知られ三十餘軒の綿糸布商が城内に在る。

鐵嶺は其の後方に特産物多き東山地方を有し、遼河水運の盛であつた頃は商勢甚だ振つてゐたが鐵道開通後、地の利を得て開原が特産市場として活躍するに及び繁榮を奪はれるに至つたとは雖尚相當に特産の出廻を見又一方では滿洲に於ける米の一産地として存在を保つてゐる。市街は附屬地、商埠地、城内の三つに分かれ昭和十四年一月現在人口約五萬七百七十三（内地人三千餘人）を有する。

〔視　察〕驛—龍首山—鐵嶺公園—圓通寺の白塔—所要時間馬車にて約三時間。人力（龍首山五〇錢）馬車（龍首山七〇錢）自動車（貸切五圓以上）

〔土　産〕牛肉味噌漬、繪葉書、モダン羊羹、深山餅。

四平街（連京）

北滿の動脈たる平齊、齊北、北黑各線に依りて北滿東部内蒙古への入口貨物中繼市場としての位置を益高めてゐる。もと荒原中の一小部落であつたが交通に依つて成長し特に四洮線（現平齊線）開通後著しく擴充した都市となり滿洲建國後の發展は更に目覺しく市況は活氣を呈し頗る殷賑を極めてゐる。

またこの地の多の寒さは所謂日溜りとも云ふべき地の利を占めて凌ぎ良く、春は杏花に梨花に昔ながらの名が高く殊に梨花は「梨樹」なる地名がある如くその美しさは隨所にみられる。

三十年前農家の點在するに過ぎなかつた此町は最近六萬八千百餘人（内地人八千八百餘）を數へ郊外を合せると九萬を越える人口を有する樣になつた。

〔視　察〕驛—中央大街—南ヶ丘公園—四平街神社—四平街公園—忠靈塔—原種圃—昭平橋—驛（馬車所要二時間半、六〇錢。自動車所要時間五〇分、三圓）

〔土　産〕ホームスパンネクタイ、繪葉書、瑪瑙工作品。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（驛前）

新京（連京）

附近一帶はもと蒙古郭爾羅斯前旗に屬する放牧地で漢人の開墾によつて初めて新京の北方十餘支里に「長春堡」が出來、淸國道光五年、現城内に長春廳が置かれたのに始まり、爾來滿洲國の創建まで「長春」の名を傳承した。然し當時微々たる一小邑も一八九九年露國によつて寬城子に停車場を設置するに及んで漸く經濟的價値を認められ一躍人口六、七萬を算するに至つた。日露戰役後は日本側によつて城内、寬城子間の荒原を買收し遂に今日の如く殷盛な舊滿鐵附屬地を造り上げたのである。一方支那側は商埠地を設定し商民の移住を奬勵するに及んでこゝも城内に劣らぬ繁盛を呈し遂に舊稱城内、商埠地、附屬地の三を以つて今日の大市街を完成するに至つた。

滿洲建國後は一躍國都となり人口五十萬を擁する大都市計畫をして着々その緒につかしめ政治、經濟、軍事、交通の中心地として實質上首都の面貌を兼ね備へその人口も昭和十五年七月末現在に於て四十五萬七千九百三十八人（内地人十萬七千餘人）の多きに達した。

〔視　察〕定期観光バス、大人一名二圓、小人一圓、コース、驛—ヤマトホテル—滿鐵支社—新京神社—中央通—兒玉公園—關東軍司令部—軍人會館—忠靈塔—西廣場給水塔—三不管—寬城子戰跡—寬城子—日本橋通—日本橋公園—舊國務院—宮庭府—小盜市場—大馬路—淸眞寺—般若寺—大同廣場—協和會首都本部—大同公園—民生部—紅會—動物園—綜合運動場—中央觀象台—中央警察學校—南嶺戰跡—大同學院—建國廟—建國大學—南湖—綜合法院—順天大街—國務院—宮庭御造營地—獨伊公使館—滿映スタヂオ—國務總理官邸—興安大路—帝國領事館—驛。（觀光バス三時間半、貸切バス三時間、馬車五時間半、タクシー二時間）

〔土　産〕豆麵、香木人形、新京人形、スッポンホルモン葡萄酒、刻磁器、滿洲煎餅、忠靈塔煎餅、滿洲

菓子、滿洲漬、國都そうめん、孝子餅、協和豆

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（驛前、三中井デパート内、ヤマトホテル内、泰發合内）驛構内鐵道案内所、新京觀光協會（驛前）滿洲事情案内所（中央通六）。

安東（安奉）

滿洲國東邊道の重要門戶として鴨綠江の河口を遡ること二十六粁、元寶、鎭江の諸山を背後に控へて右岸に市街を竝べ新義州に對する國境都市である。附近は淸朝同治年間（慶應）に至つて山東及び遼東沿岸方面より移住した漁農民により初めて一部落をなし、地名を沙河子又は沙河鎭と稱へた。その後移民の增加と共に開拓の業勃興し、安東縣衙が置かれ材木の取引も盛んに發展して今日の沙河鎭をなし縣衙の置かれて以來安東縣の俗名を以て稱ばれてゐる。市街は新舊二つに分かれ舊市街は滿洲國人商家の櫛比する處、新市街は舊市街に接し驛を中心とした近代式の井然たる街衢をなしてゐる。安東市は朝鮮鐵道の接續により事實上歐洲への關門の一として重要なるのみならず鴨綠江竝に海路による交通の惠を充分にうけ農林產物に富む背後地を控へ、滿洲三大港の一として大連に次ぐ主要貿易港であり目下滿洲國、滿鐵によつて大東港築港計畫が着々進んでゐる。

昭和十五年四月に於ける人口は二十三萬七百七十一人（内地人二萬四百十八人）で漸增の傾向にある。朝鮮と一葦の流を隔てた此處では滿人の紺衣に鮮人の白衣を散見せしめ、滿鐵沿線都市唯一の異色となつてゐる。

〔視　察〕馬車にて三時間行程—驛—鎭江山—鴨綠江製紙會社—鴨綠江製材會社—鐵橋—滿洲街—驛

〔土　産〕白魚の筏干（加工品）毛皮類、寶石類、ダイヤ、ヒスイ、アレキサンダー、麻雀、露西亞毛布、飴栗羊羹、石炭細工等

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー、安東觀光協會（商工會議所内）、驛構内「鐵道案内所」。

本溪湖（安奉）

撫順、鞍山と共に滿洲に於ける三大鑛業都市の一つである。無煙炭及鐵鑛が採れ、日滿合辦の本溪湖煤鐵公司で採炭、製鐵事業を行つてゐる。此處は曾て沙河大會戰の攻擊目標であつた。

一名窰街と稱せられ、缸窰（水甕製造所）多く其他陶器類と共に街の名物となつてゐる。昭和十四年十月に市制が實施され現在人口九萬五千七百七十四人（日本内地人一萬餘）を有する。

哈爾濱（京濱）

北滿洲の政治、經濟文化の中心都市としてまた過ぐる日まで東洋の巴里として特殊の異國情緒を持つ國際都市哈爾濱も一八九八年東淸鐵道の起工された當時は僅か五、六戶の民家が散在する廣漠無名の一漁村に過ぎなかつた。哈爾濱の歷史は東淸鐵道の建設によつて始まり之を中心とする露支兩國の勢力を不斷に反映しつゝ發展した。そして昭和十年三月二十三日の北滿鐵路讓渡を契機として今日の哈爾濱は最早「東洋の巴里」でもなく又「東洋のモスコー」でもあり得ない。「哈爾濱夜話」時代を遠く過去に葬り去つて今や新興滿洲國の一心臟として躍動しつゝある。

氣候は緯度からみれば北海道の北端に當り冬期には零下三十度の極寒にも達するが平均十五、六度で家屋の防寒設備によつて耐へ易く、夏季は最高三十四度位に昇ることもあるが平均二十二度、大陸性氣候の特徵として朝夕は殊の外凉しい。人口は昭和十五年八月現在五十三萬二千五百二十八人（日本人四萬九千七百八十一人、外人三萬二千二百十八人）を數へ國内では奉天に次ぐ大都市である。

〔視　察〕驛—哈爾濱神社—中央寺院—博物館—厚

生會館―鐵道局―ミルレル兵營ゴルフ場―苗―忠靈塔―志士ノ碑―烈士ノ碑―哈爾濱飛行場―哈爾濱學院―花園小學校―秋林―孔子廟―露人墓地―極樂寺―傳家甸―正陽大街―滿人百貨店―傳家甸埠頭―松花江―日航―キタイスカヤー斜紋街―地段街―驛。

▼觀光バス―埠頭區のジャパン・ツーリスト・ビューローを發着地とし所要時間約三時間、料金大人二圓五〇錢、小學生一圓五〇錢。

貸切自動車一時間三圓。

〔土　產〕ルパシカ（露製上衣）、寶石類、毛皮、白樺細工、ロシア菓子、ロシア食料品

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（中央大街七十八、丸商百貨店內、傳家甸、昌平二道街、ヤマトホテル內）

齊齊哈爾（平齊）

氣候は所謂大陸的で寒暑の差が激しく冬季は最低三十八度夏季は最高四十度位に上ることあり降雨日數は約八十日位である。齊齊哈爾は龍江或は龍沙とも呼ばれ、清朝が露國勢力の東侵に備へて建設した都市で二百數十年の歷史を有し當初から政治的、軍事的都市として發達した、之は哈爾濱が露西亞人の手で純經濟都市として發達し僅々三十餘年の歷史しか有しないのに比して面白い對照である。現在人口十一萬八百三十七人、（內地人一萬三千五百八）、龍江省の省城として政治的に重きをなしてゐる。又、經濟的にも消費市場としてではあるが哈爾濱以西に於て最も有力な都市である。

市街は嫩江を控へた大平原中に在る。內外の二城に繞まれ內城は官公衙街になつてゐる。日本人の多く居住してゐるのは外城の正陽街及び財神廟街である。

〔視　察〕驛―正陽大街―城內―南市場―嫩江―公園―忠靈塔―神社―關帝廟―天齊廟―驛。馬車で二時間半。

〔土　產〕瑪瑙細工、史國公酒、白樺細工。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（大馬路）

滿洲里（濱洲）

哈爾濱より九百三十五粁（所要時間二十二時四十分）西部滿蘇國境驛である。歐亞連絡客は此處に入滿出滿の旅券檢査及び稅關檢查を受けなければならない。次驛オトポールでは蘇聯の稅關檢査、旅券檢査があり蘇貨への兩替も此處でする。人口約六千五百人、土產物はタルバガン毛皮がいゝ。

〔視　察〕驛―エノケンチスカヤ神院―小原池―國境見學（要許可）―市政管理處―鐵道クラブ―驛（以上馬車三時間二圓五〇錢）

〔視察斡旋〕ジャパン・ツーリスト・ビューロー（三道街ニキチンホテル內）

吉林（京圖・奉吉）

吉林は遠く二千年の昔鷄林と呼ばれ高勾麗の築城された所で渤海國の興るや吉林烏拉と改められた自然な沿江の都會地を成してゐる。

明代に征東水軍が駐屯し降つて清の順治年間に戰船を造りしにより船廠とも呼ぶ。康熙十二年、始めて城壁が築かれ寧古塔將軍の移駐に依つて吉林と改め全省の首府となつた。清朝になるや太祖愛親覺羅が率ゐた滿洲八旗の子孫はこの地に居し今に至るも滿洲旗人の名で呼ばれてゐる。現在人口十五萬三千五百人（內地人一萬五千）を有し中部重鎭の面目を保つてゐる。省城は天然の地形に順應し無計畫に發達したので城壁の形は他地方に見る長方形と異り街筋は蜘蛛の巢の如くに亂れてゐる。城內全體を通じ官吏、富豪、有閑階級の邸宅が多く古城市の感が深い。山紫水明「滿洲の京都」吉林は近年大豐滿ダムの出現によつて之が觀光價値は新なる方面に加重されるに至つた。

〔視　察〕驛―神社―孔子廟―領事館跡―新開門―江岸―自來水―小白山―ダム（晝食）―北山―淸眞寺―河南街・太馬路・驛（バス五時間三圓、自動車四時間約一八圓）但夏期は鵜飼見物を加へ一圓五〇錢增。

〔土　產〕蛤蟆油（山地に棲息する蛙の脂、精力劑）、藥用人參、藥酒、ステッキ、搬不倒（起上小法師）、老虎枕頭廟會玩具、山葡萄酒。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（吉林太馬路一二三九・城內）觀光協會（市公署內）

牡丹江（圖佳・濱綏）

圖佳線の建設、北滿鐵道の買收を契機に急激に發達した新興都市であり背後地として牡丹江平野及び同江沿岸の森林地帶を有し、將來哈爾濱に次ぐ北滿の大都市に躍進すべく豫想されてゐる。現在人口十六萬一千餘（內地人三萬九千百餘）であるが三十萬目標の都市建設計畫を急いでゐる。市街を分つて舊市街、新市街の二とし舊市街は從來からの濱綏線の街、新市街は圖佳線の建設によつて生れた街でこの新舊兩市街を併稱して牡丹江と謂ふ。建設景氣橫溢し市況極めて活潑である。濱綏、圖佳兩線の交叉點に當るこの街は東北部滿洲交通の中心地として鐵道局が置かれ昭和十一年より牡丹江省公署の所在地として地方政治の中心をなしてゐる。

〔視　察〕樺林木材工業工場

〔土　產〕精香糖、鏡泊湖產小魚佃煮、山葡萄製ジャム。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（驛前）

佳木斯（圖佳）

佳木斯は明治末期までは戶數僅かに百餘戶に過ぎず大正五、六年頃、鶴立崗、梧桐河金鑛の開鑛に依つて相當人口の增加を見たが未だ三百餘戶と云ふ狀態で微々たる一部落であつたが、松花江岸に位置しながらも嘗て水害を蒙つたことなく、この點依蘭、富錦よりも惠まれて居り此のことが今日の隆盛を造る大きな素因ともなつたのである。

圖佳線の開通は從來の物資輸送經路に一新機軸を促して北鮮諸港とも緊密な關係を生じ、水陸兼備の貿易市場となり、松花江岸隨一の良港として北東滿に於ける物資の集散輸出入貨物の荷御地として全滿屈指の商業都市としての條件を完備し、更に對岸、蓮江口から僅か五十粁を隔てゝ鶴立崗炭礦があり水質の良きことも東滿第一と謂はれ工業都市としての將來も囑望されその人口も十萬七千餘人（內地人九千餘）を數ふるに至り明日への大飛躍が期待されてゐる。

康德元年（昭和九年）十二月、省政改革と共に三江省公署が置かれ、樺川縣公署の所在地でもありまた滿洲國國防上にも樞要の地である。

〔視　察〕驛―新埠頭―省公署―舊埠頭―舊市街―公園―忠靈塔―驛（馬車二時間三圓、自動車一時間六圓）

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（向陽大街三段地）

通化（梅輯）

東邊道第一の都會、通化省の新設と共に省公署の所在地ともなり、今又梅輯線は完成して日鮮滿を繫ぐ新ルートの樞要ポイントとして街は建設景氣で活況を呈し人口は既に昭和十五年五月に於て五萬九千七百五十七人（內地人四千四百八十五人）を數ふるに至つた。元來此の地方は一體に山岳地帶で平野に乏しく僅かに渾江の流域に耕地を有するだけであるが、附近に抱擁する鑛產資源開發も漸く緒に就き大栗子溝の鐵鑛脈、鐵廠子附近の炭礦脈等將來重工業地としても東邊道の心臟となる可きを約束されてゐる。

〔視　察〕驛―通化橋―玉皇山公園―城內―神社―驛（馬車三時間二圓、但し冬期は三圓、自動車一時間半九圓）・斡旋はツーリスト・ビューロー

〔土　產〕ステッキ、𦿈、蕨、藥用人參。

錦州（奉山）

錦州城は古く唐代から知られ、昔時遼西の貨物散集市場として頗る殷賑を極めてゐたが、その後營口の開港や南滿、京奉鐵道の敷設によつて經濟狀態は昔日の盛觀を失つたが、なほ熱河省を背後に持ち、近く壺蘆島の築港完成の曉は阜

新炭田の開發と俟つて交通產業の上から當然重要性を加重されることゝなるであらう。現時に於ても熱河、内蒙に對する南支貿易の進口路に衝り、遼西の咽喉として、この地方の最大市場たるの面目を保持してゐる。

現在人口十二萬三百餘(内地人一萬三千餘人)に達し都市計畫の進展に伴つて益々人口の增加を豫想されてゐる。

〔視察〕驛—錦州神社忠魂碑—鐵道局—中央大街—白雲公園—北門—文廟—市立民衆教育館—關帝廟—錦州塔—大廣濟寺—東門—地藏寺—驛(馬車三時間一圓八十錢、洋車一圓、自動車二時間八圓)

〔土產〕錦州漬、瑪瑙細工、蜂蜜。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー(驛前)

承德 (錦古)

承德は滿洲事變後熱河討伐に依り一躍その名を邦人間に知られた所。淸朝の蒙古民族懷柔の根據地として又同朝の離宮、喇嘛廟の所在地として更に又湯玉麟が一世の豪華を極めた名殘の地として幾多の歷史を有する東洋屈指の觀光地である。前記皇軍の熱河討伐と鐵道開通に依り久しく閉された祕境の扉は開かれ更に今次の承德北京間の鐵道建設により承德、北京の二大觀光地を結ぶ觀光ルートの完成を見て、今や世界的ツーリスト・ポイントとしての輝かしい前途を祝福されてゐる。人口四萬五千餘人(内地人四千餘人)。

承德を一名熱河と云ふのは、蒙古語のハロン・ゴル(熱い河)を漢人が直譯したものである。

〔視察〕市内中心—忠靈塔—承德神社—西大街—觀光道路(展望地)—喇嘛廟(普寧寺、羅漢堂、須彌福壽廟、普陀宗乘之廟、殊像寺)—避暑山莊(離宮)—市内中心。

▼乘物料金、人力車四時間一圓(除觀光道路)馬車四時間二圓(除觀光道路)自動車三時間七圓、二時間五圓(除忠靈塔、觀光道路等)觀光バス…每年九月一日より翌年三月末日迄冬季運行休止…三時間一圓五〇錢。

▼參觀料　避暑山莊—個人　大人一人に付國幣二角小兒一人に付國幣一角、團體　二〇名以上のもの大人一人に付一角、小兒五分。・八大寺—大人五〇錢、軍人學生二〇錢、小學生以下一〇錢、團體(二〇人以上)一人に付大人二〇錢、中人一〇錢、小人五錢。

〔土產〕熱河風俗人形各種、佛像模型、色紙風景壁掛、喇嘛寺煎餅、熱河魚化石、椽細工、絨氈、蒲の穗細工。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー(南營子大街)承德觀光協會、承德驛。

北鮮

府民の大部分は商業を營み其の商勢圏も

淸津 (津淸)

北鮮一帶は勿論間島省一圓、東北滿に及んでゐる。日露戰爭の際、北韓軍の軍需品陸揚地となつて以來荒凉たる一漁村も一躍商埠地となつて內外人の移住者逐年增加し明治四十一年開港場となり現在人口七萬八千北鮮第一の大都市である。輸出入物の國際呑吐港として活躍し尙今後の素晴しい發展が期待されてゐる。府の西方輸城大平野は輸城川が貫流して居りその川尻に設けられた漁港は規模の大なること朝鮮第一で、沿岸一帶及び蘇領沿海州の豐富なる漁獲物の大部分は此處でフイッシュミール、魚油或は罐詰等に加工されて歐米に輸出され、將來の大工場地帶として諸工業が計畫され已に建造に着手されたるものもあり一面危惧された羅津開港等にも微動だにせぬ殷盛さを示してゐる。

此の地は日滿連絡の最短路たる敦賀—北鮮航路、新潟—北鮮航路の發着地である。

〔視察〕驛—工場地帶—漁港—高秣山(タクシー、貸切バス共に所要二時間)料金タクシー六圓、バス六〇錢。

〔土產〕鹽うに、つるちゆく(白頭山に產する高山植物)、鏡城硯、水晶製品、林檎、白波干(鱈の干物)

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー(埠頭構內)

羅津 (北鮮)

築港計畫が完成すれば、大連に比肩する繁盛を約束されて居り、東洋一を誇る良港の性質を備へてゐる。京圖線の終端港として日滿交通の最重要地點たるのみならず滿洲物資の歐米輸出港でもある。數年前まで戶數二十足らずの一漁邑新安洞も今では府制(市)が布かれ人口四萬二千餘名(內地人五千六百)を數へ日一日と鮮やかな進展を續けてゐる新興都市である。

〔視察〕驛—埠頭港灣—開拓館(滿拓)—ヤマトホテル—羅津廳—間依洞(魚干場)自動車一時間四圓。

〔土產〕ラシン煎餅、うに漬、數の子うに漬、あわびうに漬、貝柱、うに燒、貝柱味淋干。

雄基 (北鮮)

朝鮮最北部日滿露三國境に近く、古くより海路交通の要衝に當り大正十五年開港、羅津、淸津と共に北鮮三港の一で人口二萬五千を有する北鮮屈指の港都である。木材、石炭及び穀類等無盡藏の寶庫東北滿洲及び北鮮一帶を背後地として之等物資の輸出に獨自の活躍を示して居る。

中國

山海關 (奉山・京山)

山海關は奉山線の終點驛で京山線との接續驛である。前面渤海を控へ後に高嶺を負ひ東北に長城の蜿蜒たるあつて正に山海の關門を成してゐる。この地は國防の要地と共にまた物資の集散地であり人口三萬八千八百二十九人(內日本人二千三百十八人)滿支國境驛であるから此處で稅關檢査があり貨幣も兩替へせねばならぬ。

〔土產〕鮎海老のうるか漬、干鮎、落花生

〔視察〕半日コース　驛(旅館)—南門—天下第一關—萬里の長城—角山寺—驛(旅館)　一日コース　驛(旅館)—南門—天下第一關—萬里の長城—角山寺—玄陽洞—二郞廟—石河—南海—驛(旅館)

乘物　驢馬…半日コース五時間半二圓、一日コース十時間三圓五十錢。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー(南關中街七四號二)

天津 (津浦・京山)

天津は白河を母體として發達した北支隨一の經濟都市である。水陸交通の要衝に立ち人口百五十萬二千餘(內地人五萬餘)市街は支那街、日伊英佛專管租界及び特別區とによつて構成され、各國夫々色彩をこゝに移して異彩ある街衢を形成し、宛然列國植民地制度の展覽會場の如き觀を呈してゐる。この地は元來觀光資源には乏しいが都市構成上の特異性と各國の獨自な租界經營狀態等を比較研究するには好箇の生きた資料でありまた興味深いものがある。

〔視察〕驛—萬國橋—佛界リコードフランセ四號路—日界旭街—大和公園—天津神社—日本總領事館—海光寺兵營—南開大學—中原公司—三不管—東馬路—鼓樓—舊市政府跡—李公祠—寧園—特別第二區—伊界—ハイアライ—伊太利公園—特三區—佛界佛蘭西公園—英界—共同墓地—エルジアンアベニュ—ロンドン路—英國競馬場—馬廠道—ヴイクトリア公園—特一區—大連碼頭—白河岸—新興路迂廻歸着

料金—貸切バス三時間一臺二十八圓、ハイヤー二時間一臺一二圓。

〔土產物〕絨、天津人形、甘栗、皮革類

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー(日本租界旭街一二、東馬路南大門一三六、特三區大馬路一緯路三〇)

北京 (漢京・包京・山京)

北京は約一千餘年前、滿蒙地方に興つた遼が此の地に都城を築いて以來引續き金、元、明、淸の王朝が宮居した帝都で、淸朝が滅亡して中華民國となつた後も國民政府が南京に遷都するまではやはり支那の政治中心地として繁榮した北支那第一の大都會であり今次支那事變を契機として中華民國臨時政府の首都となつた。

北京は一千年の間各朝廷が一國の首都と

して經營した上に近くは康熙、雍正、乾隆三代に亘る燦然たる東洋文化の黃金時代も實に此の地を中心として現出されただけに後年兵亂に依つて荒廢したとは云へ今なほ老大帝國の帝都としての偉觀を備へ、世界的觀光都市として全世界ツーリストの憧れの地となつてゐる。

北京市の總面積は大體七一九・二五平方粁で丁度東京市と同じ位の面積を持ち最近の人口は約二百萬（內地人七萬八千餘）を突破せんとしてゐる。市街は內城と外城よりなり內城は主として官衙・住宅街、外城は商業區となつてゐる。內城の公使館區域は共同租界の樣なもので一切支那人の居住を禁じ各國大公使館は凡てこの地域に軒をならべ外國商館等もこの區域にある。

北京は朱壁黃甍を隨所に見る街全體が一團の名所舊蹟である。從つて其の觀光箇所も非常に多く、一通り市內外を見物するとしても自動車で先づ二日乃至三日を要する。

△市營觀光バスコース
A　ビユーロー前又は東華門より乘車
北海公園—紫禁城跡—萬壽山—天壇（入場料共五圓）
B　ビユーロー前又は東華門より乘車
景山—故宮博物館—雍和宮—孔子廟—中央公園（入場料共四圓）

〔土　產〕毛皮、翡翠、瑪瑙、骨董、文房具、七寶、玉細工等
〔觀察斡旋〕北京驛構內案內所、ツーリスト・ビユーロー（北京東城崇文門西單北大街、王府井大街、前門大街）

通　州（通州）

通州は事變前舊冀東防共自治政府の所在地であつた。支那事變の初期、昭和十二年七月冀東保安隊叛亂以來發展を阻止された貌となつたが皇軍の宣撫と新來邦人の努力に依つて城內に復歸するもの多く、復興通州をめざしての發展は見るべきものがあり現在人口は城內外を合せて三萬と云はれてゐる。此地は由來大運河北部の起點で鐵道開通迄は南方支那より北京に入る貨物の唯一の關門をなし又海路天津經由北京に入る要衝に當つてゐた。支那事變當初通州事件の發生地として日本人には忘れ得ない處である。

〔觀　察〕燃燈古塔—寶通寺—楊林—水月庵—鼓樓—八里橋—桃花林

保　定（京漢）

國民政府成立後は淸苑と改稱されてゐたが前淸以來保定府と稱ばれ舊直隸省の省城であつた。民國後直隸派は曾てこの地に直魯巡閱使署を設け勢威を張つた。國民政府成立後は河北省の省城となつてゐた。此處は北京、石門の略中間にあり附近に數多の河流をもち、天津との間には自動車道路あり軍事上の要衝であり、嘗て保定軍官學校の所在地であつた。現在人口約十萬餘である。

〔觀　察〕三陵—萬卷樓—永寧寺—百花嶼—蓮花池
〔土　產〕蓮根、棉布、支那漬物、支那味噌、魚介類鐵球（中國人の手中に弄ぶ球）
〔觀察斡旋〕ツーリスト・ビユーロー案內所（西關大街一二〇）

石　門（京漢・石太）

石家莊は昭和十四年十一月より再び石門市と改稱された。もと獲鹿縣の一小村であつたが正太鐵道の敷設工事が開始され石家莊は其の起點として光緒三十三年開通後は大小商店の進出增加し漸次繁盛を來すに至つた。

その後國內の動亂相續き農村は疲弊し商家の倒產するもの續出し市の發展上に大頓挫を來したが民國十七年北伐成功の後、內外の狀勢次第に復舊し漸次繁榮を來すに至つた。かくて支那事變勃發昭和十二年十月皇軍この地に入城してより各地に避難してゐた住民も次第に歸來し、今は人口十七萬九千餘內地人九千二百二十餘に激增し更に人口五十萬都市計畫をめざして躍進を續けてゐる。氣候は極寒期と雖も零下四、五度

程度であるが六月に入ると酷暑甚しく黃塵は天に冲し酷暑が襲來して近くは井陘、遠くは靑島方面に避暑する者が多い。又此地は德石線の基點である。

〔觀　察〕驛—興亞公園—大橋街—昌平街—共存街—新華街—石門神社—石門小學校—女學校—阜寧路—驛。
〔土　產〕綿製マット
〔觀察斡旋〕ツーリスト・ビユーロー（阜寧路）

濟　南（津浦・濟膠）

濟南は山東の省城で黃河によつて形成された肥沃な黃土地帶の中心地である。西は遙かに中原の大平野に續き、北は京津の政治經濟の中樞に連り、南は揚子江の膏腴地に到る。津浦、膠濟の兩鐵道はこゝに會して黃河の水運と連絡し北支に於ける北京、天津につぐ經濟交通上の大都市で昭和十五年七月末現在の人口五十一萬三千六百餘、內地人一萬七千七百餘を數へ、十二年十二月皇軍入城後已に二箇年餘により治安は全く恢復した。

〔觀　察〕驛—商埠中山公園（大觀園）—日本領事館—日本小學校—同仁會濟南病院—忠魂碑—趵突泉—廣智院—千佛山—黑虎泉—太公望釣魚跡—舊省政府跡—太明湖—省公署—黃河—鐵橋—北公園（自動車四時間二四圓）
〔土　產〕硯、ステツキ、博山燒、濟南漬、肉の鬆（ドライビーフ）、碑文石刷、蓮實菓子。
〔觀察斡旋〕ジヤパン・ツーリスト・ビユーロー（大馬路五〇七）

靑　島（濟膠）

市街は港灣に臨んだ丘陵の自然を利用しこゝに獨逸の文化を移しただけに綠林に赤瓦を點綴した瀟洒な街相は街全體遊園地の趣がある。人口五十六萬二千餘（內地人二萬九千四百餘）、卽墨、膠縣編入後の新市內總人口は百九十萬を數ふるに至つた。

この地は明代に海哨が置かれ海寇を防いだ所で降つて淸の乾隆年間に膠州稅關が設けられ、光緒十七年始めて砲臺を築いて沿海の要害に備へ鎭守軍署を置いたがなほ寥寂な村邑にすぎなかつた。其後獨逸の東亞進出の根據地となるや一躍黃海沿岸の主要市場として登場した。然るに歐洲大戰後この地に有する獨逸の權益を一時わが國が繼承したが華盛頓會議に於て之が放棄を聲明し、山東鐵道の借款のみを保留したのであつた。かくて靑島の行政權は二十六年振りにて中國の行政下に復歸した。

〔觀　察〕旅館又は驛・埠頭—靑島神社—陸軍病院—市公署—湛山精舍—海濱公園—水族館—山東產業館—忠の海海水浴場—會姓岬砲臺—第二海水浴場—太平公園—湛山寺—第一公園—忠魂碑—日本總領事館—興亞院—海軍棧橋—山東路—歸着
料　金—タクシー三人乘一臺三時間一八圓、バス二十人乘一臺三時間一五圓、遊覽バス大人一圓五〇錢、小人七五錢、軍人、學生、團體は二割引
〔土　產〕ドライ・ビーフ、パテント・ビーフ、ジンギスカン・ビーフ、チヨコ・ビーフ、榮養煮・肉乃華、蜂蜜櫻飴、牛肉糟漬
〔觀察斡旋〕ツーリスト・ビユーロー（堂邑路二十八號、奉天路、東海飯店內）

芝　罘（・渤海岸・）

渤海の咽喉を扼する要港にして北支貿易港として一時殷盛を極めたが輓近大連、靑島、營口、龍口等に制せられ中繼港としての價値を失ひ幾分衰退の狀態にある。昔の狼煙臺—烽火を揚げ倭寇の防備に任ぜしめた地で支那人の間には昔ながらの煙臺の名をもつて呼ばれてゐる。

人口約十一萬と推せる。

〔觀察斡旋〕ツーリスト・ビユーロー

徐　州（津浦・隴海）

國民政府成立後銅山と改稱されてゐたが淸朝は徐州府を置いた地で西楚霸王の古都であり古來より南北往來の要衝であつた。津浦、隴海兩鐵道開通後はその交叉點となり山東、河南、安徽、江蘇の軍事、交通上の死活を制する要地となり、民國以來幾度かの內戰においても南北兩軍爭奪の地となつた支那中原の軍事的要衝地であつた。昭

和十三年五月皇軍入城と共に次第に平和を取戻し人口十四萬一千餘（日本人七千餘）に增加し、附近には今尙名勝古跡多く昔漢の高祖と楚の項羽が戰つた古戰場などもある。また支那事變に西住戰車隊奮戰の地としても記念すべき地である。

〔視　察〕驛—迎春橋（舊黃河）—徐州神社—忠魂碑—時計台—東亞建設記念塔—統一街—西楚故宮—戲馬台（放送局）雲龍山—快哉亭公園—飛行場（寺內、畑司令官會見所）—驛。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（月波街四八）

開　封 （隴海）

五代及び北宋の古都で淸朝は開封府を置いて治め以後河南省の省城であつた。附近一帶は平原であり北は黃河によつて河北、山西省と界し、東は山東及び江蘇徐州に通じ西は鄭州、洛陽を經て陝西省に至る隴海沿線中の人口二十餘萬を有する河南に於ける經濟商業の中樞地であり支那中原の大都市である。此地は北宋の故都であつたので宋代の宮城その他の古跡が豐かである。

〔視　察〕甘露寺—午朝門—龍亭—國寺—平民公園（革命記念塔）

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（相國寺後街三六）

鄭　州 （京漢）

附近棉花及び米を多量に產し、事變前までは漢口及び上海方面との商取引が盛んであつた。平漢鐵道開通後商埠地に指定した爲漸次內外商人の進出するもの增加し中原に於ける一大貿易市場を形成するに至つた。この地は黃河南岸五十三支里の地點にあり、京漢及び隴海線の交叉點に當る支那中原の軍事經濟上の重要都市である。

連　雲 （隴海）

連雲港は支那中原を貫く隴海線の門戶を扼し鹽都海州を背後に徐州へ鐵路二一三粁の地點に在る。今次事變に際し中國軍の手により徹底的に破壞され加へて長期間に亘り放置されてゐたので最近まで砂泥の推積甚だしかつたが、其後日本側により修築されて漸く三千噸級船の離着が可能となり隴海線奧地の開發と棗莊、中興兩岸主要物資の輸出港として將來性をもつにいたつた。現在人口は約四萬（日本人六百六十餘）。氣候は概ね溫暖にして寒暑の差すくなく居住に適す。

〔視　察〕鹽田並鹽務管理局（海州驛より人力車三十分）

〔視察斡旋〕驛內ツーリスト・ビューロー（連雲ホテル）

上　海 （海南・海杭）

上海港が世界獨立國約六十の殆ど總てを相手として全支對外貿易額の一半以上を占め更に長江流域を其の直接の背景として同流域對外貿易の九割內外を掌理すると共に人口大約四百五十萬（日本人七萬二千餘人）を抱擁し而も世界約四十箇國の國民各人種を網羅し所謂國際都市として異狀な發達を遂げ財政、商業、工業及文化の諸點に於て全支那の指導的地位を獲得するに至つたについては遠く八百六十餘年の長き歷史を閱し、一八四三年の開港後に於ても尙對外貿易港として九十有五年の歷史を有してゐる。

宋の熙寧七年に初めて上海の地名が與へられた。以前は華亭海と呼ばれその後二百數十年を經て元代に縣城となつて稍繁盛を見た。蓋し今日の繁榮の基礎は南京條約に基き一八四三年開港された以後にある。而も之が繁榮の中心は租界に在り、なほその位置及び背後地との關係が中支における一大集散市場たらしめ、極東に於て大連、香港の鼎立關係に於て優位にあり今日の繁榮を遂げしめた主因である。貿易總額は一九三七年に於ては九億一千三百餘萬圓に上り實に全支輸出入額の五十五%餘を占めてゐる又支那隨一の工業都市にて凡ゆる工場を有し邦人も紡織其他の工業に從事し巨大な勢力を有してゐる。商業の中心は共同租界殊

に黃浦江に近接する部分で虹口方面は小賣業の盛地で邦人の居住者が多い。

〔視　察〕旅館（吳淞路）—（虹口マーケット）—文路—（日本人クラブ）—北四川路—郵便局—北蘇州路—（ブロード・ウエイ・マンション）—ガーデン・ブリッヂ—パブリック・ガーデン—バンド（日本郵船、正金、キャセイホテル）—南京路（パレス・ホテル、トーマスクック、永安公司、先施公司、新新公司、大新公司、新世界）—靜安寺路（競馬場、パークホテル、外人墓地）—愚園路—ゼスフィールド公園—中山路、蛇橋路—（東亞同文書院）—アベニューヘーグ（徐家滙天文台）—徐家滙路—祁齊路—（自然科學研究所）—畢勛路—（日本大使館邸）—霞飛路—愛多亞路—アベニュー・エドワード七世—（平和女神像）—バンド—（日本總領事館）—南潯路—閔行路—崑山路—（居留民團）—北四川路—（海軍陸戰隊）

上海神社—新公園—狄思威路—吳淞路（旅館）以上大約四時間

▲戰跡視察順路

吳淞路（旅館）—北四川路老靶子路（ポケット地帶）—北停車場—商務印書館—西八字橋—八字橋—水電路（廣中路激戰地）—江灣鎭—江灣競馬場—復旦大學（維新學院）—五條ヶ辻—市政府、大正通—大場鎭—閘北戰跡—北四川路—吳淞路（以上大約四時間）

〔土　產〕外國煙草、寶石類（翡翠、ダイヤモンド）支那年產糖果類、絹織物、絹手藝品、柴細工、骨董品、刺繡、麻雀、皮革製品等。

〔視察斡旋〕領事館、居留民會、商工會議所、ツーリスト・ビューロー（北四川路、廣東路）

蘇　州 （海南・蘇嘉）

上海南京間の大都會で人口三十萬三千餘人（日本人一千九百二十六人）、杭州と竝び稱せられる歷史上有名な都市で周初吳の太伯の邑で春秋の頃吳國の首都となり名を姑蘇と云つた、日淸戰爭の結果開市場となり我邦の專管居留地も存するが上海に繁榮を奪はれて昔日の面目はなく貿易は殆ど國內取引に限られてゐる。

古來「上有天堂下有蘇杭」と云はれた地上の樂園とされ又美姬の產地として知らる。姑蘇二千六百橋と云はれる程水運に便であり支那のヴエニスと讚へられて名勝舊蹟に富み遊覽客が絶えない。

〔土　產〕絹緞物、刺繡布、棠檀細工、麻雀、硯臺、骨董、石刷、象牙箸。

〔視　察〕驛—寒山寺—虎邱—西園—留園（以上城外コース）

驛—北寺塔—獅子林—玄妙觀—滄浪亭—觀世街（以上城內コース）—（全コース自動車三時間半一八圓、馬車五時間四圓、人力七時間二圓）

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（蘇州百貨公司內）

無　錫 （海南）

江蘇第一の工業都市として江南に重きをなし、棉糸布、繭等を多額に產する。今事變に於ては城の內外共大なる戰鬪はなかつたが空爆により街の大半は破壞せられた。其後市街の復興目覺しく城の內外共戰前の十七萬を突破するのも近きにありと見られてゐる。日本で愛玩されてゐる海鼠の火鉢、茶器、植木鉢等は此處で製造される。

〔名　勝〕太湖黿頭渚、妙光塔

常　州 （海南）

江蘇省武進縣の中央に位し、水陸交通の便によく、江南の主要都市として知られ驛は最近まで武進驛と稱ばれてゐた。

人口九萬を有し江南隨一の工業都市として染織機、製油機、紡績機等製作工場多く驛より二粁天寧寺は弘法大師留學所と云はれ、江南に於ける第一位寺院で事變前は僧侶六百人が修業してゐた。

鎭　江 （海南）

もと京口と稱し南京の咽喉部に位し、北は長江を隔てゝ揚州に通じ、軍事、經濟、交通共に長江に於ける有數の要衝地であつた。一八六一年の天津條約により開港された物資の集散地であり、市街は東南に黃山、觀音山、西に衙巘山の重疊たる山岳を背景とし自ら天險をなしてゐる。府城は一里九町、人口約二十萬を有し商店街は殷盛を極め居留地は整然としてゐる。此處は又江南隨一の良質の水を持つことで知名。

〔名　勝〕金山寺、甘露寺、焦山、揚州

南　京 (海南)

こゝは戰國時代初めて金陵邑を置き秦の始皇帝は秣陵と改め兩漢がこゝにより三國の時呉の孫權は國都を建てゝ建業と名附け成祖の時南北兩京をたてゝ南京と稱した。南京の名はこの時から始まつたのである。

明の衰へると共に南京も亦昔日の盛華を失ひ清朝の興るに及んで兵戰の巷と化し、更に咸豐三年長髮賊は南京を占領して太平天國を建設したが再び清朝に歸した。

民國革命の勃發まで四十餘年間は太平無事にして諸般の生業は興り商運盛んとなる氣運にあつたが宣統三年革命渦中に陷り孫逸仙は中華民國第一次大總統としてこゝに假政府を建て、以て永遠の首都とする意向であつたが、袁世凱が大總統となるに及び、彼は遂に北京に留り、南京の諸機關は自ら北京に移つてしまつた。民國三年第二次革命には黃興が此處に據つて討袁の旗を飜したが、戰利あらずして海外に走り、張勳は部將として南京に打ち入り大に虎勇を奮つて商舖を掠め、良民を殺し、蠻行の限りを働いた。

國民革命軍は十六年三月江南を衝いて一大修羅場を現出し、南京を陷れるに及んでは各國在留民に對して暴虐を盡し、遂に在泊中の英米の砲艦をして火蓋を切るに至らしめ南京事件を惹起した。民國十七年夏以來國民政府の事實上の中華民國首都となつて新裝を凝らして來たが、今回の事變によつて主要機關は打ち碎かれた。

南京の商取引の對象は地方的都會であつて遠地との通商は上海に讓る。然し生產物は豐富であり殊に織物業中でも絹織物の元靑緞(南京繻子)、緞子はこゝを本場とし日本婦女子の帶地として愛用される。

城壁は周圍三十餘粁、十數門を以て外部と通じ規模の大なること北京につぎ支那事變後は維新政府の所在地となり、昭和十五年三月三十一日更生國民政府の還都あり續いて日本側大使の派遣があつた。人口約六十六萬人にして日本人約一萬二百餘人。

〔視　察〕新市街口—玄武湖—中山門—明孝陵—中山陵—光華門—中華門—夫子廟—新街口(遊覽バス二時間半三圓、(自動車一五圓)

〔土　產〕繻子、緞子、團扇、陶磁器、板鴨(家鴨の鹽漬)等。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビユーロー(中山路一)

嘉　興 (海杭)

蘇家線の分岐點で戰前は人口十三萬を有してゐた。古くは楊州と稱し後に嘉興府となつたもので、附近一帶は平坦にして地質肥沃のため穀類の生產多く、殊に米は年產四百萬石を超へ、又繭、魚菜、煉瓦、織物、紙、生絲を產し、今後に於ける產業方面の活躍が期待されてゐる。

〔名　勝〕煙雨樓、三塔

杭　州 (海杭)

杭州は浙江省の首都で馬關條約以來開港場となつて居る。市街は城內及び城外(湖墅)にわかれ鐵路、水路共に至便で、商工業も極めて繁盛してゐるが西湖十景をはじめ名勝舊跡地としても有名で、元の始渡來せるマルコポーロをして景勝世界に冠たるものであると嘆賞せしめた程である。

西湖を中心とする名所、舊蹟、古刹などの一切は皇軍の行き屆いた保護により一物も毀されず昔ながらの詩を傳へてゐる。

氣候は概して良好で、四季の變化も餘り激しくなく日本人にも適するといはれて居る。多は華氏四十度內外で寒氣はさほど激甚ではないが、夏期は屢々百度に達する。降雨は一般に多く殊に六月と九月が最も多量である。

人口は戰前五十萬或は六十萬と言はれてゐたが支那事變により一時五分の一に減じ、その後皇軍及び自治委員會等の努力に依り現在三十九萬人(日本人二千三百人)に恢復した。

杭州城站より西約三粁、人力車、バス、自動車で數分乃至十數分で楊柳繁る西湖畔に杖を止むることが出來る。湖は白沙堤と蘇東坡の築造したと傳へらる蘇堤と金沙堤の三堤によつて西湖、北裏湖、西裏湖、南湖に分れて居りその周圍十三粁、三面山を繞らして秀峰翠を競ひ碧水滾々と流れ四季共に格別の趣がある。

一說によればこゝは錢塘江の流土によつて形成せられた陸地に殘留した河川の一部であるとされてゐるが眞僞は不明である。

附近には西湖十景を始め靈隱寺、天竺寺岳飛の墳その他名勝、古蹟は頗る多い。興亡幾百年の歷史を湖畔に秘めて古雅な香を放つてゐる。

〔視　察〕驛—城內三元坊—鳳山門—萬松嶺—淨慈寺—(六和塔)—蘇堤—岳王廟—玉泉寺—雲林寺—(三天竺)—中山公園—放鶴亭—平湖秋月—斷橋—湖濱公園—新市場—驛(自動車二時時半乃至四時間、二〇圓乃至三〇圓、バス同時間五〇圓乃至八〇圓、人力車六時間乃至十時間四圓乃至六圓)

〔土　產〕絹織物類、緞子、繻子、絹布、鋏、扇子、火鏟、龍井茶、菜、筍、甘蔗、藥草、名所圖布等。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビユーロー(新民路二區三二五)

蕪　湖 (南寧)

南京を朝の汽車で立つと夕方到着する。人口二萬を有し安徽省隨一の都會である。光緒二年(六四年前)英支芝罘條約により開放された開港場で、目下日本人も七百餘名住居してゐる。市街は北京路、大馬路等あるも他は道路狹隘にして支那家屋櫛比混雜を極めてゐる。附近農民は米、菜種、小麥、大豆、葉莨、茶等を產し、殊に米は蕪湖米として知られ支那隨一の稱がある。

驛より三粁李鴻章公園があり夏は納凉氣分を味ふ人々で賑ふ。

武漢三鎭 (京漢・粵漢)

武漢三鎭—漢口(百萬)、漢陽(二十萬)、武昌(三十萬)—は大約百五十萬の人口を抱擁したるも事變後は約九十萬程度に減じた模樣である。此處は上海地方に次ぐ中支に於ける政治、產業、文化の中心地であり、水運の上からみても海洋航路の六千噸汽船が、揚子江六百三十哩上流の漢口まで定期に航行し、夏期には一萬噸の汽船が運行してゐるほど水陸交通上の要衝を占めて居り、資源の上からみても「兩湖みのれば天下餓ゑず」の諺にある程附近は農產物の產出が豐か、加ふるに大冶鐵山始め石炭、銅、錫、マンガン等の重要資源の產地を控へてゐる。氣候は江南地方と大體同じであるが夏は時に九十九度と云ふ酷暑が襲ふも晚秋は爽快で氣持ちがよい。

武昌は最古の市で省政府があり政治上の中心であり清末の傑物張之洞が湖廣總督として文化施設に努力した處で、武昌大學はかつて共產抗日學生の巢窟であり一九一一年辛亥革命の旗擧げをしたのも此地であり、漢陽は工業都市である。

漢口は新興商業都市であり、市街は外國租界(日、佛)と支那街に分れてゐて、市街の東北を占める外國租界地は大きな近代的建築を持つ淸潔な市街で江岸通りの廣いアスフアルト路に各國の碼頭が竝んでをり最も繁華なるは舊英租界と支那街の間にある江漢路である。

〔視　察〕

▲漢　口　江漢路—中山路—廣雅公園—バンド—佛租界—日租界(約四時間洋車一圓五〇錢)

▲武　昌　黃鶴樓—蛇山公園—寶通寺—武昌大學(洋車半日二圓)

▲漢　陽　晴川閣—大別山—古琴臺—歸元寺(洋車三時間一圓)

〔土　產〕漢口盆、羽根布團、麻地、四川絹及革製品。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビユーロー(江漢路一五七)

廣　東 (粵漢)

前面珠江に臨み、背後に觀音山、白雲山

等を控へる廣東（廣州）は越人公師隅の築くところ、事變前九十萬と稱された人口は現在凡そ七十萬に減じたが吾國居留民の數は一萬三千八百六十九人に漸增してゐる。民國中最も古くから外國と貿易を始めた港で、一名仙城または羊城と云ひ、一八四二年南京條約に依り開放せられた貿易港である。兩廣物資の集散地として市況殷賑、大厦高樓軒を列べて居り、一九二七年一月國民政府を湖北武昌に移すまでは南方護法政府の所在地で政治、軍事の中心であり、支那事變では香港廣東漢口を繫ぐ援蔣ルートの樞要地で物情騷然たるものがあつたが皇軍入城後治安は全く確立した。

〔視察〕驛―長堤―沙面―下九甫路―華林寺―六榕寺―中山記念塔―黃花崗七十二烈士碑―中山大學―驛（自動車三時間乃至四時間二〇圓乃至三〇圓、人力車六時間乃至十時間四圓乃至七圓）

〔土産〕翡翠、端溪硯、紫檀細工、象牙細工、骨董、石灣燒。

厦門 ・福建省・

市街は厦門島と鼓浪嶼（コロンス）の兩島からなる。その間僅かに一粁許りであるが自然の良港をなし、市の大部分は厦門島の南西端に位し人口約三十萬、泉州、漳州の商賈を吸收して次第に發展して來たのであるが、その後奥地に資源がないこと、當地の主要輸出品茶がインド茶や臺灣茶の爲に販路を狹められ、紙、煙草、砂糖等も亦臺灣の割讓によつて需要を減じた等の理由により厦門の發展は次第に阻害されて來た。然し此處は汕頭（スワトウ）と共に南洋各地への出稼移民が多いので、之等よりの巨額の送金を以て毎年入超のバランスを保つてゐる。

我臺灣島民の大部分がこの厦門、殊に鼓浪嶼（コロンス）からの移住であり從つて未だ言語、風俗、習慣等全然同一の點多きを見受けられ、又今日約八千の臺灣籍民が此の地に渡つて臺灣公會を組織してゐる。臺灣にある媽祖や城隍廟、天后宮等があつて祭典等も殆ど同一である。

福州 ・福建省・

閩江の馬尾を約十三粁溯るところ、福建省の首府で巨大な城郭に圍まれてゐる。城外には江岸に市街をなし、また大石橋によつて結ばれた丘陵起伏の對岸南臺島上には外國人の共同居留地や我が專管居留地などがある。人口約二十餘萬本省第一の都會で商業もなか〳〵盛である。

長橋萬壽橋、洪山橋が閩江に架けられ南臺の町は支那町に結びつけられ橋のたもとには幾百千の民船蛋民の船が紋々相摩して泊つてゐる。福州の印象は白堊の建物と鼓山、烏石山の展望であり、鼓山の湧泉寺は僧空海が駐錫した處として日本人に緣が深い。

澳門（マカオ） ・廣東省・

香港を西に距る六四キロの地點にある半島で、爾來支那革命黨の策源地となり、又海賊の逃避所ともなつてゐた。瀟洒たる一小區域で夏季は綠蔭に涼を納れるため廣東方面からの避暑客を以つて賑ふ。

一五三四年ポルトガル人が巨額の賄賂を支那官憲に贈り互市場としたのが初めであり、當時外國貿易は殆ど葡人の專占する所となりその活動も目覺しいものであつたが、其後昔日の態を失ひ今日では公許賭博場として其餘喘を保つてゐるに過ぎない。人口約十萬、葡人五千、サン・パウロ寺院、ヴァスコ・ダ・ガマ銅像、カモンス公園等著名な名勝舊蹟がある。

北海 ・廣東省・

東京灣頭の一半島に位する開港場で、一八七六年芝罘條約により開港されたところで人口約七萬人、大體港灣内が非常に淺く船舶の出入不便であるため現在では一箇年を通じて出入船舶五、六百隻に過ぎない。嘗

て上海事變の際日本軍に頑强に抵抗した十九路軍の蟠居した處であり、又一九三六年九月邦商中野氏が暴民に慘殺され日支間の國交とみに緊張した爲この小都會北海は俄然邦人間に著名となり、今次事變では日軍のバイアス灣敵前上陸以來いよ〳〵その存在性をもつに至り、惹いては南支新秩序建設の上からも此處は單なる小開港都市として見過すわけには行かなくなつた。

＝蒙疆＝

張家口 （京包）

支那事變を契機として蒙疆七百萬民衆の首府として一躍東洋の檜舞臺に登場した張家口は陸の港である。京包線中最大の商業都市で萬里の長城の門戸に位置し北は外蒙に通じてシベリヤに入り東は多倫を經て滿洲國に入り西は厚和、寧夏、新疆に走つて支那内地から邊境に入る要衝に當り蒙古の貿易市場なるばかりでなく昔時はロシア商品の通過地でもあつた。また察哈爾省主席宋哲元が此處に軍を置いた所で軍事上の要地でもある。

明代には此の地に馬市を開き蒙古と貿易を通じたが、清代に至つて口外の地を併せこゝに張家口廳を設け民國は縣城を北方九十支里に移したがのちまた察哈爾特別行政區域の首都と定め民國政府に及んで察哈爾省政府の所在地となり、現在は蒙古聯合自治政府並同察南政廳の所在地となつてゐる。

人口十二萬七千百五十三（日本人二萬五百五十、半島人六百、華人十萬五千七百二十、蒙古人二百八十三）を數へ日本人は逐年急激なる增加を示してゐる。

〔土産〕駱駝模型、蒙古刀、獸皮、獸毛。

〔視察〕站―領事館―〇〇部隊―蒙古政府―察南政廳―大境門―水母宮―賜兒山―站（所要時間五時間、費用、バス貸切にて一人當一圓五十錢）。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（橋東五四）

大同 （京包・同蒲）

内長城の中間雁門關の嶮を控へ四周に山脈と長城を圍らした山西北門、蒙疆南門の要衝である。京包線の要地であると共に同蒲鐵道の終點に當り山西、蒙疆地方物資の集散地である。曾て淸朝は此地に大同府を置いて治め北魏時代には拓跋珪の故都であつた。

古來より夷狄の南下を防禦した要害で目下は晋北自治政府の所在地である。

附近口泉鎭には石炭を多量に產する。

大同縣城内の人口は支那人約七萬、日本人は一萬餘を有し、現在晋北政廳の所在地である。古來山西人の外蒙古進出の根據地にして昔より内外蒙古に出でんとする支那人は一度は必ず此地に滯在準備を整へるのが例であつた。

〔土産〕蒙疆漬、七味漬、乾燥成吉思汗肉、繪ハガキ等。

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（大東街一一二號）

厚和 （京包）

歸化城及綏遠城の二市街より成り兩市を合して厚和特別市と稱し、内蒙古五盟に對する商業上の樞要地にして現在人口二十一萬餘（日本人五千餘人）を有する。

海拔三千二百呎の高原に位し、空氣乾燥して寒暑共に激しく、四月解氷して十月に結氷する。

新城卽ち綏遠城は乾隆元年の建設になり些して廣くはないが立派な城壁を圍らし以來官衙街として發展して來た。

歸化城卽ち舊城は之に對し純然たる商業地域をなしてゐる。

由來張家口が蒙古との交易門戸をなしてゐるのに比して此の地は陝西、甘肅、新疆諸省との間に駱駝隊、自動車隊等に依る交易網を展開し繁榮を誇つてゐた。

〔視察〕大招（無量寺）、小招（安福寺）、錫拉圖招、卓爾齊招、五塔招、大淸山

〔視察斡旋〕ツーリスト・ビューロー（舊城北門街六七）

包　頭（京包・同蒲）

包頭は京包線の終點で山西、綏遠地方と寧夏甘肅地方を結ぶ物資の中心市場で、厚和に次ぐ蒙疆地域內第二の都會である。

住民は山西人がその六割を占めその他には蒙古人が多い。

尙少數のロシア人が皮革類の取引をなし居るも彼等は永住性を持つてゐない。寧夏、甘肅方面との交易は殆ど黃河の水運によつて行はれてゐる。

包頭から一里の地點にある南海子がこれ等物資の發着港とも云ふべき處、移入物は羊毛、皮革類、藥草、移出物は鐵、石油、茶等が主である。

寧夏から南海子までの下航は大體十七、八日を要し駱駝行と殆ど同じ日數がかゝるが遡航には約五十日を要する。

「包頭」と云ふのは元來蒙古語で「土地相會す」といふ意味を有し、前淸時代には薩拉齊廳の一部として純然たる蒙地であり明代には未だ蒙古に屬してゐた。

人口は約七萬で、邦人は五百人である。

〔視　察〕呂君廟、轉龍藏、廣覺寺等

太　原（同蒲・石太）

山西省の省城で東北二面に山を控へ前後に河を有する要害堅固の地、山西地方政治經濟の中心地である。歷代太原府又は順撫使署等の行政廳が置かれ今次事變當時までは山西省政府の所在地であつた。位置は正太鐵道の終點で殆ど山西省の中央にあり、市街は城壁を圍らして鼓樓其他の大厦高樓聳え道路は洋風に補修されて居り省內一帶の商業の中心地であり人口は現在十二萬七千六百餘（內地人一萬一千餘）を數へ、かつて久しきに亙る閻錫山の本據であつた。

〔土　產〕銀製品、葡萄酒

〔視　察〕驛—新民公園—龍王廟—省公署—大北門—太原神社—驛（人力車三時間半一圓、自動車一時間半七圓五〇錢）

〔視察斡旋〕ツーリストビューロー（首義門街四九）

名勝・舊蹟

連京線

大連附近　〔**老虎灘**〕大連市の南方、灣を抱いた景勝の地、釣魚、汐干狩、海水浴場として知られてゐる。大連常盤橋から南する市內電車の終點。〔**傅家庄**〕老虎灘への途中、桃源臺から西南約三粁、風景良く、釣魚並に夏の行樂地、バス桃源臺・傅家庄間片道一〇錢。〔**星ケ浦**〕大連の西南約四粁、瀨戶內海を偲ばすやうな纖細なる風光の地、海岸遊園地を成し、好適な海水浴場、傳說の黑石礁があり、市內電車は此處まで延びてゐる。〔**旅大八景**〕黃海海岸を傳ひ旅順と大連を結ぶ四十七粁二九の海岸道路、自動車を驅れば一時間で走破することが出來る。沿道の風景實に麗しく、黑石礁、凌水寺、小平島、蔡大嶺、老座山、龍王塘、玉の浦、白銀山を選んで旅大南道路八景としてゐる。

南道路がもつ海岸線の女性美に對し所謂旅大の裏道路たる北道路は雄大な男性的山野の眺望を有してゐる。距離は五十三粁〇七、隨所に古代滿洲の遺址史蹟に富み滿洲色の濃厚な磊山屯、大東溝、牧城驛、雙臺溝、玉仙臺、長春庵、水師營、火石嶺の八景を抱いてゐる。定期バスがあり、所要一時間二〇分餘、片道料金一圓十錢。

旅順附近　【**小松宮御駐蹕跡**】市內海軍要港部參謀長官舍のある所は、日淸戰役當時道台衙門の跡で、征淸大總督を此處に置かれ、御名代小松宮彰仁親王殿下御駐蹕あらせられた處である。

〔**鴻臚井の遺蹟**〕黃金山の西北麓、旅順港口に極めて近く海岸から半町ばかりの所にあり忻井とも云ふ。千二百餘年前、唐の開元二年、鴻臚卿崔忻が朝命を奉じて渤海に使すの途上、新井二口を鑿つて碑を建てたものである。碑石は我が千代田城懷遠府に藏せられてゐる。見學には海軍當局の許可を要する。〔**明代の古墳**〕黃金山には明代に旅順の守將で淸軍に討たれ自刎した黃龍及び其の部將李維鑾、項祚臨、樊化龍、張大祿、尙可義の六忠士を合葬した古墳がある。〔**老鐵山と牧羊城**〕老鐵山麓を越える峠には有史以前の石塚が殘つてゐる。また峠を降れば石斧を始め石器、銅器、土器等の出る刁家屯の村がある。更に進めば漢代の古城址、牧羊城の遺蹟がある。

▲其他旅順に關しては「戰跡」「避暑地と水鄕」等を參照されたい。

金州附近　〔**金州城**〕元代既に土城があつたらしいが現存の城は淸朝（西紀一七八三年）に修築したものである。孔子を祀る文廟は明の金州儒學の舊址、淸朝となつては寧海縣學や金州書院の置かれたところである。境內にある「遼東金州先師廟碑記」「元張百戶墓碑」など貴重な史料がある。

城內諸寺廟多き中に天后宮は特に輪奐の美に富む。西門外に在る玉皇廟前の路傍に鐵牛と稱するものが半ば土中に埋れ橫はつてゐる。北門外にある天齊廟は邦人間には「地獄極樂のある寺」として知られてゐる。

大連から金州驛までは三二粁五、汽車賃は二等九九錢三等六〇錢大連、金州間のバスは三五粁で料金七〇錢

〔**釣鯨臺と龍王廟**〕北大河を渡り道を西北に進めば暫くにして「釣鯨臺」と刻んだ巨巖に至る。往昔釣魚遊覽の地であつたものと思はれるが、今は海岸からかなり離れてゐる。尙進めば龍王廟のある小丘に達す。此處から渤海を望めば景觀壯麗である。〔**大和尙山**〕海拔六百六十六米餘の高山で金州平野の東側を劃して立つ。山中の風景佳なると寺觀多きにより千山及び安奉線の鳳凰山と共に滿洲の名山である。南端には鳳凰山が三百九十三米餘の高さで翼を擴げてゐる。その昔、高勾麗はこゝに築城して遼東半島の咽喉を扼してゐた。卑沙城と呼ばれ後に大黑山城と呼ばれたものである。朝陽寺から約五百米にして響水寺がある。金州驛から八里庄を廻つて六粁、馬車で行ける。（三崎山は戰蹟の項參照）

二十里臺附近　〔**平山**〕二十里驛臺の西南六粁に聳えてゐる平山は海拔三百十米、頂の西北面には鐘乳洞があつて之を佛爺洞と呼んでゐる。深さ十五米ばかりの洞穴の奧に巨大な佛像が一體刻まれてあり明代から知られてゐる。驛からの道は良く、山を南に下れば六粁にして金州城に出る。

三十里堡附近　〔**化石採集地**〕驛の西方一粁餘、東山後屯の普通學堂から金州街道に出て南行すること半粁坂道の下りに沿つて含化石頁岩の斷層が數百米に亙つて續いてゐる。頁岩は厚く紅紫色を呈して無數の化石を含んでゐる。化石は古代カムブリヤ紀のレドリキア・シネンシスといふ三葉蟲が多く、其他にヒオリテス及び腕足類の一種オンレラ等の貝類もある。

石河附近　〔**石河城址**〕驛の西方約二百米、樹木茂り石壁を存して古城の趣が深い。こゝは既に明代の初に於て知られてゐた驛堡の一であつて城壁は淸初に至り改築せられ約三百年を經過し城は金州城北方の押へとして重要な防禦地であつた。驛東約七百米の臺子山頂に烽火臺がある。城の南門外の佛爺廟は古名を石堡寺と稱し明代の創建と云はれてゐる。

普蘭店附近　〔**孛羅鋪城址**〕驛の東北二粁、舊普蘭店と稱する村落に明代の古城址がある。城壁は石築にて南門上部の石額に「孛羅鋪」なる文字が刻まれてある。孛羅なる語は蒙古語として考へられ普蘭店なる地名は之より轉訛したものである。城址の東方臺子山の頂上には烽火臺の跡があり城の背後に當る低く平な悖々山の上には古墳と稱せられるものがある。

〔劉家屯の蓮實〕 普蘭店の東北四粁、劉家屯には泥炭層があり、古碑によれば二百年前に一大蓮池のあつた所で今日その泥炭の上層から古い蓮の實が發掘される。この蓮の實は外種皮が既に硬化してゐるが發芽能力に於ても數量、性質の點でも有史以來の最高度を有する種實として世界の植物學界に珍重されてゐる。

瓦房店附近 **〔瓦房富士〕** 驛南方四粁にある瓦房富士は海拔二百六十米、山形が凡富士山に似てゐるのでこの名がある。抱龍院は驛西方四粁餘、抱河口屯に在り邦人間には牡丹寺と稱せられ山を五臺山といふ。また驛の西北一粁の山巓に東西二十四米、南北七米半、幅一米の石壁あり、壁內到るところから煉瓦及び裝飾用瓦等の破片が出る。何家太山の遺蹟といはれてゐる。

〔復州城〕 瓦房店西方四十粁にある復州城の城壁は乾隆三十一年の建設と云はれ城の中央は城隍廟、城外東南隅に永豐塔と呼ぶ古塔がある。塔は遼、金時代の築造と云ふ。**〔五湖嘴地方〕** 三十里堡驛に下車して西北方十粁餘の三道灣から更に海路八粁、アダムス灣を渡つて行くが最も近い。此處には烽火臺の臺子山があり金家城子には土築の古城址がある。高麗墳と稱する古墳、窯陶址等多くまた三稜山麓には石斧其他の遺物包含層がある。

王家附近 **〔甘泉寺〕**(湧泉寺)驛の西北約一粁半、回頭河の左岸にあり山を大明山と稱し全山巖石で覆はれ樹木茂りて奇觀を呈す。甘泉寺はその南麓にあり殿內の岩窟には觀音菩薩を本尊として祀り、康熙年間の開基といふ。

得利寺附近 **〔龍潭山の古城址〕** 驛の西に間近く聳えてゐる龍潭山は海拔四百四十三米餘、こゝには古く得利嬴城(又は德里英城)の城址がある。城は元の遼東平章劉益が表を上つて明に降り明は此處に定遼を設けたところである。もと高勾麗の築城にかゝるもので門內の龍王廟前の龍潭池は往昔城兵の飲料水を求めたところである。山は奇巖突兀として聳え春季五、六月の候は躑躅美しく鈴蘭香り、また蕨狩にも好適の地である。驛の西北八粁、龍潭山の西に竝ぶ龍虎山の山腹に**〔得利寺〕**が在る。

寺は明代に築えたが今は僅かに山間に仙境を成して立つばかりである。岩窟內に羅漢を始め多くの佛像が安置されてゐる。

萬家嶺附近 **〔ドルメン〕**(石棚)驛の南方三臺子に在る。驛南の關子信號所に下車して東へ四粁進むが最も近い。このドルメンは石棚廟と稱して娘々を祀れる乾隆年間創始の廟屋內にあり、面積十五疊敷位に當る巨大なものである**〔小寺廟〕** 驛西方三粁、石道河の淸流に沿うた寨村廟嶺にある。今から三百餘年前、乾隆年間の創設にかゝり娘々廟、五齊廟、十殿、自君廟を合祀したもので地獄極樂の偶像がある。

許家屯附近 **〔官馬山〕** 驛西百數十米のところ、唐の太宗が軍を此處に駐め馬を山麓に放つて休養したといふ傳說に因りこの山名がある。山頂に立てば遙に渤海を望みまた四周の展望も美しい。

九寨附近 **〔ドルメン〕**(石棚)驛の西南、大石棚丁場を過ぎて西すれば石硼山(舊名蛾眉山)と呼ぶ臺地の頂に達する。ドルメンを利用して廟の建物となし古雲寺と稱して娘々を祀る。上部の覆石は一邊の長さ八米四、他の一邊は五米四、厚さ五十四糎の花崗岩で、その支石の高さは二米三八・五で、古代巨石文化の跡を偲ぶことが出來る。**〔歸州城址〕** 驛の西方十二粁の地、浮渡河(龍口河)の河口に近い。遼代の古城として最南端に位し元この歸州の治所は歸勝縣といはれ金代には歸勝鎭と稱せられ史上著名な城である。

熊岳城附近 **〔古代住居址〕** 驛の東南約二粁半、熊岳河右岸、溫泉附近の地凡そ一粁餘に亙つて古代住居址がある。漢代とも六朝以後とも云はれ有紋磚、無紋磚の破

片、土器破片、石片等は今でも容易に包含斷層で採集することが出來る。其他漢の五珠錢、銅鏃等を出すこともある、この界隈にはまた貝塚や塼棺が多い。**〔熊岳城〕** 驛の西南約一粁半、熊岳河の右岸に在る。

遼の盧州熊岳縣の遺址で後淸の太祖によつて攻略せられ城壁は乾隆四十三年に重修せられたものである。今南門だけに門樓が殘り東部の壁上に魁星樓らしき遺物がある。城內に元代の創建に係ると傳へる古刹道林寺がある。**〔望小山〕**(望兒山)と**〔天然橋〕** 驛の東北三粁餘、附近の平野中に島嶼の如く孤立せる礫岩が六箇點在してゐる。その塔あるものを望小山といひ塔は俗に水雞塔といふ。往昔一人の寡婦その子擧に應じ渤海を渡つて京に上つたまゝ還らず寡婦日夜歸帆を眺め遂にこの丘頂で悶死したといふ傳說によりこの山に望小山の名が起つた。望小山の續きの孤丘は岩骨の一部が穿たれて天然橋をなし奇觀を呈してゐる。

〔黃旗山〕 城南一粁餘に在る黃旗山は寶泉山ともいひ山一面の松林で老松の枝振り良く山頂に關帝を祀る石廟あり風景絶佳である。その麓に紅梨を栽培せる一大梨園がある。七十年前、淸朝に仕へて盛京將軍等に封じた韓恩合の隱遁經營したところである。**〔觀霞山望海寺〕** 驛東方十二粁、靑松全山を包み山上より俯瞰する一望千里の風光甚だ佳良。寺は大巖洞の中に在り喇嘛趙法師の建立に係ると傳へられてゐる**〔盧家屯〕** 古の盧州で知られた地である。附近の古塚からは往々古代の刀貨、五珠錢、埴輪等が發掘せられる。

蓋平附近 **〔蓋平城〕** 驛東三粁半、大淸河の北岸に在り、城は明代以前既に土城があつたのを明の洪武五年と淸朝年間に修築を加へられたもの。城內には今も舊城守尉府の建物や其他古色を帶びた寺廟が多い。特に元眞觀は築城前から存在してゐたと傳へられる古刹で西門に近く在り二十一體の稀に見る結構雄大典雅な佛像を安置してある。

〔鐵塔嶺の佛塔〕 城東三粁餘、八蜡廟南方高地の南端にあり、もと鐵製であつた爲め鐵塔嶺の名を生じたものである。唐代創建といはれるが年代不詳である。**〔靑石關〕**

城北八粁靑石嶺低所の岩石を開鑿した數十間の山道を成し關門を設けて在る。明代に重修したもので城東の石門關、城西の連雲島關、城南の陽關嶺と共に蓋平城北方の守りであつた。靑石關の西部には烽火臺が立つてゐる。**〔石城山〕** 城北十二粁、靑石關を過ぎ高麗城子の傍に立つ山で石城を存し高麗城と呼んでゐる。石壁蜿蜒として山の背に連ること實に八粁餘に及ぶ大城址である。

太平山附近 **〔烽火臺〕** 太平山附近には烽火臺多く、その中でも驛西一粁にある拉々山の路臺は甎築で完全に殘つて居り烽火臺研究には標本的なものである。驛東には田家屯、驛の東南には商家店、驛の南方太平庄には破臺子の路臺があり、破臺子の東方山上には圓臺子の路臺がある。

大石橋附近 **〔蟠龍山〕** 大石橋市街の東北に位し遼河平原の眺望雄大にして公園內に杏樹多く風致に富む。同山には土石器を出す遺物包含層がある。**〔迷鎭山の娘々廟〕** 驛の南六粁、野原の中に孤立した山で俗に瞭高山、晾甲山とも言ふ。寺名は海雲寺。雲霄、碧霄、瓊霄の三娘々を祀り、福壽、治眼、授兒の女神として廣く尊信を受けてゐる。滿洲到る處に娘々廟はあるが當廟は最も名高い。**〔岳州城〕** 驛の北方二粁餘、岳州城は遼代の耀州の城址で僅かに城壁を現存す。唐代獨木關の遺址とも傳へられるが詳でない。蟠龍山の頂づたひに朝陽寺山があり、山容魁偉、奇岩に富み春秋風光絶佳な勝地である。**〔聖水寺〕** 驛の南東約十二粁、聖水寺村に在り景觀美事である。

〔紅旗山〕 驛南方四粁、老松杏樹繁茂し花季の行樂地である。

營口附近　河北線の河北驛は舊市街の對岸にあり、こゝから下流六粁餘のところに往時海賊に備へた支那の舊砲臺が遺つてゐる。同治九年の築造であるが今は只城壁と砲身二つばかりを殘すのみで荒廢してゐる。

分水附近　〔**分水のドルメン**〕分水驛の東南六粁に當る石硼峪の丘上に稀に見る完全なドルメンがある。
　〔**他山の毘盧寺**〕他山驛で下車し東南三粁餘に毘盧寺がある。明代の創建に係る古刹である。

海城附近　〔**海城**〕海城はその名の表す如く往昔海に臨んでゐた地で遼河の沖積作用により次第に海岸から遠く離れるに至つた。八百年前遼時代に海州と呼ばれた所である。驛から東二粁にある城壁は高さ八米二の磚築で城內に在る寺廟の數は三十餘の夥しきに達してゐる。中でも三學寺の境域は宏壯である。〔**欄河山**〕城の東門外六粁、全山に奇巖突出し老松多く山下には楊柳河の清流があり風景が良い。山上南端に三官廟がある。〔**英城子**〕海城の東南十二粁、唐代、高勾麗の安子城址と想定されてゐる。〔**析木城**〕海城の東南約二十三粁、朝鮮街道上に在る。城は元代既に廢棄し今は只山間の一部落を留むるのみで荒廢してゐる。村の附近に有名な鐵塔、銀塔、金塔の三佛塔がある。金塔は遼東七塔の一に數へられる美塔である。また析木城の東南五粁餘に二箇のドルメンがある。土人之を姑嫂石と呼んでゐる。〔**牛莊城**〕驛西二十八粁、遼河の左岸にある。今は恰んど破壞してゐる。〔**甘泉舖の東廟と西廟**〕甘泉舖は南臺驛北約四粁、もと藍泉堡と稱した村である。東端の關帝廟を東廟と稱し、西部の慈化寺を西廟と呼んでゐる。明の萬曆年間の創設に係る古刹である。また南臺驛の東十粁餘の山城子には烽火臺が殘つてゐる。

湯崗子附近　湯崗子驛に近き小丘の上に娘々廟がある。廟上からは溫泉場一帶の展望が良い。千山の西麓、上石橋子まではこゝから十六粁ばかりあり、以前は此處から馬背によつて千山登山を試みられてゐたが現在は大孤山からが便利である。

鞍山附近　〔**鞍山堡**〕千山驛の南方一粁餘、東鞍山々麓、鞍山河右岸に鞍山堡がある。もとは鞍山驛城、鞍山站とも稱してゐた。明の洪武二十年に驛を設けられ明の神宗の時城堡を建設せられた所で昔は遼陽街道上の重要な驛站として繁榮したが今は衰微してゐる。堡內に娘々廟があり西鞍山々上には烽火臺の跡が殘つてゐる。〔**千山**〕湯崗子驛、千山驛等を列車が通過するとき車窓東方に望まれる鋸山の稜線を空際に劃してゐるのが千山である。湯崗子驛の東二十粁に當り、山は外觀の複雜な割合には淺く、山谿と寺觀との諧調が甚だよくとれて眞に滿洲の名山として推奬するに足る。
　山の範圍は東西十粁、南北十三粁、南中北の三嶺が竝び南北二峽がその間に溪谷を作つてゐる。北嶺には奇峰五佛頂、南嶺には千山最高の仙人臺が聳え全山花崗岩の風化面白く且つ松柏は峰に這ひ谿を埋め春は梨花、秋は紅葉に一入の美を增す。湖は四十八溪をなしこゝ幽邃閑雅の境を占めて立つ五大禪寺と二十五院とがある。頂山には五體の石佛がある。五佛頂は卽ち之である。
　海拔約四百八十五米。龍泉寺は五大寺中の最大の伽藍で唐代の開基と傳へられてゐる。祖越寺は千山諸寺廟中最古のものと言はれるが今は本堂だけで振はない。羅漢洞の下にある大安寺の風光は千山第一に推されて居り、背後に群峰重なり亙巖老松の趣多く、南方は展けて連山を望む。仙人臺は千山の最高峰で海拔六百六米餘、頂上には五體の佛があり五佛頂は卽ちこれである。

千山へ登山するには普通鞍山と湯崗子との二地からであるが鞍山から山麓の大孤山まで電車で容易に達する。

〔**烽火臺と石圍**〕鞍山驛の南一粁半餘、

新臺子村の西端に煉瓦造の烽火臺の跡がある。また立山驛に下車、櫻桃園の山腹にある圓形と方形との石圍(ストーン・サークル)は石器時代の遺蹟である。

遼陽附近　〔遼陽〕滿洲最古の都城の一で、久しく滿洲に於ける政治の中心地であり且つ朝鮮、支那本土に通ずる舊交通系統の中樞に衝つてゐた。この地の名は戰國以後史上に現はれること多く遼陽城の研究は同時に滿洲歷史研究の大きな部分を成すものである。
〔白塔〕白塔公園は元の廣祐寺の境內を利用したもので風致ある白塔のもと閑寂な境地を成し遼陽神社が建てられて在る。白塔は廣祐寺の佛塔であるが堂宇は亡びて塔を殘してゐるのみ。廣祐寺は俗に白塔寺と呼ばれその創建は金代の初、世宗の母后によつて創建せられ後大定初年世宗によつて增大されたものと云はれる。
〔遼陽城〕城はもと東北二城に分れてゐたが北城は破壞せられて今は長い土壁を存するのみである。本城は明の洪武五年に改築されたものであるが城濠は埋もれた箇所が多い。城內の東北部丘上の觀音閣は康熙年間の創建と云はれ、俗に此處を「金銀庫」と呼び明代の金銀庫の遺址とされてゐる。
文廟街の孔子廟は明の洪武年間に創められ境內廣大で文廟中稀な古廟である。この外に明代の古刹萬壽寺、長安寺等の寺院がある。大西門外の關帝廟は俗に老爺廟と呼び元代の創建で滿洲に於ける關帝廟の建築物中最古のもので、廟前の照壁は甚だ珍しいものである。城前の喇嘛園には蓮花寺があり創建年代は不明である。〔**東京城**〕遼陽城の東北五粁餘にあり金の東京に因んだものと云はれ、また築城の年代より名附けたものか新城とも稱されてゐる。本城は清初天命六年に高宗皇帝が築いて一時都した處だが今はその跡形もなく頽れてゐる。城內西部の岡上に立つ三官廟は淸初の創建にかゝる。〔**東京陵**〕遼陽城の東北六粁五餘、陵は孤立した小丘の上に立つ。順治十一年の建設に係る「莊達汀漢把免督親王碑」の大石碑が老松の下に立つてゐる。東京陵の山は積慶山と稱し俗に墳上といふ。莊王舒爾哈齊墓が最も規模大きく、その左後方に褚英墓、右方に貝勒雅爾哈齊墓と貝勒巴拉墓、また丘の東角に穆爾哈齊墓と達爾察墓がある。南麓の千佛寺は明代の創建で二百年を經た古刹である。〔**壁畫古墳**〕太子河岸には古墳が多い。就中、大正八年發見せられた石槨は珍しい壁畫を存して學界の注意を惹いた。之は驛北、迎水寺村の北で驛から四粁餘の太子河鐵橋の東約一粁、堤防の傍の畑中に存してゐたものである。
　この古墳は後漢時代又は三國の初期を下らない漢族關係のもので一千七百年前のものと推定されてゐる。今、旅順博物館前庭に置かれてあるが壁畫は湮滅してゐる。

煙臺附近　〔**燕州城**〕(燕州城)煙臺炭坑の東南十六粁、太子河右岸の石城山々上に在り高勾麗時代に築かれた白崖城である。唐の太宗之を攻略して岩州となし渤海の時に白岩城、遼代に白岩縣、金代に石城縣とされたと傳へてゐるが城史城名に就ては學說區々としてゐる。もと一門を開いたといふが今は其の跡を認めぬ。また張臺子驛に下車、黑英臺の東に在る村落に公主の墓陵が存してゐる。

奉天附近　〔**黃寺**〕奉天小西邊門外、瀋陽公園の北にある。皇寺ともいひ本名は蓮華淨土實勝寺と稱し崇德三年建立、滿洲に於ける數多き喇嘛教寺院中、勅建喇嘛寺の總本山ともいふべきものである。〔**西塔**〕奉天城外の西方に護國寺塔といふ都城鎭護のための勅建にかゝる四座の喇嘛塔がある。西塔はその中の代表的なもので西塔大街に沿ひ延壽寺の境內に古色蒼然たる姿を聳立させてゐる。〔**奉天城**〕城廓は元初に創建されたと傳へられてゐるが淸の太祖が天聰五年に現存のものに改築せし洵に淸朝

興隆の歴史と共に忘るべからざる發祥の帝城である。而して天命十年（西紀一六二五年）太祖高皇帝が遼陽から遷都して以來順治元年北京に遷するまで十九年間の皇城で宮殿建築の一部は太祖の時に初まり、太宗の天聰六年に完成し後に乾隆帝が大增築したものである。奉天城は故宮殿を中心として方形の內城とそれを圍む不整稍圓形の邊牆とからなつてゐる。內城は甎築で城壁の長さ六粁、高さ十米六六糎、厚さ五米四五糎、八門を開いて內はこれ等に通ずる大道が井字を爲してゐる。故宮殿は奉天驛より四粁、大西門から入れば眞直ぐに進んでその前に出ることが出來る。宮殿の一般拜觀は禁止されてゐる。

邊城は周圍十六粁の土壁であつたが今は破壞されて概ねその形を失つてゐる。邊牆と內城との間も民家稠密して居り近年交通通信上の障害から大南門と小東門を除く他の六樓門竝に十字路の鐘樓、鼓樓は全く取毀されて昔日の威風はないが、城廓は尙巖かに城の固めを示し清朝の昔を語る宮殿の甍と共に今も都城の匂を高めてゐる。〔**小河沿**〕外城の東南隅にあたり大東門を出て南すれば小河沿に至る。これは舊運河の跡で本名を萬泉河といひ小瀋水とも呼ばれてゐる。橋の布置面白く蓮を植ゑてあり花時は紅白の蓮花が美しい。夏季滿人の遊園納涼地となつてゐる。舊曆七月十五日には流燈會の舊習が行はれてゐる。〔**法輪寺**〕西塔と共に護國寺塔の一である喇嘛の北塔はこの寺に聳えてゐる。天地廟には涅槃寂靜相を表現せる怪奇な男女交歡の像（天地佛）を存置してゐる。〔**北陵**〕奉天驛の北方六粁。清明第二代太宗文皇帝の陵墓で隆業山昭陵と稱す。境城の周圍約八粁、礴道の兩側に竝ぶ石獸は有名である。降恩門內の拜殿の背後には「太宗文皇帝之陵」の碑文ある明樓があり、半圓型の壁に圍まれて寢陵がある。順治元年、太宗文皇帝の靈柩を葬りなほ孝瑞文皇后をも合葬してゐる。〔**東陵**〕城內から東方約十四粁、天柱山福陵と稱へ清の太祖高皇帝を葬つたものである。渾河の右岸に臨み全丘老松を以て蔽はれた中に朱壁綠瓦が聳えてゐる。

天然風水の勝はかの昭陵及び肇祖、興祖、景祖、顯祖等の遠祖を葬つてゐる永陵よりも遙に秀で、その結構は北陵と全く酷似してゐる。

東陵へは奉吉線の東陵驛に下車するのが便であるが奉天驛前より總局經營の奉撫線バスによれば約四十分、料金片道三十錢である。

北陵及び東陵の拜觀は監督官廳の許可を要することになつてゐるが、拜觀券は奉天驛前ツーリスト・ビューロー竝に同驛前奉天觀光協會で便宜取扱つてゐる。

撫順方面 撫順線の奧、渾河の流れを遡れば興京あり、永陵あり、薩兒滸山あり明清兩民族の古戰場多く清朝の興祖奴兒哈赤の大業を偲ばしむる遺蹟に富む。〔**撫順城**〕撫順新市街の東北から渾河に架る永安橋を渡り更に北へ進めば城廓に達す。撫順驛から城內まで約四粁。撫順城の東郊に奉吉線撫順城驛がある。撫順城は古の撫西城で明の洪武二十一年に千古所を置きまた撫順關と稱してゐた。この城は高麗の鎖陽城で唐の薛仁貴に攻略せられて後、撫順城と改め高麗が受撫歸順の意を示したと言はれてゐる。萬曆四十六年、清の太祖は撫順城を攻め落し翌年薩爾滸山に於て明の攻擊軍に對して防戰大勝した。その後諸官衙を置かれ商業も殷盛であつたが宣統三年諸機關を千金寨に移轉してからは頓に寂れてしまつた。〔**高爾山**〕撫順城の北門を出れば高爾山（萬山或は連山）と稱する丘崗があり、その丘腹に觀音閣、丘上に古塔が聳えてゐる。觀音閣は康熙二十六年の創建、寺境よりの展望はよい。古塔は唐代の建立と云ふも不詳、日露戰役の際兩軍の彈雨を浴びて甚しく破損してゐる。丘の東麓に小廟朝陽寺がある。

撫順驛から城郭外を經て奉吉線撫順驛までバスが

通じてゐる。料金片道十五錢

もとの千金寨の南、千山臺に大悲寺が在りこの山嶺には烽火臺の跡がある。驛から山麓附近までバスの便がある。〔**古陶窯址**〕大官屯、松田橋外に陶窯址があり往年古陶器を採集せられた。楊柏堡河のこの臺地はまた石器時代の遺蹟である。

奉天以北連京線方面 〔**蒲河城**〕虎石臺驛東方十二粁餘に在る蒲河城は明代正統二年に築かれた土城、遼東十八城の一で清の太祖が明を征し降した城である。現在その土壁は荒れて上部は總て崩れたまゝ南西北三方に殘存してゐる。〔**懿路城址**〕新臺子驛の東六粁餘に人口六千の大きい村落があり此處に懿路城址が在る。遼代、興州の故地である。

村落の北に塔山（元主山）と呼ぶ小山があり明の正統三年に建立した高さ約五米半の石塔が立つてゐる。〔**汎河城址**〕得勝臺驛の南五粁餘鐵道線路の西に近く沿ひ今は大汎河と呼ばれる村落が城址である。明の正統四年に左中千戶所を置いたところである。また同驛の北二粁半餘に遼の新興縣の遺址がある。大安寺は得勝驛の東南約八粁、股家屯にあり明の萬曆二十二年建立の古寺である。〔**帽峰山**〕（茂風山）鐵嶺驛の東南約四粁半に在り、山の形が帽子に似てゐる爲めこの名がある。また鉢卷山とも云はれてゐる。樹木多く幽邃閑雅な山で東西して朝陽寺がある。山頂に石棚と稱するものがあるけれども之は人爲的のドルメンではなくて自然の大岩石である。この山からは石斧その他の石器が出る。また唐の太宗が高勾麗軍を擊つた古戰場とも傳へられてゐる。

鐵嶺附近 〔**鐵嶺城**〕明の洪武二十六年の築造に係り元は東西五町四六間、南北六町二六間の方形に城壁を繞らし外濠を掘り東西南北の四門を開いてゐたが城濠は埋沒してその跡なく、城壁はその磚瓦を以て多く道路、排水溝等の築造に充てたが爲めに今は殆ど元の姿を失ひ城內と城外との區分は不明となつてゐる。城內の略ぼ中央は十字街をなし鐘樓が立つてゐる。清の乾隆五十年の建立で八角形の三層樓である。

〔**圓通寺と白塔**〕城內西北隅に圓通寺あり俗に白塔寺と呼ぶ。創建年代不明の古刹であつたが明の天順年間及び萬曆年間に重修したものである。鐵嶺、開原、昌圖、撫順の各縣に散在せる道觀の總本山格である爲め道士の來宿する者が多い。寺の背後に聳えてゐる塔は八角十三層で金代の大定年間（西紀一一六一—一一八九年）の創建と看做され明の萬曆十九年に一品夫人李門宿氏を初め多くの夫人達が寄つて白塔を重修したものである。〔**看花樓**〕東門外、東門大街の萬盛德なる商戶の院內に在る。之は明の武將李成梁の故宅の樓址で今は甚しく荒廢してゐる。李成梁は明の萬曆年間、寧遠伯に封ぜられ寇賊を討つて武勳大なる名將であつた。〔**龍首山**〕鐵嶺驛から東へ一粁餘に當る龍首山は標高僅に一百米ではあるが頂上からの眺望は頗る廣濶である。往時この山麓一帶は渺茫たる湖沼を成し「鴛湖」と稱せられてゐた。この湖と美女を繞る悲戀のロマンスも口碑に殘されてゐる。景勝龍首山の名が喧傳され出したのは明朝の碩學陳循氏が滿洲へ流謫される時、特に景勝地をといふ切なる願ひから配所を鐵嶺とされたのに初まる。山頂には陳氏の寄食したといふ慈清寺がある。〔**慈清寺と佛塔**〕慈清寺は唐代の開基と傳へられる古刹である。慈清寺と竝んで龍首山上に巍然と聳えてゐる佛塔は高さ二一米、八角九層で塔身の鋒の銹が歷史を語つてゐる。民國十六年の改修によつて稍々風致を損したがその際黃金佛一體と圓形の銅鏡一面、更に塔の由來を刻んだ銅板二枚が發見されてよりこの塔が明の弘治二年（西紀一四八八年）の建立にかゝりその後萬曆十九年（西紀一五九一年）時の鎭守總兵寧遠伯李成梁氏（朝鮮役に有名な

る明軍の將、李如松の父〕が明の神宗皇帝の勅命を奉じて蒙古討征の際武運長久祈願のため重修したことが明かになつた。〔龍尾山の佛塔〕 龍尾山は龍首山の南端峰、傳說の龍首山の龍尾に當るところである。嘗て淸の聖祖が駐蹕せられたといふ言ひ傳へに依つて駐蹕山とも稱へられてゐる。この山の佛塔は南塔と呼ばれ六角九層である。〔七星屯〕鐵嶺の東方五粁、杏花、梨花の名所である。〔法庫門〕 鐵嶺の北約六十粁淸代柳條邊牆の一邊門で數十年前までは蒙古貿易に榮えたが今は衰へてゐる。〔中固城址〕中固驛の南二粁五、明の永樂五年に創設、撫順站を置き遼東十八城の一をなしてゐた。もとは城壁、城濠及び南北の二門を有してゐるが今は僅かに南部に城廓の一部を殘留するのみである。この地に老母廟があり明代の古刹で觀音を祀る。

開原附近 〔開原城〕 驛の東北約六粁に在り、南滿洲最古の都市の一つで奉天城と同時に建てられたものである。初め元の金の咸平府をそのまゝ踏襲してその治所を開原縣城に置いた。至正二年（西紀一三四二年）之を咸平縣と改稱、更に至正二十四年開元路の治所を今の農安から開元に移じてから咸平の別名を開元と呼ぶことゝなり開元が對音の關係から開原となつたものと云ふ。開原城は遼河の支流である淸河の北岸に立つて居り明の洪武二十五年土城を改めて磚城としたのである。一・六粁四方の城壁は今尙殆んど完全に殘つてゐるが門樓は存しない。北部の金線河に架る趙氏虹橋を渡れば眞武廟がある。明の正統の初年の創建にして境內に古碑多く廟內には銅製金塗りの巨大な神像がある。鐘樓の南には康熙初年に創建された關帝廟がある。城の西方に隣接して明代の土城壁が殘存してゐる。〔石塔寺と白塔〕石塔寺の寺名は金代に西塔寺と呼んだのを訛つて石塔寺と言ふやうになつた。金の正隆元年乃至大定三年の創建と云はれてゐる。白塔は寺の前に立ち八角十三層の磚造、金の大定三年の創建と傳へられ今は破損し相當荒廢してゐる。石塔寺に東隣する觀音堂は創建年代不詳の古刹である。〔威遠堡門〕 開原城の東二十粁、淸代邊墻の邊門所在地であるが明代の邊墻はこゝより遠く東北方に當る。この地は當時二十箇の墩臺を管轄してゐた。驛の西南八粁に突出した小山を成してゐるところは高臺子の烽火臺である。〔墩臺〕金溝子驛の東方、開原へ通ずる街道の中間に前三臺子の村落がある。その山上に墩臺がありこの山續きの北方にも三臺子、後三臺子の各村落と墩臺とがある。何れも土墩である。開原城防備の要所として明代邊牆の墩臺の一つと云はれる。また馬仲河驛の南六百米に淸代邊牆の一部分が遺つてゐる。馬仲河驛の南四粁に在る馬千總臺邊門は威遠堡門、法庫門等と共に淸代の邊牆に開かれた邊門の一つである。また馬仲河驛の南方三粁の大營盤城址は高麗城址と傳へられるが今は荒廢し耕地となつてゐる。

昌圖附近 〔昌圖城〕 驛の西方十粁（乘合バスにて約三十分）昌圖城は明代に遼海衞を置いたところであるが明、淸興亡の間、蒙古博王旗の領となり今から百年前嘉慶年間に墾田を始め漢人の集住するもの次第に增加して今日の發展を見るに至つた。漢人殖民の初この地に楡の木が多かつた爲め楡樹城とも古楡樹とも呼ばれてゐた。城外東南に文廟がある。驛の西北の鉢卷山には明代邊牆上の墩臺の跡がある。〔邊牆〕昌圖、滿井、泉頭の間には滿鐵線路近くに明代の邊牆と淸代の邊牆とが竝び遺つてゐる。昌圖では滿鐵舊附屬地の南方に淸代の長柵の跡が土手を成して殘つて居り、驛東數百米の淸陽堡はこの附近の明代邊牆の十三臺の墩臺を管轄した地である。昌圖城の西南六粁に〔跑馬城址〕があり今は荒廢して畑地となつてゐるが、往年こゝは蒙古人の競馬場のあつた所といふ。〔天橋山〕 驛の東四

粁餘、この山頂より開原、泉頭一帶を指呼することが出來、山容は奇巖重疊、急坂にして眺望絕佳遊山の好適地である。

泉頭附近 〔邊牆〕 山海關を基點として奉天、泉頭を經て遠く黑龍江省に走つてゐる邊牆は今から二百七、八十年前の明時代に蒙古と滿洲の境界として掘鑿されたものである。泉頭驛の西北方一粁餘に當る小高い山にその跡がある。〔墩臺〕 滿井から泉頭に亙つて五支里（三・三粁餘）每に墩、十支里（六・六粁餘）每に臺がある。墩と臺との導路として老壕がある。墩臺は今から千二百年前、即ち唐時代に外敵襲來の際之に烽火を揚げて合圖としたと言はれてゐる。驛の東方四粁の地點に大墩臺があり、同墩臺には日露の役に露軍が利用して穿つた塹壕の跡が殘つてゐる。

四平街附近 〔半拉山門〕 虻牛哨驛の東北十二粁にある淸代邊牆上の一邊門にして、この地は山水の眺めが美しい。〔買賣街〕楊木林驛の西十二粁、通稱を梨樹といひ梨樹縣の縣公署所在地、舊名は奉化である。市街は土牆を繞らし井字形を成してゐる。この北方六粁に古昭蘇城といふ金の古城がある。偏險城とも呼ばれてゐる。

〔三面城址〕 郭家店驛の西南に當り、東西に走る臺地の盡きる端に三面城址がある。今は荒廢して土壁の跡を僅に殘し古瓦の破片が散亂してゐる。

公主嶺附近 〔公主陵〕 驛の北方五粁餘、東西に走る丘陵の南面に古廟があり、その背後に二基の墳墓がある。二百年前、淸の太宗の公主（皇女）が蒙古達爾罕王家に降嫁し帝都から來る途中病を得てこの地に薨じた爲め此處に祀つたと傳へてゐるが、信ずべき說としては嘉慶皇帝の姪綳爀公主の墓で道光年間の造營と言はれてゐる。

新京附近 〔長春〕 百三十餘年前、淸の嘉慶七年蒙古郭爾羅斯前旗に屬する放牧地で漢人の開墾によつて初めて現在の新京の北方六粁半餘に「長春堡」が出來、淸國道光五年、現城內に長春廳が置かれたのに始まり爾來滿洲國の創建まで長春の名を傳承した。〔長春城〕 今から六十數年前、同治四年に匪賊防備の爲め市民の醵金により周圍十粁の不規則な長方形の城廓を築いたものであるが現在城壁の大部分は破壞してゐる。〔石碑嶺〕 驛の東方十二粁、こゝには八百年前から在るといふ金の創業の功臣完顏婁室の古墳があり今は碑文の龜趺が三箇遺つてゐる。

北滿方面 〔雙城堡〕 南に遼陽北に雙城堡と往時から殷盛を唱へられたところ、市內には結構雄大にして雅趣に富む關帝廟があり、また公園の一角の魁星樓は一名を北門と呼び、華麗壯大な樓閣である。この地に韓光弟將軍の墓がある。

安奉線

陳相屯附近 〔塔山〕 陳相屯驛の東北沙河の流れを距て舊名龍虎山の山麓に安寧寺がありその佛塔が山上に立つてゐる。寺の碑記によれば唐代の建設とされてゐるがこの種小塔の比較研究に從へば金時代の建造とも推定されてゐる。〔奉集堡〕 陳相屯驛の東四粁、漢魏以來の古縣に屬するところ、城壁の煉瓦は取去つて土城となつてゐる。淸の太祖が明の守將李秉誠を破つた古戰場である。

石橋子附近 〔响山子の王墳〕 石橋子驛を出て暫し行けば車窓左手に老松の林で圍んだ墳墓が見える。淸の太祖が帝業を興した際に軍功のあつた安平貝勒杜度の墳塋で碑は雍正元年の勅建に係る。

本溪湖附近 〔龍洞〕 滿洲街道を西に行けば本溪湖の街の盡きるところ左手の山腹に鐘乳洞が四、五見える。更に進めばそれと相對する山の麓に龍洞と呼ばれる石灰岩の洞窟がある。〔穎親王の墳墓〕 太子河を渡れば河岸小丘上に和碩穎親王の墓がある。碑は康熙十一年の勅建に係る。この墳

墓は初め遼陽城附近にあつたのを水害の爲此處へ卜葬したものである。

宮ノ原附近　〔**平頂山**〕驛の東五粁、海拔三百八十二米、硅岩から成る山で山頂には二つの池があり昔は奇魚が多數棲んでゐたが今は僅少となつてゐる。山腹に李武寺がある。驛の西方約四粁にある雙泉寺は古い禪林で、寺境幽靜閑雅である。

橋頭附近　〔**朝陽寺**〕驛の南約一粁にあり山名を仁山と呼ぶ。白雲臺の斷崖の直下にある禪林で約百年前の建立と傳へられてゐる。日露戰役の際閑院宮殿下御駐泊の由緒を有す。〔**釣魚臺と細河の溪谷**〕釣魚臺は橋頭驛南六粁、只一つ獨立した岩石の臺を成したところ臺上に普濟寺が立ち、細河の水の碧潭に臨み風景絶佳である。〔**南坟**〕南坟はもと南墳と書いた。南坟驛西二粁餘、細河の對岸に清朝創業の功臣甘肅巡撫豐惠山の墳塋があり、この地に祭田があるによつてこの地名を生じたものである。その墓碣は康熙二十六年の建立である。

連山關附近　〔**舊連山關と諸驛**〕驛の東南約一粁、山險を擁したところは古來朝鮮から支那に通ずる街道の最要衝地點で明時代には關門を設け遼陽に向ふ朝鮮入貢使が停つた所である。當時こゝは華夷の分界點とされ一名鴉鶻關又は東關とも言つてゐた。清朝に及んでは關を廢し驛站を置いた。〔**石家沿の觀音堂**〕連山關から摩天嶺河に沿ひ摩天嶺への街道を行けば西一粁に在る。

摩天嶺は五峰嶺とも呼ぶ、嶺下に五峰觀と呼ぶ古い關帝廟がある。嶺上の蟠龍寺には關帝と娘々とを祀つてある。

通遠堡附近　〔**舊通遠堡**〕驛の北二粁半、明代に山寨を築き前後衞として戌兵を置いたところ、今は城壁を破壞して部内は田園となつて居り雙泉寺がある。北方の煙臺山と南方の龍鳳山とには往昔狼火臺を築いてゐたと傳へらる。

秋木莊鷄冠山附近　〔**雪裡站城**〕秋木莊驛の東南、鷄冠山驛の東北十粁の地點にあたる。明代からの驛站であるが甎築の内城の西北部分と土壁の外城の西南部分とが殘存してゐる。

鳳凰城附近　〔**鳳凰城**〕驛の東北方一粁、城壁は明の成化十七年始めて築造し、後に清の康熙二年重修して現存のものとなつた。大きな檜の老爺廟や古木のある上帝廟が一きは古めかしい氣分を釀してゐる。町の東端に近い文廟は清の光緒年間の建築である。〔**鳳凰山**〕驛の南に聳え鑛道線路に沿つて行けば二粁で登山口に着く。山の高さは九百三十米、一帶の奇巖怪石は悉く花崗岩から成り景勝絶佳である。山中には寺觀が多く總ての寺觀を巡るには半日以上を要する。鳳凰山の特長は大和尙山や千山などに比し女子供の登山にも容易なこと、山中淙々たる清流の絶えぬこと、殊に秋紅葉の美しいことである。〔**メンヒル**〕鳳凰城の西南三十二粁、石柱子にある。花崗岩で高さ八尺五寸、中央部分の幅一尺七寸、厚さ八寸の單立石（メンヒル）であつて、巨石文化の遺物で非常に珍しいものである。

高麗門附近　清初に朝鮮に對する防備として築かれた長柵がこゝを過ぎてゐる。此地はその邊門の一で高麗門又は鳳邊門と呼び釣魚臺なる地名も存してゐた。現在の市街はその所在地であつたと謂はれる。〔**高麗城址**〕驛西北二粁餘、大石城であつたが城壁の一部分と礎石を遺し城門の跡を僅かに留む。高勾麗時代の築城で史上に著はれてゐる烏骨城址である。〔**青峰山**〕驛北二粁餘、鳳凰連山の一部で山頂奇巖突兀とし風致に富んでゐる。また驛の北三粁足らずの山麓附近に一面山の土城址がある。〔**湯山城**〕湯山城驛の附近、古は湯站と呼ばれ遼陽に通ずる朝鮮街道の驛站の一つで城址は村外れ滿洲小學校の裏手にある。九連城、鳳凰城の中間の城で朝鮮國境九城の一と謂はれる土城である。〔**石碑嶺**〕は

湯山城驛の西南八粁、多勢の石塚がある。

安東附近　〔**九連城**〕蛤蟆塘驛の東方十六粁、安東から鴨綠江上流十三粁。もと九連城を連ねてゐたといふが殆ど遺蹟なく僅に一小土城の跡があるのみ。漢代から三國時代にかけての安平口も、唐代に築かれた泊汋城（博索城）もこの九連城に當ると見做されてゐる。安東から行くよりも蛤蟆塘驛からの方が道がよく便利である。〔**鎭江山**〕安東新市街の背後にあり山は公園となつてゐる。眺望雄大、櫻の名所として喧傳されてゐるが四季を通じて遊覽客が多い。〔**元寶山**〕安東市街東北の背後に聳ゆ、邦人間には安東富士と呼ばれ日露役の古戰場にして山の前面は公園となつて居り眺望佳良園内には由緒深い天后宮がある。

京　圖　線

東新京附近　〔**清眞寺**〕商埠地にあり、清の道光二十二年の建造に係り俗に回回塔と呼び結構雄大である。〔**大城子**〕東新京の北約十粁、往昔高麗の駐兵した處と謂ふ。周圍約二粁の土墻を繞らしてゐる。

卡倫附近　〔**卡倫**〕市街の南に在る。清の康熙年間に鎭臺を設け要關となつてゐた。卡倫は滿洲語を漢字に當てたもので邊臺を意味する。**興眞寺**は清の嘉慶年間の建立である。驛の南約二粁に在り三粁の土城は〔**小城子**〕といつて高麗の屯兵した處と謂はる。

〔**飮馬河附近**〕この地は曾て驛馬河と稱してゐたが清の高宗東巡の折、馬に水飼ふた故事によつて飮馬河と改稱したと傳へらる。飮馬河驛の東南八粁に前清の旗人郭臺嶺催の墓前に巨人阮翁仲の石像及び牛羊等の石像がある。

〔**下九臺附近**〕この地は往時晒爾哈臺と稱し附近に柳條邊墻の跡がある。驛の東二粁半餘に清の聖祖が東巡の際駐蹕せる裕泉寺がある。また營城子驛の南方に鎭臺のあつた土城址がある。

土們嶺附近　附近一帶は風光明媚で驛の東北四粁の瑪瑙山嶺には石廟數箇あるが年代不詳。〔**烏拉城跡**〕孤店子の附近松花江の東岸にある。吉林烏拉（現在の吉林）に對して打性烏拉と呼び遼金時代は地方文化の一中心をなしてゐた。約十粁の土城が繞つてゐるが大半は壞れてゐる。烏拉城の北方點將臺の上に三脊殿が建つてゐる九益驛の南方十二粁にある〔**行營跡**〕は清の高宗東巡の際駐蹕したところである。市街の東方八粁、三道嶺麓に德將軍の墓がある。

吉林附近　〔**吉林**〕遠く二千年の昔鷄林と呼ばれ高勾麗の築城した所、次いで渤海國が興り吉林烏拉（滿洲語で大江に沿ふ意）と改めらる。日本よりの入唐者が千二百年の昔この地を踏んだ史實が殘つてゐる。

明末、長白山麓に發祥した一世の英傑、愛新覺羅（清朝の太祖、即ち現滿洲國皇帝の祖）が率ゐた所謂滿洲八旗の子孫は今に旗人と呼ばれこの地に住んでゐる。明代に征東水軍が駐屯し清の順治年間造船所を設けてより船廠と呼び寧古塔將軍がこの地に移駐して吉林と改稱した。〔**北山**〕吉林驛より西方約五粁、山の中腹より輪奐の美を極めた關帝廟、藥王廟、坎離宮、玉皇閣の四廟が蒼々たる橡樹の間に隱見してゐる。每年舊曆四月の大祭には山中の諸廟は一齊に開張し全山賑はふ。吉林東萊門外の天壇胡同に〔文廟〕があり、北大街に回々敎の〔**清眞寺**〕がある。〔**靈仙府**〕巴虎門外西北約五百米、望靈山麓にあり堂宇樓門の軒には無數の怪奇な獸頭の戲れる彫物があり數ある吉林の廟宇中に異彩を放つてゐる。〔**玄帝觀**〕・北極門外天嶺（砲臺山）頂上の廟宇が悉く黑色を以て彩られてゐる。〔**萬壽宮**〕西門外に見える黃金色の甍が萬壽宮で、清の乾隆三年の創建と傳へられる。清朝名筆家鐵保の碑石を保存してゐた

が大正十二年、北山に移された。〔圓山子〕吉林驛を出て松花江の鐵橋を渡つて右側に見える山で高麗城址と傳へらる。今も石器、土器等の古物が發掘されてゐる。〔小白山〕吉林省城の西南四粁餘、清の雍正十一年山上に正殿、祭器樓、碑樓等を建立長白望祭殿と呼び毎年春秋吉林將軍は清朝發祥の聖地長白山を望祭したと傳へらる。今は山頂の廟宇は頽廢し正殿のみ殘つてゐる。また吉林の東八粁の江沿に阿什哈達の小部落が在る。明將が女眞征伐の砌兵站を設けたところと傳へられる。〔龍潭山〕龍潭山驛より數百米で山麓に至る。山は一名尼什哈山（小魚の謂）といひ海拔四百六十米、山頂には乾隆年間に雨乞ひしたと傳へられる龍鳳寺がある。寺の西北に龍潭と呼ぶ底知れぬ池があり一名水牢とも稱せらる。この邊り景勝に富む。建立年代不詳。〔天崗〕驛より二粁に關帝廟がある。天橋崗の崗上からの眺望は西は老爺嶺、東は江密峰の間を一目に收め絶佳である。

敦化附近 〔敖東城〕 敖東城は唐代の舊址で敦化の舊名である。今は全く荒廢して牡丹江の左岸に僅かにその名殘を留めてゐる。東北約一粁のところ延吉街道の北側に渤海時代からの古城址があり、阿古敦城と云ひ二重の土塀を圍らしたものである。

〔銅佛寺〕 町の名を銅佛寺と呼ぶ古刹より出たものである。市街の北方、兵臺地に城址がある。

北鮮線

〔鐘城〕 太古肅愼時代より諸民族の興亡去來の地として知られ受降樓の舊跡がある。〔白泉寺〕金生驛より半粁、山上よりの眺望が佳い。〔會寧〕古來北邊六鎭の一に數へられ、文祿の役、加藤清正は長驅この地まで軍を進めたのであつた。また清朝發祥の地はこゝであるとも傳へられてゐる。〔輸城〕往時より要害の地にして加藤清正の古戰場や石城跡があり史蹟に富む。また〔穩城〕は高勾麗、女眞時代から國防の要鎭であつた。〔承良〕驛の東南二粁に松林叢生し山上からの眺望佳良、これを龍堂と呼び李太祖時代に馬術、弓術の練習をしたところと謂はれてゐる。

圖佳線

〔東京城〕 東京城驛から四粁に東京城址がある。千二百年前滿洲族（古代靺鞨族）の作つた渤海王國の上京のあつたところで現在市街の周邊四粁四方に亙つて當時の土壁が殘され、街の西方に當時の宮殿跡や或ひは清時代に建立された南大廟中には渤海時代の燈籠、梵鐘が保存され當時の文化を偲ばせる。

〔鏡泊湖〕 東滿の神秘境たる鏡泊湖は東京城の西南方に當り周圍百十八粁、千古の大自然林に圍繞せられた幽邃境である。この湖には魚族が頗る豐富である。湖の水が牡丹江に流出する口に吊水樓瀑布が懸り甚だ壯觀を呈し、これに四季適、張家水鄕、鏡泊ライン、白崖島、眞珠門、大頂子、高麗城址と湖畔の七景を加へて鏡泊八景が設定されて居る。現在滿洲國產業部が直營で發電所工事中である。〔寧安〕別名を寧古塔と稱し東京城と同樣に渤海國以來の古都で市街は内外二重の城壁に圍まれて居る。

市街西方は牡丹江に臨み寧安公園及び殉國の勇士を祀る小島ヶ崗があり、その西端に康熙三年建立の西閣觀音寺があり、昔寧古塔の街を水難より免れしめたと言ふ傳說がある。この對岸依田大橋を渡つた鐵道線路の西に建國大學稻葉博士が最近發見された清の黑龍江將軍傳察薩布素氏の碑がある。

奉吉線

〔元帥林〕 高麗營子と呼んでゐたが張作霖がこの地を自分の墓地に遺言してから元帥林と改稱したものである。張學良は昭和四年陵墓建設に着手したが滿洲事變によつて中絶した。陵は驛の南方約一粁、水龍臥と稱する丘の上にあり、今は廢墟となつてゐるが前に渾河の清流を隔てゝ鐵龍山が聳え立ち景勝の地である。

〔鐵龍山、薩爾滸山〕 渾河を隔てゝ元帥林と相對する鐵龍山と營盤驛の東方にある薩爾滸山は兩山とも明、清の興亡を賭しての大激戰サルホの戰蹟地である。この戰に於て清の太祖努爾哈赤は明將杜松の率ゐる大軍を擊破し清朝確立の第一歩をこゝに樹立した。山上に城址がある。〔碑樓子〕營盤驛を距たる東南一粁に碑樓がある。清の太祖が明軍擊破を記念すべく建てたものである。

平梅・梅輯線

西安附近 〔龍首山と維摩羅詰公園〕 龍首山は西安の市街の東南隅にあり附近一帶の眺望が佳い。この山の西側の公園内には佛殿、涼亭、魁星樓等があり絶好の行樂地である。〔葉赫東城〕龍首山に在り内外二城に分れ周圍約二粁半、明末の葉赫部の居城と傳へられてゐる。今は城址と四つの門を遺してゐるのみである。〔柳河縣城〕柳河驛の西南四粁、西門外の柳河橋附近の風景は佳良である。東門外には娘々廟がある。

濱洲線

哈爾濱 〔極樂寺〕 極樂寺は新市街と傅家甸との中間にあり市内唯一の支那寺院（西曆一九二二年創建）でこの南方數百米に文廟がある。〔露西亞寺院〕哈爾濱の市街美に大きな役割を果してゐるものゝ一つは露西亞寺院の大伽藍である。今尚帝政露西亞の夢を漂はせその名殘を留めてゐる。

〔興安嶺〕 濱洲線中の景勝地帶興安嶺の中でも扎蘭屯—興安間は最佳境である。夏季は山も草原も綠の絨毯となり、其間を草花で彩られる。白樺の疎生せる丘陵性の興安の山々の異色ある風景は何人をも魅せずには措かない。〔海拉爾〕由來バルガ或は呼倫貝爾蒙古の中心地として有名な所、市内には關帝廟孔子廟がある。〔甘珠兒廟〕

海拉爾南方（片道自動車で一日、馬車で三日行程）にあり興安北省に於ける最大の喇嘛廟である。乾隆四十九年清の高宗帝の聖旨により壽寧寺の名を賜り、後に西藏から甘珠兒經典を招來してより甘珠兒廟と俗稱してゐる。例祭は舊曆八月六日より十五日まで廟祭は廟市と共に名高い。

濱北・北黑・齊北線

〔呼蘭〕 北滿屈指の歷史を誇る古都で金時代に始まり經濟文化の中心を持續してゐたが哈爾濱の發展と共に漸次勢力を奪はれた。町の西方に西崗公園があり石人城の傳說で有名な石人はこの園内に祀られてゐる。

〔石公祠〕 風光明媚な呼蘭河沿岸の小高い丘にあり、鎭守使石中將の德を慕ふ市民の建設になる祠で環境雅致に富む。〔關帝廟〕呼蘭市内にあり前清時代の建設にかゝり堂宇の結構善美は全滿有數のもので當時の建築美術の粹を集めてゐる。市内にはその他娘々廟、天主堂、清眞寺などがある。

〔綏化〕 呼蘭と共に北滿の古都で寺院が多い。娘々廟は綏化の名所を代表するもので外に祖師堂も有名である。〔海倫〕馬占山が假政府を立て蟠居してゐた所として知られ市内には娘々廟、祖師堂、聖朝廟がある。〔瑷琿〕露西亞の滿洲侵略史の第一頁を飾る彼の瑷琿條約で有名な所である。我國にとつては日清協約に依り商埠地として開放された緣りの土地である。

〔齊齊哈爾〕 清朝が露西亞の勢力の東侵に備へて建設した都市で二百數十年の歷史を有す。驛の西方四粁に龍沙公園（一名、

倉西公園）があり嫩江を隔てゝ北滿の大曠野を望む景觀は極めて壯大である。

平齊・京白・白阿線

〔洮南〕 洮南はもと少鷄街毛頭（サチガイモト）と呼ばれてゐた。サチガイモトは楡の木の意で荒寥たる原野に一本の楡の大樹が茂り立ち、こゝに疲れを息める旅人の數が增して日を定めて市が立ち何時となく部落を成してその名を大樹に因んでサチガイモトと呼ばれるやうになつたとの口碑を傳へてゐるが、傳說の楡の木は齡盡きて枯木となり北門內の民家の屋根に巨龍のやうな姿を覗かせてゐる。〔雙塔子〕 雙塔子は洮南の東北二十粁。高さ六米餘の異樣な一對の喇嘛塔で附近の楡の木の茂みと共に賞すべき野趣がある。〔鄭家屯〕 鄭家屯驛の西方五粁に鄂博山がある。一望千里の曠野中にある高さ二十三、四米の小丘で山頂に蒙古王領の達爾罕旗と博王旗との境界の標識を爲す鄂博がある爲めにこの名がある。鄂博とは蒙古人の尊崇する神を祀りまた境界線を示す役目を勤めるもので石や木を積み重ねた極めて原始的な祭壇である。

〔扶餘縣城〕 前郭旗驛の北方、第二松花江を隔てゝ六粁の地にある。扶餘はまた伯都納と謂ひ上古の肅愼（扶餘族）の地である。明の時代に至り蒙古族の侵略を受けて之に占據せられた。而して金の太祖が寡兵を以て遼の大軍を擊破しこの地に於て國礎を固めたことは史上有名である。また長春嶺の東南、石碑崴子に在る得勝陀は七百餘年前、金の世宗が遼の誓師處を伐つた時に建立した記念碑である。扶餘縣城南門外に在る老爺廟は高麗時代の建築でこの外太陽廟は堂宇の華麗を以て名高い。また回敎の淸眞寺もある。

〔阿拉街廟〕 京白線王府驛の東方六粁にあり、蒙古郭爾羅斯前旗王の家廟で本名を崇化禪寧寺と稱し喇嘛敎の寺院で堂宇極めて壯麗で廟祭には市も立ち殷盛を極む。

〔農安〕 農安縣、扶餘縣一帶は滿洲最古（紀元前三世紀）を誇る所謂扶餘文化の發祥地である。城の內外には古代の陶磁器及び煉瓦、屋根瓦等の破片が多い。

〔龍安塔〕 農安縣城西門外。八角、十三層高さ約七十八米の塔で遼代の建設と謂ふ。

〔葛根廟〕 白阿線葛根廟驛の北方三粁、景勝の地にあり明代の創建と傳へらる。蒙古札薩克圖旗王家の菩提寺で規模の雄大、堂宇の壯麗は大鄭線通遼驛西方の茂林廟と併稱されてゐる。喇嘛廟で僧侶約一千名を有する。

〔王爺廟〕 王爺廟驛の附近にある喇嘛の王爺廟は今は荒廢して見る影もない。王爺廟驛の西北四十粁、蘇鄂公府に滿洲建國の人柱となつた中村少佐、井杉曹長の靈を弔ふ記念碑が建てられてゐる。

〔阿爾山〕 白阿線の終點、阿爾山は大興安嶺を東から西に越えた斜面の高地にあり幾多の神秘と傳說に彩られた蒙古の聖地でまた溫泉鄕である。

大鄭・新義線

〔茂林廟〕 通遼驛から三十粁西方にある茂林は莫林とも書く。喇嘛敎の古刹で乾隆三十一年の開基、堂宇は總て西藏式でその壯麗は內蒙古隨一の稱がある。

〔阜新〕 阜新縣城の西二十粁に當る王府には蒙古王族の邸宅や、喇嘛廟等があつて蒙古色豐かである。城西三十五粁には喇嘛僧二千を有する瑞應寺、城南十五粁には紅葉の名所吉慶寺等が散在してゐる。

義縣附近 〔義縣城〕 驛から三粁、大凌河に面し遼西に於ける有數の古城で約五百年前に改造されたものである、〔大佛寺〕 本名は奉國寺義縣城內東街にある。本堂大雄殿は遼の開泰九年（今から九百餘年前）

の建立で佛寺としては滿洲最古の木造建築物として國寶的價値を有するものである。

〔嘉福寺〕 佳福寺とも云ふ。城內西南隅に在り境內には俗に義縣の白塔と謂はれてゐる磚塔がある。前記の大佛寺と共に遼の開泰九年の建造で高さ六米餘、遠く數里の地から望見される。〔萬佛洞〕 縣城北門外西北約十粁の山中にあり大凌河はその下を環流してゐる。北魏の太和二十三年（今から約千四百三十年前）に建造されたもので京包線大同の石佛と同時代のものである。

洞內の佛殿には大小の佛像數百體を安置し頗る偉觀を呈してゐる。

錦古線

朝陽 朝陽驛の南方約三粁、大凌河谷に位し景勝要害の地である。遠くは燕がこゝに城を築き五胡、十六國時代の古都であつた。〔三座塔〕 朝陽城內に在り遼金時代に建てられた三基の塔の中の二基は現存してゐて契丹文化約千年の歷史を傳へてゐる。

驛西十數粁の山上には由緒なほ不明の古塔が一基ある〔佑順寺〕 朝陽城內の中央部に廣大な境內を占めてゐる。淸の乾隆帝の欽定にかゝり廟內には二百餘の喇嘛僧が住んでゐる。〔鳳凰山〕 朝陽の東南十三粁餘、太凌河の彼岸に巍峨として聳ゆ。山頂に一塔あり諸峰之を拘くが如き景觀を呈し山中の朝陽洞には臥佛像がある。朝陽の西方山に三塔のあるのを三塔山といふ。

凌源 二百年前蒙古人によつて建設された市街である。市內には宏壯なる寺廟がある。〔長壽山〕 凌源の東北二百四十粁山上に元の雲峰眞人康太眞の墓碑があり山麓には玉觀の舊址がある。〔魚の化石〕 凌源の北十二粁の所は附近一帶に侏羅紀（百萬年前）の化石層が露出してゐる。

〔瑙瓈山〕 平泉驛の東方二十粁。山腹の洞に泰山神を祀る。二泉あり一は高巖より一は山麓より湧出で山下を遶つてゐる。

承德 熱河地方は古く慕容氏燕國の勃興以來遼金の根據地となり元時代には大寧路に屬してゐた。淸朝康熙帝の塞外巡幸によつて隙地の墾耕を諭し農民を招致し木蘭圍場の卷狩に從ふ者も此處に集り行宮以外に諸種の商鋪軒を列ね塞外第一繁華街を現出した。淸朝の雍正元年こゝに初めて熱河廳を設け直隸蒙古八旗を統轄せしめ赤峰朝陽方面より北京に通ずる要衝となつた。

〔避暑山莊〕 所謂熱河離宮であつて淸の康熙帝が塞外巡狩の際この地の環境及び景勝の非凡なると、塞外經綸上好箇の地點たるに鑑みて康熙四十二年に工を起し次の乾隆帝がその末年に完成したものである。

淸朝の中期以後、營繕行屆かず逐年朽破しその後心なき軍兵の蹂躪するところとなり急激に荒廢して誇りし輪奐は全く見る影もなき姿となつたのである。併しその規模の廣大と結構の美は往昔の盛觀を想ひ起すに難くない。山莊の周圍は十粁餘、東亞稀觀の舊蹟である。〔喇嘛廟〕 避暑山莊外、武烈河を隔てゝ獅子溝竝に棒錘峰下の山丘に建造された喇嘛廟及び寺園を八大寺と謂ひ八大處とも稱へてゐる。孰れもその規模宏大華麗を極めたものであるが今は山莊と共に極度に荒廢してゐる。その背後の丘阜に倚つて建つ寺廟中、普寧寺、須彌福壽廟、普陀乘廟等は結構壯麗にして偉觀を呈し棒錘峰下の伊犁廟と共に熱河に於ける代表的な建造物として誇つてゐるのみでなく、東洋美術の豪華版としてその極致を示してゐる。山莊竝に八大寺その他の伽藍は最近滿洲國の保護建造物となり後原修築することゝなり既に着手されてゐる。

詳細に視察するには一週間以上を要するが大觀するには一日でもいゝ。案內料は一名に付き離宮三十錢喇嘛廟三十錢（學生團體十錢、普通團體十五錢）、寺廟拜觀料五十錢、喇嘛廟巡拜乘物（駱駝）四人乘一圓五十錢（羅漢山裏、棒錘山麓一周）

その他承德附近には文廟、關岳廟、城隍廟、淸眞寺、酒仙廟、五火神廟、五指山、僧冠峰等の名勝舊蹟が散在してゐる。

〔灤河下り〕承德から河北灤州まで三百三十餘粁、風景の最も勝れてゐるのは下板城から國境の喜峰口を過ぎ撒河橋までの間である。常水時下航四日、一艘五、六人乘り貸切三十圓前後。〔雙塔山〕雙頭山驛の南方に大小二峰聳立すること百餘丈、その一峰は中間に三孔あり東塔の巓に古廟があるが何人の建立か不詳。〔豐寧〕承德の西北百粁、遼金時代の土城址にして灤河の支流興州河の上流谿谷中にある。〔隆化〕承德の北方五十五粁、この地は康熙帝の長姑淑慧公主が巴林王に降嫁されたとき化粧料として下賜されたところ。康熙四十二、こゝに行宮が建設せられた。〔圍場〕承德の北方百三十五粁、もと木蘭圍場と稱し清の皇室の御獵地である。〔全寧〕烏丹城、赤峰の西北八十粁、元代に於ては魯王の封地で全寧路の首府であり蒙古名を波羅河屯といふ。波羅は青黑の意で烏丹城の名は之より出づ。城內の老爺廟は乾隆十二年に建てられたもの古城址は烏丹城の西方にある。

〔大板上〕林西の東八十粁にある大巴林旗のことである。約二百年前成吉思汗の後裔が入り代々盟長を勤めてゐる。こゝの喇嘛廟は內蒙古西部地方を代表するもので舊曆七月一日から一箇月間に亙つて行はれる廟祭と同時に廟市を開き特種の殷盛を極めてゐる。

〔寧城〕赤峰南方八十二粁、遼代中京の跡で南方に大明城址があるが今は全く廢れて殆ど見る影もない。たゞ當時の盛榮を物語る三基の白塔が畔中に寂しく屹立してゐる。〔建平〕朝陽西北九十二粁、清の光緒三十一年縣を置き宣統三年土壁を築いた。

奉山線

〔塔灣〕皇姑屯驛の西北三粁餘の丘陵の上に八角十三層の古塔がある。遼時代の建立と傳へらる。〔巨流河〕驛の北四粁に巨流河城がある。清朝初年の築造で古くは唐、高勾麗時代の古戰場として知られ、清の康熙雍正年間相繼いでこの地を擴築して漸く坦路となつたと傳へらる。〔王誥石〕高山子驛から十二粁の所にあり清入關の時功臣王誥がこゝに殉節したと傳へらる。〔閭山〕醫巫閭山は奉山線四大名勝の一つである。

溝帮子驛より二十八粁北鎭縣城の西にあたり蜿蜒と連なる秀峰は滿洲隨一の稱ある仙境閭山である。山中に四大古廟、四十有餘の寺觀が點在し、この山一帶は聖域として古く舜の頃から知られ遼朝以來樹木の伐採を禁止してゐたので老樹繁茂してゐる。遼の帝王の陵墓もあり東麓の北鎭廟は閭山の山神を祀つてあつて閭山總寺廟中の中心を爲すものである。〔石山站〕驛の北八粁、北大山の山頂に古刹がある。明代の建築と傳へられ四圍の風景絕佳である。〔太凌河〕太凌河の東方にある。この地一帶は明代に北防第一線としての要地であつたが明末清の太祖努爾哈赤に攻め陷された所である。〔雙羊店〕雙羊店驛の北二粁に錦州八景の一なる紫金山がある。

〔錦州城〕錦縣驛から南約一粁半、古く唐代から知られ弘治十一年に時の參將胡忠併が舊城壁に修築を加へたものである。

〔廣濟寺〕錦州城內の中央に在り大佛寺とも言ふ。寺前の寶塔は高さ百十八米、八角十三層、千二百年前遼の道宗年間の建立で滿洲に於ける大塔の雄である。〔古塔寺〕

廣濟寺の大塔に對する小塔にして城內西南隅にある。また錦州城の北、二郎山に望海觀がある。〔觀音洞〕錦州城北十粁の山中に二洞があり、中間に觀音閣が建ち傍に龍湫と呼ぶ泉がある。松樹の點在に風致を添へてゐる。〔小洞寺山〕小洞寺山城北十三粁餘にある仙境で自然石の門內に洞がある。東洞に石佛、西洞に石榻があり清の同治年間高士が登仙した地といふ。なほ乳峰山、十三山、小洞子山、白雲山、牛心山等の名所がある。また錦縣を中心とした附近の名勝には錦州八景があるが多くは交通不

便の地に在り探勝は容易でない。〔陳家屯〕驛の西北十粁の山上に臥佛寺があり驛の西四十粁には普陀寺がある。

浙江の普陀山に彷彿した景觀を呈してゐる。〔西海口〕高橋驛の東南十粁の海岸。古人の神秘境としてゐるところで每年舊曆五月五日前後には多數の蒙古人が水浴に來て賑はふ。附近に筆架山の名勝がある。

〔虹螺山〕高橋驛の西北十六粁餘に當る小虹螺山には龍泉寺、望海寺、朝陽宮や虹螺女の梳粧樓などがある。更に十粁に大虹螺山がある。金の時代こゝに虹螺寨を置き明代には築城して邊防に備へたと傳へらる。錦西驛附近の連山明代に關所を設けて朝鮮より入貢の道としたところである。また壺蘆島線の終點附近一帶の海は風光明媚である。

興　城　地名を寧遠とも稱し古來地勢上要害の地として知られ、明代には廣寧の衞地となり明の宣德の頃に寧遠衞城を築かれた。明末の英傑袁崇煥が滿洲王努爾哈赤の大軍を阻止し一時明朝の滅亡を支へたのはこゝである。今の城廓は驛の南六百米、近世の築造であるが錦州に次ぐ立派なものである。〔祖氏石坊〕興城南門に高さ約十一米の石造の牌樓が二基ある。その彫刻は頗る精巧、明の英傑祖太壽の一族が建立したと傳へられてゐる。〔首山〕興城驛の東四粁半餘、遠く望めば三峰並峙して人首の如しといふ所からその名がある。秦將軍李信がこゝに屯兵したと謂はれ中峰の頂上に墩臺がある。山中に古刹朝陽寺があり南に近く渤海の青波を控へ山上からの眺望は廣濶絕佳。〔興城溫泉〕驛の東南四粁、古來靈泉の名高く唐の太宗遠征の砌、傷病將卒はこゝに療養し清の乾隆帝は東巡の折に湯治した史實がある。〔菊花島〕興城の南二十粁の海上に浮ぶ小島。島には大悲閣、八寶琉璃井、唐井洞、石佛寺、唐王城などの舊蹟がある。戰國の世、燕の太子丹、また明の祖太壽が逃入したのはこの島である。

〔白廟子〕驛北二粁に白廟があり東辛莊驛に近い鳳鳴山の山頂には娘々廟がある。

〔綏中縣〕縣城はもと中後所と稱し驛の北約一粁半餘、現在の城は唐末の建築で東西南の三門を有し北門は無い、南門飛樓に「關外第一縣」の大扁額が懸つてゐる。

〔前衞〕市街は城壁に圍まれ長城外の小都市である。北方連嶺のうち三山は長城外の主要嶺で山中松樹多く山上の眺めは雄大壯麗である。また〔前所〕は明の宣德年間千戸所を置いたところである。〔萬家屯〕滿支國境に近く驛東の老軍屯は清朝皇帝が滿洲巡幸に出關の際通過された道筋に當る驛の西四粁餘に美女祠がある。長城の築城にからまる悲戀物語の主人公孟姜女を祀つてあると謂ふ。

京山線

山海關　古來北方より中原を窺ふものはこの地を脅かすをことゝし隋末より唐宋時代は常に干戈の巷となつた。明の太宗洪武年間に三十二關を築造し一方では山海關城を築いた。今の城廓は即ちそれである。東門樓上には明の蕭顯の筆になる「天下第一關」の大額が興亡幾星霜、老大國の歷史を秘めて今に懸つてゐる。〔萬里長城〕山海關にある長城は千三百年の昔隋の煬帝の築いたものである。

〔角山〕山海關の城北三粁の地、角山上に棲賢寺があり境內の靈泉は萬病を癒すといふ。この東北約三粁に玄陽洞の洞穴があり佛像を安置して在る。〔二郎廟〕角山の西南約二粁に秦の大將軍李永の二子二郎王を祀る二郎廟がある。乾隆三十年の建立で四周聳張して山水の風致秀れた佳境である。その西約三粁五泉山の山頂に五泉寺がある。

秦皇島　この地はもと藻塘子と呼ばれた一寒村で海岸から僅に突出した一小島であつたが清の光緒二十四年小海峽を埋立てて陸と連絡したものである。〔湯河寺〕秦

皇島驛から二十粁湯河寺の院外に温泉湧き四圍清幽で春季は梨花の行樂地として賑ふ。〔留守營〕留守營驛の西五粁餘に清泉寺がある。傍に奎星閣、玉皇閣が建ち山林幽密にして高臺より望む南海の眺めは格別勝れてゐる。〔昌黎〕昌黎驛から約六百米に縣城がある。金の世宗が大定三年（西紀一一六三年）の築城にかゝる廣寧の古城。

この附近には韓文公祠を初め名勝舊蹟がある。また後封臺附近に興隆山の石佛洞や鳳凰山の清境がある。〔安山〕驛の背後に景勝地九龍山がある。また驛西北に千松嶺があり境內に馬蘭坡、桃花峪の諸勝がある

驛の東北一粁半の清峰寺に年代不詳の十八羅漢、如來佛の石像がある。

石門驛から六粁半に書院山があり、山勢逼つて屛風の如き下に朝陽洞がある。また武山の山腹崖壁に閣黎洞があり、このあたりは遼金の時土民が兵を避けた處であるといふ。灤縣附近の灤水龍翔、岩石虎踞、偏凉盧閣、横井浮烟は〔灤洲四景〕として知られてゐる。雷莊附近の黑口舖に孤竹臥城がある。碑家店驛の近くに鮮卑仲吉の墓があり、驛の後方約一粁半の萬福山に三皇藥王閣がある。明の萬曆年間の建立と謂はる。開平鎭は開平驛から約一粁半のところ、漢の石城故址である。〔唐山〕唐山驛の西方六粁の處に彌勒洞堂がある。彌勒洞は唐の太宗東征のとき築かれたといふ石城。また唐山の東麓に姜將軍の墓がある。

元代に建立された興國寺及び仙茶と甘冽の泉とは有名である。胥各莊縣城南關外の玉皇閣に龍を刻んだ石塔がある。胥各莊驛から十數粁にある藥王廟は靈泉をもつて知られてゐる。〔唐坊〕驛の西南五粁餘、富家莊の藥王廟には肉胎像がある。涵宏僧の遺蛻といふ。〔蘆臺〕五代の時、劉守光は蘆臺軍を置き清末に駐在所を設けて兵を置いた。蘆臺場に鹽姥廟があり市內に寺廟が多い。〔軍糧城〕また梁城ともいひ、五代劉仁恭は嘗てこゝに築城してこの附近を開墾したものである。

天　津　古の春秋戰國時代に於ける燕國は今日の天津、北京一帶の地方をさしたものである。天津の名稱は明初、天津三衞鎭を設置したに始まり明の永樂二年（皇紀二〇六四年）城を築いて天津衞を置き、爾來各地より移住するもの次第に增加して市街を成したものである。〔李公祠〕天津市內にあり、淸の光緒三十一年の勅建にかゝり北洋大臣たりし李鴻章を祀る。また城內の鼓樓は明の永樂二年天津城廓と共に建てられたものである。

回々敎の會堂である〔淸眞寺〕の宏壯な建物は天津城外の一偉觀である。〔海光寺〕

康熙四年、僧成衞の創建に係り聖祖の勅額により海光寺と稱するに至つた。〔桃花堤〕天津總站の北に當り、陽春桃花の名所である。〔新河桃林〕新河驛から約一粁半新河沿にあり、數萬株の桃林があつて開花の候は賑はふ。〔豆張莊〕驛から五粁餘の黄花鋪に玉皇閣がある。唐以前の建築と傳へらる。郎坊驛東六粁半餘に黄帝遺跡と傳へられる〔安墟舊址〕がある。また、萬莊驛近くに物見臺があり、樓上に懸る古鐘は大安年間の鑄造と謂はる。〔豐臺〕金代の郊臺であるが當時豐宜門（南門）外にあつたので豐臺と稱す。元代には花卉の栽培所で元人の園亭は多くこゝにあつた。

豐臺驛から二粁半餘、大井村に高さ三丈餘の古銅佛が一體ある。年代は不詳。また永定門驛の南に燕墩がある。東便門驛の對岸〔蟠桃宮〕附近は春から夏に河遊びの人々で賑はふ。

北　京　北京の名稱は明代に始まるがそれ以前にこの地は既に遼、金、元三朝の古都であり、更にその沿革を尋ぬれば遠く周代に遡る。現在の內城は大體に於て元の大都の舊を襲用したもので、明の永樂十五年（皇紀二〇七八年）從來の土城を磚城に改めた。その城壁の高さ約十米、周圍約二十四粁で稍々長い方形を成し周圍に九門を有し、外城は卽ち羅城で明の嘉靖四十三年（皇紀二二二四年）に竣成。周圍十八粁餘の長方形で城壁の高さ約六米、周圍に七門を有してゐる。

皇城は正陽門內に突出してゐる中華門から天安門に亙る一部を正面とし、周圍約十粁四の地域を前淸皇城としてゐたが墻壁は取壞され今では只その地名を存するのみである。〔紫禁城〕大體、明の永樂十八年（皇紀二〇八一年）の竣功であるが、明淸兩朝に屢々修繕增築せられ古い建物は比較的少い樣である。〔午門〕（歷史博物館）紫禁城外朝の正門で東西に兩廡を附してゐるのが特徵であり城門としては世界最大の建物であると謂ふ。〔外朝の諸大殿〕（古物陳列所）

外朝は紫禁城南半の一郭で主として天子の朝儀を行はれた所でその中央三分の一は專ら天子大朝の場所で東西の兩部は天子學問關係の用に充てられた所である。午門の北に五座の金水橋があり、之を渡れば太和門がある。門を入れば遙に高く三層の白石基壇の上に太和、中和、保和の三大殿がある。この他に天子が春秋の經筵を行はれた文華殿、また傳心殿、文淵閣、武英本殿、浴德堂等もある。〔內廷の諸宮殿〕（故宮博物院）紫禁城の北半部は內廷で明淸兩朝を通じ帝后は日常生活の大部分を此處で送られてゐた。この一郭の內中路は內廷に於ける帝后の正殿たる乾淸、坤寧の兩宮及び交泰殿が主になつてゐる。〔太廟〕（故宮博物院太廟分院）太廟は天安門の東にあり、紫禁城前の左に配せられ淸朝帝后の神位を奉祀した所である。太廟の西は舊〔社稷壇〕で、民國三年始めて中央公園として開放せられ今は北京公園と稱してゐる。

〔景山〕北京內城の中央に位し山中に石炭を埋藏してゐるといふ傳說から俗に煤山とも稱してゐるが景山の名は萬民景仰の意味で東麓に近く明崇列帝の縊死せられた槐樹が今なほ存してゐる。流賊李自成の軍にこの帝都を蹂躪され明朝三百年の社稷は實にこの山下に絕えたのである。山上より俯瞰すれば紫禁城の壯觀一目の中に集り、北京の大觀を悉く指呼の間に知ることが出來る。

〔西苑〕紫金城の西苑は卽ち太液池で南中北の三海に分れてゐる。南海東岸の流杯渠は流觴曲水の遺址として珍しい。中海の西岸に近く卍字廊、居仁堂、懷仁堂、紫光閣等がある。北海の瓊華島は一に白塔山と稱し山上の喇嘛塔は淸初の創建にかゝる。北岸の五龍亭、極樂世界、萬佛樓、福寺、小西天、大西天、九龍壁及び北門內の先蠶壇等何れも一覽すべき場所である。

景山の西方の〔大高殿〕は天子祈雨の靈場で、門前の雨亭は人工の極を盡したものと稱せらる。後門外に〔鼓樓及び鐘樓〕がある。この邊は元の大都時代に於ける中心地で、中心臺とも稱してゐる。これ等は夜間市中に時刻を報じ、非常時の警報臺となつてゐたもので此處に懸けられてゐた鐘に絡まる傳說の鑄鐘娘々廟は樓西の胡同中に殘つてゐる。〔國子監〕成賢街にある。元、明、淸三朝の國學の舊址、北に設けられた辟雍は周代天子の學宮たりし舊制に據り淸の乾隆末に建てられたものである。孔子廟の東にある喇嘛廟〔雍和宮〕は康熙朝に於て雍親王府であつたが、雍正帝入りて大統を纘がれるに及び龍潛藩邸となつたもので之を喜捨して喇嘛の道場とした。廟東の柏林寺は元刹で北京著名の禪寺であり、廟の東北隅には舊離宮の跡もある。〔文天祥祠〕この邊が卽ち元代の柴市で文天祥授命の地であると謂ふ。祠後の小樓は文山公絆の舊址であると傳へられてゐる。〔隆福寺〕明代景泰三年の勅建で、この隆福寺街は前門外の琉璃廠と共に書影で有名な所である。

〔護國寺〕元代開基の古刹で元明の碑數基を有す。隆福、護國兩寺は古くから東廟、西廟とも稱せられ廟市を以て知られてゐる

〔白塔妙應寺〕阜成門內の喇嘛廟で、寺後の白塔は遼の壽隆三年（皇紀一七五七年）に佛舍利を奉藏する爲め建てられたもので、その東にある〔歷代帝王廟〕は嘉靖初年の創建で、當初は創業の君王のみを祀つたがその後屢々改變があり清末に於ては無道の帝王、弑に遭つた帝王、亡國の帝王を除いた歷代の帝王は何れも此處の正殿に祀られてゐた樣である。〔萬松老人塔〕西四牌樓の南磚胡同にある七級の磚塔。この塔の創建に就ては判然しないが明の萬曆三十四年及び清の乾隆十八年の重修を經てゐる。〔天壇〕明の永樂十八年（皇紀二〇八〇年）の竣工で內外二墻に圍まれ外墻の周圍は約六粁、城內の面積は約八十一萬坪と算せらる。天子の祭壇はこの外に地壇、社稷壇、日壇、月壇、先農壇及び先蠶壇があるが、天壇は實にこれ等の首位にある。天壇の主體である圜丘は祈年殿の南にあり天壇の西に先農壇がある。〔法源寺〕唐の太宗の創建太宗が高麗親征の際に於ける戰死者の菩提を弔ふ爲めに建立したものである。〔謝疊山祠〕法源寺の後衛にあり宋の忠臣また文章軌範の編者として名高い文節公謝枋得（疊山）の祠である。

〔萬柳堂址〕廣渠門內 拈花寺の傍にある。清の康熙初年、馮益都が別業を此處に營み柳萬株を植ゑて元の廉希憲の故事にならひ、萬柳堂と稱した所で、當時名流遊宴の地であつた。〔藥王廟〕北京には藥王廟の大なるものが四箇所あるが、この中で崇文門外のものは明代に武清候李誠銘の創建にかゝるもので宏大な戲樓を有しており廟の西に天慶寺といふ古刹がある。〔清眞寺〕回敎の寺院は北京に凡そ四十箇所あるが代表的なものとしては牛街の西寺と敎子胡同の東寺とが大きく且つ古い歷史を有してゐる。

〔東嶽廟〕朝陽門外にある。支那五嶽の一なる泰山の神を祀り元の延祐年間（皇紀一九七五年頃）の創建である。〔日壇〕日壇は毎年春分の朝、天子が太明を祀られた所。明の嘉靖九年（皇紀二一九〇年）の創建である。〔二閘〕通惠河中に慶豐閘があり北京から第二の閘に當るので俗に二閘と呼ばれ、前清時代から都人遊覽の場所であつた。康熙帝公主の陵も程遠からぬ所にあり。

〔架松〕清初興國の元勳、肅武親王豪格一家の塋墓で城內には澤山の老松が茂り風致を添へてゐる。

北京の西にある翠黛の連峰は〔西山〕と總稱せられる太行山脈の一支脈で附近は隋唐時代から佛寺の造營せらるゝもの多く、「西山三百寺」「西山五百寺」等の稱さへある。現存するものでも二百寺以上に達する。

〔萬壽山〕頤和園と稱し清朝の離宮、北京の西北約十粁の地にある。この山は元代から甕山と呼ばれ、乾隆十四年に江南諸名園の布置結構に象り離宮を造營して好山園と稱したのが此處に離宮を設けられた濫觴である。乾隆二十五年に皇太后の萬壽節を祝する爲め帝は圓靜寺の故址に大報恩延壽寺を建て甕山の名を改めて萬壽山とされた。〔昆明湖〕古くから西湖、西海または太泊湖として知られた湖で、乾隆年間離宮の造營と共に漢武帝昆明池の名に因んで今の名に改め滿洲八旗の精鋭をして此處で水戰水技を練習せしめたのである。湖心の龍王廟は昆明湖の水神を祀り東堤に亙る「十七孔橋」は蘇州寶帶橋を模したものと謂はる。

〔玉泉山〕萬壽山の西約三粁にあり、靜明園と稱する前清の離宮址である。此處は金の章宗の時既に行宮を設けられた所で元明兩朝にも行宮の設けがあり清に入つては康熙十九年に離宮を造營せられた。山後の東嶽廟內に琉璃塔があり、北峰に妙高塔がある。玉泉山の北に明朝第七世の天子景帝の陵がある。また萬壽山の東北にはもと圓明園の大離宮があつて周圍七十支里（四十六粁餘）と稱せられた。康熙、雍正、乾隆の三朝に亙つて造營せられ、輪奐の美を極めてゐたが咸豐十年（皇紀二五二〇年）英佛聯合軍の北京侵入の際燒拂はれてしまつた。〔臥佛寺〕唐代の創建。清の雍正帝が十方普覺寺の名を賜ひ、今それに依つてゐる。後殿に安置せられる銅の臥佛は長さ六米餘、釋尊涅槃の像で周圍の脇寺と共に出色の作である。〔碧雲寺〕臥佛寺の西約二粁、元の耶律楚材の裔阿勒彌がその宅を喜捨して建立したもの。後臺の金剛寶座は乾隆十三年、西藏僧の獻せる印度須彌山の金剛寶座の型に依つて築造したものである。

民國十四年三月孫文の北京に客死するや其の遺骸を此處に移して安置し後南京に遷葬したのである。

碧雲寺の西南〔香山〕には古く遼の中丞阿里吉が私宅を喜捨して建てた香山寺があつたが金の世宗の大定二十六年（皇紀一八四六年）之を重修して清の乾隆十年に離宮として靜宜園と名づけられた所である。東北の一郭に昭廟の廢址があり立派な七級の琉璃塔が殘つてゐる。〔西山八大處〕香山の西に當り翠微、平波、盧師の三山鼎立する間に八箇の刹が連つてゐる。これが俗に八大寺と稱せられるもので多くは明代の創建であるが古くは隋、唐の開基に係るものもある。麓の方のものから示すと長安寺、林官寺、三山庵、大悲寺、龍王堂、香界寺、寳珠洞の順で東方に離れて祕魔崖の一古刹がある。紅山口を越えて西山の陰に下ると黑龍潭がある。この他景勝寺院等見るべきものが多い。〔盧溝橋〕彰儀門外約三粁には五顯財神廟があり、同門外十六粁西には永定河に架せられた盧溝橋がある。マルコポーロの旅行記によつて紹介された名橋で、金の大定二十九年（皇紀一八四九年）に起工し、四箇年を工事に要したものである。

〔南苑〕北京南郊永定門外にあり、元の飛放泊の舊址で歷代の遊獵地である。明初にその地域を擴大して圍垣を設け南苑と稱した。永定門車站の南に燕墩がある。

〔地壇〕北京北郊の安定門外にある大壇で明の嘉靖九年（皇紀二一九〇年）の創建である。〔元の土城〕內城西北角の北に起り、內城の東北角に連る延長約十三粁の土城は曾て元大都の北半部を圍んだ墻壁であつた。また薊門は西直門の北約四粁、元の土城の一門をなす所でこの邊が所謂薊丘の地であると言ふ。薊門烟樹は北京八景の一になつてゐる。〔明十三陵〕北京の北約五十粁、南口の東北約十三粁にあり、明の成祖以來北京に卽位した十五世、十四帝の中で王禮を以て西山に葬られた景帝を除きたる十三帝の寢陵である。

南口から八達嶺に至る約二十粁の隘路は卽ち居庸の溪谷で南口をその關口とし、これを居庸關と稱し上關を加へて居庸三關と稱せられるが、かの八達嶺と共に燕都の北門を扼する要害である。

京包線

〔三堡〕驛の西北に石佛寺山、五貫頭山の二峰があり、古蹟としての石佛は石佛寺山隧道の北口外にある。

西撥子驛の東三粁、〔岔道城〕は明の永樂年間には重兵が駐し嘉靖三十年城並聯を築いた。康莊驛の北に奇泉寺、大關山、佛塔口があり口內には白塔の屹立する白塔寺がある。〔懷來〕城外西北隅の廣慈寺は俗に皇寺と謂ひ清の順治五年の建立で內に行宮があり巡幸の避暑地となつてゐた。〔土木堡〕城內には景泰の初め頃建てられた顯忠祠がある。堡北約一粁に寶殿山がある。

〔下園〕驛の左右に鷄鳴玉帶の兩山がある。鷄鳴山の腰にある永寧寺は遼の聖宗太平四年の建立である。花園は上下二園に分れ遼の蕭太后が花を植ゑたところであるが今はすつかり荒廢してゐる。〔宣化〕明の初、左右前三衞となし巡撫都察院を設けてこゝに駐した。今の城は元の宣德府の舊址であつて明の洪武年間に谷王が擴張したも

のである。〔紫薇堡〕明の正統二年に堡城を築き萬曆年間に擴張したものである。また玉泉閣は明の萬曆年間の建設である。

〔西灣堡〕驛の東南三粁餘の慈化寺は唐代の建立。驛の南二十粁の枳嶺兒は昔高臺を設けて監視したところで邊境の要塞であつた。山上の眺望よく風光明媚である。

〔永嘉堡〕驛を距る四粁の堡城は明の嘉靖三十七年の築造で、驛の南二十四粁に玉泉山がある。〔天鎭〕縣城は驛の南三粁餘にあり、縣城西街の慈雲寺は唐時代の建築で關北の巨刹である。〔聚樂堡〕聚樂城堡は驛の北四粁にあり、明の天順三年大同鎭城が孤城であるため東に聚樂、西に高山の二堡を築き左右の補衞としたものである。

大　同　もと北魏がこゝに都して名を萬年または平城と云つた。遼の時代に入つて西京、大同府、大同縣を設け、元、明、清の歷朝は何れも大同縣を置いてゐた。城廓は驛の南三粁にあり市街全體が考古學上極めて貴重な資料とされ、城内には千五六百年前の木造建築十數箇あり城内の九龍壁、上華嚴寺、下華嚴寺は有名である。〔雲崗の石佛〕大同の西約二十粁にある。石佛は燉煌の鳴沙山、龍門、天龍山等と共に著名で世界的に知られてゐる。石窟は北魏時代（皇紀一一一〇年頃）の作と推定される。

〔堡子灣〕驛の東南祁皇墓は北魏の桓帝皇后祁氏の墓である。〔佛爺洞〕福生莊驛の東南八粁、山に依つて石を穿ち二室に分れ内に多數の佛像を安置してある。〔白塔〕清の聖祖が葛爾丹を親征した時駐蹕したところで七層の白塔が存してゐる。

厚　和　もとの綏遠であつて新城（綏遠）と舊城（歸化城）に別れてゐる。〔大招〕舊城大招街にある無量寺で大雄寶殿を中心にして最盛期には喇嘛が數千人ゐたと云ふ。〔小招〕小招街にある宗福寺で清の康熙年間の重建築であるが頽廢甚しい。〔錫拉圖招〕小招の西數百歩の處にある延壽寺で創建年代は詳でないが康熙三十五年錫拉圖呼圖克圖が奏請して重修しその後火災に罹りまた重修したものである。その東南四粁の〔卓爾齊招〕は康熙年間に達爾班卓爾齊が個人で建立したものである。歸化城東の〔五塔招〕は建立年代は詳でないが乾隆年間に重修したもの。城北二十粁の〔大青山〕は即ち庫々和屯で、蒙古語で青を庫々、城を和屯と云ふ意味から青城と解し古くは陰山と稱した。〔百靈廟〕綏遠城の西北、烏蘭察布盟にあり内蒙の聖地として知られまた天然の要害をなして居る。廟は約二百年前に開眼され民國二年兵火に罹り今日あるのはその後再建されたものである。

イバガインゴール清流の河西の地區には質白な喇嘛寺、西藏式の大伽藍があり、蒙古高原に於ては稀に見る山紫水明の地である。

〔沙爾沁召〕磴口驛の東北約十二粁崖によつて建てられ西藏の拉薩寺に倣つた喇嘛寺である。〔包頭〕包頭は元來蒙古語で「土地相會す」といふ意味を有し丁度この附近が烏蘭察布盟の東西兩公旗、伊克昭盟の達拉特旗及び歸化城土默特旗の四旗地の會するところであるからこの名がついたと云ふ。

包頭の西南四十粁に匈奴に嫁した哀話の佳人〔昭君墓〕がある。包頭の東門外の丘上の〔轉龍藏〕は樹木鬱蒼として風景清幽、龍王廟がある。〔廣覺寺〕俗に五當召と謂ひ磴口驛から西北四十四粁餘であるが包頭から行くのが便利である。寺は清の乾隆年間の建築で喇嘛千餘人が居住し内蒙中最大の寺である。

膠　濟　線

青　島　光緒十七年始めて砲臺を築いて鎭守軍署を置き衙門及荷揚場を造營したが當時なほ寂寥な村邑にすぎず、獨逸根據地となるや一躍黃海沿岸の主要市場として登場したのである。〔第一公園〕もと獨逸の植物育成試驗場の跡である。園内には世界各

地の花卉樹木を集め山腹に日獨戰役の忠魂碑が巍然として聳えてゐる。

〔旭山〕青島隨一の高所で外海の風光を一望に蒐める佳勝の地である。獨逸はこの要塞に砲臺を設け日軍を惱ました。今尙ほ彈痕の跡を止めてゐる。萬年山には海面防禦の永久砲臺の跡があり、忠の海は波穩かに水碧く澄み白砂の海水浴場である。

〔嶗山〕山東省の東部に連亙する一大山系の主峰で海拔千二百米餘、秦始皇が茲に登り遙か渺茫の東海を望んで蓬萊島に不老不死の靈藥を求め、また吳王夫差は靈寶度人經の貴書を得たのもこの山である。山中には九水、北九水、大嶗觀等の景勝がある。

〔女姑口〕白沙口沿岸一帶の風景美しく河口に女姑山が孤立し頂上に仙女を祀る女姑祠が建ち、山北に漢の武帝の建てた明堂の遺址がある。

〔城陽〕城陽驛の東北二十粁に卽墨城がある。史上に殘る卽墨の古城は現城の西北四十餘粁にあり、俗に朱毛城といひ田單が火中の計を用ひて燕軍を破つた故址。また漢楚相爭つた頃齊王弟田橫は屢々項羽と爭つた故地である。不其城の遺址は驛を過ぎて車窓から東北の稍々小高い丘上に見える。驛の東北二十八粁の粥數城は唐太宗が高麗征伐の際に築いたものといふ。〔膠州〕縣城は明の洪武年間（約五五〇年前）に築城されたもの、古城は現城の西北にあり元の至正十七年（皇紀二〇一七年）毛貴の亂に破壞されて今の處に築城されたものである。驛西約四粁に西漢の肅生の故里また近郊に計斤古城の遺跡などもある。

〔高密〕縣城は驛の西南一粁餘、元の至正十二年に築かれ、明の嘉靖二年に石城に改築せらる。驛の西南三十二粁に項羽の將龍且の築いた龍且城址がある。〔蔡家莊〕驛の西四粁餘に漢成帝が淮王を封じた高陽故城がある。〔柞山〕驛東南約四粁に峽山、柞山、星星山が鼎峙し、鬱翠幽邃の景勝地である。〔維縣〕縣城は驛北一粁半餘、漢初に築き明代に石城に改めたといふ。城内には石佛寺があり、宋の咸平二年僧元德の建立に係る。城東北一粁餘に王清宮があり成吉思汗の聖旨碑やその他の古碑が多い。

〔益都〕驛南一粁半餘に青州城がある。漢代の益都城は今の壽光縣内にあつたが後に廣固縣に移され、宋に至つて劉容之を陷れ、城を陽水の北に築いて東陽城と稱し、更に陽水の南に移して南陽城と名づけたのは卽ち今の城である。〔滿洲城〕益都驛より一粁餘にあり、俗に北城と呼び北に洋水流れ滿洲八旗の居城であつた。益都縣城の西北四粁の〔法慶寺〕は膠濟線中最も著名な佛殿である。〔穆山〕普通驛の西南十六粁にあり齊宣王が始めて孔子廟を立てた所である。〔臨淄〕淄河店驛の西北十粁、臨淄城は齊の都であつた。西北更に二粁に周代に太公望の都した營邱の址がある。

〔昌圖古城〕張店驛の南三粁餘、昔燕昭王が樂毅を封じて昌圖となした所である。

〔淄川〕縣城は崇禎十一年の築造、縣城の東北に反蹤城の址がある。魏の頃還東の歸順民が居つたといふ。城内に龍興寺、普照寺があり、城北の瓦村莊には法王院がある。〔博山〕この地は明の頃、青州兵備道であり、前清の雍正十二年以來博山縣署の所在地であつた。東門外の怡園が范泉書院の故址である。驛の西南十二粁には俗に青石關と稱する長城があり、驛西四粁餘の岳陽山下に石棚砦がある。〔周村〕驛北十二粁の於陵は戰國時代陳仲子の居つた遺址であり、長山縣城内に陳仲子の祠がある。

〔明水〕明水鎭は驛北約六百米にあり、隨所に清水が滾々と湧出して所謂明水七十二泉として知られてゐる。〔樂盤城〕棗園莊驛の南二粁に樂盤城がある。齊孝王と陽

邱の餞別せし所。〔龍山〕龍山上の妙眞寨は宋末、李金の妻妙眞の武勇で知られた所、寨址はなほ存す。〔王舍人莊〕驛北に龍山佛峪の勝地がある。

濟南 〔大明湖〕濟南城の三分の一を占め周二里、淸水を湛へた湖上や湖畔には歴下亭（李白、杜甫の詠懃した所）李公祠、張公祠、鐵公祠、滙泉寺、曾公祠、北極臺、百花隄、北渚亭、天心水面亭等の古蹟勝地が點在し隨所に文人墨客の大明湖の風光を賞した詩句や題詠が碑記に殘されてゐる。〔趵突泉〕城内南關、呂祖閣の境内に湧出する趵突泉は七十二泉中第一泉の稱がある。城内東南隅の黑虎泉は水量豐富で釣魚臺は太公望が釣を垂れた所であると謂ふ。〔千佛山〕省城の南三粁餘、歴山または舜耕山ともいふ。山上に舜帝祠があり、山中の石窟には多數の佛像が彫まれてをり隋の開豐年間のものといふ。〔開元寺〕城南十粁大佛山上にあり唐の開元年間の建立。巖上に刻像が多く六朝時代の作といふ佛像がある。〔龍洞〕省城東南二十粁、泰山支脈中の奇巖の壁立した中に龍洞寺があり、東一粁半許りに東龍寺と呼ぶ般若寺がある。共に附近は紅葉の佳勝である。城南十粁の〔玉函山〕は山中に諸勝多く山頂に碧霞殿がある。

津浦線

〔楊柳靑〕街の北約十粁に宋の咸平年中（皇紀一六〇〇年頃）に築かれた城である。呂彭城は東北十粁許りにあり、文昌閣は驛より二粁、明代の創建である。〔靜海〕金時代から榮え、當時は靖海と云つた。鳳凰臺は西八粁、移興寺は十六粁にあり、共に唐時代の創建に係る。〔陳官屯〕驛の北方四粁餘にある臥佛寺は殿宇頽廢してゐるが堂中に九尊の銅佛があり、何れも高さ十二米許りの立像。その中の一尊は殿前に横臥し高さ六米餘。〔靑縣〕街の南方十二粁にある盤古溝には盤古氏の墓が水中にあつて石棺が鐵の鎖で繋いであつたと傳ふ。溝の北岸にある盤古廟は明の弘治十六年に重修されたものである。峭帆亭は盧臺故城の中にあり、運河の兩岸にある周公祠は淸の光緒十五年の建立である。〔興濟〕驛の東にある高臺は豊臺と云ひ古の望臺の址である。驛の下にある娘々墳は明の弘治皇后の父母並にその祖先の墳墓であるが今は僅にその址を遺すに過ぎない。〔滄州〕滄州は舊蹟に富み觀光地としても知られてゐる。

附近には馬落坡、望海市臺、鐵獅、盟亭水月寺、包孝肅祠、聞遠樓等がある。〔泊頭鎭〕の附近には遇士亭、周尹吉甫墓、偶不疑墓等がある。〔東光〕魏文帝燕友臺は魏の文帝が燕と友好を結ぶ爲めに築いたもの。天胎山は城の南にあり、風光に惠まれ城内には普照寺鐵佛がある。〔連鎭〕山雨樓は明知縣にある。廣川臺は景州城の東にあり、自來鐘は城隍廟の傍にある。この鐘は明代からあるが何處から來たものか判らないので自來鐘または飛來鐘とも稱してゐる。〔桑園〕老君堂四古松は枝幹蒼勁、上に一大鐵鐘を懸け、由來は古いやうである。柘鎭の東南二十粁に孫臏廟がある。

〔德縣〕董子讀書臺。唐の貞元五年に建立された永慶寺等がある。城の北門外には十二連城、城の北郭には濯錦園がある。

〔黃河涯〕驛の西八粁に陳公堤がある。宋の天喜五年に陳老佐が洪水を防ぎ堤防を築いて水を西に走らせたものである。崇興寺は淸の雍正五年本旺の草創にかゝり、黑龍潭は旱魃の年に鄕人が雨乞をすると必ず雨が降るといひ淸の同治年間に河の上に樹屏と一廟を建てた。〔平原〕驛から十二粁餘、縣の西方に桑邱城がある。驛から二十粁には北齊の時代に改建した平原故城があり、漢舞陽侯樊噲の墓は驛から一粁餘、城の南側にある大塚である。顏魯公祠は東門内驛から一粁餘、明の弘治十五年に知縣の朱良が建立したもの。附近に興泉寺千佛塔

がある。〔張莊〕驛から二粁に黎吉寨がある。明から淸まで皆官驛を置いた所である。〔禹城〕驛から約四粁にあり、唐時代に始めて禹城と名づけらる。西門内にある禹廟の創建は不明なれど明の萬曆二十七年と天啓四年に重修してゐる。興雲寺は唐時代に建立、明時代に重修された。城内文廟の東に泰禹樓、縣の西關に三皇廟がある。

〔晏城〕街の東、齊河縣城を距る十六粁餘にあり、淸の道光年間に金華寺の側に移した。金華寺は戰國時代の齊王后無鹽氏の故宮、舊高唐は齊河縣の西四十粁の倫鎭にある。驛から四十四粁、蘇東坡が曾て此處を過ぎ祈賦して世嗣を得たと傳へらる。狀元碑は鎭の西、二神廟の内にある。〔岱廟〕泰安城内の岱廟は泰山の神靈を祀る。境内にある秦の始皇帝が自家功德を頌した秦碑の殘缺は泰山最古の遺物であつて名高い。〔篙山〕驛から二十四粁に長淸塔がある。驛の西南二粁には五峰山があり、山中には寺廟が多い。張夏驛から八粁餘の〔透明洞〕は盤郡山臥虎獄の内にあり幽勝の境地である。

萬德驛附近にある〔靈巖寺〕の建築は甚だ古く、四季を通じて景勝の地である。

〔泰山〕泰安の北方四粁、帝王行幸の事蹟は竹帛に垂れ、宗教と政治に併用された記錄を多く殘してゐる名山である。泰安城より山麓まで一粁餘、絶頂まで約八粁である。轎で登りが約六時間下りは三時間。

東北堡附近の〔波羅山〕山中に七十二個所の寺觀があり、一日の遊覽に適す。

〔徂徠山〕大汶口驛の東二十四粁巨石巉巖の頂上に光化寺があり元代の碑が多い。徂徠山の南二聖宮には唐の竹溪六逸の遺跡がある。〔駝羅山〕吳村驛から十四粁、岩山の上に石門寺がある。また驛の北十粁には九山があり、山中によく千人を容れるに足る顏子洞がある。〔曲阜〕周初は周公の子伯禽を曲阜に封じて魯國を建てこゝに都した。漢は魯縣、隋は曲阜縣を設けその後一時城を東方に移したが明、淸の時代に現在の城に據つた。縣城は驛の東方約八粁、孔子の生誕と終焉の聖地として有名で、城内に文廟がありその他遠近に孔林尼山、啓聖王林、防山、泗水、沂水など孔子に關する遺蹟が多い。文廟の東北には顏子廟があり顏回陋巷の故宅と傳へらる。宋の熙寧年間にこゝへ顏樂亭を作り元の元貞年間に始めて廟を建てた。〔兗州〕春秋時代は魯の地、戰國時代は楚の國に屬し薛郡であつた。忠孝賢祠順賢、石佛寺靈石、獄雲樓、府城、天仙行宮等名勝舊蹟が多い。〔濟寧縣〕この地は周代では任と郝の二國であつた。城の東南四十粁餘に承匡山、城北十粁に樊子故里、城東には任子故里がありその他遠近に太白酒樓、南池、鐵塔寺晉陽山、鳳凰臺、蘆溝泉、南湖等の名勝舊蹟がある。〔鄒縣〕古くから聖賢達が釣遊したところで遺蹟は甚だ多い。伏羲畫卦處、昌平山、四基山（孟子の墓のあるところ）、小邾子故城、匡喆梵語、尼山、孟子廟、嶧山等がある。

〔紀王城〕兩下店驛東方二粁、春秋時代邾文公が都を遷したところ、故宮の遺址がある。驛から二粁半餘、嶧山五峰の下に玉皇宮がある。〔滕縣〕城の西北染山の上に伏羲廟があり、城東には龍泉寺塔が聳えてゐる。微山湖は城南六十粁に當る。〔官橋〕驛の南に薛城があり、東南二十四粁の老君山には懸崖に彫つた十八羅漢がある。

〔臨城〕驛から十六粁に滅城がある。漢の高祖の寵姫戚氏の家が此處にあつたので高祖が城を築いたといふ。驛の東北十粁靑山の山中に白雲、朝陽の二洞がある。驛西南十二粁の十字河の傍に禹王臺があり、禹王治水の功を記念する爲め築かれたものらしい。臨棗支線齊村驛附近には許田泉がありその後方に荀卿寺、亭臺の遺跡がある。

〔棗莊〕驛から四十粁餘、晉時代蘭陵郡を置いたところで昔は繁榮を極めたといふ。嶧縣城東の匡丞相祠は宋の宣和年間の

建立である。〔韓莊〕驛の東北十六粁餘今の陰平集に漢袁安舊治がある。この附近に劉伶古臺などの名勝がある。茅村驛から四粁〔峒山〕上に古刹あり山下の古洞は深邃である。〔徐州〕項羽が自ら西楚霸王と稱して都をこゝに置いてゐた。城内の黃樓は宋の蘇軾が守となつた時に增築したもの。子房山は漢の張子房が農事を開拓し、雲龍山は唐の張天翼が隱退したところでその他放鶴亭、快哉亭等の舊蹟があり、城の東北二十粁には名橋として知られた荊山橋がある。

〔三舖〕驛の西南五粁に聖人巖、驛西八粁に飛來佛石像、天門寺、驛西南六粁に龍泉寺がある。〔皇藏峪〕曹村驛の西八粁餘、皇藏禪房と名づける寺は漢の平帝が嘗て新莽の亂を避けたところである。〔符離集〕附近に禹廟臥佛寺、高皇山（漢の高帝の廟がある）大谷山、黃花洞等の舊蹟がある。〔南宿州〕驛の西六百米に縣城がある。東門甕城内に唐張巡、許遠を祀る二忠祠があり、北城上には扶疏亭がある。城の西北四十粁の相山の下には漢の相城縣址がある。〔固鎭〕古の穀陽縣で、漢時代に縣を置き金代に鎭を設けたところである。

この西約八粁に當る霸王城は項羽屯兵の壘であつた。

〔曹老集〕驛から二十八粁に縣城がある附近に禹墟、柴王城、塗山等があり、塗山の西の峰には禹廟、東の峰には無量佛殿がある。また〔蚌埠〕驛から十六粁に禹王宮があり驛から十二粁餘に棲巖寺がある。

長淮驛附近の〔十四王冢墓〕は明の太祖の先代の墳墓で後に天下追封爲王と王妃との塋域を建てゝ祀つてある。〔門台子〕驛の西南十二粁にある。縣城の北に明の太祖が曾て幼少の頃修行したといふ龍興寺がある。また驛南十六粁には明の太祖の父の陵、明陵がある。〔臨淮關〕本霸梁臨淮舊城の地。莊子臺の前の俗に莊臺寺といふ開元寺は唐の玄宗の時、開元年間に詔して州縣に各大寺を一箇寺宛建立したものゝ一つである。寺後の南華堂は明の嘉靖十三年に楊榮が創建したものであるが火災に罹り萬曆年間に重建したが今は廢れてゐる。驛から四十八粁の禪窟寺、離山上の雲寺、方山麓の榥梯寺など何れも佳境である。

〔石門山〕驛の東南約三粁、塗山の支脈にして谷の景色は絕佳。驛の西南八粁には燃燈寺がある。

〔明光〕驛の南四粁、李墓は明の太祖の妹が李姓に嫁したのを葬つた墓。都梁宮は隋の時代に都梁宮三百六十を建てたときの一つ。また傳說の望夫石もある。〔管店〕驛を距る五十二粁の釣魚臺は隋の煬帝の造つたところと傳ふ。沙河集驛の西南十粁にある一寺は元代の創建といひ當時寺後の洞内に米層があつて寺僧が取つて食してゐたと傳ふ。〔滁州〕この地は春秋時代に吳と楚が戰を交へたところで附近の風光には賞すべきものがある。城西の淸流關は宋の太祖が周師を率ゐて李景の兵を破つたところ。南門の内にある南橋は元の至正年間に拓き通濟橋と名づけられ橋の右に大聖塔がある。瑯琊山の開化禪寺、この他に醉翁亭、豐樂亭、茶仙亭、城内には懷嵩樓の遺蹟がある。

〔花旗營〕驛から二十四粁にある烏江は西楚の霸王項羽の死んだところで霸王祠がある。〔浦鎭〕明初江浦縣治を置いたのである。浦子口城は明の洪武四年應天衛がこゝに築城したが今は頽廢してゐる。東南浦子山上の中敵臺は民國二年に重修したものである。〔浦口〕驛の西十二粁餘に江浦縣城があり城の西南四十粁に緖落山がある。項羽が戰に敗れて東城に走つた際漢の兵が之を追ひ陣を造つたところ。

縣の西南二十四粁の陽泉は梁の昭明太子が曾て浴したので太子泉と稱され、明の太祖は香泉の名を賜つた。

京漢線

〔戒臺寺〕長辛店驛の西二十粁の山麓にある。院宇は宏壯で夏季の避暑に好適の佳境。〔良鄕縣〕春秋時代燕の中都として殷盛を極めてゐた。縣の東二粁、燎石岡には隋代の建築にかかる多寶塔がある。縣の東北には廣陽城があり、漢はその屬廣陽國を置き小廣陽と云つてゐた。琉璃河の鐵橋の右方遙に明の永樂年間の建造になる石橋が架つてゐる。〔涿縣〕古の涿鹿の野奏上谷である。明の景泰（皇紀二一一〇年頃）の初めに築いたもの。城の北には二つの塔が聳えてゐる。縣城の西四十粁、石經山麓の西域寺は唐代の建立である。宋の太祖の碑文を存してゐる。〔定興縣〕驛の西二粁に縣城がある。金の大定七年（皇紀一八二七年）の築造で縣の易上村には唐時代に建立した聚泉寺がある。〔固城鎭〕驛の近くに明の萬曆年間に建立した觀音寺がある。驛の西一粁餘の鐵瓦寺も萬曆年間の建立で瓦が皆鐵瓦である。

〔徐水縣〕縣城はもと南北二つあり共に五代の築城であるが、南城は無くなつて遺址もなく北城は明の景泰年間に重修したものである。縣の西二十六粁の班姬山は隋の煬帝東征の時、山上に班姬を置いたので廟に名づけたと謂はれてゐる。

〔保定〕城は驛の東約八粁、明代の建造で城の東隅の三陵は宋の太祖が即位の際その四世の祖を祀つた陵である。この他に萬卷樓、永寧寺、靈雨寺、百花嶼、劉守眞廟、蓮花池、大慈閣、淸苑河、廣蓄城、千里長堤、郎山等の名勝舊蹟がある。

〔方順橋〕驛の附近にある方順橋は隋の文帝開皇年間の建造で、こゝから約四粁に當る丹朱城は堯朱丹の故居に因んで名づけたものである。〔望都縣〕城は唐の武德年間に初めて土城を築いたのに創る。北關外の帝堯廟は元の世祖至元三年の建廟、城内西隅の壽聖寺は元の至元元年（皇紀一九二四年）の創草で明代に重修して居る。城東六粁、荊城村には唐代創建の甘露寺がある。

〔定縣〕昔土城であつた定州城は明の洪武年間に磚を用ひて重修された。城南の開元寺の瞭敵塔は宋代の創建である。〔正定縣〕城の東北隅の開元寺（舍利寺）は唐の開元年間の建立。この他に天寧寺、崇因寺、隆興寺、滹沱河神廟等の寺廟がある。

〔石家莊〕縣西六粁の抱犢山は韓信が趙を伐つてからこの山に登つたといふ。山の南には蛟龍洞がある。驛から六粁、縣の西北二十四粁に當る西屛山は一群の勝地で東には黑風洞がある。驛の北西十四粁の趙陵は口碑によれば漢代南越の王趙佗親の塚であると。風景佳良。〔元氏縣〕驛の西三粁餘に城がある。舊城は土城であつたが明の萬曆三十年に始めて磚城に改築した。城内の開花寺は隋の開皇年間の建立。また同地附近の封龍山は山勢奇勝を以て知らる、

〔高邑縣〕縣城は明の洪武の初に舊址を重修したもの。縣の西北にある乾明寺は唐代の建築で寺の右に乾明塔がある。鎭内驛の西北三十二粁餘に千秋亭がある。その北三粁餘の王莽城は俗に王莽が都を建てたところと傳ふ。〔内邱縣〕驛の東二粁に縣城がある。城の遠近には經閣寺、長春觀、郭巨塔青山、鵲山、白銀山、泜水、思親山等の名勝舊蹟がある。〔順德〕殷の邢都秦の鉅鹿の地、宋代に創建、明代に重修した堅固な城壁である。城の内外には嚮地、豫讓祠、双列祠、開元寺等の舊蹟がある。〔沙河縣〕縣城は明の成化十八年に重修された。附近には宋文貞公祠、梅花亭、擅臺等の舊蹟があり、また蓮花池、蘇秦亭、磬口山、五指山、廣陽山等が遠近にある。

〔邯鄲縣〕驛西約二粁の城内には趙の武靈王が築いたといふ叢臺がある。附近に呂仙祠、邯鄲宮などの舊蹟が多い。〔彰德〕城外の天寧寺は隋代の建築で淸の乾隆年

間に重修したもの。城の内外には飛仙臺、陷馬泉、曹洪故宅、魏徵故宅、韓忠獻公祠や袁大總統の墓もある。〔湯陰縣〕縣城は明の洪武三十年の築城である。驛から四粁に明代の潞王墳があり、墳園外に潞藩城の牌坊がある。〔新鄕〕驛から四粁に縣城がある。縣東一粁餘の岳忠武廟は明の萬曆四年の建築、城内には崔珏廟がある。〔滎澤縣〕城は驛を距る八粁。縣の西北の石門は漢の靈帝の建寧四年の建造。縣の東南には平桃城、西には廣武山がある。

〔鄭州〕禹の時代の豫州の地で、五代朝の後周の帝都である。鄭州城は驛から二粁餘。縣の北郊外には宋の熙寧年間創建に係る崇聯寺がある。縣の東南二粁半餘には僕射陂がある。〔秋帝寺〕謝莊驛の東南四粁、伯夷叔齊を此處に祀る。〔新鄭縣〕縣東南には華城があり、華陽臺と云つてゐる。縣の西北にある古鄭城は鄭の武公が始めて都したところである。

〔確山縣〕城は驛から約二粁。縣の西三十二粁の南泉寺は寺中に多く牡丹を植ゑ、俗に牡丹寺と云ふ。縣の西北六粁には隋代に建立した北泉寺がある。縣の南一粁餘の蟠龍山には明の崇王の墳がある。〔信陽州〕城は驛から二粁、城内の朝陽塔は明の正德年間の建築。その他附近には景賢祠、兩相祠、環翠堂、下梁城、何先生祠等がある。

武漢三鎭〔漢口〕漢陽、武昌と共に上海に次ぐ支那の政治、產業、文化の中心となつてゐる。支那四鎭の一つと言はれた漢口は一八五八年天津條約によつて外國に開放された以後に發展したものである。

〔漢陽〕縣城の北隅鳳棲山の上にある秋興亭は唐の賈至の建てたものと云はる。縣城の北、大別山にある太平興國寺は唐の太宗時代の建築で、宋の太平興國年間に重修し今の名に改めた。縣城の西約六粁の歸元寺は石榴花塔の西南馬家湖上にあり、内に五百羅漢殿がある。大別山の東麓には晴川閣があり江を隔てゝ黃鶴樓と對峙してゐる。縣の北、鳳棲山には周程璇朱の四先生を祀る六先生祠があり、明の正德年間に楊時黃幹を增祀した。

〔武昌〕三國時代、吳の孫權が都した鄂城の前衞として築城されたと云はれ、堅固な城郭をもつた古都である。漢陽門内の黃鶴樓が著名になつたのは六朝以前である。

布政司の前には唐の牛僧孺奇章臺の故址楚觀樓がある。縣城の東には鳳凰臺、黃鶴樓の西には石鶴亭〔石照亭〕がある。金口廻峰寺の左には陶公祠がある。晉の陶靖節が登口を過した時作つた詩は江上吟詩と傳へられてゐる。

中支方面

上海〔上海神社〕在留邦人唯一の氏神で、大正八年建立、脇殿の招魂社は上海事變に戰死した皇軍將士及び居留邦人を祀つてある。驛より二粁半〔公園〕

上海北部隨一の公園で虹口公園とも稱し園内は池を除く外一面の芝生で、ゴルフ、庭球、野球、プール其他陸上競技場、射的場等あり、往年の極東オリンピックは此處で開催された。また先年上海事變後天長節祝賀式に參列された當時の白川大將、植田中將、重光總領事をはじめ諸名士が一暴漢の投じた爆彈に殪れ又は傷ついた事件のあつたのも此處である。驛より二粁半。〔市政府〕支那獨特の建築で内部は美麗を極め、戰前は集團結婚式場に屢々利用され、今事變には相當猛烈な砲火を浴び一部破損したが、既に皇軍の手に依り完全に修復された。以前は租界にあつたが、上海事變以後上海東部に新市街の開設計畫し、その市街の中央に市政府を建築したもので、費用三百萬弗を要したと云はれる。驛より十二粁。〔パブリツクガーデン〕

蘇州河と黃浦江との合流點にあり、向ひ側は浦東に對し江中に船舶の往來を眺め、後方にバンドの高層建築物を望み遙か上流に十六舖の遠景がある。附近のガーデンブ

リツヂは上海最古の鋼橋である。驛より二粁半。〔靜安寺〕共同租界靜安寺路にあり約二千數百年前吳の大帝の建立にかゝり、歷史と傳說とを有つた古刹で、寺前の井戶は古來から支那第六泉の稱があつたと傳へられる。驛より五粁。〔湖心亭〕驛より八粁、舊城内にあり、杭州の三潭印月に倣つた稻妻形に曲折した風雅な橋が斜に架つて居り、橋の半ばに亭を設け藥、點心等を鬻いでゐる。

崑　山〔馬鞍山〕上海蘇州間は見渡す限りの平原であるが、崑山驛近く飄然と摺鉢を伏せたやうな山、これが馬鞍山で一名崑山とも云ふ。山頂に寺院あり背後に赤い古塔が中天高く聳え平原の風致を引き立てゝゐる。

蘇　州〔北寺〕驛より一粁半、吳の孫權（約千七百年前）が創建したと傳へられ報恩講寺とも呼ばれる。寺塔は高さ二百五十尺、直徑四間、石骨木造の九層樓で蘇州七塔中登り得るは此の塔のみである〔瑞光寺〕驛より四粁二、吳の赤烏年間の建立で其後再三火災に逢ひ、現在のものは宣和年間（約八百五十年前）の建立と云はれ、往時は點燈して舟行の目標とした。〔開元寺〕驛南方四粁、瑞光寺の稍北にあり、咸豐年間燒失して現在では無量殿のみ殘つてゐる。無量殿は明の萬曆年間神宗の勅命に依り大藏經を藏めるために建立したもので、火災に備へるため木材を使用せず、細甎にて造られ、殿内安置の石佛は晉の建興年間（約千六百年前）一漁夫が海中から拾ひ上げたものと傳へられる。〔孔子廟〕驛より四粁、北宋朝の賢臣范仲淹（九百餘年前）の建立にかゝり、境内二萬坪、規模の壯は江南第一と稱せられたが、惜しくも長髮賊の亂に蹂躙せられ現在のものは同治七年の重建になるものである。〔滄浪亭〕驛より四粁、別名を五百名賢祠と云ひ、吳越の時廣陵王の元璙池館の跡と傳へられ、宋の蘇舜欽が配謫の身を此處に寄せ、風光を樂んでゐたことによつて名高く、滄浪の詩はこの時作られたものである。〔獅子林〕驛より一粁七、元朝の至大年間に僧天如禪師が築造されたものでその風韻雅趣は世に知られた時もあつたが、現在は俗臭芬々として古趣の俤をとゞめてゐない。〔寒山寺〕驛より六粁、梁の文帝（約千五百年前）時代に建立されたが、前後五回の火災に遭ひ、長髮賊の亂には全くの焦土となつたが、淸末に至り愛知縣人山田寒山が此處に來て、文衡山筆の楓橋夜泊の詩碑を發見したのが再建の端緒となつたものである。古い詩碑は繼ぎ合せて壁に嵌め保存してあるので讀み難いが新碑は淸末の儒者兪曲園の書で市井に賣られてゐる石刷はこれである。名聲に比し餘りにも貧弱な等であるが、今は皇軍の溫い手に依り寺院の内外共修理されてある。こゝの梵鐘は山田寒山が伊藤博文公を後援に內地で鑄造寄進したもので、鐘名は博文公の文選、書は杉聽雨子爵である。

〔虎邱山〕驛西北四粁、海湧山とも稱び、吳王闔閭を多數の寶物と共に葬つた處である。この附近には傳說に富む古蹟多く、憨々泉、試劍石、貞孃の墓、千人血石、劍池、雲巖寺等がある。〔虎邱塔〕山頂に傾斜してゐる筍型の古塔で、隨の仁壽年間（約千三百年前）の建立にかゝり、山麓には李鴻章を祀る淸園がある。〔天平山〕蘇州の西南二十支里、楓橋から稍南まで舟行し西へ折れると山麓に達することが出來る。山麓の白雲寺は宋の范仲淹の功德院で園は乾隆帝が高義園と名付けたものである。〔靈巖山〕蘇州の西三十支里、高さ三千六百尺、山中から硯石を產するので硯石山とも稱ばれ、山頂の圓照塔は蘇州七塔の一である。

無　錫〔太湖畫舫〕城内に近く無錫河岸に畫舫、民船、荷物船等が群繫されてゐるが、こゝは無錫市街の碼頭で船客の出入多く、太湖を觀光するには此處から畫

舫を浮かべると一時間にして達する。〔妙光塔〕驛より四粁、無錫城南門外にあり、なだらかな山上に聳えてゐるこの塔の眺望は雅趣掬すべきものがある。

常　州　〔天寧寺〕驛より二粁、弘法大師留學所と云はれ、江南に於ける第一寺院で、事變前は僧侶六百有餘が修業してゐた。現在でも二百名位居り、天王殿の佛像は泥製ではあるが羅漢の數五百體もあるので有名である。

丹　陽　〔文筆塔〕驛より二粁、丹陽城東門外運河碼頭に聳立し、江南に於ける名塔の一であり、七層八角、平野に屹立する眺望は南畫そのものゝ雅趣である。

鎭　江　〔金山寺〕驛より一粁、府城の北平野の地點金山の頂上にある。創建は東晉代（約千四百年前）で寺院は宏壯な伽藍である。現在の堂宇は長髪賊の亂に燒けたものを再建したもので、空海が海路この寺に參禪修業したとも傳へられる。

〔甘露寺〕江岸に聳ゆる北固山上にあり、三面水を以て圍繞され、往時阿部仲麿がこの地に修業中「天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山に出でし月かも」の和歌を詠じたとの傳説あるも史實は明かでない〔焦山〕江の中央に位し甘露寺と相對し遙かに金山寺を望み、山中に清の行宮、自然庵、松寥閣、夕陽樓、文昌閣、定慧寺等あり各寶物を藏してゐる。〔揚州〕鎭江から小蒸汽で江を横切れば瓜州に至り、こゝから更に二時間溯航すれば着く。隋の煬帝は江都として離宮を作り、國都長安から四十の離宮を連ねてこゝに至る三百里を遊里したと傳へられる。

南　京　古く春秋時代は呉に屬し戰國時代は楚に從ひ初めて金陵邑を置いた。明の成祖の時に南北兩京をたてゝ南京と稱した。〔南京城壁〕支那第一の大城と稱せられるもので明の太祖が七年間を費して築きあげた大營造物である。〔貢院の跡〕南京市政府は歷朝科學の登龍試驗場であつた貢院の跡である。明の永樂年間、明遠樓（市政府の表門）を中心として建てられたものである。〔靈谷寺〕鐘山の東南にあり、梁の武帝は寶誌禪師のために塔を建て開善寺と呼び宋は太平興國寺と稱し後に蔣山寺と改む。明に至つて靈谷寺と稱し三巨刹の一と謂はれてゐたが清以來衰頽に委ねられてゐる。〔草堂〕鐘山の北にある。南北朝の時周顒が隱居してゐた所である。

〔玄武湖〕鐘山の南方にある。南京太平門内にある〔覆舟山〕その南の〔樂遊苑〕は今は跡形もなく荒れてゐる。毘盧寺東南の荒墟が即ち有名な明の故宮で太祖洪武帝の紫禁城の遺址である。〔清涼山〕漢西門から約一粁半餘、唐代は清涼大道場となり宋代は廣慧禪寺と呼ばれてゐた禪宗の大道場である。唐代には日本から空海上人以下多數の僧侶が留學して參禪してゐた。水西門内にある〔冶城山〕は呉王夫差が佩劍を鑄たとの傳説の地である。中華門近く丘陵に雨花臺がある。梁の武帝の時名僧雲光法師がこゝに坐つて法を說くと天が感動して花の雨を降らしたと謂ふ。〔釣魚巷〕秦淮斜巷の中心地。河岸には無數の畫舫を繫し岸上には妓院酒樓が竝んでゐる。孝陵の右手鐘山腹の〔中山陵〕は孫文の遺骸を北京から帝王の禮を以て運び葬つたものである

〔鷄鳴寺〕梁の武帝が早朝、瑯琊城に行幸した時こゝに至つて始めて鷄鳴を聞き、それに因つて同泰寺を鷄鳴寺と改めたと傳へられてゐる。六朝累代の居城であつた建康宮の故址である。〔鼓樓〕明の洪武十五年の建造で樓上に聖祖の戒碑を安置し關壯繆を祀つてゐる。

鷄鳴寺と鼓樓との間に高く聳えてゐる〔北極閣〕は元の至正年間に創立した觀星臺の遺跡である。〔莫愁湖〕水西門を出ると艶史に名高い莫愁湖がある。宋代の美妓盧莫愁がこゝに住んでゐたので莫愁湖の名が起つたと謂はる。〔大報恩寺〕城南聚寶門外の古長千里にある呉の大帝の創建で阿育王塔を置き江南に於ける塔寺の始めであると言はれ梁の武帝は之を重修し宋に天禧寺、元に慈恩旌忠寺と稱した。後に燒けて明の永樂十年に再建して今の寺號となつた。〔明孝陵〕鐘山の麓の大山陵は即ち孝陵で明の太祖とその妃とを併葬してある。

朝陽門から麒麟門までの間に所謂十三陵があり、その中には呉大帝、宋の武帝、文帝、晉の元帝、明帝、成帝、哀帝の陵がある。〔獅子山〕儀鳳門内の小山が即ち獅子山で、晉の元帝が盧龍山と呼んだ山であつて今の名は明初から用ひられ古來軍事上の要所とされてゐる。故宮の東北に王安石の居室であつたといふ半山寺がある。蘇東坡が屢々遊んで詩を賦したところである。

新龍華　〔龍華寺〕驛より三粁、上海佛祖界の西南十粁、黃浦江上流の西岸にあり、天台宗十刹の一である。孫時代の創建と云はれ、現在堂宇は九六〇年前の再建である。

嘉　善　〔叢園〕驛より約一粁、北門外にあり、樓台、亭閣多く、築山なども設けられ、花卉を栽し、毎年花季には之を開放して一般の觀覽に供してゐた。〔採菱〕嘉善附近の湖沼には菱が多く產し毎年初秋から初冬に至る期間、水面に齒を泛べて池中の菱を採るのであるがその光景は風雅なものである。

嘉　興　〔煙雨樓〕蘇州美人の流れを酌むと云ふ女船頭の櫓に船中の人となり、柳堤の風趣に詩情を滿しつゝ平湖内の煙雨樓に至れば、往古の文人墨客の書多く保存されてゐる。〔三塔〕煙雨樓から更に船を西南に進むれば浙干河に達し、風雅な幾多の皷橋を拔けつゝ溯航すれば至る。この塔は後唐の頃（約千二百年前）普豊と云ふ高僧が恩師孫一族の靈を慰むるために建立したものと云はれる。

長　安　〔錢塘江の觀潮〕この潮流は世界に比類なしとまで云はれ、舊曆八月十五日前後は之を觀賞せんとする旅人の來遊頻繁で戰前には臨時列車を運轉したと云はれる。流下する水勢と上騰する潮水とが衝突し、潮水は流水を征服二、三哩に亘る一條の水壁を作り漸次河にめがけて進む。この水壁は八呎乃至十二呎の高さに達し、一時間十三浬の速力を以て百雷の如き轟きを擧げながら狂奔せる悍馬の如き怒濤となつて河口に侵入し來る樣は實に偉觀である。

杭　州　禹貢の世には禹貢又は餘杭、秦漢時代は錢唐と稱し、唐時代は錢塘、宋の時代は臨安、元は杭州路とし明清時代は杭州府、民國に入つて杭州市と改稱した。〔西湖畔の名勝〕支那全土隨一の稱がある。湖は白沙堤と、蘇東坡の築造したと傳へられる蘇堤と、金沙堤の三堤によつて西湖、北裏湖、西裏湖、南湖に分れて居り、その周圍十三粁、三面山を繞らして秀峰翠を競ひ、碧水滾々と流れ、四季共に格別の趣がある。附近には西湖十景を始め靈隱寺、天竺寺、岳飛の墳その他名勝、古蹟頗る多く古雅な香を放つてゐる。〔昭慶律寺〕杭州驛西北方四粁、晉の高祖天福元年越王錢元瓘の建立である。〔保俶塔〕（寶石塔）驛西北方五粁、塔は呉宰相、呉延爽の建立で最初九層であつたのを宋の咸平年間に重修し七層とした。

〔斷橋殘雪〕驛西北方約五粁白沙堤の東端にある。淸の康熙帝南巡の砌西湖十景の一とせられた。斷橋より白沙堤を西行し錦帶橋を渡れば孤山の東部入口に到る。此所の平湖秋月は西湖十景の一である。驛西方約六粁、孤山の北部にある〔放鶴亭〕は元人陳子安が建てたもので、また中山公園西側の一部を占む〔文瀾閣〕は清の乾隆帝の勅建で四庫全書を藏してゐる。〔鳳林寺〕

驛西方七粁餘、葛嶺の西下にあり俗に喜鵲寺と呼ばれ唐の元和二年の建立、開山は道林卽ち鳥窠禪師である。「岳王廟」鳳林寺の西方にある。有名な宋の忠臣岳飛を祀る。この他に淸漣寺、雙峰插雲、飛來峰、韜光下天竺、中天竺、上天竺、淨磁寺、雷峰塔遺址、汪莊、錢王祠、石屋寺、烟霞洞、虎跑寺、六和塔、湖心亭等名勝舊蹟が甚だ多い。

「**錢塘の大潮**」舊曆八月十六日の大潮は錢塘の呼び物で浙江の名勝として數へられてゐる。會稽山下に山蔭の蘭亭がある。晉の王羲之の蘭亭曲水の遊びで普く知られてゐるところである。

古蹟古物名勝天然記念物 （假指定）滿洲

種類	名稱	地點
古蹟	關帝廟	吉林市北山
同	敖東城	敦化縣城東二里許牡丹江西岸
同	蘇密城	樺甸縣四區
同	保安寺	伊通縣榮市場街路北
同	公主陵	懷德縣高家崗村
同	龍灣塔	農安縣城大西門外
同	關帝廟	樺樹縣七區秀水甸子鎭
古物	吉林富將軍碑	同
同	大金得勝陀碑	扶餘縣三區石碑崴子
古蹟	蘊城	依蘭縣城北商埠區內
古物	太虛洞碑	賓縣二道河子車站東北十二粁 松峰山太虛洞內
古蹟天然記念物	松峰山 太虛洞	賓縣二道河子車站東北十二米 松峰山
古蹟	古墳墓	慶城縣城西南石人溝村東四粁
名勝天然記念物	興凱湖	密山縣鳳凰城警察署所屬
古蹟	靈寶寺	琿春縣城西二道溝子
同	馬碑石樁	和龍縣月晴村馬牌屯
同	般若洞 萬壽觀	莊河縣塔嶺區和睦村頭道溝
同	忽必烈塔	鳳城縣鳳凰山內城村
天然記念物	湯泉	鳳城縣二區東湯村
古物	好太王碑	輯安縣河西村東崗
古蹟	將軍塚	輯安縣城東龍山之陽
同	碑宍塚	輯安縣河西村西崗甲
同	文字塚	輯安縣一區大荒溝村
同	環文塚	輯安縣大荒溝村羊魚頭甲
同	角抵塚	輯安縣河西村東崗甲
同	舞踊塚	輯安縣河村東崗甲
同	三室塚	輯安縣河西村
同	五盔墳	輯安縣河西村西崗甲
同	臨江塚	輯安縣河西村東崗街
同	太王陵	輯安縣河西村東崗
同	千秋塚	輯安縣蘇綫溝下流之東
同	四神塚	輯安縣河西村
名勝天然記念物	文華洞	撫松縣馬鹿溝（松江村）
同	仙人島	長白縣東南里許鴨綠江右岸
同	溫泉	長白縣十八道溝東崗坂下
古蹟	都城隍廟	奉天市中街路北
同	長安寺	奉天市大北門內
同	眞武廟	瀋陽縣三區學禮村十里河
同	寶寧寺	瀋陽縣三區學禮村附近紅寶石山
同	千佛寺	瀋陽縣八區廣民村蒲村河東营
同	朝陽寺	瀋陽縣二區大義村沙河子村西
同	河東夫子祠	瀋陽縣九區平安村二臺子村北處路北
古物	碑碣	撫順縣四區薩爾滸村東山
古蹟	高爾山塔	撫順縣舊城北門外高爾山頂
名勝	本溪湖	本溪縣大堡村
同	狗兒湯	本溪縣三區山城寨村
古物	西平寺碑	遼中縣茨楡坨區學校院內
古蹟	耀州城	海城縣四區岳州村
同	孫都督墓	海城縣城東南玉皇山麓
同	金塔	海城縣二區梁家隅子
同	銀塔	海城縣二區縣洞峪
同	鐵塔	海城縣二區析木城
同	龍臺（烽燧臺）	海城縣四區龍臺舖
古蹟	廟山臺（烽燧臺）	海城縣四區廟山臺
同	新臺（烽燧臺）	海城縣八區東新臺子
古物	古鐘	海城縣八區騰鰲堡保安寺院
同	古點	海城縣城內公園
同	三學寺碑	海城縣城地方法院內
同	同	同
同	同	同
同	同	同
同	保安寺碑	海城縣城佛教會院內
同	同	海城縣八區騰鰲堡村保安寺內
同	同	海城縣八區騰鰲堡村保安寺內

種類	名稱	地點
同	興盛寺碑	海城縣八區騰鰲堡村興盛村內
同	鎭河寺碑	海城縣五區哈達碑村鎭河寺內
天然記念物	石棚	海城縣三區石棚峪村西南嶺上
名勝	海城公園	海城縣城內
古蹟	海雲寺	營口縣夏家屯村迷鎭山上
同	上帝廟	蓋平縣城西門內路北
同	鐵塔	蓋平縣城東三里許門家屯
天然記念物	古松	蓋平縣接官廳村前後松樹溝
名勝	溫泉	蓋平縣三區陳家屯正白旗村南熊岳河沿
同	同	蓋平縣三區龍門湯村北河沿
同	同	蓋平縣二區礮家屯村黃旗堡東墳山寺山下
同	赤山	蓋平縣城東南三百六十粁郭家屯村
天然記念物	臨突山	蓋平縣徐家屯村塔子溝
古蹟	古塔	復縣四區舊城村
同	復州舊城	同
同	遼濱塔	新民縣八區奠長崗村遼濱塔屯
古蹟	巨流河城	新民縣一區茨棚庵村巨流河屯
同	圓通寺之白塔	鐵嶺縣城內
同	秀峰塔	鐵嶺縣龍首山山巓
同	慈淸寺	同
同	圓通寺	鐵嶺縣城內
名勝	龍首山	鐵嶺縣城東郊
古蹟	法庫門	法庫縣城北大股盡頭
同	寶塔寺	康平縣齊家村小塔子屯東街路北
同	崇壽寺前古塔	開原縣城內西南隅
古物	銅眞武像	縣城東北隅陽上帝廟內
古蹟	青雲石佛寺	昌圖縣八面城東南隅
同	金山寺	昌圖縣東大臺廟屯紅土山上
古物	古碑	西豐縣六區田太村
天然記念物	神樹	同
古物	合里哥謀克印	西安縣四區梨樹鎭鄉間
天然記念物	寒葱頂上	東豐縣九十區分界處
同	柳樹泉眼	東豐縣四區國林村
古蹟	摩崖石刻	海龍縣七區楊樹河村九紅十八鍋山
同	皇寺	興京縣老城東
名勝天然記念物	噴水泉	濛江縣一區三道濛江
同	龍潭	濛江縣一區西泊子
同	同	濛江縣四區龍泉鎭村
同	月牙泡	濛江縣一區城東
同	溫泉	濛江縣三區湯河鎭村金坑
同	吊水湖	濛江縣一區吊小湖
古蹟	大廣濟寺塔	錦縣城北街
同	雙塔	北鎭、縣城東北隅
同	北鎭廟	北鎭縣城西二十粁
古物	石坊	北鎭縣城中街鼓樓前
古蹟	上帝廟	黑山縣城內東北隅
同	奉國寺	義縣城內東街路北
同	萬佛堂	義縣六區萬佛堂村
同	磚塔又名嘉福寺塔	縣城內西南隅
同	佑順寺	朝陽縣城內中街
同	南塔	朝陽縣城內
同	北塔	朝陽城內
同	金塔	錦西縣城北二百八十粁安昌峴村
同	烽燧臺	興城縣城東二十粁四家屯村
古物	祖氏石坊	興城縣城內南街
天然記念物	溫泉	興城縣城東南十六粁
同	鐘乳洞	興城縣城西北二百六十粁曉溝新臺門村
古蹟	歪塔	綏中縣前衞
同	姜女廟	綏中縣六區老軍屯村
古物	石影壁	綏中縣前衞
同	妙法蓮華經	綏中縣前所初級中學校
同	羅漢像	同
同	硃砂像	同
名勝	朝陽洞	豐寧縣第一區犂嶺村
古蹟	菩山塔	隆化縣縣城西山
同	興隆寺	隆化縣城西南第一區臺吉營子五峰山距縣百六十粁
同	安州古城	隆化縣城東北隅
古物	石刻佛像	隆化第一區少府村北山古名石佛口距縣第八十粁
同	達魯花赤竹君碑	赤峰縣赤峰鳥丹警察署門前
同	鳥丹關帝廟院內古碑	
同	碑（卽全寧路新建儒學記碑）	赤峰縣赤峰鳥丹關帝廟
古物	張國公碑	赤峰縣赤峰東國公府村
同	石幢	建平縣城北古惠州城
古蹟	秀塔	淩源縣城西十八里堡

名勝天然記念物	平　泉	平泉縣署東喧嘩街
古蹟	東寧塔	寧城縣縣第二區大寧城内
同	溥仁寺	承德縣離宮東
同	溥善寺	承德縣溥仁寺後方
同	普樂寺	承德縣離宮東北
同	安遠城	承德縣離宮東北山麓
同	普佑寺	承德縣安遠廟北
同	普寧寺	承德縣離宮東北獅子溝
同	須彌福壽廟	承德縣離宮北方
同	普陀宗乘廟	承德縣須彌福壽廟西
同	殊像寺	承德縣普陀宗乘廟西
同	羅漢堂	承德縣殊像寺南

記念物統計

	古蹟	古物	名跡	天然物
吉林省	三五	四五	一九	二四
龍江省	四〇	四	二	一三
黑江省	四	―	二	一
三江省	六	―	八	―
濱江省	三三	三	一三	―
間島省	四二	一六	一二	七
安東省	五一	一九	八	一九
奉天省	二五七	七六	三三	三三
錦州省	九一	四八	三	七
熱河省	六八	七八	八	四九
新京特別市	一	七	―	―

戰跡

旅順線

旅順 半島の腥氣徐ろに去つて茲に三十歳、東亞の平和は日露戰役の賜である。旅順を圍繞する連峯と深碧の海面は幾萬の忠魂義烈が髣髴として永へに照臨し千載の下儒夫を起たしむる幾多の教訓が遺されてゐる

【戰利記念品陳列館】 建物は元露軍下士集會所であつたのを其儘利用したもので、わが砲彈の跡を存し小さい乍らもよく充實した參考館である。

現在各所の戰跡は爆破を受けた其の儘ではあるが、爾來歳を閲すること三十餘歳、然も戰跡に植林されてからは、その彿を異にするものもあるから、戰跡巡覽に向ふ人は茲に立寄つて充分なる當時の豫備知識を得られんことを勸める。

【閉塞隊記念碑】 第三回の港口閉鎖に戰死した我が勇士の屍を露國側で手厚く葬つて置いて吳れた好箇の記念碑であり、こゝに櫻樹を植ゑて櫻山公園と稱してゐる。

【白玉山】 旅順の中央に聳え、新舊市街の中間に當り山頂に碧空を突いて聳える表忠塔は工費二十五萬圓、二箇年五箇月を費して明治四十二年十一月竣功したもので、塔頂の砂彈臺には乃木、東郷兩將軍の表忠記が刻まれてゐる。後方の納骨祠は旅順攻圍戰に於て護國の鬼と化した二萬四千五百四十八柱の遺骨を奉祀してゐる。

【老虎尾半島閉塞記念碑】 老虎台燈台下の岩上にある。日露海戰に廣瀨中佐以下閉塞隊員の敵前敢行の武士道精神を永久に傳へるために建立せられ、刻字は東郷元帥の書である。

【東鷄冠山北堡壘】 旅順の防禦堡壘中の模範築城で、備砲數二十四、五門を有し、第一回の總攻擊には全滅の苦杯を嘗めた處である。その後我軍は地下坑道を掘り、敵の陣地を地下より大爆破、以後ペトン内部で露軍と數米の間に對峙し、一米又一米と戰友の屍を超えて進み、言語に絶する肉迫戰を演じ、我軍の死傷兵は九百、敵の守兵も殆ど戰死した激戰地である。

【望　臺】 旅順背面第一の高峰で露軍の防戰最もよく努めた處、名著「肉彈」の著者櫻井忠溫氏が傷を負つて轉落したのは此の山である。

【盤龍山東堡壘】 八月下旬第一回總攻擊の際第九師團の攻擊目標となり第七聯隊の如きは聯隊長以下悉く倒れ伏屍山を埋めたが、よく之を攻略し、旅順要塞に吾が光輝ある日章旗を立てた最初の堡壘である。この戰闘に於ける姫野軍曹以下三名の機關銃座爆破は千古不滅の功績である。

【松樹山堡壘】 山頂に近く右方に見える永久堡壘で砲二十七門を備へてゐた。この堡壘への攻擊は三條の坑道を穿つて大爆破をなしたもので、有名な白襷隊の突入したのは松樹山補備臺である。

【二龍山堡壘】 我軍は第一回の總攻擊後、二龍山攻略の支障となる鉢卷山を占領し、第二回を經、第三回の總攻擊には比隣各堡壘の集中砲擊を受け、我が前進選拔部隊の過半が地中に生埋めとなり、當時殘存した敵兵が三名に過ぎなかつたのをみても如何に稀な苦戰であつたかゞ判る。此處の占領はやがて旅順開城を促したものだと云はれてゐる。

【爾靈山(二〇三高地)】 此の山の攻擊で護國の鬼となつた將士の數は七千五百、旅順攻圍戰中最大の犧牲を拂つた聖山である。北方の斜面中腹には、乃木中尉戰死の碑があり、山頂には乃木將軍の有名な「爾靈山之詩」碑が聳え萬人に仰がれてゐる。

【水師營】 開城に際し、一月五日、わが攻圍軍司令官乃木大將と露國關東軍司令官ステッセル中將との會見の地である。當時使用した民家は、目下戰蹟保存會の手に委され彼の唱歌に名高き棗の樹は、今も庭にあつて綠濃くさかえてゐる。

【露國忠魂碑】 市外小案子山東麓にあつてわが政府が建立したもの、明治四十一年六月十日の竣功、露國一萬四千六百三十一の英靈が永へに眠つてゐるのである。除幕式には我國より乃木大將勅命を奉じ、これに對し露國皇帝も同樣はるゞゝと名代を派遣された。これは又實に敵にもあつき武士道の精華を世界に示した我等の誇である。

觀察順路 左記の各項は驛を基點とする

イ　二日行程…第一日　閉塞隊記念碑—白玉山表忠塔—博物館—大正公園—大案子山—二〇三高地—港口　第二日　戰利記念品陳列館—東鷄冠山北堡壘—望臺—盤龍山—二龍山—松樹山—水師營—露國墓地

ロ　一日行程…白玉山表忠塔—戰利記念品陳列館—東鷄冠山北堡壘—水師營—博物館—二〇三高地

ハ　半日行程…A…白玉山表忠塔—東鷄冠山北堡壘戰利記念品陳列館

連京線

金　州 **【三崎山】** 金州西門を出て西南約三百米のところ鐘崎、山崎、藤崎の三士が死に就いた地に一本の橡の木の下に柵を繞つて碑が立つてをり、山上東端に三烈士の石碑が立つてゐる。蓋し三崎山とは三士の姓に崎の字あるに據つたものである。城内より碑まで一・六粁。

日清の役にあたり、我が第二軍の通譯であつた此の三志士は明治二十七年十月二十三日花園口に上陸し、金復二州の敵情を探るべく變裝して碧流河畔に出たが、悉く清兵の爲に捕へられて金州の獄に繋がれ、同月三十日の日暮れ時、西門外刑場の露と消えたのであつた。翌二十八年二月七日漸くにしてその遺骸を發掘し、この岡の上に「大日本志士(各姓名)君捨生取義之碑」三基を建てたのであるが、遼東還附の事あるに及んで此の碑を東京泉岳寺に移し、後大正二年今の「殉節三烈士碑」が建設された。

【南　山】 金州驛西八百米。百米に足らぬ低い山で緩傾斜であるから登山極めて容易である。山腹には日露戰役後金州の滿洲人士が我軍の忠烈に感激して建てた昭忠碑があり、頂上近くには鎭魂碑、山頂には戰蹟塔が聳えてゐる。

日露の役に當り露軍は之に三段の散兵壕を掘り鐵條網を張り半歳を支へ得る防備の施設と自信を有しフォーク將軍の率ゆる東部西伯利亞狙擊步兵第四師團之を死守したるに對し我が奧大將の第二軍は筑紫、平遠、赤城、鳥海の四艦の協力を得て、明治三十七年五月二十六日の未明から總攻擊を開始し

觀光地(戰跡)

黑戰苦闘の結果終に同日の日沒時に至つてこの堅壘を占領したのであつた。この戰闘の如何に慘憺を極めたかは我軍の死傷者が四千三百八十七名に及んで實に全員の九分の一に相當したのを以ても想像し得る。

【乃木少尉の碑】 驛の東二粁、八里庄の警察官派出所の裏手、櫻林の中に乃木勝典少尉の碑が立つてゐる。明治三十七年五月二十六日少尉が金州東門外に傷き此地に於て歿したのである。この一帶大和尙山麓の村は八里庄も七里庄上壽も陳家屯も淸流のせゝらぐほとりに連つた平和な村里で杏花の名所として知られてゐる。

【王　家】 五家驛の東北畑地は奧軍前衞の砲列を布いたところである。驛北約六粁回頭河右岸の龍王廟は我軍の最も苦戰した地で記念碑が立つてゐる。又驛北四粁の老狐山は頂上に高麗城址と傳ふる高さ約一・二米の石壁が殘つてゐるが、我軍が砲を山頂に引上げて龍王廟に據る强敵を側射敗退せしめた戰場として傳へられてゐる。

得利寺の會戰は明治三十七年六月十四、十五日の戰で、敵將スタケルベルグの率ゆる三箇師團が旅順救援の目的を以て南下し來るを我が奧軍の三箇師團が迎擊せんが爲北進し瓦房店の接戰に始まつた遭遇戰であつて、王家と得利寺との中間なる龍王廟の丘陵で行はれたものである。彼我の砲門實に三百、一大激戰で我が死傷一千餘、敵の死屍二千を算した。

【太平山】 驛西六粁の太平山は日淸役に乃木旅團苦戰の地東北十二粁の紅旗山、その南の靑龍山及び牛心山は共に日露役の大激戰地で敵將クロパトキン負傷し此の地の敗戰は大石橋陷落の原因を成した。

【海　城】 日淸戰役に我が桂中將の率ゆる第三師團は明治二十七年十二月十三日海城を攻略したのであるが、岫巖、析木城を經て此處迄の行軍は路面氷結して人馬を苦めしこと甚しかつた。同月十九日には海城の西南缸瓦寨へ進出して敵軍を擊退した。

日露戰役には、海城の敵軍は堅牢に造れる防禦陣地を棄てゝ遁走した爲、我が第二軍は一戰をも交へずして明治三十七年八月三日之を占領した。

【首　山】 日露戰役には敵の西比利亞第一軍團この丘陵に據り向陽寺、新立屯等にも陣地を築き第二軍團その東に連つて遼陽街道を扼したが交戰三日にして明治三十七年九月二日我が奧軍の手に歸し遼陽攻擊の根據地となつた。第三十四聯隊の關谷聯隊長、第一線右翼の橘大隊長等の勇戰討死したのはこの戰闘で、今も軍神橘中佐の名は一小丘橘山の名を生み、山上の關谷大佐の碑と共に中佐戰死之處の碑を留めてゐる。

【遼　陽】 驛の南一・五粁に弔忠魂碑がある。碑の高さ十三・五米日露戰役に蓋平沙河間に於ける戰歿者一萬三千三百餘名の靈灰を納めてゐる。驛の東南四粁餘、城の南門外にある玉皇廟は遼陽戰に當り露軍が閉鎖堡及び角面堡等を設け半永久的に築城をなした所、我が第四軍が多大の犧牲を拂つて明治三十七年九月三日の夜奪取した戰場である。驛の西方三十五粁の黑溝臺は三十八年一月二十五日露將グリツペンブルグの率ゆる百二十箇大隊が我が滿洲軍の左翼立見支隊を包圍し危殆に瀕せしめたが我が援軍到つて漸く擊攘するを得た所である。

遼陽の大會戰は露軍の十三箇師團に對し我の十箇師團を以てしたもので、明治三十七年八月二十三日第一、二、四の三軍は遼陽總攻擊の準備成り八月三十日攻擊を開始し九月四日南門を占領するまで六日間の激戰が行はれた。堅固なる陣地を構築されてゐたから敵の抵抗頑强にして死傷者續出し慘憺たる戰闘であつた。

【煙　臺】 驛東三粁の東煙臺は明治三十七年十月から翌三月に亘り我が滿洲軍總司

令部を置き沙河戰及び奉天戰を統帥した地で記念碑が建てられてある。

炭坑を距る北西約十米平野の間に單獨直立せる小邱は有名なる三塊石山にして、邱上三箇の奇岩直立す故に此名あり、沙河會戰の際アレキサンダー第三世名譽聯隊の守備せし露軍の中堅にして我が姬路師團の勇戰奪取した所である。

寺山は炭坑を距る北西約六粁石硎山とも稱し沙河會戰の當時ザルバエフ中將の主力此處に據りしを我が岡崎旅團が陷せし所。

饅頭山は炭坑を距る南約十粁太子河右岸に屹立せる一小邱にして遼陽會戰の際黑木軍の第二師團が露軍の左背側を衞れる第十七軍團の一部を驅逐して山上を占領したる激戰場にして死傷の多きこと遼陽に亞げりと。其他磨盤山、仁平山等何れも戰蹟として著名である。

【沙　河】 日露戰役に著名なる沙河會戰沙河對陣の行はれた地である。明治三十七年十月十日から戰端を開き兩軍は沙河を挾んで相對し數月の嚴冬を送つた戰線の中央で、驛現在の建物は當時彼我砲火の集中點となつたが大破を免れ、多少の修理を加へた記念す可き建物である。

驛の東南五粁、後臺山（勝山）は我が第二軍の戰場である。驛より約五百米、沙河鐵橋北岸の松林は地獄松原と呼ばれ、彼我の死傷算なく慘烈を極めた所である。驛東六粁には我軍の苦戰した萬寶山がある。

【奉　天】 **滿洲事變** 滿洲事變は昭和六年九月十八日午後十時三十分突如として奉天、文官屯間の柳條溝に於て、我が滿鐵線を爆破したるに端を發した。

當時、虎石臺獨立守備步兵第二大隊第三中隊は文官屯附近に於て、夜間警備演習中で、河本中尉の率ゆる線路巡察兵が線路上を南進して、北大營南方六、七百米附近に達した時、突如後方に一大爆音を聽き直に引返したところ、數名の中國正規兵が北大營方向に逃げるのでこれを追擊して爆破地點の北方二三百米、北大營構內に連る高粱畑に達すると忽ち兵力二、三中隊を下らぬ部隊の射擊をうけたので、直ぐ文官屯附近にある所屬第三中隊長に急報すると共に之に勇進應射した。第三中隊長は直に携行せる警備彈を以つて北大營西南地區により河本中尉を援護した。因にこの北大營は奉天軍の精銳王以哲旅團の兵營で、當時八千乃至一萬と稱されて居た。

獨立守備第二大隊長島本中佐は、第三中隊長の報告に接して中國軍の有力なる部隊が攻擊前進を企圖し、既に兩軍間の戰闘の事態を惹起して居るのに鑑み、今や我が寡兵を以て十數倍の敵に對抗するには迅速なる攻勢以外我が軍民の自衞と國威保全との途なきを察し、斷然機先を制して攻擊に決し、大隊本部及び第一、第四中隊は列車に搭じて午後十一時五十分柳條溝に下車、既に北大營西北の一角に地歩を占めて居た第三中隊に連繫して攻擊を開始した。

北大營の兵舍は、中隊毎に煉瓦造の平屋根を占めて竝んで居るので、一棟づゝ猛擊して之を奪取し、突擊に次ぐに手榴彈を以てして、逐次敵の抵抗を打ちまくつて行つた、數時間に亘る頑强な敵の抵抗を排除して、拂曉には逐次北大營東北地區に進出し午前五時三十分頃には同營全部を完全に占領するに至つた。この戰闘に於ける我軍の戰死者二、負傷者二十二で、我軍の埋葬した敵屍は三百二十に達してゐる。

當時奉天にあつた第二師團の平田聯隊は事變を知ると直ぐ緊急集合をなし奉天城と兵工廠を占據東大營竝飛行場を始末するため、夜半から行動を開始し、夜明迄には城內全部を占據した、又夜明けと共に、遼陽から多門師團長以下同地の步兵隊、海城から野砲隊が續々到著したので、師團長の指揮で午後二時迄には、東大營の飛行場、兵工廠等全部我が手に歸した。この間中國兵は機先を制せられ、遂に潰滅して東方に逃

走した。

・**日露大會戰**　奉天大會戰は、奉天を中心に半徑十二粁の圈內、總て當時の修羅の跡である。クロパトキン大將を總帥とする露軍は、從來の敗戰から一擧に奪回してわが軍に致命的の打擊を加へんとし、東は撫順馬群丹から、西は黑溝臺遼河に亙る實に八十餘粁の間、渾河を前にして彼我對陣した。我軍は既に沙河の冬營中に全軍の集中を終り、明治三十八年二月二十六日、大山總司令官より命令一下、奉天總攻擊の火蓋は切つて落され奮戰激鬪の後、三月十日、遂に奉天城頭高く日章旗を飜へし、わが名譽ある國史を飾つたのである。この會戰に參與した兵は、わが軍の二十五萬に對し敵三十二萬の多數で、わが軍死傷七萬、敵は九萬と算せられてゐる。鹵獲の主なるものは、軍旗三旒、砲四十八門、俘虜二萬二千。

【亂石山】　亂石山は滿洲事變に際し日本軍警の奮戰した所で記念碑がある。碑文に曰く「昭和六年十月二十一日夜日本軍及び日本鐵道警察隊は王以哲軍に屬する千二百餘の一團を迎擊之を潰走せしめたり」と。

尙此の記念碑の約十五米東方には亂石山居住民一同建立にかゝる王以哲軍戰歿者之墓がある。

【呂　圖】　驛西三粁、山上に日露戰役に於ける「滿洲軍最終陣地記念碑」が立つてゐる。列車が驛に入る前、線路の西沿に其の道標が立つてゐる。

【旗盤山】　驛の東約四粁、天橋山に次ぐ高い山で昭和七年九月附屬地を襲擊せる匪賊討伐のため出動せる警官隊が苦戰奮鬪の末水間巡査部長以下四名枕を竝べて戰死せる所山頂に四勇士の記念碑を建立してある。

泉　頭

・日露休戰締約地　驛南二粁西沙河子は明治三十八年九月十三日、福島少將とオラノフスキイ少將と會見し日露の休戰條約を締結したる地で日露戰史の最後の頁を飾るべき最も記念深き所である。

顧るに日露戰役は開戰以來二十箇月を閱し、我軍の全兵力動員總數は約百萬人、我が損害は死者八萬四千餘、傷者十四萬三千陸軍軍事費は十三億七千五百萬圓と註せられ其の大多數が滿洲の地に於て費された。

【四平街】　四平街は明治三十八年十月十三日、我が滿洲軍參謀福島少將と露國滿洲軍參謀オラノフスキー少將が撤兵手續及び鐵道受渡順序を議定したる日露戰史上記念すべき地である。

新　京

〔南　嶺〕　附屬地から南方四粁餘の丘陵で、兵營は前淸朝時代咸豐年間（八、九十年前）に設けられたるものにして、事變當時支那砲兵、步兵各一旅、外に機關銃隊、迫擊砲隊、輜重兵隊、自動車隊等四千四百の軍隊があつたが、昭和六年九月滿洲事變勃發するや、長春駐屯步兵第四聯隊第二大隊長石黑少佐は九月十九日午前三時から行動を起し、二箇中隊及び機關銃隊一箇小隊を率ゐて先づ砲兵營を攻略し、折柄來援の公主嶺獨立守備隊第一大隊と協力して步兵營に向ひ激戰九時間の後南嶺一帶の全陣地を占領した。此の戰鬪に於ける我軍の損害は守備隊側倉本少佐を初め戰死三十八名、負傷三十九名、四聯隊側戰死五名、負傷十六名、合計戰死四十三名、負傷五十五名で敵の損害は三百餘名に上つた。

【寬城子】　寬城子の兵營は曾て露國兵營であつたが、其の後吉林督軍麾下の兵營となつた。大正八年七月寬城子街道を通行中の一滿鐵社員に對し支那兵多數が暴行を加へ、瀕死の重傷を負はしたのに端を發し日支兩軍の衝突となり所謂寬城子事件を惹起した。昭和六年滿洲事變に際しては、我が步兵第四聯隊本部が十九日未明武裝解除に向ひたるに敵は之に抵抗し、戰鬪は午前五時から十一時迄繼續した、我軍の戰死二十四名、負傷四十三名を出し、敵は兵數六百名の中戰死傷約四十名、捕虜三百八十六名を算した。

寬城子、南嶺とも敵は白旗を揭げて降伏を裝ひながら、不意の攻擊を行ひたる爲我軍の損害は比較的大であつた。

營　口　線

【營　口】　驛から二粁、郊外牛家屯に營口防衞記念碑がある。これは明治三十八年一月露將ミシチエンコが騎兵三千を提げて我が乃木軍の北進を防ぎ、海城大石橋方面の鐵道を破壞し、更に兵站部を置ける營口を奪取して我軍物資補給の道を絕たうとした時に際し、我軍は僅か一箇大隊の寡兵を以てよく防備して營口を危地より脫し、敵軍を退却せしめた記念の戰場である。今も碑の附近に往時を語る塹壕が殘つてゐる。

撫順・安奉線

【撫　順】　撫順城一帶の地は日露戰役奉天會戰の最右翼に當り川村大將の率ゆる鴨綠江軍が惡戰苦鬪して天險に據り抵抗する敵將カタリンスキイの西比利亞第三軍團を擊破したところである。占領は明治三十八年三月十日。

兵家屯

【萬寶山】　驛の南二粁明治三十七年十月沙河會戰の追擊に際し第四十一聯隊を基幹とする山田少將の支隊夜襲を以て之を占領せしも露軍ノウヰコフ支隊長及びプチロフ支隊の猛烈なる回復攻擊を受け鵜澤聯隊長以下殆ど全滅して敵手に奪回せられた。其後再び我軍が奪出したが後援續かず遂に守備を撤して退却の已むなきに至つたのである。之れ沙河城を通じて我が唯一の敗戰で我が死傷四百五十に對し敵は三千の多きに達した。

石橋子

【沙河の會戰地】　沙河の上流に位し沙河平野の漸く蹙つて峽谷となる其の入口にあたる。敵將スタケルベルグの率ゆる步兵七十三大隊砲百五十餘門が康大人山から沙河を渡つて平臺子、石橋子に前進し此地の响山子の墳塋前に於て分れて大嶺土門子嶺に向つたゲルングロス中將の軍團と孩兒嶺から本溪湖の背面に向つたイワノフ中將の軍團及び威寧營から太子河を渡り本溪湖の東南方に迂回したレネンカンプ大將の軍團の運動が沙河戰の動機となつたのである。明治三十七年十月敵の此の主力の襲來に對し此の附近大嶺に於て梅澤少將の率ゆる三大隊の寡兵がよく防戰、人間の持ち續けられる最後の力まで賭し全滅に瀕しつゝも敵の大軍を辛くも破つたことは、其後の戰況を非常に有利に導いたのである。

【大嶺の隧道】　安奉線に入つて最初の隧道である。此の隧道の上は梅澤旅團奮戰の地で隧道の前後にいづれも線路の左側にその導標が建てゝある。梅澤少將が近衞後備步兵一聯隊の兵を以てゲルングロス中將の軍團に當つたのであるが隧道の東口にある娘々廟の僧が露軍に內應し山上から合圖して我が兵力を內報した爲一時苦戰に陷つたといふ。大嶺の戰蹟は一名軍旗山と稱する。

【本溪湖】　本溪湖は沙河大會戰の攻擊目標であつた。そして兜山はイワノフ中將の軍團によつて奪取を圖られ我が守備苦戰頑守し救援の島村旅團奮戰して前後五日の戰に彼我の死傷七千を算した。

【宮　原】　驛の東北四粁半、唐家庄子附近の地、小山の上に木標が立つてゐる。島村旅團を基幹とする諸隊が本溪湖東方高地にある優勢な敵の攻擊を受け、連日惡戰苦鬪、一部敵の奪取するところとなり危急且夕に迫つた時、閑院宮載仁親王殿下の騎兵第二旅團は橋頭を發し敵の背後を迂回、唐家庄子東方高地に展開し其の機關銃隊がレネンカンプ支隊の騎兵二十中隊を擊退した所である。宮の御武勳を永久に偲びまつる爲此の戰場を宮の原と稱する。

【橋　頭】　驛の南方一帶の台地白雲臺は明治三十七年七月露國第十軍團の步兵約一箇師團砲兵半箇師團の陣地を布いたところその陣地跡に今「大日本第一軍忠魂碑」が

立つ。驛西六粁の楡樹林子にも忠魂碑があり又驛西二十粁の塞拔嶺も皆共に同年七月中旬から八月下旬にかけて第十二師團激戰の地、就中橋頭は木越旅團奮戰の地として傳はる。驛南一粁、白雲臺南麓なる朝陽寺は楡樹林子の戰に井上第十二師團長駐屯し越えて宮ノ原の激戰に際しては閑院宮殿下御駐泊の寺と著聞されてゐる。

【連山關】 摩天嶺驛西十二・三粁、遼陽街道を扼した嶮で我が箱根の險に似る。日清、日露の戰場として名高い。日清役には黑龍江將軍依克唐阿、敗兵を收容してこゝを守り我が第五師團の今田大隊之を一旦占領したが戰略上退却したところ、又日露役には第二師團戰鬪を交へずして占領したが露軍東部支隊長ケルレル中將麾下の優勢な軍が明治三十七年七月四日及び十七日の兩度、曉霧に乘じて我が前哨に來襲し、擊退されたところである。こゝを亦五峰嶺とも呼ぶ、五箇の峙立した巖石のあるが爲である。嶺下に五峰觀と呼ぶ古い關帝廟がある。嶺上に日露役の戰跡碑あり、更に行けば丹朱の華表と石造の獅子とを置いた立派な蟠龍寺がある。關帝と娘々とを祭つてゐる。

【蛤蟆塘】 日露戰役の戰場は驛の東二・五粁のところ、鴨綠江岸に敗れた露將ザスリチの軍團が明治三十七年五月一日こゝの高地を收容陣地として退却掩護したるを我が木越旅團之を追擊して東西南の三方面から包圍し蛤蟆塘の谷底に追ひ込み劍尖敵背に擬して聯隊長以下多數の將校を生擒した。

【九連城】 驛の東方十六粁。此地は日露陸戰の第一戰の行はれた所で、この戰勝はその後の諸戰を好調子にした導因といつてよい。明治三十七年三月中旬から露將ザスリチ中將の一箇師團半、この附近一帶に陣地を構築して我軍の渡河前進を拒止せんとした。我が第一軍は四月二十九日より渡河を始め五月一日拂曉から全線に亘つて攻擊を開始し九連城一帶の高地を占領したのである。死傷者我軍七百六十一名、敵は俘虜を合して二千八百九十七名、日露陸戰劈頭の勝利であつた。今九連城東北方の高地に記念碑が建てゝある。朝鮮新義州より望見せられる。

京濱・濱洲・寧墨線

【哈爾濱附近】 北滿の大都・哈爾濱附近は比較的平穩であつたが、滿洲國國家成立近しと見た學良は新政府樹立を妨げんとして丁超、刑占淸、李杜等をして反抗せしむるに至り、在哈邦人は極度の危險に襲はれ、皇軍の出動を要請した。依つて昭和七年二月三日から五日に至り戰鬪は續けられて、遂に一萬四千の敵を驅逐して哈市を占據した、我軍の死傷九十六。叛軍は破れて濱綏沿線地方に現れたが、三月皇軍出動討伐に再起不能となつた。

【安　達】 昭和七年八月二十九日步兵第五十聯隊畠山大隊はこの附近を占領せる李海靑軍一萬を攻擊し、激戰三日遂に之を擊破し、李海靑を負傷せしめ大打擊を與へた。

【騰庫勒】 虎爾虎拉站北方約一粁の地にして昭和七年十一月十日岡原支隊奮戰の場所大興安嶺作戰の前衞地として蘇炳文軍主力に一大鐵槌を加へたる激戰地にして北方高地上に犧牲者二十勇士の記念碑がある。

【拉　哈】 昭和七年十月蘇炳文軍の背叛に伴ふ黑龍江省中原の擾亂に際し、拉哈警備隊は三百に滿たざる寡兵を以て一部を停車場、主力を以て拉哈市街を守備し、敵將徐子鶴五千の重圍を受くること半月、この間よく孤軍奮鬪屢々敵の虛に乘じて攻勢に轉じ敵に殲滅的打擊を與へ敵をしてチチハル襲擊の企圖を放棄し遠く敗退するの已むなきに至らしめた。

【訥謨爾河畔】 昭和七年十月黑田支隊は種村支隊を伴ひ、北方に敗走せる撲炳珊軍三千を急追し、十一月四日遂に一千五百の敵主力を訥河南方に包圍殲滅し、馬占山をして最後の雄圖を放棄し、當時海拉爾に在

つた蘇炳文の許に奔らしむるに至つた。

齊北・濱北・平齊線

【克山城】 平松旅團主力は齊克沿線の兵匪を掃蕩しつゝ、昭和七年六月七日克山に入城以來此地に駐屯屢々附近の討伐に從ふ。此間敵は前後三回に亙り克山城を攻擊し來り、其の一部は城內に侵入彼我白兵戰を演ずるに至りたるも我兵の勇敢なる反擊に遭ひ、合計四百五十の死體を棄て潰走した。

【泰安附近】 昭和七年十月蘇炳文軍の背叛に伴ふ黑龍江省中原の擾亂に際し、我軍約八十名の中島支隊は敵約六千餘の猛攻を受け、一部を以て泰安停車場を、主力を以て兵營を死守し健鬪實に旬日の長きに亙り隊長以下相次いで殪れ、彈藥も亦漸く缺乏を告げしにもかゝはらず、孤軍奮鬪其任を完了す。而も急を知りて馳せつけたる黑田、宍戸、種村支隊中宍戸隊に屬する川崎騎兵中隊は敵の重圍を突破して泰安兵營に入らんとし不幸千餘の敵の包圍に陷り隊長以下一名の生還者を除き全員呼裕爾河畔に恨みを吞んで悲壯な最後を遂げた。

【大荒臺】 呼蘭站東北約三十二粁にある昭和七年七月八日我が兩角隊は慶城方面より南下せる馬占山軍別動隊匪賊一千名の頑強なる抵抗を擊破して之に殲滅的打擊を與へ、馬占山をして越江及び吉林軍との提攜を斷念せしめ、急遽胞子會附近より東北方の山地に遁入するに至らしめた。

【安古鎭】(海倫附近) 昭和七年七月二十七日步兵第十五聯隊田中隊は馬占山軍主力を劉家店に迎擊し山林大濕地帶を急追二晝夜遂に西北河畔山神廟に於て之を擊滅した。

【大興附近】 昭和六年十月張海鵬軍に逐はれた馬占山軍は嫩江橋梁を破壞して北方に退却し大興東南方高地を占領した。依つて嫩江支隊は此の破壞橋梁修理を掩護中、十一月四日突如敵軍の挑戰をうけ、小數の兵力を以て惡戰苦鬪苦境に陷つたが、後續部隊の來着と共に一齊に攻擊前進し遂に敵を遠く西北方に擊退した地である。此の戰に於て支隊の將兵四百名中戰死者四十七名、負傷者百三十餘名を數へた。

大鄭・錦古線

【新立屯驛附近】 昭和七年一月十一日不破騎兵部隊は當驛を去る東北十粁の地點五臺子に於て敵兵二千有餘の重圍に陷りしも、隊長以下八十六騎は遂に之を擊退し、此時不破部隊長以下十四名壯烈なる戰死を遂げた。

【熱河討伐】 熱河方面は滿洲國たること顯著なるに拘らず反滿工作の巢窟となり省長湯玉麟及びその他の雜軍は張學良と通謀してわが軍の後方攪亂を圖つたため、昭和八年二月下旬より日滿兩軍は一齊進擊行動を開始し、三月なかば、遂に彼等を關外に討伐驅逐した。我軍の戰死傷者三百八十九名。

かくて敗退せる支那軍は尙も執拗に挑戰を反復したるため、皇軍は再度北支に進出するの已むなきに至り、その先鋒將に北京に迫らんとするや、支那側は停戰希望を申出で五月三十一日塘沽に於て停戰協定成立し、東洋和平の曙光をみるに至つた。

【公營子附近】 昭和八年四月二十日、長城線に於ける戰雲急なる時、我が兵站部員は兵器、糧秣輸送の任務を帶びて寡兵克く數粁に亙る長蛇の如き馬車列を督勵掩護し、黃塵渦卷く四百餘粁の惡路を進行中兵匪、土匪の襲擊を受けたるも良く之を擊退しその任を全うした。驛北方一粁。

奉山線

【繞陽河驛附近】 昭和六年十一月二十七日奉天獨立守備隊第二大隊は鐵道警備の命を受け第一輸送列車に乘じ、當站東方約五粁附近に達するや、前方にありし我が裝甲列車は、敵裝甲列車と遭遇戰鬪開始、此時裝甲列

車は極力攻擊前進を續行せしかば、敵は線路橋梁を破壞して繞陽河に據り、尚頑强に抵抗した。この時大隊附板倉少佐は敵の砲彈破片腹部を貫通して名譽の戰死を遂げたるも全員よく戰ひ遂に之を擊退した。

【大凌河驛附近】 昭和七年一月二十五日舊正規兵を合む約一千の匪賊大凌河守備隊を夜襲した。當時步兵第七十三聯隊第五中隊中村少佐以下五十二勇士守備に任じ、中十一名は鐵道橋に派遣せられた。中村少佐はこの時壯烈な戰死を遂げたるも各將兵の奮鬪により敵を南方及び西方に擊退した。

【山海關】 昭和八年一月山海關に於ける滿洲國警察隊と何柱國軍との間に衝突を惹起、遂に戰ひ開かれて我が守備隊之を救援、敵を擊退、關外に撤退せしめた。

【滿洲事變の結末】 事變勃發後、皇軍は廣漠たる滿蒙の地に作戰死鬪を續くること滿二箇年餘、戰鬪回數は一千回を突破し、有力なる部隊を以て行つた作戰は二十數回に及び、事變以來の犧牲又少なからず、戰死者二千五百六十六名、戰傷者六千九百六十九名に達し、本事變に使用した陸軍豫算は昭和八年度末までを合して約三億六千萬圓に達し、突發的事變のため宣戰布告による戰爭ではなかつたが、滿洲國建國により大陸の地圖は爲に一變し、東洋の基礎茲に確固不動のものとなつた。

上海附近

【八字橋】 陸戰隊本部西北方約一粁半の虹口クリークに架けられた橋梁及附近一帶の地で、曩の上海事變に於ては我陸戰隊の激戰地、今次事變でも敵は堅固なる陣地を築き閘北と共に主要陣地と爲し有力部隊を以つて八月十三日突如不法攻擊をなした。我方は之に應戰、敵は直ちに西八字橋を爆破し山砲、野砲の攻擊を始めた。我方は迫擊砲を以て應戰之を西方に擊退したが十五日には夜襲し來り、十六日には特志大學方面より有力部隊が逆襲した。之に對し橋本部隊は寡兵を以て蜿蜒二里に亙る第一線を死守敵に多大の損害を與へた。然しこの戰鬪に於て貫志、甲斐、城各部隊長は名譽の戰死を遂げられた。

【商務印書館】 北停車場と陸戰隊本部を結ぶ中間、寶山路にあり、敵の閘北陣地の重要據點で曩の上海事變に於て、我が攻擊により徹底的に損害を蒙り、修復せるところ、再び彼等の據るところとなつたもので、附近の密集せる大家屋に構築された陣地は、幾度か我が方の砲擊、空爆によつて損害を與へたが、敵は數回に亙り、新手の有力部隊を得て租界線に迫り、八月二十一日などは同方面正面の寶興路、虹口路、東虹江路一帶に再三夜襲を敢行し來り更に二十三日拂曉には敵の猛擊で一時は我が戰線は危しとさへ思はれたが、皇軍はよく耐え之を死守した。

以後同方面の中央軍は吳淞方面に移動し、保安隊が據つたが、大場鎭の陷落で全線退却し、十月二十七日にはさしもの堅陣も寶山路より西進した大西部隊、佐野部隊の聯繫により占據した。

【赫司克路ポケツト地帶】 邦人密集地帶に近い靶子路、北四川路が交叉する地帶である。南方は共同租界で外人義勇隊の警備區域を爲し北四川路方面よりの我が攻擊は不自由を極めたが、空軍の巧妙なる聯繫による爆擊でさしもの堅陣も崩壞するに至つた。十月二日陸戰隊土師部隊は路上のトーチカを占據、老靶子路方面より北進の佐藤部隊と共に敵を上海印刷所附近に包圍し、肉彈戰を以て奪取した。

【鐵路管理局竝に北停車場】 鐵路管理局は赫司克路の西方にあり、八階建の堅固なるコンクリート造りで、それ自身堅固なる要害であつた。事變突發後は北停車場と同樣、共同租界に接近する特殊地域を利用し、敵の右翼部隊がこれに據つてゐた。土師部隊は閘北總攻擊後幾多の犧牲を拂つた

が十月二十七日には遂にこれを占據した。

一方北停車場は管理局と同樣閘北戰線の最右翼として共同租界南市より絕えず新手の兵を入れて執拗なる抗戰をなしたがこれも前者と同日土師部隊によつて占められた。

【楊樹浦】 共同租界東部方面就中楊樹浦、黃浦江沿岸は我が國の船會社、棧橋、倉庫、紡績工場竝に住宅等が多數に存在してゐる。八月十三日以後は逸早く、陸戰隊が警備の任についた。然し敵は有力なる大部隊を以て租界侵入を企て、こゝに幾度か彼我の間に激戰が行はれ敵の銃砲彈竝に空爆により火災を生じ、內外人所有の建築物も大部分烏有に歸した。戰鬪の最も熾烈であつたのは八月十七日の敵夜襲で、翌十八日迄延長十六時間ブッ通しに行はれ、我が陸戰隊は裝甲車を先頭に公平路を北進、渡邊部隊長指揮による砲兵は敵の第一陣地西華德路を砲擊、白兵戰の結果敵の第一陣地を占據。翌八月十九日より二十日拂曉に至つては、敵は我に十數倍する勢力を以て最右翼の最前線柴北部隊を攻擊し來たが、同隊は勇戰奮鬪これを擊退。八月二十一日夜には敵は楊樹浦方面西部に戰車を先頭として、迫擊砲、機關銃を以て同地警備の月岡部隊の正面を襲擊し來り、我方は直ちに反擊を加へたが、敵は幾度も執拗なる夜襲を試みた。此戰鬪中大淵部隊長以下數名の陸戰隊勇士は公平路に於て、敵戰車三臺を捕獲した。二十二日夜には滙山公園北方地區の敵三六師の有力部隊の逆襲を受けたので我が土師部隊は之を反擊租界外に退けた。

【飯田棧橋(虬江碼頭)及東部軍工路】

國民政府は國權回收の一手段として虬江碼頭を大々的に建設し租界の繁榮を市中心地區に吸收せんとし、碼頭工事半ばにして今次事變に至つた。北支事變起るや蔣介石は我軍の上陸を虞れ黃浦江岸殊に東部軍工路、市政府附近に陣地を構築し、上下する日本船を射擊した。九月六日飯田支隊長は軍工路の開放、公大飛行場の確保と云ふ任務で主力は滬江大學附近に、中村部隊は虬江碼頭に上陸した。敵の抵抗極めて頑强で攻戰八日、飯田部隊長初め幾多の犧牲を拂ひ壯烈悲壯を極めたが、森原大尉よく部隊長の遺志をつぎ力攻更に五日間、九月十三日午前遂に軍工路の堅陣を突破し、市政府に進出し日章旗を高く樓上に揭げた。

軍工路の敵陣地は滬江大學東北約五百米附近クリークを右翼とし道路に沿ひ本陣地を築き鐵條網を張り其前方畦を利用し數線に陣地を構築して居た。軍工路敵陣地突破により我陸海軍の公大飛行場の使用と吳淞上陸軍と上海との連絡が可能となり其功績は殊に偉大なる爲め、飯田部隊は松井軍司令官から感狀を授けられ其名を永く戰史に止めることゝなつた。飯田部隊奮戰の地として行人の淚をそゝるものは虬江碼頭職員官舍跡(飯田部隊長戰鬪指揮に當れる所)、飯田棧橋(中村部隊奮戰の地にして飯田部隊數百の死傷者を收容せし所)、飯田部隊長以下の墓地及び此附近の軍工路である。

【市政府・市中心地區・松井邑】 市中心地區は國民政府が國權回收、租界解消の目的を以つて立案した大上海都市計畫に基き建設途中にあつたもので、市政府、圖書館、博物館、病院、大運動場等があり事變前上海市政は既に此所に於て執行して居た。

事變勃發するや此附近一帶は支那中央軍の據る所となり、市政府は敵軍戰鬪據點となつて居た爲め我が艦砲射擊の目標となつた。

九月十三日森原部隊軍工路陣地を突破し敗敵を追つて同日晝頃市政府一帶の地區を占領し、片山部隊また北方殷行鎭方面から前進して、市政府北方音樂學校附近に進出し、江灣附近の敵と相對峙するに至つた。この日片山部隊と共に躍進した細見快速部隊は重疊する敵陣地を蹂躪して、復旦大學

附近に至り又一隊は其美路（松井通）を南下して海軍陸戰隊と連絡を取つた。

市中心地區の各道路は國民政府の功勞者又は政策、主義等を表徵する名稱を附してあつたが將兵の記憶に不便なりとし赫々たる皇軍の戰捷を後世に記念するため加納、倉永等上海戰歿部隊長の名や關係ある地名、人名を取つて日本式の名稱がつけられた。

其美路は將來大上海建設の大動脈であり、また軍事上からも極めて重要な道路なので、軍司令官松井大將の名を冠し之を松井通と名付け、小野部隊が戰鬪の餘暇を利用して路幅五十米に擴張し、昭和十三年十月一日其第一期工事を完成し開通式を行つた。

【江灣】（江灣鎭・江灣競馬場・復旦大學）

江灣鎭は上海防衞上の要衝である。從て昭和七年の上海事變に於ても江灣は有名なる激戰場であつて林少將、空閑少佐の壯烈な最期は今尚國民記憶に新たであり、其墓標は行人をして躊躇低徊去る能はざらしむるものがある。

今次事變に於ても此地は再び敵の嚴重なる防備を施す所となり、市政府附近に進出した我が片山部隊は江灣鎭、復旦大學、競馬場一帶に數線に構築した堅陣を寡兵を以て突破するは徒らに犧牲を拂ふ結果となるを慮り力攻を避けて對峙し後に谷川部隊到着するに及び之と交代して大場鎭攻擊に參加した。谷川部隊亦對陣約一ヶ月の後、主力軍の北方よりする大場鎭攻擊と共に之に呼應して猛然立つて攻擊を開始したが、敵は復旦大學等の建物を利用して頑强に死守した。十月二十六日大場鎭陷落するや前線總崩れとなり潰走を初めたので谷川部隊は直ちに急追を開始し、敗敵に多大の損害を與へつゝ蘇州河の線に敵を壓迫した。

江灣競馬場は一名萬國體育場と言ひ最近まではゴルフ場として使用せられて居た。

復旦大學は抗日教育の徹底せることに於て有名であり、學生は事變の開始と共に頻りに抗日運動を行ひ中には第一線に從軍したものも尠くない。同大學の防備は極めて嚴重で正規軍之れに據り最も頑强に抵抗をした。我が軍は文化機關を破壞するに忍びずとなし校舍を砲擊することなく死守する敵を猛攻したので非常に苦戰をした。維新政府樹立せらるゝに及び此校に維新學院を設け更生新支那に於る日支提携の官吏養成機關となつた。

【吳淞附近】（鐵道棧橋・倉永部隊長墓・吳淞鎭・白川橋・吳淞砲臺・松井軍司令部跡・寶山城）

上海派遣軍が八月二十三日未明敵前上陸を敢行したのは鐵道棧橋附近である。同日果敢な敵前上陸を決行したのは倉永部隊、鷹森部隊を主とするもので、之に海軍陸戰隊竹下部隊及陸軍船舶部隊櫻井部隊が協力した。江岸には敵が陣地を築き死守し、上陸部隊の猛擊にも一歩も退かず陣地內に格鬪して戰死したもの數知れず敵乍ら天晴れな抵抗を爲した。（上陸地點附近に敵前上陸の碑及び納骨塔竝に上陸戰鬪の際に於ける戰 死者の碑がある）

上陸軍は次第に地步を擴め縱深約千米、幅約二千米の地區を確保したが敵兵約十萬十重二十重に我を圍み我が軍寡兵之を如何ともすること能はず攻守所を變ふる有樣で、倉永少將、矢住部隊長以下多數の犧牲者を出すに至つた。（倉永少將の碑は軍工路西側に近くあり、此附近が倉永部隊本部のあつた所で同地で戰死した勇士の墓が並んで居る）

當時吳淞鎭永安紡績には優勢なる敵が迫擊砲、機銃を配置し我が軍を惱ますこと甚しかつたので局面打開の必要上八月三十一日未明鷹森部隊主力を抽出して吳淞鎭北側江岸に敵前上陸を決行し、同時に棚橋部隊を以て鐵道橋から吳淞鎭西側に突進せしめ艦砲射擊及陸海飛行機により吳淞鎭を完膚なき迄に破壞した。

この第二次敵前上陸部隊は頑强なる敵を

擊破しつゝ戰果を擴張し九月四日金田部隊は吳淞砲臺（吳淞砲臺は黃浦江口を扼する要害で阿片戰爭に於て英艦と交戰せる歷史を有し、前回の上海事變にも我軍に抗し停戰協定の結果之を毀却したものである。今次事變に於ては砲臺としての活動は出來なかつたが、迫擊砲機銃を備へ約一千の兵を配し、堅固なる野戰陣地として頑强に我に抵抗したのである）及び附近一帶を占領し、中島部隊は泗頭クリークの線に進出し金家宅に激戰を交へ九月六日金田部隊は寶山城を占領した。

同日羅店鎭方面から長驅獅子林砲臺を屠り、寶山城附近に進出した淺間部隊は吳淞砲臺棧橋に上陸した天谷部隊と寶山城外に於て歷史的握手をした。（寶山は寶山縣城で人口約二萬、此地方に於ける經濟都市であり海底電線の水陸接續點であつた。事變勃發と同時に支那正規軍此處を占據し良民を虐待した爲め殆んど全部避難して仕舞ひ窮民約五百が殘つて居た。鷹森部隊の攻擊愈々猛烈となるや支那軍は總退却に決し人民の同行を促したが人民は此上苦しめらるゝよりは日本軍の手にかゝり死んだ方が樂だと云ふので日本軍に虐殺せられるのを覺悟で踏み止まつた。併し日本軍寶山城を占領して入城するや窮民五百名に醫藥糧食を給し一指をも觸れることが無かつたので地獄で佛に逢つた如く喜び治安維持會を結成し日本軍保護の下に秋の收穫に從事した。寶山縣城には永く我が野戰病院を置いた）

江上に久しく上陸の機を待つて居た松井軍司令官は寶山城攻略と共に上陸し水產學校を司令部とし上海戰線の指揮に任じた。

當時支那側の抵抗は徹底的で一木一草鷄一羽も日本軍に渡さじと頑張り、後退に當つては民家を悉く燒却した爲め、皇軍は敵地を占領しても家屋の無いのに非常に苦勞した。荒廢の水產學校が之でも一番よい建物であつたことを見ても當時の戰況の一斑を知ることが出來る。

吳淞クリークに架する白川橋は前回の上海事變の後出來たもので當時の軍司令官白川大將に因み名付けられたものである。今次事變に於て敵は之を全部燒き落して仕舞ひ、鐵道橋も吳淞鎭に近い方を破壞して日本軍の北方進出を阻止した。八月三十一日鷹森部隊の主力吳淞鎭北方地區に敵前上陸をした時、之に策應して棚橋部隊はこの橋梁に沿ふ地區から攻擊し、其の決死部隊はトロツコに乘つて鐵道橋の破壞地點迄猛進しそれからクリークの敵岸に飛び込み手榴彈戰を交えて堤防を占領した。

吳淞鎭一帶を占領後松井謙部隊は元白川橋の燒殘り橋脚を利用し軍橋を架設し、白川橋の因緣を知らなかつた爲めその部隊長の名を取り、之を松井橋と命名した。完成後間もなく松井軍司令官此の橋を渡り松井橋の名稱を見、軍司令官の姓を以て名付けたるは怪しからぬことなりと大いに不興の面持にて水產學校軍司令部に歸還するや直に副官に命じて紙と筆を持參せしめ即座に「白川橋」と自書し直ちに之を橋に貼りつけよと命ぜられた。今橋に彫りつけてある「白川橋」の字は即ち之である。

【月浦鎭・叔里橋・獅子林砲臺】 九月四日吳淞砲臺棧橋附近に上陸した天谷部隊は同月六日淺間部隊と寶山附近に會し泗頭クリークの線に態勢を整へ、愈々九月七日よりクリークを越えて攻擊前進を開始し、安達、淺間兩部隊を以て月浦鎭を攻擊した。敵はクリーク、村落を利用して數線に堅固なる陣地を構築し頑强なる抵抗を爲し天谷支隊は死傷續出する有樣であつたが晝夜健鬪六日、十二日遂に月浦鎭陣地を突破し更に戰果を擴張し軍工路（寶山—月浦鎭—羅店鎭）道に沿ひ戰鬪を交へつゝ前進、特に叔里橋に於て激戰數日の後敵を擊破し、九月下旬羅店鎭附近に進出し永津、和知部隊突出の動機を爲し戰勢に一轉機を劃するに至つた。

獅子林砲臺は月浦鎭の東北揚子江岸に位置し江岸防禦陣地の據點を爲し前回上海事變の際に彼我の戰鬪を交へた所で停戰協定により備砲を破壞した所である。

今次事變に於て敵は一部の步砲兵を配置して之を守つたが羅店鎭から南下して來た

淺間部隊は八月三十一日之を占領した。

【楊行鎭・吳家宅・松井軍司令部跡】

九月四、五日の夜吳淞附近に上陸した藤田部隊後續の田上、石井部隊は鷹森部隊と交代して泗頭クリークの線に進出して警備につき九月七日から田上部隊は吳淞砲臺―楊行鎭―劉家行道に沿ふ地區から、石井部隊は其南方吳淞クリークに亙る地區から一齊に進擊を開始しクリークと村落とを點綴する世界に其類を見ざるクリーク地帶陣地突破に多大の犧牲を拂ひ惡戰苦闘一週間九月十二日遂に田上部隊は楊行鎭を、石井部隊は吳家宅を占領し、更に西方陣地帶の攻擊を續行した。泗頭クリークから荻徑クリーク迄は約十五粁の縱深を有するクリーク陣地帶であつたのである。

楊行鎭西側楊家宅は田上部隊が陣地占領後、藤田部隊司令部が此所に位置し部隊の戰闘を指揮した所で、田上部隊が劉家行を取り愈々大場鎭總攻擊の態勢を取るや、藤田部隊は劉家橋に進み、松井軍司令部の戰闘司令所を此所に移した。即ち此地は大場鎭總攻擊の最高統帥司令所で我が軍大場鎭を突破し蘇州河の線に進出するや軍司令部は周村(大場鎭南方)に轉移した。

【劉家行・顧家屯・金家灣・王丸房・荻徑クリーク】 月浦鎭、楊家行、廟村の堅陣を喪つた敵は、荻徑クリークの線殊に劉家行、顧家屯の線に本陣地を構え頑强に死守した。楊家行、廟村を奪取した田上、石井兩部隊は馬を憩ふ暇もなく連日の雨を冒しクリーク村落を點綴する縱深十粁の陣地を朝に一村、夕に一クリークと突破し隨所に激烈なる白兵戰を交へ火燒場、金家灣、楊木橋、王丸房に於ては戰闘殊に慘烈を極め一夜にして敵は五、六回の逆襲を試みると云ふ有樣で、我が軍の損傷も甚しく石井部隊の一隊の如きは隊長傷き以下殆んど幹部は死傷し田上部隊亦金家灣奪取の爲に多數の死傷者を出した。

かくして惡戰苦闘三週間九月三十一日、田上部隊は荻徑クリークを渡つて劉家行を占領し、石井部隊亦十月一日顧家屯の敵本陣地を突破し玆に大場鎭總攻擊の端を啓き赫々たる武勳を戰史に留めた。

荻徑クリークの兩岸には鐵條網を張り廻した堅固な陣地があつた。工兵隊と步兵隊との緊密な淚ぐましい協力により、決死の工兵が彈丸雨飛の中を躍り出て輕架橋を渡す、待ち構へた步兵は工兵に默禮して其橋を渡つて敵陣に突入する、橋が流されそうになるので工兵は水の中に飛び込んで下から橋を支へると云ふ有樣であつた。

田上部隊長は「泗頭クリークの線出發以來多數の部下を喪ひ上陛下に對し奉り下國民に對しても申譯なし、然し赫々たる部隊歷史の面目にかけても速かに我が部隊に課せられたる重大使命を達成せざるべからず。我が軍劉家行を占領せば眞先に軍旗を奉じて陣頭に進むべし」と覺悟を極めて居た。九月三十一日我が第一線が荻徑クリークを越へて劉家行に突入するや田上部隊長は今井少尉に軍旗を捧持せしめ、金家灣本部から劉家行に急進した。沿道にある傷者は跪坐して軍旗を拜し傷付かざるものは思はず立つて着劍捧銃をし淚潸々として下り其の情景は誠に感激の極みであつた。

【羅店鎭】(川沙口鎭・白壁の家・劉家鎭)

昭和十二年八月二十三日山室部隊は吳淞方面の敵前上陸に相應じ揚子江岸川沙口鎭に敵前上陸を敢行し若干の死傷者を出したが、直ちに進擊を開始し所在の敵を擊破した。中村部隊三十名は急進して上陸當日早くも羅店鎭に入つたが三、四千の敵の重圍に陷り奮戰格闘全滅した。和知、永津兩部隊は至る所に優勢なる敵を擊破し屢々壯烈なる白兵戰を演出して、八月二十六日遂に羅店鎭を占領し、淺間部隊は更に長驅して劉家鎭南方地區に進出した。然るに敵の兵力益々增加して我が軍の二十數倍に上り、

頻りに重砲、迫擊砲を以て我が軍を苦しめ我が軍は一箇月間羅店鎭附近に於て敵の重圍に陷るに至つた。此惡戰苦闘の間和知、永津兩部隊は屢々奇計を以て敵を反擊し敵をして端倪するの暇なからしめ、淺間部隊は吳淞方面友軍の危急を救ふため南方に突出して敵中を進擊獅子林砲臺、寳山方面に進出した。

和知、永津兩部隊の羅店鎭籠城間の近接戰闘は激烈を極め彼我二、三十米の近くに對峙俗稱「白壁の家」の如きは、談話手に取る如く聞え時に女人の舞踏するものすらありしと云ふ。然して敵の防禦施設日を追ふて堅固となりしを以て、九月下旬全線突出に當りては坑道戰、戰車並工兵の突破戰により、戰闘實に熾烈を極はめた。約一箇月の戰闘により、敵に與へたる損害數萬に及びたるも我が軍の蒙りたる損害亦尠からず、隊長以下幹部殆んど死傷せる部隊もあつた。山室部隊司令部跡、和知部隊本部、永津部隊本部及白壁の家等何れも當時の戰況を語り繼ぐべき遺跡である。

【大場鎭附近】(唐橋) 大場鎭は上海防衛の要衝で江灣、南翔を連ねる線には事變勃發と共に堅固なる陣地帶を構築し本式のトーチカ迄造り斷乎とし日本軍を此線に拒止し上海を防衛しようとした。

石井、田上兩部隊が劉家行顧家屯を占領したのを契機として軍は百八十度の大旋回を爲し、一部を以て羅店鎭西方地區から廣福附近に亙る敵を牽制攻擊すると共に、南翔から大場鎭、江灣にかけ深さは蘊藻濱クリークから、京滬線附近に亙る一大陣地帶に對する所謂大場鎭總攻擊の態勢を整ふるに至つた。即ち南翔方面には主として山室部隊、南翔から大場鎭にかけて吉住部隊、藤田部隊、大場鎭以西には伊東部隊之に當り江灣は東正面から谷川部隊が攻擊することゝなつた。之等諸部隊の攻擊準備は連日の雨天と頑强なる敵の抵抗とにより極めて困難を極め、加納少將以下多數の犧牲を拂ひ十月中旬遂に全線に亙る總攻擊を開始し、吉住部隊は激戰の後仙師廟附近の敵堅陣を突破して京滬線に迫り、藤田部隊は馬橋宅、走馬塘クリーク南北地區に於て激戰、十月二十四日大島部隊は大場鎭の一角を占領、伊東部隊また奮闘激戰、福井部隊、飯塚部隊(加納部隊)相前後して十月二十六日大場鎭を完全に占領、津田部隊は二十五日廟行鎭を占領し大場鎭東側地に進出、谷川部隊は二十六日江灣の敵を擊破し各部隊全線に亙り總追擊に移り二十七日蘇州河の線に進出し數萬の敵を大場鎭及其南方地區に擊滅し赫々たる武勳を上海戰史に留めた。

【蘊藻濱クリーク・加納少將戰死跡】

蘊藻濱クリークは大場鎭總攻擊の態勢を整へた線でこのクリーク渡河には我軍は多大の犧牲を拂つた。クリークの南岸に敵は數線の陣地を設け頑强に死守した。友田恭助伍長は渡河部隊として彈丸雨飛の中で敵前渡河の眞最中に敵彈に斃れたのであり加納部隊長、吉川部隊長以下多數の勇士は渡河後、小宅、曹宅附近に壯烈悲壯の最期を遂げた。

又張沿宅附近は津田部隊、田灣附近は福井部隊、本道上の唐橋附近は石井部隊の激戰渡河した所であり、西方陸家橋、頓悟、陳家行は伊佐、脇坂部隊等極めて激烈な戰闘を交へた所である。

蘊藻濱クリーク南岸の敵陣地の跡は上海街道上該クリーク附近に殘つて居るし、大場鎭とクリークとの中間にある馬橋宅等は相當な部落であつたのに全村廢墟となり竹藪は悉く銃彈の爲切斷せられ物凄い激戰の跡を殘して居る。加納部隊長の戰死の地は上述橋梁の下流約五粁の小宅で廟行鎭の北方約二粁にある。

【大場鎭表忠塔及大場鎭飛行場】 この附近が大場鎭戰線中戰の最も激しかつた所であり江南戰線最大の激戰地であるので、小丘を利用し表忠塔が上海派遣軍將兵一同

によつて建てられた。其の題字及び碑側の漢詩は當時の軍司令官松井大將の揮毫になるものである。境內にあるトーチカは敵軍の工事半ばにして放棄したものである。

大場鎭飛行場は占領後軍により構築せられたもので其規模極めて廣大で爾後の諸戰鬪に於る我軍の活躍に偉大なる寄與を爲したものである。此附近は主として福井部隊、飯塚部隊が大場鎭攻擊の爲奮戰した所である。飛行場竝に表忠塔は後世天下に上海派遣軍の偉績を傳ふる好箇の記念物である。

【廟行鎭・林少將碑・空閑少佐碑】 廟行鎭は前回上海事變の際爆彈三勇士の奮戰により人口に膾炙してゐる。三勇士の碑は上海事變後有志者により此地に鄭重なる墓碑を建てたのであるが、今次事變前抗日支那人により、いつの間にか毀却され其の附近に仰々しい大規模の支那軍戰捷記念碑が建てられた。今次事變大場鎭占領の時我が爆擊により支那軍戰捷記念碑を破壞し、三勇士の英靈眠る廟行鎭には三勇士の原隊の勇士により嚴肅壯嚴なる三勇士の碑が建てられた。同じく上海事變により雷名を轟かせた林少將戰死の地には立派な碑が立てられ、又悲壯を極めた空閑少佐自決の地にも日本武士道を傳ふべく碑が立てられ皇軍の精華を永く語る事となつた。何れも廟行鎭東南方本道近くにある。

【蘇洲河畔及び虹橋飛行場・龍華】 十月二十六日大場鎭附近の敵陣地を突破した我が軍は一擧蘇州河の線に急迫したのであるが、敵は豫てより其南岸に堅固なる陣地數線を構へ、加ふるに外國權益の建築物を巧みに利用、配備せる爲、蘇州河の要害と相俟ち我軍の力攻空しく再び此線に對陣の止むなきに至つた。此間鷹森部隊、田上部隊の一部決死隊は豊田紡績工場附近に於て果敢なる敵前渡河を敢行したが豊田紡績及其附近の敵は設備したる銃火を以て之れに應じ、寡兵遂に敵陣地を貫くことが出來ず殆んど全滅の悲運に立至つた。其後吉住部隊は江橋鎭南方地區、藤田部隊は新北涇、金家宅附近に於て渡河準備を整え、十月三日遂に果敢なる敵前渡河を敢行し前岸に地步を獲得したが、敵の抵抗尙頑强にして、其後の戰況は依然遲々として進まなかつた折も折、十月五日突如「日軍百萬上陸杭州灣北岸」のアドバルン蘇州河畔に揭げられ我軍の士氣百倍せるに對し敵軍の士氣は阻喪し、遂に蘇州南岸の敵陣崩壞の端緒となつた。爾後我軍の猛擊に依り敵は逐次に南方に後退し、七日には我が脇坂部隊虹橋飛行場を占領し、川並、鷹森兩部隊は龍華飛行場及龍華鎭一帶を占領し茲に我軍は完全に上海全市を掌握するに至つた。

【南　市】（日暉港クリーク・黃浦江岸トーチカ陣地・黃浦江閉塞跡）佛租界に南接する縣城及附近一帶の支那人街で往昔の上海とは當地を指し、開市と共に租界地區が發達したのである。

今次事變勃發するや敵は盛に南市に防備施設を施し、江岸及市內重要地點には堅固なる本格的トーチカを構築し、日清汽船數隻を黃浦江に爆沈して閉塞し楊虎警備司令部を龍華に置き上海北部戰線、浦東に對する一大策源地を爲すに至つた。

十一月七日龍華一帶を占領した川並、鷹森部隊は更に頑敵を掃蕩して八日日暉港クリークの線に進出した。敵は該クリークの對岸に堅固なる永久的陣地を設け悉く橋梁を破壞して我軍の進擊を阻止した。

我軍は無辜の民衆を傷くるに忍びず九日飛行機により支那軍の撤退降伏を要求するの傳單を撒いたが、敵は應ふるに銃砲を以てしたので遂に同日正午を期して總攻擊を開始し陸海飛行機爆擊と相俟ち愛甲、松本等の部隊は本道に沿ふ地區から敵前に渡橋を架し敵陣に決死突入し、江岸に沿ふ地區を鷹森部隊の一部突入し造兵廠其他重要建物を逐次占領し、激烈なる市街戰を展開し十二日に至り全市を完全に掃蕩し盡した。

【浦　東】 黃浦江右岸一帶を總稱した支那街で日清、郵船其他日本側の棧橋、倉庫工場等がある。

事變勃發するや張發奎麾下の約二箇師が浦東に居て我が軍の背後を惱した。十月十一日我が南市攻擊と相前後して我が津田安田の陸海兩部隊は同時に浦東に上陸したが敵は閘北、南市の如く頑强な抵抗をすることなく撤退したので大なる市街戰を交へることなく十二日一帶の掃蕩を完了した。

浦東は民家の破壞が尠かつたので掃蕩戰終了するや、支那民衆は早くも復歸し十二月には蘇錫文を中心とする大道市政府（維新政府に合流し現在の上海市政府となる）樹立せられ、事變前よりも寧ろ殷盛を極むるに至つた。

南　京

【光華門】 ○○部隊は、十一月二十日蘇州出發、途中無錫、常州、金壇、天王寺方面の頑敵に遭遇しつゝ之を擊破、夜を日についで追擊し、十二月五日午前六時湻化鎭に到着、直に其の前面の大理山及び靑龍山の各西南高地の敵に對し攻擊を開始した。翌六日朝には其の第一線陣地を占領、更に八日午後には第二線陣地を突破し、脇坂部隊は其の先頭を以て九日午前五時十五分光華門前方約二百米の丁字路に到着した。

光華門前面に我が部隊が到着するや沿道にある電柱の街燈は一齊に點火され、城壁の上からは敵は熾に照明彈を落下し、數十の機關銃は火蓋を切つて雨霰の猛射を我が軍に浴せて來た。先頭にあつた伊藤部隊は直に堤防の線に展開し、光華門に對する攻擊の準備に移り、他の部隊は防空學校西北端附近に集結し通濟門に對する攻擊を準備し、更に他の部隊は豫備隊として防空學校給水塔附近に集結した。

斯くて未明に及び脇坂部隊長は、防空學校の東端に○砲二門を置き、光華門の破壞射擊を命じた。射擊を開始するも纔に門扉を破壞したる程度に過ぎない。門內は土囊や木材が一杯積まれてゐるので突擊路は開き得ない。配屬の工兵と步兵の破壞班が協力して之に當つたが、藥量少く滿足な成果を擧げ得なかつた。

光華門の東南方約千米、七甕橋附近には敵が充滿して、○○部隊本部と脇坂部隊との連絡が絕たれてゐたので　十日朝○○副官が輕裝甲車に乘り、○砲彈藥を滿載して決死の連絡に當り、部隊長はこの彈藥を以て午後三時城門に對して破壞射擊の續行を命じ、同時に堤防附近に待機せる伊藤部隊長は午後三時五十分を期して光華門に突入すべき命令を與へた。熾なる○砲の射擊にさしもの門扉も四散し、土囊はくづれ、遂に通路は開かれたが、敵は我に對し、間斷なき迫擊砲の射擊を浴せ、防空學校東北端附近に位置した部隊本部に數十發落下し、戰鬪指揮は一時中絕の止むなきに至つた程であつたが、伊藤部隊長は斷乎任務に向ひ、前進の決心をなし、先づ其の一部に對し光華門に突入を命じ、同隊は午後五時門內に突入して日章旗を樹てた。續いて他の一隊更に次の一隊と各隊を矢繼早に突入せしめ、先進部隊の戰果擴張に努めしめたが、これまで數十回の戰鬪に於て兵力を減少し、各隊を合して纔に七十名に過ぎなかつた。敵は我の城門突入を知るや、城壁上より盛に手榴彈を投下する、門內近くの家屋に機關銃を備へて猛射を浴せる、城門內北側の道路上には對戰車砲を備へて城門を縱射するので、我が軍の死傷は續出した。

この時○○部隊長は脇坂部隊が光華門に日章旗を樹てた事は天聽に達したる趣を隊長に通報したので、隊長は直に伊藤部隊長へ其の旨を傳へ且「部隊は全滅を期して光華門を確保せよ」と電話を以て命じた。部隊長は速かに「誓つて城門を確保す」と答へ、豫備隊たる一隊を率ゐて門內に突入した。

門内に突入するや部下に對し「お前達の忠勇は天聽に達した。部隊は全滅を期して光華門を確保す」と叫び自身は敵彈の一番屆き易い危險な扉の附近に位置し、副官や兵に對して「お前達は若い前途有爲の者であるが、俺はもう老先短い。お前達は安全な箇所に下つて居れ」と部下を庇護し、最も危險な場所に坐して動かず、傳令林上等兵外一名が安全な場所に下さうとした時手榴彈が飛來り伊藤部隊長の右前額部と右足に命中、一は兵の腹部を抉り、林上等兵の左眼をつぶした。林上等兵は鮮血に染まりながらも馳けよつて部隊長を介抱しようとすると「いや俺はもう介抱をするに及ばぬ」と云ひ、佩用の軍刀と前上海事變において拜領した恩賜の義眼をはづして林上等兵に托し、重傷を負へる一人の兵を抱へ「御苦勞だつた。俺もあとから行くぞ」と慰めてゐたが、午前九時敵彈再び部隊長の前額部に命中、遂に絶命するに至つたのである。

爾後、門内突入せる兵は死傷續出したが、部隊長の遺訓をよく守り、飽く迄城門を確保し續け、明けて十一日敵は門内に催涙瓦斯を放ち、木材に石油を注ぎ火をつけて投下し、戰車の襲擊前後三回に及んだが、部隊は三段の散兵をつくり、城門を確保して一歩も敵に讓らない。

同日午前九時三十分頃我が軍の飛行機が城壁に爆彈を投じたので此の機會を捉へ、城壁上に梯子を掛け、輕機關銃二、重機關銃一を上げ城壁を占領したが、忽ち反覆する敵の逆襲に逢ひ、見る見る内に彈藥缺乏し、其の大半は死傷して門内に撤退するの止むなきに至つた。

この夕刻城外飛行場に○○砲二門到着し射擊を開始し、城内の東側に破壞射擊を實施し、翌十二日隊長は○○部隊長に○○部隊を合せ指揮せしめ、十三日拂曉を期して突擊を實施すべく命令を下した。十三日未明○○部隊は城門東側の突擊路より、○○部隊は城門より夫々突擊を開始し、午前四時遂に城門及び其の附近一帶を占領した。

防空學校東北部にあつた○○部隊長は軍旗を捧じ光華門上に前進した。時正に午前五時、城壁上にて皇居遙拜をなし、茲に首都南京攻略の一番乘りは見事に達せられたのである。

【中華門】十一月五日杭州灣上陸、同月十五日崑山を占領、續いて蘇州方面に向ひ追擊の態勢にあつた谷部隊は南京方面に轉進を命ぜられ、十八日崑山を出發した。

連日の降雨のため道路は惡化し、加へて敵のために橋梁は破壞せられ、前進甚だ困難なる状況であつたが、我が軍の勇猛はよく之れ等の艱苦を忍び、缺乏を克服して難戰を重ねながらも遂に十二月八日正午頃牛首山東南地區に到着した。

翌拂曉より竹下部隊を右に、岡本(安)部隊を左に展開し、將軍山及び牛首山附近の敵陣地に對して攻擊を開始し全山岩石を以て覆はれ、天塹の嶮を恃んだこの要害を奪取するには相當の苦鬪を重ねたが、勇猛果敢な夜襲の決行により遂に九日午後之を占領するに至つた。牛首山の占領によりこの方面の敵の防禦線の一角は崩壞し、動搖の兆が現れたゝめ我が軍は一齊に追擊に移つた。然るに牛首山以北の高地帶は埋設地雷或は障碍物を設け、其の上數線の陣地を構築されてゐたが、夜間であつた事と敵に追尾して進んだので比較的迅速に攻擊が進捗したのである。

これより先、岡本(鎭)部隊と猪木部隊は逐次新陣地を奪取しつゝ、九日夕刻には、主力の左翼方面に進出し、十日に至つて主力追及中の長谷川部隊が到着したので、谷部隊長は一番右にあつた竹下部隊を最左翼に轉進せしめた。其處で各部隊は最右翼岡本(安)部隊、其の左が長谷川部隊、其の左は岡本(鎭)部隊、最左翼は竹下部隊及び猪木部隊といふ態勢で攻擊を續行した。

長谷川部隊方面に於ては夜間攻擊を續行

し、午後十一時頃雨花臺西南方高地の最高峰を其の一隊が占領した。敵は十數回の夜襲を反覆し、ために隊長等も傷つき、八十餘名の死傷者を出したるも、克く其の高地を確保し、南京城に對する谷部隊攻擊の重要なる據點を我が手に收め得たのである。

斯くして各部隊は十一日夜南京城壁南方の雨花臺東西高地の線に、更に十二日午前十一時頃には各部隊一齊に城壁南側のクリークの線に進出し、城壁に對する攻擊目標を最右翼の岡本(安)部隊は中華門、長谷川部隊は城壁の中間、其の左岡本(鎭)部隊は城壁西南端、最左翼竹下部隊は水西門方面に選定した。竹下部隊及び猪木部隊は十日午後水西門方面に向ひ攻擊前進せんとした所進路が無いため更に左方に迂回し、揚子江の右岸に沿ひて北上し、其の途中、十三日水西門より退却する約一萬の部隊に遭遇して敵約二千を殲滅、軍旗二旒を奪取し、午後敵の退路を遮斷するため下關方面に前進、十四日同地に進出した。

城壁攻擊のための我が砲兵隊の主力は、雨花臺西南方安德門附近に進出し、中華門附近に一箇所、城壁西南に一箇所、其の中に一箇所、合計三箇所の突擊路を開設する計畫であつたが、都合により全力を西南角に向け突擊路の開設を實施した。

十二日午前十一時頃、クリークの線に到着した長谷川部隊は、砲兵の破壞攻擊も効力がないため城壁を登る事を計畫し、當時偶々クリークを流れて來た一艘の小舟を捉へ、安藤伍長、中津伍長等の七名が斥候として出る事になつた。この斥候は敵の斜射、側射を受けながらクリークを渡り、豫め準備の梯子を登つたが、梯子が城壁上に屆かないので城壁の煉瓦の間から生えて居た小さな枝を頼りに登攀して 午前零時二十分初めて城壁上に日章旗を飜した。更にこの小舟により次々と梯子を登つて午後二時三十分には十數名の者が城壁の上に登り、これを確保したのであつた。此の時敵は中華門と城壁西南角の城内から我に對し數回の逆襲を繰返して來たが、勇敢なる我が將士はよく應戰して、城壁上にあつた煉瓦を少し宛崩して掩體をつくり漸く戰果を兩側に擴張することが出來た。かくて午後四時頃になつて步兵の一隊と、機關銃隊を城壁の上に昇らせ、兩方面に戰果を擴張して遂に占領したのであつた。

一方城壁西南角に向つた岡本(鎭)部隊は午後四時過敵の十字火を冒してクリークを渡河し、砲兵の掩護射擊の下に一部隊は先づ城壁に突入して午後四時四十分之を占領した。

中華門に向つた岡本(安)部隊は十三日午前一時に至り之を占領することが出來た。

この頃城内の敵は頑强に抵抗しながらも退却の兆があつたので午前九時乃至十時頃各部隊より追擊隊を出し、逐次城内を掃蕩しながら淸涼山に向つて前進し、午後三時には同山一帶を占領した。續いて下關方面に敵を掃蕩し、一部は夕刻下關に進出して、東方より進攻した中島部隊の一部と確實に連絡することが出來た。

この戰鬪における谷部隊の損害は甚しかつたが抗戰した敵は第八十七師、第八十八師及び敎導總隊所謂中央軍の最精銳と稱せられたもので、敵の損害は遺棄屍體のみにて一萬五千餘に達した。

【南京攻略戰果】南京攻略戰において敵約十萬に與へたる損害は約八萬、我が損害は死傷者約四千である。

一、敵の遺棄屍體　五三、八七四

一、鹵獲品　重砲一〇八門△野山砲一九門△迫擊砲七九門△高射砲三七門△山射砲一九門△機關銃四一一門△輕機關銃九五六門△自動小銃一三六挺△小銃九、三三四挺△拳銃一一五挺△戰車一〇輛△飛行機六機△自動車三六輛△手榴彈七七、八五〇發△重砲彈八、二一六發△野山砲彈一、〇二六發△迫擊砲彈六二、五七二發

海杭沿線

【金山衞城】松江驛より三十粁餘、杭州灣の中幅に位し、昭和十二年秋日軍百萬上陸で抗日軍の瞻を奪ひ、上海攻略作戰上の大ホームランを憂つ飛ばした歴史的敵前上陸の行はれた所で、皇軍は此所より直ちに北進し、松江市破壞後一は東進して上海の背後を突き、一は西折して嘉善方面の敵を破り、大いに戰果を擧げた戰史發祥の地である。

【覓　橋】上海より一七九粁、中國空軍空の犧牲者の靈を祀る共同墓地に隣接して、近代的防空壕があり、此附近一帶は支那事變當初卽ち昭和十二年八月戰史に輝く我渡洋編隊が、暴風雨を衝いての第一回爆擊を敢行した所で、强靱を誇る近代的建築物も皇軍荒鷲群の猛擊に一たまりもなく壞滅し去つて、今は鬼氣迫る廢墟が皇軍の正確、壯絶な爆擊を物語つてゐる。

【杭　州】昭和十二年十一月五日、我陸軍部隊は杭州灣金山附近に敵前上陸を敢行し、破竹の勢を以て驚異的進擊を續行、十一月十日には上海を包圍占領し、續いて十二月十五日南京を攻略するや踵を返して杭州に迫り十二月二十四日夜攻擊にうつり、翌二十五日に堂々入城するに至つたもので戰禍は比較的僅少であつた。

避暑地と水郷

星ケ浦（大連西南方）

大連富士を背に渤海の蒼海原に面する東洋有數の海濱遊園地、滿鐵經營の公園があり脫衣所、洗體所、兒童運動具、貸舟等の海水浴の設備が完備してゐる。

避暑滯在設備としては星ケ浦ヤマトホテル、同分館、同貸別莊、家族會館、大連觀光協會設備ビーチハウス等がある。

◇星ケ浦ヤマトホテル分館

▲一人室三圓乃至四圓▲二人室一人四圓乃至五圓、二人五圓五十錢乃至七圓　▲疊敷一室三圓乃至五圓

▲日本間四圓乃至六圓

◇星ケ浦貸別莊

自六月一日至九月三十日、　四百三十圓　乃至六百六十圓

◇星ケ浦家族會館

▲一般休憩　大人十錢、小人五錢（六歳未滿無料）

▲專用休憩室「室に餘裕ある場合宿泊又は貸切の需めに應じてゐる。

◇大連觀光協會ビーチハウス

自七月五日至九月五日、甲乙兩種あり料金は　▲一日二圓三十錢、二圓八十錢▲一週間十四圓五十錢、十八圓▲全期間百圓、百二十五圓

老　虎　灘（大連南方）

老虎灘の名の由來する猛虎踞まるに似た懸崖をはじめ奇岩奇景に富み水淸く魚多く汐干狩にも適する。

街村の前の海は靜ケ浦と共に海水浴場であるが、靜ケ浦には脫衣所、貸ボート等の設けがあり、近くには水產試驗所がある。料亭一方亭、千勝館、月の家、嘯月等がある。

傅　家　庄（大連西南方）

大連桃源臺よりバスの便があり（片道十錢、三十分）白砂にして水淸き佳景の海水浴場、釣魚にも適する。

海上一哩先に浮ぶ無人島も絶好の淸遊地である。

夏　家　河　子（大連より約三〇分）

滿洲の湘南と稱せられる程有名な海水浴場で夏期には大連より海水浴客のため毎日臨時列車が往復して居る。渤海に面し白砂遠淺で婦女子の遊泳に適し、滿鐵經營の下に諸種海水浴場設備が完備し、貸間宿泊所としては水明館、碧漣館彩秋閣などがある。

◇個人宿泊料（開館期間自六月初旬至九月初旬）

一日　一人一圓より二圓五十錢

▲一日　三食一圓見當

▲寢具使用料　宿泊所備附のものを使用する場合は一日一組（敷蒲團、「毛布又は掛蒲團各一枚枕一個）二十錢

▲自炊設備使用料　一日十錢　燃料を含まず（但し食器類は各自携行のこと）

◇團體宿泊料

一日一人學生十五錢、一般三十錢　▲食費　學生一日三食六十五錢、　一般團體其他は個人食費に同じ

▲收容人員五十名、百名、百五十名の三箇所

◇天　幕　一日使用料三十錢

◇海濱浴場　一回券大人五錢、小人三錢　▲十一回券大人五十錢、小人三十錢

◇貸別莊　自六月十日至九月十日　一期間は一六〇圓—二二〇圓、一月は三十五圓—九十圓

ABCDE型の五種あり『料金　一月三十五圓より九十圓まで

◇有料脫衣所　一日大人四十錢、小人三十錢

黄　金　臺（旅順）

東洋のニースと呼ばれて居る事だけでもその風光が想像出來る。黄金山南麓の美しい山肌に抱かれた海濱、露治時代より夙に別莊地、避暑地として有名である。現在ではヤマトホテル別館及び貸別莊十九棟がある

◇ヤマトホテル黄金臺別館宿泊料

▲洋室十四、和室五、共に浴、室あり一人四圓—七圓、二人六圓—一〇圓五十錢、十一月一日より四月末日迄冬期三割引

▲和洋一品料理及和洋定食の準備あり

◇黄金臺貸別莊

自六月一日至九月三十日、　二百四十圓乃至五百四十圓　▲海岸簡易別莊使用料一日一圓五十錢、一月三十圓

杏　樹　屯（大連より約二時間餘）

金福線中間驛「杏樹屯」海岸は一方に斷崖が聳え、崖の下は五十餘町の白砂、斷崖から沖へ向つて幅十數町の暗礁が突出し、沖合遙かに點々と浮ぶ島嶼、傳說の駱駝岩は悠久の影を淸澄な水に浮べ、海水浴に釣魚に又林間生活に好適と云ふ總てに惠まれた浴場である。

明媚なる風光淸澄なる海水を持つ絶好の新海水浴場として近來浴客の絶讃を浴びその將來性をはつきりと裏書きされた。

脫衣場、シヤワー、遊步場、遊園地、相撲場、サンドスキー場等の設備も整ひ又公衆電話も新設され一段と便利を加へた。

松　樹（大連より約二時間半）

驛より南方五百米淸流あり釣によく靜寂な雰圍氣は夏のキヤンプに好適である。驛にはビユーローの貸天幕がある。

沙　崗（大連奉天間の略中間）

驛から西方約六粁佃家屯の附近の海濱は蜿蜒數里の遠淺で近年海水浴場として認められるに至つたところで設備も出來て居る樹間はハイキング、キヤンピングにも好適である。ビユーローではビーチテント、ビーチパラソルを設けて居る。

連　山　關（奉天より三時間餘）

分水嶺に近く海拔三百三十米、翠巒に圍まれ夏凉しく淸流細河は釣に水遊びに良く、滿洲第一の山間避暑地とされて居る。

鬼つつぢ、福壽草、野生芍藥、梨、杏が多く高山植物の採集地として良い。驛西方十二粁にして日淸日露役の激戰場摩天嶺がありその途中に仙境石家沿の觀音堂がある。

又ビユーローのサンマーハウスがある。

下　馬　塘（奉天より約三時間）

祁家堡分水嶺に源を發して峽谷美しき細河の流は驛前に來て川幅やゝ廣く、このあたり一帶釣魚地として定評あるところ、驛よりの距離僅かに百米にして、婦女子にも容易に釣魚の快を味はふことが出來、魚の種類もまた多い。白沙の河原のキヤンピング、或は水泳に、附近の山へのハイキングに硅岩露頭の懸崖にロツククライミングを試みるなど、この地ならでは味はへぬもの

がある。

温泉寺（奉天より四時間半 安東より五時間半）

太子河上流の山間にあり、温泉と勝景に惠まれた幽邃郷である。温泉は無色透明で温度も入浴に適し、避暑と一日の行遊には最適の地である。安奉線宮原驛下車溪城線乘換とし、ビューローのサンマーハウスもある。

本溪湖（奉天より約二時間五〇分）

本溪湖驛より二粁、徒歩約三十分にして太子河驛に至る。こゝより溪城線により太子河の左岸に沿つて、車窓に沿線の風光を愛でつゝゆけば、その昔さる仙人が、三日三夜その風景に見とれたと云ふ三日浦へは五十分、崔家浦には二十分で達し、こゝより遊覽船で河を下る。

途中船をとゞめて釣魚の快を味ひつゝ、船上卽席料理に舌鼓をうつも亦更に興趣を添へるであらう。

遊覽船は豫め本溪湖驛に準備方依賴し置く必要がある。尙三日浦、崔家浦よりの河下りは、日曜日に限られてゐるが、鐵橋附近の船遊は平日でも出來る。

遊覽船コース
牛心台—三日浦—中ノ島—崔家浦—玉泉亭

（所要時間四時間）

	十二人乘	二十人乘	三十人乘
	十圓	二十圓	二十三圓

本溪湖驛より鐵橋まで

馬車(三人乘)	二〇錢
人力車	二〇錢
辨當	五十錢以上

南坟（奉天より約二時間半）

河水豊かに淀み、巖に沿うて流れるところ必ず水車かゝり、細河峽谷の風光まことに美しく楊柳の村の、物柔らかに素朴な風景をもつ詩境南坟は都塵を拂ひ、一日の清遊を試みるに、好適の地である。靜かな細河の清流に糸を垂れ、或は水泳に、キャンピイングに、または數人寄つて水車干しに興ずる等、樂しい一日を過すことが出來る。

こゝはまた有名な南坟南瓜の產地であり、トマト、西瓜など美味なものを多量に產して、遊客を喜ばせてゐる。

橋頭（奉天より約二時間二〇分）

この地に遊ぶものまづ驛前を左折し山紫水明の水鄉橋頭の全貌を展望し、降つて朝陽寺に詣で、山裾をめぐつて細河河畔に出で水車を見て水泳場に行く順序を薦めたい。山と河を繋ぐ恰好のベビーハイキングコースである。

清流にボートを浮べ、或は水泳に、釣魚に、又は白砂の河原に渡つて遊び、鶯谷の幽邃境に山鶯の聲を聞くなど夏日も尙短きを嘆ずるに至るであらう。

貸ボート	三十分 二十錢
休憩所	一人一日 三十錢
使用料	貸切 A四圓B五圓
淸樂莊	一人一室 一圓以上

吉林（新京より急行約二時間）

市街上流約三邦里附近は斷崖の絕勝、山峽の湖景等眞に「滿洲ライン」の名に相應しく、此の松花江上に船を浮べたもの でなければ山水の吉林を語る資格なしと云はれる。松花江の鵜飼は滿洲色の豊かなもので燦々たる陽光を浴びた純白色の鵜が時には二尺に餘る鯯、鯉、鯰などを啞へてしぶきと共に踊り上る壯觀は內地の鵜飼とは全然趣きを異にした大陸的なものであり、五月から十月中旬まで行はれる。料金は一人一圓で他に貸切船も用意されてゐるから、希望者はビューロー か觀光協會へ申込めばよい。またビューローのサンマー・ハウスも本年より開設された。

哈爾濱スンガリー

キタイスカヤの人波を縫うて色とりどりの行人の顏を見較べながら松花江に出づれば凉風が快く頭髮を撫で、江岸に立つて四顧すれば下流遠く江面を壓する松花江の大鐵橋を望む。江上に浮ぶ無數のボートや林立する帆船や、江防艦隊等が遺憾なく大江の風貌を發揮し、對岸から太陽島にかけて人魚の群れ遊ぶ樣、正にエキゾチックな裸體健康美の競進會だ。自らボートを操つて中流に放歌するもよし、水浴に平日の行樂を費すのもよければ、魚釣に俗塵を避けて冷たいクワスに渴を醫するのも亦よい。哈爾濱をそこはかとなく柔かい情緒に包むものは夏の綠樹とこの大松花江の流である。

呼蘭（哈爾濱より約一時間餘）

一日の淸遊には最も好くしかも勝れた行樂地である。こんもりとした白楊の林、芝生の丘、花圃には季節の花開き、淸楚、閑雅な西崗公園がある。

石人城の傳說で有名な石人像はこの園內に祀られてある。

石公祠のある小丘に立てば、呼蘭河眼下を流れ河の彼方に綠一色の平原は伸びて一望千里その中を蜿蜒蛇行する呼蘭河は、白く水面を光らせつゝ野に消える。近くは巧緻遠くは雄大、まさに絕景である。石公祠はその昔善政一世に高かつた鎭守使石將軍を祀るところ。

橫道河子（哈爾濱より約八時間半、牡丹江より約二時間）

綠の山々に包まれた中に牡丹江支流橫道河が流れる山紫水明の別莊地。樹間の逍遙、水上の舟遊は夏を忘れさす事が出來る。牡丹江鐵道局の宿泊設備がある。

自七月三日至八月三十一日 ▲室料洋式ベッド一臺一夜四十錢、寢具一夜三十錢 ▲休憩自八時至二十時五錢所持品保管の便あり ▲食 資朝二十錢、晝三十錢、夕四十錢

一面坡（牡丹江より約六時間）

螞蜒河上流の狹長な山峽にあり、人口三萬餘を有し、西の扎蘭屯に對する東の避暑地として有名であり愛河、阿城等と共に將來を期待されてゐる。市街は線路を挾んで南を商店街、北を鐵道街に分け、商店街は滿人街と露人街とに分れ日本商店は滿人街の間に散在してゐる。螞蜒の淸流に臨んだ鐵道街及び其の附近は鬱蒼と木立に圍まれ自ら公園の趣をなし河は釣魚、水浴、舟遊等に好適である。

哈爾濱、牡丹江より 割引家族遊覽券 發賣してゐる
(單獨三割、五人以上五割引)

鏡泊湖（東京城驛より張家水鄉三五粁バス一時間半、それより鏡泊ライン八粁）

地形上便宜、上、南、中、北の四湖に區分されて居り、上湖は夏深き綠の中を流れて詩情橫溢せる風景を呈し、釣魚に打網に或は又狩獵場としても絕好の場所である。南湖の東岸は彼の鏡泊學園の跡や石頭河漁村の所在する所。中湖上には道士山を始め幾多の島嶼點在して頗る絕景。北湖は北湖島より直角にカーブして東南より西北に延び張家水鄉に至つて初めて流れを現はし吊水樓に落下する迄延長十二粁四季通に到る。

浪の樣に緩い丘を越えて約五〇米の高さから眼下に見下す鏡泊湖は鏡の樣に淸澄で、對岸に迫る老黑山の峻峯を倒影し、春夏秋多趣を異にする風光は四季を通じて將に一幅の畫繪である。今此の地は自動車道路の終點となり、之より一粁半瀑布への徒步旅行コースが設けられてある。

湖の最北端、湖水が再び牡丹江に落下するところ卽ち天下第一の名瀑と銘された吊水樓瀑布があり、水量極めて豊富にして嚴多素雪の間にも凍結せずと云ふ。

又吊水樓より四季通迄の間約四粁の急流を鏡泊ラインと稱し、兩岸には熔岩累積して懸崖を爲すところ或は水流に巨岩蟠居して水煙煙り、ラインの終端には龍岩島あり又河は水浴に、釣魚に、キャンプに手頃な淸遊地である。

富拉爾基（哈爾濱より約八時間昂昂溪の次驛）

沖、橫川兩烈士の爆破期して成らず、無念の魂をハルビン露兵刑場に殘し護國の鬼と化したことは、この地に遊ぶ者又嫩江の大鐵橋を通過する者の常に想起合掌するところである。

鐵橋の右下より北方に續く河原及び水邊は水浴場にして釣魚、キャンプ、舟遊の人人によつて一面避暑風景が描き出されてゐる。避暑場の敷地は大規模に區劃され、青絨毯の平地に數箇のバンガローが楡樹に圍まれて見え北方遙かに續く草原には名產富拉爾基の馬が大群となつて疾走し止つては悠々と草を喰んでゐる。

人も知る馬乳酸(クミス)の產地にして施療病院のクミス療法は全滿一の定評があり結核の多い滿洲に於ては理想的な療養所であらう。

新京、哈市、齊齊哈爾より割引家族遊覽券を發賣してゐる(單獨三割、五人以上五割引)

扎蘭屯（哈爾濱より約十一時間）

海拔八百米の中腰扎蘭屯盆地の中間を流るゝ雅魯河の紆餘曲折は網の目の如く此盆地に根を張り、楡樹繁茂して風光に一段の光彩を添へる。避暑場開設中の扎蘭屯驛は遊覽客の夥しい雜沓によつて殷賑を極め、ホームの客を物珍しく出迎へる露西亞娘の美しいポーズは先づ第一にエキゾチックな感覺を與へ且つ絢爛たる花壇の色彩に幻惑され陶然とする。

水浴場附近にはビーチコートの女、海水着の女等美しい半裸の姿が惜しげもなく歩き廻り、燦々たる陽を浴びて赤い海水着が楡樹の綠に映つてゐる。老楡樹に圍まれた水浴場は滿々と淸水を湛へ幾多の貸ボートが遊覽客によつて樂しまれてゐる。

此の附近一帶は遊歩地逍遙地帶で遊歩道路、ベンチ、泉水、噴水、橋梁、水浴場等の設備が出來てゐる。

遊歩地帶の盡きる所扎蘭屯の東南端雅魯の支流小川の邊りに滾々として湧出する淸水は極寒時に於ても尙結氷せず最近に至つて全滿唯一のラヂューム含有鑛泉として溫泉場設定の運びに至らうとは誰しも夢だに考へないことであつた。

扎蘭屯は一體に氣溫良好であり植物園竝に溫室等大規模に計畫され熱帶植物がすくすくと成長してゐる。

新京、哈市、齊齊哈爾より家族遊覽券を發賣す(單獨三割引、五人以上五割引)

巴林（昂昂溪より約五時間）

丘陵性の興安嶺の山峽を靜かに流れるヤール河に沿ふ扎蘭屯と巴林は、共に滿洲の上高地とも言ふべき屈指の避暑地であると同時に、多暖かく自然に惠まれた避寒地でもある。

ヤール河ではタイメン、ファレルの珍魚及び紅鱒が釣れ避暑滯在に一入興味を深くする。

共に滿鐵設備のバンガローを有し、又巴林には列車ホテルが設けられる。尙夏期間中は齊齊哈爾・扎蘭屯間に臨時列車、扎蘭屯・巴林間には臨時バスが運行される。

新京、哈爾濱、齊齊哈爾より家族遊覽券を發賣してゐる(單獨三割引、五人以上五割引)

阿爾山（白城子より約十二時間）

別名を興安溫泉と呼ばれ蒙古語ではハロンアルシャンと言ひ、ハルハ河支流アルシャンの海拔凡そ千五百米に在り、雄大な興安嶺の山懷に抱かれた溫泉鄉で四十の溫冷泉が湧出して居る。

滿鐵經營阿爾山ホテルがあるが附近の露人住宅に於ても夏期の部屋貸に應じてゐる。

◇阿爾山ホテル
室料　五圓－六圓
食費　朝食一圓、晝食一圓五十錢、夕食二圓

興城（錦縣より急行約一時間十分）

「海と溫泉の興城」は街の東南四粁にあり、驛と溫泉の間に定時バスが運行されて居る。北に首山、南に海を控へた平和鄉で古來靈泉としての名高く史實に富んで居る。

海水浴場は溫泉の南方四粁、驛からバスの便があり、遠淺で婦人子供に向く。

鐵道總局竝にビューローのサンマー・ハウスがあつて宿泊の便に供し、溫泉ホテルは驛と海岸の略中間に在る。

山海關（奉天より急行約五時間）

前面に渤海を控へ、背後に高嶺を負ひ蜿蜒たる長城が海に沒する此所の海水浴場は綠の樹間にはバンガローが點在し眞夏ともなれば濱邊には色とり〴〵のビーチパラソルが華やかな水着と共に妍を競ひ、南海由比ヶ濱の附近では釣も出來る。滿洲國側、支那側とも岩礁附近がよい。尙石河の鮎釣も有名である。

山海關市街から約三粁、寬かな丘の茂みに英佛伊駐屯軍の兵舍や、赤い屋根青い屋根の外人住宅が點在するあたり、實に泰西名畫そのまゝである。

海は遠淺で空氣は飽迄透明であり、オゾンと紫外線吸收に好適の避暑地である。

九時－十九時の間北交バス一時間毎に運轉、片道二十五錢、洋車及驢馬七、八十錢

秦皇島（山海關より約二十分）

渤海に突出した一小半島にあり次揭北戴河と共に北支の避暑地として有名である。

南に坦々たる大道が海岸を驅つて居り兩側に夏を目當の料理店雜貨店が多く、街から稍離れて東海岸の海水浴場にはバンガローが散在して居る。やはり日佛米駐屯軍の兵營があり、外人客の多い處である。

北戴河（山海關より約四十分）

渝河の渤海に注ぐところ俗に戴河と言ひ、所謂北戴河海岸へは驛から海濱支線が通じ二十分にして達する。北支隨一の避暑地にして三方海を繞らし西山東山をバックに風光絕佳、三伏の炎暑の候と雖も華氏八十度を超える事がない。旅館はパイン・ヴイラ、ヴイラ・クライン、同福飯店、ゴルドーホテル、海濱濱館、パークホテル、クラホテル等あり、北京、天津の一流旅館に比して遜色なく何れも長期宿泊に應ずる。又ビューローの休憩所、華北交通の簡易ホテル其他貸別莊等もある。

◇海濱簡易ホテル
期間　六月二十日－八月二十日　▲室料　和室一人一日一圓、一人増す毎に二十錢、最高一圓六十錢、洋室毎一人一日一圓、一人増す毎に三十錢、最高一圓九十錢　▲食費　朝晝三十錢、夕四十錢、▲天幕アンペラ蓆座附一日三十錢

青島（北京より約十九時間）

忠の海海水浴場(第一海水浴場)は東南に赤い甍の洋館の散在する綠の丘陵を背後に白い砂濱に寄せる淸冽な膠州灣の海、紺碧を湛えた遙か遠く避家島一帶の島影を望む會姓岬が突出し外洋を遮り、衞門岬と灣曲して遠淺である。白砂綠蔭の間に脫衣場(官有七一個、個人所有二百餘個)キャバレー、ホテル等あり、夏季避暑地の樂天地である。

青島のメインストリート山東路よりバス(一號線)にて約七分料金十五錢、他にタクシー、二圓五十錢、洋車四十錢の便あり。

香山（北京西北約二〇粁）

淸朝離宮の跡、老樹天を蔽ひ涼風梢を鳴らす風光絕佳の地、北京八景の一にして西山晴雪の碑もある。北京より一日數回バスの便がある。

昆明湖（北京西北約十二粁頤和園內）

萬壽山の景觀美は昆明湖に負ふ處が大きい。夏期はボートを浮べ遊泳の設備あり、

多期はスケートリンクとなる。

大明湖 (濟南驛東二粁)

濟南城內北隅にあり周圍約四哩、景致幽邃にして湖畔や湖中の島には歷下亭(唐時代の李白や杜甫の遺蹟あり、亭內の茶亭は日支諸名士の利用者多し)李公祠(李鴻章を祀る)北極廟(北極七星を祀る)滙泉寺張公祠(淸朝山東巡撫張曜を祀る)鐵公祠(明朝兵部大臣鐵鉉を祀る)などの古蹟勝地に富み、古來この地に遊べる文人墨客の詩句や題詠が碑記に遺されて史情を湧かしまた湖中蓮多く夏は紅白の花咲き亂れて美事である。

鵲華橋又は司馬碼頭より畫舫を雇つて湖上葭蓮の間を逍遥し、或は湖畔の古寺を訪ねて古人の書畫、石刷等の珍品を賞し、又は友人連れ、家族連れの一團が船中持參の辨當に團欒を味はふもよし、一日の淸遊に都塵を忘れる恰好の水鄉地である。

◇濟南驛よりタクシーにて三圓、人力車にて三十五錢乃至四十錢、舟賃は大船十餘人乘四圓、小船五、六人乘二圓

北公園 (濟南驛より北約三粁)

郊外の遊園地として濟南新名所の一つに數へられる、丘陵あり、原野あり、樹木と岩石の配置宜しく、自然のまゝを公園化したもの、頂上の展望台に至る自動車道路の設備もあつて家族連れの遊歩に適してゐる

展望台からは黃河大鐵橋を遥かに望み、平原の果に四圍の山々が霞んで見える。

小淸河上流の水が公園下を滿々として流れ、夏季は岸邊に蓮の花が咲き、多季は鷗が泛ぶ、附近部落より舟を雇つて舟遊びすれば一入の興趣を添える。この河は天然氷の採集地として知られてゐる。

◇ハイキングコース 所要時間一時間半、タクシーにて二〇分料金六圓

小淸河 (膠濟線黃台驛より東二百米)

大明湖鐵公祠後方に於て東の歷水、西の濼水が合して小淸河に注流し遠く羊角溝に至り渤海に入る、濟南の重要水路にして、昭和十四年秋に水運が開かれてから一ヶ年漸次民船の往來頻繁を加へ、產業開發に重要な役割を果しつゝあるが、また黃台橋埠頭を中心にその下流二、三百米に亙る河畔一帶は近時遊步地としても知られ遊覽する者が多い。

舟遊、魚釣りに適し、下流に至れば名山「華山」に遊ぶことも出來る。附近には中央農事試驗場濟南支場の植物園があり、「餘北園」の野菜市、「花園莊」の三、八の日の牛馬市は昔から賑はつてゐる。

◇濟南驛から列車にて約一五分、料金一〇錢

嘉興 (海杭線、上海より二時間二十六分)

蘇嘉線の分岐點で、上海より汽車で約二時間半、蔣政權華かなりし頃は上海近郊の遊樂地として知られてゐたが、事變後市內南湖の煙雨樓は華中鐵道會社の直營として設備萬端面目を一新し、上海方面より日歸りの好適地となつた。

貸ボート、其他娛樂設備完備、子供連の一日ピクニックに適す。

ビューローのサンマーハウス

ツーリスト・ビューローでは簡易快適な避暑法として綠蔭に、水邊に、バンガローとキャンプ生活を奬め、大自然の懷に抱かれて健康と心の糧を培ふやう、七、八、九月に亙つて興城、連山關、橋頭、沙嶺、松樹、吉林、哈爾濱の各地へサンマーハウスを設け、一般の使用に供してゐるが要項は次の如くである。

◇興城 バンガロー(六疊)四棟、同(四疊半)三棟、ビーチスタンド一人用五箇、炊事道具七組
◇温泉寺 天幕四張、炊事道具四組
◇連山關 バンガロー(六疊)二棟、同(四疊半)二棟、天幕四張、炊事道具八組
◇橋頭 ビーチテント四張、ビーチパラソル二本
◇哈爾濱 バンガロー(四疊半)一棟、天幕九張、ビーチスタンド二人用十箇、同一人用十箇、炊事道具九

組、浮プール一回大人十錢、小人五錢
◇吉林 天幕四張、炊事道具四組
◇鏡泊湖 天幕五張、炊事道具五組
◇山海關 天幕二張、ビーチパラソル一本

バンガローには疊表、籐製テーブル一脚、椅子二脚、電燈(二〇ワット)、寢具用毛布二枚その他を備附け、天幕にはグランドシーツ、折疊式ランプ、寢具用毛布二枚を備附けてある。

(貸附料金)

	半日	一日
バンガロー(小)	八〇錢	一圓三〇錢
同(大)	一圓	一圓五〇錢
天幕	四〇錢	五〇錢
ビーチスタンド(二人用)	一回	三〇錢
同(一人用)	同	二〇錢
ビーチテント	同	二〇錢
ビーチパラソル	同	一〇錢
毛布(備附品外一枚)	同	一〇錢
炊事道具	同	二〇錢

温泉

滿洲の温泉

滿洲の温泉は大約三十餘箇所を算してゐるが交通不便であつたり、温泉場の設備が整はない爲め、大部分のものはその地方の滿蒙人に利用せられてゐるのみで、日本人に知られ利用せられてゐるものは甚だ僅少である。所謂名温泉として一般に膾炙されてゐるのは滿鐵沿線の湯崗子、熊岳城、五龍背の三温泉であり、之等は滿洲では設備最も完備し利用者も甚だ多い。この他に奉山線沿線の興城温泉も近年頭角を現し、種々話題となつてゐる。興安嶺下の阿爾山(ハロンアルシヤン)は特異な温泉場として關心を向けられてゐる。興城、阿爾山の兩地には鐵道總局直營のホテルを設置してあり、また京圖線沿線の九臺温泉は冷泉を加温したもので、昭和十二年夏以來設備をなし新京方面を初め一般の人々に呼びかけてゐる。

安奉線本溪湖驛の東北方に當る狗兒湯(溝兒湯)温泉は滿鐵に於て附近の山野を買收し温泉鄉としての設備を施す計畫を樹てられて居り、溪城線(本溪湖の街はづれ明山驛を起點とす)による交通の便が開けてゐるからやがて賑盛に向ふものと思はれる。

▽温泉名

名稱	位置
五龍背	安奉線五龍背驛附近
湯崗子	連京線湯崗子驛附近
熊岳城	連京線熊岳城驛の東南二粁半
興城	奉山線興城驛の東南四粁
阿爾山(興安温泉)	白阿線阿爾山驛附近
安北湯	連京線松樹驛の東二〇粁
剪子湯	同上温泉の東北八粁
龍門湯	連京線許家屯驛の東南東六粁
思拉堡	連京線蘆家屯驛の東南七粁
倪家臺	連京線鞍山驛の東一五粁
湯河沿	連京線遼陽驛の東南二五粁
千山	連京線鞍山驛—廟臺間バス途中七嶺子村
狗兒湯	安奉線本溪湖の東北方、溪城線温泉寺驛附近
湯池溝	安奉線草河口驛の東北二八粁
湯池子(鳳城縣)	安奉線鳳凰城驛の北東九粁半
廟嶺溝	安奉線鷄冠山驛の西南二五粁
東湯	安奉線湯山城驛の東北一〇粁半
湯池子(安東縣)	安奉線五龍背驛の東二〇粁
勾湯	安東省巖縣縣城の西北一六粁
白頭火山温泉	白頭山中
(イ)硫黄温泉	火山の頂上から西南八粁の中腹
(ロ)湯水長温泉	火口湖天池から北方側の中腹
(ハ)白温泉	火口湖天池から北へ四粁の中腹
(ニ)天池及三池淵	白頭山火口湖の一部分
烏雲和爾冬吉火山藥泉	(今は冷泉)北黒線龍鎭驛の西一〇粁
湯山	興安西省林西と經棚との間、林西の西南二七粁
金英河上流熱水塘	熱河省赤峰の西一〇〇粁
綏中温泉寺	興城縣永和屯村温泉寺、綏中驛北方二五粁
牛圏子	承德驛南方一五粁
毛金壩山熱水塘	熱河省承德の北東五三粁
湯上(頭溝村)	熱河省承德の東北六五粁

獣　泌　熱河省平泉の北西四五粁
凌源熱水塘　熱河省凌源(建昌)北北東一五粁
建平熱水塘　熱河省建平の東北東二五粁
瓜　地　熱河省豐寧縣城の北西五三粁
熱水溝　同上溫泉の南一粁
湯　山　奉山線綏中縣驛の北西一四粁
九　臺(冷　泉)　京圖線下九臺驛の東南一粁

【溫　度】　滿洲の溫泉は一般に溫度が低く、攝氏六十五度以上のものは稀であつて普通六十度から四十度或はそれ以下の溫度のものが大多數を占めてゐる。

湯崗子　攝氏七十三度半
熊岳城　攝氏五十度內外
五龍背　攝氏五十七度
興　城　攝氏七十度內外
阿爾山　攝氏四十六度以下各種

【泉　質】　滿洲の溫泉は何れもアルカリ性で酸性のものは殆ど無い、溫泉中の鑛物含有量は極めて少く一リツトル中に一グラムの固形分のあるものすら少い。

・湯崗子　無色透明のアルカリ性に多少のラヂウムを含有。
・熊岳城　無色透明で微かに硫化水素の臭氣と弱アルカリ性の反應がある。
・五龍背　無色透明で微かな硫化水素の臭氣を帶び弱アルカリ性の反應があり、手觸りは滑かである。
・興　城　無色透明で少量の浮游物があり反應は弱アルカリ性。
・阿爾山　無色透明であるが僅に褐色の沈渣を生ずることがある。微かに硫化水素の臭氣があり反應は弱アルカリ性。
・九　臺　炭酸含有土類の炭酸鑛泉であつて硝酸鹽、クロール鹽、重炭酸亜鹽化マンガン、燐酸鹽、メタ硫酸等を含んでゐる。

【特　効】　滿洲の溫泉は概して日本內地の溫泉に比しその含有成分の濃厚なるもの甚だ少く、その溫度の高いものも少い爲め日本內地の溫泉に較べ醫療上の効用に就いては劣るが、併し割合に溫泉の數が少い爲め滿洲に於ける溫泉の利用價値は貴重な譯である。重なる溫泉の適應症は

・湯崗子　リウマチス、濕疹、腺病、婦人病、脊髓病、胃腸カタル
・熊岳城　リウマチス、濕疹、神經衰弱、婦人病、腺病、痔疾によく、砂湯は胃腸病、痔疾に特効がある。
・五龍背　皮膚病、神經痛、リウマチス、痔疾、胃腸病、婦人病。
・興　城　神經痛、リウマチス、胃腸病、神經衰弱、貧血症、婦人病、創傷、濕疹、痔疾、腺病、喘息。
・阿爾山　野天に在る四十有餘の湧出口には一泉毎に浴槽の傍に蒙古語、西藏語、滿洲語で記した效能書の古い石柱や木柱を立てゝあるが西紀一九二四年の夏に露西亜語の效能書と攝氏の溫度とを追補され、また近年日本語で追記されてゐるところもある。それによれば頭の病を治す浴槽、目にきく濕泉、耳、鼻、口、腹、膀胱、脚氣等々と一つ〳〵別々に效能書を注意して入浴することになつてゐる。

要するにリウマチス、皮膚病、痔疾、婦人病、胃腸病等に特效がある。
・九　臺　內用＝各種貧血、消化不良、萎黃病、佝僂病、胃酸過多。
浴用＝官能性神經疾患、神經性心臟病、婦人病、男子生殖器諸病、皮膚病等。

＝北鮮の溫泉＝

清津の西方約四十八粁、朱乙川の溪流に沿ふて朱乙、かねたの濕泉鄕があり、甫老川畔には城町濕泉がある。何れも景勝優れ朱乙、かねたには旅館其他の設備も整つてゐるが城町濕泉には旅館其他の施設なく、甫上洞の露天濕泉も水害のため埋沒してゐる。
かねた溫泉　朱乙驛より三粁、バスの便がある。
朱乙溫泉　朱乙驛より一一粁、バスの便がある。
清津驛よりかねた、朱乙溫泉行バスも出てゐる。

【泉質竝に溫度】　アルカリ性鹽類、ラヂウム含有。溫度五十五度。
【特　效】　胃腸病、神經衰弱、リウマチス、外傷、性病等。
兩溫泉とも泉質は大體に同樣である。
城町溫泉　朱乙驛より約二〇粁。

＝支那の溫泉＝

溫泉に惠まれてゐる日本に比べては數に於ても質に於ても、支那の溫泉はあまり問題にはならない。それに事變下の現況では一般に溫泉の利用も思ふまゝに出來ず、設備もあまり整つてゐないやうである。併し溫泉好きの日本人の進出により今後は北支、中支の溫泉場の規模なり經營なりの上に相當の變革を來すと共に將來益々開發せられることは容易に想像出來る。支那には殆ど各省に溫泉は散在してゐるやうであるが大體によく知られてゐるのは北京、山東、南京方面の小數に過ぎない。

〔溫泉寺溫泉〕　京山線秦皇島站の北方一六粁、長城線に近き山岳地帶の麓、自動車にて約五十分の距離にある。冀東地區唯一の溫泉場として知られ、支那事變前迄は避暑地の觀を呈し外人の之を利用する程であつたが、事變後入湯者の數は激減した。浴場は廟の東側にあり、長城線に連る峨々たる青山綠樹の麓で、眼下に湯川の清流を望む。溫度は攝氏三八度二、湧出量一日五十石と稱され、無色透明のアルカリ性にして飲浴兩樣に適す。

飲用―胃腸病、咽喉、氣管支カタル、血管硬化症、糖尿病、貧血症等
浴用―外傷諸障害、濕疹、關節炎、リウマチス、神經衰弱症、婦人病等

【湯山溫泉】　北京の北方約三十粁、明の十三陵に行く途中、小湯山の東麓に湧出してゐる溫泉、清朝の離宮もあり、林泉としても支那式庭園の代表であり、立派な人工的溫泉である。西洋風な柱廊のある病棟がつづいて居り、外國人の利用するものも少くない。溫度は東池が攝氏三十九度、西池が五十度。泉質は兩池稍異るが弱食鹽性にして出血性諸病、滲出性諸病、榮養障碍、慢性皮膚疾患、神經興奮症等によし。

【密雲の溫泉】　北京の遙か東北方に當る密雲方面の山中には數箇の溫泉があるが、交通不便のためあまり一般には知られてゐないやうである。

【孤石塔溫泉】　京山線北戴河驛の北方三十三粁餘、角山中の孤石塔に湧出する溫泉。飲用すれば胃腸その他の疾病を能く癒し沐浴すれば癰疽患者に特によく、皮膚病その他の疾病にも効果がある。

【湯山溫泉】(山東)　王哥庄から約二十粁に當る湯山村にある。青島から自動車で約二時間半、高溫度の溫泉である。胃腸病、神經痛、リウマチス、外傷に効能顯著である。

【嶗山溫泉】　青島市外約四粁餘にある。

【天齋淵溫泉】　膠濟線淄河店驛の西北約十粁、淄河の右岸、牛山の麓に天齋淵の溫泉は湧出してゐる。

【湯上村溫泉】　青島よりバスにて二時間半乃至三時間(二圓三〇錢)にて到着、アルカリ泉にして、目下〇〇療養所として使用されてゐる。
バスは毎日午前九時山東路交通會社々康發

【凉城溫泉】　京包線豐鎭站北方約八〇粁凉城縣第一區大海、香火地の間にあり、風光明媚の地、目下縣公署に於てボーリング計畫あり、最寄驛は豐鎭、卓資山兩站にして、豐鎭、凉城間にはバスの便あり、其他不明。

【湯水鎭溫泉】(南京)　南京の麒麟門から二十八粁餘、華中都市バスにて五十分、杭州に通ずる街道に沿ふ湯水鎭近く溫泉がある。泉量はあまり多くはないが無色透明にして多少の硫黄とラヂウムを含んで居り、

溫度八五度、胃腸病、皮膚病に特效ありと云はれ南京附近唯一の溫泉として知られてゐる。赤土の低い丘の麓から湧く湯を汲んで使用してゐるが、風呂は個人風呂で、支那人は悠暢と一日中湯につかつたり、出て食事をしたりなどして享樂してゐる。

宿泊設備　湯山閣ホテルあり收容人員三十名内外一泊六圓—十二圓程度

【從化溫泉】廣東の西北方約八十粁に溫泉地「從化」がある。淸らかな溪流の河原のところ〳〵から熱湯が湧き出てゐる。景色が良く、最近開發せられて日本式の旅館も出來てゐる。

狩獵

獲物別獵場(最寄驛名)

雉子　瓦房店、王家、得利寺、松樹、萬家嶺、許家屯、熊岳城、蘆家屯、湯崗子、立山、遼陽、奉天、新臺子、亂石山、得勝臺、鐵嶺、平頂堡、開原、馬仲河、昌圖、滿井、泉頭、雙廟子、虻牛哨、楊木林、大楡樹、大屯、新京、火連寨、本溪湖、橋頭、南坎、下馬塘、祁家堡、草河口、劉家河、秋木莊、鷄冠山、四臺子、五龍背、安東

雁　龍頭、旅順、二十里臺、普蘭店、九寨、分水、立山、遼陽、蘇家屯、新臺子、得勝臺、鐵嶺、平頂堡、開原、營口、楡樹臺、孤家子、深井子、五龍背、安東

鴨　大連、旅順、二十里臺、瓦房店、分水、立山、遼陽、新臺子、亂石山、得勝臺、鐵嶺、平頂堡、開原、大楡樹、大屯、營口、楡樹臺、孤家子、橋頭、劉家河、五龍背、安東

鳴　大連、龍頭、旅順、九寨、湯崗子、立山、遼陽、新臺子、亂石山、得勝臺、平頂堡、營口

鶉　大連、龍頭、旅順、二十里臺、普蘭店、松樹、許家屯、湯崗子、立山、亂石山、得勝臺、平頂堡、開原、馬仲山、昌圖、祁家堡

山七面鳥　龍頭、旅順、遼陽、亂石山、開原、金溝子、馬仲河、滿井、楡樹臺、孤家子、深井子、李石寨

白鳥　金州、九寨、營口

鶴　平頂堡、營口、安東

鷺　營口

兎　龍頭、二十里臺、普蘭店、王家、得利寺、松樹、萬家嶺、許家屯、熊岳城、湯崗子、千山、蘇家屯、渾河、亂石山、鐵嶺、平頂堡、金溝子、馬仲河、昌圖、滿井、泉頭、虻牛哨、楊木林、大楡臺、孤家子、深井子、橋頭、南坎、祁家堡、秋木莊、四臺子、五龍背、瓦房店、立山

猪鹿　南坎、安東

獵場案内

獵物・獵場・季節

旅順線

△龍頭(大連四八粁)
- 山鶉、山鳴　附近の山野　九月中旬—四月下旬
- 兎　八月十五日—五月三十日
- 鴨、雁、山鳩　三澗堡附近　十月—三月

△旅順
- 鶉、鳴　大孤山、老鐵山　九月—十月
- 雁、鴨　雙頭山附近　十月下旬—二月中旬
- 山七面鳥　一月—二月

遼京線

△大連
- 田鳴　欒家屯方面　九月—十月
- 山鳴　傅家庄　九月—十月
- 鴨　臨海浴場、甘井子　十一月—三月

△二十里臺(大連四六粁)
- 雁、鴨、鶉　愛川村方面　十、十一、三、四月
- 兎　驛西北八粁の大連堡小連堡附近

△普蘭店(大連七七粁)
- 兎　附近一帶の野畑　九月—四月

△瓦房店(大連一〇五粁)
- 兎、雉子、鴨　驛東方約四粁の炸子窩附近

△王家(大連一一二粁)
- 雉子、兎　驛より約八粁の劉家溝瓦房窩溝附近苦力賃一圓見當　十月—三月

△得利寺(大連一二四粁)
- 雉子、兎　驛の附近一帶苦力賃七十錢　十月—三月

△松樹(大連一三〇粁)
- 雉子、山鶉　驛附近の廣野苦力賃一圓見當　九月中旬—四月
- 兎

△萬家嶺(大連一四六粁)
- 雉子　驛の西方約六粁の閻河店地方
- 兎　西方二四粁を隔る紅士嶺附近

△許家屯(大連一六〇粁)
- 雉子、山鶉　李劉溝華旬子矯家溝拉子山附近苦力賃七十錢見當　十一月—三月
- 兎

△九寨(大連一六八粁)
- 雉子、鴨　相紅旗水畬子の海岸一帶　三月—四月
- 白鳥　九月—十月

△熊岳城(大連一七八粁)
- 雉子、兎　驛より八粁熊岳河口附近

△蘆家屯(大連一八八粁 奉天二〇八粁)
- 雉子　驛の東方約一六粁の山野　十月—三月

△分水(大連二四七粁 奉天一四九粁)
- 雉子、鴨　驛北方約一六粁滾水泡附近苦力賃一圓見當　三、四、九、十月

△湯崗子(大連二九二粁 奉天一〇三粁)
- 雉子、山鳩　驛西北約四粁中所屯附近、西方八粁勝璧堡附近、東方約四粁千山河附近苦力賃一圓見當　十月—三月
- 鴨
- 兎

△立山(奉天八四粁)
- 雉子、山鶉　驛より八粁櫻桃園附近　九月—四月
- 兎　驛より一粁半水源池附近
- 雉子、鴨　驛より二四粁太子河附近　三月—五月

△遼陽(奉天六四粁)
- 山七面鳥　驛舍西方の耕地　十二月中旬—一月下旬
- 雉子、鴨　驛西南三粁廠房八粁新立屯附近　三月中旬—四月中旬
- 鳴　附近の沼地　四月中旬—五月上旬、八月中旬—下旬

△奉天
- 雉子　驛米子、丁莊子小屯子驛より六粁附近　十月—四月
- 雁、鴨　渾河畔、沼地　三月下旬—四月上旬
- 鳴　驛西北方大灣、鎮相屯附近　九月上旬—下旬
- 雉子、兎　東陵附近　十月中旬—三月

△新臺子(奉天四四粁)
- 鴨、雁、鳴　驛北方八里庄附近
- 雉子、山鳥　驛東方八粁　十二月—二月

△亂石山(奉天五二粁)
- 雉子、山鶉　驛東方一帶　十月—四月
- 鶉、兎　西方の荒地　十一月—三月
- 鴨、鳴　西南方四粁の沼地

△得勝臺(奉天六一粁)
- 雉子、山鶉　驛より四粁乃至二〇粁一帶の山野附近　九月—四月
- 田鳴、鴨鳴　附近の沼澤　四月—五月

△鐵嶺(奉天七一粁)
- 雉子、兎　驛より約二〇粁柴河上流一帶　十月—十二月
- 雁、鴨　柴河下流

△平頂堡(奉天八二粁)
- 雉子、兎　山麓の附近　十一月—三月
- 鴨、雁　苦力賃一圓見當　三月下旬—十月中旬

△開原(奉天一〇四粁)
- 雉子、山鶉　驛東方一二粁馬家溝驛東北方一二粁王大樹附近馬車の便あり　九月—四月

△金溝子(奉天一一五粁)
- 山七面鳥　驛附近の原野　三月—四月
- 兎

△馬仲河(奉天一二五粁)
- 兎、雉子、山鶉、山七面鳥　驛北方一二粁十八家子附近

△昌圖(奉天一三六粁 新京一六八粁)

雉、鶉、兎　驛東方約四粁石山橋山方面　十月—三月
山子　東北約八粁哈什廟溝孤楡樹附近
△滿井（奉天一四三粁 新京一六一粁）
雉子　驛東方約八粁張家外子
山七面鳥　驛東方二〇粁我勾附近　十一月—二月
兎
△泉頭（奉天一五〇粁）
雉子、兎　驛より約八粁を隔る雜木山　十一月—二月
△雙廟子（奉天一六一粁 新京一四三粁）
雉子　驛の東方三二粁蓮花街附近 苦力賃一圓見當　十一月—三月
△虻牛哨（奉天一七六粁 新京一二八粁）
雉子、兎　驛東方約八粁の丘陵地一帶　十月—四月
△四平街（奉天一八九粁 新京一一五粁）
雉子、山鶉　驛より二二粁拉山澄子溝、下山臺方面馬車自動車の便あり　十一月—一月
△楊木林（奉天一九五粁 新京一〇九粁）
雉子、兎　驛の東方約二〇粁邊裏山附近 苦力賃七十錢　九月下旬—三月
△大楡樹（奉天二三四粁 新京六九粁）
雉子、兎　驛南方約四粁東遼河の鐵橋附近　十月—二月

鴨　驛前面の水田東遼河の流域　三、四月
△大屯（新京一九粁）
兎　大山の南西側　十、十一月
鴨、雉子　驛西方約八粁の小池附近　三、四月
△新京
雉子、兎　吉長線の土門嶺九站間一帶

營口線

△營口（奉天一七九粁四）
雁、鴨、鴫　驛より大官屯、鴨島　三月中旬—四月中旬
白鳥　西砲臺、大高坎田庄臺　九月中旬—十月中旬

撫順線

△楡樹臺（奉天一二粁）
鴨、雁　驛より約二粁全家灣附近　十一月初旬—十二月初旬
山七面鳥　農場　二月—四月
兎
△孤家子（奉天一九粁）
雁、鴨　渾家の畔　十月下旬—二月下旬
山七面鳥
兎　附近の耕地
△深井子（奉天三三粁）
雁、山七面鳥　李石寨、牛相屯附近
兎　東陵方面

安奉線

△火連寨（奉天七一粁）
雉子　舊大嶺附近　十二月—二月
△本溪湖（奉天七七粁）
雉子　福金方面は驛より二粁以南沿線一帶火連寨方面は驛より二粁以北牛心臺方面約一二粁以東の山地一帶　十二月—二月
△橋頭（奉天九三粁）
鴨、鳩　驛より四粁乃至八粁遼陽街道楡樹林子忠魂碑附近　三、四月
雉子、兎　釣魚臺寮馬票街道一帶　十月—四月
△南坟（奉天一〇八粁）
雉子、兎　驛の東方約二粁東溝北方四粁金杭　十月—四月
野猪　驛の南北約二粁舊南坟西方約四粁臥龍溝附近
△下馬塘（奉天一一八粁）
雉子　驛附近一帶 苦力賃一圓見當　十月初旬—三月
△祁家堡（奉天一三六粁）
雉子、鳩、山鶉、兎　附近の山地一帶　十月—三月
△草河口（奉天一四七粁）
雉子　附近の山地一帶　十一月—三月
△劉家河（奉天一七五粁）

雉子　附近の山地、草河沿岸　十一月—二月
鴨　四月、五月
△秋木莊（奉天一八一粁 安東九四粁）
雉子　驛より四粁黑坑瓦房屯附近　十一月—三月
兎　大葦溝方面
△鷄冠山（安東八〇粁）
雉子　驛西南四粁遠家溝老虎嶺、羊草溝、沙子溝　十一月
△四臺子（安東六九粁）
雉子、兎　附近の山地
△五龍背（安東二四粁）
兎、狼、狐、雉子、雁、鴨　丁簽山麓一帶驛附近の水田 苦力賃七十五錢　十月—五月

◎凡例　鳥獸の棲息數は多數を（特）以下（A）（B）（C）の順とする。

奉山線 錦古線

△巨流河　南方水地　水鳥（A）
△新民　北方深く　山鶉、雉（B）
附近一帶水地　水鳥（A）
△錦縣　北方一帶水地　水鳥（B）
△興城　南東方深く　鶉（A）
△山海關　南方水地　水鳥（B）
北方山野　山鶉（B）雉子（C）
△承德　熱河一帶　熱河山鶉（C）

奉吉線

△南口前—梅河口　鐵道西北方一帶淺く　雉子（A）
△英額門　驛南東方山地　雷鳥（C）

平齊線 大鄭線

△三江口　北方水地　水鳥（A）
△三江口—大平川　鐵道沿線兩側一帶廣く
△通遼　雉子、山鶉（A）

京白線 白阿線

△白城子—安廣　安廣を中心とする附近一帶　山鶉、雉子、鶉、猫足（グラウス）黃羊、獐（特）
△阿爾山　興安嶺一帶　山鶉（特）雉子（A）猫足（グラウス）（A）黃羊（特）山七面鳥（特）

京濱線

△陶賴昭　西方水地　水鳥（A）
△哈爾濱　哈爾濱を中心とする水地河川　水鳥（B）
同じく原野　雉子（A）

京圖線 拉濱線

△飲馬河　北方水地　水鳥（A）
△吉林、拉法　京圖線、拉濱線にて圍む山地（長白山脈）　雉子（特）雷鳥、山鶉、猪、獐（B）

濱綏線

△鐵道沿線　北方山地全般（長白山脈）　雉子（特）山鶉、雷鳥、猪、滿洲赤鹿（B）

濱洲線

△巴　林　大興安嶺　黒雷鳥、大雷鳥、エゾ雷鳥
雉子、山七面鳥（特）
山鶉、猫足（グラウス）滿洲
赤鹿、猪、獐、黄羊（A）

齊北線 北黒線

△寧　年　附近平野　山七面鳥、雁、鴨、山鶉、鶉（特）

△北　安　北黒線沿線一帶（小興安嶺）
黒雷鳥、エゾ雷鳥、鶉（A）
雉子、山鶉、黄羊、獐（特）

平梅線一帶　雉子（A）

禁獵地域

定められたる禁獵區竝に公道、公園、廟宇社寺境内、墓地、市街その他人家稠密なる場所や建物、人畜、汽車、電車若くは艦船に銃丸の達する虞ある所での狩獵は禁ぜられてゐる。

尚日出前及び日沒後は銃獵を爲すことを得ず。

狩獵鳥獸

滿洲國の鳥獸保護法施行規則に依り定められたる狩獵鳥獸の種類は次の通り

鶉、五位鷺、蒼鷺、鷹、隼、鶚（ミサゴ）、雉子、沙鷄、半翅（ヤマウヅラ）、鶉、鷓鴣、雷鳥、野鴨、鵠（ハクテウ）、雁、秧鷄（クヒナ）、鷸、鴴（チドリ）、鷸（鴫）、鴇（ノガン）、山七面鳥、鳩鴿（ハト）、魚狗（カハセミ）、鶫（ツグミ）、烏鴉（カラス）、松鴉（カケス）、鵲、老西兒（シメ）、蠟嘴雀（イカル）、交啄（イスカ）、花鷄（アトリ）、金翅雀（ヒワ）、金翅兒（カハラヒワ）、雀、花眉子（カシラダカ）、黄道眉（ホホジロ）、紫背兒（ノジコ）の鳥類

獸類（獺、黒貂、牝鹿を除く）及び各種

鳥類の狩獵期は滿洲國では九月一日より五月三十一日まで、關東州では八月十五日より四月三十日まで、但し鷸（鴫）に限り何れも五月三十一までとなつてゐる。

獸類は十一月一日より三月三十一日まで狩獵することが出來る。

旱獺（タルバカン）は八月一日より九月十日に至る間、牝鹿は四月一日より六月三十日までの間に限り狩獵を許されてゐる。

牝鹿は一切捕獲を禁止せられてゐる。

雀、烏鴉、野猪、狼、鼠、兎、獐の鳥獸は一年を通じて捕獲することが出來る。

スキー場

撫順老虎臺スキー場（奉天より一時間十分）

撫順驛前から電車の便がある、スキー場は老虎臺停留場の直ぐ前にあり、スロープは五百米位から種々あるが相當降雪量の時でないとスキー不可能。

◇設備　休憩所はあるが食事等携行を要す

遼海山スキー場（連京線奉天より鐵嶺まで急行約一時間）

遼海山は鐵嶺驛からバスで約二十分、相當降雪量の時はスキー可能。

◇設備　休憩所があり簡單な食事が出來る
◇貸スキー備付
◇宿泊　鐵嶺市内の旅館を利用

土們嶺スキー場（京圖線新京より約一時間四十分）

土們嶺驛前の小山を中心とし周圍に展開し到るところ緩急様々のコースがありスキー場としては絶好である。土們嶺驛の東方三粁餘の大媽虎頭山では山スキーも出來る。

◇設備　ヒュッテあり、驛前で簡單な食事（支那料理）は出來る。

山城鎭スキー場（奉吉線奉天より約五時間）

山城鎭驛の南方の城子山（四九一米）の山頂を基點として東西五〇〇米に展開す

るスロープは練習スキー場に適してゐることから約一粁の陡嶺と稱する峠の北面一帶のスロープには緩急、長短様々のものがある。

◇設備　驛から一粁餘の城子山麓にヒュッテがある
◇驛前に旅館があり、スキー客には割引す

南雜木スキー場（奉吉線奉天より約二時間二十分）

南雜木驛の驛舍屋反對側の山麓より元帥林驛方面に掛けて長さは八〇〇米程度の廣大なるスロープが隋所に開けてゐる格別の施設はないが驛から極近い爲驛構内よりスキーを穿つて出ることが出來る。

◇貸スキーが驛にある
◇宿泊　驛前には小さい日本旅館並に滿人飲食店がある

吉林スキー場（新京より約三時間）

1　北山スキー場

北山スロープ

驛より山麓まで五粁、バス（二十分）馬車（三十分）の便がある。

ヒュッテへは更に徒歩で七分（三百米）にて達する。緩急様々のスロープを有し大衆的スキー場として家族連れにも適し吉林スキー場の中心をなすものである。

2　歡喜嶺、觀音澤、柏澤の各スロープは北山スキー場に包含さるゝも地形的には自ら一ブロックを形成して居る。北山スロープから尾根傳ひ或はスロープ傳ひに約五粁の所にある。

歡喜嶺スロープは雄大複雜、熟達者のテクニックを樂しむに好適である。

觀音澤スロープは歡喜嶺スロープを背後にし廣大な低山スロープをなして居る。

柏澤は觀音澤に連なり初心者に好適なスロープである。

3　砲臺山スロープ

驛より四粁五、馬車で二十五分位にて山麓に達す、玄天嶺と呼ばれる砲臺山の山腹に開けたスロープは變化に乏しいが廣大で練習に良い。

◇設備　北山スロープにヒュッテがある。山頂には茶屋があり湯茶の接待をなす外休日には食事の用意もある。
◇貸スキー　北山の鐵道局ヒュッテにある。

江南スキー場

松花江の對岸、滑降一粁餘のスロープが大歲子部落を挾んで南北に相對し、雄大なること吉林スキー場中第一とされ、熟練者に向いてゐる。驛から馬車にて二十五分更に徒歩にて三十分。

龍潭山スキー場

吉林の次の驛龍潭山驛から徒歩で約五分（吉林驛から馬車にて一時間）

山スキーの快味を滿喫するに絶好の山で風光又佳、スロープは概ね雄大で深林の間を縫ふてテクニックを樂しむ事が出來る。山頂の龍鳳寺で湯茶の接待をする。

◇宿泊　スキー場は何れも吉林郊外であるから市内の旅館を利用すればよい、旅館は吉林驛、ツーリスト・ビユーローで特に斡旋して居る。
◇貸スキー　吉林驛備付

玉泉スキー場（濱綏線哈爾濱より約一時間半）

驛の東方七〇〇米、乙女峠が緩い斜面を密峰山に連互する所、その肩ずれから急角度に落込むスロープが大きくうねりを描いてゐる丘上は展望美しく、快適なるスキー場である。

◇設備　哈爾濱鐵道局經營のヒュッテがある、休憩室、乾燥室、食堂、浴場、サンルーム婦人室、宿泊設備（三十名收容）等完備し全滿第一と謂はれてゐる。
◇貸スキー　貸スキー並ホップスレー（二人乘）の備付がある。
◇宿泊　旅館なし、ヒュッテに宿泊。

帽兒山スキー場（濱綏線哈爾濱より約三時間）

驛の周りの丘陵には長短、緩急様々のスロープがあり好適なスキー場を成してゐる。

◇設備　特別の施設はないが驛構内食堂を利用して仕度の上、驛前からスキーを穿ち赴くことが出來る。
◇宿泊　露人經營の小さいホテルが一軒あるのみで其他一般に宿泊設備はない。

徒歩旅行

徒歩旅行十則

1 自然を愛せよ、一木一草といへども濫に傷附けないこと。
2 火の用心及び辨當がら、空罐、空瓶の始末をすること。
3 危險な場所へは好んで近寄らぬやう。
4 行く先を必ず家人に知らせて置くこと
5 食事以外の休憩は五分か十分がよい。
6 歩き出しはゆるやかに無暗に走つたりしないこと。
7 流れに足を浸してゐると後に脚が重くなる。
8 道に迷つたら高所に出て落着いて地圖をしらべること。
9 後日のための資料に記錄を取つておくこと。
10 喧燥に亘らず朗かに。

ハイキングの服裝と携帶品

服裝 帽子、上衣、ズボン等はいくら汚れてもかまはない着古したもので結構、ズボンはニツカースか半ズボンが輕くて歩きよい。ワイシャツは襟附のもので蓋附、釦止のポケットを左右に取附たものが便利。

婦人は短かいスカートかニツカースがよい。手袋は軍手で結構。靴下は穴が開いてゐたりつぎの當つてゐないのならよい。

靴 靴は穿き慣した編上かズツクの運動靴がよいハイヒールの婦人靴は良くない。

携帶品 杖一本でもよいが、水呑コップ、水筒、それに食糧の一、二食分位は携行すべきであらう。ナイフ、マッチ、磁石、地圖位のものは缺かされない。一寸した藥品の携行も是非心がくべきで時に雨衣の用意も必要である。リユツクサツクは防水のしてある小型のもので結構、要するになるべく輕裝がよい。

携帶品の値段

	圓
帽子(PKババリ)	二・五〇――三・五〇
リユツクサツク	一五・〇〇――二五・〇〇
靴	五〇・〇〇――五五・〇〇
ピツケル	一五・〇〇――二〇・〇〇
水筒	三・四〇――五・五〇
飯盒	四・〇〇――五・〇〇
コツプ	・三五――・四五
コツヘル	一七・〇〇

(十五年一〇月スター運動具店調)

關東州地方

泉水屯、舊砲臺 (一般向・日歸り)

・**コース** 〔南關嶺驛〕―三・五粁(歩行三十五分)泉水屯……四粁(歩行四十分)大黑島……一・五粁(歩行二十分)老龍頭砲臺(李鴻章砲臺)……一・五粁(歩行三十分)模擬砲臺……二粁(歩行二十分)甘井子……船(二十錢)又はバス(三十錢)大連

三崎山 (家族向・日歸り)

・**コース** 〔金州驛〕―二・五粁(歩行三十分)金州城內……〇・五粁(歩行十分)天齊廟……一・二粁(歩行十五分)三崎山……二粁(歩行二十五分)龍王廟……三・五粁(歩行五十分)城內……二・五粁金州驛

三崎山・南山 (一般向・日歸り)

・**コース** 〔金州驛〕―三崎山コースの龍王廟より城西を通つて南山に至る、南山・金州新市街間約二粁

大和尚山 (健脚向・日歸り)

・**コース** 〔金州驛〕―二・五粁(歩行三十分)八里庄……〇・一粁乃木中尉碑……五・五粁(歩行一時間)石鼓寺……一粁(歩行四十分)山頂……五・七粁(歩行一時間)觀音閣……四・五粁(歩行五十分)響水寺……一粁(歩行二十分)朝陽寺……三・七粁(歩行五十分)八里庄……二・五粁金州驛

平山 (一般向・日歸り)

・**コース** 〔金州驛〕―二・五粁(歩行三十分)金州城內……一・七粁(歩行二十五分)三崎山……四・五粁(歩行一時間十分)平山山麓……〇・五粁(歩行三十分)山頂……三・五粁(歩行五十分)龍王廟……三・五粁(歩行五十分)城內……金州驛

化石採取行 (家族向・日歸り)

・**コース** 〔三十里堡〕―一・二粁(歩行二十分)東山後屯……〇・八粁(歩行十分)化石採取地

小黑山 (健脚向・日歸り)

・**コース**(1) 〔石河驛〕―一・五粁(歩行二十五分)臺子山…〇・一粁(歩行十五分)臺子山屯…〇・五粁(歩行十分)椿樹屯……一・五粁(歩行二十分)西邏家溝……〇・五粁(歩行十分)東邏家溝……二粁(歩行一時間)小黑山

・**コース**(2) 〔普蘭店驛〕―一三粁(バス二十五分三十錢)土城子……二粁(歩行三十分)土門子……三粁(歩行一時間)小黑山……以下(1)の逆コース

抱龍院 (一般向・日歸り)

・**コース** 〔瓦房店驛〕―舊市街……三粁(歩行三十分)老皮堡……一粁(歩行十分)抱龍院……二・五粁(歩行三十分)老粉屯……・一八粁(歩行十五分)城內

老虎山 (家族向・日歸り)

・**コース** 〔王家驛〕―一・五粁(歩行二十分)溫家屯……一・五粁(歩行二十分)遺家店……一・七粁(歩行二十分)甘泉寺……一粁(歩行二十五分)老虎山……歸路逆コース

龍潭山 (一般向・日歸り)

・**コース** 〔得利寺驛〕―三粁(歩行五十分)龍潭山四・二粁(歩行一時間)得利寺……三粁(歩行五十分)梁家塋……一・八粁(歩行二十五分)驛

石棚子溝 (一般向・日歸り)

・**コース** 〔萬家嶺驛〕―關子信號所……三粁(歩行五十分)侯家屯……二・五粁(歩行三十五分)石棚子溝

龍門湯 (一般向・日歸り又は夜行利用)

・**コース** 〔許家屯驛〕―一粁(歩行十分)陳家屯……三・五粁(歩行四十五分)北山根底……三・二粁(歩行三十五分)龍門湯

梨山 (家族向・日歸り)

・**コース** 〔熊岳城驛〕―梨山簡易驛(汽車賃十錢)……一粁(歩行十五分)梨山…一・八粁(歩行二十分)西達子營……二・二粁(歩行三十分)古家屯……二粁(歩行三十分)正白旗…〇・三粁(歩行五分)熊岳城溫泉

望小山 (家族向・日歸り)

・**コース** 〔熊岳城驛〕―二・二粁(歩行四十分)望小山…〇・二・三粁(歩行三十五分)正白旗…〇・三粁(歩行五分)溫泉

靑龍山 (健脚向・日歸り)

・**コース** 〔熊岳城驛〕―溫泉…〇・三粁(歩行五分)正白旗……三粁(歩行四十五分)遺家屯……二粁(歩行三十分)太平溝……三粁(歩行一時間)望海寺

黃旗堡溫泉 (夜行利用日歸り)

・**コース** 〔蘆家屯驛〕―〇・七粁(歩行十分)四臺子……一粁(歩行十五分)官家屯……四粁(歩行四十五分)黃旗堡溫泉

石棚山 (一般向・日歸り又は夜行利用)

・コース〔九寨驛〕—一・五粁（歩行二十分）小石棚……二粁（歩行二十五分）大石棚……二・五粁（歩行三十分）石棚山

鹿　山（健脚組・夜行利用日歸り）

・コース〔蓋平驛〕—三・五粁（歩行四十分バス十錢）蓋平城……六粁（歩行一時間半）鹿山山嘴子……二・五粁（歩行四十五分）鐵塔……四粁（歩行一時間）城内

平塔山戰跡行（一般向・日歸り）

・コース「營城子驛」—三粁（歩行四十分）對面溝……四粁（歩行一時間半、歸路三十分）平塔山

攻城山・水師營（一般向・日歸り）

・コース〔龍頭驛〕—四粁（歩行一時間半）攻城山……六粁（歩行一時間半）水師營……二・五粁（歩行四十分）水師營簡易驛

旅順戰跡巡り（日歸り）

白玉山・棧橋・燈臺（家族連行樂）

・コース（1）「旅順驛」一粁（歩行三〇分）白玉山……一粁（歩行三十分）嚴島町棧橋……一粁（舟行三十分）老虎尾半島棧橋……一粁（歩行三十分）閉塞隊記念碑及燈台……一粁（歩行三十分）棧橋……一粁（舟行三十分）嚴島町棧橋……一粁（歩行三十分）「旅順驛」若クハ半粁「乃木町大連行バス停留所」

動物園・行樂園（家族づれ行樂）

・コース（2）「旅順驛」三百米突（歩行五分）白玉山南麓第三回閉塞隊忠魂碑……二粁（歩行三十分）動物園、博物館及行樂園……二粁（歩行三十分）「旅順驛」

白玉山・黃金臺（家族連行樂）

・コース（3）「旅順驛」一粁（歩行三十分）白玉山……二粁（歩行四十分）戰利品記念館……三粁（歩行一時間）黃金台……四粁（歩行一時間三分）「旅順驛」

二〇三高地・椅子山（一般向）

・コース（4）「旅順驛」六粁（歩行一時間半）二〇三高地……四粁（歩行一時間）椅子山堡壘……一、五粁（歩行二十五分）大案子山堡壘……二粁（歩行三十分）後樂園……一粁（歩行十五分）「旅順驛」

軍墓地・松樹山（一般向）

コース（5）「旅順驛」三粁（歩行四十分）露軍戰死者ノ墓地…三粁（歩行四十分）水師營南方高地……二粁（歩行三十分）松樹山堡壘……一粁（歩行二十分）松樹山補備砲台……三粁（歩行五十分）白玉山……一粁（歩行十五分）「旅順驛」

松樹山・東鷄冠山（健脚向）

・コース（6）「旅順驛」……一粁（歩行十五分）白玉山……四粁（歩行一時間）松樹山……一、五粁（歩行二十五分）二龍山堡壘……一、五粁（歩行二十五分）盤龍山東堡壘……一粁（歩行十五分）望臺……一粁（十五分）東鷄冠山北堡壘……四粁（歩行一時間）市内バス（料金五錢）驛

魚雷營・柏嵐子海岸（健脚向）

・コース（7）「旅順驛」……〇、五粁老虎尾渡船場……三、五粁（歩行五十分）露國兵舍跡（魚雷營）……四粁（歩行一時間）柏嵐子海岸……十粁（歩行二時間半）……驛

柏嵐子・南山裡（健脚向）

・コース（8）「旅順驛」……（盛家屯露軍兵營跡）……八粁（歩行二時間、馬車

の便あり）柏嵐子……四粁（歩行二時間登坂路）老鐵山……四粁（歩行一時間）燈台……四粁（歩行一時間）南山裡……六粁（歩行一時間半）鴉鴣嘴屯……六粁（歩行一時間半）……驛

劍山・凹字形山（健脚向）

・コース（9）「旅大南道黃泥川」……六粁（歩行二時間登路）劍山……四粁（歩行一時間）岔溝西屯……三粁（歩行一時間登路）凹字形山……八粁（歩行二時間）營城子驛

攻城山・水師營（一般向・日歸り）

・コース（10）（龍頭驛）……四粁（歩行一時間半）攻城山……二粁（歩行三十分）長春庵廟……四粁（歩行一時間半）火石嶺子海軍陸戰軍砲陣地……二粁（歩行三十分）龍眼北方堡壘……二粁（歩行三十分）水師營……二粁（歩行三十分）水師營簡易驛

大　連　郊　外

・**龍ケ丘コース**（家族向）大正廣場……淨源地……二粁（二十分）龍ケ丘貯水場……三粁（三十分）—星ヶ浦……歸着

・**王家屯水源地コース**　磊山屯……二粁（二十分）高橋農園……四粁（四十分）王家屯水源地……七粁（一時間半）大西山水源地……五粁（一時間）……大正通

・**星ケ浦コース**　大連運動場……四粁（四十分）臨海浴場……一粁（十分）星ヶ浦……一粁（十分）黑石礁……黑石礁電車路終點

・**棒棰島—老虎灘—石槽屯コース**　大連神社—南山—呂家屯—譚家屯—老虎灘（歩行十二粁）

・**綠山—傅家庄コース**　忠靈塔—綠山—石道街—傅家庄（歩行六粁、傅家庄—桃源臺間バス一〇錢）

・**綠山—大嶺山コース**　綠山—大嶺山—文化臺（歩行三粁）

・**小平島コース**　常盤橋—（バス）—小平島—半島散策（歩行四粁、常盤橋、小平島間バス三〇錢）

・**凌水寺コース**　黑石礁—欒家屯—李家屯—凌水寺、往復（歩行一〇粁）

・**龍ケ岡淨水池コース**　大正廣場—龍ケ岡淨水池—星ケ浦（歩行四粁、大正廣場—龍ケ岡バス五錢）

・**大西山—王家店水源地コース**　大正廣場—西山屯—大西山水源池—韓家屯水源地往復（歩行一六粁、常盤橋—磊山屯バス四〇錢）

・**老龍頭コース**　常盤橋—（バス）—甘井子—海錨屯—老龍頭往復（歩行一〇粁、常盤橋—甘井子、バス三〇錢）

・**柳樹屯コース**　露西亞町波止場—（小蒸汽）—柳樹屯—大房身（歩行五粁、小蒸汽片道三五錢、大房身大連間汽車賃三等片道五一錢）

・**營城子—牧城子コース**　大連驛—（列車）—營城子—永興寺—牧城塘水源地—大東溝—（バス）—常盤橋（歩行一〇粁、大連—營城子汽車賃三等片道五八錢、大東溝—常盤橋バス六五錢）

・**凌水寺・歪頭山登攀コース**　黑石礁—凌水橋—欒家屯—凌水寺—歪頭山往復（歩行一四粁）

・**龍王塘・劍山登攀コース**　龍王塘—大王家屯—横山寺—劍山—胡家屯—黃泥川（歩行一二粁、大連—龍王塘及黃泥川—大連間共バス七〇錢）

奉天地方

龍　首　山（家族向・日歸り）

・コース〔鐵嶺驛〕—一・五粁（歩行二十五分）奉天街道……〇・二粁（歩行五分）撫順

街道……〇・七粁(歩行十五分)龍尾山……〇・七粁(歩行十五分)鎌倉山……〇・六粁(歩行十分) 龍首山(慈淸寺)……〇・一五粁(歩行三分) 舊登山口……一粁(歩行二十五分) 圓通寺……一粁 (歩行二十五分) 鐵嶺驛

彼蔭寺山 (一般向・日歸り)

・コース 〔歪頭山驛〕—〇・三粁 (歩行六分) 記念碑……一粁 歩行二十五分)彼蔭寺跡……二粁(歩行五十分) 山頂……三・六粁(歩行五十分)歪頭山驛

・汽車賃 奉天より八十錢 撫順より二圓四十五錢

駱駝山・太子河 (一般向・日歸り)

・コース 〔本溪湖驛〕—一粁(歩行十五分)神社山……三粁(歩行一時間)見晴臺 (駱駝山)……二・五粁(歩行三十分)崔家浦……四粁(舟行一時間・舟賃十四人乘四圓)玉泉亭……一・五粁(歩行二十分) 本溪湖驛

平頂山 (健脚向・日歸り)

・コース 〔本溪湖驛〕—太子河—宮原驛(歩行三時間)—四粁(歩行一時間半)斗姥閣……二粁(歩行五十分)龍眼池〇・三粁(歩行五分)李武寺……一粁(歩行十五分)山頂……四粁 (歩行五十分) 宮ノ原驛—(汽車十分)—本溪湖驛

本田山 (一般向・ワラビ取)

・コース 〔本溪湖驛〕—(歩行十分)神社山…本田山…神社山麓…本溪湖驛 (以上歩行二時間半) 尙本溪湖驛より宮の原に至る間隨所にコースを撰擇し得。

松山・細河 (家族向・日歸り)

・コース 〔橋頭驛〕—〇・四粁(歩行七分)神社……〇・八粁(歩行十三分)忠魂碑……〇・三粁(歩行三分)見晴臺……〇・一粁(歩行二分)富士見亭……〇・五粁(歩行六分)朝陽寺……〇・七粁(歩行十三分)河水浴場……〇・七粁 (歩行十三分)橋頭驛

後山・細河 (一般向・日歸り)

・コース 〔南坎驛〕—〇・五粁(歩行五分)砂金採集所(細河)……〇・七粁(歩行六分)鐵橋……一粁(歩行十五分) 南墳……三粁(歩行一時間十分)後山……二粁 (歩行四十分) 南坎驛

老黄山・細河 (一般向・日歸り)

・コース 〔下馬塘驛〕—〇・八粁 (歩行二十分) 細河……四粁(歩行一時間)二合目……〇・八粁(歩行一時間)山頂……三粁(歩行一時間)三閣廟……一・七粁(歩行三十分) 細河

五龍山 (健脚向・日歸り)

・コース 〔老古溝驛〕—三・一粁露峯溪—〇・五粁洗耳臺—〇・二粁雙龍瀧—〇・二五粁 聚仙峽—〇・四粁 不動坂—〇・二粁 佛爺廟—〇・五粁 權現坂—〇・三粁 龍泉洞—〇・一粁 見晴峠—七・二粁五龍背驛(所要時間六時間)

橘山戰跡 (一般向・日歸り)

・コース 〔首山驛〕—二・五粁(歩行四十分)首山堡……〇・五粁(歩行十分)淸風寺二粁(歩行三十分)橘山……一・八粁(歩行二十分)向陽寺……〇・五粁(歩行十五分)北大山……六粁(歩行一時間半)首山驛

太子河・東京城 (一般向・日歸り)

・コース 〔遼陽驛〕—〇・七粁(歩行五分)白塔公園……四粁(歩行四十五分)太子河高粱橋……三粁(歩行四十分)新城 (東京城)……三粁(歩行四十分)東京陵……一・五粁(歩行二十五分)太子河簡易驛

土城址・湯崗子溫泉 (一般向・日歸り)

・コース 〔鞍山驛〕 五粁 (歩行一時間二十分)千山神社……一・五粁(歩行二十分)鞍山站……〇・五粁(歩行五分) 土城址……五粁(歩行一時間二十分)湯崗子溫泉……湯崗子驛

筆管堡・東鞍山採鑛所 (健脚向・日歸り)

・コース 〔鞍山驛〕—八粁……筆管堡……五粁……東鞍山採鑛所……四粁……鞍山驛 (所要五時間半、六月廿日盛大なる慰靈祭あり)

石棚見學 (學生向・日歸り)

・コース 〔分水驛〕—一・二粁 (歩行十五分)官屯……二粁(歩行二十五分) 山阻……〇・五粁(歩行十分)石棚

・汽車賃 奉天より二圓七十錢 撫順より三圓四十二錢 鞍山より一圓十錢

營口市郊外 (一般向・日歸り)

・コース 〔營口驛〕……滿洲マグネシウム會社工場……水産學校……防備記念碑……煉瓦工場……康德葦パルプ工場……牛家屯滿鐵石炭棧橋……驛(以上歩行十粁、視察時間を加へ約五時間)

新屯公園 (一般向・日歸り)

・撫順驛より徒歩にて二時間(八粁)、電車片道特二〇錢、並一〇錢、八月末より九月中旬迄初茸狩によし。

東公園一帶 (一般向)

撫順驛より徒歩にて十五分、釣に良く、ボートの設備あり、琥珀溫泉 (グリンセール利用の人工溫泉) あり、表忠碑あり、眼下に運河流れて上流には河水浴場もある。

元帥林 (一般向・日歸り)

撫順城より汽車賃三等七十一錢、張作霖の墓を其子學良が建設中九分通り竣工の時滿洲事變勃發し工事中止して現在に到る。奉天よりも絶好の一日コースである。

奉天郊外

・運河鐵橋コース (一般向) 五粁(二時間) 南十條……運河鐵橋……柳林…長沼……南八條

・小河沿コース (一般向) 八粁(二時間) 南十條……砂山……長沼……南塔……小河沿……バス乘場

・北陵コース 五粁(一時間)小西邊門……北陵……飛行場……小西邊門

・東陵コース 二粁(四十分) 東陵驛……東陵ゴルフリンク……東陵……バス乘場

錦州地方

閭山大閣 (健脚向・日歸り)

・コース (溝帮子驛)……三〇粁 (遼西交通バス) 北鎭縣公署……八粁 (馬車の便あり) 大閣……山中コース約六粁……三粁北鎭廟……五粁北鎭縣公署……驛

閭山・雙泉寺・萬紫山 (健脚向・日歸り)

・コース 〔溝帮子驛〕……三〇粁 (遼西交通バス) 北鎭縣城內……二粁(バス五分) 萬紫山……七粁(歩行一・五時間) 二道溝……一粁(歩行一五分)……雙泉寺……三七粁 (バス一・五時間)……驛

二郎洞山 (一般向・日歸り)

・コース 〔錦縣驛〕……八粁(歩行二時間)二郎洞山……驛

觀香洞 (一般向・日歸り)

・コース〔錦縣驛〕……一〇粁（歩行二時間半）觀音洞……驛

女兒河（家族向・日歸り）

・コース〔女兒河驛〕—〇・五粁（歩行十分）苗圃……一粁（歩行二十分）自警村……一粁（歩行二十分）汲家果樹園……二粁（歩行三十分）種畜場……〇・五粁（歩行五分）驛

陸軍病院慰問行（一般向・日歸り）

・コース〔興城驛〕—一・五粁（歩行二十五分）祖氏石坊……二粁（歩行三十分）國立園藝試驗場……〇・五粁（歩行五分）溫泉……〇・五粁（歩行五分）陸軍病院……四・五粁（歩行一時間十分）驛

・馬車賃（驛より）祖氏石坊十五錢、園藝試驗場四十錢、溫泉四十錢、海岸八十錢

新京地方

金錢堡釣魚（一般向・日歸り）

・コース〔新京驛〕—（バス五錢）寬城子……一粁（歩行十五分）無電臺……四粁（歩行一時間）伊通河橋……二粁（歩行三十分）金錢湖……〇・三粁（歩行五分）金錢堡

淨月潭（家族向・日歸り）

・コース〔新京驛〕—（バス七十五錢）淨月潭終點……〇・五粁（歩行十分）腰站……〇・五粁（歩行十分）淨月潭

石碑嶺・淨月潭（健脚向・日歸り）

・コース〔新京驛〕—（バス四十五錢）皇帝御展望記念碑……二粁（歩行四十分）祠廟……三粁（歩行四十五分）兩半屯……一粁（歩行二十分）大觀山……四粁（歩行一時間半）淨月潭終點……（バス七十五錢）驛

九臺溫泉（家族向・日歸り）

・コース〔下九臺驛〕—約一粁（馬の便あり）小南山……九臺

・汽車賃　新京より一圓

土門嶺（家族向・日歸り）

・コース〔土門嶺驛〕—西山……大馬虎頭……驛

・汽車賃　新京より一圓三十二錢

牛拉山門（健脚向）

・コース〔四平街驛〕—（汽車十四分）平東驛……牛拉山門……平東驛（以上歩行十二粁四時間）……汽車（四平街驛）

海豐屯梨園（健脚向）

・コース〔四平街驛〕—〇・五粁（歩行十分）南丘公園……海豐屯梨園……四平街驛（以上七粁歩行三時間）

吉林地方

江南・團子山麓（一般向・日歸り）

・コース〔吉林驛〕—三粁（バス十二錢）城內省公署……〇・四粁（歩行十分）渡船場……對岸江南公園……一・六粁（歩行十八分）東萊門對岸渡船場……三・六粁（歩行五十分）露國兵器廠址……一・四粁（歩行二十分）聖母ヶ丘……一・七粁（歩行三十分）鐵橋……二・三粁（歩行一時間）驛

・汽車賃　新京より二圓三十一錢

小白山（一般向・日歸り）

・コース〔吉林驛〕—五・三粁（バス十五錢）臨江門……二・二粁（歩行二十五分）自來水……二・九粁（歩行四十五分）小白山……二・九粁東華門……二・七粁（馬車二十錢）驛

・汽車賃　新京より二圓三十一錢

歡喜嶺（健脚向・日歸り）

・コース〔吉林驛〕—五・三粁（バス十五錢）臨江門……一・五粁（歩行十八分奉吉線路進行）……三・三粁（歩行三十三分）歡喜嶺……〇・七粁（歩行十分）松の森……二・七粁（歩行三十五分）佛塔……一・七粁（歩行二十五分）北山麓……五・三粁（バス）驛

・汽車賃　新京より二圓三十一錢

龍潭山（一般向・日歸り）

・コース〔龍潭山驛〕—二粁（歩行三十分）龍鳳寺……一・五粁（歩行二十分）……松花江假驛

哈爾濱地方

松花江（家族向・日歸り）

・コース　松花江畔から近傍の丘の路を歩にまかせて逍遙する。

阿城（家族向・日歸り）

・コース〔阿城驛〕—俱樂部……芝生……阿什河畔……製糖會社……城內……娘々廟……白城址……驛（歩行約十粁所要時間二時間半）

・汽車賃　哈爾濱より七十六錢

玉泉（家族向・日歸り）

・コース〔玉泉驛〕—驛を中心に四粁ばかりの範圍を自由に綠を踏んで散策する。

・汽車賃　哈爾濱より一圓十二錢

呼蘭（一般向・日歸り）

・コース〔呼蘭驛〕—康德路……城市の東門……天主堂……關帝廟……娘娘廟……西崗公園……南門……石公祠……十字路……驛（約十二粁所要時間三時間半）

・汽車賃・哈爾濱より六十二錢（途中乘物バス馬車の便あり）

帽兒山（一般向・日歸り）

・コース〔帽兒山驛〕—〇・六粁（歩行十分）螢ヶ丘……一粁（歩行三十分）附近丘陵一週……〇・七粁（歩行十五分）阿什河……六粁（歩行一時間半）帽兒山麓……驛

・汽車賃　哈爾濱より一圓八十二錢

聖域健康路（一般向・日歸り）

・コース〔顧鄉屯驛〕—二粁（歩行二五分）護路軍碑……十五粁（歩行十五分）若松聯隊記念碑……三粁（歩行三十分）市立苗圃……三粁（歩行三十分）王兆屯（忠靈塔・志士之碑・二烈士の碑）……二・五粁（歩行二十五分）通道街……（電車・バス）……市內

・汽車賃　哈爾濱より八錢

志士の碑・忠靈塔

・コース　哈爾濱市馬家溝—忠靈塔—志士の碑（四粁強）極樂寺・外人墓地

・コース　哈爾濱市秋林本店—極樂寺—外人墓地—孔子廟（四粁、一時間）植物園

・コース　哈爾濱驛—秋林—植物園（一・五粁三五分）スンガリー對岸

・コース　キタイスカヤ—松花江—對岸（一・五粁三〇分）渡船片道十五錢

牡丹江地方

仙境・横道河子

・コース（1）〔横道河子驛〕—露西亞寺院……露西亞墓地……綠ヶ丘……近藤林業……小倉山……キャンプ澤……公園（所要時間三時間）

・汽車賃　牡丹江驛より一圓五十錢

・コース（2）〔横道河子驛〕—戀の峠……兜岩……砂滑り……公園……所要時間三

・時間（乗物なし）
・コース（3）〔横道河子驛〕―近藤林區…（ケーブルカー）…藤ケ峯（所要時間六時間）乗物驛―近藤林區間（側線七粁）林區―藤ケ峯間（ケーブルカー）

水の古都寧安（家族向・日歸り）

・コース〔寧安驛〕―市街……小島ケ丘……公園……西閣觀音寺……將軍墳……驛
・乘物 汽車（牡丹江より五十八錢）（バス十錢、馬車二十錢）

古址東京城

・コース〔東京城驛〕―城內……阿堡水鄉……十里石巖……南大廟……渤海宮殿址……城內……驛（所要時間六時間）
・乘物 汽車（牡丹江より一圓二十六錢）バス（驛……阿堡水鄉八粁三十五錢城內……驛四粁二十錢）阿堡水鄉渡船五錢

鍬の小戰士寧安訓練所

・コース〔東京城驛〕―城內……三靈屯……寧安訓練所本部……東京城驛（所要時間六時間）
・乘物 東京城驛……訓練所バス（十八粁七十五錢）

鏡泊湖八景めぐり（一般向・日歸り）

・コース〔東京城驛〕―（バス）張家水鄉……名瀑吊水樓……四季通……鏡泊ライン……（バス）……驛
・バス賃及所要時間 驛……張家水鄉（三十五粁一時間半一圓四十錢）張家水鄉……鏡泊ライン（八粁四時間）四季通……東京城驛（三十粁一時間二十分一圓二十錢）

＝齊齊哈爾地方＝

富拉爾基（家族向・日歸り）

・コース 齊齊哈爾驛……汽車（四二・一粁約一時間半）
〔富拉爾基驛〕―徒歩……避暑場……舟遊……水泳場……農業修練所……種畜場
・汽車賃 齊齊哈爾より往復一圓八錢（五月十五日より九月三十日迄往復に限り三割引）

土爾池哈（一般向・日歸り）

・コース〔土爾池哈驛〕―五粁（歩行一時間）……白土山
・汽車賃 齊齊哈爾より一圓四十九錢

札蘭屯（家族向・日歸り）

・遊覽コース
（ア）驛―天拜山……スキー場……釣橋……溫泉浴場……遊步地……ボート乘場……溫室……避暑食堂……驛
（イ）驛―釣橋……溫泉浴場……遊步地……ボート乘場……避暑食堂……驛
（ウ）驛―觀蘭山……天拜山……スキー場……避暑食堂……溫室……驛
・汽車賃 齊齊哈爾より往復四圓四十錢（五月十五日より九月三十日迄往復に限り三割引）

臥牛河（一般向・一泊）

扎蘭屯北方約六粁の地點で二日休み等には扎蘭屯より一寸足を伸ばして行けるハイキングの好適地である。

巴林（一般向・一泊）

・コース〔巴林驛〕―徒歩……避暑ホテル……河水浴場
・汽車賃 齊齊哈爾より約六時間、往復五圓九十四錢（五月十五日より九月三十日迄往復に限り三割引）

雅魯河下り（男性向）

・コース〔巴林驛〕―雅魯河畔……河舟…

…哈拉蘇間

江橋

平齊線江橋は齊齊哈爾から汽車で二時間當地は蒙古地帶稀に見る景勝の地で杏花並にスツポンと瑪瑙で有名である。

葛根廟

・コース〔葛根廟驛〕―三粁（歩行五十分）寺廟
・汽車賃 白城子より九十九錢

二郎廟

・コース〔開通驛〕―馬車（五十分）往復一圓……寺廟
・汽車賃 白城子より一圓八十錢

北京東城外（一般向）

・コース 朝陽門―通州街道―陸軍墓地―金台名照―日壇―遼土城―東嶽廟―通州街道―朝陽門（以上約四粁歩行二時間）

北京西城外（健脚向）

・コース 阜成門―マテオリツチ墓―倒影廟―月壇―沙橋巴巴墓―白雲觀―天寧寺―廣安門（以上約七粁歩行四時間）

北京北城外（健脚向）

・コース 安定門―地壇―黄寺―元土城―黑寺―德勝門（以上約八粁歩行五時間）

＝北鮮＝

承良・龍堂山（一般向・日歸り）

・コース〔羅津驛〕―（汽車一時間）承良驛……龍堂山……承良驛（以上徒歩五粁二時間）
・汽車賃 片道一圓五十五錢

＝北中支＝

角山寺（一般向・日歸り）

・コース〔山海關驛〕―二粁（ロバ二十分步行三十分）天下第一關……四粁（ロバ二時間）角山……六粁（ロバ一時間半）驛

目的地	（驟馬）片	（驟馬）往	馬 片	馬 往	洋車 片	洋車 往
天下第一關	〇・四〇	〇・七〇	〇・五〇	〇・九〇	〇・四〇	〇・五〇
角山	一・四〇	二・五〇	一・六〇	三・〇〇	一・〇〇	一・六〇

・コース 山海關驛―天下第一關（步行三十分）―角山寺・（步行一時間半）―南門―驛（約五時間）

ヱルジアンアベニユー・李家花園（一般向）

・コース 天津日本租界―ヱルジアンアベニユー……李家花園（徒歩約二時間）

八里臺水鄉（一般向）

・コース 天津日本租界―八里臺（徒歩約四十分）

四方公園（一般向）

青島市街から東北一里、四方工場地帶に在る公園にて蓮池築山等あり（徒歩凡一時間）

浮山（健脚向）

青島東近鄉の峻峰で一、二六〇呎、徒步約三里三時間、一日のハイキングに好く高嶺に立てば展望よく山麓に多くの名勝あり。

九水（健脚向）

青島から東北約三里、李村河畔にある部落で、是から實に三里嶗山々麓の溪谷に九水の勝地あり。



旭　　山（一般向）

青島第一小學校グラウンド出發徒歩にて一時間半又は二時間―旭山第一公園より徒歩にて約二十五分―旭山
バス賃――一回乘車毎一五錢

王昭君の墓（健脚向）

・**コース**〔厚和站〕―新城――王昭君の墓（以上徒歩約五時間）

大　青　山（健脚向）

・**コース**〔厚和站〕―大青山（以上徒歩約五時間）

華嚴寺・九龍壁（一般向）

・**コース**〔大同站〕―三粁（徒歩一時間）上華嚴寺―下華嚴寺―九龍壁―東門外―曹福寺―大同站（以上七粁徒歩約三時間）

元寶山・虎石寺（一般向）

・**コース**（張家口站）…（バス）…大境門……元寶山……虎石寺……淸河……大境門……（バス）…站（約六時間）

本多ケ丘・賜兒山（靑年向）

・**コース**〔張家口站〕……（徒歩）……本多ケ丘……賜兒山……站（約六時間、婦女子は不適）

雙鳳山・興國寺

・**コース**〔唐山站〕（京山線）―開灤―雙鳳山―興國寺（姜將軍墓附近に在り）―啓新セメント―唐山站（以上所要時間約三時間半、人力車約二圓）

千　佛　・　山（一般向）

・**コース**〔濟南站〕―山麓（歩行四・七粁一時間）―千佛寺（登山一粁三〇分）―歸路同コース

小　淸　河（一般向）

・**コース**〔濟南站〕―黃台橋（小淸河）（城內通過歩行六、七粁二時間半）―中央農事試驗場濟南支場（歩行一粁二〇分）―歸路同コース

北　公　園（一般向）

・**コース**〔濟南站〕―皇天廟（歩行三粁一時間二〇分）―黃河鐵橋（歩行二、三粁四〇分）―北公園（歩行二、七粁五〇分）―濟南站（歩行三、四粁一時間半）

張　　夏（健脚及一般向）

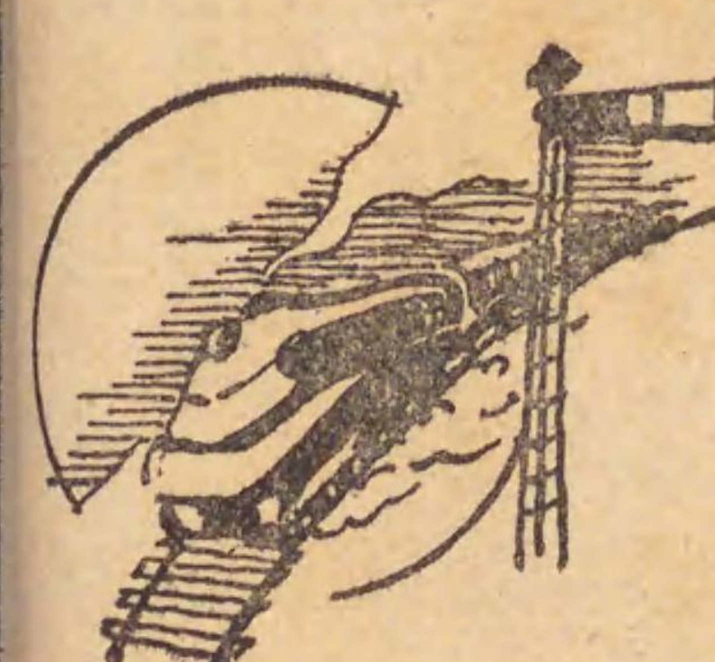
・**コース**〔濟南站〕―（汽車四八分）張夏站―登山―張家夏站（下山スル迄―所要時間三時間）―河原にてシジミ貝採り（歩行三百米二〇分）―張家驛（歩行二〇分）―（汽車四八分）濟南站
汽車賃　片道五十錢

泰　　山（健脚及一般向）

・**コース**〔濟南站〕―（汽車二時間五十分）泰安站（一泊）―泰山頂上（登山所要時間六時間）―泰安站（下山所要時間三時間）―濟南站（汽車二時間五十分）
・汽車賃―片道一圓十錢・旅館一泊六圓

虎　邱　山（一般向）

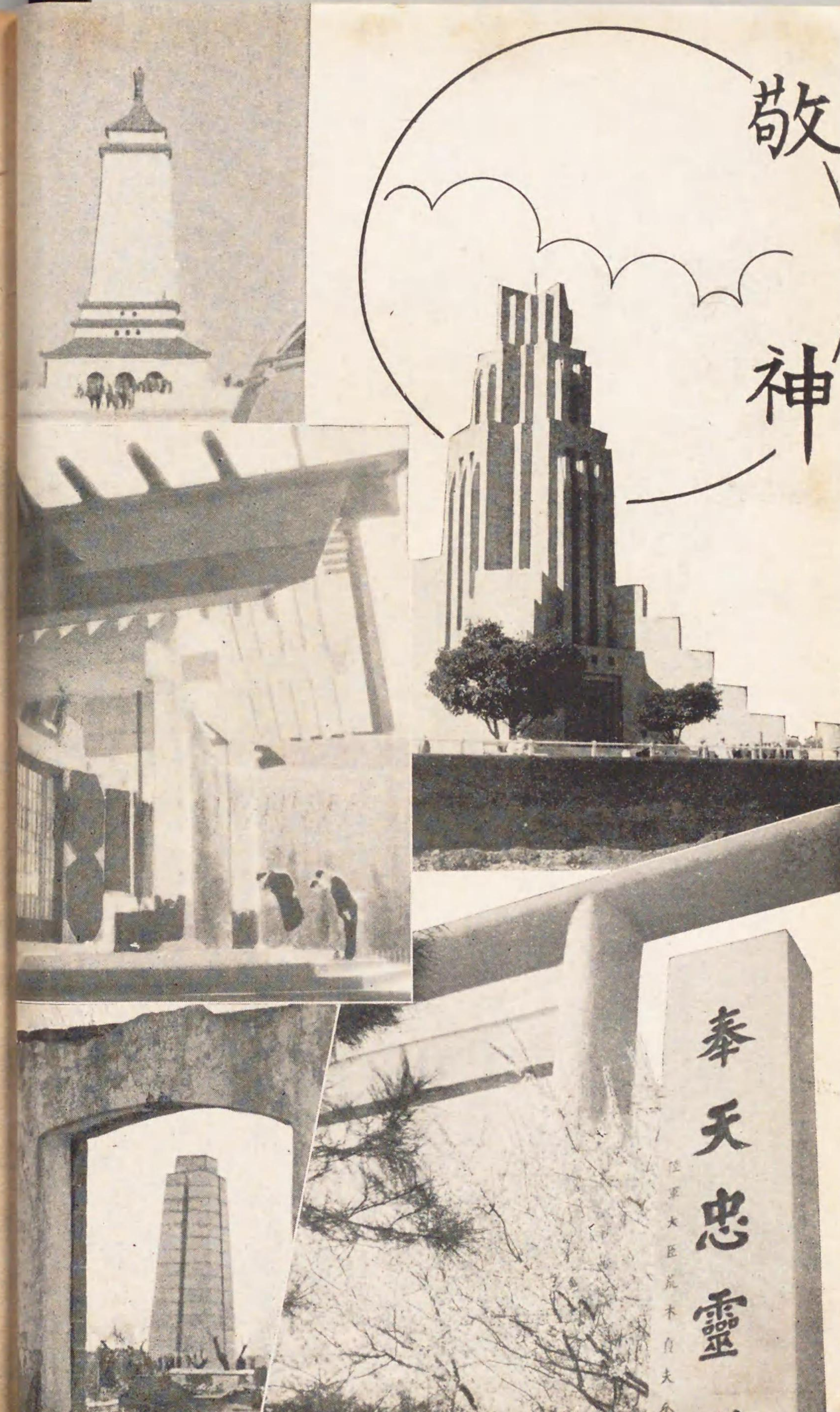
・**コース**〔蘇州驛〕（海南線）―虎邱山（歩行四粁二時間）



懷古



敬神





釣魚地

一滿洲・北鮮一

●連京線

場所	最寄驛	距離	魚の種類	期節	最盛期の餌
老虎灘	大連	四粁	めばる、あぶらめ、ちぬ、鰈	自五月至十二月	小烏賊 鰮共餌 ごかい類
小平島	同	八粁	大口鰈、めばる、あいなめ、ちぬ	自五月至十月	同
傳家庄	同	四粁	めばる、あぶらめ	自六月至十月	同
露西亞町海岸	同	一粁	太刀魚、めばる、あぶらめ	同	同
黑石礁	同	四粁	太刀魚	自七月至十一月	ごかい
龍王島	沙河口	二七粁	ちぬ	自九月至十月	えび
香爐礁	同	一・五粁	はぜ	同	ごかい
丁官寮南岸	大房身	一粁	ちぬ、めばる、あいなめ、かれひ	自八月至九月	
西海岸	金州	六粁		自八月至十月	ちぬ
愛川村 千島子	二十里臺	一〇粁—一二粁	ちぬ、めばる、あいなめ	自八月至十一月	
長島子	三十里堡	一四粁	ちぬ、鰡、鯔	同	
三道灣	同	一二粁	同	同	
石河海岸	石河	二粁	ちぬ、鰆、鯔 蟹	自八月至十月	
鹽田附近	普蘭店	同	沙魚	自七月至十月	
回頭河及復州河一帶	王家	五〇〇米—一〇〇粁	はや、鮒、鯰、すつぽん	自四月至十月	
復州河	松樹	一〇〇米	はや、鮒	自七月至十一月	
石頭河	萬家嶺	二粁	鮎	自八月至九月	
自頭道溝至八道溝間	熊岳城	七粁—一二粁	はや、鰻、鯊、鮎、鮒、鯉、	自五月至十月	
馬圈子	蘆家屯	四粁弱	鮒	自四月至十一月	みみず
鮁魚圈	同	八粁	にべ、赤ぐち	同	たこ
鹽廠	同	一〇粁	ほら	自八月下旬至十一月	
小河沿	同	四粁	鮒、鰻	自四月至十一月	みみず 鰌
海水浴場附近	沙崗	六粁	赤ぐち、海老	自三月至六月	
鹽田附近	蓋平	一〇粁	はぜ、すゞき、鮒、鯰、	自八月至十月	
海城河	海城	四〇〇米	鮒、鯉、はや、鯰	夏秋	
公園內	湯崗子	三〇〇米	鯉、鯰、鮒、はや	自四月至十月	練餌
鞍山河	千山	一粁	はや	自四月至九月	
安庄子沼	首山	同	鯰、鮒	自五月至十月	
太子河	遼陽	五粁	はす、鯉、川鱒、鮒	自五月至九月	
房身	張臺子	北六粁	鱧、鮒	自六月至九月	
大房身附近池	煙臺	南四粁	同	六、七、八月	
十里河鐵橋附近	十里河	東北一粁	鮒、鯰、はや、鱔	自五月至九月	
避溢橋下沼	渾河	北六〇〇米	鯉、鮒、鯰、鱧 はや	自五月至十月	
古城子の池	虎石臺	東北四粁	鮒、鯰	同	
官公臺の池	同	北三粁	同	同	

小橋子河	虎石臺	南四粁	鮒、鯰	至十月	
沙河子河	平頂堡	東北三粁	鯉、鮒、鯰、鮎、河鰡、はや	自六至十一月	
中固河	中固	上下四粁以內	はや、鯰、鮒	自六至九月	
開原河	開原	一粁	鮒、鯉、鯰	自六至十月	
城內蓮池	同	八粁	鮒、鯰	同	
蓮花泡	桓勾子	西北八粁	鮒、鯰、すつぽん	自六至七月	
三道河	虻牛哨	三粁	鮒、鯰、其他	自四至十月	
紅山咀沼	同	同	同	同	
廟子溝河支流	同	一粁―四粁	同	同	
大泉眼	同	二粁五	同	同	
馬泉口河	楊木林	三粁	鮒、狐鯉、はや	自六至十月	
同	十家堡	西一粁五	鮒、鯰	自五至十月	
同	蔡家	四粁	鯉、鮒、はや、鯰	同	
老揚溝沼	大楡樹	西北六粁	鯉、鮒、鯰	自五至九月	
大連泡沼	同	南四粁	同	同	
東遼河	同	西南四粁	同	同	
四馬架子沼	同	南三粁	同	同	
大楡樹河	同	東北〇・五粁	同	同	
朝鮮ダム	公主嶺	六粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ	同	
ロヤン湖	同	一二粁	鯉、鮒	同	
二十家子	同	四粁	あぶらはや、鮒、砂もぐり、うぐひ	同	

● 安奉線

太子河鐵橋附近	本溪湖	二粁	はや、雨鯉、狐鯉、鮒	同	
崔家浦附近	本溪湖	六粁	雨鯉、はす、はや	自五至七月	
三日浦附近	同	一四粁	雨鯉、はす、はや、狐鯉、砂もぐり、いだ	自五至九月	
水浴場附近	橋頭	一・五粁より	鮒、狐鯉、砂もぐり、鯰、ぎぎゆう、はす、うぐひ、はや	自四至九月	
釣魚臺附近	同	六粁	同	同	
細河古松子	南坟	四粁	はや、はす、鯰、砂もぐり、ぎぎゆう、狐鯉、うぐひ	自五至十月	
長嶺子	同	三粁	同	同	
五本松	同	二粁	同	同	
驛前一帶	同	二〇〇米	同	同	
驛南北地帶	下馬塘	南北二粁	狐鯉、砂もぐり、はや、はす、ぎぎゆう、鯰、かじか、うぐひ	自五至九月	
驛附近一帶の清流	連山關	上下流二粁	狐鯉、うぐひ、はや、鯰、はす、すつぽん、砂もぐり	自五至十月	
	通遠堡	北四粁より	はや	同	
	林家臺	一〇〇米―一粁	はや、はす、砂もぐり	同	
草河	劉家河	東南より北一粁半	はや、砂もぐり、鰻、鯰、はす、めばる	同	
小域場沼	同	西二粁	鯰、鮒	同	
劉家河沼	同	東南一粁半	鱷、鮒、たなご	同	
	秋木莊	東一粁	はす、はや、めばる、狐鯉、鰻、すつぽん	同	
	四臺子	二粁以內	はや、はす、鰻、鯰、砂もぐり	同	
草河	鳳凰城	西南四粁 東二粁 東南二〇粁	はす、はや、めばる、鰻、鯰、砂もぐり	同	

湯山城河	湯山城	二二二米	はや、砂もぐり、めばる、鰻、鮎、鯉	春夏秋	
靉河	同	四粁	同	同	
附近沼澤	五龍背	二粁	鮒、鰻	自六至九月	
第二蛤蟆塘河	蛤蟆塘	一粁	鮒、はや	同	
沼	同	北一二粁	鮒	同	
鴨綠江鐵橋附近	安東	一粁	鮒、狐鯉、鯰、鱺、砂もぐり、はや	自五至十月	
三道浪頭	同	一二粁	同	同	
九連城(靉河)	同	八粁	同	同	

● 旅順線

海岸線四一帶	夏家河子	四〇〇米	はぜ	自七至十一月	ごかい
海岸沖合	同	二粁―二粁半	かにきす	自七至九月	肉、魚類、ごかい
二つ山	同	西四粁	ちぬ	自七至十一月	ごかい
二つ目	同	東一粁	同	同	同
三つ目	同	東二・五粁	同	同	同
五つ目	同	東三粁	同	同	同
七つ目	同	東三・五粁	同	同	同
九つ目	同	東四粁	同	同	同
猴兒石	營城子	三粁	ちぬ、めばる	自八至十一月	
嶬旱砣子	同	二粁	同	同	
大黑石海岸	長嶺子	三粁	ちぬ	同	
大潮口海岸	同	一〇粁	同	自十至十一月	
北海	同	一五粁	同	同	
同	龍頭	一〇粁	ちぬ、かれひ、太刀魚	自八至十一月	
同	同	四粁以內	はえ(川魚)	自四至十一月	
港內	旅順	〇・五粁	めばる、あいなめ	三、四、五月	
老虎尾	同	一・五粁	めばる、あいなめ、すゞき、かれひ、かに / ほんかれひ、めばる、ちぬ、すゞき	六、七、八月 / 九、十、十一月	
鎖頭子	同	一一粁			
柏嵐子	同	一二粁			
老鐵山	同	一六粁			
羊頭灣	同	一二・五粁			
雙頭灣	同	一三粁			
北海	同	一五粁			
合圖溝	同	一六粁			

● 營口線

砲臺附近	營口	六粁	はぜ	九、十月	

● 撫順線

沙寶屯	李石寨	東北三粁	はや、はす、鮒、鯰	自五至十月	
李石寨河下流	同	北三粁	同	同	
舊搭灣	撫順	東二粁	鯉、鮒、はや、鯰、鱷	自五至十月	
新搭灣	同	東四粁	同	同	
渾河	同	北一粁	鮒、はや、砂もぐり	同	
蓮池	同	東一粁	鮒、はや	同	

● 奉吉線

口前河口	口前	二粁	鯉、鮒、鯰、すつぽん	自六月上旬至十月中旬	

鯉、鯰＝蚯蚓　鮒＝玉蜀黍の練餌　はや＝蚊鉤　すつぽん＝魚肉獸

飲馬河	煙筒山	五〇〇米	鯉、鮒、鯰、はや、すつぽん	自六月上旬至十月中旬	同
柳河	梅河口	二粁	鯉、鮒、鯰、すつぽん	同	同
蓮花泡	同	二粁	同	同	同
窪渾木河	同	五・五粁	鯉、鮒	自五月至十月中旬	同
半喇嘴子河	營盤	二・〇粁	はや	同	同
碑樓子河		四・五粁	同	同	同
江南河		二・五粁	同	同	同

梅輯線

渾江 哈泥河	通化	一粁	鯉、鮒、はや、砂もぐり、川鱒	自五月至十月	同

京圖線

飲馬河	飲馬河	三粁	鯉、鮒、鯰、すつぽん、哈牙子（きゆうぎゆう）	自六月上旬至十月中旬	同 哈牙子＝蚯蚓
天崗	天崗	三粁	同	同	同
蓮花泡	同	三粁	同	同	同
轉心湖水泡	樺皮廠	一粁	鯉、鮒、鯰、はや	同	同
大水角泡	同	一粁半	同	同	同
松花江	哈達灣	一〇〇米	鯉、鮒、鯰、白魚、鰲花魚、すつぽん、哈牙子	同	白魚、鰲花魚＝蚯蚓の玉蜀黍練餌
六道河	六道河	二粁	鯉、鮒、鯰、すつぽん、鮎、哈牙子	同	同
六道河	六道河	六粁	山女、川鱒	同	全部蚯蚓
拉法泡子	拉法	二〇〇米	鯉、鮒、鯰	同	同
拉法河	同	二粁	鮒、鯰、鮎、鯉、すつぽん、哈牙子	同	同

嘎呀河	蛟河	八〇〇米	鮎	同	同
大八家子沼	同	四粁	鮒、鯰、鰡	同	鰡＝鮭鱒
沙河（大石頭河）	大石頭	一粁	鮒、鯰、砂もぐり、はや、川鱒	自四月中旬至十月中旬	同
蛟河	蛟河	二粁	鯉、鮒、鯰、すつぽん、鮎、哈牙子	自六月上旬至十月中旬	蚯蚓、練餌、獸魚肉
碑仙洞潭	明月溝	三粁	川鱒、鮒、はぜ	自五月至九月	鰡＝鮭鱒
站附近	南溝	南三〇〇米—二粁	砂もぐり、川鱒、はや、岩魚	自六月至九月	同
布爾哈圖河畔	葦子溝	北東一粁	鰻、砂もぐり、やり	自五月至九月	同
玉芝ヶ池	茶條溝	四粁	鮒	自五月至十月	同

朝開線

圖們江	開山屯	二〇〇米	八つ目鰻、鮒、はや	自六月至九月	蚯蚓

京濱線

西蓮花泡	陶頼昭	約一粁	鯉、鮒、鯰、鰡	自五月至九月	蚯蚓、鮭鱒
蓮花泡	同	同	同	同	同
東蓮花泡	同	同	同	同	同
松花江（河沿岸及龍泉窩棚附近）	同	四—六粁	鯉、鮒、よろし、白魚、草根魚、鰡	自五月至十月	同
松花江	松花江	北五〇〇米	同	同	同
伊通河	一間堡	西南一粁	同	同	蚯蚓
水溝	同	驛前三〇米	同	自六月至十月	同
松花江	哈爾濱	道裡埠頭まで電車にて一五分	鮒、鯰、鯉、よろし、白魚	自五月下旬至十月下旬	蚯蚓、さなぎ

濱北線

松花江	三棵樹	北四粁	鯉、鯰、鮒	自五月下旬至十月下旬	蚯蚓
驛前	新松浦	附近	鯉、鯰、鮒、白魚、草根魚	自五月下旬至十月上旬	蚯蚓、さなぎ
太平屯	同	東一粁	同	同	同
呂家窩棚	同	東二粁	同	同	同
呼蘭河	徐家	西北一粁	鯉、鮒、白魚、黒魚	自五月下旬至十月下旬	同
渼盤泡	同	南半粁	同	同	同
小池	同	二粁	同	同	同
松浦沼地	新松浦	松浦舊驛の東一粁西南一粁	鮒、鯉、胖頭魚、草根魚	同	蚯蚓
呼蘭河	呼蘭	西南三粁	鯉、鮒、白魚、鯰、はや	自六月上旬至十月上旬	蚯蚓、黄米面
釣魚臺	同	城内南門側	同	同	同
第二呼蘭河	秦家	南一粁	鯉、鯰、鮒、はや	自五月下旬至十月中旬	蚯蚓

北黒線

黒龍江	黒河	西方	鯉、鮒、鯉、白魚	至六月上旬至八月下旬	蚯蚓、さなぎ
小黒河	同	東南〇粁	同	同	同

濱綏線

阿什河	阿城	南及東北一粁—二粁	鮒、鯉、鯰、はや、すつぽん	自五月初旬至十月初旬	蚯蚓
沼	同	東北一粁—二粁	鮒、鯰	同	同
小海溝	同	東六粁	鮒、鯰、鯉	同	同
黄泥河	帽兒山	半粁—三粁	細鱗魚、鮒	同	蚯蚓、かばり

平齊線

八面城	八面城	一粁	鮒、狐鯉、はや	
招財河	曲家店	西二粁徒歩	鯉、鮒、鯰、白魚	自五月至九月
東遼河	三江口	北一粁 七月最盛	鯉、鮒、はや、黄昂魚（黄骨子）	自六月至九月
西遼河鐵橋附近	鄭家屯	北五粁	鯉、鮒、鯰、砂もぐり	同
洮兒河	洮南	北四粁	鯉、鮒、鯰、白魚	自八月至十月
綽爾河	泰來	東北一〇粁	鯉、鮒、鯰、鰡、白魚	自六月至九月
同	五廟子	南五粁	同	自六月至九月中旬
嫩江	江橋	北二粁五、徒歩約三〇分	鯉、鮒、鯰、鰡、扁花魚、はや、ぎぎう、すつぽん	自六月至九月
嫩江支流	同	西方七粁	鯉、鮒、鯰、鯰、扁花魚、はや、ぎぎう、すつぽん	同
同	同	東南四〇〇米の間	同	同
江橋、大興間鐵道線路兩側に散在する沼地	同	鐵橋通過の際は所在官憲の許可を要す	鮒、鯰、鰡、ぎぎゆう	同
嫩江支流及大興江橋間線路西側沼地	大興	西二粁	鯉、鮒、鯰、鰡、扁花魚、はや、發、綠魚、黄昂魚	同
舊第三橋池	同	南六粁	同	同
舊第四橋池	同	南五粁	同	同
舊第五橋池	同	南三粁	同	同
孤店沼	楡樹屯	北三粁	鯉、鯰、鱒	自七月至九月
嫩江支流	齊齊哈爾	西南四粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ、はや	自六月至九月

王屯	同	北五粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ	同

● 齊北線

泊渡河	塔哈	北三粁	鯉、鮒、鯰、白魚	自六月至九月
大沼	寧年	西二粁	鰻、鯰、鯰、鱷、すつぽん	自五月下旬至九月中旬
烏裕爾河	克山	南二粁	鯉、鰟頭魚、白鳥、鮒、うぐひ	自七月至九月
同	泰安	東南二粁五	鮒、鯰	自六月至九月
同	郭家	東南三粁	鰻、鮒、鯰、鱷	自五月下旬至九月

● 寧墨線

嫩江	拉哈	西五〇〇米	鮒、鯉、鰲花魚、[illegible]頭魚、鯿花魚、鯰、白魚、すつぽん	自五月中旬至十月中旬
訥謨爾河	新安	北六粁	鯉、鮒、鯰、鱷、うぐひ	自六月至八月
訥謨爾河舊河床四箇所	訥河	南四粁	鮒、はや、鯰、川鱒(小)	自六月至九月
同地池三箇所	同	東五粁	同	同
同	同	南六粁	同	同
布西附近嫩江本流	同	南二五粁	鯉、鮒、はや、鯰、うぐひ、川鱒(小)	同
老萊河	老萊	北六粁	鮒、鯰	同
同	伊拉哈	北五粁	同	同
嫩江	墨爾根	南北四粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ、はや	自七月至十月中旬

● 濱洲線

黒魚泡	廟臺子	西北半粁	鮒、鯰、鯉、白魚	自五月至十月

頭道口子沼	昂昂溪	西一粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ	
二道口子沼	同	西三粁	鯉、鮒、鱷、鯰	自五月至九月
王麻泡子沼	同	北二粁	鮒、鯰	同
嫩江	富拉爾基	東二粁	鮒、花、砂もぐり、鯉	同
雅魯河	子山	西四粁	鯉、鮒、鯰、はや、うぐひ、砂もぐり	自六月至九月
同	成吉思汗	西三粁	鯉、鮒、鯰、白魚	同
雅魯河支流ベラーヤ河	巴林	西北一五粁	川鱒、たいめん	同
雅魯河	札蘭屯	南北二粁	鯉、鮒、鯰、白魚、はや	自五月至九月
同	哈拉蘇	南北一粁	細鱗魚、狗魚、川鱒	自五月至八月
同	雅魯	南二粁	細鱗魚	自六月至九月
雅魯河上流	博克圖	東南八粁	たいめん、川鱒	自八月中旬至十月中旬
烏奴耳河	烏奴耳	西〇粁	細鱗魚、たいめん	自六月至九月
免渡河	免渡河	東南〇粁	同	自七月至九月
阿爾渾河	烏固諾爾	北〇粁	鯉、鮒、鯰	自五月至八月
同	完工	北〇粁	鮒	至六月至九月
海拉爾河	赫爾洪得	東〇粁	鯉、鮒	自七月至九月
阿爾渾河	嵯崗	西北〇粁	鯉、鮒、鯰、白魚	自七月至八月
ムーツナヤ河	札來諾爾	西〇粁	鯉、鮒、鯰、はや	自五月至九月
北煤湖	同	北〇粁	鮒	自六月至九月

阿爾渾河	同	東北〇粁	鯉、鮒、鯰	自五月至九月

● 京白線

伊通河	小合隆	東二粁	鯉、鮒	自五月至九月
新開河	華家	南一粁	鯉、鮒、鯰、砂もぐり、草根魚	自六月至九月
伊通河	農安	東南三粁	鯉、鮒、鯰	同
松花江	七家子	東北二粁	鯉、鮒、鯰、白魚	同
川頭漢河	新廟	西南一二粁	鯉、鮒、鯰	自七月至九月
松花江	前郭旗	北四粁	鯉、鮒、鯰、すつぽん	自五月下旬至十月初旬
嫩江	大賚城	北五粁	鯉、鮒、扁花魚、紅尾魚、鱷、鯰、白魚	自五月至十月末

● 白阿線

洮兒河	索格營	西北七粁	鯉、鮒	自六月至九月
洮兒河	葛根廟	西北三粁	鯉、鮒	自六月至九月
王好心歸流河	王爺廟	北八粁	鮒、鯰、白魚、はや	自五月下旬至九月上旬
包拉根營子洮兒河	同	北五粁	白魚、鮒	同
入公府洮兒河	同	北一二粁	鱷、川鱒	同
歸流河	歸流河	西北二粁	白魚、鮒、すつぽん	自六月至九月
歸流河支流	大石寨	西南四粁	鮒、鯰、草根魚	同
洮兒河	德伯斯	德伯斯	鱒條魚、たいめん	同　四月、五月八月氷結時は鱒條魚、五月以降たいめん

德伯斯—索倫洮兒河	同	東五粁	川鱒、はや、たいめん	自五月至十月
同	索倫	東一〇粁	同	同
白海	同	西一八粁	同	同
西口	西口	北一粁	同	同
洮兒河	牛汾臺	西南〇粁	川鱒、はや、たいめん	同
同	白狼	東南〇粁	同	同
哈拉哈河	阿爾山	西北〇粁	同	同

● 圖佳線

嘎呀河畔	石峴	南西一粁	鮒、砂もぐり	自六月至九月	蚯蚓
同	三道溝	西北五粁	いゝみんす、鯿、やり	自六月至十月	
大汪清河畔	汪清	一粁乃至五、六粁	柳根魚、やり、いゝみんす、砂もぐり	自五月至十月	毛針、河虫、蚯蚓
嘎呀河畔	廟嶺	東一粁西北方一粁半	赤腹、いゝみんす、やり、砂もぐり	自五月中旬至九月下旬	蚯蚓、さなぎ、河蝦、毛針
嘎呀河鐵橋附近	三岔口	一粁半乃至三粁	いゝみんす、鮒	自六月至九月	蚯蚓
阿布達河畔	同	二粁	いゝみんす、柳下	同	同
駱駝河畔	駱駝山	東西一粁	めばる、鮒、川鱒、うぐひ、砂もぐり	同	蛹蚯
嘎呀河上流	春陽	西南一粁より	山女、岩魚、川鱒、砂もぐり、かじか	同	同

春陽站西方	同	西方一粁より一四粁の間	同	同	同
鹿道河畔及支流	鹿道	一粁より八粁	いゝみんす	解氷期より結氷期まで	蚯蚓、蝗、川虫
斗溝子附近	斗溝子	南北西方約二粁	鱒、黄魚	自六月至九月	蚯蚓
馬蘭河畔	馬蓮河	東南及東北約二粁	鮒、鯰	自七月至十月	同
千家屯濕地	東京城	南約二粁	鯉、鮒、鯰、川めばる	自六月至九月	同
下馬蓮河濕地	同	東北約六粁	同	同	同
上宮地沼	同	西約一二粁	同	同	同
牡丹江河畔阿保附近	同	西南約十二粁	同	自八月至九月	同
牡丹江河畔	石頭	南約一粁	鮒、鯰、鯉、鱲、鰮	自六月至九月	さなぎ(毛鈎も可)
同	溫春	南約一粁	鯉、鮒、鯰、ぎぎゆう	同	蚯蚓
新溫春鐵道附近沼地	同	南約一粁	鮒最も多し	同	同
海浪沼	同	西南約六粁	鮒、鯉	同	同
牡丹江河畔	樺林	北約二粁	鯉、鯰、すつぽん	自六月至九月	蚯蚓、すつぽん、鯖
同	柴河	西北約一粁	鯉、鮒、鯰、砂もぐり	自五、一五至九、一五	蚯蚓
五虎林河畔	五河林	北約二粁	鯉、鮒、鯰	自七月至十月	同
牡丹江支流	仙洞	站附近又は北西三粁	鮒、鯰、砂もぐり	自六月至九月	同
二道河子河灣子舊水中	龍瓜	北若くは西東北約一粁	鯰、鮒	自八月至九月	同
舊炭坑附近(烏斯渾河畔)	林口	東北約三粁	鮒、鯰	自六月中旬至九月中旬	同
西林口池	同	西方一粁半	鮒	五、六月頃	同
烏斯渾河畔	古城鎭	西約一粁	鮒、鯰、うぐひ	自六月至九月	同
倭肯河畔	勃利	倭肯站東北約一粁半	鯉、鮒、鯰	自五月中旬至十月下旬	同
同	倭肯	北方二粁	鮒、鯰	自六月至九月	同
鈴鐺麥河	長發屯	東五〇〇米	鮒、鯰	自五月至九月	同

● 虎林線

小穆稜河畔に散在する沼地	麻山	站前四〇〇米西方四粁八青龍站前一〇〇米	鮒、鯰、はや	自六月至九月	同
穆稜河畔	滴道	四粁	鮒、鯰	自六月至十月	同
同	平陽	東約〇粁	鮒、鯰、鰲花魚、鯉	自五月至八月	蚯蚓、さなぎ、包米面魚食
同	東海	西約〇粁	鯉、鯰、鮒	自四月至九月	蚯蚓 豆粕
穆稜河及その支流	永安	東南	本流—鰮、鱒、鯉、すつぽん 支流—鯰、はや、鮒	自六月至九月	蚯蚓
舊河跡沼	同	東約〇粁	鯉、鮒、鯰	自五月至九月	同
二道溝河	東安	東約〇粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ、鰮	自六月至九月	蚯蚓 さなぎ
穆稜河畔	同	東約〇粁	同	同	同

● 濱綏線

螞蜒河	一面坡	五〇〇粁より一粁	鯉、鮒、鯰	自六月至九月	鯰は川虫、ら筝け、他は蚯蚓
螞馬河畔	亞布洛尼	北約一五粁	鯉、鮒、鯰	同	蚯蚓、さなぎ
横道河子河畔	横道河子	驛前の清流一帶	山女、岩魚、川鱒、泥はや	同	蚯蚓、毛針
近藤林業二〇粁附近	同	東二〇粁	山女、岩魚	同	同
青林子河畔	山市	沿線西行一〇粁	鮒、鯰、川鱒	自八月至九月	蚯蚓
海浪河畔及附近沼地	海林	一・二粁	鮒、鯰	自六月至十一月	同
阿多工區附近河畔沼池	同	約六粁	鮒、鯰、川鱒	同	同
牡丹江河畔	愛河	東約三粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ	自六月至九月	蚯蚓、さなぎ
愛河河畔	同	南約〇粁	鮒、鯰	同	蚯蚓
穆稜河畔	穆稜	南北〇粁	鯉、鮒、鯰、鰮、山女、砂もぐり	同	同
伊林河畔	伊林	北	鯉、鮒、鯰、うぐひ、赤目、砂もぐり、泥はや	自六月至八月	蚯蚓、さなぎ
三道河子(穆稜線)	下城子	三道河子驛より約〇粁	鯉、鮒、鯰、うぐひ、鰮、はや、はぜ、鱒	自六月至九月	蚯蚓
馬橋河畔	馬橋河	西南約一粁	細鱗魚、鮒	自五月至九月	蚯蚓、肉蝦
寒葱河	綏芬河	南〇粁	岩魚、河はぜ、泥はや	自五月至十月	蚯蚓
平房	同	南〇粁	同	同	同
南天明	同	南〇粁	同	同	同
八道河子	同	西南〇粁	鯰、河はぜ、泥はや	同	同

● 奉山線

驛西方二粁沼池	唐家		鯉、鮒、鯰	自五月至十月	
驛西方二〇〇米巨流河	巨流河		鯉、鮒、鯰、鰮、砂もぐり	同	
驛西方五〇〇米池	大虎山		鯉、鮒、鯰、鰮、はや	同	
驛西方二粁池	大凌河		鯉、鮒、鯰、鰮、すつぽん、はや	同	
驛西方一粁川	女兒河		鮒、鯰、うぐひ、鰻、はや	同	
驛東方二粁池	陳家屯		鮒、はす	同	
驛東方八粁海	興城		せいご、めばる、ちぬ、ぐち	自六月至十月	
驛東方四粁川	同		せいご、鮎、鮒、はや、すつぽん、めばる、すずき	自五月至十月	
驛東方一粁海	葫蘆島		せいご、ちぬ、ぐち	自五月至十月	

● 錦古線

驛北方一粁池	薛家		鮒	自五月至十月	
灤河	下板城	東北四粁	鯰、鯉、鮒、鯰	自五月至十月	
同	上板城	東北一粁	同	同	

● 河北線

驛北方一粁半池	盤山		鯉、鮒、鯰、鰮	同	
西砲台一帶	營口	西四粁	はぜ、ぼら、すずき	九、十月頃	
遼河沿岸	營口	一粁	鯰、鰻	自五月至十月	

● 北鮮線

淸津附近海上	淸津	三乃至五粁	かれひ、あぶらめ、めばる、ほうぼう	常時	海虫、鰮、鯖
			たらのこ	八月	同
			太刀魚	八、九月	鰮、友餌
			うなぎ	九、十、十一月	海虫、鰮、鯖

雄　倘	雄倘	東三粁	めばる	自五月至十月	
松　洞	輸城	四乃至八粁	やまめ	同	鮭卵
南汐洞	同	六乃至一〇粁	同	同	同
三巨里	石幕	二乃至一〇粁	同	同	同
輸城川	章興	一粁	同	同	同
盧通洞	同	七粁	同	同	同
富寧川	富寧	三乃至四粁	同	同	同
富寧八潭	同	二—六粁	同	同	同
盧通洞	同	六—七粁	同	同	同
殿賢洞	同	四—八粁	同	同	同
白沙洞	同	八—一〇粁	同	同	同
廣岩洞	同	八—二〇粁	同	同	同
檢坪川	古茂山	八—一〇粁	同	同	同
鍾袖谷	同	同	同	同	同
茂山洞	全巨里	驛附近	同	同	同
新明洞	同	二—三粁	同	同	同
同	同	同	岩魚	自五月至十月	同
葛麻同	同	同	同	同	同
同	同	同	山女	同	同
圖們江岸	金生	三粁	鮒	自六月至十月	蚯蚓
同	高嶺鎭	同	同	同	同
驛西南方楡林	同	二粁	同	同	同
圖們江岸	水口浦	一粁	同	同	同
馬牌(圖們江岸)	同	三粁	同	同	同
圖們江岸	黃坡	〇・五—一粁	黃魚	自九月十一月中旬	鮭卵
峰雲川下流	農圃	一・五粁	やり	自六月至十月	蚯蚓
圖們江岸	新乾	一粁	黃魚、いいみんす、やり	自五月至十月	鮭卵、蚯蚓、こほろぎ
將臺地	新阿山	三粁	鮒	自五月至十月	蚯蚓
圖們江岸	同	二—三粁	鮒、やり	自六月至十月	蚯蚓、やりの肉、毛針も可
赤池	四會	同	同	同	蚯蚓
青鶴川	青鶴	四—五粁	山女	自五月至十月	鮭卵
雄倘川	雄倘	二—四粁	同	同	同
寛谷洞	寛谷	二—五粁	同	同	同
龍岩洞	同	六—八粁	同	同	同

〓北・中支〓

場所	最寄驛	距離	魚の種類	期節	最盛期の餌
●山海關					
石河	山海關驛	一粁—二粁	鮎、鯔、鯰、鰡、鯱子	自六月至十月	泥鰌、ごかい
南海	同	三粁	黑鯛、鰈、鯔	自七月至十一月	蝦、泥鰌
城外沼地	同	一粁	鮒、鯉	自四月至十月	ごかい
●唐山					
陡河	唐山	約二粁	鯉、鮒、鱧	自五月至十月	蚯蚓
河頭	胥各莊	約一粁	鯰、鯉、鮒、鱧	同	同
鹽河	灤縣	約三粁	すつぽん、鯉、鮒、はや、鯰	同	同

場所	最寄驛	距離	魚の種類	期節	最盛期の餌
●北京					
北海	市内		鮒、鯉、鯰、白魚、鰻	自四月至十月	
中南海	同		同	同	
農事試驗場	同		同	同	
萬壽山南湖	同		同	同	
●保定					
蓮花池	保定	東二粁	鯉、鮒、鯰	自五月至十月	
新民公園	同	東南二粁	同	同	

場所	釣の種類	魚の種類	期節	最盛期の餌
●青島				
膠州灣内外	陸釣	大ちぬ	四月	死海老
同	同	小ちり、めばる、あぶらめ雜魚	五月	ごかい
同	同	ちぬ、すずき	六月	死海老、餌
同	同	小ちぬ、めばる、あぶらめ、小さば	八月	さより流れ
同	同	はぜ、かれひ、小ちぬ	十月	
同	舟釣	ひらめ、さわら、こち、こぎ	四月	餌
同	同	さわら、ひらめ、太刀魚、こち、こぎ	五月	餌
同	同	すずき、ひらめ、めばる、さわら、赤たひ、しこたひ、ころたひ等	六月	鰯
同	同	ちぬ、小さば	八月	生海老
同	同	はぜ、小ちぬ	十一月	生海老、死海老
●連雲				
海岸一帶		すゞき、ちぬ		

場所	最寄驛	距離	魚の種類	期節
●厚和				
大黑河	厚和	西南十六粁	鯉、白魚	自四月至十月
公主府河	同	西北一粁	鯉、白魚	同
●濟南				
大明湖	濟南	東二粁	鯉、鮒、鰤、鯰、蝦	自五月至十月
小淸河	黃台	東三百米	同	同
濼河	濼口	南二百米	同	同
●石門				
石門塊底村	石門	二粁	鯉、はや、鮒、鯰、鱧	自四月　月
正定	正定	一粁	同	
●漢口				
元同文書院	日界より洋車にて四〇分		鮒、白魚	
殺家山	黃陂縣行公共汽車にて四〇分		鮒、すつぽん	
漢陽製鐵廠	民族路より漢水渡河江漢路より三〇分		鮒、白魚、はや	
龜山公園	洋車一五分		はや、鮒	

●上　海

呉淞附近クリーク	灣　呉淞砲台附近一帶クリーク	鮒、はや、鰻	自五月至十一月
市政府附近クリーク	江灣東三丁	鯉、鮒、はや、鰻	同

【滿語名魚類の解説】

白魚（Pai-Yu）滿洲人は白色なる魚類を總て白魚と稱してゐるが普通白魚と謂ふのは體型扁平にして口部の上方へ突出してゐるのが特徴である。體長普通〇・六米前後より一米に及ぶものがある。

黄昂魚（Huang-ki-yu）黄鰡魚にして白色、身幅三糎以下長さ三〇糎を越えず、鯉魚科に屬し滿人は黄骨子（Huang-ki-tzu）とも呼んでゐる。

鯊魚（Sa-yu）鯉魚科に屬し和名（カマツカ）と稱するものにて滿人間には沙魚（Shayu）、鮀魚（Juo-yu）、沙鮀魚（Sha-tuo-ytv）、沙鮀魚（Sha-ku-yu）、の數多の名で呼ばれてゐる。

外觀は（ハゼ）に似て長さ二〇糎位。細鱗で體瘦せ頭長く吻尖り眼は小さく鰓蓋に近く上にあり口は唇厚く短き鬚を有してゐる。體色は褐色の地に同色の濃き斑紋散在し背鰭、尾鰭にも多少の黒星あり背鰭は高く尾鰭は岐を成してゐる。水底にあつて這ふ如く移動して餌を求め石礫の上に伏し半身を砂中に沒する事ありて和名を俗に（砂モグリ）と稱してゐる。肉は美味である。

扁花魚（Peu-hua-yu）鯉魚科、體型扁平にして體色は黒味を帶び肉味は淡白にして滿人は白魚に次で賞味する。硬子魚又は魴とも謂はれ露人はレシチと呼んでゐる。

ギギユウ ギギ科、滿人は鱑牙子（Gai-ya-tzu）と呼ぶ體型は鯰に類似してゐるが體は小にして背部に鋭き棘を有し、體色は黄色を帶びてゐる。之に類するものに牛尾魚がある。

發綠魚（Fa-lu-yu）は哈魯魚（Ha-lu-yn）とす謂ふ。和名（ヒガヒ）と種類を同くし外形は一見鮒に似てゐるが口甚だ小さく、下唇は角質を成し口を閉ずれば上唇に裹まること恰も鳥の嘴に於ける樣で、これが此魚の特徴の一である。

他の特徴は生殖期に於て體外に長く突出する輸卵管を具へてゐることで、此の點よりみれば（タナゴ）に類似してゐる。

鰟頭魚（Pang-tao-yu）鯉魚科、鯿魚、胖頭魚とも謂ふ。體型丸く體長普通五〇糎時に一米に及ぶものがある肉は白色にて軟質其の味は餘り良くない。

鰲花魚（（Ao-hua-yu）本名は鱖魚（Chuch-yu）と稱し又婢魚（Pei-yu）、水豚（Thuei-tzu）とも呼ばれる鱸科にして體型は鱸（スズキ）（カハメバル）に類似し口濶く背鰭大にして刺あり鱗は細小にて體色は灰色に薄黄色を帶び大なる黒斑點を有してゐる。體長普通三〇糎にして肉は美味である。

狗魚（Kou-yu）狗魚科、體型圓筒狀にして體色は背部黒色體長四五糎より大なるは一米に及び、其の肉は白色にして脂肪に富んでゐる。滿人は鴨魚（Ya-ye）とも呼び、露人はシチウカと稱し其の卵を特に珍重する。

者羅魚（Ja-la-yu）鮭鱒魚、和名（アムールイトウ）にて體型丸く頭部は大にして鱗は細く背後及頭部に暗黒色の小斑點が散在し皮膚は稍淡紅色を帶びてゐる。肉は淡紅色を呈し脂肪に富み常に急流に棲息し五月頃支流に上り産卵する。

産卵期になると全身は赤色を帶びる。體長普通七十糎内外で時に一米に及ぶものがある。露人は之をタイメンと呼稱してゐる。

細鱗魚（Shienling-yu）鮭鱒科、ファーレルの一種にして體型小にして色は幾分淡紅色を帶び、急流に多く棲息する。露人はレノークと呼んでゐる。

草根魚（Tzao-ken-yu）和名（ソウシイ）鯉魚科、體型は鯉に類似して細長く體長普通六〇糎前後、時に一米位に達するものもある。

滿人は之を草根と呼び、露人はアムールと稱してゐる。

紅尾魚（Hong-wei-yu）鮭鱒科にして滿人は捣子魚（Mao-tzu-yu）とも謂ふ。體型は（マス）に似て鱗片は夫れより大きく肉厚く稍丸味を有す體長一米位に達し、體高は少しく濶く吻頭尖り體色銀白を呈し斑彩なく各鰭は赤色を帶びるを以て此の名がある。

鰔條魚（Shen-t-iiao-yu）鯉魚科、和名（イトウ魚）に類似し體型圓長にして普通一米前後時に一米三〇糎を超ゆるものがある。

賽馬場

・賽馬場	・經營	・創立	・用地	・開催期間	・場所	・乘物	・觀覽人員
奉天國立	治安部	昭八・八	十六萬五千四百坪	自四月至十月四十八日間	北陵西	自驛自動車二・五〇圓、バス自小西邊門一五錢、馬車同四〇錢、人力車同二〇錢	
新京國立	同	昭一三・三	四十九萬平方米	自四月至六月廿日間自七月至十月二十四日間計四十四日間	興安大路賽馬街	自動車自驛一圓(一五分)、バス一〇錢(二〇分)馬車八〇錢、(一時間)洋車八〇錢(一時間)	二十萬人
哈爾濱國立	同	昭八・八	四十五萬六千平方米	自四月至十月春秋三次(毎土日祭日)四十八日間	王兆屯自驛五粁	列車十五錢、馬車二圓、市内臨時バス自警察街二〇錢(四五分)	
鞍山	鞍山賽馬倶樂部	昭一一・一二	十六萬坪	自四月至十一月三十九日間	自驛二粁	自驛馬車四五錢(四〇分)、同バス一五錢(一〇分)	
撫順	撫順賽馬倶樂部	昭八・三	十一萬坪	春秋四回四十日間	自驛二粁	自驛馬車六〇錢(二五分)、バス一〇錢(一〇分)、洋車三〇錢(三五分)	
營口	營口賽馬倶樂部	昭一一・一二	十萬坪	春秋四回四十日間	同治區自驛六粁	自驛自動車一日二回料金二〇錢(八分)	三萬二千人
安東	安東賽馬倶樂部	昭一二・一二	十七萬坪	自四月至十月四十八日間	自驛三粁	自驛自動車一・〇〇圓(七分)、バス一〇錢(一〇分)、馬車五〇錢(二五分)、洋車三〇錢(三〇分)	一萬二千人
錦州	錦州賽馬倶樂部	昭一四・三	十五萬坪	春秋二期四十日間	金家屯	自驛バス片道一〇錢(一五分)、馬車五〇錢、人力車三五錢	五萬人
牡丹江	牡丹江賽馬倶樂部	昭和一五・九	十六萬坪	春秋四十日間	謝家溝區卡倫分區自驛四粁	市バス馬車人力車の便あり	
大連	關東州競馬會	昭一三・六	六萬八千五百坪	自四月下旬至十一月中旬年四回、一回八日	常盤橋起點約五粁五	電車五錢(二十二分)、バス一〇錢(一〇分)、タクシー九〇錢(一〇分)	

旅順	同	同	八萬坪	自四月上旬至十月中旬年三回、一回六日間	驛起點約三粁二	馬車一・〇〇圓（一〇分）、タクシー一・五〇圓、（一五分）バス一〇錢二〇分（大連より往復）片道約一時間半二・〇〇圓。
金州	同	同	十萬坪	自四月上旬至十月中旬年三回、一回六日間	驛起點約四粁	馬車一五錢（二〇分）、タクシー六〇錢（八分）、バス自大連往復片道八〇錢（五〇分）
天津	英國	不詳	一五萬坪	自四月至五月（目下休止中）	英租界	自驛自動車二・五〇圓
北京	西紳總會ペキンクラブ	明治初年	周圍三里	春秋二期	西便門外距城約五里餘	自城內、洋車二圓
唐山開灤	開灤高級職員倶樂部	約三十年前		一般ニ開放シ居ラズ	唐山西山口	自驛人力車二十五錢
石門	市公署	昭一四・九	四萬平方米	春秋二回三十日間	自休門鎭驛二粁	自驛洋車三〇分二五錢バス十五分十五錢
上海大馬路	上海賽馬倶樂部	一八九六	一哩四分一馬場	五月及十一月	靜安寺路	バス、電車
上海江灣	上海恒產會社	昭一四	一哩二分一馬場	未開	江灣鎭東部	タクシー九圓
漢口	英會社	—	—	—	日租界附近柗和村	
豐鎭	豐鎭賽馬會	—	—	春秋二回	豐鎭站西南一粁	
太原	山西省公署太原賽馬會	—	—	昭和十五年九月初メテ實施	小東門外	
厚和	巴彥塔拉盟畜產科	—	—	四月ヨリ十月マデ毎月實施	厚和站南方二粁	バス五分五錢、タクシー二圓五〇錢、洋車十五分二〇錢
青島雁泉	青島特別市公署	昭一五・七	—	春秋百二十日毎週土日曜	第一海水浴場裏	自青島站バス十五分二五錢、洋車二十分三〇錢タクシー二圓五十錢

ゴルフ場

ゴルフ倶樂部	リンクス	事務所	ホール	順路	料金
星ヶ浦	大連市星ヶ浦開場大正五・五・一九	大連市星ヶ浦	十八ホールス、六千百五十四碼、パー七十二	自大連驛自動車二十分（一圓）バス（十五錢）	ビジター日、祭日（四圓）、土（三圓）平（二圓五十錢、キャデー（三十八錢）、（二十五錢）（一ラウンド）レッスン（一圓五十錢）（一時間）
旅順	旅順市新市街	大連市關東州廳外事課內	六ホールス、一千一百七十二碼	自旅順驛自動車四分、馬車十分自大連市バス一時間（一圓）	ビジター無料、キャデー（十八錢）、（十五錢）、（十二錢）（一ラウンド）
鞍山	鞍山睦ヶ丘開場昭和九・九	鞍山睦ヶ丘	十八ホールス、六千五百碼、パー七十二	自鞍山驛自動車十分（一圓二〇錢）自湯崗子驛自動車二十分	ビジター日、祭、（三圓）平（一圓）キャデーA十二錢、B一〇錢、C八錢、レッスン半時間一〇錢
奉天國際	東陵コース 奉天市東陵 北陵コース 奉天市北陵 開場昭和一三・五	奉天市東陵區東陵 奉天市北陵街六角堂	東陵一八ホールス、六千八百四十碼、パー七十四 北陵九ホールス、二千六百九十九碼、パー三十四錢	東陵自奉天驛自動車三十分（片道凡五圓）奉吉線自東陵驛徒歩十分 北陵自奉天驛自動車十五分（二圓五十錢）、バス三十分（十錢）	東陵—日、祭（五圓）平（二圓）北陵—ビジター日、祭（五圓）、土（三圓）平（一圓）キャデー（二十五錢）（九ホールス）
本溪湖	太子河南岸	煤鐵公司事務所內		自驛馬車三〇錢	
撫順	撫順新市街撫順炭礦區內開場大正二	撫順炭礦經理課內	十八ホールス、六千四百碼、パー七十二	自撫順線撫順驛自動車五分（五十錢）	ビジター日、祭（二圓）、平（一圓）キャデーA（二十四錢）B（二十錢）C（十六錢）—一ラウンド
新京	新京特別市興安大路鐵道西 開場昭和八・八	新京特別市興安大路鐵道西	十八ホールス、六千三百九十碼、パー七十一	自新京驛自動車十五分（一圓十錢）バス二十分（十錢）馬車一時間（七十錢）洋車一時間（七十錢）	ビジター日、祭（五圓）、平（二圓）キャデーA、（六十錢）B、（五十錢）一ラウンド レッスン（三圓、一時間）
哈爾濱	哈爾濱馬家溝開場大正九	哈爾濱馬家溝	九ホールス、二千七百九十一碼、ボギー（三十七）	自哈爾濱驛自動車（二圓）馬車一圓 自驛前電車馬家溝終點下車自終點馬車約三十分（三十錢）	ビジター日、祭（二圓五十錢）、平（一圓五十錢）キャデーA（二十五錢）B（二十錢）C（十五錢）（九ホールス）
安東	安東市浪頭區銅鑛屯	安東市浪頭區銅鑛屯	十八ホールス、六千七百六十四碼、パー七十二	自安東驛自動車五分（一圓五十錢）馬車二十分（五十錢）人力車二〇分（三十五錢）	ビジター日、祭（二圓）、平（一圓）キャデーA（二十錢）B（十六錢）C（十三錢）

齊々哈爾	嫩江河畔	鐵道ホテル	九ホール三、一五〇碼、パー三六	自驛自動車三圓(三〇分)	ビジター、キャデー、レッスン二〇錢
錦州	高砂街開場 昭和一四・八	奉砂街錦州ゴルフ同好會	九ホール三、一六〇碼、パー三六	自驛自動車一圓、バス一〇錢(十五分)	ビジター日、祭二圓、平日一圓、キャデー一ラウンド(九ホールス)二〇錢レッスン一時間一圓
四平街	道東水源地	同上	九ホールス三、一〇〇碼	自驛一粁半自動車二圓(五分)馬車二〇錢(一〇分)	ビジター一日一圓キャデー一回六錢
營口	新市街裏	營口大同街正金銀行內	十八ホールス六千八十八碼、パー七三	自營口驛自動車一〇分九十錢人力車二十分四〇錢	ビジター日、祭(一圓)平日(五十錢)キャデー(二〇錢)
北京	八寶山	北京ゴルフ倶樂部	九ホールス	自北京站自動車約一時間	入會金三五圓會費毎月七圓
青島	湛山大正九・八	同上青島ゴルフ倶樂部	十八ホールス、六、二九〇碼パー七二	自青島驛小型タクシー(二〇分)六圓	ビジター土日祭三圓平日二圓、キャデー四五錢(一ラウンド)
天津	佛租界兵營前	同上東機・局	十八ホールス	自天津驛自動車二圓(一五分)	一
上海虹橋考而夫場	上海西部虹橋路	虹橋考而夫總會	八ホールス	タクシーに依る	會費A百弗終身、B二〇弗一箇年半、C〇・五弗一回
上海楊樹浦	上海楊樹浦軍工路口	滬江考而夫協會	十ホールス	同右	入會金二百弗
上海惠霖頓夜	上海愚園路底	上海惠霖頓夜總會	九ホールス	同右	一回〇・五弗
上海維也納跳舞場	上海才登路維也納跳舞場內	維也納跳舞場	十ホールス	同右	一回〇・五弗
上海江灣	上海江灣競馬場內	上海江灣ゴルフ協會	九ホールス	同右	入會費六百弗
漢口	漢口西商跑馬場	同上	十八ホールス	一	一

運動施設

(主として公共運動施設)

▽關東州

關東體育研究所附屬大連運動場	大連市白菊町
同　旅順運動場	旅順市大迫町
大連實業團球場	大連市中央公園
大連滿鐵硬式野球場	同
大連滿鐵硬式庭球場	同
北公園滿鐵庭球場	大連市北公園
滿鐵大連道場	大連市東公園町
市設相撲場	大連市中央公園
市設庭球場	同
市設水泳場	同
大連市綠山射擊場	大連市綠山
大連市西山射擊場	大連市西山屯
關東州競馬會附屬乘馬部馬場	大連市中央公園
旅順博物館庭球場	旅順市大迫町
普蘭店運動場	普蘭店
大連基督教青年會體育館	大連市敷島町六七

▽滿洲

新京

南嶺綜合運動場	南嶺
同　兒玉公園陸上競技場	兒玉公園
同　野球場	同
同　スケート場	同
牡丹公園庭球場	牡丹公園
白蘭水泳場	白蘭町
大同公園水泳場	大同公園
同　庭球場	同
白山公園庭球場	白山公園
大同公園藍球場	大同公園
同　排球場	同

奉天

國際運動場陸上競技場兼スケート場	萩町
同　庭球場	同
同　相撲場	同
千代田公園水泳プール	千代田公園
滿鐵野球場、蹴球場	萩町
民衆體育場大山グラウンド	同

撫順

永安運動場	南大街
撫順野球場	南大街
撫順水泳場	西公園

營口

旭街運動場	大和區旭街
公共運動場	綏定區清和街
營口スケート場	花園小學校內
庭球場	旭公園
市營プール	大和區旭公園

安東

安東野球場	鎭江山麓
安東市水泳プール	鎭江山公園
鴨綠江スケートリンク	鴨綠江

本溪湖

神社山グラウンド	神社山麓

鐵嶺

鐵嶺市民運動場	

哈爾濱

八區公園綜合運動場	八區公園
スタジオン體育場	外國三道街

鞍山

市民運動場	神社下
製鋼所野球場	同
同　排球、籠球場	同
同　庭球場、プール	井々寮前

四平街

四平街運動場	北十三條通
プール、庭球場、弓道場	中央公園

吉林

吉林市體育場	城內太馬路
吉林市野球場	同

遼陽

公衆體育場

圖們

市民運動場　銀河街—仲秋街

牡丹江

牡丹江綜合運動場　北星山麓清水公園
太平路グラウンド　驛前

佳木斯

佳木斯運動場　鳳陽街三段地
市民グラウンド　飛行場通

齊齊哈爾

市民運動場　商會街
庭球場　龍沙公園
滿鐵運動場　民宅街

滿洲里

協昭運動場　頭道街

錦州

市公署運動場　三保街
木村土地グラウンド　吉野街
市綜合運動場　榛名街
野球場　同
滿鐵運動場　同
滿俱野球場　同

承德

忠靈塔前運動場　南營子大街
離宮前プール　小南門外
承德滑氷場　離宮內

羅津

滿鐵野球場　富士見町

▽中國・蒙疆

北京

北京市公共體育場　外城先農壇
北京遊泳池　中南海公園
スケートリンク　萬壽山・南海公園・中央公園・太廟

天津

民團グラウンド　日界宮島街
リクレーシヨングラウンド　英界廣東路
民團プール　日界宮島街
北寧球場　河北寧園外
北寧プール　同

山海關

民會グラウンド　鐵道南

濟南

忠魂碑運動場　經六路緯七路
黑虎泉プール　城內
省立民衆體育場　千佛山麓

青島

青島體育場　第一公園前
一小グラウンド　德平路三號
第一公園スケートリンク　第一公園內
第一海水浴場　榮陽路
城陽河スケートリンク　膠濟線城陽
體育協會コート　德平路三號
同　榮陽路
三日月ケ濱水浴場　冠縣路海事協會前

石門

高野山廣場運動場　高野山姚山寺

保定

新民體育場　三皇廟街

徐州

徐州市公共體育場　雲龍山麓

大同

綜合グラウンド　東北隅大有倉

厚和

厚和野球場　臥龍岡
公共運動場　賽馬場
厚和スケートリンク　大馬路

張家口

公共體育場　上堡營城子

杭州

省體育場　體育場路
市立公衆運動場　湖濱路
玉泉プール　玉泉寺前
湧金門プール　湧金門

杭高プール　貢院前
之江大學プール　閘口

南京

第一公園運動場　城內常府街

漢口

廣雅公園體育場　中正路

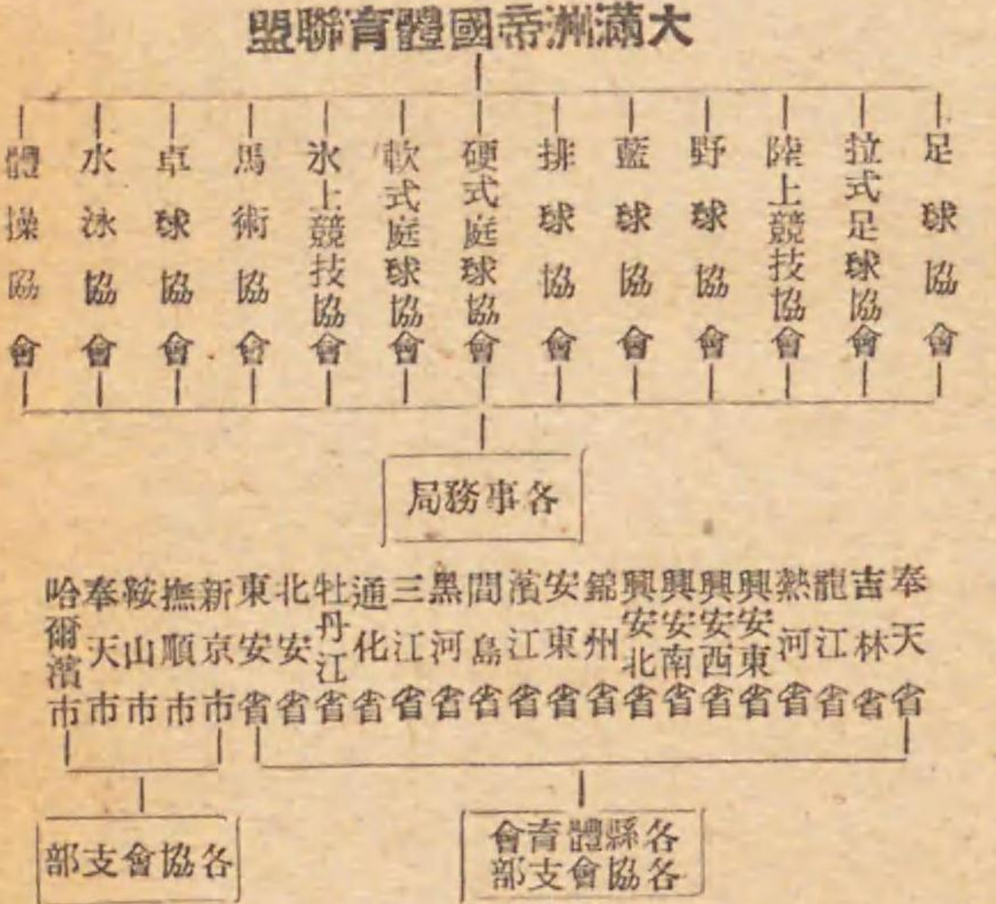
【關東州體育協會】 大正十一年八月二十二日發會（全滿洲競技聯合）、大正十三年五月十六日改組（滿洲體育協會）、昭和十三年一月一日改組（關東州體育協會）、日本體育運動團體の一構成組織として關東州內日本側運動團體（陸上競技、水上競技、氷上競技、硬式庭球、軟式庭球、藍球、排球、蹴球、ラグビー、體操）を統轄し代表選手の推薦權を有する。

【大滿洲帝國體育聯盟】 大同元年四月アジアの黎明を祝福して民族協和の大理想の下に開催せる建國記念第一回大運動會と共に本聯盟の母體滿洲國體育協會を創設し爾來國內治安工作の進展に伴ひ漸次地方的に體育運動の普及を見るに至り陸上競技、足球、藍球、排球に堂々著しき發達を見、大同元年より短日月に整備しつゝある我國運とスポーツの進捗が將に正比例せるを立證するに充分なものがある。

康德元年七月、新年度活動方針の樹立に際し體協の組織機能と國內運動競技團體の現況に鑑み、組織を改變擴大して各種運動競技別協會に依る有機的聯盟組織とし地方事務局との圓滑なる聯絡に依つて全國運動競技團體の合理的統制機關とし逐次修正を加へ現在に及んでゐる。

越えて一昨年十二月の治外法權撤廢を機に體育運動團體に於てもその國策の根本趣旨に基き、兩國間に於ける運動競技者統制に關する協定を結び、從來滿洲に於ける二元的統制を渾然一體とし滿洲國內に居住する日本人競技者も名實共に民族協和の本質に從ひ、而して一德一心不可分關係にある兩國體育運動を一層密接にすると共に、兩國の並行的向上を期し國民の資質向上に努めてゐる。

體育聯盟機構左の如し



【滿洲體育保健協會】 滿洲體育保健協會は社會體育の中心機關として精神的訓練を中軸とし國民の體力の向上と健康增進に資し併せて民族協和の實を擧ぐるを目的とし政府竝滿鐵會社よりの醵金に依り財團法人を設立し此の基金を以て先づ新京、奉天、撫順、牡丹江、哈爾濱、齊齊哈爾、大連の七大都市に綜合體育館を建設のため設計準備を進め一部建築工事に着手せんとしつゝある。

【滿洲帝國武道會】 滿洲帝國武道會は皇帝陛下御登極の大典記念をトし滿洲國の立場より日本古來の武道を廣く且健全に滿洲國內に普及發達せしめ、滿洲國に於ける指導的立場に在る日本人の心身鍛錬と兼ねて他民族の身心鍛錬竝に日本人理解の一助たらしめんことを目的として結成せられた。

康德五年度には、治外法權撤廢竝に附屬地行政權の移讓を契機として全滿各主要都市二十五箇所に支部を設置し、全滿武道關係團體の一元的統制を計り武道精神の宣揚竝に武術の普及發達を圖り、以て民族協和の實を擧げ國民體力の向上精神鍛錬國力の充實體育保健の思想を扶植する上に於て極めて重要なる貢獻を爲しつゝある。

【滿洲角道會】 元天龍民政部囑託和久田三郎氏が產婆役で設立準備中の全滿相撲團

鬪を打つて一丸とする滿洲角道會は、滿洲事變記念日を期し康德五年九月十八日新京忠靈塔角道場に於て發會式を行つた。

關東州內體育團體

名稱	事務所
關東州體育協會	關東州廳內務部
大日本武德會滿洲支部	同
關東州陸上競技協會	滿鐵經理部庶務課
關東州體操聯盟	關東體育研究所
關東州水泳協會	滿鐵調査部庶務課
關東州蹴球協會	滿鐵總裁室庶務課
關東州籠球協會	關東州體育研究所
關東州排球協會	滿鐵總裁室人事課
滿洲ラグビー蹴球協會	大連埠頭局總務課
滿鐵運動會大連支部	滿鐵總裁室庶務課
關東州柔道有段者會	滿鐵總袋室庶務課
滿洲劍友會	滿鐵總裁室庶務課
滿洲角道會大連支部	大連市役所
關東州弓道有段者會	大連市薩摩町滿鐵弓道場
大連市民體育會	大連市役所學務課
滿洲體育保健協會大連支部	同
滿洲漕艇協會	大連市山縣通二二三吉村英吉事務所
大連市民體育會	大連市役所
關東州卓球協會	大連日々新聞社事業部
新東洋拳鬪會	大連市伏見臺
關東州軟式庭球協會	吉野町二五野中醫院
關東州學校體育聯盟	關東州體育研究所
關東州水上競技聯盟	大連醫院病理部
尚武會關東州支部	滿鐵總裁室庶務課
在滿日本敎育會南部會	關東州內務部
關東州自轉車協會	滿鐵經理部庶務課
全日本學生射擊聯盟關東州支部	大連市光明台大連高等商業學校內

神社

神社は日本國民總ての敬神崇祖の對象として國威發揚の先驅として來滿せる人々によつて夫々其地に奉祀され、凡そ日本人相當數の集團あるところその奉祀を見ない處なく、都市は勿論遠隔なる移民地にも氏神樣を分祀し日本精神訓育の道場として國民活動の源をなして居り、從つて滿洲に於ては治外法權撤廢後と雖も未だ關東局に於て所管されてゐる。

現在滿洲における神社は七十餘社支那方面に於て二十餘社を數へ祭神に總攬神たる天祖天照皇大神を奉齋する者が主で、開拓殖產の神として大國主神、明治天皇、事代主神、應神天皇、靖國神が合祀されてゐる

△滿支鎭座の神社

名稱	鎭座地	祭神	例祭日
羅津神社	北鮮羅津	天照大神	
住吉神社	北鮮羅津	表筒男命、中筒男命、底筒男命	九・一〇
大連神社	大連	天照大神、大國主神、靖國神	五・一〇
關東神宮	旅順	天照大神、明治天皇	昭和十三年七月三日地鎭祭
金刀比羅神社	同	大物主神、崇德天皇	三・一〇、一〇・一〇
金刀比羅神社	大連	大物主神、崇德天皇	六・一〇
沙河口神社	同	天照大神、大國主神	五・一〇、一〇・一〇
惠比須神社	同	事代主神	一〇・二〇
關水神社	同	事代主神、崇德天皇	一〇・一七
柳樹屯稻葉神社	柳樹屯	宇賀魂神	八・一五
小野田神社	周水子	猿田彥神	六・一八
周水神社	同	天照大神、明治天皇、大國主神	六・一
金州神社	金州	天照大神	五・二五、九・二五
普蘭店神社	普蘭店	天照大神	五・一六、九・一七
貔子窩神社	貔子窩	同	五・二
瓦房店神社	瓦房店	天照大神、大國主神	六・四、一〇・四
熊岳城神社	熊岳城	天照大神、大國主神、明治天皇	九・九

名稱	鎭座地	祭神	例祭日
大石橋神社	大石橋	天照大神、大國主神	五・一五
海城神社	海城	明治天皇	五・一一、一〇・一一
營口神社	營口	明治天皇、昭憲皇太后	五・三、一〇・三
鞍山神社	鞍山	天照大神	五・一、九・一五
千山神社	千山	天照大神、大國主神	九・二四
遼陽神社(本社)	遼陽	天照大神、豐受大神、神武天皇、應神天皇	四・三〇、九・四
煙臺神社	煙臺	天照大神、大國主神	五・二三、九・九
奉天神社(本社)	奉天	天照大神、明治天皇	五・一五、九・一五
蘇家屯神社	蘇家屯	明治天皇	一〇・一
撫順神社	撫順	天照大神、大國主神、金山昆石神、金山昆賣神	六・一六、一・七、九・三〇、一〇・一
惠比須神社	同	事代主神	五・一六
本溪湖神社	本溪湖	天照大神、金山彥神、金山姬神、大國主神、明治天皇	五・一五、一〇・一五
橋頭神社	橋頭	天照大神、明治天皇、大國主神	四・三〇、一〇・五
連山關神社	連山關	天照大神、明治天皇、靖國神	四・三〇、一〇・一〇
安東神社(本社)	安東	天照大神、應神天皇、天兒屋根命	五・一、九・一五
鷄冠山神社	鷄冠山	天照大神	五・一〇、一〇・五
劉家河神社	劉家河	同	五・七、一〇・二五
草河口神社	草河口	天照大神	五・二二、九・二二
通遠堡神社	通遠堡	同	五・一八、九・一八
鐵嶺神社	鐵嶺	天照大神、明治天皇、大國主神、靖國神	四・三〇、九・一五
通化神社	通化	天照大神	五・二一、九・一七
鳳凰城神社	鳳凰城	同	五・一〇、一〇・一七
新臺子神社	新臺子	同	九・二一
開原神社	開原	天照大神、大國主神	九・九
昌圖神社	昌圖	天照大神	九・二〇
四平街神社	四平街	天照大神、大國主神、明治天皇	五・一五、九・一五
郭家店神社	郭家店	天照大神	五・五、九・一〇
公主嶺神社	公主嶺	同	四・三〇、八・二一
新京神社	新京	天照大神、明治天皇、大國主神	五・一五、九・一五
范家屯神社	范家屯	天照大神	五・一〇、一〇・一〇
吉林神社	吉林	天照大神、明治天皇、大國主神	五・九、一〇、九・九、一〇
牡丹江神社	牡丹江	天照大神、大國主神、神武天皇、明治天皇	五・一七、九・一八
哈爾濱神社	哈爾濱	天照大神、明治天皇、大國主神	五・二五、九・五
齊齊哈爾神社	齊齊哈爾	天照大神、明治天皇、大國主神	五・一五、九・一五
滿洲里神社	滿洲里	天照大神	六・一五、九・一五
延吉神社	延吉	天照大神	四・三、九・八
通遼神社	通遼	明治天皇	
營溝神社	汪淸縣	天照大神	九・一五
敦化神社	敦化	同	五・二二、九・二二
錦州神社	錦州	同	六・一七、九・一七
蓋平神社	蓋平	同	五・一〇、九・一〇
圖們神社	圖們	同	九・一五
佳木斯神社	佳木斯	同	五・一八、九・一八
護國神社	敦化		
鮫河神社	鮫河	天照大神	五・一〇、九・一〇
新站神社	新站	天照大神、明治天皇	五・一五、一〇・一五
百草溝神社	百草溝	天照大神	九・一五
新民神社	新民府	天照大神、明治天皇	五・一〇、九・一〇
大虎山神社	大虎山	天照大神、明治天皇	六・一五、九・一五
孫家灣神社	孫家灣炭坑內	同	春秋二回
頭道溝神社	頭道溝北山高地	天照大神	九・一〇

西安神社	西安	天照大神、豐受大神、大山祇大神	五・二〇 九・二〇
富錦神社	富錦	天照大神	五・一三
洮安神社	洮安	天照大神、明治天皇	
鄭家屯神社	鄭家屯	天照大神	九・一五
朝陽神社	朝陽	同	五・二五 九・二五
承德神社	承德	天照大神、明治天皇	四・一五 一〇・一五
北票神社	北票		造營中
綏中神社	綏中	天照大神	五・二〇 九・二〇
溝帮子神社	溝帮子	天照大神、明治天皇	四・二五 九・二五
彌榮神社	永豐鎭	天照大神	九・二四
千振神社	湖南營	同	
綏稜神社	綏稜縣瑞穗村	同	
長城神社	山海關	天照大神	四・一五 一〇・一五
山海關神社	同	同	五・一〇 一〇・五
唐山神社	唐山	天照大神、明治天皇、國魂神	四・一五 一〇・一五
天津神社	天津	天照大神、明治天皇	四・一一 一〇・一一
北京神社	北京	天照大神、明治天皇、國魂大神	一〇・一五
伏見稻荷神社	同	宇迦之御魂大神、佐田彥大神、大宮女大神	四・五六 一〇・五六
青島神社	青島	天照大神、明治天皇、大國主神	四・三 一〇・一七
（攝社）金比羅神社	同	大物主神、少彥名神	
（末社）稻荷神社	同	藏稻魂神、大宮賣神、猿田彥神	
鶴卷水天宮	同	高龗神、罔象女神、闇龗神	
徐州神社	徐州	天照大神、神武天皇、明治天皇	五・一九 一一・三
石門神社	石門	天照大神、明治天皇	四・一一 一一・三
保定神社	保定	天照大神、豐受大神、國魂大神、神武天皇、明治天皇	四・三 一〇・三
厚和神社	厚和	天照大神、國靈大神	五・一七 一〇・一
日本神社	張家口	天照大神	
太原神社	太原	天照大神、明治天皇	四・三 一〇・三
海州神社	海州	天照大神	
南京神社	南京	天照大神	未定
上海神社	上海	天照大神、神武天皇、明治天皇	四・三 一一・三
蘇州神社	蘇州	同	五・二〇 一一・六
杭州神社	杭州	天照大神	四・一〇、一一 一〇・一〇、一一
漢口神社	漢口	天照大神、神武天皇、明治天皇	四・三 一一・三
廣東神社	廣東	天照大神、明治天皇、靖國神	一一・三

忠靈塔

【建國忠靈廟】 滿洲國都南嶺に造營の建國忠靈廟は、宮廷内に御造營の建國神廟の攝廟として、日本に於ける靖國神社の如く、建國の功勞者の英靈を安置、國民の尊崇の的となるべき性質のものである。廟の御造營は康德四年四月着工以來すでに四ヶ年を經て殆ど完成、淸淨な丘陵の上に瑠璃瓦も美しい廟殿が建ち竝び、神苑は南嶺廣場を正面入口として十四萬坪に亘り、南湖や黃龍公園を外苑として控へ、參道、昭忠橋も完備してゐる。

この二萬四千百四十一柱の殉國の英靈神鎭まる建國忠靈廟は、康德七年九月十七日新殿淨祓の儀をはじめ、十八日鎭祭の儀十九日には畏くも親拜の御儀を擧げさせられ、二十日朝の謝神の儀を以つて四日間に亘る神儀を了へた。

建國忠靈廟の外在滿各地の忠靈塔は左の通りである。

△滿支の忠靈塔

	柱數	建立年月	場所
旅順納骨祠	二二、四一六柱	明治四十年五月	白玉山
大連忠靈塔	六、〇六四柱	明治四十一年八月	中央公園
遼陽納骨祠	一四、八四三柱	明治四十年十月	驛南方
奉天忠靈塔	三五、六四八柱	明治四十三年三月	千代田通
安東表忠碑	三、三三一柱	明治四十三年六月	鎭江山
新京忠靈塔	一、九八二柱	昭和九年十一月	北安路
哈爾濱忠靈塔	四、一二五柱	昭和十一年九月	馬家溝
齊々哈爾忠靈塔	一、一二六柱	昭和十一年九月	商埠路
承德忠靈塔	一、九二三柱	昭和十三年五月	南營子大街
佳木斯忠魂碑		昭和八年十一月	東南崗東山
錦州忠魂碑		昭和十三年九月	慶應街
通化忠靈塔（滿洲義軍碑）		昭和十二年六月	玉皇山公園
撫順表忠碑		大正十三年	譽ヶ丘
本溪湖忠魂碑	八六〇柱	昭和八年六月	神社山
牡丹江忠魂碑	一二柱	昭和一〇年四月	太平路
鞍山忠魂碑	一一〇柱	昭和七年十月	朝日ヶ丘
四平街忠魂碑		昭和六年十月	中央公園内
營口忠魂塔	九柱	明治三十九年	旭公園内
北京招魂社		明治三十九年	大使館陸軍武官室
青島忠魂碑	一、〇二四柱	大正五年四月	青島公園路八號
大同忠靈塔		昭和十三年十一月	城外北關々角
張家口忠魂碑			本多ヶ丘
唐山忠魂碑		昭和十三年六月	日本小學校々内
濟南忠魂碑	一五七柱	昭和十年二月	經六路緯六路
山海關忠魂魂	二一柱	昭和九年十一月	日本小學校々庭
徐州忠魂碑		昭和十五年十月	驛東
大場鎭表忠塔		昭和十三年一〇月	上海大場鎭
上海事變日本海軍戰死者忠魂碑	一六四柱	昭和十三年	上海閘北

滿支人の祭典

滿支に行はれてゐる諸宗教の中で民衆の信仰の中心をなしてゐるのは道教である。

しかし現今の信仰狀態を見るに道教、儒教、佛教を初め其他のものが混淆されてしまつてゐて、それが民衆の現實的、實利的、迷信的な特性によつて彩られ、何れの場合にも祈願の中心となるものは利殖、豐饒、繁榮、求子、安產、疾病惡疫その他の災厄或は天災などの救濟といつたやうなものである。供物などに對する觀念など至つて幼稚で、神の靈驗はその供物の多寡に比例するといふやうに神の意思欲望を自分等の水準に於いて忖度するといつた有樣である。

寺廟聖地など道儒佛の三教ともそれぞれこれを有してゐるが、何れの宗教をも超越して祖先崇拜の觀念は日本と同樣である。

死者が偉大なる者であればその家族を越えて一般の信仰の對象となり得るわけで關羽が關帝に祀られ今尙ほ厚く崇信されてゐるなど其の一例である。

道教のうち滿洲に最も勢力のあるのは龍門派と稱せられるもので盛んに偶像を設け福祿壽を說き冠婚葬祭をも行つてゐる。寺

院は通常「觀」「廟」或は「宮」とも呼ばれる。

彌陀や觀音を本尊として祀るところに佛教との著しい混淆がうかがへる。主神は王皇と天后、關帝と娘々がその主なものである。然し王皇には天后を配する外、天官、地官、水官の三神をも併祀し關帝には娘々を配する外、佛爺、龍王、火神、馬王、牛王、財神、藥王、神農、狐仙などをも併祀するといふ風で道教の廟觀中には宛然偶像の百貨店といつた感じのものがある。

娘々は古來大衆受けのする神樣で、道教の代表神ともいふべき有樣でこれを祀つた廟祠は滿洲到るところにある。中にも大石橋の娘々廟は最も古くて有名である。娘々廟と天后宮とは通常別々に祀られてあるが祭神は同じものと解されてゐる。關帝は關羽を祀りその廟は又老爺廟とも稱し娘々廟と同樣各地にある。武神で護國の神であると共に財神とされて大に人氣をもつてをり滿洲國ではその大祭を國家的に行ふことに規定されてゐる。

各省城、各縣城に孔子の廟（文廟）があり祭典も行はれてゐるが論語の精神など地に墮ちてゐる今日、道教の影響を受けて宗教混淆にまきこまれ純粹の儒教は非常に影が薄い。然し國家によつて孔子精神の宣揚に重心が置かれ祭典も國家的に行はれることに規定されて儒教に光明が大に立ちかけてゐる。

滿洲の佛教は昔日の勢力は全くなく臨濟禪宗が多い。寺院は「寺」又は「庵」などの稱號で呼ばれ又「廟」とも稱せられる。

喇嘛教は盛に偶像を崇拜しその種類も多種多樣である。釋迦、阿彌陀、金剛菩薩、寶生佛、文珠、觀音、彌勒、大黑神、摩醯首羅、宗喀巴、龍樹、四天王などの像が普通のものであるが、其外に所謂祕佛なるところの非常に珍らしい像がある。奉天小西邊門外にある黄寺は滿洲の總本山格である。寺院は建立の事情によつて稱を異にし活佛の住持するものを佛爺廟、札薩克（旗長）の菩提寺を王爺廟と稱し、一旗の廟を旗廟、普通の丹を站廟と言つてゐる。この宗教で行ふ年二回の大祭には跳鬼又は打鬼といつて各種の假面を被り、鬼神や天王母の跳舞が催され、或は競馬や角力が行はれて盛況は大したものである。

◇滿洲祭典地（陰曆による）

・祭名	・場所	・例祭月日
天后宮祭	海洋島會灣東屯	自一・一 至一・九
喇嘛廟會	承德獅子溝街大佛寺前	一・一三
跳祭	奉天小西邊門外喇嘛廟	自一・五 至一・一五
三官廟祭	大長山島會三官廟屯	一・一六
高足會	草河口	自一・六 至一・一六
火神會	安東元寶山	一・二九
關帝廟會	佳木斯關帝廟	二・二 八・六
祀孔會	佳木斯南門裡	二・一 八・五
孔子廟會	承德西大街	二・七
眞武廟祭	撫順驛より八粁	自二・一〇 至二・二〇
關武聖人祭禮	洮南縣城內祐民西街	二・一七
孔子祭	吉林	二・一七
金銀庫祭	遼陽縣城內金銀庫	二・一九
老邊觀音老母廟祭	大石驛驛より一・五粁	自二・一八 至二・二一
觀音大士誕祭	大譚家屯會朝陽庵廟	二・一九
南海大祭	安東元寶山	二・一九
釋迦牟尼及觀音菩薩祭禮	洮南縣城內裕民西街	二・一九
跳塔	奉天小西邊門外喇嘛廟	二月中
黄壓大會〔跳鬼〕	錦州省吐默特左旗瑞應寺（最寄驛東阜新驛）	二・三〇
跳塔	同	自三・一 至三・一五
三三廟會	崔家屯會三三廟屯望洋臺山玉皇廟	三・三
釋迦牟尼及觀音菩薩禮祭	洮南縣城內裕民街	三・三
三才寺廟會	錦古線上齊台	三・三
東嶽廟祭	老爺廟附近	三・一五
贅子河會	贅子河會子河屯瀾海寺	三・二〇（毎月一と十五の日）
文廟祭	新京南關	三・二一 九・一七
天后聖母降誕祭	大連市惠比須町天后宮	三・二三

娘娘廟祭	營子窩會西街	三・二三
天后宮會	奉天大北關	三・二三
海神娘娘祭	安東元寶山	三・二三
天齊廟會	奉天小東關邊門	自三・二五 至三・二九
天齊廟會	遼陽城內天齊廟	三・二八
天齊廟會	齊々哈爾天齊街	三・二八
興盛廟祭	鞍山（驛より二粁）	自四・六 至四・一〇
湧泉寺祭	楊樹房會干和尚廟屯	自四・六 至四・一〇
佛誕廟會	佳木斯關帝廟	四・八
娘娘廟會	同	四・一八
娘々廟會	承德南營子大街娘々廟溝	四・一八
藥王廟會	同	四・二八
佛爺廟祭	石河佛爺廟	四・八
楞嚴寺會	營口市通惠街	四・八
天后宮	同	四・二八
夾河廟會	夾河廟會龍母廟屯	自三・一 至三・一五
小白山望祭	吉林市外小白山	春分秋分日
永興寺祭禮	營城子	自四・一三 至四・一七
老君廟祭	撫順（驛より五百粁）	自四・一八 至四・二〇
娘娘廟祭	奉天大南關什字街	自四・一五 至四・一八
娘娘廟祭	吉林北山	四・一八
娘娘祭	湯崗子	自四・一六 至四・一八
娘娘廟祭	大石橋迷鎭山	自四・一六 至四・一八
同	旅順水子營	同
三宵娘娘聖母祭	洮南縣城內裕民西街關帝廟內	自四・一七 至四・一九
娘娘廟祭	鐵嶺西門內	自四・一七 至四・一九
天仙娘娘祭	遼陽城內天齊廟	四・一八
安寧寺佛祭	奉天省奉集塔山	四・一八
三仙娘娘廟祭	安東元寶山	四・一八
娘娘廟會	齊々廟會公園南街	四・一八
娘娘廟祭	大屯早豐山	自四・一八 至四・二〇
娘娘廟祭	通遼堡驛北方約三粁	四・一八
娘娘廟祭	四平街西方舊四平街	四・一八
娘娘廟祭	梨樹縣買賣街	四・一八
娘娘祭	鄭家屯老爺廟內	四・一八
茂林廟祭	通遼（驛より三〇粁）	自四・一八 至七・一五
岳帝廟會	通化玉皇山	四・一八
關帝廟會	同	四・一八
孔子廟祭	同	四・一八
玉皇廟祭	同	四・一八
娘娘廟會	同	四・二八
娘娘廟祭	綏化	四・一八前後五日間
娘娘廟祭	呼蘭	四・一八前後五日間
藥王廟會	錦州市西關	四・二三
藥王廟會	奉天大南關大街南	自四・二五 至四・三〇
天后宮祭	營口學林街	四・二八
藥王廟會	柳條溝屯藥王廟	四・二八
藥王祭	遼陽城內藥王廟	四・二八
火神廟祭	陳相屯（驛より約三粁）	四・二八
藥王祭	安東元寶山	四・二八
劉家河娘娘祭	劉家河驛東南約一哩香雲寺	自四・一八 至四・二八
城子礮會	城子礮（驛より三町）	四・二八
藥王廟會	鐵嶺北關	四・二八
藥王廟會	吉林北山	自四・二六 至四・三〇
小白山望祭	吉林市外小白山	春分秋分日
鳳凰山廟會	鳳凰山（驛より四粁）	自四・二六 至四・三〇
蒙古人水浴祈禱會	錦州省西海口	自五・五 至五・一五
端湯祭	安東元寶山	五・五
喇嘛廟祭禮	葛根廟及王爺廟	五・五
五日祭	哈爾濱	五・五
老爺廟祭	鐵嶺西關老爺廟	五・五
關帝廟會	錦州市西關	五・一三
關帝廟單刀會	吉林北山	春秋上戊日
關公祭	安東元寶山	五・一三
關帝廟祭	開原舊附屬地	五・一三
關武聖人の祭禮	洮南縣城內關帝廟	五・一三
關帝廟會	吉林北山	五・一三
關帝廟祭	遼陽驛より約十五町	自五・一二 至五・一四
鄂博祭	鄭家屯鄂博山	五・一九
關帝廟會	齊々哈爾公園南街	自五・二三 至六・二四
護國般若寺會	新京吉林大街	五・二六
天仙宮娘々祭	牡丹江驛西南約六粁	五月
龍王廟祭禮	洮南縣城大北門外洮兒河南岸	六・二三
喇嘛廟祭禮	葛根廟及王爺廟	六・一五
阿拉街廟祭	王府驛東六粁	六・一五、一六
喇嘛廟會	臥虎屯驛西方一二粁	自六・一四 至六・一六
關武聖人祭禮	洮南縣城內裕民西街	自六・二三 至六・二四

關帝廟祭	梨樹縣買賣街	自六・二三至六・二四
關帝廟祭	松樹附近地内第七區	六・二四
關帝廟會	熊岳城舊附屬地	六・二四
關帝廟會	新京南關	自六・二九至九・二八
盂蘭盆會	大連惠比須町天后宮	七・一七
喇嘛廟祭	大板上	七・一より一箇月
中元節	奉天各處墳墓	七・一五
靈祭	安東元寶山	七・一五
盂蘭盆祭	鐵嶺柴河河岸(北門外)	七・一五
中元節	吉林	七・一五
財神廟祭	貔子窩會財神廟	七・二五
孔子祭	吉林	八・一七
甘珠爾廟祭	海拉爾南一七、六粁	八・六より一五日間
千山祈禱會	千山	自八・二二至八・二四
龍首尋秋	鐵嶺龍首山	九・九
觀音廟會	吉林北山及巴虎門内	九・一三
財神廟祭	梨樹縣買賣街	九・一七
東北廟祭	奉天	一〇・一
孔誕祭	哈爾濱孔子廟	一〇・一二

(以上は一例であつて未だに各地多くの祭事が催される)

◇支那祭典地 (陰曆に依る)

北京

・祭名	・場所	・祭例月日
火神廟開廟	延壽寺街南巷	一・一－一五
白雲觀開廟	西便門外	一・一－一九
大鐘寺開廟	西直門外	一・一－一五
東嶽廟開廟	朝陽門外	毎月一日・一五日
財神廟開廟	廣安門外	一・二
城隍廟火判	後門外	一・一三
黑寺開廟	德勝門外	一・二三
雍和宮演鬼	雍和宮大街	一・三〇
太陽宮開廟	左安門内	二・一－二
祭文昌廟	地安門大街帽子胡同	二・三
觀音廟會	正陽門外	二・一九
蟠桃宮廟會	東便門内	三・一－五
潭拓寺門廟	石景山西	三・一－一五
東嶽廟會	朝陽門外	三・一五－二八
天台山香火	西郊磨石口	三・一八
戒台寺開廟	蘆溝橋西十二粁	四・一－一五
萬壽寺開廟	西直門外六支里	同
碧雲寺開廟	西山	同
妙峯山開廟	城外西北百三十支里	同
天寧寺開廟	廣安門外	四・八
藥王廟會	西直門外	四・一三
都城隍廟會	西單成方街路北	五・一
臥佛寺開廟	崇文門外	五・一－一〇
關帝廟開廟	永定門外	五・一－一五
中頂開廟	右安門外草橋	六・一
江南城隍廟會	宣武門外南横街	七・一五
竈君廟廟會	崇文門外花見市	八・一
白雲觀九星會	西便門外	九・一－九
財神廟會	廣安門外	九・一五－一九
江南城隍廟開廟	南横街	一〇・一
白塔寺開廟	西四牌樓西	一〇・二五

天津

娘々祭	城内娘々宮	自一・一至一・一五
日王典禮	華街東門内孔廟	二月八月第一丁日
皇會	同	自三・一五至三・二五
蟠桃會	小稍直口福壽宮	五・五
城皇會	西馬路城皇廟	四・八
藥王會	市南五十里峰山廟	四・二八
盂蘭會	河東尙野坂池	七・一五

山海關

姜女廟祭	山海關驛東方八粁	四・一八
孔子廟會	山海關西街	三・一七 八・一七
三清觀會	山海關西關	四・一八

唐山

興國寺廟會	唐山興國寺	一・一五 五・一五
鐵菩薩廟會	雙鳳山	三・一八 五・一五
電神廟會	大成山頂	五・五

濟南

文廟(孔子祀)	城内花牆子街	春秋分日
盂蘭會	城内大明湖	七・一五
呂祖廟	城内趵突泉内	毎月一日十五日

靑島

釋迦牟尼佛聖誕祭	湛山芝泉路一號湛山寺	四・八
盂蘭盆會	同	七・一五
天后宮例會	太平路十九號天后宮	一・一 一・一五
天后聖母聖誕會	〃	三・二三
關聖帝君聖誕會	〃	五・一三 六・二四
財神會	〃	七・二二
天后聖母祭日	〃	九・二

地母娘々聖誕	〃	一〇・一八
大帝聖誕大會	台東鎭、道口鎭十五號玉皇廟	一・九
香火大會	四方鎭海雲街一號	一・一五
文廟	臨時定	春秋上丁日
武廟	〃	春秋中戊日

保定

孔子廟祭	孫學街	三・一五 九・一五
關岳廟祭	南門東馬道	一〇・二

石門

孔子祭	西花園古佛寺	春秋丁吉日

徐州

黃樓廟會	前倉巷	一・一五
大佛寺會	雲龍山	二・一九
泰山廟會	泰山上	四・一五
張良廟	子房山	五・一九

大同

祀關岳	關五府	六・二四
祀孔子	文廟	春秋分日
上華嚴寺會	大同站西南四粁城内西南隅上寺巷	四・八
玉帝廟會	大同站西南二粁	五・一

厚和

娘々廟祭	厚和站東南二粁橋靠村	四・一八

上海

紅廟祭	南京路	一・一 二・一 三・一 四・一
靜安寺祭	靜安寺路	四・八
城隍廟祭	南市	一・一、二、三

南京

彼岸詣	淸涼寺	春秋彼岸

蘇州

孔子廟祭	蘇州世界觀	三・二七 八・二七

杭州

彼岸同	三天竺	自二・一五至四・一五
觀音同	同	六・一五
彼岸同	雲林寺昭慶寺淨慈寺	自二・一五至四・一五
城隍祭	城隍山	六・一九
觀音詣	東嶽廟	自七・一至七・三〇

武漢

上九節		一・九
觀音節		三・一九
城隍節		三・二八
關皇節		五・二三
鵲橋會		七・七
中元節		七・一五

寺院

歸元寺——漢陽

寶通寺——武昌(洪山)

長春觀——武昌(大東門外)

廣東

觀音誕		三・一九
華陀誕		三・二四
呂祖誕		四・一三
玄壇誕		五・一六
關帝誕		六・二四
孔聖誕		八・二七

蒙古人の水浴

毎年舊曆の五月五日から十一日間、錦州省西海口(錦縣よりバス約一時間半)で蒙古人が水浴をする。遠く熱河、通遼方面から例年その時期に集つて來る蒙古人は五千名餘にも上り、海岸は非常な賑ひを呈するが、彼等に依れば陰曆五月五日即ち端午節には、織女がこの西海口の海面に舞ひ降りて海水を淨めると云ふのである。そして十一日間海水は淨められてゐるが、それを過ぎると惡朱雀星が舞ひ降りてまた海水を汚濁してしまふ。その淨められてゐる間の海水に浸れば、一切の罪は洗ひ下され疾病は癒される。から云ふ信仰から彼等は西海口を憧れ、一生に一度は必ずこゝへ來て水浴をすることを最高の念願としてゐる。水浴と云つても全裸體になるやうなことはなく、簡單な着物を着て海に入るのだが、水浴の前後は必ず合掌し、海中でも盛に祈を捧げる。泳ぐやうなことはなく、二、三千人が一時に水浴しても、水音ひとつ聞えぬまでに靜肅である。


季節の動き
春！


ミヤタバンド
ハーモニカ
ハーモニカ界の元老
宮田東峰先生責任監製
複音二十穴
……二圓八十錢より……
日本中の人氣を集めた
流線型ミヤタバンド
東京市淺草區淺草橋三丁目四番地
發賣元 宇野商店
電話淺草六一二二番・振替東京一四五一六番
◇全國有名樂器店にあります◇


夏！

開拓地



【基本要綱】當初滿洲開拓の叫ばれた要因としては

一、國防的見地よりの必要
二、日滿を通じての食糧增產
三、日本農村の過剩人口の合理的分散

の三つが擧げられ、而も右のうち(三)が最も大きな理由として擧げられてゐたに拘らず、其後の人口動態は、一般的人口自然增加減少の傾向にあり、殊に支那事變勃發による軍需景氣の影響を受け、人口の都市集中により、農村の勞力は不足を告げつゝある。從つて日本內地の過剩人口の分散が開拓政策の大きな理由であるならば、既に日本農民の滿洲移住は停止せしむべきであるが、事變發生後の東亞新事態は急速に開拓政策の大擴充を要請するに至つたので、茲に滿洲開拓政策の再檢討が行はれるに至つた。

即ち昭和十四年東京と新京に於て會議を開き、兩國閣議に上程して其要綱が公布されたが、この基本要綱に於ける方針は、開拓政策によつて支那事變を契機とする東亞新秩序建設の理想確立のため、東亞安定の據點を培養すると云ふにあり、特に日本內地人開拓民を中核として各種開拓民及び原住民との調和を計るところに最重點を置き、日滿不可分關係の强化、民族協和の達成、國防力の擴充と產業の振興を計り、併せて日滿兩國の農村發展に寄與せんとするものである。

之によつて開拓政策は從來のものと因果關係が逆轉して、日本內地の過剩人口の消化或は日滿農村の更生を目指してのみ行はれるものではなくなり、この開拓政策の一大轉換によつて、日本の發展と滿洲國の建國、續いて東亞新秩序の建設、東亞共榮圈の確立から更に、世界新秩序の建設へと進む日本の八紘一宇の理想は、開拓協和の實踐を通じて、日本開拓民が逞しく進めることになつたのである。

日本內地人農業開拓民入植表

省別	集團 團數	集團 戸數	集團 人口	集合 團數	集合 戸數	集合 人口	合計 團數	合計 戸數	合計 人口
三江	三四	四・四八八	一三・一七一	九	四一四	七八四	四三	四・九〇二	一三・九五五
北安	三七	二・七四六	五・七七一	九	二一八	七四二	四六	二・九九四	六・三一三
濱江	二四	二・九六八	七・一三六	一七	五三三	一・四四八	四一	三・四九一	八・五七八
東安	一九	三・五七一	一〇・〇〇五	一〇	四五〇	九四八	二九	四・〇二一	一〇・九五三
龍江	一七	一・〇三一	一・七六七	二	四〇	一三三	一九	一・〇七一	一・九〇〇
吉林	一〇	一・一一〇	二・三〇八	三一	一・〇八六	二・五一二	四一	二・一九六	四・七二〇
牡丹江	一〇	六五八	一・〇八三	一一	三〇四	九九六	二一	九六二	二・〇七九
奉天	—	—	—	九	三一一	[illegible]	九	三一一	七二四
間島	—	—	—	七	一九一	五三三	七	一九一	五三三
安東	—	—	—	五	一一七	一九八	五	一一七	一九八
興安北	—	—	—	三	六六	一〇八	三	六六	一〇八
興安南	—	—	—	一	五三	一二四	一	五三	一二四



錦州	一	一	一	一	五一	一七六	三	五一	一七六
黒河	一	一	一	一	一四	一四	一	一四	一四
通化	一	一	一	一	五〇	五〇	一	五〇	五〇
新京	一	一	一	五	九六	二〇六	五	九六	二〇六
合計	一三	一六、五六二	四〇、一三六	一二四	三、九九四	九、六六二	二七五	二〇、五五六	四九、八〇八

開拓事業機關

【概要】日本に於ては拓務省農林省等が主として之に當り各府縣廳市町村役場を通じて分村計畫の指導開拓團の募集竝之が助成に當つてゐるのであるが、別に滿洲移住協會を財團法人として結成せしめ宣傳、募集、訓練、輸送等に當らしめてゐる。尙本事業遂行のため軍は特別なる指導援助を與ふるの外各學校、靑年團、農會、產業組合は申すに及ばず、社會敎育團體、社會事業團體等凡ゆる機關團體を動員して開拓民の募集送出の大計畫を進めてゐる。

又滿洲國では開拓政策が滿洲三大國策の一たる重要性に鑑み昭和十四年初頭舊產業部拓政司を擴充して開拓總局を設置すると共に、必要なる省縣には夫々開拓廳、開拓科又は開拓股を置き又昭和十五年初め訓練本部を設けて靑少年義勇隊訓練所を統轄し更に滿鐵では開拓科學に關する實踐的研究の中樞たらしむるため開拓科學研究所を設置し、一貫せる組織の下に開拓國策遂行の完璧を期してゐる。

滿洲拓植委員會は實行機關たる滿拓を監督する等之が取扱機關は多樣に亘つてゐるが日滿兩國に於ける主要機關は左の通りである。

【拓務省】滿洲開拓事業は日滿兩國の一體的重要國策で、その一般的行政監督指導は日本側に於ては拓務省、滿洲側に於ては開拓總局がこれを擔當してゐる。

拓務省―拓北局―管理課
　　　　　　　　開拓課
　　　　　　　　靑年課
　　　　　　　　輔導課

所在地東京市麴町區霞ヶ關

【滿洲移住協會】拓務省の外廓機關として開拓事業の遂行を圓滑ならしむると同時に、他方滿洲拓植公社と提携して主として內地に於ける開拓民の移住工作に從事することを事業の大本としてゐる。事業內容は茨城縣內の滿蒙開拓靑年義勇軍內原訓練所の經營、移住斡旋、開拓智識の普及等、開拓事業達成に必要な萬端の事項を行つてゐる。

所在地　東京市麴町區內幸町大阪ビル內

【滿洲拓植委員會】日滿兩國政府は日滿兩國法人たる滿洲拓植會社に對する兩國政府監督の合理適正化を圖ると共に、兩國開拓方策の樹立竝に其連絡協調に資するため昭和十二年滿洲拓植委員會を組織し、之が機關として新京に同事務局を設置した。委員會は日滿兩國より各七名計十四名の委員と同數の隨員より構成されてゐる。

所在地　新京特別市至聖大路

【滿洲拓植公社】滿洲國政府は康德二年(昭和十年)十二月資本金二千萬圓を以て滿洲拓植株式會社を設立したが、開拓事業の進運に伴ひ特殊會社のみにては本事業の圓滿なる達成を期し難き情勢に立到れるを以つて、康德四年(昭和十二年)八月日滿兩國間に締結された條約に基いて資本金五千萬圓を以て新に滿洲拓植公社を設立した。

本社は日滿兩國の二重國籍を有する特殊法人にして、資金の調達を容易ならしむるため拂込資金の十倍迄社債發行を認められてゐるのみならず社債元利支拂に付き日滿兩國政府に於て保證をなすことゝなつてゐる。

其業務內容は移住者に必要なる施設、經營、資金貸付、更に移住者に必要なる事業の經營を目的とする會社又は組合に對する出資及金融其他で、靑年義勇隊關係に於ては訓練部が甲種實務訓練所の經營に當つてゐる。

所在地　新京特別市大同大街康德會館內

【滿鮮拓植株式會社】在滿既住鮮農の生活安定、新規開拓民の入植斡旋竝に助成を目的とし、康德三年九月勅令に基き設立された特殊法人である。

【滿洲土地開發株式會社】政府、滿拓、鮮拓及び公共團體の取得せる未利用地の開發工事の請負竝に政府に於て命ずる所の土地改良に關する事業等に從事するのを目的とし、康德六年四月勅令に基いて設立せられた。

【南滿洲鐵道株式會社】鐵道總局附業局拓植課に於て鐵道自警村竝に靑年義勇隊乙種訓練所中滿鐵訓練所を經營し、同時に牡丹江省橫道河子に開拓科學研究所を設け、或は奉天醫科大學、沿線各地の鐵道病院等に依り開拓民の保健診療に努むる等之が助成に多大の努力を拂つてゐる。

所在地　本社大連市東公園町
　　　　鐵道總局奉天市春日町

【滿洲帝國協和會】協和會は獨自の立場から靑年義勇隊、各開拓團に精神的、文化的指導援助を與へると共に、原住民の輔導に努め、開拓政策の目的遂行に萬全を期して、中央本部の實踐部に開拓科を、省本部の指導科に開拓係を特に設けてゐる、中央本部開拓科は指導、訓練、弘報の三班に分たれ、開拓事業に協力してゐる。

所在地　新京特別市大同大街

【滿洲開拓協議會】日本內地に於ける開拓關係民間團體竝に直接に關聯を有する諸團體が連絡協調を保ち開拓事業を促進するための協力機關である。

所在地　拓務省內

【開拓總局】總局長の下に總務(總務、計畫、經理、勤勞奉仕各科、)土地、(用地、適地調査各科)拓地(調査、事業各科)招墾(監理、訓練、第一、第二、第三各科の四處十三科を設け靑年義勇隊關係は拓墾處訓練科が主管し、義勇隊の入植斡旋、指導及訓練、施設等に關する事項を取扱つてゐる。

尙過般日滿農政研究會總會席上滿場一致可決され、目下日滿兩國政府に於て審議中のものは、每年約五十萬の日本靑少年を滿洲國に招致し廣大なる未墾地を開發開墾し食糧飼料の大增產に勤勞奉仕せしめ、以て東亞食糧問題の解決と滿洲開拓政策の促進とに大々的に寄與せしむると共に、更に進んで右の勤勞を通じて最も明確に興亞の大精神を修練體得したる靑少年を以て日本國民再組織の基底たらしめんとする計畫もあり、之が確定の上は開拓總局の現機構も一大改編ある筈である。又勤勞奉仕隊のためには實踐本部を、靑年義勇隊のためには訓練本部を設置しあり、その輔導運營の萬全を期してゐる。

【訓練本部】日滿兩國政府及び協和會、滿拓、滿鐵等關係機關の合作になるもので、從來滿拓及び一部滿鐵に於て行つてゐた靑年義勇隊の訓練に就て、其指導竝に經營に關する方策と、管理運營の主體を確立し、又一貫的指導を與へるものとしてその設立は畫期的な意義を有するものである。

本訓練部は昭和十四年決定を見た滿洲開拓政策基本要綱に基き、翌十五年三月二十九日勅令第四十七號を以て法令が公布され、四月一日開設された。

機構は訓練本部長の下に督務室、總務部(庶務、人事、會計、企畫、弘報各科)訓練部(敎務、敎學、敎練、農事、保健各科)管理部(補給、建設各科)の一室、四部制となつてゐる。(靑年義勇隊の項參照)

開拓民の沿革

【集團開拓團】拓務省が軍部及び滿洲國

の協力を得て、始めて五百名足らずの第一次集團開拓民を北滿地方に送つたのは昭和七年で、昭和十五年度に於て既に第九次を數ふるに到つた。此の内第一次、第二次の各五百名は試驗移民、或は佳木斯移民とも言はれるもので、殊に第一次開拓團は匪賊跳梁のため、直ちに入植地永豐鎭(彌榮村)に入ることが出來ず、約半年の間佳木斯の警備に當つてゐたので、第一次だけを佳木斯移民といふ場合もある。第一次第二次の入植は事變直後でもあり入植當時の危險、困苦は豫想以上で、當分は鋤を取ることも出來ず、連日戰闘に日を送り、何れも戰死者十五名内外、脱退者百六十餘名即ち全員の約四割を出し、殊に第二次開拓團は、既に苦闘七箇月に亙つて築き上げた七虎力の地を捨てて現在の湖南營(千振鄕)に移るの止むなきに至つたといふ血みどろな「試驗移民」となつた。然し皇軍の絶えざる討匪行と、五箇年に亙る三十餘回の交戰に於て團員が示した果敢な戰闘振りは、漸く匪賊に「開拓團恐るべし」の信念を植ゑ附け、地域内には絶對に近づかなくなつた。かくて昭和九年の第三次以來は開拓地内では未だ一名の戰死者も出してゐない。と同時に豊穰な黒土と、清澄な流れは、滿目の田畑に黄金の波を漂はせ米、味噌、醬油や野菜類等の生活必需品は勿論酒から菓子類に至るまで、何れも自給自足の域を超え、附近の軍隊、滿人等に賣出してゐるところもある。

治安と生活の安定とは花嫁の招致となり健康と、若さと、新婚早々の三拍子は赤坊ラッシュを生み、戰傷者や屯墾病の荒治療に忙がしかつた醫師は、一變して婦人と小兒科醫とに轉向、拍車を鳴らして村から村へと馬を走らせてゐる。

二十年間百萬戸五百萬人の移住計畫は分村と青年義勇隊の新編成により十年間に短縮されやうとしてゐる。大和民族が二千六百年の島國民より一轉して大陸國民となる可き轉機を意味するものであり、正に民族移動の大行進である。北滿數百萬町歩の沃野は、民族的使命遂行試練の道場として日本農村子弟を招く、この試練に打勝つと否とに依つて發展的民族としての吾人將來の運命が決せられるのみならず、實に日滿關係が不動の地盤の上に確立せらるゝや否やが決せられるのである。

滿鐵も鐵道自警村及滿鐵訓練所の經營はもとより此の大國策に順應し五百萬人輸送に對して最高度の奉仕を開始した。斯くて全滿六十七箇所の廣野に日章旗はへんぽんと翻り、團員八千三百五十六、家族を合せて三萬三千五十六人と云ふ夥しき數に上り集合開拓組合、鐵道自警村を加ふれば四萬六千餘名となり、この外青少年義勇軍約四萬が毎朝東天を拜して「君ヶ代」と「愛國行進曲」を合唱してゐる。

【集合開拓組合】 集合開拓民は以前は自由移民と稱され、滿拓の前身たる滿洲拓植株式會社の設立以前に於ては僅かに天照村(現一棵樹開拓組合)、天理村の外鐵道自警村を算へるに過ぎなかつたが、國策開拓民事業の實施以來集合開拓民計畫は俄に多きを加ふるに到つた。本開拓民は主として民間によつて行はれるもので、集團開拓民が主として北滿の主要地點、殊に將來拓民發展の據點となるべき地域に配置するのに對し、集團開拓地の隣接地域或は交通其他の便利な地域に配置するを原則としてゐる。日滿兩國政府は勿論之に對しても積極的助成をなしその實行を容易ならしめてゐる。

集合開拓民を取扱機關により大別すれば

(一)農業を主とする滿拓公社扱によるもの

(二)鐵道沿線に入植して營農の傍ら鐵道警備に當る鐵道總局扱による自警村開拓民。

(三)冬期森林伐採に從事し、農耕期に於ては一般農事に從事する産業部林野局扱による林業開拓民とする。之等集合開拓民は概して少人數の集團なるを以て、小學校、病院の如き公共施設は概ね附近に於ける既設

のものを利用せしめてゐる。

最近に於ける集合開拓民の現勢は設立組合數百十三、入植戸數は一般集合三千八百四十二戸、其他五百二十戸、計四千三百六十二戸となつてゐる。

	團體數	戸數	人口	一團體構成員數
林業開拓民	五	三五五	一,四三三	二九—一三八
鐵道自警村開拓民	三二	四二八	一,四五六	一〇—三〇
滿拓取扱集合開拓民	四三	一,五一七	三,六二二	五—八三
計	八〇	二,三〇〇	六,四九九	—

【鐵道自警村】 滿洲鐵道總局では本年十月一萬粁を突破せる滿洲の鐵道沿線に約六百萬人の滿人を以て三千六百餘村の鐵路愛護村を組織して、沿線住民の鐵道愛護思想を涵養し、同時に鐵道交通の萬全を計つてゐる。

此の鐵路愛護村が、滿人を主體として結成されてゐるのに對して、日本人を主體として昭和十年度から生れたのが鐵道自警村であり、之は前述の通り集合開拓民として取扱はれてゐる。從つて自警村は鐵路自衞の立場から、日滿軍警と緊密な聯絡をとつて鐵道の警備を爲し傍ら農耕牧畜に從事するのを目的とし、延いては愛護村民に營農の模範を示し、又鐵道背後地開發の基點たらしめ、以て鐵道永遠の護となりながら、滿洲國發展の礎石たるの任務を果さうとするものである。自警村員は主として農業に經驗ある皇軍駐滿部隊の除隊兵の中から嚴選され、一定の期間中、所定の警備に服する義務を有してゐる。村員に對しては最初五箇年間は警備手當の支給が有り、別に土地、建物、家畜、農具、種子等の有償貸與の恩典がある。現在二十三村、戸數四百四十八、人口一千四百五十六人となつてゐる。

開拓民計畫

【開拓民の特質】 滿洲國は日本の八紘一宇の建國精神に基き、民族協和、日滿不可分關係の實現を理想とするものであるが、此理想は思想堅實身體强健なる日本内地農民が多數入植して、勤勞奉公の生活を以て四隣に範を示し、克く原住民と融和して滿洲國民の中核となり、子孫相繼ぐに至つて始めて之が實現を見ることが出來るのである。滿洲農業開拓民は斯の樣な重大使命を擔ふ點に於て全く他の一般移民と性質を異にするものであり、二十年百萬戸の計畫が日滿兩國を通ずる樞軸的國策として採用された所以である。

又滿洲開拓民計畫は尙其の大量なるに依つて、人口過剩と耕地狹隘に惱める日本農村問題解決の一助ともなるべく、其技術の優秀及組織の整備された點等に於て滿洲農業開發に寄與する處が多いのである。

此の意味に於て新開拓民は北米、南米等への移民と異り、其經濟的、社會的諸條件に基き、自然に放置して大量の入植を期待することは出來ないので、少くとも當初に於ては多大の國家的援助を必要とされてゐる。

【開拓民計畫の概要】 (一)(二十年百萬戸計畫の概要)昭和七年より同十年迄に入植せる約千八百戸の試驗開拓民の成績に鑑み昭和十一年八月日滿兩國政府は二十箇年百萬戸五百萬人の大量開拓民計畫を樹立、直ちに翌年より實施したが、其の計畫概要は次の如きものである。

(イ) 開拓民を其入植形態に應じ集團、集合及分散の三に分ち、五箇年を一期として第一期十萬戸、第二期二十萬戸、第三期三十萬戸、第四期四十萬戸計百萬戸入植の豫定

(ロ) 開拓民に對しては一戸當農耕地概ね十陌(約十町歩)及若干の放牧薪炭備林地を考慮しあり、其用地として農耕地約一千萬陌を必要とし、之は滿洲國に於て整備するのであるが、昭和十三年度迄は同政府指導の下に滿拓公社をして之に當ら

しめた。昭和十三年末迄に整備を了した土地の總面積は約一千二百四十萬陌、現在整備中のもの約二百三十萬陌、整備豫定のもの約一千三百萬陌、計二千七百七十萬陌にして、所用可耕地約一千萬陌は右のうちに於て獲得し得る見込、また用地の整備方針としては官公有地を先にし主として未耕地を之に充つる等努めて原住民に惡影響を及ぼさゞる樣考慮してゐる。

（ハ）開拓民に對しては日本政府に於て一戸當り集團開拓民に付約一千圓、集合開拓民に付約其半額の補助金を交付する外、滿洲國政府に於ては治安、交通、通信、營農等各般の事項に關して行政上の保護を爲し、滿洲拓植公社は開拓地に於ける必要な施設及其經營と資金を低利融通する。

（ニ）（滿洲開拓青年義勇隊計畫の概要）日本の純眞なる青年を在滿の訓練所に收容し、之に對して民族協和、日滿不可分の理想を鼓吹し、心身の錬磨、農業技術の習得に努めしめ、將來之を農業開拓民として定着せしむるに於ては滿洲農業開拓民事業の本義を達成する上に於て効果尠からざるべく、日滿兩國政府は玆に着眼して昭和十三年度以降に於て約四萬人の青少年を滿洲開拓青年義勇隊訓練所に收容した。

【開拓地現況の概要】

（一）集團開拓民は昭和七年の第一次より昭和十三年の第八次に至る迄合計八九集團一二、二六六戸、二二、五六〇人の入植を見た。集合開拓民は緣故開拓民を除き八一集團二、三一〇戸、六、四九九人にして入植地は主として三江、濱江、北安、東安牡丹江、龍江、吉林の各省管內である。

（二）開拓地の經營は先遣隊の入植に始まり團共同經營、部落共同經營の過程を經て個人經營に至るものにして、昭和十三年迄に個人經營に移つたのは第一次、第二次、第三次、第四次二團、第五次四團の九團である。

第四次迄五團の各平均につき其經營狀況を見るに、一年當り耕作面積は五町九反乃至十町歩、一戸當り所有家畜數は馬〇・八頭、乃至二・六頭、牛〇・一頭乃至一・一頭にして、主なる作物は水稻の外大豆、小麥を大宗とし玉蜀黍、粟、大麥、燕麥、一般蔬菜及び亞麻、麻、煙草其他の特用作物頗る多種に亘り、多く無肥料なるも地味肥沃にして收量は相當に多い。家畜はこの外緬羊、豚、鷄、蜜蜂等を飼育し、何れも良好なる成績を收めてゐる。各團何れも神社役場、學校、病院、組合及共同産業諸施設等を有し團自治經濟の確立に努めつゝある。

滿洲建設勤勞奉仕隊

【沿革】 滿洲の輝かしき發展と共に、最近日本青少年間に於ける大陸への關心は十萬同邦拓士の、滿洲移住と共に愈々熾烈なるものがあるが、文部省に於ては豫てより之等東亞新秩序の建設を雙肩に擔ふ青少年に大陸の認識を與へると共に、精神的、肉體的訓練を與へる目的を以て、昭和十四年初めて組織せられ、主として國境地帶及び其背後地竝開拓地等の土木、農耕、建築、醫療其他事業への勤勞奉仕のため派遣せられ爾後繼續行はれる筈である。

【方針】 現下時局に鑑み日滿を通ずる食糧及飼料の增産竝滿洲に於ける開拓政策の促進を圖り産業開發竝北邊振興工作及日本農村の更生振興に寄與する要ある爲日滿兩國の勤勞青年を動員し滿洲建設勤勞奉仕隊を編成し農耕、土木其他生産竝建設事業に勤勞奉仕せしめ此等實踐を通じて滿洲國建國の理想を把握し興亞の大精神を體得せしむるを以て主眼とす。

【要領】 勤勞奉仕隊は大別して長期及短期の二種とし、長期は概ね播種期より六ケ月間勤勞をなすものにして其編成は、日本農村青年を主流とし、主として食糧及飼料の生産竝開拓諸建設に勤勞奉仕せしむるの外、必要に應じ國境建設にも勤勞奉仕せしむるものである。

又短期は夏期概ね一ケ月乃至一ケ月半勤勞をなすものにして、日滿兩國の青年、就中特技を修むるものを主流とし、主として國境建設、軍事、醫療、獸醫、鑛工、土木農事指導、畜産指導等の技術的特務作業に勤勞奉仕するものである。

尙右の外特殊作業に付せる青年團員の參加をも考慮されてある。

隊の編成は長期勤勞奉仕隊にあつては、特設作業農場奉仕のものは道府縣單位、既存開拓地奉仕のものは原則として當該開拓團出身道府縣のものを充當し得るやう編成を考慮され、開拓地以外の建設作業に勤勞奉仕するものは、やはり道府縣單位に適當員數を以て編成される。

又短期勤勞奉仕隊は奉仕隊の作業種類に應じ、國境建設、軍事、敎育、農事、醫療獸醫、採鑛、測量、建築、家事（女子）等の特務隊を編成することになつてゐる。そして之が運營機關としては、

（1）日本側は、官民各機關（在日滿洲側各機關を含む）の協力一致に依る滿洲建設勤勞奉仕隊本部を置き

（2）滿洲側は、關係官民各機關（在滿日本側各機關を含む）の協力一致による滿洲建設勤勞奉仕隊中央實踐本部が置いてある。

【人員】 昭和十四年に於ては約六千二百名を約一ケ月に亘り日本より派遣され、尙滿洲側よりの參加も一千餘名に及んだ。昭和十五年に於ける勤勞奉仕隊の派遣實績は左の通りであり、尙昭和十六年度に於ては五萬人を目標に滿洲開拓挺身隊組織の計畫もあり之が成果は注目すべきものがある。

滿洲建設勤勞奉仕隊實績表

	種別	期間	人員
內地側	特設農場班（前期）	五、六、七月	一、六〇〇
	同（後期）	八、九、一〇月	一、六二〇
	一般開拓國境建設班	六、七、八月	三、〇〇〇
	右兩班幹部		五六〇
	學生班	七、八月	一、五〇〇
	女子班	七、八月	一〇〇
	敎學奉仕隊	八月	六〇〇
	開拓應援作業班	六、七、八月	三、〇〇〇
朝鮮側	青年隊	七月	二五〇
	學生隊	七、八月	五〇
現地側（國境建設班其他）		七、八月	三、〇〇〇
合計			一五、二六〇

開拓地の視察

どんな視察旅行でも先づ出發に先立つて周到な準備と計畫が必要であるが、殊に開拓地の視察は開拓事業そのものが重要なる國策であり、開拓農民、青年義勇隊は、東西新秩序建設の第一線を守る鍬の戰士として自覺と信念に燃へて生活して居るのであるから、一般的な旅行や觀光地視察等の場合と違つた特別の心構へと完全な準備と計畫が必要である。開拓地の視察はその目的に依つて場所、期間、要點などを異にするから、全くの無準備では種々の困難や障害があり、殊に現地の人々を始め、關係者に大きな迷惑を及ぼす。また開拓地は北滿を中心に全滿に分布して居り各々經營型態にも特徴を持つて居るから杜撰な視察プランでは有意義な視察も順調に行かない處がある。視察の目的を充分に果す爲には、どうしても參考資料、其の他に依つて十二分に開拓地の狀況を研究して遺漏ない準備と計畫を立案しなければならない、以下內地からの視察者を對象に現地視察に必要な各事項を說明する。

視察の手續

視察地と人員が決定したならば事前に鮮滿支案内所（滿鐵經營─東京、小樽、大阪門司、下關、新瀉、敦賀、長崎、名古屋）に連絡すると便宜を與へて與れる。連絡には團體、個人の別、府縣、本省、其他主催團體名、視察地、視察日程（特別地帶立入の際は其證明書を添附）を視察者直接か又は主催團體を經由して申込まれたい。この事前連絡は一ヶ月以前にされると現地との打合せも順調に行はれ、視察する方も又される方も、雙方共に手違ひもなく非常に便宜である。以上のやうな連絡を取らず勝手に開拓地を訪れる人達があるが、之は開拓團、訓練所に非常に迷惑を及ぼすから、是非注意して欲しい。

視察の時期

開拓地は一年中を通じて多忙であるから暇な時期がないと云つても過言ではない。强ひて云ふと、日本內地同様農繁期があり、四月から十月中旬迄最も忙がしく猫の手も借りたい時期である。視察者は各々の目的に依つて適當な時期に行くより他に致方ない。北滿を中心とした季節の特徴を一瞥すると大體次のやうなものである。

【春】四月中旬より同月下旬までは永い六個月の冬から解放されて愈々整地、施肥播種が始められる時である。鈴蘭、菖蒲、姫百合などが一面に咲き亂れ、內地の花の種類よりも四百種も多いと云はれてゐる色とり〲の美しい花が咲き續くのも此の頃である。六月にもなると新緑に包まれ、開拓地は除草期に入る。

【夏】七月下旬から八月下旬までは所謂雨季であるが、氣候が大陸的で內地の梅雨期のやうな事はなく、比較的雨が多いと云ふ程度で、朝夕は涼しく極めて凌ぎよい。作付狀況を觀る爲には一番この時期が良い北滿、東滿地方は日照時間が長く午後九時、十時頃迄明るく、最高溫度は東京と大差はない。

【秋】九月に入るとすつかり涼しくなり、來る日も來る日も上天氣が續き、視察には最もよい季節である、視察の時期としては適當であるが現地の人達の仕事の邪魔にならぬ様に注意しなければならない。

【冬】十一月から翌年の三月頃迄は所謂酷寒期であるが、三寒四溫といつて三日寒さが續くと四日暖い日が續くといふやうに循環氣候で、自然に緩和されてゐる。最低氣溫は所によつては零下四十度と云ふのも有るが、日中は二十度乃至二十五度程度で、防寒具（防寒帽、防寒靴、厚手のオーバー、毛絲の手袋、靴下等）防寒施設が完備して居ると、旅行は困難でなく、心配も要らない。十一月、十二月は未だ大して、寒くなく收獲物の脫穀、調整、輸送とその出廻りが盛んで、森林伐採なども行はれ、交通も活潑になる、多は一番活氣のある時期で、滿洲の多の生活を見るのは開拓地生活の基礎を視察する事であつて開拓民の眞相と、その勞苦を知るには是非この季節を求められたい。

服裝と携帶品

【服裝】服裝は簡易輕裝がよく國防服、青年團服は最も適當である。婦人も洋服の方がいゝと思ふ。ニッカーの様な都會的臭味のある服裝は、困苦の中に建設に邁進してゐる團の人々の緊張した心に緩みを與へる虞があらう。瑣細な事ではあるが注意をして、質實で簡易な服を着けられたい。

【携帶品】開拓地視察は徒歩連絡個所もあるから、トランク、スーツケースよりもリユックサックが便利である。靴は編上靴、軍隊靴が良く、ゲートルも必要である。十月から四月迄は多服で五月、六月、九月、は合着、酷暑期でも朝夕は相當に冷えるから腹卷やセーター類、シャツの着更え二、三枚位は用意し、洋傘よりもレインコートの方が携帶に便利で利用も大きいやうである。極寒期には防寒帽、厚手の外套、毛糸の手袋、靴下二枚程度で大丈夫と思ふ。その他四季を通じて、食當り、水當り防止藥として「クレオソート錠」を用意し、地圖、時間表、便覽等の參考資料、も持參されたら良い。各自の嗜好によつて異なるが、水筒、マスク、菓子類、茶、罐詰、ノート、封筒便箋等は部落宿泊中に必要であり不要の時は小さな慰問品としても役立つ。視察の目的に從つて夫々適當な慰問品（特に子供の喜ぶもの）の用意をして成るべく持參したが開拓地の人々も大變喜ぶし、又禮儀ではないだらうか。携帶品中證明を必要とするものは寫眞機、望遠鏡で是は往路次の個所で證明を受けなければならない。

大連經由─神戶、又は門司稅關

朝鮮經由─安東驛內新義州稅關出張所

日本海經由─圖們又は上三峰稅關出張所

開拓地視察には銃器（ピストル、獵銃）の必要はないから携行せぬ様注意されたい

宿屋と乘物

開拓地に於ける宿泊連絡は滿拓公社に依頼し、都會地に於ける宿、乘物はジャパンツーリスト・ビユーローと打合せをして置いたら宜しい。此の場合、開拓地にしても、又都會地の宿屋にしても止むを得ない事情の爲豫定の變更を生じた時は、直に關係方面に連絡しなければいけない。電報等も內地と違ひ一日や二日前では間に合はぬ場合も多いから、決定次第早速連絡しなければならない。その理由を開拓地の場合で云ふと、公社から視察團或は視察者の來團通知を受取つた團本部では、早速係（團に宿泊設備の無い處は、各部落長又は村長）に其旨通報し係は其の用意の爲に自分の作業を中止して宿舍の割當や食事の準備をして歩くし、部落長や村長の指名を受けた各團では不便の中から、色々と頭を使つて夜具や食事の用意をして待つて居る。又都會地の宿屋では多くの客を斷つて用意してゐるのであるから、勝手に豫定を變更され、その上何も連絡ないとなると、精神的にも物質的にもその影響は可なり大きいものと考へねばならない。從來視察團或は視察者の中に、雨が降つたから、道が悪いから等の理由で、簡單に豫定を變更したり、手近の所へ勝手に宿泊ずるのが多かつたやうだが、心しなければならない點である。乘物依頼も同じて、驛から開拓地への交通は主にトラックによつてゐるが原則として手配を依頼してあつても、之れにのみ頼つてはならない。驛へ貨物運搬の時ならばよいがそうでない場合、特に視察團の爲に用意するのは非常な犧牲であると考へねばならない。然し聞くところに依ると、乘物依頼をしてある場合、乘れるのが當然で、乘れない場合は不誠意だと考へてゐる人が多く、淳朴な團の人達が遠慮してゐるのをいい事にして便乘料を支拂はない視察者が多いと云ふ事である。勿論相手は交通會社ではないのだから、一人幾らと云つて支拂ふ必要はないが、相當の謝禮は團の會計か、或は世話役を通じてガソリン實費として支拂ふのが當然の事と思ふ。開拓團にとつては最も精鋭である武器がトラックである事を忘れないで欲しいと思ふ。

注　意　事　項

【撮影模寫禁止地帶】左記の場所は要塞地帶であるから要塞司令官の許可がなくては寫眞の撮影、又は模寫（スケッチ、地形を想像せしめ得る文章の記述）等は絕對に出來ない。

下關、門司附近の下關要塞地帶

釜山附近の鎭海要塞地帶

鴨綠江鐵橋附近一帶

大連及其附近、旅順及其附近

淸津、雄基、羅津の一帶

圖們鐵橋附近

尙新瀉、敦賀、神戸港は要塞地帶ではないが、軍機保護法に依り被寫體より高さ一〇〇米以上の高所から水陸の形狀又は施設物の狀況を撮影する事を禁止されて居る。

滿洲國内の特別地域は滿洲國勅令軍機保護法に基き治安部令に依る特別地域は左記の通りである。

間島省—琿春縣
牡丹江省—東寧、綏陽、穆稜縣
三江省—撫遠、同江、綏濱、蘿北、富錦、鶴立縣
（梧桐河以南を除く）
北安省—北安縣（訥謨爾河以南を除く）
黑河省全部
興安北省全部
東安省全部
興安東省—布特哈旗火燎溝附近、喜札嘎爾旗綽爾河上流地方

【滿洲國特殊地帶と旅行手續】 滿洲國の前記特殊地帶を視察する場合は特殊地帶旅行許可書を必要とする。之が爲豫め内地居住地所轄警察署で身分證明書（官廳員たる場合は所屬長官の證明書）一通を貰ひ、ブローニー半截版の寫眞二葉（六ヶ月以內撮影のもの）を添附し（若し身分證明書の無い時は滿洲在住者の身元引受證を以て之に代ふ）最初の入滿地、例へば圖們、安東、大連等の警察署か、又は奉天、新京、哈爾濱、牡丹江、林口、佳木斯、等特殊地帶地域外の警察署に提出して、旅行許可書の交付を受ける。團體の時は引率者が代表して前記の書類の外に團員名簿添附の上許可を受ければ宜しい。

【通貨及び携帶通貨申告書】 滿洲國内には日本銀行貨幣、朝鮮銀行貨幣、及び滿洲國幣の三種が流通し居り、何れも等價に使用出來るから、視察者は入國に際して兩替する必要はない。たゞ歸路には滿洲國幣は、大連第一ホーム國幣無料交換所奉天、新京、圖們、上三峰、安東驛構内竝に大連埠頭、釜山棧橋朝鮮銀行出張所で等價無料兩替してくれるから利用すればよく、朝鮮銀行貨幣は大連埠頭、釜山棧橋の同銀行出張所（釜山發後連絡船内にもあり）其の他淸津では日銀支店で兩替してくれる。爲替管理法により五百圓以上の通貨を内地より携帶する場合は大藏大臣の許可が必要である。又百圓紙幣の携帶も同樣に禁止せられて居るから、豫め取替て置かなければならない。滿洲から内地へ歸る場合も二百圓以上の通貨を携帶する時は許可を要する。日本の切手は滿洲では使用出來ないと云ふことも注意して欲しい。

視察地の選定

開拓團も總數二九三に上り、集團一五七集合一一三であり、集合開拓團は更に一般、林業、煙草、畜産（酪農）、漁業、鐵道自警村等に分れて居り、青年義勇隊も基本訓練所四、特別訓練所三、甲種訓練所一三、乙種訓練所五、滿鐵訓練所乙種二〇、丙種訓練所一一合計四九に及んで居つて、此等全部を視察するのが理想的であるが、實際問題として到底不可能な事である。それで視察者は自己の目的、期間、地域の關係を考慮し、現地の事情を充分に研究して、適當に視察地を選定しなければいけない。從來の視察者は第一次彌榮、第二次千振の二個所が大部分を占めて居つたが、此の二個所をのみ視察して、全開拓地、開拓民を推測することは、大きな誤りであつて、元來開拓團は地域と歴史を異にして居るばかりでなく、經營型態の特色も相當にある。それで事情の許す限り、集團、集合、訓練所の三種を成る可く一省の地域内で新舊都合よく視察する事が理想的であり、滿洲開拓の概念を摑む要諦である。

日程の編成

日程の編成に當つては各自、各視察團の事情、視察目的によつて短いのは十數日長いのは數箇月と云つたやうに各種各樣であるのは止むを得ないが、一番大切な事は視察地を慾張らぬことである。視察箇所が多過ぎて、一箇所を數時間、又は夜着いて早朝出發するやうでは本當の目的を達することは出來ない、即ち地形や家屋の外觀を見たゞけで開拓地や開拓民を語り、更に開拓政策の成功、不成功を論ずるのは實に危險な事である。一開拓團は何れも一萬町歩前後から、四、五萬町歩にも及ぶ廣大な土地を占め、東西二里、南北二里といつた地域であり、戸數も二百、三百で、第六次以前の開拓團になると、戸數が更に、五乃至七箇所に分散して遠い部落は本部から三里以上も離れてゐるのもある。是等を二時間や三時間で視察する事は、到底不可能な事である。ゆつくりと團長、幹部、團員達から話を聞いて漸く、その概貌が判るのであつて、現地の正しい認識を得ようとすれば團員達と寢食を倶にするだけの日程が必要である。團の人々にとつては視察者の來團は迷惑ではあるが、一面懷かしい鄕土或は内地のニユース、變つた話等を聞く事を非常に樂しみにしてゐる。從つて視察團の心構へ一つでは慰問團の役割を果すことにもなり、さうなると、視察の意義も決して小さいものではないと思ふ。以上の點からしても開拓地視察には、一團に少くも二、三日の日程が必要であらう。

視察態度

【開拓團の場合】 鄕に入つたら鄕に從への諺通り開拓地に到着したなら、肩書はすつかり脫ぎ捨て、裸の人間に還らなければいけない。徒らに名刺の肩書を振り廻すと開拓民には迷惑なだけで、頭を低くし、手足をマメに働かして氣易く彼等の中に飛込んで行かうとする心構へこそ最も大切なことである。

以上の樣な心構へで附屬事業其他の現況を精細に視察すると共に團員と膝を交へて、その手柄話や苦心談や不滿を聞き、更に彼等の希望の中から本當の開拓地と開拓民の姿を見出すべきであらう。團員の話は素朴で純粹で僞りはない、一面的であるから、幹部の意見やその他の狀況を綜合して嚴正に考察する事が大切である。内地の生々しい事實や無責任な好景氣の話は、一つとして開拓民を慰め勵ます性質のものではないから、結果を充分に想像して、不用意に話すことは、避けて欲しいと思ふ。

【訓練所の場合】 訓練所は學校教育と軍隊教育とを混淆して總てを一定の嚴格な規律の下に訓練してゐるから、外來者は、これ等の訓練生に惡い影響を與へる樣な言動は愼まなければならない。だらしのない服裝、規律のない行動、勝手氣儘な出入等は特に注意しなければならない。少くとも軍隊視察と同樣な心構へが必要である。何分義勇隊運動が始まつてから漸く二年をけみしたばかりであり、訓練所によつては、建築、施設が漸く緒に就いたばかりの所もある。設備にしても、訓練方法にしても一日々々と改良、工夫が加へられてゐる。從つてこう云ふ事柄を考慮に入れて視察しなければ、その批評も歪められて仕舞ふ。訓練生に接する場合は、肉親の情をもつて眞心から激勵してやつて欲しいと思ふ。

視察コース選定の參考

＝線別開拓地區＝

第一ルート

圖佳線沿線及鶴立鐵道沿線（羅津より圖們を經て佳木斯興山鎭に至る）
虎林線沿線（圖佳線林口驛より虎頭に至る）

青年義勇隊訓練所

1 寧安乙種小訓練所、交通關係（圖佳線東京城驛より十三粁トラック、バス利用）視察所要日數二日
2 勃利大訓練所、交通關係（圖佳線勃利驛より四十粁、バス一日二往復）、視察所要日數二日
3 樺川縣大林甲種小訓練所、交通關係（圖佳線千振驛より十四粁、湖南營迄バス、殘り十粁徒歩、視察所要日數二日）

集團開拓團

1 第一次彌榮開拓團、交通關係（圖佳線彌榮驛より〇、五粁）視察所要日數一日
2 第二次千振開拓團、交通關係（圖佳線千振驛より五粁バス有）視察所要日數一日
3 第四次哈達河開拓團、交通關係（虎林線東海驛より二粁）視察所要日數一日
4 第五次永安屯開拓團、交通關係（虎林線永安驛より五粁）視察所要日數一日
5 第五次朝陽屯開拓團、交通關係（虎林線庄內驛より〇、六粁）視察所要日數一日
6 第六次黑咀子開拓團、交通關係（虎林線虎林驛より六粁徒歩）視察所要日數二日
7 第六次北五道崗開拓團、交通關係（虎林線斐德驛より十六粁）視察所要日數二日
8 第六次南五道崗開拓團、交通關係（虎林線東安驛より二十八粁トラック有）視察所要日數二日
9 第六次龍爪開拓團、交通關係（圖佳線龍爪驛より〇、五粁）視察所要日數一日
10 第六次靜岡開拓團、交通關係（鶴岡線鶴立崗驛より〇、六粁）視察所要日數一日
11 第六次東海村開拓團、交通關係（鶴岡線鶴立崗驛より四粁）視察所要日數一日
12 第六次茨城開拓團、交通關係（鶴岡線鶴立崗驛より十粁）視察所要日數二日
13 第七次清和開拓團、交通關係（虎林線清和驛より一粁）視察所要日數一日
14 第八次讀書村開拓團、交通關係（圖佳線閻家驛より二十粁）視察所要日數二日
15 第八次樺林開拓團、交通關係（圖佳線蘭崗驛より十二粁）視察所要日數二日

集合開拓團

1 鏡泊學園開拓組合、交通關係（圖佳線東京城驛より西四十八粁）視察所要日數三日

第二ルート —牡丹江を經て—

濱綏線沿線（綏芬河より哈爾濱迄）
拉濱線沿線（哈爾濱より拉法迄）
京圖線沿線（圖們より新京迄）

青年義勇隊訓練所

1 山市甲種訓練所、交通關係（濱綏線山市驛より十二粁）視察所要日數一泊
2 一面坡特別訓練所、交通關係（一面坡驛より十三粁）視察所要日數一泊
3 哈爾濱特別訓練所、交通關係（哈爾濱驛より十二粁バス有）視察所要日數一日
4 大石頭乙種訓練所、交通關係（京圖線大石頭驛より三粁）視察所要日數一日

集團開拓團

1 第七次三股流開拓團、交通關係（濱綏線烏吉密驛より二十粁）視察所要日數一泊
2 第七次六道河開拓團、交通關係（濱綏線一面坡驛より二十八粁）視察所要日數一泊
3 第七次四家房開拓團、交通關係（拉濱線四家房驛より四粁）視察所要日數一泊

集合開拓團

1 四順堂福井開拓組合、交通關係（濱綏線青雲驛より東三粁）視察所要日數一日
2 水曲柳開拓組合、交通關係（水曲柳驛より三粁）視察所要日數一日
3 大陸郡上開拓組合、交通關係（拉濱線小城驛より東二粁）視察所要日數一日

第三ルート

京濱線、濱北線、北黑線沿線（新京より哈爾濱を經て黑河に至る）
齊北線、寧墨線、平齊線、京白線、濱洲線沿線（北安より寧年八洲を經、薩爾圖及鎭東を經、白城子より新京に至る）

青年義勇隊訓練所

1 鐵驪大訓練所、交通關係（綏神線鐵山包驛より四粁）視察所要日數一泊
2 孫吳乙種小訓練所、交通關係（北黑線孫吳驛より二十粁）視察日數一泊
3 大額乙種小訓練所、交通關係（北黑線黑河驛より二十粁）視察日數一泊
4 嫩江大訓練所、交通關係（寧墨線八洲驛より四粁）視察日數一泊
5 薩爾圖甲種小訓練所、交通關係（濱洲線薩爾圖驛より六粁）視察日數一日
6 大崗甲種小訓練所、交通關係（平齊線鎭東驛より二十八粁）視察日數一泊

集團開拓團

1 第七次安拜開拓團、交通關係（綏神線田昇驛より六粁）視察日數一泊
2 第七次拉林開拓團、交通關係（綏神線高老驛より十三粁）視察日數一泊
3 第八次靑葉開拓團、交通關係（綏神線王陽驛より三粁）視察日數一日
4 第三次瑞穗開拓團、交通關係（濱北線克音河驛より四十粁）視察日數二泊
5 第六次黑馬劉開拓團、交通關係（濱北線克音河驛より三十粁）視察日數一泊
6 第七次東黑馬劉開拓團、交通關係（濱北線海倫驛より五十四粁）視察日數二泊
7 第六次老街基開拓團、交通關係（濱北線通化驛より十四粁）視察日數一泊
8 第七次北學田開拓團、交通關係（寧墨線老萊驛より十五粁）視察日數一泊
9 第八次上學田開拓團、交通關係（寧墨線老萊驛より十粁）視察日數一泊
10 第八次下學田開拓團、交通關係（寧墨線訥河驛より十五粁）視察日數一泊

集合開拓團

1 コロンバイル開拓組合、交通關係（濱洲線免渡間驛前）視察日數一日

第四ルート

松花江沿線（船便にて哈爾濱より佳木斯に至る）

集團開拓團

1 第八次老石房開拓團、交通關係（松花江木蘭港より十五粁）視察所要日數一泊
2 第八次王家屯開拓團、交通關係（松花江木蘭港より二十八粁）視察所要日數二泊
3 第八次舒蘭鎭開拓團、交通關係（松花江舒蘭鎭港より〇、五粁）視察所要日數一泊
4 第八次馬大屯開拓團、交通關係（松花江依蘭港より十粁）視察所要日數二泊
5 第八次大羅勒密開拓團、交通關係（松花江大羅勒密港より十粁）視察所要日數二泊

第五ルート

連京線沿線（大連より新京）
奉吉線沿線（奉天より吉林）
安奉線沿線（奉天より安東）

集團開拓團

1 第七次煙筒山開拓團、交通關係（奉吉線煙筒山驛より十六粁）視察所要日數一泊
2 第八次興隆川開拓團、交通關係（奉吉線取柴川驛より十一粁）視察所要日數一泊
3 第七次八道河子開拓團、交通關係（奉吉線盤石驛より百三粁、取柴川驛より三十二粁）視察日數二泊

集合開拓團

1 高千穗開拓組合（煙草）、交通關係（朝陽鎭驛より六粁）視察日數一泊

（註）各ルート共に滿鐵經營の鐵道自警村及滿鐵訓練所は含まず。

開拓地簡易宿泊所

所在地	宿泊所名	宿泊料	備考
佳木斯市大禪寺内	佳木斯宿泊所	一・〇〇	
彌榮開拓團内（彌榮現地訓練所内）	彌榮宿泊所	七五	開拓團經營
千振開拓團内（千振莊）	千振宿泊所	一・〇〇	〃
哈達河開拓團内	哈達河宿泊所	・五〇	〃
東安驛前（晴明莊）	東安宿泊所	一・五〇	開拓團協同經營
牡丹江金鈴街一七西本願寺内	西本願寺宿泊所	一・〇〇	
牡丹江市平安街禪宗寺内	禪宗寺宿泊所	一・〇〇	
哈爾濱市大谷會館内	哈爾濱宿泊所	一・〇〇	
瑞穗開拓團内	瑞穗宿泊所	一・〇〇	開拓團經營
龍爪開拓團内	龍爪宿泊所	一・〇〇	〃
新京市通化路借拔拓内	新京宿泊所	―	滿拓經營
湯原靜岡村開拓團内	鶴立鎭宿泊所	一・〇〇	開拓團經營
吉林省舒蘭縣第七次四家房開拓團内	四家房宿泊所	一・〇〇	〃
濱江省葦河縣第七次周家營開拓團内	周家營宿泊所	一・〇〇	〃
北安省通北縣通北驛前（老基街開拓團辦事所）	通化宿泊所	一・〇〇	〃
牡丹江七星街五ノ二三牡丹江開拓館内	牡丹江宿泊所	一・〇〇	滿拓經營
吉林省蛟河縣拉法村開拓組合（拉哈驛前）	拉哈宿泊所	一・〇〇	開拓團經營
湯原鶴立縣第六次熊本開拓團	熊本宿泊所	一・〇〇	開拓團經營

（本宿泊料は物價の變動に依り幾分變更せられて、現在最高二圓五十錢（二食付）より最低一圓程度なり）

滿拓經營開拓館

所在地	名稱	宿泊料	備考
羅津府富士見町三丁目四〇	羅津開拓館	二・〇〇	公社直營
牡丹江市七星街五番地二三	牡丹江開拓館	一・五〇	〃
東安驛前	晴明莊	二・〇〇	開拓團經營
佳木斯市	佳木斯開拓館	―	〃
哈爾濱開廠街	哈爾濱開拓館	二・〇〇	公社直營
慶城縣城	慶城開拓館	―	開拓團經營
綏稜縣城	綏稜開拓館	―	縣營

（宿泊科多少の變動あり）

視察日程の實例

A案

要領　視察日數　二十一日。内、開拓地日數十七日

視察個所
- 集團開拓團　三
- 集合開拓團　一
- 義勇隊訓練所　二
- 計　六ヶ所

（日）	（出發）	（到着）	（視察地）	（宿泊）	（備考）
第一日	東京 后三・〇〇			車中泊	急行
第二日		下關 后九・二五			（關釜連絡船乘換）
〃	下關 后一〇・三〇			船中泊	
第三日		釜山 前六・〇〇			
〃	釜山 前八・〇〇			車中泊	安東にて税關檢査急行のぞみ
第四日		新京 一三・五〇	新京市開拓關係機關訪問	新京泊	
第五日			〃	新京泊	
第六日	新京 前八・〇五				
〃		哈爾濱 一三・二四	哈爾濱市見物	哈爾濱泊	
第七日			哈爾濱特別訓練所視察	哈爾濱訓練所泊	
第八日	哈爾濱 一一・一五				
〃		四家房 一三・五九	第七次大日向村	大日向泊	
第九日	四家房 一七・四〇				
〃		拉法 一九・三五	集合拉法開拓組合	拉法泊	
第十日	拉法 一五・四〇				
〃		哈爾濱 二三・一一		ハルピン泊	
第十一日	哈爾濱 一三・五五				
〃		牡丹江 〇・一三		牡丹江市泊	
第十二日	牡丹江 八・四〇				
〃		彌榮 一七・二四	彌榮村	彌榮村泊	
第十三日	彌榮村 一七・二四		大林子小訓練所		
〃		佳木斯 一八・五〇		佳木斯泊	
第十四日	佳木斯 九・三五				佳木斯遼江口船、遼江口、鶴立間鐵道
〃		鶴立崗 一一・一四	第六次靜岡、茨城村	靜岡村泊	
第十五日				滯在	
第十六日	鶴立崗 一〇・〇七				
〃		佳木斯 一一・四五			
〃	佳木斯 二〇・三五				
〃		林口 四・〇二			機密地帶手續のこと
〃	林口 七・五五				
〃		永安 三・二八	第五次永安屯	永安屯泊	
第十七日	永安 〇・四八			車中泊	

(日)	(月日)	(發着驛)	(時間)	(發着驛)	(時間)	(宿泊地)	(備考)
第十八日				牡丹江	九・二九		
〃		牡丹江	一〇・三〇				
〃				清津	一七・五七	清津泊	圖們にて税關檢査通貨兩替
第十九日		清津	一六・〇〇			船中泊	
第二十日						船中泊	
第二十一日				新潟前	七・〇〇		(急行)
〃		新潟前	九・三〇				
				上野后	六・〇三		

右經費概算

	圓錢
汽車汽船賃（含通行税）	一〇三・六八
急行券	四・一五
寢臺料（中段四日）	五・六〇
開拓地宿泊料八日（一日三・〇〇）	二四・〇〇
都市泊料七日（一日五・〇〇）	三五・〇〇
晝食代（一日一圓）二一回	二一・〇〇
雜費	二〇・〇〇
總計	二一三・四四

右は個人旅行の場合を示したものであるが、東亞觀光券（汽車二割引、船一割引）を利用すれば、一人當約一八〇圓で濟むと思はれる。

B案

(日)	(月日)	(發着驛)	(時間)	(視察地)	(宿泊地)	(備考)
第一日		下關發	后一〇・三〇			(釜山經由)
第二日		新京着	三・一六		新京	
第四日		新京發	二三・五〇			滿拓及關係機關訪問
第五日		哈爾濱着	七・五〇	哈爾濱訓練所	車中泊	
〃	〃	哈爾濱發	二三・〇〇			
第六日		綏化着	二・四七		車中泊	(乘換)
〃	〃	綏化發	六・一〇			
〃	〃	鐵山包着	一一・三三	鐵驪大訓練所	訓練所泊	
第七日		(滯在)		鐵驪大訓練所	訓練所泊	
第八日		(〃)		北斗小訓練所	訓練所泊	
第九日		鐵山包發	一一・四五			
〃	〃	綏化着	一五・三三			
〃	〃	〃發	一六・一三			
〃	〃	哈爾濱着	二〇・〇四		哈爾濱泊	
第十日		哈爾濱發	八・一〇			
〃	〃	牡丹江着	二〇・〇三		牡丹江泊	
第十一日		牡丹江發	八・四〇			
〃	〃	千振着	一六・三六	第三次千振街	千振泊	
第十二日		(滯在)			同上	
第十三日		千振發	一〇・〇〇			
〃	〃	追分着	一一・四三	追分自警村		
〃	〃	追分發	三・一六		車中泊	
第十四日		龍爪着	四・二四	第六次龍爪開拓團		
〃	〃	龍爪發	一八・四一		車中泊	
第十五日		圖們着	五・四五			税關檢査通貨兩替
〃	〃	圖們發	六・一五			
〃	〃	清津着	一一・二五			
〃	〃	清津發	一六・〇〇（后四・〇〇）		船中泊	
第十六日						(航海中)
第十七日		新潟着	前七・〇〇			

右經費概算

汽車賃・船賃三等	八二・六五
（東亞觀光券を利用せば	六七・四三）
船チップ	・四八
自動車（トラック）代	二・六〇
宿泊費	一一・九一
食費（晝食辨當代）	三一・五三
藥品費	・四〇
寫眞費	一・〇三
雜費（電報・旗其他）	・四四
合計	一三〇・四〇

B案は昨秋の義勇隊父兄視察團で、主として訓練所を視察したものであるが、十七日間に訓練所四、開拓團三計七ヶ所を視察し、一人當一〇〇圓（汽車賃改正前）內外で濟ませたことは、視察能率上經費節約上、合理的な方法と云ひ得る。

日程を作るには、本書の注意事項に基き、自分でジヤパンツーリストビユーロー發行「滿洲支那汽車時間表」（三十錢）を片手に編成するのが一番良い。この册子は單に日程を作るのみでなく現地旅行中にも是非携行する必要がある。

集團開拓團現況一覽表（自第一次開拓團／至第九次開拓團）（康德七年一月調）

入植年次	入植時期	團又ハ村名	入植地 省	入植地 縣	團長名（括弧內ハ街村長組合長團長代理）	內地出身地及府縣	交通關係 最寄驛又は港		交通關係 粁數	入植計畫戸數	戸口數 現在戸口	戸口數 人口
第一次	大同元年十月（昭和七年）	彌榮	三江	樺川	山崎芳雄（村）（組）工藤儀三郎	東北（六）關東（三）中部（一）	圖佳線	彌榮	〇・五	五〇〇	二九四	一二六七
第二次	大同二年五月（昭和八年）	千振	〃	〃	（街）（組）宗光彥	東北（六）關東（五）中部（六）九州（三）	〃	千振	五	五〇〇	四一三	一三七八
第三次	康德元年九月（昭和九年）	瑞穗	北安	綏稜	（村）樋口孝一	東北（三）中部（四）中國（四）四國（一）	濱北線	克音河	三五	三〇〇	二〇三	七八三
第四次	康德二年六月（昭和十年）	城子河	東安	密山	（代）佐藤修（村）（組）檀上忠彥	全國（三四）	虎林線	雞西	—	三〇〇	二五一	六九六
〃	〃	哈達河	〃	〃	具沼洋二	全國（二五）	〃	東海	—	二〇〇	一六六	五三六
第五次	康德三年七月（昭和十一年）	永安屯	〃	〃	（村）木村直雄	東北（六）關東（二）中部（六）	〃	永安	—	三〇〇	二七七	八四三
〃	〃	朝陽屯	〃	〃	（村）矢口道愛	中國四國九州	〃	庄內	—	三〇〇	二四四	七四二
〃	〃	黑台	〃	〃	（村）（組）加藤熊次郎	近畿（五）關東（五）宮城長野	〃	黑台	—	二〇〇	一九七	六三三
〃	〃	黑台信濃	〃	〃	（村）・青木虎若	長野	〃	連珠山	—	三〇〇	三一九	九五〇
	小計									二・九〇〇	二・三六一	七・八二六
第六次	康德四年六月（昭和十二年）	黑咀子	東安	虎林	澁谷治世	北陸（三）東京	虎林線	虎林	—	三〇〇	二六一	八九四
〃	〃	東二道崗	〃	密山	內藤誠	北部九州（三）	〃	湖北	—	二〇〇	一七三	五三一
〃	〃	西二道崗	〃	〃	田中常雄	宮崎鹿兒島佐賀東京		〃	—	二〇〇	一六六	四一四
〃	〃	六人班	〃	〃	藤木俊幹	廣島	〃	楊崗	—	二〇〇	一五五	四五〇
〃	〃	北五道崗	〃	〃	熊谷伊三郎	山形	〃	麥德	—	三〇〇	二七七	六九八
〃	〃	南五道崗	〃	〃	平澤千秋	長野	〃	密山	—	三〇〇	二八三	八五七
〃	〃	龍爪	〃	林口	和田章藏	近畿（五）中國（四）山形	圖佳線	龍爪	〇・五	三〇〇	二七七	八五九
〃	康德四年七月（昭和十二年）	熊本	三江	鶴立	中村秀市	熊本	松花江	蓮江口港	一四	三〇〇	二六三	八二七
〃	〃	宮城	〃	〃	多田理三郎	宮城		〃	二	二〇〇	一九四	七三〇
〃	〃	福島	〃	〃	佐藤民四郎	福島		〃	五	二〇〇	一七三	八〇一
〃	〃	茨城	〃	〃	鈴木米司	茨城	鶴崗鐵道	鶴立崗	六	二〇〇	一八三	四一七
〃	〃	靜岡	〃	〃	得能數三	靜岡		〃	〇・五	二〇〇	一九五	四〇五
〃	〃	東北	〃	〃	佐藤昇	秋田青森岩手		〃	五	三〇〇	二八八	七七三
〃	〃	東海	〃	〃	廣部永三郎	關東（四）中部（三）三重		〃	五	三〇〇	二五三	六九一
〃	康德四年六月（昭和十二年）	黑馬劉	北安	綏稜	平田秀彥	四國	濱北線	克音河	三五	三〇〇	一四七	七四一
〃	〃	海倫	〃	海倫	石田伊十郎	群馬		〃	三	三〇〇	一三九	七四五
〃	〃	五福堂	〃	通北	堀忠雄	新潟	〃	通北	一四	二〇〇	二〇四	五三四
〃	〃	老街基	〃	〃	出井菊太郎	埼玉		〃	一六	二〇〇	一六七	三九三
	小計									四・五〇〇	三・八一六	一一・一五四
第七次	康德五年二月（昭和十三年）	黑石屯	吉林	額穆	高野善一	近畿（六）	京圖線	秋梨溝	一六	二〇〇	一三〇	二七二
〃	〃	四家房	〃	舒蘭	堀川清躬	長野（大日向村）	拉濱線	四家房	四	二〇〇	一六三	六三〇
〃	〃	八道河子	〃	樺甸	中込周藏	關東（四）	奉吉線	磐石	一〇八	三〇〇	二六五	四九七
〃	〃	煙筒山	〃	磐石	横井清	群馬	〃	煙筒山	一六	二〇〇	二〇一	三二〇
〃	〃	元寶鎭	濱江	延壽	後根春一	大分	濱綏線	珠河	三三	二〇〇	一四三	二三六
〃	〃	中和鎭	〃	〃	松村朝信	長野	濱綏線	亞布洛尼	森林鐵利用	三〇〇	二四〇	五六八
〃	〃	周家營	〃	葦河	齊藤瀨藏	埼玉	〃	葦河	四	二〇〇	一二七	三三七
〃	〃	朝陽川	〃	五常	豐田宇一	中部（七）	拉濱線	山河屯	一五	三〇〇	二六二	四五八
〃	〃	大平川	〃	〃	佐藤伊衞門	青森、岩手	〃	五常	五四	二〇〇	一一七	二七二
〃	〃	小山子	〃	〃	上野源次	九州（五）		〃	四三	二〇〇	一四二	三〇二
〃	〃	三個頂	〃	〃	上地普次郎	廣島	〃	山河屯	九	二〇〇	九七	二一六
〃	〃	三股流	〃	珠河	佐藤繁作	山形（庄內鄉）	濱綏線	烏吉密	二〇	二〇〇	二一六	四八四
〃	〃	六道河	〃	〃	前田武次	山形	〃	一面坡	二八	三〇〇	二六六	九九〇
〃	〃	大青川	〃	〃	廣瀨亥之助	茨城		〃	一四	二〇〇	一二三	三三四
〃	〃	拉林	北安	慶城	高橋久藏	宮城	綏神線	高老	六	三〇〇	二五八	四九二
〃	〃	安拜	〃	鐵驪	塚原正雄	〃	〃	田昇	四	二〇〇	一七四	二九九
〃	〃	王榮廟	〃	綏稜	森崎陽一	香川	濱北線	克音河	五五	三〇〇	一四〇	一九八
〃	〃	東黑馬劉	〃	〃	三浦定夫	四國（三）	〃	海倫	五五	二〇〇	一二五	二四四
〃	〃	北學田	龍江	訥河	小森忠左エ門	福島	寧墨線	老來	一二	三〇〇	一七一	三〇四
〃	〃	七虎力	三江	樺川	伊東厚坪	中國（四）	圖佳線	閻家	一五	二〇〇	二〇一	四一六
〃	〃	四合屯	〃	鶴立	井田武	熊本	鶴崗鐵道	鶴立崗	一六	二〇〇	一三九	四〇四
〃	〃	清和	東安	虎林	梅川勝衞	新潟	虎林線	清和	—	二〇〇	一九四	四五〇
	小計									五・一〇〇	三・九二四	八・六一九

第八次	康德六年二月(昭和十四年)	三江	湯原	三道溝	上谷田江吉	石川(鹿西郷)	松花江	竹廉鎭	一五	三〇〇	六二	七九
〃	〃	〃	〃	窪丹崗	清水直人	長野(千代村)		〃	一三	三〇〇	三九	九四
〃	〃	〃	〃	舒樂鎭	谷垣熊一	岡山兵庫	〃	舒樂鎭	〇・五	三〇〇	六〇	七七
〃	〃	〃	通河	大古洞	大久保葵	長野(下伊那郷)	〃	清河鎭	一〇	三〇〇	六二	一〇九
〃	〃	〃	〃	小古洞	藤森幣平	長野(蓼科郷)		〃	一三	三〇〇	五八	一〇〇
〃	〃	〃	〃	上久堅村	遠岡米男	長野(上久堅村)	〃	通河	二四	三〇〇	三五	六一
〃	〃	〃	〃	張家屯	島山元四郎	長野	〃	木蘭港	一六	三〇〇	六八	九〇
〃	〃	〃	〃	大平山	宮森正志	山形	〃	清河鎭	一三	二〇〇	五二	八〇
〃	〃	〃	樺川	柞木台	林鹿平	四國(三)	圖佳線	千振	二〇	二〇〇	五四	八八
〃	〃	〃	〃	讀書村	松原專重	長野(讀書村)	〃	閻家	一三	三〇〇	八五	二二一
〃	〃	〃	〃	中川村	堀口辰三郎	埼玉(中川村)		〃	一〇	二〇〇	四七	一七五
〃	〃	〃	〃	大八浪	倉澤大發智	長野(泰阜村)		〃	一三	三〇〇	六二	一七〇
〃	〃	〃	依蘭	馬太屯	土田嘉右エ門	山形(庄内郷)	松花江	依蘭	六	二〇〇	七四	一八六
〃	〃	〃	〃	北靠山屯	高橋清十郎	山形(東村山郷)		〃	二〇	三〇〇	六七	一〇七
〃	〃	〃	方正	大羅勒密	寺坂清隆	九州	〃	大羅勒密	六	三〇〇	五七	八〇
〃	〃	北安	慶城	華陽	林清	静岡愛知岐阜	綏神線	高老	一七	三〇〇	七一	九六
〃	〃	〃	慶城	依吉密	河野嚴	島根鳥取山口	〃	田昇	一〇	二〇〇	一二五	一六二
〃	〃	〃	鐵驪	青葉	佐々木金次	宮城	〃	王揚	三	三〇〇	五六	五六
〃	〃	〃	〃	横泰	佐藤喜藏	〃	〃	田昇	二〇	三〇〇	七四	九六
〃	〃	〃	〃	韓家	佐藤謙吾	〃	〃	鐵山包	一〇	三〇〇	五六	五六
〃	〃	〃	〃	老永府	野々村喜二郎	岩手	〃	〃	一六	二〇〇	三〇	三〇
〃	〃	濱江	珠河	帽兒山	花房逸夫	山梨	〃	〃	一三	三〇〇	八〇	八五
〃	〃	〃	五常	熊本村	荒尾龍起	熊本	濱綏線	平山	五八	二〇〇	六七	七七
〃	〃	〃	〃	龍王廟	佐々木朝松	秋田	拉濱線	五常	六〇	三〇〇	一八八	二〇四
〃	〃	〃	木蘭	老石房	清水清	長野		〃	一五	二〇〇	三二	六二
〃	〃	〃	〃	王家屯	樋口隆次	長野(富士見村)	松花江	木蘭	二八	三〇〇	六二	二六二
〃	〃	〃	賓	大泉子	四井眞一	富山福井	京濱	哈爾濱	一二〇	二〇〇	七一	一一九
〃	〃	牡丹江	寧安	蘭崗	通山唯彦	茨城栃木千葉群馬神奈川	圖佳線	蘭崗	一	三〇〇	一〇一	一一九
〃	〃	〃	〃	楡林	松田勝次郎	埼玉		〃	六	三〇〇	五一	五六
〃	〃	〃	〃	樺林	三好武男	香川(栗熊村)	〃	樺林	一〇	三〇〇	六四	一四〇
〃	〃	〃	〃	蘆屯	村井友八	香川	〃	石頭	一六	二〇〇	五四	五六

〃	〃	〃	〃	密占河	吉田勝三郎	秋田	濱綏線	山市	一八	三〇〇	四五	一〇〇
〃	〃	龍江	甘南	朝陽山	猪股多久治	新潟	齊北線	齊々哈爾	一三〇	二〇〇	七四	八二
〃	〃	〃	〃	阿倫河	國安一三	〃		〃	一四〇	三〇〇	六三	六六
〃	〃	〃	富裕	班代屯	仲泉六郎	石川(町野郷)	〃	寧年	四五	三〇〇	五五	九九
〃	〃	〃	〃	雅州	藤田伊三郎	石川(白山郷)		〃	四四	三〇〇	六八	九七
〃	〃	〃	訥河	上學田	藤田柾太郎	青森	寧墨線	老來	一〇	二〇〇	四四	七〇
〃	〃	〃	〃	下學田	大河平聖雄	福島	〃	訥河	一五	三〇〇	四四	八三
〃	〃	吉林	額穆	青溝子	大橋宗光	近畿	京圖線	敦化	七五	三〇〇	五〇	五五
〃	〃	〃	磐石	興隆川	下山静夫	東京	奉吉線	取柴川	二	二〇〇	八二	一二四
	小計									七・七〇〇	二・五八一	四・二五〇
	合計									二〇・二〇〇	一三・六八五	三一・七四九
第九次	康德七年二月(昭和十五年)	三江	勃利	羅圈河	藤田操	長野	圖佳線	閻家驛	三三	二〇〇	二六	二六
〃	〃	〃	樺川	柳樹河	坂口紋之助	岡山	松花江	悅來鎭	三三	三〇〇	一八	一八
〃	〃	〃	〃	板子房	廣瀬總彦	山形(置賜郷)	〃	佳木斯 悅來鎭	七〇 二七	二〇〇	四	四
〃	〃	〃	通河	大通河	森土之恵	長崎(南高來郷)	〃	通河港	一三	二〇〇	二四	二四
〃	〃	〃	〃	漂河	石倉篤治	佐賀(西松浦郷)	〃	通河港 清河鎭	四八 一〇	二〇〇	三	三
〃	〃	〃	富錦	寶山	金田捨男	山形(東西村山郷)	〃	佳木斯 新城鎭港	九四 二八	二〇〇	六	六
〃	〃	〃	〃	筆架山	市川孫重郎	福島	〃	佳木斯	八〇	二〇〇	一七	一七
〃	〃	〃	方正	伊漢通	安田宗幸	鹿兒島(大島)沖繩(沖繩郷)	〃	伊漢通	四	三〇〇	三	三
〃	〃	東安	密山	西五道崗	平澤千秋	長野		東安	二五	二〇〇	七	七
〃	〃	〃	寶清	尖山	正村秀二郎	長野(更級郷)	虎林線	興凱	一一〇	三〇〇	一三	一三
〃	〃	〃	〃	萬金山	櫻井萬治郎	長野(高社郷)		〃	一〇〇	三〇〇	一三	一三
〃	〃	〃	〃	小城子	上杉虎壽	山形(南村山郷)		〃	八〇	二〇〇	八	八
〃	〃	〃	〃	索倫河	田中勇治	長野(下水内郷)		〃	一一〇	三〇〇	一〇	一〇
〃	〃	牡丹江	寧安	五河林	原歡榮	香川(三豐郷)	圖佳線	五河林	六	三〇〇	二六	二六
〃	〃	〃	〃	七星	吉村千代一	岐阜(坂下村)	〃	七星	九	二〇〇	二九	二九
〃	〃	〃	〃	馬連河	馬場明夫	岐阜(久田見村)	〃	馬連河	一	二〇〇	二三	二三
〃	〃	〃	〃	太平溝	宇井角三郎	和歌山	〃	東京城	一七	二〇〇	二三	二三

〃	〃	哈達灣	〃	〃	佐々木忠一	秋田(雄勝郷)	〃	山市 東京城	三六	三〇〇	二五	二五
〃	〃	德安	北安	德都	細川傳四郎	福井		北安	二四	二〇〇	一八	一八
〃	〃	德命	〃	〃	森庄兵衛	岐阜		〃	二四	二〇〇	一二	一二
〃	〃	鳳凰	〃	〃	片岡德茂	岐阜(中原竹原郷)		〃	二〇	三〇〇	一二	一二
〃	〃	東火犁	〃	通北	佐藤益章	新潟(刈羽郷)	濱北線	通北	三〇	三〇〇	一六	一六
〃	〃	西火犁	〃	〃	丸山政雄	新潟(魚沼古志郷)	〃	〃	三	三〇〇	三〇	三〇
〃	〃	天乙公司	〃	〃	鶴岡龜之助	千葉	〃	通康	三五	三〇〇	三六	三六
〃	〃	九道灣	〃	〃	掛川金藏	群馬(甘樂郷)		〃	二五	三〇〇	一二	一二
〃	〃	趙木匠	〃	〃	小林貞次	埼玉(日野澤村)		〃	二〇	二〇〇	一九	一九
〃	〃	雙泉鎮	〃	綏稜	尾崎隆夫	德島(阿波郷)	〃	海倫	三五	二〇〇	一八	一八
〃	〃	諾敏河	〃	〃	西澤香壽美	愛媛(喜多郷)		〃	五七	二〇〇	一六	一六
〃	〃	馬家店	〃	〃	遠藤哲之助	岩手(東磐井郷)	〃	克音河	六五	三〇〇	二五	一五
〃	〃	二龍山	〃	北安	品田貞雄	新潟	北黑線	二龍山	—	三〇〇	一二	一二
〃	〃	劉大櫃	〃	克山	市川秀水	長野(五常郷)	齊北線	克山	四〇	三〇〇	一五	一五
〃	〃	張文封	〃	克東	中村勝輝	栃木(上都賀郷)	濱北線	通北	一〇	三〇〇	一二	一二
〃	〃	花園	〃	〃	磯瀬一	栃木(那須郷)		〃	二五	三〇〇	二九	二九
〃	〃	趙家店	〃	慶城	藤岐禮吉	宮城	綏神線	高老	二〇	三〇〇	一二	一二
〃	〃	衛羊	〃	〃	佐々木俊一郎	宮城	綏神線	慶城	二五	三〇〇	一二	一二
〃	〃	四合成	〃	〃	崎谷延義	島根	〃	高老	四〇	三〇〇	四〇	四〇
〃	〃	上歐伊	〃	〃	河野嚴	鳥取(明治村)	〃	慶城	三六	二〇〇	二	二
〃	〃	歐根	〃	〃	白井常吉	高知(久禮郷)	〃	〃	四七	二〇〇	三〇	三〇
〃	〃	下歐根	〃	〃	和田寅治	高知(嶺北郷)	〃	〃	四三	三〇〇	三五	二五
〃	〃	冷家店	〃	依安	菊地正修	茨城(大子町)	齊北線	泰安鎮	一四	三〇〇	一六	一六
〃	〃	共和	龍江	甘南	太田豐三郎	山形(北村山郷)	寧墨線	拉哈	四四	三〇〇	一三	一三
〃	〃	大和	〃	〃	大場敬治郎	山形(庄内郷)	〃	〃	四一	三〇〇	一二	一二
〃	〃	大平	〃	〃	土屋智美	福島(伊達郷)	〃	〃	四三	三〇〇	二〇	二〇
〃	〃	吳山	〃	〃	島田次郎右門	福島(石川郷)	〃	〃	三八	三〇〇	一〇	一〇
〃	×	興亞	〃	〃	松岡和市	福井(三方郷)		〃	三四	三〇〇	三三	三三
〃	〃	義合	〃	〃	山田意太郎	茨城		〃	四七	三〇〇	三三	三三
〃	〃	三合	〃	〃	大橋宗光	愛知(東三河郷)		〃	五一	三〇〇	三四	二四
〃	〃	新發	〃	〃	佐古休一	山口(玖珂郷)		〃	三七	三〇〇	二五	一五
〃	〃	東陽	〃	〃	村田勝	熊本(飽託郷)		〃	六〇	三〇〇	一二	一二
〃	〃	興隆	〃	〃	山本實	福岡(糸島郷)		〃	二四	三〇〇	一九	一九
〃	〃	沖河	濱江	五常	林俊一	富山(礪波郷)	拉濱線	五常	八五	三〇〇	一六	一六
〃	〃	南朝陽川	〃	〃	武田牧三	廣島(新庄村)	〃	山河屯	二	二〇〇	二三	二三
〃	〃	北二屯	〃	東興	高倉貞次(代)橋本快藏	兵庫(養父郷)		興隆鎮 木蘭	八一 七一	二〇〇	四	四
〃	〃	大營	〃	〃	齋藤勇	山梨(東八代郷)		〃 〃	八五 七五	三〇〇	一九	一九
〃	〃	太陽	〃	巴彦	大港專一	石川(西海村)		興隆鎮	三〇	三〇〇	三二	三二
〃	〃	雙龍	〃	〃	大屋新三郎	三重(第一神路郷)		〃	一八	三〇〇	二三	二三
〃	〃	裕德	〃	〃	中村留一	三重(第二神路郷)		〃	三五	三〇〇	三八	三八
〃	〃	四道河	〃	阿城	小泉國光	山梨(豐村)		平山站	二〇	二〇〇	二四	二四
〃	〃	驛馬	吉林	磐石	香美武平	群馬	奉吉線	煙筒山	三一	三〇〇	四一	四一
〃	〃	報馬	〃	〃	岩倉昇	群馬(相馬村)	〃	磐石	六三	二〇〇	三三	三三
〃	〃	上金馬川	〃	舒蘭	梶谷明治郎	廣島(世羅郷)	拉濱線	平安	三六	二〇〇	三六	三六
〃	〃	下金馬川	〃	〃	藤村最	山口(委根村)	〃	〃	二〇	二〇〇	一二	一二
		小計								一六・〇〇〇	一・三〇七	一・三〇七
		累計								三六・二〇〇	一三・九九二	三三・〇五六

備考 第九次開拓團ハ先遣隊ノ入植ヲ見ルニ止マル

(イ) 集團數 六三 二〇〇戸集團 二六、三〇〇戸集團 三六

(ロ) 分村團 一二 分鄉團 三八、縣單位 一二

(ハ) 省別入植地區 三江省 八 龍江省 一〇 東安省 五 濱江省 八 牡丹江省 五 吉林省 四 北安省 二二

(ニ) 入植府縣名欄中( )内ノ(村及町ハ分村 鄉ハ分鄉)ナルヲ示ス

二 集合開拓民入植現況一覧

昭和十五年 康德七年 六月十五日現在

滿拓地方事務所別組合數及現在戸數

地方事務所別	組合數	計畫戸數	現在戸數
本社取扱	一一	一・二二五	五二九
吉林地方事務所	三三	二・九六五	一・二三七
哈爾濱地方事務所	一六	一・六一七	五四〇
牡丹江地方事務所	八	七三〇	三四五
東安地方事務所	一〇	八四〇	四二九
佳木斯地方事務所	一二	一・〇〇〇	四六五
齊々哈爾地方事務所	七	三四八	一二八
北安地方事務所	六	五〇〇	一六九
合計	一〇三	九・二二五	三・八四三

年度別入植戸數

年度別	設立組合數	入植戸數
康德四年度累計	一七	八六八

康德五年度（新入植）	二〇	七九〇
康德六年度（〃）	三一	一・〇二四
康德七年度（〃）（六月十五日迄）	四五	一・七一〇
合計	一一三	四・三六二

（一般集合三、八四二戸
其ノ他　五二〇戸）

省別組合數及現在戸數

省名	組合數	計畫戸數	現在戸數	備考
新京特別市	五	戸 一七〇	戸 九七	
安東	六	二七〇	一一三	
錦州	一	二〇	一九	
興安南	一	二五	二五	
奉天	九	五七七	三六五	
吉林	二五	二・二八五	九六七	
間島	七	七六三	一九二	
通化	一	五〇	五〇	
濱江	一六	一・六一七	五四〇	
牡丹江	八	七三〇	二四五	
東安	一〇	八四〇	四二九	
三江	一一	一・〇〇〇	四六五	
龍江	四	二五〇	七五	
興安北	三	二〇〇	一二七	
黒河	二	三〇〇	三三	
合計	一一三	九・三二五	三・八四二	

入植現況

入植地（所管事務所（本社）省名・縣名・地區名）	組合名	營農型態	入植年月	代表者名	出身縣	計畫戸數	現在戸數	通信宛先	最寄驛及粁數
興安南省 通遼	一棵樹開拓組合	普通農業	大同三・三	畑野喜一郎	各府縣	戸 五五	戸 五三	大鄭線錢家店郵政局氣付	大鄭線錢家店驛東八粁
新京特別市 拉々屯	力行村開拓組合	蔬菜	康德五・四	平川政喜	熊本、長崎 岡山	三〇	三〇	新京特別市淨月區拉々屯力行村郵政辦事所氣付	新京郊外東南一五粁
仝	清明村開拓組合	〃	六・六	小室寧	各府縣	五〇	二七	新京建國大學農場氣付	〃 西南二〇粁
仝	出雲指導農區組合	〃	七・四	吉田軍藏	島根	三〇	一五	新京特別市北安路市營住宅一四號河野元有氣付	〃 東一二粁
仝	芙蓉農村組合	〃	七・四	藪崎鷹次	靜岡	三〇	一五	新京南嶺同仁鄕久保田三郎方	〃 南一四粁
仝	淨月農村組合	〃	七・四	後藤清治	各府縣	三〇	一〇	新京中央郵政局私書函第五七號	〃 南一四粁
吉林 懷德	公主嶺山路鄕開拓組合	蔬菜 普通作	五・六	津田耕夫	岐阜	一〇〇	四七	公主嶺菊地町	連京線公主嶺驛東南方四粁
仝 〃	神奈川開拓組合	〃	七・四	佐藤光太郎	神奈川	一〇〇	二〇	連京線懷德縣大楡樹付	連京線大楡樹驛東方四粁
仝 〃	青森日ノ出開拓組合	〃	七・四	小笠原堅藏	青森	五〇	三	連京線范家屯郵政局私書函第六號	連京線范家屯驛南方六粁
奉天 瀋陽	顯學農莊開拓組合	〃	六・三	北田三郎	各府縣	三〇	一八	奉吉線滿台驛氣付	奉吉線滿台驛西方一粁
仝 〃	渾河農友開拓組合	〃	七・四	岩下隆弘	熊本	六〇	一六	連京線蘇家屯郵政局私書函第一號	連京線蘇家屯驛西北方三粁
仝 鐵嶺	紀州開拓組合	普通農業	六・三	吉田喜七郎	和歌山	六〇	五三	鐵嶺縣新台子郵政局氣付	連京線新台子驛北方六粁
仝 康平	長野開拓組合	〃	七・二	上條弘	長野	五〇	一三	康平縣拓政股氣付	連京線鐵嶺驛ヨリ康平行バスニテ九〇粁
奉天 双遼	双山熊本開拓組合	蔬菜 普通作	七・三	荒木元義	熊本	六〇	一六	双遼縣公署双山辦事所氣付	大鄭線鄭家屯驛ヨリ四〇粁バスアリ
仝 康平	岩木開拓組合	〃	七・二	長谷川末太郎	青森	一〇〇	四一	康平縣拓政股氣付	連京線鐵嶺驛ヨリ康平行バスニテ康平ニ至リ四〇粁
安東 安東	湯山城煙草開拓組合	煙草	五・四	森八三	佐賀	二〇	一〇	安奉線湯山城	安奉線湯山城驛前
仝 〃	安奉沿線煙草開拓組合	〃	六・三	森八三	山梨、香川 其ノ他	七五	七〇	前仝	前仝
仝 莊河	大孤山煙草開拓組合	〃	六・三	增形芳藏	栃木、香川	三〇	八	莊河縣大孤山警察署氣付	安東驛ヨリバスニテ大孤山ニ至リ北方八粁
仝 岫巖	東土城子開拓組合	普通農業	六・四	河村幸嘉	山口	三五	九	岫巖縣公署拓政股氣付	安東驛ヨリ乘合バスアリ
仝 桓仁 二戸來	普樂堡開拓組合	〃	七・四	夏井永吉	秋田	四〇	九	桓仁縣公署氣付	通化驛下車桓仁迄バスアリ
錦州 錦縣	双山子開拓組合	煙草	六・二	藤田金一	栃木	二〇	一九	錦縣公署拓政股氣付	奉山線錦縣驛ヨリ六粁
安東 莊河 莊河	莊河開拓組合	農漁	七・五	佐々木五九雄	愛媛	一〇〇	七	莊河縣公署氣付	安東驛ヨリ乘合バスニテ一一七粁
小計	二二組合					一・二三五	五〇九		
所管事務所（吉林地方事務所）									
吉林 蛟河	蛟河新潟開拓組合	普通農業	三・一	岡田藤太郎	新潟縣	六〇	六〇	蛟河縣第二區烏林保	京圖線蛟河驛ヨリ西方八粁
〃 〃	拉法開拓組合	〃	五・四	野中彌太延	佐賀岩手其ノ他	一〇〇	八〇	京圖線拉法驛前	京圖線拉法驛前
〃 磐石	隼人村開拓組合	〃	四・三	田代正滿	鹿兒島縣其ノ他	五〇	一八	奉吉線明城驛氣付	奉吉線明城驛前
〃 〃	大黒山開拓組合	〃	五・三	原尾京一	大分縣其ノ他	三五	一九	磐石縣煙筒山第七次開拓團辦事處氣付	奉吉線煙筒山驛南方十二粁

〃	〃		磐石常盤開拓組合	〃	五・五	坂本虎之助	岡山縣	三〇	二四	奉吉線磐石縣城東門外坂本虎之助	奉吉線磐石驛南方十二粁
〃	〃		磐石秋田開拓組合	〃	六・四	飯塚敬藏	秋田縣	三〇	一九	奉吉線當山屯驛氣付	奉吉線當山屯驛北方二粁
〃	〃	成德	大鶴開拓組合	〃	七・四	石松從忠	大分縣	六〇	二四	磐石縣煙筒山第七次開拓團辨事處氣付	煙筒山驛東方約九粁
〃	〃	板橙河	板橙河開拓組合（假）	〃	七・四	高野倘雄	山形縣	一五〇	二七	盤石縣公署氣付	明城驛西北約四十粁
〃	〃	得勝溝	得勝溝開拓組合（假）	〃	七・四	齊尾徹	鳥取縣	一五〇	三一	〃	奉吉線磐石驛ヨリ西二十三粁バスノ便アリ
〃	〃	東玻璃	東玻璃開拓組合（假）	〃	七・四	西德盛	鹿兒島縣	三〇	三	奉吉線明城驛氣付	奉吉線明城驛南方四粁
〃	永吉		双河鎭開拓組合	〃	四・三	原智保三	長野縣	三〇	一九	永吉縣双河鎭驛前	奉吉線双河鎭驛
〃	〃		白山子開拓組合	〃	四・三	宮崎千博		三〇	三三	吉林市六經路松島親造氣付	奉吉線黄旗屯驛ヨリ五粁
〃	〃		江密峰開拓組合	〃	四・三	坂牧加助	〃	三〇	一七	永吉縣第四區江密峯	京圖線江密峯驛前
吉林	舒蘭		水曲柳開拓組合	普通農業	四・三	今村清	長野縣	三〇〇	一九二	吉林舒蘭縣水曲柳保周家屯警備電話アリ	拉濱線水曲柳驛ヨリ五粁
〃	〃		舒蘭福島開拓組合	〃	五・二	國分龜雄	福島縣	三〇	三〇	舒蘭縣四家房警護隊氣付	拉濱線四家房驛南方一・五粁
〃	〃		四合屯高知開拓組合	〃	五・四	橋本寛	高知縣	五〇	四八	舒蘭縣小城驛氣付	拉濱線小城驛西北七粁
〃	〃		十勝開拓組合	〃	五・四	横地彦一	北海道	五〇	三一	舒蘭縣四家房滿拓出張所氣付	拉濱線四家房南方三粁
〃	〃		平安高知開拓組合	〃	六・三	岡崎泰治	高知縣	三〇〇	七三	舒蘭縣平安驛前	拉濱線平安驛北方二〇〇米
〃	〃		郡上開拓組合	〃	六・四	山下勘治	岐阜縣	二〇〇	七一	舒蘭縣小城子	拉濱線小城驛東一粁
〃	〃		白河開拓組合	〃	七・三	佐藤鐶一	福島縣	五〇	二一	舒蘭縣四家房警護隊氣付	拉濱線四家房驛ヨリ東方六粁
〃	敦化		敦化藝州開拓組合	〃	五・九	下杉正義	廣島縣	一五〇	三三	敦化縣大石頭	京圖線大石頭驛東方八粁
〃	樺甸		阿菊開拓組合	〃	六・四	後藤勉	熊本縣	三〇	一九	樺甸縣城內二道街永吉胡同	奉吉線磐石驛ヨリ樺甸行バスニテ六〇粁
奉天	東豐		豐青森開拓組合	〃	五・四	千葉貞義	青森縣	一〇〇	九八	東豐縣鎭安村警備電話アリ	奉吉線進河驛ヨリ四粁
〃	海龍		高千穗開拓組合	煙草	六・三	黒木淳	宮崎縣	五七	五〇	海龍縣野猪河村公署氣付	奉吉線朝陽鎭驛ヨリ六粁
〃	〃		敷島開拓組合	〃	六・三	三池召平	熊本縣	六〇	三九	海龍縣頭八石村公署氣付	奉吉線山城鎭驛ヨリ六粁
間島	和龍		新秋田農林共勵組合	農林	三・九	高須力	秋田縣	五四	四三	延吉縣西城村二道嶺	朝開線龍井驛ヨリ三六粁
〃	汪清		三岔口農林共勵組合	〃	三・九	武藤等	秋田縣	八〇	四六	汪精縣三岔口農林共勵組合	圖佳線天橋嶺驛東北方
〃	〃		碓水開拓組合	普通農業	七・五	安藤信次	群馬縣	六〇	三一	汪精縣北荒嶺警察署氣付	汪寧線北荒嶺驛ヨリ五粁
〃	琿春		朝日開拓組合	〃	七・四	鈴木亮	岐阜縣	二〇〇	二四	琿春縣純義村	東滿鐵道琿春驛ヨリ約〇〇粁
〃	〃		高鷲開拓組合	〃	七・四	野村孝太郎	岐阜縣	二〇〇	三三	〃	〃 約〇粁
〃	〃		飯詰開拓組合	〃	七・四	中谷彌八郎	青森縣	一〇〇	二三	〃	〃 約〇粁
〃	延吉	亮兵台	亮兵台開拓組合（假）	〃	七・四	小野吉次郎	福島縣	七〇	一三	延吉縣亮兵台郵政辦事所	京圖線亮兵台驛ヨリ明月溝ニ至ル
通化	輝南	〃	輝南佐賀村開拓組合	〃	七・四	鷲崎亮一	佐賀縣	五〇	五〇	輝南縣樓街警察署氣付	奉吉線朝陽鎭驛ヨリバスニテ約一二粁
小計			三三組合					二・九六五	一・三二七		
所管事務所（哈爾濱地方事務所）											
濱江	阿城		天理村開拓組合	蔬菜	大同元年	魁生哲二	各府・縣	一〇〇	四七	哈爾濱道陽街第九號	三棵樹東方十五粁天理輕便鐵道ハ本部迄
〃	〃		大谷開拓組合	普通農業	康德六・三	白田岩夫	山形	一五〇	八〇	阿城驛前阿城旅館氣付	濱綏線阿城驛北方六粁
〃	〃		八紘村酪農開拓組合	酪農	六・二	大友春三	北海道	一五〇	七〇	阿城驛前八紘村事務所	濱綏線亞溝驛南方十粁
〃	〃		高松柴橋開拓組合	普通農業	七・四	加藤榮吉	山形	二〇〇	四〇	阿城驛前阿城旅館氣付	濱綏線阿城北方六粁
〃	五常		杜家新潟開拓組合	〃	二・一	高野末吉	新潟	三五	二七	杜家驛前郵政辦事所氣付	拉濱線杜家驛東南二粁
〃	〃		耕綠園開拓組合	〃	六・二	瀧下才治	各府縣	三〇	三〇	仝	拉濱線拉家驛東一粁
〃	〃		杜家岐阜開拓組合	〃	七・四	山崎源十郎	岐阜	三五	一五	仝	拉濱線拉家驛東北二粁
〃	肇東		肇東瑞光開拓組合	〃	五・三	濱村伊惣治	山形	一〇	一〇	宋站郵政辦事所氣付	濱州線宋驛東方八粁
〃	珠河		蒲原開拓組合	〃	六・二	木村吉藏	新潟	一〇〇	三六	濱綏線密峯驛警護隊分所氣付	濱綏線密峯驛西南六粁

〃	〃	南元寶鎭	中武藏開拓組合	〃	七・五	清原哲	大分	八二	三三	第七次元寶鎭開拓團郵政辨事處氣付	濱綏線珠河驛氣付東方三〇粁
〃	〃		六道河緣故開拓組合	〃	七・五	前田武二	山形	三〇	三〇	珠河縣第七次六道河開拓團郵政辨事所氣付	濱綏線一面坡南四〇粁
〃	葦河	四順河	四順堂福井開拓組合	〃	六・五	南出袈三	福井	三〇	二八	濱綏線青雲驛氣付	濱綏線青雲驛東三粁
所管事務所（哈爾濱）			松陰村開拓組合	〃	六・四	岡田勇治	山口	一二〇	四四	亞布洛尼松陰村分還所	濱綏線亞布洛尼驛ヨリ森林鐵道驛馬河ヨリ一三粁
濱江	葦河		牙不力開拓組合	普通農業	六・四	島善作	福井	三五	一〇	亞布洛尼驛氣付	濱綏線亞布洛尼驛ヨリ三〇粁
〃	〃	大連泡	大連泡開拓組合	〃	七・五	島崎直猪	高知	五〇	一六	濱綏線方山驛鐵道警護隊氣付	濱綏線葦河驛西方十一粁
〃	延壽	李花屯	淺間村開拓組合	〃	七・四	未定	長野	四八〇	一〇	延壽縣嘉信村郵政辨事處氣付	濱綏線珠河驛北方九〇粁バスニテ渡河ニ下車東八粁
小計			一六組合					一・六二七	五四〇		
所管事務所（牡丹江地方事務所）											
牡丹江	寧安		鏡泊學園協拓組合	普通農業	康德三・二	鈴木五郎	各府縣	五〇	一八	寧安縣東京城警察署氣付	圖佳線東京城驛ヨリ西南四八粁
〃	〃		金坑旭川開拓組合	〃	六・二	大林勝由	北海道	二〇〇	一四	寧安縣馬蓮河村金坑屯	圖佳線馬蓮河驛ヨリ南方四粁
〃	〃		鏡泊湖農漁開拓組合	農漁	六・三	柴田雄藏	秋田縣	五〇	一五	寧安縣東京城警察署氣付	圖佳線東京城驛ヨリ西南四八粁
〃	〃	光古屯	喜多見開拓組合	普通農業	七・四	眞野實一	北海道	六〇	三三	〃 滿拓收納所氣付	〃 東南方四粁餘
〃	〃	小牡丹	寄村開拓組合	〃	七・四	高橋宇三郎	神奈川縣	五〇	九	圖佳線蘭崗驛郵政辨事所氣付	圖佳線蘭崗驛ヨリ西方一〇粁
〃	穆稜		源開拓組合	〃	七・五	小池毅	新潟縣	六〇	一八	濱綏線馬橋河驛氣付	馬橋河驛ヨリ約四粁
〃	〃		亮子河協和開拓組合	〃	六・一	寺島貞彥	東京府	一〇〇	一八	穆稜縣八面通警察署氣付	梨樹線八面通驛東方〇粁
〃	寧安		仙洞農林共勵組合	農林	五・九	白倉秋也	秋田青森縣	一五〇	一三一	寧安縣仙洞村	圖佳線仙洞驛ヨリ二粁
小計			八組合					七二〇	二四五		
所管事務所（東安地方事務所）											
東安	林口		青山熊本開拓組合	普通農業	康德六・四	有田彌	熊本	五〇	一〇	圖佳線青山驛氣付	圖佳線青山驛西北方八粁

〃	〃		青山共榮開拓組合	〃	六・三	石川松五郎	北海道樺太	五〇	三〇	同	〃 東北方九粁
〃	〃		古城鎭農林共勵組合	農林	三・九	高村邦太郎	青森秋田	一五〇	一四二	圖佳線古城鎭	圖佳線古城鎭驛北一粁
〃	〃		泗水別農林共勵組合	〃	七・四	高村邦太郎	高知熊本	五〇	三八	林口縣古城村	〃 西一二粁
〃	〃		青山山口開拓組合	普通農業	七・四	柏村光山	山口	五〇	三三	圖佳線青山驛氣付	圖佳線青山驛西北方八粁
〃	〃		蘭嶺開拓組合	〃	六・四	遠藤三百一	岡山	三〇	三〇	虎林線蘭嶺驛氣付	虎林線蘭嶺驛前〇粁
〃	密山	哈達河緣故	東哈達河開拓組合	〃	六・四	未定	各府縣	一五〇	七〇	第四次哈達河開拓團本部氣付	虎林線滴道驛南〇〇粁
〃	〃	柳毛河	東陽開拓組合	〃	七・三	今野善吉	北海道	六〇	一九	虎林線滴道拓政辨事所氣付	虎林線滴道驛南〇〇粁
〃	〃	信濃村緣故	南連珠山開拓組合	〃	七・四	菊地實長	長野	二〇〇	五一	黑台信濃村開拓團本部氣付	虎林線黑台驛南〇粁
〃	〃	興凱村白泡子	興凱湖農漁開拓組合	農漁	七・四	門脇良男	島根	五〇	三六	密山縣興凱鎭警察署氣付	虎林線東安驛東南〇〇粁
小計			一〇組合					八四〇	四二九		
所管事務所（佳木斯地方事務所）											
三江省	饒河		饒河大和村北進鄕開拓組合	普通農業	康德五・九	梅宮良吉	各府縣	二〇	二二	饒河縣饒河大和村	虎林線虎頭驛ヨリ〇〇粁
〃	樺川		八宮里開拓組合	〃	五・四	長谷川利憲	〃	一五〇	二〇	樺川縣千振街郵政局氣付	圖佳線千振驛ヨリ十三粁
〃	〃		西彌榮開拓組合	〃	五・四	栗田實	〃	一五〇	一三〇	樺川縣彌榮村郵政局氣付	〃 八虎力驛ヨリ二粁
〃	〃		大八洲開拓組合	〃	六・一〇	佐藤孝治	〃	八〇	七二	千振柳毛河郵政辨事所氣付デ彌榮村共勵組合氣付	〃 千振驛東方七粁
〃	依蘭		南靠山屯開拓組合	〃	六・四	工藤重吉	北海道樺太	五〇	五〇	依蘭縣依蘭街北夾信子	依蘭街ヨリ牡丹江ニ沿ヒテ四十粁
〃	〃		南靠山屯第二次開拓組合	〃	七・四	熊谷國治	〃	五〇	三五	〃	〃
〃	〃	南舒樂鎭	宏克利農漁開拓組合	農漁	七・四	中居市三郎	樺太	五〇	一五	依蘭縣公署拓政股氣付	依蘭市街ヨリ一〇粁
〃	〃	松木河	依蘭岩手開拓組合	普通農業	七・四	小森茂穗	岩手	一〇〇	二〇	依蘭縣大平鎭警察署氣付	圖佳線千振驛ヨリ西方六十粁バスアリ

〃	〃	長嶺子	長嶺子開拓組合	〃	七・四	和田昌純	京都	五〇	一〇	樺川縣千振郵政局氣付	勃利驛ヨリバスニテ三時間
〃	勃利	長興	長興開拓組合	〃	七・四	遠藤市記	宮城	一五〇	二	勃利縣公署氣付	圖佳線勃利驛ヨリ東北方四十五粁
〃	〃	〃	耕野村開拓組合	〃	七・五	谷津冬藏	〃	一五〇	二〇	〃	〃
小計			一一組合					一・〇〇〇	四六五		
所管事務所（齊々哈爾地方事務所）											
龍江	訥河	新安屯	大道開拓組合	普通農業	康德七・五	竹下勇	熊本	五〇	八	訥河縣公署氣付	寧墨線新安驛西五粁
〃	龍江	臥牛吐	南風原開拓組合	〃	七・五	野原廣和	沖縄	五〇	一七	齊々哈爾滿拓氣付	齊々哈爾驛北方四八粁
〃	〃	〃	恩納開拓組合	〃	七・五	伊破德成	〃	一〇〇	二四	〃	〃
〃	〃	〃	今歸仁開拓組合	〃	七・五	西平中藏	〃	五〇	三六	〃	〃
興安北	索倫旗	〃	呼倫貝爾開拓組合	農牧	四・三	古賀新作	各府縣	五〇	三七	濱洲線免渡河驛氣付	濱洲線免渡河驛前
〃	額爾克納左翼旗		三河共同農村開拓組合	〃	三・三	岡部勇雄	九州各縣	二四	二	興安北省三河上庫力警察署氣付	〃海拉爾驛北方〇〇〇粁
〃	〃		依很西鄉農村開拓組合	〃	五・四	倉富角次郎	福岡	二四	一五	〃	〃北方〇〇〇粁
小計			七組合					三四八	一三八		
所管事務所（北安地方事務所）											
北安	鐵驪		鐵驪岩手開拓組合	普通農業	康德五・二	伊藤孫右衛門	岩手	五〇	三九	鐵驪縣郵政局氣付	綏綽線石長驛前
〃	〃		桃山開拓組合	〃	三・四	鎌田直治	樺太	七〇	六三	〃	〃鐵山包驛東三粁
〃	〃		杜陵開拓組合	〃	六・四	及川悌三郎	岩手	五〇	六	〃	〃岩手驛南方二粁
〃	〃		鐵驪畜產開拓組合	酪農	六・五	石坂博	樺太	四〇	三〇	〃	〃鐵山包驛東一粁
黑河	瑷琿	上二公別	獅々吼會開拓組合	普通作蔬菜	七・五	林正雄	千葉	一〇〇	八	黑河郵政局氣付	北黑線黑河驛南〇粁
〃	遜河	雙河鎭	黑河青森開拓組合	農牧	七・五	伊世重之助(假)	青森	二〇〇	二四	遜河縣郵政局氣付	北黑線遜吳驛東〇〇粁
小計			六組合					五〇〇	一六九		

二 鐵道自警村現況一覽表（昭和十四年六月調）

第一期（六村）

區分＼村名	入植年月	省、縣名	鐵道線名	所在地	村長名	用地面積	戸數	人口	作付面積 普通作	蔬菜	水田	其の他	計	日本人旅館有無
女兒河	昭一〇・四月	錦州、錦	奉山	女兒河驛驛前	平田一三	一二三・四七陌	一〇	三三	六二・一二陌	一〇・三一	—	三六・二〇	一〇八・六三	無（錦州）
黑山頭	同 六月	奉天、海龍	奉吉	黑山頭驛東驛前	中村日出雄	二四六・八三陌	一九	五九	一五七・七〇陌	五・七〇	—	七・六〇	一七一・〇〇	無（梅河口）
口前	同 四月	吉林、永吉	同上	口前驛東方驛前	沼田武	一〇・八五陌	一〇	五八	三九・〇〇陌	八・〇〇	三六・〇〇	二・〇〇	八五・〇〇	無（吉林）
綏化	同 六月	濱江、綏化	濱北	綏化驛東方一・五粁	太田千代松	一八一・一四陌	一〇	三〇	一四九・八〇陌	八・一〇	—	七・七〇	一六五・六〇	有
泰安	同上	龍江、克山	齊北	泰安驛西北二粁	高橋勝	一七九・九九	一二	三三	一四一・九〇陌	一九・八〇	—	一一・〇〇	一七二・七〇	有
白城子	同上	龍江、洮安	平齊	白城子驛北方四・五粁	折川義一	一九七・四三	一二	四七	一六五・〇〇陌	二〇・九〇	—	—	一八五・九〇	有

第二期（七村）

區分＼村名	入植年月	省、縣名	鐵道線名	所在地	村長名
蛟河	昭一二・四月	吉林、額穆	京圖	蛟河驛北方二・五粁	福澤俊雄
小城	同上	吉林、舒蘭	拉濱	小城驛北方一・五粁	大木武雄
山市	同上	牡丹江、寧安	濱綏	山市驛東方三粁	山口幸次郎
雙城堡	同上	濱江、双城	京濱	双城堡驛西方一粁	石田俊男
安達	同上	濱江、安達	濱州	安達驛南方五粁	氣田松太郎
龍鎭	同上	濱江、龍鎭	北黑	龍鎭驛西方〇・三粁	佐藤忠雄
柴崗	同上	吉林、農安	京白	柴崗驛南方〇・五粁	高橋正二

用地面積	戸數	人口	作付面積 普通作	蔬菜	水田	其の他	計	日本人旅館有無
陌 四六・〇〇	二九	九四	陌 一〇五・六〇	五・一〇	八五・五〇	〇・九〇	一九七・一〇	有
陌 六七五・七九	二九	八八	陌 三〇・〇〇	一五・〇〇	一二〇・〇〇	—	一六五・〇〇	無(新站)
陌 二、一三二・九九	三二	六四	陌 一〇〇・三八	五・二五	三八・六四	八・八二	一五三・〇九	無(牡丹江)
陌 一五〇・〇四	一三	四二	陌 一一八・九五	九・七五	—	八・七一	一三七・四一	有
陌 一六三・三一	九	二九	陌 一二九・二〇	三〇・六〇	—	九・七〇	一六九・五〇	有
陌 六八三・七六	二〇	六三	陌 二四七・二〇	三三・八〇	—	〇・六〇	二八一・六〇	有
陌 一三〇・〇〇	一〇	二九	陌 九七・三三	九・一〇	—	六・六〇	一一三・〇三	無(農安)

第三期(一〇村)

區分/村名	入植年月	省縣名	鐵道線名	所在地	村長名	用地面積	戸數	人口	作付面積 普通作	蔬菜	水田	其の他	計	日本人旅館有無
泡子	昭一三・四月	錦州、阜新	大鄭	泡子驛東方三粁	大島忠雄	陌 三七一・一四	三三	七九	陌 一一三・三三	二・八二	—	三一・三一	一四七・四五	無(彰武驛)
靠山屯	同上	吉林、磐石	奉吉	靠山屯驛前	原澤正夫	陌 一五〇・〇〇	三〇	八六	陌 七〇・二〇	一三・二〇	六二・一〇	〇・三〇	一四五・八〇	無(朝陽鎭)
明城	同上	同上	同上	明城驛驛前	前田吉次	陌 二〇〇・〇〇	二九	八二	陌 五三・四〇	八・一〇	六〇・〇〇	〇・六〇	一二二・一〇	無(磐石)
四家房	同上	吉林、舒蘭	拉濱	四家房驛南方二粁	熊谷幸治	陌 四〇〇・〇五	三〇	六〇	陌 四一・八〇	九・四〇	七・四〇	—	五八・六〇	無(五常)
寧安	同上	牡丹江、寧安	圖佳	蘭崗驛北方五粁	伊藤健三郎	陌 二九五・五四	二五	五六	陌 八五・六〇	七・二〇	一四・六〇	六・八〇	一一四・二〇	有
東京	同上	同上	同上	馬蓮河驛北方四粁	芹澤福勇	陌 三五八・二七	三〇	八〇	陌 六三・五〇	一六・七五	二八・七五	三・二五	一一二・二五	無(寧安)
阿城	同上	濱江、阿城	濱綏	阿城驛東方二粁	藤原桃治	陌 三三四・二四	三〇	七二	陌 一五八・六〇	二五・八〇	—	二二・〇〇	二〇六・四〇	無(哈爾濱)
五家	同上	濱江、双城堡	京濱	五家驛東方一粁	佐藤三央	陌 三二五・三三	四〇	六三	陌 一七四・六〇	一三・四〇	—	三三・四〇	二二一・四〇	無(双城堡)
白家	同上	龍江、龍鎭	濱北	白家驛東北一・五粁	高橋武雄	陌 四七〇・八三	四〇	八六	陌 二六四・〇〇	二一・〇〇	—	—	二八五・〇〇	無(北安)
訥河	同上	龍江、訥河	寧墨	訥河驛西方〇・三粁	吉住清五郎	陌 四六八・五三	四〇	八	陌 二八五・〇〇	二一・〇〇	—	—	三〇六・〇	有



青年義勇隊の使命

青年義勇隊の使命とは何であるか。

滿洲開拓は決して單なる植民政策ではない。日本内地人開拓民を多數大陸に移住させ、民族協和の中核として各種の開拓民と原住民等の調和を圖り、日滿一體の實を擧げ、滿洲國の基礎を固めて滿洲建國の理想を達成しようといふのである。滿洲建國の理想を實現することは東亞の諸國家に王道樂土の生きた模範を示すことゝなり、東亞新秩序の據點を培養確立することである。

斯の如き重要國策を完遂するためには從來の壯年開拓民の他に、更に天眞爛漫たる青年を多數日本内地から迎へ、滿洲國の生成發展に寄與すべき各種開拓民、特に開拓農民の基底となる資質を育成訓練することが重要である。滿洲開拓青年義勇隊はかうした意味から日滿兩國がその重要性を認めて結成されたものである。

即ち、**義勇隊**は日本肇國の理想たる八紘一宇の大精神に基き、開拓協和の實踐を通じて滿洲建國の聖業を完遂せんとするのがその使命である。訓練生が日夜唱和してゐる**義勇隊綱領**はこの使命を最もよく表現してゐる。

一、我等ハ天祖ノ宏謨ヲ奉シ心ヲ一ニシテ追進シ身ヲ滿洲建國ノ聖業ニ捧ケ神明ニ誓ツテ天皇陛下ノ大御心ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス

一、我等ハ身ヲ以テ一德一心民族協和ノ理想ヲ實踐シ道義世界建設ノ礎石タランコトヲ期ス

訓練本部設立の意義

義勇隊運動の進展に伴ひ、その一貫的指導統轄の必要が痛感されるに至り、昭和十四年(康德六年)決定を見た滿洲開拓政策基本要綱に基き、滿洲開拓青年義勇隊訓練本部は創設されることゝなつた。翌十五年三月二十九日勅令第四十七號を以て訓練本部に關する法令が公布され、四月一日開設された。

訓練本部は日滿兩國政府及び協和會、滿拓、滿鐵等關係機關の協力合作になるものであり、從來、滿拓及一部滿鐵に於て行つてゐた青年義勇隊の訓練に就て、その指導並に經營に關する方策と、管理運營の主體を確立し、また一貫的指導を與へるものとしてその設立は劃期的な意義を有するものである。

本部は新京特別市に設置され、日滿兩國政府の協議決定せる訓練本部長の下に、一室三部制を執つて義勇隊訓練の一貫的指導統轄と基本特別兩訓練所並に政府の指定する實務訓練所の經營に當つてゐる。

【訓練本部の機構】 訓練本部は本部長の下に、督務室、總務部、訓練部、管理部の一室三部制を執り、各部は更に十二科に分れてゐる。

- 訓練本部長
  - 督務室
  - 總務部
    - 庶務科
    - 人事科
    - 會計科
    - 企畫科
    - 弘報科
  - 訓練部
    - 教務科
    - 教學科
    - 教練科
    - 農事科
    - 保健科
  - 管理部
    - 補給科
    - 建設科

現地訓練所概說

青年義勇隊の訓練生は始め「滿蒙開拓青少年義勇軍」として日本內地青少年のうちから選拔され、茨城縣東茨城郡下中妻村內原に在る滿蒙開拓青少年義勇軍內原訓練所で約二ヶ月間の內地訓練を終つて渡滿すると同時に、「滿洲開拓青年義勇隊」と名を改めて現地訓練所に入所するのである。

【訓練所の種別】 現地訓練は一ヶ年の基本訓練と二ヶ年の實務訓練とに分たれ、これが實施機關として基本訓練所、甲種、乙種、丙種の各實務訓練所及び特別訓練所が設けられてゐる。(次表參照)。

(一) 基本訓練所

基本訓練所に於ける訓練は主として開拓民としての基礎的訓練、人格的陶冶に努めると共に、滿洲の氣候風土、衣食等に親しましめ、滿洲國の一般事情に通ぜしめることを目的としてゐる。基本訓練所は訓練本部が經營に當り、現在鐵驪、勃利、嫩江及び對店の四ヶ所に設けられてゐる。

(二) 甲種實務訓練所

甲種實務訓練所は、前述の如く、その訓練期間を原則的には二ヶ年とし、基本訓練修了生に對し、基本訓練と一貫して、更に實際的訓練を徹底させることを目的としてゐる。甲種實務訓練所は滿拓が經營するのであるが、訓練修了後は集團開拓民として當該訓練地に定着せしめることを目標としてゐる。第二次開拓地として有名な千振村の近郊大林訓練所を始め十三ヶ所、本年度の新規計畫としては更に二十一ヶ所新設されることゝなつてゐる。

(三) 乙種實務訓練所

乙種實務訓練所は二ヶ年の訓練修了後開拓農民として他方へ移住せしめることを目標とするものであつて、從來滿拓經營であつた寧安訓練所等八ヶ所と、一般に鐵道自警村訓練所と呼ばれてゐた滿鐵訓練所二十ヶ所とである。滿拓經營であつたものは省縣に移管され、滿鐵訓練所は從來通り鐵道總局の經營である。尙本年度は十九ヶ所の新設を見ることゝなつてゐるが、內十一ヶ所は滿鐵訓練所である。

(四) 丙種實務訓練所

丙種實務訓練所といふのは訓練生の特質に應じ、開拓農民以外の者として特殊訓練を施すことを目的とするもので訓練本部及び各種關係機關に依つて經營に當ることゝなつてゐる。本訓練所はその內容によつて二種に分けられ、一つは將來義勇隊或は開拓團指導員、醫師、教員其他として養成すべきものに對し、基礎教育を施し更に上級の專門教育を授けるものである。この種の訓練所には訓練本部の直營にかゝる嚮導訓練所が本年六月哈爾濱に設置された。その二は專門的技術訓練を施して重要鑛工部門に於ける基幹技術員を養成するもので、現在吉林人造石油株式會社經營の吉林鑛工訓練所がある。

(五) 特別訓練所

特別訓練所は特別な訓練を要する訓練生を收容すると同時に、訓練所の建設狀況により渡滿訓練生を直ちに基本訓練所に入所せしめ得ない場合、これに收容するといふプール的役割をも有する謂はゞ變則的基本訓練所とも謂はるべき性質のもので、現在哈爾濱、昌圖及び一面坡の三ヶ所に設けられ、訓練本部が直接經營に當つてゐる。

【訓練所の編成】 基本訓練所は少數且集團的ならしめることを目指し、その收容人員は一ヶ所六千人乃至一萬二千人である。その組織は左の如くである。

- 所長 — 副所長
  - 本部
    - 總務部
      - 庶務係
      - 企劃係
    - 經理部
      - 經理係
      - 用度係
    - 訓練部
      - 教學係
      - 教練係
      - 農事係
      - 特技係
    - 増健部
      - 營養係
      - 醫療防疫係 — 本部病院
  - 大隊(長)(一大隊一五箇中隊一、五〇〇名編成) — 中隊(長)(一中隊一六箇小隊三〇〇人編成)
    - 中隊本部
    - 大隊本部
      - 總務係
      - 經理係
      - 訓練係
      - 増健係 — 大隊分院

甲種實務訓練所 は三百名を組織單位とし左の如き編成である。

- 所長
  - 本部
    - 農事
    - 教學
    - 教練
    - 事務
    - 畜產
    - 醫療
  - 小隊(長)(訓練生五〇名編成) — 班(長)(概ね一班十名五班を以て小隊を編成す)

乙種實務訓練所 の組織は寧安の如き多數中隊を有するものは基本訓練所に、東寧其他三百名を單位とするもの及滿鐵訓練所(三百名單位)は甲種訓練所に各々準じ、孫吳、大額の如き訓練所はこの中間にあつて本部組織は基本訓練所に準じてゐるが、大隊編成を執つてゐない。

特別訓練所は基本訓練所の組織に準じてゐる。

訓練本部の事業概要

之等訓練所の指導經營機關を圖示すれば次の如くである。

- 訓練本部(指導統制)
  - 基本訓練所 (訓練本部直營)
  - 特別訓練所 (同 、)
  - 甲種實務訓練所 (滿拓公社經營)
  - 乙種實務訓練所 (省縣又は鐵道總局經營)
  - 丙種實務訓練所 (訓練本部直營又は特殊會社の經營)

即ち、訓練本部は現地訓練の一貫的指導統制機關であるが、同時に基本、特別兩訓練所竝に現在丙種實務訓練所中嚮導訓練所を直營してゐる。これら訓練所の經營の他に訓練本部は訓練生の醫療機關として病床數二百八十二床を有する各科綜合の病院、哈爾濱中央醫院竝に同病院分院を直營してゐる。

「備考」乙種實務訓練所は滿洲開拓政策基本要綱に基き省縣經營となつてゐるが、當分その經營は訓練本部が當つて居り、特に寧安訓練所はその特殊事情により、永く訓練本部の經營下に置かれる豫定である。

視察について

大小數十の訓練所を一々視察するわけにゆかないが、基本訓練所、特別訓練所、實務訓練所を一通り視ることによつて大體の様子は捉むことができる。然しこれ等の訓練所も開所草創の際ではあり、交通機關は概して不便であり、未だ設備の整はぬ處も多々あらう。

誰にも容易に訪ねられる訓練所は哈爾濱郊外礎の哈爾濱特別訓練所である。此處は一般の視察には打つて付けの場所と思ふから左に簡單な注意事項を掲げる。尚視察關係には特に國立開拓指導員訓練所への連絡も必要かと思はれる。(開拓地視察の項參照)

哈爾濱特別訓練所

哈爾濱訓練所の前身は哈爾濱日本國民高等學校で哈爾濱郊外王兆屯で一次から五次までの先遣隊は、殆んど此處で訓練を受けた人々である。昭和十一年の秋百萬戸開拓民案が採擇されるに當り、前記國民高等學校は滿洲移住協會の管理に移りて名稱を滿蒙開拓哈爾濱訓練所と改め義勇隊制度成るに及んで特別訓練所を設くるに到つた。

同訓練所の視察は團體視察なら滿洲拓植公社哈爾濱地方事務所に交涉し訓練所のトラックを出してもらつてもよい。

時間約四十分料金片道一人一圓。

個人視察の場合は透籠街登喜和百貨店前より哈爾濱交通バスに乘れば約四十五分で訓練所に達する。

發着時間は

透籠街發　七時、九時、十一時、十四時、十六時、十八時

訓練所發　八時、十時、十二時、十五時、十七時、十九時

料金片道　三十錢

その◎印のバスにて香坊終點まで　十錢

それより訓練所まで馬車　料金不定

自動車　三十分―四十分

料金片道　七圓

宿泊　一般視察者一泊(三食附)一圓

收容人員は合宿式なら百名位まで收容出來る。但し寢具の用意はない。突然の視察者でも二、三人なら宿泊の準備はある。但し所內視察時間は三時間で充分だから、哈爾濱の市街に歸つて普通の旅館に泊つた方が何かと便利である。

尚佳木斯より綏化に出る神蓮線の開通により この線を選べば開拓團を初め、鐵驪訓練所の見學を初め北滿の視察を充分に遂げる事が出來る。

滿洲開拓青年義勇隊訓練所一覽

康德七年五月一日現在

種別	訓練所名	輸送關係 降車驛	驛ヨリノ距離	驛ヨリノ交通	所在地及通信先(△印ハ通信先)
基本訓練所	鐵驪	鐵山包	四	トラック	北安省鐵驪縣
	勃利	勃利	四〇	バス一日二往復	三江省勃利縣
	對店	海北	三一	トラック	北安省海倫縣海北鎮
	嫩江	八洲	四	トラック	北安省嫩江縣八洲
特別訓練所	一面坡	一面坡	一三	トラック	濱江省珠河縣
	哈爾濱	哈爾濱	一六	バス一日二往復	濱江省哈爾濱市礎
	昌圖	昌圖	一七	トラック	奉天省昌圖縣
甲種訓練所(滿拓)	樺川縣大林	千振	一四	湖南營迄バス後十二粁トラック	三江省樺川縣　△同千振郵政局氣付
	寶淸縣龍頭	興凱	六〇	バス及トラック	東安省寶淸縣　△虎林線興凱驛氣付
	寶淸縣頭道	同	六〇	同	東安省寶淸縣　△虎林線興凱驛氣付
	葦河縣平陽	雙陽屯	二	徒歩	濱江省葦河縣亞布洛尼
	鐵驪縣北斗	鐵山包	九	トラック	北安省鐵驪縣　△鐵驪訓練所氣付
	安達縣薩爾圖	薩爾圖	六	トラック	濱江省安達縣　△同薩爾圖驛氣付
	海倫縣三井	海北	二四	トラック	北安省海倫縣
	寧安縣南山市	山市	二二	トラック	牡丹江省寧安縣　備考(二)參照
	鎮東縣大崗	鎮東	二六	トラック	龍江省鎮東縣
	嫩江縣柏根	柏根里	〇・五	徒歩	北安省嫩江縣柏根里
	嫩江縣青山	八洲	一〇	トラック	北安省嫩江縣　△嫩江訓練所氣付
	嫩江縣伊拉哈	伊拉哈	四	トラック	北安省嫩江縣伊拉哈
	寧安縣鏡泊學園	東京城	五〇	トラック及發動機船	北安省嫩江縣　備考(三)參照
乙種訓練所(省縣經營)	寧安	東京城	一六	トラック	牡丹江省寧安縣沙蘭鎮
	大石頭	大石頭	三	トラック	吉林省敦化縣
	孫吳	孫吳	一	トラック	黑河省孫吳縣
	饒河北進寮	虎頭	一	汽船	東安省饒河縣　備考(五)參照
	興安	海拉爾	一	上庫力マデトラック先ハ馬車	興安北省額爾克納左翼旗　備考(八)參照
乙	馮家	馮家	南東　二		錦州省彰武縣　△同大鄭線馮家驛
	取柴河	取柴河	北　一		吉林省永吉縣　△同奉吉線取柴河驛
	河灣子	河灣子	北　四		吉林省永吉縣　△同京圖線河灣子驛
	小姑家	小姑家	南西　四		吉林省蛟河縣　△同京圖線小姑家驛
	柳樹河	柳樹河	西　六		同　同京圖線柳樹河驛

種訓練所（滿鐵）

楊木	楊木	北	一	三江省勃利縣　△同虎林線楊木驛
青山	青山	北	二・五	同　△同圖京線青山驛
追分	追分	北	二	三江省樺川縣　△同圖佳線追分驛
紫陽	紫陽	西	｜	牡丹江省東寧縣　△同綏寧線紫陽驛
太嶺	太嶺	北西	｜	同省穆稜縣　△同濱綏線太嶺驛
虎山	虎山	北	二	三江省勃利縣　△同圖佳線虎山驛
吉山	山市	西	一六	牡丹江省寧安縣　△同濱綏線山市驛
李家	李家	北東	一	北安省通化縣　△同濱北線李家驛
二井	二井	北東	｜	北安省北安縣北黑線二井驛
龍鎭	龍鎭	北東	｜	同　△同龍鎭驛
瑷琿	瑷琿	北	｜	黑河省瑷琿縣　△同北黑線瑷琿驛
寧年	寧年	南東	二	龍江省富裕縣　△同齊北線寧年驛
成吉思汗	成吉思汗	東	｜	興安東省布特哈旗　△同濱洲線成吉思汗驛
哈川	寧年	南	六	龍江省富裕縣　△同齊北線寧年驛
大和	大和		｜	興安東省喜札嘎爾旗　△同白阿線大和驛
丙種訓練所　嚮導訓練所	哈爾濱		一六	濱江省哈爾濱市
吉林鑛工	哈達灣		四	吉林省永吉縣　△備考（九）參照

「備考」（一）訓練所名は滿洲開拓青年義勇隊「何々」訓練所と稱し、乙種中滿鐵訓練所は特に滿鐵「何々」訓練所と呼ぶ。（二）（電報）寧安縣海林警察署山市分署氣付（郵便）山市驛氣付　（三）（通信）牡丹江省寧安縣東京城牛島光太郎氣付　（四）（夏季）饒河縣公署氣付、（冬季）同縣饒河勝瀨部隊氣付　（五）電話興安北省公署開拓廳殖産科氣付、（其他）同省海拉爾郵政局私書函二七號　（六）吉林省吉林市外吉林人造石油株式會社內　（七）他ニ乙種訓練所三箇所アリ

康德七年新設訓練所

【甲種訓練所】

楊木崗（東安省密山）、小興凱（同上）、寶石（東安省寶清）、海濵（牡丹江省寧安）、拉哈密（仝上）、長嶺（濱江省葦河）、腰林（三江省樺川）、董家（北安省海倫）、萬順（仝上）、不二（同慶城）、志賀（同上）五花（同鐵驪）圖南（同上）、南柏根（同嫩江）、南四十里河（同上）、八洲（同上）、大椅山（同上）、大南山（同上）、圈泡（同上）、聚和（龍江省訥河）、牙克石（興安北省索倫）、

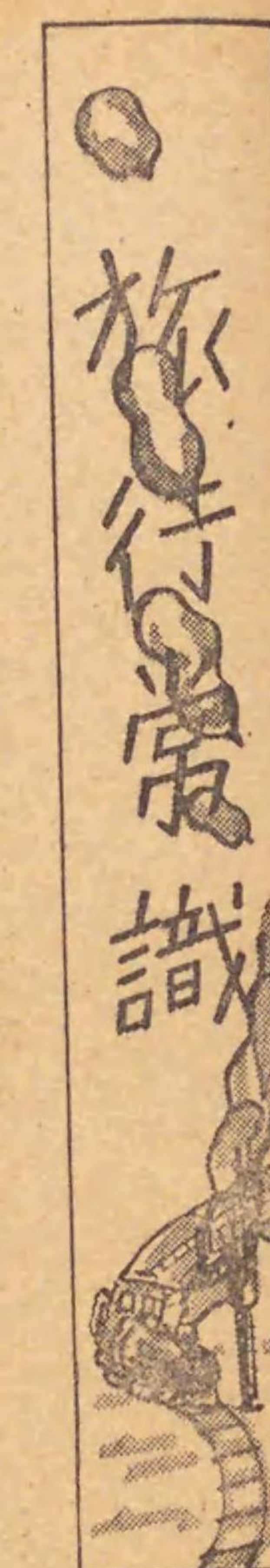
【乙種訓練所】

烏蘇里（東安省虎林）、東寧（既設東寧第一訓練所ト他ニ大城、高安兩訓練所ヲ含メテ東寧訓練所トナス。牡丹江省東寧）、老萊營（同綏陽）泥秋（北安省嫩江）、尾山（同北安）、大額（黑河省瑷琿）勝武（黑河省奇克）、大公河（黑河省遜河）、托力木（同瑷琿）、朝水（同）

【滿鐵訓練所】

四台子（安東省鳳城）、耿家屯（奉天省遼陽）、綏中（錦州省綏中）、小二家子（同黑山）、平房（牡丹江省綏陽）、通北（北安省通北）、黃金子（黑河省瑷琿）、尚家（濱江省肇東）、大溝（龍江省甘南）、烏奴耳（興安北省索倫）、歸流河（興安南省科爾沁右翼前旗）

各新設訓練所ハ本年初先遣隊（五六十名）ヲ現地ニ入レ本隊ハ秋期移行ス。



滿洲旅行

滿支を旅行するには旅費は幾何あればよいか、日數は何日位かゝるか、切符はどんなのを買へば便利で、割安になるか、其他旅館のことや、經路から旅裝、稅關の話など、これさへ見れば滿支の旅行について一通りのことは分ると云つた事柄を取纒めたものである。

經路（日本より）

【海路大連經由】

（イ）大阪商船經由

毎月二十五、六回神戶出帆、門司、大連に往復してゐる。

（ロ）日本郵船經由

主として南九州地方の旅客のための航路で、月三回、鹿兒島、長崎と大連間を往復運航してゐる。

【朝鮮經由】

（イ）釜山經由

毎日朝夕二回下關と釜山間に鐵道省直營の連絡船があり、釜山及び下關では急行列車に夫々接續する。

（ロ）北鮮經由

日本海航路

新潟、羅津、淸津間　月十二回

敦賀、淸津、羅津間　月三回

何れも兩地間を往復運行してゐる。

【航空路】

毎日東京、大連間を發着してゐる。途中着陸地は名古屋、大阪、福岡、大邱、京城、平壤、新義州であるが、別に大連—京城—福岡—東京と、新京—奉天—京城—福岡—東京の急行便がある。

（滿洲北支間は「北支蒙疆」の項參照）

旅行季節

春；四月中旬の杏の花の季節から、下旬の櫻の頃を過ぎて、アカシヤ薫る五月、新綠の六月頃までが滿洲旅行に一番良い時期である。

夏；七月中旬から八月上旬にかけて所謂滿洲の雨期に入るが、內地の梅雨の樣に毎日降り續くと云ふことは珍しく、それに朝夕は急に涼しくなつて北滿なら袷が欲しいやうなこともあり、內地の夏より遙かに凌ぎ易い。

秋；滿洲の秋は短いが、南滿地方なら十月、北滿地方なら九月一杯は母國の秋と同樣、紅葉の季節で、春にも優る旅行のシーズンである。

冬；滿洲の冬は三寒四溫と云つて、寒さが三日續けば、次に暖い日が四日續くと云ふやうに、自然に氣候が緩和されてゐる。此の時期は滿洲として一番活氣のある時で、世界的な農業特産物の出廻りが特に活潑になり、又スケート、スキー等のウインタースポーツが大陸の大自然を背景として行はれる。尙狩獵家の活躍期に入るのも此の頃で「狩獵滿洲」の名は遠く歐米にまで響いてゐる。

服裝と携帶品

鐵道を離れてずつと奧地へ入る人は別に雨具、食糧の携行と濕地地帶旅行の用意が必要であるが、鐵道沿線の主要都市を視察

する旅行ならば、內地の旅行とさして選ぶところなく、取立てゝ特別に携行を要するやうなものはない、なるべく輕快な服裝―洋服の方が萬事に便利である。氣候が大陸的で酷暑期でも夜間は冷氣を覺えるから、腹卷とセーター類の用意が望ましい。雨は滅多に降らないから、洋傘よりスプリングか、レインコートを携行した方が、上記の理由からばかりでなく、埃除けとしても便利である。多は厚手の外套を用意すればよい。

又內地から携帶される寫眞機、望遠鏡等の高價品は歸路輸入品と見做され課稅される虞れがあるから、入國に際し左記の稅關箇所で携帶證明を受けて置く必要がある。

一　海路大連上陸の場合は神戶又は門司稅關で

一　釜山上陸朝鮮經由の場合は安東驛構內新義州稅關出張所で

一　清津、羅津、雄基上陸の場合は上三峰驛又は圖們驛內稅關出張所で

通貨と兩替

通貨の種類は日本貨幣、朝鮮銀行紙幣、滿洲貨幣の三種である。之等は等價に使用出來るから旅行中兩替の必要はないが、滿洲貨幣は歸路日本貨幣に兩替をする必要がある。

滿洲貨幣は奉天、新京、圖們、上三峰驛構內賣店、安東驛ホーム構內賣店並大連埠頭、釜山棧橋朝鮮銀行出張所で等價無料兩替をしてゐるからこれを利用すればよい。

又朝鮮銀行紙幣も大連埠頭、釜山棧橋の同銀行出張所で旅客のため兩替の便を計つてゐる。

尙旅行者は現金二百圓以上を國外に携帶する場合は管理當局の許可を要す。

旅　館

滿洲國內鐵道沿線主要地各驛旅館は大體茶代廢止が實行され（社線沿線各旅館は茶代絕對廢止）旅行者間に好評を博してゐる女中その他への心附は宿料支拂額の一割乃至二割をやれば結構である。

尙食事の取り樣如何によつて洋式ホテルが安價の場合もあり和式旅館の方が比較的小額の費用で濟む場合もあり蓋し一樣でない。

○單獨宿泊料

・洋式ホテル――鐵道總局直營ヤマトホテル及びその他の洋式ホテルには何れも歐、米兩式があり、宿泊は一人室一日凡そ金四圓以上、食事料は凡そ朝一圓五十錢、晝二圓、晚二圓五十錢である。

・和式旅館――所により一定してないが大體一泊二食附凡そ一等八圓以上、二等六圓、三等四圓である。

○團體宿泊料

滿洲國內鐵道沿線各旅館は大抵「滿洲旅館協會」に加入してゐて、左記の協定團體宿泊料及び食事料金に從つてゐる。

團體宿泊料及食事料金表（昭和十五年二月二十日改正實施）

區別	地域	宿泊料 一泊三食	缺食宿泊料 朝食缺	缺食宿泊料 晝食缺	缺食宿泊料 夕食缺	食事料 朝食	食事料 晝食	食事料 夕食	辨當代	席料 不食宿泊ノ場合	席料 休憩ノミノ場合	心付
小學校	州內	1.25	1.25	1.25	1.05	35	45	60	30	基本料金ノ三分ノ一	當該食事料金ノ半額	宿泊食事料金ノ七分
	州外	1.35	1.35	1.35	1.25	45	55	70	35			
	特殊	1.70	1.50	1.50	1.40	50	65	80	40			
中等學校	州內	2.10	1.80	1.80	1.70	60	70	1.00	40	同右	同右	同右
	州外	2.30	2.00	2.00	1.90	70	80	1.20	45			
	特殊	2.50	2.20	2.20	2.10	80	90	1.30	50			
專門學校以上	州內	2.60	2.30	2.30	2.20	70	90	1.15	45	同右	同右	同右
	州外	2.80	2.50	2.50	2.40	80	1.00	1.30	50			
	特殊	3.10	2.70	2.70	2.60	90	1.10	1.45	55			
青年團 教員團 軍人團	州內	3.10（一泊二食）	2.60		2.30	95	1.20	1.70	50	基本料金ノ二分ノ一	同右	同右
	州外	3.40	2.90		2.60	1.10	1.35	2.00	60			
	特殊	3.80	3.30		3.00	1.25	1.50	2.20	70			
普通團體	州內	自3.80 至6.00	自3.20 至5.40		自2.80 至5.00	自1.10 至1.70	自1.60 至2.50	自2.25 至3.40	70	同右	同右	同右
	州外	自4.20 至6.50	自3.60 至5.90		自3.20 至5.50	自1.20 至1.85	自1.75 至2.70	自2.40 至3.70	80			
	特殊	自4.50 至7.50	自3.90 至6.90		自3.50 至6.50	自1.30 至2.15	自1.90 至3.15	自2.65 至4.40	100			

備　考

一、普通團體にして本料金以上のもの希望の場合は其の都度團體側と協定のこととす

一、特殊とは牡丹江、哈爾濱、齊々哈爾、承德の各地を謂ふ

一、本協定にて團體とは十人以上の場合を又敎員團體とは初等學校の敎員團、軍人團とは下士官以下軍人團を謂ふ

一、宿泊料は學生團體に對しては一泊三食付其の他の團體に對しては一泊二食付

一、缺食宿泊料適用に就ては缺食すべき食事の少くとも一食前に其の旨申出あるを要し其の後の申出に對しては當該食事料の實費を申受けること

一、夕食料金は夜十二時迄に旅館を出發することとし之に對する室料を含みたるものにして之を超える時は朝食缺の室料を申受くること

朝鮮旅館協會協定團體宿泊料及食事料金表（昭和十五年一月一日改正）

種別	宿泊料金 一泊三食付	缺食宿泊料金 晝食缺食ノ時	缺食宿泊料金 夕食缺食ノ朝	食事料金 朝食	食事料金 夕食	食事料金 辨當	備考
小學校兒童	1.55	1.40	1.20	0.60	0.70	0.30	並折
中學校生徒	2.10	1.90	1.65	0.75	0.90	0.40	
專門學校以上	2.80	2.60	2.10	0.80	1.30	0.40	

青年團軍人下士官以下	四・〇〇	二・四〇	〇・九〇	一・二〇	〇・五〇	上折
普通團體	一泊二食付 自四・〇〇以上 至五・〇〇				六〇	二重折
紳士團體	自五・五〇錢以上 至六・五〇				八〇	同

本表による一泊と稱するは前日正午より翌日正午を以て計算す

○青年團軍人以下の團體にして夜出發夕食不用の際は夕食料金の半額を室料として申受く

○紳士團體並に普通團體にて朝投宿(食事付)宿料の二分の一夜出發(食事付)宿料の二分の一を申受く

○十名以上を團體とす

內地鮮滿間往復又は廻遊團體割引率

團體種別	人員	省線	朝鮮局線・滿鐵所管線・朝鮮鐵道線	華北交通線	華中鐵道線	日本郵船・大阪商船・東亞海運	大連汽船
學校教職員及學生	一〇人以上	五割	五割	五割	三割	二割五	二割五
	二〇人以上	五割	五割	五割	三割	二割五	三割
	三〇人以上	五割	五割	五割	三割	三割	三割
	五〇人以上	五割	五割二五	五割二五	三割五	三割	三割五
	一〇〇人以上	五割	五割五	五割五	四割	三割	三割五
	二〇〇人以上	五割	五割七五	五割七五	五割	三割	三割五
	三〇〇人以上	五割	六割	六割	五割	三割	三割五
普通	一〇人以上	三割	三割	三割	二割五	一割五	一割
	二〇人以上	五割	五割	四割	二割五	一割五	一割五
		五割			二割五	一二等二割	
	三〇人以上	五割	五割	四割		二割	一割五
		五割			三割	一二等二割五	
	五〇人以上	五割	五割	五割		二割五	二割
	一〇〇人以上	五割	五割	五割	三割五	二割五	二割
	二〇〇人以上	五割	五割	五割	四割	二割五	二割
	三〇〇人以上	五割	五割	五割	四割	二割五	二割

汽車賃

線別	一粁に付 一等	二等	三等
滿鐵線・北鮮線・國有線	五分	三分	一分八厘

急行料金

特急あじあ	三〇〇粁迄	五〇〇粁迄	八〇〇粁迄	八〇一粁以上
三等	一・〇〇圓	一・五〇圓	二・〇〇圓	二・五〇圓
二等	二・〇〇	三・〇〇	四・〇〇	五・〇〇
一等	四・〇〇	五・〇〇	六・〇〇	七・五〇

「はと」「ひかり」「のぞみ」其他の急行	三〇〇粁迄	五〇〇粁迄	八〇〇粁迄	一、三〇〇粁迄	一、三〇一粁以上
三等	〇・五〇圓	〇・七五圓	一・〇〇圓	一・二五圓	一・五〇圓
二等	一・〇〇	一・五〇	二・〇〇	二・五〇	三・〇〇
一等	二・〇〇	二・五〇	三・〇〇	三・七五	四・五〇

（鮮滿連絡の場合は五〇〇粁を最低とする）

寢臺料金

	上段	中段	下段
三等	一・〇〇圓	一・五〇圓	一・八〇圓
二等	三・〇〇	—	四・五〇
一等	五・〇〇	—	七・〇〇

食堂車食事料

	朝	晝	夕
洋食 あじあ	—圓	二・〇〇圓	二・〇〇圓
洋食 その他	九〇	一・五〇	一・五〇
和食 あじあ	—	二・〇〇	二・〇〇
和食 その他	六〇	一・三〇	一・三〇
滿食	—	一・〇〇	一・〇〇

洋食　一品料理（二〇錢以上）

丼・ランチ・幕の內（四五錢以上）

構內食堂

鐵道總局直營　大連、奉天、開原、四平街、新京、錦縣、安東、承德、吉林、圖們、哈爾濱、齊々哈爾、滿洲里、牡丹江、綏芬河、佳木斯、東寧

其他　大石橋、遼陽、蘇家屯、鐵嶺、昌圖、公主嶺、大虎山、蛟河、敦化、德惠、雙城堡、滿溝、安達、香坊、阿城、帽兒山、濱江、鄭家屯、白城子、昂々溪、兎渡河、海拉爾、一面坡、亞布洛尼、亮子嶺、横道河子、穆稜、下城子、羅津、札蘭屯、博克圖

辨當發賣驛

鐵道總局直營　大連（構內食堂）奉天、四平街、新京、安東、承德、哈爾濱、牡丹江、吉林、圖們

其他　金州、瓦房店、熊岳城、大石橋、遼陽、鐵嶺、昌圖、公主嶺、橋頭、鷄冠山、大虎山、錦縣、山海關、彰武、義縣、朝陽、葉柏壽、齊々哈爾、寧年、訥河、王爺廟、梅河口、西安、石嶺、通化、德惠、陶賴昭、雙城堡、安達、阿城、呼蘭、濱江、五常、綏化、海倫、北安、龍鎮、孫呉、春陽、鹿道、勃利、鷄西、東安、虎林、一面坡、横道河子、下城子、清津、輪城、古茂山、會寧、上三峯、南陽、訓戎、阿吾地、羅津、開原、綏芬河、滿洲里、佳木斯

辨當　五〇錢、壽司　三〇—四〇錢、茶　十錢

手荷物

無賃で取扱ふ手荷物の重量は旅客一人に付次の重量までは無料で運送する。

一等六〇瓩　二等四〇瓩　三等三〇瓩

小兒は各等この半量。

無賃運送重量を超える手荷物を託送になしたときは、其の超過重量に對してのみ、次の通常小荷物運賃と同額の運賃を拂ふこと。

通常小荷物運賃

粁程＼重量	一瓩	二瓩	四瓩	六瓩	九瓩	三瓩	以上六瓩を増す毎に
	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
八〇粁迄	一五	二〇	二五	三〇	三五	四〇	一〇
二四〇粁迄	一五	二〇	二五	三五	四五	五五	二〇
四八〇粁迄	一五	二五	三五	四五	六〇	七二	三〇
八〇〇粁迄	一五	二五	四〇	五五	七五	九五	四〇
以上四八〇粁を増す毎に	五	一〇	一五	二〇	二五	三〇	一〇

主要地車馬賃

左表は大體の標準であるから乘車の際は豫め料金を取極めるのが得策である。

尚大連、新京、奉天の自動車はメーター制で大連は市內二千米まで四十錢、それより七百二十米又は其端數毎に十錢、郊外は五割增、待車五分毎に十錢新京は千四百米迄四十錢以後五百米又は其端數毎に十錢。待車五分毎に十錢、奉天は千八百米迄四十錢、以後四百米毎に十錢增。待車三分毎に十錢、右表の外大連、奉天、新京、哈爾濱等の大都市には「觀光バス」があり、極めて安價に主要箇所の觀光視察が出來る。（昭和十五年八月現在）

乘物及時間	一時間 洋車	一時間 馬車	一時間 自動車	半日（三時間）▲附シアルハ五時間當トス 洋車	半日 馬車	半日 自動車	一日（七時間）▲附シアルハ十時間當トス 洋車	一日 馬車	一日 自動車	備考
大連	・四〇	・六〇	—	一・二〇	一・八〇	—	二・五〇	四・〇〇	—	
旅順	市内・二五 市外里程ニヨル	・四〇	二・五〇	▲一・二〇	▲二・〇〇	▲一〇・〇〇	▲二・二〇	▲市内三・七五 戰跡四・二〇	▲一八・〇〇	
鞍山	・四八	・七〇	三・〇〇	▲一・八〇	▲三・〇〇	▲一三・〇〇	▲三・二〇	▲六・〇〇	▲三五・〇〇	
奉天	・四〇	・八〇	三・五〇	一・二〇	二・四〇	一〇・五〇	二・八〇	五・六〇	二四・五〇	
四平街	・三〇	・六〇	—	・六〇	一・五〇	—	一・五〇	三・〇〇	—	
新京	・五〇	・七〇	—	一・五〇	二・一〇	—	三・五〇	四・九〇	—	
安東	・五〇	・六〇	（普）四・〇〇（豆）三・〇〇	一・〇〇	一・九〇	（普）一六・〇〇（豆）一三・〇〇	一・八〇	▲三・八〇	▲（普）四〇・〇〇 ▲（豆）三〇・〇〇	半日ヲ四時間トス
營口	—	—	—	—	一・五〇	九・〇〇	—	三・五〇	二一・〇〇	
撫順	・二五	・四〇	三・〇〇	・七〇	一・二〇	一三・〇〇	一・三〇	三・五〇	二〇・〇〇	イヅレモ市内料金炭鑛方面ヲ含マズ
吉林	・三〇	・五〇	三・五〇	・九〇	一・五〇	▲一七・〇〇	▲二・五〇	▲四・〇〇	▲三三・〇〇	
延吉	・六〇	一・〇〇	五・〇〇	一・八〇	五・〇〇	一五・〇〇	四・二〇	一二・〇〇	三五・〇〇	
牡丹江	・三〇	・七〇	五・〇〇	一・八〇	三・五〇	二五・〇〇	三・六〇	七・〇〇	四五・〇〇	
通化	・八〇	一・〇〇	四・五〇	一・五〇	二・〇〇	一三・五〇	三・〇〇	四・〇〇	三一・五〇	
佳木斯	・六〇	・七〇	六・〇〇	二・〇〇	三・五〇	一八・〇〇	六・〇〇	七・〇〇	—	
哈爾濱	・五〇	・五〇	五・〇〇	一・五〇	一・八〇	—	四・〇〇	四・〇〇	—	
齊々哈爾	・五〇	・五〇	三・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	九・〇〇	二・〇〇	二・〇〇	二一・〇〇	
滿洲里	—	一・〇〇	—	—	三・五〇	—	—	七・〇〇	—	
錦縣	・一〇	・六〇	四・〇〇	一・〇〇	一・八〇	一三・〇〇	一・八〇	三・五〇	二六・〇〇	
承德	・五〇	一・〇〇	市内三・〇〇	一・〇〇	二・〇〇	市内九・〇〇	二・〇〇	四・〇〇	市内一九・〇〇	馬車ハ車台ナク馬ノミ
山海關	・九〇	一・〇〇	—	二・五〇	三・〇〇	—	三・五〇	四・〇〇	—	
（淸津）	—	—	四・〇〇	—	—	一三・〇〇	—	—	三五・〇〇	
（羅津）	—	—	四・〇〇	—	—	一三・〇〇	—	—	二六・〇〇	

撮影、模寫禁止について

左の場所は要塞地帶であるから、寫眞の撮影及び模寫は要塞司令官の許可を得なければならない。

大連及び其附近、旅順及び其附近、鴨綠江鐵橋及び其附近、北鮮羅津附近、圖們鐵橋及び其附近、但し此の外にも鐵橋、框舍は一般に禁止されてゐる。

尙軍事機密特別地域（間島省琿春縣、牡丹江省東寧縣、綏陽縣、穆稜縣、三江省蘿北縣、綏濱縣、同江縣、撫遠縣、富錦縣、鶴立縣の一部、東安省虎林縣、密山縣、饒河縣、寶淸縣大和村、北安省北安縣の一部、黑河省全部、興安北省全部、興安東省布特哈旗火燎溝及び綽爾河上流附近、喜扎嘎爾旗及び航空機上よりの測量、撮影、模寫錄取等は一切禁止されてゐるから注意を要する。

各主要都市觀光地に於ける撮影については別項寫眞撮影要覽に掲げた。

郵便料金

▽通常郵便料金

種別重量	國內	日本	中華蒙疆	外國
第一種 書狀 二〇瓦又は其の端數毎に	四錢	四錢	五錢	二〇錢
第二種 通常葉書	二錢	二錢	二錢五厘	一〇錢
往復葉書	四錢	四錢	—	二〇錢
第三種 定期刊行物 六〇瓦又は其の端數毎に	五厘	五厘	五厘	四錢（五〇瓦迄）
第四種 書籍印刷物、寫眞、書畫其の端數毎に 一二〇瓦又は	二錢	二錢	二錢	
第五種 農產物種子	一錢	一錢	（一〇〇瓦迄）	
商品見本 一二〇瓦又は其の端數毎に	二錢	二錢	二錢	八錢

▽特殊郵便料金

書留料	日本宛	一箇に付	八錢
	外國宛	同	一六錢
小包料	內國	一瓩迄	二〇錢
		其の端數毎に	一〇錢
	日本	一瓩迄	四五錢
	關東州	同	二〇錢
	中華・蒙疆	同	四〇錢

▽航空郵便料

	日本宛	北支宛	蒙疆宛
書狀 二〇瓦又は其の端數毎に	三五錢	二〇錢	一六錢
通常葉書	一八錢	一〇錢	一三錢

▽電報料金 私報

同一市街內發著	一語に付	三錢
滿洲內及滿鮮間に發著	同	六錢
日本內地、臺灣、樺太と滿洲に發著	同	八錢
北支及蒙疆方面	一語に付	一二錢

一通の語數が五語に滿たない場合でも最低料金として五語分の料金を支拂はなければならない。一語とは本文及指定略號の字數を通算し五字を云ふ。

旅行記念スタンプ

（括弧內は接續驛で他線にも重復掲出してゐる）

連京線…大連埠頭、甘井子埠頭、大連、沙河口、（周水子）金州、三十里堡、普蘭店、瓦房店、松樹、熊岳城、沙崗、蓋平、（大石橋）、海城、湯崗子、鞍山、首山、遼陽、煙臺、（蘇家屯）、（渾河）、（奉天）、鐵嶺、開原、昌圖、（四平街）、郭家店、公主嶺、大屯（新京）、「あじあ」列車中

安奉線…（蘇家屯）、歪頭山、本溪湖、宮原、橋頭、下馬塘、連山關、鷄冠山、鳳凰城、高麗門、五龍背、安東

旅順線…（周水子）、夏家河子、旅順

撫順線…（渾河）、撫順

營口線…（大石橋）、營口

京圖線…（新京）、下九臺、土們嶺、吉林、（拉法）、蛟河、敦化、明月溝、（朝陽川）、延吉、（圖們）

朝開線…（朝陽川）、龍井、開山屯、（上三峯）

奉吉線…（奉天）、北奉天總站、瀋陽、東陵、撫順城、營盤、淸原、山城鎭、（梅河口）、海龍、朝陽鎭、盤石、（吉林）

平梅線…（四平街）、石嶺、西安、東豐、（梅河口）

梅輯線…通化

奉山線…（奉天）、新民、（大虎山）、（溝帮子）、（錦縣）、興城、興城海水浴場、綏中縣、山海關

壺蘆島線…壺蘆島

大鄭線…（大虎山）、通遼、（鄭家屯）

河北線…（溝帮子）、河北

錦古線…（錦縣）、（義縣）、金嶺寺、朝陽、葉柏壽、凌源、平泉、承德、北票、古北口

葉峰線…（葉柏壽）、赤峰

平齊線…（四平街）、（鄭家屯）、洮南、（白城子）、泰來、江橋、（齊々哈爾）

京白線…（新京）、農安、前郭旗、大賚城、（白城子）

白阿線…（白城子）、王爺廟、索倫、阿爾山

齊北線…（齊齊哈爾）、泰安、克山、（北安）

寧墨線…拉哈、訥河

濱北線…（哈爾濱）、（濱江）、（三棵樹）、呼蘭、萬家屯、綏化、海倫、（北安）

拉濱線…（哈爾濱）、（濱江）、（三棵樹）、拉林、五常、

新站、(拉法)
北黑線…(北安)、龍鎭、孫吳、黑河
京濱線…(新京)、德惠、松花江、陶賴昭、三岔河、雙城堡、(哈爾濱)
濱洲線…(哈爾濱)、滿溝、安達、昂昂溪、富拉爾基、同避暑場、扎蘭屯、同避暑場、巴林、同避暑場、博克圖、海拉爾、滿洲里
濱綏線…(哈爾濱)、香坊、阿城、玉泉、帽兒山、一面坡、橫道河子、(牡丹江)、穆稜、下城子、綏芬河
圖佳線…(圖們)、東京城、寧安、林口、(牡丹江)
新義縣…(義縣)
北鮮線…淸津、會寧、(上三峰)、南陽、慶源、雄基、羅津
京釜線…釜山、釜山鎭、大邱、秋風嶺、大田、天安、成歡、水原、南京城、龍山、京城
京義線…(京城)、開城、黃海、黃州、平壤、新安州、定州、宣州、新義州

▽ビューロー案内所

大連、鞍山、奉天、四平街、新京、安東、營口、撫順、吉林、圖們、延吉、通化、牡丹江、佳木斯、淸津、羅津、哈爾濱、齊齊哈爾、滿洲里、錦縣、承德、山海關

【注意】郵便葉書に旅行記念スタンプを押捺する場合は裏面通信文記載面に押さないと第一種郵便物(書狀)の取扱ひを受け、受取人が不足税を取られるから注意を要する。

ストックナーゲル

旅の思ひ出として讃へらるゝストックナーゲルはステッキにトランクに机上のアルバムに永久消ゆることなき好箇の思ひ出として多くの旅行家に愛好されてゐる。

【一箇　一〇錢】

▽發賣箇所

大連・鞍山・奉天・新京・安東・營口・撫順・吉林・圖們・牡丹江・佳木斯・淸津・羅津・哈爾濱・齊齊哈爾・滿洲里・錦縣・承德・山海關・北京・天津・張家口・石門・青島・上海ビユーロー各案内所

北支・蒙疆旅行

經路

滿洲、日本より北支への旅行經路には左の四コースがある。

【奉天―山海關經由】 奉天北京間には直通列車がある。奉天から天津へ約十三時間、北京へ十五時間を要する。沿線の都市竝觀光行樂地の主なるものに錦縣、壺蘆島、興城、山海關、秦皇島、北戴河、唐山等がある。

國境驛山海關では税關檢査、北支旅行身分證明書の檢査を受けねばならない。託送手荷物は驛ホームの税關檢査所で、手廻品の檢査竝身分證明書の檢査は停車中車内で行はれる。

【奉天―錦縣―承德經由】 奉天承德間に直通列車があり、承德北京間も昭和十三年十月より營業を開始したが、奉天承德間約二十時間、承德北京間約十二時間を要し山海關經由に比し實に二倍餘の時間を要する。

然し北京觀光には淸朝三百年の歷史を探る上に於て淸朝が蒙邊懷柔政策の根據地として塞外の秘境熱河承德に離宮をはじめ大寺廟の大建築群を造營し、蒙古民族懷柔により淸朝の基礎を固めんとした歷史的事實を無視することは出來ない。かうした意味から云つても、北京を見る前に是非承德を見て置くことが必要であり、また北京の美しさ、偉大を知る上に於て承德觀光を先に行ふことがどれ程效果的であるかは分明だ。又萬里の長城を見るに、絶好の地である。古北口驛では税關檢査、身分證明書の檢査がある。

【大連―天津航路經由】 大連天津間には大連汽船、阿波國共同汽船の各船が就航してゐる。

税關檢査は上陸後碼頭にある税關檢査所で、身分證明書は上陸前船中で行はれる。因に塘沽に上陸する場合は塘沽棧橋で行はれる。

【神戶―門司―青島經由】 以上は日本より滿洲を經て北支へ入る場合又は滿洲より直接北支へ入るコースであるが、日本より直接北支へ渡るコースの代表的なものとして東亞海運會社の神戶―門司―青島航路があり、每月八回往復して居り、東洋の避暑地、海水浴場として名高い青島に上陸、膠濟、津浦兩線を經て天津、北京に向ふものである。

旅行注意

【通　貨】 舊法幣の使用は禁止となり、同時に外國爲替の集中も實施され、北支に於ける通貨は中國聯合準備銀行發行の紙幣に統一せられたので他の紙幣は左記箇所で聯銀券に交換しなければならない。

一、山海關、塘沽、青島、天津は埠頭にある無料交換所
二、汽車、船舶中にある無料交換所
三、山海關　古北口驛構內聯銀出張所
四、蒙疆地方の通貨は蒙疆銀行券に限られ南口驛構內に於て他の紙幣と兩替を要する。

これ等の相場關係は何れも金銀等價である。

【身分證明書の携行】 居住地所轄警察署發行身分證明書を携行しなければ、北支入國を拒否せられるから旅行に先立つて必ず入手して置く必要がある。此の證明書は國境通過の際及び船車乘降の際取締官憲に依つて檢閱を受ける。又旅行中隨時提示を命ぜられる場合もあるから常に携帶してゐなければならない。

身分證明書下附手續については「入國、入境規則」を參照されたい。

【寫眞撮影に就て】 北支旅行に寫眞機の携行は差支へないが撮影に當つては特に愼重を期することを心懸けねばならない。何と云うても未だ戰後間もないのであるから軍事上其他の關係上撮影禁止となつてゐる地帶もあるので、列車からの撮影はもとより、視察觀光地に於ける撮影など、取締官憲又は案內人等につき豫めその指示を受け萬全を期することが必要である。尙詳細は同じく「入國、入境規則」を參照されたい。

【觀光地での注意】 名所、古蹟、戰跡等視察觀光地に於ける一般視察觀光上の注意事項は現地に於ける制札その他で告知されるが、それ以外に何等の明示を受けずに或種の拘束又は注意を受くべき箇所も多いからこれ等に就ては現地の取締官憲又は案內人の指示に從ふことは云ふまでもないがこの他、隨所に必要に應じて步哨線が敷かれてゐる場所があるからこの步哨線通過に際しては、步哨の誰何を受けなくとも、進んで挨拶をなし歸途に於ても一應の挨拶をなすは儀禮上必要であらう。又觀光視察箇所に步哨又は警備員が配置されて居る處は許可を必要とすること勿論で、寫眞撮影模寫等に關しては箇々に就てその指示に從ふことが是非必要である。

【戰利品、圖書、新聞等の携出に就て】 旅行中各地で種々土產物等購入されることであらうが、土產物その他買物の包紙に古新聞等を利用したものも多いが、古新聞等の中には、反滿抗日的な舊政權時代の新聞もあるから、一應注意して置く必要がある。

また圖書等も支那、外國で發行されたものには風紀公安上相當注意を要するものもあるので、これ等を滿洲國又は日本へ携出する事は嚴禁されてゐるから、購入に際して特に注意しなくてはならない。その他戰利品と目されるもの(青龍刀、銃彈の藥莢、寺廟、古蹟で入手したるが如き佛像古瓦の類等)は官憲の許可したるものを除き全部沒收されるから豫め注意を要する。

【軍隊慰問に就て】 軍隊慰問を目的とする團體旅行で特に注意すべきは、軍主腦部を訪問し北支の諸問題について說明を求めることである。軍主腦部の方々は最高機關としての計畫運營に就て、それぐ〵多忙

な仕事に一分一秒を惜しまれてゐる狀態であるから、一々その方々を煩すことは遠慮すべきであらう。それより奧地前線の將兵慰問をしてこそ、慰問旅行の本義があるのであるから、事情に依り全部が行動を共にすることが出來なければ、一人でも二人でも一同を代表して奧地に慰問することは豫め計畫して置くべきで、慰問品の携行は自由意志とは云へ、是非實行して欲しいものである。個人旅行者でも例へば八達嶺の萬里長城見物に赴くにしても、同地を警備する將兵諸士の慰問品を多少なり携行することは心懸くべきであらう。

【稅　關】 山海關、古北口の兩國境驛及び青島、天津碼頭（又は塘沽棧橋）で稅關檢査がある。入國の際は比較的簡單であるが出國の際は相當嚴重に行はれる。然し往路と雖も時局柄檢査は相當嚴重であるから餘計な手廻品は一切持たないことである。

【携帶品申告書】 天津、青島、上海より大連へ上陸する場合は物品稅令に基き携帶品の申告書を大連稅務署宛提出し檢査を受くるを要す。

【外國爲替管理】 天津、青島、上海向旅行者の貨幣無許可携帶限度及携帶品制限額は左の通り

旅費　現　金　二〇〇圓以下（但滿洲國內居住者は五〇圓以內とす）
別に爲替送金　三〇〇圓以下
商品　一〇〇圓相當額以下

【青島途中下船】（イ）途中下船又は次船に乘繼ぐ場合
乘船前又は船中にて申出ある證明書完備の旅客に對しては本船に於て上陸券を發行交付す。
（ロ）本船碇泊中上陸する場合
青島埠頭憲兵隊に出願し埠頭通行許可書の交付を受くるを要す。

旅裝と携帶品

【北　支】 春…三月頃から春らしくなり六月には暑くなる。

滿洲同樣春には「蒙古風」が吹き街路の惡い所では塵除眼鏡、マスク等が必要であるが服裝は內地と同樣で差支へない。

夏…暑さは特に甚しく、傳染病も各地に發生する爲、此の時期の旅行者は必ず「コレラ豫防注射」「種痘」を忘れてはならない。

秋…北支を旅行するなら秋である。暖かく小春日和が續き、豐饒北支はパールバックの「大地」を感じさせる。

初秋は夏服、晩秋は合服に薄外套があれば充分である。

冬…寒さは嚴しくなく、滅多に氷が張らない。服裝は冬着に薄外套で間に合ひ、傳染病の危險が少いため冬を好む旅行者も多い。

【蒙　疆】 温度は大體中部滿洲程度、沙漠的傾向が著しく春には特に風がひどい。

水も北支以上に惡く、埃除眼鏡、マスク水筒、藥等が必要なことは勿論である。併し旅行シーズンは先づ秋であらう。

尙、蒙疆地區の住民には回々教徒多く、住民の殆んど全部は日本人に對する認識皆無であるから新に進出する邦人は蒙疆人の感情を害さない樣細心の注意が肝要である。

〔註〕北支、蒙疆旅行の際特に注意を要する點は、水の惡い事であつて、旅行者は必ず水筒と征露丸（クレオソート丸）の携帶が必要である。尙出來れば其の他藥品、繃帶等もほしい。

旅　館

各都市には到る處日本旅館が出來、未だ設備不完全のものも見受けられるが、日本人の旅行に少しも差支へない程度に接遇して吳れる。宿泊料は二食付一泊最高二十圓から最低四圓位、支那旅館は食事なしでずつと廉く一泊一圓以下の所もある。

北支旅館團體宿泊料及食事料金表（北京・天津は二割增）

團體種別	宿泊料 基本料金	宿泊料 朝食缺	宿泊料 晝食缺	宿泊料 夕食缺	食事料 朝	食事料 晝	食事料 夕	食事料 辨當	席料 宿泊休憩
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	
小學校（一泊三食附）	二・〇〇	一・六〇	一・六〇	一・五〇	〇・五〇	〇・六〇	〇・八〇	〇・五〇	基本料金の三分の一
中等學校（同右）	三・〇〇	二・六〇	二・六〇	二・三〇	〇・八〇	一・〇〇	一・二〇	〇・六〇	基本料金の三分の一
專門學校以上（同右）	三・八〇	三・三〇	三・一〇	二・九〇	一・〇〇	一・二〇	一・五〇	〇・八〇	基本料金の三分の一
青年團（一泊二食附）	四・〇〇	三・五〇	—	三・〇〇	一・〇〇	一・三〇	一・八〇	〇・九〇	基本料金の半額
普通團體（同右）	五・〇〇以上	四・五〇以上	—	四・〇〇以上	一・五〇以上	二・〇〇以上	二・五〇以上	一・二〇以上	基本料金の半額

（席料）當該食事料金の半額

●缺食宿泊料の通用に就ては缺食すべき食事の少く共一食前に其の旨申出あるを要し其の後の申出に對しては當該食事の實費を申受くること

●夕食料金は大體夜十二時迄に旅館を出發することとし之に對する宿泊料を含むものにて夜十二時を超ゆるときは朝食缺宿泊料を申受くること

汽　車　賃

大人三等普通旅客運賃率は一人一粁に付二錢とし、運賃の算出は賃率に粁程を乘じ二錢五厘未滿を切捨て、二錢五厘以上七錢五厘未滿を五錢に、七錢五厘以上を十錢に切上げたる額にして、二等は三等の二倍、一等は三等の三倍額とし、大人運賃の最低額は三等十錢、二等二十錢、一等三十錢とす。

急行料金

普通急行料金

粁程＼等級	一等	二等	三等
	元 分	元 分	元 分
三〇〇粁迄	二・〇〇	一・〇〇	〇・五〇
五〇〇粁迄	二・五〇	一・五〇	〇・七五
八〇〇粁迄	三・〇〇	二・〇〇	一・〇〇
八〇一粁以上	三・七五	二・五〇	一・二五

鮮滿連絡の場合は五百粁を最低とする。

滿鮮支連絡急行料金

粁程＼等級	一等	二等	三等
	圓	圓	圓
五〇〇粁迄	二・五〇	一・五〇	〇・七五
八〇〇粁迄	三・〇〇	二・〇〇	一・〇〇
一三〇〇粁迄	三・七五	二・五〇	一・二五
一八〇〇粁迄	四・五〇	三・〇〇	一・五〇
一八〇一粁以上	五・二五	三・五〇	一・七五

寢臺料金

京山線

種別＼等級	一等	二等	三等
	元 分	元 分	元 分
上段	五・〇〇	三・〇〇	一・〇〇
中段	—	—	一・五〇
下段	七・〇〇	四・五〇	一・八〇

旅行記念スタンプ

（括弧內は他線にも重複掲出してゐる）

京山線…北京、豐臺、天津、塘沽、唐山、古冶、灤縣、昌黎、（海濱）、幹線列車內
海濱線…海濱、北戴河
京包線…（北京）、西直門、南口、青龍橋、宣化、張家口、大同、豐鎭、平地泉、厚和、包頭
京漢線…（前門）、蘆溝橋、長辛店、涿縣、高碑店、保定、正定、石門、順德、邯鄲、彰德、京漢線列車內
西陵線…易線
津浦線…（天津）、天津北站、馬廠、青縣、滄縣、泊頭、德縣、禹城、濟南、兗州、臨城、徐州
濟寧線…濟寧
博山線…博山
膠濟線…青島、高密、坊子、濰縣、益都、張店
◇ビューロー案內所…北京、天津、張家口、大同、厚和、太原、青島、濟南、芝罘、塘沽、石門、保定、唐山、徐州、連雲、上海、南京、杭州、蘇州、漢口、廣東

郵便料金

△**普通郵便料**

名宛先地	重量	料金
A 通常葉書(明信片)		
日本、滿洲、支那(市内一錢)		二錢五厘
右以外の國		一五錢
B 書狀(封信)		
日本、滿洲、支那(市内二錢)	二〇瓦又は其の端數毎に	五錢
右以外の國	二〇瓦迄	二五錢
	其の端數毎に	一五錢
C 新聞紙		
日本、滿洲、支那	五〇瓦毎に	五厘
市内	一〇〇瓦毎に	五厘
外國	五〇瓦毎に	五錢
D 書籍、印刷物業務用書類等		
日本、滿洲、支那	一〇〇瓦迄	一錢
市内	一〇〇瓦迄	五厘
外國	五〇瓦毎に	五錢
E 商品見本類		
日本、滿洲、支那	一〇〇瓦迄	三錢
市内	一〇〇瓦迄	一錢
外國	五〇瓦毎に	五錢

△**特殊郵便料**

A 速達料		
イ 普通	(平快)	五錢
ロ 書留	(快遞)	一二錢
B 小包		
日本	一瓩迄	一圓一二錢
滿洲	一瓩	五〇錢
	其の端數毎に	二〇錢

注意 支那に於て小包を受領するときは小包到着通知表發行後十日目より一箇に付一日五錢の保管料を要す

C 航空郵便料

日本宛 書狀 / 葉書	二〇瓦毎に	三五錢 / 一八錢
關東州宛及北支相互間 書狀 / 葉書	二〇瓦毎に	二〇錢 / 一〇錢
滿洲宛 現在關東州宛同額料金を以て便宜取扱ふも大連以遠は列車便に依る		

中支旅行

沿線情況

【治安】 武漢占領以來皇軍の威は中國の邊境にまでも及び、上海より南京、杭州に至る鐵道沿線治安は殆ど確立せられ、列車妨害等殆ど皆無とも稱すべき狀態となり、發着は正確を保ちつゝある。

【沿線各都市の發展】 上海南京間に介在する各都市は邦人の産業開發及治安恢復に從ひ一段の進展をなし、日支合辦の諸事業日に興り、舊に倍する繁榮を示すに至つた都市もある。

【觀光地の回復】 觀光地の首位を占むる杭州は支那事變には何等の被害を受けず、單に手入れ不完全により幾分荒廢をみたが今は殆ど回復をみた。蘇州も多少被害はあつたが之亦自治委員會の手によつて回復がなされ、殆ど舊態に歸りつゝあり、其他各地の觀光地も漸次復舊されつゝある。

經路

一、日本內地より

(1) 空路

大日本航空會社定期旅客機が東京から大阪、福岡を經由して上海まで毎日運航してゐる。

・運賃及所要時間

東京—上海間 百五十圓 九時間(途中着陸時間を含む)
大阪—上海間 百十五圓 八時間(同)
福岡—上海間 八十五圓・三時間半

使用機は何れもダグラス十八人乘(內地相互間はロツクヒード機)の新鋭機で機上では明朗なエアーガールが行屆いたサービスをしてゐる。

(2) 航路

(イ) 長崎—上海間

東亞海運上海丸、長崎丸の二隻が大體隔日に運航してゐる。兩船とも二一節の優秀な旅客船で長崎から約一晝夜で上海黃浦碼頭に到着する。

・運賃は

一等 五十圓、四十五圓、三等十八圓である。

(ロ) 神戸—上海間

東亞海運船鹿島丸が就航して居り、約二週間目毎に發着となつてゐる。所要時間五十四時間で、運賃は

一等 九十圓、二等 六十圓

其他日本郵船の北米航路、歐洲航路の巨船も上海に寄港するが故に、それ等の船舶を利用することも出來る譯である。

二、朝鮮滿洲方面より

列車又は旅客機を利用し北支經由の途もあるが一般には海路を利用されてゐるやうである。これは大連汽船の大連丸、奉天丸、青島丸によるもので大連、上海間を隔日に運航してゐる。所要時間約五十四時間

・運賃

一等七十五圓、二等五十圓、三等十八圓である。

三、北支より

(1) 鐵道

天津から津浦線を經由、南京で海南線に乘り繼ぎ、上海に至るもので、津浦線には北京、浦口間直通列車が一日一往復運轉され海南線には急行(一、二、三各等食堂車付)が二往復運轉してゐる。

所要時間 天津—上海間 三十四時間 三等運賃二十二圓(但し海南線には夜行列車無き爲め南京に一泊の事)

(2) 航路

上海大連間の大連丸奉天丸青島丸が各船とも青島に寄航してゐるので青島を隔日に發着してゐるわけである。

青島—上海間の所要時間は約二十七時間、運賃は一等五十五圓、二等三十六圓、三等十二圓

(3) 空路

北京—上海間に中華航空會社の定期旅客機が毎日運航してゐる。全線の所要時間(途中の着陸時間を含む)は五時間三十分、運賃は百八十圓であるが各發着地相互間の運賃及所要時間は次の通りである。

北京—天津間 三十分 十五圓
天津—濟南間 一時間 四十五圓
濟南—徐州間 一時間 四十圓
徐州—南京間 一時間 四十五圓
南京—上海間 一時間 三十五圓

旅行季節

春…暖かいが濕氣多く好い旅行シーズンではない。服裝は合着。

夏…暑く傳染病頻發し旅行中は特に注意を要する。上海市內の人々は半ズボンにシヤツ一枚の扮裝であるが尙暑いと云ふ。傳染病の豫防注射は是非せねばならない。

秋…暖かく雨もさまり旅行に良い。服は夏用でもよく、合服でもよい。

多…九州程度の寒さで薄手の多服に、オーバーは有つても無くとも可い。

旅行者心得

最近中支方面に視察、慰問旅行する者が增加したので中支軍司令部より次の通り旅行者心得が公布せられた。

一、幾萬の生靈の鎭まれる聖地を旅行するの態度を失はざること。

二、半面的皮相の觀察をなさゞること。

三、大國民たるの態度を失ひ一般支那人に對し誤りたる優越觀を以て臨まざること。

四、現地の軍隊に迷惑をかけ、又不快の念を與ふるが如き慰問視察をなさゞること。

五、說明書記載以外の行爲をなさゞること。

六、慰問視察に名を藉り營業的行爲をなさゞること。

七、宿泊、乘物の不自由を忍ぶこと。

八、油斷して不慮の危禍に陷らざること。

九、病疫に警戒すること。

一〇、見聞せる軍の祕密を放言せざること。

一一、記載事項を發行者の許可なく訂正せ

ざること。

通貨

舊維新政府の發券銀行「華興商業銀行」が昭和十四年五月十日より業務を開始したが日本人の居住竝旅行區域に於ては軍票が流通されてゐる。

上海方面—虹口方面の通貨は大體軍票で、鮮銀券、滿洲國幣等全然流通せず、殊に滿洲國幣は交換の術なし。鮮銀券は日本銀行券と兩替する場合、一割位安いことがあるから注意を要する。

尙蘇州河以南共同租界及佛租界方面では、依然法幣が流通されてゐるから軍票は法幣に兩替を要する。

漢口方面—漢口方面の通貨は軍票であるが、支那人、外人關係には法幣も通用し、日本金所持者に對しては船內にて軍票の交換を命ぜられる。

津浦線南下旅客—軍通行許可證の發給を受けざるものは徐州驛に於てのみ所持する聯銀券を軍票に交換可能にして、浦口までの旅行者に對しては二百圓迄、蚌阜迄の旅行者に對しては百圓の限度內に於て交換を許可せられあり、通行許可證所持者に對しては南下、北上共に夫々現金にては二百圓の限度內に於て交換に應ずる。送金爲替の取組は三〇〇圓迄合計五〇〇圓迄とす。徐州以南に於ては聯銀券を交換する公の機關無きにつき旅行者はなるべく銀行送金の方法を採られたい。

【其他】—其他乘船、下船時に於ける携帶品檢査、撮影竝模寫、戰利品、圖書、新聞の携出、軍隊慰問等北支旅行の場合と大體同じに心得られたい。

汽車賃

【旅客運賃】 大人一人一粁當り

四等	三等	二等	一等
一錢二厘	二錢	三等の二倍	三等の四倍

【急行料金】

粁程／等級	一等	二等	三等
二〇〇粁迄	二·〇〇	一·〇〇	〇·五〇
二〇一粁以上	四·〇〇	二·〇〇	一·〇〇

【手荷物無賃運送量】

一等 八〇瓩　二等 六〇瓩　三等 四〇瓩

旅館

一食付普通一泊四圓—二十圓位で主要地の主なる日本旅館は大體左の通りである。

上海…萬歲館、豐陽ホテル、辰巳屋旅館、日ノ丸旅館、新亞細亞ホテル、林館、常盤館、東和ホテル、東洋館、中央ホテル、海星館、八千代館、大和ホテル、山崎ホテル、扶桑館、江星館、東館、アスターハウス、新生館、靑林館、新上海等

南京…亞細亞ホテル、南京ホテル、寶萊館、國華ホテル、福田館、富貴館、興亞館、日進館、大和旅館、揚子江ホテル、野田屋、首都ホテル等

杭州…西冷飯店、新々旅館、常岡ホテル、九州旅館、旭ホテル等

武漢…揚子江ホテル、富貴館、中央ホテル、福昌ホテル、武漢ホテル、壽旅館等

特殊切符

【船車連絡切符】日本內地へ行くのに門司や神戸までの乘船券だけを求めるのは不便であり損だ。それには行先地までの船車連絡切符を選ぶがよい。荷物等は自身で積替へる手數はなく、赤帽賃も省ける。

通用期間は　片道一箇月　往復二箇月

【東亞旅行券】日本、滿洲、支那と亙つて旅行なさる方には東亞旅行券の一綴を薦めたい。費用と手數を省くことは勿論のこと經路の選擇は自由である。鐵道二割引、汽船一割引、通用期間三箇月となつてゐる。

本券はツーリスト・ビューローのみで發賣してゐる。

【連絡迴遊乘車券】 十月一日より從前の內鮮滿周遊券は廢止となり新に迴遊乘車券が制定され主要驛、汽船會社、ビューローで發賣してゐる。本券は下記各運輸機關

間の片道乘車船券を各所定率に依り割引合計したものであり、經路は非常に自由である。

滿鐵線、省線、局線、華北線、華中線、大阪商船、大連汽船、日本郵船、日本海汽船、東亞海運。

△**特典**

一　鐵道（省及華中航路を含む）二割引
　汽船一割引

二　通用期間　滿鐵華北兩線間滿鐵局線間及華北華中線間　一ヶ月、其他のもの二ヶ月

三　分岐線往復割引の取扱
　本券を提示すれば本券と同一の割引率で券面途中の任意の驛港より同機關所屬の任意の驛港まで往復割引乘車船券を購求することが出來る。

四　運輸機關每又は航路每に等級の選擇自由。

五　途中下車船隨意。

△**割引條件**

一　各機關所定の主要驛港を出發し發驛港又は發驛港所在地の驛港に歸着すること。

二　二運輸機關以上に亙り旅行すること
　但し・滿鐵局線兩線間のものは往復割引取扱區間以上を旅行するか又は往路と復路の接續驛を異にすること。
　・滿鐵華北兩線間、華北華中兩線間のものは往路と復路の接續驛を異にすること。

三　航路を通るものは大汽臺灣航路、商船郵船の基隆航路、及び東亞海運の靑島及上海航路を復乘しないこと。

四　連絡片道乘車券發賣可能區間の二區間以上五區間以內を旅行すること。

【日滿支往復券】陸路朝鮮經由或は海路大阪商船（神戸又は門司）大連航路又は日本海航路（敦賀、新潟—淸津）、日本郵船鹿兒島大連航路經由再び同一經路を引返へし始發驛に戻る切符で極めて格安である。

汽車の區間（關釜間航路を含む）二割引

船の區間 ｛大連—門司又は神戸／淸津—（敦賀又は新潟）／大連—（長崎又は鹿兒島）｝ 一割引

通用期間……………二箇月

途中下車……………隨意

▽**團體の場合** 前記の迴遊或は往復の場合と同樣經路を、二等又は三等旅客が十人以上一團となつて旅行するときは單獨の場合よりも更に高率な左記割引がある。

・世話人無賃扱ひ

二十人以上五十人未滿の團體にあつては內一人、五十人以上は五十人每に內一人を世話人として各鐵道（關釜間航路を含む）に限り無賃扱ひとして便宜を計つてゐる。

【北支觀光券】北支（天津、北京）遊覽旅行に便宜のため設定されたもので觀覽券（自動車料金、入場料、案內人手當等を含む）旅館券、乘車船券引換證が一册に綴られてある。發賣箇所はジャパン・ツーリスト・ビューローで各等通用期間は三箇月である。

【金剛山探勝乘車券】 朝鮮金剛山探勝旅客のため大連、奉天、新京、安東の四驛から出發する者に限り取扱ふ。各種通用期間二箇月、滿鐵線二割引、朝鮮鐵道局線三割引。

（イ）往復乘車券—第一經路　大連、奉天、新京又は安東發（鐵原經由）內金剛往復、第二經路　大連、奉天新京又は安東發（安邊經由）外金剛往復。

（ロ）迴遊乘車券—第一經路　大連、奉天、新京又は安東發、內金剛—外金剛—發驛　第二經路　大連、奉天、新京又は安東發、外金剛—內金剛—發驛。

【北滿避暑地行割引往復乘車券】 每年五月十五日から九月三十日まで約五箇月間左の通り割引往復乘車券を發賣してゐる。

ビューロー發賣所	發驛	着驛
新京案內所	新京	富拉爾基、扎蘭屯、巴林
哈爾濱案內所	哈爾濱	一面坡、富拉爾基、扎蘭屯、巴林
齊齊哈爾案內所	齊齊哈爾	富拉爾基、扎蘭屯、巴林
滿洲里案內所	滿洲里	同

牡丹江案内所　牡丹江　一面坡、愛河、阿城

本切符は單獨二、三等三割引、團體(五人以上)二、三等五割引で通用期間は發賣日より同年九月三十日迄である。

【溫泉券】 溫泉旅館一泊料金と心附を含み一人券と二人券とある。溫泉行割引往復乘車券と組合せて甲券汽車二等旅館湯崗子對翠閣五龍背五龍閣と乙券汽車三等旅館湯崗子玉泉館五龍背五龍閣とに區別され當分の間奉天と撫順から湯崗子と五龍背に限つて發賣し通用期間五日間で奉天及び撫順のビユーロー案内所で取扱ふ。

【船車券】 ビユーローで契約した主要運輸機關(私鐵、軌道、汽船、自動車、電車等)を利用する者に對しビユーロー各案内所で發賣するもので現地で買ふより割引されて居る。

【旅行小切手】 二十圓券、五十圓券、百圓券の三種でビユーロー各案内所で發賣する。現金への引換は旅行先の第百銀行支店及び取引銀行又はビユーローで取扱ふ。

【旅行券】 三圓券、五圓券、十圓券の三種がある。贈り物として新らしい趣向だ。この券で滿鐵及滿鐵線發連絡の乘車券、急行券、寢臺券、は勿論、直營の旅館、構内食堂、食堂車等の支拂ひに使つて便利である。

【旅館券】 この券に指定されてゐる日本内地、滿洲、朝鮮、臺灣等に於ける旅館、溫泉は信用あるものを選んでゐる。料金は均一に定められてをり、内地でも茶代は要らないから不要の心遣ひが省け、經濟至便である。

【溫泉行割引】 熊岳城、湯崗子、五龍背興城各溫泉行旅客の便益を計る爲下記驛發の各等割引往復乘車券がある。但し二十人以上の團體乘車であつても無賃扱はない。

單獨　二割引　通用七日間
團體　五人以上三割引　通用四日間

發賣驛

一、熊岳城溫泉行　大連、沙河口、旅順、金州、普蘭店、瓦房店、大石橋、營口、海城、鞍山、立山、遼陽、奉天、新京、撫順

二、湯崗子溫泉行　大連、沙河口、旅順、大石橋、鞍山、立山、營口、海城、遼陽、奉天、鐵嶺、開原、四平街、公主嶺、新京、撫順、本溪湖、吉林、哈爾濱

三、五龍背溫泉行　奉天、撫順、本溪湖、安東

四、興城溫泉行　北奉天、奉天、新民、大虎山、溝帮子、錦縣、錦西、綏中、山海關、河北、義縣、朝陽、葉柏壽、凌源、平泉、承德、北票、赤峰、壺蘆島

又朝鮮局線發五龍背溫泉行割引乘車券がある。

【家族遊覽券】 左記各地への觀光客の便益を計る爲同一家族の大人二人(大人一人と小兒二人)に對する基本運賃を以て家族遊覽券を發賣してをる。但し二、三等往復のみとし通用期間は發賣の日共二日間。

種別	行先	發賣驛	基本運賃 二等	基本運賃 三等	超過運賃 二等	超過運賃 三等
			圓	圓	圓	圓
第一種	旅順	大連・沙河口	五・〇〇	三・〇〇	二・五〇	一・五〇
第二種	金州	大連・沙河口	二・八〇	一・六〇	一・四	八・〇
第三種	鐵嶺	奉天	六・〇〇	三・六〇	三・〇〇	一・八〇
第四種	撫順	奉天	四・八〇	二・八〇	二・四〇	一・四〇
第五種	吉林	新京	一〇・八〇	六・四〇	五・四〇	三・二〇
第六種	壺蘆島	錦縣	五・六〇	三・四	二・八〇	一・七〇
第七種	玉泉	哈爾濱	五・二〇	三・二〇	二・六〇	一・六〇
第八種	呼蘭	哈爾濱・濱江	二・八〇	一・八〇	一・四〇	九・〇
第九種	横道河子	牡丹江	六・八〇	四・〇〇	三・四〇	二・〇〇
第十種	下九臺	新京	四・四〇	二・八〇	二・二〇	一・四〇
同	同	吉林	六・四〇	四・〇〇	三・二〇	二・〇〇
第十一種	阿城	哈爾濱	三・四〇	二・〇〇	一・七〇	一・〇〇

超過料金とは大人一人を增す毎に要する料金で小兒の超過料金は半額。

【社寺券】 社寺參拜に必要な拜觀、奉納、宿泊又は食事等の費用を纏めて出發の際に購入するもので、料金も割引されて居りビユーローで發賣してゐる。

通用期間　二箇月

【旅行傷害保險】 旅行中不時の災害に備へる爲めの旅行傷害保險の契約は各ビユーロー案内所で簡單に取扱つて居る。

土産

滿洲、支那の土産物は土地で作られたものと、外來品とに區別される。滿洲、支那での製品は何れも同一の色調や巧緻を表はしてゐて、その地方色を彷彿せしめ滿、支の土産として全く相應はしいものである。

然しながらこゝに全然滿、支の色彩のない外來品が土産物として登場してゐるのはその感觸よりも價格が安い點から來たものであるが昨今の如く輸入減少の狀態にあつては、舶來品は昔日の如く容易に、而かも安く手に入れるといふわけには行かない。

手に入れて日本へ持ち歸つても、輸入税を課せられ折角の土産も一層高い土産となる場合もあるのは注意すべきことである。

さて滿洲、支那の製品にしろ、舶來品にしろ、苟くも滿洲、支那で買求めて日本なり、朝鮮なりへ土産物として持つて歸る時には總て輸入品として、税關の檢査を受けることになつて居り、そして一般に輸入品は殆ど課税されることになつてゐる。但し旅行者自身の携帶用品及び少量の土産品は税關吏の裁量に依つて、免税通關されるが元來が絕對的なものではなくて、慣例的の便法に過ぎないから旅行者は前例を强調することは出來ない。また旅行者の身分、職業などに依つて所持品の品質、數量等を認定し免税を加減する場合もある。

左記價格欄は各地値段を記載したもので從つて時期や場合に依つて變動もあり、相違が生ずることもある。又免税標準數量は大連經由を主としたものであるが、たゞ大凡の目標をつける爲の便宜に供した次第である。

尙安東—圖們—上三峰の朝鮮税關經由で朝鮮若くは日本へ赴く旅客又は支那方面より直接日本へ歸る旅客にあつては其免税標準量が必ずしも同一でないことを承知して居なければならない。

▽一般土産品

品目	單位	價格	産地	免税標準數量(大連經由)
花瓶	一個	〇・五〇—一〇〇・〇〇	大連	價格三圓程度
コーヒーセット	半打	五・〇〇—一〇・〇〇	同	同
水差	一個	一・〇〇—一〇・〇〇	同	同
コップ杯	一打	一・五〇—二〇・〇〇	同	同
菓子鉢	一個	二・五〇—五〇・〇〇	同	同
インクスタンド	同	〇・八〇—一五・〇〇	同	同
青龍刀型ペーパーナイフ	一本	〇・五〇—一・二五	同	三本
面型スプーン	同	〇・八〇—二・五〇	同	價格三圓程度
糸硝子製品	一箱	一・〇〇—一〇・〇〇	博山	同
高粱稈細工品	一個	〇・一〇以上	旅順	同
北陵土産	同	〇・一〇以上	奉天	同
行列人形、土俗人形	同		同	同
新京布老虎	一個	〇・一〇—一・五〇	新京	價格三圓程度
木材扇子	一本	一・〇〇以上	安東	同
銀製アイスヨット	一個	五・〇〇以上	營口	一
石炭細工	同	〇・一〇—二〇・〇〇	撫順	價格五圓程度
泥人形	同	〇・一〇—〇・四〇	吉林	價格三圓程度
樂燒	同	〇・三〇—二・〇〇	同	同
搬不倒	同	〇・二〇—〇・五〇	同	同
老虎枕頭	同	〇・〇五—一・〇〇	同	同
太刀猿	同	〇・一五	同	同
雅趣陶器類	同	〇・一五—三・〇〇	同	價格五圓程度
會寧燒	同	四・〇〇	清津	同

白樺細工品			哈爾濱 齊々哈爾	
ステッキ	一本	〇・五〇—一〇・〇〇	滿洲里 哈爾濱	二本
同(ノロ)(ノロの足及皮にて作る)	同	一・八〇—三・五〇	海拉爾 滿洲里	同
化石	一個	〇・五〇—三・〇〇	錦縣	價格三圓程度
七寶燒花瓶	同	三・〇〇—一五・〇〇	北京	同
燈籠	同	一・八〇—一〇・〇〇	同	同
天津人形	同	一・五〇—三・五〇	天津	同
街行燈	同	一・五〇—五・〇〇	同	同
風俗人形	同	一・五〇—二・〇〇	同	同
蒙古刀	同	三・五〇—五・〇〇	海拉爾 張家口	二本
紫檀細工	一	一・〇〇—三〇〇・〇〇	上海	課税
鋏(剪刀)	一挺	一・〇〇—一五・〇〇	杭州	價格三圓程度
錫製酒器	一個	七・〇〇—一五・〇〇	義縣	一個
名所風景タオル手拭	一枚	九〇	滿支各地	價格三圓程度
名所入ハンカチーフ	同	〇・一〇—〇・五〇	同	同
刺繍品	同	〇・五〇以上	同	同
トランプ	一組	〇・八〇—七・〇〇	外國	二組
麻雀	同	八・〇〇—一五〇・〇〇	滿支各地	課税
支那隈取圖	一個	〇・一〇—一・二〇	支那	價格三圓程度
同　團扇	一本	草製〇・一〇—〇・六五 絹張製〇・三五—五・〇〇	同	同
同　扇子	同	絹及紙張〇・一〇—二・五〇 羽毛扇子〇・三〇—五・〇〇	同	同
同　茶碗(九官燒)(未泥燒)	一個 茶器一組	〇・五〇以上 一・二〇—五・〇〇	同	同
同　盆		福州製〇・七〇—三・五〇 漢口製三・五〇—四・五〇		同
支那盆	二枚	福州龍眼木製 二・〇〇—四・〇〇	支那	二枚
拂子	一本	〇・五〇—三・〇〇	同	二本
名所繪はがき	一部	〇・一五—〇・六〇	滿支各地	三、四〇部
各種寫眞帖	同	〇・二〇—三・〇〇	同	二部
滿、支、蒙風景寫眞	一枚	〇・〇五—〇・三〇	同	三、四〇枚

▽食料品

品目	單位	價格	産地	免税標準數量
鶉粕漬	一函	一・二〇—二・〇〇	旅順	二—三函
金州漬物	一樽	〇・五〇—一・〇〇	金州	一樽
高粱しるこ	一函	一・一〇—一・四〇	大連、旅順	五函
精肉味噌漬	同	三・四〇	大連	一函
長壽味噌(大蒜味噌)	一瓶	〇・五〇	同	五本
黃瓜麵醬漬	一斤	〇・〇八—〇・六五	同	五斤
大蒜入葡萄酒	一本	一・五〇	同	二本
林檎	一貫	一・五〇	同	植物検査を要す
蓮の實羊羹	一個	〇・五〇—一・五〇	同	一・五〇のもの五個程度
高粱、餅	一函	〇・三〇—一・五〇	奉天	五函
山楂飴	同	一・〇〇	同	同
すつぽん飴	同	一・〇〇	同	同
支那素麵	一包	〇・三〇	新京	十包程度
芝蒜糖	一個	〇・三〇—〇・五〇	同	價格三圓程度
白魚筏干	一函	一・〇〇—二・三〇	安東	同
佃煮	同	〇・五〇—一・〇〇	營口	五圓位迄
娘々豆	同	〇・五〇—五・〇〇	同	同
銀飴	一個	〇・一〇	同	同
同	一罐	一・五〇—五・〇〇	同	同
琥珀飴	同	〇・五〇—二・五〇	撫順	二罐
老山浸糖	一合	〇・七〇	吉林	五合
鹽ウニ		〇・六〇—一・二〇	清津	
貝柱味淋干		一・五〇—二・八〇	同	
鍋トマトサージン	一封度	〇・二五	同	
ロシア漬	一函	〇・五〇	哈爾濱	三函
河魚燻製	一疋	〇・一五	同	五疋

メドック(蜂蜜酒)	一本	〇・八〇	同	二本
チーズ	一ポント	〇・六〇	同	一ポンド
バター	同	〇・八〇	同	同
ソーセイヂ	一封度	〇・四〇—一・〇〇	同 奉天	同
鯉の醬漬		一・〇〇—二・〇〇	齊々哈爾 哈爾濱	
史國公酒(瓶詰四合入)(同 二合入)		一・七二 〇・五六	同	
白(茸)	一斤	一・〇〇—五・〇〇	海拉爾	五斤
蝦油小瓜(蝦油にて小形胡瓜を鹽漬にせるものを更に漬けたもの)	一個	一・〇〇—二・〇〇	錦縣	四個
蜂蜜	一罐	〇・八〇—一・五〇	濱綏線沿線 四平街 錦州	五本
燻鶏	一羽	〇・三〇—〇・五〇	錦縣	
梨	百斤	一〇・〇〇	同	植物検査を要す
蟹うるか漬	一瓶	〇・七〇—一・〇〇	山海關	五瓶
蝦うるか漬	同	〇・八〇—一・二〇	同	
干鮎		一・〇〇—二・〇〇	同	
甘栗	一斤	二・〇〇	北京、天津、奉天	一貫匁
醬菜(黄茄、茄子等のモロミ漬)	一	〇・五〇—二・〇〇	北京	
醋鴨蛋(家鴨の卵の醋漬)	一個	〇・二〇	同	
ドライビーフ	一罐	〇・八〇—一・〇〇	青島	三罐
パデントビーフ	同	〇・八〇—一・九〇	同	同
牛肉粕漬	同	大三・七〇 中二・六〇 小一・五〇	同	
文化豆	同	大一・〇〇 小〇・五〇	同	
鹽ピー	同	大一・六〇 小〇・七〇	同	
スキ燒ビーフ(營養煮)	同	一・三〇	濟南	
肉の華	同	一・五〇	同	
ジンギスカン・カレービーフ	同	一・五〇	青島 濟南	
チョコ・ビーフ	同	一・四〇	同	
ロシヤ飴	一罐	〇・三五—一・五〇	滿支各地	五罐
ロシヤキャンデー	一函	〇・七〇—一・八〇	同	五函
ウイスキーチョコレート	同	〇・五〇—三・五〇	同	五罐
豆素麵	一把	〇・一〇—〇・二〇	同	二貫匁
支那製果實砂糖漬	一函	〇・五〇—五・〇〇	同	五函
チョコレート製品	同 板モノ	二・一〇—五・〇〇 〇・〇五—二・〇〇	同	同
高粱飴	一函	一・二〇—二・二〇	滿洲各地	同
角砂糖	同	〇・一九	臺灣	十函
ココア	一罐	〇・三五—二・〇〇	外國	一封度
紅茶	同		同	同
コーヒー	同		同	同
乾葡萄	一函	〇・一五—〇・四〇	同	十函
パインアップル	一罐		臺灣	
支那茶	一斤	〇・三〇—一五・〇〇	支那	一封度
糟鴨蛋	一個	〇・二〇—〇・四〇		

▽裝身具

品目	單位	價格	産地	免税標準數量
蛤細工(カフス釦、帶止)	一個	一・二〇 一・三〇	營口	價格三圓程度
琥珀細工(カフス釦、珠數、指輪、帶止)	同	〇・五〇—五〇・〇〇	撫順	同
支那七寶とんぼ玉	同	〇・二〇—一・〇〇	北京	同
珠數(菩提樹)	一連	一・〇〇—一五・〇〇	同	同
翡翠	一個	五・〇〇—五〇・〇〇以上	支那	課税
黑ダイヤ	一カラット	〇・一〇—〇・二〇	滿洲 外國	同

アレキサンダー石	同	0.70—0.80	外國	同
砂金石	一個	0.50—1.50	同	同
ルビー	一カラット	0.60—0.70	同	同
オパール	一カラット	1.00—2.00	外國	課稅
アクマリン・エメラルド	同	0.65	同	同
ウラルダイヤ	同	1.00—1.10	同	同
石入ネクタイピン、帶止、カフス釦	一個	0.50以上	同	同
サファイア	一カラット	0.80—1.00	滿支各地	同
支那古錢帶止	一個	1.00—2.00	同	同
瑪瑙細工(カフス釦、パイプ、帶止)	同	0.60—3.00	同	同
ガーネット(ザクロ石)	同	1.00—2.00	外國	同

▽織物

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
ホームスパン	一着分	34.00—100.00	四平街	課稅
羽蒲團	一枚	30.00—60.00	哈爾濱	同
ロシヤ毛布	同	10.00—50.00	同	同
麻製刺繡入ハンドバック	一個	1.80—21.00	北京	一個
麻製刺繡入ハンカチーフ	一枚	0.25	同	一打
糸織風景	同	0.85—8.00	同	二枚
人絹織刺繡入ハンドバック	一個	1.60—2.00	同	一個
麻製刺繡入テーブル掛	一枚	2.60—4.00	同	一枚
支那刺繡入テーブルセンター	同	2.00—8.00	同	同
支那刺繡入ハンドバック	一個	5.00—17.00	同	一個
支那刺繡入小間物	同	1.00—15.00	同	同
綴錦	同	1.50—80.00	同	同
絨氈	一尺平方	1.80—3.50	北京天津	課稅
古刺繡加工品(清朝時代の古刺繡の裏を改造せるもの)	一枚	1.00—6.00	北京	價格五圓程度
絹織物(緞子、繻子)	一疋	18.00—25.00	杭州	同
絹紬風呂敷	一枚	0.50—1.30	滿洲	二枚
絹紬	一疋	7.50—10.50	滿洲	價格三圓程度
白絹紬	同	5.50—10.00	同	同
佛國製テーブル掛	一枚	14.00—25.00	佛國	一枚
ゴブラン織	同	1.90—30.00	同	同
レーステーブル掛	同	1.50—5.00	同	同
アンゴラ織テーブル掛	同	30.00	同	同

▽文房具

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
滿洲風物入便箋	一册	0.15—0.30	大連	二册
翠雲石加工品	一個	0.50—18.00	橋頭	三個
壽山石の印材	同	3.00—10.00	吉林	價格五圓程度
硯石	同	15.00以上	同	同
虎眼石(印材、カフス釦)	同	1.00—1.50	延吉	同
鏡城硯	同	5.00	清津	同
支那墨	同	0.10—15.00	北京	二個
支那筆	一本	0.50—10.00	同	五本
支那硯	一個	0.50—500.00	同	
支那封筒	一函	0.40—0.55	同	一函
記念文鎭	一個	0.50—2.00	同	二、三個
高ペン軸	二本入一函	0.15	同	五箱
石刷(碑文)	一枚	0.60	支那	十枚

▽煙草器具

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
灰皿	一個	0.55—6.00	大連	價格三圓程度
琥珀パイプ	同	0.50—50.00	撫順	二個
鐵製セット	一組	2.50—15.00	北京	
滿蒙名所入各種灰皿	一個	0.65—2.00	滿洲各地	四個
白樺製煙草ケース	同	3.30—4.50	ソ聯	二個
金屬製卷煙入	同	0.90—30.00	滿、支各地	同
支那煙管	一〃	0.25—0.60	滿、支各地	三本
水煙管	一個	1.50—5.00	同	
高粱パイプ	二本一函	0.10	同	一個
象牙パイプ	一個	1.00—10.00	同	五函

▽毛皮類

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
銀狐	一枚	400.00—1,100.00		十割課稅但し身分旅程遠近期節等を考慮し自家用別に限り免稅さるることあり
狐	同	15.00—200.00		
虎	同	100.00—1,000.00		
豹	同	15.00—100.00		
海獺	同	150.00—1,000.00		
川獺	同	10.00—150.00		
熊(シベリヤ産)	同	70.00—800.00		
狼	同	10.00—30.00		
羊	同	5.00—20.00		

▽酒類

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
ウヰスキー	一本	2.80—7.70	英國	
ブラック、ホワイト	同	12.00	同	
オールドパー	同	18.00	同	
ジョニウオーカー(赤)	同	15.00	同	
同(黑)	同	23.00	同	
キング・オブ・キング	同	16.00	同	
レッド・ハックル	同	10.00	同	
葡萄酒メドック	同	3.20	同	
同ボルドー	同	2.50—3.50	同	
佛國キュラソー	同	6.80	同	
伊國ベルモット	同	4.00	伊國	
三星ブランデー	同	13.00	佛國	
各種葡萄酒	同	2.20—20.00	英國、伊太利國、佛國	
ウオッカ	一本	0.35—2.80	滿洲各地	
ナストイカ	同	0.45—0.90	滿洲	
杏酒	同		同	
高粱酒	同		同	
紹興酒	同		同	
老酒	同		同	
葡萄酒(原料山葡萄)	同		哈爾濱	

▽外國煙草

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
外國煙草	一〇本	0.10—1.00	外國	五〇本
外國葉卷	一本	0.50—5.00	同	二五本
刻				一五匁
支那煙草	一〇本	0.03—0.15	滿洲支都	五〇本

煙草は土産物として持ち歸へることは出來ない。ただ旅行者の自用として紙卷のみならば五十本葉卷のみならば二十五本、刻のみならば十五匁だけ携帶を認められてゐる。然しながら右を二種以上混合する時は各半分宛の數量しか携帶を認められない。

▽時計、寫眞機、ラヂオ(自家用以外は五割、十割課稅)

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
時計	一箇			課稅
寫眞機	同			同
雙眼鏡	同			同
ラヂオ	同			同

▽藥種類

品目	單位	價格	產地	免稅標準數量
蔘糖(人蔘精糖)	一樽	1.00—2.00	吉林	價格五圓程度
蛤蟆油(蛙の肉)	一函	2.50以上	同	同
田鷄油	二合瓶	4.00—5.00	同	同
藥用人蔘	一斤	4.00以上	同	同
松ノ實(五葉の松の實不老、强壯劑)	同	0.80	圖們	同
六神丸	一函(一、〇〇〇粒入)	1.50	北京	同

旅行會話

【一般會話】

(日語)	(滿支語)		(露語)	
一	イー	(一)	アヂン	Один
二	アル(リヤン)	(二)(兩)	ドウワー	Два
三	サン	(三)	トゥリー	Три
四	スー	(四)	チェトゥイレ	Четыре
五	ウー	(五)	ピャーチ	Пять
六	リュー	(六)	シェースチ	Шесть
七	チー	(七)	セーミ	Семь
八	パー	(八)	ウオーセミ	Восемь
九	チュー	(九)	デーウャチ	Девять
十	シイー	(十)	デーシォチ	Десять
十一	シーイー	(十一)	アヂンナッツアチ	Одиннадцать
十二	シーアル	(十二)	ドウエナッツアチ	Двенадцать
百	イーパイ	(一百)	ストー	Сто
千	イーチエン	(一千)	トゥイシャチャ	Тысяча
萬	イーワン	(一萬)	デーシャチトゥイシャチ	Десять тысяч
朝	ツアオチー	(早起)	ウートロ	Утро
晩	ワーンシヤン	(晩上)	ノーチ	Ночь
今	シエンツアイ	(現在)	チェペーリ	Теперь
今日	チンテン	(今天)	セウォードニャ	Сегодня
明日	ミンテン	(明天)	ザーフトラ	Завтра
昨日	ツオーテン	(昨天)	フチェラー	Вчера
はい(諾)	シー	(是)	ダー	Да
いゝえ(否)	プーシ	(不是)	ニエート	Нет
無い	メイユウ	(沒有)	同	
有る	ユウ	(有)	エスチ	Есть
私	ウオ	(我)	ヤー	Я
貴方	ニイ	(你)	ヴィ	Вы
彼	タア	(他)	オン	Он
彼女			アナー	Она
よろしい(許す)	シン	(行)	モージノ	Можно
不可ない	プウシン	(不行)	ネリジャー	Нельзя
何時	チイテンチョン	(幾點鐘)	カクダー	Когда
何故	ツアンマ	(怎麼)	バチェムー / ザチェム	Почему / Зачем
手紙	シン	(信)	ピシモー	Письмо
葉書	シンペル	(信片兒)	アツクルイツカ	Открытка
電報	テンパウ	(電報)	テレグラムマ	Телеграмма
切手	シンピヤオ	(信票)	マルカ	Марка
時計	ツン / ピヤヲ	(鐘)…柱、置 / (錶)…腕、懷中	チャスイ	Часы
戸	ウーメン	(屋門)	ヴゥリェヴ	Дверь
窓	チヨワンフ	(窓戶)	アクノー	Окно
此處	チヨペル	(這邊兒)	ズヂェーシ	Здесь
右へ	ワンユウ	(往右)	ナプラーウォ	Направо
左へ	ワンツアオ	(往左)	ナレーウォ	Налево
今日は	チイラフアンラマ	(吃了飯了麼)	ズドラスチスェ	Здравствуйте!
有難う	シエシエ	(謝謝)	スパジーボ / プラガダリユーワース	Спасибо / Благодарю Вас

これは何ですか	チョオシションマ	(這是甚麼)	チトーエートタコーエ	Что это такое?
私のいふことがわかりますか	ウオシュオデホア ニイミンバイマ	(我說的話你明白麼)	バニマーエチェリ ヴィ メニャ	Понимаете-ли Вы меня?
英語がわかりますか	ニイホイシュオイ ンクオホアマ	(你會說英國話麼)	ペニマーエチェリ ヴィ パアングリースキー	Понимаете-ли Вы по-английски?
今、何時ですか	シエンツアイチイ テイエンチヨン	(現在幾點鐘)	カトールイ チペェーリ チャス	Который теперь час?
左樣なら	ツアイチエン	(再見)	ダスウィダーニャ	До свидания!

【列車中にて】

急行列車	クワイチヨ	(快車)	スコールイ ポイェズド (エクスプレス)	Скорый поезд (Экспресс)
寢臺車	ワオーチヨ	(臥車)	スパーリヌイ ワゴン	Спальный вагон
食堂車	ファンチヨ	(飯車)	ワゴン レストウラン (ワゴンスタローワヤ)	Вагон ресторан (Вагон-столовая)
乘車券	チヨピヤオ	(車票)	プローエズドヌイ ビレート	Проездный билет
寢臺券	シユイプピヤオ	(睡舖票)	ビレートナスパリノエ メスト (プラッカルタ)	Билет-на спальное место (Плац-карта)
急行券	チイシンピヤオ	(急行票)	ビレートナスコーロスチ	Билет на скорость
車掌	チヨチヤン	(車長)	カンドウークトル	Кондуктор
ボーイ	チヤアフアン / タンクアル	(茶房) (堂倌兒)	プロウオドニツク	Проводник
赤帽	ホンマオツ / チアオハン	(紅帽子) (脚行)	ナシーリシチク	Носильщик
兩替所	チエンポ	(錢舖)	メニャーラ	Меняла
時間表	シーコピアオ	(時刻表)	ラスピサーニエ ポーエズドフ	Расписание поездов
毛布	チヤンツ	(毡子)	アデヤーロ	Одеяло
枕	チエントウ	(枕頭)	バドウーシカ	Подушка

洗面器	シーレンペン	(洗臉盆)	ウムィワーリニック	Умывальник
○○行の列車は何時に出ますか	ワン○○チユイダ ホウチヨチイテン チヨンカイマ	(往○○去的火車幾點鐘開麼)	フ○○カトローム チャス アトポージト ポーエズド	В○○ котором часу отходит поезд?
これが○○行の列車ですか	チヨシシヤン○○ ダホウチヨマ	(這是上○○的火車麼)	フ○○エトポーエズド	В○○ это поезд?
途中乘替がありますか	ツアイパンタオル ユウホワンチヨマ	(在半道兒有換車麼)	ブーヂェットリ ペレサーツカ ナプーチ	Будет ли пересадка на пути?
こゝは何驛ですか	チヨシーシエンマ チヤン	(這是甚麼站)	カカーヤ エート スタンツィヤ	Какая это станция?
次は何驛ですか	シアーチアンシシ エンマチヤン	(下站是甚麼站)	カカーヤ スレードゥユシチヤヤ スタンツィヤ	Какая следующая станция?
この驛は何分停車ですか	チヨチヤンテイン トウタクンフ	(這站停多大工夫)	スコーリコ ミヌート ズヂェーシ スタイート ポイェズド	Сколько минут здесь стоит поезд?
三十分です	シ、サアンシフン	(是、三十分)	トゥリッツァチ ミヌート	Тридцать минут
この列車は○○に定時に着きますか	チエガホウチヨテ インシータオマ	(這個火車定時到麼)	プリブーヂェットリ ナーシ ポイェズト ウオウレーメヤ	Прибудет-ли наш поезд во-время?
いゝえ、列車は五分間延着します	プーシ、チエガホ ウチヨタオウーフ エンチヨンワン	(不是、這個火車到五分鐘晚)	ニェドーマユ、ポイェズド アパズダーエト ナ ピャーチ ミヌート	Не думаю, поезд опаздает на пять минут
ボーイさん、お世話になりました	チヨトン、ラオニ イチヤラ	(車僮、勞你駕了)	プラオドニーク、スパシーボ ザフローポトゥイ	Проводник, спасибо за хлопоты.
左樣なら 御機嫌やう	ウオヅオラ ツアイチエンツアイチエン	(我走了、再見再見)	ダスウィダーニャ、フセウォー ハローシエウォー	До свидания (всего хорошего)

【食堂にて】

食堂	ツアイクアン	(菜館)	スタローワヤ (レストラン)	Столовая (ресторан)
献立表	ツアイタンツ	(菜單子)	メニェー (プレイスクーラント)	Меню (прейскурант)

朝食	ツアオフアン（早飯）	ザーフトラク Завтрак
晝食	シャンフアン（晌飯）	アペード Обед
晩食	ワンフアン（晩飯）	ウージン Ужин
ナイフ	タオツ（刀子）	ノージ Нож（複數ножи ナジー）
フォーク	チャーツ（叉子）	ウィルカ Вилка
スプーン	チーツ（匙子）	ローシカ スタローワヤ Ложка столовая
皿	テイエツ（碟子）	タリェールカ Тарелка
コップ	パオリペイ（玻璃盃）	スタカーン Стакан
ナプキン	フアンタン（飯單）	サルフェートカ Салфетка
紅茶	ホンチャア（紅茶）	チャイ Чай
コーヒー	カアフエイ（珈琲）	コッフェ Кофе
チョコレート	カアフエイタン（珈琲糖）	ショコラード Шоколад
麥酒	ピーチユ（啤酒）	ピーウォ Пиво
ソーダ水	スウターシユイ（蘇達水）	ソーダワヤワダー Содовая вода
水	リヤンシユイ（涼水）	ワダー Вода
アイスクリーム	ピンチリン（氷淇淋）	マロージノエ Мороженое
牛乳	ニユーナイ（牛奶）	マラコー Молоко
バター	ホアンユウ（黄油）	マースロ Масло
チーズ	ナイピン（奶餅）	スイル Сыр
果物	クオピン（果品）	フルクト Фрукты
菓子	テイエンシン（點心）	ピロージノエ（洋生菓子）Пирожное コンフェクト（干菓子）Конфекты
魚	ユイ（魚）	ルイバ Рыба
肉	ロウ（肉）	ミャーソ Мясо
ソーセージ	シヤンチヤン（香腸）	カルバサー Калбаса
卵	チイタン（鷄蛋）	ヤイツォー Яйцо
ビーフステーク	ニユーパイ（牛排）	ビフシステークス Бифштекс

ローストビーフ	カアオニユロ（烤牛肉）	ジャーレノエミヤーソ Жареное мясо
カツレツ	カツレツ	カトレータ Котлета
オムレツ	オムレツ	ヤイーチニツァ Яичница
スープ	タン（湯）	スープ Суп
豚肉	チユーロウ（猪肉）	スウィニーナ Свинина
ハム	ホウトイ（火腿）	ウエッチナー Ветчина
野菜サラダ	チンツアイサラダ（青菜サラダ）	サラートイズゼレーニ Салат из зелени
アスパラガス	アスパラガス	スパールヂャ Спаржа
煙草	イエンヂヨル（煙捲兒）	パピロース Папиросы
葉巻	ルツンイエン（呂宋煙）	シガーラ Сигара
マッチ	ヤンフオア（洋火）	スピーチカ Спички
釣錢	ジャオチエン（找錢）	ズダーチャ Сдача
お茶を一杯下さい	ニーナーイーペイチヤアライ（你拿一杯茶來）	ダイチェムニェー スタカンチャーユ Дайте мне стакан чаю
ウオッカを一杯下さい	ケウオイーペイウオクオシヤヲチユ（給我一杯俄國燒酒）	ダイチェムニェー リュームクーウオードキー Дайте мне рюмку водки
マッチを下さい	ケエウオイーガヤンフオア（給我一個洋火）	ダイチェムニェー スピーチキ Дайте мне спички
勘定書を持つてお出で	ナーチヤンタンライパ（拿賬單來罷）	プリネシーチェ スチヨット Принесите счет
みんなでいくら	コンツオンシトーシヤオチエン（共總是多少錢）	スコリコ ザ フシォウ Сколько за все?

【旅行地にて】

ホテル	フアンテイエン（飯店）	ガスチーニツァ Гостиница
大使館	タアシクワン（大使館）	パソォーリストウォ（又は）ポルプレドストウォ Посольство, Полпредство
領事館	リンシークワン（領事館）	コンスーリストウォ Консульство

銀行	インハン（銀行）	バンク Банк
商店	プーツ（舗子）	マガジン Магазин
百貨店	パイホオテイン（百貨店）	ウニウェルサーリヌイ マガジン Универсальный магазин
博物館	ボウウクワン（博物館）	ムゼイ Музей
劇場	シイーコアンツ（戲館子）	テアートル Театр
自動車	チイチヨオ（汽車）	アフトモビーリ Автомобиль
乗合自動車	クオンコンチイチヨオ（公共汽車）	アフトブース Автобус
馬車	マアチヨ（馬車）	イズウーォシチック Извозчик
人力車	ヤンチヨ（洋車）	
運賃	チヨフエイ（車費） チアオチエン（脚錢）	プライォズドナヤ プラータ Проездная плата
地圖	テイトウ（地圖）	ゲオグラフイーチェスカヤ カルタ Географическая карта
稅關	シユイクワン（稅關）	タモージニャ Таможня
この荷物を持つて下さい	タイチエガシンリチユイパ（帶這個行李去罷）	ウォジミーチェ エーチィ ウェーシチ Возьмите эти вещи
運轉手、ホテルサボイへ	シーチ、シヤンサボイリウクワンチユイ（司機、上サボイ旅館去）	ショフェル、オテリ サボイ Шоффер отель Савой
こゝは何通りですか	チエシシエンマタオル（這是甚麼道路）	カークナズイワエッツァ エータウーリッア Как называется эта улица?
もつとゆるりと行きなさい	マンテイエルツオーバ（慢點兒走罷）	パイェズジャイチェメードレンニェーエ Поезжайте медленнее
室がありますか	ユウチエンウーツメイユウ（有間屋子沒有）	エスチ リ ウ ワス スワボードナヤ コムナタ Есть-ли у Вас свободная комната?
小さい明るい室を下さい	ケイウオチヤヲイチエンシヤオミンウーツ（給我找一間小明屋子）	ムニエー ヌジナー ネボリシャーヤ スウエートラヤ コームナタ Мне нужна небольшая, светлая комнаа
風呂を用意して下さい	ケイウオユイペイシーツアオシユイパ（給我豫備洗澡水罷）	プリガトーウィテェムニユー ワンヌウ Приготовьте мне ванну

入国入境規則

◇要塞地帶法（拔萃）

第一章　總則

第一條　要塞地帶トハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ謂フ

第二條　要塞地帶ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ此ノ線ヨリ外方一定ノ距離以内ニ於テ之ヲ定ム

第三條　要塞地帶ハ陸地ト海面ト問ハス之ヲ三區ニ分チ各區ノ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ竝之ヲ告示ス其ノ他之ヲ變更スル場合亦同シ但シ陸軍營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スルカ或ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合竝陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帶及第七條第二項ノ區域ト相關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣海軍大臣協議ノ上之ヲ定メ連署シテ告示ヲナスコトヲ要ス

第一區　基線ヨリ測リ二百五十間以内及基線ト防禦營造物間ノ區域

第二區　基線ヨリ測リ七百五十間以内

第三區　基線ヨリ測リ二千二百五十間以内

第四條　要塞司令官、鎭守府司令長官、要港部司令官及築城本部長ハ要塞地帶ヲ劃スル爲、其他必要ト認ムル場合ニ於テハ部下官僚ヲシテ要塞地帶内及第七條第二項ノ區域内何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ陸海軍用地ニ出入セシメントスルトキハ互ニ當該官廳ノ承認ヲ經ヘシ

第二章　禁止及制限

第七條　何人ト雖モ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帶内水陸ノ形狀ヲ測量撮影、模寫錄取シ又ハ要塞地帶内ヲ航空スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ要塞地帶外ト雖モ第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以内ノ區域ニ於テ之ヲ適用ス

航空ノ許否ニ關シテハ要塞司令官ト陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　要塞司令官ハ要塞地帶内ニ入リ兵備ノ狀況其他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ヲ要塞地帶外ニ退去セシムルコトヲ得

第九條　要塞地帶ノ第一區ニ屬スル水面ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ漁獲、採藻及艦船ノ繫泊土砂ノ掘鑿ヲナスコトヲ得ス

第十六條　各區内ニ於テ陸軍大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ新設若クハ變更スルコトヲ得サルモノ左ノ如シ

堤塘、運河、道路、橋梁、鐵道、隧道、永久棧橋

第三章　罰則

第二十二條　第七條及第九條ノ禁ヲ犯シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ十一日以上ノ拘留又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ二圓以上ノ科料ニ處ス

第八條ニ依リ要塞司令官ニ退去ヲ命セラレ其ノ命ニ從ハサルモノ亦同シ

第二十三條　第七條及第九條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二十四條　第十條乃至第十三條第十五條及第十六條ニ違反シタル者ハ四十圓以下ノ罰金又ハ二圓以上ノ科料ニ處ス

第二十五條　第十四條ニ違犯シタル者ハ二圓以下ノ科料ニ處ス

第二十六條　要塞地帶各區及第七條第二項ノ區域ヲ標示スル爲設ケタル標石、標木、標札ノ類ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞シタル者ハ二月以下ノ懲役若クハ十一日以上ノ拘留ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ過失ニ出テタル者ハ二圓以下ノ科料ニ處ス

（備　考）

日本に於ける要塞地帶は二十五區に分れ、その境界線も劃然と規定されてゐる。そして一歩右區域内に入れば直ちに要塞地帶法が適用せられる。滿洲及朝鮮方面に於ける要塞地帶は左の通りである。

第二十三區（旅順及大連）大連灣及び旅順灣を中心とする一圓。

第二十四區（鎭海灣）　釜山及鎭海を中心とする一圓京釜本線龜浦以南は要塞地帶である。

第二十五區（永興灣）　元山を中心とする永興灣及沿岸一帶の地域。

◇軍機保護法施行規則（拔萃）

治安部令第八號

康德五年二月二十三日

(康德七年七月十日改正公布治安部令第三五號)

軍機保護法施行規則

第一條　省略

第二條　軍機保護法第八條ノ規定ニ依リ左ニ揭グルモノヲ軍事機密物件又ハ軍事機密地域トス

一、機密兵器、軍用廳舍、軍用艦船、軍用航空機、軍用列車其ノ他ノ軍事上機密ニ屬スル物件及軍事ノ用ニ供スル鐵道ニ關スル施設

二、堡壘、砲台、防備衛所其ノ他ノ國防ノ爲建設シタル防禦營造物

三、軍用港灣、軍用驛、軍用飛行場、軍需資源產出地、電氣通信所、軍需品工場、軍需品貯藏所其ノ他ノ軍事施設ニシテ現場ニ適宜標識又ハ標杭ヲ設ケ標示シタルモノ

四、前各號ノ物件、防禦營造物、軍事施設ニシテ其ノ試製、實驗、計畫又ハ築設中若クハ建設豫定地域ニ屬スルモノ

五、前三號ニ揭グルモノノ周圍又ハ軍事上特ニ祕密ヲ要スル地域

第三條　前條第五號ノ地域ハ之ヲ左ノ三種ニ分ツ

第一種地域　防禦營造物又ハ軍事施設ノ外周ヲ基線トシ之ヲ去ルコト二粁以內ノ地域

第二種地域　第一種地域ノ外側四粁以內及國境接壤地帶ニシテ現場ニ標識又ハ標杭ヲ設ケテ標示シタル地域

第三種地域　其他ノ地域

前項ノ第三種地域ハ更ニ之ヲ左ノ如ク區分ス

甲號地區　左ニ揭グル地域中第一種地域及第二種地域ヲ除キタル部分

間島省　琿春縣

牡丹江省　東寧縣、穆稜縣、綏陽縣

三江省　蘿北縣、綏濱縣、同江縣、撫遠縣、富錦縣、鶴立縣(但シ鶴立沙河以南ヲ除ク)

東安省　饒河縣、虎林縣、密山縣、寶淸縣大和村

北安省　北安縣(但シ訥謨爾河以南ヲ除ク)

黑河省　全部

興安北省　全部

興安東省　布特哈旗火燎溝及綽爾河上流附近、喜扎嘎爾旗

乙號地區　附圖第二ニ示ス乙地域中第一種地域及第二種地域ヲ除キタル部分

丙號地區　鞍山、撫順、本溪湖各驛ヲ中心トシ其ノ周圍半徑六粁以內ノ地域

第一種地域、第二種地域及第三種地域甲號地區竝ニ乙號地區ヲ軍機保護法第十二條第五項ノ地域ト指定ス

第四條ヨリ第十條迄省略

第十一條　自己ノ領有シタル圖書物件ガ軍機上ノ機密ニ屬スルコトヲ知リタル者ハ軍機保護法第十一條ノ規定ニ依リ遲滯ナク最寄憲兵部隊又ハ警察官署ニ出頭シ當該圖書物件ヲ提示スベシ

第十二條　軍機保護法第十七條ノ規定ニ依ル沒收處分ハ治安部大臣ノ認可ヲ受ケ憲兵部隊長又ハ警察官署長之ヲ行フ

前項ノ沒收處分ハ憲兵部隊長又ハ警察官署長命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スベシ

第十三條　第一種地域、第二種地域及第三種地域甲號地區(以下單ニ特別地區ト稱ス)內ニ居住スル者(以下單ニ居住者ト稱ス)ハ別紙第二號樣式ニ依リ所轄警察官署長ニ屆出デ居住證明書ノ發給ヲ受クベシ

第十四條　居住證明書ノ有效期間ハ發給ノ日ヨリ二年トス

居住者旅行又ハ移動スル場合ハ居住證明書ヲ携帶スベシ

居住者特別地區內ニ於ケル他ノ縣又ハ旗ヘ旅行スル場合ハ前項ニ依ルノ外其ノ旨豫メ所轄警察官署長ニ屆出デ證認ヲ受クベシ

第十五條　特別地區外居住者ニシテ特別地區內ヲ旅行セントスルトキハ別紙第三號樣式ノ旅行許可願二通ニ寫眞(六箇月以內ニ撮影シタル名刺型無帽半身)二葉ヲ添附シ所轄警察官署(已ムヲ得ザルトキハ最寄警察官署)長ニ願出デ旅行許可書ノ發給ヲ受クベシ

但シ寫眞ヲ添附シ能ハザル事由アルトキハ其ノ旨所轄警察官署長ニ願出デ指紋ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

汽車又ハ航空機ニ據リ特別地區內ヲ通過スル者ハ前項ノ許可書ヲ要セズ但シ旅行許可書ヲ有セザル者ハ其ノ地ノ警察官署長ノ許可ナクシテ停車場構外又ハ飛行場外ニ出ヅルコトヲ得ズ

第十六條　工事其他ノ事由ニ因リ多數ノ集團ヲ引率シテ特別地區內ヲ旅行セントスル者ハ前條第一項ニ依ル本人ノ願書ニ別紙第四號樣式ノ團體名簿二通ヲ添附シ所轄警察官署(已ムヲ得ザルトキハ最寄警察官署)長ニ願出ヅベシ

前項ノ願出アリタルトキハ所轄警察官署長ハ被引率者ニ對シ前條第一項ノ手續ヲ免除シ引率者ニ對シ集團旅行許可書ヲ發給スルコトヲ得

引率者ハ被引率者監督ノ責ヲ負フモノトス

第十七條　第十五條第一項又ハ前條第二項ノ旅行許可ヲ受ケタル者ニシテ已ムヲ得ザル事由ニ因リ旅行ノ徑路、行先地又ハ期間ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ最寄警察官署長ニ屆出デ認證ヲ受クベシ

第十八條　第十六條第二項ノ集團旅行許可ヲ受ケタル引率者死亡病氣其他已ムヲ得ザル事由ニ因ル旅行不能トナリタルトキハ被引率者ハ第十五條第一項ニ依リ新ニ旅行許可書ノ發給ヲ受ケ又ハ新ニ引率者ヲ定メ第十六條第一項ニ依リ最寄警察官署長ニ願出デ許可ヲ受クベシ

引率者ハ被引率者中前項ノ事由ニ因リ旅行不能トナリタル者アルトキハ遲滯ナク其ノ旨最寄警察官署長ニ屆出デ認可ヲ受クベシ

第十九條　業務其他ノ事由ニ因リ常時特別地區內ニ出入スル者ハ所轄警察官署長ニ願出デ定期旅行許可書ノ發給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ許可出願ニ關シテハ第十五條第一項ノ規定ヲ準用ス

定期旅行許可書ノ有效期間ハ發給ノ日ヨリ一年トス

第二十條　第二十五條第一項、第十六條第二項又ハ前條ニ依ル旅行許可書ノ發給ヲ受ケタル者特別地區內ノ旅行ヲ終ヘタルトキハ遲滯ナク最寄警察官署長ニ旅行許可書ヲ返納スベシ

第二十一條　特別地區外居住者ニシテ特別地區內ヘ移住セントスル者又ハ第一種地域及第二種地域中國境接壤地帶以外ノ特別地區內居住者ニシテ第一種地域及第二種地域中國境接壤地帶內ヘ移住セントスル者ハ別紙第五號樣式ノ移住許可願二通ニ寫眞(六箇月以內ニ撮影シタル名刺型無帽半身)二葉ヲ添附シ所轄警察官署長ヲ經テ治安部大臣ニ願出デ移住許可書ノ發給ヲ受クベシ

前項ノ出願者家族又ハ同伴者アルトキハ各人每ニ寫眞二葉ヲ添附スベシ

第二十二條　前條ノ許可ヲ受ケタル者已ムヲ得ザル事由ニ因リ移住期間ノ延期ヲ必要トスルトキハ其ノ事由ヲ具シ最寄警察官署長ニ屆出デ認證ヲ受クベシ

第二十三條　居住者特別地區內ニ於テ移住セントスルトキハ所轄警察官署長ニ其ノ旨屆出ヅルト共ニ移住後二十日以內ニ其ノ地所轄警察官署長ェ屆出デ居住證明書ノ書換ヲ受クベシ但シ第一種地域及第二種地域中國境接壤地帶內ニ於テ移住セントスル者ハ改メテ第二十一條ノ手續ヲ爲シ許可ヲ受クベシ

第二十四條　居住者特別地區外ヘ移住セントスルトキハ所轄警察官署長ニ其ノ旨屆出ヅルト共ニ出境後遲滯ナク最寄警察官署長ニ居住證明書ヲ返納スベシ

第二十五條　第二十一條第一項又ハ第二十三條但書ノ許可ヲ受ケ移住シタル者ハ二十日以內ニ所轄警察官署長ニ屆出デ移住許可書ヲ返納スルト共ニ第十三條第一項ニ依リ居住證明書ノ發給ヲ受クベシ

第二十六條　本令ニ依ル許可書及證明書ハ之ヲ貸與、讓渡又ハ不正ニ使用スルコトヲ得ズ

第二十七條　居住證明書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ十日以內ニ其ノ旨所轄警察官署長ニ屆出デ再發給ヲ受クベシ

居住證明書ヲ旅行又ハ移動先ニ於テ亡失シタルトキハ最寄警察官署長ニ屆出デ證明書ノ發給ヲ受ケ歸著後前項ニ依リ再發給ヲ受クベシ亡失シタル居住證明書ヲ發見シタルトキハ直ニ其ノ旨最寄警察官署長ニ屆出ヅベシ

第二十八條　旅行許可書又ハ移住許可書ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨最寄警察官署長ニ屆出デ證明書ノ發給ヲ受クベシ

前項ノ亡失屆ニハ旅行又ハ移住許可書ノ記載事項ヲ記入スベシ

第一項ノ證明書ハ之ヲ旅行又ハ移住許可書ト看做ス

第二十九條　居住證明書ノ有效期間滿了シタルトキ又ハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ一月以內ニ所轄警察官署長ニ屆出デ書換ヲ受クベシ

第三十條　當該官憲ハ特別地區內居住者、旅行者又ハ移住者ニ對シ何時ニテモ居住證明書、旅行許可書又ハ移住許可書ヲ査閱スルコトヲ得

第三十一條　居住又ハ旅行ニ關スル他ノ法令ニ依リ發給ヲ受ケタル證明書若ハ許可書又ハ法令ニ依リ認メラレタル證明書ハ別ニ定ムル所ニ依リ之ヲ本令ニ依ル居住證明書又ハ旅行許可書ト看做ス

第三十二條　治安部大臣ハ特別地區內居住者又ハ旅行者ニ對シ國防上必要アリ又ハ治安上害アリト認ムルトキハ其ノ居住又ハ旅行ヲ禁止又ハ制限スルコトアルベシ

第三十三條　第十三條乃至第三十一條ノ規定ハ軍人軍屬其他官公吏ニシテ正規ノ服裝ヲ著用シ又ハ所屬長發給證明書ヲ携帶スル者及十四歲未滿ノ者ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第三十四條　以下ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一、第八條、第九條、第十四條、第十七條、第十八條第二項、第二十條、第二十二條乃至第二十九條ノ規定ニ違反シタル者

二、故ナク第十三條第一項ノ規定ニ依ル居住屆ヲ爲サザル者

三、第十六條第三項ノ引率者ニシテ被引率者ヲ逃亡セシメタル者

四、第三十條ノ規定ニ依ル取締官憲ノ査閱ヲ拒否シタル者

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特別地域取締令ハ之ヲ廢止ス

特別地域取締令ニ依リ發給ヲ受ケタル居住證明書、旅行許可書及移住許可書ハ本令ニ依リ發給ヲ受ケタルモノト看做ス

（別紙第三號樣式）

旅行（定期旅行）許可願

（寫眞又ハ指紋）　契

氏名及別號
年齡
性別

一、本籍又ハ出生地
一、現住所
一、戸主トノ續柄
一、職業
一、旅行ノ目的
一、旅行徑路及行先地
一、旅行期間

右ニ依リ旅行（定期旅行）許可相成度寫眞添附此段願出候也

年　月　日

右　氏　名㊞

警察官署長　殿

（別紙第四號樣式）

團體名簿

番號	本籍又ハ出生地	現住所	被募地	職業	氏名	年齡	摘要

備考　一、本籍又ハ出生地ハ詳細ニ記入スベシ
二、被募集欄ハ勞働者ニ限リ之ヲ記入スルモノトス

（別紙第五號樣式）

移住許可願

一、氏名及別號
一、性別
一、生年月日及年齡
一、本籍又ハ出生地
一、現住所
一、戸主トノ續柄
一、民族
一、職業
一、宗教
一、移住ノ目的
一、移住地
一、出發豫定年月日
一、家族其ノ他同伴者ノ氏名年齡職業及關係

右ニ依リ移住許可相成度寫眞添附此段願出候也

年　月　日

右　氏　名㊞

治安部大臣　殿

注意

上記軍機保護法施行規則に依れば第一種地域、第二種地域及第三種地域中の甲號地區旅行の際にのみ旅行許可書を必要とすることになつて居るが、最近乙號地區内各地に於て時期的或は地域的に甲號地區同樣旅行許可書の携行を必要とする地域が多くなつた爲許可書を携行する方が便利である。近き將來には乙號地區に旅行許可制度が實施せらるるやも量られない狀態にある故、旅行者は乙號地區内旅行の際に於ても旅行許可書を携行する樣特に勸告する。これに伴ひ各地警察官署に於ては既に乙號地區旅行者に對して右許可書發給の取扱を開始してゐる。尙、日本よりの旅行者は大連、安東、圖們、奉天、新京、哈爾濱其の他特別地域外の警察官署に願出る事が出來る。此の場合には勿論身分證明書と寫眞が必要である

◇滿洲國人の渡日取扱規則

一　官公吏個人ノ場合
本人所屬公衙發給ノ身分證明書ヲ携帶スルコト

二　留學生ノ場合
民政部大臣發給ノ留學認可書又ハ駐日大使館發給ノ留日學生證明書ヲ携帶スルコト

三　一般民衆個人ノ場合
本人居住所轄警察署長發給ノ赴日身分證明書ヲ携帶スルコト但シ日本側ニ於テ勞働者ノ入國ヲ制限シ居ル關係上勞働者ノ渡日ニ對シテハ身分證明書ヲ發給セザルコト、若シ勞働者ト認ムルモノノ範圍ニ關シ日本側ト當國側ト意見ヲ異ニシ當國側ニ於テ勞働者ニ非ズト認メ身分證明書ヲ發給シタル者ト雖モ、日本側ニ於テ之ヲ勞働者ト認メタル場合ハ入國ヲ拒絶セラルルコトアルベシ

四　團體ノ場合
團體ヲ構成セル各人ハ其ノ官公吏タルト否トヲ問ハズ原則トシテ前記ノ如キ夫々當該身分證明書ヲ携帶シタル上

（1）官公吏及官署主催ニ依ル團體ニ在リテハ所轄官廳ヨリ一件書類添附ノ上總務長官ヘ旅行許可（康德四年四月總人人第一八三一號ニ依リ）ヲ申請スルコト
總務長官ヨリ許可アリタル團體ニ對シテハ外務局ヨリ駐日大使ヲ通ジ日本外務省ニ便宜供與方依頼ス

（2）一般民衆團體ニシテ日本旅行ニ付便宜供與ヲ受ケントスル場合ハ地方長官ヲ通シ一件書類ヲ外務局ニ提出シ外務局ハ駐日大使ヲ通ジ外務省ニ便宜供與方依頼ス

五　前記三ノ警察署長發給ノ赴日身分證明書ニハ本人ノ本籍又ハ出生地現住所職業氏名年齡赴日目的旅行期間行先地ヲ記載シ半身脱帽ノ寫眞ヲ貼附ス

六　本取扱ハ康德五年一月一日ヨリ實施ス

七　本取扱實施ノ上ハ從來外務局ニ於テ個人ニ對シ發給セル渡日證明書ヲ廢止ス

【別　表】（記載例）

第一〇號	赴日身分證明書
	康德八年一月一日
住所	吉林省永吉縣第五區何何屯堡何何甲門牌一號
職業	農業（保長）
氏名	王振武
年齡	二十八年

契……約　何何警察署印

第一〇號	赴日身分證明書
本籍又ハ出生地	吉林省永吉縣第五區何何屯 山東省掖縣何何村
住所	吉林省永吉縣第五區何何屯堡何何甲門牌一號
職業	農業（保長）
氏名	王振武
年齡	二十八年
赴日目的	視察
旅行期間	自康德八年一月一日至康德八年一月三十一日
行先地	下關、廣島、大阪、京都、東京、栃木

右係證明王振武赴日身分
康德八年一月一日

吉林省永吉縣
何何警察署長㊞

㊞（六箇月以内ニ撮影セル半身脱帽寫眞貼附（手札型））取扱㊞

◇滿洲國「外國旅券」規則

〔院令第三十一號〕

第一條　外國旅券ハ國内ニ在リテハ外務局長官國外ニ在リテハ本邦大公使、總領事又ハ領事之ヲ發給ス

第二條　旅券ノ下附ヲ申請セントスル者ハ左記書類ヲ國内ニ在リテハ居住地省長（首都警察廳管轄區域ニ在リテハ警察總監）國外ニ在リテハ前條所定ノ在外公館長宛提出スベシ

一、旅券下附願（別紙第一號書式）
二、身許申告書（別紙第二號書式）
三、外國在留者ヨリノ呼寄ニ關スル書信ヲ有スル者ハ該書信
四、其他參考トナルベキ書類アルトキハ該書類
五、寫眞三葉（最近六月以内撮影ノ手札形、無帽半身、無臺紙）

當該官署長ハ其ノ認定ニ依リ前項第二號書類ノ提出ヲ省略セシムルコトヲ得

第三條　公用ノ爲外國ニ旅行セントスル者及其ノ同伴セントスル家族又ハ從者ニ關シテハ本人ノ所屬長官ヨリ各寫眞二葉且從者ニ付テハ本人ノ身許保證書（別紙第三號書式）ヲ添附シテ外務局長官ニ公用旅券ノ下附ヲ請求スベシ（別紙第四號書式）

第四條　旅券ノ下附ヲ受ケタル後該旅券面記載ノ事項ニ變更ヲ生ジタルトキ其ノ他旅券ノ書替ヲ必要トスルトキハ事由ヲ具シ第二條所定ノ官署長ニ其ノ書替ヲ申請スベシ

公用ノ爲外國ニ在ル者其ノ家族又ハ從者ヲ呼寄セントスルトキハ前項ニ準ズ（別紙第五號書式）

第五條　旅券ノ下附ヲ受ケタル者旅券發給ノ日附ヨリ六月以内ニ出發セザルトキハ該旅券ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條　旅券ノ下附ヲ受ケタル者歸國シタルトキハ該旅券ハ其ノ效力ヲ失フ

第七條　用務ノ爲本邦ト特定ノ地トノ間ヲ數次往復スル必要アリト認ムル者ニ對シテハ願出ニ依リ數次往復旅券ヲ下附スルコトヲ得

前項ニ於ケル特定ノ地トハ當分ノ間ソ聯邦極東領域各地ニ限ルモノトス

本旅券ハ發給ノ日附ヨリ三年ヲ經過シタル後始メテ歸國シタルトキ其ノ效力ヲ失フ

第八條　無效又ハ失效ノ旅券ハ遲滯ナク旅券發給ノ權限アル官署長ニ返納スベシ有效ナル旅券ト雖モ旅券發給ノ權限アル官署長ヨリノ命令アルトキ亦同ジ

第九條　旅券ヲ紛失シ又ハ滅失シタルトキハ直ニ其ノ旨旅券發給ノ權限アル官署長ニ屆出ヅベシ紛失シタル旅券ヲ發見シタルトキ亦同ジ

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ徒刑又ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ旅券ヲ沒收ス

一、事實ニ相違スル記載又ハ申立ヲ爲シ其ノ他詐欺ノ行爲ヲ以テ旅券ノ下附ヲ受ケタル者及之ヲ幇助シタル者

二、他人名義ノ旅券ヲ使用シ又ハ之ヲ使用セシメ其他不正ノ目的ヲ以テ旅券ヲ授受シタル者及之ヲ幇助シタル者

三、本令ニ依リ旅券ヲ返納スベキトキニ之ヲ返納セズシテ使用シ又ハ事實ヲ僞リテ旅券ヲ紛失シ若ハ滅失シタル旨ヲ屆出デタル者

第十一條　旅券發給及書替ニ關シテハ左ノ手數料ヲ徵收ス

一　普通旅券	一葉毎ニ	國幣五圓
一　數次往復旅券	同	國幣十圓
一　旅券書替	同	國幣三圓

前項諸手數料ハ外務局長官又ハ在外公館長ニ於テ必

妥ト認メタルトキハ之ヲ免除スルコトヲ得

第十二條　前條ノ手數料ハ收入印紙ヲ以テ納入スベシ在外公館ニ於テハ別ニ定ムル換算率ニ從ヒ當該駐在國ノ貨幣ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

第十三條　本令ハ本邦内ニ生活ノ本據ヲ有スル無國籍人ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ康德五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大同二年外交部令第一號外國旅券及外國人入國旅券査證規則竝ニ同部令第二號外國旅券及外國人入國旅券査證施行細則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

別紙第一號書式

外國旅券下附願

一　氏　　名

一　出　生　地（詳細記載スルコト）

一　所　在　地（同上）

一　身　　分（戶主ト家族トノ別、本人家族ナルトキハ戶主ノ氏名職業及戶主トノ續柄）

一　年　　齡（何年何月何日生）

一　職　　業（何種營業、關係事業、役名等詳細記載スルコト）

一　旅行目的地及經由地名（例ヘバ莫斯科經由佛國、新嘉坡經由獨逸等ト記載スルガ如シ）

一　旅行目的（例ヘバ視察、留學、商用等ト記載スルガ如シ）

一　身　　量

一　特　　徵（外部ヨリ見ルコトヲ得ル身體ノ特徵一箇所、特徵ナキ者ハ「ナシ」ト記載スルコト）

一　出境地點（例ヘバ綏芬河、山海關等ト記載スルガ如シ）

一　出發豫定期日（何年何月何日）

一　歸國豫定期日（何年何月）

右ニ依リ外國旅券御下附相成度別紙何々書（第二條第一項第一號乃至第四號ニ該當スル書類）及寫眞三葉相添へ此段相願候也

年　月　日

住所

氏　　　名㊞

省長（警察總監）宛

備　考

一　本邦大公使、總領事ニ提出スル旅券下附願ノ樣式ハ右ニ準ズルコト

二　夫ガ妻ヲ又ハ親ガ子ヲ同伴スル場合ハ其ノ氏名、年齡、身量及特徵ヲ夫々各人別ニ記載ノ上同一願書ニ依リ出願スルコトヲ得但シ右ノ場合ニ於テ妻ヲ夫ノ旅券ニ又ハ子ヲ親ノ旅券ニ併記方（數次往復旅券ノ場合ヲ除ク）希望ノ者ハ「某ヲ某ノ旅券ニ併記」ト氏名ノ項ノ下方ニ記載シ且全員合同撮影ノ寫眞三葉ヲ添附スルコト

別紙第二號書式

身許申告書

住所

氏　　　名

年　月　日生

一　學　　業

一　何年何月何日何學校卒業又ハ

一　何年何月ヨリ何年何月迄何所ニ於テ何何修業若クハ研究等

一　職　　業

一　何年何月何會社事務員トシテ何所詰又ハ

一　何年何月以來何業ニ從事等

一　旅　　行

一、何年何月何日何官署ヨリ旅券ノ下附ヲ受ケ何何ノ爲何國ニ旅行何年何月ニ歸國等

一　賞　　罰

賞罰表彰等ノ事實

一　資　　產

一　自己所有分

（イ）地所家屋價格　　圓

（ロ）商品價格　　圓

（ハ）貸金　圓預金　圓債券　圓現金　圓

（ニ）其他動產價格　　圓

合　　計　　圓

一　戶主所有分（本人ガ戶主ナル場合ハ不要）（記載方前ト同ジ）

右ノ通相違無之候也

年　月　日

右　何　　某㊞

省長（警察總監）宛

備　考　本邦大公使、總領事又ハ領事ニ提出スル身許申告書ノ樣式ハ右ニ準ズルコト

別紙第三號樣式

身許保證書

住所

氏　　　名

年　月　日生

右者拙者ノ使用スル從者ニシテ今般何國へ同伴又呼寄スル者ニ相違無之同人ノ身上ニ關シテハ一切當方ニ於テ責任ヲ以テ引受可致保證候也

年　月　日

官　職

氏　　　名㊞

外務局長官宛

別紙第四號樣式

年　月　日

何部大臣（本人所屬長官）氏　　名㊞

外務局長官宛

公用旅券請求ノ件

住所　官　職　氏　　名

年　月　日生

住所　同伴スル妻　氏　　名

年　月　日生

住所　同伴スル子　氏　　名

年　月　日生

住所　同伴スル從者　氏　　名

年　月　日生

右者官命ニ依リ左記ノ通外國ニ出張可致候ニ付公用旅券發給相成度寫眞二葉及身許保證書相添へ此段及請求候也

記

一　旅行目的

一　旅行目的地及經由地名

一　身量（各人別ニ記載スルコト）

一　特徵（各人別ニ外部ヨリ見ルコトヲ得ル特徵一箇所、特徵ナキ者ハ「ナシ」ト記載スルコト）

一　性別（各人別ニ記載スルコト）

備　考

一、官職名ノ英佛譯文一定セルモノハ該譯文ヲ官職名ノ傍ニ附記スルコト

二、一葉ノ旅券ニ數名ノ併記方申請セントスルトキハ其ノ旨ヲ追書トシ置クコト

三、身許保證書ハ從者ヲ同伴セントスルトキニノミ添附スルコト

別紙第五號書式

年　月　日

何部大臣（本人所屬長官）氏　　名㊞

外務局長官宛

公用旅券請求ノ件

住所　何官職何某ノ妻　氏　　名

年　月　日生

住所　何官職何某ノ子　氏　　名

年　月　日生

住所　何官職何某ノ從者　氏　　名

年　月　日生

右者公用ノ爲何國ニ滯在スル何官職何某ノ呼寄ニ依リ左記ノ通外國ニ旅行可致候ニ付公用旅券發給相成度寫眞二葉（及身許保證書）相添へ此段及請求候也

記

一　旅行目的地及經由地名

一　身量（各人別ニ記載スルコト）

一　特徵（各人別ニ外部ヨリ見ルコトヲ得ル特徵一箇所、特徵ナキ者ハ「ナシ」ト記載スルコト

備　考

一、官職名ノ英佛譯文一定セルモノハ該譯文ヲ官職名ノ傍ニ附記スルコト

二、子ヲ母ノ旅券ニ併記方希望スルトキハ其ノ旨ヲ追書シ置クコト

三　身許保證書ハ從者ガ呼寄セラルルトキニ限リ添附スルコト

◇滿洲國「外國人旅券査證」規則

〔康德五年九月二十日院令第二十六號〕

第一條　本邦ニ入國セントスル外國人ハ條約又ハ慣行ニ依リ旅券査證ヲ必要トセザル者ヲ除キ豫メ旅券（又ハ國籍證明書）ニ本邦駐外官署又ハ駐大連外務局辦事處ノ入國査證ヲ受クルコトヲ要ス但シ已ヲ得ザル事由ニ因リ右官署ノ査證ヲ受クルコト能ハザル者ハ別ニ指定スル地點ノ一ニ於テ外務局ノ入國査證ヲ受クルコトヲ得

第二條　本邦人ニ對シ出國査證ヲ要求スル國ノ國民ニシテ本邦ヨリ出國セントスル者ハ豫メ別ニ指定スル地點ノ一ニ於テ外務局ノ出國査證ヲ受クルコトヲ要ス但シ第四條ノ定期査證ヲ以テ本邦ヲ常時出入國スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條　本邦ヲ通過セントスル外國人ハ入國及出國ノ査證ニ代へ通過査證ヲ受クルコトヲ得

第四條　本邦ヲ常時出入國セントスル外國人ハ定期査證ヲ受クルコトヲ得

第五條　本令ニ依リ査證ヲ受ケントスル者ハ所定ノ手數料ヲ納付スベシ

第六條　本令ニ於テ駐外官署トハ大使館、公使館、總領事館、領事館、通商代表部、代表部、通商代表部辦事處及代表部辦事處ヲ謂フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

康德四年院令第三十二號外國人入國旅券査證規則ハ之ヲ廢止ス

◇滿洲國及關東州內定住外國人ニ對スル旅券査證辦法

〔國務院訓令第一號〕

一　本邦內ニ生活ノ本據ヲ有シ且所轄警察官署發給ノ現ニ有效ナル居留證明書ヲ有スル者ニ對スル査證ハ無料トス

一　關東州內ニ生活ノ本據ヲ有シ且所轄警察官署發給

ノ現ニ有效ナル居留證明書ヲ有スル者ニ對スル査證料ハ入國及通過共國幣二圓トス

一　關東州內ニ生活ノ本據ヲ有スル者ニ對スル多次有效入國查證竝ニ有效期限ハ下記ノ通之ヲ定ム

多次有效入國查證　料金每件國幣十圓査證ノ日附ヨリ六月間有效

◇北支經由外人旅客の滿洲國入國査證に就て

日本國人及中華民國人以外の外國人にして滿洲國に入國するときは、必ず旅券査證を受くべきものにして無査證の儘山海關に至り入滿を拒否せられたる事例多きにつき注意を要する。北支に於ける旅券査證機關は左の通りである

一、滿洲帝國通商代表部　北京南海公園

二、滿洲帝國通商代表部天津辦事處　天津宮島街三四

三、滿洲帝國通商代表部濟南辦事處　濟南商埠地二路六六

◇蒙疆地域外人居住旅行規定

第一條　本規定ノ外人トハ日本、滿洲及新支那ニ國籍ヲ有スルモノ以外ヲ謂フ

第二條　本規定ハ蒙疆地方ノ特殊事情ニ基キ日本人ノ利益ヲ害セザル如ク外人ノ居住及旅行ニ關シ其生命財產ヲ保護スルヲ主張トシテ規定ス

第三條　蒙疆地域ニ於テ外人ノ居住及旅行（入蒙ヲ除ク）ニ對スル業務ハ左記機關ニ於テ之ヲ司ル

一、居住ニ關シテハ張家口、大同及厚和ニ在ル各自治政府（現政廳）トス

二、旅行ニ關シテハ張家口、大同、厚和及包頭ニアル各特務機關トス

前項以外ノ地ニ在リテハ其他若クハ最寄日本軍隊トス

第四條　外人居住ノ手續ニ關シテハ各政府ノ定ムルトコロニ依ル

第五條　外人ニシテ蒙疆地域內ヨリ京津地方ヘ旅行セントスルモノハ第三條第二項ニ揭グル機關ノ發行スル旅行證明書ヲ所持スルヲ要ス前項旅行證明書ノ發給ヲ受ケントスルモノハ居留證明書（パスポート）及本人ノ寫眞ヲ添ヘ、旅行ノ目的、行先、經路、期間等ヲ述ベテ願出ルモノトス

旅行途中既ニ發給セラレタル旅行證明書ノ期間、行先、經路等ヲ變更スルノ已ムナキニ至リタル時ノ手續ハ前項ニ準ズ

第六條　外人ニシテ旅行中其地ニ於テ憲兵、警官ハ勿論日本軍將校ヨリ居留證明書及旅行證明書ノ提示ヲ求メラレタル時ハ之ニ應ズルヲ要ス

第七條　凡テ證明書ハ其有効期間滿了後速ニ發行機關ニ返納スルヲ要ス

但シ止ムヲ得ザル事情ニヨリ發行機關ニ至ルコトヲ得ザルモノハ最寄日本軍機關ニ返納ヲ依託スルコトヲ得

◇入蒙者取締規則

昭和十三年七月一日より蒙古地帶旅行者の身邊保護の目的から次の通り入蒙者取締暫行規則を制定實施されてゐる。爾後蒙古方面旅行者は豫め在張家口兵團本部關東軍司令部又は特務機關の許可を受ける樣注意を要する。

◇入蒙者取締暫行規則

一、本規則ニテ入蒙者トハ「滿洲蒙古」及京包線沿線以外ノ蒙古地域ヲ旅行スルモノヲ云フ

二、日本陸軍以外ノ要務ヲ以テ察南晉北其他京包線沿線或ハ滿洲國ヨリ入蒙セントスル者ハ身邊ノ保護其他ノ必要上當分努メテ之ヲ制限スルヲ方針トシ之ニ關スル取締ハ次記各項ニ依リ實施スルモノトス

三、入蒙ヲ希望スル者ハ豫メ在張家口兵團本部若クハ關東軍司令部ノ許可ヲ得ルヲ要ス

然シ已ムヲ得ザル事情アル者ニ對シテハ次記諸官署ニ於テ身元、入蒙ノ目的（但シ一切營利ヲ目的トセザル公用又ハ學術上ノ研究、調査等ニ限ル）其ノ他所要事項ヲ調査シ、差支ヘナシト認メ本人ガ入蒙後ノ心得實行ヲ承認シタ場合ニ於テ入蒙ヲ許可スルコトヲ得

四、入蒙希望者ハ身邊ノ保護其他ノ必要上次記諸件ノ實行ヲ承諾スルヲ要ス

（イ）　入蒙者ハ直チニ現地最寄ノ特務機關若クハ警務機關ニ屆出デ、其ノ指示ニ從フヲ要ス

（ロ）　入蒙者ハ蒙古人ニ損害ヲ與ヘ又ハ誤解、惡感ヲ招クガ如キ一切ノ行動ヲ禁ズルヲ要ス

（ハ）　入蒙者ニ當分ノ間蒙古內ニ於テ營利ヲ目的トスル事業ノ經營ヲ許サザルモノトス

（ニ）　入蒙者ハ其ノ用務ヲ終ヘタ後ハ速カニ蒙古ヨリ立退キ入蒙許可ヲ受ケタル機關ニ對シ必要ナル報告ヲナスモノトス

◇支那方面旅行竝移住者旅行手續

滿洲國及關東州竝に日本より支那方面に旅行移住せんとする日本人は、行先地帝國總領事館警察署の「渡支事由證明書」の下附を受け、右を添へて所轄警察署長發行に係る「身分證明書」を所持するを絕對必要とし、之等手續を履行せざれば國境に於て日本官憲より入國を拒否せらるることになつてゐるから注意を要する。

尚軍關係者は所轄憲兵隊長發給の「身分證明書」所持によりて入國を許可せらるゝことゝなつてゐる。

（1）　關係當局取扱要領

（イ）　管內居住ノ內鮮人中次ニ揭グル以外ノモノニシテ北支ニ旅行、移住セントスルモノニ對シテハ別紙樣式ノ身分證明願ヲ提出セシメ、所要ノ調査ヲナシタル上身分證明書ヲ發給ス。

左ノ者ノ旅行、移住ニ對シテハ身分證明書ヲ要セズ。

制服着用ノ日本軍人、軍屬、關東局、大使館、警察官竝日系滿洲國軍官及警察官

（ニ）　大連水上、營口、安東警察署ニ於テハ前項身分證明書ノ提示ヲ求メ、之ヲ所持セザル者ニ對シテハ上陸不可能ナルベキ旨ヲ說示シテ乘船ヲ阻止ス。

（ホ）　內地、朝鮮ニ對シテモ關東軍ヨリ聯絡セル趣ニテ管外居住ノ內鮮人ニ對シテハ原則トシテ關係各廳所轄署ニ於テ證明書發給ノ筈ナルモ、若シ願出アリタル場合ハ昭和十二年二月十三日附關機高第一〇九二號「一時滯在者ニ對スル特殊地帶旅行移住證明書發給方ニ關スル件」ノ要領ニ準ジ便宜扱ヲナスコト。

（2）　證明標準

（一）　現ニ戶口調查簿ニ登錄セラレ身元確實ナル者

（二）　業務上又ハ家庭上其他眞ニ必要ト認ムル者

（三）　禁制品取扱ノ虞ナキ者

（四）　國防又ハ治安ノ害無シト認メタル者

（3）　證明手數料

徵收セズ

（4）　報告

每月ノ證明書發給竝拒否ヲ日、鮮別ニ計上シ職業、目的、徑路、行先地ノ概略其他特記事項等翌月五日迄ニ報告ノコト

（5）　願出樣式

（第一號樣式）

北支旅行身分證明書

一　本　籍

二　現住所

三　職業、氏名、年齡

四　旅行ノ目的又ハ理由

五　旅行期間　昭和　年　月　日自　年　月　日至

六　旅行徑路及行先地

右ニ依リ旅行致度此段及願出候也

年　月　日

右氏名㊞

所轄警察署長殿

（第二號樣式）

北支移住身分證明願

一　本　籍

二　現住所

三　職業、氏名、年齡

四　移住目的

五　移住地

六　家族其他同伴者氏名、年齡、職業及本人トノ關係

右ニ依リ移住致度此段及願出候也

年　月　日

右氏名㊞

所轄警察署長殿

◇支那行定期旅行者身分證明書

（關東州）

從來の北支（或は靑島、上海方面）旅行身分證明書は一囘限り有効で再度使用を禁ぜられてゐたが、再三渡航するもの、便を計つて所轄警察署に於て定期旅行身分證明書を發給されてゐる。

證明願樣式は次の通り

北支上海方面定期旅行者身分證明願

手札型上半身寫眞

一　本　籍

二　現住所

三　職業、氏名、年齡

四　旅行ノ目的又ハ理由

五　有効期間昭和十六年　月　日自　月　日至

六　旅行徑路及行先地（旅行地域）

右ニ依リ旅行致度保證人連署此段及願出候也

右願出人　氏名㊞

保證人　本籍　現住所　職業　氏名㊞

◇支那人渡日に就て

最近日本內地に入國せんとする支那人の取扱は次の條件を具備せざる者は入國を禁止せられることになつた。尙滿洲國人（在滿永住支那人を含む）に對する取扱は從來通りである。

渡日條件

一、新政府所屬官公吏の場合は所屬官公署發給の身分證明書及在支日本帝國官憲の證明書又は紹介狀所持のこと。

（第一號樣式參照）

二、日本帝國官憲の特殊任務を帶びたる者の場合は

該要務を帶びたることを判別し得る日本帝國官憲の紹介狀所持のこと。

三、關東州内永住者及び内地在泊船に乘組みのため渡航する船員の場合は在關東州警察署發給渡航證明書及び見せ金一名一〇〇圓宛所持のこと。

四、その他は新政府及び在支日本帝國公館長の證明書及び見せ金一名一〇〇圓所持のこと。

（第二號樣式參照）

五、次の者は上記の證明書なくとも上陸を許可せられる。

（イ）昭和十四年五月一日以降日本内地學校發行在學又は留學證明書所持の再渡航學生。

（ロ）昭和十四年五月一日以降の日本内地居住地所轄警察署發給外國人登錄簿抄本所持の再渡航者。

（ハ）昭和十四年五月二十日以後一時歸國せんとする日本在住支那人にして再入國差支へなしと認められる者には居住地所轄警察署に於て一時歸國證明書を發給してゐたが、これは再入國許否判定の資料とされるものでなく、今後は内地上陸には必ず中國新政府及在日本帝國公館長の證明書の所持を要することゝなつた。

（第一號樣式）

身分證明書

寫眞

官職　氏名

年齡

一、渡日用務

右證明ス

年　月　日

所屬官（公署長）㊞

右證明ス

年　月　日

在支日本帝國公　長氏名㊞

（第二號樣式）

渡日證明書

寫眞

本籍

現住所

職業　氏名

年齡

一、渡日目的

一、行先地名又ハ旅行地域

右證明ス

年　月　日

（政府當局者）官職氏名㊞

右證明ス

年　月　日

在支日本帝國公舘長氏名㊞

◇上海發旅客の所要證明書類竝携帶通貨の取扱に就て

一、旅行證明書

（1）上海↓大連

（A）日本人

イ、赴連ノ場合ハ不要

ロ、再歸滬者ハ總領事發給ノ身分證明書、旅行證明書又ハ居留證明書ノ内一通必要

ハ、大連經由天津方面旅行者ハ身分證明書、旅行證明書又ハ軍特務機關發行旅行證明書等ノ内一通必要

ニ、鮮、台人ハ原籍地官憲ノ旅行證明書又ハ（ロ）ニ記載證明書ノ内一通ニ上海領事館第二課ノ證明ヲ要ス

（B）滿洲國人

イ、總領事館、陸軍特務機關、滿洲官憲發給ノ居住又ハ旅行證明書ヲ要ス

ロ、勞働者ニ屬スル者ハ大連直航不能（青島上陸、滿洲勞工協會ノ身分證明書受給ノ上赴連ノコト）

ハ、入滿者ハ前記證明書ニ上海駐在、在滿洲國通商代表部ノ査證ヲ必要トスル（無料ニテ發給）

（C）支那人

イ、上海特務機關本部、奧地特務機關（南京、杭州、漢口、九江、安慶、南通、蘇州、蚌埠）上海總領事、關東州内警察署長ノ居住又ハ旅行證明書ノ内一通必要

ロ、（B）ノ（ロ）適用

ハ、大連經由入滿者ハ更ニ右ニ對スル上海駐在滿洲國通商代表部ノ査證入要（有料、保證人ヲ要ス）

（D）外國人

イ、パスポートニ關東州入國査證受有ヲ有ス

イタリー及オランダ人ハ不要

露人ハ離滬月日登錄ノコト

無國籍人ハ上海特別市警察局護照ニ入國又ハ通過査證必要

ロ、入滿者ハ關東州滯在七日以内ノ場合ハ通過査證ヲ七日以上ニ亘ル場合ハ入國査證受有ノコト

ハ、大連經由天津方面旅行者ハ通過査證ニ更ニ總領事竝海軍武官府認證ノ「北支上陸許可證」入要

香港總領事旅行證明書ハ武官府ノ認證不要

（II）上海↓漢口

イ、コレラ（有放期間一ヶ月）漢口以外ノ長江沿岸向ハ二ケ月有效

ロ、種痘（二ケ月）

時期ニヨリコレラ檢便施行ノコトアリ

三、携帶通貨

（I）上海↓大連　二〇〇圓迄

（II）上海↓青島　二〇〇圓迄

（III）上海↓日本　二〇〇圓迄

○軍票ハ當地邦人銀行ニ於テ乘船券提出ノ上日銀券ト交換

（　）上海↓奧地　制限ナシ

トス

（II）上海↓青島

（A）日本人

イ、赴青ノミノ場合ハ不要

ロ、再〻還者ハ總領事身分證明書、同旅行證明書ノ内一通必要

ハ、奧地旅行者ハ陸軍特務機關旅行證明書、總領事發給ノ證明書ノ内一通必要

ニ、鮮、台人ハ原籍地官憲旅行證明書、又ハ（I）ロ項記載ノ内一通ニ上海領事舘第二課ノ認證ヲ要ス

（B）滿人及支那人

イ、海軍武官府竝總領事認證ノ北支上陸許可證又ハ青島往復旅行證明書必要

ロ、青島ヨリ奧地旅行者ハ更ニ青島特務機關ニ許可申請ヲ要ス

（C）外國人

イ、海軍武官府竝總領事認證ノ北支上陸許可證又ハ青島往復旅行證明書必要

ロ、青島ヨリ奧地旅行者ハ更ニ青島特務機關ニ許可申請ノコト

ハ、猶太系外人ノ赴青ハ制限傾向ニアルモ具体的方針未定、許可證受有者ニノミ切符發賣

（III）上海↓南支

（A）日本人

イ、海軍武官府竝總領事認證ノ南支旅行證明書必要

ロ、香港行ハ英國領事ノ入國査證入要（電信承認ニ非ザレバ月餘ヲ要ス）

（B）滿人、支那人、外國人

イ、海軍武官府竝總領事認證ノ南支旅行證明書必要

（IV）上海↓中支奧地

（A）日本人

イ、上海在留者ハ領事舘警察ノ在留證明書、其ノ他ハ身分證明書必要

ロ、鮮、台人ハ在留證明書又ハ身分證明書ニ領事舘第二課ノ乘船證明ヲ要ス

（B）滿人、外人

イ、上海特務機關ノ認證必要

（C）支那人

イ、上海特別市政府發行ノ市民證又ハ縣政府發行ノ縣民證必要

ロ、乘船ノ場合ハ之ニ更ニ軍特務機關ノ證明必要

（V）上海↓日本

（A）日本人

イ、赴日ノミノ場合ハ不要

ロ、再〻還者ハ總領事身分證明書又ハ旅行證明書必要

（B）滿洲國人

滿洲國官廳旅行證明書必要

（C）支那人

南京政府渡日證明書ニ總領事ノ認證ヲ要ス

（D）外國人

滯日十五日以内ハ通過査證ヲ、十五日以上ハ入國査證受有ノコト、通過ハ一回、入國ハ一ケ年有效トス

二　防疫關係證明書

（I）上海↓各地

イ、コレラ（有效期間三ケ月）

ロ、種痘（〃　）

◇香港向旅行者の旅券及査證に就て

一、旅券

廣東在留ノ者ニ對シテハ渡船ノ目的判然セルモノテアル限リ許可サレル。

卽チ在廣東帝國總領事宛旅券下附願及保證書ニ最近撮影ニ係ル脫帽寫眞二葉ヲ添附、手數料金九圓（收入印紙）ト共ニ提出スレハ二日間ニテ下附サレル。

廣東在留者以外ハ軍關係者ナラサル限リ絕對ニ下附サレナイ。

二、査證

香港ハ昨年九月對獨宣戰布告以後査證ヲ要スルコトトナリ之カ取扱ハ「沙面」英國領事館ニテ爲サレル。

査證料ハ每月爲替相場ヲ考慮シ變更ヲ見ル爲一定セス。

五月中査證料ハ左ノ通

通過査證　香港弗　一・六〇弗

普通査證　香港弗　一・五一〇弗

査證料カ香港幣テアル爲、香港幣ノ入手出來サル者ハ現在ノ市中闇相場金軍票二五八二六五圓香港幣一〇〇弗ノ法外ナ相場テ兩換セサルヲ得ナイ狀態ニアル。

査證交付ニ就テハ嚴重ヲ極メ香港當局ヲ通シ行先ニ照會スル費用(電報料)等ヲ總テ申請者ノ負擔トナル。

◇北鮮に於ける滿洲國幣の流通禁止に就て

從來北鮮に於て便宜上流通を認められてゐた滿洲國幣は、昭和十五年一月一日を以て正式流通禁止となり禁止後は金融組合に於て百圓につき二圓の兌換料を徴收する。

◇海州行日本人入域心得

一、今次、聖戰ノ目的ヲ確認シ私ヲ滅シ積極的ニ皇軍ニ協力スルハ勿論、官憲ノ命令ニ對シテハ絕對ニ服從スルコト

二、日本人トシテノ體面ヲ堅持シ支那人ニ對シテハ善意ヲ以テ之ヲ誘導シ東亞和平ノ理想郷建設ノ一分子トシテ勉勵スルコト

三、土地家屋其ノ他支那人トノ間ニ各種契約ヲ爲サントスル時ハ一々憲兵隊ノ證認ヲ得テ之レヲ行ヒ決シテ個人間ニ自由契約ヲ行ハザルコト

四、通貨ハ一切軍票ヲ使用スルモノトス、依テ所持金ハ豫メ青島及徐州ノ陸軍部隊本部ニ於テ交換スルコト

五、入域許可願及經歷書ハ各三通ヲ準備シ一通ハ本人所持シ殘リノ一通ハ到着後海州憲兵分隊ニ差出スモノトス

六、入域許可願及經歷書用紙ハ青島及徐州ノ陸軍特務機關ニ於テ交付スルモノトス

七、其ノ他不審ノ點ハ青島及徐州兩陸軍特務機關ニツキ聽取スルコト

八、入域前ニ必ズ種痘ヲナシ猶成ル可ク「チブス」「パラチブス」ノ豫防注射ヲナシテ來ルコト

九、現地ハ物資缺乏シアルニ付各自努メテ多ク携行スルコト

◇海南島渡航注意

一、諸官省官吏を除く普通渡航客に限り海軍省軍務局第二課又は臺灣總督府海軍武官室よりの渡航證明書交附が必要なり。

二、海南島上陸は次に依るべき旨同島關係當局より指示及告示があつた。

(イ)　碇泊場司令指示

一、日本人船客ノ上陸ハ在泊中ノ陸上視察ニ限リ情況ニ依リ許可スル事アリ

一、上陸スル者ハ所要各種豫防注射ヲナシ居ル事ヲ要ス

一、陸上ノ買物ハ軍票ニ限ルモノトス

一、其他軍側ノ取締ヲ嚴守スルモノトス

(ロ)　海口領事館告示

本島ニ於テ左記ノ事項ヲ禁ズ、之ニ違反シタル者ハ相當處分ス但シ軍部及當館ノ許可又ハ諒解アル者ハ此ノ限リニ非ズ

一、軍人軍屬ニ紛ハシキ服裝

一、戰鬪帽ヲ使用スル事

一、銃器及刀劍ヲ携帶スル事

(ハ)　尙所要各種豫防注射とは次の通りである

一、種痘證明書

一、コレラ豫防注射完了證明書

一、ペスト豫防注射完了證明書

◇北支行旅客に對する通貨交換に就て

一、交換場所

北支行旅客ニ對シテハ山海關、古北口驛ホーム竝塘沽碼頭及靑島經由ニ在リテハ船內

北支發旅客ニ對シテ北京驛待合所、山海關、古北口驛ホーム及塘沽碼頭竝北支所在正金銀行、朝鮮銀行、蒙疆銀行、天津銀行、濟南銀行、及滿洲中央銀行ノ各本支店

二、交換方法

旅客ハ前號ノ交換場所ニ於テ所持金額交換ノ際乘車券ヲ呈示シ其ノ裏面ニ交換濟ノ證明印(交)ノ押捺ヲ受クルコト

尙日本(朝鮮ヲ含ム)發旅客ハ入滿ノ際國境驛港所在稅關ニ於テ乘車券裏面ニ關東州又ハ滿洲國通過ノ證明印(滿)ノ押捺ヲ受クルコト

三、交換額

イ　北支著ノモノ

關東州又ハ滿洲國發ノモノ

乘車券(大人、小兒共)一枚一回ニ限リ　五十圓迄

日本(朝鮮ヲ含ム)發ノモノ

同　二百圓迄

註　日本發旅客ハ本號交換額ノ外別ニ三百圓迄ハ到著地向爲替送金ヲ爲スコトヲ得日本政府發給ノ輸出許可證アルモノニ付テモ右ニ準ス

ロ、北支發ノモノ

乘車券(大人、小兒共)一枚一回ニ限リ　二百圓迄

但シ團體及貸切乘車券所持旅客ニ對シテハ券面記載總人員ニ對スル前記金額ノ合算額

四、鐵道無賃乘車證所持者ニ對スル取扱

乘車證ヲ呈示セシメ前號所定金額ノ交換ヲ爲ス但シ

國境驛港所在交換所以外ノ場所ニ於テハ之カ取扱ヲ爲サス

五、制限携帶金額ヲ超ユル場合

イ　北支著ノモノ

北京及天津行ノ旅客ハ該地ヨリ出發地宛返送ノ爲替ヲ組ムニ必要ナル依賴狀ヲ受取ルコト北京及天津以外ノ各地行旅客ハ出發地宛爲替送金ニ依リ返送スルコト

ロ　北支發ノモノ

聯銀券所持旅客出發地宛爲替送金ニ依リ返送スルコト滿洲國國幣、日本銀行券、朝鮮銀行券及臺灣銀行券所持旅客ニ對シテハ之ヲ最寄滿洲中央銀行又ハ朝鮮銀行ニ保護預リセシム

◇海外旅費自由携帶額引下(日本)

一、大藏省では上海方面に於ける圓貨對策として又本邦外貨資金の節約乃至確保をはかる目的を以て外國爲替管理に關する大藏省令を改正し外國旅行者旅費携帶の自由限度を左の如く改正昭和十四年七月一日より實施した。

(1)　外國旅行者ノ旅費携帶ニ關スル自由限度ヲ通貨、送金爲替及信用狀ヲ通ジ五百圓ニ引下グルコト

(2)　在外者ニ對スル旅費其他ノ諸給與送金ニ關スル自由限度ヲ一ケ年五百圓ニ引下グルコト

(3)　本邦銀行券ノ輸入ハ旅行者ガ二百圓以下ヲ携帶輸入スル場合オヨビ官廳ノ輸入スル場合ヲ除キスベテ許可ヲ要スルコト

(4)　本邦マタハ外國ノ銀行券ヲ輸入スルモノハソノ輸入報告書ヲ稅關ニ提出スルコトヲ要スルコト

二、改正省令施行に當り注意せられたき事項その他左の如し

(1)　外國旅行者ハ從來通貨一千圓、送金爲替オヨビ信用狀一千圓合計二千圓マデノ旅費ヲ自由ニ携帶シ得タルモ今後ハ通貨、送金爲替、信用狀ヲ通算シテ五百圓ヲ超ユル場合ハ許可ヲ要スルモノナルコト

(2)　旅費ノ携帶ハナルベク信用狀マタハ送金爲替ヲ利用シ通貨ノ携帶ヲ小額ニ止メラレタキコト

(3)　旅費携帶ニ關スル許可申請書ハ從前通リ日本銀行支店ニ提出スベキモノナルコト

(4)　滿洲及支那向旅行者ノ手續ヲ簡易迅速ナラシムルタメソノ旅行費携帶ニ關スル許可ハ原則トシテ日本銀行ニ限リ處理スルコト

(5)　滿洲向旅行者ノ旅費携帶ニツイテハ正常ト認メラルル限リ寬大ニ許可スル方針ナルコト

(6)　五百圓ヲ超ユル旅費ヲ携帶シテ外國ニ旅行セントスルモノハナルベク許可ヲ受ケタルノチ乘車船券ヲ購入スルヤウ注意セラレタキコト

(7)　旅費携帶ニ關スル爲替オヨビ信用狀取引ノ許可ヲ受ケ七月一日以後出發スルモノハソノ通貨携帶ニツキサラニ別途許可ヲ受クルヲ要スルヲモツテ至急コレが申請ヲナサレタキコト

(8)　本邦銀行券輸入ニ關スル許可申請書ハ輸入地稅關ニ提出スベキモノナルコト

(9)　旅行者ノ本邦銀行券ノ携帶輸入ニ關スル許可ハ原則トシテ稅關ニ限リ處理スルコト

(10)　滿洲、支那ヨリノ本邦向送金ニツイテハ極力爲替送金ヲ利用シ銀行券ノ送付マタハ携帶ニヨルコトヲ避クルヤウ特ニ注意セラレタキコト

(11)　本邦マタハ外國ノ銀行券ヲ携帶輸入スルモノハ入國ノ際郵便ナドニヨリ送付ヲ受ケタルモノハ二週間內ニ所定ノ樣式ニヨル報告書ヲ稅關ニ提出スベキモノナルコト

◇旅行必携證明書一覽(滿洲發)

行先地	防疫證明書	身分證明書
北滿(軍機保護法ニヨル特別地域)	不要	必要
釜山經由內地	種痘	滿支露人要
北鮮經由內地	〃	同
北支蒙疆一帶	種痘、コレラ	必要
中支一帶	〃	同
南支方面	種痘、コレラ、チブス	同
芝罘	種痘、コレラ	同
龍口	コレラ、チブス	同
威海衛	コレラ	同
台灣	種痘	

○青島港ニ於テハ上海方面ヨリノ來航者ニ對シコレラ檢便實施中

○大連港ニ於テハ天津、上海(含青島)ヨリノ來航者ニ對シ「コレラ」檢便實施中

○右昭和十五年八月現在

◇支那發赴日及入滿必要證明書

團體及個人の赴日及入滿に必要な證明書は次の通りである。

人種	必要證明書の種類
日本人	身分證明書
蒙疆人	渡日證明書 入滿證明書
滿洲人 支那人	同上
外國人	渡日證明書 旅行證明書

發給箇所	日本大使館	居住地管轄政府にて査證の上日本領事館、又は大使館、通商代表部、蒙疆代表部	同上	日本大使館、滿洲國通商代表部、蒙疆通商代表部
被發給手續（所要日數）被發給資格	被發給者に對し嫌疑なき時は用務の如何により直に發給す	同上	同上	自國大使館發行の身分證明書居住證明書を日本大使館及所管日本領事館に提示し渡日證明書を受け通商代表部にて査證す
査證箇處又は検査箇所	赴日—天津、山海關、大連、安東 入滿—山海關、古北口	同上	同上	同上
其の他必要事項		通商代表部入滿手數料は要せず	同上	通商代表部査證手數料として入滿の場合一〇圓 通過の場合二圓を受く
上記以外の必要證明書	身分證明書、居住證明書は携帶する方無難である	同上	同上	同上

◇北支鐵道寫眞撮影取締

告　示

爾今北支諸鐵道ニ於ケル左記寫眞撮影ヲ禁止ス、該箇所ヲ撮影セントスルモノハ日本軍司令部ノ許可ヲ受ク可シ。

記

一 鐵道ノ橋梁（全景竝部分機構）
一 鐵道工場（全景竝工場内各部分）
一 トンネル（出入口附近）
一 機關庫（機關庫附近鐵路配置、機關庫全景、給水給炭設備）
一 停車場構内（全景、全般配線、信號設備）
一 給水場（給水場附近風景、給水槽）
一 防護設備（防護框舍各種術工物建物ノ防護施設等）
一 裝甲列車及裝甲軌道車

昭和十三年五月十七日

日本軍司令官

◇蒙疆地區寫眞撮影取締

蒙疆地區に於ける次の事物の撮影は禁止せられてゐる。

（イ） 裝甲列車
（ロ） 裝甲軌道車
（ハ） 南口驛青龍橋驛間の風物
（ニ） 驛を背景とせるもの
（ホ） 主要都市の全景
（ヘ） 鐵道線路を中心とした風物
（ト） 軍隊、軍事行動鐵道諸施設物
（チ） 其他各種施設物（橋梁、トンネル、機關庫、工場、防護施設）

倘特に撮影せんとする者は兵團本部の證明書を要す。

◇中支寫眞撮影製作取締

昭和十三年十二月二十四日付中支派遣軍司令官に於て軍人、軍屬寫眞撮影製作取締規則が制定せられたが本規定中撮影禁止に關する事項は一般地方人にも適用せらるゝものである。

一 軍ノ機密ニ關スルモノ一切
イ 機祕密兵器資材ニ指定セラレタルモノ
ロ 軍ノ陣地ニ判然タルモノ
ハ 彈藥其他軍需品ノ集積狀況
ニ 其他警備司令官（又ハ之ニ準ズル部隊長）ノ禁止セル地區
ホ 其他軍ノ機密ヲ漏洩スル虞レアルモノ

二 逆宣傳ニ利用セラルル虞アルモノ
イ 殘虐性ヲ感ゼラルル寫眞
ロ 不軍規ナル情況ヲ感ゼラルル寫眞若シクハ日本軍ノ戰意ヲ失ヒタルガ如キ感ヲ抱カシムルモノ
ハ 國際法違反ト感ゼラルルモノ（外國權益地内ニ於ケル行動等）
ニ 公共施設ヲ破壞セルモノ（病院、教會、佛寺、學校等ノ公共施設一般）
ホ 戰死傷ノ寫眞ニシテ悲慘ナル感情ヲ惹起セシムルモノ
ヘ 支那軍ノ宣傳用傳單若クハ文章等ヲ撮影セルモノ

三 第一項(ニ)ノ規定ニ基キ南京警備司令部ヨリ發セラレタル撮影禁止區域左ノ如シ
イ、下關一帶
ロ、浦口一帶
ハ、蕪湖ニ至ル鐵道線路以東ノ城内飛行場及城外飛行場一帶
但シ光華門ノ戰跡ハ撮影スルモ差支ヘナシ
ニ、右ノ外現地ノ衛兵、歩哨等ニ於テ禁止ヲ告知スル場合

◉滿支旅行者寫眞撮影要覽

	觀光個所	旅行者撮影ノ可否ト限度	市中特ニ撮影禁止サレ居ル個所	職業寫眞屋出張ノ有無	旅行記念スタンプ備付有無及料金
大連	滿洲資源館	大連市内及其近郊ハ要塞地帶ナル關係上寫眞機携帶者ニシテ撮影許可證ヲ所持セザル者ハ撮影不能許可證所持者ト雖モ撮影ニ際シテハ軍機保護法ニ抵觸セザル樣撮影スルハ勿論撮影ノ後ハ必ズ旅順要塞司令部（但港灣關係ヲ含ム撮影物ハ旅順要港部竝旅順要塞司令部）檢閲ヲ要スルニ付旅行者ノ寫眞機携帶及撮影ハ禁ジラレテ居ル、滿洲資源館、工業博物館、中央試驗所内ハ事務所ノ許可ヲ要ス		無	有
	工業博物館			〃	〃
	大連埠頭			〃	〃
	油房			〃	〃
	碧山莊			〃	〃
	滿鐵本社			〃	〃
	大廣場			〃	無
	大連醫院			〃	〃
	大連神社			〃	有
	忠靈塔			〃	〃
	中央試驗場			〃	無
	露天市場			〃	有
	星ケ浦			〃	無
	虎光灘				
旅順	白玉山	全般	全般	有	有、無料
	東鷄冠山北堡壘	要塞地帶内ニ在ル關係上寫眞機携帶者ニシテ撮影許可證ナキ者ハ撮影ヲ許サズ許可證所持者ト雖モ撮影後必ズ憲兵隊ニ檢査ヲ受ク可キニ付觀察旅行者ノ寫眞機携帶ハ禁ジテヰル		〃	〃
	爾靈山			〃	〃
	水師營			〃	〃
安東	鴨綠江鐵橋	不可（橋竝上、下三〇米以内ヲ禁ズルモ是以下ノ江岸ハ差支ナシ）		無（但シ市中ヨリ直グ呼ブコトヲ得）	無
	鴨綠江合同製材	可		〃	有 無料
	第一工場				
	燐寸工場	〃		無	無
	鴨綠江製紙會社	〃		〃	〃
	鎮江山	可		無（花見時ノミアリ）	無

	安東神社	〃		〃	無(但シ朱印有リ五錢)
	柞蠶工場	〃		〃	無
	元寶山	〃		〃	無
奉天	奉天神社	可		無	有
	忠靈塔	〃		〃	〃
	國立博物館	(內部不可外部自由ナルモ希望者ハ館長證明書ヲ要ス)		〃	〃
	同善堂	可		〃	〃
	北陵	可(但シ營利ヲ目的トセズ小型カメラノ場合)		旅行季節ノミアリ	〃
	北大營	可	造兵所、飛行場、驛第四ホーム附近 其他軍關係營造物	無	無
營口	營口神社	可		無	無
	東亞煙草	〃		〃	〃
	營口防衛記念碑	〃		〃	〃
	河南埠頭附近	〃		〃	〃
	楞嚴寺	〃		〃	〃
	西砲臺	〃		〃	〃
鞍山	昭和製鋼所	不可(但極ク局部的ニハ可)		無	有
	鞍山神社	可		〃	〃
	忠魂碑	〃		〃	無
	東方連山遊覽道路	〃		〃	無
撫順	炭坑事務所	可(制限アリ)	各主要工場	無	無
	古城子露天掘	不可	發電所軍關係	〃	〃
	撫順神社	可	營造物	有	
	譽ケ丘表忠塔	〃	市街展望及鐵道	〃	
	大山坑	不可	狀況	無	
新京	大同廣場	可	無電局	無	無
	宮內府	不可	飛行場(格納庫ヲ含ム)	〃	有 無料
	南嶺	可(軍關係機物ハ許可ヲ要ス)		有	〃

新京	關東軍司令部	不可	其他軍關係造營物ハ絕對不可	無	〃
	新京神社	可		〃	〃
	忠靈塔	〃		有	〃
	寬城子	〃		〃	〃
	國務院	〃		〃	無
	南關	〃		〃	〃
四平街	海豐屯	可	驛 滿洲油化工業株式會社 其他軍關係造營物	無	無
	半拉山門	〃		〃	〃
	日露講和條約最終協定記念館	〃		〃	〃
	滿洲緬羊組合四平街羊毛加工場	〃		〃	〃
	中央公園	〃		〃	〃
	南公園	〃		〃	〃
吉林	松花江團子山附近	不可	吉林驛		有 無料
	北山	可(但市街展望撮影否)		滿系早撮アリ	
	小豐滿工事場	不可			有 無料 (水電局ビューロー)
通化	通化橋	特ニ禁止サレ居ル箇所無キモ東邊道開發ノ樞要地區ニ付キ撮影ニ當ツテハ最寄軍官憲ノ諒解ヲ得ルコト萬全ナリ。		無	無
	玉皇山公園			〃	〃
	城內			〃	〃
	通化神社				
滿洲里	滿洲里記念塔	軍事機密特別地域ナルニ付入境者ハ必ズ當局ヨリ寫眞機ノ封印ヲ受ケネバナラナイ、隨ツテ撮影ハ不可能ナリ、但シ當局ヨリ特別ノ許可ヲ得タルモノハ此限ニ非ズ		無	無
	日本義勇軍記念塔			〃	〃
	日本墓地忠魂碑			〃	〃
	滿洲里神社			〃	〃
	エノケンチヤ寺院			〃	〃
	セラフイマ寺院			〃	〃
佳木斯	新市街	可	軍關係造營物一切、驛舍建築	無	
	舊市街	可		〃	
	忠靈塔	不可(憲兵隊許可ヲ得タル時ハ此限ニ非ズ)		〃	
	新舊埠頭	不可		〃	

	其他松花江岸	不可	飛行場（官用民用共）	〃		
	東宮公園	可		〃		
	康樂公園	可	松花江岸鐵橋ハ絕對不可			
齊齊哈爾	齊々哈爾驛	驛舍ニ向ツテ東方並ニ全景不可		無		
	天齊廟	可		無		
	齊々哈爾城	可	飛行場其他軍關係建築ハ嚴禁	無		
	龍沙公園	可		滿系簡易寫眞屋アリ		
	關帝廟	可		無		
	忠靈塔	可		無		
	齊々哈爾神社	可		無		
牡丹江	牡丹江池	可		無	無	
	北青山	不可	愛河、涉濱兵營、飛行場	〃	〃	
	忠魂碑	〃		〃	〃	
	牡丹江神社	可		〃	〃	
	銀座街	〃		〃	〃	
	大東路	〃		〃	〃	
	牡丹江河畔	〃		〃	〃	
	液河	不可		〃	〃	
	牡丹江液河間鐵橋	〃		〃	〃	
	牡丹江驛及南牡丹江驛	〃		〃	牡丹江驛ニアリ無料	
哈爾濱	哈爾濱驛	可		無		
	哈爾濱神社	〃		〃		
	中央寺院	〃		〃		
	博物館	（外部撮影ハ可ナルモ內部撮影ハ館長ノ承認ヲ得ル必要アリ）		〃		
	忠靈塔	可		（春秋觀光客多キ時ノミアリ）		
	志士ノ碑	〃		無		
	飛行場	不可（特ニ關係當局ノ許可ヲ得レバ此限ニ非ズ）		〃		
	文廟	可		〃		
	極樂寺	〃		〃		
	露人樂墓地	〃		〃		
	傅家甸埠頭	不可		無		
	三棵樹鐵橋	〃		〃		
	松花江	可 但シ濱洲線鐵橋ニ向ツテノ撮影ハ不可		シーズン中ノミ出張スルコトアリ		
	ヨット倶樂部	〃		無		
	觀光亭	〃		〃		
承德	忠靈塔	可		無	有	
	避暑山莊	不可（現在不可ナルモ將來特殊建築物ヲ除キ許可アル筈）	飛行場 承德驛構內 其他軍關係 造營物	〃	〃	
	普寧寺	可		〃	〃	
	須彌福壽廟	〃		〃	無	
	佈達拉廟	〃		〃	有	無料
	殊像寺	〃		〃	無	
	守達寺	〃		〃	〃	
	普樂寺	〃		〃	〃	
	元廟	〃		〃	〃	
錦州	錦州塔	可		有		
	大廣濟寺	〃	鐵道（局部的ニハ可）及軍關係造營物	〃		
	地藏寺	〃		無		
	古塔寺	〃	高所ヨリ市街ノ展望寫眞ハ不可	〃		
	舊交通大學	不可		〃		
羅津			要塞地帶ナルヲ以テ附近一帶絕對不可			
唐山	特ニ列擧ス可キモノナシ	必ズ憲兵隊ノ檢閲ヲ要ス	驛及其附屬物其他軍關係造營物	無		
塘沽	北砲臺	白河ヲ除キ可但シ憲兵隊ノ檢閲ヲ要ス	白河軍關係 造營及鐵道狀況	無	無	
	北淸事變上陸記念碑	可		〃	〃	
	鹽田	可		〃	〃	
	青島神社		青島神社	有	有	心付
	青島特別市公署		埠頭、信號山、飛行場	無	〃	無料
	青島驛	軍駐在個所竝ニ海岸線一帶ハ撮影不可		〃	〃	〃

青島	青島棧橋		青島驛(驛ハ各驛トモ禁止)ハ禁止外市內一圓撮影ニ制限ナシ	〃	〃(JTB案內所)
	山本產業館			〃	〃 〃
	忠ノ海			〃	〃(JTB案內所)無料
	會姓岬砲臺			〃	有(JTB案內所)無料
	大平公園			無	無
	第一公園			〃	〃
	忠魂碑			〃	〃
天津	天津站	不可(構外ハ可)	驛構內碼頭一帶 飛行場 其他各所軍事施設物高所ヨリノ鳥瞰撮影	無	有 無料
	萬國橋	不可		〃	無
	伊太利公園	可		〃	〃
	ハイアライ	可		〃	〃
	日本橋	不可(嚴禁)		〃	〃
	大和公園	可		有	〃
	天津神社	可		〃	有 無料
	南開大學	個人撮影ハ不可團體客ノ記念撮影ハ軍ノ許可ヲ得レバ可		無	無
	李公詩	可		〃	〃
	北寧公園	可(但シ軍事施設ヲ含ムヲ得ズ)		有	無
	大連碼頭	不可		無	〃
	フランス公園	可		〃	〃
	共同墓地	〃	白河軍事造營物	〃	〃
	ヴィクトリヤ公園	〃		〃	〃
	北清事變				
	戰鬪上陸地	可(但シ白河ヲ含ムヲ得ズ)		〃	〃
	北砲臺	可(但シ白河ヲ含ムヲ得ズ)		〃	〃
山海關	天下第一關	可		有	
	角山寺	〃	驛舍、機關庫、市內外兵舍、飛行場其他軍ノ施設物	無	
	二郎廟	〃		無	
	南海	〃滿洲側 不可支那側英佛伊租界內		有(夏期ノミ)	

北京	北京站	禁		無	
	交民巷	可		〃	
	各街路	〃		〃	
	皇城	〃		〃	
	中央公園	〃		有	
	北海公園	可		有	無
	中南海公園	〃		無	〃
	景山公園	〃		〃	〃
	各城門	〃		〃	〃
	天壇	〃		〃	〃
	雍和宮	〃		〃	〃
	國家陳列館	〃		〃	〃
	古物陳列所	〃		〃	〃
	觀象臺	外部可、內部禁		〃	〃
	天橋	可		〃	〃
	日壇	〃		〃	〃
	北京神社	外部可、內部禁		〃	〃
	萬壽山	可		有	〃
	玉泉山	〃		無	〃
	西郊飛行場	禁		〃	〃
	明十三陵	可		〃	〃
	湯山	〃		〃	〃
	石景山製鐵所	〃		〃	〃
	南苑飛行場	禁		〃	〃
	通州	共同墓地等禁		〃	〃
	蘆溝橋	可		〃	〃
	清華大學	禁		〃	〃
	八達嶺	〃		〃	〃
	居庸關	〃		〃	〃
	五塔山	可		〃	〃

	大廟	〃		〃	〃
	孔子廟	〃	軍關係造營物禁止	〃	〃
	三見子花園	〃		〃	〃
	月壇	〃		〃	〃
	一文字山	〃		〃	〃
濟南	濟南站	不可		無	有（無料）
	日本總領事館	可	鐵道狀況、軍關係、造營物絕對不可	〃	無
	同仁會病院	〃		〃	〃
	忠魂碑	〃		〃	〃
	趵突泉	〃		〃	〃
	舊省政府	〃		〃	〃
	千佛山	〃（但シ現地守備隊ノ許可ヲ要ス）		〃	〃
	廣智院	〃		〃	〃
	黑虎泉	〃		〃	〃
	大明明	〃		〃	〃
	省公署	〃		〃	〃
	小清河	〃		〃	〃
	黃河鐵橋	不可		〃	〃
石門	石門大石橋	可		無	無
	石門興亞公園	〃		〃	〃
	石門神社	〃		〃	〃
	支那事變戰殁者御靈奉安所	〃		〃	〃
	石門市觀善街	〃		〃	〃
	西花園街	〃		〃	〃
	高野山桃源寺	〃		〃	〃
		撮影後一應憲兵隊ノ檢閲ヲ受ケルコトニナツテ居ル			
		可	停車場	希望ニヨリ出張	
	上華嚴寺		東西南北各城門軍機ニ關スルモノ一切	〃	無（朱印アリ）
	下華嚴寺	〃		〃	無（〃）

大同	南善化寺	〃		〃	〃
	九龍壁	〃		〃	〃
	雲崗石佛	現地ニ於テ許可ヲ要ス		有	無（朱印アリ）
	曹福廟			無	無
	大同炭礦	〃		無	〃
太原	軍管理工場	許可ヲ要ス			無
	新民公園				〃
	博物館	許可ヲ要ス	鐵道[illegible] 軍管理名工場		〃
	晉祠鎭	（現在治安充分ナラズ）			〃
	五台山	〃			〃
	臨汾堯帝廟	〃			〃
	運城鹽地	〃			〃
	娘子關鯉澄濾	〃			〃
厚和	大召＝無量寺	可（制限アリ）	綏遠城	無	
	小召＝宗福寺	〃（〃）	軍關係造營物軍檢問所附近驛構內及線路	〃	
	五塔召王照君墓	〃（〃）	市街全部ヲ見渡シ得ル箇所ヨリ撮影	〃	
張家口	大境門	可（但局部的撮影ニ限ル）		無	無
	水母宮	〃（〃）		〃	有（心付ヲ要ス）
	賜兒山	〃（〃）		〃	〃（〃）
	清眞寺	〃（〃）		〃	〃（〃）
	本多ヶ丘	不能		〃	無
	蒙古包（模型）	可		〃	〃
		市內全景又ハ山ノ全景ハ禁止サレテ居リ寫眞機持參者ハ豫メ官憲ノ許可ヲ要ス			
保定	新民公園	可	鐵道並附屬建造物	無	
	蓮花池公園	可		無	
	陸戰隊本部	不可		無	無
	上海神社	可	上海驛構內	〃	〃
	ゼスフィルドパーク	可（外人ハ不可）	陸戰隊本部	〃	〃

上海	市政府	不可	近影	〃	〃
	江灣競馬場	〃		〃	〃
	復旦大學跡	可 戰跡ノ場合ハ一應歩哨ニ通告シタル上撮影スル方萬全ノ策ナリ		〃	〃
	大馬路競馬場	可		〃	〃
	八字橋	可		無	無
	同文書院	可		〃	〃
	大場鎭戰跡	可		有 (時期及天候ニヨル)	〃
	呉淞砲台跡	可		無	無
		戰跡ノ場合ハ一應歩哨ニ通告シタル上撮影スル方萬全ノ策ナリ		〃	〃
	呉淞鐵道棧橋	不可		〃	〃
	廟行鎭	可		〃	〃
	自然科學研究所	不可		〃	〃
	閘北戰跡	可		〃	〃
	上海驛	不可		〃	〃
南京	武廟	可		無	無
	鷄鳴寺	〃	軍ノ機密ニ關スルモノ一切	〃	〃
	明孝陵	〃		〃	〃
	鼓樓	〃	下關、浦口一帶	〃	〃
	中山陵	可	蕪湖ニ至ル鐵道線路以東城内飛行場一帶	〃	〃
	革命記念塔	〃		〃	〃
	光華門	〃 樓門上ヨリ城内外飛行場及遠景撮影不可		〃	〃
	表忠碑	〃		〃	〃
	莫愁湖	〃		〃	〃
杭州	中山公園	可	領事館裏	有	無
	湖濱公園	可	保淑塔中腹部分	〃	〃
			雲寶山一帶、湖畔		
			大章飯店及其附近		
			杭州驛構內施設、(停車場司令部ノ許可ヲ要ス)		

蘇州	寒山寺	可	軍駐在箇所以外ハ市内外一圓撮影ニ制限ナシ	無	無 (但朱印十錢)
	西園	〃		〃	〃 (〃)
	虎　山	〃		有	〃 (〃)
	北寺塔	〃		無	〃 (〃)
	獅子林	〃		〃	〃 (〃)
	玄妙觀	〃		〃	〃 (〃)
漢口	中山公園	可	漢口背面市街ハ軍使用ニツキ不可	無	無
	天一閣	可		〃	〃
	古德寺	可		〃	〃
	各租界特別區市內破壞ノ跡道路上トーチカ	可	難民區ハ立入禁止		
	バンド	可		無	無
武昌	黄鶴樓	可	東湖一帶ヲ俯　セルモノハ不可	〃	〃
	武漢大學	可		〃	〃
	蛇山	不可 (立入禁止ニツキ)			
漢陽	漢治萍製鐵所	不可		無	無
	龜山(別名大別山)	不可 (立入禁止ニツキ)		〃	〃
	晴川閣	可		〃	〃
	歸元寺	〃		〃	〃
	石榴花塔	〃		〃	〃
	月湖	〃		〃	〃
	古琴台	〃		〃	〃



旅客運賃

鐵道の部

◇朝鮮主要驛間・三等

主要驛	自釜山	自大邱	自大田	自京城	自平壤	自安東
安東	一四・七五	一二・七九	一〇・三四	七・七五	三・七一	—
咸興	一二・三三	一〇・四一	七・九四	五・四五	九・四九	一三・二〇
元山	一〇・四一	八・四八	六・〇三	三・五三	七・五七	一一・二七
木浦	八・四四	六・五〇	四・〇五	六・六四	一〇・六八	一四・二七
群山	六・一三	四・一九	一・七四	四・三三	八・三七	一二・〇八
麗水港	八・八六	六・九二	四・四七	七・〇六	一一・一〇	一四・七九
鎭南浦	一二・八九	九・九六	七・五一	四・九〇	〇・八七	四・五六
平壤	一二・〇五	九・一〇	六・六四	四・〇五	—	三・七一
上仁川	七・二九	五・三五	二・八九	・五八	四・六一	八・三三
京城	七・〇〇	五・〇六	二・六一	—	四・〇五	七・七五
大田	四・四〇	二・四七	—	二・六一	六・六四	一〇・三四
大邱	一・九五	—	二・四七	五・〇六	九・一〇	一二・七九

◇日滿連絡（安東釜山經由・三等）

終着＼始發	大連	奉天	新京	哈爾濱
京城	一九・三二圓	一二・七二圓	一八・三二圓	二三・五七圓
釜山	二六・三二	一九・七二	二五・三二	二九・五七
下關	二九・八六	二三・二七	二八・七六	三三・一二
三宮	三五・四六	二八・八五	三四・三六	三八・七二
大阪	三五・七一	二九・一二	三四・六一	三八・九七
名古屋	三七・〇六	三〇・四七	三五・九六	四〇・三二
東京	三九・四一	三二・八二	三八・三一	四二・六七
門司	二九・九六	二三・三七	二八・八六	三三・二二
博多	三一・一四	二四・五五	三〇・〇四	三四・四〇
長崎	三三・五六	二六・九七	三二・四六	三六・八二
鹿兒島	三四・六六	二七・〇七	三三・五六	三七・九二

◇日滿連絡（新潟北鮮經由・三等）

終着＼始發	哈爾濱	新京	奉天	大連
下關	四二・一六圓	四六・五二圓	五二・〇一圓	五九・一六圓
神戸	三六・八六	四一・二二	四六・七一	五三・八六
大阪	三六・三一	四〇・六七	四六・一六	五三・三一
名古屋	三三・六六	三八・〇二	四三・五一	五〇・六六
東京	三二・四一	三六・七七	四二・二七	四九・四一
博多	四三・四四	四七・八〇	五三・二九	六〇・四四
長崎	四六・〇一	五〇・三七	五五・八六	六三・〇一
鹿兒島	四六・九六	五一・三二	五六・八一	六三・九六

◇日滿連絡（大連門司經由・三等）

終着＼始發	大連	奉天	新京	哈爾濱
下關	一七・一〇圓	二四・二五圓	二九・七四圓	三四・一〇圓
神戸	二二・七〇	二九・八五	三五・三四	三九・七〇
大阪	二二・九五	三〇・一〇	三五・五九	三九・九五
名古屋	二四・三〇	三一・四五	三六・九四	四一・三〇
東京	二六・六五	三三・八〇	三九・二九	四三・六五
博多	一八・一八	二五・三三	三〇・八二	三五・一八
長崎	二〇・六〇	二七・七五	三三・二四	三七・六〇
鹿兒島	二一・七〇	二八・八五	三四・三四	三八・七〇

◇滿洲主要驛間（本表は乘換時間を含まず）

主要驛	自大連 三等運賃	自大連 最短時間	自奉天 三等運賃	自奉天 最短時間	自新京 三等運賃	自新京 最短時間	自哈爾濱 三等運賃	自哈爾濱 最短時間	自北京 三等運賃	自北京 最短時間
奉天	七・一五	四・四三	—	—	五・四九	三・三三	九・八五	七・三九	一六・二五	一六・三五
新京	一三・六四	八・二〇	五・四九	三・三三	—	—	四・三八	四・〇〇	一九・二七	一九・二七
哈爾濱	一七・〇〇	一三・三〇	九・八五	八・〇五	四・三八	四・〇〇	—	—	二三・二七	二三・二七
大連	—	—	七・一五	四・四三	一三・六四	八・二〇	一七・〇〇	一三・三〇	二一・一六	二〇・三七
安東	一一・五六	一〇・四一	四・九七	五・二四	一〇・四六	一〇・〇〇	一四・八二	一四・〇〇	一八・九八	二〇・七九
四平街	一〇・五五	六・五六	三・〇六	二・〇八	二・〇九	一・二〇	六・四五	五・三〇	一七・〇七	一八・〇三
吉林	一四・九四	一〇・三三	七・八〇	五・四〇	二・三一	二・〇八	六・六六	六・〇八	二一・八一	二二・三五
圖們	三三・一四	一七・三九	一四・八四	一二・五七	九・五三	九・二五	一三・八六	一三・二五	二八・八五	二八・五三
牡丹江	三三・三七	二三・〇四	一六・二四	一七・二三	一〇・七五	一三・五〇	六・三九	九・五〇	二七・三八	三三・一七
佳木斯	二九・三四	三三・一〇	二三・二〇	二七・三三	一六・七一	二四・〇〇	一三・三五	二〇・〇〇	三六・二一	四三・二七
齊齊哈爾	三三・三八	一九・四七	一五・三三	一五・〇五	九・七四	一一・〇〇	五・三九	七・〇〇	三六・三九	三〇・二七
滿洲里	三三・八三	三九・二〇	二六・六八	三三・一五	二一・一九	二八・四八	一六・八三	二四・二〇	四〇・六九	四七・四七
錦縣	一一・四〇	一一・二九	四・二五	六・四七	九・七四	一〇・一九	一四・一〇	一四・一九	九・五七	一一・四八
承德	一九・三五	二三・二七	一三・一〇	一八・四五	一七・五九	二二・一七	二一・九五	二六・一七	一七・四三	一三・〇五
北京	二三・三六	二〇・三七	一六・一一	一五・五五	二一・六〇	一九・二七	二五・九六	二三・二七	—	—
天津	二〇・三六	一八・三七	一三・二一	一三・五五	一八・七〇	一七・二七	二三・〇六	二一・二七	二・八〇	二・二〇
濟南	二七・五六	二六・〇七	二〇・三六	二三・二五	二五・八五	二六・五七	三〇・二一	三〇・五七	九・九〇	一一・五〇
青島	三五・三六	四〇・〇七	二八・二一	三四・四〇	三三・七〇	三八・五七	三八・〇六	四一・五七	一七・八〇	二三・四〇

◇北支主要驛間・三等

主要驛	自北京	自濟南	自青島	自太原	自開封	自張家口
北京	—	九・九〇	一七・八〇	一四・八〇	一四・五〇	四・〇五
天津	二・八〇	七・一〇	一五・〇〇	一七・六〇	一九・〇〇	六・八五
唐山	五・四〇	九・七〇	一七・六〇	二〇・二〇	二一・六〇	九・四五
山海關	八・四五	一三・七五	二〇・六三	二三・二五	二四・六五	一二・五〇
保定	三・一五	一三・〇五	二〇・九五	七・五〇	一一・四〇	七・二〇
石門	五・五〇	一五・四〇	二三・三〇	四・九〇	四・六五	九・七五
順德	七・九五	一七・八五	二五・六五	七・二〇	七・三五	一二・〇〇
彰德	一〇・三〇	二〇・二〇	二八・一〇	九・五〇	四・二〇	一四・三五
新鄉	一三・四五	一六・九〇	二六・八〇	一一・六五	二・〇五	一六・五〇
德縣	七・五五	二・三五	一〇・二〇	一三・四〇	一九・〇〇	一一・六〇
濟南	九・九〇	—	七・九〇	二四・七〇、	一六・六五	一三・九五
兗州	一三・〇五	三・一〇	一一・〇〇	二七・八五	一三・五五	一七・〇五
徐州	一六・二五	六・三五	一四・二〇	一九・二五	五・五五	二〇・三〇
蚌埠	一九・五五	九・六五	一七・五〇	二三・五五	八・八五	二三・六〇
張家口	四・〇五	一三・九五	二一・八五	一〇・八〇	一八・五五	—
大同	七・七〇	一七・六〇	二五・五〇	七・五五	二二・二〇	三・六五
厚和	一三・四〇	二三・三〇	三一・二〇	一三・一五	二七・九〇	九・三五
包頭	一六・三五	二六・二五	三四・一五	一六・四〇	三〇・八五	一三・三〇
古北口	二・九五	一二・八五	二〇・七五	一七・七五	一七・四五	七・〇〇
通州	・四〇	一〇・三〇	一八・二〇	一五・二〇	一九・四〇	四・四五
張[illegible]	一三・一〇	二・二〇	五・七〇	二六・九〇	一八・八五	一六・一五
青[illegible]	一七・八〇	七・九〇	—	三三・六〇	二四・五五	二一・八五
太原	一四・八〇	二四・七〇	三三・六〇	—	九・五五	一〇・八〇
楡次	一五・三〇	二五・二〇	三三・一〇	・五〇	九・〇五	一一・三〇
運[illegible]	三〇・六〇	四〇・五〇	四八・四〇	一五・八〇	二四・三五	二六・六〇
鄭州	二三・八〇	四三・七〇	五〇・六〇	一八・〇〇	二六・五五	二八・八〇
開封	一四・五〇	一六・六五	二四・五五	九・五五	—	一八・五五
連雲碼頭	二〇・七五	一〇・八五	一八・七〇	二三・七五	一〇・〇五	二四・八〇

◇中支主要驛間・三等

線名	區間	粁程 粁	運賃 圓錢	所要時間 時分
海南	上海—崑山	五三	一・〇五	・五三
	上海—蘇州	八六	一・七五	一・三三
	上海—無錫	一二九	二・六〇	二・一四
	上海—常州	一六七	三・三五	三・〇一
	上海—丹陽	二二三	四・二五	三・四五
	上海—鎭江	二四二	四・八五	四・三三
	上海—南京	三一一	六・二五	五・三〇
海杭	上海—松江	四五	・九〇	一・〇〇
	上海—嘉興	九九	二・〇〇	二・三〇
	上海—長安	一五一	三・〇五	三・五五
	上海—杭州	一九〇	三・八〇	五・〇〇
呉淞	上海—砲台灣	一六	・三五	・三七
海杭支	南上海—新龍華	四	・〇五	・一〇
蘇嘉	蘇州—嘉興	七四	一・五〇	二・三〇
南寧	南京—蕪湖	一〇六	二・一五	三・五〇
	南京—灣沚	一四三	二・八五	六・〇〇
津浦	浦口—滁縣	五一	一・〇五	二・三〇
	浦口—明光	一一五	二・三〇	三・三〇
	浦口—蚌埠	一七五	三・五〇	五・三五
淮南南	裕溪口—巣縣	五〇	一・〇〇	三・一五
	裕溪口—廬州	一一七	二・三五	七・二〇
淮南北	田家菴—九龍崗	一一	・二五	・四五

航路の部

・東亞關係

◇日本郵船會社線

大連—鹿兒島

	浬程	一等	特三	三等
大連—長崎	五七七	一八	一四	一三
大連—鹿兒島	六九五	二三	一七	一五
長崎—鹿兒島	一七三	七	四	三・五

神戸—台灣

	浬程	一等	二等	三等
神戸—門司	四六	一九	甲一三 乙七	五
基隆—門司	一三四	五五	甲三七 乙二五	一八
神戸—基隆	一八三	六五	甲四五 乙二八	二〇

◇大阪商船會社線

大連—門司—神戸

	浬程	一等	二等	三等
大連—門司	六一〇	五五	三七	一七
大連—廣島	七七五	六〇	四一	一八
大連—神戸	八五〇	六五	四五	一九

大連—鹿兒島—那覇

	浬程	一等	二等	三等
大連—三角	六四五	—	二九	一三
大連—鹿兒島	八二〇	—	三五	一五
大連—那覇	一、一九五	—	四八	二〇

神戸—基隆

	浬程	一等	二等	三等
神戸—門司	二四〇	一九	和八 洋一三	五
神戸—基隆	九九〇	六五	和三三 洋四五	二〇
門司—基隆	七五〇	五五	和二六 洋三七	一八

神戸—下關—北鮮（羅津碇泊）

	浬程	一等	二等	三等
雄基—清津	三七	—	五	二
雄基—關門	五三九	—	四〇	一六
雄基—神戸	七七九	—	四五	一八
羅津—關門	四七三	—	三七	一八

◇大連汽船會社線

大連—青島—上海

	浬程	一等	二等	三等
大連—青島	二七五	二六	一四	八
大連—上海	六六五	五七	三〇	一八
青島—上海	三九〇	五五	三六	一三

大連—天津

	浬程	一等	二等	三等
大連—天津	二四五	二七	—	八

大連—台灣

	浬程	一等	二等	三等
大連—基隆	—	五〇	—	二三
大連—高雄	—	五〇	—	二五

◇東亞海運會社線

神戸—門司—上海

	浬程	一等	二等	三等
神戸—門司	二四〇	二一	一四	—
神戸—上海	八五九	九〇	六〇	—
門司—上海	六一九	七〇	四八	—

長崎—上海

	浬程	一等	二等	三等
上海—長崎	四六五	(特一)一五〇 (特二)一〇八 (A)五〇 (B)四五	—	和一八 洋三〇

青島—連雲港

	浬程	一等	二等	三等
青島—連雲港	—	二〇	一二	八 (四等三圓)

神戸—門司—青島

	浬程	一等	二等	三等
神戸—門司	二四〇	一五	一〇	五
神戸—青島	八一〇	六九	四八	一八
青島—門司	五七〇	五七	三八	一六

神戸—門司—天津

	浬程	一等	二等	三等
天津—門司	八〇〇	A(七〇～六五) B 六〇 C 四五	洋 四八 和 四〇	寢 二四 A 一九 B 一五・五
天津—神戸	一、〇四〇	A(八〇～七五) B 七〇 C 六五	洋 五八 和 四八	寢 二九 A 二三 B 一七・五

大連—青島

	浬程	一等	二等	三等
大連—芝罘	八七	八	六・五	五
大連—威海衛	九七	南航 一〇 北航 一二・五	同 八 同 九	同 五 同 五
大連—青島	二六〇	南航 一四 北航 一八	同 一〇 同 一三	同 六 同 七

大連—芝罘

	浬程	一等	二等	三等
大連—芝罘	八七	八	六・五	四・八

上海—漢口

	浬程	特一	特二	官艙	統艙
上海—蕪湖	—	三三	二三	一一	三
南京—蕪湖	—	二三	八	三・五	一・二
蕪湖—安慶	—	一六	一三	四・五	一・二
蕪湖—九江	—	三三	二〇	七・五	二
蕪湖—漢口	—	四〇	二六	一三・五	三

高尾—上海

	粁程	一等	二等	三等
高尾—上海	一、一〇〇	五七	—	一九

基隆—厦門

	浬程	一等	二等	三等
基隆—厦門	四二	二六	一三	六

◇日本海汽船會社線

新潟—羅津—清津

	粁程	一等	二等	三等
清津—新潟	九七〇	四八	三三	一六
羅津—新潟	八九八	四五	三〇	一五
羅津—清津	六八	六	四	二

伏木—北鮮

	粁程	一等	二等	三等
伏木—七尾	—	四・五	一	一・五
伏木—清津	九〇三	四五	三〇	一五
伏木—羅津	九七〇	四八	三三	一六

羅津—清津—敦賀

	粁程	一等	二等	三等
敦賀—清津	八七二	四五	三〇	一五
敦賀—羅津	九四一	四八	三三	一六
清津—羅津	六八	六	四	二

敦賀—北鮮—浦鹽

	粁程	一等	二等	三等
敦賀—清津	八七二	四五	三〇	一五
敦賀—羅津	九四一	四八	三三	一六
羅津—浦鹽	二〇九	一五	一〇	五
敦賀—浦鹽	一、一〇四	六〇	四〇	二〇
清津—浦鹽	三二七	二一	一四	七

◇北滿江運線（滿鐵北滿江運局）

本表は三等運賃（二等運賃は三等運賃の二倍 一等運賃は三等運賃の三倍）

	巴彥	石頭河	新甸	木蘭	濃濃河	通河	方正	三姓	竹簾	湯原	蓮江口	佳木斯	樺川	綏濱	富錦	同江
哈爾濱	〇・九五	一・三〇	一・三五	一・五〇	一・八〇	二・一五	二・三〇	三・一〇	三・三五	三・四五	三・八五	四・一〇	四・四〇	五・五〇	五・七〇	六・三〇
巴彥		〇・八〇	〇・九〇	〇・九五	一・二〇	一・三五	一・七〇	二・四〇	二・七〇	二・八〇	三・二〇	三・三五	三・六〇	四・七〇	四・八〇	五・七〇
石頭河			〇・五〇	〇・八〇	〇・九〇	一・〇五	一・三〇	二・一五	二・三〇	二・四〇	二・八〇	三・〇五	三・四五	四・四〇	四・五五	五・三五
新甸				〇・五〇	〇・七〇	〇・八〇	一・〇五	一・七五	二・〇〇	二・二五	二・六五	二・七〇	二・九五	四・一〇	四・二五	五・〇五
木蘭					〇・六五	〇・七〇	〇・九五	一・七〇	一・九〇	二・一五	二・四〇	二・五〇	二・九〇	四・〇五	四・一五	四・八〇
濃濃河						〇・五五	〇・七〇	一・六〇	一・八〇	二・〇〇	二・二〇	二・三〇	二・五〇	三・五〇	三・七〇	四・六〇
通河							〇・五〇	一・四五	一・六〇	一・七五	一・九〇	二・一五	二・三〇	三・三五	三・四五	四・二五
方正								一・三〇	一・四五	一・五〇	一・七五	一・九〇	二・一五	三・二〇	三・三五	四・一〇
三姓									〇・五五	一・〇五	一・三五	一・六〇	一・七五	二・三〇	二・五五	三・三五
竹簾										〇・五〇	一・一〇	一・三五	一・七〇	二・二五	二・五〇	三・一〇
湯原											〇・五五	〇・九五	一・六〇	二・〇〇	二・四〇	二・九〇
蓮江口												〇・四〇	一・〇五	一・七五	二・〇〇	二・八〇
佳木斯													〇・六五	一・三〇	一・七〇	二・三〇
樺川														一・〇五	一・三五	二・一五
綏濱															〇・五五	一・二〇
富錦																〇・八〇

	漠河	鷗浦	金山鎮	三站	黒河	璦琿	奇克特	烏雲	佛山	嘉蔭
鷗浦	二・〇〇									
金山鎮	三・二〇	一・二〇								
三站	四・四〇	二・四〇	一・二〇							
黒河	五・六〇	三・六〇	二・四〇	一・二〇						
璦琿	六・一五	四・一五	二・九五	一・七五	〇・五五					
奇克特	六・八〇	四・八〇	三・六〇	二・四〇	一・二〇	〇・九五				
烏雲	七・六〇	五・六〇	四・四〇	三・二〇	二・〇〇	一・七五	一・〇五			
佛山	七・九〇	五・九〇	四・七〇	三・五〇	二・三〇	一・九〇	一・三五	〇・五五		
嘉蔭	九・二〇	七・二〇	六・三〇	五・一〇	三・九〇	三・六〇	二・七〇	二・一五	二・〇〇	
同江	一〇・〇〇	八・〇〇	七・一〇	五・九〇	四・七〇	四・五五	三・六〇	二・九五	二・八〇	一・二〇
佳木斯	一三・二五	一〇・二五	九・三五	八・一五	六・九〇	六・五五	五・七〇	五・〇五	四・四〇	三・一〇
哈爾濱	一六・〇〇	一四・〇〇	一二・八〇	一一・六〇	一〇・四〇	一〇・三〇	九・三五	八・五五	八・二三	六・八〇

	虎林	饒河	國富鎮	海青鎮	撫遠
饒河	一・四五				
國富鎮	一・七〇	一・二〇			
海青鎮	二・五五	二・一〇	一・一〇		
撫遠	三・六〇	三・一〇	二・一五	一・三〇	
同江	五・二〇	四・七〇	三・七五	二・九〇	一・九〇
佳木斯	六・八〇	六・三〇	五・三五	四・五〇	三・五〇
哈爾濱	一〇・〇〇	一〇・三〇	九・三五	八・五〇	七・五〇

空路の部

・東亞關係

◇大日本航空會社線

京城—清津

	京城	咸興	清津
京城	京城	一八	三六圓
咸興	二七〇	咸興	一八
清津	五六〇粁	二九〇	清津

△福岡—北京

	福岡	京城	青島	天津	北京
福岡	福岡	四〇	八五	一二五	一五〇圓
京城	五五〇	京城	四五	九五	一一〇
青島	一、一七〇	六二〇	青島	五〇	六五
天津	一、六一〇	一、〇六〇	四四〇	天津	一五
北京	一、七二〇粁	一、一七〇	五五〇	一一〇	北京

△福岡—南京

	福岡	上海	南京
福岡	福岡	八五	一一〇圓
上海	九五〇	上海	二五
南京	一、二三〇粁	二七〇	南京

大連—東京（括弧内急行便料金）

	大連	新義州	平壤	京城	大邱	福岡	大阪	名古屋	東京
大連	大連	二〇	三〇	四二（四五）	五八	八二（八五）	一一二	一二〇	一三七（一五〇）圓
新義州	二七三	新義州	一〇	二二	三八	六二	九二	一〇〇	一一七
平壤	四三三	一六〇	平壤	一二	二八	五二	八二	九〇	一〇七
京城	六三三	三六〇	二〇〇	京城	一六	四〇	七〇	七八	九五
大邱	八六七	五九四	四三四	二三四	大邱	二四	五四	六二	七九
福岡	一、一九七	九二四	七六四	五六四	三三〇	福岡	三〇	三八	五五
大阪	一、六九七	一、四二四	一、二六四	一、〇六四	八三〇	五〇〇	大阪	八	二五
名古屋	一、八三六	一、五六三	一、四〇三	一、二〇三	九六九	六三九	一三九	名古屋	一七
東京	二、一三二粁	一、八五九	一、六九九	一、四九九	一、二六五	九三五	四三五	二九六	東京

台北—廣東

	台北	廣東
台北	台北	一一〇圓
廣東	九二五粁	廣東

◇滿洲航空會社線

日滿連絡急行便

	東京	大阪	福岡	京城	奉天	新京
東京	東京	三〇	六五	一〇五	一四九	一七〇圓
大阪	四二八	大阪	三五	七五	一一九	一四〇
福岡	九二八	五〇〇	福岡	四〇	八四	一〇五
京城	一、四七八	一、〇五〇	五五〇	京城	四四	六五
奉天	二、〇四八	一、六二〇	一、一二〇	五七〇	奉天	二一
新京	二、三二三粁	一、八九五	一、三九五	八四五	二七五	新京

奉天—北京

	奉天	錦州	天津	北京
奉天	奉天	一五	五一	六六圓
錦州	二〇〇	錦州	三六	五一
天津	六一五	四一五	天津	一五
北京	七三五粁	五三五	一二〇	北京

奉天—承德

	奉天	錦州	承德
奉天	奉天	一五	四三圓
錦州	二〇〇	錦州	二八
承德	四八〇粁	二八〇	承德

大連—佳木斯

	大連	奉天	新京	哈爾濱	佳木斯
大連	大連	二三	四一	五七	九六圓
奉天	三五五	奉天	一八	三四	七三
新京	六二五	二七〇	新京	一六	五五
哈爾濱	八七五	五二〇	二五〇	哈爾濱	三九
佳木斯	一、一八〇粁	八二五	五五五	三〇五	佳木斯

牡丹江—清津

	牡丹江	圖們	清津
牡丹江	牡丹江	一八	三〇圓
圖們	一八〇	圖們	一二
清津	二一五粁	一三五	清津

奉天—安東—大連

	奉天	桓仁	通化	輯安	安東	岫巖	大連
奉天	奉天	一七	二四	三二	五三	五八	七八圓
桓仁	一七五	桓仁	七	一四	三五	四一	六一
通化	二三五	六〇	通化	七	二八	三四	五四
輯安	二九五	一二〇	六〇	輯安	二一	二七	四七
安東	四九五	三二〇	二六〇	二〇〇	安東	六	二〇
岫巖	五九〇	四一五	三五五	二九五	九五	岫巖	一四
大連	八〇〇粁	六二五	五六五	五〇五	三〇五	二一〇	大連

新京—琿春

	新京	延吉	圖們	琿春
新京	新京	三二	三七	四四圓
延吉	三七五	延吉	五	一二
圖們	三九五	二〇	圖們	七
琿春	四四〇粁	六五	四五	琿春

新京—東寧

	新京	牡丹江
新京	新京	
牡丹江	四一	牡丹江
	五九	一八
	六八圓	二七

新京—牡丹江 三六〇粁

四八五	五三五粁
一三五	一七五
綏芬河	五〇
七	東寧

新京—滿洲里

新京	二七〇	四七五	八八五	一、〇六五粁
三三	白城子	三〇五	六一五	七九五
三八	一八	齊々哈爾	四一〇	五九〇
八六	六四	四八	海拉爾	一八〇
一〇七圓	八五	六九	二一	滿洲里

哈爾濱—齊齊哈爾

哈爾濱	二七五	四三〇	五三〇	七七〇	一、〇〇〇	一、二七五粁
二八	北安	一四五	二九〇	五四〇	七七〇	一、〇四五
四三	一四	孫呉	一四五	三九五	六二五	九〇〇
五七	二九	一五	黒河	二五〇	四八〇	七五五
八二	五四	四〇	二五	嫩江	二三〇	五〇五
一〇五	七七	六三	四八	二三	齊々哈爾	二七五
一二七圓	九九	八五	七〇	四五	二二	哈爾濱

佳木斯—漠河

佳木斯	二三〇	三〇五	五〇〇	六四五	八七〇	一、〇〇〇	一、二六〇粁
三三	佛山	七五	二七〇	四一五	六四〇	七七〇	一、〇三〇
四三	一〇	烏雲	一九五	三四〇	五六五	六九五	九五五
六九	三七	二七	孫呉	一四五	三七〇	五〇〇	七六〇
八四	五二	四二	一五	黒河	二二五	三五五	六一五
一〇九	七七	六七	四〇	二五	呼瑪	一三〇	三九〇
一三七	九五	八五	五八	四三	一八	鷗浦	二六〇
一六三圓	一三一	一二一	九四	七九	五四	三六	漠河

牡丹江—哈爾濱

牡丹江	二七〇粁
二八圓	哈爾濱

富錦—佳木斯

富錦	一五〇	二七五
一三	寶清	一二五
三四圓	二一	佳木斯

牡丹江—富錦

牡丹江	一七〇	二三〇	三五五	四五〇	六〇〇	六六五粁
二六	半截河	五〇	一八五	二八〇	四三〇	四九五
三二	六	密山	一三五	二三〇	三八〇	四四五
五三	二七	二一	虎頭	九五	二四五	三一〇
六七	四一	三五	一四	饒河	一五〇	二一五
八八	六二	五六	三五	二一	同江	六五
九七圓	七一	六五	四四	三〇	九	富錦

承德—包頭

承德	二五五	四一五	五七五	七一〇粁
三六	張家口	一六〇	三二〇	四五五
五五	二二	大同	一六〇	二九五
八二	四七	二五	厚和	一三五
一〇三圓	六八	四四	一九	包頭

寶清—密山

寶清	九五粁
一四圓	密山

哈爾濱—富錦

哈爾濱	一六〇	二三五	三一五	四五五粁
二〇	通河	七五	一五五	二九五
三〇	一〇	依蘭	八〇	二二〇
三九	一九	九	佳木斯	一四〇
五六圓	三六	二六	一七	富錦

佳木斯—饒河

佳木斯	一三五	二〇五	二七〇	四二〇
一五	蘿北	八〇	一四五	二九五
一四	九	富錦	六五	二一五
二三	一八	九	同江	一五〇
四四	三九	三〇	二一	饒河

同江—撫遠

同江	一六五粁
二三圓	撫遠

新京—中江鎮

新京	二六五	三五〇粁
二五	通化	八五
三四圓	九	中江鎮

新京—承德

新京	二四〇	三二五	四九五	六〇〇	七五五	九二五粁
二六	通遼	八五	二五五	三六〇	五一五	六八五
三六	一〇	開魯	一七〇	二七五	四三〇	六〇〇
五五	三〇	二〇	林東	一〇五	二六〇	四三〇
六九	四三	三三	一三	林西	一五五	三二五
八七	六一	五一	三一	一八	赤峰	一七〇
一〇四圓	七八	六八	四八	三五	一七	承德

◇中華航空會社線

北京—大連

北京	一三〇	五〇〇粁
一五	天津	三七〇
六五圓	五〇	大連

北京—上海

北京	一三〇	四一〇	六九〇	九八〇	一、三五〇粁
一五	天津	二六〇	五六〇	八四〇	一、二三〇
六〇	四五	濟南	二八〇	五七〇	八四〇
一〇〇	八五	四〇	徐州	二九〇	五六〇
一二五	一三〇	八五	四五	南京	二七〇
一六〇圓	一六五	一二〇	八〇	三五	上海

北京—張家口

北京	一七〇粁
二五圓	張家口

張家口—包頭

張家口	一五〇	三二〇	四五五粁
二二	大同	一七〇	三〇五
四七	二三	厚和	一三五
六八圓	四四	一九	包頭

上海—大連

上海	六三〇	一、〇一〇粁
一〇〇	青島	三八〇
一七〇圓	七〇	大連

上海—台北—廣東

上海	七四〇	一、六六五粁
一一〇	台北	九二五
二四五圓	一三五	廣東

青島—太原

青島	三三〇	六七五	九四五	一、二三五粁
五〇	濟南	三六〇	六三五	八一五
一一〇	六〇	北京	二七〇	四五〇
一五〇	一〇〇	四〇	石門	一八〇
一八〇圓	一三〇	七〇	三〇	太原

南京—漢口

南京	二四〇	三八〇	五七〇粁
四〇	安慶	一四〇	三三〇
六五	二五	九江	一九〇
一〇〇圓	六〇	三五	漢口

市内乘物

・驛基點・

都市	先	タクシー	バス	馬車	人力車	摘要
大連	西廣場	四〇(五〇)	五	一四	七	一、タクシーメーター料金（イ）市内二、〇〇〇米迄四〇錢、以上七二〇米突を増す毎に一〇錢（ロ）待時間五分に付一〇錢（ハ）周水子、甘井子、小平島、傅家庄、王家店、龍
	北大山通	四〇(六〇)	五	一四	七	
	朝日廣場	五〇(四〇)	—	一八	一四	
	日ノ出町倶樂部	七〇(五〇)	一〇	一八	一四	
	千代田町	七〇(四〇)	—	一八	一四	
	櫻町廣場	五〇(五〇)	五	一八	一四	

(括弧内は埠頭立關よりの料金)

春日町	四〇（七〇）	五	一八	一四
桃源台	八〇（一・一〇）	一〇	—	—
老虎灘	一・三〇（一・五〇）	一五	—	—
療病院	一・二〇（一・四〇）	五	一八	一四
連鎖街	四〇（六〇）	—	一四	七
中央試驗所	四〇（八〇）	五	一八	一四
關東州廳	五〇（九〇）	五	一八	一四
小崗子警察署	四〇（八〇）	—	一八	一四
聖德街三丁目	七〇（一・一〇）	一〇	五〇	三五
大正廣場	八〇（一・二〇）	一〇	五〇	三五
大連機械	九〇（一・三〇）	一〇	—	—
沙河口驛	九〇（一・三〇）	一五	—	—
西山屯病院	一・二〇（一・六〇）	—	—	—
競馬場	一・〇〇（一・三〇）	一〇	—	—
月見ケ浦	一・一〇（一・五〇）	一〇	—	—
星ケ浦	一・三〇（一・七〇）	一五	—	—
小平島	三・一〇（三・五〇）	三〇	—	—
飛行場	二・一〇（二・五〇）	二五	—	—
滿洲石油	三・三〇（三・七〇）	三五	—	—
金州	七・〇〇（七・五〇）	五〇	—	—
旅順	九・五〇（一〇・〇〇）	一・〇〇	—	—

ケ岡方面への市内よりの片道運行はメーター表示額の二割増（ニ）旅順、金州、普蘭店、貔子窩方面への市内よりの片道運行はメーター表示額の五割増
二、バス（イ）一區五錢（ロ）電車乘換二錢増
三、電車（イ）全區間五錢均一
四、人力車（イ）一區七錢二區一四錢三區二〇錢四區以上一區増す毎に五錢増（ロ）一區間は直線一〇丁以內
五、馬車（イ）一區一四錢二區二八錢三區四〇錢四區以上一區増す毎に一〇錢増（ロ）一區間は直線一〇丁以內
六、特別料金（イ）人力車、馬車は暴風雨深夜は三割増重物携帶は倍額（ロ）雇切一日（一〇時間以內）人力車一圓四〇錢馬車二圓八〇錢半日（五時間以內）人力車七〇錢馬車一圓四〇錢（ハ）客待

（金州）人力車三〇分毎に七錢馬車三〇分毎に十四錢

旅順

市內	五〇			
白玉山	一・五〇			
鷄冠山	二・〇〇			
松樹山	二・〇〇			
爾靈山	二・〇〇			
水師營	一・五〇			
南山裏	三・〇〇			
玉ノ浦	二・〇〇			
龍王塘	三・五〇			
周水子	八・〇〇			
小平島	七・〇〇			
星ケ浦	七・〇〇			

一、自動車（イ）客待一〇分間に二〇錢（ロ）立寄一回に付三〇錢以內（ハ）大型六人乘料金五割増
二、洋車（イ）市外一里に付三六錢（ロ）客待一時間に付十八錢（ハ）往復復路は往路の六割額（ニ）深更一割増（ホ）强雨雪二割増
三、馬車（イ）市外貸切一日（一〇時間）四圓二〇錢（ロ）客待一時間二五錢（ハ）深更强雨雪一割—二割（ニ）往復復路は往路の六割増

鞍山

土建協會	五〇		三〇	七
消費組合	五〇		一五	一〇
井々寮	五〇		一五	一〇
八卦溝入口	五〇		二五	一五
中台町	七〇		二五	一八
市公署	五〇		一五	一〇
滿鐵病院	五〇		一二	一二
女學校寄宿舍	五〇		一五	一五
稻荷神社	五〇		一〇	一〇
鞍山神社	五〇		二五	一六
柳町	七〇		二五	一八
火葬場	七〇		二〇	二〇
西廣場	五〇		一八	一三
平康里	七〇		二〇	二〇
鞍馬町	七〇		二八	二四
昭和製鋼所	七〇		二〇	一三
小野田セメント	一・八〇		六〇	四〇
曙小學校	七〇		二〇	二〇
滿洲ロール	一・九〇		七八	三五
競馬場	一・〇〇	一五	四五	二〇
睦ケ池	七〇		二〇	一三
八家子	九〇		三五	一三

奉天

北辰寮	二八	二〇
大廣場	一五	一〇
滿蒙百貨店附近	八	五
奉天ビル附近	八	五
平安廣場	八	五
忠靈塔	一五	一〇
鐵道總局	二〇	一三
滿鐵消費組合	一五	八
敷島町	二〇	二〇
長沼	四〇	二五
渾河沿	五〇	四〇
北市場	二〇	二〇
總站	四五	二五
西塔	二〇	一五
北陵賽馬場	八〇	五〇
造兵廠	八〇	五五
馬路灣	二〇	一五
馬路灣至大西邊門	一五	一〇
大東門至大東邊門	一五	一〇
大東門至小河沿	一五	一〇
小東門至小東邊門	一五	一〇
瀋海站至東陵	五〇	三〇
大北邊門至北大營	四〇	二三
大倉ビル至小西邊門	一五	一〇
小西邊門至西塔	一五	一〇
小西邊門至工業區	一五	一〇
工業區至北陵	五三	二五
南市場至工業區	二五	二〇
北市場至南市場	二五	二五
南市場至皇姑屯	四〇	二三
皇姑屯至北市場	二五	一五

バス一區五錢三區以上十五錢均一
電車一區三錢二區以上六錢均一
タクシー・メーター制二〇〇〇米迄五〇錢、以後四〇〇米又は其端數毎に十錢待車三分毎十錢
人力車一時間貸七五錢
馬車一時間貸八五錢

撫順

炭礦事務所	五〇	五	一〇	七
撫順神社	五〇	五	一五	八
北台町南台町一圓	五〇	五	二〇	一五
琥珀泉表忠碑	五〇	五	二〇	一五
新揚町	五〇	五	一〇	五
新撫順	九〇	五	二五	一五
撫順城	一・六〇	一五	六〇	三五
競馬場	九〇	一〇	五〇	三〇
露天堀	二・四〇	—	一・二〇	六〇

營口	新市街	五〇	四	一〇	八	バス一區四錢二區六錢三區八錢四區十錢五區十二錢 バス賃切三十分六圓、一時間八圓、一時間半一一圓、二時間一四圓 タクシーメーター制度ナシ 人力車半日賃切七五錢一日一圓五〇錢 馬車半日賃切一圓五十錢一日三圓
	商工公會	七〇	六	一八	二〇	
	市公署	七〇	六	一八	二〇	
	警察廳	七〇	六	一八	二〇	
	榮華街	九〇	八	二五	二五	
	牛家屯	一・〇〇	—	三〇	二四	
	隆昌街	九〇	一〇	四七	三三	
	老爺閣	九〇	一二	六〇	四二	
	西砲台	三・〇〇	—	一・〇〇	七〇	
本溪湖	市内一圓	—	—	一〇	一〇	人力車、馬車一日賃切四圓 一時間待一時間毎に三〇錢
	太子河北岸	—	一〇	二〇	二〇	
	明山驛			四〇	四〇	
	彩家屯村			八〇	八〇	
	宮ノ原驛		二〇	八〇	八〇	
安東	安東警察所	六〇 (豆)四〇	—	一五	一〇	一、市内バス賃金改正により一區五錢の處拾錢となる 二、料金未記入の箇所にはバス路線なし 三、(豆)とあるは豆タクシー 四、大形四人乘市内六〇錢小形三人乘四〇錢、但し市内には第一區及第二區あり大形第二區迄は九〇錢豆七〇錢其他は市外料金にて大形のみ一粁につき五〇錢の割
	郵政局	六〇 (豆)四〇	一〇	一五	一〇	
	鐵橋北岸	六〇 (豆)四〇	—	二〇	一〇	
	鎭江山派出所	六〇 (豆)四〇	—	二〇	一五	
	桃原派出所	六〇 (豆)四〇	—	三〇	二五	
	沙河鎭驛	六〇 (豆)四〇	一〇	四〇	三〇	
	省公署	九〇 (豆)七〇	—	二五	二五	
	滿鐵醫院	六〇 (豆)四〇	—	二〇	一五	
	安東税關	六〇 (豆)四〇	—	三〇	二〇	
	下六道溝派出所	一・〇〇 (豆)八〇	一〇	三五	三五	

通化	城内	二・〇〇	二〇	八〇	八〇	
四平街	中央公園	一・〇〇	—	一〇	七	
	四平街神社	一・〇〇	—	一〇	七	
	原種園	一・〇〇	—	一〇	七	
	南丘公園	一・〇〇	—	一五	一〇	
	ゴルフ場	一・五〇	—	三〇	二〇	
	梨樹縣縣公署	八・〇〇	五〇	—	—	
新京	吉野町	四〇	一〇	一〇	一〇	(一)タクシーメーター制 始發から一・二〇〇米迄四〇錢以后四〇〇米又は端數毎に一〇錢 待時間三〇分毎に一〇錢 郊外料金往復はメーター表示料金片道は表示料金五割增 (二)豆タク 始發から一・〇〇〇米迄二〇錢以後三〇〇米又は其端數毎に五錢 待時間二分毎に五錢 郊外料金 往復はメーター表示料金片道はメーター表示料金の五割增 バス券車内發賣廢止 五拾錢券四枚綴 一圓券八枚綴 三圓券二十五枚綴 一特殊一回券二十錢
	新京神社	四〇	一〇	一〇	一〇	
	兒玉公園	四〇	一〇	一五	一五	
	大使館	五〇	一〇	一五	一五	
	忠靈塔	六〇	一〇	二五	二五	
	三中井百貨店	六〇	一〇	二五	二五	
	大同廣場	七〇	一〇	三〇	三〇	
	大同公園	八〇	一〇	三五	三五	
	宮廷府	八〇	一〇	三五	三五	
	國務院	一・〇〇	一〇	七〇	七〇	
	南湖	一・五〇	一〇	一・〇〇	一・〇〇	
	飛行場營業所	六〇	一〇	二・〇〇	二・〇〇	
	賽馬場	一・〇〇	一〇	八〇	八〇	
	寛城子戰跡	七〇	一〇	四〇	四〇	
	南嶺戰跡	二・五〇	一〇	七〇	七〇	
	綜合運動場	一・九〇	一〇	六〇	六〇	
	寶山百貨店	六〇	一〇	二五	二五	

吉林	領事館跡	六〇	五	一八	一五	(一)タクシーは區間制となる (二)バス一區五錢(三區迄) (三)馬車一時間五〇錢 一日(十時間)四圓 (四)人力車一時間三十錢 一日二圓五十錢 (五)バス一時間八圓 一日(十時間)六五圓 (六)バス賃切ダム往復三時間三三圓
	神社	六〇	五	一八	一五	
	文廟	九〇	—	二一	一八	
	河南街	八〇	—	二八	二一	
	市公署	九〇	一〇	二一	二八	
	北山	一・一〇	一五	四八	三九	
	臨江門	一・一〇	一五	四八	三九	
	師道高等學校	二・五〇	—	七四	六五	
	市民館	一・四〇	—	六一	五三	
	小白山	三・〇〇	—	八八	七八	
	ダム	八・〇〇	五〇	四九	—	
	龍潭山	—	—	—	九	
	哈達灣	四・〇〇	—	九〇	二	
圖們	ビューロー	九〇	—	三〇	二五	
	税關	九〇	—	三〇	二五	
	警察署	九〇	—	三〇	二五	
	鐵橋	一・二〇	—	六〇	五〇	
羅津						
哈爾濱	中央寺院	五〇—一・〇〇	五	二〇	二〇	バス一區五錢 タクシー三十分に付八〇錢
	秋林	一・〇〇	五	三〇	二五	
	馬家溝	一・五〇	一〇	六〇	五〇	
	地段街	一・〇〇	五	五〇	四五	
	キタイスカヤ街	一・〇〇	五	五〇	四五	
	松花江	一・二〇	—	六〇	五〇	
	鐵道局	一・〇〇	一〇	四〇	三五	
牡丹江	市公署	一・五〇	一〇	五〇	二〇	市營バス市内十錢均一也 タクシー市内一・五〇均一
	省公署	一・五〇	—	五〇	二〇	
	銀座街	一・五〇	—	二〇	一〇	

佳木斯	鐵道局	一・五〇	—	二〇	一五	市内一時間五・〇〇 待時間十分間毎に六〇錢 新埠頭は「佳木斯埠頭驛」 滿人街入口舊埠頭に近し 滿人街中心地
	滿航飛行場	二・五〇	—	—	—	
	清水公園	二・〇〇	—	四〇	三〇	
	新埠頭	二・〇〇	一〇	五〇	三〇	
	向陽大街十字路	一・五〇	—	三五	二〇	
	省公署	一・五〇	—	四〇	三五	
	東門外	一・五〇	—	五〇	三〇	
	中央大街公利源	二・〇〇	—	六五	四〇	
齊齊哈爾	ビューロー	一・五〇	一〇	二〇	二〇	バス十錢均一
	城内	二・〇〇	一〇	二五	二五	
	龍沙公園	二・〇〇	一〇	二五	二五	
	忠靈塔	二・〇〇	—	三〇	二五	
滿洲里	國境見學場	—	—	一・〇〇	—	
	五道街	—	—	二〇	—	
	ビューロー	一五	—	—	—	
	市政管理處	二〇	—	—	—	
錦縣	錦州神社忠魂碑	一・〇〇	五	二〇	一〇	(一)バス一區五錢 (二)貸切料金一時間 洋車四〇 馬車六〇 タクシー四・〇〇 半日(四時間) 洋車一・〇〇 馬車一・八〇 タクシー一六・〇〇 (三)洋馬車ノ場合深夜、雨天の際は二割增
	鐵道局	一・〇〇	五	一六	一〇	
	市公署	一・〇〇	—	一六	一〇	
	省公署	一・〇〇	一〇	二〇	一〇	
	警察廳	一・〇〇	五	二〇	一〇	
	東門	一・〇〇	五	二四	二〇	
	賽馬場	三・〇〇	一〇	五〇	三五	
承德	合成燃料工場	三・〇〇	—	六〇	四〇	一、ハイヤ、往復の場合復路五割引 ハイヤー往復待時間は十五分迄以下十五分毎に五〇錢
	東部工場地帶	五・〇〇	—	四〇	三〇	
	市内	一・〇〇	—	四〇	二五	
	滿航飛行場	一・五〇	—	二〇	一〇	
	陸軍病院	一・五〇	—	五〇	三〇	

	獅子溝	二・五〇	—	六〇	四〇	二、人力車往復待時間は三十分迄以下一時間増十五
	大佛寺	二・五〇	—	七〇	四五	錢
山海關	南門外一圓	—	—	二〇	一〇	タクシー・バス
	西南隅	—	—	二五	二五	市内電車、馬車な
	天下第一關	—	—	五〇	三〇	し
	二郎廟	—	—	九五	七〇	
	角山寺	—	—	一・六〇	一・〇〇	
	南海	—	—	一・〇〇	六〇	
	石河	—	—	六〇	四〇	
	一時間	—	—	一・〇〇	九〇	
	半日	—	—	三・〇〇	二・五〇	
	一日	—	—	四・〇〇	三・五〇	
唐山	領事館	—	—	—	五	當市には交通機關
	市公署	—	—	—	一五	として人力車以外
	道公署	—	—	—	一五	なし
	新立街(唐山の銀座)	—	—	—	一〇	人力車 一時間
	啓新セメント	—	—	—	三〇	賃切 五十錢
	革新紡績	—	—	—	三五	
	開灤(廣東街)	—	—	—	一五	
天津	中原公司	二・〇〇	一〇	—	二〇	タクシーの料金は
	フランス公園	二・五〇	二〇	—	二〇	日界營業者を基準
	ヴィクトリア公園	二・五〇	三〇	—	四〇	とす
	大連碼頭	三・〇〇	四〇	—	五〇	洋車料金は領警公
	伊租界	二・〇〇	一〇	—	一〇	定料金に準ず
	特二區	二・〇〇	—	—	二〇	電車一區 三錢
	東馬路	三・五〇	二〇	—	三〇	バス一區 一〇錢
	市公署	四・〇〇	三〇	—	四〇	
	天津北站	四・五〇	三〇	—	五〇	
北京	中央公園	三・〇〇	一〇	—	九	
	北海公園	四・五〇	一五	—	二四	
	景山	四・五〇	一五	—	二八	
	天壇	三・〇〇	—	—	一八	
	萬壽山	—	六〇	—	—	
	東安市場	三・〇〇	一〇	—	一三	
	天橋	三・〇〇	—	—	一〇	
	東單牌樓	三・〇〇	一〇	—	一三	
	西單牌樓	四・五〇	一〇	—	一三	
張家口	舊領事館以北	一・五〇	—	—	一五	
	太境門	二・〇〇	—	—	三五	
	鐘紡工場	二・〇〇	—	—	—	
	崇禮縣公署	二・五〇	—	—	—	
大同	城内	二・三五	一〇	八〇	三五	バス一區間十錢均一
	石佛寺	一七・〇〇(片道往復共)	二・〇〇(遊覧バス)	—	—	タクシー
	口泉(炭鑛)	三五・〇〇(片道往復共)	—	—	—	一時間 五・八五錢 一日 五三圓
厚和	新城	二・〇〇	二〇	七〇	三五	バス一律十五錢
	舊城	二・〇〇	一〇	七〇	三五	人力車
	市公署	二・〇〇	一〇	八〇	四〇	一時間賃切
	領事館	二・〇〇	一〇	八〇	四〇	八〇—一〇〇
太原	楡次	不明	一・五五	—	—	市内バス
	太谷	〃	二・二〇	—	—	一區十錢均一
	潞安	〃	三・五五	—	—	
	代野	〃	五・四五	—	—	
	汾陽	〃	四・九〇	—	—	
	ビューロー前	〃	一〇	—	一五	
	鐵路局	〃	一〇	—	三五	
	山西大会場	〃	—	—	三〇	人力車
	領事館	〃	—	—	三〇	一時間賃切八十錢
	新民公園	〃	—	—	二五	

保定・石門	市内一圓	—	—	—	一〇	市内乘物は
	西門	—	—	—	一〇	人力車のみ
	南門	—	—	—	二〇	一粁毎に一〇錢
	北門	—	—	—	二〇	一時間三〇錢
	東門	—	—	—	二〇	
	天華市場	—	—	—	二〇	
	省公署	—	—	—	二〇	
	蓮花池	—	—	—	二〇	
	縣公署	—	—	—	二五	
	新民公園	—	—	—	二五	
濟南	經二路緯一路	三・〇〇	—	—	一〇	タクシー三十分以
	經三路緯八路	三・〇〇	—	—	二〇	内三圓
	大觀園	三・〇〇	—	—	一五	一時間
	忠魂碑	三・〇〇	—	—	二〇	市内五圓
	同仁會濟南醫院	三・〇〇	—	—	二〇	郊外六圓
	普利門	三・〇〇	—	—	二〇	バス
	大西門	三・〇〇	一〇	—	二〇	大人一〇錢
	乾健門	三・〇〇	—	—	二五	小人五錢
	院前門	三・〇〇	—	—	三〇	軍屬五錢
	趵突泉	三・〇〇	—	—	三〇	馬車
	經七路緯二路	三・〇〇	一〇	—	三〇	小數あるも料
	大明湖	三・〇〇	—	—	三五	金一定せず
	齊魯大學	三・〇〇	—	—	三五	一時間賃切
	大東門	三・〇〇	一〇	—	四〇	八〇—一、〇〇
	黒虎泉	三・〇〇	一〇	—	四五	
	千佛山	三・〇〇	一〇	—	五〇	
青島	忠之海	二・五〇	二五	一・五〇	四五	バス
	第一公園	三・五〇	三五	二・〇〇	五〇	市内十五錢
	台東鎭	二・五〇	二五	二・五〇	六〇	電車なし
	台西鎭	二・五〇	一五	—	二〇	小型タクシー十五
	頤中煙公司	二・五〇	—	二・五〇	五〇	分以内
	ビール會社	二・五〇	二五	二・五〇	六〇	タクシーは出庫時
	會泉岬	三・五〇	—	三・〇〇	八〇	間より歸庫時間迄
	長生園湛山	五・〇〇	—	三・〇〇	八〇	時間割
		小型タクシー				
	湛山ゴルフ場	六・〇〇	—	—	—	一時間は八圓五十
	浮山所陸軍病院	六・五〇	—	—	—	錢
	四方大日本紡績	三・五〇	—	—	—	
	四方小學校	三・五〇	—	—	—	
	内外綿四方工廠	四・五〇	—	—	—	
	豐田紡績	六・〇〇	—	—	—	
	上海紡績	六・五〇	—	—	—	
徐州	聖德街	—	—	—	一〇	タクシーバス
	順河街	—	—	—	一〇	電車馬車なし
	公安街	—	—	—	一五	
	徐州北站	—	—	—	二〇	
	大馬路	—	—	—	一五—二〇	
	公明街	—	—	—	二〇	
	大同街	—	—	—	二〇	
	統一街	—	—	—	二〇	
	公明街	—	—	—	二五	
	文亭街	—	—	—	三五	
	正太街	—	—	—	三五	
	雲龍山	—	—	—	三五	
	霸口街	—	—	—	三五	
	永安街	—	—	—	三五	
	徐州神社	—	—	—	二〇	
	華航飛行場	—	—	—	四〇	
	忠魂碑	—	—	—	二〇	
	西楚故宮	—	—	—	三五	

連雲	放送局	—	—	—	三五	人力車以外の乘物なし
	領事館	—	—	—	二〇	
	領事館警察	—	—	—	二〇	
	市公署	—	—	—	三〇	
	縣公署	—	—	—	三〇	
	新浦鎮	—	—	—	七	
上海	上海神社	二・三〇	一五	ナシ	三〇	邦人自動車業者
	新公園	二・三〇	一五	〃	三〇	虹口舊英租界相互間、二十分每に二圓二十錢、市内一時間六圓五十錢、市外一時間八圓也 バス、華中都市自動車、一區五錢 外人經營バス、一區五仙 電車、虹口サイドなし、外人經營電車、一區四仙 人力車、五丁以内一〇錢、五丁以上二〇錢以上 一日賃貸料金一・三〇錢
	狄思威路	二・三〇	一五	〃	二〇	
	北四川路	二・三〇	五	〃	一〇	
	施高塔路	二・三〇	一五	〃	二五	
	老靶子路	二・三〇	一〇	〃	二〇	
	呉淞路	二・三〇	二〇	〃	三〇	
	文路	二・三〇	一五	〃	三〇	
	百老滙路	二・三〇	二〇	〃	三〇	
	四川路橋	二・三〇	二〇	〃	三〇	
	ガーデンブリッヂ	二・三〇	二〇	〃	三〇	
	西藏德路	二・三〇	二〇	〃	三〇	
	楊樹浦	四・四〇	三〇	〃	四〇	
南京	棧橋	一・三〇	—	二五	一五	
	首都飯店	一・八〇	二〇	八〇	三〇	
	市政府	二・三〇	二五	九〇	二五	
	鼓樓	二・五〇	三〇	九〇	二五	
	新街口	二・八〇	四〇	一・三〇	五〇	
	中華門	三・八〇	五五	一・八〇	七〇	
	中山門	三・八〇	—	一・八〇	七〇	
	中山陵	三・八〇	—	二・三〇	一・三〇	
	玄武湖	三・〇〇	—	一・三〇	五〇	
杭州	湖濱公園	三・〇〇	二〇	—	三〇	タクシー一時間 市内七、〇〇 市外八、〇〇 人力車一時間五〇錢 一日三、〇〇
	領事館	三・〇〇	三〇	—	四〇	
	中山公園	四・〇〇	三〇	—	五〇	
	岳飛廟	五・〇〇	三五	—	六〇	
	雲林寺	八・〇〇	四〇	—	八〇	
	淨慈寺	五・〇〇	—	—	六〇	
	湖墅	八・〇〇	—	—		
	市内各地	三・〇〇	—	—		
蘇州	寒山寺	—		一・〇〇	四〇	バス一區五錢全區間四區人力車は一粁一〇錢の割ハイヤー一時間六圓の割合
	金門	—	二五	八〇	二五	
	觀世街	—	二〇	八〇	三〇	
	日本租界	—	六〇	一・五〇		
漢口	江漢路	—	六	三〇	一五	市内乘合バス一區六錢三區に分たる 大型タクシー市内五圓、市内一時間一〇圓 洋車一時間三〇錢 碼頭には洋車のみにて馬車、タクシーの待合なし
	中山路	—	三	四〇	二〇	
	民生路	—	—	五〇	二五	
	民權路	—	—	六〇	三〇	
	三民路	—	—	六〇	三〇	
	民族路	—	—	六〇	三〇	
	五族路	—	—	四〇	二〇	
	佛租界	—	—	二〇	一〇	
	日界	—	—	八〇	四〇	
廣東	漢民北路	二・〇〇	四〇	—	二五	バス四系統 各系統十五錢均一 タクシー雨天夜間 市外は二割增
	惠愛路	二・〇〇	三〇	—	三〇	
	長堤	二・六〇	一五	—	三〇	
	太平路	二・六〇	一五	—	二五	
	沙面	二・六〇	一五	—	二五	
	領事館	二・六〇	三〇	—	四〇	
	省政府	二・〇〇	三〇	—	三〇	
	市政府	二・〇〇		—	二五	

驛名索引

(イ) この驛名索引は滿洲、北鮮、北支、中支の鐵道驛名を網羅したものである。

(ロ) 滿洲、北鮮は日本語讀み、北支、中支は支那語讀みになつてゐる。

(ハ) 讀み方は滿鐵及華北交通制定のものである。

(ニ) ×印は簡易驛、〇印は信號場、⊗印は信號場兼簡易驛、△印は信號所を示す。

滿洲・北鮮の部

下板城	カバンジョウ	錦古
卡倫	カロン	京圖
火斗山	カトザン	錦古
火連寨	カレンサイ	安奉
街基	ガイキ	平齊
衙門屯○	ガモントン	平齊
衙門營	ガモンエイ	大鄭
干溝	カンコウ	梅輯
郭家	カクカ	齊北
郭家店	カツカテン	連京
韓家溝	カンカコウ	奉山
瓦房店	ガボウテン	連京
蓋平	ガイヘイ	連京
桓勾子	カンコウシ	連京
鹿道	カドウ	圖佳
江陽×	カウヤウ	北鮮西部
歇火△	カウカ	連京
夏家河子	カカカシ	旅順
果松	カショウ	梅輯
鶴山	カクザン	寧墨
額山	ガクザン	北黑
臥虎屯	ガコトン	平齊
臥龍泉△	ガリユウセン	連京
攪龍門	カクリユウモン	墨靈
葛根廟	カツコンビヨウ	白阿
懷慶街	カイケイガイ	朝開
寬溝○	カンコウ	濱綏
關家⊗	カンカ	奉山
上三峰	カミサンポウ	北鮮西部
浩良河	カウリヨウガ	紳運
香蘭	カウラン	紳運
鶴立	カクリツ	鶴岡
花山	カザン	鴨大

（キ）

金寶屯	キンポウトン	平齊
金坑○	キンコウ	安奉
金山	キンザン	平齊
金州	キンシユウ	連京
金州東門	キンシユトウモン	金城
金溝子	キンコウシ	連京
金家	キンカ	安奉
金通溝○	キンツウコウ	圖佳
金嶺寺	キンレイジ	錦古
金溝	キンコウ	錦古
九寨	キユウサイ	連京
九龍坪	キウリヤウビヤウ	北鮮東部
九江泡○	キユウコウホウ	濱綏
九道嶺	キユウドウレイ	新義
九站	キユウジヤン	京圖
牛角山×	ギユウカクザン	金城
牛家	ギユウカ	拉濱
牛心臺	ギユウシンダイ	溪城
牛相屯△×	ギユウソウトン	撫順
牛汾臺	ギユウフンダイ	白阿
許家屯	キヨカトン	連京
姜家	キヨウカ	濱洲
北孫吳	キタソンゴ	北黑
北奉天	キタホウテン	奉吉
北三家	キタサンカ	奉吉
吉林	キチリン	奉吉
歸流河	キリユウガ	白阿
巨流河	キヨリユウガ	奉山
舊三道河×	キユウサンドウガ	梨樹
舊站	キユウタン	奉吉
玉皇	ギヨクコウ	葉峰
玉泉	ギヨクセン	濱綏
曲家店	キヨクカテン	平齊
奇峰○	キホウ	濱綏
共榮○	キヨウエイ	京圖
橋頭	キヨウトウ	安奉
杏樹	キヨウジユ	圖佳
杏樹屯	キヨウジユトン	金城
輝崔	キサイ	虎林
邱家○	キユウカ	京濱
義縣	ギケン	錦古
夾心子	キヨウシンシ	金城
夾子○	キヨウシ	京圖
錦縣	キンケン	奉山
錦西	キンセイ	奉山
棋杆底×	キカンテイ	金城
金倉	キンソウ	興寧

（ク）

寬谷	クワンコク	雄羅
黃坡	クワウハ	北鮮東部
訓戎	クンジユウ	北鮮東部
郡嶺	グンレイ	拉濱
官地	クワンチ	青道線
樺陽	クワヨウ	紳運

（ケ）

鷄冠山	ケイカンザン	安奉
鷄黑○	ケイコク	安奉
鷄西	ケイセイ	虎林
鷄嶺	ケイレイ	紳運
下馬塘	ゲバトウ	安奉
下馬蓮○	ゲバレン	圖佳
元帥林×	ゲンスイリン	奉吉
景家○	ケイカ	奉山
奎山	ケイザン	虎林
慶城	ケイジヨウ	紳運
慶源	ケイゲン	北鮮東部
邢家○	ケイカ	京濱
月牙⊗	ゲツガ	虎林
京奉△	ケイホウ	皐姑屯
溪洞○	ケイドウ	京圖
圈泡	ケンポウ	墨靈

（コ）

克音河	コクオンカ	濱北
克山	コクザン	齊北
克東	コクトウ	齊北
克利○	コクリ	平齊
興隆店	コウリユウテン	奉山
興福	コウフク	綏紳
興隆鎭	コウリユウチン	濱北
興凱⊗	コウガイ	虎林
興莊○	コウソウ	京濱
興安	コウアン	濱洲
興城	コウジヨウ	奉山
五廟子	ゴビヨウシ	平齊
五叉溝	ゴシヤコウ	白阿
五道溝	ゴドウコウ	梅輯
五常	ゴジヨウ	拉濱
五家	ゴカ	京濱
五河林	ゴカリン	圖佳
五度林○	ゴドリン	圖佳
五龍背	ゴリユウハイ	安奉
五道○	ゴドウ	圖佳
五峰	ゴホウ	大鄭
黑河	コクワ	北黑
黑水	コクスイ	平齊
黑河埠頭	コクカフトウ	黑河埠頭
黑山頭	コクザントウ	奉吉
黑臺	コクダイ	虎林
黑山縣	コクザンケン	大鄭
高老	コウロウ	綏運
高山子	コウザンシ	奉山
高嶺	コウレイ	奉山
高力○	コウリキ	安奉

高家歲○	コウカサイ	安奉
高麗門	コウライモン	安奉
高臺山○	コウダイザン	奉山
高嶺子	コウレイシ	濱綏
古城	コジヨウ	齊北
古城鎭	コジヨウチン	圖佳
古山子	コザンシ	京圖
古山	コザン	葉峰
古北口	コホクコウ	錦古
虎山	コザン	圖佳
虎林	コリン	虎林
虎頭	コトウ	虎林
虎市○	コシ	京濱
虎石臺	コセキダイ	連京
江橋	コウキヨウ	平齊
江灣	コウワン	寧墨
江密峰	コウミツホウ	京圖
呼蘭	コラン	濱北
康金井	コウキンセイ	濱北
湖南×	コナン	白阿
湖北⊗	コホク	虎林
胡家店○	コカテン	平齊
胡家	コカ	河北
鴻興	コウコウ	平齊
香房	コウボウ	濱綏
香鶴⊗	コウカク	虎林
口前	コウゼン	奉吉
孤家子	コカシ	撫順
孤店子	コテンシ	京圖
菰園	コエン	鴨大
渾河	コンガ	連京
洪儀	コウギ	北鮮東部
吳家屯	ゴカトン	安奉
公主嶺	コウシユレイ	連京
公營子	コウエイシ	錦古
皇姑屯	コウコトン	奉山
溝幫子	コウパンズ	奉山
壺蘆島	コロトウ	壺蘆島
壺蘆島埠頭	コロトウフトウ	壺蘆島
顧鄕屯	コキヨウトン	京濱
昂昂溪	コウコウケイ	濱洲
廣盛○	コウセイ	奉山
靠山屯	コクザントン	奉吉
黃白	コウハク	梅輯
黃旗屯	コウキトン	奉吉
紅花嶺○	コウカレイ	濱綏
紅石	コウセキ	錦古
紅房子○	コウボウシ	濱綏
荒地	コウチ	奉山
荒山○	コウザン	京圖
荒溝	コウコウ	興寧
興隆山	コウリユウサン	京圖
廣寧寺	コウネイジ	金城
皎河	コウガ	京圖
合水○	ゴウスイ	圖佳
向陽⊗	コウヨウ	圖佳
黑營	コクエイ	興寧
紅廟子	コウベウシ	葉峰
渾江	コンコウ	鴨大

（サ）

三間房	サンゲンボウ	平齊
三棵樹埠頭	サンカジユフトウ	棵樹
三峰洞○	サンボウドウ	朝開
三十里堡	サンジユウリホウ	京連
三十家	サンジツカ	錦古
三臺	サンダイ	安奉
三源浦	サンゲンホ	梅輯
三道溝	サンドウコウ	圖佳
三棵樹	サンカジユ	拉濱
三岔河	サンタガ	京濱
三臺○	サンダイ	奉山
三望溝⊗	サンボウコウ	濱綏
三江口	サンジヤンコウ	平齊
三房○	サンボウ	圖佳
三林	サンリン	平齊
沙河口	サカコウ	連京
沙崗	サコウ	連京
沙河	サカ	連京
沙洞	サドウ	綏寧
沙河鎭	サカチン	安奉
沙後所	サゴシヨ	奉山
沙拉	サラ	新義
沙海	サカイ	葉峰
沙房○	サボウ	紳運
山頭堡×	サントウホウ	連京
山海關	サンカイカン	奉山
山城鎭	サンジヨウチン	奉吉
山河屯	サンカトン	拉濱
山市	サンシ	濱綏
山底○	サンテイ	濱綏
山洞○	サンドウ	濱綏
柞樹○	サクジユ	濱綏
柴崗×	サイコウ	京白
柴河	サイガ	圖佳
蔡家溝	サイカコウ	京濱
蔡家	サイカ	連京
左家○	サカ	京圖
索崗	サクコウ	京白
薩爾圖	サルト	濱洲
嵯崗	サガン	濱洲
細鱗河	サイリンカ	濱綏
細嶺○	サイレイ	濱綏
索格營	サツカクエイ	白阿
崔家×	サイカ	溪城
靈廠屯	サンシヨウトン	金城
三隊×	サンタイ	鴨大

（シ）

舍力	シヤリキ	京白
小汪淸	シヨウオウセイ	興寧
小南○	シヨウナン	京濱
小嶺	シヨウレイ	濱綏
小九	シヨウキユウ	濱綏
小城溝○	シヨウジヨウコウ	圖佳
小綏芬	シヨウスイフン	濱綏
小興安	シヨウコウアン	北黑
小平山○	シヨウヘイザン	濱綏
小合隆	シヨウゴウリユウ	京白
小白	シヨウハク	紳運
小平山○	シヨウヘイザン	濱綏
小家崖○	シヨウカガイ	安奉
小平房	シヨウヘイボウ	錦古
小寺溝	シヨウジコウ	錦古
小城	シヨウジヨウ	拉濱
小姑家	シヨウクウジヤ	京圖
小崗子	シヨウコウシ	連京貨物
小市	シヨウシ	溪城
新站	シンチヤン	拉濱
新廟	シンビヨウ	京白
新安	シンアン	寧墨
新開河△	シンカイガ	連京
新屯○	シントン	齊北
新松浦	シンシヨウホ	濱北
新邱	シンキユウ	新義
新興	シンコウ	圖佳
新城子	シンジヨウ	連京

新房子○　シンボウシ　濱綏
新臺子　シンダイシ　連京
新乾　シンカン　北鮮東部
新京　シンキョウ　連京
新民　シンミン　奉山
新立屯　シンリツトン　新義
新阿山　シンアサン　北鮮東部
扎蘭屯　ジャラントン　濱州
扎羅木得　ジャラムテ　濱洲
扎來諾爾　ジャライノール　濱洲
松花口　ショウカコウ　京濱
松樹　ショウジュ　連京
松山○　ショウザン　濱綏
松鶴×　ショウカク　北鮮東部
尙家　ショウカ　濱洲
七里河　シチリカ　錦古
七星　シチセイ　圖佳
上家○　ジョウカ　京圖
上齊臺　ジョサイダイ　錦古
上園　ジョウエン　錦古
上谷　ジョウコク　錦古
上板城　ジョウバンジョウ　錦古
上營　ジョウエイ　拉濱
下九臺　シモキュウダイ　京圖
十里坪　ジュウリヒョウ　興寧
十里河　ジュウリカ　連京
十家堡　ジッカホウ　連京

十家子　ジッシカ　大鄭
七家子　シチカシ　京白
四方臺　シホウダイ　濱北
四家房　シカボウ　拉濱
四合　シクワイ　北鮮東部
四平街　シヘイガイ　連京
四道嶺○　シドウレイ　濱綏
四道○　シドウ　圖佳
舍利屯　シャリトン　濱綏
承良　ショウラ　北鮮東部
承德　ショウトク　錦古
章黨　ショウトウ　奉吉
章古臺　ショウコダイ　大鄭
繞陽河　ジョウヨウガ　奉山
昌圖　ショウト　連京
秦家屯　シンカトン　大鄭
秦家　シンカ　濱北
周水子　シュウスイシ　連京
首山　シュザン　連京
深井子　シンセイシ　撫順
秋木莊　シュウボクソウ　安奉
女兒河　ジョジカ　奉山
周家　シュウカ　拉濱
佳木斯　ジャムス　圖佳
瀋陽　シンヨウ　奉吉
城子疃　ジョウシドウ　金城
紫陽　シヨウ　綏寧
春陽　シュンヨウ　圖佳

秋梨溝　シュウリコウ　京圖
鍾城　ショウジャウ　北鮮西部
謝家　シャカ　梅輯
取柴河　シュサイカ　奉吉
車家○　シャカ　京濱
照陽○　ショウヨウ　京濱
成吉思汗　ジンギスカン　濱洲
砂金溝○　シャキンコウ　圖佳
珠河　シュカ　濱綏
徐家　ジョカ　濱北
辰淸　シンセイ　北黑
神武屯　ジンムトン　北黑
神樹　シンジュ　綏紳
樹林○　ジュリン　齊北
治山○　ジザン　綏濱
彰武　ショウブ　大鄭
周家屯　シュウカトン　錦古
秀楊○　シュウヨウ　京濱
庄內×　ショウナイ　虎林
祁家堡　シカホウ　安奉
神洞　シンドウ　興寧
晨明　シンメイ　紳運
峻德　シュントク　鶴岡
輯安　シュウアン　梅輯

(ス)

水師營×　スイシエイ　旅順
水洞　スイドウ　梅輯

水口浦　スイコウホ　北鮮西部
水簾洞○　スイレンドウ　奉吉
水泉　スイセン　錦古
水克　スイコク　虎林
水漣⊗　スイレン　京圖
水曲柳　スイキョクリュウ　拉濱
綏中　スイチュウ　奉山
綏芬河　スイフンガ　濱綏
綏陽　スイヨウ　濱綏
綏化　スイカ　濱北
鈴蘭○　スズラン　濱綏
水穫×　スイレイ　京圖

(セ)

石獅○　セキシ　奉山
石河○　セキガ　濱綏
石城○　セキジョウ　圖佳
石人城　セキジンジョウ　濱北
石河　セッカ　連京
石橋子　セッキョウシ　安奉
石湖　セキコ　梅輯
石長　セキチョウ　綏紳
石山　セキザン　奉山
石硯　セキケン　圖佳
石頭　セキトウ　圖佳
石嶺　セキレイ　平梅
石伊　セキイン　綏紳
靑龍⊗　セイリュウ　虎林
靑雲　セイウン　濱綏
靑溝子○　セイコウシ　濱綏

靑堆子　セイタイシ　奉山
靑山　セイザン　圖佳
靑鶴　セイカク　北鮮東部
靑石嶺○　セイセキレイ　大鄭
淸和⊗　セイワ　虎林
淸溪　セイケイ　北黑
淸水河　セイスイカ　金城
淸原　セイゲン　奉吉
淸河門　セイカモン　新義
前郭旗　ゼンカッキ　京白
前衛　ゼンエイ　奉山
前所　ゼンショ　奉山
前邱○　ゼンキュウ　奉山
前甸　ゼンデン　奉吉
前河○　ゼンカ　京圖
西家○　セイカ　京濱
西口　セイコウ　白阿
西劉○　セイリュウ　奉山
西大坡　セイタイハ　興寧
西安　セイアン　平梅
西陽　セイヨウ　奉吉
千山　センザン　連京
仙洞　センドウ　圖佳
泉溝　センコウ　平齊
泉水　センスイ　溪城
泉頭　セントウ　連京
泉水屯　センスイトン　金城
成高子　セイコウシ　濱綏
世仙○　セセン　北鮮東部
雪嶺　セツレイ　興寧

錢家店　センカテン　大鄭
聖淚　セイロウ　紳運
嘯岩×　セウガン　北鮮西部
薛家　セツカ　錦古
汐子　セキシ　葉峰
赤峰　セキホウ　葉峰
洗馬○　センバ　濱綏
靑道　セイドウ　靑道
石人　セキジン　鴨大

(ソ)

蘇家屯　ソカトン　連京
雙廟子　ソウビョウシ　連京
雙羊店　ソウヨウテン　奉山
雙河鎭　ソウカチン　奉吉
雙頭山×　ソウトウザン　錦古
雙城堡　ソウジョウホウ　京濱
雙龍○　ソウリュウ　京濱
雙井○　ソウセイ　京濱
雙崗　ソウコウ　平齊
蒼林　ソウリン　興寧
蒼土　ソウド　新義
蒼石　ソウセキ　奉吉
草河口　ソウカコウ　安奉
草市　ソウシ　奉吉
宋杖子　ソウジョウシ　錦古
宋　ソウ　濱洲
孫家堡　ソンカホウ　安奉
孫家　ソンカ　拉濱

孫吳　ソンゴ　北黑
楚山　ソザン　圖佳
索倫　ソロン　白阿

(タ)

泰康　タイコウ　濱洲
泰安　タイアン　齊北
泰東○　タイトウ　齊北
泰來　タイライ　平齊
大嶺　タイレイ　濱綏
大土山○　ダイトザン　平齊
太平川　タイヘイセン　平齊
太嶺　タイレイ　濱綏
大興　タイコウ　平齊
大灰城　ダイフイジョウ　京白
大石寨　ダイセキサイ　白阿
大連甘井子埠頭　ダイレンカンセイシフトウ　甘井子
大連　ダイレン　連京
太平山　タイヘイザン　連京
大黃旗○　ダイオウキ　奉山
大石橋　ダイセキキョウ　連京
太子河×　ダイシガ　連京
大橋　タイキョウ　連京
大橋子○　ダイキョウシ　濱綏
大楡樹　ダイユジュ　連京
大屯　ダイトン　連京
大連埠頭　ダイレンフトウ　連京貨物線
大虎山　タイコザン　奉山

大凌河　ダイリョウガ　奉山
大林　ダイリン　大鄭
大房身　ダイボウシン　連京
大官屯　ダイカントン　撫順
大陽溝△　タイヨウコウ　連京
大劉家×　ダイリュウカ　金城
大罕　タイカン　大鄭
大巴　タイハ　新義
大窪　タイア　河北
大營子　ダイエイシ　錦古
大平房　タイヘイボウ　錦古
大興鎭　ダイコウチン　平梅
大川○　ダイセン　京圖
大觀嶺○　ダイカンレイ　濱綏
大同農場×　ダイドウノウジョウ　大鄭
大平嶺　タイヘイレイ　京圖
大豐滿　ダイホウマン　龍豐
大橋　ダイキョウ　京圖
大石頭　ダイセキトウ　京圖
大興溝　ダイコウコウ　圖佳
塔哈　タハ　齊北
他山　タザン　連京
代馬溝　ダイマコウ　濱綏
坦途○　タント　平齊
達里　タツリ　紳帶

達家溝　タッカコウ　京濱
對青山　タイセイザン　濱洲
第二下城子⊕　ダイニカジョウシ　梨樹
團山○　ダンサン　京濱
駝興鎭　ダコウチン　平梅
駝腰嶺　ダヨウレイ　梅輯
帶嶺　タイレイ　紳運
湯原　タウゲン　紳運
大栗子　ターリース　鴨大

(チ)

中固　チュウコ　連京
中和○　チュウワ　齊北
中德○　チュウトク　京濱
長嶺子○　チョウレイシ　旅順
長發屯　チョウハットン　圖佳
張臺子×　チョウダイシ　連京
張家堡○　チョウカホウ　安奉
張維屯　チョウイトン　濱北
張連×　チョウレン　京圖
陳家屯　チンカトン　奉山
陳相屯　チンソウトン　安奉
肇東　チョウトウ
陳山○　チンザン　京濱
姚千戶屯　チョウセンコトン　安奉
趙家屯　チョウカトン　奉山
趙家　チョウカ　濱北

朝陽　チョウヨウ　錦古
朝陽鎭　チョウヨウチン　奉吉
朝陽川　チョウヨウセン　京圖
朝水○　チョウスイ　北黑
茶條溝　チャジョウコウ　京圖
千振　チブリ　圖佳
沈家　チンカ　濱北
齊齊哈爾　チチハル　平齊
鎭東　チントウ　平齊
珍珠門　チンジュモン　鴨大

(ツ)

通化　ツウカ　梅輯
通遠堡　ツウエンポ　安奉
通遼　ツウリョウ　大鄭
通天⊕　ツウテン　圖佳
通康　ツウコウ　濱北
通北　ツウホク　濱北
通溝　ツウコウ　梅輯
鶴岡　ツルオカ　鶴岡

(テ)

田水○　デンスイ　安奉
田家　デンカ　連京
田昇　デンショウ　綏運
田師付　デンシフ　紳帶
田莊臺　デンショウダイ　河北
鐵廠　テツショウ　梅輯
鐵嶺　テツレイ　連京

驛名	讀み方	所屬線名
孟家屯	モウカトン	連京
茂林	モリン	平齊
門體○	モンタイ	奉山
門達	モンダツ	大鄭
帽兒山	モウルサン	濱綏
木會	モクソウ	神蓮
（ヤ）		
八洲	ヤシマ	寧墨
亞布洛尼	ヤブロニ	濱綏
牙克石	ヤケシ	濱洲
雅魯	ヤアル	濱洲
藥王○	ヤクオウ	京圖
（ユ）		
雄倘	ユウシヤウ	北鮮東部
雄基	ユウキ	北鮮東部
熊岳城	ユウガクジヨウ	連京
楡樹臺	ユジユタイ	撫順
楡樹川	ユジユセン	京圖
楡樹屯	ユジユトン	楡樹
裕國	ユウコク	奉山
（ヨ）		
四臺子	ヨンダイシ	安奉
楊樹嶺	ヨウジユレイ	錦古
楊木	ヨウボク	虎林
楊崗	ヨウコウ	虎林
楊木林	ヨウボクリン	連京
楊家	ヨウカ	濱北
羊圈子	ヨウケンシ	奉山
羊草○	ヨウソウ	濱洲
葉柏壽	ヨウハクジユ	錦古
沃皮○	ヨウヒ	京濱
窰溝門	ヨウコウモン	錦古
腰嶺○	ヨウレイ	北黒
陽岔	ヨウタ	梅輯
遙林	ヨウリン	鴨大
（ラ）		
亂石山	ランセキザン	連京
灤溝	ランコウ	圖佳
灤嶺⊗	ランレイ	虎林
灤稜	ランリヨウ	京濱
拉古	ラコ	濱綏
拉屯○	ラトン	京濱
拉林	ラリン	拉濱
拉法	ラホウ	京圖
拉崗○	ラコウ	京圖
拉哈	ラハ	寧墨
拉海嶺○	ラカイレイ	錦古
拉海溝⊗	ラカイコウ	古拉
拉面河○	ラメンカ	濱綏
駱駝營	ラクダエイ	北票
駱駝山	ラクダサン	圖佳
喇嘛甸	ラマデン	濱洲
灤平	ランペイ	錦古
藍旗×	ランキ	錦古
樂園○	ラクエン	京圖
來福○	ライフク	京白
羅津	ラシン	雄羅
羅圈	ラケン	寧興
（リ）		
李家堡○	リカコウ	安奉
李石寨	リセキサイ	撫順
李金	リキン	新義
李家店○	リカテン	平齊
李家	リカ	濱北
李家屯	リカトン	金城
龍頭	リユウトウ	旅順
龍家堡	リユウカホウ	京圖
龍潭山	リユウタンザン	京圖
龍井	リユウセイ	朝開
龍爪	リユウソウ	圖佳
龍鎭	リユウチン	北黒
龍門	リユウモン	北黒
龍山○	リユウザン	平齊
龍船	リユウセン	綏神
龍岩○	リユウガン	京圖
龍泉	リユウセン	京白
柳河溝	リユウカコウ	奉山
柳樹屯	リユウジユトン	柳樹
柳河	リユウガ	梅輯
柳樹○	リユウジユ	濱綏
柳樹河	リユウジユカ	京圖
林家臺	リンカダイ	安奉
林口	リンコウ	虎林
亮甲店	リヨウコウテン	金城
亮兵臺	リヨウヘイダイ	京圖
亮子河×	リヨウシカ	梨樹
亮子嶺	リヨウシレイ	濱綏
立山	リツザン	連京
隆溝○	リユウコウ	京濱
隆泉○	リユウセン	京濱
梨樹鎭	リジユチン	梨樹
旅順	リヨジユン	旅順
綠水○	リヨクスイ	濱綏
凌源	リヨウゲン	錦古
綠山○	リヨクザン	圖佳
兩家×	リヨウカ	京白
遼陽	リヨウヨウ	連京
梁家×	リヨウカ	連京
劉房子	リユウボウシ	連京
劉家河	リユウカカ	安奉
凉泉○	リヨウセン	京圖
里土尼○	リトニ	濱綏
臨江縣	リンコウケン	鴨大
林子頭	リンシトウ	鴨大
龍井	リユウセイ	青道
龍水坪	リユウスイツボ	青道
凉臺	リヤウダイ	神蓮
（レ）		
連山關	レンザンカン	安奉
連珠山	レンジユザン	虎林
冷山	レイザン	濱綏
連江口	レンジヤンコウ	佳蓮
蓮河	レンカ	奉吉
勵家	レイカ	奉山
（ロ）		
六家子	ロツカシ	拉濱
六道河	ロクドウカ	京圖
老城○	ロウジヨウ	京圖
老邊⊗	ロウヘン	營口
老公屯○	ロウコウトン	京濱
老少溝	ロウシヨウコウ	濱京
老家○	ロウカ	京濱
老萊	ロウライ	寧墨
老古溝	ロウココウ	安奉
老嶺	ロウレイ	梅輯
老鍋	ロウカ	錦古
老爺嶺	ロウヤレイ	京圖
老和○	ロウワ	奉山
老頭溝	ロウトウコウ	京圖
老廟	ロウビヨウ	圖佳
老松嶺	ロウシヨウレイ	圖佳
老子山○	ロウシザン	濱綏
蘆家屯	ロカトン	連京
郎鄉	ロウキヨウ	神蓮
狼溪	ロウケイ	興寧
老黑山	ロウコクザン	興寧
老營	ロウエイ	鴨大
老灌	ロウカン	鴨大
（ワ）		
歪頭山	ワイトウザン	安奉
倭肯	ワイコウ	圖佳
王富○	ワウフウ	京濱

北支の部

驛名	讀み方	所屬線名
（ア）		
安邑	アンイー	同蒲
安定	アンデイン	京山
安山	アンシヤン	京山
安陵	アンリン	津浦
安定門	アンデインメン	環城
二十里堡	アルシーリープー	膠濟
阿湖	アーホー	隴海
（イ・キ）		
宜溝	イーゴウ	京漢
易縣	イーシエン	西陵
晏城	イエンチヨン	津浦
兗州	イエンチヨウ	津浦
益都	イードウ	膠濟
義安	イーアン	同蒲
義棠	イーウン	同蒲
嶧縣	イーシエン	臨趙
野鷄崗	イエチーガン	隴海
[illegible]坨	イエントー	隴海
（ウ）		
魏善莊	ウエイシヤンヂユワン	京山
吳村	ウーツン	津浦
維縣	ウエイシエン	膠濟
聞喜	ウエンシー	同蒲
微水	ウエイシユイ	正太
（エ）		
岩峯	エンフオン	正太
岩會	エンホイ	正太
（カ）		
高碑店	ガオペイデン	京漢
高遷	ガオチエン	京漢
高邑	ガオイー	京漢
高顯	ガオシエン	同蒲
高村橋	ガオツンチヤオ	京漢
高村	ガオツン	同蒲
高密	ガオミー	膠濟
開平	カイピン	京山
開封	カイフオン	隴海
康莊	カンヂユワン	京包
唐家莊	カンヂヤヂユワン	膠濟
甘亭	ガンテイン	同蒲
（ク）		
古冶	ダイエ	京山
古北口	グーペイコウ	京古
固城鎭	グーチヨンチエン	京漢
固鎭	グーヂエン	津浦
崮山	グーシヤン	津浦
孔家莊	クンヂヤヂユワン	京包
孤山	グーシヤン	京包
公積坂	クンヂーバン	京包
固赤	グーイ	東[illegible]
（コ）		
官村	ゴワンツン	京包
官莊	ゴワンヂユワン	京漢
官橋	ゴワンチヤオ	津浦
光祿	ゴワンルー	京漢
廣安門	ゴアンアンメン	京包
郭店	ゴーデン	膠濟
郭磊莊	ゴーレイヂユワン	京包
口泉	コウチユワン	同蒲
崞縣	ゴーシエン	陽明堡
（サ）		
桑園	サンユワン	津浦
桑梓店	サンヅーデン	津浦
棗莊	ザオチユワン	臨趙
棗園子	ザオユワンス	膠濟
三岔口	サンチヤコウ	京包
三道營	サンダオイン	京包
三館	サンプ	津浦
三家店	サンジヤデン	門頭溝
薩拉齊	サーラーチー	京包
賽魚	サイユイ	正太
三堡×	サンプー	京包
（シ）		
西便門	シーペンメン	京漢
西直門	シーヂーメン	京包
西銘	シーミシ	甲子灣
西撥子	シーボーヅ	京包
西灣堡	シーワンプー	京包
西寺坡	シースーポー	津浦溝
西黃村	シーホワンツン	門頭
新河	シンホウ	京山
新樂	シンロー	京漢
新安	シンアン	京漢
新安鎭	シンアンヂエン	隴海
新鄉	シンシヤン	京漢
新保安	シンパオアン	京包
新安莊	シンアンヂユワン	京包
新通州	シントンヂヨウ	京古
新浦	シンプー	隴海
新馬橋	シンマーチヤオ	津浦
新村	シンツン	隴海
石景山	シーヂンジヤン	門頭溝
石	シーシヤー	京古
沙河縣	シヤーホーシエン	京漢
沙溝	シヤゴウ	津浦
沙河鎭	シヤーホーヂエン	京包
沙峪	シヤユイ	同蒲
沙城	シヤチヨン	京包
沙嶺子	シヤリンヅ	京包
山海關	シヤンハイゴワン	京山
山家林	シヤンジヤーリン	棗莊
上安	シヤンアン	正太
上湖	シヤンホー	正太
下花園	シヤホアユアン	京包
下會	シヤーホイ	京古
下盤石	シヤーパンシー	正太
辛莊子	シンヂユワンヅ	京包
辛店	シンデン	膠濟
辛置	シンチー	同蒲

驛名	讀方	線名
忻口	シンコウ	同蒲
忻縣	シンシエン	同蒲
雙橋	シユワンチヤオ	京古
雙廟	シユワンミヤオ	京漢
界首	シエオシヨウ	津蒲
界河	ジエホー	津浦
聚樂堡	ジユイロープー	京包
十八臺	シパータイ	京包
順義	シユンイー	京古
順德	シユンドー	京漢
小營	シヤオイン	京古
小寨	シヤオヂー	京漢
蝦蟆屯	シヤーマートン	膠濟
壽陽	シヨウヤン	正太
尚希莊	シヤンシーチユワン	同蒲
神頭	シエントウ	同蒲
朔縣	シユオシエン	同蒲
修文	シウウエン	同蒲
許家店	シユイチヤデン	同蒲
胥各莊	シユイゴーチユワン	京山
徐州北站	シユイチヨウペイジヤン	隴海
朱各莊	ジユゴーチユワン	京山
徐塘莊	シユイタンヂユワン	隴海
徐水	シユシユイ	京漢
徐州	シユイジヨウ	津浦
塞西店	ジヤイシーデン	京漢
濬縣	ジユンシエン	京漢
墟溝	シユイゴウ	隴海
興濟	シンヂー	津浦
宣化	シユワンホア	京包
蔣村	ジヤンツン	甲子灣
軒崗	シユワンガン	同蒲
水頭	シユイドク	同蒲
商邱	シヤンチウ	隴海
小壩	シヤオパー	隴海
史村	シーツン	同蒲
什・林	シーリン	同蒲
獅子營	シーヅーイン	道清
修武	シウウー	道清
宿縣	シユシエン	津浦
夏店	シアデン	東潞
石門	テーメン	石太
石龍	シールウン	京山
新店×	シンデヌ	東メ

（ス）

驛名	讀方	線名
松林店	スンリンデン	京漢
孫子店	スンシーデン	濟寧
蘇集	スーヂー	京包
四方	スーファン	京古
宋家莊	スンヂヤヂユワン	同蒲
宿羊山	スウヤンシケン	臨趙

（ソ）

驛名	讀方	線名
鄒縣	ゾウシエン	津浦
鄒塢	ゾウウ	棗莊
岞山	ゾオシヤン	膠濟
色樹坟	ソオシユウフエヌ	大臺

（タ）

驛名	讀方	線名
大陳莊	ダーチエンチユワン	京漢
大汶口	ダーウエンコウ	津浦
大同	ダートン	京包
大港	ダーガン	膠濟
大坪河	ダーニイホー	膠濟
大臨池	ダーリンチー	膠濟
大崑崙	ダークンルン	博山
大郭	ダーゴー	正太
大平	ダーピン	新開
大牛店	ダーニウデン	同蒲
大浦	ダープー	隴海
大許家	ダーシユイチヤ	隴海
大廟	ダーミヤオ	隴海
大湖	ダーヤ	隴海
太原	タイユワン	同蒲
太原北站	タイユワンベイヂヤン	正太
大谷	タイグー	同蒲
大召營	ダーヂヤオイン	道清
唐坊	タンフアン	京山
唐山	タンシヤン	京山
唐官屯	タンゴワントン	津浦
塔崗	ターガン	京漢
塔耳堡	ターアルプー	膠濟
臺閣牧	タイゴームー	京包
臺兒莊南站	タイアルチユワンナンジヤン	臨趙
臺兒莊	タイアルザユワン	臨趙
陶卜齊	タオプーチ	京包
陶思浩	タオスーハ	京包
褡褳	ダーリエン	京漢
塘沽	ターグウ	京山
湯陰	タンイン	京漢
黨家莊	タンヂヤヂユワン	津浦
泰安	タイアン	津浦
譚家坊	タンヂヤファン	膠濟
岱嶽	タイユエ	同蒲
待王	ダイワン	道清
[illegible]山	ダンシヤン	隴海
大臺	ダータイ	大臺

（チ）

驛名	讀方	線名
張貴莊	チヤングイチユワン	京山
張家莊	チヤンジヤチユワン	京山
張莊	チヤンチユワン	津浦
張夏	チヤンシヤ	津浦
張家口	チヤンヂヤコウ	京包
張禮	チヤンリー	同蒲
張辛	チヤンシン	京古
張店	ヂヤンデン	膠濟
張閣莊	ヂヤンゴーヂユワン	隴海
張藺	チヤンラン	同蒲
清鳳店	チンフオンデン	京漢
清華園	チンホアユアン	京包
清河	チンホー	京包
清化	チンホア	道清
陳官屯	チエンゴワントン	津浦

驛名	讀方	線名
濟陽	ヂーヤン	周口店
濟南北站	ヂーナンペイジヤン	津浦
濟寧	ヂーニン	濟寧
濟南	ヂーナン	膠濟
昌黎	チヤンリー	京山
昌平	チヤンピン	京包
昌樂	チヤンロー	膠濟
青縣	チンシエン	津浦
青龍橋	チンルンチヤオ	京包
青島	チンダオ	膠濟
正陽門	ジヨンヤンメン	京山
正定	ヂヨンディン	京漢
周口店	チヨウコウデン	周口店
周村	チヨウツン	膠濟
周士莊	チヨウシーヂユワン	京包
膠東	ヂヤオドン	膠濟
膠縣	ヂヤオシエン	膠濟
井陘	ヂンシン	井陘
井陘炭礦	ヂンシンタンコワン	井陘
軍糧城	ヂヤンリヤンチヨン	京山
茶淀	チヤデン	京山
秦皇島	チンホワンダオ	京山
前門	チエンメン	京漢
前寨	チエンジヤイ	同蒲
長辛店	チヤンシンデン	同蒲
長珍	チヤンヂエン	同蒲
涿縣	ヂユオシエン	京漢
鎮內	ジエンネイ	京漢
彰德	ヂヤンドー	京漢
汲縣	チーシエン	京漢
汲縣	ヂーシエン	京漢
靜海	ヂンハイ	津浦
磚河	ヂユワンホー	津浦
曲阜	チユイフー	津浦
齊村	チーツン	棗莊
柴溝堡	イゴウプー	京包
柴莊	チヤイヂユワン	同蒲
卓資山	ヂユオヅシヤン	京包
旗下營	チーシヤイン	京包
察素齊	チヤスーチー	京包
朝陽門	チヤオヤンメン	京包
城陽	チヨンヤン	膠濟
芝蘭莊	ヂーランヂユワン	膠濟
丈嶺	チヤンリン	膠濟
朱劉店	ヂユリウデン	膠濟
夾河寨	ヂヤンホーヂヤイ	隴海
金嶺	チンリン	膠濟
程家	チヨンヂヤ	正太
芹泉	チンチユアン	正太
祁縣	チンシエン	同蒲
介休	ヂエシウ	同蒲
趙墩	ヂヤオドン	隴海
趙城	ヂヤオチヨン	同蒲
焦作	ヂヤオゾオ	道清
常口	チヤンコウ	道清
車輻山	チヨオフーシヤン	臨趙
中河	ヂユンホー	京山
中心	ヂユンシユヂユワン	京山
[illegible]源	ヂヤンユアン	東潞
沁縣	ヂンシエヌ	東潞
常村×	チヤンツウン	東潞
呈史×	チオンスー	東潞

（ツ）

驛名	讀方	線名
漕河	ツアオホー	京漢
磁縣	ツーシエン	京漢
滄縣	ツアンシエン	津浦
滄口	ツアンコウ	膠濟
蔡家莊	ツアイヂヤヂユワン	膠濟
淄河店	ヅーホーデン	膠濟
淄川	ヅーチユワン	博山
草橋	ツアオチヤオ	隴海
曹浦	ツアオプー	隴海
曹老集	ツアオラオヂー	濟南
曹村	ツアオフン	津浦
測石	ツオシー	正太
子洪	ヅーフン	東潞

（テ）

驛名	讀方	線名
天津西站	テンヂンシーヂヤン	津浦
天津北站	テンヂンペイヂヤン	京山
天津	テンヂン	京山
天鎮	テンヂエン	京包
田莊	テンヂユワン	京山
定興	ディンシン	京漢
定縣	ディンシエン	京漢
定襄	ディンシヤン	甲子灣
鐵山	チーシヤン	鐵山

（ト）

驛名	讀方	線名
東便門	ドンペンメン	京山
東海	ドンハイ	隴海
東長壽	ドンチヤンシヨウ	京漢
東光	ドンゴワン	津浦
東北堡	トンペイプー	津浦
東直門	トンヂイメン	環城
東趙	トンチヤオ	正太
東陽	ドンヤン	同蒲
東鎮	ドンヂエン	同蒲
東觀	ドンゴワン	同蒲
豆張莊	ドウシヤンヂユワン	京山
豆羅	ドウロー	同蒲
竇店	ドウデン	京漢
竇嫗	ドウユイ	京漢
德縣	ドーシエン	津浦
德勝門	ドーシヨンメン	環城
通州南站	トンヂヨウナンジヤン	通州
通州	トンヂヨウ	通州
坨子頭	トウヅトウ	京山
坨里	トーリー	坨里
獨流	ドウリウ	津浦
滕縣	トンシエン	津浦
土木	トームー	京包
鐙口	ドンコウ	京包
頭泉	トウチユワン	正太
段廷	ドワンテイン	正太
段家嶺	ドワンヂヤリン	同蒲
東圓×	ドンユワン	京包
東周	ドンヂオウ	東潞

（ナ）

驛名	讀方	線名
南大寺	ナンダース	京山



旅行統計

二 鐵道の部 二

（北支關係未報）

鐵道總局月別鐵道旅客輸送人員（昭和十四年度）

	計	社線	國線	北鮮線
計	七五、九六七、三二一	三〇、八二五、三八六	四五、三九〇、〇〇〇	四、五〇九、二三九
四月	五、九三五、一〇三	二、四三〇、三五六	三、六一四、七七一	三四六、三六三
五月	五、七一三、五六六	二、三三八、一九〇	三、四二八、七七一	三三八、〇一八
六月	五、四四八、三八三	二、三〇九、七〇〇	三、一〇四、七七八	三二五、一二五
七月	五、六四九、三六二	二、五三八、七五〇	三、〇六九、八一一	三一一、二九〇
八月	六、〇〇七、六八一	二、四七一、四五〇	三、四七三、三七三	三七五、三六七
九月	五、八三六、六〇六	二、三八二、二三七	三、三四三、四四八	四一〇、二五七
十月	六、二四一、八九七	二、五五〇、八五六	三、六五三、七一七	三八五、二一〇
十一月	六、六八二、九二四	二、六六八、九七〇	四、〇六八、九一九	三九四、八七六
十二月	七、二七九、八九一	二、八七八、八四八	四、五二八、〇〇七	四三八、五九八
一月	六、六八八、〇七三	二、五九九、一七〇	四、一三八、三四三	三五五、七二三
二月	六、一七三、五一七	二、四四八、六四三	三、七三三、七〇五	三七四、三八七
三月	八、三二一、二二〇	三、二二八、二二六	五、二三二、二九九	四五四、〇四六

鐵道總局累年鐵道旅客輸送人員

	合計	社線	國線	北鮮線
昭和八年	—	一一、六三三、八七五	—	七四六、八九〇
同九年	二四、二二二、二四九	一三、七八六、四〇三	八、八一四、五〇九	一、六二一、三三七
同十年	三〇、一二一、〇四九	一五、一三三、九三三	一三、三七九、九五七	一、七一八、一七〇
同十一年	三四、六七八、〇七四	一五、七四九、七八六	一六、七五八、七七五	二、一六九、五一三
同十二年	四〇、五九〇、八六九	一七、五一五、〇四四	二〇、六三五、一六一	二、四四〇、六六四
同十三年	五〇、〇五〇、五五三	二一、〇〇一、六一三	二六、八九三、八一九	三、〇五九、六七八
同十四年	七五、九六七、三二一	三〇、八二五、三八六	四五、三九〇、〇〇〇	四、五〇九、二三九

備考　合計は社、國、北線の二線或は三線に跨つて輸送した場合各々重複計上しあるため三者の合計と一致しない。

鐵道總局主要驛乘降客數（昭和十四年度）

驛名	乘車	降車	計
大連	一、八〇一、五〇〇	一、六〇七、四〇六	三、四〇八、九〇六
周水子	三五九、四五〇	三五三、七一四	七一三、一六四
金州	三三一、〇五五	三三六、八六五	六六七、九二〇
普蘭店	三九九、六四〇	四一〇、一七三	八〇九、八一三
瓦房店	三七六、六八三	三六四、三三〇	七四一、〇一三
大石橋	四六一、三〇七	四六一、三五八	九二三、六六五
蓋平	三二三、三二八	三二三、七一五	六四六、〇四三
海城	五二八、〇三五	五二五、九六九	一、〇五四、〇〇四
鞍山	一、四一四、九二七	一、四八七、二七〇	二、九〇二、一九七
遼陽	一、〇四二、〇六五	一、〇四三、七三七	二、〇八五、八〇二
煙台	二八八、九五四	二九一、九六七	五八〇、九二一
蘇家屯	四四三、三二三	四五〇、二〇七	八九三、五三〇
奉天	四、七六六、九三五	四、八九三、四四一	九、六六〇、三七六
鐵嶺	四九三、七三一	四八八、三六六	九八二、〇九七
范家屯	三三五、〇七九	三三八、八八四	六七三、九六三
開原	三八四、八七九	三八二、二八一	七六七、一六〇
四平街	七二二、九四七	七一五、六四〇	一、四三八、五八七
公主嶺	五二二、一一六	五二五、二四四	一、〇四七、三六〇
新京	二、一五七、四九八	二、一九五、三四七	四、三五二、八四五
安東	九二一、〇四四	七二七、九〇二	一、六四八、九四六
鳳凰城	二九七、〇二〇	二八七、八〇一	五八四、八二一
本溪湖	八一四、七四九	七八三、七九六	一、五九八、五四五
夏家河子	三四〇、九二八	三二八、二二九	六六九、一五七
營口	六二一、八二三	五一八、二六六	一、一四〇、〇八九
撫順	五七九、〇三三	六三八、三九二	一、二一七、四二五
清津	六六三、一八二	六四七、六〇四	一、三一〇、七八六
會寧	四一〇、九六一	四〇〇、二九六	八一一、二五七
錦縣	七五九、五〇三	七五三、四二〇	一、五一二、九二三

驛名	乘車人員	降車人員	計
山海關	一、〇五九、五五八	八七七、五〇四	一、九三七、〇六二
北奉天	三三三、五六九	一九一、六九三	五二五、二六二
延吉	三一四、六四八	三一七、九〇七	六三二、五五五
龍井	三五九、一五〇	三五五、七七一	七一四、九二一
圖們	四二六、五三五	四九一、九三二	九一八、四六七
寧安	四五七、六〇八	四七五、二〇一	九三二、八〇九
牡丹江	一、三六〇、六六五	一、三三九、二四四	二、六九九、九〇九
佳木斯	三六四、五四七	三五七、〇四八	七二一、五九五
哈爾濱	一、六〇二、八五一	一、九九六、〇八七	三、五九八、九三八
阿城	二九二、五九五	三〇四、九六五	五九七、五六〇
濱江	七二三、〇六八	三六〇、五八八	一、〇八三、六五六
呼蘭	二九三、八六七	二九七、三六七	五九一、二三四
綏化	四九三、一六三	五〇八、六一〇	一、〇〇一、七七三
齊々哈爾	五三二、八七七	五〇八、一三九	一、〇四一、〇一六

華中鐵道會社鐵道旅客輸送人員（昭和十四年度）

線別＼月別	昭和十四年五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	昭和十五年一月	二月	三月	年計
海南	二〇〇、七八八	一八八、二九四	一八七、六六四	二五九、九三〇	二九〇、五一七	三三七、三三八	三四二、八九三	四一六、七三六	四四九、一四三	四八二、〇九〇	五八七、三八七	三、七三三、七八〇
海杭	七二、二九九	六五、九六五	六五、六五三	五五、二三〇	四一、三八三	四七、六八七	五三、五七七	七〇、三六四	七四、八六一	七五、九三八	九八、九七一	七二二、三九二
南寧	三〇、九〇七	二九、一一〇	二九、三三四	二九、九六三	三〇、七九一	三一、九三〇	三四、二五八	四三、〇七九	四三、八〇五	三七、六一四	五一、九八八	三九二、七七七
蘇嘉	一一、二六六	一二、六二三	九、九二六	八、四〇二	八、七一九	九、八一三	八、四三五	一〇、四〇三	九、八二九	一一、一五〇	一五、一一三	一一五、六七九
江南小計	三一五、二六〇	二九五、九九二	二九二、五七六	三五三、五一五	三七一、八六五	四一六、七六八	四三九、一六三	五四〇、六〇二	五七七、六三六	六〇六、七九二	七五三、四五九	四、九六三、六二八
津浦	（江北線ハ十月ヨリ會社委託經營トナル）					四二、九四六	五〇、三七六	六三、八八八	六四、〇四〇	四八、七〇八	八〇、一六三	三五〇、一二四
淮南						三一、一九六	三〇、四〇八	三七、一五三	三九、〇〇〇	三〇、七一〇	四九、五〇五	二一七、九七三
江北小計						七四、一四四	八〇、七八四	一〇一、〇一〇	一〇三、〇四〇	七九、四一八	一二九、六六八	五六八、〇九七
總計	三一五、二六〇	二九五、九九二	二九二、五七六	三五三、五一五	三七一、八六五	四九〇、九一二	五一九、八二五	六四一、六四二	六八〇、六七六	六八六、二一〇	八八三、一二七	五、五三一、七二五

華中鐵道會社主要驛乘客數（昭和十四年度）

驛名	乘車人員	驛名	乘車人員	驛名	乘車人員 人
上海	一、三八四、五三六	天通庵	八一、二四一	●浦口	七〇、六三四
崑山	八六、五八一	北呉淞	七〇、六三三	●浦鎮	四四、三四八
蘇州	四三四、一七三	松江	七七、五〇三	●滁縣	三三、〇〇一
無錫	三〇三、六〇八	嘉興	一二三、六八一	●明光	四五、〇三〇
常州	一八九、〇八九	長安	四三、四一五	●蚌埠	七七、五七一
丹陽	五八、七一八	杭州	一三三、二六三	●裕溪口	一四三、一〇五
鎮江	二七七、七二三	中華門	一二八、四三三	●巣縣	一八、一一〇
南京	三七七、一四四	蕪湖	一二八、三三四	●廬州	三七、六六五

備考　江南線ハ五月（會社創業）ヨリ、江北線（●印）ハ十月（委託經營開始）ヨリ翌年三月迄トス

二　航路の部

全滿各港上陸人員（昭和十四年度）

	計	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
大連	八二一、一八九	一一〇、六二〇	六九、五九二	四三、七四〇	四四、六五九	五三、七五三	四九、三三五	四七、五三八	五四、五五五	五〇、〇三八	三八、二二〇	四八、四三三	二〇一、八三八
旅順	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
營口	一三一、九六〇	四七、六五四	二八、二七〇	一二、三〇四	九、五五三	三、〇〇〇	二、八三五	三、一一四	二、一一四	—	—	—	一三、一四七
安東	三一、四四六	五、六七三	九、九〇三	三、一九〇	四、三九三	三、一一三	三、〇〇八	七二四	一、四四三	—	—	—	—
壺盧島	一、一〇八	一九六	八五	一七六	六一	九三	六九	一三三	七八	一三八	一三四	—	一七六
羅津	三四、七四八	七六八	一、七三九	五、四四六	六、二四九	一、八五一	二、八二五	一、八四五	八四一	一、七六二	一、一三三	二、七七九	七、五〇〇
清津	八六、八二一	一三、九一〇	八、三三四	六、三七五	六、九八五	七、九二六	七、〇七〇	九、七六七	六、三三三	五、五一八	五、八五八	三、九三九	四、八二七
雄基	一、〇八九	六二	八二	八八	六三	四一	九五	一〇〇	二〇三	六〇	四四	—	二五三

全滿各港乘船人員（昭和十四年度）

	計	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
大連	四三三、七六三	二九、四一七	三一、四七一	三三、九九六	三三、八四〇	三〇、〇一七	三〇、五〇一	三七、〇三六	三七、一八九	四八、七三一	五〇、二三三	三五、三六八	四七、〇八六
旅順	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
營口	八、四三一	八三三	一、四一一	一、七一一	一、六五九	六八〇	六一七	七〇〇	四七一	—	—	—	三七八
安東	二四、一二九	二、二三八	五、三三五	二、二八八	三、〇一八	二、五三三	五、七六〇	二、一〇八	八四〇	—	—	—	—
壺盧島	五〇四	四八	四八	五二	四五	四三	五一	五〇	五五	四六	二〇	—	四八
羅津	二二、四七〇	一、二一八	一、六六五	一、二六七	九七四	一、三一一	三、八六五	一、九五四	一、三一三	一、四四七	九六五	一、二九四	四、一七六
清津	五五、一六一	三、七九九	四、一八四	三、六一四	四、二七九	五、七五七	五、〇八四	五、九四三	四、四一五	六、四九二	四、五四九	三、三二〇	三、八一五
雄基	一、一七八	八〇	一五六	九九	七七	一三四	一三三	七四	一〇八	九五	一一四	一四	八五

南滿埠頭累年上陸乘船人員

［上陸客］

年別	大連	營口	安東
昭和三年	五三〇、八六五	一四九、七三二	六九、六八三
同四年	五三七、三〇九	一四八、三三六	五三、八八八
同五年	三六四、八六一	一一六、九八八	四九、一一三
同六年	二九二、一六五	九二、一八九	四五、四八一
同七年	三九三、三三六	八九、八九三	四一、〇七五
同八年	五〇一、一一四	二〇〇、〇七三	五六、七九〇
同九年	四九五、二三四	一三九、八三七	六一、一七〇
同十年	四一四、八四七	一一三、〇一二	三二、三九〇
同十一年	三六七、四六四	一三七、四四九	三四、四五七
同十二年	三〇六、七一七	六七、五一〇	二九、三四二
同十三年	五四四、四八七	七五、七五三	二八、八九五
同十四年	八二一、一八九	一三一、九六〇	三一、四四六

〔乗船客〕

年別	大連	營口	安東
昭和三年	三五七、三七七	九九、九二八	四三、六一〇
同四年	一九五、七六六	八〇、九九九	三四、一九九
同五年	二六〇、八七一	一〇五、七四七	三五、三一〇
同六年	二六一、四三三	一〇五、八〇五	四〇、五四七
同七年	三三九、三三四	一〇四、四一七	三八、三五三
同八年	二九一、一四四	一〇三、九〇七	四五、三七九
同九年	三三五、一四〇	一一〇、四三八	三四、三一九
同十年	三〇四、七一三	九三、三九三	四六、四一七
同十一年	三一三、七八五	七六、四七九	二九、八一八
同十二年	三五三、一七五	三三、〇五三	三三、三六三
同十三年	四三三、三四一	三三、三三四	一六、六一〇
同十四年	四三三、七八三	八、四三一	二四、一三九

北鮮三港累年上陸乗船人員

〔上陸〕

年別	雄基	羅津	清津
昭和十一年	三、三七五	八、〇四五	三三、〇六六
同十二年	一、一六〇	九、三五五	三五、三〇〇
同十三年	一、一三七	一五、六八〇	七三、三九一
同十四年	一、〇八九	二四、七四八	八六、八二一

〔乗船〕

年別	雄基	羅津	清津
昭和十二年	二、九八二	一一、〇二八	二六、六三五
同十三年	二、一四八	一〇、〇四八	三七、八一七
同十四年	一、三七三	一五、一二七	三九、六一〇
同十四年	一、一七八	二二、四七〇	五五、一六一

北滿江運主要埠頭乗下船客數

（昭和十四年度）

	乗船	下船
計	六九七、三六二	六九七、三六二
哈爾濱	一〇一、五三四	九〇、三八六
通河	三六、四五九	三五、五七六
三姓	四三、一六六	四三、一五八
蓮江口	八九、八〇九	一〇三、一〇一
佳木斯	一四三、九七七	一三七、九九〇
樺川	一二、九五一	一一、四八四
富錦	二四、三二一	三三、一〇五
黒河	二五、一五三	一二、一九三
漠河	三、三〇一	五、八二七
其他	二二八、八二一	二三五、五四三

中華航空月別定期旅客輸送人員

（昭和十四年度）

	大連定期	南京・上海定期	上海定期	大同定期	南京・漢口定期	上海・漢口定期	計
一四・四	四〇六	—	四四	六一	—	—	五四七
五	四四八	三六	一一六	五五	—	—	六一九
六	三三四	休	一七〇	三〇	—	—	五三四
七	二六七	同	一七	一三	—	—	二九七
八	二三四	同	—	一二六	—	—	三六〇
九	二三三	同	—	四五	—	—	二七八
一〇	二九三	一五一	七四	二三	—	—	五四一
一一	三一九	五七	四五〇	三〇	二〇二	—	一、〇四八
一二	二三三	一八九	六六六	一四七	五五六	—	一、九一〇
一五・一	二四八	一〇二	四八一	一二三	三三二	四二五	一、七一〇
二	三一八	—	四七一	八三	二八九	七五八	一、九一九
三	三六六	—	六六三	一五五	四六三	一、三〇一	二、九六七
計	三、八〇九	五三五	三、一七一	八八〇	一、八四二	二、四八四	一二、七三〇

備考
一、上海—台北—廣東線は昭和十五年四月より開始
二、青島—濟南—北京—石門—太原線は同九月一日より開始
三、青島—徐州—開封線は同十月一日より開始

二空路の部二

大日本航空累年定期旅客輸送人員

昭和四年度	二、七五五
同五年度	七、六四二
同六年度	六、七六六
同七年度	一〇、七一六
同八年度	一〇、九九二
同九年度	一二、一八七
同十年度	一〇、八二二
同十一年度	一八、九五五
同十二年度	四七、三四二
同十三年度	六九、二六八

二自動車・電車の部二

鐵道總局自動車累年輸送人員

（北支關係未報）

昭和八年	一一五、三一七
同九年	三七九、九九四
同十年	五二九、〇三九
同十一年	七九六、三六六
同十二年	一、一六六、四一五
同十三年	四、四八四、一二四
同十四年	六、八九四、二六七

鐵道總局自動車月別輸送人員

（昭和十四年度）

四月	四一八、二〇二
五月	三九四、四一九
六月	三七二、四四一
七月	三六八、二八一
八月	四八四、五二二
九月	三五一、四〇五
十月	五二七、一八九
十一月	六八二、四〇九
十二月	八〇〇、四七七
一月	八六七、二七八
二月	七六〇、四一六
三月	七六七、八六七
計	六、八九四、二六七

華中鐵道會社月別自動車旅客數

（自昭和十四年五月 至昭和十五年三月）

月別	旅客數
昭和十四年五月	一四、六七三
六月	六、六七七
七月	一六、九六五
八月	三〇、〇六九
九月	二九、四九三
十月	三六、一三五
十一月	三八、六一三
十二月	五五、二四一
昭和十五年一月	八六、九三八
二月	六〇、八三七
三月	七九、三七七
計	四五五、〇一八

大連都市交通累年乗客

（昭和十四年度）

	自動車人	電車
昭和十年	八、一八二、〇八九	三九、六九九、三三六
同十一年	一〇、三八〇、五五七	三九、七七八、〇六四
同十二年	一一、一六五、七一八	四三、三〇九、三六〇
同十三年	一三、三八〇、三六九	四八、五三一、九六六
同十四年	一七、〇一六、三五八	五七、四三三、八六三

大連都市交通月別乗客數

（昭和十四年度）

	自動車人	電車
昭和十四年四月	一、三四一、六五八	四、七二二、四二一
五月	一、三七九、五六〇	四、八一三、七九九
六月	一、三七七、〇〇九	四、六九〇、一九九
七月	一、五〇〇、五九九	五、五三五、〇六七
八月	一、三九五、〇四六	四、四三四、三八六
九月	一、四二七、四四〇	四、七三九、七六三
十月	一、四三三、五一一	四、九〇八、〇九〇
十一月	一、三八九、〇四五	四、六〇八、六六六
十二月	一、五二六、五六三	四、七九四、一五〇
昭和十五年一月	一、三三五、七三六	四、五七三、六三〇
二月	一、三三七、三七九	四、五三三、三六八
三月	一、五五三、八三三	五、〇九一、五三四
合計	一七、〇一六、三五八	五七、四三三、八六三

大連都市交通觀光バス累年乗客數

	旅順戰跡	大連市内觀光（昭和十二年創始）
昭和十年	八、五三四	—
同十一年	一六、五〇四	—
同十二年	二〇、〇四七	二、三三三
同十三年	三二、一二二	四、五〇一
同十四年	五四、七八八	八、四〇一

奉天交通累年乗客數

（奉天市内）

	バス	電車
康德一	—	六、一二七、七八四
二	三一、五八五、九七三	七、七八八、八九六
三	三一、八九三、四六五	八、三二三、七五七
四	三一、一三四、四六七	一〇、四五七、一八五
五	三四、八三八、九五三	一六、四八六、六八三
六	四六、六四〇、四四三	二九、八七三、三一九
七	三〇、三三四、四四六（六月末迄）	一四、九八一、四九七（六月末迄）

奉天交通月別乗客數

（昭和十四年度）

	自動車	電車	計
一月	三、六四七、〇三七	一、七八七、三四一	五、四三四、三七八
二月	三、六〇九、三三〇	一、八三二、九五八	五、四四一、二六八

三月	四、四九二、一三三	二、四五三、八七〇	六、九四六、〇〇三
四月	四、九九四、七〇〇	二、五九二、五五六	七、五八七、二五六
五月	五、一三七、八五九	二、七五四、八四八	七、八九二、七〇七
六月	三、三七〇、五二九	二、六二五、二〇四	五、九九五、七三三
七月	三、四一七、一六九	二、七一三、九三一	六、一三一、一〇〇
八月	三、六一〇、五二七	二、五三三、六八八	六、一四四、二一五
九月	三、六七〇、四三九	二、五〇六、五五五	六、一七六、九九四
十月	三、五五三、二三一	二、七九七、四一七	六、三五〇、六四八
十一月	三、五五八、五三二	二、七二六、一九二	六、二八四、七二四
十二月	三、五七八、九五八	二、五四九、六五九	六、一二八、六一七
計	四六、六四〇、四四三	二九、八七二、二一九	七六、五一二、六六二

撫順市內バス・タクシー乗客數
（奉天交通・昭和十四年度）

	バス	タクシー
一月	一三三、四一三	三八、三三三
二月	一三一、三九三	四四、六五八
三月	一六〇、四〇一	三九、八八二
四月	二〇〇、六七四	三六、〇四四
五月	二三七、三三九	三六、九三三
六月	二三八、一六三	三三、五七一
七月	二六七、一五一	二九、七四九
八月	二七〇、八六九	二九、二〇〇
九月	二六八、九〇九	二五、四五四
十月	二八六、〇五三	二七、八六三
十一月	二七八、四七四	二八、八三八
十二月	三〇一、六一九	二八、六五八
計	二、七八四、三五六	三八九、一五〇

新京交通累年乗客數

昭和	市內線	郊外線	雜線	計	觀光バス
一〇	三、三六〇、五七〇	八、一二六	五三、〇六九	三、四二一、七六五	—
一一	七、二九五、三五二	四三、五八六	一六三、六五一	七、五〇二、五八九	九〇五
一二	八、六〇六、五九三	六六、八八五	二一三、三七二	八、八八五、八五〇	三、四三九
一三	一三、一四五、九三四	七七、八九〇	六四〇、七七〇	一三、八六四、五九四	一五、一八七
一四	一七、五三三、三二四	一四六、七七四	一、〇五一、三二六	一八、七三〇、四〇二	三八、七四一
計	四七、九三〇、七六四	三四三、二四八	二、一三一、一七八	五〇、三九五、一九〇	五八、二七二

鐵嶺竝興京バス乗客數
（奉天交通・昭和十四年度）

	鐵嶺	興京
一月	六、七七七	—
二月	五、一三〇	—
三月	九、九八二	—
四月	七、五七一	—
五月	八、四七〇	—
六月	六、六〇二	一、七七三
七月	六、〇七〇	二、一五三
八月	六、三〇七	三、一四四
九月	五、二九八	三、〇五三
十月	七、七三三	六、〇三一
十一月	一〇、八六四	六、四八六
十二月	一三、二九八	八、七一四
計	九四、一〇二	三一、三三九

奉天撫順觀光バス月別乗客數
（奉天交通・昭和十四年度）

	奉天	撫順
三月	二、五三〇	九五五
四月	三、八三六	一、六六七
五月	四、〇〇一	一、七一九
六月	三、九五六	一、六〇八
七月	三、六三九	一、四三八
八月	四、九六八	三、四三四
九月	四、六〇九	三、〇三三
十月	四、四八三	三、五〇九
十一月	三、〇七九	一、一一〇
計	三五、一三〇	一五、四五三

奉天交通郊外バス月別乗客數
（昭和十四年度）

一月	二〇、二六六
二月	一七、二一三
三月	一七、九二〇
四月	一五、六八二
五月	一二、七六五
六月	一一、二五四
七月	一三、〇九九
八月	一四、五九四
九月	五、六〇四
十月	一五、三六六
十一月	一八、〇〇五
十二月	一七、五四八
計	一七九、三一六

新京交通月別乗客數（昭和十四年度）

月別＼線別	市內線	郊外線	觀光線	雜線	計
一月	九〇二、七三一	一五、三五六	四七〇	六三、五四三	九八二、一〇〇
二月	八八〇、九六五	一四、一四二	七五四	七〇、八七九	九六六、七四〇
三月	一、一四九、二〇六	一八、一五六	二、三六八	六八、九五五	一、二三八、六八五
四月	一、二五六、八七八	一三、八七七	三、四七九	一一三、二九七	一、三八七、五三一
五月	一、三四五、五〇四	九、五〇四	四、四八三	八一、〇六二	一、四四〇、五五三
六月	一、四一五、〇八二	七、六七五	四、九五三	一六七、九一六	一、五九五、六二六
七月	一、六七九、二四九	七、九四九	四、一七八	二七、七四一	一、七一九、一一七
八月	一、八二〇、八七三	八、三三八	四、九五三	九三、八三九	一、九二八、〇〇三
九月	一、七六七、六〇八	六、九二八	四、八〇一	一一七、六〇〇	一、八九六、九三七
十月	一、九〇三、八二一	九、三四五	四、八九二	八六、一四一	二、〇〇四、一九九
十一月	一、六九七、七八七	一四、七八七	二、一六三	七八、二六六	一、七九三、〇〇三
十二月	一、六〇三、六一九	二〇、七五七	一、二四八	一四三、三七七	一、七六八、九〇一
計	一七、五三三、三二三	一四六、七七三	三八、七四一	一、〇五一、三二五	一八、七七〇、四〇二

哈爾濱交通累年乗客數

年度別	電車	自動車	觀光バス
康德二年	一六、一五四、二七九	一二、二七四、五八八	—
同三年	一六、八三八、四三八	一三、六五一、三七七	二、五二七
同四年	一六、五三七、六四四	一五、七五六、九八四	二、九〇六
同五年	二〇、八六〇、八二二	一六、〇九五、九七〇	五、八九七
同六年	三〇、七一四、四九四	一八、五八四、〇二七	二一、六七四

（觀光バス康德三、四、五年は五月より十月迄の分、康德六年分は五月より十二月迄の分）

哈爾濱交通月別乗客數（昭和十四、五年度）

月	電車	自動車	觀光バス	合計
昭和六年度				
一月	一、八三九、八〇八	一、三八四、七五六	—	三、二二四、五六四
二月	一、八二九、六八三	一、二九四、五〇九	—	三、一二四、一九二
三月	二、二六二、七七七	一、六八〇、〇四六	—	三、九四二、八二三
四月	二、六九四、三一五	一、七七一、〇一七	—	四、四六五、三三二
五月	二、八〇〇、四四一	一、八一二、三三〇	二、三六一	四、六一五、一三二
六月	二、五六二、二〇一	一、六〇八、五三六	二、二二五	四、一七二、九六二
七月	二、六〇五、八四五	一、五八四、一四一	二、七七五	四、一九二、七六一
八月	二、九五六、三〇六	一、五九〇、七二八	四、八一五	四、五五一、八四九
九月	二、九六二、四八三	一、五〇五、四一三	三、五〇五	四、四七一、四〇一
十月	二、八六四、二一一	一、四九三、一八一	三、七三三	四、三六一、一二五
十一月	二、六八九、八九三	一、五三一、九二六	一、六〇七	四、二二三、四二六
十二月	二、五三六、六三三	一、四三七、五六四	六五四	三、九七四、八五一
計	三〇、七一四、四九四	一八、五八四、〇二七	二一、六七四	四九、三二〇、一九五
昭和七年度				
一月	二、四五三、三二七	一、一五一、六八三	—	三、六〇五、〇一〇
二月	二、五〇七、七四二	一、三三九、三四〇	—	三、八四七、〇八二
三月	二、八四〇、七〇一	一、六四五、六〇一	二、〇五六	四、四八八、三五八
四月	三、三四八、四三七	一、八八九、一八七	三、八三六	五、二四一、四六〇
五月	三、五四九、一六三	二、三四九、三六三	四、六二九	五、九〇三、一五五
六月	三、三二二、五五三	二、二三五、三七三	五、一三一	五、五六三、〇五七
計	一七、九一〇、九六一	一〇、六三〇、五四六	一五、六五四	二八、五五七、一六一

奉南交通乗客數

昭和十四年十一月（一〇—三〇）	二九七、六〇二
十二月	四一〇、〇四六
昭和十五年 一月	三三九、一三五
二月	二六六、〇四七
三月	三五四、一六四
四月	三九〇、九五三
五月	四五八、五三九
計	三、〇二一、一二六

泰北交通月別乗客數（昭和十四年度）

	乗客數（人）	貨物（瓩）
一月	一〇三,八九二	五〇七,〇七一
二月	八八,七三七	三三三,〇九〇
三月	一〇六,八九七	一,〇九五,五六〇
四月	九一,八六二	六八七,八三五
五月	九六,四七三	六九七,一一九
六月	一〇八,〇四三	一五三,一九二
七月	一〇七,二七七	八一七,五七二
八月	一〇四,二五七	七七六,四三三
九月	七五,六七五	五八三,二九七
十月	一四一,〇八二	一,二〇一,一九二
十一月	一六八,一四〇	一,〇〇六,九九一
十二月	一六六,〇九三	四〇三,五一一
計	一,三〇八,四二八	八,八五一,八五三

吉林交通累年乗客數

	市内線	郊外線	合計
昭和一二	一,三三九,四三六	一一四,三〇五	一,四五三,七四一
一三	一,五四七,八九〇	一四七,九一九	一,六九五,八〇九
一四	一,九六一,〇三五	二〇五,五六七	二,一六六,六〇二
一五	八〇九,三一三	八六,五六二	八九五,八七五
計	五,六九七,六七四	五五四,二五三	六,二五一,九二七

吉林交通觀光バス累年乗客數

昭和一二	一〇,二〇〇	昭和一四	一七,三五〇
一三	一五,九八〇	一五	一三,一七五
計	五六,七〇五		

吉林交通月別乗客數（昭和十四年度）

	市内線	郊外線	計
（昭和一四年）五月	一五一,二八五	一四,〇七一	一六五,三五六
六月	一六一,九九五	八,六一二	一七〇,六〇七
七月	一六四,三三〇	一〇,三三八	一七四,六六八
八月	一四〇,七六三	一三,八一〇	一五四,五七三
九月	一三四,五九三	九,六二五	一四四,二一八
十月	一六二,八一七	一三,五五五	一七六,三七二
十一月	一六三,四三九	一四,〇五五	一七七,四九四
十二月	一五九,三七四	二二,二四七	一八一,六二一
（昭和十五年）一月	一四五,六四〇	二七,〇二七	一七二,六六七
二月	一五〇,四一四	二二,九七五	一七三,三八九
三月	二二五,九三四	二六,四七五	二五二,四〇九
四月	二〇〇,四一三	三三,七九七	二三四,二一〇
計	一,九六一,〇三五	二〇五,五六七	二,一六六,六〇二

咸北自動車月別乗客數（昭和十四年度）

一月	三一二,八〇四
二月	三五五,七七三
三月	四一六,五〇四
四月	四五八,九七二
五月	五一三,一二三
六月	四九四,七五六
七月	五二一,六五八
八月	五六五,四六五
九月	五五七,一七七
十月	五二〇,六六七
十一月	五八四,四六二
十二月	六五〇,三四九
計	五,九五一,七一〇
昭和十三年度計	三,九八九,六三五

北京市公署公共汽車累年乗客數

	市内バス	觀光バス
昭和十三年	二,五一一,三三一	三,〇四五
昭和十四年	六,二九一,八〇二	七,〇七五
昭和十五年	五,一九六,七八四	七,九五〇

（備考）觀光バスは五月十日開始、六月末現在

北京市公署公共汽車月別乗客數（昭和十四年度）

一月	三〇三,六三六
二月	四一三,三五四
三月	五三八,六四一
四月	五七一,五五二
五月	五一七,五三四
六月	五〇五,四八八
七月	五一〇,一五一
八月	五六四,一四二
九月	六一三,六七九
十月	六二三,二四七
十一月	五六四,八七二
十二月	五六五,五〇六
計	六,二九一,八〇二

天津交通月別乗客數（昭和十四年度）

一月	八四〇,三七九
二月	八五七,四二二
三月	九五四,三九〇
四月	九五九,一一五
五月	一,〇一二,一五八
六月	八八五,九五〇
七月	八六六,五二一

八月	五五九,三九三
九月	三四一,〇四七
十月	八九三,一〇七
十一月	八八〇,一六八
十二月	九〇七,〇三六
計	九,九六五,六八六

（備考）一日平均　二七,三〇三

蒙疆汽車公司月別乗客數（昭和十五・六年度）

昭和十五年 一月	二五八,七七二
二月	一八九,〇四六
三月	三四一,七二三
四月	三四一,七二三
五月	四三二,四三三
六月	三七二,一三一
七月	三八四,五七〇
八月	四五〇,〇〇〇
九月	四五〇,〇〇〇
一〇月	四五〇,〇〇〇
一一月	四五〇,〇〇〇
一二月	四五〇,〇〇〇
計	四,五七〇,三九八
昭和十六年 一月	四〇〇,〇〇〇
二月	三五〇,〇〇〇
三月	四〇〇,〇〇〇
四月	四五〇,〇〇〇
五月	五〇〇,〇〇〇
六月	四五〇,〇〇〇
七月	三五〇,〇〇〇
八月	四〇〇,〇〇〇
九月	四五〇,〇〇〇
一〇月	四五〇,〇〇〇
一一月	五〇〇,〇〇〇
一二月	五〇〇,〇〇〇
計	五,二〇〇,〇〇〇

（備考）昭和十五年八月以降は豫想數

華中都市自動車累年乗客數（昭和十四、五年度）

	昭和十四	昭和十五	合計
上海	一三,四五三,七〇一	一四,一〇四,五七九	二七,五五七,二八〇
南京	一,〇六二,七二〇	一,三五三,八七七	二,四一六,五九七
杭州	一九一,二四九	二九九,八二二	四九一,〇七一
蘇州	一,一二七,一四八	一,五九三,四七〇	二,七二〇,六一八
鎮江	一二九,五三一	一三一,三三五	三九八,〇九三
無錫	五一,七〇八	三四六,三八五	三九八,〇九三
合計	一六,〇二五,〇五七	一七,八二九,四六八	三三,八五四,五二五

（備考）本社は十一月より翌年十月迄を一ケ年とす
本表中昭和十五年度分は昭和十四年十一月より昭和十五年六月迄の數とす
但し蘇州、鎮江は十四年度は十三年十二月より十四年十月に至る數なり。又無錫は十四年は昭和十三年十一月より昭和十四年十月迄の分とす。

華中都市自動車月別乗客數（昭和十四年度）

乗合自動車		觀光バス	
昭和十三年 一一月	八一〇,四八〇	昭和十四年 一〇月	三五九
一二月	九九一,四六七	一一月	三七九
昭和十四年 一月	一,〇五八,九五三	一二月	二六六
二月	一,一二七,四六〇	昭和十五年 一月	五〇六
三月	一,二四一,一四三	二月	三二四
四月	一,二九四,五一五	三月	三一一
五月	一,三六四,一七一	四月	五五八
六月	一,四一一,三八〇	五月	三七四
七月	一,四〇〇,三〇三	六月	二一三
八月	一,五八二,五四五	合計	三,五八九
九月	一,七〇六,〇一五		
十月	二,〇三六,六二七		
合計	一六,〇二五,〇五七		

（備考）本社は十一月より翌年十月迄を一ケ年とす

市内乗物利用者調（昭和十四年度・推定）

主要都市＼乗物種別	・バス 消費額	一名平均	・タクシー 消費額	一名平均	・電車 消費額	一名平均	・人力車 消費額	一名平均	・馬車 消費額	一名平均
大連	一七,〇二六,三五八	一七	一,五六〇,〇〇〇	九〇	五七,四二三,八六二	四	—	—	—	—

鞍山	—	—	三四六,五三〇	四八	—	—	二,九二〇,〇〇〇	一五	四,五〇七,七五〇	一六
奉天	四六,六四〇,四四八	五	二,二八二,〇一六	六〇	二九,八七二,二二九	三	四三,八〇〇,〇〇〇	二〇	二七,三七五,〇〇〇	三〇
撫順	二,五三二,二〇〇	八	三七〇,一〇〇	七〇	三,三四五,三〇〇	八	一,八〇二,五〇〇	一三	四五〇,六〇〇	一八
營口	二,〇七四,五〇〇	四	一五,〇〇〇	五〇	—	—	四,三三〇,〇〇〇	八	七,二〇〇,〇〇〇	一〇
本溪湖	—	—	—	—	—	—	三三九,九〇〇	一五	二〇六,〇〇〇	一〇
安東	二一八,〇〇〇	五	二三〇,〇〇〇	五〇	—	—	三,〇〇〇,〇〇〇	一五	三,五〇〇,〇〇〇	一三
通化	七五,〇〇〇	二〇	五,〇〇〇	一〇〇	—	—	一八〇,〇〇〇	一五	二〇〇,〇〇〇	一五
四平街	一,四三三,三六八	五	—	—	—	—	一,〇六六,二五〇	一〇	九二二,五〇〇	一五
新京	三三,四八〇,〇〇〇	九	三,二五〇,〇〇〇	七三	—	—	—	—	—	—
吉林	一,七三一,六九七	七	三〇一,二七九	八〇	—	—	五,一七四,〇〇〇	二〇	四,〇〇〇,七〇〇	三〇
延吉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
圖們	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
羅津	—	—	三七,五〇	一〇〇	—	—	—	—	—	—
哈爾濱	一九,七八四,五三〇	一〇	一,二八四,三〇〇	八〇	二三,六六〇,七〇〇	五	二,三六七,七三〇	一五	二,七三七,四〇〇	二〇
牡丹江	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
佳木斯	一八二,〇〇〇	一〇	六四,〇八〇	二〇〇	—	—	一,四五九,〇〇〇	三〇	八九九,六〇〇	三五
齊々哈爾	五二〇,〇〇〇	—	二七,〇〇〇	—	—	—	五五〇,〇〇〇	—	七五〇,〇〇〇	—
滿洲里	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
錦州	一,四六九,〇〇六	五	二三,一〇〇	七〇	—	—	五,三四三,六〇〇	一〇	五,七四八,七〇〇	一〇
承德	—	—	九,四〇〇	三〇〇	—	—	六四一,七〇〇	二五	二五,二〇〇	五五
山海關	—	—	—	—	—	—	一七八,〇〇〇	一六	三六,九〇〇(但驢馬)	二〇
唐山	—	—	—	—	—	—	四,八〇〇,〇〇〇	一五	—	—
天津	一〇,八八四,四三三	八	—	—	—	—	—	—	—	—
北京	六,二九一,八〇二	一六	三九七,九八〇	三〇〇	三八,〇〇〇,〇〇〇	五	三三,四九五,〇〇〇	一五	一〇三,五〇〇	二〇〇
保定	—	—	—	—	—	—	四,七六三,三五〇	一五	—	—
石門	—	—	—	—	—	—	一,八三六,〇〇〇	二〇	—	—
太原	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
張家口	一六五,〇〇〇	一〇	一三,六〇〇	二〇〇	—	—	二〇,五〇〇	二〇	—	—
大同	七三四,二二〇	一〇	一〇,八〇〇	二三五	—	—	四三七,七〇〇	一〇	—	—
厚和	一,一〇〇,〇〇〇	一〇	五〇〇,〇〇〇	一〇〇	—	—	一,〇〇八,〇〇〇	三〇	三〇〇,〇〇〇	五
濟南	一,六七〇,九九二	五	四九,六五〇	四三〇	—	—	一〇,五〇〇,五〇〇	三〇	二三,九〇〇	八〇

徐州	—	—	—	—	—	—	二,四七一,八二五	二〇	—	—
新浦鎭	—	—	—	—	—	—	二一,六〇〇	一五	—	—
上海	一三,四五二,七〇一	六	一,三三八,六〇〇	二二〇	—	—	七,七七四,〇〇〇	一五(華中バス及虹口サイドノミ)		
南京	三,一二四,一二〇	二五	二八八,九〇〇	二五〇	—	—	—	—	三,八四七,〇〇〇	四〇
杭州	三五一,五〇〇	三〇	三二,八二〇	二五〇	—	—	七,五二一,〇〇〇	二五	—	—
蘇州	三,五〇〇,〇〇〇	一〇	二六,〇〇〇	一五〇	—	—	六,七〇〇,〇〇〇	一〇	五六,〇〇〇	九〇
漢口	二,一八〇,〇〇〇	一〇	三,六〇〇	三五〇	—	—	四,四一〇,〇〇〇	一〇	一二,四〇〇	一〇
廣東	一,三三五,八〇〇	一五	一〇六,五〇〇	二六〇	—	—	九七四,五〇〇	一五	—	—

二宿泊の部二

滿鐵經營旅館累年宿泊人員

年度	客室數	人員	延人員
昭和七	三三六	二一,八六五	七五,五〇三
同八	三六二	三〇,六五六	九九,九二六
同九	三五八	三七,五〇三	一〇九,五七五
同十	三五九	四〇,五八〇	一〇六,八六五
同十一	四三三	四二,一一三	一〇四,四二八
同十二	四三六	四六,三一四	一〇九,三七五
同十三	—	四八,〇四一	一二三,二九九
同十四	—	五八・二〇七	—

滿鐵經營旅館宿泊人員

昭和十四年度

箇所別	宿泊人員	宿泊人員(月別)	
大連ホテル	二一,八一七	四	四,三九一
旅順黃金台別館	六六二	五	四,八〇四
星ヶ浦ホテル	三,〇六七	六	四,六八五
星ヶ浦分館	三五七	七	四,八一六
奉天ホテル	七,七六二	八	五,一一六
新京ホテル	五,五二九	九	四,七六四
五龍背溫泉	五,六六七	一〇	五,四一二
扶桑館	一一五	一一	五,〇六三
蓬萊島ホテル	一,二〇三	一二	四,六六〇
齊々哈爾ホテル	三,三八四	一	四,二一七
哈爾濱ホテル	七,一七八	二	四,六一八
牡丹江ホテル	六,六九四	三	五,六六一
羅津ホテル	二,四〇一	—	—
興城溫泉	—	—	—
阿爾山ホテル	一,三七二	—	—
計	五八,二〇七	—	五八,二〇七

主要地累年旅館宿泊人員（推定）

本表は延人員を調査したるものなるも各地算出者に於て徹底を缺き重要都市に比し過少なる數字を示したるは實宿泊人數なり

地名＼年度	昭和九年 日	鮮	滿	外	昭和10年 日	鮮	滿	外	昭和一一年 日	鮮	滿	外
大連	五八,六三九	三三,四七〇	一一八,九四〇	一一,七五〇	七〇,三三九	三七,二五〇	一三五,四三〇	一三,四五〇	六九,三三七	三五,五八〇	一三六,二四〇	一四,九二〇
鞍山	三三,〇〇〇	二,二五〇	四八,四〇〇	—	三三,四〇〇	三,二四〇	四七,五〇〇	—	二八,七〇〇	三,三五〇	四九,八〇〇	—
奉天	一二三,五七六	—	—	—	一四三,〇四七	—	—	—	二二六,八五七	—	—	—
撫順	一八,四〇〇	二,二二〇	七九,五〇〇	—	二三,四〇〇	二,六四〇	九八,五〇〇	—	二六,八〇〇	二,六〇〇	九八,六〇五	—

地名＼年度	昭和一二年 日	鮮	滿	外	昭和一三年 日	鮮	滿	外	昭和一四年 日	鮮	滿	外
營口	—	—	—	—	六,四二五	一,七三〇	一〇四,三三〇	—	八,一二〇	二,一〇〇	九六,五三〇	—
安東	二五,四三九	一七,九五〇	一,六二五	—	三六,七九五	一八,三四〇	一,七九〇	—	三七,〇六一	一八,〇〇三	一,七七三	—
四平街	三,三九〇	—	—	—	四,〇一八	—	—	—	四,六〇三	—	—	—
新京	—	—	—	—	九五,六六二	—	—	—	一〇七,七五一	—	—	—
哈爾濱	一一,六三三	—	—	—	一二,八五六	—	—	—	一三,〇八七	—	—	—
齊々哈爾	四〇,一〇〇	九五〇	五,七〇〇	—	四三,〇〇〇	一,〇四〇	六六,二四〇	—	五五,一〇〇	一,一四〇	八二,八〇〇	—
滿洲里	八三五	—	—	七三〇	一,六八五	—	—	六〇五	二,一六〇	—	—	六八一
錦縣	—	—	—	—	一七,二五〇	一,三三二	四,一六六	—	二〇,三三七	三,七九〇	三,七三九	—
承德	三三,〇〇〇	三,八〇〇	六〇,〇〇〇	—	三〇,〇〇〇	四,二〇〇	六〇,〇〇〇	—	四三,二〇〇	四,〇〇〇	六八,〇〇〇	—
清津	七八四	二,七四〇	—	—	一九,四三一	二三,九四八	—	—	三五,五〇一	三五,六七三	—	—
羅津	七,七〇〇	一,五〇〇	—	—	九,五〇〇	一,六〇〇	—	—	九,七〇〇	一,八〇〇	—	—
山海關	二三,六三九	—	—	—	二三,五八二	—	一三七,八六五	—	二一,九三三	一,三四五	一〇〇,三五五	—
天津	一〇,八〇〇	—	—	—	一七,〇四〇	—	—	—	—	—	—	—
北京	—	—	—	—	六,六二一	—	—	—	—	—	—	—
濟南	—	—	—	—	—	—	—	—	三七,〇〇〇	九,五〇〇	—	—

地名＼年度	昭和一二年 日	鮮	滿	外	昭和一三年 日	鮮	滿	外	昭和一四年 日	鮮	滿	外
大連	七一,九〇三	三七,八一〇	一四四,五一〇	一八,九九三	八六,三八九	四一,〇九〇	一五五,三一〇	三一,五七二	一一六,一三五	三三,六八〇	四四三,五二五	一七,八七〇
鞍山	一三,四五〇	四,二八〇	五三,〇〇〇	—	四七,八九〇	四,六八〇	五六,四〇〇	—	五三,八九〇	五,九九〇	五九,二三〇	—
奉天	三五四,五七三	—	—	—	四九九,六一六	四五,〇〇〇	七三〇,〇〇〇	—	一,二五九,二五〇	五四,七五〇	一,〇五一,二〇〇	—
撫順	二八,六〇〇	三,〇三〇	一〇〇,七〇〇	—	三二,三〇〇	三,二四〇	一二六,四〇〇	—	三四,九〇〇	三,四六〇	一二五,三〇〇	—
營口	九,五五七	二,四七八	八四,三二五	—	一九,〇七〇	九,二七一	三八六,二四三	—	二〇,一七三	二,七四八	一二〇,三六五	—
本溪湖	—	—	—	—	四,八〇七	—	八九,三六六	—	五,一七〇	—	七三,七一〇	—
安東	三一,五七〇	三〇,七五五	一,九〇六	—	四六,一四六	二三,四〇五	二,三六〇	—	六五,五〇〇	三〇,〇〇〇	三五,〇〇〇	—
通化	—	—	—	—	三三,二五〇	—	—	—	五六,三〇〇	四五,六五〇	二三,六〇〇	—
四平街	五,二七七	—	—	—	九,七七一	一,二六四	五八,〇八〇	—	一〇,九〇三	—	—	—
新京	一六三,九八〇	—	—	—	一七三,一六〇	—	—	—	一八二,五三〇	一七,六四〇	三三九,三三〇	—
吉林	四六,三三八	—	—	—	四七,〇九六	五〇,九五八	一,二五七,二九一	一,六六〇	五四,二一六	三三,八四六	一,七五一,六〇一	五四一
哈爾濱	一五,三五三	四七八	—	—	二三五,三八〇	七七六	—	—	一,〇八三,一三〇	—	—	—
圖們	—	—	—	—	—	—	—	—	三六,〇〇〇	五四,〇〇〇	四八,〇〇〇	—
牡丹江	—	—	—	—	—	—	—	—	三〇五,二〇〇	—	—	—
佳木斯	二一,七〇〇	四,三〇〇	二五八,〇〇〇	—	八九,〇〇〇	七,八〇〇	二七一,二〇〇	—	一一二,〇〇〇	九,三〇〇	三八〇,〇〇〇	—
齊々哈爾	六一,三〇〇	一,二七〇	九二,〇〇〇	—	七六,七〇〇	一,五九〇	一二五,〇〇〇	—	八三,六〇〇	一,六七〇	三〇六,〇〇〇	—
滿洲里	一,九四七	—	—	五四〇	一,八五〇	—	—	五六三	—	—	—	—
錦縣	三一,三三五	三,八六〇	七,三九九	—	四一,七六二	四,一二〇	五,〇三三	—	五四,三八八	三,七八〇	一九〇,八〇〇	—
承德	四六,八〇〇	三,五〇〇	七〇,〇〇〇	—	五四,〇〇〇	三,〇〇〇	七三,〇〇〇	—	五六,九〇〇	二,一〇〇	七五,七〇〇	—
清津	三三,四一六	五六,七四三	—	—	五四,四九九	八三,七二一	—	—	—	—	—	—
羅津	一〇,五〇〇	一,九〇〇	—	—	一一,〇〇〇	二,〇〇〇	—	—	一二,五〇〇	四,二〇〇	—	—
山海關	九,一六四	三,六五八	二四,〇六七	—	一一,六〇四	二,九三九	一三七,八三九	—	一六,三二一	三,一三九	三〇一,一〇〇	—
唐山	—	—	—	—	一三四,三三三	—	三三六,一二四	—	一四八,〇九九	—	三九三,三六六	—
天津	四三,三七五	—	—	—	一六九,五〇〇	—	—	—	三三七,七三四	一七,〇九〇	—	—
北京	一六,〇一二	一三,六六〇	—	—	五八,九八六	六七,九〇一	—	—	—	—	—	—
石門	—	—	—	—	七〇,四〇〇	三六,〇六〇	三七二,二三〇	—	四三,二〇〇	三三,〇〇〇	三三五,二〇〇	—
保定	—	—	—	—	—	—	—	—	三〇,六六〇	四,三八〇	一七五,二〇〇	—
濟南	十	—	八八五,〇〇〇	二,三〇〇	七五,〇〇〇	二一,〇〇〇	三六五,五〇〇	二,五〇〇	八〇,五〇〇	一〇,九〇〇	三〇六,〇〇〇	三,七〇〇
張家口	—	—	—	—	—	—	—	—	六五,四九五	—	—	—
大同	一,三三四	—	—	—	二〇,一七四	二,一二八	—	—	三六,六三四	二,一二八	—	—
厚和	一,〇〇〇	—	二,八〇〇	—	五,〇〇〇	一,〇〇〇	五,七〇〇	—	三五,〇〇〇	九,〇〇〇	九,七〇〇	—
太原	—	—	—	—	三〇,六八四	六,〇八四	一八,六八〇	—	—	—	—	—
上海	—	—	—	—	—	—	—	—	二〇一,六〇〇	—	—	—
南京	—	—	—	—	—	—	—	—	一四六,〇〇〇	九一〇	一,七五三,六〇〇	三,〇〇〇
杭州	—	—	—	—	四,八六〇	—	七,二九〇	—	八,九三〇	—	一三,五〇〇	—
蘇州	—	—	—	—	六,〇〇〇	—	三五〇,〇〇〇	—	七,五〇〇	—	四〇〇,〇〇〇	—
廣東	—	—	—	—	—	—	—	—	一一,〇〇〇	—	—	—

二 旅行消費の部 二

旅館に於ける宿泊人消費額（昭和十四年度・推定）

本表は算出區々なり、完成は他日に俟つ

主要地別＼旅館種別	日本旅館 圓	朝鮮旅館 圓	滿支旅館 圓	外人旅館 圓	備考
大連	五八〇,六二五	四七,三六〇	三四三,五一五	八九,三五〇	—
鞍山	三六六,六八〇	一四,〇四〇	一一三,八〇〇	—	十三年度
奉天	六,二六六,二五〇	五四,七五〇	二,一〇二,四〇〇	—	—
撫順	二四〇,三五一	六,二五〇	一〇四,一六四	—	—
營口	一一六,八五五	九,二八六	三一六,三四六	—	—
本溪湖	一六,二〇〇	—	九,六〇〇	—	—
安東	三九,二五〇	四五,〇〇〇	二一,〇〇〇	—	—

佳木斯	七二八,〇〇〇	三四一,二五〇	三五〇,〇〇〇	—	—
齊々哈爾	六六八,八〇〇	五,〇一〇	四一三,〇〇〇	—	—
錦州	三三五,七〇〇	一〇,五八〇	一〇四,九四〇	—	—
承德	三三九,九五〇	一〇,五二〇	八四,九三〇	—	—
山海關	一〇四,三三六	一,三五一	四〇三,二〇〇	—	—
唐山	三五,三九三	—	三三六,一一四	—	十三年度
天津	一,一七一,二四五	—	—	—	十三年度
通化	二五〇,〇〇〇	九〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	—	—
四平街	二九七,〇〇〇	六三,〇〇〇	五三二,〇〇〇	—	—
新京	—	—	—	—	—
吉林	四九一,〇〇〇	四九,〇〇〇	四七八,〇〇〇	三,〇〇〇	—
圖們	—	—	—	—	—
羅津	四一,六〇〇	一五,五〇〇	—	—	—
哈爾濱	四,七三〇,〇〇〇	五三,〇〇〇	一,二五四,〇〇〇	—	—
牡丹江	一,四三六,四〇〇	—	—	—	—
北京	—	—	—	—	—
保定	二四五,二八〇	一七,五三〇	三三七,七六〇	—	—
石門	四〇三,二〇〇	七九,三〇〇	四,二四三,二〇〇	—	—
太原	—	—	—	—	—
濟南	四八五,〇〇〇	四三,六〇〇	六,一三三,〇〇〇	四〇,七〇〇	—
青島	—	—	—	—	—
連雲	六〇,〇〇〇	—	—	—	—
新浦鎭	一四四,〇〇〇	六,〇〇〇	一六,〇〇〇	—	—
徐州	—	—	—	—	—
張家口	三五二,八五八	朝鮮旅館を含む	—	—	—
大同	一七一,七四四	六,三六四	—	—	—
厚和	四三〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	—	—
上海	二,六三〇,八〇〇	—	—	—	—
南京	一,一六八,〇〇〇	—	—	—	—
蘇州	五八,〇〇〇	—	五六〇,〇〇〇	—	—
杭州	一三五,八〇〇	—	六三,五〇〇	—	—
漢口	一六六,九〇〇	五八,三〇〇	一,二六〇,〇〇〇	五四,〇〇〇	—
廣東	一一〇,〇〇〇	—	—	—	—

鐵道總局客車收入（昭和十四年度）

月別	計	社線	國線	北鮮線
	一四八,二七六,八九三・五〇	五〇,九三八,四八九・八二	九三,六五四,七七一・八四	三,六八三,六三一・八四
四月	一二,二二三,六〇五・〇三	四,七一六,五一四・一八	七,二四六,七六〇・〇二	二六〇,三三〇・八三
五月	一〇,九一四,二二五・九九	四,一〇一,一七七・二三	六,五四八,八四三・六八	二六四,二〇四・八八
六月	九,六二六,一八五・六五	三,三二六,七四四・〇八	六,〇五四,九五四・七九	二四四,四八六・七八
七月	九,五八五,九〇七・三〇	三,五三〇,一三三・六〇	五,八〇七,三一九・四三	二四八,四六五・二七
八月	一〇,三八二,八一〇・八七	三,五九五,七一九・八九	六,四九九,二八一・五三	二八七,八〇九・四六
九月	一〇,四八八,二八二・六七	三,七六一,六三三・三三	六,三九三,九四八・五三	三三三,七一一・八二
十月	一一,九一七,五五一・四一	四,一四七,〇四九・〇七	七,四三一,四七三・二三	三三九,〇二九・一一
十一月	一三,一五八,〇三九・五八	四,三〇九,五三七・四四	八,五一九,五一九・八四	三二八,九八二・三〇
十二月	一五,八九三,一九一・一四	四,八七一,四三五・五八	一〇,六四八,八〇二・〇六	三七一,九五三・五〇
一月	一三,二八一,四一〇・九〇	四,三二四,二七一・九四	八,六四〇,三八七・一二	三一六,七五一・八四
二月	一一,六一一,三三三・〇〇	四,〇七七,六二三・九六	七,二〇五,五九八・一三	三二八,一一〇・九一
三月	一八,二〇五,三三九・九六	六,一八六,六七一・五三	一一,六五七,八八三・二九	三六〇,七八五・一四

滿洲國外來者消費額（康德五年度）（單位千圓）

種別 ＼ 國別	日本	支那	其他	合計
旅行者消費	二二,九六一	一六,八四四	五五	三九,八六〇
移住者及出稼人持參金	七,一四四	一〇,六六五	—	一七,八〇八
滿洲外艦船乘組員消費	九三三	八一	一〇八	一,一二二
滿洲外ヨリ留學生消費	四五四	二四	—	四七八
布教費	三〇	—	四五〇	四八〇
合計	三一,五二二	二七,六一四	六一三	五九,七四九

滿洲在住者國外消費額（康德五年度）（單位千圓）

種別 ＼ 國別	日本	支那	其他	合計
國外旅行消費額	四三,一九七	一一,二六五	四九〇	五三,九五一
船艦乘組員國外消費額	二三六	一一五	一八	三六九
留學生消費額	二,七八四	四五	三三三	三,一六二
布教本山献納金	一〇	—	二一七	二二七
在外公館其他	一,五〇三	七三七	一,二一七	三,四五七
合計	四六,七三〇	一二,一六二	二,二六五	六一,一五六

鐵道總局累年食堂車利用數

昭和十年	一,三二八,四九一
同十一年	一,五三八,六九九
同十二年	三,四九二,七五八
同十三年	六,一〇四,五〇九
同十四年	九,〇〇一,九三〇

華中鐵道會社旅客輸送收入（昭和十四年度）

月別		旅客收入
昭和十四年	五月	七九四,四二二圓
	六月	七〇〇,三二〇
	七月	七〇九,九二三
	八月	七八六,七七七
	九月	八四九,七四六
	十月	九五五,二五九
	十一月	九七七,〇六七
	十二月	一,一八四,六五四
昭和十五年	一月	一,二二六,六六六
	二月	一,一八八,〇二五
	三月	一,五九〇,五六一
計		一〇,九六三,四二〇

二 鮮滿支視察團 二

【東京鮮滿支案内所關係】・昭和十四年度・

△滿支視察團

月	團體名	人員
二月	東京府青年指導者視察團	一二
三月	東京文理大漢文科鮮滿支視察團	一六
四月	神奈川縣師範學校鮮滿支旅行團	四〇
	ホノルル日本人旅館組合主催鮮滿支視察團	一七
	仙台地方會主催鮮滿北支視察慰問團第一班	三三
五月	仙台地方會主催鮮滿北支視察慰問團第二班	三〇
	日本旅行協會主催鮮滿産業視察北支皇軍慰問團	五五
	東京榛名會鮮滿北支視察團	二八
	滿、支、關東州鹽田調査團	一一
六月	北支開發實業視察皇軍慰問團	二五
	昭和第一商業學校鮮滿北支見學旅行團	三六
	濱松商業學校鮮滿北支修學旅行團	三五
七月	慶大望月財團支那旅行隊團	一三
	第二世柔道日滿支見學團	一四
	南加日本語學園協會鮮滿支旅行團	二三
八月	茨城縣教職員海外視察團	一四
	東京府派遣鮮滿支教育視察團	一二
	千葉縣教育會鮮滿支視察團	一〇
	神奈川縣派遣大陸視察團	二三
九月	東京市小學校長會鮮滿支視察團	二七
	靜岡縣教育會鮮滿支視察團	二二
	靜岡縣教員團鮮滿支學事視察團	一三
	東京市派遣鮮滿支學事視察團	三一
	栃木縣教育會鮮滿北支視察團	一六
十月	埼玉縣滿支經濟視察團	七
	（計 二五件	五五三）

△滿鮮視察團

月	團體名	人員
三月	東京春陽會鮮滿視察團	一二
四月	栃木縣聯合青年團滿洲移住地視察團	二〇
	大日本聯合青年團滿洲派遣團	二一
五月	東京府立女子師鮮滿修學旅行團第一班	三五
	同 第二班	七八
	同 第三班	三七
	東京府豐島師範鮮滿修學旅行團第一班	六三
	同 第二班	六六
	警察講習所鮮滿視察團第一班	七二
	同 第二班	七二
	東京府立織染學校鮮滿修學旅行團	四〇
	群馬縣立師範學校鮮滿修學旅行團	四〇
	東京府大泉師範學校鮮滿旅行團第一班	四三
	同 第二班	三七
六月	大正製藥鮮滿實業視察團	二一
	濱松工業學校鮮滿修學旅行團	六七
	沼津商業學校鮮滿修學旅行團	四九
	靜岡商業學校鮮滿修學旅行團第一班	三三
	同 第二班	三七
	青山師範學校鮮滿修學旅行團第一班	五一
	同 第二班	五一
	靜岡縣清水商業學校修學旅行團	三二
七月	東京商大太平洋クラブ滿洲調査隊第一班	一九
	同 第二班	一八
	靜岡縣町村長滿洲開拓地視察團	一三
	全國中等學校地歷教員協議會出席者團 A班	九二
	同 B班	九六
	山梨縣滿洲分村移民地視察團	三一
八月	横濱高工電氣化學科滿洲見學團	二六
	東京女子高師鮮滿修學旅行團	四四
	靜岡縣農業學校大陸農業訓練隊	二七
	中等實業學校教員滿洲視察團	二〇
	群馬縣滿洲開拓地視察團	二〇

月	團體名	人員
九月	中央融和事業協會滿蒙開拓地視察團	三一
	帝國農會主催第一回分村計畫滿洲視察團	二四
	同　第二回　同	二一
	東京府立園藝學校鮮滿旅行團　第一班	三四
	同　第二班	三三
	埼玉縣師範學校鮮滿修學旅行團	三一
	帝國農會主催第三回分村計畫滿洲視察團	二一
	宮城縣滿洲移住地視察團	三二
	東京府立第三商業學校鮮滿旅行團	二九
	青森縣滿洲開拓地視察團	二五
	東京府立第二商業學校鮮滿旅行團	四五
	福島縣滿洲移住地視察團	一八
	靜岡縣青年學校教員養生所鮮滿旅行團	二四
十月	全國女子青年團滿洲現地視察團	三八
	靜岡縣師範學校鮮滿修學旅行團	三〇
	女子拓植指導者滿洲視察團	三六
	いはらぎ新聞社主催滿洲實業視察團	一四
	生命保險會社滿洲視察團	一三
	皇國青年教育協會鮮滿旅行團	一九
	滿洲移住地女子視察團	二一
	山梨縣主催滿洲移住地視察團	三一
	警察講習所鮮滿旅行團　第一班	七九
	同　第二班	八二
	日本雜誌記者團滿洲調査隊團	三〇
	東京府立第一商業鮮滿見學旅行團	三一
	（計　五九件	二、一八九）

【大阪鮮滿支案內所關係】・昭和十四年・

△滿洲視察團體

月	團體名	人員
	學生團體	
四月	奈良縣師範學校	七二
	滋賀縣師範學校	五八
	鳥取縣師範學校	三四
	神戸女子藥學專門學校	二三
	普通團體	
	福井縣縣會議員產業視察團	八
	學生團體	
五月	京都桃山中學校	一〇九
	大阪女子師範學校	四七
	高松商業學校	六六
	德島縣女子師範學校	一一一
	京都府師範學校	三四
	德島縣立商業學校	七五
	京阪商業學校	五七
	扱出商業學校	七三
	京都第一商業學校第二班	四三
	大阪市立東商業學校	一〇一
	和歌山縣女子師範學校	四三
	平安高等女學校	五七
	三重縣師範學校	八一
	名古屋第三商業學校	三一
	八幡商業學校	一一一
	大阪帝國女子藥學專門學校	七五
	普通團體	
	名城機工會視察團	九
	京都日出新聞派遣女子青年團代表滿洲開拓地視察團	一〇
	和歌山縣滿洲開拓地視察團	二〇
	學生團體	
六月	明淨高等女學校	八七
	愛知縣工業學校第一班	九八
	和歌山縣師範學校	七七
	興國商業學校	一〇九
	大垣商業學校	五〇
	須知農林學校	三七
	岡崎市立商業學校	八五
	龜岡農學校	三八
	普通團體	
	大阪鐵道旅行協會主催鮮滿視察團	六
	滿洲農事開拓地視察新聞記者團	二三
	奈良縣滿洲移住地視察團	二二
	愛知縣海外協會	一四
	敦賀市商工會議所及會議員北鮮滿視察團	二八
	學生團體	
七月	三重縣神宮皇學館	一六
	香川縣女子師範學校	二九
	名古屋藥學專門學校	一七
	大阪工科學校	二二
	神戸商大商業研究所派遣滿洲研究視察團	一〇
	京都女子高等專門學校	二三
	名古屋高等工業學校	二五
	普通團體	
	香川縣綾歌郡栗熊村勤勞奉仕隊	三〇
	學生團體	
八月	大阪日新商業學校	六三
	大阪府立女子專門學校	七三
	奈良女子高等師範學校	七一
	敦賀商業學校	一五
	福井商業學校	三二
	大阪貿易學校	八八
	三重縣四日市商業學校	五九

月	團體名	人員
	三重縣松坂商業學校	五〇
	大阪府立農學校	二八
	石川縣立松任農學校	五六
	岐阜市立岐阜商業學校	九五
	岐阜藥學專門學校	一〇
	普通團體	
	富民協會主催第十回農業夏季大學講習會	一〇七
	大阪天王寺高女皇軍慰問並學事視察團	九
	大阪小學校教員鮮滿視察團	八
	カメラ興業通信社貿易振興鮮滿視察團	一〇
	大阪市役所大陸視察團滿洲視察班	七
	石川縣主催開拓地視察團	五〇
	福井縣移住地視察團	二二
	高知縣町村長團開拓地視察團	二四
	岡山縣町村長團開拓地視察團	二二
	兵庫縣滿洲開拓村視察團	二八
	京都府滿洲移住地視察團	一一
	學生團體	
九月	小松島高等女學校	七五
	岡山縣師範學校	九五
	天王寺師範學校第一班	六五
	同　第二班	六〇
	天王寺師範學校第三班	五九
	池田師範學校　第一班	四八
	同　第二班	八五
	岡山縣第一商業學校	三五
	岐阜縣立師範學校	七〇
	京都武道專門學校	三五
	奈良縣女子師範學校	三五
	岐阜縣立青年學校教員養成所	一一
	普通團體	
	香川縣滿洲移住地視察團	三〇
	愛知縣聯合青年團鮮滿視察團	二四
	愛知縣第二回學校教員滿洲移住地視察團	一〇
	岐阜縣修練農場鮮滿視察團	二二
	京都市女教員滿洲國視察團	一一
	愛知縣農會關係滿洲開拓現地視察團	二〇
	名古屋市派遣鮮滿教育視察團	一二
	奈良縣滿洲開拓地視察團	二五
	鳥取縣分村計畫滿洲視察團	二一
	學生團體	
十月	大阪浪華商業學校	八九
	京都府立第一高等女學校	五三
	名古屋市立第二商業學校	二〇
	名古屋商業學校	三二
	滋賀縣立栗太農學校	一〇〇
	普通團體	
	愛知縣海外協會第三回滿洲移住地視察團	一七
	同　同　第二班	一八
	（名古屋）鮮滿取引所視察團	八
	石川縣敎育會鮮滿視察團	一〇
	丸王包裝會鮮滿視察團	一一
	岡山鮮滿視察團	一四
	德島每日新聞社主催皇軍慰問團	一三
	學生團體	
十一月	京都市立第一工業學校	二〇
	學生團體	
三月	（昭和十五年）鳥取縣師範學校	二九
	普通團體	
	日本旅行會主催鮮滿視察團第一班	二一

△滿支視察團體

月	團體名	人員
	普通團體	
四月	和歌山縣縣會議員北支產業視察團	六
	日本旅行會主催鮮滿支視察團第一班	三五
	學生團體	
五月	京都市立第一商業學校	六三
	京都商業學校	三四
	普通團體	
	日本織物新聞社主催滿支皇軍慰問並經濟視察團	三一
	大阪行樂社主催北支滿蒙經濟視察團第一班	一二
	德島縣教育會派遣鮮滿支學事視察團	二四
	大阪第一回中等實業學校長滿支教育視察團	一二
	大阪府參事會北支皇軍慰問並視察團	四
	神戸戰蹟彼我弔魂見學團	一三
	堺市並同商工會議所共同主催北支產業視察團	一九
	大阪商工會議所滿支視察團	六
	京都敎育視察團	一〇
	京都市教員產業視察團	一一
	奈良縣教育會	九
	大阪經濟界代表團	二三
	大阪府會議員滿支產業視察團	六
	普通團體	
六月	大阪鐵道旅行協會主催鮮滿支視察團	一二
	大阪行樂社主催北支滿蒙經濟視察團第二班	七
	和歌山縣織物工業組合皇軍慰問並視察團	五〇
	山陽鐵道旅行協會	一〇
	日本旅行會主催鮮滿支視察團第二班、	二八
	同　第三班	二七

七月 大阪府學校長滿支視察團 八

學生團體

三重縣內商業學校生徒大陸實習見學旅行團 二一

普通團體

神戸第三中學校教諭皇軍慰問團 一七

大阪市立中等學校北支皇軍慰問團 一五

舞鶴教育會滿支視察團 一一

大阪府教育會視察團 一八

普通團體

八月 三重縣教育會滿支皇軍慰問並教育視察團 二一

三重縣派遣興亞教育視察團 五

和歌山縣教育會日滿支親善視察團 四五

大阪市役所大陸視察團北支視察班 一七

岐阜市派遣小學校教員團 一〇

大阪市港區小學校長皇軍慰問團 五

大阪市役所大陸視察團中支班 一七

岐阜縣派遣鮮滿支教育視察團 一一

香川縣教育振興會鮮滿支視察團 一五

大阪府立中等學校長滿支教育視察團 一〇

高野山北支慰靈巡錫團 二一

岐阜縣教育會派遣鮮滿支視察團 一二

普通團體

九月 大阪府五市聯合教育視察皇軍慰問團 二一

普通團體

十月 日本旅行會主催鮮滿支視察團第四班 二五

京都市派遣滿支視察教員團 一二

大阪市住吉西成兩區鮮滿支教育視察團 五

大阪府吹田町皇軍慰問教育產業視察團 四

大阪府私立青年學校代表皇軍慰問戰蹟視察團 一〇

福井、石川鮮滿支視察團 二五

普通團體

十一月 大阪市學校校長北支視察團 七

大阪合同運送會社一行滿支視察團 七

普通團體

三月 (昭和十五年)松竹株式會社滿洲北支皇軍慰問並興行團第一班 四六

同 第二班 二〇

△北支視察團體

普通團體

六月 奈良縣縣會議員北支產業視察團 六

普通團體

三月 (昭和十五年)大阪市北支經濟視察團 一〇

△中支視察團體

普通團體

五月 日本旅行會中支視察團第一班 八〇

同 第二班 五〇

同 第三班 一〇〇

大阪商工會議所議員中支皇軍慰問團 五

普通團體

十一月 大阪市會議員中支產業視察團 九

京都府派遣皇軍慰問並中支視察團 九

△中北支視察團體

普通團體

四月 大阪府參事會中北支產業視察團 五

普通團體

八月 大阪市教育會皇軍慰問大陸視察第一團 九

大阪市教育會第三班 六

普通團體

九月 京都府教育會派遣支那視察團 六

普通團體

二月 (昭和十五年)京都市教育會視察團 一一

普通團體

三月 大阪府參事會員中支方面視察團 七

【門司鮮滿支案內所關係】・昭和十四年

△支那視察團體

團体名	人員
廣島高等師範學校(地歷科)	一七
東亞旅行案內所主催滿支視察團	二〇
下關萬歲商會招待團	二〇
中華新民會赴任團	五三
愛媛縣縣會議員軍隊慰問團	一一
宮崎縣立都城商業學校	八二
ダイヤ視察團第一班	二六
同 第二班	二六
廣島縣横川町實業團	二〇
愛媛縣町村長會團	一二
山口縣縣會議員皇課慰問團	一一
臺北商業學校	二八
熊本縣教育會支那視察團	二〇
門司商工會議所視察團	七

(計 一四團體 三五三名)

△滿洲視察團體

團體名	人員
滿洲國警察官赴任團	二〇六
福岡中學校	二一〇
福岡縣筑紫中學校	二三〇
鹿兒島師範學校	一三九
福岡縣中學修鄉館	一八〇
熊本師範學校	一二〇
熊本縣立玉名中學校	五〇
臺中州立臺中商業學校	八〇
山口縣興風中學校	三三
廣島高等師範學校(英語科)	二一
大分縣立佐伯中學校	七四
福岡縣小倉商業學校	八一
福岡縣大牟田商業學校	八〇
福岡師範學校	四一
島根縣立津和野中學校	三三
福岡縣東筑中學校	二〇〇
宮崎中學校	四〇
福岡女子專門學校	七〇
愛媛縣八幡濱商業學校	四七
久留米商業學校	一〇〇
門司中學校	一〇〇
門司商業學校	一〇五
長崎縣立佐世保商業學校	一四四
高岡組奉天出張所赴任團	二七
愛媛縣農會主催滿洲移住地視察團	一六
福岡縣若松中學校	一三〇
佐世保成德高等女學校	一八六
高岡組赴任團	一七〇
大連機械製作所赴任團	三一
佐賀工業學校	七七
福岡縣立青年學校教員養成所	二三
福岡工業學校	九〇
佐世保中學校	一三四
拳闘ピストン堀口一行	二七
下關商業學校第一班	一七〇
大分縣立中津商業學校	七四
佐賀商業學校	八〇
小倉師範學校	三二
佐賀縣立唐津商業學校	八五
愛媛縣立松山商業學校	九〇
日立製作所戸畑工場	七〇
下關市立商工學校	一一五
熊本縣立第一高等女學校	三三
福山市盈進商業學校	八八
大分縣立竹田中學校	五八
山口縣防府商業學校	七〇
廣島縣尾道商業學校	一〇〇
下關中學校第一班	六〇
長崎縣教育會	一二
下關中學校第二班	一三〇
愛媛縣越智中學校	九六
山口高等女學校	二九
山口縣德山商業學校	一一〇
大分師範學校	六七
大分縣臼杵商業學校	八四
山口師範學校	五五
宮崎師範學校	三三
下關商業學校第二班	九八
山口縣日置農林學校	三六
廣島縣教育會移殖民教育振興資料視察團	二五
佐賀農藝學校	五二
熊本縣球磨農業學校	四六
熊本農業學校	一〇五
宮崎農業學校	五〇
佐賀縣中等教育會	一三
宮崎縣飫肥農學校	三八
熊本縣立大津中學校	八三
廣島縣松本商業學校	七七
宮崎女子師範學校	三四
嘉義農林學校	五七
嘉義中學校	三〇
臺北第一中學校	二五
宮崎縣妻中學校	三〇
宮崎縣青年學校職員團	二一
宮崎縣高鍋農學校	五〇
山口縣移民地視察團	二五
廣島縣滿洲移住地視察團	二〇
大分縣滿洲開拓地視察團	二三
長崎中學校	一四〇
佐賀農學校	四七
福岡縣糟屋農學校	五〇
廣島師範學校	九〇
佐賀縣農會滿洲移住地視察團	八
熊本縣立商業學校	一一二
佐賀縣立伊萬里農林學校	五〇
佐賀縣神崎農學校	四八
宮崎縣立青年學校教員養成所	一二
大分縣同	一五
宮崎商業學校	五三
島根縣滿洲農業開拓民視察團	三〇
農林省主催分村計畫滿洲視察團	二五
愛媛縣滿洲開拓地視察團	一四
熊本縣開拓地視察團	二〇
福岡縣朝倉農蠶學校	五八
廣島縣西條農學校第一班	四四
同 第二班	六六
大分縣日田林工學校	八二
福岡縣直方商業學校	八八
福岡縣八女農學校	七七
愛媛縣宇和農學校	三七

	臺中州教員鮮滿視察團	一三
	門司市教育會鮮滿視察團	五
	島根縣津和野高女團	四三
	大分女子師範學校	四一
	大分縣立玖珠農學校	三八
	熊本縣阿蘇農學校	八五
	熊本縣菊池農蠶學校	四八
	山口縣開拓地視察團	一三
	山口縣學事視察團	二四
	福岡縣立農會技術員養成所	二一
	佐賀縣教育會視察團	一七
	臺灣教育會學事視察團	一五
	大分縣教育學事視察團	二〇

（計 一一三團體 七、五二三名）

【新潟鮮滿支案內所關係】 昭和十五年

△滿洲視察團

月別	團體名	人員
五月	長岡市滿鮮產業視察團	二三
	富山青年學校教員養成所鮮滿旅行團	二二
	日本旅行協會山形地方會鮮滿支視察團	三三
六月	長野縣滿洲分村建設奉仕團	二〇
	山形縣酒田市鮮滿支視察團	一〇
八月	長野縣教育者滿洲移住視察團	二三
	新潟市學童鮮滿見學團	二一
	富山縣高岡商業、工藝學校聯合旅行團	二二
	長野縣東筑摩郡移民地視察團	二二
	山形縣庄內鄉建設協會滿洲視察團	二〇
	新潟縣農會滿洲調査團	二一
	長野縣農會滿洲視察團	二一
八月	長野縣婦人滿洲視察團	二七
	新潟縣中越農會開拓地視察團	二六
	長野縣滿洲移住地視察團	二四
	新潟縣分村計畫者滿洲視察團	一五
	長野縣信濃教育會滿洲視察團	一五
九月	山形縣分村計畫町村視察團	三一
	山形縣立青年學校教員養成所女子部	一一
	秋田縣滿洲視察團	二五
	秋田縣教員視察團	二〇
	長野縣青年團移住地修練隊	三一
	新潟縣教育會滿洲視察團	二〇
	新潟縣教育課團體	二〇
十月	山形縣產業組合青年聯盟團	一〇
十一月	山形縣分村計畫町村滿洲視察團	一一
昭和十五年 三月	滿洲生活必需品會社新採用者團第一班	六二
同	第二班	四八
同	第三班	五一

（計 二九件 六九四名）

△支那視察團體

五月	日本旅行協會山形地方會鮮滿支視察團	二三
六月	山形縣酒田市鮮滿支視察團	一〇

（計 二件 三三名）

【小樽鮮滿支案內所關係】 昭和十四年・

月別	旅行地區	團體名	人員
五月	鮮滿支	小樽市會議員團	一〇
六月	同	室蘭地方會	三〇
七月	鮮滿	小樽高商實習團	一六
九月	滿洲	北海タイムス皇軍慰問演藝團	一三

（計 四件 六九名）

＝訪日團體＝

（ビューロー斡旋）

月日	團體名	人種	人員
十四年 四月	奉天臨時商業教師養成所訪日團	滿人	二〇
	本溪湖工業實習所內地修學旅行團	日人	三五
	瀋陽縣公署訪日視察團	滿人	二六
	濱江省第三國民高等女學校訪日團	同	五〇
	青崗縣第四次日本行政視察團	同	二一
	王爺廟興安學院日本修學旅行團	蒙人	二二
	牡丹江訪日商工業視察團	滿人	二三
	東羅南公立高等女學校旅行團	日人	五四
	羅南公立中學校內地修學旅行團	同	七九
	清津公立高等女學校旅行團	同	一〇二
	錦州高等女學校修學旅行團	同	三四
	承德師導學校訪日旅行團	滿人	六五
	天津市教育代表訪日視察團	華人	三〇
	北京市小學校長日本視察團	同	一三
	華北交通內地鐵道見學團	同	一三
	鐵道省招聘北支要人訪日團	同	一六
	察南自治政府幹部職員日滿視察團	蒙人	二四
	蒙疆實業銀行協會日滿視察團	同	一二
	第二回蒙疆回教徒訪日視察團	同	二二
	華北自治政府訪日視察團	華人	三三
	華中訪日民衆使節團	同	三〇
五月	南滿中學堂內地修學旅行團	滿人	七五
	奉天省立東豐指導學校旅行團	同	九六

	滿洲アサヒ會內地祈願旅行團	日人	三〇
	鐵道總局滿人社員日本視察團第一班	滿人	一六
	同 第二班	同	一六
	中央警察學校本科生訪日團	同	七六
	民生部主催訪日教育視察團	同	二三
	中央師導訓練所第二部生訪日團	同	一四三
	新京特別市公署主催日本教育視察團	同	一一
	協和會双陽縣本部渡日團	同	三〇
	札蘭屯師導學校訪日修學旅行團	同	二七
	齊齊命衛師導學校修學訪日旅行團 A班	同	六五
	同 B班	同	六五
	吉林女子國民高等學校訪日團	同	一一五
	吉林省立師導學校訪日修學旅行團	同	一三六
	吉林省訪日經濟視察團	同	二五
	吉林省像縣協和會訪日團	同	二八
	延吉女子國民高等學校訪日團	同	二三
	延吉師導學校訪日見學團	同	三五
	三江省立國民高等學校旅行團	同	一九
	錦州省日本行政視察團	同	三二
	新民會中國系會務職員訪日團	華人	三二
	華北政府財務職員日滿視察團	同	二一
六月	吉林省樺樹縣街村長渡日團	滿人	二三
	鳳凰城師導學校訪日團	同	四七
	黑山縣公署主催訪日產業視察團	同	二六
	錦州省訪日商工視察團	同	二三
七月	崇敬會主催第五回富士登山團	日人	五〇
	奉天農業大學臨時教師養成所訪日團	滿人	五五
	民生部中等教育農業教師渡日團	同	三〇
	司法部派遣留日司法家赴日團	同	二七
	哈爾濱YMCA日本見學團	露人	二五
八月	關東局警察官練習所高等科生訪日團	日人	二七
	產業部農林技術員養成所訪日團	滿人	一〇二
	滿洲帝國青少年團日本派遣團	同	一五
	哈爾濱第一國民高等學校訪日團	同	二三
	哈爾濱師導學校訪日修學旅行團	同	一六八
九月	新京醫科大學訪日團	同	四七
	滿洲國立中央師導訓練所日本研究團	同	一〇七
	中央郵便局職員訓練所本科生旅行團	同	四九
	鳳城師導學校訪日修學旅行團	同	六〇
	通化師導學校訪日團	同	五七
	哈爾濱白系露人協和青年團訪日團	露人	二五
	吉林省立第一兩級中學校訪日團	滿人	三六
	吉林省立第一國民高等學校旅行團	同	五三
	牡丹江師導學校訪日團	同	三二
	東安省訪日視察團	同	三一
	察南學院第二回訪日團	蒙人	五三
十月	奉天省立第一女子國民高等學校	滿人	七六
	奉天商業學校女子部	日人	四七
	奉天省地方職員訓練所訪日團	滿人	二八
	滿洲石油業界訪日團	同	九
	奉天市赴日商工視察團	日人	二〇
	滿洲電々社員養成所訪日團	滿人	三三
	吉林省九臺縣協和會訪日團	同	三〇
	滿洲國防婦人會日本視察團	同	二五
	中央農事訓練所林業班	同	一三三
	滿洲國警察官日本視察團	同	三〇
	舒蘭縣訪日團	同	三二
	滿洲帝國協和會本部訪日團	同	二九
	滿洲公立中等學校女教員	同	二〇
	新京錦ヶ丘高女第二回母國旅行團	日人	一一八
	滿洲帝國留日學生	滿人	一八九
	第十回明治神宮國民體育大會選手	同	三〇〇
	關東州廳管內會員朝鮮內地旅行團	同	一二
	滿鐵庭珠選手內地遠征團	日人	一一八
	金州農業學堂	滿人	四二
	命衛濱高等女學校	日人	九七
	哈爾濱學院日本旅行團	同	二〇
	濱江省開拓廳訪日商工視察團	滿人	二〇
	三江省通河縣公署訪日團	同	一六
	濱江省賓縣公署訪日團	同	二七
	通化省渡日商工視察團	同	二三
	梨樹縣訪日行政視察團	同	二七
	吉林省地方職員訓練所訪日團	同	六七
	安東女子國民高等學校	同	四四
	鳳凰城師道學校	同	六〇
	安東縣訪日行政視察團	同	二七
	莊河縣訪日團	同	二一
	錦州師道學校日本內地旅行團	同	一五六

十一月	錦州女子國民高等學校旅行團	同	七九
	撫順中學ラクビー選手團	日人	一二三
	維新學院第二回訪日修學旅行團	華人	一八一
	上海居留民團立高等女學校	日人	一一四
	維新政府中山學校教員團	華人	三四
	興安省職員訓練所生訪日團	滿人	四一
	新民學院第六期生訪日團	華人	五五
	第三回國威宣揚武運長久團	日人	五〇
十二月	滿洲國警察官日本視察團	滿人	一一三
	撫順中學校內地修學旅行團	日人	九四
	咸鏡北道茂山郡面長地方視察團	同	一三
	咸鏡北道教員內地視察團	同	二四
	神理教主催武運長久團	同	三〇
	大連第二中學校訪日團	同	一七〇
十五年一月	全滿百貨店日本視察團	日人	一二
	明治神宮大會滿洲國代表	同	二〇
	本溪湖工業實習所訪日團	同	三三
	奉天浪速高女旅行團	同	一一〇
	明治神宮大會派遣團	同	二〇
	大連崇敬會國威宣揚團	同	一〇〇
	旅順高等女學校內地修學旅行團	同	一〇〇
一月	大連彌生高女母國見學團	日人	一八〇
	大連市立實業學校	同	一四〇
	大連羽衣高等女學校	同	一四〇
	大連商業講習所內地見學團	同	二一〇
	大連商業學校	同	一五〇
	北鮮日日新聞優良兒參宮派遣團	同	三九
	北鮮日日橿原參拜團	同	二六
	撫順高等女學校	同	一二三
	山東日日新聞主催聖地參拜團	華人	四〇
	滿洲弘報協會團	日人	二六
二月	撫順工業學校	同	四四
	鞍山高等女學校	同	一三〇
	哈爾濱日本中學校	同	九七
	哈爾濱工業大學訪日團	同	三九
	旅順中學校內地修學旅行團	同	一〇〇
	大連神明高女內地修學旅行團	同	一八〇
	旅順高等公學校中學部	滿人	五〇
	奉天滿鐵代表橿原神宮參拜團	日人	二七
	滿洲重工業開發機械工作團	滿人	八五
	新京商業學校	日人	一一六
	滿洲國幹部警察官	滿人	二五
	滿洲帝國地方官吏視察團	同	二四
	滿洲國立師道高等學校女子部	同	三一
	新京醫科大學訪日團	同	六八
	滿洲國立師道高等學校第四回訪日團	同	一〇八
	滿洲國立師道高等學校第五回訪日團	同	一一六
	營口市經濟視察團	日人	九
	羅南公立中學校內地旅行團	同	七七
	臨時政府教育部選拔留日生	華人	二五
	北支農業技術練習生日滿視察團	同	四一
	北支那佛教徒訪日團	同	一二
三月	海城縣公署行政科訪日團	滿人	三二
	海城縣公署教員會訪日團	同	二六
	遼陽商業學校訪日團	同	七〇
	昭和製鋼所滿人社員團	同	二二
	吉林省立吉林女子國民高等學校	同	六七
	滿洲國滿系警察幹部訪日團	同	一二四
	滿洲國白系露人警察訪日團	露人	一二二
	滿洲銀行協會第二回視察團	滿人	一二五
	吉林省懷德縣街村長訪日團	同	一一二
	滿洲國司法官日本內地視察團	同	一一〇
	新京商工公會訪日團	同	一三三
	紀元二千六百年奉祝東亞競技會	日人	二〇〇
	滿洲國武道會東亞大會選士派遣團	同	一二五
	吉林省雙陽縣公署訪日團	滿人	一四
	吉林省伊通街村長訪日團	同	二九
	吉林省農安縣訪日團	同	二三
	新京特別市日本教育團	同	一一
	吉林省九臺縣街村長訪日團	同	一四
	公主嶺農業學校訪日修學旅行團	日人	三五
	滿洲國中央師道訓練所訪日團	滿人	一一八
	大連市立實業學校訪日團	日人	一二〇
	滿洲醫科大學滿中人學生訪日團	滿人	五五
	奉天南滿中學堂日本修學旅行團	同	八六
	醫科大學訪日團	同	七九
	哈爾濱第二國民高等學校訪日團	同	三九
	綏化縣訪日團	同	三〇
	濱江省縣公署訪日視察團	同	二二
	通化師道學校日本內地見學團	同	七七
	錦州師道學校日本內地見學團	同	七九
	錦州高等女學校母國訪問修學團	日人	四六
	熱河省商工訪日團	滿人	二三

	安徽省訪日文化視察團	同	一三
	撫順物產內地視察團	同	二一
	雄基鰯油肥製造組合訪日團	同	一六
	清津公立高等女學校內地修學團	日人	九七
	四平街師導學校訪日修學團	滿人	一二六
	王爺廟興亞學院訪日團	同	三三
	延吉師道訓練所日本視察團	同	五二
合計	一九一團體		一〇、三六六

（ビユーロー主催）

團體名		人員
海拉爾白系露人訪日視察團		三三名
滿洲國人訪日團	第一班	三二名
同	第二班	四一名
同	第三班	四〇名
佳木斯商工公會訪日視察團		二三名
黑河省訪日經濟視察團		二五名
海拉爾商工公會訪日團		二〇名
泰來縣產業訪日視察團		二八名
齊齊哈爾訪日產業視察團		二二名
滿人訪日視察團	綏化班	二〇名
勃利縣訪日產業視察團		二〇名
雙城堡滿人訪日團	第一班	二〇名
同	第二班	二〇名
海倫訪日視察團		二一名
間島省村長渡日視察團		二八各
滿人訪日團	營門班	二一名
同	滿溝班	二二名
滿人訪日團	鐵嶺班	二一名
滿人訪日團	西豐班	二二名
白系露人三河カザック協和青年訪日團		二一名
黑河市商工公會訪日視察團		二〇名
奉天省梨樹縣日本行政視察團		二四名
計	二二團體	五四四名

一連絡團體一

（滿支發）ビユーロー斡旋

月日	團體名	人種	人員
十四年四月	奉天葵小學校六年生朝鮮修學旅行團	日人	一七七
	奉天加茂尋常小學校朝鮮修學旅行團	同	一五七
	奉天千代田小學校朝鮮方面修學旅行團	同	九七
	奉天高千穗小學校朝鮮方面修學旅行團	同	一七五
	奉天藥劑師養成所北支修學旅行團	同	五〇
	安東朝日小學校修學旅行團	同	五〇
	安東大正普通學校旅行團	滿人	八六
	吉林省社會事業聯合會委員視察團	日人	九
	海城日語學堂北支修學旅行團	滿人	四五
	遼陽日語學堂北支修學旅行團	同	三七
	第三回滿洲國各都市視察團	華人	一二
	華北電電通信學院滿洲見學團	華人	四八
	南泉愛護區村長一行滿洲國視察	華人	二六
	巴彥搭拉盟立師範學校修學旅行團	滿人	二六
五月	奉天普通學校朝鮮方面旅行團	日人	一五三
	奉天彌生小學校六年生修學旅行團	同	一五〇
	奉天春日小學校六年生修學旅行團	同	一七九
	奉天鐵西小學校旅行團	同	一二五
	奉天平安小學校六年生旅行團	同	一〇五
	本溪湖小學校五六年生旅行團	同	一五〇
	蘇家屯小學校朝鮮修學旅行團	同	四五
	撫順普通學校朝鮮修學旅行團	滿人	一二八
	撫順永安小學校六年生修學旅行團	日人	一〇二
	撫順東七條小學校高等科修學旅行團	同	一一〇
	龍井米穀商組合朝鮮旅行團	同	一一三
	延吉尋常高等小學校北鮮修學旅行團	同	一〇九
	牡丹江圓明小學校高等科朝鮮旅行團	同	六〇
	牡丹江圓明小學校高等科朝鮮旅行團	同	六九
	牡丹江圓明小學校五六年生朝鮮旅行團	同	二四八
	國立新民學院豫科學生勤勞教育滿鮮視察團	華人	五五
	奉天城東小學校朝鮮修學旅行團	滿人	四一
	大連高等商業學校北支見學團第一班	日人	二七
	新京八島小學校六年生修學旅行團	同	一九五
	鞍山富士尋常高等小學校朝鮮修學旅行團	同	一二四
	安東普通學校朝鮮修學旅行團	鮮人	一五四
	天津特別市公署渡滿市政見學團	華人	二二
七月	關東中等學校教諭北支教育視察團	日人	六
	大連獎勵會主催北支教育視察團 第一班	同	九
	同 第二班	同	八

月	團名	國籍	人員
	同　第三班	同	九
	大連高等商業學校北支見學團第二班	同	二七
	刑務官訓練所第五期生朝鮮見學團	滿人	六一
	國立大學工鑛技術院建築科北支修學旅行團	同	一〇
八月	華中青年協會中日滿青年大會派遣團	華人	六
九月	奉天住友生命保險社員朝鮮旅行團	日人	二〇
	奉天北市場普通學校朝鮮修學旅行團	滿人	一五〇
	奉天商科高級中學校朝鮮修學旅行團	同	六二
	滿洲電電社員養成所滿鮮視察團	日人	二七
	錦州朝鮮學事視察團	同	一二
	延吉地方師道訓練所第二期生朝鮮旅行團	滿人	四三
	朝日製藥會社鮮滿視察團	日人	二五
	中日滿交驩競技會華北赴鮮團	華人	六八
	中華民國維新政府中華青年團朝鮮旅行團	華人	五
十月	哈爾濱師道學校朝鮮旅行團		一三〇
	撫順東七條小學校		二四五
	撫順東公園小學校		一七四
	滿洲電電社員養成所滿鮮視察團		二七
十一月	間島省鮮滿農業視察團		二一
	鮮滿對抗氷上競技大會參加團		一二
合計	五九		四、六一六

＝國內旅行團＝

（ビューロー主催）

月	團體名		日數	人員
四月	ラクダ旅行團		日歸	五〇
	白系露人南滿視察團		五日	一二
	昌黎ハイキング		日歸	九八
	鮮滿產業視察團		一六日	二七
	四團體			一九七
五月	江橋ハイキング團		日歸	七五
	一團體			七五
六月	札蘭屯修練團體		二日	六二
	老山頭見學團		日歸	三五九
	〃		〃	三五一
	三團體			七七二
七月	沙崗海水浴團	第一回	日歸	五九
	〃	第二回	二日	三〇
	〃	第三回	日歸	四二
	〃	第四回	二日	三九
	沙崗海水浴團	第五回	日歸	三〇
	〃	第六回	二日	一〇
	〃	第七回	日歸	四二
	〃	第一回	〃	二九
	〃	第二回	〃	五二
	九團體			三八三
八月	沙崗海水浴團	第八回	日歸	一一
	〃	第九回	〃	二五
	〃	第一〇回	二日	一一〇
	沙崗海水浴團	第一一回	日歸	三七
	〃	第一二回	二日	五〇
	〃	第三回	日歸	三一
	〃	第四回	〃	二九
	七團體			二九三
九月	興安嶺保健修練團體		日歸	二六
	高麗門カメラハイキング		〃	五七
	第三回老山頭江上ハイキング		〃	一四八
	第四回 〃		〃	六四
	第一回老山頭附近鴨獵勇行會		二日	五六
	玉泉ハイキング		日歸	二〇五
	錢塘江觀潮團	第一班	二日	四三
	〃	第二班	〃	二〇六
	〃	第一班	〃	二二二
	〃	第二班	〃	四一三
一〇月	第二回玉泉ハイキング		日歸	三三二
	第三回玉泉ハイキング		〃	六六
	呼蘭ハイキング		日歸	四七
	阿城ハイキング		〃	六一
	第二回老山頭狩獵大會		〃	五四
	第三回老山頭競漁釣魚大會		〃	五〇
	沿線忠靈塔參拜團		五日	五二
	七團體			六六一
一一月	奉天戰跡巡拜團		日歸	一一三
	一團體			一一三
合計	四二團體			三九〇五

〔ビューロー斡旋〕

月	團體名	國籍	人員
四月	滿洲電氣化學工業株式會社見學團	邦人	三一
	國立大學新京工鑛技術院見學團	同	一二〇
	同	同	一一〇
	同	同	七五
	國都及關東州視察團	滿人	二五
	第三國民高等學校修學旅行團	同	三四
	熱河省協和會國內視察團	同	五四

月	團體名	國籍	人員
	白系露人南滿視察團	白系露人	二六
	吉林省立師道學校特修科生南滿修學旅行團	滿人	五四
五月	奉天商工公會野珠團	邦人	一四
	奉天ロータリクラブ撫順視察團	同	五〇
	奉天醫科大學衛生研究團	同	六〇
	滿洲醫科大學野外教練團	同	二〇〇
	同	同	二五〇
	滿洲醫科大學藥專野外教練團	同	一〇〇
	日滿實業協會吉林視察團	同	一七〇
	日滿實業協會南滿視察團	同	一〇
	滿洲鑛工技術員協會招待滿洲產業視察團	同	一一
	大連沙河口尋常高等小學校修學旅行團	同	七六
	吉林朝日小學校北鮮行旅行團	同	六四
	滿洲輕金屬會社團第一班	同	二六
	同　第二班	同	三七
	奉天地方師道訓練所四平街分所奉天省立四平街師道學校旅大方面旅行團	滿人	一三五
	奉天省立遼源國民高等學校旅行團	同	四三
	哈市第二國民高等學校南滿修學旅行團	同	五〇
	綏化國民高等學校旅大修學旅行團	同	五四
	三棵樹尋常高等小學校旅大修學旅行團	同	六二
	哈爾濱地方師道訓練所南滿修學旅行團	同	六六
	吉林地方師道訓練所第三期修學旅行團	同	八四
六月	佳木斯師道學校南滿見學團	同	六四
	八道河朝陽產業視察團	同	五〇
	横濱正金銀行一行元帥林ハイキング團	邦人	四九
	錦州省教育會國內教育會視察團	同	二五
	奉天敷島小學校修學旅行團	同	九四
	本溪湖尋常高等小學校高等科生旅行團	同	九〇
	奉天電文社旅行團	同	一六五
	新京三笠尋常小學校六年生旅大見學團	同	八五
	新京順天小學校尋六旅大修學旅行團	同	一三三
	新京白菊小學校高二哈爾濱見學團	同	六〇
	新京櫻木小學校尋六旅大方面旅行團	同	一六七
	貔子窩小學校旅行團	同	四八
	大連向陽尋常小學校修學旅行團	同	一〇〇
	大連常盤尋常小學校修學旅行團	同	一五〇
	大連甘井子尋常小學校修學旅行團	同	七〇
	大連日ノ出尋常小學校修學旅行團	同	九一
	大連大廣場尋常小學校修學旅行團	同	一五〇
	大連光明台尋常小學校修學旅行團	同	一五〇
	大連伏見台尋常小學校修學旅行團	同	一五〇
	霞尋常小學校修學旅行團	同	一四〇
	南山麓尋常小學校修學旅行團	同	一五〇
	嶺前尋常小學校修學旅行團	同	一五〇
	齊齊哈爾信永尋常小學校修學旅行團	同	五五
	鞍山曙小學校六年生修學旅行團	同	七八
	鞍山大宮小學校六年生修學旅行團	同	一一〇
	鞍山富士小學校旅行團	同	一一〇
	吉林朝日小學校生南滿修學旅行團	同	五八
	四平街尋常高等小學校修學旅行團	同	六三
	安東朝日小學校滿洲旅行團	同	八三
	哈爾濱桃山尋常小學校南滿修學旅行團	同	一七九
	哈爾濱醫科大學修學旅行團	同	六〇
	佳木斯小學校生哈爾濱見學團	同	一三三
	奉天省遼陽第一國民學校旅大方面旅行團	滿人	一三四
	南滿中學堂承德方面修學旅行團	同	五二
	奉天省立第一國民高等學校修學旅行團	同	七〇
	奉天省立梨樹國民高等學校見學團	同	八二
	南滿中學堂北滿方面修學旅行團	同	一二四
	奉天地方師道訓練所四平街分所旅大旅行團	同	九二
	奉天地方郵政職員訓練所旅行團	同	七〇
	奉天義光女子國民高等學校旅大見學團	同	九〇
	奉天地方訓練所奉天分所旅行團	同	一三五
	奉天城東女子國民優級學校團　第一班	同	一一〇
	同　第二班	同	一一〇

	奉天公立城北男子國民優級學校旅行團第一班	同	一〇〇
	奉天公立城北男子國民優級學校旅行團第二班	同	一〇〇
	奉天公立城北男子國民學校初等科撫順見學團第一班	同	一〇四
	同　第二班	同	一〇四
	大連秋日公學堂修學旅行團	同	八七
	旅順高等公學校師範部北滿修學旅行團	同	六二
	土佐町公學堂修學旅行團	同	一七〇
	四平街女子國民高等學校旅大視察團	同	三一
	奉天地方師道訓練所四平街分所旅行團	同	九二
	奉天省立四平街師道學校旅大修學旅行團	同	四五
	四平街女子國民高等學校旅大見學團	同	六三
	吉林市陽明小學校南滿旅行團	同	九二
	同　北滿旅行團	同	一〇〇
	吉林省立女子國民高等學校北滿旅行團	同	七〇
	同　南滿旅行團	同	一二五
	交通部中央郵政職員訓練所旅行團	同	四六
	哈爾濱郵政職員訓練所生合同訓練所旅行團	同	四一
	哈爾濱工業大學採鑛冶金科二年生夏期見學團	同	二九
	安東第三國民高等學校修學旅行團	同	四三
	錦州師道學校生徒見學旅行團	同	四五
	齊齊哈爾女子國民高等學校修學旅行團	同	八五
六月	鞍山中央國民優級學校旅行團	同	一一〇
	大連船舶關係北滿北鮮視察團	同	九
	ビューロー新入社員見學團	同	九一
	奉天第二中學校野外教練團	同	七一
	奉天工業學校夏期聚落團	同	七六
	奉天農業大學章古台修學旅行團	同	三〇
	奉天赤十字病院本溪湖視察團	同	四〇
	大連南滿洲工業專門學校見學團	同	一二〇
	大連高等商業學校北滿班見學團	同	三三
	北滿中學校教育研究會博物教員視察團	同	一〇
	東邊道開發會社夏期實習見學團第一班	同	一一
	同　第二班	同	一一
	同　第三班	同	八
	撫順高等女學校海濱聚落旅行團	同	六九
	牡丹江高等女學校海水浴團	同	五九
	奉天地方師道訓練所修學旅行團	同	二五
	奉天地方師道訓練所奉天分所修學旅行團	同	一三五
七月	河城哈爾濱師道學校玉泉旅行團	同	五五
	哈爾濱工業大學南滿旅行團	同	三五
	阿城行樂團行團	白系露人	五〇
八月	工業化學會滿洲大會出席者團	邦人	七三
	同	同	七
	大連中學校教諭南滿工業施設視察團	同	一八
	東邊道開發會社夏期實習生見學團	同	一六
	青島日本中學校修學旅行團	同	三九
	滿洲輕金屬社員旅行團	同	五五
	濱江省地方職員訓練所旅行團	滿人	一二二
	興安北省地方職員南滿視察團	同	一二三
九月	奉天春日小學校旅大修學旅行團	邦人	一七七
	奉天平安小學校五年生修學旅行團	同	一八八
	奉天高千穗小學校五年生旅行團	同	一八八
	奉天高等小學校二年生新京吉林方面修學旅行團	同	二〇〇
	奉天平安小學校五年生修學旅行團	同	一九〇
	奉天加茂尋常小學校修學旅行團	同	一七六
	奉天高等小學校元帥林見學團	同	三七四
	本溪湖小學校旅行團	同	六四
	奉天小杉洋行元帥林見學團	同	七〇
	奉天安宅商會ハイキング團	同	三一
	三井物產會社ハイキング團	同	二五
	西廣場小學校修學旅行團	同	一八〇
	新京室町小學校修學旅行團	同	一四〇
	新京中央師道訓練所北滿視察團第一班	同	三〇
	同　第二班	同	三一
	同　第三班	同	三〇
	新京中央師道訓練所南滿見學團	同	二八
	新京婦人哈爾濱見學團	同	九〇
	新京商工公會北滿視察團	同	二〇
	大連聖德小學校修學旅行團	同	一五〇
	大連日本橋小學校修學旅行團	同	一七五
	旅順女子師範學校修學旅行團	同	四〇
	大連春日小學校修學旅行團	同	一五〇

	大連朝日小學校旅行團	同	一九〇
	大連伏見台小學校修學旅行團	同	一五〇
	旅順師範附屬小學校滿洲旅行團	同	六二
	金州小學校南滿修學旅行團	同	五五
	大連下藤小學校修學旅行團	同	一九〇
	大連大正小學校修學旅行團	同	一五三
	撫順永安小學校旅行團	同	六五
	撫順東七條小學校旅大方面旅行團	同	二五三
	撫順中學校第一學年修學旅行團	同	一二五
	撫順中學校第二學年修學旅行團	同	一二二
	滿洲里日本小學校生秋期見學團	同	一六
	哈爾濱櫻小學校常科修學旅行團	同	三二
九月	同　高等科	同	四五
	承德日本小學校奉天撫順方面旅行團	同	七二
	奉天市公立協心國民學校修學旅行團	滿人	二四〇
	新民縣立農民修練所旅行團	同	四〇
	奉天省立奉天師道學校滿人修學旅行團	同	四五
	奉天省立第三國民高等學校旅行團	同	一二〇
	奉天地方師道訓練所修學旅行團	同	一四九
	奉天省立奉天第　國民高等學校團	同	三八
	奉天普通學校修學旅行團	同	一五九
	奉天省立奉天第一女子國民高等學校見學團	同	一三〇
	奉天稅關吏訓練所撫順見學團	同	三二
	奉天省普通學校哈爾濱修學旅行團	同	一四五
	奉天保姆傳習所撫順見學團	同	二〇
	奉天北市場普通學校四年生旅行團	同	一一〇
	奉天鐵道技術員養成所本科生修學旅行團	同	七一
	奉天省立奉天第三國民高等學校旅大旅行團	同	一一〇
	奉天地方師道訓練所北鮮滿視察團	同	二〇
	奉天同文商業學校修學旅行團	同	二三
	奉天臨時商業教師養成所撫順見學團	同	二〇
	奉天地方師道訓練所奉天地方臨時教員養成所大連奉天修學旅行團	同	一三七
	双城堡國民高等學校修學旅行團	同	五〇
	哈爾濱師道學校修學旅行團	同	四〇
	承德女子國民高等學校修學旅行團	同	二六
	熱河省立承德師道學校修學旅行團	同	七四
	安東第一國民高等學校南滿視察團	同	九五
	同　北滿視察團	同	四五
	延吉師道學校國內見學團	同	一〇八
	延吉師道學校旅行團	同	一五〇
	撫順高等女子國民學校奉天見學團	同	一五〇
	吉林省第二國民高等學校南滿沿線見學團	同	四七
	東文學校南滿修學旅行團	同	三七
	東文學校新京建國廟奉仕作業參加團	同	五〇
	吉林省立第四國民高等學校南滿修學旅行團	同	一〇一
	吉林地方師道訓練所南滿見學團	同	六二
	吉林兩級中學校初級三年生南滿見學團	同	一二一
	吉林地方師道訓練所東滿北鮮視察團	同	二〇
	吉林國民優級學校朝鮮修學旅行團	同	七〇
	吉林省立農業學校三年生南滿旅行團	同	八五
	吉林市同榮國民優級學校朝鮮旅行團	同	七〇
	吉林省立第二國民高等學校北滿見學團	同	五二
	私立吉林濟仁助產學校南滿修學旅行團	同	三一
	吉林省立農民習練所南滿旅行團	同	六二
	錦州女子國民高等學校修學旅行團	同	八五
	錦州女子國民高等學校修學旅行團	同	九〇
	錦州第二國民高等學校生徒修學旅行團	同	一二五
	錦州第一國民高等學校修學旅行團	同	四六
	連山農業學校修學旅行團	同	四〇
	寧安公立城西國民優級學校旅行團	同	三〇
	齊齊哈爾第一國民學校生旅行團	同	七九
	龍江省社會事業視察團	同	二二
	佳木斯初級中學校見學團	同	八三

一〇月	奉天女子青年學校	日人	四〇
	奉天高千穗小學校四年生撫順見學團	同	二三〇
	大連靜ヶ浦小學校修學旅行團	同	六〇
	滿洲醫大豫科學生修學旅行團	同	七五
	哈爾濱高等女學校修學旅行團	同	九九
	滿洲醫大藥學專門部旅大修學旅行團	同	七〇
	滿洲醫大豫科修學旅行團一、二班	同	二一五
	奉天高等小學校鐵嶺見學團	同	三七四
	吉林朝日小學校第四學年新京見學團	同	六五
	哈爾濱高等女學校生吉林見學團	同	三〇
	奉天春日小學校四年生撫順修學旅行團	同	二一四
	撫順東七條小學校兎狩團	同	四六二
	撫順七條小學校旅順大連方面修學旅行團 一班	同	一一八
	同 二班	同	一二八
	撫順工業學校第二學年本溪湖見學團	同	五五
	撫順工業學校第一學年鞍山見學團	同	九五
	奉天鐵西小學校三、四年生撫順修學旅行團	同	二〇五
	撫順永安小學校兎狩團	同	五一五
	撫順望花小學校奉天見學團	同	四〇
	奉天高千穗小學校旅大修學旅行團	同	一七一
	奉天醫大ラグビー部遠征團	同	二〇
	奉天彌生小學校修學旅行團	同	二〇〇
	新京實踐女學校修學旅行團	同	六〇
	撫順東公園小學校修學旅行團	同	一七一
	撫順工業第三學年奉天見學團	同	五〇
	奉天同文商業學校修學旅行團	同	二一
	撫順東公園小學校朝鮮見學團	同	一七四
	吉林陽明小學校高等科生修學旅行團	同	三〇
	撫順工業學校兎狩團	同	二一〇
	建國大學秋期演習團	日人	二八〇
	昭和製鋼所臨時技術員養成所旅行團	同	一一〇
	奉天春日小學校旅大修學旅行團	同	一七七
	大連鐵道工務員養成所生徒修學旅行團	同	八〇
	奉天實踐女學校元帥林見學團	同	六〇
	奉天春日小學校旅行團	同	一〇〇
	奉天市省立奉天第二女子國民高等學校修學旅行團	滿人	七二
	奉天省立第七國民高等學校修學旅行團	同	一七五
	奉天省立第一女子國民高等學校修學旅行團 第一班	同	八三
	通化國民高等女學校修學旅行團	同	三〇
	奉天女子青年學校修學旅行團	同	四〇
	奉天市立城西女子國民優級學校修學旅行團	同	二〇〇
	奉天省立奉天第一女子國民高等學校撫順見學團	同	二三〇
	通化地方師道訓練所第四期生修學旅行團	同	三五
	四平街普通學校修學旅行團	同	二八
	奉天地方師道訓練所新京見學團	同	一五一
	延吉海星優級學校修學旅行團	鮮人	六〇
	營口商業實習所修學旅行團	滿人	一一
	承德國民高等學校修學旅行團	同	三六
	延吉國民高等學校修學旅行團	鮮人	六二
	鳳城師道學校修學旅行團	滿人	八〇
	大連西崗子公學堂修學旅行團	同	二四〇
	延吉女子國民高等學校修學旅行團	鮮人	二九
	瀋陽商業修學旅行團	滿人	一〇四
	錦州第二國民高等學校修學旅行團 第二班	同	一一四
	熱河省立灤平職工學校修學旅行團	同	二八
	錦州星二國民高等學校修學旅行團	同	三八
	鞍山普通學校修學旅行團	同	六九
	新京市立病院看護婦學校旅行團	同	三二
	奉天省立奉天第一國民高等學校修學旅行團	同	五四
	滿洲麥酒株式會社第一工場撫順見學團	日人	六九
	街村長關東州視察團	滿人	四三
	喇嘛講習會員南滿地方視察團	蒙人	三二
	錦西縣教育見學團	滿人	二六
	錦西縣公署行政科視察團	同	二六
	奉天老帆布工廠旅行團	日人	二〇
	奉天工業旅行團	同	一三六
	經濟部財務職員訓練所日系學生農村調査團	同	一一四
	奉天公立里仁國民學校撫順見學團	滿人	一九五
	奉天文華國民高等學校旅大見學團	同	三〇
	奉天地方師道訓練所撫順修學旅行團	同	一四九
	奉天省立第二初級中學校三年生大連修學旅行團	同	一三〇

	間島省職員訓練所國內視察團	同	二〇
	延吉大和國民優級學校修學旅行團	同	八七
	煙筒山三明國民優級學校生修學旅行團	同	四二
	鞍山昭和製鋼所實科教習生滿洲見學旅行團	同	九五
	私立吉林國民商業學校南滿修學旅行團	同	四〇
	大南小南國民優級學校修學旅行團	同	一八六
	奉天職工學校旅大見學團	同	一二三
	中央農事訓練所奉天分所旅行團	同	二〇
	奉天城東男子國民優級學校修學旅行團	同	二一〇
	奉天省立職工學校旅行團	同	一〇七
	寬東道各縣代表炭鑛見學團	同	二二
	咸鏡北道邑面職員先進地方視察團	日人	二二
	旅大教育視察團	滿人	二〇
一一月	撫順輕金屬從事員奉天見學團	日人	六〇
	嫩江訓練所入營生旅行團	同	一一〇
	哈爾濱訓練所開拓地視察團 第一班	同	三八
	同 第二班	同	三三
	蘇家屯小學校修學旅行團	同	一一〇
	哈爾濱第三國民高等學校修學旅行團	滿人	一〇〇
	通化省地方職員訓練所農工視察團	同	一六
	永吉縣江密峰永寧國民優級學校生旅行團	同	三四
	齊々哈爾地方師道訓練所修學旅行團	同	四七
一二月	奉天第一國民高等學校新京見學團	同	三三
	中央郵政職員訓練所專修科第二回生南滿視察團	滿人	五〇
	治安部委託學生南滿見學團	同	一六
	濱江省地方職員訓練所第二期生旅行團	同	一〇四
	地方官吏南滿視察團	同	一四
	三江省地方職員訓練所南滿視察團	日人	五六
一月	滿洲重工業開發株式會社滿人機械工作見習員團	滿人	八五
三月	大連市立協和實業學校北滿修學旅行團	同	五〇
	滿洲國軍入營者團	同	五四
	撫順輕金屬養成所生徒修學旅行團	日人	五六
	朝日小學校四、五年修學旅行團	同	一四一
合計	三一一團體		二七、七三六

ビューロー斡旋外客數

	本部及直屬案內所	滿洲支部	合計
大正一	四〇〇		四〇〇
二	三、六四四		三、六四四
三	六、二〇七		六、二〇七
同	一、七一五（大正博覽會場內特設案內所分）		一、七一五
四	七、七三六		七、七三六
同	七〇、〇六八（桑港博覽會場內特設案內所分）		七〇、〇六八
五	八、五三六		八、五三六
六	一三、五五八		一三、五五八
七	一七、四一九		一七、四一九
八	二〇、七三一		二〇、七三一
九	三三、九五一		三三、九五一
一〇	一八、三四四		一八、三四四
一一	一八、三九五		一八、三九五
一二	一八、七〇三		一八、七〇三
一三	一九、〇五五		一九、〇五五
一四	二三、六四〇		二三、六四〇
昭和一	二七、八一〇	四、三一〇	三二、一二〇
同	二五四、〇〇〇（[illegible]府博覽會場內特設案內所ノ分）		二五四、〇〇〇
二	四二、八九四	六、〇三二	四八、九二六
三	四三、五〇一	八、六七四	五二、一七五
四	五五、三三四	一〇、九九八	六六、三三二
五	五七、〇七〇	一九、〇三一	七六、一〇一
六	五〇、一五九	二八、九三九	七九、〇九八
七	五四、五一〇	三一、三四三	八五、八五三
八	五九、三二一	五四、六〇七	一一三、九二八
九	七五、一七二	八七、〇九四	一六二、二六六
一〇	九六、九六五	九八、一九〇	一九五、一五五
一一	一四一、四九三	一四六、三九五	二八七、八八八
一二	一五四、〇八六	九五、一七五	二四九、四八六
一三	一一三、三〇四	八二、一八二	二九四、四八六
一四	一〇七、一三七	一一一、一三四	二一八、四七一

交通機關



旅行機關一覽

・本表は滿支旅行關係分のみを記載し、鐵道各驛、代理店等を除いた。

【鐵道】

名稱	所在地
▽南滿洲鐵道株式會社	大連市東公園町三〇
鐵道總局	奉天市春日町二九
奉天鐵道局	奉天市
錦州鐵道局	錦州市
吉林鐵道局	吉林市
牡丹江鐵道局	牡丹江市
哈爾濱鐵道局	哈爾濱市
齊齊哈爾鐵道局	齊齊哈爾市
北鮮鐵道事務所	羅津
北滿江運局	哈爾濱市
大連埠頭局	大連市
▽開豐鐵路股份有限公司	開原街
▽東滿洲鐵道株式會社	間島省琿春縣琿春街
▽哈爾濱産業鐵道株式會社	濱江省阿城縣第三天理村大字生琉里
▽華北交通株式會社	北京市東長安街
北京鐵路局	北京市
張家口鐵路局	張家口市
天津鐵路局	天津市
濟南鐵路局	濟南市
太原鐵路局	太原市
開封鐵路局	開封市
▽華中鐵道株式會社	上海北四川路
南京支社	南京市
淮南事務所	
大通事務所	
東京事務所	
▽朝鮮總督府鐵道局	京城府漢江道一五
奉天出張員事務所	奉天市加茂町二
▽鐵道省	東京市麴町區丸ノ内一丁目
奉天事務所	奉天市加茂町二
北京公館	北京市東長安街二號
國際観光局北京辦事處	北京市一區新開路三八號
上海辦事處	上海市黃浦灘橫濱正金銀行内

【航空】

名稱	所在地
▽滿洲航空株式會社	新京特別市長春大街 裕昌源ビル
東京支店	東京麴町區内幸町大阪ビル
航空處	奉天大和區義光街二段十五
奉天飛行場事務所	奉天省瀋陽縣靖安村（北陵東側）
奉天空の旅案内所	奉天大廣場 三井ビル一階
大連飛行場事務所	關東州周水屯一〇六八
大連營業所	大連市伊勢町五四
安東飛行場事務所	安東市外三道浪頭
安東營業所	安東市市場通り
錦州飛行場事務所	錦州省錦縣北大營
承德營業所	熱河省承德縣承德火神廟街
赤峰營業所	熱河省赤峰縣赤峰三道街
林西營業所	興安西省林西縣三道街
通化營業所	安東省通化縣城内關大什字街
桓仁營業所	安東省桓仁縣桓仁城内東關
輯安營業所	安東省輯安縣城内
寬甸營業所	安東省寬甸縣城内
新京飛行場事務所	新京市外西北
新京營業所	新京淸明街二〇二
吉林營業所	吉林省永吉縣林吉商埠地大馬路
延吉營業所	間島省延吉縣延吉興隆大街
琿春營業所	間島省琿春西門外陸軍特務機關
淸津飛行場事務所	朝鮮咸鏡北道羅城面松坪洞
林東飛行場事務所	興安南分省通遼縣永福大街二七
通遼營業所	興安西分省開魯縣城内北大街
開魯營業所	
哈爾濱飛行場事務所	哈爾濱馬家溝土肥原街

哈爾濱營業所	哈爾濱南崗建築街二
齊齊哈爾飛行場事務所	龍江省龍江縣齊齊哈爾南大營
齊齊哈爾空の旅案內所	龍江省龍江縣齊々哈爾新馬路五
海拉爾營業所	興安北省海拉爾消防街二
滿洲里營業所	興安北省滿洲里街二道街三〇七、七三六
嫩江營業所	龍江省嫩江縣嫩江街南六街
北安鎭營業所	龍江省龍鎭縣北安鎭南二道街
大黑河營業所	黑河省瑷琿縣大黑河南大街八一
依蘭營業所	三江省依蘭縣三姓東大街
富錦營業所	三江省富錦縣富錦城內東興街
佳木斯營業所	三江省樺川縣佳木斯東門外南北路
寶淸營業所	三江省寶淸縣城內
通河營業所	濱江省通河縣城內
湯原營業所	湯原縣城外
牡丹江飛行場事務所	濱江省寧安縣牡丹江市外
牡丹江營業所	濱江省牡丹江大平街九
穆稜營業所	濱江省穆稜縣穆稜田屋部隊官舍
東寧營業所	濱江省東寧縣東寧中大街
八面通營業所	濱江省穆稜縣八面通正陽街
半截河營業所	濱江省密山縣半截河飯島部隊
密山營業所	濱江省密山縣密山興凱大街
虎林營業所	濱江省虎林縣川崎部隊本部
饒河營業所	三江省饒河縣城和平街
鮋巖飛行場事務所	鮋巖縣鮋巖城外
孫呉飛行場事務所	孫呉縣孫呉

▽**大日本航空株式會社** 東京市麴町區有樂町一ノ一

營業所及出張所

札幌	北一條西四丁目札幌グランドホテル
青森	新町陸奥館本店
仙臺	仙臺驛前針久旅館
東京	芝區田村町飛行館一階內
長野	
新潟	古町ニイガタ・エキスプレス
富山	舊城前富山館
名古屋	西區笹島町舊驛前シナ忠旅館
大阪	西區靱南通日淸生命館內
鳥取	驛前土產館
松江	灘町二三三八
德島	塀浦町阿波ホテル
高知	播磨屋町野村自動車會社
福岡	上呉服町片倉ビル內
大邱	驛前米力商店
京城	黃金町朝鮮ビル內
咸興	中央町松月旅館
淸津	羅南本町際屋旅館 新岩洞國際ホテル
橫濱	磯子區富岡町橫濱駐在假事務所
パラオ	パラオ島コロール町
サイパン	カラパン街商興クラブ內
平壤	壽町一三三 三根旅館
新義州	眞砂町中津旅館 安東驛前安東ホテル
大連	常磐町二
奉天	加茂町二 三井ビル內空の旅案內所
新京	淸明街二〇二滿洲航空營業所
上海	西華德路七一號
南京	中山東路八四號
青島	曲阜路大和ホテル
天津	日本租界芙蓉街三航空案內所
北京	崇文門大街二五七號中華航空會社內
那覇	西新町寶來館及ビ西本町丸三商會內
臺北	本町三丁目
臺中	大正町二丁目ラヂオ相談所
臺南	大正町三丁目東屋旅館
馬公	馬公街二八八商船組內
屏東	驛前臺灣運輸株式會社
臺東	寶町新港自動車商會
花蓮港	黑金通二一株式會社朝日組
宜蘭	坤門塗師尾旅館

支所

東京、横濱、パラオ、大阪、福岡、札幌、京城、大連、台北、上海、廣東

駐在員

青島、北京、新京、海口、三灶島、漢口、八日市、磐石、河內、テヘラン、鹿屋(出張員)

▽**中華航空株式會社** 北京內二區國會街五〇

上海支社	上海施高塔路二九〇
東京支店	東京市麴町區丸之內一ノ二台灣銀行內
華北管理局	本社內
北京支所	北京西郊飛行場內
北京營業所	北京內一區崇文門大街二五七
天津支所	天津市外張貴莊飛行場內
天津營業所	天津日本租界芙蓉街三
濟南出張所	濟南三太馬路緯六路一一三
徐州出張所	徐州大同大街二
石門出張所	石門協和路一一
彰德出張所	彰德飛行場內
新鄉出張所	新鄉飛行場內
開封出張所	開封鼓樓街九一
太原出張所	太原新民南正街五
大連營業所	大連市連鎖街
蒙疆管理局	張家口土爾溝街
張家口支所	張家口姚家莊新飛行場內
大同出張所	大同城內東南隅石人街四
厚和出張所	厚和新城西大街二六
包頭出張所	包頭大文明巷三
華中管理局	江蘇省寶山縣大場鎭飛行場內
上海支所	華中管理局內
上海營業所	上海西華德路
漢口支所	漢口第三區江漢路二八五
安慶出張所	安慶城內吳越街二
九江出張所	九江一馬路一四七
南昌出張所	南昌王陽明路
杭州出張所	杭州吳山路迎紫路角
廣東管理局	廣東廣衛路四
廣東營業所	廣東漢民北路二三一

【航路】

▽**日本郵船株式會社** 東京市麴町區丸ノ內二丁目

橫濱支店	橫濱市中區海岸通三丁目九
名古屋支店	名古屋市中區天王崎町四
大阪支店	大阪市西區川口町二六
大阪船客切符發賣所	大阪市東區備後町二丁目五八
神戶支店	神戶市神戶區海岸通一丁目一〇
門司支店	門司市棧橋通一
上海支店	上海共同租界黃浦灘第三一號
大連支店	大連市山縣通一八一
香港支店	8 Connaught Road, Hongkong.
函館支店	函館市
小樽支店	小樽市
基隆支店	基隆市
天津支店	天津市
若松出張所	若松市
營口出張所	營口市
長崎事務所	長崎市
台北事務所	台北市
北京事務所	北京市
青島事務所	青島市
南京事務所	南京市
蕪湖事務所	蕪湖市
漢口事務所	漢口市
大冶事務所	大冶市
廣東事務所	廣東市

▽**大阪商船株式會社** 大阪市北區宗是町大阪ビル

天保山船客係	大阪市港區北海岸
大阪ビル船客案內所	大阪市北區宗是町大阪ビル
日本橋船客案內所	大阪市南區日本橋北詰
梅田案內所	大阪驛構內
東京・支店	東京市麴町區內幸町大阪ビル
橫濱支店	橫濱市中區木町住友ビル
名古屋船客案內所	名古屋市中區南大津町千代田ビル
京都船客案內所	京都市四條通富小路東
神戶支店	神戶市海岸通
神戶旅行案內所	神戶市海岸通三丁目
廣島代理店	廣島市宇品町海岸通
關門船客案內所	下關驛前
門司支店	門司市湊市
別府支店	別府市海岸通
博多船客案內所	博多驛前九軌デパート
長崎代理店	長崎市千馬町
鹿兒島支店	鹿兒島市生產町
佐賀切符發賣所	佐賀驛前佐運本店
久留米切符發賣所	久留米市京町千歲商町
熊本切符發賣所	熊本市春日町
京城支店	京城府南大門通
大連支店	大連市山縣通
奉天事務所	奉天浪速通
新京事務所	新京中央通
哈爾濱事務所	哈爾濱埠頭區地段街
北京事務所	北京東交民巷高獅路第一
天津支店	天津佛租界佛爾西碼頭
塘沽代理店	塘沽中新街
芝罘代理店	芝罘岩城商會
青島代理店	青島新疆路岩城商會
上海支店	上海廣東路第二號
基隆出張所	基隆驛前
臺北支店	臺北驛前
臺北船客案內所	臺北市榮町
高雄支店	高雄市新濱町
那覇支店	那覇市
淸津支店	淸津府
香港支店	香港市

▽**大連汽船株式會社** 大連市山縣通一九五

上海支店	上海四川路一一〇號
同 黃浦棧橋事務所	上海楊樹浦路三四〇號

天津支店　天津特別第一區ウヰルソン路
同　天津佛租界倉庫
青島支店　青島館陶路三七號
神戸支店　神戸市神戸區明石町三二明海ビル
東京事務所　東京市麹町區丸ノ内丸ビル七〇六號
奉天事務所　奉天浪速通二八都ビル內
營口支店　營口市新市街南本街一號
安東出張所　安東市財神廟街
香港出張所　Top floor King's Bldg., Connaught Road.
臺北出張所　臺北市表町二丁目一四
新京出張員　新京市大同大街三〇二號海上ビル
北鮮出張員　羅津府昭和通一丁目三五四
葫蘆島出張員　錦州省葫蘆島國際運輸內

▽朝鮮郵船株式會社　京城府南大門通五丁目一
釜山支店　釜山府大橋通二丁目一
元山支店　元山府海岸通二丁目九
仁川出張所　仁川府港町六丁目一六
大阪出張所　大阪市北區宗是町一大阪ビル二階
東京出張所　東京市麹町區丸ノ內郵船ビル三階三四四號
北鮮出張員　清津府北星町二二國際運輸支店內
青島出張員　青島

▽阿波國共同汽船株式會社　德島市塀裏町六五
大連支店　大連市山縣通二〇〇
芝罘出張所　山東省芝罘順泰街

京城出張所　京城府蓬萊町一

▽北日本汽船株式會社　東京市麹町區內幸町大阪ビル內
大泊支店　樺太大泊町榮町濱通二一
新京在勤員事務所　新京八島通四二福昌ビル
大阪在勤員事務所　大阪市北區宗是町大阪ビル內
敦賀在勤員事務所　敦賀市大和田回漕部內
宇品在勤員事務所　廣島市宇品町廣島商船組合
伏木在勤員事務所　富山縣伏木港三輪回漕店內
泊居在勤員事務所　樺太泊居港泊居回漕店內
函館在勤員事務所　函館市仲濱町共同回漕店內
清津在勤員事務所　清津府北星町國際運輸支店內
浦鹽斯德在勤員事務所　蘇國浦鹽斯德市
青森出張所　青森市新安町八三
稚內出張所　北海道稚內町北濱通四丁目
眞岡出張所　樺太眞岡港本町一丁目四六
新潟出張所　新潟市沼垂町龍ケ島新潟運送會社內
富山出張所

▽嶋谷汽船株式會社　神戸市神戸區明石町一八
小樽支店　小樽市南濱町五丁目三
大連支店　大連市山縣通一五三
伏木出張所　富山縣伏木町湊町九
京城出張所　京城府苑西町一〇八
清津出張所　清津府

▽鴨綠江輪船公司　新義州常盤町三丁目二

▽松浦汽船株式會社　大連市加賀町三〇

▽康和海運株式會社　大連市山縣通一八

▽東亞海運株式會社　東京市麹町區丸ノ內海上ビル二階
東京支店　日本橋區小網町二ノ三
橫濱支店　中區海岸通五ノ二六
大阪支店　西區本田町通一ノ四九
神戸支店　神戸區浪速町五七
門司支店　東港町一
長崎支店　常盤町四
臺北支店　表町二ノ一五及一六
上海支店　共同租界黃浦灘路五
厦門支店　海後路一一
廣東支店　長堤太馬路三八二
南京支店　下關江邊路
蕪湖支店　臨港路一號
漢口支店　第三特別區
天津支店　日界松島街八
青島支店　新疆路一八
大連支店　山縣通二〇〇

▽日本海汽船株式會社　東京市麹町區內幸町大阪ビル
新潟在勤員事務所　新潟市沼垂中央埠頭
伏木在勤員事務所　伏木港湊區三ツ輪回漕店內
敦賀在勤員事務所　敦賀市敦賀港驛構內大和田回漕店內
清津在勤員事務所　清津府北星町朝鮮運送支店內
羅津在勤員事務所　羅津府昭和通一丁目國際運輸ビル內
新京在勤員事務所　新京市八島通四二福昌ビル內

▽東和汽船株式會社　大連市山縣通一四四

▽龍運汽船株式會社　大連市加茂町三〇

▽龍王汽船株式會社　大連市山縣通二〇〇

▽日東洋行　大連市山縣通一九三

▽國際運輸株式會社　大連市山縣通二二一
▽滿洲海運株式會社　大連市山縣通一四四
▽中川汽船株式會社　大連市西公園町三七
▽春和汽船株式會社　大連市敷島町六
▽大連海運株式會社　大連市北大山通四
▽關東運輸株式會社　大連市明治町八
▽營口肇興汽船株式會社　營口市東雙橋子街
▽營口大通汽船株式會社　營口西北門外門牌一五三號
▽大安汽船株式會社　安東興隆街三
▽松黑運輸株式會社　哈爾濱市道外北頭道街
▽滿洲鴨綠江航運株式會社　安東後東後街一三二
▽上海內河輪船公司　上海市
杭州支店　杭州迎紫路二七
拱宸橋出張所　拱宸橋大同路七六

【自動車】

▽大連都市交通株式會社　大連市常盤橋
旅順・金州・普蘭店各營業所
▽新京交通株式會社　新京特別市豐樂胡同一〇一
▽滿洲交通株式會社　新京特別市西五馬路十二號
▽吉奉交通株式會社　吉林省懷德縣公主嶺河南西大街門牌二五號
▽吉林交通株式會社　吉林市福綏街三七
▽牡丹江市公署　牡丹江
▽丙通長途汽車公司　龍江省洮南縣城內四緯路一一三號

▽哈爾濱交通株式會社　哈爾濱市南崗區義州街三三
電車驛前詰所　哈爾濱驛前
電車十六道街詰所　哈爾濱市東傳家區正陽十六道街
自動車課營業係　哈爾濱市埠頭區中央大街二二
其他自動車課警察街、秋林、石頭道街、桃花巷詰所等
▽哈爾濱自動車交通合資會社　哈爾濱市道外太古六道街一九九
▽東亞運輸商會　哈爾濱市八站中馬路六號
▽哈郭長途汽車公司　同右
▽合資會社信義洋行　間島省龍井村桁頭街
▽東滿洲鐵道株式會社　間島省琿春縣琿春街
▽安東交通株式會社　安東市公安街二四號
寬甸、桓仁、草河口、鳳凰城各營業所
▽奉天交通株式會社　奉天市瀋陽區小西街三段七〇號
本社事務取扱所　同　宮島町二
奉天郊外バス營業所　同　瀋陽區大西街八四
鐵嶺營業所　鐵嶺市柳町一
興京營業所　興京縣興京河北街
鞍山營業所　鞍山市北八番町一
撫順營業所　撫順市西一條通東三番地四號
自動車課千代田通營業所　同南八條營業所
同　小西街電車課營業係
▽遼西交通株式會社　錦州省北鎭縣西大街二五
▽奉南交通株式會社　鞍山明治區明治通北八番町一

▽奉北交通株式會社　奉天省四平街花園區昭平橋通七五號
▽昭和自動車公司　臺安縣城內萬福寺東胡同八
▽北支蒙疆運輸商會　熱河省承德街草市街一八〇
▽咸北自動車株式會社　北鮮清津府港町一二
▽華中都市自動車株式會社　上海市東體育會支路七〇號
〔營業所〕上海、南京、杭州、蘇州、無錫、鎭江
▽蒙疆汽車公司　張家口市明德南大街二二七號
張家口營業所　張家口市橋西大街五一
張北營業支所　張北南大街四六
多倫營業支所　錦州鐵道局多倫營業所
商都營業支所　商都福壽大街
貝子廟營業支所　アパハナール貝子廟前
懷安營業支所　懷安縣城內
德化營業支所　德化中央大街
陽原營業支所　陽原縣城內
大同營業所　大同
代州營業支所　代州縣城內
平地泉營業所　平地泉驛西側
豐鎭營業支所　豐鎭驛西側
厚和營業所　厚和西門裡四
烏蘭花營業支所　烏蘭花縣城內
包頭營業所　包頭東大街
沙城營業所　涿鹿縣沙城外西石橋南
赤城營業支所　延慶縣康莊
康莊營業支所　延慶縣康莊
涿鹿營業支所　涿鹿縣城內縣公署前
延寧營業支所　延慶縣永寧南大街
蔚縣營業所　蔚縣西大街

宣化營業支所　宣化南關橋西路北門牌一

【鮮滿支案內所】

▽東京鮮滿支案內所　東京市京橋區銀座二丁目一
同　分　室　東京市虎ノ門滿鐵ビル
▽大阪鮮滿支案內所　大阪市堺筋安土町
同名古屋出張所　名古屋市中區榮町一丁目十
同敦賀駐在員事務所　敦賀驛前大通り
▽新潟鮮滿支案內所　新潟市古町通六
▽小樽鮮滿支案內所　小樽市稻穗町東六丁目二七
▽門司鮮滿支案內所　門司稅關前
同長崎駐在員事務所　長崎市萬屋町七九
▽下關鮮滿支案內所　下關驛前

【ツーリスト・ビューロー】

東京市麹町區丸之內一ノ一
（分室）神田區鍛冶町二丁目二四（神田驛前）

滿洲支部　奉天市住吉町五
華北出張所　北京崇文門大街三九
華中出張所　上海北四川路一三二四
朝鮮支部　京城府朝鮮總督府鐵道局內
關東支部　東京市東京驛內（降車口）
中部支部　名古屋　名古屋鐵道局內
關西支部　大阪市東區安土町（堺筋）二ノ六三
西部支部　廣島市廣島鐵道局內
九州支部　門司市門司鐵道局內
羽越信支部　新潟市新潟鐵道局內
東北支部　仙臺市仙臺鐵道局內
北海道支部　札幌市札幌鐵道局內
臺灣支部　臺北市臺灣總督府交通局鐵道部內

【案　內　所】

・關東州・滿洲

大　連　伊勢町五四・播磨町ヤマトホテル內・大連驛內・常盤町三越內・連鎖街榮町三三・監部通三四・西崗子北關街二六
鞍　山　北二條町一六
奉　天　驛前・浪速通ヤマトホテル內・瀋陽區一德街一段一三二
四平街　驛前
新　京　驛前・大同大街三中井百貨店內・城內西四馬路口七四號泰發號內・ヤマトホテル內
安　東　大和橋通二丁目（驛前通）
營　口　南本街一・永世街一〇
撫　順　中央大街一一（驛前通）
吉　林　大馬路一三九・城內通天街二號
延　吉　康平區進學路一四ノ七
通　化　南關三九
圖　們　春風街三四ノ一
牡丹江　太平路一二
哈爾濱　中央大街七八・地段街丸商百貨店內・傅家甸正陽大街・昇平二道街・新市街ヤマトホテル內
佳木斯　向陽大街三段地
齊齊哈爾　正陽大街三九八
滿洲里　三道街ニキチンホテル內
錦　州　錦華區大和街一番地（舊驛舍內）
承　德　南營子大街
山海關　南關中街七四號ノ二

・中國・蒙疆

北　京　崇文門大街三九・王府井大街二・宣外兵馬司中横町・西單北大街一九五・前門大街五九
天　津　日本租界旭街一二・特三區大馬路一緯路三〇號勞工協會內・東馬路南大門一三六
塘　沽　驛內
唐　山　新立街一九號
保　定　西關大街三〇
北戴河　海濱西經路（夏期中）
張家口　橋東五四
大　同　大東街一一二號
厚　和　北門街六七號
太　原　首義門街四九
石　門　阜寧路
青　島　堂邑路二八號・奉天路二九〇號・鐵山路八五號・會泉路一五號東海飯店內
濟　南　大馬路五〇七・商埠地四經路小緯六路一六九號
徐　州　月波鎮月波街四八號
連　雲　連雲ホテル內
上　海　北四川路一三二四號・四川路一一〇號
南　京　中山路三號
杭　州　新民路二區三二五
蘇　州　北局蘇州百貨公司內
漢　口　江漢路一五七號
廣　東　太平路新華ホテル內

・朝鮮

釜　山　驛構內・大橋通二丁目三中井百貨店內
大　邱　元町一丁目三中井百貨店內
太　田　三中井百貨店內
京　城　本町一丁目三越內

驛構內
鐘路三丁目和信內
平　壤　本町七三　三中井百貨店內
咸　興　本町四六　三中井百貨店內
新義州　本町五朝鮮運輸會社內
元　山　三中井百貨店內
清　津　埠頭船客待合所內
羅　津　驛前國際ビル內・埠頭內

・內地

東　京　東京驛降車口・東京驛乘車口・東京鐵道運輸部旅客案內所內・神田區鍛冶町二ノ二四（驛前）・麹町區內幸町帝國ホテル內・麹町區丸ビル鮮滿支案內所內・丸ビル地方物產陳列所內・京橋區銀座三丁目松屋內・下谷區廣小路一丁目松坂屋內・日本橋區室町三越內・日本橋區通一丁目白木屋內・日本橋區通二丁目高島屋內・淀橋區角筈一丁目三越內・四谷區新宿三丁目伊勢丹內
橫　濱　中區海岸通一橫濱貿易協會內・中區伊勢佐木町野澤屋內
輕井澤　驛內（夏期中）
箱　根　箱根宮ノ下富士屋ホテル內
日　光　金谷ホテル內
松　本　驛前（夏期中）
名古屋　驛內・中區廣小路通二丁目（朝日ビル）・中區南大津町松坂屋內
岐　阜　柳ヶ瀨町四丁目丸物支店內
福　井　佐佳枝上町だるまや內
金　澤　片町宮市大丸內
富　山　西町七宮市大丸支店內
新　潟　古町通七
京　都　驛內・驛前市設觀光案內所內・下京區四條通大丸內・東山區粟田口華頂町都ホテル內・中京區河原町通京都ホテル內
大　阪　東區安土町堺筋角・東區安土町堺筋鮮滿支案內所內・東區高麗橋三越內・東區心齋橋筋大丸內・南區日本橋筋三丁目松坂屋內・南區心齋橋筋十合吳服店內・北區中ノ島三丁目新大阪ホテル內
神　戶　三ノ宮驛內・裏町四〇大丸內・新港神戶市觀光案內所內
岡　山　下之町七七天滿屋內
松　江　白潟本町二四尾原吳服店內
廣　島　八丁堀福屋內
下　關　驛前
高　松　內町五三　三越內
門　司　西海岸通鮮滿支案內所內
別　府　北町下八一八
八　幡　尾倉九州百貨店內
小　倉　寶町井筒屋內
博　多　東中洲町玉屋內・橋口町四六松屋內
久留米　日吉町旭屋內
大牟田　本町松屋內
唐　津　（夏期中）
佐世保　榮町玉屋內
雲　仙　（夏期中）
長　崎　驛前
熊　本　安已橋通町千德內
鹿兒島　金生町三九山形屋內
仙　臺　東一番町三越內
福　島　大町中合支店內
盛　岡　志家第六地割字肴町川德吳服店內
青　森　新町八一松木屋內
函　館　末廣町七三今井商店內
札　幌　南一條西二丁目今井商店內
小　樽　稻穗町東八丁目今井商店內
旭　川　一條通今井商店內

・臺灣

臺　北　榮町商品陳列館內・驛內案內所內
臺　南　末廣町一丁目林百貨店內
花蓮港　港街黑金通一六

・海外

紐育、巴里、伯林、倫敦、香港、馬尼羅

鐵道

南滿洲鐵道株式會社

ポーツマス條約により露國より得た南滿洲鐵道及び其接壤地域の經營を中心に大陸政策遂行に當らしむべく政府の命令に依り明治三十九年十一月二十六日設立された日本政府の特殊會社である。鐵道運輸事業を經營すると共に、その便益のため附帶事業として倉庫業、車輛工場、炭礦及びこれに附隨する各種化學工業、海運業、港灣を經營し、滿洲國有鐵道の委託經營、同新線建設の受託、會社附屬地內土地建物の經營、土木、敎育、衞生及び產業に關する各種の施設をなし(治廢により移讓)廣く東亞の各地に亙つて調査事業を遂行する傍ら製鐵、瓦斯、電氣、窯業、旅館、船渠、石炭業、輸入組合、炭山採木事業、運送業、土木業、倉庫業等を育成、又は助成してこれが發展に資する等單なる鐵道事業に止まらず、關係會社も七十九社に及んで居り、更に昭和十四年には北支經濟開發の原動力たる華北交通會社を誕生せしめ又北滿航運業を接收した。

會社設立當時に於ける資本金は二億圓であつたが、大正九年四月資本金を四億四千萬圓に、昭和八年三月八億圓に、更に昭和十五年初め十四億圓に增資したが、半額政府、半額民間の方針を執つてゐる。

創業の際の從業員數は職員二千餘名傭員四千餘名に過ぎなかつたが、現在社員外從事員を加ふれば約二十萬人に及んでゐる。

滿鐵鐵道總局

滿洲國は舊東北政權管下の鐵道その他を經營するに當り昭和八年二月九日交通部佈告及び訓令を以て「大同二年二月九日に於て國有鐵道、松花江官營水運事業及び各項附屬事業を南滿洲鐵道株式會社に委託して經營せしむ」と發令し同年三月一日滿鐵は奉天に鐵路總局を設置し之が經營に當らしめた。總局は昭和九年(康德元年)四月一日管下九鐵路局を四鐵路局に廢合整理し一部路線の合併改稱と同時に運送規定の改正統一を行ひ、一方滿鐵鐵道建設局が滿洲國の意を體して新設せる路線は完成と同時に總局に於て之を經營することゝなり、更に昭和十年(康德二年)三月二十三日滿蘇共同經營の北滿鐵路の讓渡と同時に之を總局の管下に移したため、總局の業務は著しく擴大したのである。

越えて昭和十一年(康德三年)十月一日滿鐵社線、北鮮線(北鮮鐵道管理局線)及び國線(總局所管の國有鐵道)を統合して經營の一元化となり、職制改正を行ひ茲に鐵道總局と改名し各鐵道を擧げて管轄せしむることゝなつた。

即ち滿洲國建國後國有鐵道二千八百餘粁の經營を受託して滿鐵の所管線は俄に四千餘粁に激增、殊に國線は年々絕えず建設せる新線と昭和十年に接收した舊北鐵を加へると實に受託當時の三倍一八千八百餘粁を算し、更に北鮮の受託鐵道二一六粁と社線一千一百三十一粁を合せて蜿蜒一萬七百七十九粁七(昭和十五年一月現在假營業四六九粁五合算)に達し、今や全線滿鐵の傘下に整然たる一元的統制をもつて合理的運營を續け大陸鐵道政策遂行に邁進してゐる。國線經營後八箇年、國防に產業開發に其使命の重大性をよく認識せる滿鐵社員は一方滿洲開發の先驅者となつてあらゆる艱難を克服し、糧食の缺乏にも耐へながら特有の精神力と技術能力とを以て奮鬪を續け、四千餘粁の鐵道を建設したことは世界鐵道建設史上に誇示するに足るものである。

▽滿鐵社線

- 連京線……(大連・新京間)
- 安奉線……(安東・蘇家屯間)
- 埠頭線……(大連・大連埠頭間)
- 撫順線……(蘇家屯・撫順間)
- 旅順線……(周水子・旅順間)
- 營口線……(大石橋・營口間)
- 煙臺炭坑線……(煙臺・煙臺炭坑間)
- 甘井子線……(南關嶺・甘井子間)
- 渾榆線……(渾河・榆樹臺間)
- 吾妻線……(大連・吾妻間)
- 入船線……(沙河口・入船間)
- 金城線……(金州・城子疃間)
- 計 一、一三一・五粁

▽國線

- 奉吉線……(吉林・奉天間)
- 葫蘆島線……(錦西・葫蘆島間)
- 奉山線……(北奉天・山海關間)
- 河北線……(溝幇子・河北間)
- 北票線……(金嶺寺・北票間)
- 葉峰線……(葉柏壽・赤峰間)
- 錦古線……(錦縣・古北口間)
- 新義線……(新立屯・義縣間)
- 平梅線……(四平街・梅河口間)
- 梅輯線……(梅河口・輯安間)
- 大鄭線……(大虎山・鄭家屯間)
- 平齊線……(四平街・齊齊哈爾間)
- 檣樹線……(齊齊哈爾・昂昂溪間)
- 京白線……(新京・白城子間)
- 白阿線……(白城子・阿爾山間)
- 寧墨線……(寧年・墨爾根間)
- 北黑線……(北安・黑河間)
- 虎林線……(林口・虎頭間)
- 齊北線……(齊齊哈爾・北安間)
- 濱北線……(哈爾濱・北安間)
- 綏蓮線……(綏化・神樹間)
- 拉濱線……(三棵樹・新站間)
- 京濱線……(新京・哈爾濱間)
- 濱洲線……(哈爾濱・滿洲里間)
- 汪北線……(汪淸・北荒嶺間)
- 龍豐線……(龍潭山・大豐滿間)
- 濱綏線……(哈爾濱・綏芬河間)
- 朝開線……(朝陽川・開山屯間)
- 京圖線……(新京・圖們間)
- 圖佳線……(圖們・佳木斯間)
- 梨樹線……(下城子・梨樹鎭間)
- 綏寧線……(西綏・東寧間)
- 佳蓮線……(佳木斯・蓮江口間)
- 鴨大線……(鴨園・大粒子間)
- 青道線……(龍井・青道間)
- 溪城線……(宮原・田師付間)
- 計……八、四八二・九粁
- 北鮮線……一二六・二粁
- 假營業線……四六九・五粁
- 總計……一〇、七七九・七粁

鐵道總局職制(昭和一五・四現在)

- 企畫委員會
  - 庶務課
  - 文書課
  - 業務課
  - 弘報課
- 人事局
  - 人事課
  - 養成課
  - 調査課

南滿洲鐵道株式會社

鐵道總局

- 厚生課
- 保健課
- 經理局
  - 第一經理課
  - 第二經理課
  - 會計課
- 調査局
  - 調査課
  - 資料課
- 用度局
  - 管理課
  - 資材課
  - 計畫課
  - 購買課
- 營業局
  - 旅客課
  - 旅館課
  - 貨物課
  - 小運送課
- 輸送局
  - 配車課
  - 運轉課
  - 車輛課
- 水運局
  - 水運課
  - 築港課
- 自動車局
  - 營業課
  - 技術課
  - 計畫課
- 工作局
  - 工作課
  - 工場課
  - 機械課
- 工務局
  - 保線課
  - 改良課
  - 工事課
  - 建築課
  - 電氣課
  - 水道課
- 建設局
  - 計畫課
  - 工事課
  - 設計課
- 附業局
  - 產業課
  - 土地課
  - 愛路課
  - 拓植課
- 檢送委員會
- 參督
- 監察

- 鐵道局（奉天、錦州、吉林、牡丹江、哈爾濱、齊齊哈爾）
  - 總務課
  - 人事課
  - 經理課
  - 營業課
  - 輸送課
  - 自動車課
  - 工務課
  - 電氣課
  - 附業課
  - 鐵道監理所
    - 驛
    - 埠頭
    - 列車區
    - 機關區
    - 検車區
    - 工務區
    - 電氣區
    - 自動車區
    - 電氣修繕場
    - 電信所
    - 滿洲開拓青年義勇隊滿鐵訓練所
  - 鐵道局敎習所
  - 醫院
  - 富拉爾基保養院
  - 工事事務所
- 北滿航運局
  - 總務課
  - 運輸課
  - 船舶課
- 北鮮鐵道事務所
  - 總務課
  - 經理課
  - 運輸課
  - 工務課
  - 醫院
- 大連埠頭局
  - 總務課
  - 人事課
  - 經理課
  - 營業課
  - 作業課
  - 工務課

- 鐵道學院
- 鐵道技術研究所
- 北滿鐵路殘務整理事務所
- 鐵道技術員養成所
- 保養院
- 撫順醫院
- 林業事務所
- 圖書館
- 鐵道工場
- 建設事務所
- 大東港築港事務所
- 大連改良事務所

- 岸壁監督
- 埠頭局
- 敎習所
- 工事々務所

【滿鐵重役】 ▲總裁 大村卓一▲副總裁 佐々木謙一郎、佐藤應次郎▲理事 久保孚、伊澤道雄、平島敏夫、平山復二郎、猪子一到、大垣研、岡田卓雄、御影池辰雄 ▲監事 大橋新太郎、小倉正恒、原邦造、森 廣藏、安宅彌吉

【滿鐵顧問】 田中清次郎、木原 清、丸澤常哉、小日山直登、川原 宏

▲會社幹部名略

朝鮮總督府鐵道局

建設は明治三十二年九月京仁鐵道合資會社に依る仁川・永登浦間三十二粁餘を以て嚆矢とし、翌三十三年七月之を西大門に延長し京城・仁川間を通ぜしめ、同三十四年京釜鐵道株式會社成立するや、直に京城釜山間の工事に着手し同三十八年一月京釜線の開通を見た。

更に同三十七年臨時軍用鐵道統監部は日露戰役中軍用線として京義線及馬山線の急設に着手し、馬山線は同三十八年十月、京義線は同三十九年四月兼二浦に至る支線と共に開通し、茲に半島を縱走する主要幹線を竣成せしめた。

次で同三十九年七月帝國政府は京釜及京仁線を買收して國有と爲し、同時に統監府鐵道管理局を設け陸軍の所管に關する京義・馬山の兩線を其の管理に移し、以て朝鮮に於ける鐵道の統一經營をなし其後同四十二年十二月鐵道院の所管に移りたるが、同四十三年十月朝鮮總督府の設置と共に其の管理に復歸した。

而して大正六年七月に至り政府は朝鮮交通貿易上の見地より其の經營を南滿洲鐵道株式會社に委託したるも、其の後時勢の推移は直接經營の必要を認むるに至つたので四十四年三月末日限り之を解除した。

此の間既成線の改良に努むると共に一面地方開發に資せんがため主要港灣に通ずる新線の建設を計畫し、平壤より鎭南浦に至る平南線は明治四十三年十月竣成し、湖南線及京元線は大正三年孰れも其の工を竣へ、引續き咸鏡線の工を起し昭和三年九月に至り之を全通せしめた。

茲に於て鮮內各地方の交通狀態は著しく面目を改むるに至りたるが、朝鮮產業開發上鐵道の普及促進は最も緊急施設なるを以て、政府は既定計畫に屬する平元線の建設及新に昭和二年度以降十二箇年の繼續事業として圖們・惠山・滿浦・東海・慶全の五線建設竝に其の間に介在する私設鐵道買收等に關する計畫を樹立し爾來着々實施中である。

而して昭和八年に至り圖佳線竝に京圖線の完成に伴ひ、北鮮及び滿洲とを連絡し、更に裏日本一帶との新なる交通路を展開するに至りたるを以て、同八年十月一日以降輸城以北の鐵道三百二十八粁五を滿鐵に經營せしめたが同十五年七月一日以降上三峯以南を再び復歸せしめた。

一方國境地方に於ける產業開發、國防警備上の見地より、北鮮拓殖鐵道建設を企圖し、昭和七年度より之が建設工事に着手し、已に一部の營業を開始した。更に同七年滿洲國成立以來日滿間の交通激增し、一般經濟界の殷盛と共に、貨客輸送亦著增せるを以て之等輸送を緩和し且朝鮮中央部に於ける資源開發に資せんがため同十一年十二月より永川・東京城間の中央線建設中である。

而して現在營業粁は約四千粁に及んでゐる。

【職制幹部】

- 鐵道局（局長・山田新十郎）
  - 庶務課（大島寅治）
  - 調査課（田邊多聞）
  - 監督課（西崎鶴司）
  - 營業課（大和田福德）
  - 運轉課（前原肇）
  - 建設課（江崎義人）
  - 保線課（轟謙次郎）
  - 改良課（清水幸次）
  - 工作課（崎山登一郎）
  - 電氣課（永井研三）
  - 經理課（小林利一）
  - 鐵道事務所（京城、太田、釜山、平壤、順天、元山、城津、江界）
  - 建設事務所（平壤、江陵、京城、安東）
  - 改良事務所（釜山、京城、平壤）
  - 工場（釜山、京城、淸津）
  - 鐵道從事員養成所
  - 京城鐵道病院
  - •（ ）內課長氏名 •

華北交通株式會社

支那事變の最も輝かしい戰果の一つとして、日華蒙協力の下に創設された特殊會社であり華北、蒙疆に於ける交通の總元締である。

經營の前途は頗る多難を豫想されたが稠密な人口と天與の資源に立脚する以上、前途は洋々たるものがあらう。又人的には大多數の中國從業員を包擁し、交通網を媒體として民族の融合提携に身を以て實踐しつつある。まことに華北交通會社はわが大陸政策の先驅として、東に滿洲、朝鮮を結び、南は中南支に連り、西は中央アジアにも及ぶべき大陸交通の中樞に位置し、眞にアジアの大動脈であり、世界の公器である。その動向には常に國民的關心が寄せられねばならない。全從業員はその使命を體して勇奮力行しつゝあり、事變發生以來皇軍と形影相伴ひ、寸鐵を帶びぬ身を挺して聖戰の華と散つた社員は既に六百名を超えてゐる。

【創　立】 昭和十四年（民國二十八年）四月十七日

【社　員】 十一萬人、このうち日本人は約三萬、他の約八萬は華人。日人社員は滿鐵會社、鐵道省その他の出身者、華人社員の大部分は舊北支鐵道從事員たりし者で、一部滿鐵竝鐵道省出身者も加つてゐる。日人社員制としては職員、雇員、傭員の三段階あり、職員中の高級者には參事、副參事の待遇名が與へられる。

【重　役】 總裁一人、副總裁二人、理事五人以上、監事三人。總裁、副總裁は株主總會で選任し政府の認可を要する、任期五年。理事、監事は株主總會で選任、任期は理事四年、監事三年。

【會　計】 資本金　三億圓

出資內譯
- 北支那開發株式會社　一億五千萬圓
- 南滿洲鐵道株式會社　一億二千萬圓
- 華北政務委員會　三千萬圓

總株數―六百萬株　一株―五十圓
社債募集限度―拂込株金額の三倍まで
營業年度―十月一日から九月末日
定時株主總會―毎年十二月

華北交通會社は國有鐵道の運營に任ずるのであるが、經營上の損失は政府の保證に據らず、全部會社の負擔となる。また北支鐵道が有する巨億の借款整理に資するため、政府に相當額の上納金を納付すべき義務を負はされて居り、華北交通株式會社法に定むるところによる華北に於ける鐵道、自動車、水運竝に之に附帶する諸事業の經營に當つてゐる。

又蒙疆政府の委託により蒙疆に於ける鐵道竝にその附帶事業の經營にも當る。

鐵道は會社業務の根幹にして北支、蒙疆鐵道の總延長六千二百三十餘キロの九六%は既にその經營下に入つた。戰局の進展に伴ふ占領線の伸長、軍鐵一致の健闘による復舊補强作業の進捗につれて、特殊輸送に遺憾なからしむると共に、一般營業路線も急速に伸展しつゝあり殘るは隴海線開封以西のみとなつた。

尙國策會社新體制のトップを切つて華北交通の劃期的職制改革は之に伴ふ八百名の重要人事異動と同時に昭和十五年十一月一日附を以て發令實施を見たが、社員局長制、本社及路局の職分の確立、地方機關の强化、局單位制の實施、參與制の實施等々を主眼とするものである。

【所管鐵道】

京山線……（北京―山海關）
京古線……（北京―古北口）
京漢線……（前門―新鄕）
新開線……（新鄕―開封）
津浦線……（天津―蚌埠）
膠濟線……（青島―濟南）
京包線……（北京―包頭）
同蒲線……（大同―風陵渡口）
石太線……（石門―太原）
隴海線……（連雲―開封）
臨趙線……（臨城―趙墩）
大台線……（西直門―大台）
博山線……（張店―博山）
甲子灣線……（忻縣―河邊）
東潞線……（東觀―潞安）
道淸線……（淸化―遊家墳）
德石線……（石門―德縣）
其他　二五九粁
合計　五、六〇九粁

【職制】

昭和十五年十一月一日、職制現定改正せられ、本社は業務審議會竝左表の通り各部所が設けられ。尙同日附を以て會社の重要なる業務に參畫する參與規程も制定された。

總裁
- 業務審議委員會
- 輸送委員會
- 監察室
- 總務局
- 主計局
- 資材局
- 資業局
- 運輸局
- 自動車局
- 水運局
- 工作局
- 工務局
- 電氣局
- 建設局
- 警務局
- 東京支社
  - 總務課
  - 主計課
  - 資材課
  - 業務課
  - 技術課
- 鐵路局（北京、天津、張家口、濟南、太原、開封）
  - 總務處
  - 保健處
  - 經理處
  - 營業處
  - 輸送處
  - 自動車處
  - 水運處
  - 工作處
  - 工務處
  - 電氣處
  - 警務處
  - （外略）
- 中央鐵路學院
- 鐵路警務學院

【重役】▲總裁 宇佐美寬爾▲副總裁 殷同、後藤悌次▲理事杉廣三郎、周培炳、山口十助、新井堯爾、太田久作、孫瑞林、佐原憲次、陶尚銘▲監事張萬錄、吉田浩、伊澤道雄▲顧問 平井喜久松（其他會社幹部略）

華中鐵道株式會社

中支に於ける支那事變占領鐵道の運營は軍の管理下に於て軍鐵道局により行はれたが、軍特務部に於ては昭和十二年末既に中支鐵道會社設立の計畫を樹て、之が準備に當りつゝあつた處、中支に於ける日本權益の設立を急ぐ一般的狀勢と、鐵道運營機構の强化を目指す氣運濃化と相俟つて昭和十二年末以來急速に會社設立準備業務の進行を見、遂に中支振興株式會社の子會社として昭和十四年四月三十日華中鐵道會社の創立總會を開催、五月一日より營業を開始するに至つた。

一、法人　中國政府の法令に基く支那特殊法人
二、資本　五千萬圓（四分の一拂込）
三、組織　社長、副社長の外取締役監査役あり、社員は參事、副參事、參事補、社員、雇員、傭員制に分つ。

從つて從來軍に於て運營してゐた江南三角地帶の鐵道は本會社に移管され、更に主管路線に於ける自動車運輸及び之に附帶する港灣竝ホテル事業等の經營に當ることゝなつた。

【職制及幹部】

總裁（田誠）―副總裁―
▲理事　上林市太郎　何志杭　堀尾豐熊　國澤新兵衞　陳伯藩
▲監事　園田三朗　王建民

- 總務部（上林市太郎）
  - 總務課（牛島辰彌）
  - 厚生課（北村紫一）
  - 經理課（田中正破二）
  - 管財課（胡一藏）
  - 調査課（上林市太郎）
  - 愛路課（吉岡重慶）
- 業務部（何志杭）副（井上剛）
  - 營業課（平野玄雄）
  - 輸送課（津田滿壽次）
  - 自動車課（陳似廷）
- 技術部（堀尾豐熊）
  - 工務課（吉岡重慶）
  - 建築第一課（酒見佐市）
  - 建築第二課（岡崎泰光）
  - 工作課（平山鑒）
  - 電氣課（周防里海）
  - 計畫課（田中勤）
- （南京支社）副（太田金盛）
  - 事務所（淮南・大通・東京）
  - 工事事務所（上海、南京、淮南）

所管線（鐵道の部）

海南……（上海・南京及其支線）
海杭……（上海・杭州間及其支線）
吳淞……（上海・砲臺間及其支線）
蘇嘉……（蘇州・嘉興間）
南寗……（南京・灣沚間）
津浦……（浦口・蚌埠間）
淮南南……（裕溪口・廬州間）
淮南北……（田家菴・九龍崗間）
計　一、〇五一粁

華中に於ける旅客輸送界の動向

昭和十四年四月三十日維新政府特殊法人として華中鐵道股份有限公司創立され、翌五月一日より同社に於て江南線七百餘粁の鐵道の運營に當り十月一日より津浦線浦口―蚌埠間一七五粁及淮南線裕溪口廬州間一一七粁をも併せて經營することゝなつたので現在の總營業粁數は一千粁餘に達してゐる。

この間沿線に於ける治安の恢復と經濟の復興と相俟つて一般旅客輸送は漸次增加の一途を辿つて居るが、中支は未だ戰闘の地域にあり水運の便も亦舊態に復して居らぬ營目下のところ事變後の變態的輸送の域を脫しないと見られる點もあるが創業以來の旅客輸送成績を一瞥すれば、如何に同社に於ける旅客輸送が躍進を續けて居るか判然するであらう。

今之が大畧を述ぶれば創業の五月に於ける旅客乘車人員を一〇〇として指數を示すと、海南線に於ては十一月には一三一、本年三月には二二二の活況を呈し創業時に比較し著しい躍進振りを示してゐる。津浦線、淮南線は江南各線に比し人口密度竝に文化の程度低く治安の關係上、一般旅行者の交通は抑制され勝の爲、江南各線の如き好成

續は望めぬけれども、漸次增加して十一月には一二九、本年三月には一四四を示し漸次增加の傾向を辿つてゐる。

尙旅客待遇改善の實施に就いて之を見るに、創業後間もなく海南線の急行列車に一等車を連結し、中國情緒豐かな姑娘をサービスガールとして乘務せしめ次いで食堂車を走らせ又上海、南京、杭州市內に於てジヤパンツーリストビユーローに乘車券の委託販賣實施や、新亞細亞ホテル內案內所、四川路案內所の開設をし、本年六月には上海南京間に特別急行列車（天馬號）を運轉し、上海南京間に於けるスピードアップと快適な旅行の便を圖る等中支陸上交通の大半を擔ふ華中鐵道の躍進振りを雄辯に物語るものである。

航　路

大阪商船株式會社

明治初年、大阪を中心とする海上運送業は折からの文明開化の風潮に乘つて群小船會社の濫立をみたが西南役後大會社の機運に達し明治十七年大阪商船株式會社の結成創立を見るに至つた。當時會社の資本金は僅かに百二十萬圓、使用汽船も一萬七千噸航路浬數も四千九百八十六浬で、僅々瀨戶內海を營業範圍とするに過ぎなかつた。

其の後日淸、日露の二大戰役を契機として航路範圍は朝鮮から臺灣、支那沿岸に伸展し日露戰役後には香港を起點としてマニラ及び日本諸港を經由、北米ピユーゼットサウンドに至る北米航路の開設を見、此處に大阪商船は世界海運界デビユーの第一步を踏み出した。大正三年七月歐洲に大戰亂の勃發するや海運界空前の黃金時代を現出し、大阪商船も亦その風雲に乘じて經營の一大發展をなし世界海運屈指の大船會社に迄躍進したのである。

爾來南米航路世界一周線スエズ經由歐洲航路（現在休航）の開拓、アフリカ市場への新航路開設、其他濠洲、新西蘭、ペルシヤ、タイ國、佛印への貿易路擴充はもとよりパナマ經由歐洲航路、紐育急行航路に新造優秀船を配する等常に新航路開拓に力を注いで來た。

然し大阪商船が持つ特異性は其の充實した東洋航路網を有することで、朝鮮、滿洲、北支、南支、臺灣、比律賓等東洋の港にして大阪商船の「赤大字マーク」社旗の飜らざる所なく、就中日滿連絡航路の如き六千噸乃至一萬噸の優秀船十隻が毎月二十五回定期を踏んで航進する壯觀は世界海運界にその比を見ないところである。

而して昭和十四年新東亞建設達成のために對支航權の統制强化を企圖して東亞海運會社の創設せらるゝや天津航路、靑島航路以下十指に近き對支航路を擧げて之に移讓した。

昭和九年には創立五十周年を迎へ今や資本金一億圓、經營航路は全世界に五十餘線其の航路延長三十五萬浬、之に使用する船舶は百七十餘隻、總噸數は××萬噸を凌駕してゐる。

▽商船の主なる經營航路

世界一周南米線、東航南米線、アフリカ線、西アフリカ線、歐洲（パナマ經由）線、紐育急航線、濠洲線、新西蘭線、孟買線、甲谷陀線、西貢盤谷線、比律賓線、比律賓急航線、大阪大連線、神戶基隆線、大阪北鮮急航線、東京高雄線、基隆花蓮港線、高雄淸津線、橫濱大連線、東京北鮮線、大阪南鮮線、那覇大連線、大阪那覇線、鹿兒島那覇線、那覇基隆線、大阪鹿兒島線、大阪別府線、大阪今治線

【職制及幹部】 ▲社長　岡田永太郎　▲副社長（經理部長）神田外茂夫　▲專務取締役（營業部長）田島正雄、同（船舶部長）加藤進　▲課長　伊藤武雄（文書）奈良秀治（會計）平井好一（遠洋）村井弘光（東洋）三本重臨（船客）森田壽二郎（海務）取締役和辻春樹（工務）友貞甚輔（調度）▲支店長　取締役香春敏夫（東京）勝沼敏行（橫濱）石垣廉（大阪）中村富强（神戶）小山忠秋（門司）坂井照（鹿兒島）安達威太郎（別府）家長寛（那覇）廣瀨辰之助（台北）前川藤吉郎（京城）落合利致（淸津）乘杉壽彥（大連）武山茂雄（奉天駐在）佐藤孝（新京駐在）谷川謙三（哈爾濱駐在）吉植庄司（天津）細矢五郎（上海）枝吉正保（香港）▲東亞關係以外略。

日本郵船株式會社

明治十八年十月、郵便汽船三菱會社と共同運輸會社との合同により資本金一千一百萬圓、航洋汽船五十八隻、總噸數六萬四千七百二十五噸を以て創立されたものである。當時の經營航路は日本內地諸港間竝に支那朝鮮方面への十數線に過ぎなかつたが、今日では資本金一億六百二十五萬圓、所有船舶百四十四隻、總噸數××萬餘噸といふ單一汽船會社として所有噸數世界第一の大汽船會社となり幾多の航路網を以て五大陸の主要港を完全に聯絡して居る。

明治二十六年十一月日本遠洋定期孟買航路を創設せるを始とし現在の主要遠洋航路たる歐洲線、シアトル線、濠洲線の如きは孰れも日淸戰役直後の開設にかゝり、次で日露戰役後には印度方面に甲谷陀線を開きたる外、各遠洋航路を改善充實すると共に東洋近海に幾多の航路を擴張し、大正十一年には經營航路大小併せて三十五航路に增加し之に就航せる船舶は百七隻、總噸數五十七萬餘噸に達した。

而して大正十二年近海郵船株式會社を創立し資本金一千萬圓、船舶二十二隻、總噸數五萬四千五百餘噸を出資して近海航路の大部分を其獨立經營に移し、大正十五年には資本金を一億六百二十五萬圓に增資し東洋汽船會社の重要航路桑港線竝に南米西岸線の營業權と使用船舶九隻總噸數九萬八千噸を繼承し、茲に南北太平洋航路及び南米東西兩岸航路を統一した。昭和三年には約八千萬圓の巨費を投じ、淺間丸、龍田丸、鎌倉丸等の優秀客船九隻、總噸數十二萬餘噸の建造を行ひ桑港線、シアトル線、歐洲線、南米西岸線に夫々就航せしめた。

次で支那事變勃發後の事態に即應するため、昭和十四年八月十六日近海郵船會社を合併して天津・神戶間、大連・長崎・鹿兒島間、天津間、神戶・基隆間等の航路を繼承したが同年十月東亞海運會社設立に伴ひ日華聯絡線、阪神橫濱・上海線、靑島・神戶・天津線等を同社に移讓し今日に及んでゐる。同社は目下尨大なる優秀船舶建造計畫中で、今春來紀元二千六百年の船として好評を博した新田丸及び八幡丸の兩船を業界に送りたる外、現在第三船春日丸を始め橿原丸、出雲丸、三池丸、三島丸等一萬噸級—三萬噸級の快速船二十餘隻〇〇萬噸を建造中である。

主要航路

桑港線	二週一回
シアトル線	二週一回
紐育線	三週一回
中南米ガルフ線	月一回
南米西岸線	月一回
倫敦線	二週一回
北欧線	二週一回
東航世界一周線	四週一回
李浦線	月一回
漢堡線	月一回
日本近東伊太利線	月一回
濠洲線	月一回
日本南洋濠洲線	月一回
孟買線	月三回
マドロス線	月一回
甲谷陀線	月三回
北海道北支線	月一回
內南洋線	月六回
基隆神戶線	月八回
高雄神戶線	月二回
鹿兒島長崎大連線	月六回
內地臺灣線	月六回
高雄東京線	月三回
高雄仁川線	月二回
橫濱營口線	月三回
小笠原線	月三回
名京濱小樽線	月二回

大阪惠須取線　月二回
阪神小樽線　月二回
函館千島線　月五回
函館根室線　月二回
函館樺太線　月二回
小樽惠須取線　月五回
大治線　月五回

【職制・幹部】▲社長大谷登 ▲副社長 寺井久信 ▲常務取締役 淺井虎之助、中島精一、永島義治、大矢新次、金綏一榮、莊田雅雄 ▲課長 和田二郎（庶務）市原章則（企畫）森野喜由（貨物）生駒實（船客）後藤忠治（海務）鈴木恒太郎（工務）松本光三（會計）鈴木恭藏（調度）濱壓房（勞務）林友作（近海部營業）渡部知貞（近海部船舶）▲支店長 小原又作（東京）柳瀨省吾（横濱）蘆野正（名古屋）河原愼男（大阪）高橋一雄（神戸）片岡種美（門司）丸山傳（函館）松尾豐美（小樽）中村三雄（基隆）伊藤格（大連）竹井毅（天津）渡邊康策（上海）矢島安造（香港）山田朝彥（新嘉坡）上村廣治（孟買）河島利助（甲谷陀）金綏一榮（倫敦）小倉鋼一（紐育）長谷川友實（シアトル）田岡彌平（桑港）木村憲次（ホノルル）紳田續次郎（若松）森永幸平（營口）▲其他略

大連汽船株式會社

明治四十四年六月設立された北清輪船公司は大正二年一月其の組織を變更し大連汽船合名會社と改稱し、次で大正四年一月滿鐵は將來に於ける全滿貿易の掌握及び我が帝國權益の滿蒙に於ける發展强化と云ふ遠大な理想竝に運賃政策、輸送圓滑と云ふ點から撫順炭其他の輸送を海陸一貫したる方策に置くと云ふ意味から別働隊として資本金五十萬圓を以て現在の大連汽船株式會社を設立して大連汽船合名會社の業務一切を繼承同年二月海運業及び倉庫業を開始した。同社創業當時關東州及び北支那沿岸に於ける日本人海運業は漸く發展の機運を示したが尙上海、青島、廣東、香港等を根據とする外國船は盛に活躍し其勢力牢として拔くべからざるものあり、此の間に立ち爾來二十數年間銳意經營の充實と航權の伸長を計り以て渤海及び支那沿岸航路に覇を稱へるに至りたるのみならず日滿間、南洋を始め東洋一帶は勿論、遠くは歐洲方面に迄航跡を印するに至つた。昭和六年滿洲事變勃發し翌八年滿洲國の建國となるや、滿鐵は滿洲國交通運輸部門の主軸的動脈たるの任務を有するに至り、當然同社も滿鐵の海上延長機關たるの性質を通じて滿洲國全貿易發展に協力する海上部門擔當者たるの性質を具有するに至つた。而して昭和十四年末に於ける所有船舶は五十六隻××萬三千五百九十二總噸、傭船十六隻三萬二千五百九十三總噸、合計七十二隻、××萬六千百八十四總噸で資本金二千五百七十五萬圓である。

▽經營航路

大連青島上海線
大連天津線
安東天津線
大連龍口線
大連壺蘆島芝罘線
大連天津青島上海線
大連台灣線
大連新潟線
大連阪神線
大連京濱線
其他不定期航路

【職制・幹部】▲社長 安田柾 ▲專務 川村龍雄 ▲常務取締役 吉富金一 高木盤雄（營業部長）島田信吉（總務部長）▲取締役橫田貞藏（船舶部長）佐藤信二（神戸支店長）西村實造、酒井清兵衛 ▲監査役 隅田虎二郎、折田有信 ▲課長 水地慶治（庶務）高崎太平（會計）山崎水哉（貨物）高山謙一（船客）中村太次馬（海務）多賀信隆（調度）▲船舶監督 須県梁平、高橋小太郎 ▲支店長 鶴野政三（上海）佐藤信二（神戸）久保三郎（天津）竹林安吉（營口）高山富三（青島）中西家太郎（東京事務所長）山岸庫太（神戸在勤船舶監督）

阿波國共同汽船株式會社

阿波國共同汽船會社は明治二十年の創立にかゝり日清戰役後夙に北清航路に着目し明治三十二年第三共同丸（總噸數約二百噸）を廻航し芝罘旅順間に就航したのが始めである。

明治三十七年日露戰爭勃發するや第六共同丸、第七共同丸は御用船となり其後北清航路開拓に邁進し邦船としてその嚆矢を爲したものである。次いで三十九年仁川、鎭南浦、龍岩浦、安東縣、大連、旅順、芝罘間の航路を開始し、同年更に芝罘大連安東航路を開拓、歐洲戰爭により青島が我日本の管理となるや直に大連、芝罘、青島航路を、昭和三年六月より大連、鎭南浦、天津航路を、また今次事變を契機とし朝鮮物產の北支進出促進の爲西鮮天津線を開拓し十五年四月西鮮天津線を仁川天津線、鎭南浦天津線の二航路に區分し、夫々朝鮮總督府の命令航路となつた。次いで東亞海運會社設立さるゝや同社も之に參加し、大連芝罘青島線、大連芝罘線の二航路を昭和十四年八月十二日限り同社に讓渡せり。

現在北支那朝鮮航路左の如し。

大連—芝罘—仁川線、西鮮—天津線、安東—芝罘線、營口—龍口線

【職制及幹部】▲組織 取締役社長—支配人—總務部（庶務課、會計課、用度課）營業部（企畫課、船舶課、業務課）大連支店、小松島支店 ▲幹部 會長（西野嘉右衛門）社長（新居圭藏）常務（西野省三郎）支配人（天羽壽郎）營業部長（新村喜源司）總務部長（富永國太郎）小松島支店長（薗本甚三郎）大連支店長（上崎潤次郎）

嶋谷汽船株式會社

前社長嶋谷德三郎氏が明治二十三年より經營せる個人營業を大正六年五月之を繼承し資本金五十萬圓を以て組織せる株式會社に變更し其の創立を見た。爾來順調の發展を遂げ逐年隆昌に赴き大正七年二月には資本金を倍額に增資し、同年八月には二百萬圓に大正十五年六月には三百萬圓に昭和八年七月には更に五百萬圓に增資し、昭和九年十一月には昭和三年十二月來分離し居りたる嶋谷商船株式會社（本社小樽資本金一百萬圓）を合併せるため六百萬圓に增資し、更に昭和十二年六月に八百萬圓に增資（全額拂込濟）し今日に及んで居る。

創立當時の所有汽船は六隻總噸數六千五百七十二噸であつたが現在に於ては二十一隻重量噸數〇萬六千五百十噸に激增せる外更に造船中のもの五隻約二萬四千噸がある。

定期航路—朝鮮北海道大連線、北鮮北海道線、伏木根室線、北海道北支線

【職制及幹部】取締役會長（嶋谷武次）取締役社長（嶋谷勇）專務取締役（嶋谷俊郎）、取締役（米谷清重、若林純雄）監査役（重田英一、西大路隆和）小樽支店長（嶋谷俊郎）、大連支店長（能口惣一）伏木出張員（山崎常一）京城出張員（原榮一郎）清津出張員（岩淵綱五郎）

朝鮮郵船株式會社

朝鮮郵船株式會社は朝鮮產業開發上極めて重大性を持つ海運業の發展を期するため明治四十五年京城に設立されたもので當初は資本金三百萬圓、所有船舶も二十六隻、六千餘噸に過ぎなかつたが近時半島產業貿易の飛躍的伸展に伴ひ今日では其の資本金も一千萬圓に增資し×萬噸の船隊を擁して居る。

當社ハ現在朝鮮總督府命令航路十線、自營航路四線ノ定期航路ノ他各方面ニ臨時配船ヲシテヰルガ就中滿支關係航路トシテハ北鮮三港經由滿洲ニ通ズルモノニ北鮮新潟線、北鮮敦賀線、北鮮東京線、北鮮大阪線ノ四航路アリ、安東經由ニ西鮮東京線、西鮮大阪線、大連經由ニ鮮滿九州線等ガアル又對支航路トシテハ今次事變ヲ契機トシテ西鮮ト青島、上海ヲ直線ニ結ブ西鮮青島上海線並ニ北鮮南鮮ト上海、青島間ニ北鮮上海線ノ二航路ヲ開設セル他西鮮方面カラ北支中支各方面ニ臨時配船シテ時局下鮮支間ノ交通運輸ニ當リ斯クテ日本海、渤海灣ノ湖水化鮮支間最捷連絡ノ實現ニ活躍シテヰル。

【職制・幹部】社長（榛木幹雄）專務（廣瀨博）庶務課長（黑澤寬）營業課長（遠山清）船舶課長（劍持武）會計課長（今井金之助）

東亞海運株式會社

東亞におけるわが海運の確立は興亞聖業

の重要なる一環をなすものであり政府竝に民間海運業者は夙にこれが對策につき協議を重ね、東亞を一體とする海運會社の設立を企圖してゐたが昭和十四年八月東京に於て東亞海運會社創立總會開催の運びとなり同年十月一日より營業を開始するに到つた。

本社の設立は日支提携互助連繫の確立の立場からも重要なる一側面をなすものでわが國海運の綜合力を發揮するものだけに今後日支間及び支那における海上交通路は急速なる整備をみると共に今後は從來の面目を一新するであらう。

一、資本金　七千三百萬圓
一、目的　（イ）日支間、支那沿岸、支那、外國間などにおける海運業經營（ロ）碼頭、倉庫業の經營（ハ）附帶事業の經營竝に關係事業に對する投資

▽經營航路

北支線―阪神天津、横濱天津、阪神青島、横濱青島
中支線―横濱上海、日華聯絡（長崎上海）、神戸上海、阪神上海、阪神中支
西支線―阪神南支、基隆厦門、基隆南支、高雄上海、高雄天津
沿岸線―上海天津、大連芝罘青島、天津南支、大連南支、上海南支、青島連雲港、其他

【職制及幹部】　▲取締役社長　清水安治▲取締役副社長　内田茂▲專務取締役　長岡信捷（總務部長）中川幹太（上海駐在）、山本武夫（北京駐在）、近藤復（船舶部長）▲取締役澁井謙吉（營業部長）山中喜一（上海駐在）堀新、太谷登、岡田永太郎、古川虎三郎▲監査役　安田鑛三郎、鑄谷正輔、岡崎忠雄

日本海汽船株式會社

日本海汽船株式會社は昨冬日本海航運鞏化を擔任すべき國策會社として日本汽船會社、大連汽船會社及朝鮮郵船會社の三社出資のもとに創立せられ、北日本汽船會社經營中の日本海横斷航路一切の權利其他を繼承し、同年二月十一日紀元二千六百年の佳節をトして營業を開始した。

日本海航路の配船に就ては、北日本汽船會社經營當時より優秀船の新造又は購入等に依り、永年日滿亞歐連絡の强化に專念して來たが、同社創立未だ一年に滿たざるに、昨春は伏木北鮮線に三千噸級新造船射水丸を配し、今春は新潟北鮮線に新銳白山丸（四千五百噸型純客船）を配し、引續き今年中には白山丸型新造優秀船二隻の配船を見んとする等大いに國策に順應し、日滿連絡に一大革新を齎らしてゐる。

現在資本金參千萬圓、所有船舶十三隻、重量〇萬三千餘噸、定期航路五線に及んでゐる。

△經營航路

新潟北鮮線、敦賀北鮮線、敦賀北鮮浦鹽線、伏木朝鮮線、伏木朝鮮東岸線

【職制及幹部】　▲社長　野村治一良▲專務取締役　築島信司▲常務取締役　松浦暢▲取締役　村田省藏、西村實造、櫟木幹雄▲監査役　森信次郎、生駒高常▲總務部長　高木陸▲課長　荒川浩（庶務）長澤金之祐（經理）▲營業部長　飯田利信▲課長　近藤善衛（貨物）廣瀬以誠（船客）和田賢一（連運）▲船舶部長　兼工務兼海務課長　松原文夫

北日本汽船株式會社

南樺太と北海道を連絡する諸航路が南樺太領有當時より區々の船主により受命經營せられ統一が缺けてゐたのと主要貨物たる同島の海産物漁獲年々消長あり各船主の經營容易ならぬと見て樺太廳は關係各船主を慫慂、合同して新會社を組織、昭和三年には吉會線全通を期待し敦賀清津直航線を開始し昭和四年には大阪商船會社より敦賀浦鹽斯德線を繼承し次で日本海横斷日鮮滿連絡航路の基礎を創設し又昭和十年四月日本海汽船株式會社を創立して新潟起點とする日鮮滿連絡航路を經營することゝなり、昭和十三年十月には北陸汽船株式會社を併合して伏木北鮮航路の强化を計り、更に又昭和十四年二月には前記日本海汽船會社を合併し、斯くして日本海湖水化の先驅者として日滿交通上國策の線に沿うて益航路の改善擴充

に努めつゝあつたが、十五年二月新に日本海汽船會社創立さるゝに及び朝鮮郵船、大連汽船等と合同出資し、北鮮航路を擧げて同社に移譲した。

【職制及幹部】　▲社長　野村治一良▲常務取締役　森信次郎、森田初三郎▲取締役　嶋谷武次、村田省三山本厚三▲監査役　堀　新、栗林德一、田邊貞造▲東京本社支配人　飯田利信▲小樽營業所各課長　江崎勝郎（庶務）坂爪善造（營業）森信次郎（船舶）江崎勝朗（海員）野崎美太郎（經理）

北滿江運局（滿鐵）

松花江に支那の船舶が航行し始めたるのは一六五八年戎克にて吉林より松花江を下り黑龍江に入りて璦琿に至る間を警備したのに始まりたると傳へらる。然し本格的に汽船の運航をみたのは一九〇二年露西亞が東支鐵道の建設材料運搬船を敷設完了後、尙商船隊として殘留せしめ哈爾濱、ハバロフスク間の貨客輸送を行ひつゝ漸次江上勢力の增大を計りし爲一九〇七年時の東三省總督徐世昌が彼等を驅逐する目的にて九隻の商船を浮べたに始まる。帝政露西亞の沒落と同時に彼等の持つ民有船の過半が支那官民に買收され初めて支那の一大航運勢力が築かれるに至つた。其の後支那官憲は極力航權の回收に努め一九二六年東支鐵道の埠頭と所屬船を接收したるを最後として完全に蘇聯の勢力を松花江から驅逐し之を新興滿洲國が引繼ぎ今日に及んだのである。而して北滿水運は昭和八年三月に滿鐵が國有鐵道と同時に港灣河川の委託營業を受け官有船舶を引受けたのを契機として、四月に官民全航運業者を一團としたシンヂケート哈爾濱航業聯合會を設立して北滿航運業の一大統制を斷行するに至つたが、昭和十四年航路五千餘粁を包括する事業の一切は滿鐵に引繼がれ同社北滿江運局によつて運營せられてゐる。

華北交通水運局

昭和十四年六月天津の英佛租界封鎖に關聯し、天津特三區埠頭の營業開始によつて水運經營に着手した華北交通會社は、逐次經營路線を開拓して翌十五年初には八百粁に伸長、次いで同年四月には中國内河航運公會の業務を繼承して河川行政事務を代行することになり、一般民船の統制指導に乘り出した。更に同五月からは從來の汽機船の外に民船による貨物運送を開始、民船千五百隻を動員し、數十隻からなる大船團を編成して定期的に運行してゐる。

運營路線も急速に伸張して同六月には三千二百粁となつた。主なる經營河川は・

大清河（天津―保定）	二一六粁
子牙河（天津―邯鄲）	七五五粁
南運河（天津―新鄕）	一、〇六九粁
小清河（北關―羊角溝）	二七六粁
大運河（安居鎭―淮安）	五六五粁
北運河（天津―通縣）	一四三粁
東北河（天津―胥各莊）	一三九粁

昭和十五年五月から十一月に至る半年間の輸送計畫によれば定期配船五十萬瓲、臨時四六萬瓲計九十六萬瓲を目指し異常な意氣込みを示してゐる。

鴨綠江輪船公司

由來鴨綠江上流地帶は陸路の交通不便を極めて居ると共に鴨綠江の水路も亦水深淺く難瀨岩礁各所に列在し水流又急であるため機械船運航等は全く不可能とせられ、纔かに舟筏通ずるに過ぎない狀態であるので飛行機エンヂンを應用し空中推進裝置による淺吃水船により大正十一年楚山中江鎭間同十三年中江鎭新乫坡鎭間、總延長三二七浬の運航に成功するに至つたもので、之が現在の鴨綠江上流行唯一の交通機關であるプロペラー船の起源である。以來朝鮮總督府命令航路として現在七隻就航してゐる。

昭和十二年中取扱旅客數は一萬五千餘に及んでゐる。

天候如何により一定せざるも毎年十一月中旬より翌

年四月上旬迄は結氷のため休航してゐる。

上海內河輪船公司

事變後日支合辦により創立せられた本公司は中支河川唯一の交通機關として民船の就航を準備中であつたが、昭和十四年五月中旬次の通り一般貨客の輸送を開始した。尚本公司は內河沿岸の治安恢復に從ひ逐次航路を擴張する豫定である

支　店　杭州迎紫路二七
出張所　拱宸橋大同路七六

航　路

一　拱宸橋—塘棲線(四五支里)一日三往復、所要一時間三十分、料金三〇仙
二　拱宸橋—德淸線(七五支里)一日一往復、所要三時間、六十仙
三　拱宸橋—三墩鎭—餘杭　二時間、五〇仙

航　空

大日本航空株式會社

日本に於ける航空輸送事業は昭和三年十月一千萬圓の資本を以て日本航空輸送株式會社を設立せるに始まり、爾來十年同社は政府保護の下に斯業の開拓經營に努力する所あり、昭和十二年六月には資本金五百萬圓を以て國際航空株式會社の設立を見たりと雖も、高速度交通機關の機能を完全に發揮し、興亞大業遂行の先驅たらしめんがためには、更に豐富なる資本と充分なる政府の保護助成を必要とするに至り、昭和十三年末現大日本航空株式會社法制定され、翌年更に大日本航空株式會社を設立した。資本金一億圓の中三千七百二十五萬圓を政府自ら出資し、現大日本航空株式會社を母體として茲に一大航空國策會社の設立を見、十月一日より營業を開始した。仍ち本會社は航空輸送事業の畫期的振興を圖るを以て目的とし、國內及國際航空輸送事業の獨占的經營に任ずる國策會社にして其使命は寔に大なるものありと謂ふべし。

現在日本內地はもとより臺灣、朝鮮、滿洲、支那の各地及び南洋パラオに其航空路を延ばし、近く東京盤谷間の定期航空も開始されんとし、南洋より北米に到る定期航路も行く〳〵は本社によつて創始される筈である。近く國際航空輸送協會に正式加入し世界各國航空會社との連絡を一層緊密にする豫定である。

△**就航飛行機名**

フォッカー三M	一〇人乘
ハインケル	六人乘
川西式四發飛行艇	二〇人乘
中島式P一型郵便機	
中島フォッカースーパー ユニバーサル水上旅客機	六人乘
中島フォッカースーパー ユニバーサル陸上旅客機	八人乘
三菱エアースピードエンボイ陸上旅客機	九人乘
中島AI陸上旅客機	一二人乘
ロッキード14WG—三型陸上旅客機	一四人乘
ダグラスDC—二型陸上旅客機	一八人乘
ダグラスDC—三型陸上於客機	二五人乘
ビーチクラフト	
川西四發飛行艇	
三菱一型輸送機	

【職制及幹部】　▲總裁　中川健藏▲副總裁　齋藤武夫▲總務理事　片岡直道▲常務理事　有地十五郎、永淵三郎▲理事　永淵三郞、齋藤外男▲部長海洋(松永壽雄)企畫(永淵三郎)▲總裁室　秘書　小笠原隆　人事課長　永田利夫▲庶務部長　可兒滿壽夫、庶務課長　鈴木一郞　監査課長　吉田寧平▲企畫部長　永淵三郎　企畫課長　長谷川昌夫、調査課長本田敬之、國際課長　細野軍治▲營業部長　齋藤外男、業務課長安永德隆、乘客課長　薩原友信、郵便貨物課長　古賀穰▲經理部長　立川緊、會計課長　上垣內新一、調度課長　小笠原隆、營膳課長　鼻中卓△運航庶務課長　井上正鑑△運航通信課長　丸山茂富△乘員監督　小川寬爾▲東洋部長　(國內、滿支兩課長兼務)▲下山俊作▲歐亞部長　(歐亞課長兼務)森蕃樹▲海洋部長　松永壽雄、南洋課長　淺香良一▲技術部長　向坂六部、補給課長　小池武夫、整備課長　齋藤秀彥、檢査課長　藤林源藏

滿洲航空株式會社

滿洲に於ける商業航空は滿洲事變前、當時の中華民國政府によつて、滿洲橫斷航空路たる京濱線(北戴河・錦州・奉天・長春哈爾濱)が計畫されたが實現に至らず、一方日本では日本航空輸送株式會社をして、滿洲大陸への航空開拓として空路延長を計畫せしめたが、舊東北政權の暴戾なる行動に阻害され、その航空路は昭和四年四月、東京大連間を連絡したのみで終つた。

然るに滿洲航空會社は事變後の大同元年(昭和七年)九月日滿合辦資本金國幣三百八十五萬圓を以て設立せられ旅客貨物及郵便物の航空輸送、航空機の製造及び修理を主要業務として同年十一月營業を開始したが康德五年八月現在に於て定期空路總延長粁程は一萬二千餘粁に達し、日、滿、華、蒙疆間の國際航空路を始め國內政治經濟の主要都市は悉く其の航空網の下にあり、設立後僅か七年にして今日の如き畫期的發展を遂げたことは眞に驚異的記錄とされてゐる。資本金は現在三千萬にして康德六年一月の機構改革により總務部、航空處、補給處、寫眞處、東京支店の五機關を有してゐる。

△**就航飛行機名**

ユンカース八六型	一〇人乘
プスモス(滿航式三型)	二人乘
隼式一型	六人乘
スーパー(滿航式一型)	六人乘
國光式一型	八人乘
タイフン機	三人乘

【職制及幹部】　▲社長　牧里正迪▲副社長　王茲棟▲常務取締役　武宮豐治▲總務部長中富貫之(庶務課長淸水行兵衞、人事同黑川淸、經理同鹽谷俊次、監査同鹽谷俊次)▲東京支店長(佐川積庶務課長荒井金次郞、調度同木島馨)▲航空處長河井田義匡(庶務課長新井七郞、運航同原田三郞、器材同隈　政太、通信同河原畑作太郞▲乘務員養成所長河井田義匡▲奉天管區長美濃勇一、新京同都築德三郞、哈爾濱同中島光治、牡丹江同片桐保一郞、齊々哈爾同淸水淸兵衞住木斯支所長、米津太平▲寫眞處長柴田秀雄(庶務課長田邊輝彥、營業同甘田　勝、作業同片岡健次郞、北京出張所長池田松三郞)▲補給處長佐川積(庶務課長秋田吉太郞、補給同平野良雄、檢査同高橋正、整備工場長柴入春吉)

中華航空株式會社

昭和十一年十月十七日冀察政務委員會と日本との間に航空協定が成立し、日支雙方より新航空會社設立委員を擧げ該協定書に基き中日合辦組織の航空會社の設立準備に着手、十一月七日に惠通航空股份有限公司なる名稱の下に成立、十一月七日より營業を開始した。

今次支那事變の戰果擴大と共に全支を一丸とする航空會社の設立が要望され、中華民國臨時政府、中華民國維新政府、蒙疆聯合委員會の三政權によつて航空會社設立に關する協定が結ばれこれが共同命令に基き昭和十三年十二月十七日惠通航空股份有限公司を統合し中國法人として「全支航空一元化」を目標とする中華航空株式會社が北京に設立され、翌十八日より營業が開始された。當初の資本金は六百萬圓にすぎなかつたが昭和十五年五千萬圓に增資現在に及んでゐる。

△**就航飛行機名**

ダグラスDC三型	二十一人乘	旅客機
ダグラスDC二型	十四人乘	旅客機
ロッキード十四型	十一人乘	旅客機
中島式AT型	八人乘	旅客機
スーパーユニバーサル	六人乘	旅客機
ビーチクラフト	三人乘	旅客機
プスモス	二人乘	
小型患者輸送機	二人乘	
九七式改造旅客機	十人乘	

【機　構】　▲總裁—總裁室—(企畫委員會、秘書、總務部(庶務、文書、人事各課))▲總裁—▲副總裁—▲常務理事—財務部(經理、會計、用度、營繕各課)營

業部(業務、旅客各課)運航部(運航、運航保安各課)技術部(補給、整備、檢査各課及北京工場)上海支店、華中管理局、廣東管理局▲總裁— ▲副總裁—東京支店、蒙疆管理局、華北管理局

【幹部】▲總裁 兒玉常雄▲副總裁 辻邦助 胡訥泰 ▲理事 安邊浩、新井三郎、干景陶、齊藤武夫 張徵康、謝文達、秋澤穗、杜運宇、中山賴道、吉田忠郎▲監事 森村勇、伊藤紘、祝伊才、吳仲賢▲上海支社長 安邊浩▲東京支店長 新井三郎▲部長 秋澤穗(財務)干景陶(營業)石川祥一(運航)赤石右(總務)西川德吉(技術)▲管理局長 德富清一(華北)中山賴道(華中)成富汎愛(蒙疆)佐倉光(廣東)

中國奧地航空網

戰前に於ける支那民間航空は上海に本社を置く米支合辦中國航空公司、獨支合辦歐亞航空公司に二分され、地方的には北支に日支合辦惠通航空公司、南支に官民合辦西南航空公司が存在した。

事變勃發と共に中國、歐亞兩公司は蔣政權の手によつて軍用化され、戰果の擴大と共に航空網を縮少して奧地に移つた。

目下中國航空公司は重慶に、歐亞航空公司は昆明にそれ〲本社を置き共に奧地に於ける連絡飛行を行ひ、他方援蔣諸國の航空路香港、河內に於て連絡しつゝあるが、器材の不足と英佛の今次歐洲大戰による敗退によつて、其海外ルートも危殆に瀕しつゝあり、現在は僅かに米國のパン・アメリカン・エアウェイズの太平洋橫斷線と香港に於て連絡するのみである。

兩公司の現行空路は重慶香港線、重慶—哈密線、重慶—成都線及び重慶を中心とする嘉定、桂林、貴陽、昆明等を結ぶ不定期線であるが、蔣政權の運命と同樣兩公司とも崩壞の危機にある。

西南航空公司は事變勃發による乘務員の召集と器材の不足によつて休業したが、一方昭和十四年蘇支合辦により西北航空公司が創立され、蘭州を中心とする西北支那の航空を實施し、同時に重慶—モスコー線を擔當してゐる。支那事變を機として侵入した蘇聯系の航空會社で、蘇聯の動向と共に將來注目されてゐる。現行航空路は哈密—蘭州—アラムータ線、蘭州—寧夏線、蘭州—西寧線、蘭州ー凉州線等である。

自動車・電車

鐵道總局自動車局

滿洲建國後國道の新設に伴ひ自動車運輸業は急速な進歩を示してゐるが世界文明國の現狀に比ぶれば各種の事情に阻まれてまだ劣勢である。然しながら自動車は陸に於て鐵道に亞ぐ主要交通機關であり又產業開發、治安の維持、國防線確保等に重大な關係を有するを以つて滿洲國は左の如き自動車路線を國營として國有鐵道に兼營せしめてゐる。

(イ) 鐵道と競爭立場に立つ路線

(ロ) 鐵道の代用たるべき路線

(ハ) 治安維持竝に產業開發に必要なる路線

尙右以外の一般路線は民間の經營に委ね大體に於て一路一線主義の下に統制することゝした。斯くして滿洲に於ては各國鐵道が苦杯を喫した自動車交通との競爭もみられず鐵道自動車の經營は永久的な共存共榮策が確立し相携へて產業開發、國防治安の維持に貢獻することゝなつてゐる。

現在鐵道總局經營の路線は百八十餘線、一萬五千餘粁、此內には道路不良等の關係で季節に依り運行を休止する區間もある。

交通量未だ多からず、一日一往復の運行を以て足る程度の處もあり、車輛の壽命は道路及び氣候不良により甚だ短く、收支の均衡を得ること困難であるが、今後治安が確保され地方產業開發の進展に伴ひ其成績は次第に向上するものと見られ昭和十四年度中の旅客輸送數は四十五萬余であつた。

華北交通會社自動車局

華北は支那事變前には略系統的な路線網を形成し、通車可能道路は約二萬四千粁に達し、約二千輛の自動車で凡そ一萬粁を運行してゐた。事變と共に之等の自動車は悉く支那軍に徵發或は燒却せられ、道路も破壞されたもの多く、支那側の自動車運行は殆ど停止してゐたのである。

鐵道網の密度が極めて低い北支や蒙疆に於ては、鐵道の補助或は代行機關として自動車の役割は特に大きい。華北交通創立當時四千粁の路線は昭和十五年十月一萬二千粁に達した。而も最近において每月一千粁近くの伸張張りを示し、鐵道との綜合經營の效果を發揮してゐる。尙別に蒙疆政府は蒙疆汽車公司を設立して路線四千餘キロを經營せしめて居り、道路建設の進捗につれて自動車路線は急速に伸張される豫定であり、昭和十七年末迄に全延長二萬粁に達するであらう。昭和十四年度は未曾有の水害のため一時全路線運行不能に陷つたが尙旅客約六百七十萬人、貨物約二十五萬噸を運送し、前年度に三倍するの成績を收めた。

自動車の開通によつて事變以來萎縮してゐた奧地物資の出廻りを促進し、聯銀券の流通範圍を擴大せしめてゐること、更に之に伴ふ民心の安定、防共治安上の効果など直接又は間接の好い影響は測り難いものがあらう。主要路線は百四十餘に及んでゐる。

華中鐵道會社自動車課

本社設立により約一千粁の營業路を有し尙引續き自動車新路線の選定と運輸諸施設充實に邁進しつゝあり、江蘇、浙江、安徽三省の長途バスをも近く經營に移す豫定である。

昭和十四年度に於ては約四十五萬人の旅客を輸送した。

大連都市交通株式會社

大正十五年六月滿鐵が附帶事業として經營せし電氣事業を分離獨立せしめ南滿洲電氣株式會社を創立せしに始まり、滿洲國の誕生と共に滿洲國電氣事業の統制に伴ひ所有電氣供給事業を滿洲電業株式會社に讓渡して交通事業のみとなり社名を大連都市交通株式會社としたものである。當時經營の電鐵事業は明治四十二年九月當時滿鐵運輸課電氣係の附帶事業として大連市內に開通せしに始まり、又乘合自動車事業は昭和二年六月旅大自動車會社を買收經營すると共に市內竝郊外にと年々膨脹を續け今日に至つたのである。

其の後同種事業に對する投資としては、昭和十年には新京交通株式會社、同十二年には奉天交通株式會社、同十三年には安東奉北・天津・靑島の各交通株式會社、同十四年には奉南交通株式會社に投資をなしてゐる。現在資本金一千五百萬圓。

【職制及幹部】▲社長 山岡信夫 ▲常務取締役 九里正藏▲取締役支配人 稅所壯吉▲取締役 賀來之憲、濱田有一▲監査役 立川嚴介、中西幹愛▲參與 安東猷二▲企畫部長 提積章▲運輸部長 野間口正人▲奉天支社長 常務取締役兼▲新京事務所長 天方宗昭▲課長 松元廣盛(庶務)奧村政五郎(人事)森實銈造(經理)河野定治(業務)提積章(兼資材)山本貞一(電車)北井正太郎(自動車)野間口正人(兼養成)山本義男(計畫)

奉天交通株式會社

康德四年二月十一日滿洲國の國策に從ひ奉天市公署と大連都市交通株式會社の協同出資によつて資本金貳百五拾萬圓を以て設立、從來奉天及撫順市內乘合自動車を營業とせる滿洲自動車運輸株式會社(通稱黃バス)竝に奉天市內市電を營む奉天市電車廠と奉天電車株式會社は夫々奉天交通株式會社に一切の業務を繼承して奉天市內の交通機關は統制されたのである。其の後康德五

年六月一日に撫順の山口タクシー商會を買收して、撫順市內の自動車交通は觀光バス、タクシーと共に完全に一元化され、續いて今年六月十日には奉天郊外交通株式會社を、十月には遼海長途汽車公司、十一月には鐵法長途汽車公司、尙十二月二十五日に海城利通汽車公司を買收併合した。明けて康德六年一月に興隆長途汽車公司を、三月に協榮公司を引繼ぎたる同社は國策の線に沿ひ事業の擴大强化を計り、康德六年七月資本金を四百萬圓に增資し今後の發展に備へた。現在の營業は奉天市內バス、同觀光バス、同電車、撫順市內バス、同觀光バス、同タクシーを扱ひ、尙郊外線として奉天―遼中、鐵嶺―法庫、法庫―彰武、興京―通化線等を有する。而して康德六年十月鞍山に奉南交通株式會社を設立せしめ、遼海長途竝海城利通公司より買收せる營業權の一切を同社に移讓した。

【職制及幹部】 ▲專務取締役(賀來之憲)▲常務取締役(肥田耕三)▲取締役(九里正藏、濱田有一、溝江五月、倉橋泰彥)▲監査役(韋俊民、稅所壯吉)▲庶務課長(高須祐三)▲經理同(永井麗造)▲企畫同(中村實)▲自動車同(遠間武夫)▲電車同(小岩勤)

新京交通株式會社

滿電バスと官吏通勤を專とせる特別市營バスとが夫々銳意其の使命に向つて努力し來りしも特殊的、部分的にて到底建國以來目醒しき都市の躍進に對應すること困難なる情況にありて、必然的に統一經營が要求せらるゝ情勢となるに及び康德二年五月一日交通部竝關東局より新京特別市及南滿洲電氣株式會社に對し夫々統制會社設立に關する訓令あり、爾來兩者に於て各般の準備進められ遂に康德二年七月八日公司の設立を見るに至り、同年七月二十日より營業を開始せり。

康德四年三月吉奉公司を買收し康德六年二月從來の資本金壹百萬圓を國幣參百五拾萬圓に增資し、同七年五月一日竝六月廿日の再度に亙り、料金及路線の改正を行ひ一系統拾錢均一とし新京の發展に備へた。現在の營業路線は市內バス、同觀光バス、郊外線として新京伊通双陽、双城堡伏龍、萬寶山小八家子等にして、投資會社吉奉交通會社をして懷德伊通兩縣に於ける郊外バスを經營せしめてゐる。

【職制及幹部】 ▲專務取締役(樋口勇九郎)▲支配人(中馬重宗) ▲總務課長(松本忠勝) ▲運輸同(中馬重宗)▲企畫同(稗田貫一)

哈爾濱交通株式會社

電車に在りては民國十六年十月十日哈爾濱電業局が二百八十六萬餘圓の事業資金を以て創業經營せしが、康德元年十二月百六十萬圓の評價を以て特別市が接收し交通局を設けて經營に當り優良車の增備其他施設の改善に努めたるも更に交通局を會社組織に改め、同五年七月一日公稱資本金五百萬の交通會社を設立し、設備經營の充實を計りつゝある。

又乘合自動車に在りては康德二年一月廿日大汽車公會より特別市が二十三萬八千九百餘圓(車輛買收費七萬三千八百餘圓を含む)を以て買收、之に新車購入車庫建築等設備費を加算して四十二萬三千五百餘圓の事業資金を以つて經營、運轉系統を擴充して名實共に市營バスとしての機能を發揮するに至つた。當時大汽車公會に於て漠然と決定せられたる料金制は市營接收に當り一時に急激なる變革を避くるため其儘踏襲したのであるが、市營買收前は自動車と電車は各異つた形態のもとに經營されてゐた關係上、兩者の間は必然に競爭的立場に置かれてゐたが、康德五年七月交通會社設立により兩者同一經營に大衆交通機關として一段の飛躍をなし、眞に市民の足として其任務を遂行しつゝある。

【職制・幹部】 ▲社長(高恩濤)▲專務(剛崎虎雄)▲支配人(市川孝八)▲庶務課長(村山哲男)經理同(同上)▲企畫同(今福猪太郎)(寺本喜次郎)▲電車同(陳

鐵、中田篤美)▲自動車同(平井 雅)▲車輛工場長(播口虎太郎)

安東交通株式會社

滿洲國交通統制政策に基く安東產業自動車會社は新交通會社に其事業を繼承され昭和十三年十二月三十日を以て營業を開始した。最近東邊道の開拓、水豐滿ダム工事の進捗、鴨綠江河口港(大東港)の着工等に依り飛躍的發展を期待される安東に於ける同社の使命は重大なるものあり、市民待望久しかりし市內バスの實現をみた點に於て先づ多大の好評を博してゐる。

一 資本金 百萬圓

二 營業線(郊外線)安東を中心とする近郊都市內、(市內バス)法院―六合造紙、○安東神社―實業銀行―南三條通―安東神社

【幹部】 ▲專務取締役(井上芳雄)▲總務課長(川口守一)▲經理同(福田茂穗)▲運輸同(西田格武)

奉北交通株式會社

滿洲國第一次產業五ヶ年計畫に即應し、國內に於ける民營自動車運輸事業の統制及擴充を計る目的を以て康德五年十二月二十日開原に創立され、四平街交通公司、開原交通會社、開豐鐵道會社を買收し各社の財產竝營業の一切を讓り受けた。

爾來奉天省北部地域に於ける該事業の統制を企圖しつゝあり、康德六年度に於ては旅客百五十萬、貨物一萬噸を輸送し、業務擴充と相俟ち康德六年十二月本社を四平街に移轉した。

【幹部】 ▲專務取締役 野村富喜▲取締役 賀來之憲、九里正藏、稅所壯吉、野間口正人、提顧章▲監査役 安東猷二、小岩 勳▲總務課長 堀田圭爾▲營業課長 山田 勇(兼)▲開原支店長 馬場良太、▲四平街營業所長 山田 勇

奉南交通株式會社

滿洲國交通事業統制國策方針に基き、遼陽以南州境に至る奉天省南部地域の民營自動車運輸事業統合のため、奉天交通會社遼陽、鞍山、海城に於ける營業及び營口水道交通會社に於ける自動車事業、復縣交通會社事業の一切を買收繼承し、康德六年十一月十日鞍山に設立をみたるものにして、爾來逐次其內容の改善擴充に努めつゝあり。

【幹部】 ▲專務取締役 高野氣次郎 ▲支配人 濱野重雄▲總務係長 奧田福治郎▲營業係長 林初人▲支店長 片寄 閉(營口)伊牟田 勳(瓦房店)

吉林交通株式會社

康德四年吉林市に設立され、爾來吉林省東部に於ける民營自動車の運營を統轄し、逐次社業の充實擴張を計り、康德六年度に於ては約二百十六萬六千餘人の旅客を輸送した。現在運行線は市內バス、觀光バスの外吉蘭、磐樺、吉樺、吉樺江道、磐黑線等があり、煙筒山呼蘭間、煙筒山朝陽山間、紅石磖子樺甸間の新線が、計畫されてゐる。

【幹部】 ▲社長 鴨田保次郎▲常務取締役 岸原稔(經理、保修部長兼)川瀨博司(總務、運輸部長兼)宇都宮晉一(磐石營業所主任兼)▲營業所主任、額田靜夫(樺甸)養口武重(市內線)高野豐次(舒蘭) 張 映(烏拉街)宇都宮晉一(磐石)

蒙疆汽車公司

昭和十年七月滿鐵副總裁は關東軍參謀長の命により北支、內蒙に於ける自動車交通に關する指令を發し、同十一年四月一日華北汽車公司を設立せしめて軍指令にかゝる路線の經營を行はしめたると共に、同年七月一日張家口に張多汽車公司を設立して張家口多倫間の營業せり。

爾來綏東事變竝支那事變勃發するに及び克く軍行動の一助となり、國策遂行の重要機關として活躍を續けて來たが、蒙疆の兵火漸く收まり、蒙疆政權の組織せらるゝに當り、蒙疆汽車公司と改稱せられ、蒙疆地區內に於ける華北汽車公司の別働機關として

重要なる交通運輸事業を經營し、多方面に亘り甚大なる貢獻をなしてゐる。尙昭和十四年五月二十日舊蒙疆聯合委員會令を以て改組せられ、資本金六百萬圓の特殊法人蒙疆汽車股份有限公司と稱し今日に至る。

本公司は單なる交通施設の提供を以て能事とせず、原住民族の習性に基き特に物資交易の範圍にまで業務を延長し、地方開發の基幹として之に參與すべき方針を決し、爾來此處に實力を養成し、來るべき邊疆交通の開設に備へつゝあり。

事業の目的は蒙疆地域內に於ける（イ）自動車運輸事業の經營（ロ）水運事業の經營（ハ）前各號附帶事業の經營にして、蒙疆地域に於ける產業の開發、治安の恢復、鐵道の代行、防共國防の確保等がその使命として擧げられてゐる。

【幹部】▲理事長 溪 友吉▲理事 座間味朝安▲監事 大谷義忠▲課長 藤谷國治（總務、經理）久保淳（運輸、技術）

華中都市交通株式會社

昭和十二年上海事變勃發直後、一時上海時局委員會によつて運營せられた上海虹口郵船碼頭間及び上海神社外白渡橋間の路線は居留民團に引き繼がれ、更に軍の指令に依つて興中公司が翌年早々市政府、大場鎭、玉濱、龍華鎭相互間及び江口との連絡運營を開始した。

更に興中公司の運營せる上海、南京、杭州のバスを中心として、杭州市政府の運營せる路線及び大直公司の蘇州市內、江南產業の上海に於ける江南造船所々員の輸送せるを現物出資せしめ、中支に於ける主要七都市（上海、南京、杭州、蘇州、無錫、鎭江、常州）及近郊のバス運營を目的とし、民國二十七年十一月華中都市自動車株式會社創立總會を開催して直ちに業務を開始した。

而して本社の資本金は三百萬圓にして內百萬圓は中支振興株式會社持、五十萬圓を支那側、他を日本側民間に割當て、大日本電力株式會社が拂込金の一時立替を以てした。

現行營業路線は「自動車路線表」參照

【幹部】▲取締役社長 楊效曾 ▲常務取締役 但馬祐治▲取締役 董明、斐鳴玉、道明義太郎▲監查役 莊士彝、野村義男▲總務課長 伊藤 儀▲營業課長 三宅勝重▲秘書 廣瀨文治

咸北自動車株式會社

本社を朝鮮清津府に置き市內バスは勿論朱乙溫泉、朱乙、羅南、羅津、雄基、清津慶源、會寧、茂山、新站等を長途連絡營業し、北鮮に於ける自動車交通の重要機關である。

昭和十四年度には約四百萬人の旅客を輸送した。

自動車路線表

（昭和十五年九月一日現在）

鐵道總局線

路線名	區間	一人一粁當運賃率
朝撫線	輝南撫松間	五錢
通輯線	通化輯安間	
通甸線	小關子花甸子間	
輯外線	輯安外岔溝間	
通臨線	通化驛臨江間	
勃依線	勃利驛依蘭間	
佳依北線	佳木斯驛依蘭間	
佳依南線	佳木斯依蘭間	
佳富線	佳木斯富錦間	
富寶線	富錦寶淸間	
佳樺線	佳木斯富錦間	
富同線	富錦同江間	
富鶴線	富錦鶴岡驛間	
巴依線	巴彥依蘭間	
通依線	通河大羅密間	
通鳳線	通河鳳山間	
木東線	木蘭東興間	
開法線	通江口法庫間、小溝康平間	四錢
章法線	章古臺驛法庫間	
石岫線	大石橋驛岫巖間	
紅旗街線	安東驛紅旗街間	
鳳大線	鳳凰城驛小黃旗間	
莊岫線	莊河岫巖間	
綏建線	綏中驛建昌間	
綏明線	綏中明水塘間	
虎遼線	大虎山驛遼中間	
開萬線	開魯萬發永間	
開北線	開魯魯北間	
開東線	開魯林東間	
峰瓦線	赤峰上瓦房間	
葉惠線	葉柏壽驛下店子間	
朝惠線	老虎山新惠間	
峰烏線	赤峰驛烏丹城間	
大廟線	三巴火大廟間	
峰多線	赤峰多倫間	
林烏線	林西烏丹城間	
東經線	林東經棚間	
泉喜線	平泉驛喜峰口間	
泉青線	下店青龍間	
凌冷線	凌源冷口間	
建青線	喇嘛洞青龍間	
凌建線	凌源驛建昌間	
泉峰線	平泉赤峰間	
承豐線	三岔口豐寧間	
豐閣線	豐寧大閣鎭間	
朝五線	北平安五道溝驛間	
柳鳳線	柳河五鳳樓間	四錢
錦撫線	小北岔金川間	
通桓線	通化驛桓仁間	
臨撫線	臨江撫松間	
敦甸線	東門大甸子間	
明安線	明月溝驛安圖間	
敦額東線	官地額穆間	
敦額西線	敦化驛前額穆間	
蛟八線	蛟河驛前八家子間	
煙伊線	煙筒山驛伊通間	
九河線	下九臺上河灣間	
九白線	其塔木白旗屯間	
九德線	下九臺四青子間、大青子城子街間	
德農南線	德惠驛農安驛間	
德農北線	德惠驛叢山屯間	
東山線	東京城驛山市驛間	
寧新線	寧安驛新安鎭間	
寧沙線	寧安驛胡家橋間	
東水線	東京城街吊水樓間	
圖琿線	圖們驛琿春間	
寧東線	東寧東興鎭間	
綏寧線	綏芬河驛東寧間	
寧穆線	萬鹿溝穆稜驛間	
梨密線	梨樹鎭平陽間	
梨麻線	梨樹鎭麻山驛間	
東寶線	東安驛寶淸間	
勃桃線	勃利驛桃山間	
千石線	千振街小石頭間	
千依線	千振街依蘭間	
依雙線	倭肯驛雙河村間	
勃通線	大四站三道通間	
佳太線	佳木斯太平鎭間	
佳寶線	沙崗寶淸間	
湯鶴線	長發屯鶴岡驛間	
阿林線	阿城拉林驛間	
通依線	大羅密依蘭間	
珠方線	珠河方正間	
巴東線	巴彥東興間	
呼西線	呼蘭蘭西間	
興東線	興隆鎭驛新街基間	
克綏南線	克音河驛瑞穗村間	
克綏北線	興農鎭大曲間	
三楡南線	後狼窩陶賴昭驛間	
楡白線	楡樹白旗屯間	
四楡線	四家房驛興隆店間	
河楡線	山河屯驛馬家屯間	
常楡線	五常驛楡樹間	
林楡線	拉林楡樹間	
三楡北線	弓棚子大八號間	
孫奇線	北孫吳驛前奇克間	
孫羅線	吳家羅爾莫津間	
黑汗線	黑河汗達氣間	
黑奇線	黑河奇克間	
黑金線	黑河金山鎭間	
肇扶線	肇源扶餘間	
青明線	青崗明水間	
青排線	青崗七排八井間	
齊景線	富拉爾基驛景星間	
泰景線	泰來驛景星間、塔子城札賚特間	
泰杜線	泰來驛杜爾伯特間	
齊杜線	昂昂溪杜爾伯特間	
康同線	泰康驛大同鎭間	
齊甸線	齊齊哈爾驛林甸間	
康依線	泰康驛依安間	
齊寧線	齊齊哈爾驛富裕間	
寧依線	寧年驛依安間	

拉通線　拉哈通南鎭間
墨站線　墨爾根驛四站間
茂長線　茂林驛長嶺間
長楊線　長嶺楊家城間
長雙線　夏家舖雙城堡間
開平線　開通驛太平川驛間
開乾線　開通驛乾安間
前乾線　前郭旗驛乾安間
洮廣線　洮南驛安廣驛間
洮王線　瓦房鎭王爺廟驛間、五間房那金河間
王西線　王爺廟驛西科後旗間
王醴線　王爺廟驛醴泉間
安州線　安達驛肇州間
安青線　正亞青崗間
海拜線　海倫驛拜泉間
東拜線　克東拜泉間
克北線　克山北興鎭間
泰拜線　泰安驛拜泉間
泰西線　泰安城西城鎭間
泰訥線　泰安城訥河驛間
泰依線　劉國忠依安間
拜依線　孫家依安間
海阿線　海拉爾驛阿爾山間
北德線　北安驛德都間
遼歪線　遼陽驛歪頭山驛間
歪撫線　歪頭山驛南花園間
撫城線　撫順驛城廠間
鐵撫線　鐵嶺驛撫順驛間
開石線　原驛開石嶺驛間
奉庫線　奉天驛法庫間
新法線　新臺子驛十間房間、新臺子驛鐵路間

三錢五厘
三錢

法平線　法庫康平間
康遼線　康平遼陽堡間
面家線　八面城八家子間
鄭博線　鄭家屯驛博王府間
海營線　海城驛營口驛間
蓋營線　蓋平驛營口驛間
海岫線　海城驛岫巖間、李家房八岔溝間
蓋萬線　蓋平驛萬福庄間
鞍連線　立山驛廟臺間
安城線　大孤山西城子疃間
河龍線　河深溝龍王廟間
東龍線　大東溝馬家堡間
大岫線　達子革岫巖間
莊萬線　莊河萬福庄間
錦老線　錦縣驛老邊間
錦建線　江家屯建昌間
興城海岸線　興城海岸間
興臺線　興城新臺門間
興梨線　興城梨樹溝間
吐默特線　阜新城東吐默特間
阜北線　阜新城八道壕驛間、白土廠北鎭間
黑山線　黑山大虎山驛間
民彰線　新民驛彰武驛間
阜套線　阜新城哈拉套間
通開線　通遼驛開魯間
開奈線　開魯奈曼旗間
通候線　通遼驛候沁蘇旗間
朝建線　朝陽驛建平間
葉老線　札蘭營老虎山間
朝北線　朝陽北票驛間
北奈線　北票驛奈曼旗間

承圍線　承德驛圍場間
柳孤線　柳河驛孤山子間
山柳線　山城鎭柳河驛間
朝撫線　朝陽鎭驛前輝南間
朝樺線　朝陽鎭驛前樺甸間
羊魚頭線　輯安羊魚頭間
敦額東線　敦化驛前官地間
天寶山線　老頭溝驛天寶山間
延龍線　延吉驛龍井間
龍南線　龍井三道溝間
龍道線　龍井八道河驛間
延肚線　延吉大肚川間
延平線　延吉大平金山間
岔雙線　岔路河雙陽間
磐伊線　磐石驛東營子間
石伊線　石嶺驛伊通間
九布線　下九臺布海驛間
德岔線　德惠驛岔路口間
德農北線　靠山屯農安驛間
農伏南線　農安驛伏龍泉間
農伏北線　農安驛伏龍泉間
大羅線　大興溝驛羅子溝間
琿慶線　琿春慶興橋間
琿東線　琿春東興鎭間
梨密線　平陽密山間
密當線　腰營當壁鎭間
南山線　南山永安驛間
平陽驛線　平陽平陽驛間
橫城線　橫泥河城子河間
東安驛線　密山東安驛間
阿周線　阿城周家驛間

阿甕線　阿城驛甕克圖間
濱巴線　哈爾濱巴彥間
珠山線　珠河小山子間
巴彥港線　巴彥巴彥港間
沈巴線　沈家驛元寶間
濱樂線　松浦樂安鎭間
三楡南線　三岔河驛楡樹間
常冲線　五常驛冲河間、石廟子小山子間
三楡北線　三岔河驛楡樹間
三扶線　三岔河驛扶餘間
小扶線　小弓棚扶餘間
五家站線　蕭家五家站間
陶扶線　陶賴昭驛蔣家間
孫奇線　孫吳驛北孫吳驛前間
鞏扶線　鞏東驛鞏源間
鞏青線　鞏東驛青崗間
齊景線　梅里斯富拉爾基驛間
昂々溪線　齊々哈爾驛昂々溪間
齊甘線　永安街甘南間
甘扎線　甘南札蘭屯驛間
訥布線　訥河驛布西間
訥龍線　訥河驛龍河鎭間
洮王線　三家子瓦房鎭間
洮醴線　洮南驛醴泉間
安拜線　安達驛拜泉間
東拜線　克東驛克東間
克拜線　克山驛拜泉間
海珠線　海拉爾驛甘珠爾廟間
海三線　海拉爾驛三河間
三吉線　三河吉拉林間
安城線　安東驛大孤山間

二錢五厘

二錢

濱房線　哈爾濱平房驛間
立遼線　立山驛遼陽驛間
奉撫線　奉天驛撫順驛間
海立線　海城驛立山驛間
五龍背線　安東驛五龍背間
錦壺線　錦縣驛西海口間、杏山壺蘆島埠頭間
承古線　營房古北口驛間
奶子山線　蛟河奶子山間
京吉線　新京驛吉林驛前間
小豐滿線　吉林驛前小豐滿間
京九線　南關下九臺驛間
牡海線　牡丹江驛海林驛間
牡寧線　牡丹江驛寧安驛間
綏西線　綏芬河驛綏西間
西東安線　東安驛西東安間
濱阿南線　哈爾濱驛阿城驛間
濱阿北線　香坊驛阿城間
滿扎線　滿洲里驛札來諾爾驛間

▽華北交通會社線
▽蒙疆汽車公司線　未報
▽華中鐵道會社線

滿洲民營自動車線

（▲は資本金　△は興業費）

▽新京交通株式會社（▲三五〇萬圓　△四八四萬五千圓）

運行區間	粁當運賃	運行回數	資本金 興業費	開始年月日
新京—市內	三錢均一		千圓	康二、七、一〇
新京市內遊覽		二往復		〃
新京—伊通	三・八錢	二		〃
新京—雙陽	三・八	二		〃
新京—雙城堡	四・〇	一		康三、一・八
新京—伏龍泉	四・五	一		康三、三、三〇
寬城子—萬寶山	四・九	二		康三、三、一五
小合隆—八家子	四・八	二		〃
吳家屯—雙陽	四・〇	一		康七、二、一〇

▽滿洲交通株式會社（▲廿五萬圓　△一二萬五千圓）

運行區間	粁當運賃	運行回數	資本金 興業費	開始年月日
新京—燒鍋店—懷德	四、〇	一		大同二、一二、一六
昌圖—通江口	五、〇	二		〃
八家子—范家屯	四、〇	一		〃〃一一、三〇
八家子—楊家城子	四	一		〃
八面城—大窪—雙廟子	四	三	千圓	〃二、一、一九
昌圖城—白鷺樹	四	三		〃三、四、一五
大窪—寶力屯—昌圖城	四	二		〃三、四、一五
昌圖縣城—馬神河	四	二		〃四、二、一〇

▽吉奉交通株式會社（▲五五萬圓　△五萬圓）

運行區間	粁當運賃	運行回數	資本金 興業費	開始年月日
公主嶺—楊大城鎭	五	一		〃六、二、一五
八家子—泰家屯	五	一		〃六、六、一六（特許月日）
泰家屯—八屋	五	一		康五、一〇、一七（特許月日）
范家屯—伊通	五	一		〃六、二、一五
八屋—雙山	五	一		〃六、六、一六（特許月日）

公主嶺—八家子　五　二　康元、一一、一
公主嶺—赫爾蘇　五　一　〃六、六、二六（特許月日）
公王嶺—伊通　五　二　〃元二、一

▽吉林交通株式會社（▲二〇萬圓　△一二萬圓）
吉林—市内　一區三　一　〃四、二、五
吉林—四家房　四・五　二　〃
吉林—朝陽堡—樺甸　四・五　一　〃
吉林—松花江道—樺甸　四・五　一　〃
樺甸—呼蘭鎭—磐石　四・五　四　〃四、二、五

▽丙通長途汽車公司（▲三萬五千圓　▲四〇〇萬圓）
瓦房—學田地　四　一　〃四、九、五
洮南—高力板　四　一　〃

▽牡丹江市公署（▲一五萬圓　△一五萬圓）
牡丹江市内　一〇　十分間隔　〃六、一、一五

▽哈爾濱交通株式會社（▲五〇〇萬圓　△二五三萬五千圓）
哈爾濱市内　一區一〇　〃二、一、三〇
哈爾濱市内觀光　〃三、六、三〇
桃花巷—松浦　三　二　〃六、四、一一

▽哈賓自動車交通合資會社（△六萬七千圓　▲六萬七千圓）
哈爾濱—賓縣　五　一　〃二、一、三〇
賓縣—新甸　五　一　〃四、一〇、一一
枷板店—高麗帽子　五　一　〃四、一〇、一

▽東亞運輸商會（△三萬五千圓　▲三萬五千圓）
綏化縣城—望奎縣城　四　二　〃四、二、二四
綏化縣城—慶城縣城　四　二

▽哈郭長途汽車公司（▲四萬圓　△四萬圓）
對青山—樂安鎭　四　一　萬圓　四萬圓　〃四、一一、一四

▽合資會社信義洋行（▲三萬圓　△三萬圓）
樂安鎭—肇源　四　一　〃
圖們市内　〃五、四、二五

▽東滿洲鐵道株式會社（△一萬二千圓　▲一千萬圓）
琿春—沙坨子　四　五　〃五、六、一一

▽安東交通株式會社（▲二〇〇萬圓　△九六萬四千圓）
安東市内　〃五、一一、二九
安東—寬甸　四・五　三　〃元、一〇、二四
寬甸—長甸河口　四・六　二　〃元、一〇、二四
太平村—九連城　二・五　九　〃二、五、一一
寬甸—桓仁　五　一　〃三、一一、一〇
橫道川—沙尖子　五　一　〃七、五、一
桓仁—橫道川　五　一　〃七、五、一
鳳凰城—石頭城　四・五　二　〃四、五、二〇
鳳凰城驛前舊市街　五　一〇　〃五、一、一
寬甸—草河口　四・五　一　〃五、一、二〇
長甸城—拉古哨　五　二　〃七、八、一
草河口—舳巖　五　一　〃五、一、二〇
寬甸—沙尖子　五　一　〃五、五、一
本溪湖—宮原

▽奉天交通株式會社（四〇〇萬圓　四七三萬二千圓）
奉天市内　一區五　〃二、九、一〇
奉天市内觀光　〃二、一〇、一〇
撫順市内　一區三、五　〃三、二、二二
撫順市内觀光　〃
奉天—遼中　三・五　一　〃元、五、二九
奉天—冷子堡　二　二　〃四、二、五
奉天—沈旦堡　三　二　〃四、一一、五
鐵嶺—法庫　三、五　二　大同三、一、一
鐵嶺—大甸子　三　一　康德一、三、一
大甸子—白旗寨　三　一　〃四、六、一（特許月日）
南雜木—通化　四　一　〃元、一〇、四
東昌台—桓仁　五　一　〃二、六、三〇
永陵街—桓仁　四・五　一　〃四、一、一五
撫順—化尖子　四・三　一　〃四、一二、二二
新民—法庫　四・五　一　〃三、一二、三〇
彰武—法庫　四・五　一　〃三、一二、三〇
彰武—哈爾套街　四・五　一　〃三、一一、二二
鎭西堡—叉家樓　二・三　二　〃六、一二、二（特許月日）
養馬堡—舊門　三・五　一　〃
孤家子—大青堆子　三・五　二　〃七、二、二

▽奉北交通株式會社（▲一五〇萬圓　△一一七萬八千圓）
開原—八棵樹　三・七　一　〃元、一〇、一〇
八棵樹—梨家台　三・七　一　〃二、三、一五
梨家台—孤家子　三・七　一　〃二、二、二五
孤家子—草市　三・七　一　〃二、五、四
開原—下肥城　三・六　一　〃二、六、一
下肥地—孤家子　四・〇　一　〃
貂皮屯—淳水泉子　四・〇　二　〃三、七、五
貂皮屯—西豐　四・〇　二　〃
草市—山城鎭　四・〇　一　〃三、一、一
淳水泉子—與隆台　四・〇　一　〃三、一、一
孟家寨—下肥地　四・〇　一　〃三、二、二二
孟家寨—馬家寨　四・〇　二　〃四、一一、一三
靠山屯—黃旗寨　四・〇　一　〃
山城鎭—南山城子　二・五　一　〃五、三、八
山城鎭—四平街　三・〇　一　〃
四平街—楡樹台　二・九　一　〃元、七、一四
四平街市内　〃四、一二、二八
西豐—西安　三・〇　二　〃元、一一、一
石家台—西豐　三・三　二　〃四、二、三〇
西豐—東豐　三・五　二　〃二、三、一一
西豐—與隆街　四・〇　一　〃二、六、二五
西安—二道河子　三・六　二　〃二、六、二五
西安—遼河源　三・六　二　〃三、一〇、五
西豐—西安（南道）　三・六　二　〃四、六、一
東豐縣城—大揚威子　三・六　一　〃四、四、一〇
東豐縣城—那丹伯　三・六　三　〃四、七、一
仙城村—那丹伯　三・六　一　〃四、一二、二〇
遼河源—沙河鎭　三・六　一　〃四、一二、二〇
大揚威子—山城鎭　三・六　一　〃五、三、九
開原驛—開原城　四　八　〃二、一二、二六
開原驛—通江口　四　二　〃三、三、二一
二寨子—中固驛　四　一　〃四、八、一五
開原子—馬仲河　四　二　〃四、二、二〇

▽奉南交通株式會社（▲一〇〇萬圓　△六四萬五千四百圓）
遼陽市内　一區五錢　三〇分　〃六、九、七（特許月日）
鞍山—劉二堡　三・一　六　〃三、一〇、一六
鞍山—騰劉堡　三・二　六　〃三、一〇、一六
鞍山—唐馬寨　三・二　四　〃三、一〇、一六
海城—騰鰲堡　二・五　二　〃元、一〇、六
營口—田庄台　三・八　〃二、一二、一〇
營口市内　一・八　〃二、九、三〇
鞍山市内　一區五　三分　〃七、六、二七（特許月日）
蓋平驛—蓋平城　二・五　六　〃三、二、三〇
瓦房店—復州城　二・五　一　〃三、八、一
瓦房店—復東鎭　三・〇　一　〃三、八、一
李店—復州灣　三・六　一　〃三、八、一
蕭家爐—謝家屯　二・八　一　〃三、八、一
複州城—娘々宮　二・七　一　〃
松樹—複東鎭　二・五　一　〃
中爐—朱家屯　四・一　二　〃
松樹—永寧洞　三・八　一　〃四、二、一五
西崔　娘々宮—蚊子咀　四・〇　一　〃五、六、一五
遼陽—小北河　三・四　四　〃七、四、一九（特許月日）
〃—劉二堡　三・三　五　〃（同）
〃—長灘屯　三・一　二　〃（同）
海城—大威王寨　二・五　二　〃（同）
〃湯崗子—馬風屯　二・六　四　〃（同）
湯崗子—新台子　三・〇　三　〃（同）

▽遼西交通株式會社（▲一〇萬圓　△七萬五千圓）
北鎭—溝幇子　二・三　二　一、四、一〇
溝幇子—閭陽驛　二・三　二　一、四、一〇
北鎭—黑山　二・三　一　二、二、五

▽北支滿蒙運輸商會（▲三萬五千圓　△三萬五千圓）
承德—黃崖關　五　一　〃五・七一

▽大連都市交通株式會社線
（市内線）　（一區五錢）
中央線　三區
南部線　三區
北部線　一區
西部線　三區
東部線　一區
小平島線　六區
老虎灘線　四區
傳家庄線　三區
石道街線　一區
旅順市内線　三區
水師營線　六區
（郊外線）　圓
大連—旅順（旅大南線）　一・〇〇

大連—旅順（旅大北線）		1.00
大連—旅順（旅大區間線）		0.70
大連—甘井子		0.35
大連—小野田		0.30
大連—金州		0.50
金州—普蘭店		0.70
金州—曲家屯		0.60
金州—大孤山		0.45
金州—愛川村		0.40
普蘭店—亮甲店		0.35
普蘭店—登沙河		0.60
普蘭店—復州灣		1.50

▽華中都市自動車會社線

都市	系統番號	起終點名
上海	一	上海神社—飯田棧橋
	五	同　—江灣鎮
	六	外日渡橋—楊樹浦東端
	七	四川路橋—東華紡績
	八	上海神社—外日渡橋（呉淞路經由）
	九	上海神社—外日渡橋
	十	上海驛—四川路橋（北四川路經由）
	十一	虹口市場—瀧ヶ淵紡績
	十三	上海神社—閘北水電
	十四	上海神社—呉淞鎮
	十五	中日アパート—五條ヶ辻
	二十一	老西門—小南門（南市循環線）
	二十二	老西門—大碼頭
	二十三	老西門—小東門
	二十四	老西門—龍華鎮
	青浦線	四川路橋—青浦
南京	一	南京驛—新街口
	二	南京驛—中華門驛
	三	新街口—新街口（循環線）
杭州	巡覽車	
	一	拱宸橋—迎紫路
	二	靈隱寺—迎紫路
	三	迎紫路—南星橋
	四	杭州驛—特務機關
蘇州	一	火車站—觀前街
	二	石路—觀前街
無錫	一	車站—南門
	二	三里橋—南門
	三	車站—三里橋
鎮江	一	南鎮江—西鎮江
	二	北門—西鎮江
	郊外線	鎮江—墟城鎮

鐵道愛護

△滿洲

愛路運動の意義

鐵道愛護運動とは滿洲國內の鐵道沿線に居住する民衆に對して適切なる各般の啓蒙、指導訓練を實施し、それに依つて民衆自體を自發的且積極的に鐵道の防衛愛護に乘出さしめることである。

國家の生命線たる鐵道を安全に確保する爲には、皇軍や又鐵道警護總隊が凡ゆる努力を拂つてゐるが、國內一萬餘粁を保護監視するのは中々の難事である故に、沿線の住民に協力せしめ運行の萬全を期さうと云ふのが愛路運動の主旨である。

滿洲國の鐵道は現下の情勢よりすれば全く國防國策鐵道であつて、而も其の國防國策は鐵道を通じて初めて完遂されるものである。言ひ換へるならば鐵道が擔つて居ると言つても過言ではないのである。然し愛路運動の重要性は單に戰時下に於てのみ意義を持つものではなく、例へば國家にとつて特殊な位置にある鐵道沿線の各村—即ち鐵道愛護團を王道建國精神作興の道場たらしむこと、民族協和日滿融合の搖籃たらしむこと、文化の先驅たらしむこと、農村甦生の苗床たらしむこと、産業開發の基地たらしむこと等滿洲國建設の聖業に一大推進力を與へるものとして重大な使命を併せ有して居るのである。

即ち愛路運動は此の鐵道の機能を百%に發揮させ而も、鐵道と民衆とを一體ならしめて、其の實績の發揚を期す重要な役割を持つて居るのである。

愛路運動の機構

一　鐵道愛護團の組織

愛路運動の實踐體鐵道愛護團は鐵道兩側各概ね五粁以內の地域にある村を單位として設け更に行政上の區劃（例へば屯）に應じ其の中に分團を設けて居るが市街には設定しない建前である。

二　愛路指導機構

イ　滿洲國行政機關＝愛護團員の教育、社會施設、一般行政

ロ　鐵道警護總隊＝鐵道警護に關する警備訓練其の他の警備工作

ハ　鐵道總局＝愛路思想の普及宣傳、宣撫工作、愛路工作として必要なる産業上の福利增進然し重要路線で特に治安不良な地

三　青少年組織

昭和十年愛路運動の中堅的對象として愛路少年隊が結成されたが、同十四年協和青少年團の傘下に合流し、鐵道愛護團協和青少年團として改編統合した。即ち十歲より十五歲迄を少年團十六歲より十九歲迄を青年團とし、就學中の者は學校を基準とし一般は行政區域に依つて組織されることになつた。然し其の特殊使命に鑑み、訓練指導には從前通り鐵道側が當つて居る。

此の外鐵道愛護團區域內に在る自衛團の特殊隊として愛路義勇隊が編成され、又市街地には協和義勇奉公隊の特殊隊として愛路隊が結成されて居る。

愛路運動の沿革

滿洲建國直後は匪賊が各地に跳梁して治安を攪亂するばかりでなく、一般民衆も亦王道國家に對する認識極めて薄く、人心は全く不安混亂の狀態に在つた。爲に當時の鐵路總局に於ては、國內の交通機關を統制し秩序ある運行を確立して國防並治安の完璧を計らむとして、軍、滿洲國當局と協議し、昭和八年六月滿洲國內鐵道全線に亘つて愛路運動を創始することになつた。即ち鐵道自動車路、水路沿線村落を鐵道（又は自動車路、水路）愛護村とし其の村民をして鐵道保全に協力せしむるのみならず進んで滿洲國の産業發展と經濟的開發を促進し、國利民福、國防充實の根源を培養し以て王道樂土の建設に協力せしめむとしたのであつた。

昭和九年六月には國線主要幹線三千七百粁に亘り創設村數一千二百七十箇村、包容村民三百五十萬を算ふるに至り、十年には愛路少年隊の結成、模範鐵道愛護村の設置を見、尙從來不統一だつた組織、系統、名稱も全線に亘つて統一された。

昭和十一年には種々の産業助成、福祉工作の外冬季愛護村塾を開設し、新生活運動の先驅たらしめんとした。警備上の訓練としては一家一人動員演習を以て有事に處する備へを固めた。

昭和十二年には恰も日支事變勃發に際會し、愛路運動は全面的に交通路の確保、治安の維持、人心の安定、資源の培養等銃後國防に最善の努力を傾注したが、十三年には治外法權が撤廢され夫に關聯して愛護村の名稱は愛護團に改稱されるに至つた。十四年には愛路少年隊は鐵道愛護團協和青少年團として改編され、愛路義勇隊の新結成をみた。

昭和十五年度は更に緊迫せる周圍の情勢に鑑み特に現地工作の卽地效果の浸透徹底を圖ること、工作機構の整備强化を圖ること、愛路指導の技能向上、熱意昂揚を目指して指導者の練成に意を注ぐこと、專ら現實的な宣傳方法を以て工作の卽效を期すこと等に重點を指向し七月には全滿に魁けて市街地に於ける協和義勇奉公隊の特殊隊としての愛路隊が國都新京に結成をみるに至つた。

愛路運動の諸工作

愛路運動に於ける工作は大別して警備に關するものと、思想强化に關するものとに分たれる。

組織並指導工作

愛路運動の骨組を作り運用發展せしめる部門である、（イ）愛護團の設定、警備强化（ロ）愛路指導組織の强化（ハ）愛路連絡會議

（二）愛護團員の組織化である。

宣傳宣撫工作

凡ゆる工作に附隨して實施されるもので其の手段も簡單な口述から映畫演藝、紙芝居、幻燈、唱歌、レコード、パンフレット、新聞、雜誌、ビラ、ポスター、其の他が考究され特に各民族に對する特殊性を考慮して適切なる方法に依て居る。

イ 對内的には愛護團員の啓蒙教化宣傳で王道國民たる自覺を促し時局認識に目覺めしめて鐵道防護の重大性を悟らし以て自發的且積極的な愛路奉仕精神を涵養せしむ。

ロ 對外的には愛路工作の完遂は日滿朝野の理解支援に俟つ處大なるに鑑み此處に紹介宣傳の必要を生じて來る。

警備演練並警備工作

特に青少年層、壯年者層に働きかけ、各種警備能力の附與向上に力を盡して居るが、時局柄匪賊情報網の强化、防諜、警備施設の充實も重要な工作となつて居り、鐵道保守の技術的教育とともに愛路指導の重點を爲して居る。

厚生工作

イ 文化指導として愛路運動會、衞生思想の普及、生活改善、陋習打破、社會教育、日語及識字教育

ロ 福祉竝産業助成として愛路功勞者の表彰、殉職者の弔慰、視察團の内外派遣、職業斡旋、日用品廉賣列車、慰安列車の運行、施療施藥、天災其の他の救恤、優良種苗種畜、農機具の貸與、造林、自給肥料の増産、養鷄蜂、花卉、藥草其の他の副業、果樹栽培等の奬勵、防疫、産業技術指導、農畜林産品評會、産業講習會の開催、興農會の助長、農地改良開拓、共同放牧場の設置等を擧げることが出來る。

愛路運動の實績

軍に協力

日滿軍警に協力して匪徒の討伐其の他に、道案内をし或は銃を携へて協力又は匪賊逮捕、歸順に盡力する等のことであるが特に昭和十四年度に於ては支那事變、ノモンハン事件に因る活躍を示して居る。

昭和十三年度　一三、三二八件　延人員　三三〇、三三六人
昭和十四年度　二三、八一六件　延人員　三六七、九一八人
昭和十五年四—六月　四、四七八件　延人員　六〇七、二〇四人

愛路奉仕

天災乃至人爲に因る交通路の妨害、破壞等の事故發生に對して、之が防止復舊の爲に積極的に勞力奉仕をすることであるが次の數字を示して居る。

昭和十三年度　七五、〇六四件　延人員　七六二、五五八人
昭和十四年度　一〇四、七五一件　延人員　五四八、二三九人
昭和十五年四—六月　三七、七二三件　延人員　一三三、七六一人

連絡

愛護團員は自村竝周圍の狀況を細大洩らさず最寄り鐵道側其の他關係機關に通報して居るが、之には匪賊情報、一般情報、鐵道通信事故、其の他通報の別がある。此の中匪賊情報は年々減少し昭和十三年度は三、六六〇件、十四年度は三、二二一件、十五年四—六月四二三件と云ふ風に減少して居る。之に對して一般情報件數の著しい增加は愛路思想普及の事實を裏書して居ると謂へる。

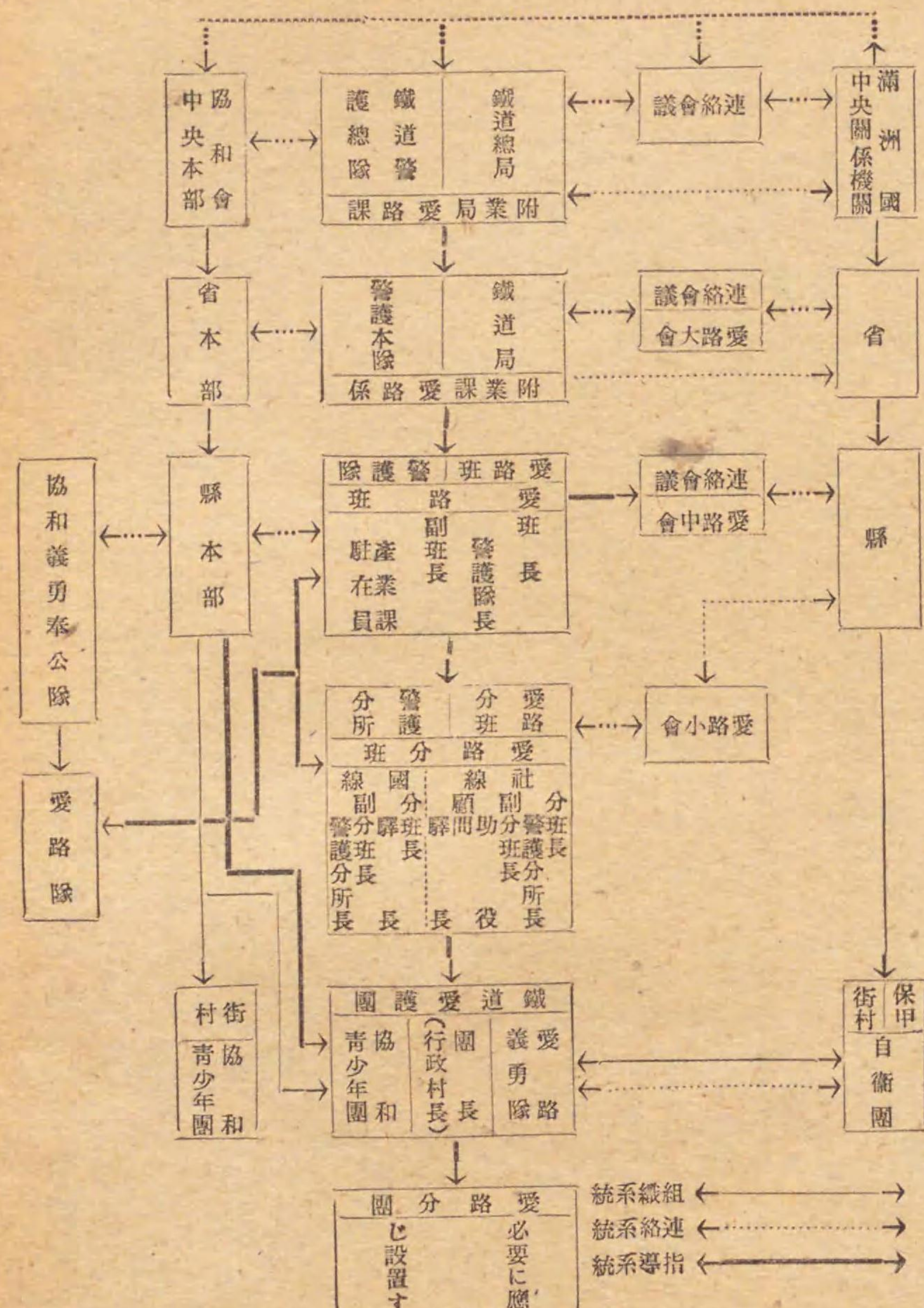
被害防止輕減

愛護團員が直接又は他と協力して鐵道被害を未然に防止し、或は發生せる事故に對して被害を輕減せしめたものを假に金額に換算してみると、昭和十三年度は一四五萬圓、十四年度は二〇五萬圓、十五年四—六月は三〇萬五千圓となり直接鐵道側の損失防止額は莫大なものと考へられる。

其の他

以上の外愛護團が産業、思想、文化の發展基地として滿洲國進展に與へた有形無形の貢獻は計り知れぬものがある。勿論農産業方面の實績は年月を閲して表面化される性質のものであるが、無識字の村民が自ら

鐵道愛護指導組織系統表



文字を書き日本語を語る時代の來るのも遠くはない。間島省に於て滿、鮮人が愛路少年團を通じて美事な融和を示した事實が物語る樣に、王道建國精神が愛路運動を通じて肇國日尙淺きにも拘らず、著々具現されつゝある。

△北支

愛路村

華北交通は多數の警務從事員を以て、交通路の保全に當つてゐるが、警備力には自ら限度がある。敵は巧みに民衆を獲得し、之を使嗾して執拗に路線の妨碍、治安の攪亂を企圖してゐる。鐵道がいかに頑張つても、民衆の協力なくしては交通の萬全を期し得ない。日支事變勃發直後、滿鐵が占領地の鐵道沿線に、逐次鐵道愛護村を組織したのは、滿洲に於ける經驗と實績に基くものである。華北交通も之に學んで鐵道路線では其の兩側各十キロ、自動車路と水運路線とはその兩側各五キロの地帶內に在る村落を網羅して愛路村を設定してゐる。而して現在指導しつゝある愛路村の總數は八千箇村、その人口は三十萬に達してゐる。各村の村長は行政村長に委任し、その下に班長や戶長を置いて細胞組織を構成する。驛を中心とする數ヶ村が集つて地方愛路區を結成し、その區長は驛長である。村長の輔佐役となつて一切の指導訓練に當るのは華北交通社員たる警務段員である。

「以民護路」或は「一民愛路　萬民享福」等の標語を掲げて行はれる愛路工作は、直接には民衆自體の手によつて交通路を防衞せしむるのを目的とするが、抗日意識を打破して親日に轉向せしめ、併せて民生の利福向上を計り、延いて沿線の產業開發に資すべき遠大な理想に根ざしてゐるのである。このため交通會社は、村民の思想善導に努むる傍ら、無償で多量の優良種子や樹苗を配布したり、施療施藥班を巡回せしめたり或は廉賣品と演藝班を滿載した愛路列車を運轉し、或は農業實驗區を設けて農事の改良指導を、問事處を置いて村民の日常萬般の相談相手になるなど、村民の福祉厚生のため凡ゆる方法を盡してゐる。

之等の愛路工作は實施後未だ日が淺いに拘らず、その效果は著しいものがある。線路の巡察や警備警戒等に積極的に奉仕協力する者は一ヶ月實に八萬人に上り、過去一ヶ年間に彼等が齎した匪賊情報は一萬五千件、鐵道事故を未然に防止したもの七百五十件を算へ、華北交通からその篤行を表彰された者二千餘名に上つてゐる。これこそ現實に民路の合作、日華提携を實踐しつゝある注目すべき實績である。

愛路少年隊と婦女隊

愛路村民の先頭に立つて勇敢に活躍するのは少年隊である。十一歲から十七歲までの少年がカーキ色の制服と隊杖に身を固め颯爽と行進する樣は微笑ましく賴もしい。彼等は現實に兇器を持つ敵に對抗するので訓練も軍隊式に嚴格である。匪賊情報の通報連絡、防衞作業、線路の巡察さらに手旗信號や電話器の操作などすべて用語は日本語によつて華北交通の若い警務段員から熱心な指導を受けてゐる。また餘暇には共同作業圃で農業の實習を勵み、日本語を習ひ、明日の中國を擔ふべき優良な國民にと鍛へられてゆくのである。この少年隊は現在一萬五千名。

少年隊の外に村の中堅として青年隊と婦女隊の組織がある。華北交通は、因襲に捉はれてゐた中國の若い女性達に、日本語を敎へ手藝や料理など女性の嗜みを深めしむるやう努めてゐるが、彼女達は進んで施療施藥班の手助をしたり施米の世話をするほか、時には身の危險をも省みず線路の巡回や敵情の通報にさへ協力する者も多い。



支那事變の輝しき戰果によつて東亞新秩序の建設は飛躍的發展を遂げ、日滿支を貫ぬく交通網の整備と產業の開發は東亞旅行界に異狀なる一時期を畫し從つて各主要地に於ては悉く旅館の不足を告げ、觀光團體の誘致困難、宿泊料金の値上げ、共同宿泊所の設置、滿鐵に對する新ホテル經營の要望等となつて顯はれるに至つた。然してこの旅館不足の主要なる一因をなすものは各地に於ける住宅難による定住者のホテル利用則ち旅館のアパート化によるものとされ、昭和十三年度以降に於て宿泊人員は地方に依り多少異るも少きは一、二割、大きは三、四割方の激增振りを示してゐる。滿洲に於ける旅館の拂底は奉天、新京が最も甚しく、從つて現在建築計畫中のものに滿鐵によつて準備中の工費八百萬圓、六階建、延坪三萬平方米、室數二百餘を有する大同公園外のヤマトホテルと大阪商船によつて計畫中の資本三百五十萬圓、五階建、百五十室を有する滿洲觀光ホテル等がある。

尙支那方面に於ては昭和十五年中青島の東海飯店が華北交通に杭州の西冷飯店、嘉興の煙雨樓等も華中鐵道の經營に移される等、支那地域の國際ホテルは漸次日系に變りつゝある。

＝主要地旅館數調＝

●本表は當部各案內所を通じ調査せるものなるが、滿支系旅館は現地の情況に依り相當調査困難なる箇所多く、且調査の範圍に於ても不同の點あり、實數は本表より可成り多數の營業者ある見込である。

【滿洲】

地名	日本旅館	朝鮮旅館	滿支旅館	外人旅館	備考
旅順	六	—	—	—	
大連	四六	六	一八	—	
鞍山	二一	二	一四	—	
奉天	六九	一五	九六	—	
撫順	三二	四	九二	—	
營口	四	四	二一	—	滿支系は下級旅館省略
安東	一六	一三	七	—	同
本溪湖	二	—	一三	—	同
通化	一〇	一五	七	—	
四平街	七	一	五	—	
新京	四九	六	三〇	—	
吉林	一三	一六	一五五	—	
圖們	二	三	七	—	
延吉					
哈爾濱	一四	四	一七	四	滿支系は下級旅館を省略
牡丹江	二〇	四二	一五〇	—	
佳木斯	二五	五	四六	—	
齊々哈爾	六	二	七	—	滿支系は下級旅館省略
海拉爾	七	—	二五	—	其他一
滿洲里	一三	—	—	一	
錦縣	二三	二	一〇六	—	
承德	八	一	二三	—	
羅津	三	四	—	—	(北鮮)

【中國・蒙疆】

地名	日本旅館	朝鮮旅館	滿支旅館	外人旅館	備考
山海關	六	三	一七	一	
唐山	四	—	五〇	—	
北京	八二	一三	三九	三	
天津	五七	七	七	一〇	中國旅館は日界のみの分
石門	二四	二一	六八	—	
保定	六	三	二一	—	
濟南	二一	二	四二	一	
青島	三七	三	三二	三	中國系は下級旅館省略
徐州	二一	一〇	三	—	同
連雲	三	—	—	—	
(新浦鎭)	(三)	(一)	(三)	—	
張家口	一七	三	七	—	
大同	二一	一	一五	—	中國系下級旅館省略
太原	二九	五	七四	—	中國系下級旅館省略
厚和	七	一	五	—	
上海	五〇	三	—	—	中國系下級旅館省略
南京	四九	五	一二〇	—	
蘇州	三	—	三八	—	中國系下級旅館省略
杭州	五	—	六	—	同
漢口	六	五	一七六	三	
廣東	五	—	三	二	中國系下級旅館を含まず他に臺灣旅館二

鮮滿支主要日本旅館調

宿泊料金中 ※印は食事なし室料
△印は一泊朝食附料金
其他は一泊二食(夕朝食)附料金

△滿洲

——遼京・旅順線——

・地名	・旅館名	・所在町	・宿泊料 最高(圓)	・宿泊料 最低(圓)
大連	大連ヤマトホテル(總局直營)	播磨町	(歐)※二〇・〇〇 (米)※三五・〇〇	※四・〇〇 ※九・〇〇
	星ケ浦ヤマトホテル(總局直營)	星ケ浦	(歐)※一二・〇〇 (米)※一七・〇〇	※五・〇〇 ※一〇・〇〇
	星ケ浦ヤマトホテル分館(總局直營)	星ケ浦	(歐)※五・〇〇 (米)※九・五〇	三・〇〇 七・五〇
	遼東ホテル	大山通	※二五・〇〇	※三・五〇
	中央ビルホテル	西通	※一三・〇〇	※四・〇〇
	亞細亞ホテル	信濃町	※一五・〇〇	※三・五〇
	天滿屋ホテル	西通	※一〇・〇〇	※三・〇〇
	花屋ホテル	信濃町	※七・〇〇	四・〇〇
	東鄕旅館	信濃町	※六・〇〇	四・〇〇
	東鄕別館	信濃町	※六・〇〇	四・〇〇
	ナニワホテル	伊勢町	※五・〇〇	※二・〇〇
	錦水ホテル	信濃町	※六・〇〇	四・〇〇
	南滿ホテル	東郷町	※六・〇〇	四・〇〇
	東洋ホテル	伊勢町	※六・〇〇	四・〇〇
	磐城ホテル	監部通	※六・〇〇	四・〇〇
	鎭西旅館	信濃町	※六・〇〇	四・〇〇
	春田旅館	監部通	※六・〇〇	四・〇〇
	日本橋ホテル	大山通	六・〇〇	四・〇〇
	東旅館	伊勢町	六・〇〇	四・〇〇
	ヤマシロホテル	羽衣町	※六・〇〇	※三・〇〇
	大連ホテル	敷島町	五・〇〇	三・〇〇
	技術會館ホテル	東公園町	三・五〇	二・八〇
	雲水ホテル	佐渡町	五・〇	三・〇〇
	常盤ホテル	西公園町	五・〇〇	三・五〇
	大滿ホテル	大黒町	五・〇〇	三・〇〇
	曾我ホテル	奥町	五・〇〇	三・〇〇
	名古屋旅館	吉野町	五・〇〇	三・〇〇
	和泉ホテル	惠比壽町	五・〇〇	三・〇〇
	辰巳旅館	常陸町	五・〇〇	三・五〇
	大和旅館	信濃町	五・〇〇	三・〇〇
	三杉旅館	浪速町	五・〇〇	二・〇〇
	大進旅館	惠比須町	六・〇〇	二・五〇
	日本館	西公園町	五・〇〇	三・〇〇
	北辰旅館	信濃町	四・〇〇	二・〇〇
	惠比壽旅館	惠比壽町	四・〇〇	二・〇〇
	北滿ホテル	大黒町	五・〇〇	三・〇〇
	鹿兒島旅館	常陸町	四・〇〇	二・〇〇
	港旅館	須磨町	四・〇〇	一・〇〇
	山岡旅館	吉野町	四・〇〇	二・〇〇
	大進旅館別館	信濃町	六・〇〇	三・〇〇
	大滿ホテル	惠比壽町	五・〇〇	三・〇〇
	北滿ホテル別館	大黒町	五・〇〇	三・〇〇
旅順	旅順ヤマトホテル(總局直營)	中村町	(歐)※二〇・〇〇 (米)※三五・〇〇	三・〇〇 八・〇〇
	旅順ヤマトホテル黄金臺別館	黄金山麓	(米)※二二・〇〇	九・〇〇
	旅順ホテル	青葉町	七・〇〇	三・〇〇
	防長館	青葉町	五・〇〇	二・五〇
	寶來館	乃木町	六・〇〇	三・〇〇
	富士屋旅館	乃木町	三・〇〇	一・五〇
	福壽館	朝日町	三・五〇	二・〇〇
	聖地會館	白玉山	四・五〇	二・五〇
奉天	ヤマトホテル(總局直營)	浪速通	(歐)※二五・〇〇 (米)※三〇・〇〇	※三・五〇 八・五〇
	瀋陽館	琴平町	△二〇・〇〇	△五・〇〇
	ホーピルホテル	住吉町	※一五・〇〇	※三・三〇
	大星ホテル	浪速通	※八・〇〇	※二・五〇
	大丸旅館	若松町	一〇・〇〇	四・〇〇
	平和ホテル	加茂町	※五・〇〇	※二・〇〇
	滿洲ホテル	浪速通	※七・〇〇	※二・五〇
	マルナカホテル	彌生町	※六・〇〇	※三・五〇
	溫泉ホテル	江ノ島町	※一五・〇〇	※二・〇〇
	日滿ホテル	千代田通	※五・五〇	※二・五〇
	平安ホテル	平安通	七・〇〇	四・五〇
	昭和ホテル	千代田通	△五・〇〇	※二・〇〇
	東亞旅館	平安通	六・〇〇	四・〇〇
	日進旅館	宮島町	五・〇〇	三・五〇
	松島館	松島町	七・〇〇	三・五〇
	九洲館	浪速通	八・〇〇	三・五〇
	一力旅館	浪速通	五・〇〇	三・五〇
	武藏屋旅館	宮島町	六・〇〇	三・五〇
	常盤旅館	宮島町	六・〇〇	三・五〇
	中央旅館	千代田通	七・〇〇	四・〇〇
	山陽ホテル	青葉町	五・〇〇	二・五〇
	浮月旅館	稻葉町	八・〇〇	四・〇〇
	ホテル淸風寮	紅葉町	※七・〇〇	※三・五〇
	身上旅館	住吉町	八・〇〇	三・五〇
新京	ヤマトホテル(總局直營)	中央通	(歐)※二五・〇〇 (米)※三〇・〇〇	※三・〇〇 ※八・〇〇
	國都ホテル	中央通	※八・〇〇	※二・五〇
	大都ホテル	日本橋通	※一二・〇〇	※三・〇〇
新京	滿蒙ホテル	中央通	※一七・〇〇	※三・〇〇
	大和新館	東二條通	※七・〇〇	※三・五〇
	トキワホテル	中央通	一五・〇〇	五・〇〇
	櫻ホテル	安達街	一三・〇〇	三・〇〇
	同別館	豐樂路	一一・〇〇	七・〇〇
	三國ホテル	八島町	※八・〇〇	※三・〇〇
	太陽ホテル	永樂町	※七・五〇	※三・〇〇
	新亞細亞ホテル	日本橋通	※七・五〇	※四・〇〇
	富士屋旅館	中央通	※七・〇〇	※二・五〇
	松屋ホテル	興安大路	※七・〇〇	※三・〇〇
	天寶ホテル	天寶街	※八・〇〇	※三・〇〇
	新京ホテル	富士町	△五・〇〇	△三・五〇
	帝都ホテル	大經路	七・五〇	四・五〇
	大新ホテル	新發路	七・五〇	五・五〇
	國際ホテル	中央通	△四・〇〇	均一
	旭ホテル	日本橋通	※五・〇〇	※三・〇〇
	大丸新館	錦町	※五・〇〇	※三・〇〇
	滿蒙旅館	大和通	七・五〇	三・五〇
	蓬萊ホテル	中央通	※五・〇〇	※三・〇〇
	國華ホテル	日本橋通	※五・〇〇	※三・〇〇
	梅屋旅館	三笠町	六・〇〇	四・〇〇
	協和旅館	日ノ出町	五・五〇	三・〇〇
	新都旅館	大和通	※四・五〇	※二・五〇
	喜久屋旅館	吉野町	※四・五〇	※二・五〇
	吉田屋新館	三笠町	五・五〇	三・〇〇
哈爾濱	ヤマトホテル(總局直營)	南崗車站街	(歐)※二五・〇〇 (米)※四〇・〇〇	※三・五〇 ※八・五〇
	北滿ホテル	新城大街	※三・〇〇	※三・〇〇
	ニューハルピン	大直街	※二四・〇〇	※五・〇〇
	名古屋ホテル	石頭道街	※一一・〇〇	※三・〇〇
	亞細亞ホテル	斜紋街	※八・五〇	※三・五〇
	ナショナルホテル	地段街	※一〇・〇〇	※三・五〇

	榮屋ホテル	水道街	一〇・〇〇	五・〇〇
	國際ホテル	斜紋一緯街	△七・五〇	△四・〇〇
	鶴屋旅館	斜紋街	六・五〇	三・七〇
	満洲ホテル	石頭道街	八・〇〇	五・〇〇
	ホテル・モデルン	中央大街	※二一・〇〇	※三・五〇
	天満ホテル	義州街	七・〇〇	五・〇〇
	満平ホテル	斜紋五緯街	七・〇〇	五・〇〇
	東洋ホテル	地段街	八・五〇	五・〇〇
	大星ホテル	水道街	△六・五〇	△三・七〇
	都ホテル	郵政街	七・〇〇	五・〇〇
	松花ホテル	中國六道街	八・〇〇	五・〇〇
	北興ホテル	石頭道街	八・〇〇	五・〇〇
	哈爾濱ホテル	買賣街	六・〇〇	四・〇〇
	丸満ホテル	工廠街	△八・〇〇	△四・五〇
	花屋ホテル	田地街	七・〇〇	五・〇〇
	大陸ホテル	モストワヤ街	七・〇〇	五・〇〇
金州	金州旅館	筑紫町	五・〇〇	三・〇〇
普蘭店	松山旅館	福壽街	六・〇〇	二・〇〇
瓦房店	みどり旅館	驛前	四・〇〇	二・五〇
	榮旅館	常盤街	四・〇〇	二・〇〇
熊岳城	温泉ホテル	温泉街	七・〇〇	四・〇〇
	熊谷旅館	中央通	四・五〇	
	市來屋旅館	日新街	三・五〇	一・五〇
蓋平	松美屋	大堆子街	三・〇〇	
大石橋	梅廼家旅館	驛前	六・〇〇	四・〇〇
	末廣旅館	宣武街	五・〇〇	三・〇〇
	廣島屋旅館	石橋大街	四・〇〇	二・五〇
	敷島旅館	同	四・五〇	二・〇〇
	梅月旅館	同	四・五〇	三・〇〇
海城	大東旅館	大街	七・〇〇	三・五〇
	出雲屋旅館	大街	七・〇〇	三・五〇
	海城ホテル	大街	七・〇〇	三・五〇
湯崗子	對翠閣	自驛四二〇米	※二四・〇〇	※五・〇〇
	樂山莊	同	※三〇・〇〇	※一八・〇〇
	玉泉館	(休業中)	※三・五〇	※二・〇〇
	龍泉別墅		※三・〇〇	※一・五〇
鞍山	近江屋ホテル	北二條通	一一・五〇	七・〇〇
	東屋旅館	元町一四	五・〇〇	三・〇〇
	昭和ホテル	北三條町	四・〇〇	三・〇〇
	太黒屋旅館	北一條町	五・五〇	四・〇〇
	日光旅館	榮町	四・〇〇	二・五〇
	久屋旅館	北一條町	四・〇〇	三・〇〇
	紅葉旅館	北二條町	六・〇〇	三・五〇
	鞍山旅館	驛前通	四・〇〇	二・五〇
	福岡屋旅館	北一條町	二・五〇	
	日州旅館	南二條町	四・〇〇	二・〇〇
	扇屋旅館	北三條町	六・〇〇	四・〇〇
遼陽	遼塔ホテル	昭和通	六・五〇	三・五〇
	内田旅館	昭和通	六・〇〇	四・〇〇
	油屋旅館	幸町	六・〇〇	三・〇〇
蘇家屯	昭和旅館	昭和通	四・〇〇	三・五〇
	丸メ旅館	昭和通	四・〇〇	三・五〇
鐵嶺	松花ホテル本館	中央通	七・〇〇	四・〇〇
	松花ホテル別館	中央通	七・〇〇	五・〇〇
開原	驛ホテル(總局直營)	驛舍樓上	※一二・五〇	均一
	二葉旅館	開原大街	一〇・〇〇	五・〇〇
昌圖	天橋館	—	三・五〇	二・五〇
四平街	植半旅館	立一條通	七・〇〇	三・〇〇
	小松屋旅館	中央通	七・五〇	四・五〇
公主嶺	公主嶺ホテル	堀町	七・〇〇	五・〇〇
	丸福旅館	花園町	八・〇〇	四・五〇

──營口・撫順・安奉線──

營口	清林館	旭街	八・〇〇	四・五〇
	營口ホテル	旭街	八・〇〇	四・五〇
	靜の家	花園街	五・〇〇	三・〇〇
	寶満旅館	南本街	四・〇〇	三・〇〇
撫順	炭礦俱樂部	西公園町	※一五・〇〇	※三・〇〇
	筑紫館本店	東一番町	一〇・〇〇	七・〇〇
	筑紫館支店	驛前	一〇・〇〇	四・〇〇
	壽旅館	永安大街	八・〇〇	四・〇〇
本溪湖	本溪湖ホテル(舊)	石山町	八・〇〇	四・〇〇
	本溪湖ホテル(新)	同	八・〇〇	六・〇〇
橋頭	富田屋旅館	驛前	六・五〇	三・〇〇
南坟	一二三屋旅館	驛前	四・〇〇	均一
草河口	大正旅館	草河口	五・〇〇	三・〇〇
連山關	都屋旅館	驛前	五・五〇	三・五〇
	松屋旅館	驛前	五・五〇	三・五〇
鷄冠山	鷄冠旅館	南町	四・〇〇	三・〇〇
鳳凰城	小林旅館	敷島町	五・〇〇	三・〇〇
	鳳凰旅館	敷島町	四・五〇	三・〇〇
五龍背	五龍閣(總局直營)	—	※七・〇〇	※一・五〇
安東	安東ホテル	驛前	一五・〇〇	二・〇〇
	満洲旅館	五番通	八・〇〇	三・五〇
	元寶館	市場通	八・〇〇	三・五〇
	富久壽美旅館	市場通	六・〇〇	三・五〇
	大和旅館	大和橋通	六・五〇	三・五〇
	日ノ出旅館	大和橋通	六・〇〇	三・〇〇
	日満ホテル	大和橋通	※三・五〇	※二・〇〇
	井筒屋旅館	五番通	六・〇〇	三・五〇
	ことぶき旅館	六番通	三・〇〇	均一
	紅屋旅館	三番通	六・〇〇	三・五〇
	櫻屋旅館	大和橋通	五・〇〇	三・五〇

	中央旅館	同	五・〇〇	三・〇〇

──京濱・京圖・朝開線──

德惠	大黒旅館	中央大街	五・五〇	四・〇〇
陶賴昭	松花旅館	警察街	三・五〇	均一
三岔河	日本旅館	驛前	四・〇〇	均一
雙城堡	常盤旅館	協和街	五・〇〇	四・五〇
下九臺	清風館	九臺溫泉	※八・〇〇	※四・〇〇
吉林	名古屋旅館	大馬路	七・〇〇	三・五〇
	日清ホテル	大馬路	七・〇〇	三・五〇
	三陽ホテル	南大路	※一〇・〇〇	※三・五〇
蛟河	松屋旅館	康德街	四・〇〇	均一
	大島旅館	康德街	六・〇〇	四・〇〇
敦化	富士屋旅館	凱旋通	一〇・〇〇	四・五〇
	大泊旅館	驛前	一〇・〇〇	四・〇〇
	大正旅館	東門外	一〇・〇〇	四・〇〇
明月溝	松屋旅館	満洲街	一〇・〇〇	四・〇〇
朝陽川	山口旅館	驛前	五・〇〇	四・〇〇
延吉	宅島旅館	康平區	八・〇〇	四・五〇
	ヤマトホテル	新安街	一〇・〇〇	四・五〇
圖們	カメヤ旅館	春風街	一〇・〇〇	五・〇〇
	博多屋旅館	銀行街	七・〇〇	三・〇〇
	柳屋旅館	銀行街	七・〇〇	四・五〇
	福屋旅館	春風街	七・〇〇	三・〇〇
	大和旅館	昭和區	七・〇〇	三・〇〇
	三重旅館	銀河區	七・〇〇	三・〇〇
龍井	間島旅館	吉大路	一二・〇〇	四・〇〇
	王乃井旅館	廣東街	五・〇〇	四・〇〇

──圖佳・虎林線──

石峴	きくや旅館	—	二・五〇	二・〇〇
汪清	花屋旅館	大肚川旭町	六・〇〇	三・五〇

大黒溝	大黒屋旅館	昭和通	七・〇〇	三・五〇
天橋嶺	山城屋旅館	―	六・〇〇	三・五〇
春陽	土佐屋旅館	驛前	三・五〇	二・五〇
	文福旅館	―	三・五〇	二・五〇
鹿道	御多福	驛前	六・〇〇	四・〇〇
	大見屋	驛前	五・〇〇	四・〇〇
東京城	松屋旅館	城内	四・五〇	三・五〇
	明治屋旅館	驛前	五・〇〇	三・五〇
	富士屋旅館	城内	五・五〇	四・五〇
寧安	寧安旅館	城後街	八・〇〇	四・五〇
	日之本旅館	城後街	七・〇〇	四・五〇
	蓬萊旅館	西南門街	八・〇〇	四・〇〇
牡丹江	ヤマトホテル(總局直營)	太平路	※一〇・〇〇	※四・五〇
	富士屋ホテル	光化街	一六・〇〇	五・〇〇
	芙蓉ホテル	日昭街	八・五〇	五・〇〇
	常盤ホテル	丹明街	八・五〇	五・〇〇
	花屋ホテル	丹明街	一〇・〇〇	五・〇〇
	福屋旅館	日昭街	一〇・〇〇	五・五〇
仙洞	仙洞旅館	―	二・五〇	均一
林口	菊屋ホテル	驛前	一〇・〇〇	五・五〇
古城鎮	加賀旅館	驛前	四・五〇	均一
勃利	亞細亞ホテル	正直街	六・〇〇	五・〇〇
	東洋ホテル	正直街	六・〇〇	五・〇〇
	勃利旅館	南門街	七・〇〇	五・〇〇
千振	千振旅館	湖南營	三・〇〇	均一
	松乃家旅館	湖南營	三・〇〇	均一
彌榮	第二共勵宿泊所	永豐鎮	三・五〇	三・〇〇
佳木斯	驛ホテル(總局直營)	驛舍樓上	※四・五〇	※三・〇〇
	伊勢屋旅館	南崗大街	一〇・〇〇	六・〇〇
	京都旅館	南崗通	八・〇〇	五・〇〇
	壽旅館	中央大街	六・〇〇	四・〇〇
	柳田旅館	南崗大街	六・〇〇	四・〇〇
	花屋ホテル	同	八・〇〇	六・〇〇
	佳木斯ホテル	同	六・〇〇	均一
	協和ホテル	中央大街	※二・五〇	※一・〇〇
	札幌旅館	驛前通	八・〇〇	五・〇〇
	太陽ホテル	南崗大街	一〇・〇〇	七・〇〇
滴道	陽明ホテル	―	一〇・〇〇	六・〇〇
	滿壽旅館	―	七・〇〇	五・五〇
鷄西	陸奥旅館	―	五・〇〇	四・五〇
平陽	麗陽館	平陽鎮	七・〇〇	五・〇〇
黒臺	陸奥旅館	―	五・〇〇	均一
東安	若州旅館	―	一〇・〇〇	六・〇〇
	末廣旅館	―	一〇・〇〇	五・〇〇
	櫻屋旅館	―	一〇・〇〇	五・〇〇
	東安ホテル	―	一〇・〇〇	六・〇〇
虎林	日の本旅館	―	六・〇〇	均一
	大和ホテル	―	六・〇〇	均一
虎頭	ウスリーホテル	―	七・〇〇	四・〇〇

—濱綏・拉濱線—

阿城	阿城旅館	通城街	四・〇〇	均一
珠河	富士屋旅館	驛前	六・〇〇	四・〇〇
	北海旅館	驛前	六・〇〇	四・〇〇
一面坡	一面坡ホテル	鐵道街	八・〇〇	五・〇〇
	丸越旅館	大直街	八・〇〇	五・〇〇
葦河	大和旅館	―	三・〇〇	二・〇〇
亞布洛尼	日乃本旅館	驛前	四・〇〇	均一
横道河子	ときわ旅館	水泉街	七・〇〇	四・〇〇
	別荘ホテル	水泉街	六・〇〇	四・〇〇
愛河	掖河旅館	學堂街	三・五〇	二・五〇
	大黒屋旅館	學堂街	五・〇〇	四・〇〇
穆稜	丸屋旅館	警察街	六・〇〇	五・〇〇
下城子	下城子旅館	―	八・〇〇	六・〇〇
綏陽	櫻屋旅館	―	六・〇〇	五・〇〇
	東滿旅館	東街	六・〇〇	五・〇〇
綏芬河	綏芬旅館	大通街	八・〇〇	六・〇〇
	三若旅館	教堂街	六・五〇	五・〇〇
	ボクラ・ホテル	買賣街	九・〇〇	六・〇〇
	松尾旅館	教堂街	五・〇〇	四・〇〇
新站	滿洲屋旅館	中央大街	四・〇〇	均一
山河屯	滿月旅館	南大街	三・〇〇	均一
五常	五常ホテル	東大街	四・五〇	三・五〇
	飯田旅館	東大街	三・五〇	均一
	榮屋旅館	西大街	四・〇〇	均一

—濱北・北黒・齊北・寧墨線—

呼蘭	建國ホテル	建國街	四・〇〇	三・〇〇
綏化	綏化ホテル	松木街	六・〇〇	五・〇〇
	北進ホテル	驛前	六・〇〇	五・〇〇
	協和ホテル	―	六・〇〇	五・〇〇
海倫	海倫ホテル	順天東大街	六・〇〇	五・〇〇
北安	大和ホテル	西松村街	八・〇〇	五・〇〇
	日乃丸旅館	東松村街	八・〇〇	六・〇〇
	東洋館	日滿街	八・〇〇	五・〇〇
龍鎮	北滿旅館	驛前	四・〇〇	均一
孫呉	興安ホテル	永代路	九・〇〇	六・〇〇
	孫呉ホテル	春陽街	八・五〇	五・〇〇
黒河	常盤ホテル	興隆街	一五・〇〇	五・〇〇
	蔦屋旅館	興隆街	一二・〇〇	五・五〇
	丸金旅館	南大街	六・五〇	四・五〇
	惠比壽屋旅館	近原路	七・五〇	五・五〇
克山	鶴屋旅館	城内	四・五〇	三・五〇
	かめや旅館	南大街	四・五〇	均一
泰安	彌生館	北大街	七・〇〇	五・〇〇
寧年	寧年館	―	※二・〇〇	均一
訥河	富屋旅館	西大街	四・五〇	四・〇〇
墨爾根	吉野屋旅館	南大街	七・〇〇	五・〇〇

—濱洲線—

滿溝	濱洲旅館	正陽街	四・五〇	三・〇〇
安達	日滿旅館	斜紋街	四・〇〇	均一
	安達旅館	南三道街	三・〇〇	均一
	佐賀旅館	北三道街	四・〇〇	均一
昂昂溪	昂榮旅館	中江街	五・五〇	均一
扎蘭屯	青木旅館	郵政街	七・〇〇	四・五〇
	雙葉旅館	齊齊哈爾街	六・〇〇	四・〇〇
博克圖	興安旅館	一面街	五・〇〇	均一
	丸福旅館	興隆街	七・〇〇	四・五〇
海拉爾	呼倫ホテル	消防街	一〇・〇〇	六・〇〇
	蒙都ホテル	大通街	一〇・〇〇	五・〇〇
	海拉爾ホテル	東二道街	一〇・〇〇	五・〇〇
滿洲里	東亞旅館	博土街	七・〇〇	四・〇〇
	日本ホテル	二道街	七・〇〇	四・〇〇
	玉屋旅館	二道街	六・〇〇	五・〇〇

—京白・白阿・平齊線—

農安	玉屋旅館	東街	四・〇〇	均一
前郭旗	扶餘ホテル	福壽大街	四・〇〇	均一
	旭ホテル	福壽大街	四・〇〇	均一
阿爾山	阿爾山ホテル(總局直營)	阿爾山	六・五〇	五・〇〇
王爺廟	王爺廟ホテル	興德街	七・〇〇	四・〇〇
	滿蒙ホテル	興隆大街	四・〇〇	三・五〇
	アジア旅館	驛前	五・〇〇	均一
索倫	索倫旅館	索倫街	四・〇〇	均一
鄭家屯	鄭家屯ホテル	北大街	八・〇〇	四・五〇

洮南	南滿旅館	康樂街	一三・〇〇	四・〇〇
白城子	富士屋ホテル	工商路	八・〇〇	六・〇〇
	八千代ホテル	成功路	七・〇〇	五・〇〇
泰來	靜屋旅館	驛前	三・〇〇	均一
	花湖屋旅館	國光街	四・〇〇	均一
齊齊哈爾	鐵道ホテル(總局直營)	驛舍	※二五・〇〇	四・五〇
	龍沙旅館	永安大街	一二・〇〇	五・〇〇
	日の丸旅館	新馬路	八・〇〇	五・〇〇
	朝日旅館	永安里	六・〇〇	五・〇〇
	日の出旅館	龍門大街	六・〇〇	四・〇〇
	博來旅館	安寧街	四・〇〇	三・〇〇

—泰吉・平梅・梅輯線—

清原	初音旅館	清原大街	三・〇〇	二・〇〇
山城鎭	多來福旅館	東門裡	四・五〇	三・五〇
梅河口	梅屋旅館	驛前	七・〇〇	四・五〇
朝陽鎭	福家旅館	西大街	五・〇〇	四・〇〇
磐石	磐石ホテル	城內	七・五〇	三・五〇
	笑福旅館	中央通	七・〇〇	四・〇〇
西安	スター旅館	長春街	六・〇〇	四・〇〇
	山田屋旅館	西寧門裡	五・〇〇	四・〇〇
	西安ホテル	永安西街	五・〇〇	三・〇〇
東豐	東豐旅館	城內	四・五〇	四・〇〇
通化	田村旅館	南關	八・〇〇	五・五〇
	多來福旅館	南關	八・〇〇	五・〇〇
	水華園旅館	西南關	八・〇〇	五・〇〇
輯安	福井旅館	東盛街	五・〇〇	四・〇〇

—奉山・壺蘆島・大鄭線—

新民	新民ホテル	驛前	五・〇〇	三・〇〇
	大和旅館	馬路街	五・〇〇	三・五〇
大虎山	大虎山ホテル	平安街	七・〇〇	四・〇〇
	伊豫屋旅館	大和街	六・〇〇	四・〇〇
	大和屋旅館	同	六・〇〇	四・〇〇
溝帮子	日乃本旅館	南新街	四・〇〇	三・〇〇
錦州	錦州ホテル	濵華街	一〇・〇〇	三・〇〇
	昭和ホテル	三笠街	一〇・〇〇	五・〇〇
	奉山ホテル	同	一二・〇〇	三・〇〇
	遼西ホテル	室町	六・〇〇	四・〇〇
	建國ホテル	大和街	一〇・〇〇	四・〇〇
	第一ホテル	銀座街	七・〇〇	四・〇〇
	協和旅館	三笠街	一三・〇〇	五・〇〇
錦西	連山旅館	驛前	六・〇〇	四・〇〇
興城	溫泉ホテル(總局直營)	興城	※六・〇〇	※二・五〇
	滿月旅館	驛前	四・〇〇	均一
綏中	綏中旅館	大街	四・〇〇	均一
	日乃丸旅館	南門外大街	三・五〇	均一
壺蘆島	壺蘆島ホテル(總局直營)	埠頭	※四・五〇	※三・〇〇
	大和屋旅館	西山街	六・〇〇	四・〇〇
彰武	彰武旅館	縣公署前	五・五〇	三・五〇
	天心旅館	驛前	五・五〇	三・五〇
通遼	通遼ホテル	永福大街	八・〇〇	四・〇〇
	博多屋旅館	永福大街	五・〇〇	四・〇〇
	白音太來旅館	同	六・〇〇	四・〇〇

—錦古・葉峰・北票・新義線—

義縣	菊水旅館	東街路北	四・〇〇	均一
朝陽	國際ホテル	北大街	八・〇〇	四・〇〇
	東洋ホテル	驛前	六・〇〇	三・五〇
葉柏壽	福壽ホテル	驛前	五・五〇	四・五〇
凌源	大和旅館	北大街	五・〇〇	三・〇〇
	龍月旅館	北大街	四・〇〇	三・五〇
平泉	日滿ホテル	中央大街	七・五〇	四・五〇

承德	驛ホテル(總局直營)	驛舍樓上	※三・〇〇	均一
	梅屋旅館	西大街	七・〇〇	五・〇〇
	承德ホテル	舊銀庫胡同	一四・〇〇	五・五〇
	春日旅館	太平橋通	七・〇〇	五・〇〇
	日光ホテル	太平橋通	七・〇〇	五・五〇
	松屋旅館	板櫥街	八・〇〇	五・〇〇
古北口	古北口ホテル	驛前	五・〇〇	均一
赤峯	都ホテル	五道街	一五・〇〇	三・五〇
	赤峯ホテル	三道街	七・〇〇	三・五〇
	不二ホテル	三道街	七・〇〇	三・五〇
北票	大同ホテル	驛前	五・〇〇	四・〇〇
東阜新	白濱旅館	城內東大街	一二・〇〇	四・五〇
	榮ホテル	城內東新路街	五・〇〇	三・〇〇
	妙法旅館	城內南大街	四・五〇	四・五〇
	阜新旅館	城內新大街	五・五〇	三・五〇
	阜新ホテル	城內南一條街	四・〇〇	均一
	白翠ホテル	海州廟白柳街	※三〇・〇〇	四・五〇

—鐵道總局自動車沿線—

圍場	圍場ホテル	三道街	四・〇〇	三・〇〇
多倫	多倫旅館	牛市街	五・〇〇	四・五〇
開魯	興西ホテル	東大街	五・五〇	四・〇〇
烏丹城	壽ホテル	東門大街	五・〇〇	四・〇〇
	烏丹城ホテル	城內	六・〇〇	四・〇〇
林西	常盤ホテル	三道街	六・〇〇	四・〇〇
	林西ホテル	三道街	六・〇〇	四・〇〇
拜泉	花湘屋旅館	北二道街	四・五〇	均一

〈朝鮮〉

平壤	鐵道ホテル	山手町	※三〇・五〇	※一一・〇〇
	三根旅館	壽町	一五・〇〇	三・五〇
	朝日旅館	幸町	八・〇〇	三・五〇
	櫻旅館	旭町	七・〇〇	三・〇〇
	つばめ	東町	四・〇〇	二・七〇
	青々館	南町	五・〇〇	二・七〇
京城	朝鮮ホテル	長谷川町	※三七・〇〇	三・〇〇
	備前屋	長谷川町	一〇・〇〇	四・〇〇
	天眞樓	南山町	九・〇〇	五・〇〇
	山本旅館	本町	七・〇〇	四・〇〇
	不知火旅館	旭町	七・五〇	三・五〇
	本町ホテル	本町	七・〇〇	三・〇〇
	京城ホテル	南山町	七・〇〇	四・〇〇
	笑福旅館	御成町	六・〇〇	三・五〇
	大塚旅館	御成町	九・〇〇	四・〇〇
	御成旅館	南大門通	七・五〇	三・五〇
	浦尾旅館	本町	七・〇〇	三・五〇
	三重旅館	蓬萊町	七・〇〇	三・〇〇
	二見旅館	古市町	七・〇〇	四・〇〇
	大東旅館	南大門通	六・〇〇	四・〇〇
	村上旅館	南大門通	七・〇〇	四・〇〇
釜山	鐵道會館	驛舍樓上	※二〇・〇〇	※五・〇〇
	釜山ホテル	辨天町	四・〇〇	二・〇〇
	鳴戸旅館	大倉町	八・〇〇	三・五〇
	荒井旅館	榮町	七・〇〇	三・〇〇
	松島ホテル	岩南町	一〇・〇〇	三・〇〇
	花屋ホテル	大倉町	七・〇〇	三・〇〇
	松井旅館	大倉町	五・五〇	三・〇〇
	岡本旅館	大倉町	五・五〇	三・〇〇
朱乙	鮮仙閣	朱乙溫堡	一〇・〇〇	二・五〇
	千歲	朱乙溫堡	一〇・〇〇	二・五〇
	萬翠	朱乙溫堡	五・〇〇	二・五〇

清津	かねた温泉館	龍郊洞	七・〇〇	二・五〇
	國際ホテル	新岩洞	五〇・〇〇	三・〇〇
	櫻屋旅館	港町	五・〇〇	三・〇〇
	山陽館	大和町	四・〇〇	三・〇〇
	鶴林館	明治町	八・〇〇	三・〇〇
	清進館	敷島町	四・〇〇	三・〇〇
	昌平館	稅關前	四・〇〇	三・〇〇
	浪花旅館	彌生町	五・〇〇	三・〇〇
富寧	平和旅館	—	三・五〇	二・五〇
古茂山	梅旅館	富寧面柳坪洞	四・〇〇	三・〇〇
	とらや旅館	富寧面柳坪洞	四・五〇	二・五〇
會寧	會寧館	四洞	七・五〇	三・〇〇
	博多屋旅館	一洞	一〇・〇〇	三・〇〇
	松屋旅館	二洞	七・〇〇	二・五〇
	丸中旅館	煮山洞	七・〇〇	三・五〇
上三峰	佐藤旅館	三峰洞	七・〇〇	三・〇〇
鐘城	福井旅館	錦山洞	七・〇〇	二・五〇
	大盛館	錦山洞	六・〇〇	三・〇〇
南陽	大田旅館	本町通	六・〇〇	三・〇〇
	九州館	本町通	六・〇〇	三・〇〇
	南陽館	本町通	六・〇〇	三・〇〇
穩城	松葉旅館	東和洞	四・〇〇	二・〇〇
訓戎	昭和旅館	豐舞洞	四・五〇	二・五〇
慶源	咸「東旅館	檜洞	五・〇〇	二・〇〇
	長崎屋旅館	檜洞	五・〇〇	二・〇〇
阿吾地	扇屋ホテル	灰岩洞	八・〇〇	三・〇〇
	梅屋旅館	灰岩洞	五・〇〇	二・〇〇
雄基	大和旅館	日の出町	一〇・〇〇	三・〇〇
	博多旅館	東本町	九・〇〇	三・〇〇
羅津	高砂旅館	大和町	七・〇〇	四・五〇
	草島旅館	大和町	五・五〇	三・五〇

寶來	寶來館	寶來町	四・〇〇	三・〇〇
	ヤマトホテル(總局直營)	元町	一八・〇〇	四・〇〇

△中國・蒙疆（一部支那旅館を含む）

—通州線—

通州	近水樓	西海子	一五・〇〇	九・〇〇
	山陽館	北大街	六・〇〇	五・〇〇
古北口	古北口ホテル	站前		五・〇〇

—京山線—

北京	扶桑館	東單牌樓大街	※一〇・〇〇 一五・〇〇	※二・五〇 五・〇〇
	六國飯店	東交民巷	※二五・〇〇	※五・〇〇
	北京飯店	東長安街	※二六・〇〇	※八・〇〇
	德國飯店	崇文門大街	※一四・〇〇	※七・〇〇
	北京花壇	南河沿二五	一二・〇〇	六・〇〇
	都ホテル	崇文門大街	一五・〇〇	四・〇〇
	日華ホテル	東城洋溢胡同	一〇・〇〇	五・〇〇
	日華ホテル別館	東安門大街	一五・〇〇	六・〇〇
	東京旅館	東城新開路	七・〇〇	五・〇〇
	燕京ホテル	西觀音寺胡同	一二・〇〇	五・五〇
	石田旅館	東城船板胡同	八・〇〇	六・〇〇
	黎明館	東城東裱褙胡同	一二・〇〇	五・〇〇
	松屋ホテル	東四牌樓七條胡同	九・〇〇	五・五〇
	豐前屋	東城草廠胡同小門	九・〇〇	六・〇〇
	增田旅館	麻線胡同三五	七・〇〇	五・〇〇
	蔦屋ホテル	錫拉胡同一九	一〇・〇〇	五・五〇
天津	芙蓉ホテル新館	日界旭街	三〇・〇〇	八・〇〇

	ヤマトホテル	日界花園街	三〇・〇〇	七・〇〇
	カメノヰホテル	日界須磨街	※一九・〇〇	九・〇〇
	常磐ホテル	日界壽街	一七・〇〇	九・〇〇
	平安ホテル	日界旭街	一二・〇〇	五・〇〇
	芙蓉ホテル別館	日界樂街	一五・〇〇	七・〇〇
	曉ホテル	特三區一緯路	※六・〇〇	※三・〇〇
	松島館	日界松島街	八・〇〇	五・〇〇
	副華ホテル	旭街	一五・〇〇	二・五〇
	龜井別館	須磨街	一八・〇〇	一〇・〇〇
	京和ホテル	松島街	一一・〇〇	六・〇〇
	芙蓉本館	曙街	八・〇〇	五・〇〇
	車站ホテル	特三區六經路	※七・〇〇	※三・〇〇
	扇一ホテル	特三區二經路	五・〇〇	三・〇〇
	北支ホテル	特三區一經路	七・〇〇	五・〇〇
	天津ホテル	同	八・〇〇	四・〇〇
塘沽	塘沽ホテル	溝沿街	七・五〇	六・〇〇
	富士屋旅館	新豐街	六・五〇	四・〇〇
	宮島館	新豐街	六・〇〇	五・〇〇
唐山	華北ホテル	西馬路	一・〇〇	七・〇〇
	沖野屋旅館	西馬路	六・〇〇	五・〇〇
	松屋旅館	平安東街	七・〇〇	五・〇〇
	萬龍旅館	郭謝莊	六・〇〇	五・〇〇
海濱	海濱賓館	草廠路	七・〇〇	四・〇〇
	同福飯店	保一路	七・〇〇	四・〇〇
	西山飯店	西經路	六・〇〇	四・〇〇
	德安飯店	同	六・〇〇	三・〇〇
	大美飯店	草廠南路	七・〇〇	六・〇〇
山海關	東方賓館	南門外	※九・〇〇	※四・〇〇
	東洋本館	同	一〇・〇〇	五・〇〇
	大和館	同	一〇・〇〇	五・〇〇
	日本館	南門外	一〇・〇〇	五・〇〇

秦皇島	日本館	站前	六・〇〇	四・〇〇
	秦皇館	西前街	六・〇〇	四・〇〇

—津浦・隴海線—

濟南	蓬萊賓館	緯二路	一三・〇〇	六・〇〇
	鶴屋ホテル	三大馬路三緯路	二・〇〇	六一・〇〇
	金水ホテル	緯二路	一三・〇〇	六・〇〇
	大和ホテル	—	一三・〇〇	六・〇〇
	濟南新館	三大馬路緯二路	一三・〇〇	六・〇〇
	歷城ホテル	通惠街	八・〇〇	五・〇〇
	東亞ホテル	緯四路	八・〇〇	四・〇〇
	箱根旅館	四馬路緯三路	八・〇〇	五・〇〇
	紅葉館	緯四路	八・〇〇	五・〇〇
	敷島旅館	緯二路	※二・〇〇	均一
泰安	泰安ホテル	財源街	二・五〇	二・〇〇
兗州	姬路屋	站前	五・〇〇	均一
	榮旅館	同	三・五〇	二・〇〇
臨城	臨城ホテル	城內	四・五〇	
徐州	中央ホテル	大馬路	※五・〇〇	※二・〇〇
	大和ホテル	同	八・〇〇	五・〇〇
	日の出ホテル	同	六・〇〇	均一
	日勝旅館	同	八・〇〇	四・〇〇
	鶴屋ホテル	同	八・〇〇	五・〇〇
	千葉屋旅館	同	八・〇〇	四・〇〇
濟寧	大和ホテル	翰林街	五・〇〇	均一
	濟寧ホテル	文中學街	四・〇〇	均一
棗莊	玉水旅館	城內	※三・〇〇	※〇・八〇
商邱	名古屋ホテル	—	※四・五〇	※二・〇〇
開封	日滿ホテル	站前	八・〇〇	二・五〇

—膠濟線—

周村	宮崎旅館	站前	三・〇〇	二・五〇

張店	大寶ホテル	站前	七・〇〇	四・〇〇
	東寶ホテル	同	七・〇〇	四・〇〇
黌山	淄川炭鑛ホテル	站前	三・五〇	三・〇〇
博山	信陽旅館	—	三・〇〇	均一
	姫路屋	—	二・五〇	均一
益都	青州旅館	站前	五・〇〇	三・〇〇
	益都ホテル	同	五・〇〇	三・〇〇
濰縣	常盤ホテル	站前	三・五〇	均一
坊子	坊子ホテル	三馬路	七・〇〇	五・〇〇
	松屋旅館	同	六・〇〇	三・〇〇
	美奈登旅館	二馬路	五・〇〇	三・〇〇
高密	大丸旅館	站前	二・八〇	均一
膠縣	日華會館	進德街	五・〇〇	三・〇〇
藍村	裕長旅館	站前	※〇・三〇	均一
	中華樓	同	※〇・三〇	均一
青島	グランドホテル	太平路三一	一三・〇〇	七・〇〇
	大和ホテル	曲阜路	一五・〇〇	五・〇〇
	長生園	太平角三路	一〇・〇〇	五・〇〇
	膠州灣ホテル	安徽路	一〇・〇〇	五・〇〇
	サボイホテル	曲阜路	六・〇〇	四・〇〇
	東洋ホテル	詔關路	二〇・〇〇	八・〇〇
	中央ホテル	市場一路	七・〇〇	五・〇〇
	松茂里旅館	中山路	六・〇〇	四・〇〇
	青島ホテル	廣西路	七・〇〇	六・〇〇
	新々ホテル	湖南路	一〇・〇〇	三・〇〇
	ミクニホテル	觀海路	四・五〇	均一
	蔦屋旅館	冠縣路	六・〇〇	四・〇〇
	都ホテル	山東路	一〇・〇〇	五・〇〇

—京漢・正太線—

長辛店	長盛館	站前	※三・〇〇	※二・〇〇
保定	大和旅館	西關大街	八・〇〇	四・〇〇
	松屋旅館	同	五・〇〇	三・〇〇
	筑紫旅館	城内唐家胡同	六・〇〇	四・〇〇
	李歐旅館	煤廠街	一〇・〇〇	二・〇〇
	華北ホテル	同	五・〇〇	二・五〇
	玉屋旅館	西關大街	五・〇〇	四・〇〇
	保靜館	煤廠街	六・〇〇	四・〇〇
正定	浪速館	城内府學西門牌	四・八〇	三・〇〇
石門	日本ホテル	大同街	一〇・〇〇	五・〇〇
	北辰莊ホテル	電報局街	七・〇〇	四・〇〇
	松菊旅館	寺後街	七・〇〇	四・〇〇
	石門ホテル	親善街	一〇・〇〇	四・〇〇
	東光ホテル	共存街	五・〇〇	四・〇〇
	國際ホテル	新華街	五・〇〇	均一
	玉の家ホテル	大同街	五・〇〇	四・〇〇
	蔦屋ホテル	中山街	五・〇〇	四・〇〇
	菊水ホテル	親善街	五・〇〇	均一
	富士ホテル	新興街	五・〇〇	四・〇〇
	第一ホテル	南大街	七・〇〇	四・〇〇
	浪速ホテル	共存街	七・〇〇	四・〇〇
	赤城ホテル	阜寧路	五・〇〇	四・〇〇
	北支旅館	共存街	四・〇〇	三・〇〇
	大和旅館	親善街	五・〇〇	三・五〇
順德	朝陽館	城内中山西街	七・〇〇	五・〇〇
	順德ホテル	城外尙的坊街	四・五〇	均一
邯鄲	邯鄲ホテル	車站街	四・〇〇	均一
彰德	彰德ホテル	北廠街	六・〇〇	五・〇〇
	新興ホテル	同	七・〇〇	五・〇〇
	都ホテル	中山大街	八・〇〇	五・〇〇
	五省ホテル	城内北大街	八・〇〇	五・〇〇
新鄕	大和旅館	保安街	八・〇〇	四・〇〇

	日本ホテル	中山街	八・〇〇	五・〇〇
	玉屋旅館	同	八・〇〇	四・〇〇
	新鄕ホテル	新華街	八・〇〇	四・〇〇
陽泉	富士乃屋旅館	陽泉下站	六・〇〇	四・〇〇
	陽泉ホテル	同	六・〇〇	四・〇〇
壽陽	壽陽館	站前	※三・五〇	均一
榆次	東洋旅館		二・〇〇	均一
	一力旅館		三・五〇	均一
	大和旅館		四・〇〇	均一
太原	北支ホテル	中校尉營	一二・〇〇	四・五〇
	太原旅館	萬壽七	一二・〇〇	四・五〇
	大丸ホテル	正太街二	一二・〇〇	四・五〇
	國際ホテル	西小月墻三三	一二・〇〇	四・五〇
	亞細亞ホテル	海子邊五	一二・〇〇	四・五〇
	正太旅館	柳巷街二三	一二・〇〇	四・五〇

—京包・同蒲線—

宣化	龍烟ホテル	城内草市街	七・〇〇	五・〇〇
張家口	日本旅館	東安大街	一三・〇〇	五・〇〇
	福榮旅館	鐵路斜街	一六・〇〇	五・〇〇
	察南ホテル	宣化大街	八・〇〇	五・〇〇
	富士屋ホテル	東安大街	一〇・〇〇	五・〇〇
	松田旅館	同	五・〇〇	均一
	廣島旅館	東安西街	七・〇〇	五・〇〇
	喜久富旅館	橋東大街	六・〇〇	五・〇〇
	富士屋旅館	東安街馬路三條	五・〇〇	四・〇〇
	大和ホテル	治安大街	八・〇〇	五・〇〇
	塞北館	興園巷	七・〇〇	四・〇〇
大同	晉北ホテル	城内皇城廟前街	一三・〇〇	五・〇〇
	大同ホテル	城内鬮池街	八・〇〇	六・〇〇
	山西ホテル	城内大北街	七・〇〇	五・〇〇
	三鈴ホテル	城内大西街	六・〇〇	五・〇〇
	南海ホテル	城内司令部街	六・〇〇	五・〇〇
	甲州屋旅館	城内皇城廟前街	五・〇〇	三・五〇
	松屋旅館	城外九號地	三・〇〇	均一
厚和	日本ホテル	新城西大街	八・〇〇	六・〇〇
	神戸旅館	同	六・〇〇	四・〇〇
	厚和旅館	新城西落鳳街	七・〇〇	五・〇〇
	三鈴ホテル	北馬路	五・〇〇	四・〇〇
	大和旅館	舊城東順城街	六・〇〇	五・〇〇
	大青山旅館	舊城小南街	五・〇〇	四・〇〇
	綏遠ホテル	舊城鹽料街	七・〇〇	五・〇〇
包頭	包頭ホテル	塗爺師巷	※六・〇〇	※三・〇〇
	第一ホテル	富三元巷	五・〇〇	均一
	武藏屋旅館	小文明巷	四・〇〇	均一
岱岳	大和旅館	車站前街	五・〇〇	四・〇〇
朔縣	朔縣ホテル	城内	六・〇〇	三・五〇
	うきよ旅館	同	六・〇〇	均一
寧武	松尾ホテル	城内	五・〇〇	均一

—海南線—

上海	萬歲館	閔行路	二〇・〇〇	八・〇〇
	林館	密勒路	一〇・〇〇	六・〇〇
	豐陽ホテル	北海寧路	一〇・〇〇	五・〇〇
	常盤館	乍浦路	一〇・〇〇	六・〇〇
	東和洋行ホテル	北四川路	一五・〇〇	六・〇〇
	東洋旅館	密勒路	六・〇〇	四・五〇
	中央ホテル	武昌路	一三・〇〇	六・〇〇
	海星館	海寧路	一三・〇〇	五・〇〇
	多摩ホテル	百老滙路	一五・〇〇	六・〇〇
	辰巳屋旅館	有恒路	一三・〇〇	六・〇〇
	八千代旅館	靶子路	一〇・〇〇	五・〇〇

	大和ホテル	海能路	一〇・〇〇	五・〇〇
	山崎ホテル	廸子路	六・〇〇	四・〇〇
	扶桑館	閔行路	八・〇〇	四・〇〇
	ブロードウェイマンション	百老滙路	シングル 一八・〇〇以上 ダブル 二五・〇〇以上	
	江星旅館	文路	八・〇〇	五・〇〇
	江南旅館	閔行路	八・〇〇	四・〇〇
	上海帝國ホテル	西華德路	八・〇〇	五・〇〇
	東館	密勒路	一〇・〇〇	六・〇〇
	青林館	長春路	一〇・〇〇	三・五〇
	アスターハウスホテル	黄浦路	三〇・〇〇	九・〇〇
	新生旅館	施高塔路	一〇・〇〇	五・〇〇
	新亞細亞ホテル	北四川路	七・〇〇	均一
	新上海ホテル	崇明路	五・〇〇	均一
	日の丸旅館	吳淞路	一〇・〇〇	五・〇〇
	揚子飯店	雲南路漢口路角	四・〇〇	均一
	一品香	西藏路	四・〇〇	均一
	大東旅社	南京路永安公司樓上	七・〇〇	均一
	東亞大旅社	南京路先施公司樓上	五・〇〇	均一
	新新旅社	南京路	五・〇〇	均一
	大中華飯店	西藏路四馬路角	四・〇〇	均一
	東方大旅社	西藏路廣東路角	三・五〇	均一
	キャセイホテル	南京路	シングル 四五・〇〇 ダブル 七五・〇〇以上	
	パークホテル	靜安寺路	シングル 三五・〇〇 ダブル 六五・〇〇以上	
	パレスホテル	南京路	シングル 三五・〇〇 ダブル 六五・〇〇以上	
	メトロポールホテル	四川路江西路	シングル 三〇・〇〇 ダブル 五〇・〇〇以上	
	ニューロイヤルホテル	靜安寺路	シングル 三〇・〇〇 ダブル 四〇・〇〇以上	

蘇州	繁家	閶門外庄濟橋	一〇・〇〇	六・〇〇
	敷島館	平門路	六・〇〇	四・五〇
	蘇州ホテル	閶門外庄濟橋	六・〇〇	四・五〇
	爵祿飯店	觀前街	二・四〇	〇・七二
	遠東飯店	北局九勝巷	二・二〇	〇・八〇
	吳宮飯店	觀前街	五・〇〇	〇・六〇
	京滬飯店	橫馬路閶門外	二・四〇	〇・四〇
	大東旅社	金門外太馬路	二・四〇	〇・四〇
	江蘇飯店	金門外飯居美	二・〇〇	〇・四〇
無錫	維新ホテル	城内新探路	八・〇〇	七・〇〇
	京滬飯店	城外通運路	三・八〇	〇・六〇
	東方花園飯店	城外通滙路	二・三〇	〇・五〇
	中國飯店	城内新民路城頭弄	二・八〇	〇・五〇
常州	大新飯店	城外太平巷口	二・〇〇	〇・三〇
	大道旅館	城内東横街四一	七・〇〇	三・〇〇
	平和莊	驛前通	二・五〇	均一
	中和新旅社	城内大廟街口	一・五〇	〇・四〇
	大陸飯店	城内烏龍庵底	一・五〇	〇・四〇
	大成旅館	城内仁育橋龍天家街	一・七五	〇・四五
鎮江	鎮江館	中山路王通事	八・〇〇	六・〇〇
	日華ホテル	觀音洞	八・〇〇	六・〇〇
	金山飯店	伯先路	二・五〇	一・五〇
	鎮江飯店	中山路	二・〇〇	〇・七五
	大東飯店	寶蓋路	二・二〇	〇・五〇
	東亞飯店	南馬路	二・〇〇	一・〇〇
揚州	柳屋旅館	揚反院大街星宮	七・〇〇	均一
南京	首都飯店（華中鐵道直營）	中山北路	二五・〇〇	五・〇〇
	揚子ホテル	下關中山橋畔	一三・〇〇	六・〇〇
	野田屋	下關商埠街	六・〇〇	五・〇〇
	福昌ホテル	中山路	三・〇〇	五・〇〇

	南京ホテル	太平路	一二・〇〇	六・〇〇
	寶來館	延齡巷	一〇・〇〇	五・〇〇
	國華ホテル	白下路	一三・〇〇	五・〇〇
	福田屋	中山東路	一三・〇〇	六・〇〇
	日進旅館	國府路西街	四・〇〇	均一
	大和旅館	中山東路	六・〇〇	四・〇〇
	泰山閣	碑亭巷	一三・〇〇	六・〇〇
	玄武莊ホテル	中山東路	五・〇〇	四・〇〇
	京ビルホテル	中山路	一三・〇〇	六・〇〇

——海杭・蘇嘉線——

嘉興	煙雨樓（華中鐵道直營遊覽地）	南湖		
	東陽館	東門城基路	五・〇〇	均一
	東亞新旅社	明光大馬路	一三・〇〇	〇・六〇
松江	交通旅社	城外西門外街	一・六〇	〇・五〇
	大華旅館	城外西門外街	二・四〇	〇・七〇
杭州	西冷飯店（華中鐵道直營）	裏西湖	三五・〇〇	五・〇〇
	新新旅館	裏西湖	一〇・〇〇	四・〇〇
	常園ホテル	延齡路	一〇・〇〇	四・〇〇
	九州旅館	英土街	四・〇〇	均一
	旭ホテル	英土街	六・〇〇	四・〇〇
	聚英旅館	敎仁街	四・〇〇	二・〇〇
	滄州旅館	湖濱路	三・三〇	〇・八〇
	環湖旅館	湖濱路	三・〇〇	〇・七〇
	興華公寓	延齡路	三・〇〇	〇・五〇
	新泰旅館	延齡路	二・五〇	〇・三五

——其他地方——

蕪湖	新田旅館	中山路	一二・〇〇	五・〇〇
	東京旅館	公園路	五・〇〇	均一
	中央飯店	四明路吉祥寺	二・五〇	一・三〇
	江南旅館	公安街	三・四〇	一・〇〇
	安樂旅館	大馬路	二・四〇	〇・六四
	滙中旅館	中山路	二・四〇	一・五〇
	中南大旅社	公園路	二・四〇	一・〇〇
	鳳宜樓旅館	下二街	五・〇〇	一・〇〇
	大方旅館	迎江街	三・〇〇	〇・七〇
浦口	旭旅館	大馬路	二・〇〇	一・五〇
滁縣	東亞旅館	城内	一・四〇	〇・七〇
	滁陽旅館	城内	一・二〇	〇・七〇
明光	東亞新旅社	大馬路	二・〇〇	〇・八〇
蚌埠	維新旅館	二馬路	五・〇〇	四・〇〇
	名津川ホテル	大馬路	六・五〇	均一
	大和旅館	中山街	三・五〇	均一
	皖淮旅社	二馬路中興街	二・五〇	均一
	交通旅館	二馬路	三・〇〇	二・〇〇
	大和旅館	中山街	三・〇〇	二・〇〇
巢縣	大東旅社	東門外	一・〇〇	〇・六〇
盧州	松屋旅館	城内小東門街	五・〇〇	四・〇〇
九江	花園館	環城路	一〇・〇〇	四・〇〇
	平和ホテル	大仲器	六・〇〇	三・五〇
	増田旅館	大仲路	八・〇〇	四・〇〇
	揚子旅莊	大仲路	四・〇〇	一・二〇
漢口	中央ホテル	阜昌街	一八・〇〇	一〇・〇〇
	揚子江ホテル	江灣路	一五・〇〇	五・〇〇
	武漢ホテル	蘭陵路	一三・〇〇	七・〇〇
	福昌ホテル	江漢路	八・〇〇	七・〇〇
	富貴館	中山路	七・〇〇	五・〇〇
	壽旅館	民權路	四・五〇	均一

觀光事業機關

◇滿洲觀光委員會（國務院總務廳弘報處內）

【趣　旨】滿洲國及關東州に於ける觀光事業諸機關を整備統制して內外旅行者の便を圖ると共に滿洲國及四圍の情勢の宣傳等により國策の遂行を期す。

【組　織】（一）在滿各機關觀光事業關係者を以て組織し事務所を國務院總務廳弘報處內に置く（二）委員長一委員若干名を以て組織（三）委員長は國務院總務廳次長を充て委員は委員長之を委囑（四）幹事長一名、幹事若干名を置き委員長之を委囑

【機　能】（一）本委員會は觀光機關の整備、觀光事業の統制指導に關する事項等を審議決定す（二）本委員會は滿洲觀光聯盟を指導し、其決議事項は該聯盟をして之を實施せしむるものとす。

委員長　松木　侠
幹事長　武藤富男

◇滿洲觀光聯盟（鐵道總局旅客課內）

【創　立】康德四年三月

【沿　革】康德四年三月滿洲觀光委員會の事業機關として誕生し漸次各地の觀光協會を加盟せしめ觀光施設、接遇、對內外宣傳、觀光觀念の普及と觀光事業に關する情報の蒐集交換、聯盟報の發行、他團體との連絡强調等に力を致し、漸次本事業の統制發達を促進して今日に至る。現在加盟團體は大連、旅順、奉天、鐵嶺、撫順、新京、吉林、哈爾濱、安東、承德、錦州の各觀光協會である。

【役　員】

顧　問　ツーリスビューロ滿洲支部長　伊澤道雄
　　　　鐵道總局營業局長　足立長三
　　　　滿洲弘報協會理事長　森田久
　　　　滿洲醫科大學教授　黒田源次
　　　　滿洲映畫協會常務理事　林　顯藏
理事長　滿鐵鐵道總局旅客課長　野間口英喜
理　事
理事兼評議員　大連市副市長　田中　稔
　　　　旅順市長　細川　淸
　　　　奉天市實業處長　倉橋泰彦
　　　　安東商工公會長　瀨之口藤太郎
　　　　新京商工公會長　石崎廣治郎
　　　　吉林商工公會長　河野喜作
　　　　哈爾濱市庶務科長　石尾英文
　　　　奉天鐵道局營業課長　後藤　雅
　　　　錦州鐵道局營業課長　中田健吾
　　　　吉林鐵道局營業課長　後藤進一
　　　　齊々哈爾鐵道局營業課長　長谷川銀一
　　　　哈爾濱鐵道局營業課長　望月　諦
　　　　牡丹江鐵道局營業課長　中村　享
　　　　滿鐵本社總裁室弘報課　長島高春
　　　　鐵道總局弘報課長　芝田研三
　　　　鐵道總局弘報課　山內利之
　　　　同　永野賀成
評議員　大連市長　別宮秀夫
　　　　奉天市長　鄭　禹
　　　　安東市長　都富佃
　　　　新京特別市長　金銘世
　　　　吉林市長　路之淦
　　　　承德街長　李葆堂
　　　　哈爾濱市長　趙　震
　　　　錦州市長　袁治僞
　　　　撫順市長　鯉沼兵士郎
　　　　鐵嶺副市長　平田　淳
　　　　北滿江運局運輸課長　中村　博
　　　　鐵道總局旅館課　四方辰治
幹　事　鐵道總局旅客課　佐藤眞美
　　　　鐵道總局旅客課　佐藤彥治郎

ツーリスト・ビユーロー滿洲支部事業課長　北條保平

【昭和十五年度事業】（一）滿洲觀光資源募集（四月）（二）第四回觀光協會事務打合會哈爾濱市公署に開催（一月）、（三）鐵嶺觀光協會加盟（一月）、（四）聯盟報隔月發行認可（二月）、（五）第四回聯盟總會鐵道總局に開催（四月）、（六）滿洲觀光百選決定發表、一等當選鏡泊湖、横道河子、大陸科學院、大豐滿ダム、二等當選、閭山、輯安、王府長白山、建國大學、雉獵、阜新炭坑、興京興城、以下略。（七）滿洲觀光寫眞の作製（日本より專門大家二名を招聘）、（八）滿洲觀光美術展奉天、新京、哈爾濱、大連に開催（九月—十月）、（九）滿洲忠靈塔、繪ハガキ輯の發行、（十）滿洲產業叢書の發行（一一）英文ツーリストライブラリー發刊（一二）滿洲戰跡繪ハガキ輯發行、（一三）蒙古聯合自治政府要人一行文藝春秋社（大洋）（オール讀物）兩編輯長及寫眞作家木村中山兩氏招聘、（一四）ポスター「聖地滿洲」配布（一五）野間口理事長全滿に放送四月（一六）興亞觀光特產品展後援（四月—七月）、（一七）第五回觀光協會事務打合會大連に開催（五月）、（一八）國務院總務廳次長薄田美朝氏退官、新任松木俠氏滿洲觀光委員會委員長に就任（五月）、（一九）滿洲戰跡寫眞懸賞募集（九月）、（二〇）京城博覽會に觀光寫眞、土產品出陳（九月）、（二一）滿洲綏方使節日本へ派遣（七月）、（二二）觀光週間實施（九月一五日—九月二十一日）第一日、ラジオ放送（松木觀光委員長、野間口聯盟理事長全滿リレー交換放送）市街美化運動第二日、市街美化運動、第三日、市街美化運動ラジオ放送（ラジオ・ドラマ）第四日、聖地參拜、滿洲戰跡寫眞懸賞募集發表、滿洲觀光美術展（哈市）第五日、滿洲觀光美術展（哈市）第六日、交通道德强調日、滿洲觀光美術展（哈市）第七日、交通道德强調日、滿洲觀光美術展（哈市）尙此外全滿各觀光協會をして地方色豐かな各種催行を爲さしめ、國土宣揚、觀光觀念の正しき認識の强調に豫期以上の成果を收め、茲に滿洲最初の觀光週間は滯りなく終了した。

（二三）聯盟招聘竝斡旋歐米人團體

四、二　メキシコ新聞記者アルバレス女史
四、二六　米國アイダホ州ポカテロ市ポカテロトリビユーン紙社長ニコラスイフト夫妻
五、六　サンパウロ大學生一行二二名
五、二一　ドイツ學徒使節カールツアール氏一行三名
五、二三　米國留學生ヤルマウイリアムショウ女史
五、二四　ブラジル前文藝院長ソウザ博士夫妻
六、九　關東學院教授ホルトム博士
六、一九　米國大學教授カーチスアレキサンダー氏竝ラバツトサイモン氏
七、一一　スペイン經濟使節團一行
七、一九　米國人ジヨンフエ・オライアン氏一行五名
七、二〇　東洋文化夏期大學講師ライル、スペンサー博士一行四名
七、二五　キヤンベル博士一行三五名
七、二九　日米協會（ロスアンゼルス市）會長ルイズ・ワトキンス女史竝令孃
七、三一　第七回日米學生會議出席ノ米國大學生一班（四十二名）
八、一　同第二班（三十五名）
七、二八　米國教育家レイノヅル博士竝マーフイ博士
八、四　米加女教員團一行一六名
九、三〇　米國旅行業者一行十一名

◇大連觀光協會（大連市役所內）

【創　立】昭和十年拾月貳拾貳日

【沿　革】日滿支の中心に位する大連港の重要性と風光明媚なる海濱幽邃閑雅なる山野を有し四季を通じて觀光に惠まれた好適地大連が頻繁なる旅客に對し何等之が斡施機關なきを以て昭和拾年拾月貳拾貳日本會を設立し、會長に市長、小川順之助氏を推し同拾壹月市長更迭に伴ひ丸茂藤平氏就任、同拾四年五月三度現市長別宮秀夫と更迭現在に及ぶ。

【役　員】▲會長別宮秀夫、▲副會長芒藤定、貝瀨謙吾、田中稔、▲理事森川莊吉、笠原博、長永義正、山岡信夫、安田枡、伊藤格、乘杉壽慶、森岡謹一郎、芝田研三、折田有信、山下樵曹、前島純夫、米野豐實、張本政、周承武、許儒年、▲幹事高山謹一

山口義人、山內利之、吉池孝平、具足嘉一、早川正雄、白石繁雄、笠岡久夫、春日粂三郎、高本吉郎、樋室健一、白川淳、野間口正人、中村常太郎、千住政次郎、氏野久夫、後藤辰雄、森岡俊介

【昭和拾四年度事業】（一）中央公園內綠山、山の茶屋附近にツツジ五百株移植し一帶をツヽジケ丘と命名し將來大連の新名所を造る、（二）黑石礁附近海岸に外客誘致の目的を以て、大海濱聚落場を設置すべく調査を爲す（三）觀光ホテル建設に付き調査を爲す、（四）觀光馬車創設に付準備中（五）大連名所繪葉書二萬部を造り內地各機關及全滿に配布す、（六）觀光寫眞懸賞募集、（七）日本能率協會全國大會を當地に於て開催せらるゝに當り其來連者約五百名に對し滯連中旅順市內見學は勿論其他萬般の斡旋をなす、（八）練習艦隊入港に付其艦艇傍に案內所を設け市內地圖を贈り案內斡旋をなす。

◇旅順觀光協會（旅順市役所內）

【創　立】昭和十年十二月創立、同十四年五月高山會長辭任、嶬川市長後任に就任十五年現會長と更迭現在に至る。

【役　員】▲會長細川淸、▲理事村上信二、中村廣喜、今井順吉、小山光記、件野英二、山縣富次郎、中尾判太郎、▲幹事島貫虎太郎、中元淸壽、古賀竹次郎

◇鞍山觀光協會（鞍山市公署內）

【創　立】昭和十五年四月一日

【役　員】▲會長、鞍山市長、古舘尙也、▲常務理事、鞍山市公署監理科長小栗忠七、▲理事福永悅三郎、（鞍山驛長）綱敏幸（ジヤパンツーリストビユーロー主任）石黑覺治、（協和會鞍山本部事務長）內山新治、（昭和製鋼所總務部庶務課長）高野氣次郎（奉南交通株式會社專務）平尾康雄、（鞍山商工公會常務理事）三宅玉次郎（鞍山旅館業組合長）趙靜泉（鞍山市諮員）

昭和十四年度事業】（一）ドライヴウエーの新設改修、（二）都市の綠化、（三）寫眞展覽會、（四）土產品の選定及創設（五）、講演會。

◇奉天觀光協會（奉天市公署內）

【創　立】昭和拾參年五月

【沿　革】滿洲國に於て商工業並交通機關の重要性と觀光資源に惠まれたる奉天市に於て斡旋機關なきが故に昭和拾年五月創立された。當時は商工公會內に事務所を置き觀光客誘致接遇斡旋に力を致して居ったが、昭和拾參年奉天市公署勸業科內に事務所を移し、專ら事業の宣傳に努力した結果、驚異的な發展を示すに至り昭和拾四年六月、奉天驛前浪速通角に案內所を設立し以來今日に至る。

【役　員】▲會長鄭禹（奉天市長）、▲副會長多田晃、石田武亥（奉天商工公會長）、▲常務理事倉橋泰彥、▲理事古館純也、田沼鐵男、中村猛省、小林德三、芝田研三、野間口英喜、三宅宗悅、衞藤利夫、周文英、金田詮造、角田壯太郎、關憲治、西山信夫、森眞三郎、竹原傳、武宮豐治、香取眞策、武山茂雄、丸山辰巳、平野長秀、山脇金五郎、岸田正次郎、大竹孝助小坂毅逸、古森謙爾、田中喜三郎、石田晃、野坂謙次、岡安長太郎、方炫基、▲監事加藤治雄、肥田耕三▲幹事酒井昇、越智竹市、山內俊盛、山縣實、▲主事緒方彌吉

【昭和拾四年度事業】（三月）戰跡巡拜團催行（四月）東陵撫順見學團催行（六月）觀光協會案內所新設（九月）觀光展覽會開催（滿毛）奉天觀光地のパステル畫、滿洲觀光地寫眞資料日滿支觀光ポスター、觀光パンフレット及リーフレット、奉天觀光寫眞懸賞展覽會（滿毛）奉天戰跡巡拜團催行、（十月）東陵芋堀り（十一月）東洋土產品博覽會京都大丸吳服店にて開催されるに付き人形陶器貳拾點出品す。

一、觀光バス乘車券發賣

一、北陵東陵參拜入門證發行（自八月至十一月）

北陵　三九、一八三名
東陵　五、三七四名

◇鐵嶺觀光協會（鐵嶺市公署內）

【創　立】康德五年六月二十二日

【沿　革】元龍首山景勝維持會は縣公署滿鐵等の協力に依り商工會議所がその運用に當り觀光施設其他紹介宣傳に相當の効果を擧げて來たが、康德四年拾貳月事務運用

一切を市公署に移管、翌年五月同會を解散し、單に龍首山のみならず鐵嶺縣下は勿論法庫康平縣等背後の名勝をも紹介すべく、同年六月廿二日遂に本會の設立を見るに至れり。爾來商工公會に事務所を置き專ら觀光コースの調査選定、案內書の作製、遼海山スキー場の施設、西貝河其他狩獵地の宣傳、張家樓子、日露戰跡保存紹介等に努力して來た。

【役員】▲會長平田淨（鐵嶺市副市長）、▲副會長紀藤義也（鐵嶺商工公會長）、王者貴（鐵嶺市諮議會員）▲常務理事松田鐵嶺市庶務課長、鹿野鐵嶺驛長大住鐵嶺商工公會常務理事、野口鐵嶺滿日支局長

【昭和拾四年度事業】一張家樓子戰跡視察、二戰跡案內標識建設、三龍首山登山道路改修、四龍首山植樹、五龍首山慈恩寺藏經樓大藏經の整備、六全滿獵大會、七觀光資源開發、八觀光五コース設定、九觀光鐵嶺印刷、十スキー場道路築造

◇四平街景勝維持會（商工公會內）

【創立】康德五年六月

【沿革】市の東方約二里半の行程に「半拉山門」なる風媚中央滿洲に於て稀に見る景勝地あり。而も此の地たるや、柳邊西十三門の一にして、遺跡嚴存し、その山頂は能く蒙古平原を一眸に遙望す、仍ちこの景勝を顯揚し、古跡を維持せしめんが爲に本會を設立せるものにして、新京奉天間に於ける有力なる觀光地たらしめんことを期す。

【役員】▲會長伊藤新八、▲理事小川義鷹、二木桂三郎、天野東、小名木勳

【昭和拾四年度事業】地域が吉林省境にあるため施設に種々困難があつたが、四平省の設置決定と共に、遺跡の保護、景勝の設備、遊覽客の誘致に一大躍進を見るべく市の西南五里餘にある喇嘛教寺の秘佛見物、三江口の大陸的悠流見物を加へたる觀光ルートの設定に依り近く觀光協會を設くべき機運を釀成しつゝあり。

◇新京觀光協會（新京驛降車口前）

【創立】康德三年八月廿五日

【沿革】康德三年六月三日、新京特別市實業懇談會に於てビューロー、驛、滿洲事情案內所、旅館組合其他代表者に依つて準備委員會を開いた結果、官民有志七十餘名の參集者を得、八月廿五日創立總會を開くに至つた。康德五年事務所を現在の處に設け漸次事務員を增加して現在に至る。

【役員】▲會長金名世（市長）、▲副會長石崎廣治郎、（商工公會副會長）、王刈山（商務會長）、▲常務理事舟田淸一郎（市公署庶務課長）、長谷川正雄（觀光ホテル專務）、▲理事三浦一（商工公會常務理事）孫化南（商工公會常務理事）坂田修一（協和會指導科長）村上英信（圖書配給會社）、稻川利一（新京驛長）、湯淺文雄（ビューロ主任）、五味武太郎（旅館組合長）、峰下一郎（土產品商組合長）、松本信一（滿鐵支社弘報係主任）、佐藤孝（大阪商船新京事務所長）、中馬重宗（交通會社支配人）、林田謙介（新京ヤマトホテル支配人）、加藤敏彥（大連汽船新京出張所長）、關口英太郎（大連汽船新京出張所長）

【昭和十四年度事業】

（一）觀光サービス陣の徹底强化、（イ）リーフレツト國都新京案內五萬部小型パンフレツト新京の栞一萬部、新京觀光地圖一萬部新京ハイキングの栞五千部發行、（ロ）日滿人ガイドの設置、（ハ）メツセンヂヤーの實施、（ニ）旅館女中、女給等春秋二回に亘り觀光バスの試乘を開催す、（ホ）佐藤博、野元伊太郎兩氏を講師として接客サービス講習會開催（五月）（ヘ）按摩業者理髮業者等業別によるサービス座談會を開催した、（ト）十月京都で開催される東洋土產品博覽會に際して協會が主催で全滿各地觀光協會、商工公會土產品組合に呼びかけ滿洲土產を出品した。

（二）觀光施設の充實促進、（イ）新京驛構內に觀光地圖板の建設に着手、（ロ）石碑嶺、淨月潭兩ハイキングコースに標識を設置した。

（三）觀光客を對象とする躍進國都の實情紹介

（四）觀光に關する觀念の普及、（イ）新京觀光寫眞の募集及展覽會の開催、（ロ）接客從事員の戰跡參拜デー、（ハ）淨月潭探勝大會、（ニ）各地ハイキングの主催後援。

◇撫順觀光協會（撫順市公署內）

【役員】▲會長鯉沼兵士郎（市長）、副會長梅本正倫（炭礦庶務課長）、中島右仲（商工公會副會長）、和氣幹雄（副縣長）、▲理事大野義雄（炭礦庶務主任）、窪田利平（撫順新報社長）、徐漸九（副市長）、田中喜三（撫順驛長）、阿曾沼庸士（ビューロー主任）、森口直次郎（商店聯合會長）、濱田起世次（市公署庶務科長）松本善二（奉天交通會社撫順營業所長）、森山環（商工公會常務理事）、竹原秀夫（市公署事務官）、堺榮一（警察特務科長）

【昭和十四年度事業】（四月）一、接客係觀光案內講習會（女給、藝妓、サーヴイス係）二、新屯神社ハイキング（廿四日、廿五日、廿六日、大祭）三、撫順名所寫眞募集（五月）四、カメラハイキング五、土產品座談會（六月）六、觀光祭（展覽會撫順音頭小唄、ポスター標語、歌曲）（八月）七キヤンプ祭（新屯、其の他）八、海濱聚落（旅順、大連、興城、沙崗）（九月）九、東陵北陵奉天觀光（十月）一〇、撫順史蹟巡り 一一、撫順人の撫順觀光（十一月）一二、老虎台スキー場（十二月）一三、模範接客係從事員表彰 一四、ハイキングコース竝に觀光ルートの設定 一五、案內板設置 一六、琥珀泉永安公園、競馬場其の他宣傳 一七、交通機關整備 一八、報道機關を通し撫順宣傳 一九、撫順觀光映畫作製の件 二〇、撫順紹介ラヂオ放送 二一、市街美觀保持に關する件。

◇本溪湖觀光協會（商工公會內）

【創立】昭和十四年五月三十一日

【沿革】太子河遊覽地維持會として誕生、昭和十二年四月二十八日觀光協會と改稱、事業範圍を擴大し、爾來太子河を中心とする風光古蹟の宣傳と外客誘致に努めつゝあり。

【役員】▲會長宮崎小三郎 ▲副會長王源峯 ▲顧問、委員省略

◇安東觀光協會（安東市公署內）

【創立】康德三年十一月

【沿革】天與の山容水姿と傳統の文化習俗を保存補强し、廣く內外人を誘致して民力の涵養と國富の增進に努め、國境地帶としての特殊性に全力を傾注しつゝある本會は昭和四年大連新聞社の滿洲八景公選に際して安東鎭江山が其第一位に當選せる翌五年「外客誘致委員會」を創設、康德元年之を安東景勝委員會と改稱して常に外來客の誘致と接遇に努めて來たが、治外法權の一部撤廢と共に同三年十一月安東觀光協會と改組し今日に至り、組織は全市民を會員とし市公署、商工會の補助金と事業益金を以て經費に充て臨時事業は一部寄附金を以て行ふ。

【役員】▲會長安東市長都宮佃 ▲副會長副市長孫潤蒼、商工公會長瀨之口藤太郎 ▲理事、評議員、顧問略（康德六年七月現在）

◇營口觀光協會（營口商工公會內）

【創立】康德五年七月

【役員】▲會長耿熙旭（營口市長）▲副會長甲斐正治（營口副市長）阿部覺磨（營口商工公會副會長）▲常務理事河野繁（營口商工公會常務理事）

【昭和十四年度事業】（一）市內案內看板の塗換（二）大石橋娘々廟祭禮に關し沿線客誘致（三）楞嚴寺、西大廟の祭禮に關し宣傳の件（四）遼河祭（五）營口市の紹介。

◇吉林觀光協會（財神廟胡同一號 吉林商工公會內）

【創立】康德二年二月二十六日

【沿革】豐かなる觀光資源と國都に近き有利なる地位を把握し、全滿唯一の鵜飼事業を吉林旅館組合より繼承、爾來專ら該事業に精進して今日に至る。康德五年六月事務所を市公署より商工公會內に移轉し施設內容漸次强化せられ、就中水電ダム工業進展に伴ふ觀光施設により大いに之が紹介宣傳に努めつゝある。

【役員】▲會長路之溢 ▲副會長河野喜作、

同貞松恒郎 ▲理事荒川海太郎、帶金國男、後藤雅、范象鯤、遠藤梅三郎、傅昭鯤、岩間啓二郎、孫楚卿 ▲常任幹事中山子行 ▲幹事楊荃蓀、宮田正五郎、小袋牛藏、若山正義、沈恩海、依田眞

◇哈爾濱觀光協會（中央大街二〇號）

【創　立】康德四年三月三十日

【沿　革】觀光客の斡旋は從來當地のツーリスト・ビユーローに於て行はれて來た處であるが、康德三年末觀光事業に對する滿洲國の國策が確立し、之に響應して各都市自治機關も民間と協力して觀光事業に手を染めるに至つた。本協會も哈爾濱市公署と民間各機關の努力により康德四年三月創立を見るに至り、最初市公署內に事務所を開設したが事業の發展性に鑑み翌年現在の場所に移轉するに至つた。尙哈爾濱驛內出口案內所開設に伴ひ本年（康德七年四月）駐在員を派遣した。

【役　員】▲會長哈爾濱市長趙震 ▲副會長哈爾濱副市長山口民治、商工公會副會長加藤明 ▲常務理事市公署庶務科長石尾英文、哈鐵旅客係長、大越兵司、日本國際觀光局哈爾濱主任岡本俊麿、哈爾濱商工公會業務處長、哈爾濱驛長瀬藤邦治、哈爾濱交通會社支配人、哈爾濱旅館組合長福原雅夫

【昭和十四年度事業】一、日本觀光施設視察團に參加、觀光事業の調査、二、哈爾濱土產品商組合の結成に對する斡旋、三、土產品に對する座談會開催　四、夜の觀光座談會開催　五、觀光バスコース選定に參加　六、旅館の女中の市內觀光指導　七、廣告塔の經營　八、協會々員に土產品五分引劵發行　九、觀光バス乘車劵代賣　十、觀光客休息所設置　一一、觀光並びにサービス讀本の出版　一二、觀光繪葉書の出版　一三、レストラン觀光亭の經營　一四、ショーウインド裝飾競技會の後援　一五、英字紙並に英文單行本による對外宣傳　一六、大每觀光號による對日宣傳　一七、鮮字紙による對鮮宣傳　一八、モータボート觀光艇の運航　一九、煙火大會の開催　二〇、市街美保持座談會の開催　二一、東洋土產品博覽會へ出品　二二、滿洲工藝展へ出品　二三、パンフレット「觀光のハルピン」出版　二四、興亞產業展へ出品　二五、時間表の作製　二六、哈爾濱觀光寫眞展覽會の開催　二七、史蹟名所案內標識設置　二八、全滿觀光繪葉書展の開催　二九、觀光客の案內事務一切　三〇、其の他新聞雜誌に依る宣傳。

◇齊齊哈爾觀光協會（市公署內）

【創　立】昭和十五年四月

【沿　革】內外各地より來齊するもの逐年增加の傾向に鑑み豫てより關係筋に於て協會設立の議が進められてゐたが、昭和十四年十月二十四日省公署に於て副市長以下關係各機關代表三十名出席、創立委員會を開催協議の結果翌十五年四月二十日商工公會々議室に發會式を擧げ市在住官民一體主義を標榜觀光事業の完璧を期すべく本格的活動に移つた。

【役　員】▲會長、齊々哈爾市長王靖黎 ▲副會長、齊市副市長 櫨尾信次、商工公會副會長 池田平八郎 ▲理事、龍江縣副縣長朽木忠雄、警察廳警務科長猪原幸四郎、齊々哈爾鐵道局庶所係長岡田早苗、齊々哈爾鐵道局資料係長 安武哲夫、協和會省本部總務科長平山節、齊々哈爾驛長井上丑五郎、國際運輸齊々哈爾支店長阿武義雄、輸入組合理事岩本實、土木協會柿本道彥、稅務監督署副署長猪野々正治、專賣署副署長原五郎、中央銀行副經理金井貞隆、興銀支店長高垣官吉、旅館業組合長益田龜吉、飮食店組合長河口又一料理店組合長吉田德治、商店協會長大貫與一、永安區隊長杉原三十郎、龍華區隊長小今井盛義、永安區長中原昌辯、三井物產出張所主席山本敏雄、滿拓齊々哈爾出張所長近藤平四郎、協和會市本部部員山口實炎、滿系旅館業組合會長陳萬鈞、同料理店組合會長李恩貴、同飮食店組合會長侯介沈、雜貨同業會長張清鏡

◇東滿觀光協會（牡丹江市公署內）

【創　立】昭和十五年五月

【沿　革】牡丹江市は滿洲事變を轉機として僅か人口三千五百の小邑より數年ならずして十萬を突破し、行政產業經濟交通と凡ゆる部門に於て東滿の重要據點となり、現在拾六萬を擁する大文化都市となつた。茲に於て視察觀光客の來訪する者日と共に激增し、觀光施設接遇要望に應じ、康德五年三月牡丹江觀光協會を設立したるも、建設過渡期の慌しさに實質的活動を見るに至らざりしが、康德七年五月之を改組擴充し東滿觀光協會と改稱、牡丹江市を中心に東滿一圓の觀光紹介宣傳に從事、活潑なる活動に入つた。

【役　員】▲會長、牡丹江市長草地一雄 ▲副會長、牡丹江副市長習齊輝、牡丹江鐵道局營業課長中村享、牡丹江商工公會長安河內隆吉、▲理事、牡丹江省庶務科長戸倉勝人、牡丹江市庶務科長八島正雄

【昭和拾四年度事業】1、案內所設置驛前ビユーロービル內、東滿土產品販賣觀光相談案內斡旋　2、市內觀光ルートの設定視察觀光團の爲市內觀光ルート設定バスにて說明案內實施　3、鏡泊湖觀光案內當地より日歸り探勝を每水曜日、日曜日に實施案內說明をなす　4、東滿觀光の夕、音樂舞踊映畫を市民の爲觀光思想の普及を圖りたり。

◇錦州觀光協會（富和街錦州市公署內）

【創　立】康德五年二月二十二日

【沿　革】遼西產業界の中心的古都たる錦州を內外に廣く紹介せんがため、昭和十二年四月以來商工會議所並錦鐵等相寄り數次の協議會又は設立準備委員會を經て昭和十三年二月發會式を擧ぐるに到り、役員も夫々決定して事務所を市公署內に置くこととなつた。

【役　員】▲會長錦州市長 ▲副會長曾根市商工公會副會長、錦鐵營業課長 ▲理事錦州市庶務科長（常任）、錦縣驛長、錦鐵旅客係長、商工公會常務理事滿航支所長、ビユーロー主任、旅館組合長 ▲幹事錦州市庶務股長（常任）外六名 ▲評議員七名

◇承德觀光協會（承德街公所內）

【創　立】昭和拾壹年九月

【沿　革】康德三年五月十日承德十日會の協議事項に上程され、熱河事情研究所長高田成志氏外五名の委員を擧げ協會結成に着手、同七月十日會に於て趣意書規定案を討議し、十日會の觀光協會結成案を完成す。

同拾五日官民合同に依る承德觀光協會設立座談會を開催し、李縣長を委員長とする設立委員會成立。

爾後數回に亘る委員會を經て九月十五日名譽會長に原總務廳長、會長に李縣長、副會長に岡田民、常任理事に高田所長推薦され南營子舊承德劇場に於て結成式を擧げ、事務所を西大街承德居留民會內に置く。康德四年十一月居留民會解散となるに及び一時ツーリストビユーロー內に事務所を移せるが、役員改正に伴ひ康德六年二月舊民會跡商工公會に事務所を移し、次で康德六年八月承德街公所內に移し今日に至る。

【役　員】▲會長、承德商工公會長 ▲副會長承德街公所副街長、承德旅館組合長、協和會熱河省本部事務長、省公署土木科長、省公署社會科長、承德縣副縣長、街長、警察廳長、稅關長、警務課長　承德商工公會常務理事、承德自動車區長、承德國際觀光局主任、滿洲航空會社承德支所長、承德縣公署街村股長、滿洲電業公司承德支所長、熱河新報社長、國通支局長熱河事情研究所長水野淸次　安川巳代吉、日滿旅館組合長、中央銀行支行長、興業銀行支行長、承德石油販賣株式會社支配人、國際運輸株式會社承德出張所長、日滿料理店組合長、日滿飮食店組合長

【昭和拾四年度事業】一、寫眞展覽會再度開催　一、淸音會の普及宣傳（淸朝の古雅樂）　一、觀光客に對する案內說明　一、喇嘛踊　一、遊覽會に駱駝提供　一、武烈河下り　一、「承德の古蹟に付き」「熱河の夕」等ラヂオ放送レコード吹込　一、東寶映畫班の「白蘭の歌」撮影に際し極力援助す　一、知名人士及關係者來承の際協會主催座談會度々開催宣傳と資料獲得に努力　一、接客業者の指導訓練　一、地元民一般に觀光協會の使命と其の存在に付きて機會ある每に認識普及に努めたり。

◇上海觀光協會（黄浦灘路二四、横濱正金銀行樓上鐵道省辦事處內）

【創　立】昭和九年七月

【沿　革】在上海日本側觀光關係相寄り情報意見の交換を行ひ、相互に連絡利便を圖ると共に、本協會を通じ外國關係機關及支那側關係機關との連絡提携及支人外の日本誘致を增進するために、汽船會社、鐵道省事務所等の關係者を中心として設立せられ、殊に滿洲事變後の支那の對日空氣惡化の際に、本協會を通じ中日間の友好增進に貢獻せんとせることも本協會設立當事者の底意なりしなり。

【昭和十四年度事業】一、中支に於ける旅行を語る會員有志のラヂオ放送　二、中支旅行に對する取締當局との連絡を緊密ならしむ。

等により本邦旅行者の中支方面への誘發を計れり。

【會　員】興亞院華中連絡部、日本總領事舘、日本郵船、大阪商船、大連汽船、東亞海運、ビューロー、滿鐵上海事務所、華中鐵道、上海日本商工會議所、大日本航空、華中航空、鐵道省辦事處、鐵道省國際觀光局事務所

◇旅行倶樂部竝滿洲旅行倶樂部聯盟（奉天市住吉町五）

ビューロー滿洲支部內に事務所を置くツーリスト倶樂部は、昭和七年創業以來各地に倶樂部網を擴張したが、茲に旅行界の劃期的飛躍期に際會して、從來のツーリスト倶樂部を改組し、興亞の新情勢に順應する旅行倶樂部竝に滿洲旅行倶樂部聯盟を昭和十四年四月一日より設定した。即ち會員相互の親睦を圖ると共に、志操、體位の向上を目指し、健全なる旅行趣味の普及、發達、旅行知識竝に旅行公德の啓發に資せんとするものである。現在會員は約八百名。

新旅行倶樂部竝聯盟規約を要約すれば大體次の通りである。

昭和十五年度に入つては、奉天、齊々哈爾、牡丹江等に於て懇談會を催したる外各地に於て頻繁に體位向上の團體旅行を實施中である。

▲旅行倶樂部規約

一、本會ハ滿洲國、關東州及ビ北鮮在住ノ旅行同好者ヲ以テ組織ス

二、本會ノ事務所ハ社團法人ジャパン・ツーリスト・ビューロー案內所內ニ置ク
但シビューロー案內所所在地外ノ旅行倶樂部ニ於テハ適宜事務所ヲ設ク

三、本會事業
一、旅行ニ關スル各種ノ會合
二、臨時會員ノ團體旅行ノ實施
三、印刷物ノ配布
四、其他必要ナル事項

四、本會ノ會員タラントスル者ハ入會金一圓ヲ納入スベキモノトス
但シ二十名以上ノ團體入會ノ場合ハ入會金一人當五十錢トス

五、會費ハ之ヲ徵收セズ

六、會員ニ對シテハ一定ノ會員徽章ヲ無料交付ス

七、聯盟所屬ノ旅行倶樂部所在地域ヘ住所ヲ變更シタル場合ハ其ノ地域ノ旅行倶樂部會員トナルモノトス

▲滿洲旅行倶樂部聯盟規約

一、本會ハ滿洲國、關東州及ビ北鮮各地ノ旅行倶樂部ヲ以テ組織ス

二、本會ハ事務所ヲ社團法人ジャパン・ツーリスト・ビューロー滿洲支部ニ置ク

三、本會ハ所屬旅行倶樂部ヲ統制補導シ相互ノ連絡協調ヲ圖リ各關係機關ト協力シテ旅行倶樂部ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

▲旅行倶樂部事務所

大連、鞍山、奉天、四平街、新京、安東、營口、撫順、吉林、延吉、通化、圖們、牡丹江、哈爾濱、佳木斯、齊々哈爾、滿洲里、錦州、承德、山海關、淸津、羅津

◇滿洲獵友聯盟（奉天住吉町五）

【創　立】昭和十年十二月

【沿　革】狩獵道德の向上身心の鍊磨、尙武の氣風涵養竝に會員相互の融和親睦を圖るを目的として各地の獵友會を以て組織聯盟は滿洲國成立以前から組織されて居た大連、奉天、新京、哈爾濱等の各獵友會がその主體となり之に撫順、營口、本溪湖、瓦房店等が參加し大連に於て結成された。而して聯盟の本部は昭和十二年七月迄大連にあつたが、鐵道總局とビューロー滿洲支部の

奉天移轉に伴ひ同聯盟も翌八月より奉天に移轉した。

同聯盟は前述の目的を遂行する爲左記の事業を行つてゐる。

一、日滿各關係機關との連絡
二、機關誌の發行
三、射擊會、競獵會の開催

【事務所】

本　部	奉天住吉町奉ビル	ツーリストビューロー支部內
大連支部	浪速町一二	坂本銃砲店內
奉天支部	青葉町五六	長山驄方
新京支部	室町三丁目三ノ二	西藤慈重方
哈爾濱支部	中央大街	ツーリストビューロー內
撫順支部	永安臺	炭坑倶樂部內
本溪湖支部	永安街六七	共信無盡會社內
營口支部	南本街三〇	飯野元一郎方
瓦房店支部	朝日街九	高山信吉方
錦州支部	錦州鐵道局營業課	旅客係內
四平街支部	驛前	ツーリストビューロー內
鞍山支部	昭和製鋼所建設局求招保方	
齊齊哈爾支部	永安大街九〇	森田銃砲店內
牡丹江支部	圓明街六一六	瀧本鑛泉所內
吉林支部	新開門街二一	中村銃砲店內
圖們支部	春風街	ビューロー案內所內
延吉支部	康平區進學路	ビューロー案內所內
佳木斯支部	安民街	妹尾花輔方
公主嶺支部	堀堂町二丁目	二井春正男方
鐵嶺支部	松島町二	滿日支局內
遼陽支部	鞍馬町二一ノ一	土田松之助方
阜新支部	阜新縣海州阜新鑛業所鑛務課	石田久記方
鄭家屯支部	驛構內食堂	松下武久方
開原支部	東洋街	伊藤敬一方
山海關支部	南門外新立街	鉛田工務所內

【役　員】
▲總　裁　平島敏夫
▲會　長　宇佐美喬爾
▲副會長　原牛次郎、金田詮造、志和俊陽、伊東盛一、山本久治、武內哲夫、桑折勝四郎
▲常任理事　今井健五郎、田部井定雄、長山驄、西藤慈重、陣野貞吉、遠藤淸、松森正重、餌打宏泰、八田健太郎、中田健吾、松隈吉郎、永松保、坂本道弘、森田關男、木下信男、岸原粂次郎、筒井濱十郎、稻葉龍三郎、野口三郎、松田熊太郎
▲理　事　省　略
▲顧　問　省　略
▲相談役　省　略

【昭和十四年度以降事業】（一）二月獵友會强化に關し、產業部大臣外關係筋に請願す（二）三月大連坂本銃砲店に交涉し、同地在庫中實包十萬發を滿洲火藥會社に依賴して輸入、各地銃砲店に配布す（三）七月狩獵鳥羽毛約五貫目陸軍恤兵部に獻納、陸軍大臣より感謝狀授與（四）五月林野局長宛申請により鳥獸保護法の徹底と狩獵道德普及に要する經費として一千圓交付さる（五）八月十一日新京日滿軍人會館に於て座談會を開催、（六）獵友會公認方に關し八月、林野局長及關係機關に請願（七）鳥獵保護法中改正方に關し八月、林野局長及關係機關に請願（八）十一月規程に依り五年度に於ける十頭以上獻納者に賞狀及びメダルを授與（九）十一月一日より獻納用野兎捕獲と鳥類羽毛を蒐集開始す。

◇關東州戰蹟保存會（旅順民政署內）

關東州內に在る明治三十七八年戰役に於ける戰蹟を主として其保存、顯彰に任じてゐる。本會は此等戰蹟に關する一切の相談見學團體に對する案內說明の依賴に應じ、精確なる史實を後世に傳へ、併せて國民精神の昂揚に努めて居る。

▲會長　關東州長官　▲主事　仲野英二

◇日本溫泉協會滿洲支部（奉天市住吉町五）

【創　立】昭和五年十一月

【沿　革】昭和四年十一月東京に於て「溫泉協會創立懇談會」を開催して會則を決定し、同業者の同意を得同年十二月正式に會則を議定し、役員も選出されて茲に同會

の設立をみたのであるが、關東、中部、東北、北海道、關西の各支部設立に次いで滿洲支部も翌年十一月大連に於て發會式を擧ぐるに至つた。

【目的及事業】 滿洲に於ける溫泉に關する研究及其知識の普及と溫泉地の保護改善發展等に貢獻するを目的とし次の事業を行つてゐる。

一、月刊雜誌「溫泉」を發行、之を役員會員に頒布する外、臨時印刷物に依り溫泉知識の普及、溫泉地の改善發展に資してゐる。

二、溫泉に關する展覽會、講演會、研究會、座談會を主催又は後援して目的達成に努めてゐる。

【昭和十四年度事業】 十四年秋九大松尾博士來滿を機に奉天ヤマトホテルに於て溫泉に關する座談會を開催し稗益する所多かつた。

【會員】 熊岳城溫泉ホテル、湯崗子溫泉株式會社、五龍背溫泉旅館 興城溫泉ホテル、九臺溫泉株式會社

【役員】 ▲支部長 鐵道總局營業局長足立長三 ▲副支部長 鐵道總局旅客課長野間口英喜 ▲常務理事 鐵道總局保健課長千種峯藏、同厚生課長村田稔 ジャパン・ツーリスト・ビューロー滿洲支部幹事官城調明 ▲理事 滿洲國國務廳弘報處長武藤富男、鐵道總局產業課長小川一郎、同民政部保健司長 張明峻、鐵道總局營業局旅客課佐藤眞美、同同佐藤彥次郎 同旅館課長鈴村勝利、同旅館課井上寬量、滿鐵總裁室調査部新帶國太郎、 大陸科學院地質調査所長福田連 ジャパン・ツーリスト・ビューロー 滿洲支部事業課長北條保平 ▲幹事 鐵道總局營業局旅客課中森正雄 ジャパン・ツーリスト・ビューロー滿洲支部事業課調査宣傳係主任藤原欽衛(一五、一〇現在)

◇滿洲旅館協會(奉天市千代田通二)

【創立】 大正九年十月

【沿革】 滿洲に於ける邦人旅館業者を以て組織し斯業の改善發達、旅客の誘致、會員相互の利益親睦を計る目的を以て創立され、當初本部を大連に置いてゐたが昭和十三年五月から奉天に移轉した。現在會員は二一六九名。

▲支部事務所 大連市奧町一六
奉天市千代田通二
新京市中央通五 富士屋旅館
安東市大和橋通六丁目 日之出旅館
哈爾濱市地段街一一九 ナショナルホテル
牡丹江市光化街 周房旅館

【役員】 ▲會長 小林才治(大石橋) ▲副會長 大竹孝助(奉天)、五味武太郎(新京)▲支部長 中村常太郎(大連)、釘崎丑雄(安東)、五味武太郎(新京)小野嘉代二(哈爾濱)、內藤昌祐(牡丹江)▲會計 中村貞次郎(奉天)

◇滿洲事情案內所

(新京中央通六番地)

滿洲に於ける一般及び經濟事情の調査紹介を行ひ、併せて滿洲視察斡旋委員會の實際事務機關として視察者に對し斡旋の任に當ることを以て目的とし、利用者のための調査斡旋はすべて無料であり、左記各項の事業に當つてゐる。

一、來訪及び書面による諸事情の照會に對する回答
二、視察者に對し各機關との聯絡及び斡旋其他便宜供與
三、滿洲國を中心とする諸事情の調査及び資料の公開
四、前項に必要なる參考調査資料の蒐集並其の整理
五 滿洲事情紹介に必要なる印刷物の刊行及び頒布
六、以上の外滿洲事情普及のために必要なる事項

當所は昭和八年一月、關東軍特務部の指令に基き、滿洲國の經濟諸事情を正しく調査紹介することを目的として設置せられ、其目的遂行のため、調査資料の廣汎に亘る蒐集整理並に調査報告書の刊行等を遂行し、昭和十一年六月より滿洲弘報協會に包括されその機構下にあつたが、昭和十三年一月再び分離し茲に獨立せる公共機關として運營され、更に十四年十二月滿洲帝國政府全額出資の準特殊會社となり今日に及んでゐる。現所長は奧村義信氏である。

ツーリスト・ビューロー
(日本旅行協會)

【設立の趣旨】 外國人に國土を宣揚することは彼我國民の親交を增して國民外交の好轉を示すこととなるばかりでなく、同時に國產品の海外紹介となり、延いては貿易の發展を來たす結果となるのであり、一方また外客がその土地にて消費する正貨は無形の輸出として國際貸借調節の上に重要な關係を齎すものである。この外客誘致事業は國民外交上からもまた國家經濟上からも極めて重要な性質を帶びてゐるが、旅客の斡旋は獨り外國人ばかりでなく日本人に對しても廣く取扱ひ一般旅行者の斡旋に盡さうといふ手段から、現實的に鐵道驛乃至汽船會社の出札口と旅行をせらるゝ人々の間に立つて凡ゆる便宜を圖らうといふのがもう一つの仕事である。

これを要約すればビューローは旅行に關する公益の斡旋機關であつて若し鐵道會社が當所を利用すれば當所の各地案內所が一様に皆其處の支店、出張所又は驛と同樣の働きをするし公衆から見れば夫々各鐵道、汽船、航空乃至自動車會社の市內營業所が綜合して設けられてゐると同樣な組織となるのである。

【ビューローの仕事】 內外旅客誘致、名勝、觀光地の紹介宣傳、內外主要鐵道、汽船、航空、自動車の切符發賣、寢臺券、急行券の發賣並豫約、觀光券、旅行小切手、旅館券の發行、請負旅行、旅行保險の引受、旅行圖書、地圖、案內記、雜誌、繪葉書類の發行、旅行日程及旅費概算作成等。

【設立經過】 明治二十六年蜂須賀茂韶侯、澁澤榮一子、益田孝男の諸氏が中心となつて外人の斡旋機關として喜賓會(Welcome Society)を組織し主として來遊外人の斡旋に盡力し來つたが日露國交克復後ツーリスト事業が國民外交上又國家經濟上極めて重要なることが識者の間に漸く認められるやうになつたので、先づ交通機關及其關係者によつて明治四十五年三月十二日鐵道院內に第一回の總會を開催し全員一致會則の承認を得て、茲にジャパン・ツーリスト・ビューローが創設せらるゝに至つた。

其後漸次陣容を整へ、又地方に案內所も新設せられるに及んで喜賓會は大正三年三月末日限り之を解散し、その事務はビューローに引繼がれた。

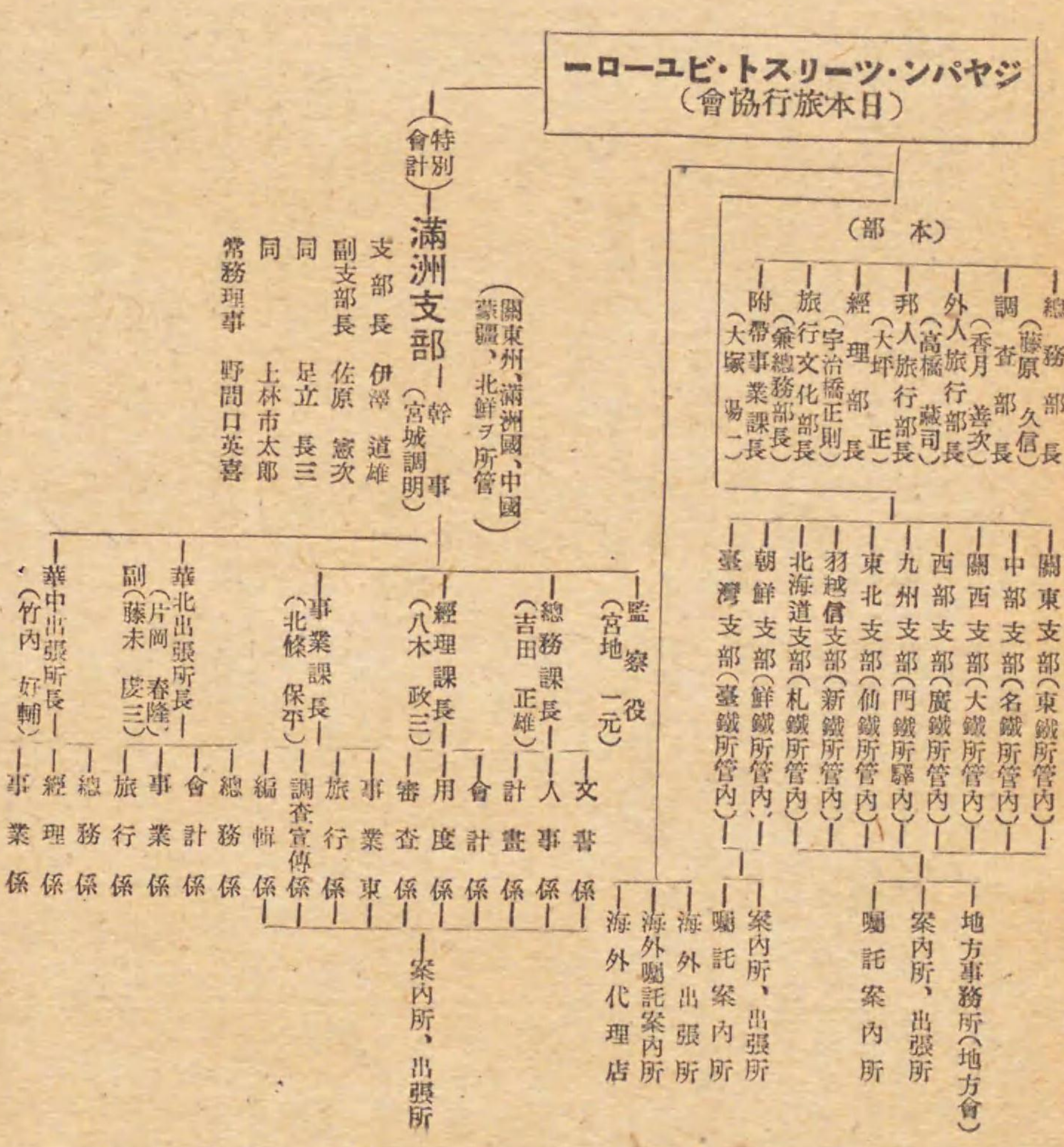
爾來ビューローは其の施設の內容に擴張改善が加へられ、昭和年七月一日組織を社團法人として基礎を固め、昭和四年三月には官民合同して對米共同廣告委員會をビューロー內に置き、年二十數萬圓を以て主として米國民に對して呼びかけたが政府も遂にこの事業の重要性を認め、昭和四年四月二十四日鐵道省內に國際觀光局を設け續いて昭和六年十二月財團法人國際觀光協會が設立されて茲に本格的に海外宣傳が行はれるやうになつた。一方ビューローは日本旅行界の趨勢に順應するため對外人關係の外更に進んで邦人の取扱にも重きを置くことゝなり昭和七年五月には百貨店內に於ける鐵道案內所の委託經營を受け、同九年十月一日には舊日本旅行協會の事業を繼承して會名を社團法人ジャパン・ツーリスト・ビューロー(日本旅行協會)と改稱した。昭和十年七月には內地各鐵道局所在地に支部を、各運輸事務所所在地に地方事務所(地方會)を設置して鐵道關係團體の募集及取扱をも引受けることゝなつた。即ちビューローは旅行に關する限りは全部一手を以て斡旋をなし得る名實共に兼ね備へた本邦唯一の旅行斡旋機關となり、現在支部十一案內所及

出張所百五十餘海外出張所三歐米主要都市代理店三十を算ふるに至つた。

【組織】ビューローは營利を目的とする旅行會社と異りその目的とする處は國策に寄與し專ら公益を計り營利を度外視し專ら奉仕的事業をなす故に公益社團法人としてその目的達成のため種々の事業を營み大規模な組織即ちビューローは鐵道省、滿鐵を始め諸官公私鐵道、電車、自動車、汽船、航空等の交通機關、旅館、ホテル業者、百貨店、大商店、銀行、會社並に通信社、演劇、映畫等の興行會社、市、町、商工會議所等の自治公共團體及各地の觀光協會等と百八十有餘を以て構成されて居り實行機關としては名譽會長には鐵道大臣を推戴し會長は鐵道次官、以下理事、專務理事、參事及約二千人の從業員が日、滿、支は勿論世界各國に設置されたる約百八十ケ所の案內所、出張所、駐在所又は代理店に配備され斡旋網を敷き旅客斡旋に萬全を期して居る。

【役員】（昭和一五、九現在）

名譽會長 鐵道大臣 村田省藏
會長 鐵道次官 鈴木清秀
理事 橫濱市長 青木周三
同 名古屋市長 縣忍
同 名譽會員 淺野良三
同 鐵道總局營業局長 足立長三
同 日本郵船會社船客課長 生駒愼



同 南滿洲鐵道株式會社理事 伊澤道雄
同 京都市長 加賀谷朝藏
同 東京市長 大久保留次郎
同 名譽會員 種田虎雄
同 合名會社大倉組頭取男爵 大倉喜七郎
同 名譽會員 男爵 大藏公望
同 日本郵船會社取締役社長 大谷登
同 朝鮮鐵道局營業課長 大和田福德
同 南滿洲鐵道株式會社東京支社長 岡田卓雄
同 大阪商船株式會社專務取締役東京支店長 香春敏夫
同 神戸市長 勝田銀次郎
同 金谷ホテル社長 金谷眞一
同 株式會社三越專務取締役 北田內藏司
同 鐵道省國際觀光局長 木村隆規
同 華北交通會社運輸部次長 小池文雄
同 大阪市長 坂間棟治
同 華北交通會社運輸部長 佐原憲次
同 名譽會員 生野團六
同 鐵道總局文書課長 高田精作
同 華中鐵道株式會社副社長 田誠
同 鐵道省國際觀光局庶務課長 富山清憲
同 名譽會員 中川正左
同 鐵道省運輸局旅客課長 西尾壽男
同 鐵道總營業局旅客課長 野間口英喜
同 社團法人同盟通信社長 古野伊之助
同 鐵道大臣官房文書課長 高須俊一
同 大阪商船株式會社々長 岡田永太郎
同 鐵道省運輸局長 長崎惣之助
同 鐵道省國際觀光局事業課長 横田巖
同 臺灣總督府交通局鐵道部長 石川定俊
監事 鐵道省經理局長 池井啓次
同 鐵道總局經理局會計課長 木村一惠
同 鐵道省經理局會計課長 小倉俊夫
同 日本郵船株式會社常務取締役 永島儀治
專務理事 高久甚之助
常務理事 藤原久信
同 野間口英喜
參事 宇治橋正則
同 高橋藏司
同 宮城調明
同 片岡春隆
同 西田龜萬夫
同 渡邊乙兵衛
同 大坪正

三滿洲支部三

【設立經過】滿洲支部は最初大連支部と稱して南滿洲鐵道株式會社運輸部內に設置されたのは大正元年十一月一日であつたが當時は滿鐵社員にその業務を委囑して內外旅客誘致並に旅行上の斡旋に當つてゐた。

其後外人の往來が漸く頻繁になつたので大正三年三月、大連ヤマトホテルを始め旅順驛、奉天ヤマトホテル、哈爾濱滿鐵事務所の四箇所に案內所を設け其の事務を委囑して專ら外人斡旋に備へたのであつた。當時奉天に於ては中國旅行社が開設され、また哈爾濱にあつては萬國寢臺車會社支店が活躍し其の他トマス・クック商會に於ても赴歐旅客のため滿鐵沿線に出張所を設ける有樣であつて滿洲內の旅行斡旋機關は殆ど外人によつて占められて居た。恰度この頃日本內地から鮮滿支方面への關心が次第に昂まりつゝあり、ビューローに旅行斡旋を求むる者も尠くなかつたので大正十五年三月旅行案內並に乘車券の發賣所として京城、大連、上海、哈爾濱の四案內所開設の議が本部理事會によつて決定され更にシベリア、滿洲、支那本部を大連支部の受持とし經濟は本部と全然獨立して活動することが一層本事業の發展を期し得らるゝとの見解に歸着した。

よつて本部は大正十五年四月二十日理事會に於て大連支部案內所設立を決議し、また滿鐵會社は右の案に基いて大連支部の設立助成を承諾し斯くして大正元年南滿洲鐵道株式會社運輸部內に胎生し其手に育成さるゝこと十五箇年、即ち大正十五年五月に至り大連支部が獨自の旅行斡旋機關として呱々の聲を擧げるに至つたのである。其後昭和十一年十月「滿洲支部」と改稱、同年十二月奉天住吉町五に事務所を移轉した。

爾來滿洲國の固成による順調なる旅行界の動きに應へ全滿主要地の斡旋網を充實し

たるのみならず、中北支方面に於ても皇軍行動の後を承け硝煙未だ消えやらぬ各地に業務機關の新設を見、管内に於ける案内所、出張所、駐在員事務所は六十餘を有してゐる。現在從事員約一千三百を擁し昭和十四年八月全面的に機構を改正して一段と其の組織を强化し正に東亞旅行界の王座として全員協力一路非常時國策の線に沿ひて斡旋報國の完璧を期しつゝある。而して支那事變勃發以來東亞の新情勢に應へて其事業成績は事變前に數倍するに至つた。

又支部の特殊業務としては(一)年々百數十萬人の華工斡旋、(二)日滿を貫く重要國策の一たる開拓民の斡旋、(三)日滿支相互間の眞の姿を認識せしむるための宣撫、宣傳等々特に力を注いでゐる。

滿鐵（北交、華中鐵道）選出役員

支部長、理事	伊澤道雄
副支部長、理事	佐原憲次
副支部長、理事	足立長三
副支部長	上林市太郎
理事	岡田卓雄
理事	小池文雄
理事	高田精作
理事	田誠
監事	木村一惠
常務理事	野間口英喜
幹事	宮城調明

▽施設年表

大正元、一一、一	大連支部を開設。滿鐵運輸部に事務委囑
同 三、三、二七	大連ヤマトホテル、旅順、奉天ヤマトホテル、哈爾濱滿鐵公所に案内事務委囑
大正三、六、一	長春ヤマトホテルに案内事務委囑
同 一四、九、一五	上海滿鐵事務所に案内事務委囑
同 一五、五、一	歐亞連絡復活に伴ひ大連支部を擴張し、本部より獨立して旅客案内事務に應衝す大連支部職制制定
同 五、一〇	天津案内所開設
同 五、二八	大連案内所開設
同 六、一	安東駐在事務所國際運輸に委囑
同 六、八	奉天案内所開設
同 七、一	北平案内所を大連支部に移管
同 七、一三	哈爾濱案内所開設
同 八、二三	上海案内所開設
同 一〇、二一	長春案内所開設
同 一一、二〇	滿洲里案内所開設
昭和二、五、三一	安東案内所開設
同 七、二〇	撫順案内所開設
同 一一、二八	大連支部竝大連案内所を伊勢町五四に新築移轉す
同 三、七、一八	大連ヤマトホテル内出張所開設
同 八、一	ツーリスト・ブレチンを創刊
同 一〇、一	天津日本租界加藤洋行内に出張所開設代賣開始
同 四、一、一	ハルピン傅家甸出張所開設
同 五、五	營口案内所開設
同 七、二三	營口舊市街出張所を開設
同 八、一	奉天ヤマトホテル内出張所開設
同 一一、一五	大連日本橋出張所開設
同 一一、二〇	哈爾濱埠頭區出張所開設
昭和四、一二、一	汽車時間表を創刊
同 五、七、一	第二次職制を制定
同 六、二〇	青島案内所開設
同 九、一	內報創刊
同 一二、一	長春案内所を長春驛前に新築移轉
同 一二、一七	日本温泉協會滿洲支部設立
同 六、四、一	天津日本租界出張所を閉鎖
同 六、一	第三次職制を制定（二部四係制に改む）
同 六、五	撫順案内所代賣開始
同 七、三一	大連日本橋出張所閉鎖
同 八、八	第四次職制を制定
同 一二、二三	第五次職制制定
同 七、三、二五	大連監部通出張所開設
同 一一、一	「長春案内所」を「新京案内所」と改稱
同 一一、一	奉天城内出張所開設
同 一一、一八	「哈爾濱埠頭區出張所」を「哈爾濱傅家甸出張所」と改稱
同 八、四、一	上海虹口出張所開設
同 五、一五	滿洲里案内所代賣開始
同 六、一	營口代理店を舊市街東和公司内に開設
同 六、五	吉林案内所開設
同 一〇、一七	山海關案内所開設
同 一一、一	齊齊哈爾案内所開設

同 一二、二五	圖們站内に駐在員を置く
同 九、二、一	清津北鮮鐵道管理局内に駐在員を置く
同 三、一〇	淸津案内所開設
昭和九、七、一	雜誌「旅行滿洲」を創刊
同 一二、五	「北京案内所」を「北平案内所」と改稱
同 一〇、四、一	「ツーリスト・ブレチン」を「旅行情報」と改稱
同 八、一	錦縣案内所を開設
同 八、一〇	哈爾濱新市街出張所を車站街に開設
同 一〇、九、二六	塘沽駐在員を置く
同 一二、七	第六次職制制定
同 一二、二四	上海虹口出張所は吳淞路四二三に移轉
同 一一、七、一	鞍山驛舍内に駐在員を置く
同 七、一	羅津驛舍内に駐在員を置く
同 八、一	承德火神廟日本商工會内に駐在員を置く
同 八、一	鞍山、圖們、牡丹江各案内所開設
同 一〇、一	「大連支部」を「滿洲支部」と改稱
同 一〇、二三	新京大同大街三中井百貨店内に出張所を開設
同 一二、一二	滿洲支部は奉天住吉町五奉ビル内に移轉
同 一二、二、一	哈爾濱ヤマトホテル内に出張所を開設
同 六、一	大連驛内出張所開設
同 六、五	四平街に駐在員を置く
同 七、一	青島新疆路出張所開設
同 七、一	天津福島街出張所開設
同 七、五	塘沽出張所開設
同 七、五	芝罘出張所開設
同 一二、七、七	龍口出張所開設
同 八、一	青島新疆路出張所に移轉し青島鐵山路出張所となる
同 八、一〇	四平街案内所開設
同 九、八	大連連鎖街出張所を開設
同 九、九	大連三越内出張所を開設
同 九、二五	承德案内所開設
同 一〇、一三	「北平案内所」を「北京案内所」と改稱
同 一三、三、一三	「旅行滿洲」を四月號より「觀光東亞」に改題
同 三、一五	北京駐在員設置　南京駐在員設置
同 五、一五	佳木斯案内所開設
同 六、一五	張家口案内所開設
同 七、一	石家莊案内所開設
同 七、一五	濟南案内所開設
同 七、一六	大同驛内に駐在員設置
同 七、三一	牡丹江案内所建築上棟式擧行
同 九、一〇	蘇州駐在員設置
同 九、一三	厚和駐在員設置
同 一一、一	杭州、大同、南京三案内所開設
同 一二、一五	滿支旅行年鑑創刊
同 一四、二、一三	延吉駐在員設置
同 二、一三	漢口駐在員設置
同 四、一	濟南大東公司内出張所開設
同 四、一	ツーリスト倶樂部を改組し旅行倶樂部竝滿洲旅行倶樂部聯盟を結成
同 四、一〇	北京宣外出張所開設
同 四、一五	大連西崗子出張所開設
同 四、一五	大連山縣通臨時出張所開設（閉所五月十五日）
同 五、二八	太原駐在員設置
同 六、一	新京興仁大路出張所開設
同 六、一	北戴河夏期出張所開設
同 七、一	延吉案内所開設
同 七、一五	新京ヤマトホテル出張所開設
同 八、一〇	第七次職制改正制定により支部内三課及華北出張所設置
同 八、一五	通化案内所開設
同 九、一	太原案内所開設
同 九、一五	哈爾濱昌平街出張所開設
同 一〇、一五	北京西城出張所開設
同 一〇、一五	天津東馬路出張所開設
同 一一、一五	羅津案内所開設
同 一二、一	漢口案内所開設
同 一二、一	青島奉天路出張所開設
同 一二、一一	大同站前駐在員事務所開設
同 一二、一五	吉林城内出張所開設
昭和一五、一、一五	北京前門出張所開設
同 一、一〇	錦縣案内所錦華區大和街一番地に移轉
同 二、一三	羅津埠頭出張所開設
同 三、一	新京峯發號内出張所開設
同 三、一	徐州駐在員設置
同 三、三一	新京興仁大路出張所閉鎖
同 六、一	上海北四川路一三二四號華中出張所を新設し、中南支に於ける業務を擔當せしむ

同　六、一　華北出張所の組織、事務分擔。職制一部改正實施
同　六、一　塘沽案內所新立街一九に開設
同　六、一　青島東海飯店出張所開設
同　六、一〇　徐州案內所月波鎭月波街四八に開設
同　七、一　開封案內所相國寺後街三六に開設
同　八、一　淸津案內所朝鮮支部に移管
同　九、一五　保定案內所西關大街一二〇に開設
同　九、一五　蘇州案內所蘇州百貨公司內に新設
同　一〇、一　上海新アジアホテル內出張所開設

【昭和十四年度事業】 旅行斡旋及弘報關係分

△一般旅客斡旋數

	昭和十三年	昭和十四年
四月	一八〇、一四八	三七〇、三一三
五月	二一九、一九九	三三四、五九五
六月	一七七、三三三	三〇〇、一八〇
七月	一九八、〇一九	二六七、六三一
八月	一九六、六七九	二六八、一〇八
九月	二一三、一三六	三一三、七六〇
十月	一九七、七五二	三三七、二八七
十一月	二三九、七一四	三九九、九一六
十二月	二八〇、七三三	六九四、九二三
一月	二九八、一五二	五五一、〇〇〇
二月	二九〇、八〇〇	七〇三、一四一
三月	四六〇、三一三	九五六、五一六
合計	三、三三九、一〇八	五、五三六、四七〇

△團體旅客竝特殊旅客斡旋數

		昭和十三年 件數	昭和十三年 人員	昭和十四年 件數	昭和十四年 人員
▲團體斡旋					
邦人團體	滿鐵指定	二、一三九	九〇、九一七	二、六二五	一一六、三〇八
邦人團體	其他	一、八八八	八一、九三三	二、三六四	八五、五三六
滿支人		九七一	五八、九二一	二、一三九	一六八、七四九
其他		七三九	一六二、五三五	六四一	四二一、四七七
▲特殊斡旋					
邦人		五三五	二、〇八五	一、五四三	三、七六八
其他		六四五	六、九四九	七二四	四、三三九
合計		六、八四七	四〇三、三三九	一〇、〇三六	四三二、一七四

（昭和十四年は十三年に比し件數に於て三、一六九、人員に於て一七、八四五の增加を見た）

△催　行

（一）旅館接遇座談會（吉林）（二）接遇向上旬間座談會（奉天、新京、哈爾濱、牡丹江、北京、天津）（三）紀元二千六百年に因む旅を語る座談會（奉天）（四）映畫會（圖們、佳木斯、齊々哈爾、張家口）（五）各地觀光展（奉天、新京、吉林、淸津、四平街、哈爾濱）（六）スキー展（奉天、新京）

△夏期施設

サンマーハウス　興城、達山關、橋頭、松樹、哈爾濱、吉林、沙崗（利用者一、九四一名）浮プール　哈爾濱、松花江（利用者九、五八五名）

△刊　行　物

（一）滿支旅行年鑑一萬部、（二）南京戰跡案內一萬部、（三）日本旅館滿支人接遇法五千部、（四）赴日旅行須知三千部（五）北京一萬部、（六）天津一萬部、（七）上海一萬部、（八）、滿支土產の栞一萬部（九）杭州五千部、（一〇）滿（華）日簡易會話五千部、（一一）開拓地繪葉書一萬部、（一二）日本風光誌一萬部、（一三）旅行公德（和文）二萬部、（一四）旅行公德（滿文）二萬部、（一五）雜誌觀光東亞（月刊）（一六）滿支汽車時間表（月刊）（一七）北支汽車時間表（適時發行）（一八）旅行情報（週間）

△ストツクナーゲル作製

新京、滿洲里、靑島、四平街、佳木斯、張家口、大同、濟南、石門、杭州、南京（以上各一千個）

△支部發行圖書類寄贈數

（一）パンフレット類七萬六千部、（二）繪葉書二千部、（三）「觀光東亞」一萬二千部、（四）「汽車時間表」二萬部、（五）旅行手帳一萬部

△支部外發行印刷物取扱數

（一）歐文、二〇二種、二萬部、（二）和文、二五四種、六萬部

△旅行團體一覽

大　連

名　稱	組　織	現在會員數	目的及事業	會長名	會費
正金銀行ハイキング部	會員制度	五〇	社員保健爲	中島　豐	（一ヶ月）臨時徵收
森永製菓〃	〃	五〇	〃	藤本　倫	〃
大連瓦斯會社社員會徒歩部	〃	三〇	〃	竹田　幹	百分ノ二
三井物產三友倶樂部ハイキング部	〃	五〇	〃	材田米太郎	百分ノ一
古河電氣ハイキング部	〃	五〇	〃	高橋　協	〃
日滿商事商和會〃	〃	一〇〇	〃	木村　貞夫	百分ノ六
進和商會社員會〃	〃	五〇	〃	內村　信夫	百分ノ五
朝鮮銀行行友會〃	〃	四〇	〃	藤井謙太郎	〃
大連工業社員會運動部〃	〃	二〇	〃	小林　可藏	百分ノ三
昭和製鋼所ハイキング部	〃	五〇	〃	還　勇	臨時徵收
滿洲消費組合滿府倶樂部更生部ハイキング部	〃	三〇〇	〃	村上　忠雄	百分ノ一五
國際運輸社員會ハイキング部	〃	一〇〇	〃	本田　伯郎	百分ノ一
赤十字病院院友會〃	〃	五〇	〃	柏木　照雄	百分ノ二
伊藤忠商店〃	〃	一〇	〃	伊藤　正也	臨時徵收
出光商會〃	〃	四〇	〃	高浦　保雄	〃
瓜谷長造商店〃	〃	二〇	〃	山田　敏雄	百分ノ一
關東州綿業聯合會社員會運動部	〃	三〇	〃	和泉　正二	〃
幾久屋百貨店ハイキング部	〃	三〇	〃	佐久間寅一	臨時徵收
滿日婦人團〃	〃	一〇〇	〃	土屋キヌ子	一、二〇圓
貯金管理所ハイキング部	會員制度	一二〇	〃	鵬卒田哲二	百分ノ一
羅紗商組合ハイキング部	〃	五〇	〃	白須　信次	臨時徵收
岡組ハイキング部	〃	二〇	〃	野村　久男	〃
昌光硝子ハイキング部	〃	三〇	〃	富松　規行	〃
聖愛醫院仁友會ハイキング部	〃	二〇	〃	牛久　昇治	百分ノ一
石炭販賣組合社員會ハイキング部	〃	六〇	〃	木口　要一	百分ノ二
大信洋行信友會ハイキング部	〃	八〇	〃	森田　精造	百分ノ一五
大連稅關協和會ハイキング部	〃	五〇	〃	瀧本治三郎	百分ノ三
大連都市交通社員會ハイキング部	〃	一三〇〇	〃	野間口正人	百分ノ二
大連郵便局遞信倶樂部ハイキング部	〃	二五〇	〃	後藤　健男	臨時徵收
同和自動車ハイキング部	〃	五〇	〃	小松　猛人	百分ノ五
大阪商船親交會〃	〃	五〇	〃	植日　春彦	百分ノ一
日淸製油〃	〃	三〇	〃	平尾　榮司	臨時徵收
原田商事〃	〃	三〇	〃	庶務　係宛	〃
滿洲國通信社〃	〃	三〇	〃	古賀　薰一	〃
新光倶樂部カメラ〃	〃	一〇四	〃	魚谷　奎造	一ヶ年三圓
滿洲中央銀行親睦會〃	〃	三〇	〃	親睦會幹事	百分ノ三
滿蒙毛織〃	〃	二〇	〃	丹羽　武雄	臨時徵收
福昌公司〃	〃	四〇	〃	市橋　文章	〃
滿洲狩獵聯盟	〃	八七	〃	長谷部照信	年一〇圓
大連機械ハイキング部	〃	五〇	〃	山田　武夫	臨時徵收
滿化社員會ハイキング部	〃	一五〇	〃	細谷　長樂	百分ノ一
滿洲曹達親和會遠足部	〃	四〇	〃	並河　渉	年八圓、四圓、二圓
沖電氣體育會ハイキング部	〃	四〇	〃	藤井民五郎	百分ノ二
滿洲興業銀行行友會ハイキング部	〃	三〇	〃	井上　豐	百分ノ三
大連病院運動部ハイキング部	〃	五〇	〃	佐々木逸也	〃
滿洲電々會社電々倶樂部〃	〃	八〇〇	〃	關根　福造	〃

大連市役所體育部	〃	〃	一五〇	〃	後藤辰雄	臨時徴收
大連市役所釣魚部	〃	〃	六〇	〃	龜井五郎	〃
大連崇敬會旅行部	〃	〃		修養保健ノタメ	山岡光宜	
大連市體育會	〃	〃		大連市民體位向上心身鍛錬	米地武雄	臨時徴收ノ上募集催行

鞍山

三宰會	昭和製鋼所第二壓延工場社員ニヨル會員組織		社員保健	後藤學	社費
協和會市公署分會修養部ハイキング班	協和會及市公署從事員ニヨル會員組織		〃	野中久米次	〃
くろがね會	滿洲製鋼所從事員ニヨル會員組織		〃	中村義雄	〃

安東

滿洲電々會社慰安部	滿洲電々株式會社從事員ニヨル會員組織		〃	小林修治	〃
山岳會		三六		原田市松	月一〇圓
モーターサイクル倶樂部		三〇		前田克已	月〇、五〇圓

四平街

滿電々倶樂部四平街支部	社員ヲ以テ組織(含家族)	一〇〇	社員ノ福祉ヲ目地トシ一年二回旅行ヲ行フ	毛利英三	年一、〇〇圓 〇、一〇圓
滿洲寫眞作家協會四平街支部	本會ノ主旨ニ賛同シタル者ヲ以テ組織ス	三〇	本會ハ寫眞藝術ノ研究ヲ計リ併セテ其向上發展ヲ期ス (一)月例會(第二日曜日) (二)撮影會(其都度行フ) (三)作品展覽會(五月十日) (四)講習會(臨時)	世話役 圖書館 顧問 天野東	月〇、五〇圓
四平街釣友會	市内一般人ヨリナル會員組織	一〇〇	釣魚研究ト會員ノ親睦	小隴八十八	年一、〇〇圓

哈爾濱

哈爾濱釣魚研究會	會員組織		釣魚地ノ研究	秋山兼雪	各年寄附

錦縣

滿洲中央銀行錦州支行運動部	行員運動部員	五〇	保健小旅行ハイキング	鈴木輝立	
錦州鐵道光畫會	滿鐵社員ニヨル會員	一八〇	撮影會寫眞展		
滿洲滿鐵醫院ハイキング部	醫院親和會員	六四	保健小旅行ハイキング	小野村米吉	
愛鱗會	有志		釣魚池研究競獵會、會發行		
郵政局陸上部	社員運動部		保健各種體育小旅行		
國際運輸山岳部	郵政總局體育協會員ニヨル會員	八〇	保健小旅行ハイキング	大江茂	各所得ニ按分

青島

體育協會	會員制度	五七〇	各種運動	栗本定治郎	年六圓
ワンダーフオゲル	〃	一五	ハイキング遠足	山本太郎治	臨時徴集

天津

うつさう會	有志	二〇	寫眞報國會員作品展覽會	野島達朗	入會費三、〇〇 一ヶ月一、〇〇
ゆかう會	市内邦人商店有志	解散狀態	各地視察觀光	赤山今乾治	

△觀光事業主管官公署 (同報分ノミ)

・省名	・科名	・股名
奉天	庶務	企畫(吉岡一雄)
錦州	庶務	企畫(鈴木東助)
熱河	庶務	庶務
牡丹江	庶務(戸倉勝人)	弘報(欠)
新京特別市	庶務	庶務(北村太市)
吉林	庶務(大石義光)	庶務(吉田清)
濱江	庶務	
龍江	庶務(金丸徹)	弘報(野本千代壽)
間島	庶務	弘報(小板橋光壽)
通化	庶務(佐藤達男)	庶務(滝田通夫)
黒河	庶務石田茂)	弘報(今里博三)
東安	庶務(山代千代藏)	弘報(今坂寅雄)
三江	企畫	弘報(芹澤元安)
興安北	庶務(五十嵐浩五郎)	弘報(堀田太郎)
興安南	庶務(高橋清)	庶務小泉長松)
興安西	庶務	弘報(色爾格爾)
	庶務(淺野良三)	弘報

・街・市名	・科名	・股名
海拉爾	庶務(安福彌太郎)	庶務(松岡俊夫)
安東	庶務(前田俊雄)	庶務(赤江清二)
赤峰	庶務(永井喜七郎)	
牡丹江	庶務(八嶋正雄)	庶務(江口光夫)
大石橋	行政(冷恩溥)	
佳木斯	庶務(渡邊三郎)	庶務(平井彦三)
本溪湖	行政(馬玉川)	社會(欠)
奉天	勸業(中村猛省)	庶務
遼陽	庶務(辻・伊八)	計畫(井上史郎)
營口	庶務(稲田勝芳)	計畫(花ケ江良榮)
開原	庶務(川畑忠孝)	
鐵嶺	庶務(松田堅太郎)	庶務
哈爾濱	庶務(石尾英文)	
四平街	庶務(天野東)	庶務(成瀬良次)
鄭家屯		行政(蕭永祥)
大連	殖産課(笠原博)	
旅順	庶務課(牧島喜一郎)	殖産係

滿洲弘報協會加盟日文新聞

滿洲新聞	新京	三江日々新聞	佳木斯
東滿新聞	延吉	熱河新報	承德
哈爾濱日々新聞	哈爾濱	錦州新報	錦州
安東新聞	安東	滿洲日々新聞	奉天
東滿日々新聞	牡丹江	大連日々新聞	大連
齊々哈爾新聞	齊々哈爾		

(昭和十五年七月一日現在)


風俗と習慣


ЧАЙ И КОФЕ
МАГАЗИН
ТЯН-ЧИН
КИТАЙСКАЯ УЛ.



文化元年創業

株式會社
清水組

社長　清水康雄

本店
東京市京橋區寶町二丁目一番地一
電話京橋(56)代表四一八一番(10)
代表五一八一番(10)



菓子と喫茶

明治製菓賣店

大連賣店　大連市浪速町　電話本局六二〇一
★
奉天賣店　奉天市春日町　電話春日五三三〇
★
平安賣店　奉天市平安通滿業ビル　電話春日三七七八
★
新京賣店　新京市吉野町　電話新京六一五〇
★
新京海上ビル賣店　新京市東京海上ビル内　電話本局六四三八
★
哈爾濱賣店　哈爾濱市埠頭區中央大街　電話道裡六四三〇

府縣人會

● 大連

縣名	所在地	代表者名	在住者數
長崎	但馬町一四	富永能雄	
愛媛	若狹町二六	增田義男	
宮崎	佐渡町六	佐藤至誠	
三重	聖德街五ノ一五六	清水楠次郎	
山形	能登町一〇	岩井勘六	
防長	山縣通二一	藤田秀助	
大分	山縣通一八 東裕公司	首藤定	
熊本	伊勢町八一	中村長吉	
廣島	能登町一五	小林和介	
新潟	光明臺一五	西片朝三	
奈良	霧島町一四〇	寺島由松	
靜岡	伊勢町六二 滿蒙工業所內	平井大次郎	
和歌山	山縣通 和歌山物產斡旋所內	桝田憲道	
長野	霧島町四六	今井行平	
愛知	神明町九八	相生常三郎	
茨城	山縣通八八	山田浩通	
岐阜	聖德街一ノ二五二 石井盛一方	杉野耕三郎	
島根	大黑町八三	松內辰郎	
青森	近江町二	對島林次郎	

● 旅順

縣名	所在地	代表者名	在住者數
山口	朝日町一丁目三九	井町正八	五六三
佐賀	嚴島町一四	山口世基	七九四
山形	乃木町三丁目五五	蟻川久太郎	一九七
長崎	中村町一一	麻生茂	一、〇七一
長野	金比羅町九 石井太三郎方	田中稔	二七三
宮城	善通寺町四 旅順公學堂內	小倉勉	三一〇
大分	鯖江町五一	田邊公彬	四八八
靜岡	名古屋町六	仲野嘉與作	三五二
熊本	青葉町五七	長濤學	八四六
宮崎	柳町一九ノ一	黑木重繼	三〇四

● 鞍山

縣名	所在地	代表者名	在住者數
廣島	北三條町 中木商會	福井眞	
富山	北二條町 能登屋內	能登屋久松	
山梨	北二條町六三	小林壽	
鳥取	北三條町四一	桑田幸治	
鹿兒島	北三條町三六	酒瀨川得太郎	
岐阜	〃 三二	永井精三	
熊本	南三條町二七	梅原一夫	
靜岡	南驛前通五〇	野毛四郎	
秋田	南十一條	太田武夫	

● 遼陽

縣名	所在地	代表者名	在住者數
岐阜	住吉町	林禮吉	五〇
新潟			四三
富山	京町	西村茂	四四
長野	櫻木町	內樹總松	六三
廣島	大和通	山縣研一	二〇〇
香川	朝日通	八木弘	三三
熊本	本町	西田爲次郎	二六〇
埼玉	同	山村惠伴	九〇
和歌山	同	玉木憲作	四〇
愛媛	同	渡邊國次	七五
大分	仲町	赤松純平	七〇
東京	本町	杉田伊太郎	七〇
福島	昭和通	山寺壽作	八〇
靜岡	同	西島助太郎	六五
秋田	初音町	藤島佐助	三五
栃木	昭和通	腰高治助	四〇

● 奉天

縣名	所在地	代表者名	在住者數
山形	住吉町九	白田蕃	
宮城	千代田通二	千葉蔚	
福島	淀町一二	染谷深藏	
千葉	柳町一一	和田實	
茨城	千代田通三五	神立時三郎	
新潟	西塔大街	西卷豐之助	
石川	八幡町一二	飯島滿次	
長野	淀町一〇	飯島慶三	
富山	隅田町五	中川芳三郎	
三重	十間房	出口深之助	
奈良	稻葉町三	吉川元康	
兵庫	浪速通二四	藤田九一郎	
大阪	青葉町七	中田卯吉郎	
岡山	永代町二	鹽尻彌太郎	
和歌山	千代田通四〇 貿易會館二階	松井常三郎	
土佐	十間房	野並勇馬	
福岡	千代田通二一	小田要一	
長崎	木曾町一一	西田謹一	
熊本	平安通三八	安藤基平	
宮崎	琴平町七	有川藤吉	
大分	稻葉町七	篠田大	

●營口

宮城　滿洲電業會社　山田正治　佐藤信行
青森　第二國民高等學校　西村　外崎敏雄
山形　商工公會　横山四郎　安彦英藏
新潟　東亞煙草工場内　竹内永作　青木猶吉
富山、石川、(加越能)　千代田街刑部茂三郎　秋山保太郎
關八州(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川)七縣　花園街　新條紊
長野　日本生命代理店　田中　福島正雄
愛知　營口新聞社内　古川米吉
岐阜　關守鋭
靜岡　花園街　田口商店　增田隆治
三重　有志的會合
兵庫　永世街　同天堂　圓尾敬治
鳥取　有志的會合　北原紋吉
岡山　舊市街營口印刷所　佐々木正章
廣島　營口畜產會社内　豐田良造
山口　石炭販賣組合　藤永　有福和一
德島　千代田街　山内堂　阿部勘七
香川　花園街　須崎呉服店　三島輝善
愛媛　花園街　菊屋商店　黒川原藏
高知　有志の會合
福岡　花園街　樋口印刷所　樋口親藏
佐賀　千代田街　大瀨洋行　山本土岐彥
長崎　水道會社内　丸屋　原田喜八郎
熊本　入船街　松田洋行　隈部廣泰
宮崎　南本街　壹岐製作所　壹岐均平
鹿兒島　青柳街　川畑純　川畑喜次郎

●撫順

山口　東三條通四九　淺田倫治　二八〇
廣島　永安大街二　住田定一　四三〇
宮城　炭礦工事事務所　馬場彰　二七〇
熊本　南臺町一丁目四　棟久藏　四八〇
鳥取　北臺町一丁目二　南家礦次　一五〇
加越能友　東三番町五〇　寺西圭之　一〇〇
佐賀　西五條通三六　伊藤熊治郎　四三〇
島根　東一番町三五　中原祥光　三〇〇
大分　東一番町九　有瀬修二　二五〇
宮崎　南臺町一ノ一　後藤俊次郎　二七〇
鹿兒島　東三番町二二　川路喜平　一、四〇〇
岡山　東七條二八　蜂谷文平　三五〇
長野　東四條通七〇　中島右仲　一五〇
三重　東三條通五五　竹内敬美　一〇〇
福島　南臺町二ノ一〇　武田勝利　一六〇
岩手　東八條四四　古川泰藏　三五
山形　東三條通九九　淺井照次郎　一〇〇
茨城　南臺町一ノ四　宮本愼平　一〇〇

●本溪湖

新潟　太子河　山下寛　三五
群馬　採家屯公司社宅　石田貢　三五

●安東

廣島　市場通一丁目　大原清逸　九八〇
德島　驛前堀割通　中川憲義　二〇三
新潟　興隆街興銀支店　野澤氏氣付　金子富江　三三〇
山梨　六番通三丁目　新田忠平　一五〇
長野　大和橋通五丁目　興銀支店一忠宗雄氣付　雨宮甜　三〇〇
福井　江岸通二丁目　川崎製材所　川崎潔　一七五
加能越　六番通六丁目　大倉太七郎　藤平泰一　五二九
愛知　驛前三番通　小島鈑一　五〇〇
三重　五番通八丁目　陳天號　近藤松五郎　三三三
奈良　市場通九丁目　辻山洋行　山縣寅吉　七三
京都　市場通五丁目　川勝正三郎　三〇〇
大阪　四番通五丁目　藤原秀吉　三七四
和歌山　市場通四丁目　文榮堂　弓倉悅藤　一八九
鳥取　驛前二番通一一五　村山眞治　三二六
岡山　六番通七丁目　岡本東洋男　四四一
愛媛　市場通五丁目　ダルマ商會内　酒井圓　六三五
香川　東山手町安東寺　井上信義　三〇五
島根　堀割南通四丁目　相普寺　河谷正憲　五一七
三州　大和橋通一丁目　安東新聞社　川俣篤　五〇〇
熊本　大和橋通三丁目　日の出旅館　山下五郎　一、一五〇
福岡　大和橋通七丁目　草薙强太郎　一、〇九八
大分　四番通三丁目　澤田良一　神田重吉　七九九
岐阜　市場通二丁目　大野幸作　三一〇
山口　大和橋通八丁目　安東商事株式會社内　佐戸正人　一、一五三
佐賀　市場通四丁目　坂井屋商店　野田茂　六八八
茨城　八番通四丁目　飯野伯重郎　二六四
兵庫　市場通一丁目　西播洋行　大西朝二　四二〇

靜岡　七番通四丁目　八木元八　二九九
埼玉　六番通五丁目　阿部卓爾　一三五
宮城　驛前六番通　水間讓之助　三〇〇
栃木　三番通四丁目　三省精米所　影山常三郎　一七八

●鐵嶺

鹿兒島　松島町　松田三之助　一三〇
長崎　同　尾上千万太　一一〇
福岡　花園町　平田淳　一七〇
新潟　松島町　野口三郎　一一〇
愛岐　中央西街　紀藤養也　四〇
青森　北五條通　下山恭次郎　一一五
鳥取　同　橋本勝藏　一一五

●四平街

山形　南四條通　小林國治　三一六
茨城　南四條通　橋本房吉　九〇
岐阜　紅梅町　一木桂三郎方　鹽谷要藏　六〇
愛知　北七條通　東本願寺方　天野東　一一〇
長野　中央通　田中昂治　三〇八
加越能　中央通六　竹村石次郎　一四一
岡山　南二條通　原田親一　一、一三〇
山口　北二條通　小坂道明　六〇三
四國　南四條通　山櫻社　島村喜久馬　三三〇
佐賀　北三條通　三共洋行　光野文市　二六〇
長崎　北三條通五六　相川庄四郎　二一〇
熊本　昭平橋通一九　千代野甚五郎　四、四〇〇

●公主嶺

新潟　櫻町　本井義雄　三六
熊本　泉町二丁目　野島茂幸　一〇〇

●新京（十四年調）

青森　東朝陽路四〇三　工藤忠　七〇〇
岩手　永樂町三ノ二六　四戸友太郎　九〇〇
秋田　東二條通二五　鎌田方　高橋康順　八五〇
宮城　八島通五　島田源五郎　一、六〇〇
福島　東五條通一三　櫂田商店　穴澤喜壯次　一、六五〇
茨城　朝日通二五　大隆公司　小泉三郎　一、五〇〇
栃木　室町一ノ二　井上刀劍店　井上惣三郎　一、六五〇
群馬　吉野町一ノ一五　石川自轉車店　星野直樹　八〇〇
埼玉　曙町二ノ二二　堀井方　中島比多吉　六〇〇
神奈川　敷島通二四一　佐藤精一　六五〇
新潟　崇智路三〇　木間德松　三、一〇〇
富山　永樂町二ノ一一　仲田方　仲田三郎　一、八〇〇
石川　祝町三ノ一七　泰正號　兵部潤一　七〇〇
福井　日本橋一六　阿川組　宇野常吉　五五〇
長野　中央通一五　松島鑑　六六〇
岐阜　日本橋通二〇　林金次　二、七六八
滋賀　祝町二ノ二　井上呉服店　松岡彌三郎　六五〇
德島　室町二ノ一三　沖津亘　七〇〇
香川　老松町二ノ三　天野商店　長尾吉五郎　一、三〇〇
愛媛　三笠町三ノ二　松田粂太郎　七〇〇
福岡　東二條通三四　福信金融　石橋米一　四、五五〇
大分　老松町一一　得丸助太郎　三、六〇〇
佐賀　入船町四ノ二五　佐藤商店　佐藤宇治太郎　三、六〇〇
長崎　三笠町三ノ一四　盛倉農具店　荒木信光　四、五〇〇
三州會　吉野町一ノ二　隆泰公司　島石福十郎　五、六〇〇
北海道　大經路五三　八卷清泰　二、六〇〇
山梨　大經路三六　井上洋服店　岩間甲斐之助　七〇〇
靜岡　興安大路四〇八　榛葉司省　七〇〇
愛知　東三條通　科野洋行　淺井庄一郎　一、五〇〇
三重　西廣場小學校　瀬川順平　七〇〇
京都　永樂町二ノ一〇　大原万千百　四五〇
奈良　日本橋通二三　本城德太郎　七〇〇
兵庫　祝町二ノ一八　河本大作　三、五〇〇
和歌山　東四道街一六　宇戸修太郎　七〇〇
島根　蓬萊町一ノ三　大新ホテル　影山泉造　五五〇
岡山　梅ケ枝町三ノ二　吉備洋行　三宅享太郎　七〇〇
廣島　新發路一〇一　國通　廣瀬壽助　三、〇〇〇

●吉林

愛媛　大馬路　北海公司　鵜田保次郎　三〇〇
島根　福綏街（北山下）　西坂盾文　二五〇
福井　河南街　國立病院　永井人雄　三〇〇
山形　蓮花泡　小池牧場　小池七三郎　四〇〇
岡山　新開門外五九　林精太郎　四〇〇
福岡　大馬路　丸重洋行　岸原兼次郎　七〇〇
廣島　南大馬路　滿鮮杭木内　杉岡守一　七〇〇
佐賀　大馬路　松屋旅館　多久島德松　五〇〇
長崎　新開門外　松屋呉服店　江木末八　六〇〇
兵庫　五緯路　西安公司　高須元之祐　三〇〇
山口　恒昌胡同　吉林燐寸　西尾安雄　三五〇
山梨　大馬路　東洋醫院　齋藤源治郎　三五〇
愛知　大馬路　名古屋ホテル　遠藤梅三郎　三五〇
大分　新開門外　大同殖産内　河野皐　三〇〇
加越能　二道碼頭　滿洲林業内　木下秀敬　二〇〇
三州會　新開門外　芝元洋行　芝元正次郎　八〇〇

神奈川 大馬路 佐藤木廠 佐藤熊雄 二〇〇
鹿兒島 大馬路 三盛印刷 芝元正次郎 四〇〇

● 通化

鹿兒島 通化二道江 下赤靜雄 二〇〇
大分 通化街 後藤保 一〇〇
埼玉 通化街公署 野口孝作

● 圖們

德島 銀河路東本願寺 高橋保清
三州 銀河街一三ノ二 中武盛一
廣島 銀河區 東本願寺内 松尾收治
鳥取 春風路三六ノ七 辻丁仙太郎
島根
和歌山 中秋街二四ノ三
北海道 樺太郷土會 銀河街三一ノ三 小島喜作
富山 春風街一四ノ一〇 中橋精治
佐賀 銀河街二二 小口卓次郎
長野 銀河路 高坂實雄内 關口龜壽

● 佳木斯

福島 向陽大街 伊勢屋旅館内 玉野辰五郎 三四二
茨城 南崗大街 宮内嘉一郎 一二八
長野 臨江街三二 小林武夫 一四九
佐賀 向陽大街 酒井清秋 四三五
鹿兒島 南崗大街 有川忠義 一七二
岡山 南崗大街 太陽公司 大橋太郎 一四三
岩手 向陽大街三段地 佐藤全己 二六
廣島 向陽大街三段地 稲岡善三郎 一八〇

● 哈爾濱

神奈川 植田一夫 吉田四郎 安藤琴三郎
千葉 中國中道街二〇 岡野博一
茨城 軍司義雄
群馬 警察廳 竹内謙三郎
栃木 地段街五六 小柴九三
埼玉 石頭道街 清月堂 加島甲子太郎
福島 馬家溝文明街 宗像金吾
宮城 工廠街 佐々布武
岩手 地段街 柏田忠一
青森 中央市場 木村左馬輔
秋田 外國二道街五 藤原時次
山形 松茂洋行 赤星武房
靜岡 石頭道街 石川竹二
愛知 外國八道街 加藤明
岐阜 鴻業公司 野原皆一
山梨 取引所 島田千代治
長野 地段街 寺澤佳吉
新潟 買賣街 牛木寛三郎
富山 西本願寺 押野慶淨
石川 同 同
福井 東本願寺 月輪孝雄
京都 地段街 乗田彌一
奈良 新城大街 中和洋行 山本義之
三重 中國十四道街 澤田佐市
和歌山 一面街(南海) 前川良一
大阪 地段街(和登) 日下良吉
兵庫 石頭道街 有賀穰作

● 北安

熊本 東松村街 鹽田卯吉方 赤鉾林太郎 一五〇

福岡 同 山崎洋行内 山崎清 二〇〇
山口 西松村街 森本組内 森本保造 九〇

● 齊齊哈爾

長野 新馬路九號 大島敏敬 一五〇
長崎 正陽大街一四三 池田平八郎 五三〇
廣島 正陽大街一七三 祖式可夫 二五〇
大分 新馬路九號 植山伸雄 三五〇
茨城 中央馬路一〇七 高橋德治 一〇三
愛媛 田中通 一二六
熊本 濱崎清人 四五七
新潟 佐々木平太郎 一五〇
福岡 力丸靜 二〇三
山口 田村長 二五〇
愛知 杉浦四郎 一六〇
滋賀 東本願寺 七〇

● 海拉爾

大分 西二道街 小野碩太
長崎 同 田上虎雄
熊本 西大街 鹿井一郎
加越能 中央大街 三浦幸治
長野 同 棚橋四郎
群馬 舊頭道街 高橋秋三郎
福島 交界街 堀定四郎
北海道 西二道街 辻本茂

● 錦縣

廣島 驛前 杉岡嘉一 一,七〇五
大分 銀座街五 自見梅治 六〇〇
靜岡 三笠街七 八田健太郎 二〇〇
熊本 三保街 寺本哲 五〇〇

福島 木村土地 鵜川久介 二三〇
福岡 鐵道北 松吉春岳 七〇〇
三夜會 銀座街 久保小市 八〇
山口 三保街 青木梁三 二〇〇
長野 大和街 竹内藤平 一五〇
長崎 聯合町内會 中川貞利 一,〇〇〇
鹿兒島 城内區東一街 宮内畩八 一,一〇〇
香川 三保街 井下萬次郎 八〇
岩手 同 田中信一 一二〇
宮崎 銀座街 津江利通 三〇〇

● 黑河

長崎 南大街四九 山田廣次
北海道 南大街 松野青萬
靜岡 同 山内和夫
大分 南大街保甲事務所内 矢野牧太
山形 興隆街 黑田祐吉
長野 興隆街二〇八 柳澤藤次郎
德島 西屯街五七 安丸愛次郎
奈良 特務機關内 中森
熊本 黑河消防隊内 中島靜
福岡 興隆街一九二 上野壽
和歌山 太平街一三三 太田總太郎
廣島 中原街六五 寺西勝人
福島 大興街三一一 井坂眞一
島根 南大街
山口 興隆街 沼田熊義
群馬

● 濟津

北海道 相生町八 室直治
東北六 北星町山ノ十 石川紋之丈
山形 彌生町二 白砂三四郎
長野 相生町女學 阿部吉助
新潟 北星町一八 中村文作
富山 彌生町二 小竹松太郎
福井 北星町山ノ十四 松下和三郎
岐阜 本町四丁目 加納意久
滋賀 浦項洞二二六 山下坂次郎
丹後 浦項洞八五 赤松源三
和歌山 新興洞三四 潮埼長治
兵庫 浦項洞山ノ一七八ノ五 石田貞次郎
岡山 浦項洞一八 水島計次郎
廣島 寶町五 佐々木光次
島根 常盤町一〇 藤田勘一
鳥取
山口 明治町三一 田中源
熊本 日賀田町一 柿本藤吉
鹿兒島 旭日町二 四元嘉平次

● 王爺廟

鳥取 荒田二郎 一五
佐賀 田口義 一四

● 北京

靜岡 崇文門大街四二 鹽濟七晟 二四〇
兵庫 内三區慧照寺胡同一三 山本芳久 一三〇
廣島 西城宣内大街二三七 白井喜一 一,〇三〇
福岡 棲圓棲七 末次政太郎 一,二〇〇
熊本 東單大村 東華藥房内 林龜喜 一,四〇〇
長崎 大雅胡同一三 寺田舍作
北海道 東城小雅寶胡同二五 和田悦郎 一〇四
三重 西海沿一二七 寺田幸夫 一四〇
鳥取 崇文門大街八〇 林原憲貞 九〇
佐賀 東單牌樓一七〇 藤本方 三浦七郎 一,一〇〇
長野 東四二條胡同四六 清水孫作 八〇

● 天津

岡山 旭街四八ノ一 橋本磯太 二〇〇
熊本 常盤街 後藤捨生 二五〇
山口 福島街四一 富成一二 三〇〇
靜岡 常盤街一四 根本鐵次 二八〇
三重 福島街六七 森利八 四〇〇
兵庫 常盤街一〇ノ一 岩崎剛 四〇〇
岩手 南門街 萬德莊 野館吉次 一〇〇
山形 福島街民團内 西野操 一五〇
宮城 春日街 和歌山今朝次 一〇〇
愛媛 福島街民團内 和田乗次 三八〇
大分 福島街 東本願寺 首藤輪香 五〇〇
德島 旭街二 天貿ビル 井上寛生 一五〇

● 山海關

熊本 南門外 甲斐篤 一五〇
大分 城内 岐部利生 一〇〇
茨城 五〇
宮城 南門外 菅野蓋平 五五
青森 同 遠藤旨純 四五

● 唐山

熊本 錦城館内 大原璽三 五

● 張家口

熊本 治安街 張家口藥局 三〇〇
岡山 鐵路斜街 福樂旅館 一〇〇
香川 福壽街 中條齒科醫院 二五〇

千葉	東太平街	大和屋旅館	五〇〇
大阪	東安大街	岩崎武夫	一〇〇

●大同

長崎	大北街	廣瀬晋	五〇〇
三州	同	二階道輝彦	三〇〇
北海道	同	松井清	四〇〇
秋田	同	戸田精治郎	一五〇
石川	仁和美街六號	森山勇作	七〇
青森	大北街	齋藤勇造	五〇
福島	同	飯塚新作	二〇〇
千葉	大西街	原力雄	三〇
靜岡	師府街	岡崎三二	四〇
愛知	大西街	平田龜一郎	九〇
廣島	大東街	平郡敏穗	九〇
大分	九樓巷	小島利三郎	一五〇
佐賀	鐘樓西街	中津行廣	一四五
熊本	大北街	岩崎與三郎	四五〇

●太原

德島	橋頭街一四	吉田省三	一三〇
大分	首義街四八	光門右一	五〇〇
三州	三聖巷	諏訪甚十	四五〇
長崎	橋頭街	神島岩重	三〇〇
福岡	西省墻	吉瀬潔	四〇〇
奈良	南省墻	楠田信	五五

●濟南

京都	經三路緯二路	林田新次郎	三七〇
岡山	經二路緯四路	安原順吾	三八〇
山口	經二路緯三路	藤本近三	五四〇
福岡	同 西木洋行	柴田一美	一、〇五〇
大分	普利門	佐藤寛吾	五五〇
三州	城内 電燈公司内	小野原作一	八〇
愛媛	經三路緯二路	今井和次	四三〇
佐賀	經二路緯三路二一 九尾洋行	貞松紋平	四〇〇
廣島	經四路小緯四路	酒井紀一	三一〇
茨城	經二路緯三路	廣瀬森次	三六〇

●石門

長崎	新華街東穿心店三	田淼好五郎	
三州	道岔南街	馬込豊熊	
和歌山	共存街	栗林定一	

●徐州

福岡	日本居留民會	鴨井正義	二〇〇
佐賀	〃	中野高一	七〇
大分	〃	神田武男	九〇
熊本	〃	中熊英治	一、〇〇〇
石川	〃	和田影治	三〇

●青島

秋田	市場二路二六	伊藤彦太郎	
埼玉	山東路一六	關口內膳	約一三〇
千葉	博山路六九	若鍋勘藏	
神奈川	江蘇路四五	淺野浩利	
東京	東阿路六	平岩曇三郎	
岐阜	堂邑路一六	菱田莊吉	
滋賀	滄口路六五	太田健二	約五〇〇
山梨	熱河路八一	小澤恒太郎	
長野	海陽路五	鈴木格三郎	
靜岡	鐵山路三	田邊郁太郎	
三重	堂邑路二〇	乾善助	
兵庫	市場三路 電氣舘前	細野庄平	
和歌山	山東路一八三 國際運輸內	木下干一	
鳥取	寶山路四	倉脇武治	
岡山	廣州路二五	津下信義	
山口	東阿路一六	松倉末雄	
德島	高唐路一三	加集孝樹	
香川	德平路五六	神内正範	
福岡	市場一路 山東起業會社	待島又一	
佐賀	上海路一六	中川勝夫	
長崎	陽信路一九	宇野祐四郎	
熊本	山東路中央銀 丁百貨店內	白石保喜	
鹿兒島	武定路二四	吉利平次郎	
愛媛	奉天路二二 青野洋行內	青野直太郎	
大分	嵐城路三三 青島救濟會	池永茂	

●上海（在住數ハ正會員ノミ）

鹿兒島	文路 日本倶樂部內	指宿秀彥	
熊本	海寧路 海星舘內	西村天藏	二八〇
福岡	虬江路 中華興業內	林田惣七郎	三、〇〇〇
長崎	吳淞路	甘濃益三郎	
大分	狄思威路	波多博	三〇〇
愛媛	北四川路 勝賣組合內	暢矢野信行	
大阪	九江路 隆華洋行內	金銅鹿藏	
愛知	乍浦路 東語內	西村秋次	
和歌山	施高塔路	北野勝四郎	
福島	吳淞路	薗地豊地	
靜岡	閔行路 萬才舘內		
廣島	江西路 廣島物產內	米澤大槌	三〇〇
山梨	黃浦灘 アスターハウス內		
兵庫	北四川路 新上海ホテル別舘內	赤松滝次	一九四

茨城	北四川路 日比野洋行內	二川芳	
滋賀	四川路 阿部市洋行內	辻野順助	
宮城	北四川路 北部校內	小山勇	
富山	密勒路	梅野友英	一二〇
長野	閔行路	平澤要	一九〇
秋田	吳淞路	太田俊三	
朝鮮人會	靶子路	李甲寧	
臺灣人會	靶子路	林世昌	

●南京

東北六縣	中山東路	木内忠治	
富山	同	小野宗三郎	
兵庫	中山路	松原清	
佐賀	遊府西街	片川榮一	
奈良	中山東路	堂山龜松	
大阪	中山東路	南勘	
長崎	中山東路	近藤調一	
北海道	太平路	横湯通之	
薩隅日三州	中山東路	堀内高潔	

●蘇州

居留民會	城内景德路	小山光弘	八〇〇

●杭州

福岡	仁和路六〇	常岡政太郎	三八
三州	新民路三二五	大山辰二	三三

●漢口

長崎	中山路四二 三寶堂	白倉清一郎	一、〇〇〇
福岡	江漢路二四 福日支局	田尻治郎	八〇〇
富山	花樓街五一 重松藥局	齋藤重保	四〇
山梨	民生路一七三 長江ホテル	齋藤昌義	九〇
宮城	江漢路五二	奥村治郎	五〇
熊本	漢口銀行	寶妻壽作	五〇〇
鹿兒島	江漢路四 泰安房	飯牟禮守一	二〇〇
大分	中山路 吉田洋行	高山	九〇
高知	江漢路 江高洋行	山崎誠一郎	三〇
京都府	東二路 妙心寺	衣川誠	二〇〇

●廣東

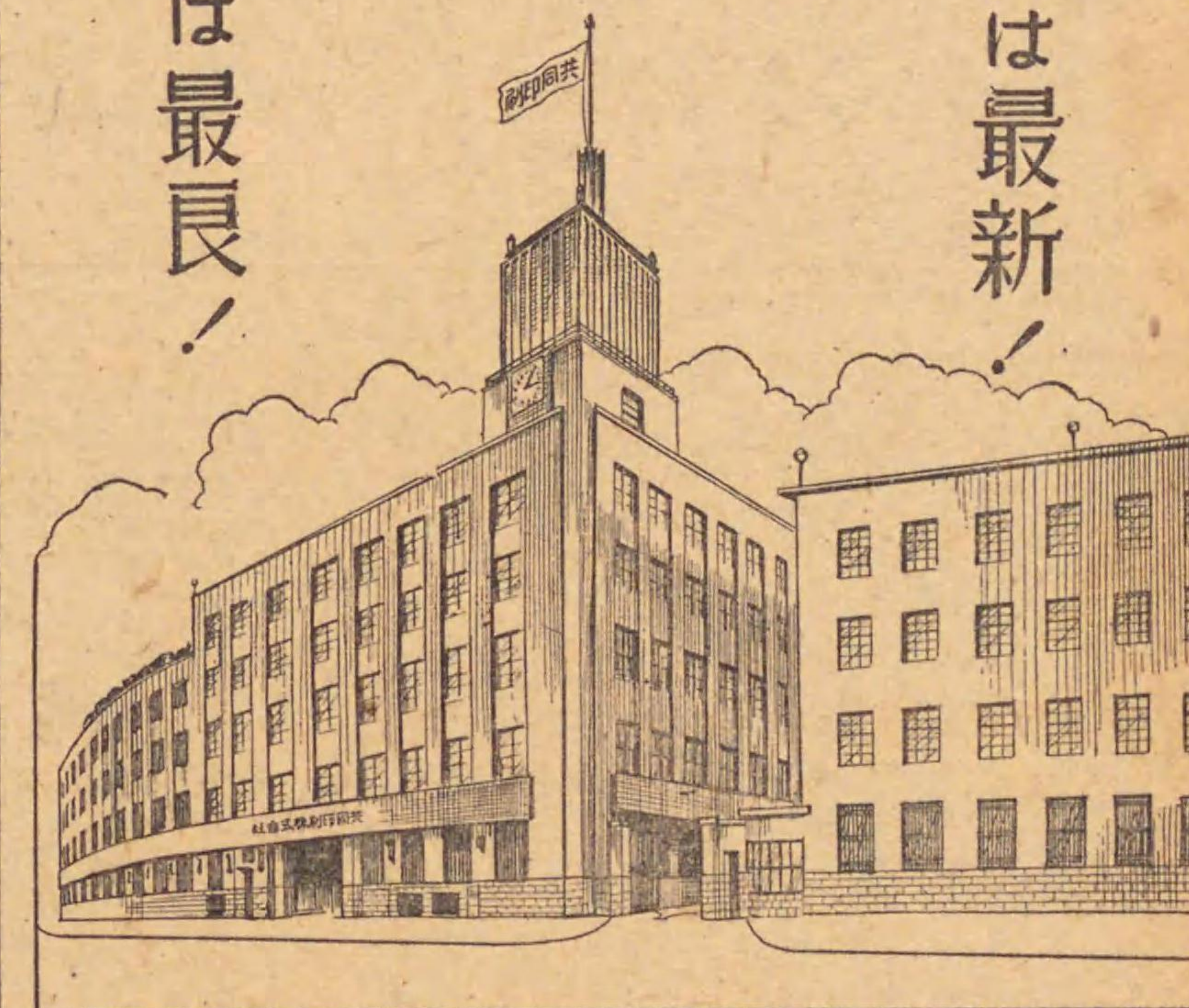
神奈川	（相武會）太平南路二一	横濱東亞輸出組合廣東斡旋所	四〇
靜岡	惠愛東路	鎌田商店	一〇〇
岩手	吉祥路一	九菱百貨店	一〇
福島	越華路七六 福昌洋行	鈴木直治	二〇
石川	白雲路二五	金松又市	三三
富山	漢民北路二〇八	前田洋行	一四
岐阜			
愛知	太平南路四五	名古屋市役所經濟部廣東出張所	九〇
滋賀	惠愛中路五〇	鎌野時計店	二四
奈良	惠愛東路	井筒食堂	四五
兵庫	太平南路 新華ホテル內	兵庫縣興亞貿易協會	七〇
岡山	維新路	鹽見芳四郎	四〇
廣島	漢民北路 大丸公司	石川久我生	四〇
香川	〃 一四五	森岳陽堂	六〇
愛媛	廣大路一七	岡田建助	一〇〇
大分	昌興街四喜坊	カフェーアジア	一四〇
熊本	維新北路三五〇	臺灣日々新聞支局	五〇
佐賀	惠愛東路三〇一	新高製藥商會	一五〇
鹿兒島	文德路 博愛會醫院	島院長	一〇〇
長崎	長堤新堤一九七	大隣新開舗	一三〇

以上の如く大陸各都市に於いては故郷を同じくする府縣を單位とした各府縣人會がある。遠く異郷の地にあると一層此の樣な團體が盛であるのは日本人の美しい一つの特色であらう。北滿の一都市にも又蒙疆の一都にも此の種の團體が多數出來てゐる。

此の會を通じ相互の親睦を計ると同時に大いに大陸に於ける發展にお互に便宜も多いだらう。今後各都市に於いて益々此の種團體の增加する事が考へられる。

現在各地に於いて最も多い縣人會は地理的に大陸に近い九州の各縣であり、次が、中國と東北の二三の縣である。大都市に於いては殆んど各府縣の會が出來てゐるが、小都市ではやうやくその數も少なく、且つ會員も大變少ない。

滿洲國に於ては昭和十三年治外法權撤廢前は居留民會や府縣人會が在留邦人の世話をして居つたので斯種團體も相當大きな存在であつた。撤廢後は郷里との連絡、視察者の斡旋、會員相互の親睦等を目的として適時會合が催されてゐる。本表以外に澤山の府縣人會がある筈であるが調査が頗る困難なので本年度に於ては此の程度とし、之が完成は他日に俟ちたい。



設備は最新！

技術は最良！

東京小石川久堅町

共同印刷株式會社

社長 大橋光吉

映画

滿洲映畫界の

滿洲映畫界の歷史は日露戰爭に始まり、この戰爭の記錄映畫が米、露人等に撮影されて今尚殘存されてゐる。映畫興行としては大連、奉天、撫順、新京の順に明治末期から大正の初期に始り、滿人側のものは大正十二、三年頃から奉天、哈爾濱を中心として開始された。要するに建國前の映畫文化は日系は大連を中心に、滿系は奉天を中心に、外國映畫系統は哈爾濱を中心に發生し、教育映畫は滿鐵により沿線に巡回實施されてゐた。

建國後の映畫運動は自治指導部、關東軍、滿鐵、松竹、新聞社を始め諸外國の映畫製作者によつて、滿洲建國の實相又は滿洲の風土を全世界に紹介宣傳されたのであるが、滿洲國として根本的な對策の確立を見るに至らなかつた。然し映畫國策樹立の必要性は益々痛感せらるゝに至つたので、康德四年八月滿洲國勅令滿洲映畫法竝關東局令により建國後多年の懸案たる映畫政策の大本が樹立せられ滿洲映畫協會の誕生を見るに至つた。

滿洲映畫界動向

滿洲映畫界は康德四年八月二十一日に創立された國策會社滿洲映畫協會に依り、東半球に於ける最初の映畫の國家管理を試みた。

即ち滿洲國の映畫は凡て滿洲映畫協會の統制下にある。

昭和十四年末より滿映は、東洋一を誇る南新京の新社屋及新スタヂオへの移轉を終り、機構改革その他新東亞文化創造の中心としての新體制を樹立し、文字通りの躍動姿勢を以つて大陸文化に拍車を加へてゐるが、先づ配給關係では、畫期的變革として昨年度より實施を見た步合料金制に依つて本年度の業蹟は一層の好成績を示し、一方映畫館數も、日系館六十五館、滿系館六十六館(康德七年八月現在)と逐次增加、尙ほ僻陬の地に迄、次第にその配給圈の擴大を見つゝある。對內的には滿映作品を始め、日本映畫、支那映畫、朝鮮映畫、歐洲映畫等、民族協和の新興國家に相應しいヴアラエテイに富んだ上映種目により圓滑なる配給とその充實を圖り、また北支に對する日本映畫の配給、日本內地及支那に對する滿獨通商協定に基く歐洲映畫の提供を行つてゐる。本年度八月末現在迄既に八本の獨佛映畫の配給が行はれた。のみならず「東遊記」「黎明曙光」其他作品の日本內地、朝鮮及臺灣への配給に依り、日、鮮、滿文化の交流が密接化するやうになつた。然し廣大無邊な國土に、上意下達、文化啓蒙、娛樂慰安の爲めには限られた常設館だけでは到底不充分であり、これの補足として十六粍映寫による地方巡回が行はれてゐる。即ち滿映では開發部の巡廻映寫網擴充竝びにその巡廻活動に依つて、廣範圍の國民大衆層に對して映畫の浴澤を惠與し、一方小型常設館の新設に着手、本年度上半期迄に、最早や二十九館の設置を見るやうになつた。

次に製作狀況に於て本年度に於ける製作豫定は劇映畫は十八本、文化映畫は六十本となつてゐる。

其他多くのニユース映畫を迅速に製作して、世界各地ニユースとの交流を行つて居り、また日滿及滿鮮提携映畫製作に依り新東亞文化建設によき範を示した。

かくして滿洲文化の推進力として、國策遂行の一機關として國民教育の普及徹底竝

に促進を遂げしめ、進んでは對外に對する思想宣傳の武器として映畫の機能を充分に發揮し、建國の眞義を宣揚しつゝある。（以上康德七年八月現在）

中國映畫界

支那の國產映畫の黎明期は、民國十一年の明星影片公司の誕生に始まり、民國十七年（一九二八年）までは、內亂其他による國內の政治的不安と動搖の爲に發展しなかつたのであるが、北伐成功で內亂が一應鎭定するや次第に發展して、遂に著名な國產映畫「漁光曲」（一九三五年）を製作する迄に至り、玆に發展途上の新紀元を劃したが、後幾ばくもなく支那事變の發生を見るに至つたものである。

一體に支那映畫は滿洲、上海兩事變前迄はハリウッドものゝテーマを其儘翻譯したやうな、戀愛物が大部分を占めてゐたのであつたが、この事變後は國民黨宣傳部の意圖と、支那民衆の抗日意識の高揚を狙つた映畫業者との意圖とが合一して、民族的敵愾心を煽揚し蔣政權の支持と、彼の指導する運動への參加宣傳とが計畫的に濃度に織り込まれて、藝術的なものが全然沒却された傾向にあつた。支那の映畫會社は支那事變前は五十八を數へ、上海の「明星」、「聯華」、「藝華」、「天一」、「電通」が五大會社として知られ、之等の映畫會社で製作される映畫は、全國二百五十餘の常設映畫館で上映され、外國映畫に對抗してゐたのが、事變前迄の情況であつた。

事變後は北京に新民映畫協會、上海に中華電影公司の創立を見、從來の歪められた方針を棄てゝ、映畫による日滿支文化の融合を目ざし、積極的製作竝配給に乘り出すことゝなつた。

映畫製作機關

滿洲映畫協會　數年來弘報委員會を中心として硏究され來つた映畫國策樹立の問題は、康德四年八月二十一日株式會社滿洲映畫協會法の公布により實現を見るに至つた。

同協會は國策遂行の一機關として、文化による精神建國の大業の一翼に參畫し、映畫を通じて國民敎育の普及竝に文化の促進を遂げしめ、進んでは內外に對する宣傳媒體としての映畫の機能を十分に發揮せしめ、以て滿洲國の眞義を海外に宣揚すべき使命を擔つて事業の緖についたのであるが、單に映畫製作のみならず、映畫の輸入配給等凡そ映畫に關する諸事業の殆んど總てに亙る活動がなされてゐる。

【主要製作映畫】

☆文化映畫

猛火の脅威、保險報國、日滿一如、警民懇談會、建國の理想、東滿の猛獸狩、黎明の寶庫東邊道、模範縣の建設、黃河、樂土、排共大會、林業拓士の農耕收穫、滿洲國防婦人會、燐寸、空の旅、興安軍凱旋、滿人軍夫慰勞表彰式、越境外蒙將校蘇聯の暴狀を語る、植樹節、興亞動員大會記錄、氷上洗禮祭、ラマ踊、ホロンバイル、改訂版黎明寶庫東邊道、西部國境戰、大地的光明、滿洲の回敎徒、躍進電業、勤勞奉仕隊、小八家子、カザツクの平和境三河、戰ふ國軍、汽罐の焚方、滿炭の現勢二千萬瓲目指して、地籍整理一環、日滿華交驩競技大會、鴉片、滿洲建設勤勞奉仕隊、本溪湖鐵と石炭、幸運の道、我們的軍隊、康德六年度全國聯合協議會、皇帝巡狩、樂土新蒙古。

☆劇映畫

鐵血慧心、東遊記、眞假姉妹、煙鬼、國境之花、黎明曙光、情海航程、如花美眷、人馬平安、愛焰、王屬官、風潮、有朋自遠方來、藝苑情侶、流浪歌女、新生。

【主要演員名】

男ノ部

徐　聰　北京生　　王宇培　河北省生
隋尹輔　龍江省生　　戴劍秋　齊々哈爾生
王福春　旅順生　　劉恩甲　吉林生
張書達　吉林生　　李顯廷　大連生

杜　撰　錦州生　　周　淍　昌圖生
呼玉麟　新京生

女ノ部

李香蘭　奉天生　　季燕芬　上海生
李　明　北京生　　張　敏　吉林省生
王麗君　奉天省生　　李　鶴　奉天生
鄭曉君　新京生　　陶滋心　哈爾濱生
白　玫　北京生　　龔　苓　哈爾濱生
趙愛蘋　奉天生

滿鐵映畫製作所　昭和五年滿蒙事情及び社業紹介宣傳の爲總裁室情報課內に映畫製作機構を設置す。昭和十一年十月製作機構を獨立せしめ總裁室の管轄に移す。製作經費は滿鐵會社に於て支辦す。昭和十四年四月機構の改正に伴ひ更に管轄を弘報課に移し企劃、製作の二係に分ち現在に至る。

【主要製作映畫】

滿蒙破邪行（滿洲事變記錄）
嫩江越えて（同　）
曠古の大典（滿洲國皇帝卽位式記錄）
風　薫　る（秩父宮殿下滿洲國御訪問記錄）
滿洲國修聘特使（鄭總理日本訪問記錄）
春風萬里（滿洲國皇帝訪日記錄）
國際聯盟調査（一行來滿調査記錄）
祕境熱河（熱河一圓の紹介）
草原バルガ（蒙古バルガ地方の紹介）
曠原兒（拓務省移民記錄）
開拓突擊隊（自警村移民記錄）
鐵[illegible]抗日（支那事變記錄）
黃河作戰（支那事變記錄）
上海戰線ルポ（同　）
滿洲大豆（滿洲大豆の理化學的硏究）
滿鐵三十年（滿洲文化史）
建設工事（熱河鐵道建設記錄）
『あじあ』に乘りて（小學國語讀本所載映畫化）
東滿の狩獵（滿洲猛獸の話）
鏡泊湖（鏡泊湖地帶の地理）
新版娘々祭（滿洲土俗紹介）
華北交通創立（同會社創立記錄）
少年拓士の日記（年少拓士現地記錄）
新　京（滿洲國首都の紹介）
北滿林業（代採流送狀況記錄）

新民映畫協會　本協會は舊中華民國臨時政府及び新民會の政治的統一を援けるべく意圖されつゝあつた映畫事業が、此地の中心勢力の諒解を得て一つの會社として成立を見たわけである。日支兩國民の眞の提携を目的に日本の眞の姿を紹介することが現下の使命で（一）日本文化映畫の上映、（二）滿洲文化映畫の上映、（三）宣撫映畫の上映と製作等を其具體的使命としてゐる。昭和十三年二月北京に事務所を設け、爾來時局ニュース、記錄映畫、國內宣傳映畫の製作を續け、各主要都市に邦畫の上映をなし滿映作品の配給をも行つてゐる。

中華映畫株式會社（中華電影公司）　昭和十四年七月資本金百萬圓を以て上海に設立され、事務所を共同租界四馬路（江西路）ハミルトンハウスに置く。映畫による日滿支文化の融合を目ざし不取敢事業の目標を戰禍を蒙れる中支民衆に慰安と娛樂を與へる事及び遠く南支滿洲國に優秀な映畫を供給することに置き漸次映畫の積極的政策、配給に乘り出す筈で中央政府に於て其重要性に鑑み必要なる監督助成のため適當の指導、補助をなすことになつてゐる。

主要業務

一、映畫の製作　二、映畫の配給竝輸入　三、映畫の上映竝興行　四、同種事業に對する投資竝融資　五、其他前各號に附帶する事業

映畫常設館

◇日系映畫館

【滿洲及關東州の部】

新　京　帝都キネマ（新發路一一〇號）　長春座（吉野町三ノ五）　新京キネマ（祝町二ノ二五）　銀座キネマ（吉野町一ノ一四）　朝日座（朝日通リ）　豐樂劇場（豐樂路四一一）

奉　天　新富座（青葉町六）　大陸劇場（住吉町一）　平安座（大和區平安通

一八）南座（大和區青葉町四六）奉天館（春日町一〇）演劇館（住吉町九）奉天劇場（大和區十間房）銀映劇場（大和區住吉町三）

哈爾濱　大勝劇場（外國四道街六號）ハルビン會館（水道街一〇四號）平安座（斜紋街一八號）オリアント劇場（南崗義洲街一〇九號）モデルン劇場（道裏中央大街一一三號）アヂヤ劇場（南崗義洲街九二）

鞍山　中央劇場（北二條町五〇）千日座（北三條町一五）演藝館（北一條町二四ノ三）

撫順　豐樂館（西五條通り三八）樂天館（東七條通り二八）

安東　中央キネマ（大和通り九ノ三）南地座（三番通り六ノ一）安東劇場（四番通り四ノ三）

吉林　聚樂館（三緯路）

錦縣　錦座（正陽區春日街七）錦洲劇場（錦華區銀座街三）

牡丹江　牡丹江劇場（丹明街二）有樂劇場（七星街）

齊齊哈爾　共樂館（永安大街二七）チチハル會館（治安街五號）

海拉爾　ハイラル劇場（西大街一〇四號）

佳木斯　プログレス（東頭道街四四）佳木斯劇場（銀座町二丁目）

營口　公會堂（千代田街三八）

圖們　圖們劇場（圖們街銀河區銀河路）

延吉　延吉劇場（延吉街安定區）

龍井　龍井劇場（延吉縣 龍井街 新安區延平路）

敦化　日滿會館（敦化街 小東門外凱旋通）

通化　通化館（通化縣城南關）

承德　承德劇場（承德南營子大街）

阜新　壽座（阜新城內南一條街）

遼陽　遼陽座（遼陽仲町一）

東安　東安劇場（東安聖朝路）

四平街　四平街劇場（北五條通り九）

公主嶺　公會堂（楠町三丁目）

本溪湖　公會堂（太子河十六）

大石橋　公會堂（事務所、奉天市紅梅町五〇 小谷健吉方）

東寧　國境館（大和街）

北安　北安劇場（北安街東松村區）

大連　日活館（盤城町二三）中央館（伊勢町一一六）常盤座（常盤町三八）大陽館（近江町二）帝國館（信濃町三三）寶館（岩代町三九）松竹館（黃金町一）朝日館（巴町六三）

旅順　旅順映畫館（乃木町三ノ二一）

【北支の部】

山海關　山海關劇場（南門外）

青島　國際劇場（山東路）電氣館（市場三路二六）映畫劇場（李村路）

天津　浪花館（日本租界福島街）天津映畫館（特別第三區二經路一六）大和キネマ（日本租界大和街）天津劇場（日本租界北旭街）

北京　光陸劇場（東城崇文門大街一九九）國泰劇場（西城絨線胡同一三〇）飛仙劇場（燈市口一一）

張家口　世界館（怡安街）

厚和　協進劇場（大西街）

濟南　日本劇場（經二路緯三路）山東映畫館（同上）

大同　大同劇場（蘭池街）

石門　勸業劇場（大橋街）

太原　明星座（首義街）

徐州　徐州劇場（大同街）

塘沽　公會堂（巡業）

保定　喜樂館（西關大街）

連雲　國際劇場（「建築中」觀海路）蘇北劇場（新浦鎮特務機關前）

【中支の部】

上海　東和劇場（乍浦路）第一歌舞伎

座（北四川路）第二歌舞伎座（北四川路）虹口キネマ（乍浦路三八八號）

杭州　東和劇場（延齡路）西湖キネマ（「朝鮮」英士街）

蘇州　東和劇場（城内觀前北局）

漢口　光明映畫館（關陵路七一）大陸劇場（府東四路）上海大戲院（兩儀街）東和劇場（五族街）

武昌　日本館（太平路二〇號）

南京　中喜劇場（「舊國民戲院」）揚公井一五號）東和劇場（中山路一〇〇）

◇滿支系映畫館

【滿州及關東州の部】

新京　國都電影院（東二馬路）國泰電影院（東五馬路二一五）大安電影院（永春路六二）光明電影院（永春路六八）新京電影院（日本橋通八十番地）

哈爾濱　大光明電影院（道裡中國九道街）巴拉斯電影院（道裡中國七道街）國泰電影院（道外正陽街十五道街）慈光電影院（道外北六道街北頭）平安電影院（道外許公路正陽街）亞洲電影院（道外北六道街北頭）東北電影院（道外昇平二道街）大同電影院（道外正陽街十一道街）明星電影院（馬家溝國課街一九）

奉天　光陸電影院（城内中街九四）天光電影院（大西關大街五斗居六三）亞洲電影院（小西關電車路路南）雲閣電影院（北市場二六緯路）興亞電影院（鐵西區）國際電影院（南市場）明星電影院（小西關第一商場內）保安電影院（北市場大和區厚生街）國民電影院（工業區國民市場）

大連　世界電影院（新崗日新街十番地）宏濟電影院（奧町六〇番地）

齊齊哈爾　永安電影院（永安大街一〇五）金城電影院（朝陽街路南一六）大陸電影院（沈家胡同）

牡丹江　東安電影院（市政路）新安電影院（市政路）

佳木斯　協和電影院（臨江街）平安電影院（通江街）春華電影院（德祥街）

營口　平安電影院（三江會館街五）營口電影院（永世中街）

撫順　大同電影院（福民馬路四丁目）福興電影院（永安里二〇番地）中和電影院（中和馬路七丁目）

吉林　俱樂部電影院（粮米行街新安胡同五）秋星電影院（二道街一四）國泰電影院（河南街）大陸電影院（公會堂）

安東　東平電影院（新安街二八）

鞍山　世界館電影院（鐵西南七番町「市場」）

遼陽　復興電影院（舊平康里 七月十日至八月三十日停演）

錦縣　錦州電影院（朝日街二番地）

鐵嶺　銀州電影院（興仁區一番地）

四平街　中央電影院（北五條通）

海拉爾　呼倫電影院（東三道街）

克山　平安電影院

泰安鎮　泰安電影院（南大街）

嫩江　興嫩電影院（協和路六）

敦化　日滿會館電影院（小東門外凱旋街）

通化　通化館電影院（南關）

臨江　臨江館電影院（通化省臨江）

勃利　東亞電影院（中正街北二道街）

東安　東安劇場電影院（東安聖影路）

琿春　日滿演劇場電影院（本町鎮定區公會堂內）

西安　新光電影院（城內中興北街一〇一）

千振　振安電影院（三江省樺川縣千振

拜泉　平安電影院（濟民路）

蛟河　中央電影院（蛟河縣大馬路公會堂）

孫呉　大同電影院（城內小協和路）

呼蘭　呼蘭電影院（呼蘭建國街）

【中國の部】

青島　光陸電影院（海泊路六三）上平安戲院（滄口路二二）光陸大戲院（福寺路六三）

北京　新々電影院（西單牌樓路南）中央電影院（北新華街二五）大說樓電影院（前門街大柵欄五四）同樂電影院（前門大柵欄門框胡同）北京電影院（西單牌樓西安市場內）陳列館電影院（前門箭樓上）銀光電影院（後門大街路西）民衆電影院（西城西單商場內）大樂電影院（前門外天橋）

天津　天津電影院（華街東北角）河北電影院（華街大胡同）大陸電影院（華街西北角）上平安電影院（華街南市大街）權樂電影院（同上）華安電影院（佛界綠牌電車通）天宮電影院（佛界觀業場四樓）明星電影院（佛界二十三號路）大明電影院（佛界馬家口）直光電影院（特二區雨儀街）

濟南　大觀園電影院（經四路大觀園內）濟南電影院（英界倫敦通）

石門　大觀常設館（經三路大觀園內）濟南電影院（城內舊軍門巷）

徐州　永安電影院（至善街同樂胡同）

唐山　金城電影院（快哉亭公園）

　　天宮電影院（商場大同大世界）華樂電影院（小山大街）長城電影院（商場大街）九天仙影院（商場大街「影繪芝居」）

張家口　民樂會館（怡安市場）

大同　大同映畫劇場（西北隅司令部街）

太原　太原劇場（柳港街）

上海　金城大戲院（北京路）新光大戲院（寧波路）明星大戲院（派克路）中央大戲院（北海路）卞德大戲院（卞德路）恩派亜大戲院（霞飛路）

杭州　光華大戲院（愛多亜路）九星大戲院（福煦路）

　　大光明戲院（延壽路）杭州影戲院（驛前）大世界（仁和路）市東遊藝場（忠濟街）

蘇州　大光明戲院（城內觀前北局）蘇州戲院（同上）

南京　首都電影院（夫子廟貢院街）

漢口　新市場電影院（中山路）上海大戲院（特二區雨儀街）

廣東　新華戲院（惠愛東路）長壽戲院（長壽西路）大德劇場（大德馬路）新聲劇場（惠愛西路）民樂劇場（惠愛東路城隍廟前）金聲劇場（十一甫路）新々劇場（同上）

◇外人映畫館

青島　スター（安徽路六）フルーズ（山東路六一）キヤピトル（湖北路二七）

北京　眞光電影院（東安門外）羅馬電影院（東長安外）苗克電影院（米市大街）

天津　光明電影院（佛界梨棧大街）平安電影院（英界小白樓前）光華電影院（特一區）大光明電影院（英界白河岸）

濟南　新濟南（經二路緯三路）

漢口　維多利戲院（佛界バンド）中央戲院（佛界福煦大將街）明星戲院（同上）

上海　グランド（靜安寺路）カセイ（霞飛路）エンパシイ（同）パリー（同）メトロポール（虞洽卿路）ロキシイ（靜安寺路）キヤピトル（博物院路）南京（愛多亜路）麗都（貴州路）リアルト（膠州路）リッツ（海甯路）ウイルス（同）



【滿洲演劇行政】　滿洲には未だ演劇に對する國家方針の確立はない。滿洲は民族複合の國であり獨自の國劇はないのであるが、然し新しい獨立國であつて見れば、新しい意味の支那劇、新しい意味の日本新劇、新しい意味のロシア劇等を總稱しての「國劇」の創立こそ緊急の行政目標であらう。此意味に於て近來發生しつゝある各種國內劇團が支那舊劇の改良を標榜してゐることは喜ぶべき現象である。

演劇協會

滿洲國に於ける演劇行政の問題は早くから擡頭をみてゐたが、その一つの形ともみられる「株式會社滿洲演劇協會」が設立さるゝことゝなつた。この會社は特殊會社と民間の折半出資百萬圓とし、その事業內容は、（一）國外、主として日本及び支那より輸入する演劇其他の演藝を精査嚴選し、これを調節して營業者に配給し、又は自ら上演興行すること、（二）從來採算上顧みられなかつた僻遠地域の上演興行や、慰問義捐興行を豐富にすること、（三）國內に於ける演劇の向上發達、進んでは滿洲國劇其他の滿洲的演藝の創造を圖ること、（四）演藝、音樂等の研究團體に對し物心兩方面の助成をなすこと、（五）演藝に關聯する脚本、歌詞等の發達を助成すること、（六）業者に對する講習會、養成所等を開設し進步向上を期すること、（七）國家の各機關と連絡を緊密にしその指導を受けて思想宣傳及び取締りの効果を擧げる機構を作ること、（八）業者の全體的機構を合理化することにより業者と觀衆との共榮共利を圖ること等を目的としてゐる。

滿洲國劇

滿洲國を構成する民族が五指を超え、其各民族が夫々に演劇活動を行ひ、觀客は幾通りにも分たれ、更に日系には日本新劇、滿系には舊、新劇、鮮系には鮮劇、露系には歌劇があつて、「滿洲國劇」の中核を把握することは容易でない。然し新しい國家には新しき演劇が生るべきが當然である。唯それが如何なる型態のものであり、又あるべきかが問題となるが、畢竟それは各民族劇團の果敢な活動の上に逐次その一端が示されて行くのではあるまいか。職業的舊劇に對する脚本の選擇が行はれてゐるが、之は飽く迄支那舊劇で、滿洲國劇と云ふには程遠い感がある。

新劇團の特長

滿洲國新劇團の特色は、國家建設の線に沿つて演劇文化確立と同時に民族協和の理想國策の大衆理解に努め健全なる國民文化の育成に盡してゐると云ふことであらう。「大同劇團」の如く全滿各地公演竝に康德六年東邊道最後討伐隊と決死の行を共にしたり、「奉天協和劇」の如く奉天省下公演がそれである。特筆さるべきは康德七年公布されたる「國兵法」の事前工作に全滿各地の劇團を動員し、之に當らしめたことである。單なる宣傳劇ではなく、僻陬國民に對し慰安を提供するのであるから國家政策としても賞讃し得るものである。この工作を中心として各地劇團の强化が計れるであらうし、新劇の結成も考へられる。

【劇團】

大同劇團（新京）　中銀戲劇研究會（新京）

滿洲戲劇研究會（新京）　新京發送話劇團（新京）

新京放送劇團（新京）　新京中央コドモ會（新京）

朝鮮人分會文化部演劇班(新京)
奉天協和劇團(奉天)　第一劇團(奉天)
安東協和劇團(安東)　國劇研究社(四平街)
吉林協和劇團(吉林)　劇團哈爾濱(哈爾濱)
新星劇團(哈爾濱)　哈鐵戲劇研究會(哈爾濱)
舊露西亞藝術研究會(哈爾濱)
黑河協和劇團(黑河)　普慶茶園(一面坡)

＝支那劇＝

劇場案內

劇場の規則に新式と舊式とある。新式のうちに二通あり其第一は北京あたりで行はれてゐるもので、日本の東京の劇場と同じく坐席に番號が入れてあり、切符の前賣もする。第二の座席は一定の等級である限り番號がなく、「坐り勝ち」で、入場の際切符の檢査をする方法である。舊式のものは中に入つて席を見つけた上でボーイ(茶房)に切符を買はせればよい。滿洲では新式の第二種及び舊式のものが多い。

芝居見物に茶は附物で餘程新式の劇場(例へば天津の中國大戲院等)でない限り席に着けば必ず茶を持つて來る。これは茶を賣つて生活する商人が劇場に附隨してゐるからであつて、普通は茶を飲んでも飲まなくても茶代を拂ふ習慣になつてゐる。舊式劇場—特に滿洲—では茶及び食品類の仲賣の外、蒸タオルを提供する。これは後で料金を請求して廻る。新式劇場には之はない。坐席の分け方は大體平場(池子)の前(前排)と後(廊子)、二階の前房三面(包廂)及び其後方(後廳)と云ふことになつてゐる。包廂は日本の桝に當り、一桝四人乃至五人坐れ、一桝幾らと云ふ料金になつてゐて無論料金は一番高い。個人席で最も高いのは平場前方で此處はほんとうの芝居好きが行く。これは支那芝居が歌を主とする關係上微妙なフシ廻しを聽くためには舞臺に近くないと不便だからである。平場の兩袖及び後方は大體同値でずつと安く、一番安いのは後廳である。

開演は晝間(午後)と夜に分けられるが、近頃の傾向としては日曜休日以外は晝間は開演しないことが多いし、開演しても好い俳優は出ない。時間は處に依つて異るが、大體晝(白天)は午後二時頃から六時頃迄、夜は八時頃から十二時頃までゞある。料金は一人當り最高二圓から二三十錢位迄、北京一流の俳優が地方巡業の場合は三圓から五圓まで取ることもある。茶代は一人十錢見當と見積れば好い。

支那劇の見方

言葉が分らない調子が分らない上に、舞臺裝置の簡單な支那劇を了解しやうとするのは容易の事ではない。

支那劇の觀賞に先づ必要なのは劇の內容を知ることである。例へば「霸王別妃」とは何う云ふ劇であるかと云ふ概念を養ふことである。七十二回戰を交へて一度も負けたことのない項羽が、韓信の爲に計られて九里山の一戰に破れ四面楚歌の聲に驚かされて、愛妃虞美人が訣れの舞をする所であるとの豫備知識を持つて見て、初めて趣味津津たるものがあるからである。一目して其藝題は何かと分るのは容易な事ではないので、それには劇本を熟讀し、舞臺上の所作と相待つて、初めて觀劇の基礎的知識とでも云ふ可きものが出來上るのである。勿論二百も三百もある劇の筋合を全部知ることは容易ではないが、併し平常演ぜられる劇は大抵定つて居るので、三國志、水滸傳、西遊記、封神榜、狸猫換太子、楊家傳、西廂記、琵琶記、紅樓夢、岳飛傳、施公案、三俠五義、紅鬃劣馬の類、其他時代々々流行の物を研究すれば充分である。

以下順々に支那劇の特徵を述べて見やう。

【舞臺】　支那劇には日本のやうな幕合と云ふものが無く、且つ花道と云ふものもない。俳優は常に右側の上場口から現はれて左側の下場口に入り續いて後ろを廻つて復た右から出る。藝題が變る時でも別段時間を置かず、僅かにブーブーいふ原始的の喇叭を合圖にどん／＼進行する。

近頃主要な場面に多少道具立をするものもあるが、大抵は背景を畫いた幕を吊る位で、場面でも總かに俳優の所作、從者の竝び方、囃しの調子等から考へるより外ない、鞭を持つて出て來る時は、道を急ぐ所か戰陣から歸つて來た所が想像され、起覇と云つて手振り足振る勿體を附けて來る時は、自邸に居た所と想像されるのである。又四人の從者が舞臺の眞中に二人づゝ竝んで、後から主人たる權威者が出て來るのは自邸に居て座敷に出て來た事が窺はれ、四人の從者が上場口の正面に二列に竝んで、後から權威者が其間を通つて出て來るのは、他所から歸つた所が窺はれる。

【隈取】　支那劇の特徵であつて「淨」或は「花臉」と云つて曹操や項羽の樣な豪放な人物を表はす役と「丑」と云つて道化役をするものとの二種ある。眞白に塗つたのは仇役を表はし、黑は剛直の表示で、又五色に規則正しく染めたのは兇暴の相で所謂山寨の王を表はす。張飛の顏も三國志劇を飾る大きな存在で、生地を白とし眼と頬は太い黑線を引き、額に灰色で蝶の形を表はす。關羽の顏の眞紅なのも外に例が無い。「花臉」は性質として斯うした人物を表はすから、其歌も頗る男性的のものである。

次の「丑」と云ふのは、兩眼を白で菱形又は蝙蝠形に染め見るからに滑稽である。

其他隈取をしないものには「生」と「小生」とがある。「生」と云ふのは何れも長い鬚を垂れ、皇帝とか大臣とか云ふ、種類の人は勿論、學者でも易者でも、壯士でも漁夫でも多く之に屬する。「小生」は若々しい人を表はすので、素顏で鬚がない。

次に女形で主要な役は「靑衣」と云ふので、之は貞節なる眞面目の女性を表はし常に其劇の主役たるもので、顏を白く濃厚に塗り、眼を吊眼に畫いて眼と眉との間を赤く染め、口紅を施して耳の前に後れ毛を黑く染める。

【衣冠】　紫や緋に金で龍を刺繡した大衣を着、銀星や緋の毛房で飾つた兜を被り黑い鬚を附けて出て來るのは大抵皇帝である唐や獅子頭の刺繡ある大衣を着、同じ樣な星兜を被つたのは元帥である。中に雉尾と云つて雉の尾を二、三本繋合せた飾を二條、頭の後ろに垂れるものもある。左右に黑い翼があつて、歩く時ブル／＼震へる冠を被つたのは文官で、特に三國の魯肅や、「法門寺」の知縣趙廉等は無地の紫衣を着る。以上何れも腰に玉帶を附ける。袖の細い鎧を着脊に靠旗と云つて三角形の小旗を四本挾んだのは、武人出陣の華々しい姿である。襟を日本式に合せた衣服を着上に同じ形のダブダブした羽織樣の物を引掛けたのは、壯士とか志士の型である。頭目は紫や藍の毛房で飾つた高い兜を附け、部下はピエル式の帽を戴く。尙ほ斯ういふ人が喧嘩にでも行く時は、袖の細い上衣に、頸から細い紐を十字に卷附ける。紫や藍地に八卦形の模樣ある大衣を着、手に鶴扇を持つたのは軍師の型で、同じく囍と云ふ字を模樣にした長衣を着るは金持の老人、上部の四角な學帽を被り、黑や藍の質素な長衣を着たのは學者である。其他一般の老人は茶色の服、頭に同色か藍色の鉢卷をする。

次に「靑衣」即ち良家の妻女は、上衣は黑下衣は白で、胸に白の襞の多いスカート式の物を卷くか腰に白帶をする。髮はあつさりと結んで、白布か藍布の鉢卷をし、結び目を長く右脇に垂れる。黃の上衣を着たのは皇妃、濃艶な色合を用ひたのは麗人型、中にもキラキラした武裝をしたのは女傑型である。

次に何處の國の劇でも、其國の人情風俗を表はした所作、言ひ換へれば特殊の型があるもので、吾々の眼にはそれが異樣に映

る。従つて相當解釋に苦む所があるものであるが、度々見る中に、それが一定の型に嵌つたものであることが分る。以下最も眼に觸れるものを幾つか擧げて見やう。

【龍套】 支那劇はうるさい程旗持や刀持が走り廻るもので、之は皇帝とか元帥とか云ふ人の從者で、其數は四人に定つて居る。至つて粗末な風をして居るが、之は下廻りの役であるからで、其中黄色い上衣を着たのは宮中の奉仕者である。總稱して「龍套」と云ふ。之にも一定の方式があつて、上場の時は最初の二人が斜に進んで左側に後の二人が右側に竝ぶ。而して後から皇帝が現はれて二列の間に立つと云ふことになる。下場の時も龍套は兩方から一列に中央に進み、先拂をしてから下る。

【趟馬】 馬に乘る仕種の時は必ず鞭を持つことになつて居る。長さ四尺許りの鞭で、紅白黄等の房で飾つてある。從者が鞭を捧げると本人は鞭の先の紐の輪を藥指に嵌めてから柄を握る。それから兩脚を動かして馬に乘る型をするのである。終つて鞭を水平に波を打たせて前進する。鑼鼓に合せて馬で舞臺を縱横に駈け廻る仕種は、一定の法式があつて之を趟馬と云ふ。

【覇起】 之は武人の示威仕種であるが一面又鎧兜の着附を良くする動作と考へられる。先づ主役の武人が上場の時九龍口で止り、左腕を横に曲げて力を入れて水平に伸ばし、右腕を横に曲げて添へ、大鈸の音に合せて傍目も振らず斜進し、舞臺の中央正面に到り、其儘後退りして舊の位置に歸り、兩腕を交る〳〵伸ばし次に交る〳〵目の前から頭の上に揚げ、右足を高く蹴り次に左足を蹴る。此處で一廻轉して今度は舞臺を角に廻つて再び前の正面に達し、愈々本藝に入る。此仕種は元帥一人でやることもあれば、四人又は八人の大將が一人づゝ出て來てやることもある。

【亮相】 大官が上場の時一度其處に止つて姿勢を正し文官は袖をしごいて兩手を冠の前に當て、武官は兜の前に輕く手をやり兩方とも型の如く長い鬚をしごくことがある。婦人も主役になつた者は、時に同じ樣に一度止り、長く垂れた頭髮の側毛を下にさすることがある。之は何れも威儀を整へる仕種で之を亮相と云ふ。

【鬚と袖】 鬚は威嚴を示すより寧ろ年齡を表はすものであつて、此鬚のしごき方が最も重大な表情の一になつて居る。鬚の扱ひ方と同じやうに目に附くのは袖の振り樣である。衣服は武人の用ひる一部の物の外何れもダブダブした袖のある物で、其袖の先に又水袖と云ふ二尺許りの白い袖が附いて居る。俳優は其の水袖を投げたり、手首に巻いたりして感情を表現する。

【樂器】 樂器は胡弓を主とし、三絃、月琴、大鑼、小鑼、笛、笙、大鼓等を用ひるが、一隊は舞臺の右側に位置を占め、中央にあつて竹板を叩き小鼓を打つのが指揮者である。竹板を叩く調子を「板」と云ひ、小鼓を打つ調子を「眼」と云ひ、此の板眼によつて音樂が整ひ歌が規則正しく歌はれることになる。今日支那劇と云へば、西皮、二簧の二調であつて、喜怒哀樂の關係から、原板、搖板、倒板、快板、慢板、數板、流水板、二六板等いふ調子に分たれる。

約　　束

一　赤い四角の旗を持つた人が出た時は天候の激變か神樣の出現を表はす。

一　格子の上に立つたのは山に登つた形で高い山は椅子を二つ重ねる、但し其の椅子が上場口下場口に寄つた正面にある時は、雲の上の仙人に考へられる。

一　女形がよく手先を空中に横縱に動かすが、之は門を開け立てする仕種。

一　舞臺面を右から左に小刻みに歩くのは階段を上下するところ。

一　女形はよく車に乘るが其時は黄色の布に車輪を畫いた物を身體の兩側に添へる。

一　世話方が線香に火をつけ焰を飛ばすのは燒打の光景。

一　井、牢獄、土窟は椅子を横にして置く

一　男が顏に薄墨を塗り、女が顏や鼻の側に二、三本薄墨を引くのは危險の迫れる場合。

一　白い鉢卷に白い衣物は喪服。

一　人の首は人頭大の赤い布包を用ひるが目も鼻も無く鬚だけ附ける。

一　聖旨の傳達、結婚の場、酒宴の場等には囃方が原始的の喇叭を吹く。

一　亂戰の時、下廻りの者が三遍も五遍もモンドリ打つて舞臺を斜に飛出して來る中に大將の馬丁は體を後ろに翻へし輪を畫いて腹這ひになるのが特藝。

一　主役は寢る時決して横にならない。椅子に坐した儘机に靠り掛る。

一　皇帝元帥の出場はよく帳中に坐す、帳は二本の棒に美しい緞子の幕を張る。

一　城門は二本の棒に藍色の布を渡し、それを二人の世話方が兩方から持つ。

一　壘や藍色のきれた煉瓦の模樣を描いたのを竹の棒で支へて立てれば城壁或は城門。

一　三組か四組の房のついた三尺許りの棒は鞭で之は馬を意味する。

一　櫂を持つて漕ぐまねをすれば船、中で戰をする場合は櫂を略して槍を用ふる。

一　雲形を描いて楯の如きものを持つて出れば天上の神樣が出る。

一　黑い小旗を振つて出れば風が吹くこと。

一　白地に波模樣の小旗は水中の意で主として魔物が照る。

一　女形が赤い布を冠つて出れば花嫁。

一　顏に赤い布をかむせれば死んだこと。

一　舞臺の上を小走りにぐる〳〵廻るのは長い途を急ぐこと。

一　槍を投げたり受けたり蹴つたりして曲藝を演ずるのは武藝の優れてゐることを意味する。

一　鎖を頸に垂らして出れば罪人。

一　大官で罪を犯した者は冠を取上げられ眞中に結んだ長い髮を振廻す。

一　夜景の所は提燈を持つ。

一　白い紙を切つて繫いだ物を一條頭から肩に垂れるのは幽靈の表示。

一　男の獄衣は藍色で、女のは赤。

役柄と劇の特色

（イ）　**老生劇**　顏に隈取をしないで耳から頭にかけて長い鬚を附けるのが特徴で、忠臣烈士、名賢將と云つたやうな史上正しい又偉い人物の言行を芝居にしたものであり、老生の役になつた俳優の歌と臺詞を聽くのが目的である。

（ロ）　**武生劇**　二種あつて一つは武技即ち立廻り專門の眼で見る芝居、一つは其の外に歌や臺詞も聽くと云ふ芝居である。武勇すぐれた豪傑、俠客、劍士が武生によつて現はされ、顏に隈取なく鬚もつけないのが普通である。

（ハ）　**文武老生劇**　歌や臺詞も大切なら立廻りもやると云ふ、どちらかと云へば新しい傾向の芝居で、筋も複雜であり或人物の事蹟の相當纒つたものを演ずる。

（ニ）　**花臉劇**　隈取と鬚が附きものであり、人物は大抵善人と惡人とに分けられる。特色は隈取の外に發聲が非常に荒々しく大きいことであり臺詞と歌を聽かせることにある。

（ホ）　**小生劇**　色男役（日本の二枚目）を普通とし、別に武小生と云つて武勇傑れた青年英雄の役がある。顏はきれいに化粧し高聲と低聲を混ぜて臺詞を云ふ。

（ヘ）　**花彩劇**　女形で若くて美しい女の役である。女形の美線と可憐な所作と哀婉切々たる歌とを目的とし、眼と耳との兩方を樂しませることにある。

（ト）　**武旦劇**　武藝を主とする女形の

劇で、この役の特徴は全く立廻り專門にして歌や臺詞は殆どなく、房の附いた槍で曲藝をやる。旦は女形の謂である。

（チ）　**老旦劇**　年老いた婦人の役、歌の調子は老生より少し高く文聲も大きい。筋が簡單でたゞ主人公の歌だけを聽くものである。

（リ）　**丑角劇**　一種の道化役で特徵は眼と鼻の處だけを白く塗り大きな甲高い聲でものを云ふ。概ねワキ役として活躍し女形の道化役の場合は顏を白粉と紅で滑稽に作る。

（ヌ）　**其他特別の劇**　三國志で有名な髯の豪傑關羽を主役とする關羽劇、有名な支那のおとぎばなし的小說「西遊記」の大立物孫悟空を主役とする孫悟空劇等がある。

現代支那劇名優

一、二流程度の現代名優には次の如きものがある。

イ　（**老生役**）　馬連良、譚富英、言菊朋、李盛藻、雷喜福、奚嘯伯、時慧寶、王鳳卿、周嘯天、陳少霖、王文源、孟小多（女優）

ロ　（**武生役**）　尙和玉、馬德成、李少春、孫毓堃、周瑞安、楊盛春、劉宗楊、蓋春來

ハ　（**文武老生役**）　李萬春、葉盛章、麒麟童（周信芳）林樹森、劉漢信、白家麟、高百歲、楊瑞亭

ニ　（**花臉役**）　金少山、郝壽臣、侯喜瑞、劉連榮、馬連昆、王永昌、袁世海

ホ　（**小生役**）　美妙香、金仲仁、程繼仙、葉盛蘭

ヘ　（**花衫役**）　（男優）梅蘭芳、程硯秋、尙小雲、荀慧生、黃玉麟、筱翠花、張君秋、毛世來、李世芳、陳麗芳、小楊月樓　（女優）章遏雲、吳玉蓉、侯玉蘭、梁秀娟

ト　（**武旦役**）　朱桂芳、閻世善

チ　（**老旦役**）　李多奎

リ　（**丑角役**）　蕭長華、馬富祿、朱斌仙、慈瑞泉、曹二庚

≡寄　席≡

滿支には寄席に當るものは餘り多くない。日本の寄席の如く一つの席で各種の演藝をやるものは非常に少く、概して云へば寄席的演藝は完全した建物內よりも露天或はそれに近い盛り場の天幕張りの中で一種目每に別々に演ることが多い。

一、**雜　耍**

雜耍と云ふのは寄席的演藝のことで各種の雜耍を一つの席でやるのは天津、北京等の大都會に一、二箇所ある程度で、その種目は大體左の如くである。

（イ）　**大鼓書**　一種の語り物であり日本の祭文に似、伴奏に合せて一定の物語を單調なフシをつけて唱ひ、名人はやはり男であるが普通は若い娘が主としてやる。

（ロ）　**相聲**　一種の落語であり扇子を持ち滑稽な話を身振りを入れて語る。伴奏なく一人藝で男に限る。

（ハ）　**雙簧**　一種の掛合漫才で男二人でやり伴奏はつかない。

（ニ）　**說書**　講釋で軍談物が多い。

（ホ）　**淸唱**　胡弓と銅鑼の簡單な伴奏で芝居の一節、義太夫のさわりの如きものを平服のまゝ唱ふ。

（ヘ）　**拉戲**　芝居の一節を胡琴を彈きながら唱ふ。又胡弓の一種で肉聲に近い音を出すものを以て芝居の一節を彈くこともある。

（ト）　**戲法**　支那手品で變戲法とも云ふ。

（チ）　**口技**　猫八式のものまねで簡單な含み笛を使用し、鳥の鳴聲が多いので百鳥聲とも云ふ。

二、**落子館**（坤書館）

前揭の大鼓書許りを專門にやる寄席で出演者は女許りである。一般には「茶社」と云ふ看板をかけたのが多い。事實客は茶を飮んで閑をつぶしながら聽くともなく聽くと云つたやうな態度である。料金はおぼしめしである。

三、**影　戲**

影繪芝居であるが影繪其ものは從であつて、普通の芝居の如くやはり歌を聽くのが主目的である。影繪の人形は羊又は驢馬の皮を薄く細工して透明にしたもので、それを色々な芝居人形に切り、手足に紐と竹の棒を附けて操る。人形使ひと唱ひ手と囃子方とは夫々別だから一座に少く共七八人は必要とする。

四、**寄席の規則**

近代的のものは入場劵を賣るがこれは殆ど行はれてゐない。ぶらりと入つて席につき茶を飮んでゐるとおぼしめしを集めて步くから十錢か二十錢を奮發すればよい。近頃は料金を定めてゐるところもある。茶代は別に拂ふが處によつては茶代だけ拂へば好いのもある。娘のやる大鼓書の場合には點曲と云つて客の好みの曲（藝題）を注文することをねだつて來る。それに應じて注文をつけた場合は所定の料金を拂はねばならない。この場合演者を指名することも出來る。露天若くは天幕張りの中でやる場合は投げ錢を集めるが通例である。

≡支那劇場≡

奉天	共益舞臺	北市場
	中央大戲院	〃
	奉天舞臺	城內
	商埠舞臺	南市場
	大觀茶園	北市場
	東樂劇場	城內
	新々戲院	工業區
新京	新民戲院	城內新市場
	燕春茶園	
	緝春舞臺	
哈爾濱	華樂舞臺	傅家甸十六道街
	新舞臺	傅家甸正陽三道街
	中央舞臺	傅家甸豐潤街
大連	宏濟大舞臺	奥町五六
	新世界成記大戲院	日進街一〇
	福興大戲院	不老街五一
安東	永樂舞臺	四番通八丁目
	安成舞臺	宏濟街
撫順	歡樂大戲院	歡樂園
營口	昇平舞臺	通惠區昇平街
	協和舞臺	泰康區永慶街
四平街	大觀茶園	鐵道東二馬路二條通
吉林	新慶戲院	得勝門外
	新民戲院	福綏門外
佳木斯	佳門劇場	東南門外
鞍山	平安樓	八卦溝
	滿人會館	鐵道西
齊々哈爾	龍江大戲院	隆盛胡同一四
	龍海茶園	公園臨時市場
錦縣	和樂舞臺	錦華區豐樂街
	靖安舞臺	東關區大凌街
本溪湖	湖山樓	滿洲街
北京	吉祥戲院	東安市場內
	廣和戲院	肉市三六
	華樂戲院	鮮魚口
	中和戲院	糧食店五
	廣德戲院	大柵欄三八
	慶樂戲院	大柵欄一二
	吉順堂雜技場	青雲閣
	華北戲院	西珠市口
	富連成社	虎坊橋八〇
	長安大戲院	西長安街五七
	新安戲院	西長安街一〇一
	哈爾飛戲院	舊刑部街一二
	開明戲院	西珠市口
	三慶戲院	大柵欄
天津	中國大戲院	佛界天增里
	新中央大戲院	佛界電車通
	天寶大戲院	特二區
	天華景大戲院	佛界勸業場四樓
	天樂評戲院	同　五樓
	天外大游藝場	同　六樓
	小利園大游藝場	佛界泰康市場四階

	大觀園大激藝場	佛界天祥市場四階
	燕樂大激藝場	華街南市大街
	慶雲大激藝場	〃
	大舞臺戲院	〃
	小廣寒舞臺	佛界天祥市場四階
唐山	天娥戲院	商場大街大世界
	天樂戲院	〃
	永盛茶園	小山大街
濟南	中華戲院	經五路
	北洋戲院	通惠路
	東興戲院	按察司街
	天慶戲院	新市場
	富貴戲院	鐘樓司街
	民樂戲院	新市場
	新民戲院	勸業場
	大觀園內第一劇場	經四路大觀園內
	東安大戲院	城內按察司街
青島	中和戲院	山東路北首
	金城大戲院	南村路
	光陸大戲院	平度路二二
石門	新民戲院	共榮街
	新世界戲院	西花園南頭
	新々戲院	西花園南面西横街
	日新戲院	新華市場
	興業茶社	休門道
	新華戲院	新華市場內
	東華戲院	東花園街
	安東戲院	安東街
徐州	金城戲院	快哉亭公園
	新民戲院	黃河府
保定	三慶劇場	警察局街
	新民青年會	東大街
	華樂戲院	貴顯胡同
	新民舞臺	普育市場
	益和戲院	同
	日華茶樓	雨益市場
	別有天	第一樓
張家口	東亞劇場	治安大街一八
	民樂劇場	治安市場
大同	大同戲院	鼓樓西街
	興亞大戲院	大北街三官廟
厚和	民樂戲院	財神廟
	協進戲院	大西街
太原	新民大戲院	開化寺西夾通
	新化大戲院	開化寺東夾通
	維新大戲院	大水巷
上海	大世界	虞洽路
	永安天韵樓	南京路
	先施樂園	〃
	新々屋花園	〃
	綠寶劇場	〃
	大舞臺	九江路
	天蟾舞臺	福州路
	共舞臺	愛多亞路
	璇宮舞臺	〃
	靜安戲場	愚園路
南京	世界大戲院	新街口
	南京大戲院	夫子廟
	同樂大戲院	山西路
	新華大戲院	冬瓜市
	中央大舞臺	淮海路
	陶陶戲院	二廊廟
	大世界戲院	建康路
	品香戲院	上浮橋
	新春戲院	鳴經樓西街
杭州	大世界	仁和路
	市東遊藝場	忠清大街
	新々遊藝場	菜市橋直街
	明光戲院	延齡路
	百貨商場	羊壩頭
蘇州	東和劇場	城內觀前北局
	東吳大戲院	城外橫馬路
	開明大戲院	城內觀前北局
武漢	新市場	中山路
	漢口大舞臺	佛界輔堂里
	天聲舞臺	佛界輔堂里
	天仙舞臺	佛界丸壽里口
	大智舞臺	大智門鐵路邊
	永樂戲院	中華區紹興會館
	東明戲院	鐵路外何家墩
	雲仙戲院	漢景街馬道口
	密漢戲院	華清街
	滿春戲院	滿春路
	日丸劇場	六渡橋清芬二馬路
	武鳴戲院	鐵路外造紙街
	聯和戲院	至公巷湖南會館
	長樂戲院	三新街
廣東	海珠劇場	長堤大馬路
	樂善劇場	長壽東路

× × × × × ×



支那料理

支那料理と日本料理

近年日本各都市にも大分支那料理屋が出來たので、日本人の支那料理に對する認識も相當深くなつて來てゐるから、或は蛇足かも知れないが、知つて置かなくてはならぬ支那料理と日本料理との違ひは、大體次のやうなものである。

	日本料理	支那料理
（イ）	味が淡白である。	南方支那のものはかなり淡白であるが、北方支那、滿洲國のものは所謂山東料理で、一般に濃厚である。
（ロ）	調理にあまり油類を用ひない。	脂肪及び植物油を盛んに使用する。
（ハ）	體裁、色の取合せなどに重きを置く。	體裁や色の取合せ等はあまり考へずに實質に重きを置く。
（ニ）	冷い料理が多い。	熱い料理が多い。
（ホ）	魚類を珍重して多量に用ひる。	魚類は第二として獸鳥肉類を珍重して多量に用ひる。
（ヘ）	米飯を主食とし料理を副食物とする。	料理を主食物とし、料理を食べ終つてから米飯、粥、うどん等の內どれかを、最後に口直し位に極く少量用ひる。
（ト）	生物を多量に用ひる。	生物は殆んど用ひない。
（チ）	食物の量が少い。	食物の量が多い。

支那料理の內容

滿洲や中國の料亭では普通どんな料理が多く用ゐられてゐるか、今參考までに二、三その代表的なものを擧げると大體次のやうなものである。

一品燕菜（イーピヌイエンツアイ）海燕の巢に小量のハムをあしらつたもの。

清湯魚翅（チインタンユイチー）鱶の鰭に筍、椎茸、ハム、油菜などをあしらつたもの。

烤京鴨（カオキンヤー）北京鴨の炙り燒きにしたもの。

炸溜黃魚（チアリウホワンユイ）黃花魚を脂で骨までいため野菜をあしらひ餡掛したもの。

紅燒煮魚（ホンシアオチイヤユイ）スッポンを醬油酒などにて紅くなるまで煮つめ筍、茸などあしらつたもの。

八寶飯（パーパオファアン）數種の果物をあしらつた甘い米料理。

軟炸鷄（ロウンチアチー）鷄肉を醬油、酒などにて味付けした衣のかゝつた天麩羅。

芙蓉鷄片（フーユンチイピエン）鷄肉に蛋白を加へ筍茸等あしらつたもの。

溜魚片（リウユイピエン）魚肉に白餡かけた料理。

炸板蝦（チアパンシヤ）車海老のフライ風にしたもの

拔絲山菇（パースーシアンヤオ）山芋の飴煮。

炸裡脊（チヤリイチイ）豚の軟い肉に薄い衣をかけた天麩羅。

紅燜肉（ホンメンロウ）豚の縞肉を醬油、酒などにて紅く煮たもの。

鷄絲拉皮（チイスーラーピイ）鷄肉、胡瓜、二十日大根などの拌へ物の冷菜。

蝦子玉蘭片（シイヤツーユイラヌピエヌ）海老の粟子と筍の煮物。

川鮑魚（チョアンパオユイ）鮑に筍、椎茸などあしらつた吸物。

鍋烙餃子（クヲオラオチイヤオズ）燒ギョウズ（俗に云ふ燒豚まんじう）。

肉絲炒麵（ロウスーチアオミエイズ）豚肉の細く切つたものに筍、茸など入れた燒そば。

支那料理の名稱

〔炸〕（チャー）油で揚げたもの。

〔炸蝦球〕（チヤアシヤーチウ）蝦の眼球を油で揚げたもの。

〔炒〕（チャオ）油を用ひていためる程度のもの。

〔炒肉絲〕（チヤオロウスー）豚肉に生姜、葱、蒜など細く切つたものに蝦米（シヤーミー）を加へラードでいため味をつけ湯を入れたもの。

〔炒飯〕（チャオファン）油でいためた飯、これに肉

を加へたものは肉炒飯(ルーチヤオファン)、蝦なら蝦炒飯(シヤーチヤオファン)、卵なら鷄子兒炒飯(チーザールチヤオファン)と云ふ。

〔炒年糕〕(チヤオネンカオ) 炒肉絲に糕（もち米を蒸して臼でついて作つた餅で長さ三寸幅一寸五分位、正月に食べるもの）を入れて煮たもの。

〔煎〕(チエン) いためた上更に煮るもの。

〔煎丸子〕(チエンワンツ) 豚肉の團子を油でいため更に煮たもの。

〔溜〕(リユー) 葛(クズ)かけ(あんかけ)の葛かけ。

〔溜汁魚〕(リユーシーユイ) 魚(主にグチを用ふる)

〔燴〕(ホエ) いためて後汁をたつぷりにして煮たもの

〔燴蝦仁〕(のホエシヤーレン) 蝦の皮をむいた中の白味を主材料とし筍、茸、葱、生姜を加へ油でいためた後、醤油、酢、花椒をまぜ汁をかけたもの。

〔烹〕(ポン) 油を少くし、火を強くして直ぐに出す料理。

〔烹豆芽菜〕(ポントーヤーツアイ) 豆の芽菜をつかつた烹(ポン)。

〔湯菜〕(タンツアイ) スープもの。

〔鷄絲雪里紅湯〕(チースーシユエーリーホンタン) 主材料は鷄の胸の肉を千切りにしたものをスープの中に入れて煮、これに筍と雪里紅（シユエリーホン）（一種の漬物）を加へたもの、これは普通の料理の吸物のなかで一番うまい。

〔川〕(ツワン) スープが多くて中に入つてゐる品物が少いものをいふ。

〔川丸子〕(ツワンワンツ) 川(ツワン)に豚肉の團子を加へたもの。

〔高湯〕(カオタン) スープのよいもの、意、主に料理の最後に出す。

〔高湯臥菓〕(カオタンウオクオ) スープの中にゆで卵を落した樣な料理。

〔燜〕(メン) とろ火で蓋をして長く煮たもの。

〔黄燜鷄〕(ホアンメンチー) 鷄肉を一寸五分位の四角に切り、別に甜醤と葱、生姜、蒜を細く切つてこれをまぜ、料酒を加へた味噌の中に漬けたものを材料として醤をつくる。

〔黄燜肉〕(ホアンメンルー) 豚肉の白味と赤味と牛ある肋骨か胸か背中の肉が一番いゝ。小さく切らないでそのまゝ味噌に漬け前と同じ樣にして煮一寸か二寸に切つて丼に入れて出したもの。

〔黄燜蹄子〕(豚の足で作る。只蹄子（ティヅ）と云へば豚の足のこと、羊なら羊と云ふ字を上につける。

〔燒〕(シヤオ) 一度油でいためるか燒くか、或は炙(アブ)るかした後もう一度煮たもの。

〔燒茄子〕(シヤオチエヅ) 茄子を四つ割にし一日位乾したものを主材料とし之に肉、生姜、葱、蒜を加へて作つたもの。

〔燒肉片〕(シヤオローピエン) 茄子の代りに豚肉を使つたもの。

〔燉〕(トン) 燜と同じ樣に蓋をして煮る料理であるが燜は一遍蓋をしたら出來上るまで蓋(フタ)をとらないが之は時々あけてみるだけの餘裕ある料理。

〔燉肉〕(トンロー) 皮のついた豚肉をつかつたもの肋骨の肉が一番よい。

〔熬〕(アオ) やはり汁もので湯(タン)と川(ツワン)の間のもの。

〔熬白菜〕(アオパイツアイ) 白菜を長く煮たもので家庭でよく作られる。

〔奶子熬白菜〕(ナイツアオパイツアイ) 鷄の骨でスープを作りそれで菜葉を煮牛乳で調味したもの。

〔蒸〕(チヨン) 蒸す料理。

〔米粉肉〕(ミーフエンルー) 米粉を肉の兩面に蒸したもの。

〔鷄子羹〕(チーズコン) 茶碗蒸し。

〔烤〕(カオ) 遠火で炙る意。

〔烤鴨〕(カオヤー) 腸を出した鴨の中に葱、生姜など入れて炙つたもの。

〔烤肉〕(カオルー) 豚肉を燒いたもの。

〔燻〕(シユン) 燻べた意。

〔糟〕(ツアオ) 酒の槽にして肉や筍その他を漬ける。

〔醬〕(チヤン)味噌漬

〔蜜餞〕(ミーチエン) 蜜(砂糖)を使つて拵へる一種の料理、餞(チエン)と云ふは砂糖を表にさせること。

〔釀〕(ラン) 鷄、鴨、鳩、茄子、冬瓜などを利用し腸の中に肉を詰めゆでたもの、釀鷄(ランチー)釀茄子(ランチエヅ)など云ふ。

〔煮〕(ツオ) 主に肉料理が多い。

〔白煮肉〕(パイツオルー) 皮のついた豚肉を鍋にとり葱一本、生姜を少々入れて煮其肉を薄く切つて出したもの。

〔拌〕(パン) 混ぜる意、和へもの、こと。拌涼白菜絲(パンリヤンパイツアイスー)はやはり胡麻を使ふ出すが之は夏でなければ食べない。炒肉絲(チヤオルスー)は冬でも

〔拌皮〕(パンピー) 粉皮（フエンピー）を主材料にして作つたもの。

〔拌豆腐絲〕(パントーフースー) 豆腐絲に生葱を

添へ醤油に酢をかけて出す。

〔炸豆腐〕(チヤートーフー) 油揚のこと。

〔熗〕(チヤン) 酢なら酢、酒で醉ひ殺す意。

〔熗蝦〕(チヤンシヤー) 生きた蝦に醤油と酢と紹興酒(ミヤオシチンユー)をまぜたものをかけて殺し生シをのせて出す。

〔酒〕(チユー) 酒の種類は色々あるが次の三種が最も多く用ひられてゐる。

〔高粱酒〕(カオリヤンチユー) 白乾兒酒ともいふ、原料は高粱である。無色透明で臭氣が強く、酒精分は日本の燒酎よりも强烈である。良質の酒を求め難い田舍の宴會などでは之を用ひるが多くは酒豪の飲料、下級民の飲料として用ひられる。

〔黄酒〕(ホワンチユー) 元來は山東の地酒であるが山東人が多數住居してゐる滿洲では滿洲地酒の觀がある。俗に老酒(ラオチユー)とも云ふ。清老頭兒、混老頭兒の二種あり、前者は淡黄や酸味を帶び、後者は焦け茶色で稍焦け臭い。酒精分が弱くて醉心地が輕く、宴會等には一般的に用ひられる。

〔紹興酒〕(シヤオシンチユー) 宴會に最も廣く用ひられる。原料は米である。黄金色で酒精分は日本酒より幾分弱く、長く貯藏されたものほど良いとされてゐる。

支那料理の宴會

料理は千差萬別であるが普通の場合燕菜席（エンツアイシー）－燕の巣がその料理の主役を務め上等の部、翅子席(チーツシー)－鱶のひれが主なる料理で中等、海參席(ハイセンシー)－海鼠の料理が首席を占めてゐるものに三大別することが出來る。成卓となれば普通鮮果四種、乾果四種と冷葷(ロンホン)卽ち冷菜が四皿前菜として卓上に飾り附けられてある。外に客が着席後に運ぶ熱菜（ローツアイ）として兩大件、三大件、四大件、六大件と云つた風に大海碗物と外に小碗物として八品、點心(テンシン)として甘い物が一乃至二巡、最後に飯菜(フアンツアイ)と云つて御飯の時に汁をかけて戴く汁物卽ち夏季なれば大海碗、冬季なれば火鍋子等と漬物四種位出るのである。飲み物や御お粥、瓜子、砂糖、氷砂糖等は別勘定になつて居る。

一卓の定員は確定しては居らず、普通八仙卓子（パアセンチヨウツ）なら六人、丸卓なら八人が正式であるが、時に十人、十二人決して差支へない。豫め人數を知せてあるから、料理店の方で食器を客の數だけ卓上に竝べてある。

席順は入口の方が末席で主人の坐る處、主賓は末席と向ひ合せの所卽ち上席に坐る。最初の冷菜は少し箸を着ける程度にして置かないと、後から出る澤山の熱菜が戴かれぬ樣になる。皿にとつた菜は成る可く食ひ殘さぬ樣にすること、宴會もだん〳〵進行して酒過三巡菜過五味(チユコウサンシユンツアイコーウーウエ)にもなれば一回一寸落附くから挨拶でもする樣なら其時でも見計つてすればよい。宴會も大抵二時間か二時半位で終る。酒も充分に廻り料理も大體濟めば更に一二巡酒を勸め御飯に移る。飯の濟んだものは箸を揃へ禮を述べ他客に悠々挨拶して離席する。

露西亜料理

露西亜料理の特色は、先づ量の多いこと、量の割合に安價なことであり、料理は寒地である關係上比較的油濃いものが多いが、異色ある味覺と調理に旅人の食慾は限りなく刺激される。露西亜人の習慣として朝夕食は簡單な紅茶、パン、ソーセーヂ位で濟まし、晝食（アベート）に一番金と時間をかける。從つて一般のレストラントでも晝食は特に美味しいものを安く食はせるが、夜食となると高級レストラントでは、晝間と同一獻立でも倍額位取られる。之は主に贅澤な階級が多いので、安く提供する必要がないといふわけである。左に主なもの、簡單な解説をしてみやう。

○ウオツカ(火酒) 酒精（アルコール）分の强い酒で露西亜料理の前座に缺くべからざるものである。

○ザクースカ(前菜) 高價なキヤヴイア其の他牛魚肉、筋子（イクラ）と野菜を功みに取混ぜ、それに異色ある胡瓜漬（アゲレツ）を添へたもの。

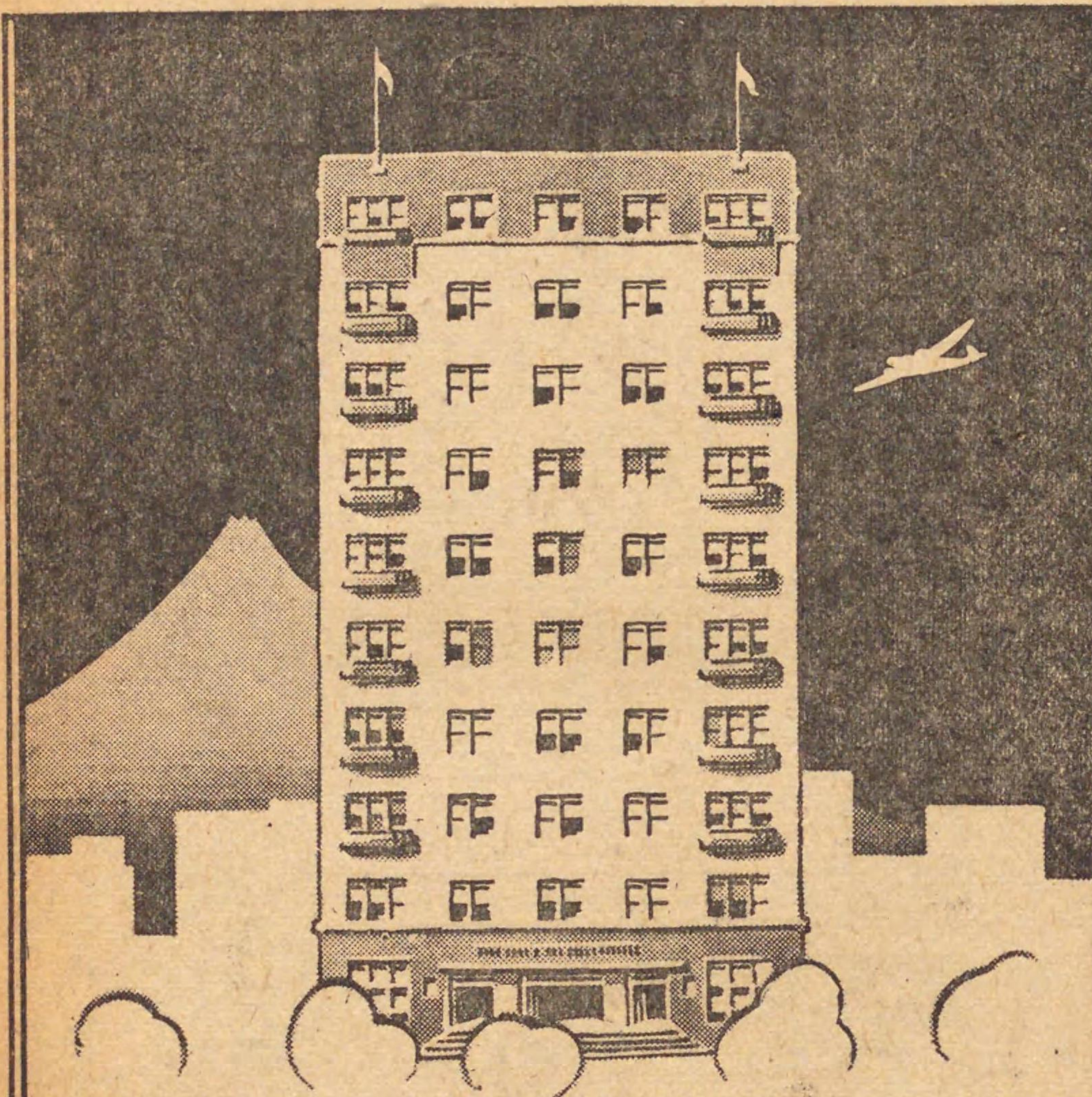
○ボルシチー 肉、野菜(トマト、馬鈴薯等)の濃いスープ、日本人には之一つでも腹が一杯になる

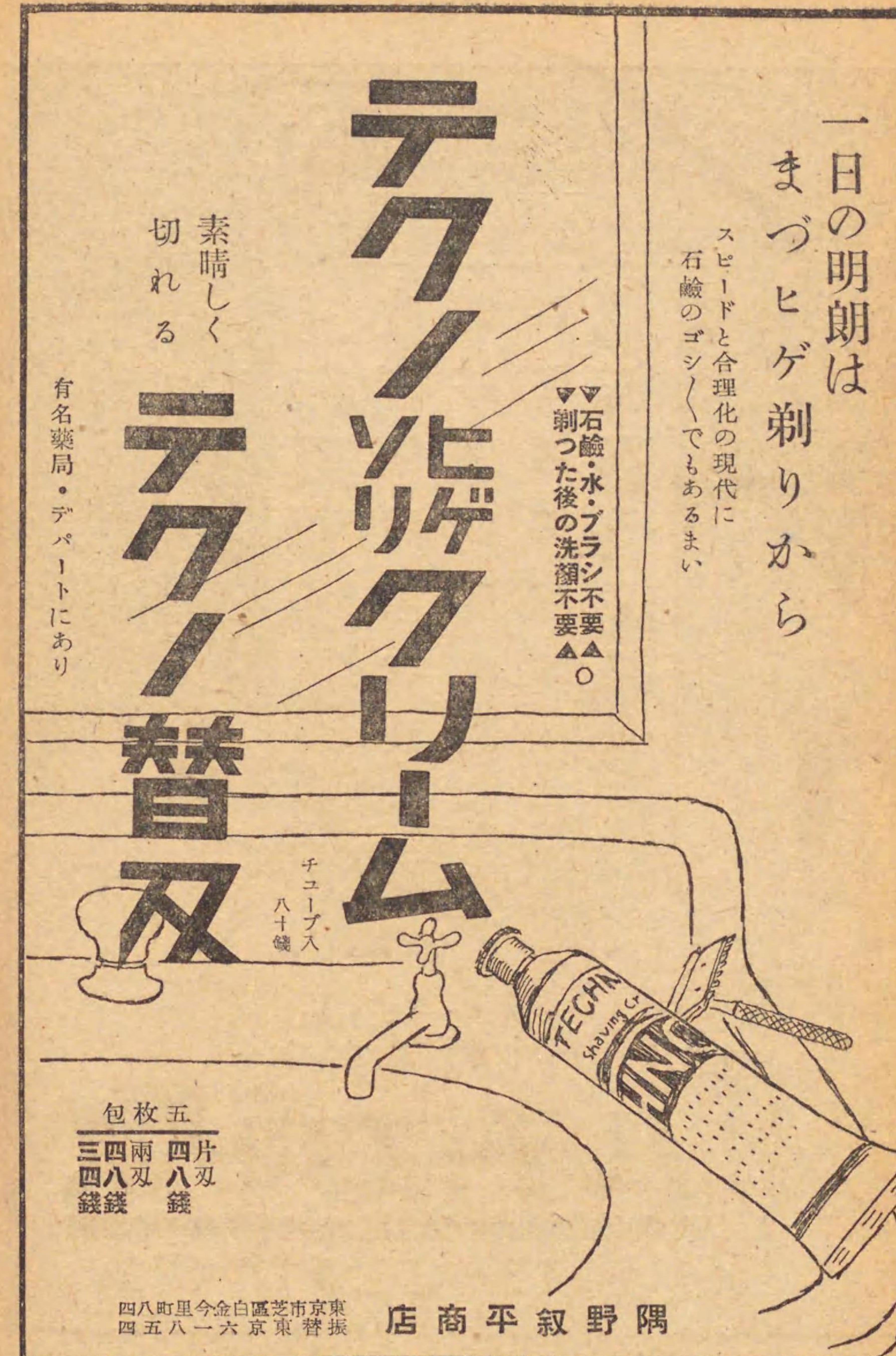
○ビフストローガン・ポヂヤルカ・クリンヌイカツレツト 何れも牛豚肉に馬鈴薯を加へて油で揚げたもの、種類が多く一々擧げることが出來ない。

○シヤシリツク コーカサス料理の代表に擧げられる最も野趣ある料理で、羊肉を串に刺して燒き、熱いうちにレモン汁、ロシヤソースで食べる佳味の逸品である。

○コンポート デザートに入るべきもので、フルーツを煮詰めたもの。

尙哈爾濱に於る露西亜料理の主なる食堂は次の通りである。鐵路クラブ・グランドホテル食堂・モデルンホテル食堂，アメリカンバー，ヨツトクラブ







滿支人の性情

既往の國家組織とか爲政者の個人主義等から一面には甚だしく自己本位に導かれた代りに、他面では、何事も他人をあてにせぬ獨立自治の精神を培はれ、不知不識の間に個人としての生活も自治團體としても非常に鞏固にされ來つて居り、國家だの法律だのゝ背景を借りずとも何處へでも喰ひ込んで行ける强さを持つてゐる。從つて一般大衆は國家なるものゝ法的觀念が比較的薄くそのため「公戰に弱く私鬪に强い」と云ふことにもなるのであるが、新生國家の善政は之等の習性を改善しつゝある。

この個人本位の觀念から殆ど信仰とも云ふべき程の執着を金錢の上に持ち金錢を得るためなり護るためなりには生命をも賭する。

その反面に理窟抜きの大まかな無頓着さ陽氣さ粘り强さ、氣長さが絡み合つて所謂大陸氣分を釀し出してゐる。自分に直接損得にならぬ事柄に對しては一切關心を持たず我不關焉として見過す。庶民階級の日常生活は、實に無造作で衣食住は至つて手輕でありすべて最少限度のもので間に合せてゐる。又商賣や交渉ごとにしても最後まで時間や勞力を超越して粘り續け愈々駄目と決つた場合の諦め方は實によい。沒法子(メイファツ)(仕方がない)の言葉は彼等の哲學の息吹きと見られる。窮すれば通ずの氣持が無自覺の中にも彼等の觀念の底に在り、心中などの起らない大牟の理由は其の邊にあらう。

「面子(メンツ)」とは體面といふ程の意で、頗る厚顔無恥の觀あるも面子を立てる上には甚だ神經過敏である。其實生活は一面からみると面子と實利の葛藤とも云へる。金錢上の事では細かだが大體の氣分が大まかで無邪氣でユーモアに富む者多く、にこやかな顏つきをし朗かなものゝ言ひ方をして、接する相手に快感を抱かせるやう努める。又針小棒大式な宣傳を平氣でやつてのける。

大衆は思想的に低く舊例により萬事を處して行くと云ふ風であり、昔ながらの迷信に捉はれ風水緣喜を擔ぐ風習が根强く存在してゐて、日常生活一切の上に見られる傾向である。殊に田舍の方になると甚しい。

滿支人の風俗・習慣

【訪　問】　支那人を訪問する時には、豫め先方の都合を尋ね時刻を定めるのが禮である。婦人が訪問する時には特にこの點に注意せねばならぬ。初めての訪問には主人は門外まで出迎へ、其他は室外に出迎へて先づ客を導き入れ然る後主人が請坐(どうぞおかけ下さい)と言ふから客は挨拶して着席する。請坐と言はれない間は着席しないのを禮とする。婦人客に迄煙草をすゝめるのが禮である。斯かる時若し主人がマッチをすつてくれた時には、其の火を受取つて自分で火を附けるのが禮である。若し吸はないならば禮を言つてことわるのである。茶を客にすゝめる時には最初主人自らすゝめることが多いから、其の時は立つてこれを受け着席してから茶托ごと手に取つてこれを飮む。點心(菓子又は食間に食するもの)又は食事等を馳走になつた時には歸りがけに先方の使用人に幾らかの心附(賞錢)を與へる。

又主人は必ず室外まで見送るのが習慣であるから先方から訪問を受けた場合には、當方も室外或は門外迄見送り若し自動車に

乗る客ならば其の動き出す迄見送るのが宜しい。

【回　拜】人から訪問されると必ず答禮の意味で又訪問するものである。若し自身が回拜出來ない時には代理人に名刺を持たせて答禮に行かせることもある。之をしないと大變な失禮になる。

【贈　物】日本では人に物を贈るには奇數を用ひるが、滿洲や支那では弔問以外の進物は總て偶數を用ひ品物の種類は異つても總計は必ず偶數を用ひる。又四の數は日本では死に通ずるとて最も忌むが、滿洲支那では偶數であつて二對と言つて便利な數であるから、之を用ひることが多い。

また年節(正月)五月節(端午)八月節(中秋節)の進物に對しては返禮が必要であるが夫れ以外の誕生、出産、結婚等或は病氣見舞、弔問等の進物には返禮をしないのが一般の風習である。

今一般に行れて居る贈物の例を擧げると

五月節	粽、果物
八月節	月餅類、果物
出産祝	銀鎖、腕輪、子供用帽子、衣類等
病氣見舞	滋養になる食料品
誕生祝	食料品(蟹は禁忌品になつて居る)
結婚祝	嫁女の裝飾品(梨は離に通ずるので忌まれて居る)
弔問	香奠、花輪、帳子、輓聯

總て喜び事には紅紙を用ひ悲しみ事には白紙を用ひるから喜び事を紅事、悲しみ事を白事と言つて居る。

【月給や年齢を聞く事】會談の際平氣で月給や年齢を問ひ、時には相手の機嫌を伺ふ意味で着物や裝飾品の價格を尋ねることさへある。風習として心得て置かねばならない。

足を露出することが絶對にないのであるから訪問する場合や外出等の際は必ず足を露出しない樣に注意せねばならない。婦人の踵を異性に見せることは非常な冒險事とされて居る。

【結　婚】年頃の子女があれば親戚、知友が仲介の勞を取り門戸帳(男の姓名、肩書、曾父母、祖父、父と三代の姓名出身を記す)により陰陽師に占はせ兩人の性があつたら公の見合が行はれる。先づ女の父母が男を見、次に男の父母が女を見るので當の本人同志は結婚の日迄直接見合はしないことになつてゐる。見合が終り雙方承諾の上は男の母親より女に指輪などの贈物をして承諾の意味を通ずる、之を放定と云ふ。

婚禮の前日若くは前々日位に嫁入道具を婿の家に送る。

愈當日となれば娶親太々(男家の關係者で夫婦揃つて居る有福な老婦人)が花轎(中に魔除の爲鏡が掛けてある)を用意して新婦を迎へに行く。然し現今都會の地に於ては花轎の代りに自動車を使ふことが流行となりつゝある。

これ迄に新婦は祖先の靈に暇乞をして待つてゐる。そして娶親太々が新婦に會へば化粧品を贈り新婦の顔を赤布で被ひ新婦の服裝は夏冬共綿入を用ふ。

新婦の乘つた花轎が男家に着くと必ず一度は門の戸を締めて其の入門を拒絶し此處で數次押問答の末開門して之を門内に入れる。

新郎は禮服を着用し蓋頭して弓を三矢放ち、それがすむと新郎自ら花轎の扉を開き新婦に苹果(林檎)を食せしめ尙馬の鞍を通らせ夫婦竝んで院子(庭)又は客廳に於て天地卓に向つて天地の神を禮拜する。之は拜天地と云つて最も大切な儀式である。

更に新郎に續いて新婦は洞房とて紅綵の帳を以て飾つた部屋に入り炕(オンドル)の床上に新郎は左、新婦は右に竝んで腰を掛け其の時新婦は蓋頭を除くのである。

親戚知友は御慶びに來て此の日料理等を贈り又男の家では同じく此の日に親戚や知友を招待して馳走する。

婚禮の翌日頃嫁は生家に歸り午後には新郎を其の家に迎へ同道して歸る。回門とは

里歸りの謂である。

【葬　式】人が死ぬと床を移して北又は西枕として死者の衣裳は出來るだけ厚く重ね頭は黒布を以て包み脚は麻繩で縛る。

訃聞と云つて喪主子孫の名に依り親戚知友に通知を出し、入棺式は其の日に行ふ。

棺は上流の人程良質の部厚な木材を用ひ之が爲には費用を惜しまない。喪服は白衣を用ふ。

死後三日目に讀經と通夜をする。之を接三と云ふ。

紙製の車馬、童女、童男、倉庫等を門外に用意し僧侶の後について街路を行進し適當な地に持つて行つて之を燒く。之を送車と謂ふ。送車は讀經を伴つて五日目毎に行はれ、月餘の出棺なれば六、七回も行はれ、出棺前日の通夜を伴宿と謂ふ。

出棺は五日、七日目にするのが早い方で九日、十一日、十三日、十五日目遲いのになると三十七日目其れ以上になるものもある。總て陰陽師が定める日と時刻に依るのである。

【誕　生】子供の生れた三日目に開湯餅會と云つて客を招いて喜麪を食べる。一箇月目を滿月と云ひ客を招待して御馳走する誕生日を祝ふことを辦生日と云ひ老年となるに從ひ益々盛に之を行ふ。

【新　年】新年を迎へるに付ての儀式は種々あるが其の中で最も知られて居るのは年末に於ける竈祭である。

竈の神は一家の吉凶禍福を司る神で、家族の善惡行を計上し、毎年十二月二十三日を其の年の總決算日と定め、昇天して玉皇上帝に報告するものと信ぜられてゐる。即ち年の一家の吉凶禍福は此の昇天報告の結果に依るものと信じられてゐるので｢好多說不好少說｣(好いことは多く語り惡いことは少く話して下さい)と言つて禱るのである。

除夜となり新に年が改まると主人は衣服を改め供物を供へ香を焚き赤蠟燭を燈して天上から降りて來ると云ふ守護神を御迎へする。之がすむと門を閉め惡魔拂ひの爆竹を徹宵打ち鳴らす。夜明け近くに開門大吉の紅紙を貼り愈正月を迎へるのである。

元旦は貧富の程度や職業に依り多少儀式は異るが大體次の順序で行はれる。

(1)天地の神を拜す　(2)四方の神を拜す(喜貴福財の神)　(3)孔子を拜す(官吏)財神を拜す(商人)　(4)祖先の靈を祀る　(5)竈の神を祀る　(6)門神を祀る　(7)父母を拜す

以上の儀式が濟むと人々は回禮に出掛ける。

正月二日間の食事は大晦日に用意せられ餃子を用ひる。

餃子は肉を入れたもの、又は全然入れないで其の中に小錢或は銀貨、寶石等を入れて其れを食べ當てた人が其の年の幸福を得ると云つて樂しむのである。

【家庭の祭祀】▲娘々祭(東岳廟の祭)ー泰山の神は生命を司る神と言はれ娘々は其の神に仕へ幼兒及婦女子と密接なる關係ある神とせられて居るから各地の民衆は東岳廟に詣でるのである。俗に之を娘々祭と云ひ非常に賑ふ。祭は四月中旬から下旬にかけて行はれて居る。滿洲では大石橋、吉林、大屯、鳳凰山などが有名である。

▲中　元(盂蘭盆會)ー七月十五日祖先の靈前に供物を供へ寺院に詣で紙錢か紙製の着物を燒き河及海岸のある地方では風流な燈籠流しをして靈を送る。

▲端午節句ー昔から五月を惡月と稱へ而も五月五日の正午は午月午日午時で、午が三つ重なり最も強い氣の集りで、天地に毒氣が蔓るとされて居る。故に端午を祝して毒を除くの意である。そして其の日は商人の決算期となつて居るから一年中での大切な節句である。五月一日より五日迄は大抵商工業者や勞働者は休業する。

▲仲秋節ー之は三大節の一で商業上の決

算期となつて居る。時は中秋の最も氣候のよい時季であり、空はよく晴れ滿月が輝く等誠に美しく一名之を月見の節句として祝ふ。昔から月の中に兎が居て其の兎は月姉と呼ばれ婦人の崇拜するところとなつて居る。故に又女の節句とも言はれて居る。

家の壁には月や兎の畫を貼り、月餅（直徑三寸より五寸位のもの）や果物等を供物として月を祀るのである。

其他重陽節と云つて高い所に登る風習で之を登高と云ひ身分が高くなることを祈る意味である。

十一月一日には祖先の墳墓に參詣し之を寒衣節と稱し死者に寒衣を贈り靈を慰むる祀り等がある。

【漢人の年中行事】・舊暦・

一月 一日は元旦、二日は財神を祭る日、三日は元旦に迎へた神々を送る日（所によつては四日）、五日は破五（元旦以來守つて來た禁を解かれ自由になる）、四日―六日盤貨（商家は棚おろしをして開業の準備をする）、六日は正午頃元旦以來の供物を下す、八日は穀日、九日は玉皇上帝の誕生日、十日は穀生日、肥料の準備に着手する、十三日は燈節（十三日より十七日まで）各家燈籠をかゝげ珍奇な意匠を競ふ、十五日は元宵節（天官の誕生日）、十六日は落燈夜―走百病、耗磨日、走橋摸釘の風習を存す、十八日は洗龍日―元宵節に使つた龍燈の龍を洗ひ落す二十日は上工日―年雇使用人は主家へ歸り仕事をはじめる、二十五日は封龍日、塡倉日―農家は獨頭の蒜を戸外に懸け、子女は五彩の布を身につけ瘟にかゝらぬ呪とする。塡倉（添倉）は倉庫内の穀物が增して繁昌せんことを願ふための祭事である。

二月 二日は土地神の祭日―（龍擡頭とも云ふ昔の中和節祀孔日）―二日の上丁と八日のその日―（孔子を祀る國家的祭典）、春秋二回上戊の日祀關岳日―（關羽と岳飛を合祀せる祭日）、春分―（春期の半ばに當る日）、十九日は觀音菩薩の誕生日、二十四日前後は淸明節―（祖先を祀る）。

三月 三日は西王母の誕生日、初旬は穀雨節―（この前後に作物の播種をする）、十四日は地藏菩薩の誕生日、十六日は城隍奶々の誕生日、二十八日は東嶽大帝祭。

四月 八日は佛の誕生日、初旬は小滿―（第一回除草）、十五日は呂祖誕―呂洞賓の誕生日、十八日は天后―海神の誕生日、二十八日は藥王誕―（神農の誕生日）

五月 五日は端午節、十三日は關帝歸天の祭日。

六月 六日は土用入り―（蟲王を祭る）、十三日は龍王廟會―（龍王は水を司る神）十九日は觀音の祭り、二十三日は馬王の祭り、二十四日は關帝の祭り。（中伏、大暑、末伏何れもこの月中にあり）

七月 立秋、七日は巧日―（織女渡河の日）、十五日は中元―（俗に鬼節と云つて亡靈を祀る日）。

八月 十五日は十五夜―（團欒節又は供月と云はるゝ如く中秋月餅の山を築き一家團欒して樂しく過す）。二十日は犒勞日―（農家は休養する）。

九月 寒露は月初めに當る。九日は重陽節―（主として文字あるものゝ喜ぶ日）、十五日は戒火日―（この日を以て野外の仕事をかたづける）。十七日は財神の誕辰、月下旬霜降。

十月 一日は鬼節又は十月朔―（先祖を祀る、春の淸明節に相對する祭事）、初旬は立冬、（收穫物の脫穀も略濟む）、二十日前後小雪、（收穫物の賣出し輸送はじまる）。

十一月 初旬は大雪―（堆肥の切り返しをする）。下旬は冬至―（一陽來復の節）。

十二月 初旬は小寒―（農家と市場及商家の決算は此頃から始まる）、八日は臘八で臘八粥（黃米、白米、江米、小米、菱角、

栗子、紅江豆及び皮を去つた棗を合せて作る）を食す、二十三日は竈祭―（夜竈の神を祀る）三十日は除夕―（大晦日）。

蒙古人の民情・風俗

蒙古人は一般に朴訥剛毅であつて、その長上に對する尊敬竝に服從觀念の鞏固なこと、日常生活の尙武的なことは嘆賞に値するものがある。しかし一面又極めて保守的で風習や傳統に反する進步や改善にはすべて反對する傾向がある。

又蒙古人は家畜を愛し、乘馬が上手である。そして生活や傳統による原始的民情は我々日本人に割合親しみ易い點がある。元來蒙古は淸朝が執つた旗制による分裂政策に原因して同族間に於てすら共同動作は困難であり、寧ろ相排斥し合つた程であるが一般的には性格頗る朗らかで、明朗な性格ではあるが、積年漢民族の壓迫に僻んだためか、一旦は外部に對する强烈な猜疑心を抱くやうになつてゐる。しかし一度相手を信じたとなると最後迄信じ通す性格の持主であるから、先づ信ぜしめ、然る後はその信賴を裏切らぬやうにせねばならない。日本人は現に多くの蒙古人から强い憧れと信賴の念を持たれてゐるのであるから、こんな點は特に注意すべきであらう。

蒙古人の風俗習慣等は所によつて異り、就中家屋は生活樣式の變化に從つて夫々相異る。即ち純遊牧民の住む「蒙古包」は轉々と移動するために考案されたもので傘のやうな木骨を屋根とし、木製で圓形の柵を壁とし、これに毛皮又は氈子（フエルト）を覆うたもので、全量を一臺の車に積載し得るやうに出來てゐる。そして取崩しから組立までに僅か三十分といふ極めて簡便なものもある。半牧半農の生活をする者は右と同型で屋根及び周圍を草葺とした固定的な家屋を建て、さらに農業が主產業となつてゐる地ではだん〳〵支那式家屋になつてきてゐる。

純蒙地帶では男子十六歲以上、女子十五歲以上で結婚する者多く、媒妁人が婚約を取結び、結納として家畜を贈り、吉日を選んで式を擧げるのであるが、擧式の方法は所により中々奇拔なのがある。

出產する時は姙婦を家人と別の包を作つて入れ、佛前に燈明を捧げて、姙婦は包內の砂土に蹲踞して佛を念じつゝ助產婦に腹を抱かせて分娩する。產兒は布に包んで舟のやうな形をした籠又は箱に入れて砂を溫めて袋に入れたものを胸腹部に置いてやるが、虛弱な嬰兒はこの時に死亡し、强健な者のみが生存するといふのである。

葬儀は一口に云へば死體遺棄で、原野に遺棄された死體は鳥獸の餌食となるが、もし數日後になほ死體が殘つてをればその人は善根足らぬ者として、再び喇嘛に讀經せしめて棄てる。こんな工合であるから蒙古では王公のほかには墓を設けない。

【蒙古人の年中行事】・舊暦・

▲布和樂と供佛（十二月三十日）

支那で云ふ除夕である、暦が輸入されて始めて正月と云ふものが出來たのであるから正月としては比較的新しい歷史しか持たない蒙古人は餘り獨特の儀式を持つてゐない。然し大體に於て支那の風習を學んだとしても內容にいたつてはやはり面白いものがある。

此日早朝豚や羊を殺して熱湯につけ、毛を去つたものを佛前へ供へる。菓物や饅頭も盛られる、そして一家擧つて朝飯に「布和樂」といふ食事（牛、羊、豚などの肉を大きな塊に切つてそのまゝ出す）をする。

夜には一層佛壇が綺麗に飾られ、喇嘛が來て讀經をする。そして爆竹が三發放たれると越年の儀式と佛に對する御禮が濟むわ

けである。又支那人の風習を眞似た壓歳錢を一同に呉れる。この夜最も大切なことは火を絶てば衣食に窮すると云はれてゐる。

▲交　拜（一月一日）

元日の風習は最も漢人のものを眞似て居る形があつて格別蒙古人としての正月に特色がないやうである。起きて四方の諸神を拜し家の佛を拜すると一家のものは皆家長の前に集まり跪いて敬意を表し家長からめでたい言葉をかけられる。

▲廻　禮（一月五日）

四日までは大概家に居て樂しみ、五日からそろ〳〵親類などを廻る、新婚夫婦の如きは是非共岳家舅家には何を措いても行かねばならない。この場合先方では烏叉（羊や豚の後脚の股の肉）を御馳走する。

▲祭　星（一月八日）

一部落の共同祭禮である。星が滿天に輝く頃を見計つて喇嘛の讀經が始まる。參集した老若男女は自分の歲に相當した數の歲錢を獻じ會費を分擔する。そして線香を焚き喇嘛にきかされてゐる自分に屬する星の前に行つて拜み且つ四方の神を拜して儀式は終るのである。

▲打花臉と撤供（一月十六日）

嫂と弟、弟の嫁と兄といつた間にお互に墨と油とを交ぜた眞黒いもので塗り合ふ習慣がある。うまく塗りつけるとその年の穀物に烏朱が出來ないと云はれてゐる。夜星の出揃つた頃家々では正月以來佛前に供へたものを撤するのである。

▲出　行

正月がすぎて十五日頃までの間の吉日を選んで男子は騎馬で出行と云つて二、三支里位のところへ出かける。出發に當つて「ヒイメル」と稱する呪符を四方に散布する。

これは何の方角にも自分の運氣が散つて居るから安心してゆけると云ふ意味ださうである。

▲鄂博祭

これは蒙古語であり「堆」と云ふ意味であり石を堆んだものと土を堆んだものとの二種ある。形狀は一般に尖頂の圓形である。

蒙古人は由來天地山川谿谷原野あらゆる物を神と視て居る。何をみても有難いところから遂に鄂博なる標識が出來て仕舞つたやうである。つまり天然崇拜の對象であり急ぎの旅の外は途中わざ〳〵馬を下りて拜する位である。

▲旗鄂博の祭（五月十三日）

主祭者はその旗の王爺が自ら之に當り、旗内の住民は殆ど數を盡くして參集する。

やはり喇嘛の讀經あり終つて肉粥の寄進にあづかる。尙主祭はこの時競馬のことを宣して餘興に移る。

▲村落鄂博の祭（五月十五日）

祭神は村長が當り祭禮用の品物も祭禮の模樣も旗鄂祭と大差ないが只餘興として競馬の代りに角力が多く行はれる。

▲太平經

六、七月頃各部落は喇嘛を請じて太平經を讀む。この喇嘛を招いた家には親類朋友が畜類までつれて皆集まり家族と家畜の太平を願ふのであるがその時懷胎して居ると喇嘛は紅い布をその尾や角に結びつけ一切殺すことを許さない。これを太平紅と云ふ。

▲祭　火（十二月二十三日）

火神を祭り福祿を願ふのである。喇嘛は「福祿は來たか」と三度問ふ。主人は三度來たと答へ一切の祭品を火鉢の烈火に投じて神に酬ゆる。

▲掃　塵

十二月二十三日を過ぎると諸神が上天するのでその留守中年末の大掃除をして正月を迎へる。

▲打　鬼

惡鬼を殺して太平を祈る儀式であり觀音の化身に扮するもの四、その守護神に扮するもの八、倂せて十二の神が跳舞して出で又別に十地菩薩に扮せる喇嘛十人出て之に多數の喇嘛鼓と鈸とを擊ちその調子の緩急につれて跳舞する。この時牛と鹿の面を被つた僧が刀を持つて出で地を砍つて鬼を殺す風をする。

正　月　一日から三日までは讀經しない、十四、十五の兩日供養、二十四日より向ふ八日間供養し、その終りの日打鬼の儀式がある。
二　月　二十二日釋尊涅槃會
四　月　八日　灌佛會
六　月　十日、十五日供養
七　月　十五日　盂蘭盆供養
十　月　二十五日　敬祖宗喀巴供養
十二月　八日　臘八、二十四日打鬼

漢人雜居地方では餘程漢人の風俗が入つて來て正月の拜賀、端午節、仲秋節、重陽節の行事をして業を休むものも多くなつて來た。

ロシヤ人の年中行事

▲クリスマス

一月七日のクリスマスイ・ヴから一月十九日の洗禮祭までの二週間が所謂「ヨルカ祭」とでも云ふべきもので、露人の家庭ではクリスマスを控えて、飾り物、食い物、贈り物の準備で忙しい。外國のそれと一般で特別變つた事もないが「キヤピヤ」や「イクラ」を鱈腹食つて「ウオッカ」の醉にまかせ怪氣焰をあげ唄や踊は必ず何處にも附きものである。復活祭と共に「二大祝日」の一つであるだけに巷にさへ露人の醉つぱらひを多く見受ける。

▲氷上祭

露曆の一月六日、陽曆一月二十日前後に行はれる。キリストがヨハネに洗禮を受けた日所謂洗禮祭である。ハルピンでは早朝市内各寺院へ押し掛け打ち鳴す祈りの鐘と暗い蠟燭の光で心からなる敬虔な祈を捧げて後、金鬮の大幟や聖像を押し立てながら松花江上へ長蛇の列を作る。酷寒零下三十度の氷上に氷の大十字架が立てられ氷の切目から水の淀むのが見える。氷製の祭壇の前で儀式が行はれて後嚴かな讚美歌の齊唱裡にスンガリーの水で洗禮を受ける。

▲猫柳祭

四月の初猫柳を持つた善男善女が寺院に參詣する。イエスがエルサレムに入つた日を祝ふもので、墓地には猫柳が供へられる永い冬籠りから漸く解放された喜びを感ずるのである。

▲復活祭

猫柳祭の約一週間後に行はれる。希臘カトリツクの復活祭は毎年一定しない。普通露曆三月二十一日以後の滿月に次ぐ第一日曜となつてゐる。この日各寺院から「主は甦り給へ」の聖鐘響くと共に老いも若きも誰彼の差別なしに接吻勝手次第の習慣が存してゐる。最もこれは最近祝ひ廻りの客との間に限られ傍若無人な光景は餘り見受けられなくなつた。「復活祭」には日本の「お盆」「正月」のそれにも增して一年中の稼ぎや精魂を盡して御馳走をして悔いない。

▲青草の祭

復活祭の第一日目より數へて五十日目に行はれ、本當は「三位一體祭」と稱すべきものでこの日は何處の家でも家の床に靑草を撒く。

この外種々な祭りが澤山あるが豐富な御馳走と「ウオッカ」と土の香豐かな民謠がいつも重大な役割を演ずるのであつて、僅かな收入と切りつめた日常の生活にありながら其生活を存分樂しむ樣に見うけられる。

彼等の「酒宴」は慶びを頒つ氣持より自分等が苛酷な自然や人生の中に太ましく生きて行ける喜びを遠慮なく發散させる氣持の方がずつと多く大晦日元旦その他は單なる名目に過ぎないと思はれる程放恣である。

滿洲大觀



略史

【滿洲の名稱】「滿洲」と云ふ名稱は約三百年前、今の滿洲の地に興つた淸の太祖の尊稱「滿住」から轉訛したもので、太祖の子太宗が淸朝發祥の故地を記念するため命名したものと云はれる。

因みに「滿住」は、佛名の「文珠師利」にあたるため、西藏の達賴喇嘛の如きは、太宗に對し「曼珠師利皇帝」と云ふ册書を呈上したとも云はれる。

また滿洲國史教本には「滿洲」の名稱の由來を次の二說に歸してゐる。

(一)「滿洲」は印度語の「曼珠」(妙吉祥の意)と音が近い。元來愛親覺羅氏は佛教を信じてゐたから佛教語を採用した。

(二)「滿洲」は古肅愼の地であつて舊稱を「珠申」と云つた。これは肅愼の轉音であるが、後に「珠申」を「滿珠」と改稱し、滿珠は訛つて「滿洲」となつた。

【滿蒙民族】滿洲は已に三千年の昔から原住民に依つて肇國され、爾來幾度か原住民族間に興亡隆替が繰り返へされた。即ち(淸)に依つて代表された滿洲族と(元)に依つて代表された蒙古族とがその二大民族である。之等滿蒙民族は滿洲の大自然に育まれて、何れも傳統的に精悍勇猛なる民族性を持ち、有史以來常に支那本部と對立せる獨立の一特殊地帶をなしてゐた。古來滿洲を占據し建國した各民族を表示すれば

滿洲族(通古斯族)
　肅愼—挹婁—勿吉—靺鞨—女眞—淸朝の系統
　濊貊—扶餘—高勾麗—室韋の系統

蒙古族
　東胡—鮮卑—契丹—蒙古の系統

で、此蒙古系統はブリヤート種及び其の他の混血種に屬するが、滿洲族は日本民族と均しく通古斯種に屬し、漢人種とは全然相異れる民族である。從つて滿洲の地たるや遠く肅愼の時代より滿洲の土着民族によつて高勾麗、渤海、遼、金等の獨立國が建設され、元、明二代の雌伏時代を經て淸朝の勃興に至るまで支那本部との關係は終始對等であつて、未だ嘗て一度と雖も漢民族に占據され、或は統治された事實はない。況や契丹、女眞の如きは遼、金の國號を稱して支那本部の北半を占有し、滿洲、蒙古に亙る大國家を建設した。更に淸朝に至つては支那本部全土を征服して古今未曾有の大帝國を形成し中國の俗を易へて胡服辮髮せしめた。かく滿蒙民族は征服者として漢民族を懾伏せしめ、支配し來つて居る。即ちこの地に滿洲帝國が建國せられ、三千餘萬民衆の總意により溥儀氏の出廬を見たることは、歷史的及び實際的に觀て其の妥當且つ公正なることが闡明されるのである。

【肅愼】今より三千年前、宛も支那本土の周秦時代に肇國した。肅愼と呼び濊貊と稱するは地名と云はんより寧ろ民族の名と云ふ可きで、現在の吉林、濱江、龍江諸地方の廣大な地域を占め、東に肅愼、西に濊貊が割據し約十世紀間君臨してゐた。即ちこの二者は滿洲の先祖で、其後裔民族たる挹婁は北滿洲の東北に據り、扶餘は今日の滿洲に於ける大部分を占有し、其文化は見る可きものがあつた。

【高勾麗】今を昔に遡る約二千年前滿洲に建設された强大な獨立國で、最盛時には

其版圖朝鮮の北半と滿洲の大部分に及び、二十八主、七百五年の久しきに亘り覇を唱へた。

【渤海國】西紀七一三年より九二六年まで二百五十年間、現在の奉天、吉林、濱江、間島、三江、東安、牡丹江、通化等の諸省に亙る地域を中心として沿海州及朝鮮北部に亙つた大王國で、唐の文化を吸收し隆盛を極めた。日本と修交を重ね使節を派遣する等最初の日滿國交を開いたものである。

【遼】（契丹）渤海に代りやはり東北に國を建てた。遼は唐代の契丹で東胡の後裔、即ち通古斯族である。唐末に當り軍を起し、北は室韋を降して黑龍江流域を併呑し、西は天山の東より靑海地方まで征服し、南は支那本部に侵入し、契丹國と稱した後渤海を滅ぼした。太宗に至り支那東部深く侵入し、其領域は東は日本海から西は天山附近に及び、南は河北、山西、北は蒙古の中部に達し、朝貢するもの六十餘國に及び、九帝、二百九年に亙り全國を壓伏し聲威を振つたが一一二三年北滿に勃興した金のために滅ぼされた。

【金】遼に次で滿洲に覇を稱へたのは女眞民族で黑龍江附近に興り、遼に叛いて兵を擧げ、僅か十年餘にして遼の天下を覆して金國を建てたが、其後益々振ひ、宋を江南に壓迫して其領土は黃河南北に亙り、滿洲蒙古を併せて空前の大版圖を形成した。元の太宗六年蒙古のために滅ぼさるゝまで十主・百二十年の社稷を維持するに過ぎなかつたが、滿洲民族として中原占據の先驅者であつた。

【元】朔北に崛起し歐亞兩大陸に跨る大帝國を建設した蒙古民族は漢人の所謂東胡鮮卑・契丹と稱した異民族である。成吉思汗を盟主となす鐵騎十萬は金を滅し南宋を征服し・中央亞細亞を經略し、又波斯を破つて露西亞地方に侵入し、歐洲諸國をも震駭せしめ滅國四十に及んだが、この大帝國も十一代百八年にして明に亡ぼされた。

【明】明は一三六七年約百年間歐亞を威伏した元朝を覆滅して支那本土を支配したが、支那本部より蒙古に退いた元の遺臣は滿蒙に據り、依然獨立狀態を續け、明の威令は僅かに遼河下流の小部分に限定されてゐたに過ぎず、却つて其邊境は蒙古民族のために屢々脅かされ、滿洲は事實上支那本土より獨立の形態をとつてゐた。

【淸】金の滅亡後中心人物を缺いたゝめ久しく滿蒙各地に分立割據した女眞民族は淸の太祖努兒哈赤の出現により勃然として興隆した。即ち興京附近より起り次第に舊勢力を併せ、一六一六年遂に滿蒙の地を統一して、新國家を建設し金國汗と稱した。後都を奉天に遷し、國號を大淸と改め舊稱金國の代りに滿洲なる名稱を用ゐた。これ我が國土を滿洲と稱した嚆矢である。而して滿洲の語は佛教の曼珠師利より出たものであると謂はれてゐる。

後淸の第三代世祖北京に遷都し中國に君臨するに及んで滿洲を封禁の地として永く漢人の移住を禁じてゐた。蓋し淸朝は滿洲を以て祖宗發祥の故地として尊崇し、且中原の統治に失敗した場合の根據地として保存するため、漢人種の滿洲移住を嚴禁し、柳條邊牆を作つた。然し滿洲人は八旗兵として支那各地に駐屯し、北京遷都と共に旗人は多く漢土に移住し、而も邊牆を築いて漢蒙人の移住を禁じたゝめ、滿洲は漸く荒廢を示すに至つたので順治年間には開拓令を出し、漢人の移住を奬勵し、山東、河北の移民を初め山西の商賈等移住者日を逐ふて激增し、數年にして十數倍するに至つた。露西亞は當時その傳統政策たる南下により海洋を得んとする野望を逞ふし、璦琿條約、北京條約等により滿洲に特殊の權益を把握したが、その帝國主義は東洋の平和を擾し、日本の存立を危くする事が明白となつたので、日本は敢然露西亞に對して宣戰を布告し多大の犧牲を拂つて滿洲をその

毒手から救ひ、爾後滿洲の開發に努力した。

【民國時代】淸朝は治世三百年にして一九一二年中華民國と代つた。滿洲に於ては一九一六年緑林出身の張作霖が奉天督軍に任ぜられ同時に奉天省長となり、更に東三省宣撫使に任ぜられ、爾來張軍閥は滿洲の事實上の主權者として勢威を振ふに至つたのである。

張作霖は一九二二年及一九二四年の二次に亙る奉直戰爭を敢行し、一度は關內に進入し、直隷軍を大破して中央政府を覆したが、二次奉直戰には郭松齡の叛亂に遇ひ爲めに一時危機に瀕した。然し新民屯附近の戰に於て辛うじて叛軍を擊破し再び東北に威を振ひ、後三度兵を關內に進め、北京に入つて大元帥と稱したが國民軍の北伐に敗れ、一九二八年六月北京を棄てゝ、奉天に歸還の途次爆死した。

作霖の死後學良は父の遺業を繼いで滿洲の支配者となつたが、傳統的保境安民の政策を棄てゝ、國民黨及南京政權と結んで易幟を斷行し、自ら大兵を率ゐて北京に進出し、陸海空軍副司令となつた。作霖以來數回の關內進出は滿洲の政治經濟を破壞して軍費の濫出は國民に過重な負擔となり、軍費捻出のために行はれた苛歛誅求により張政權は人民の怨府となつた。加之、極端な排日運動を激成尖鋭化せしめた爲、遂に九、一八事件を惹起し一朝にして土崩瓦解するに至つたものである。

【滿洲國】一九三一年九月十八日滿洲事變の勃發によつて張軍閥と是を繞る民衆搾取の政商は滿洲から掃蕩された。多年張父子軍閥の壓制下に呻吟してゐた東北省民はこの機會に舊政權と絕緣して民衆を基礎とする新政府を組織し、王道政治を行ひ滿洲をして理想的樂土たらしめんとする希望が勃然として起つたのである。

即ち事變勃發の翌年早くも大同元年三月一日建國宣言を公布し、玆に王道國家滿洲國は民族協和共存共榮を理想として東亞の一角に成立したのである。

同年三月九日溥儀氏（宣統廢帝）を執政に推戴し國務總理鄭孝胥初め七總長二院長三省長其他政府首腦部を任命し、天の加護と人民の精進と日本の肉親的協力により建國後二箇年にして早くも國礎は益々强固に、國運懲々伸張し、治安の維持は遠きに及び、治政各般に揚り民生安息して各々その業を樂しむに至つた。これ偏へに執政の乾德によるものであるとして、三千萬民衆は天意により執政の帝位に即かれんことを請願するもの續出するに至り、英明文武の執政は天命と人民の至情により康德元年三月一日國都新京に於て滿洲帝國第一代皇帝として即位の式を擧げさせられた。

爾來國威益々揚り、諸外國の之を承認するもの相繼ぎ・支那事變後中華民國の新生と相俟つて世界防共軸の樞要國として道義國家完成に向つて邁進しつゝある。

境域

【位置】滿洲國の位置を緯度に沿つて東に平行移動すれば、樺太の北方から山形、岩手の間に位し、西は南歐イタリーの南からフランス、ドイツ、ハンガリー、オランダの方面に及び、周圍實に八、四三八粁に及んでゐる。

東界	東經	三江省撫遠縣對蘇聯シベリヤ	一三五・二〇
西界	東經	興安北省新巴爾虎左翼旗對外蒙	一一五・二〇
南界	北緯	關東州旅順管內方家屯會	三八・四〇
北界	北緯	黑河省漠河縣對蘇聯シベリヤ	五三・五〇

◇各地の經緯度

地名	東經 度分	北緯 度分	標高 米
新京	一二五・二一	四三・五三	二二四
奉天	一二三・二七	四一・四八	四八

哈爾濱	一二六・三八	四五・四六	一三八
大連	一二一・三八	三八・五六	一四〇
海拉爾	一一九・四四	四九・一三	六三〇
黒河	一二七・二九	五〇・一五	一三〇
富錦	一三一・五九	四七・一四	六五

【地勢】 形狀略ぼ東西南北を四つの頂點とする四邊形をなし、その四邊は夫々山脈又は海灣、河を以て圍まれ、內部に廣大無限の大平原が展けてゐる。

山脈は東北より西南部に走るものが主となり、北西から南東に横はるものが副となつてゐる。前者に大興安嶺山脈と長白山脈があり、後者には小興安嶺山脈と松嶺、燕山の山脈がある。山は西部國境に於てなだらかであり東部國境に於て急峻である。川は略ぼ新京東西の線を以つて分水嶺とし北行する大河に松花江、南行する大河に遼河あり、流域は舟便と併せて一大豊沃の大平野である。

一、概說
- 東部—東部山地→朝鮮へ續く。
- 西部—大興安嶺→蒙古高原へ續く。
- 南部—渤海・黄海
- 北部—シベリアに續く。
- 中部—中央低地。
- 朝鮮、北支、シベリアと密接なる連絡あり。

二、東部山地
- 中部—幅廣く高峻—隆起のためと云ふ。白頭山、豆滿江、鴨綠江。西側に中山性山脈、諸河は扇狀地を開く。
- 南部—遼東半島。溺谷、殘丘、沈降による島嶼。

三、西部山地
- 大興安嶺—南高く北低し、東側の傾斜急、西側は蒙古高原に續く。
- 呼倫貝爾高原—呼倫・貝爾二湖。高原、多くは不毛地、處々に草地。
- 熱河山地—山岳重疊、大興安嶺に平行するもの、直交するもの、南西部高し。

四、北部山地 伊勒呼里・小興安嶺。東半—山脈狀。西半—低して平原狀。黒龍・松花二江の分水界。火山群。

五、中央低地
- 南滿平野—主として遼河流域。最文化地帶。
- 黒遼分水嶺—隆起により遼河は截頭。
- 北滿平野—松花江流域。將來の發展地。
- 敎條の竝行山脈—一般に長白山脈と云ふ。
- 北部—老年期の諸盆地、河谷平野あり。

【地質】 (一)海成層の最も新しいものは上部が石炭紀時代のもの。(二)それ以後のものは海成層を缺きこれに代る可きものに石灰及植物化石等を出す陸成層(主として湖その他淡水の沈積層からなつてゐる)

【山脈、山岳】
◇長白山系 ▽長白山脈—白頭山(二千七百四十四米)、費德里山、伊爾哈雅範山脈、黒山、英額嶺 ▽小長白山脈—牡丹嶺、張廣方嶺、老嶺 ▽安達山脈—猴兒、石山、肯臺上、龍爪溝嶺、完達山、雙牙山、佛力山 ▽老松嶺山脈、哈爾巴嶺、長嶺子山、老爺嶺、黒嶺、大高麗嶺 ▽長白山西支脈(吉林哈達連山)—薩哈亮山脈—庫勒嶺、馬畑河嶺 ▽南部分水嶺山脈—門山嶺、大嶺山脈—雙河西部嶺、摩天嶺、千山山脈
◇興安嶺山系 ▽大興安嶺山脈—西支脈—英吉里山、室常山、鴆鴿場山、托羅山、們都黒山 ▽伊勒呼里山脈—呼瑪爾高集額爾古勒山、烏雲和爾吉山、嘴瑚山、[illegible]慎山脈 ▽小興安嶺山脈—瑪哈拉山、佛思寬山脈、珠山山脈、瑪拉山、布倫山脈、薩哈連山、白闌山、縷茲山、老龍山脈、爾克克爾圖山、黒山山脈、達里帶山脈
◇陰山山系 ▽喀喇—明安山

【河川】
◇黒龍江 全長千百餘邦里 ▽源流—敖嫩河、因方達河、汁爾喀河及克魯連河、額爾古訥河 ▽支流—ゼヤ河、ブレヤ河、松花江、ウスリー江、アルグン河
◇松花江 ▽源流—伊勒呼里山嫩江、長白山脈松花江本流 ▽支流—拉發河、腸延河、輝發河、伊通河、拉林河、呼闌河、阿什河、匪克圖河、螞蜒河、牡丹江、窩

背河
◇嫩江 ▽水源—興安嶺伊勒呼里—阿林 支流—雅爾河、綽爾河
◇洮兒河 ▽水源—興安嶺東麓 ▽支流—歸流河、交流河
◇烏蘇里江 ▽全長—三百二十八餘邦里 ▽水源—露領沿海州錫霖山脈、勺畢河、サンダクーウラヘ河 ▽支流—松阿察河、穆稜河、撓力河
◇大芬河 ▽水源—穆克特亭山地麓圖們山 ▽支流—湖佈圖河、佛爺溝河
◇圖們江 全長—五十邦里 ▽水源—長白山南麓 ▽支流—嘎呀河、琿春河、密占河
◇鴨綠江 全長—百四十邦里 ▽水源—白頭山西麓、虛川江、長津江、渾河、靉河 ▽支流—渾江、大嵛江
◇遼河 全長—三千八百支里 ▽灌流地域—三十五萬支里 ▽水源—西喇木倫河、老哈河、東遼河 ▽支流—西喇木倫河、老哈河、東遼河、范河、招蘇黄河、涼子河、清河、柴河、渾河、蘇子河、太子河
◇灤河 ▽水源—巴額屯圖古爾山 ▽支流—伊遜河、熱河、豹河
◇大凌河 ▽水源—建平縣
◇小淩河 ▽水源—朝鎮明安山—女兒河、哈柳圖河

◇滿洲國主要水系流域表

水系	流域面積(平方粁)	全版圖に對する割合(%)
黒龍江	三三三、七〇〇・〇	二五・五 ウスリー江四五・四〇〇を含む
松花江	五二三、三〇〇・〇	四〇・一
遼河	二二四、七〇〇・〇	一七・二
鴨綠江	三〇、八〇〇・〇	二・四
豆滿江	二二、三五〇・〇	一・七
大小遼河	二八、三〇〇・〇	二・二
灤河	三四、九〇〇・〇	二・七
その他	一〇六、三九〇・〇	八・二
全版圖	一、三〇三、一四〇・〇	

【湖沼】
▽興凱湖(新開湖) 東安省沿海州境界地・周圍〇〇邦里十三町弱
▽達巴庫湖(小興凱湖) 興凱湖北部・周圍〇〇邦里
▽必爾騰湖(鏡泊湖) 牡丹江省寧安縣城西南〇〇邦里・周圍 〇邦里餘
▽呼倫池 海拉爾西方〇〇邦里餘
▽貝爾湖 呼倫池南方・南北〇〇支里、東西〇〇支里
▽月亮泡 扎賚特旗・周圍 〇邦里半
▽大布蘇諾爾 チヨンホルノール・エーノジール西烏珠穆沁旗・東西〇〇支里餘、南北〇支里
▽察漠湖 チチハル東南〇〇里・南北十町餘、東西七、八町

【湖沼の特徵】 滿洲の湖沼は比較的少い。これは地盤構成の岩石が古く、從つて地質構造の變動を經ること多かつたため、長く湖沼の形を保ち難かつたものと思はる。そして現存湖沼は自ら特殊性を持ち、例へば平原地方、殊に東部內蒙古では雨季のみに現出する形狀不定の淺い一時的湖が少くない。かゝる湖沼はやがて乾季に至れば、その水蒸發してあとは時ならぬ白雪で覆はれる。これ一特產たる天然ソーダである。また永久性湖として知られるものにウラジオストツク地方の興凱湖、吉林東方の鏡泊湖あり、共に低地にあつて水は黄褐色を呈し極めて淺い湖である。西部地方の湖沼は乾涸すれば湖底にソーダ或は岩鹽を產する。

氣象

【槪要】 所謂大陸的氣象を示し、夏と冬が長く、秋と春が短い。然し其の面積並に地域的に見れば日本の約二倍に達し、南方遼東半島及渤海沿岸地方より中部の大平原、大興安嶺、東部熱河の山岳地帶、又呼倫貝爾の沙漠地方に及ぶ實に曠大たるものがあつて、沿海地方の如きはむしろ海洋性氣候であるし又間島省、牡丹江省の一部東

部國境の地域も可成の程度に日本海の影響を受けるであらうから、これらの地方は純粋な大陸的氣候とは云ひ難い。

之に反し滿洲西部の呼倫貝爾及び內蒙古の如きは極めて大陸性でありしかも內陸的氣候を示し夏冬晝夜氣溫の差が甚しい。日本本土の如き所謂四季の區別は當嵌らなく、即ち冬期間は一年の半に達し冬期から夏期への推移は極めて急速である。

滿洲に於ける六、七、八の三箇月間は多雨濕潤の天氣が續發し勝ちであるが殘餘の月は降水寡く殊に酷寒期には晴燥の天氣が持續する。四、五月の大陸高低氣壓の交替期に入ると風速が増大し此の頃黄沙風塵の現象が著しく發生する。沙塵は風に乘つて空中に捲き上げられ或は遠隔の地に運ばれ全國到る處所謂黄塵萬丈ために天日も暗き狀態を呈する。而してこれらの沙塵が遠く日本全土に及ぶことも珍しくない。

【氣溫】氣候が大陸的であることは氣溫に於て最も顯著に認められる。南部遼東半島を除く外は年變化に於て冬夏寒暖の差極めて甚しく日變化に於ても亦晝夜の差が大きいがこの狀況は次表の通り日本各地との比較によつて明かである。

最寒月

	起月	平均氣溫	平均最高	平均最低	最低極
新京	一月	(-)一六・九	(-)一〇・七	(-)二三・七	(-)三六・〇
海拉爾	一月	(-)二六・七	(-)二一・六	(-)三四・二	(-)四六・〇
根室	二月	(-)五・五	(-)二・二	(-)九・六	(-)二三・九
神戸	一月	四・四	八・六	〇・九	(-)五・九
臺北	二月	一四・八	一九・〇	一二・三	(-)〇・二

最暖月

	起月	平均氣溫	平均最高	平均最低	最高極
新京	七月	二三・五	二八・九	一八・五	三九・五
海拉爾	七月	二〇・六	二六・七	一四・八	三六・一
根室	八月	一七・二	二〇・九	一四・一	三二・一
神戸	八月	二七・〇	三一・八	二三・五	三七・六
臺北	七月	二八・二	三三・二	二四・三	三八・六

右表に依れば冬期我國の平均最高氣溫は極めて低い。之は人間生活にとつて耐へ難いものではあるが、此の寒氣と雖も常に低溫を持續するわけでなく晝間には幾分緩和され殊に三寒四溫の現象が顯著に現はれて周期的に比較的溫暖なる日が訪れる。又この候は全國西比利亞高氣壓の圈內となる爲天氣は極めて良好一箇月の三分の二以上も快晴が持續し而も風は弱い。冬期北海道樺太沿岸の如く連日暴風雪に襲はるゝに較ぶれば酷寒と雖も我國の氣候は數等惠まれたるものと謂へよう。氣溫の變化が大である事は一日中の變化にも現れ、一日の最高、最低の氣溫の差が二〇度に達する事も多く、其の爲夏期には日中可成りの高溫となり、最高氣溫が臺灣各地の最高より高くなる事も珍しくない。之は夏期に於ける滿洲各地の暑熱を思はせる如くであるが實際に於ては空氣が著しく乾燥して居る爲身體に感ずる度合は爽快で、內地の如き蒸暑さは感ぜられない。而も氣溫の變化が大である爲夜に入れば急に溫度が下り冷凉の感を與へるのである。日中の高溫が晝間のみに限られる事は最暖月の每日最低氣溫の平均が神戸、臺北等の二四度內外なのに比して新京では一八・五度、海拉爾では一四・八度なる事に依つても知られる。

【降水量】滿洲の降水量は一年を通じ極めて僅少で三百粍乃至七百粍程度に止まり日本本土に於ける千五百粍乃至二千粍に比較すればその二割乃至三割餘に過ぎない。

而してその大半は滿洲の雨期と稱する六、七、八の三箇月間に降雨あるのに反し冬期に於ては極めて寡く特に內蒙古方面の如き五粍に充たない。從つて冬期に於ける積雪の深さも山岳地の一部を除けば數糎乃至二十糎程度を示すに過ぎない。

【霜雪の季節】次に滿洲に於ける霜及雪の初終時期を見ると初霜は遼東半島では十月の末で略々奧羽地方に相當するが內陸に入るに從つて早くなり興安嶺の北部地帶では九月の初旬既に初霜を見る。而して九月下旬には北滿一帶結霜期に入り樺太と略々同じである。終霜は遼東半島では比較的早く三月より四月初旬に終る。又中部平原地帶では四月から五月初旬に終り奧羽地方と大差ない。呼倫貝爾地方では南部より一箇月以上遲れる。

次に初雪は北滿の山岳地帶では十月上旬に降り樺太より半月以上早い。又南滿の沿海地方では十一月に入つてから漸く初雪を見、北海道の太平洋沿岸地方に相當してゐる。終雪は南滿では早く三月末に終るが北部では五月の下旬にも猶雪を見る所がある。

◇平均氣溫（平年）—（攝氏）（○は零度以下を示す）

都市＼月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
新京	○一六・九	○一三・六	○四・二	六・五	一四・五	二〇・一	二三・五	二一・九	一五・〇	六・七	○四・二	○一三・七	四・七
哈爾濱	○二〇・九	○一五・九	○六・二	五・七	一四・二	一九・五	二四・〇	二二・二	一四・三	五・八	○七・〇	○一七・三	三・二
克山	○二五・九	○一九・五	○九・〇	四・〇	一一・三	一八・四	二一・六	二〇・〇	一二・五	二・九	○一〇・一	○二一・八	〇・四
齊々哈爾	○二〇・七	○一六・二	○六・二	四・五	一二・七	一九・二	二二・七	二〇・六	一三・〇	五・八	○八・四	○一七・五	二・六
扎蘭屯	○一八・九	○一四・六	○六・七	四・二	一二・六	一八・二	二一・七	一九・四	一二・一	三・七	○八・五	○一六・八	二・二
黑河	○二三・六	○一六・八	○八・六	三・〇	一一・〇	一八・六	二三・〇	一九・八	一二・七	二・四	○一二・九	○二〇・五	〇・五
富錦	○二一・三	○一五・八	○七・〇	四・五	一二・一	一八・五	二三・六	二一・六	一四・三	四・五	○七・一	○一八・三	二・四
東安	○一九・六	○一四・七	○五・七	四・八	一一・六	一七・一	二三・八	二一・九	一三・八	五・二	○五・七	○一六・五	二・九
牡丹江	○二〇・四	○一五・二	○五・四	五・九	一二・八	一八・一	二四・四	二一・七	一四・二	六・〇	○四・八	○一六・一	三・六
綏芬河	○一八・四	○一四・一	○五・七	四・〇	一〇・五	一五・五	二一・一	二〇・二	一三・〇	五・三	○五・三	○一四・七	二・六
延吉	○一五・九	○一〇・六	○一・五	七・一	一三・五	一七・五	二三・八	二二・七	一五・七	七・六	○二・三	○一一・八	五・六
開原	○一五・〇	○一一・四	○二・〇	八・一	一五・七	二一・一	二四・二	二二・七	一六・八	八・八	○一・一	○一一・一	六・五
奉天	○一三・〇	○九・二	○〇・九	八・七	一六・〇	二一・六	二四・九	二三・七	一七・〇	九・三	○一・〇	○九・八	七・三
營口	○九・八	○七・〇	〇・二	九・〇	一六・〇	二一・三	二四・九	二四・四	一八・四	一二・〇	一・二	○六・九	八・六
錦州	○一〇・九	○六・〇	〇・二	九・五	一五・五	二二・二	二四・八	二三・九	一八・四	一二・八	一・三	○七・七	八・五
承德	○一〇・〇	○四・〇	二・三	一二・七	一七・八	二二・二	二五・三	二四・三	一七・五	一一・二	〇・七	○七・七	九・四
赤峰	○一三・七	○九・六	○二・五	八・六	一五・一	二〇・九	二四・〇	二二・三	一五・三	八・七	○二・〇	○一〇・一	六・四
錢家店	○一五・九	○一〇・九	○三・一	七・七	一四・四	二〇・五	二四・四	二二・八	一四・六	七・七	○三・七	○一三・一	五・五
洮南	○一七・二	○一三・六	○四・一	五・八	一三・九	一九・九	二三・五	二一・五	一四・五	六・四	○五・四	○一三・六	四・四
索倫	○一八・七	○一三・一	○六・〇	五・五	一三・〇	一八・一	二一・四	一九・七	一一・六	四・〇	○七・一	○一六・四	二・六
興安	○二七・一	○二一・八	○一三・九	○〇・五	七・〇	一四・二	一七・二	一五・二	七・九	○〇・七	○一三・七	○二三・五	○三・二
海拉爾	○二八・七	○二三・四	○一三・七	一・四	九・五	一七・二	二〇・六	一八・三	一〇・六	一・一	○一四・四	○二五・二	○二・二
滿洲里	○二六・九	○二一・五	○一三・四	一・四	一〇・〇	一八・〇	二〇・九	一八・二	一〇・四	〇・八	○一三・八	○二一・六	○一・二
大連	○五・一	○三・五	一・九	九・四	一五・四	二〇・二	二三・六	二四・五	一九・九	一三・七	五・二	○一・九	一〇・三

◇降水量（平年）—（粍）

都市＼月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
新京	六・二	六・〇	一五・六	二一・九	五四・六	一三一・五	一七七・七	一三〇・七	五七・三	三八・七	一七・三	六・七	六六〇・九
哈爾濱	四・一	五・三	一〇・一	二一・四	四五・五	九九・四	一六一・四	一二五・八	五七・六	三三・五	一三・四	五・〇	五七一・五
克山	三・七	四・三	四・一	二六・六	四〇・一	八四・九	二〇八・〇	七四・九	六三・三	一四・一	四・七	二・五	五三一・二
齊々哈爾	一・七	二・〇	四・四	一七・五	三六・六	八五・二	一五三・八	一一〇・六	五六・三	三・六	七・四	二・一	四九九・二
扎蘭屯	三・四	二・八	四・七	一六・八	三五・六	八〇・四	一四二・三	一二二・五	六九・九	一八・〇	八・一	二・三	四九〇・二
黒河	三・二	五・七	七・〇	一三・六	五七・〇	八一・八	一五八・七	九一・二	六〇・二	三三・六	二〇・三	五・五	五三七・八
富錦	三・五	一一・〇	九・一	三五・八	五三・〇	七五・八	一四一・〇	七一・〇	九四・一	三〇・六	一四・五	五・八	五四五・二
東安	三・三	二・九	一三・〇	二八・四	三七・三	七九・六	一〇九・八	一六六・五	一二八・五	五三・一	一七・七	五・七	六四四・七
牡丹江	二・五	三・九	八・一	三〇・三	四〇・三	一〇〇・九	五六・九	八八・七	一〇五・二	三六・二	一八・七	四・七	四九六・四
綏芬河	四・〇	五・九	一三・三	二八・五	六三・四	一三九・九	一〇九・二	一五〇・〇	一四八・二	三五・五	一六・三	八・一	七三三・〇
延吉	三・六	二・〇	一六・〇	一八・四	三七・九	八八・六	六七・五	一四六・一	九二・一	一七・五	九・八	七・七	五〇七・一
開原	六・八	八・〇	一四・四	二六・六	五五・五	九九・二	一八八・〇	一四八・〇	七六・四	四七・五	一六・九	八・八	六九六・一
奉天	四・八	六・〇	一九・八	二九・〇	六二・六	九五・三	一六二・一	一六一・四	八一・一	四一・三	一三・四	八・四	六九二・三
營口	六・四	五・七	一七・九	二六・六	五三・一	六四・一	一七一・八	一七三・六	七五・八	四八・一	一一・七	七・四	六七二・三
錦州	〇・四	一・八	四・八	二三・四	五九・九	九五・〇	一九〇・五	二七九・三	七六・三	二九・六	六・四	三・八	七七一・一
承德	〇・七	一・七	一二・〇	一三・三	七〇・四	八三・六	二〇〇・一	一一一・六	五九・四	三九・四	七・五	二・〇	五九九・八
赤峰	〇・五	一・五	八・八	一〇・一	二八・九	五八・六	一六二・九	七九・二	四一・六	一九・五	四・五	二・一	四一八・〇
錢家店	一・二	一・二	八・一	二四・四	二四・三	六四・五	九五・五	一二三・三	五〇・三	二三・五	四・五	〇・五	四二一・三
洮南	一・六	二・二	三・五	一三・一	三二・六	七七・五	一三九・六	一三二・五	四六・九	一四・四	三・九	一・六	四五七・二
索倫	二・八	二・三	二・二	一六・七	二四・一	一一一・一	一三九・六	一二三・一	五五・九	一六・二	二・七	六・六	四九三・三
興安	五・三	六・一	八・八	三〇・五	四三・二	九二・三	一六四・九	一三八・七	七六・六	二七・四	二〇・四	六・六	六〇九・六
海拉爾	三・二	四・六	二・〇	一九・二	三二・五	四二・〇	八六・五	八〇・九	三三・六	一三・六	七・三	三・〇	三一八・七
滿洲里	三・〇	二・四	四・二	八・五	一九・五	五五・五	六四・一	七一・三	四九・〇	一〇・三	四・四	三・五	二九五・七
大連	一〇・五	七・七	一六・一	二四・〇	四六・〇	四七・九	一六三・三	一三一・四	九一・二	三〇・五	二三・七	一三・七	五九四・二

◇霜雪期節（平年）

地名	初霜	終霜	初雪	終雪
新京	九、二六	五、三	一〇、一六	四、二一
哈爾濱	九、一六	四、二七	一〇、一八	四、二一
克山	九、二五	五、六	一〇、一五	五、三
齊々哈爾	九、一八	五、五	一〇、一九	四、二三
扎蘭屯	九、二六	五、一三	一〇、一六	四、二三
黒河	九、二三	五、一六	一〇、八	五、七
富錦	一〇、一	四、二〇	一〇、一七	四、二七
東安	一〇、三	五、一三	一〇、一六	四、二三
牡丹江	一〇、三	五、九	一〇、一六	四、二五
綏芬河	九、二九	五、一三	一〇、四	五、一〇
延吉	一〇、六	五、九	一〇、二五	四、二〇
開原	九、三〇	五、一	一〇、一三	四、一四
奉天	一〇、一三	五、二	一〇、二七	四、八
營口	一〇、二一	四、一四	一一、二	三、二三
錦州	一〇、一六	四、一七	一一、一六	三、一三
承德	一〇、八	四、七	一一、一七	三、一八
赤峰	九、二〇	四、一四	一一、一五	四、二
錢家店	一〇、三	四、二四	一一、三	四、二三
洮南	一〇、四	四、一九	一〇、二〇	四、一四
索倫	九、一七	五、一六	一〇、一〇	五、五
興安	八、二〇	六、一	九、二三	五、二三
海拉爾	九、一八	五、二三	一〇、九	五、一〇
滿洲里	九、一一	五、一四	一〇、一	五、九
大連	一一、四	三、三一	一一、七	三、二七

生物

【動物】滿洲に棲息する動物は日本、支那、朝鮮等と同一圏內種類に屬し、殆ど各種分科に亙つて居るものと見られてゐるが、まだ完全な分類は成就されて居ない。現在發見されて居る主要なものを脊椎動物に就て文獻中から抄錄すれば、

○食肉獸—熊、豹、貂、鼬、膃肭臍、海豹、川獺、狼、狐、狸、山猫、虎等、嚙齒類—羊鼴鼠、栗鼠、タラバカン、鼠、兎等、有蹄類—猪、馴鹿、鹿、食蟲類—、土龍等、蝙蝠類—蝙蝠、ウサギカハホリ

○主なる鳥類—阿比類—阿比、燕、烏、鷲、鴨、雁等、鷹類—鷲、鳶、ハチクリ、鷹、三斑鶉類—テウセンミフウヅラ等、鶏類—雉、雷鳥、鶴、千鳥、鴫等、鴎類—鴎、海鳥類—海鳥、沙鶏類—沙鶏、鳩類—鳩、杜鵑等—クワクコウ、杜鵑、佛法僧類—佛法僧、翡翠類—翡翠、戴勝類—戴勝、梟類—梟、木 、蚊母類—蚊母、雨燕類—雨燕、啄木鳥類—ヤマゲラ、鳴禽類—雲雀、鶺鴒、サンコウテウ、ヒタキ、鵯、駒鳥、鶯、鵜、鶫、サンセウクヒ、百舌、ゴヂフガラ、日雀、柄長、鵲、椋鳥、[illegible]、獺、鴉雀、蒿雀、ハウアカ

○魚類中沿海魚類は日本支那と大差なく、鯛、比目魚、鯨魚、鰤、偏口魚、鰣、烏賊鱸等である。淡水魚族は特有のものもあるがこれも大體日本支那產のものと等しく鯉、鮒、鰌、鯰、鱸、沙魚、鮫、鱒、鮭、鰻、白魚、鯇等、銀魚、會生魚、面條魚、瓶魚、花魚、回王魚、河蟹等である。

爬蟲類では遼河及び松花江とその附近の湖沼に多數の鼈を產し我國へ輸出してゐる又毒蛇の一種にシベリヤ蝮蛇といふのがゐて旅順港外の島に無數に棲息してゐる所がある。兩棲類には殿樣蛙、エゾアカ蛙が各地に產し何れも食用に供してゐる。昆蟲類にはコガネ蟲類、蟬類、蝶類等甚だ多い。

【植物】滿洲は支那、日本を聯ねる一大植物帶の中に包含され、その植物類は日本のそれと大差なく已に二千四、五百種類を擧げられて居る。而して北滿地方にはユキザサ、羊齒類、灌木類等が多く、矮小な樹木に富んでゐる。又南滿の植物中には、實に蒙古、朝鮮の植物をも添加して多種類に上つて居る。

鬱蒼たる滿洲の鴨綠江、松花江、圖們江、牡丹江流域地方や、大、小興安嶺地方、長白山脈一帶に亙つて、蜿蜒と續いてゐる針濶兩葉の大森林は、美しい草原と相錯淆して天然の美觀を表はして居り、殊に豐沃なる松花江一帶の平原に於ける草原の植物の豐富な點は馬來半島に於ける壯麗な植物帶と竝び稱される程である。

滿洲に於いて分布繁茂する樹木は六百餘種を數へられ、菊科、毛莨科、百合科、禾本科、十字花科等はそれ〴〵十數以上三十數種の分類が遂げられてゐる。滿洲の植物は此の地方の特異的のものも少くないが支那、朝鮮、日本等と類似する以外に、アルプス山地方の灌木類に等しい、又英國の諸島に自生する植物類と同種類のものが多い。

主要なる樹木類—公孫樹、一位松、胡桃、楊柳、樺木、槲斗、楡、桑、木蘗、小蘖、防已、樟、虎耳草、[illegible]香、苦木、棟木、大戟、黄楊、漆樹、衛矛、[illegible]樹、無患子、省沽油、鼠李、葡萄、田麻、猴桃、櫻柳、胡頽子、八百楓、五加、山茱萸、石南、灰木、齊墩果、木犀等

大森林中には—松、 、檜、樅、椙楓、楡白、楊樹、白樺、胡桃、白丁香、鹿梨等良材を多量に產出してゐる。

植物中には卉穀、雜蔬菜花物、穀類を豐

富に産するのであるが野生の花卉類には次の如きものがある―松葉牡丹、矢車草、鳳仙花、朝顏、花菱、美女櫻、千鳥草、美女撫子、鳳船草、紫風英、君影草、勿忘草、燕子花、水仙、芍藥、女郎花、野薔薇、茜草、蒲公英、萱草、白薔薇、ネジアヤメ、鈴蘭等

住民

人種

總人口は大約三千九百餘萬、その密度は一平方粁日本の百四十六人に對し、三十人内外に當つてゐる。住民の狀況は大要左の如くである。

【滿洲人】 滿洲本來の民族である滿洲人は古來女眞族と稱ばれ滿洲東部地方を中心として歷史上顯著な活動をして來たものであつたが、淸朝成立に伴ひ次第に各地に分散し、現在では純粹の滿洲族と云へる者の數は非常に尠く、吉林省、龍江省、三江省あたりに僅かに殘存してゐるに過ぎず、數に於ては滿洲國總人口の一割以下にも達しない。

この民族の特性であつた精悍さも、固有の言語風俗も、漢人との雜婚により又年月の經過によつて一見漢人と判別し難いまでに同化されてしまつた部分が多い。

【漢 人】 漢民族は古來幾回にも亙る入滿の歷史を有して次第に勢力を扶植して來たのであるが、日露戰爭後は滿洲の治安が維持され、開發が進捗して漢人の移民に好箇の新天地となつたところから、山東、河北、山西、其他南方方面よりの渡來者が著しく殖え、現在では滿洲國總人口の九割近い數を占める樣になつて來たのである。

從來各族の間に猛烈な私鬪も行はれたが、その家族制度は血緣團體、地緣團體として發達し、滿洲に於ける社會生活の原動力になつてゐる。

この民族の二大弊風であつた男子の阿片と女子の纏足は今日餘程減少して來てゐるけれどもまだ根絕には至らない。衣食住は地勢及氣候に應じ、長年の經驗に彼等の嗜好を取入れて寒暑に適する樣式を作りなし今日に到つてゐる。

【蒙古人】 蒙古人は古來剽悍無比で、嘗ては歐亞に跨がる大帝國を建設した事もあつたが、淸朝の懷柔政策の奏效によつて昔の氣力は夙に喪はれ、その滿洲に住む者は農耕移民たる漢人との生存競爭に破れて、今では興安諸省、熱河省あたりの山中又は草原、沙漠地帶等を轉住してゐる者が多く、中には漢人に同化されて定住してゐる者もある。

蒙古人は古來遊牧民で所謂蒙古包に起居し原始的な生活をしてゐて、大多數の者が喇嘛教の信徒でありカルカ族、ブリヤート族等を含んでゐる。

【日本人】 日本人は日淸、日露戰爭後渡滿し此地の文化建設に多大の努力をして來たが、諸種の事情によつて滿洲事變前までは其數二十二、三萬に過ぎなかつた。然し滿洲國建設を機として渡滿者相踵ぐ有樣となり玆數年間に九十餘萬と云ふ驚異的數字を示し、此地に於ける理想國土の建設に關し全國民の指導的立場に立つことゝなつた。

朝鮮人は間島省を主として全滿洲に約百萬の數を有し、主に農業に從事し、殊に水田開發の事業に貢獻してゐるところ甚大なるものあり、中には服裝など著しく漢人化したのもある。從來官憲、地主等の不法な迫害を堪へ忍んで來たが、滿洲國の成立によつて多幸な將來を持つことゝなつた。

【露西亞人】 露西亞人は舊帝政露西亞の極東政策に伴ひシベリア地方から入滿したものであるが、日露戰役後は多く北滿地方に後退して、舊北鐵沿線一帶に亙り居住してゐたが、滿洲國の北鐵買收後は更に打擊を受けることゝなつた。現在の所謂白系露人は各所に分散して多くは悲慘な生活をしてゐたが、これも建國後は將來への光明

示唆を與へることゝなつた。

尙此地に住する露西亞人中には、スラブ系のものもあれば、猶太系のものもあり、トルコ系のものもある。

【其他】 興安嶺方面から西北部一帶に亙つてツングース種族あり、ダホール、ソロン、オロチヨン、マグネール、ピラル、ゴルチ、シベリア族等を含み、狩獵を生業としてゐる者多く其數は極く僅かである。

【山東苦力】 滿洲へ出稼に來る苦力には山東出身の者が大多數を占め、海路山東からやつて來たので俗に山東苦力と呼ばれてゐる。滿洲事變前迄は渡來數が毎年八十萬乃至百萬もあつて殆ど全滿に行渡り勞役に從事し、その內幾割かは家族と共に土着して移民の實を擧げつゝある。滿洲建國以後は許可制度になつたため其數は激減したが其後滿洲國內諸建設の勞務要員充足のため漸次增加し、昭和十五年度に於ては約百四十萬人の入國を見る豫定である。

聚落

【村落】 滿洲の村落は大部分農村で、多くは飮料水によつて位置が決つたものである。南滿地方の村落名について云ふならば、王家、李家、蘇家などのやうに開拓者の家名に因つたものが澤山あり、これに屯、寨、舖、堡、臺、溝、庄、鎭などがそれぞれついてゐる。其他地形、樹木、河川、道路などから附けられた村落名も多い。

北滿は南滿より開拓が新しくて、村名により土地開拓の過程を知るには都合がよい。個人的に開拓された村落には、南滿と同樣に開拓者の家名が冠せられてゐるものが多く、李家、馬家、潘家といつた風のや、翟先生屯、列學德屯、宋耀先生屯と云つた種類のがある。なほ正白旗十井、正紅旗十五井、黃正旗十六井などの村名は、淸朝華かなりし頃に八旗の軍隊を留めたところから出た名である。

【都市】 都市中には城市として發達して來たものが多く、それらの城市は古いところでは渤海、遼の時代に起源してゐるものもあるが、淸朝時代から榮えたものが大部分で、外に開拓によつて發達した植民都市があり、また近代に到つて外國人により經營されて發達した歐風都市もある。

城市には海城、析木城、九連城などのやうに城を附して呼ぶのもあるが、これを略したのもある。又石城子、土城子、甎城子等の名は城壁の狀態から起つて居り、新城、老城、古城などの名は新舊によつて生じたものである。植民都市は近代に於ける漢人移民により興つた都市で土城を有するものもあり缺くのもあるが、城壁を有するものは一般に街路が碁盤目をなしてゐる。洮南、鄭家屯、通遼、開魯、林西など何れもその植民都市の例である。

以前に商埠地と稱せられるのは、條約により諸外國へ解放し居留民の商工業經營のため提供された地域で、多くは城市と舊鐵道附屬地との間に介在してゐる。

歐風都市はロシア人や日本人の進出により生じた都市で城廓を有せず、街路は大抵放射線狀をなし整然としてゐる。大連、奉天、新京、哈爾濱などはそれである。

人口

滿洲の住民は滿、漢、蒙、日、鮮の五族を主體とし、このうち漢民族は八割以上を占め、滿洲國と最も因緣の深い滿洲族は約八十萬に過ぎない。蒙古族は七十七萬、朝鮮人は九十萬、日本內地人は八十三萬（關東州を含む）、なほこの外に白系、赤系合して約七萬のロシア人がゐる。

◇省別面積及人口表

省別	平方粁	人口數	人口密度
		人	人
全國	一、三〇三、四三七	三八、三〇一、五〇四	二九・四
奉天	七五、八二三	九、五三二、三〇六	一二六・二
吉林	八八、八一九	五、三二四、二四九	五九・九
龍江	六七、一〇九	一、七三六、二三三	二六・〇

熱河	六六、五八五	三、九九六、九四五	六〇・〇
濱江	六三、八六三	三、六九七、七七二	五七・八
錦州	三九、四六二	四、二三〇、九三一	一〇七・三
安東	二六、六〇三	二、二三五、八三八	八四・〇
間島	二九、八〇三	六九一、八九五	二三・二
三江	九〇、〇五五	一、一五九、八七〇	一二・八
通化	三一、六四七	八三四、七四一	二六・四
牡丹江	三三、九六一	四三八、九四五	一三・〇
黑河	一〇九、八一三	七三、三四八	〇・七
東安	四一、九七四	三三九、一四〇	七・九
北安	七一、四九一	二、〇三五、九三六	二八・五
興安東	一〇六、七五一	一一三、七二六	一〇・七
興安西	八〇、四一〇	五八一、二四七	七・二
興安南	七九、〇三一	八六三、三三四	一〇・九
興安北	一五九、三九九	八六、四一六	〇・五
新京特別市	四三七	三七〇、五九四	八四〇・九

◇關東州內人口表

區域別	日本人	朝鮮人	滿洲人	外人	計
大連市	一六四、八二四	四、二六八	三七八、六六〇	一、七六一	五四九、五一三
旅順市	一三、八三九	一四五	二〇、四一三	一六	三三、四一三
旅順民政署管內（市ヲ除ク）	一、〇五五	三三	一四五、七九九	一三四	一四七、〇二〇
金州民政署管內	三、一三八	九八	一五七、一九八	二	一六〇、四三七
普蘭店民政署管內	一、九六六	一一五	一九一、五一三	四	一九三、五七七
貔子窩民政署管內	一、四三八	一一六	一六六、〇七九	—	一六七、六三三
計	一八五、二三九	四、七七四	一、〇五九、六六〇	一、九一七	一、二五一、五九一

◇主要都市人口表

都市名	總數	滿洲人	日本人 內地人	日本人 半島人	外國人	調査年月
新京特別市	四二三、五九三	三一三、七二四	九六、〇一八	一三、八四三	一、〇〇七	七、一
奉天市	八六〇、二六六	七二〇、二四一	一一五、九七三	二三、二四一	一、八一一	六、一一
哈爾濱市	五〇五、七九一	四三九、二七一	三六、四〇七	五、六五九	二三、四五四	六、一一
吉林市	一四一、二九六	一二一、七五五	一四、九九四	四、四二〇	一二七	六、一一
安東市	二三〇、〇四〇	一八三、五七五	一八、六九〇	一七、七〇九	一三	六、一〇
齊々哈爾市	九三、六三三	八六、五九九	五、七五九	八三六	四一七	六、一
佳木斯市	八五、五八九	七九、三九八	四、七九五	一、三一四	八三	六、一
牡丹江市	一〇一、八一九	六九、一六四	一三、一一一	一七、四四四	—	六、七
四平街市	五六、一二三	四八、〇八八	七、〇三五	九一六	七四	五、一三
鐵嶺市	五〇、七七三	四六、一三五	三、二六六	一、三六五	七	六、一
撫順市	二二九、五七〇	一八四、五八二	三六、四〇五	八、五三〇	五三	六、一
鞍山市	一五八、六三四	一二三、〇七一	三三、三六四	一、一六〇	三九	六、七
遼陽市	九二、六五七	八七、一六八	五、〇五九	三八三	四七	六、一
錦州市	一一〇、五五八	九六、五四八	一一、二七三	七〇一	一二	七、一
營口市	一六五、八四一	一五八、〇四三	六、三七〇	一、四六七	六一	六、九
延吉街	四四、四〇〇	一七、六二〇	二、九九三	二三、七四一	四七	六、一
承德街	四四、〇七二	一九、五六〇	四、〇九九	四〇五	一三	五、一三
通化街	四五、一二〇	四〇、九五四	一、七三三	二、三四三	三三	五、一三
本溪湖街	八六、〇〇七	七一、五三三	六、〇〇九	九、四六五	—	六、八
北安街	一七、四五八	一五、八七三	一、四一一	一五五	一三	五、一三
東安街	七、四三三	六、九六八	二九〇	一八五	三九	五、一三
大連市	五七三、三三三	三九六、三七一	一六九、九五三	四、三六八	一、五五〇	六、一三
旅順市	三四、二三五	二〇、五七六	一三、四九九	一四六	一四	六、一三

政治

【沿革】大同元年（一九三二年）三月一日、三千萬民衆の總意によつて國を建て、國號を滿洲國と定め、年號を大同と稱した。

其理想とする處は王道政治で、民族協和機會均等、門戸開放の新政治形態をとり、大同元年三月九日溥儀氏を執政に推戴、政府組織法を制定暫行的に執政の下に一府三院八部より成る滿洲國中央政府を形成したが、康德元年三月一日、順天安民天意具現の大旨に基き執政帝位に即かれて帝政の實施をみることゝなり、年號を改めて康德となし、同日新に六章三十七條の政府組織法（同年十二月及康德四年七月改正）を發布し、新に皇帝、參議府、立法院、國務院、法院、監察院よりなる統治組織の根本の確立をみた。爾來政府は着々近代法治國家としての體制整備に努め、數次の改革を經て世界に比類なき獨特の政治組織を完成し、四千萬國民は茲に王道政治の惠澤を謳歌するに至つたのである。今躍進の一路を征く國家建設工程の實相を政治方面より見れば次の通りである。

一 大同元・三・一 建國、國名「滿洲國」
二 同 三・九 執政決定
三 同 九・一五 日本政府滿洲國承認
四 大同二・三・二七 日本國際聯盟脱退
五 同 三・一 帝政實施
六 康德元・三・二〇 修聘特使日本へ派遣
七 同 六・六 御名代秩父宮殿下御來滿
八 同 九・ 水路協定調印
九 康德二・三・二三 北鐵讓渡成立
一〇 同 四・二 皇帝陛下御訪日
一一 同 五・ 圖們國境を通過する列車運轉及税關手續簡捷に關する協定成立
一二 康德二・五・二 回鑾訓民詔書煥發さる
一三 同 八・一五 日滿經濟協同委員會設置
一四 康德三・四・三〇 滿獨貿易協定成立
一五 同 六・一〇 治外法權一部撤廢に關する日滿條約締結
一六 同 七・一 治外法權一部撤廢
一七 同 一〇・九 滿洲產業開發五箇年計畫大綱決す
一八 同 六・二八 工業所有權保護協定成立
一九 同 一〇・一 滿獨爲替交換規定實施
二〇 康德四・三・一 帝位繼承法公布
二一 同 五・八 中央行政機構改革大綱發表
二二 同 五・一 重要產業統制法施行
二三 同 七・七 支那事變勃發
二四 同 一一・五 兵事、神社、教育を除く治外法權の全面的撤廢
二五 同 一二・一 日獨防共協定成立
二六 同 一一・二九 伊太利滿洲國承認
二七 同 一二・二 新スペイン政府相互承認
二八 康德五・二・二〇 獨逸滿洲國承認を聲明
二九 同 五・一四 滿洲國產業開發五箇年計畫改正の決定案成立す
三〇 同 七・三〇 訪歐使節團一行出發
三一 同 八・二四 日滿伊貿易協定締結
三二 同 九・一四 滿獨貿易新協定調印
三三 康德六・ 日獨伊防共協定に加盟
三四 康德七・一・一 蒙古王侯權益國家に奉上
三五 同 三・三〇 中華民國中央政府成立
三六 同 國兵法實施

康德元年十二月、舊政權時代の封建的政治關係が最も強く表現されてゐた地方制度即ち奉天、吉林、黑龍江、熱河と云ふ大區劃制度を廢して新たに奉天、吉林、龍江、黑河、三江、濱江、間島、安東、錦州、熱河の十省及び興安四省を設けて舊弊を一新し更に康德四年には牡丹江、通化兩省を增設し、又康德六年には東安、北安兩省を新設して計十八省としたことは滿洲國が新興國家としての體制を樹てる上に劃期的な寄與をなすものであつた。中央行政組織についても舊來の組織を不斷に改善擴充し各機關の統制を强固にし或は國政促進機關の設置に、或は職制の改革がなされ、常によりよき組織への改善がなされつゝある。

康德六年度中行政機構改革の主なるものは興農部の誕生、經濟部の充實、企畫處の擴充等が擧げられる。

法制方面について云へば、帝政實施と共に組織法を改めて國家の根本法となすと共に、君主制に相應しい法律の制定、改正を行つたが實に對外關係において重要問題たる治外法權の撤廢は康德三年七月及び康德四年十一月兩期に亙り教育、兵事、神社三行政を除外して實施され、その前提として法院組織法同施行法を公布實施して法制の完備に一歩を進め、康德七年には國兵法を施行して國防の高度化を計りつゝある。

【組織法】大同元年（一九三二）三月一日建國と同時に政府組織法を定めて國家の基礎としたが、二箇年を經た康德元年三月帝政を實施して君主制を布くと同時に從來の組織法を廢止して新たに組織法を制定公布した。而して此の組織法は滿洲國家の組織

及び作用に關する成文の基礎法であり、勿論近代的意義に於ける憲法とは云ひ得ないが現在の國家の基礎法として所謂實質的な憲法を爲すと云ふべく、また本法はその制定の手續の上から規定憲法であり、その點日本憲法と軌を一にするものと云ひ得る。唯此の組織法と雖も暫行的のものであり憲法制定の曉には當然廢止さる可きである。

政府統治組織表

- 皇帝
  - 尙書府
  - 宮內府
  - 侍從武官處
  - 軍事諮議院
  - 參議府
  - 立法院
  - 國務院
    - 外務局
    - 總務廳
    - 興安局
    - 審計局
    - 恩賞局
    - 大陸科學院
    - 地籍整理局
    - 營繕需品局
    - 國立中央圖書館籌備處
    - 大同學院
    - 建國大學
    - 治安部
    - 民生部
    - 司法部
    - 興農部
    - 經濟部
    - 交通部
    - 新京特別市
    - 省（十八）
      - 市
      - 縣
      - 旗

在滿日本帝國機關

【關東軍司令部・駐滿大使館】 二位一體制に基き大日本帝國の在滿洲國策遂行機關を關東軍司令部及び駐滿大使館の二機關制となし、關東軍司令官をして二位の機構の長官を兼任せしめることによつて在滿日本機關の最高統制を一體化したものである。即ち現行機關に基けば關東軍司令官は、大日本帝國が東亞大陸への據點として、對滿國策遂行の唯一の代表者たるの資格を以て、軍事、外交、行政の三權を行使統理するものである。

滿洲事變を契機として日本帝國政府の在滿機關は强力にして且つ合理的な機構を必要とするに至り、昭和七年八月武藤信義大將の關東軍司令官親補に際し特命全權大使竝に關東長官を兼任、軍事、外交、行政の三權を統理せしめ、所謂三位一體制なる暫行的第一次機構改革の實現をみたが滿洲國の發展と日滿不可分關係の急速なる具現に伴ひその根本的改革が要求される新事態に立ち至つたので、遂に昭和九年十二月第二次の機構改革の大案が樹立され現在行はれつゝある二位一體制に基く在滿日本機關の最高統制が確立された。而して第二次機構改革により對滿事務局竝關東局が設置せられ對滿事務局は（一）關東局に關する事務（二）各廳對滿行政事務統一保持に關する事務（三）涉外事項に關するものを除き滿洲に於ける拓殖事業の指導獎勵に關する事務（四）南滿洲鐵道株式會社、滿洲電信電話株式會社の業務監督を管掌してゐる。

【關東局】 關東廳の廢止と共に在滿日本大使館內に設置された關東局は關東州廳の監督、留保治外法權の行政管理、滿鐵竝に電々會社監督の權限を有してゐる。

尙第二次機構改革の結果、關東局竝に在滿日本大使館の警務部長は關東憲兵司令官の兼任するところとなり、在滿日本警務機構は完全に統一されるに至つたが、治外法權の全面的撤廢により、在滿大使館管下の警察業務（關東局警務部）は擧げて滿洲國に移管された。

【關東州廳】 關東州租借地竝に滿鐵附屬地の我に歸してより茲に三十年、帝國は此地に對し軍政の後を承け關東都督府を置き民政の端を開き、次で關東廳に改制し、昭和九年末更に關東局及關東州廳を設けて今日に至つた。昭和十二年五月其の位置を旅順より現在の大連に移したが、我が國策の遂行上關東州の地位は益々重要性を加ふるに至り因つて昭和十二年十二月一日官制の改正を行ひ機構を擴大强化し現下の趨勢に對應することゝなつた。關東州長官は大使の指揮監督を承け州內の行政事務を管理し職權又は特別の委任に依り州廳令を發することが出來る。州廳內部の組織は官房、內務、財務、土木、警察の五部に分れてゐる。

協和會

滿洲帝國協和會は滿洲帝國の國家機關であると共に國民の機關であり、國民の手によつて滿洲建國の理想を完成す可く必然的要求によつて結成された建國精神を體する滿洲國在住諸民族の同志的集團であつて政府と表裏一體になつて建國理想の實現即ち道義世界の創建を志す國家的團體である。

協和會の發會式は大同元年七月二十五日國務院に於て擧行されたが協和會運動は滿洲事變前、張家政權の暴狀に對し滿洲三千萬民衆が奮起したその事態に發端してゐる。即ち事變前に於ける自治指導部の成立及びその建國運動がそれである。故于沖漢氏を部長とする自治指導部は或は日本軍の匪賊討伐に隨伴し、或は舊軍閥暴政の社會的汚毒を肅正改革しつゝ建國精神を思想的に敎化的に政治的に實踐具體化することを生命として建國の聖業に參與し、日本民族を中心とする鮮、滿、漢、蒙各民族の統合による王道國家完成に努力した。

大同元年三月滿洲國成立と共に自治指導部の一半は官に入つて政府の要所に就き、一半は野に在つて協和會を組織した。かくて建國精神を母胎として生れ出でた協和會は政府と表裏一體になつて、滿洲建國の工作に沒頭したのである。

創立以來早くも六年餘、今や協和會の組織網は全國に伸び、會員數百三十餘萬、會本來の使命に向つて邁進しつゝある。

協和會の組織工作の窮極の目標は全國民を打つて一丸とし、建國精神に滿たされたる强力なる組織體を作ることにあり、官吏、軍人、農民、商人、勞働者あらゆる階級を通じて會員を募り訓練し、精銳なる國民的組織體を完成して國家理想の實現を期するものである。

協和會機構の單位は分會であり、すべての會員は分會に所屬して會活動に從事してゐる。分會は地域制の組織を原則とするが現在は實際的な狀況に應じて便宜、職場別、職業別、民族別等に組織されてゐる。

綱領

滿洲帝國協和會は唯一永久、擧國一致の實踐組織体として政府と表裏一体となり

一、建國精神を顯揚し
一、民族協和を實現し
一、國民生活を向上し
一、宣德達情を徹底し
一、國民動員を完成し

以て建國理想の實現、道義世界の創建を期す

會籍現勢（康德六年十二月現在）

（一）分會

省本部名	市本部數	縣本部數	地區本部數	計	分會數	會員數
首都	—	—	—	—	一三九	九八、五七〇
奉天	七	一八	二	二七	一、〇九一	三五五、四三一
吉林	一	一四	二	一七	三一三	二九〇、九八三
龍江	一	二	五	八	一四九	四七、三八七
熱河	—	七	四	一一	三三九	六四、五三六
濱江	—	七	五	一二	一七七	七九、九八一
錦州	一	七	三	一一	三五三	七四、〇七七
安東	一	六	—	七	二九二	九一、九三〇
間島	—	五	—	五	五五	四七、二四四
三江	一	八	二	一一	一一一	二七、二三九

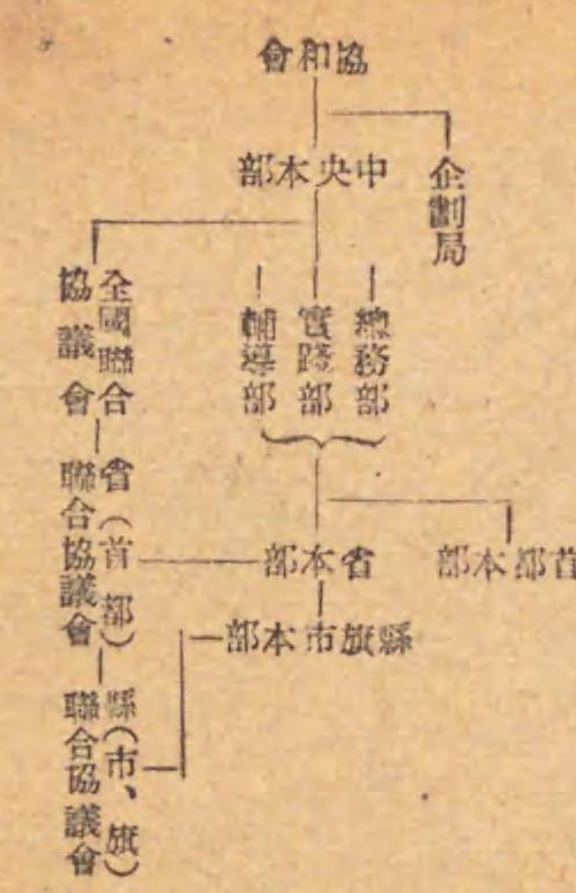
通化	—	九	—	九	一六七	三五、四一三
牡丹江	一	四	—	五	七〇	三一、一五五
東安	—	五	—	五	三〇	一一、二九三
北安	—	七	三	一〇	一四〇	三八、九三九
黒河	—	一	—	一	四四	五、五七三
興安東	—	(旗)二	—	二	五〇	九、〇七四
興安南	—	一	—	一	—	—
興安西	—	二	—	二	一八	五、六八二
興安北	—	—	二	二	三五	五、九九五
合計	一三	一〇五	二六	一四六	三、四六〇	一、三三〇、五〇九

（二）其他

	設置數	團員數
青年訓練所	一三七	△ 四三、九三三
青年團	一、二七九	三九八、六七一
少年團	一、三九五	三六一、三六一

（△印修了者を示す）

組織表



文教・宗教

文教

【學校教育】 學制の改革に關しては建國匆々其大綱を定め、修業年限の短縮、教育內容の充實、教育の機會均等其他につき研究を進むる處あつたが、康德三年十二月の第一次改革を經て康德四年五月勅令を以て學事通則、學校令其他の公布を見、滿洲教育史上に新紀元を劃する滿洲帝國新學制の制定實施を見ることゝなつた。

新學制に於ける學校教育は初等教育、中等教育及高等教育の三段階並に師道教育及職業教育の二部門よりなり、初等教育に於ては國民としての基礎教育又は實務教育を施し、中等教育に於ては實業又は實務を基調とする國民普通教育を實施し、以て國民の中堅たるべき者を養成し、高等教育は其教育目標を國家に須要なる高等の學術に關する理論及實際を修得せしめ、國家樞要の人材養成に置いてゐる。而して之等學校體系の全段階を通じての修業年限は十三年又は十四年とせられ、最初の就學年齡を滿七歲とすれば其終期たる大學卒業當時の年齡は滿二十歲又は二十一歲となることゝなつてゐる。

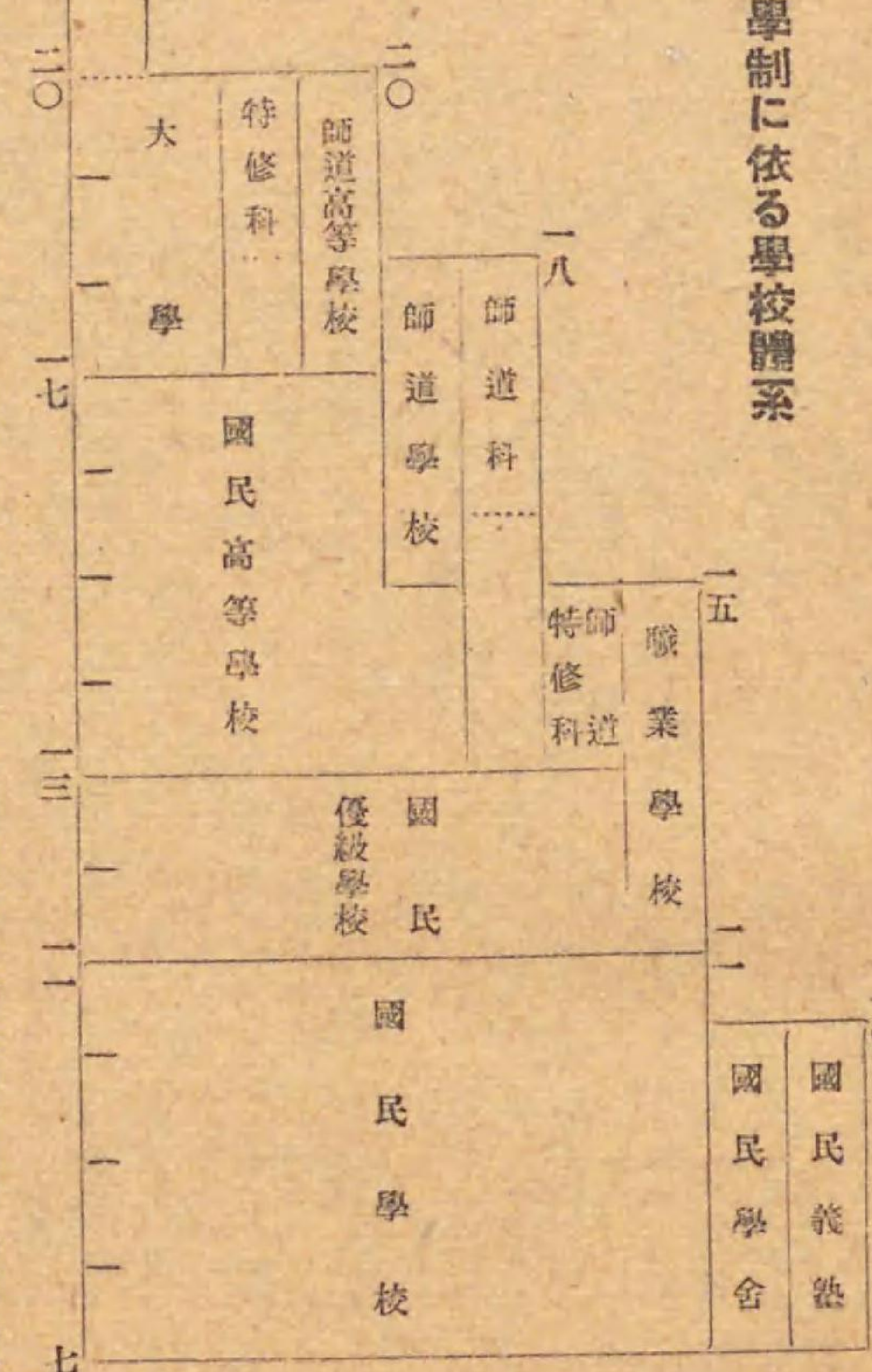
其教育方針とする處は、建國精神及回鑾訓民詔書の趣旨に基き、日滿一德一心不可分の關係及民族協和の精神を體認せしめ、東方道德特に忠孝の大義を明かにして旺盛なる國民精神を涵養し、德性を陶冶すると共に、國民生活の安定に必要なる實學を基調として知識技能を授け、適正なる體育を施して身體を强健ならしめ、以て忠良なる國民を養成するにある。

因みに康德六年二月に於ける學校、學級、教師、生徒（學生）數は下の通りである。

種別	校數	教員數	學生生徒數
國民義塾	三、四七一	三、五三三	一〇三、七五八
國民學舍	四、〇〇三	三、七一九	一六三、一四八
國民學校	一〇、四三三	二七、九六〇	一、三三六、七六一
國民優級學校	一、九七四	五、九六〇	一六〇、三六〇
國民高等學校	一一四	一、六〇一	三五、七八一
女子國民高等學校	三五	四四四	九、四五九
職業學校	八〇	七〇三	九、九三五
師道學校	一五	三〇一	五、四三〇
師道高等學校	一	四七	五〇〇
大學（私立を含む）	一三	—	—

滿洲大觀

新學制に依る學校體系



【社會教育及文化事業】 民衆教育館、識字處、講演所、青年訓練所を初め博物館、圖書館を設け、映畫、ラジオ等に依る教育、修養團體結成の助成等國情、民情に即した諸施設を計畫漸次實行せしめ、今後改善又は施設の增加擴大により民衆教化を一層徹底せしむべく努めてゐる。其他文化事業としては東洋文化の研究並に保存に關し不斷の努力がなされ、或は大陸科學院を設け農、工、鑛、化各般に亙り試驗研究をなし、又中央觀象臺、衛生技術廠を設け氣象、衛生に完璧を期する等、資源開發、國利民福に大きな貢獻をなしてゐる。

【日本側の教育】 治外法權撤廢後の日本人教育施設並に教育行政は駐滿全權大使館教務部に於て管掌、關東州內では關東州廳が經營し滿洲國內にあつては各省別に學校組合を設け半島人教育のために普通學校組合、中等學校は學校組合聯合會が夫々經營に當り、現在如何なる僻地にも小學校（二百數十校）が設けられ中學校十四、高等女學校十七、實業學校十、特殊學校十、其他專門學校、大學等設置され、最近邦人漸增に伴ひ在滿子弟の教育に遺憾なきを期してゐる。

宗教

滿洲に於ける宗教は支那固有のものと日本其他の外國より扶植せられたものとに二大別することが出來る。在來宗教は甚だ複雜多岐を極め、佛教、道教、儒教、回々教、喇嘛教等があり、何れも幾百年の歷史を有し民族的にも社會的にも政治的にも教育的にも頗る密接な關係を持つてゐた。これに近來日本人の信仰を主とし歐米諸國より傳來せる基督教並に最近勃興しつゝある新宗教などが入り込み益々複雜多岐となつた。このうち回教及び基督教を除いては何れも雜然として宗教的系統を缺き儒、佛、道の祭神も亦互に混合して同一人が佛教徒と道教徒とを掛け持ちしてゐることは珍しくない。

依つて政府は國內宗教の統制を計るべく根本的調査を行ふと共に、各宗教別の座談會を開くなど種々努力してゐる。

日本人の宗教は內地と同じく神佛基督教夫々各地に寺院を建て布教に努めてゐるが

治外法權撤廢後は之も滿洲國の監督に移された。

【滿洲人側の宗敎】 回敎及基督敎を除いては派別雜多にして僧侶、道士等は知識不充分で積極的救世及救人の如きは思ひ及ぶ處でなかつたゝめに民衆の信仰は殆ど習慣と迷信とに左右せられ邪敎滔々として國を覆ふ有樣であつた。よつて政府は建國後國民信仰自由の保障をなすと共に正しき宗敎進展を助成し、一面極力邪敎を防ぎ淫祠邪祠を禁止する等之が改善を計つてゐる。

〔佛　敎〕 眞言、天臺、臨濟、曹洞、淨土、毘盧等を主とし三十餘派あり、禪宗系統の信者が多く、佛敎の旺んなのは吉林、伊通地方でチチハル、阿什河、琿春地方等之に次ぐ。

〔道　敎〕 娘々廟會は本敎年中行事の一つであり道敎に屬する廟は一般に「觀」又は「宮」と稱ばれ僧侶に當るものを男子は「道士」「羽士」「羽客」といひ、女子は「女冠」と云ふが、道士の多くは無智で積極的に民衆を敎化する力がない。

〔回　敎〕 寺院を淸眞寺と稱し、唯一神を信仰し偶像は一切崇拜しない。寺院では大抵守校を附設して敎徒の子弟を敎育する。他信徒とは絕對に婚姻せず淸潔を尊び禮拜には必ず入浴し、豚肉を食はず牛羊肉を常食とする。

〔喇嘛敎〕 西藏在來のボンポ敎と佛敎との調和せるもので密敎系に屬する。寺廟の大いなるものにあつては活佛以下三百餘名の僧侶を擁し、蒙古人は凡てこの信者であると稱しても過言でない。近來日本眞言宗、眞宗各派へ留學生を送り新興醒醒運動が叫ばれてゐる。

〔儒　敎〕 建國の精神が王道であり、孔子の唱道樹立した儒敎に由つてゐる關係から孔子祭を滿洲國の國祭となし、九月五日の孔子祭には全國各地に亙つて莊嚴な儀式が行はれる。

〔基督敎〕 現在十五派五萬餘人の信徒を有し、宣敎師は布敎の旁ら地方民に醫療を施し農業を敎へ小學校を設けて一般民衆を敎化してゐるが、日本化せる基督敎を滿洲國人に傳道するのが目的である。

〔舊　敎〕 天主敎と希臘敎があり前者は羅馬敎皇廳より神父を特派し各敎區に一名の司敎を置き十五萬の敎徒と五百人の宣敎師がゐる。後者はハルピンを中心とする白系露人間に信仰せられてゐる。

〔薩瞞敎〕 この敎の特徵は一種の自然崇拜で神と人とは絕對に別で、巫が其間に立つて仲介するとせられてゐる。滿洲族固有の宗敎であつて、この民族が已に母語を忘れる迄に漢民族化してしまつた今日では滿洲固有の精神文化を表現するものは薩瞞敎のみとなつた。

〔道院と紅卍字會〕 道院の起源は民國九年山東省濱縣に於て洪解空、劉福錄の兩名が老祖（道院の祖神）の神憑に基く暗示により「太乙北極眞經」と名づける經典を結集し、道場を設け縣名によつて之を濱壇と稱したのに始まる。世界紅卍字會は道院の分院とも云ふべきもので民國十一年成立し兩者異體同心であり、近年新宗敎運動として滿洲國人間に隱然たる勢力を有する。

〔猶太敎〕 哈爾濱に敎堂一を有するのみであり、舊北鐵沿線其他各地の露西亞人の一部に信仰されてゐる。

◇全國敎別表

敎別	寺廟會堂數	信徒數
佛敎	二、〇一九	一、七七〇、六九二
道敎	一、七七九	三七七、三三七
喇嘛敎	五七〇	一二四、六八五
回敎	三〇九	一三三、六三六
天主敎	六七七	一五三、八四四
基督敎	六七五	五一、三九四
計	五、九七九	二、四八五、九〇二

産業

三大基本國策

【産業開發五箇年計畫】 之は大同二年（昭八）三月に發表された「滿洲國經濟建設要綱」に則り重要産業の自給自足を眼目とするものである。滿洲國の經濟建設工作の根幹を爲す右建設要綱の要點は、

一、利源開發の一部階級に壟斷される弊を除き萬民共樂ならしむ。

二、經濟部門の綜合的發達を圖る爲重要産業部門に國家的統制を加へる。

三、門戶開放、機會均等の精神で廣く世界に資本を求め、諸國の技術經驗を適切有效に利用す。

四、東西經濟の融合合理化を目標とし善隣日本との協調に重點を置く。

尙統制さるべき企業と自由企業の範圍限界に就き同年六月「國防上重要なる産業、

公益的事業及一般産業の基礎たる産業には特別の措置を講ずるが其の他普通企業に就ては事業の性質に依り或程度の統制を加ふべきも、大體廣く民間の進出經營を歡迎すると謂ふ補足聲明が爲された。

産業開發五箇年計畫は最初二六億圓の資金を以て遂行される豫定で康德四年（昭和十二年）着手されたが、間もなく支那事變勃發に依り日滿兩國の情勢に變化を來した爲計畫修正の餘儀なきに至り資金を約倍額の四八億圓に增額、鐵、石炭、電力、液體燃料、自動車、飛行機等の生産に重點が置かれることになつた。然し支那事變の勃發、物價昂騰其他の事情により實に六十億圓を突破する巨額に上るものと見られてゐる。

滿洲國産業開發資金導入其の他事業の運營に偉大な役割を演ずるものは創業三十有餘年の歷史を有する日本國法人の南滿洲鐵道株式會社（資本金十四億圓）と康德四年（昭和十二年）に設立を見た滿洲國法人の滿洲重工業開發會社（資本金四億五千萬圓）である。

斯くして滿洲國政府の分身とも謂ふべき特殊會社は康德六年六月現在に於て三三社（資本金計十七億三千九百餘萬圓）準特殊會社一四社（資本金計二億七千五百餘萬圓）に達し之等四七滿業を先頭に産業開發に邁進しつゝある。

五ケ年計畫內容

品名	原案開發目標	修正開發目標
銑鐵	二四〇萬瓲	〇〇〇萬瓲
鋼塊	二五〇萬瓲	〇〇〇萬瓲
鋼材	—	〇〇〇萬瓲
石炭	二、七〇〇萬瓲	〇、〇〇〇萬瓲
液體燃料	一三〇萬瓲	〇〇〇萬瓲
電力	一四五萬KW	〇〇〇萬KW
パルプ	三〇萬瓲	四〇萬瓲
鹽	八八萬瓲	一〇〇萬瓲
金（四ケ年累計）	二億圓	〇億圓
米	—	四〇萬瓲
小麥	—	一三五萬瓲
大麥	—	一八萬瓲
大豆	—	四五〇萬瓲
甜菜	—	二一萬瓲
粟	—	三五〇萬瓲
高粱	—	四五〇萬瓲
玉蜀黍	—	二三〇萬瓲

【北邊振興計畫】 建國後九年、滿洲帝國は日滿共同防衞の嚴守と日滿不可分關係の强化により營々として國內諸施設の充實、産業の開發、防共陣營の强化に努めつゝあるが、康德六年五月北邊地方の積極的開發に依る國防の完璧化と文化の確立を目的とする本計畫が樹立せられ、康德四年一月より着手せられた産業開發五ケ年計畫竝康德三年八月日滿を貫く重要國策として決定をみるに至つた開拓政策を加へて滿洲三大國策たることを公にすると共にその遂行に一層の拍車を加ふることゝなつた。政府はこの大事業を民間と協力敢行するため向ふ三ケ年間に二億圓の資金調達方法として北邊振興特別會計を設定した。又民間出資豫定額は滿鐵六億圓其他二億圓計八億圓で總額十億圓に達する尨大なものであり、之に依つて交通々信事業、電氣給水事業、開拓計畫、諸産業開發計畫を遂行せんとするものであり、目下産業開發五ケ年計畫と相俟つて北邊七省に於ける産業開發と國防充實を期しつゝある。

實施主要內容は次の通りである。

（一）交通通信事業—滿鐵は六億圓を投じて鐵道建設に當り、これに伴ふ自動車道路約七千粁の新設、五千八百粁の道路改修も企圖され、其他通信放送設備の擴充を期す。

（二）電氣給水事業—發電所新設〇〇箇所、經費一億圓、水道施設九百萬圓、其他都邑計畫等も實施。

（三）開拓事業—農地造成目標二十三萬陌、土地改良費二千三百萬圓。

（四）産業開發—農畜産物の徹底的增産と中小工業の積極的發達を計る。

【開拓政策】 康德三年八月日滿兩國政府は、翌四年より向ふ二十ケ年間に百萬戶の日本內地人農業開拓民の大移住計畫を樹立した。本計畫は實施の便宜上之を四期に

分ち、五ヶ年を第一期とし、第一期十萬戸、第二期二十萬戸、第三期三十萬戸　第四期四十萬戸、計百萬戸とし、之を甲種集團開拓民と乙種集合開拓民とに分つて輔導する。然るに茲に特筆すべきは四年七月開拓史上空前の青少年義勇隊計畫が樹立決定されたことで、第一期五ヶ年間に約三十萬人の日本青少年拓士の送出を目論見られ、之と曩の成人開拓民とを合すれば、恐らく二十ケ年を俟たずして百萬戸移住を完了し得るものと期待される。以上全開拓政策遂行上に要する總經費は六、七十億圓の巨額に上る見込であるが、斯の如き劃期的大移住計畫が樹てられた根本的意圖は、優秀なる日本農民をして勤勞生活を以つて四隣に範を示し、原住民と融和し滿洲國の中核とならしめ、以て子々孫々相繼いで民族和合、日滿不可分の實を擧げしめんとするにある。

【大東港建設】　同地方は昭和十一年滿鐵が調査を行つた結果、良質の鐵鑛、石炭及び礬土、頁岩等の輕金屬鑛石が無盡藏に包藏されてゐる事を發見したので、鴨綠江の水力開發と相俟つて是等背後地域の主要資源を開發すべく安東市の西南方三十粁、鴨綠江に放出する小河川趙氏溝の上流約十二粁の江岸線に沿ふ地域に大東港並に重要工業地帯を新設することになり、昨夏より滿洲國政府及び現地の安東に於て準備を進め具體的實施を急ぎつゝあつたが、康德六年六月一日附を以て大東港建設局官制公布と同時に滿洲國並に滿鐵より總額一億一千四百六十萬圓の出資あり、前年度より八ヶ年繼續事業として實施中である。然し當初の事業計畫區域では到底諸般の需要に應じ得ないことが明瞭になつたので、次の擴張案が審議せられ近く決定を見る運びとなつてゐる。

事業計畫區域	約	一七五平方粁
計畫人口	約	一〇〇萬人
給水能力	毎日	三〇萬噸
鐵道	約	四五粁
航路及築港		—
豫算	約	二億圓

農　業

滿洲國の總面積は約百三十萬平方粁このうち五割餘が可耕地及放牧地であり、國内住民の八割八分までが農民とその家族で、鐵道貨物もその大半が農産物或はその加工品で占められてゐる狀態である。また貿易の點から見ても輸出總額の約七割は滿洲特産物たる大豆、豆粕、豆油其他特用作物によつて占められ、殊に滿洲は大豆の世界最大の生産地で大豆の輸出は滿洲國の國際收支上受取勘定の主軸をなすものである。

斯くの如く滿洲に於ける農業は國民經濟上最重要の位置を占めて居り、最近に於ける重工業部門の躍進と相俟つて農業開發の諸政策が政府によつて積極的に遂行されて居る所以である。

【自然的條件】　滿洲の農業の技術的に見た場合最も特異とする所は乾燥地農業である。これは農業の前提條件である氣象要素其他の自然的條件に依るもので、先づその氣象を見るに氣溫は春秋の雨季が短く夏季は長く、寒暑の年較差が非常に大きい。月平均氣溫の最も高いのは七月で最低氣溫は一月に現はれ、日本の如き海洋性氣候に比し大にその趣を異にし冬期冷寒のため地表の凍結は一米乃至二米に及ぶが夏季は緯度に比し相當高溫に達する。雨量は甚だ少く農耕地帯で五百乃至八百粍で日本の約三分の一、東部内蒙古の如きは二百粍以下で農耕不能である。土壤は北滿の新耕地地帯は別として南滿は比較的有機質の含有量缺乏し居るも燐酸加里の含量は相當に多い。

【發達過程】　土着の滿洲人及び蒙古人は耕種農業に對する技能を缺き、戰鬪と遊牧が彼等の職業であつたが、清朝の封禁破れて以來關内から農業者たる漢人が殺到し

來つて始めて滿洲の耕地が拓かれた。爾後この移住漢人により滿洲は開墾され、漢人は東部内蒙古にまでも喰ひ込むに到つた。一方東部國境地方は朝鮮民族發祥の地であるため鮮人により開拓された地方多く、鴨綠江の上流及び安奉線、連京線各縣に於ける水田の耕作は皆之等移住鮮人の手によつてなされたものであるが、最近は日滿經濟ブロックの躍進に伴ふ日本開拓民の進出は滿拓會社の新設となり、百萬戸五百萬人移住計畫の進行に伴つて、東北滿を中心に日本人による耕地がどし／＼開拓されつゝある。

滿洲の農法を一括視することは到底不可能で、その形態は遊牧時代と變りない原始的生産方法のものから進歩した多角的、輪作、有畜農業迄の各段階に分れ、實に大器具機械の使用による大農經營方法迄多種多樣である。

各國耕地面積比較表（單位千方粁）

	耕地面積	對總面積 %	一人當耕地 陌
日本内地	六〇・〇	一五・六	〇・四二
英國	三六・八	二四・五	二、七〇
佛國	二二四・九	三六・八	二・七〇
獨逸	一九四・〇	四一・二	二・一〇
伊太利	一二七・五	四二・一	一・五〇
米國	一、三七三・五	一七・八	三・八〇
カナダ	三三一・二	三・六	一九・六〇
ソ聯邦	二、二三九・二	一一・〇	三・一〇

農産物收穫高（單位千噸）

品目	康四（昭二）	康五（昭一三）	康六（昭一四）
大豆	四、一二九	四、一八六	四、〇五四
其他豆類	三〇九	三〇五	三二三
高粱	四、〇〇三	四、一五三	四、五六九
粟	三、一三八	三、〇四九	三、五三一
玉蜀黍	二、〇九九	二、四四一	二、四六八
小麥	一、〇六八	八五四	九三八
水稻	五三三	五七八	七〇三
陸稻	一三四	一、〇〇三	一〇一
其他雜穀	一、〇一八	一四〇	四一
麻實	四九	二二	七〇
荏	一三	—	—
合計	一六、五九三	一六、八六六	一八、二三〇

主要農産物作附面積（單位　陌）

合計	一四、二四五、八一四
吉林	二、七六七、六一〇
龍江	二、〇三五、七五二
黒河	二八、〇〇九
三江	七九六、七四五
牡丹江	三二六、八七三
濱江	二、九六一、五〇六
間島	二五〇、二五〇
通化	二五〇、二五五
安東	五一四、七八六
奉天	三、〇二五、五九九
錦州	一、二八八、四二九

農作物種類及分布狀態

滿洲に於ける栽培作物の種類は四十餘種あり、分布狀態は自然的制約に從つて明確な地理的區劃をなしてゐる。いま主要農作物種類及びその分布狀態を示せば次の如し

豆類	吉林、濱江、龍江、三江、奉天、安東の各省
高粱	奉天、吉林兩省を中心として産す
粟	熱河省を除き各省農耕地の殆ど全部に亘る
玉蜀黍	濱江、奉天、安東の農耕地
小麥	濱江、三江、龍江を中心に北滿小麥地帯をなす
棉花	遼中、海城、洮南を中心とする地帯
果樹	奉天以南鐵道沿線及び關東州
水稻	間島省を中心とし、牡丹江、松花江沿岸及び安奉線・渾河、遼河沿岸地方

其他大麥、燕麥、黍、稗、蕎麥、麻類、荏（蘇子）、陸稻等も（北滿を主として）栽培せられてゐる。

耕　地

滿洲は平原山地が殆ど相半し、平原には遼河、松花江の二大河が貫流しその本支流流域は開墾已に久しく、松花江流域は遼河流域に比較し面積遙かに大であるが、既耕地尠く農産額も前者の程でない。然し近年山東方面よりの移住民によつて松花江流域を主體とする北滿の開拓は目覺しいものがあつた。滿洲の總面積は大約一二九、七二九千陌（ヘクタール）でこのうち可耕地は大約五千萬陌と

推稱され、既耕地面積は千八百五十萬陌で總面積に對する割合は十五%、可耕地面積に對しては三十七%であり未耕地は可耕地面積に對して六十三%が殘されてゐる譯である。

滿洲國政府及び滿拓滿鐵等ではこの未墾地の開拓に力を注ぐと同時に、日本開拓民政策の實現のために可耕適地の再調査並に濕地干拓事業確立の調査計畫に努力し、また治安恢復に伴ふ荒廢地の再耕化をも圖つて極力可耕地の增加を計つてゐる。

土壤

既耕地の大部分は第四紀古層又は新層に屬し、冲積層と洪積層の壤土及び埴土が多くを占め砂土、礫土の分布は多くない。

土壤の理學的性質は一般にその分子が極めて纖細であつて、凝集力、附着力が強く重粘であつて孔隙容量が少く隨つて空氣、雨水の透通は不充分であるが水分及び養分の吸收力は大きい。農家では土壤の色によつて紅色土、黃色土、黑色土、藍色土、白糖土等命名してゐるが、この分類から云へば南滿洲に紅色土、黃色土が多く、北滿洲に黑色土、藍色土が多い。

更に化學的性質としては

(一) 土壤の反應は微鹽基性であつて殆ど酸性土壤といふのはない。

(二) 可溶鹽類は概して多く、春季乾燥期に於てはアルカリ斑各地に出現する。

併し純然たるアルカリ土壤は營口、白旗方面、濱洲線沿線、東部內蒙古に多く營口、白旗方面は鹽化物、湯崗子地方は硫酸鹽、內蒙古は炭酸鹽及び鹽化物より成つてゐる。

(三) 有機物及び窒素含有量は概して少い。

(四) 鹽酸に不溶解の鑛物質含量が多い。

(五) 石灰含量は多くないが苦土、曹達含量は多い。

(六) 燐酸及び加里の含有量は豐富である。

右に依れば滿洲の土壤は理學的には良くはないが、化學的には豐饒であると云へる。

滿洲土壤の缺點は有機物質及び窒素含量の少い點と、アルカリ鹽類の多いことにあるが、幸ひにして冬季寒冷なる氣候は凍結によつて土壤の風化を促進し空氣中の窒素吸集を行つてゐる。併しながら滿洲人在來の農業は多くは施肥を控目にし、作物の輪作等によつて僅かに地力の消耗を防いで居るが此の方法では到底永遠の好績は期待されない。

◇土壤生產力比較

(公主嶺農事試驗場調査)(熊岳城を百として)

磐城子	一二五	奉天	一三四
吉林	三六〇	齊々哈爾	一五三
遼陽	三二一	鐵嶺	一八三
敦化	七〇一	旅順	三九三
開原	二〇九	洮南	二五一
渾河	二二七	公主嶺	二七二
哈爾濱	二六七		

農業經營

滿洲人の農業經營には大體自作、小作、分益、協同、請負農の五別がある。

自作農を本地(ペンティ)、自己兒地(ツーコルティ)、自己兒種(ツーコルチュン)等と稱してゐる。大農は七、八十町歩以上、中農は四、五十町歩、小農は二十町歩內外、過少農は五、六町歩を耕作してゐる。而して北滿地方では七、八十町歩から百町歩を耕作する者も少くないが、關東州內では二、三十町歩を超ゆる者は稀である。

小作農を租地(ツーティ)或は租借(ツーチエ)と云ふ。小作人を租戶(ツーホ)、地主を地東(ティトン)と稱ふ。小作人は主として過少自作農である。種類に永租(インツー)、(永小作)と租(ツー)、又は佃(テン)、(普通小作)の二種に分れ、小作料は一半或は三分の一で、金納は少く穀納(物納)が多い。分益農

を分晴(フエンチン)、辦晴(パンチン)、分種(フエンチュン)、種分收(チュンフエンショウ)前と云ひ、家屋、農具、種子、肥料、日用品、衣服、食糧等一切を地主持とし、收穫後前記消費々用を含めて地主六、七分、小作人三四分の比率を以て決濟するのを辦理晴(パンリチン)、辦內晴(パンネイチン)と云ひ、家屋だけを地主持とし、地主四、五分、小作人五、六分の割合に分配する辦外晴(パンワイチン)との二種類がある。

共同農を揷具(ツオチュイ)と稱し、小農、過少農等の間に行はれる方法であつて、役畜、農具等各々持寄つて順次耕作、收穫に當るのである。請負農を牛具(ニュウチュイ)と云ふ。畜類又は勞力を以て賃銀を得、耕作、中耕作を請負ふ方法である。

農法

農法は輪作、連作、掠奪、休閑の四法に分れる。輪作農法は一般的に行はれ高粱、大豆、玉蜀黍のうち一種又は二種を主作物とし粟、小麥等の作物と交互に三年又は四年の輪作を行ふのであるが、更に糜子(ミーツ)、陸稻、稗其他の作物を加ふる場合は四年、五年又は六年、七年の輪作とする。

連作法は南滿地方の土地狹く又は低窪地で濕潤な場合か鹽分の多い土地等で、特別の作物以外栽培されず、又掠奪農法の場合等に行はれる。

掠奪農法は最も原始的農法で主として未墾地の多い蒙古地方に行はれ、草原中の肥沃地を求めて糜子(ミーツ)を連作し、地力の消耗するに至れば他の新しい土地へ移るのである。

休閑農法は土地に餘裕のある蒙古地方に滿洲人の行ふ農法で熱河省地方にも行はれてゐる。普通全地の三分の一を殘すか、又は三分の一を耕すかであるが規則正しいのと不規則なのとある。

耕耘は凡て牛、馬、騾等に犂を曳かせて行ふので耕地豁地[illegible]地等と稱し耕地、豁地は全面を平坦にするだけで畦をたてない。集約的な方法で前年の休閑地か、蔬菜地等に行ふ[illegible]地と云ふのは、畦と溝とを耕鋤しながら作整する方法である。

耕鋤期は四、五月頃で普通播種前一回又は二回之を行ふ。肥料は主として土糞を用ひる。即ち牛、馬、豚、狗、鷄糞又は人糞と肥土を混じたものである。其他穀類の絞り粕、豚血、池、沼、溝の底土等を用ひる。

播種法は條播を普通とし點播之に次ぎ撒播は特殊法である。條播とは點葫蘆(テンフール)を用ひ粟、稗、高粱、糠子(チンヅ)等の小粒種子を器に入れて播く法と手を使つて大豆を播き付くるのと、摔種(シュアイチュン)と云つて前方に投下しながら後退して播く方法がある。播種後は䩳子(コンヅ)を役畜に曳かせ必ず圃上を鎭壓する。畦幅は一尺六、七寸から一尺八、九寸を普通とし、丈高いものと低いものとを交作する。

【興農合作社】 產業開發五箇年計畫の具體化の完璧を期するため國家施設の下に農村の組織が要求され、政府では康德四年夏農事合作社法を制定し、更に產業部令をも制定して之が實施に移つた。合作社制度の根幹となるべき縣合作社は農業の開發を促進し、農業者の福利增進を計ると共に生產品の配給を圓滑ならしめるを目的とし原則として縣の區域によつて設立され縣內農業者を以つて構成し而も之が設立に從ひ漸次從來の縣農會は解散し棉花、煙草その他の既設組合も次第に合作社の機構に統合せしむる樣改組された。

而して康德七年四月一日を期し農事合作社は金融合作社と統合し、單一組織たる興農合作社となり各地方行政機關、協和會等の積極的な協力に依つて新なる協同組合運動への發足を遂げるに至つた。本合作社の指導方針は從來の實績に鑑み監督指導は之を區分し、監督は政府(地方廳を含む)、業務指導は合作社中央會に、思想的指導は協

和會が行ふことになつてゐる。

關東州の農業

關東州内の農業は滿洲全地方と等しく主として滿洲人の經營であつて、若干の日本果樹園がある。主要農產物は玉蜀黍、高粱、粟、黍、稗、大麥、小麥、大豆その他豆類水稻、陸稻、陸地棉等である。蔬菜は都市附近に於て營業的に栽培されるものとして蘿蔔、葱、茄子、白菜、甘藷、胡瓜其他がある。

管内の風土は落葉果樹に快適であつて、果實は品質優良のため盛んに滿洲、支那各地に輸出される。種類は林檎、梨、桃、葡萄、櫻桃、杏、李、山椒、棗、海棠その他の雑果である。昭和十三年度の農產物作付面積並收穫高は穀菽類二二六、一五五町歩、三、二二五、九六五石、蔬菜類一〇、六六八町歩、一八六、七一九、七二七斤、特用作物三、〇八二町歩、二、三四七、五一九斤であつた。

管内の土地には業主權、典權、租權が認められ夫々わが内地の所有權、不動產質權、賃貸借權と同様に扱はれてゐる。州内土着民は永代農業を本業としてゐるが滿洲各地の商工業勃興につれ農家子弟の賃銀とりに出稼ぐ者は年々增加する。農家は玉蜀黍を主食物として高粱、粟も用ひてゐる。稈は牛馬の飼料又は燃料とし、建築材料や容器を作る。

【蠶業】 蠶業は家蠶と野蠶の二種がある。家蠶は明治四十一年頃から養蠶が試られ逐年好成績を示し、日本蠶と支那在來種の交種がこの地方に適し漸次盛になり近年三百石内外の繭を產出してゐる。野蠶は柞蠶、樗蠶、天蠶の三種類があつて、柞蠶は柞樹林によつて飼育するもので近年柞蠶飼育林が造營せられた。樗蠶は山野に自然に生ずるもので繭の利用はまだ行はれず、天蠶は日本からの移入種で適種なることが證據立てられてをり、一般滿洲人間にも家蠶の飼育が盛んになりつゝある。

【果樹】 奉天以南の各地に於て行はれてゐるが、熊岳城以南が適地とされ、其三分の二乃至四分の三は關東州に於て生產されてゐる。邦人の增加に伴ひ果實の需要は最近非常な躍進を示し、關東州及舊滿鐵附屬地主要農業の一つとなつてゐる。栽培面積は苹果の五千町歩最多とし桃、梨が之に次いでゐるが、苹果は美味の點で世界一と稱されてゐる。關東州に於ける果樹一ヶ年間の收量は約七、五五四、〇〇〇締、收入約二百萬圓であるが、四分の三は苹果の收入となつてゐる。

林業

【概要】 往古滿洲の地は通古斯族が「森林の海」と稱した如く鬱蒼たる森林を以て蔽はれ尚淸朝發祥の地として乾隆の頃より伐木開墾を禁ぜられてゐたが、其後この地を一般に開放するの已むなきに至つた結果林地は彼等の燒燼を蒙ること大であつた。然し千古の美林は今尚北滿の到る處に存し「森林の海」なる呼稱の面影をとゞめてゐる。

〇森林の分布—滿洲は五月より九月までの植物生育期間に溫度が極めて高く且つ此の期間に年降水量の大部分が集まり、濕度が最も高いことが植物の生育に適してゐる。森林地帶として囑望されてゐる地域は松花江及びその支流、拉林河、圖們江、牡丹江、鴨綠江右岸竝にその支流、運河上流地域、濱北沿線の一部及び大小興安嶺圈内に屬し、呼倫貝爾西南、錦州、熱河を扼する所謂蒙古地域は森林地帶が極めて稀で、廣漠として草原と砂丘連續しところ〴〵に集團的樹林を見るに過ぎない。

〇森林面積及び立木蓄積量—全滿森林面積は八千七百萬陌、立木蓄積量は約三十七億立方米（約一三三億石）と推計せられてゐる。

〇主要樹種—滿洲の森林は之を森林植物帶上から見れば、溫帶北部に屬するものであるがその主要な部分は寒帶の圏内に屬するものである。樹種は已に知られてゐるものだけでも三百五十餘種に上つて居りそのうち有用樹種として針葉樹八種、濶葉樹二十一種が擧げられてゐる。

◇立木蓄積量

經營地區名	針葉樹	濶葉樹	計
	森林蓄積（千立方米）		
承峰	一、六七二	三、九八四	五、六五六
卓陽	—	—	—
大魯	—	—	—
扎倫	一五五、六一〇	五三、五一五	二〇八、一二五
黴西	三〇九、九七八	三〇六、七〇六	六一六、六八四
三滿	三二一、一九五	一三七、六五五	四五八、八五〇
呼漠	二九三、五三六	三九七、二一四	六九〇、七五〇
黒鳥	七〇、一四七	一五六、三八三	二二六、五二九
湯龍	一二七、六〇九	二一〇、三〇一	三三八、九一〇
勃同	六三、〇八七	一一六、六〇〇	一七八、六八七
賓東	一五〇、六五五	一二一、〇三七	二七一、六九二
吉敦	一七一、〇七七	一二三、八一〇	二九四、八八七
通安	七三、一八八	一〇六、一二六	一七九、三一四
齊濱	—	二一三	二一三
新寨	—	—	—
錦督	—	二、一二五	二、一二五
合計	一、七三六、七五六	一、七三四、六六五	三、四六一、四二一

◇主要樹種

日本名	滿洲名
針葉樹	
テウセンマツ	果松（裸松、紅松）
テウセンタウヒ	魚鱗松
ダフリカカラマツ	黃花松
タウシラベ	臭松
テウセンモミ	杉松（沙松、柏松）
エゾマツ	魚鱗松
テウセンカラマツ	黃花松
マンシウアカマツ	油松
濶葉樹	
カウライミヅナラ	柞樹
アムールシナノキ	椴樹
オニメグスリ	寧新樹
ヤチダモ	水曲柳
ハルニレ	楡樹
キハダ	黃木（黃波欏）
テウセンヤマナラシ	白楊樹
シラカンバ	樺樹
ヲノオレカンバ	檀樹
カライヌエンジユ	槐樹
モンゴリナラ	柞樹
マンシウシナノキ	椴樹
マンシウカヘデ	白牛
イタヤカヘデ	色樹
オヒヨウニレ	楡樹
マンシウクルミ	楸樹
ドロノキ	青楊樹
テウセンミネバリ	董樺樹
オホミノユレ	董楡樹
マンシウハシドイ	跑馬子（暴馬子）
ヤマナシ	梨樹

【木材生産状況】 建國前數年間は產出量約三百八十餘萬石であつたが建國當時は森林全部を國有とし、これが整備統一を圖る必要に迫られたゝめ甚しく生產の低減を來し二百萬石程度となつた。その後國内の制度整ひ各種事業勃興し木材需要の增進に伴ひその生產も著しく刺戟され、近年は七百五十餘萬石の生產をみるに至つた。

◇累年木材生産高

大同元	二、〇一八、二二〇石
大同二	二、二五三、三一四石
康德元	三、〇二八、四二七石
康德二	三、七四一、〇三八石
康德三	五、一四二、五一七石
康德四	五、六八二、三六二石
康德五	七、五二五、六六七石

畜產業

【概要】 滿洲に於ける畜產は廣大な境域と豐富な家畜飼料の生產を根據として由來家畜と其生產物を利用すること多く、家畜の飼畜に長ずる漢人、蒙古人等によつて營まれてゐる。蒙古人は元來遊牧民で衣食住の生活資料を專ら畜產物に需めることは當然であるが、漢人も亦生活上畜產物を利用

することも多く、人口の割合に國內に於ける獸肉、獸乳、獸毛の需要が大である。家畜は以上の用に供される外農耕地一千八百餘萬陌の耕作に要する役畜三百四十萬頭、交通運輸並に軍事上に數十萬頭の役牛馬・軍馬を生產供給しつゝあり、また餘剩家畜並に畜產物を支那、日本其他諸外國に輸出してゐる。

滿洲で飼育せられてゐる家畜家禽は牛、馬、驢、騾、豚、緬羊、山羊、駱駝、犬、鴨、鵞、鷄等でこのうち家畜の飼育頭數は概ね次の通りである。

牛	一、六八三、三〇〇
馬	—
騾	五六〇、〇〇〇
驢	六二〇、〇〇〇
緬羊	一、九六五、三〇〇
山羊	一、二四三、〇〇〇
豚	五、九〇〇、〇〇〇
駱駝	一二、八〇〇

家畜

馬―殆ど蒙古系であつて體軀矮小（體高一二〇―一四〇糎）ではあるが各部の均整は良好と云うて良い。一般に性質溫順、強健で持久力の強いことを特徴とする。種類は北方馬、口外馬、山後馬の三種に分けられる。外蒙古種は內蒙古種に比して稍大型で輕快駿敏、乘馬に適する。毛色は鹿毛、栗毛が多く內外蒙古種共一般乘馬としては不適當ではないが騎兵用として優秀なものは尠い。

騾―哈爾濱以南に產し新京を中心として最も多く且良質のものを產する。體軀は蒙古馬より大きく（體高一三〇―一六〇糎）粗食劇役に耐へ得る役畜である。牝馬に大驢（ターリュイ）を配したるを頭排騾子（トウパイローヅ）と云ひ牝馬に小驢（シャオリュイ）を配したものを二排騾子（アルパイローヅ）と云ふ。

驢（リュイ）―南滿地方を主產地とし特に奉天、安東、熱河、錦州諸地方に良質のものを產する。大驢（ターリュイ）と小驢（シャオリュイ）との二種があつて大驢は體高百二十―百五十糎で山東、河北地方から輸入せられ種牡として騾（ロー）の生產に使用される。一般に使用されるものは小軀であり體高八十八―百糎に過ぎない。

馬と騾の用途は農耕用、輓曳用、馱用に重寶がられ騾は馬より粗食で而も馬より力が強い。驢は農家の脫穀用に使役しまた家內工業の動力として用ひる。

豚（猪）―回回敎徒以外の支那人の最も賞用する食用獸である。從つて各種家畜中その分布最も廣く飼養頭數も六百萬頭に上つてゐる。農家は副業として肥料と畜產收入を目的として每戶必ず數頭乃至十數頭を飼育して仔豚を生產してゐる。滿洲豚には大型種と稱する二箇年半で三十五貫位になるものと小型種と云ふ一箇年半で十八貫位になるものとその中間の中型種の三種がある。何れも頗る多產で一腹十頭乃至十五頭多きは二十頭を產む。豚の肉、脂肪及び內臟物は副食物として珍重され毛や鬣では刷毛を製し骨は細工用となり血液は防腐劑として用ひ骨の一部と糞尿は肥料となる等廢物は全くない。

牛―各地に分布する牛の種類は主として蒙古牛で東部地方は朝鮮牛、關東州は山東牛の系統を含む。蒙古牛は體軀が一般に矮小で體格は惡いが堅忍、從順で粗飼、粗管に耐へ疾病に對する抵抗力が強いから漢人は力役のために飼育してゐる。蒙古人は搾乳のために飼育して力役は從となしてゐるが一般に肉は單に副產物として利用されるにとゞまつてゐる。

羊―緬羊と山羊の二種がありともに蒙古種である。牧羊は南滿洲では山羊を本位とし蒙古では緬羊を本位とするが、ともに多少の混牧をなしてゐる。飼育の目的は肉の利用を主とするが家畜を以つて主要な生活源泉となしてゐる蒙古人にとつては、羊

は食料及び衣服材料を供給する無二の財源である。緬羊の產毛能力及び品質はともに劣等であるが、最近實業部及び日滿緬羊協會の指導によつて緬羊改良事業が漸く緖についた。

駱駝―蒙古に產し交通用途に供されてゐる。體高は五、六尺で前軀に比し後軀の發育がわるく頭は小さく胸は幅狹く、耳が小さく、四肢は長く毛色は褐色なのが普通である。馱載能力は六十貫內外、一日に二三十哩を行くことが出來る。

犬―農家は番犬として必ず一、二頭の犬を飼育し蒙古人も數頭の獰猛な番犬を飼つてゐる。支那犬と蒙古犬の二種あるが支那犬は滿蒙の犬の九割を占め體軀魁偉（體高二尺、體重三十貫を超えるものもある）性獰猛で專ら番犬として飼はれてゐる。蒙古犬は體軀細長く顏面も細く尖り口角深く切れ眼は小さく耳は直立して慓悍獰猛の相を備へ輕快敏捷で六、七尺を跳躍することが出來る。狩獵に用ひられる外番犬として飼はれてゐる。また皮は滿蒙の犬皮として已に名高いところである。

◇列國の人口に對する家畜數

（一九三五年人口百に對する頭數）

國名	牛	馬	豚	緬羊
滿洲國	三	一	二三	四
日本內地	二	二	一	〇
朝鮮	七	〇	七	〇
台灣	七	〇	三六	〇
ソ聯邦	二六	九	一三	三五
米國	四七	九	三九	三九
英國	一八	二	八	五三
佛國	三七	六	一六	二三
加奈陀	八二	二七	三六	二四
亞爾然丁	二七六	六八	二三	三五一
濠洲	二〇九	二六	一七	一、六八七
新西蘭	二六八	一七	四七	一、八二七

◇皮革類輸出額

（康德五年度）　（單位　圓）

皮：牛皮	皮：馬皮、騾皮及驢皮	皮：其他	皮：計	革
一六、六三三	一、一四三、五四三	一六、六〇四	一、一八〇、七七九	三七、四四〇

◇主要畜產品輸出額

（康德五年度）　（單位　圓）

毛皮：緬羊皮及山羊皮	毛皮：犬皮及狼皮	毛皮：熊皮及浣熊皮及コリンスキー皮	皮	革	獸毛
一、一五一、〇〇六	五九七、六四三	一三三、六九九	三二、九五五、五一六	一、一八〇、七七九	三七、四四〇	七、六八四、四八七

水產業

【漁業】河川は淡水魚に富み其種類數量ともに豐富である。即ち北は黑龍江本流を境として松花江の支流、南部に遼河がある外、湖沼、濕地等にも豐富な魚類の棲息を見る。此地の淡水漁業の起源は明かでないが、凡そ今より一千年前、滿洲最古の文化國として榮えた渤海國の時代に、鏡泊湖及び其附近に漁業が行はれ、特に鮒は美味を以つて名產と稱せられ、また契丹國の時代には松花江水系において每年多期氷面に穴を穿つて大漁をとり、國王は群臣を集めて宴を張り之を頭漁宴と稱したことが傳へられてゐる。斯くの如く滿洲の淡水漁業は相當古くより河湖附近の住民によつて行はれたものと想像されるが、これが經濟的企業となつたのは舊東支鐵道の敷設後呼倫湖水系に於て一九〇四年頃ロシア人によつて行はれたのを始めとする。然しながら現在の北滿地方は未だ人煙稀薄で漁業の如きも極めて原始的な域を出でない。

沿海漁業をみるにその海岸線は關東州を合して僅かに三百九十五里に過ぎず、その上海底は狹小で且つ淺く氣候寒冷で多季魚族の棲息に適せず而も沿岸は凍結するところが多く、滿洲の沿海漁業を稍不振の狀態

に甘んじさせてゐる。

現在の水產額は約一千五百萬圓見當と見られ水產物輸入高は約二千八百萬圓、國內需要量は約四千三百萬圓で建國當時消費の約二倍に激增した。

【鹽業】渤海及び黃海に面する沿岸は干潟地が多いので古來鹽業が著しく發達し殊に滿洲國と關東州の沿岸は降雨量が少いことゝ相俟つて鹽田面積廣く重要なる產業となつてゐる。滿洲國の鹽田はこの兩海岸に散在し、營蓋局、復縣局、莊河局、盤山局天橋廠局、廠子溝局、の六局に分れてゐる。何れも概して自然的條件に惠まれた好鹽場である。鹽局中復縣局は滿洲總生產額の五十％近く、營蓋局は三十％內外を產出して雙璧をなしてゐる。兩鹽局の春期製鹽期は三月より七月まで、秋期は八月より十月まで、七月より八月までの約一箇月は雨期のため休止する。五、六月は生產量最も多くその採鹽量は年產額の約五、六割を占め、この兩月中の天候、採鹽狀態の良否は其年の產鹽成績を左右する。製鹽法が天日製法（晒製法）に依る爲天候の影響を多分に受けるのである。最近の生產高は滿洲國約三十六萬瓩、關東州四十四、五萬瓩である。

康德三年四月日滿合辦の滿洲鹽業株式會社を設立し新鹽田を開發すると共に、已設鹽田の指導に當つてゐるが、專賣總局に於ては產業五ヶ年計畫の一部門として鹽の增產計畫を樹立し、康德四年以來實施中なるが之が生產目標は康德十二年度に於て百三十萬瓩（內國內需要六十萬瓩、對日輸出七十萬瓩）となつてゐる。

關東州の水產

東は黃海、西は渤海に面して滿人向魚類の豐富な廣い漁場を有し、出漁獵地の利を占めてゐるので漁業は古くより相當發達してゐた。明治三十九年關東州が日本の租借地となつて以來日本人による漁業と日本人漁業に倣ふ支那人漁業者が激增した。

關東州を根據地とする漁場は北緯三十六度以北の黃海及渤海全部の公海で州內に於ける漁業根據地は大連と旅順を第一とし、その他營城子灣、雙島灣、羊頭灣、小平島、老虎灘、大孤山、廣鹿灣、獐子灣、海洋島等である。漁獲の主なるものは鯛、偏口魚、比目魚、黃花魚、金魚、鰺、ホウバウ、エソ、蝦、海蝦、鰆、鱸子魚、ヒラス、贅子魚、鰤、鯨等である。漁法も相當に發達し、機船による底曳網漁業が在來の支那人式漁業を壓倒してゐる。最近の漁獲高は年一千萬圓を超えてゐる。

鹽業は古來より發達し、渤海及び黃海に面する沿岸は干潟地が多く、降雨量の尠いことと相俟つて鹽田面積廣く、重要なる產業となつてゐる。

製鹽法は天日鹽法で、製鹽費は日本の煎熬法に比して極めて低廉である。最近の生產高は年五十萬瓩にして、尙昭和十二年に關東州鹽百萬瓩の增產計畫を樹立し爾後鹽田の開發に努めてゐる。

◇鹽田別鹽生產高（單位千瓩）

	康德三年	康德四年	康德五年	鹽田面積
營蓋場	一七三・四	一三三・〇	七九・〇	六、三七〇町
復縣場	二三七・四	一九三・八	二三三・七	四、二六八
莊河場	一五・九	四二・六	四三・八	二、一七四
盤山場	五・六	五・三	〇・四	七三
錦縣場	二〇・四	一七・六	九・〇	五四五
興綏場	二〇・二	一六・五	一一・二	六四九
合計	四七二・九	四〇八・八	二六七・一	一四、六七八
關東州	四一三・一	四五三・〇	四三〇・〇	—

◇滿洲國の鹽增產計畫（單位千瓩）

年度	既設鹽田	滿洲鹽業	合計
康・五	二三三・三	〇・二	二三三・五
〃六	三九二・七	一四・一	四〇六・八
〃七	四一六・四	八七・六	五〇四・〇
〃八	四四〇・九	二三三・一	六七三・〇
〃九	四七六・三	四五一・二	九二七・五
〃一〇	四七六・七	六六八・〇	一、一四四・七
〃一一	四七六・七	八〇八・九	一、二八五・六
〃一二	四七六・七	八四七・一	一、三二三・八

鑛業

【概要】滿洲の鑛產資源は約四十種に及び主なる品目を列擧せば次の通りで之等は法定鑛物として擧げられてゐる。

金、銀、白金、銅、鉛、亞鉛、鐵、アンチモニー、アルミニウム、ニッケル、コバルト、硫化鐵、クローム鐵、マンガン、蒼鉛、重石、水鉛、水銀、砒、燐、硫黃、黑鉛、石炭、石油、土瀝靑、油母頁岩、石灰石、白雲石、マグネサイト、螢石、長石、耐火粘土、重晶石、硝石、石膏、珪石、石綿及雲母

就中鐵、石炭、金は日本の資源が甚だ貧弱なるため一層重要性を有し、滿洲國の鑛業政策も目下右三者の急速なる開發に向けられてゐる。曩に產業開發五箇年計畫を樹立したがその重點は結局鐵、石炭の開發に置かれたものと云ふべく、又日本の正貨現送による金準備漸減の結果は滿洲の產金增加が必然的に緊急を要することゝなり、鐵、石炭の增產と共に重要性を帶ぶるに至つた。

主要鑛產量中現在判明せる推定埋藏量は次の如くであるが、昭和十四年熱河大營鎭に約三億瓩の油母頁岩又昭和十五年に阜新に於て油田も發見せられた。

石炭	二五〇億噸	菱苦土鑛	五〇億噸
鐵鑛	二七億噸	石灰石	一七億噸
油母頁岩	五九億噸	金鑛	六〇億圓
耐火粘土	二億噸		

【石炭】年產〇〇萬瓩の石炭は三大特產の一つであつて、埋藏量の豐富なることゝ、採掘の容易なることで囑望されてゐる。就中滿鐵の經營になる撫順炭鑛の如きは東洋一の大露天掘を有し、年〇〇餘萬瓩を產出し、その約三分の一は日本に輸出してゐる。外、鶴立、西安、北票、本溪湖、新邱等は有名であるが未だ數十萬瓩の產出量しかない。

採掘は滿鐵並に滿洲炭礦會社が之に當り販賣は康德三年より日滿商事會社委託によつて行はれてゐる。

滿洲の石炭は二疊石炭紀、侏羅紀、第三紀に分れ、二疊石炭紀に屬するものは主として無煙炭で本溪湖、復州、煙臺等、侏羅紀に屬するものは無煙炭、又は有煙炭で西安、八道溝、北票、阜新、鶴立等が知られ第三紀に屬するものは褐炭又は瀝靑炭で撫順、ジヤライノール等である。

【鐵鑛】鐵鑛は現在までに發見されたものの總計〇〇億瓩に達する豪華振りであるが、康德四年四月より東邊鐵鑛の大々的調査が進められてゐる。その主なるものは鞍山、弓張嶺一帶、廟兒溝、安奉沿線その他鴨綠江東北部一帶沿岸等南滿を中心に廣く分布し、朝鮮北部にあるものと同樣の所謂縞狀鐵鑛と稱へられる赤鐵鑛及び磁鐵鑛である。縞狀鐵鑛は含鐵品位三十四―五％の貧鑛が多く、火成岩との接觸によつて磁鐵鑛となつた廟兒溝富鑛の如く六十％內外のものは稀しい。

貧鑛と富鑛の限界を製鑛技術の上から含鐵率四十％とする時は滿洲に於ては貧鑛は富鑛の百四十倍に上り、鐵鑛資源は貧鑛を主としてゐることが分る。然しながら昭和製鋼所に於て完成した貧鑛處理法は貧鑛の經濟的價値を富鑛のそれに著しく近づけたが一九三五年ドイツで成功したクルップの直接貧鑛處理法はより經濟的であり、而も低度貧鑛にまで利用の途を與ふるに到つたので、俄然滿洲の鐵鑛資源は前途に一大光明を認めらるゝに至り昭和製鋼所は茲に一大飛躍を遂げることゝなつた。

【金鑛】滿洲の採金事業は土法稼行と云はれる原始的生產形態をとつてゐたが、之に加ふるに交通の不便、匪賊の跳梁、科學的施設方法の缺如、經營の小規模且つ拙劣等のために久しきに亙り不振の狀態にあつた。砂金及び山金共全滿に亙つて頗る多く、就中北滿の砂金は各河流域の廣い地域に亙つて豐富な採金場を有し、その他熱河

省、間島省、奉天省には山金の鑛產地帶相當廣く分布し、將來開發せられゝば滿洲產金の一半を占むることにならう。
　尙山金は主として滿洲鑛山會社により砂金は滿洲採金會社に依つて夫々產出せられてゐる。

【菱苦土鑛】　大石橋海城縣東方山地一帶に分布し、轉山子、牛心臺、白虎山、官馬山、聖水寺、宋家堡子、大嶺等を主要產地とし、推定埋藏量五十億瓲と稱され、良質なものはマグネシア含有率四十五—四十七%に及んでゐる。この地帶は幅七〇—千米、延長二百—二千米の廣大な露頭をなして居り、世界的なマグネサイト礦である。
　鑛區は四十餘に達し、滿鐵が多數所有し他は滿人が持つて居る。用途は金屬マグネシューム、マグネシア煉瓦(製鐵用)、リグノイド原料その他パルプに用ひられる。

【オイルシエール】　產業五ヶ年計畫の中には人造石油百萬瓲の年產を目標としてゐるが、其中にはオイルシエール乾溜による製油も含まれてゐる。撫順の大炭層上には厚さ平均一二〇米乃至一七〇米の巨大な油母頁岩が掩つて居り、標準乾溜法により粗油平均五%收得し得る。埋藏量は四四億瓲と謂はれてゐるが、企業の對象となるは差當り古城子露天掘によつて剝岩せられる部分である。礦量豐富、特に採掘費として費用を要せざること、殘滓は坑內充塡料となるため之が處分費を要せざること、燃料、勞銀等營業採算上大なる强味を有することがその特徵であり、收油量、品質等總體的に見て世界各地のものに比し中以上にある。

工業

【概要】　初めは農業生產品の加工に出發し漸次近代工業の進出を見るに至つた。
　滿洲の工業發達過程に最大の力を投じたものは、日露戰役前に於ける露國の進出と、其後に於ける日本側の經營施設及世界大戰で、更に滿洲建國に依る日滿兩國の密接なる提携は諸種工業の劃期的勃興を釀成するに至つた。政府は大同二年三月滿洲經濟建設要綱を發表して滿洲國の經濟活動の根源を定め、康德四年五月更にその經濟發達を助成し、已設產業の監督と新興企業の指導を目的とする重要產業統制法を公布し靑年滿洲の潑剌たる活動目標を定めた。
　工業地域は南は大連、北は新京迄の間を帶狀をなして發達し安東市、新興の通化及び哈爾濱を中心とする區域にも近代工業の集團がある。其他は國內全般に亙つて在來の工業、即ち燒鍋(燒酎製造)、磨坊(製粉)、油坊等散在し、その業態別は大體十一類九十三業種に分たれてゐる。

【工業會社】　百三十萬平方粁を超ゆる豐穰なる沃土と地下に埋もるゝ無限の寶庫に惠まれた滿洲國は、四千萬の勤勉なる國民と日本の協力に依り建國以來僅か九年にして、今日已に獨立せる產業國へと發展することが出來た。康德五年末に於ける會社數は三千九百、拂込資本金竝出資合計二十四億六千九百萬圓で內工業關係は次の通りである。

種別	會社數	資本金(單位千圓)
紡織染色工業	一五一	四三、五四五
化學工業	一一九	一二七、七二九
機械器具工業	一一五	二一一、六九五
製材木製品工業	九一	一六、〇六二
食料品工業	二一六	四七、四三九
雜工業	一一九	九五、八五八
窯業、鑛業	一八六	六〇三、三三一
電氣、瓦斯工業	二八	一四四、一〇三

【水力電氣事業】　從來滿洲に於ける電氣事業は殆ど火力に依つて起されてゐたが、康德元年實業部臨時產業調査局に依つて調査された結果、水力電源は第二松花江水系を始め、太子河、渾河、灤河、嫩江、牡丹江等全滿に亙り發電地點約五十ヶ所が判明した。

　目下水力電氣建設局に依つて、第一期計畫として、第二松花江吉林市上流四粁の大豐滿、小豐滿地點及び鏡泊湖に世界屈指の二大發電所を建設中であり、又日滿共同出資に依る鴨綠江水電會社により水豐發電所も完成に近づかんとし、第二期計畫としては渾江桓仁、渾江回龍、第二松花江紅石礌子の三ヶ所に設置すべく審議中である。之によつて滿洲國は從來の火力發電より急テンポに水力發電へ轉向する筈である。

商業・貿易

商業

【概要】　舊滿洲の經濟界が舊軍閥と其手先たる官商の手に委ねられ、或は恣に不換紙幣を濫發して特產物の買占を敢行し、或は主要事業の經營を獨占して民衆の生活、商民の利益を無視し、延いては全般の經濟的發展を人爲的に阻害した。主要都市を除いてはこの障害によつて國內全般は殆ど其商業組織の舊態より脫し得ず、一部地方にありては尙物々交換が行はれてゐる狀態であつた。
　建國後政府は經濟建設の一要綱として商業開發に關し一、商民の特徵は益々之を助長せしめ、舊慣の改むべきは矯正して取引の合理化を期せしめ、又生活の必需品其他國民生活に重要なる關係を有する商品に就ては適切なる供給と價格の調節を行ふこと。二、特許法、意匠法、商標法等を發布して工業所有權の保護を圖り、度量衡の制を統一し其他交易所制度の改善、寄託保險等の法制を定むる等取引に關する文明的施設を行ふこと。三、關稅政策は國家の振興を旨とし國際取引の增進を期すること等の方針を明示し、中央に經濟部商務司を置き之を中心として一意健全なる發達に努めてゐる。
　尙最近物資の圓滑なる配給が企圖され、從來の滿洲輸入會社、各地市場會社の外に滿洲生活必需品會社、滿洲糧穀會社等が次々に設立された。

【商工公會】　商工業の改善發達を圖るを目的とし、連絡調整、調停仲裁、通報、指導、仲介斡旋、說明、鑑定調査其他の業務を行ふもので、その組織は法律により定められた資格該當者を洩れなく加入せしめ、それ等會員によつて組織される。
　會の指導運用機關は參事總會と會務職員で、參事は政府から選任せる人と、政府の委囑せる銓衡委員の選任せる人々によつて組織され、會務職員は政府の任命する會長副會長及び理事から成つてゐる。
　而して右機關は康德四年(昭和十二年)十二月公布を見た商工公會法によるもので、從來の日商側商工會議所、實業會、商工會及び滿商側の公議會、商務會は何れも康德五年十月迄に新機構下に合併せられ現在までに全國に百二十の設立を見た。
　右は市及街單位のものであるが此の外省商工公會は奉天、濱江、吉林、錦州、安東龍江に設置されてあり、舊商業會議所は大連一ヶ所のみとなつた。

【輸入組合】　南滿主要十七都市及關東州二都市の日人小賣商助成機關として、滿鐵の融資により組織されたもので—日本品の販賣擴大、共同仕入と低利資金の融通、商店經營竝に商習慣、仕入の改善、仕入の斡旋、委託販賣の仲介、運賃諸掛の低減等—の業務を行ふもので、昭和二年奉天に設立、昭和三年大連に聯合會が設立されて以來漸次各地に及ぼし商工界に非常なる貢獻をなしてゐる。

【取引所】　取引所は官營と民營に分たれ官營に屬するものに大連、新京、哈爾濱の三取引所、民營のものに大連株式商品取引所、安東取引所及び滿洲取引所(奉天)がある。前者は特產及び特產に關係あるものを扱ひ、後者は有價證券、綿糸布、蔴袋、

麥粉、砂糖等の取引をなしてゐる。

【市場】 日本側市場は關東州中央卸賣市場、關東州水產會魚市場の二つで滿洲側としては大同二年暫定を見た水產市場法及び康德元年發布施行を見た中央卸賣市場法によるものがある。現在までに開設を見た中央卸賣市場は哈爾濱、吉林、新京、奉天、齊齊哈爾、牡丹江、大連となつて居り、全滿主要都市に開設が急がれてゐる。

【當舖】 滿洲に於ける金融機關として看過し得ないのは當舖の存在である。當舖は云ふまでもなく庶民金融機關であるが、日本に於ける質屋と同列に觀念さる可きでない。特に近代的金融機關の缺如せる滿洲農村に於ては從來唯一の大衆的金融機關として活躍し寧ろ地方銀行的色彩を有してゐた。之を利用するものも銀行を利用すると同じ氣持を以て接し、また經營者も高級の業種を營むものとして誇りを持つてゐる。

日本の質屋が主として享樂貨財を取扱ひ質貸金も主として消費經濟に向けられるに反し、當舖に於ける質物は生活必需品を主とし、農村に於ては農具、荷馬車の類まで受入れる。當舖の規模も概ね日本の質屋に比すれば大きく、その質代金の總額も比較的多額に上つてゐる。即ち康德五年末現在に於ける全滿當舖數は一千五百十七店、質貸金は三千八百四十六萬九千圓に上つてゐる（內大興公司經營當舖二百三店、質貸高一四、四七四、三一七圓）。

唯當舖の特色であると同時に大なる弱點であるのは、その金利が餘りに高率なることであつて、比較的低利である大興公司經營當舖すら月利二分五厘即ち年利三割であるから他は推して知るべしであり、近年當舖は興農合作社普及發達によつて大なる脅威を受けつゝある。

【無盡會社】 滿洲に於ては之を錢會若くは講會などと稱し、庶民金融機關の整備しない地方で親戚朋友隣人が集り資金を調達する爲扶け合ふところの協同組合の一種で古くから發達したものである。

康德六年末に於ける社數十二、總公稱資本金百六十五萬圓（內拂込五十八萬五千圓）で、預り金五百八十四萬三千圓、貸付金九百四十五萬圓である。

【金融合作社】 建國後政府は農村金融の梗塞を打開し、農民經濟の更生を計るため大同二年九月金融合作社法を制定公布し、康德七年四月一日を期し農事合作社と統合して單一組織たる興農合作社となり、各地方行政機關、協和會等の積極的な協力によつて、新なる協同組合運動への發足を遂げることゝなつた。

康德五年末に於ける舊金融合作社數は一二六、社員五一、四四六人、預金一九、八二九千圓、貸出二一七、一五三千圓であつた。

【滿洲房產會社】 市街地に於ける家屋建築、又は買入資金融資の機關にして、康德五年二月、政府、興銀、東拓各一千萬圓出資の下に資本金三千萬圓（半額拂込）を以て特殊會社として設立され、拂込資本の十倍までを限度として社債を發行し得る。

【滿商の組織形態】 滿人商店はこれを單獨經營のもの及び共同經營のものに大別することが出來る。前者は日本のものと大差はないが、後者は財東（ツアイトン）と呼ばれる資本主と掌櫃的（ジヤングイデイ）といはれる營業擔當者があつて、店の營業一切がこれに委せられ、店には小掌櫃的、夥計（ホーヂー）等數名乃至數十名の店員を擁してゐる。

而して此等商店は相互に連鎖關係を作り鞏固なる團結を持ち、商業に對する利益の防護、同業者間の競爭抑制、仕入販賣の共助、紛爭の處理等を圖り顯著なる發展を遂げてゐる。

【滿人の商號】 商號として愛用される文字は漢字四萬の中約五十字で、吉祥開運に關する文字、道德的意義を有する文字、國名又は地名より取りたる文字、美的觀念

に基く文字等が多い。又號尾は同一商業に共通される特質がある。その一、二の例を示せば次の通りである。

行（ハン）	問屋、仲買
棧（ツアン）	倉庫、旅館
公司（コンス）	會社
廠（チヤン）	製造工場
莊（チヨワン）	兩替商、呉服商

【滿洲國會社法】 滿洲國では從來民國十八年に制定された公司法を大同元年敎令第三號によつて援用してゐた。この法律は日本の現行商法中の會社編の規定を母法とするものであるが立法技術上相當缺陷があり且つ解釋上疑義が多かつたので滿洲國司法部當局では新會社法の立法審議に着手幾多の進步的改正を盛り康德四年六月二十四日公布同年十二月一日より施行を見た同法は五章四百四十八條より成り大體に於て日本商法の會社編改正案に倣つて立案されてゐる。

【金利】 金利の調整は最近都鄙を通じ次第に正當なる狀態に移行し、金利水準の低下は一般に實行されてゐる。即ち標準金利を示せば次の如くである。

機關名	定期預金（六ヶ月）	當座預金	手形割引	長期貸付
中央銀行	年利% 三・六	日歩 〇・二	日歩 一・五	日歩 一・八
興業銀行	〃 三・六	〃 〇・二	〃 最低 一・五	年利% 最低 七・〇
內國普通銀行	〃 最高 六・五	〃 最高 一・一	〃 最高 三・五	日歩 最高 四・〇
金融合作社	〃 六・〇	〃 〇・四	〃 二・九	年利% 一三・〇
郵政儲金	据置（二年以上） 年利 四分四厘一毫	普通 年利 四分二厘		

貿易

【概要】 一八六四年牛莊の開港を以て世界經濟と切線を描いた滿洲は爾來帝政ロシアの極東經營に拍車を加へられ、次いで日本の滿蒙に對する經濟的寄與により逐年躍進をつゞけ、今日の盛大を見るに至つた。

即ち北滿鐵道の開通及南滿鐵道を中心とする諸鐵道の敷設、諸港灣の設備と移住民の增加に伴ふ奧地開發の進展と相俟ち、逐年貿易額は上昇した。（單位千圓）

年度	輸出	輸入	入超
一九三二	六一八、一五六	三三七、六七二	（出超）二八〇、四八四
一九三三	四四八、四六八	五一五、八二三	六七、三五五
一九三四	四四八、四二六	五九三、五六二	一四五、一三六
一九三五	四二一、〇七七	六〇四、一四九	一八三、〇七二
一九三六	六〇二、七五八	六九一、八八九	八九、一三一
一九三七	六四五、二九七	八七七、四一一	二三二、一一四
一九三八	七二五、四五四	一、二七四、七四七	五四九、二九三
一九三九	八二六、一九〇	一、七八三、三六六	二、六〇九、五五六

滿洲國の對外貿易の特徴は出超であつて一九三二年以前は總て黑字にあつた。主要輸出品は大豆を初め粟、落花生、玉蜀黍等の特產物であつて、特に大豆の如きは世界の約七割を生產してゐる。然るに世界の經濟恐慌による保護稅の爲に、對外輸出が激減したのと、建設の爲め最近數箇年間は輸入超過の狀態である。

此の貿易中でも日滿貿易が主要な地位を占めてゐることは言を俟たない。

【貿易系統】 滿洲の貿易は稅關別に南滿（大連、安東、營口）、北滿（哈爾濱）、東滿（龍井村、圖們）、西滿（承德、山海關）に大別される。內南滿三港の貿易額は九十％以上を占め貿易の大勢は、南滿三港の消長により左右されると云ふも過言ではあるまい。

北鮮羅津港が完成せば、京圖、拉濱、圖佳の各線と相關聯してやがて裏日本時代を現出すべくその將來は刮目すべきものがある。尙奉山線壺蘆島は阜新炭輸出を主として遼西、熱河一帶の物資吞吐港として躍進すべく築港完成も間近い。

輸出品―大豆、雜穀及び種子、豆粕、豆油、石炭、銑鑛

輸入品―綿織物、鐵及び鋼、小麥粉、車輛類、機械類及び工具、木材、麻袋

◇對日主要輸出入品名及金額（康德五年　朝鮮を含まず　單位千圓）

輸出品		輸入品	
大豆	七四、五〇九	生綿布	三五、一五一
高粱	六、七二四	漂白染色綿布	二九・〇九八
大豆粕	六三、七七五	捺染綿布	一一、〇〇四
混合飼料	六、四一六	絹織物	四、二六五
石炭	二〇、五六三	機械及工具	—
鹽	七、〇四九	鐵及鋼	七〇、一九六
		車輛船艇	—
		小麥粉	四〇、七〇四
		砂糖	三三、四三三

◇對日支其他貿易百分比

	輸出%			輸入%		
	日本	支那	其他	日本	支那	其他
建國前五箇年平均	四三	二九	二九	四一	三〇	二九
大同元年	三八	三〇	三二	五八	一八	二四
康德元年	四九	一五	三六	六九	一〇	二一
〃四年	五〇	一八	三二	七五	四	二一
〃五年	五七	一七	二六	七七	六	一七
〃六年	六三	二〇	一七	八三	四	一三

財政

建國前の財政は紊亂を極め、幣制、税制の亂脈不統一は國民經濟の健全なる發達を許さず、建國當初國際聯盟調査團をして、此の地に於て財政確立の萠芽をすら見出し能はずと嘆ぜしめた程であつたが、爾來政府は財政の根本方針として、堅實なる財政制度の採用と健全通貨制度の確立により國內信用程度を發達せしめ產業開發の素地を作ることに努力を續けた。其結果建國年度より康德三年に至る財政創成期、即ち國家體型整備時代の財政政策の遂行に成功し、次いで康德四年よりは國力增進開發時代に入り、財政方針も斷然積極主義を採用、世界列强が赤字財政に喘いでゐる時獨り新興滿洲國は安定通貨主義並に健全財政主義の徹底を期することを得た。國家豫算に就ては建國直後國庫統一の方針を決定し、數箇月の間は月割豫算に依つたが、大同元年度より年度豫算制を採り、近代的の明確なる會計制度を實現し、更に康德三年度豫算よりは滿洲國經濟の實情に鑑み、曆年度に依る會計年度を確立し、決算を包括する新會計法を制定した。康德七年度の滿洲國豫算額を示せば次の通りである。

尚康德六年度より共同國防費負擔金の繰入が停止された。

	歳入	歳出
一般會計	五七三、五五五、〇〇〇圓	五七三、五五五、〇〇〇圓
特別會計	二、〇二五、一二七、七〇三圓	一、九二七、四七五、〇五五圓

金融方面にあつては大同元年中央銀行を設立して發券銀行に指定し各省銀行を併合し各地方の公私銀行が整理統一され康德四年一月より滿洲興業銀行營業を開始し、金融の圓滑を計り、營業開發に必要なる資金を供給してゐる。昭和十五年五月末に於ける滿洲中央銀行發行紙貨幣高は六億二千五百萬圓で正貨準備高は三億一千萬圓である。また政府は農村の金融に力を注ぎ興農合作社を各地に設け、春耕資金の貸附を行つてゐる。更に石油、阿片、火藥等の專賣を實施して國民生活の安定に資し、鹽の行政を整正して健全な成績を擧げつゝある。

【租稅體系】

- 內國稅
  - 收益稅
    - 地稅
    - 營業稅
    - 所得稅
    - 出產糧石稅
    - 鑛業稅
    - 取引稅
    - 禁烟特稅
  - 消費稅
    - 菸稅
    - 遊興飲食稅
    - 統稅
  - 交通稅
    - 契稅
    - 印花稅
    - 登記稅
    - 登錄稅
- 關稅
  - 關稅
    - 輸入稅
    - 輸出稅
  - 噸稅

中国大観



略史

三皇五帝、堯舜二帝の傳說時代を經て禹が舜の禪りを承けて天子の位に卽き國を夏と號し、其子啓が立つに及んで天子世襲の風を生じたと云はれてゐるが、爾後四千有餘年の間、漢滿蒙等を中心に各民族が起つては亡び、亡びては起り、此の間しばしば儒家の理想たる聖賢政治の理想的君主が現はれ、或は暴虐無道極りなき帝王も現はれて、今日の中華民國に至るまで其の歷史は常に中原の爭覇に終始してゐた。然し支那文化の推進力は常に漢民族に握られ、邊境より興つた民族は悉く漢族に同化されるに至つたものである。

今有史以來興亡國家の存續年數を一瞥すれば左表の通りである。

時代	皇紀	存續年數
夏	前一五四〇年頃	約四百年間
殷	前一一〇〇年頃	約六百年間
周	前四六〇年頃	約八百年間
春秋・戰國	前一一〇年頃	約五百年間
秦	四四〇年	約十五年間
兩漢	四五九年	約四百六年間
三國	八八〇年	約六十年間
晉	九四〇年	約百六十年間
南北朝	一〇九九年	百五十年間
隋	一二四九年	三十年間
唐	一二七八年	二百九十年間
五代	一五七六年	四十四年間
宋	一六二〇年	三百十七年間
元	一九四一年	百六十三年
明	二〇二八年	二百七十年間
清	二三〇五年	二百六十八年間
中華民國	二五七二年	

境域

大體に於て支那の面積は一千萬方粁前後と考へることが出來、また其人口は四億餘とみられ、日本の十五倍もある廣大な地域で、ヨーロッパ州全面積に匹敵する。

【位置】　東は東經百二十三度內外にて太平洋に、西は東經七十四度弱に亙つて天山山系の一點中央アジアに連る所を以て限りとし、南限は海南島の南端北緯十八度四十分、北は外蒙の一角サヤン山脈のシベリアに界するところ北緯五十三度四十分位に終る。

【北支の地勢】　支那西部の山西、陝西、蒙疆地帶が高地で、黃河流域にある山東、河南と白河水系の流域にある河北の三省は平野である。山の多いのは山西、陝西と京漢線以西、蒙疆南部と山東の一部である。蒙疆地域の中部以北は高原地帶をなし察哈爾、錫林郭爾盟地域は南に分水嶺を持ち北方に傾斜してゐる。隨つて北支は東南の四分の一が平野で他は高原と山地だと云へる。

三海岸線中渤海沿岸は灣曲に乏しく、その全部が黃河、白河の沖積低地より成り、海岸は泥砂の關係で平砂劃一の狀を呈してゐる。又山東海岸は海岸山脈が海に直面して屈折に富み、膠州灣の如きはその代表的なるもので嶮崖相集る狀態にあり、江蘇海岸は灣の曲折は乏しいが海底遠淺で所々に大砂洲を有してゐる。

北支の水系は大部分黃河の流域に屬し揚子江と共に支那の二大水系をなしてゐる。

黄河は崑崙山脈に發源し、甘肅省に入りて洮河及び大通河の二大支流を合せ寧夏を經て一旦蒙古地方に入り、綏遠省內を東流し、包頭の邊に至りて急にその方向を變じて南流し、長城外邊の秦家口に至りて山西、陝西の省界をなしつゝ南に直流すること六十キロ、その間峽谷をなし潼關に至りて渭水を合せ、それと同時に急にその方向を轉回すること五十度以上に及び、東流三百キロにして京漢鐵道の黄河大橋に至り、始めて中原平野に出づるのである。

中原平野に出た後の黄河は古來屢々河道を變じ、山東山地を中にして或時は北の方渤海灣に注ぎ、或る時は南の方江蘇の沿岸にその出口を求め、平原內を溢流して放縱の限りを盡したことは、支那三千年の歷史がこれを證し、またその氾濫によつて中國人が如何に惱まされたかは、支那に「中國に一大憂あり、官吏、道路、黄河」と云ふ古諺があるによつても知ることが出來る。

往昔黄河の支流であつた白河は天津附近に於て運河(永定河)、溢水、滹沱河、漳河等の水を集めて渤海に注ぎ、更にその北には滿洲國內に發源する北塘河と灤河とが同じく渤海に注いでゐる。

また南方には淮河が河南安徽の諸水を集めて東海に注いでゐる。山東山地には特に記すべき程の河川がない。その主なるものは中央山地に發源する汶水、泗水、沂水等であるけれども、これ等は寧ろ黄河流域に入る可きもので、大運河によつて互に相通じ、黄河南流の際には事實上その支流であつたのである。

【中支の地勢】 中支と北支を區別する北嶺は崑崙山系から分脈せる岷山々脈を初め、秦嶺、大巴山、伏牛山、淮山等が屬し、之等諸山は必ずしも一體系をなすものではないが大體中北支を區分してゐる。高さは秦嶺が海拔二〇〇〇米乃至二五〇〇米、大巴山が一〇〇〇から二〇〇〇米である。又南支との區分をなす南嶺は割合低く、閩浙山地の仙霞嶺山脈が海拔一五〇〇米乃至二〇〇〇米で、この山系に屬するものゝ中最も高いものである。北嶺と南嶺に挾まれた諸地方が所謂中支那であるが、その中間には平野と山地が交々存在してその間を河川が縫ひ、湖沼が存在してゐる。

支那事變で有名になつた廬山山系或は大別山等も又南北嶺の中間に突起した山岳である。平野は山岳と河川とを中心に横はり中でも呉の平野(蘇州平野)は肥沃なることを以て有名である。又印度支那山系に屬する大雪山脈は四川の西に聳え海拔六千米の嶮峰もあり四時雪を頂いてゐる。

更に地形上から考察した中支那について誰しも考ふるは揚子江であり揚子江を叙述することに依つて中支の大部分を叙述することが出來るとも云へる。全長三千二百哩西藏高原の北側に發源し大雪山脈を横斷して三峽を經、宜昌、漢口、九江、南京を經て上海の北にて海に注ぐもこの間多くの支流を併せ又峽谷、湖沼を作つてゐる。

有名な大運河は鎭江に於て揚子江と交叉し、北水道より起る江蘇運河は淮河、黄河を横斷して天津に通じ、南水道より起る江南運河は太湖、錢塘江を横斷して杭州に至つてゐる。

【南支の地勢】 南支を地形的にみた場合そこを全體的に貫流してゐるやうな揚子江とか黄河のやうな大河のないことが北・中支と異る點である。北部には閩江と浙江(錢塘江)とが流れて地勢的に一區域を形成し、南部に於ては所謂粤江流域を形成してゐる。粤江流域とは西、東、北、三江の總稱であり西江を最大とするので西江流域の稱もある。雲貴の一部と兩廣がその流域に包括され南支に於ける代表的な河川である。故にこの地方の氣候を嶺南地帶として特殊に扱ふのであるが、その意味は粤江が所謂嶺南山系に屬する水系にあるからで香港の位置は丁度その中央となつてゐる。

河川

支那五大江河

本流	支流
揚子江	鴉礱江、岷江、沱江、嘉陵江、烏江、澧水、沅水、資水、湘水、漢水、贛水
黄河	洮河、大通河、無定河、延水、汾水、渭水、洛水、沁水
珠江	柳江、鬱江、桂江、賀江、北江、東江
淮水	潢河、洪河、南汝河、曲河、史河、淠河、潁水、西肥河、惠濟河、渦河、北肥河、澮河、睢河
沽河	白河、永定河、大清河、滹沱河、南運河

其他
甬江(浙江) 晉江(福建) 靈江(浙江) 薊運河(河北) 伊洛瓦底江(西康・雲南) 廉江(廣西・廣東) 九龍江(福建) 韓江(福建・廣東) 甌江(浙江) 浙江(安徽・浙江) 伊犁河(新疆) 閩江(福建) 灤河(察哈爾・河北) 元江(雲南) 怒江(西藏・西康・雲南の一部) 運河(河北・山東・江蘇・浙江)

湖水

湖水名	關係省名
寶應、高郵、邵伯、大縱、太湖、澱山	江蘇・浙江
長蕩、滆湖、石臼、固城、襄南、巢湖、陽城、南漪	安徽
白蕩、柴子、武昌、泊湖、感湖、鄱陽	湖北・湖南
保定、梁子、釜頭、洪湖、長湖、曹湖、武湖、洞庭、黄蓋	江南・安徽
洪澤、駱馬、陵子、四山、紫蘆、湯池、東湖、西湖、花園	安徽・江蘇
百脈、南旺、蜀山、南陽、昭陽、微山	山東

灣口

渤海灣、嶗山灣、膠州灣、杭州灣、三門灣、三都澳、興化浦、浮頭灣、碣石灣、紅梅灣、白耶士灣、廣東灣、廣州灣、東京灣

山系

山系名	關係省名
パミール	新疆、印度國境
天山山系	新疆
ヒマラヤ山系	支那、印度國境
崑崙山系	青海、西藏省境
喀喇科隴山系	新疆
阿勒騰塔山系	新疆
阿爾泰山系	外蒙、甘肅、新疆
陰山山脈	綏遠
岷山山脈	四川、西康、青海甘肅
嵩山山脈	河南
苗嶺山脈	貴州
五臺山脈	山西
泰山山脈	山東
南山山脈	陝西
大行山脈	河北北部
伏牛山脈	河南
北嶺山脈	陝西
巴山山脈	四川
中條山脈	山西南部
連技山脈	山西
恒山山脈	山西
浙西山脈	浙江
黄山山脈	浙江、安徽、江西
天目山脈	浙江、安徽
淮陽山脈	安徽
衡山山脈	湖南南部
雪峯山脈	湖南
武陵山脈	雲南
大婁山山脈	貴州
楓嶺山脈	浙江、福建
大別山脈	湖北、河南、安徽
雲峰山脈	江南、廣東
仙霞嶺山脈	江南、福建
大庾嶺山脈	江西南部
梁山山脈	同
大英嶺山脈	廣東、湖南江西

氣象

【北支の氣候】 一帶に乾燥して氣溫は大陸的に激變し、朔北の烈風時に砂塵を捲いて天日ために暗しの言を生み、所謂黃塵萬丈の光景を呈すること稀しくない。然し西部高原地帶と中原平野では氣候上相當の差違あり、概して三寒四溫の大陸風であるから、寒暑何れの場合も比較的凌ぎ易い。

冬の季節は割合に長く、八、九月頃から翌年の四、五月頃までは乾期に屬し、六、七月は雨期である。この季節には黃河が大氾濫することあり、この雨季以外では一、二月頃よく雨が降る。

突風は蒙古方面から四、五月頃よく襲來し時には人畜を害し交通を杜絕する時もある。一年を通じて旅行に最も便利明朗な時はまづ九、十月であらう。

【中支の氣候】 やはり地域尨大で一概に云ふは困難であるが、大部分が所謂揚子江型と云つて多雨帶に屬してゐる。支那文明が黃河に發して揚子江に至つてゐることを思ふ時、揚子江によつて代表される中支那の氣候が他の諸地方に比して溫和なることが證明出來る。揚子江を上、中、下流の三つに分けて述ぶれば大體次の如くである。

（上流） 大體四川省が中心で此地方は土地高く且つ奧地の關係で大陸性の氣候に支配されてゐる。中心は重慶で最寒が一月、最暑が八月、五月から八月にかけて雨が多いが、雨量は下流に及ばない。溫度は八月の最高百十度、最低は一月で平均四十七度と云ふから大して低下しないのである。

（中流） 湖北・湖南・江西地方で漢口が中心である。この地方も大陸的氣候の影響を受け、寒暑の差は相當に多い。一、二月の候には所謂蒙古風の影響を受け、雨期は五、六、七の三箇月で、九月に入ると晴天が續いて秋期に入りその期間は極めて長い。

（下流） 安徽、江蘇、浙江三省で中心は大體上海である。海岸線に接してゐるために海洋的氣候に支配されてゐる。南端は多少亞熱帶的なところもあるが、概して良好である。雨期は六月、中流に比して雨の尠いこの地方は又夏期季節風の影響を受ける。

【南支の氣候】 香港は沿海北部と嶺南地帶の中間にあり亞熱帶的な南支氣候を代表するものと云へる。然し廣大な地域であるから南支全體から見た場合その地方々々によつて非常な相違がある。例へば西南の山岳地方は山脈によつて氣候が調節されるので、雲南省の低地は炎熱燬くが如きでありながら、省城昆明は氣候極めて良好で四時春の如しと云つた狀態である。

下つて廣東、廣西に至ると多期は五十度から降ること稀で天氣晴朗であるが夏期に至れば急騰する。それでゐて廣西の北部山岳地帶は多期凜烈なる寒氣が襲つて時には降雪をみる。かうした南支の氣候を決定するのは緯度の關係は勿論であるが大體季節風の影響であり殊に南西季節風の影響する度が大きい。

◇各地各月平均氣溫表（攝氏）

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均
青島	(－)〇・四	(－)〇・四	四・七	一〇・四	一六・一	二〇・〇	二三・三	二一・九	二一・二	一六・〇	八・一	一・四	一二・九
威海衛	(－)〇・四	三・一	七・七	一四・九	二一・六	二七・一	二五・八	—	二〇・七	一三・八	四・一	(－)三・二	一三・七
天津	(－)四・一	(－)一・八	四・七	一三・七	一九・五	二四・七	二六・一	二五・九	二〇・八	一四・二	四・五	(－)三・四	一二・〇
北京	(－)四・三	(－)〇・二	六・八	一四・九	二〇・三	二五・六	二七・六	二五・四	一九・六	一三・六	五・四	(－)一・九	一一・七
太原	(－)八・四	(－)三・一〇	三・八六	一一・二八	一八・三六	二三・二三	二五・〇八	二三・七九	一八・一三	九・八六	二・一三	(－)五・四五	九・九
張家口	(－)一七・八	(－)七・六	(－)七・〇	一一・二	二〇・〇	二三・六	二三・一	二三・六	一八・二	八・七	(－)二・〇	(－)七・二	七・七
臨汾	(－)二・二	一・八	一〇・三〇	一六・六	二四・三	二三・六	三一・七	二七・一	二四・一五	一二・六五	七・〇〇	(－)一・一〇	一五・六五
南京	二・二	三・七	八・六	一四・五	二〇・三	二四・四	二七・七	二七・五	二二・七	一七・〇	一〇・六	四・七	一五・三
東臺	一・〇	一・九	七・五	一三・八	一九・〇	二三・〇	二八・三	二八・四	二三・一	一七・〇	一〇・六	五・二	一五・一
徐州	(－)一・一	一・五	八・〇	一三・五	一九・六	二四・八	二八・三	二六・九	二二・〇	一五・四	八・二	二・一	一四・一
鎭海	四・四	五・二	九・二	一四・六	一九・四	二三・五	二七・八	二七・八	二三・八	一八・六	一三・一	八・一	一六・三
溫州	七・二	八・一	一一・八	一七・六	二一・五	二五・四	二九・一	二九・五	二五・七	二〇・六	一五・六	一一・四	一八・六
安慶	一・六	六・三	一〇・一	一五・〇	二五・二	二六・一	三一・八	三一・五	二五・一	一五・八	一二・六	八・三	一七・五
蕪湖	一・六	四・一	九・八	一五・四	二〇・九	二四・八	二八・七	二八・六	二三・四	一七・四	一一・四	五・五	一六・〇
九江	二・七	五・三	一一・〇	一六・五	二二・三	二五・九	二九・五	二九・二	二四・二	一八・一	一三・一	六・二	一六・九
南昌	一・八	三・二	八・一	一三・五	一九・二	二三・三	二七・八	二八・〇	二三・六	一七・三	一一・四	五・九	一五・二
漢口	二・九	五・七	一一・九	一七・四	二三・〇	二六・五	二九・八	二九・六	二四・五	一八・六	一三・八	六・〇	一七・四
宜昌	五・九	七・〇	一三・四	一七・八	二二・六	二五・八	二九・一	二八・九	二三・八	一八・〇	一三・三	六・九	一七・四
岳州	二・五	五・三	一一・二	一六・八	二二・〇	二五・四	二八・八	二八・一	二三・四	一七・五	一二・〇	五・七	一六・六
長沙	四・一	六・五	一三・〇	一八・一	二三・五	二七・〇	三〇・一	二九・六	二五・〇	一八・〇	一三・三	六・八	一七・九
衡州	二・六	七・二	一一・二	一六・五	二四・一	二六・二	三〇・三	三〇・一	二六・四	一七・八	一三・〇	九・〇	一七・九
重慶	七・三	九・八	一四・八	一九・五	二二・六	二五・二	二八・九	二九・六	二三・七	一八・七	一四・二	一〇・三	一八・七
成都	五・七	八・七	一三・〇	一五・六	二二・八	二三・八	二六・一	二五・三	二一・五	一五・九	一〇・一	八・八	一六・三

◇各都市の年降水量

東京	一、五五八粍
京城	一、二六〇粍
廣東	一、六四一粍
漢口	一、一六七粍
上海	一、一三八粍
北京	五六〇粍
青島	六六二粍
張家口	三四四粍
ニューヨーク	一、〇四三粍
ロンドン	六一一粍
ベルリン	六二三粍
ローマ	八八〇粍
レニングラード	五三九粍
新京	六五〇粍

◇月降水量と年降水量との比

	北支 %	中支 %	南支 %
十二月	〇・四	一・六	二・二
一月	〇・四	三・九	三・二
二月	〇・九	四・五	三・五
	一・七	一〇・〇	八・九
三月	一・一	六・八	七・五
四月	三・〇	一一・一	九・三
五月	六・四	一二・七	一四・六
六月	一四・一	一六・七	一七・三
七月	三三・〇	一三・五	一三・〇
八月	二四・三	九・九	一三・五
	七一・四	四二・九	四四・九
九月	一一・〇	七・五	一〇・一
十月	三・三	七・八	四・三
十一月	二・〇	四・〇	一・五

生物

【北支の動物】 北支は動物地理學上中支と共にウォレス A. R. Wallace. の分類に從へば舊北區に屬してゐる。舊北區は北米の新地區に對するものでヨーロッパ全土、北回歸線以北のアフリカ及びアラビヤ、アジア大陸（印度、ビルマ、シヤム、東南支那を除く）日本（琉球、臺灣を除く）を含む廣大な地域で、此の地帶に分布する動物のうち特に北支那の長城に沿ふ各省及び蒙疆地方では羊、牛、山羊、馬、騾、驢を産し、山林廣野には、虎、豹、熊、野猪、獺、狼、鹿類棲息し、甘肅、陝西地方には羚羊、貂、獐狍、山狸、灰鼠、黃鼠等がゐる。

鳥類は極めて豐富で、鶴、鷗(鷲の類)、隼、鶻(鷹の類)、松鴉、沙鷄、長尾鵲、白鷺、黃鶯、主乾哥、山七面鳥、黃鳥、山老鵲、鐵雀等がゐる。

尙畜産として多く産するものは水牛、黃牛、馬、驢馬、騾馬、山羊、緬羊、豚、鷄、鴨等である。

魚族は河北省沿岸では關東州や山東沿岸と大差がない。

海産動物は鯛、鮁魚、比目魚、太刀魚、海老、蟹、茅停、鯖、鱸、鯡、鰶、鱒、鯔、鰣、鰈、鱈、鱧、揚卷、鱆、烏賊、生子、淺蜊等である。

淡水動物は鯉、鮒、鯰、鼈、海老、蟹等が湖沼河川に多少棲息する。

【中支の動物】 此の動物區は山羊、鹿、牛、狼、狸、栗鼠、野猪、雉、鵲、雷鳥等を特産物とし、狸々、ギボン、印度象、孔雀、麝香猫等を代表種とする東洋區に南接する。南支那及び日本の琉球、臺灣は東洋區に屬してゐる。從つて日本內地と特に異りたる動物を産しない。左に主なる棲息動物を列記する。

野生動物（哺乳類）—虎、豹、獺、狸、栗鼠、狐、野猪、兎、鼬、熊、鹿、猿、蝙蝠、蝟、豺

鳥類—野鷄、燕、啄木鳥、山雀、郭公、鷹、隼、麻雀、斑鳩、鴿、梟、嶌、雉、鵲、鶺鴒、烏、鴨、雁、鷺、鴟、鷲

飼養動物（家畜）—牛、馬、驢、騾、羊、山羊、豚、犬、猫、水牛

家禽—鷄、家鴨、鵞鳥

水棲動物（淡水動物）—鯉、鱖、鰱、白魚、鯿、鰻、魴、鮎、草魚、鬪魚、烏魚、銀魚、雄黃、鰍、鯇、鱔、靑魚、泥鰍、蝦、蟹

海産動物—沙魚、帶魚、黃魚、銅盆魚、飯魚、七色魚、紅姑魚、大頭魚、老虎魚、墨魚、海豚、鰳魚、鰤、鱸、海蜇、鞋底魚、鱖、海蝦、鰣、白鱘、鯓、鯵

【南支の動物】 琉球、台灣等と共に東洋區に屬し、海洋では印度太平洋區に屬してゐる。此區域は熱帶及亞熱帶にありて所謂熱帶動物棲息し、即ち哺乳類ではオランウータン、ギボン、擬猿類に屬するローリス・タルシウス、印度象、印度犀、印度獏、シエプロテン、虎、麝香猫、穿山甲等を産する。

本區はエチオピア區と動物相類似し、又嶺南及び雲貴高原の動物は同區內の印度、印度支那、馬來群島等と多少異るので、南支那區を設定さるべきものと考へられてゐる。

本區には孔雀、野鷄、白閑、連角、九官鳥、アルグス雉、大官鳥、蕃鵑等の鳥類、ヘビトカゲ、メクラヘビ、ニシキヘビ、コブラ、アヲハブ、アマガサヘビ、インドトカゲ等の爬虫類、其他トゲキモリの如き兩棲類、セビレナガナマズ、ウワコメギギ、アナバス、アムバシス等の魚類を産し宛然熱帶色を現はしてゐる。

家畜、家禽類は中支と略同じである。

【北支の植物】 北支の植物は中支と共にエングラー（Adolf Engler）の分類に依れば東亞植物區に屬する。この區系は南

嶺は大體揚子江の南より北部は滿洲、ウスリーに及び、日本では南九州より北海道、千島の南部、樺太に及ぶ廣大な區域でその種類も多種に及ぶが、先づ北支に關係あるものを擧ぐれば大體次の如くである。

山東省—馬尾松、黑松、楡、楸、柞、榛、楊、檜、黃櫱、泡桐、胡桃、黃蓮木、槐、白松、梓

河北省—桐、馬尾松、黑松、檜、槐、楡、椿、楊、柳、麻櫟、穿天楡、栗、白松、樺、皂莢

山西省—馬尾松、黑松、槐、楡、楊、柳、栗、櫸、雲杉、胡桃、白楊、靑柳、槭、麻櫟、黃櫱、白松

次に農産としては、小麥、大麥、高粱、棉花、玉蜀黍、煙草、大豆、甘藷、落花生、粟、黍、胡麻、菜種等であり

果樹及び蔬菜としては、梨、桃、杏、柿、柘榴、栗、苹果、花紅、葡萄、棗、櫻桃、白菜、蘿蔔、葱、菠、菠菜、蒜、辣椒、茄、蓮根、芹、菜、芋等である。

【中支の植物】 此の地方の植物は極めて饒多で幾多特種の固有屬の外にインド、ヒマラヤとの關係ある多くの分子を含み、又洪積期までは地續きの地方であつた日本西南部とも大なる關係あり、殊に重要なことは北米東海岸の分子をなす幾多の屬が此地方に存在することで、植物學上將來研究を要する問題と云はれてゐる。

支那中部地方は中井博士の說によれば、東南部地方に比し植物調査進み殊に四川、湖北は然りである。四川は面積廣く又山岳地帶のため植物の種類多く、湖北省は位置より云ふも植物地帶の中心地であるだけ支那特産の要素も甚しく多い。此等の植物は此省を中心として八方に擴散し行けるものと考へられる。

支那中部植物が最も盛んに分化發達を遂げた原因の一つは洪積期に於ける氷河の影響が些少であつた事實である。氷河時代に南方より入つた各種の植物が獨自の發達をなし、現在見る如きフローラーの出現を見たのであつて、此の地方は支那固有の植物要素の發祥地として重大なる意義があると云ふのである。

便宜上通俗的に分布植物を列擧すれば次の通りである。

林野植物—松、柏、杉、櫸、朴、檞、槐、白楊、樺、漆、柳、梓、槭、黃櫱、樟、黃楊、側柏、扁柏、麻櫟、泡桐、公孫樹、椿、胡桃、楡、山毛欅、竹類、皂莢、檜、黃檀、白蠟

農藝植物—稻、麥類、荳類、煙草、茶、桐、棉、麻類、棗、葡萄、栗、枇杷、櫻、柿、桑、林檎、杏、柑、橘、胡麻、楊梅、甘蔗、甜菜、瓜類、玉蜀黍、粟、高粱、黍、蔬菜類、牡丹、芭蕉、木犀、芍藥、海棠、梔子、薔薇、柘榴、山茶花、蘭類、躑躅、木蓮、藤、梨、李、葵、落花生

【南支の植物】 中井博士區分による東亞植物區系によれば雲南、貴州兩省は支那西南部地方へ、福建、廣東、廣西、香港、海南島は中支那の江西、湖南兩省と共に支那東南部地方に屬してゐる。

西南部は卽ち雲貴高原であり、一、二〇〇米以上の高地なるため緯度低き割に氣候溫和であつて稀に見る植物の種類豐富な地方である。特に興味あることは東南部よりも寧ろ台灣の植物群に類似多きことは植物學上問題視されてゐる。

又此地帶には松柏類に多數の屬あるもウラジロマキ屬は唯一種で西南部支那と台灣に限られ、蘇鐵はその分布の西限を示して居り、クスノキ科も種類が多い。日本にあるボケ類は此地方の原産である。又ヒマラヤ山系の西藏方面と同じくシヤクナゲ類が世界で最高の分化をなし、常綠種が多く、春から夏にかけ美しく咲き亂れてゐる。モクセイも本地方の特産と稱せられ、リンダウ屬、サクラサウ屬等も著しく發達してゐる。

支那東南部は福建、兩廣及び中支の江西湖南を含む廣大な地域であるが、福建省は江西、湖南と共に中支の植物群と交涉深く兩廣地方は熱帶性植物に富み、西南部地方との關係を保ちつゝ佛印、タイ國、馬來、台灣、フヒリツピンと連絡を存し、海南島は純熱帶性の植物を主としてゐる。

松、金錢松、水松、福建柏は西南部に少く、水松は此地方の特產屬である。柳は中支より減少し、ツツジ科も減少してゐる。ラウバイ科、キヤウチクトウ科は美しい花を開き、ツゲ科、ウルシ科、モチノキ類は種類が多い。單子葉植物ではシユロ科多く又タコノキ類も數種知られ、タケ科は南方系の種類を含み大形のもの多く、草本ではユリ、ラン科に珍奇なるもの多く、イネ科は豐富で七〇屬にも達してゐる。

住民

【人口】 支那の人口統計は區々不統一にして正確なる實數を知り得ざるも、詳細にして比較的信憑し得るものとして一九三七年版英文中國年鑑所載の陶孟和、王士達兩氏の數字に依れば大體次の通りである。

△地域別面積人口表

	面積(方粁)	人口	一方粁の密度
中支七省	一、三二一、一六五	一九五、五五四、四六九	一四八・〇一
北支八省	一、七六四、六五六	一二八、三九二、七四七	七二・七五
南支五省	一、一三七、八三四	七三、三五一、三五六	六四・四六
邊境六地方	五、六六二、八一八	七、〇五二、七二八	一・二四
全土	九、八八六、四七四	四〇四、三五一、三〇〇	四〇・八一

中支七省 (江蘇、浙江、安徽、江西、湖北、湖南、四川)
北支八省 (河北、山東、山西、河南、陝西、甘肅、舊察哈爾、舊綏遠)
南支五省 (廣東、廣西、雲南、福建、貴州)
邊境六地方(西藏、西康、青海、新疆、寧夏、外蒙)

何れにしても世界總人口の約五分の一を占めて居り、その大部分は楊子江、黃河、珠江の中下流地方から海岸附近に多く四川盆地、渭水の盆地等にも稠密である。故に人口密度の過大な地方では盛んに國內、國外に出稼ぎまたは移民を試みる。北支の住民、特に山東の住民が苦力として滿洲に移住するのを始めとし、中南支の人々が華僑として印度支那、タイ國、南洋方面に出て行く數は夥しいものがある。

これ等支那の住民を形成してゐる種族は大別して漢族、滿洲族、蒙古族、トルコ族、西藏族であつて、この外に先住民族たる苗族がある。

アジヤ人種
- 崑崙屬(支那屬)
  - 漢族
  - 西藏族
  - 苗族
- ウラル・アルタイ族(シベリヤ屬)
  - 滿洲族
  - 蒙古族
  - トルコ族

○漢族

吾人が支那人と稱するものは實にこの種族であつて全人口中の九割以上を占めてゐる。その起源は明かに追求すること困難であるが、已に五千年以前に於て支那の西北方から黃河の沿岸に移住して漸次繁殖し、その先住民族たる苗族を南方に壓迫して初めは自ら「夏」と稱したが、發展するに從つて苗族始め各種の蠻族を或は驅逐し或は同化して今日の大をなした。東洋史に散見する萊夷(ライイ)、除戎(ジヨカイ)、百越(ヒヤクヱツ)、氐羌(テイキヤウ)、群狄(グンテキ)、群貊(グンハク)等はこれ等蠻族であり、多くは漢種族に同化された。

【漢族の同化力】 漢民族の最も著しい特色は、他の强大なる民族から時に武力を以て徹底的に征服せらるゝことがあつても、彼等は常に文化と經濟とを以て征服者を征服同化して行くことである。

抑も漢民族の住地たる支那本土の北部は

彼の廣漠たる滿洲、蒙古、新疆及び中央アジアの大草原であつた。初めこの地方に住んで遊牧をこととしてゐたこれ等民族が、氣候寒冷地勢高燥天惠頗る薄く、其生活上の必然性から慓悍にして一度鞭を擧げて南下すれば向ふところ敵なく萬里の長城も一朝にして奪取せられ黃河流域の豊沃な平原は忽ちにしてこれ等闖入者に占據せられ、酋長はこゝに國を建て、或は「元」と號し或は「淸」と號する。その從者は周圍の綠野千里の間に耕耘する漢人農業者の安定な生活を羨み、水草を追うて移住した過去の不安定な生活を脫してこゝに農業生活者と化する。彼等は慓悍であつたが何等の文化を持たない。一度漢族の文化に接し農耕の法を授けられるに及んでは、勇敢なる征服者は忽ちにして漢文明の心醉者となり二代、三代と年次を經るに從つて風俗、習慣、血統等悉く漢民族に同化して闖入者たることも忘れ、祖先傳來の漢民族を以て自ら許すに至るのである。

最近の例を以てすれば滿洲族は數百萬の人數を以て三億餘の漢民族を殆ど三百年間も統御したけれども、漢民族は靜かに、絕えず、營々として山東、河北方面から滿洲に入り、淸朝の倒れた時には既に滿洲は明かに漢人種のものとなつてゐる。卽ち當時の滿洲の住民一千六百餘萬人中、滿洲族はその一、二割を數へられるに過ぎない狀態であつた。それ故他の蒙古にせよ、新疆にせよ、彼等にとつてよりよき生活を營まれ得る處で交通の便のある處なれば、何處にでも往けないところはなかつたのである。

【漢族の發展力】 何故に彼等は斯くも發展力が强いか、その原因は種々あらうが、その第一は身體が强健で寒暑何れの氣候にもよく適應することである。

その第二は廣漠たる其天地から養はれたことと考へられるが彼等には國家とか、國境とかの觀念が海に圍まれてゐる日本人などに比較して甚だ薄弱なやうである。涯しも知れぬ大平原に住む彼等は已れの住む所を以て中華と考へて居り、到る處が何れもその鄕土であると考へてゐるやうである。それ故に山東や東支那のやうに人口の密度が高く生活が困難になれば、相率ゐて滿洲や蒙古や諸外國に移民を企てる。而も海外に於ける政治的　社會的壓迫に堪へる力が强いので到るところに移民として成功してゐる。

然し一方から云へば衞生思想の發達しないこと、勞銀が廉くその生活程度が低いことと、移民先の風習に同化されないこと等の理由から嘗て盛んに移民した濠洲、南北兩米、南阿等では移民を拒絕されてゐる。

然し熱帶地方で白人の移住に適しないやうな處では盛んに活躍し、その海外にあるものは千數百萬人と稱へられてゐる。殊に南支那の福州、厦門、汕頭、廣東等から年々出る華僑は盛んに印度支那半島、馬來諸島、比島等に移民しタイ國、交趾支那等の米作地においては懶惰な土人に代つて農耕に從ひ、マレー聯邦に於てはゴムの栽培に、錫鑛山に、最も能率を擧げて勞働してゐる。

彼等は又頗る商利に長じてゐるのでシンガポールを始め、サイゴン米の集散地シヨロン、さては砂糖生產の豐かなジヤバアに於て頗る優越な地步を占め、その經濟的勢力は各方面に亘って拔く可らざるものがある。

【漢族の長所】 漢民族程暑さ寒さに强い民族は少い。山東苦力の滿洲に出稼ぎするものが嘗ては黑龍江を渡つてシベリヤに行きその嚴寒と戰つてゐる者が多かつたと共に、スマトラ、ボルネオ等の赤道直下で孜孜として働いてゐる者も亦甚だ多い。これは專らその體質が頑健なるためであらうと考へられる。七、八月の中南支の都會は正

午頃から百度を越え、而も夜の十時を過ぎなければ冷凉を覺えない。歐米人も日本人も皆膏汗を流して酷暑に苦しみ、夕方からは自動車を驅り然らざるものは人力車により江岸を往復して凉を入れてゐる。ところが車上の客は弱り切つてゐるのに、これを乘せて走る支那人は寧ろ疾走して尙餘裕があるのである。頑健はかゝる勞働者階級のみかと云ふに決してさうでなく、上流階級のものも驚く可き健康を保有してゐる。

又忍耐力強く勤勉で勞働を厭はない。上海や大連の埠頭に働く苦力は四五十貫もある荷物を運搬して苦しさうな顏もしない。轎夫の青い顏をし瘠せ衰へたやうに見えるものでも一度客を得れば一日に十餘里を行くと云ふやうなのもその一つである。

【漢族の短所】 然るにこれ等の長所を有する漢民族の中國が今日まで何故に國家として頗る不振を極め、國內は爭鬪に次ぐ爭鬪を以てしてゐたか、その原因も亦種々あらうけれども先づその最とすべきは彼等が國家的の觀念が乏しく、且つ利己的であることであらう。その因つて來るところも亦一、二にして止まらないであらうけれども、廣漠無涯にして國境、國家等の觀念を明かにすることの出來ないのもその一つであらうし、歷代の惡政が國家、領主を一の搾取機關と見るに到らしめ國家の恩惠を認める等のなかつたのもその一つであらう。

とまれ彼等が一國家として團結する力の弱いことは四億餘の人口を以つてして尙今日の如く世界政局の上に重きをなさなかつた理由であらうが、支那事變を契機とする新政權の成立は東洋道德の眞義發揚により近代國家としての體勢を整へつゝあり隣邦日本の共助を得て茲に劃期的な輝しい將來に向つてスタートしたのである。

○滿洲族

一名ツングース族とも稱し二百萬乃至五百萬の人口を有する。古の金卽ち女眞の同族であり三百年前淸朝を興したのも亦この民族である。

明代には吉林、黑龍江(舊)の兩省、遼寧省(奉天、安東、通化)の東北部に住したが淸の勃興と共に多く支那本部に入り漢族と同化して殆ど自己の言語すら忘失するに至つた。滿洲八旗と云ふのは淸朝の時滿洲族に男子が生れると八旗の兵籍に入れられ、丁年に及んで兵役に服し八旗兵となつたもので北京その他の主要都會に配置され守備に當つた。現在では殆ど漢民族に同化せられ、その純粹なものは滿洲の東北部に至つて僅かに見ることが出來るのみである。

○蒙古族

往時は黑龍江の上流地方に住み、遼や金を服屬して居つたが成吉思汗の起るに及んで遂に世界に名を轟かすに至つた。その住地は現時內外蒙古は勿論、廣く他地にも及んで人口大約二百萬と推せられるが、昔時は比較的狹小な地域に限られ成吉思汗勃興以前には寧ろトルコ族の住地であつたのである。

大別して東蒙古人と西蒙古人とに分ち前者は東部蒙古に住んで通常蒙古人と稱せられ、カルカ人とも稱し成吉思汗も亦この族中から出た。今尙遊牧の民が多く移動住宅包に住む。東部內蒙古附近の蒙古人は漢民族化して半農半牧の生活を營んでゐる。

後者は衞拉特、瓦剌等の名を以て東洋史に散見するものでカルマク人とも稱せられる。西蒙古から新疆省の北部に住し一部靑海にも及んでゐる。生活狀態は前者と異らぬが言語が異つてゐる。

別に烏梁海族と云ふものあり蒙古の西北部唐努烏梁海地方に住み最近ソヴエートの勢力範圍である。他にブリヤト族があるがこれは滿洲東北部に住んでゐる。

○苗族

支那の先住民族であつて漢民族に追はれ

て西南の山中に遁れ現在は主として貴州省を本據とし雲南にも尠くない。大和民族に追はれたアイヌと類似した關係にある。多く農業を營み土地に依つては牧畜をも行つてゐる。嘗ては盛んに漢民族に抵抗したが今は從順である。

○西藏族

この種族は現今では多く農牧業に從ひ文化の程度は甚だ低い。農業者は土または石をもつて平屋根の家を造り大麥の煎餅を常食としてゐる。牧畜業者はヤク、羊等を飼養しヤクの毛で織つた黑色の天幕に住み四季によつて山地を上下して遊牧してゐる。ヤクは牛と羊との中間にある動物で駄用にする外乳と肉とは食用とし、毛は織物として聲價がある。彼等の風俗中特記すべきは貧民階級における多夫一妻の奇風であり、富者はこれに反して一夫多妻のものが尠くない。

支那の西南部に住む西藏族は約二百萬と推定せられ古代の氐羌、唐代の吐蕃、宋代の西夏等史上に重要な位置を占めたものの後裔であつて、一般に熱心に喇嘛教を信ずる。

○トルコ族

東洋史上に匈奴、羯、柔然、突厥、回紇、結骨など種々の名稱を以て現れた諸族は大體に於てトルコ族であつたらうと云はれてゐる。

古人の「紫髯綠眼胡人」も亦この種族を指すものである。支那本部に住するもの少なくこれ等は殆ど漢族化してゐる。纏頭回と稱するのはカシガル人であつて、頭部に布を捲きつけた回子の義である。天山南路(新疆)に最も多く職業の範圍も廣く回教を奉じ純然のトルコ語を用ひ支那に於けるトルコ族の最も開化したものである。

キルギス族はまた歷史上著名なものであり、天山地方に住む。漢回と稱するのは甘肅、陝西等支那本部に住するもので漢族化してゐる。その他ロブール湖附近に住するものもあるが人口は極めて少ない。

【省別混血狀態】 支那の人口は複雜な體型の分布をみてゐるのであるが、主として比較的純粹であつた古代支那人に北方、西北方及び南方異民族の混血のためである。古代支那人は稍南方に住し後に北方にまで分布した。そして紀元初年頃から後代まで長く引續いて北方の萬里の長城に沿つてシユンヌ、ツングース、チアン等の諸種族と混血し紀元四、五世紀頃には可なりの變化を來した。又南方に於ても同樣四、五世紀までに已にシヤン、モンクメール、チベトビルマ人と混血が行はれてゐた。尙蒙古人との混血は遠く揚子江の南方にまで及んでゐる。

現代支那人は古代支那人に如何なる種族の血が混じたかを各省別に推定すると凡そ次の如くであるとなしてゐる。

河北省	朝鮮人、シユンヌ、ツングース、蒙古人、モンクメール
山東省	ツングース、蒙古人
陝西省	チアン、シユンヌ、ツングース、蒙古人、モンクメール
甘肅省	チアン、シユンヌ、ツングース、蒙古人
河南省	ツングース、蒙古人、モンクメール
江蘇省 浙江省 福建省	シヤン、モンクメール
湖北省	シヤン、モンクメール、ツングース、蒙古人
湖南省	モンクメール、蒙古人
貴州省	モンクメール、チベトビルマ人、蒙古人
江西省 廣東省 廣西省	シヤン、モンクメール、蒙古人
四川省	シヤン、モンクメール、チベトビルマ人 蒙古人
雲南省	シヤン、モンクメール、チベトビルマ人 蒙古人、ネグリト(矮小種族)

以上を要約するに現代支那人は廣頭狹鼻の古代支那人、狹頭狹鼻のツングース、稍狹き廣頭狹鼻のシヤン、狹頭廣鼻のモンクメール及びチベトビルマ人等の混血によつて複雜な體型を形成し、それ等の各々の中

心地は古代支那人は東部支那、ツングースは北部、シヤンは南西部、モンクメールは南部、チベトビルマ人は西部、それに北部のシユンヌ、全部に亘る蒙古人等の血が混り合つて今日の支那人の人種的構成が出來上つてゐるものと云へやう。

政治

【沿革竝現況】 支那の廣さは人口に於て歐洲大陸に匹敵する。而も處により全く環境を異にし、交通不便で言語風俗習慣を異にするから、これを歐米に見るやうな近代國家の形式に造り上げることは、中々困難で、古來政府の統治及ばず、そのために自衞的社會組織が非常に發達し、民衆の生活は此社會組織の中で營まれ、國と云ふよりも一つの漢民族の社會と見られて來た。從つて國家が如何に混亂に陷らうが、人民は平氣で之に對する方策を講じて行く。民國革命以來已に二十八年、此間國內は混亂不統一を極め年中戰爭が行はれ、土匪天下に橫行したが支那の民衆は平氣で秩序を保つて生活した。これは社會が國家と離れて存在してゐるお蔭である。

元來支那人は非常に生存力が强い。如何に苦しい時でも何等かの方法により生きる手段を講ずる。それは數千年來の天災と人禍の苦練の中から生れ出でたものである。

支那には昔から幾度か易姓革命があり、時に數百年の混亂期も續いた。それに水害旱魃が絕えず起るので、人民はこの數千年間の試練の間に、之に處する方法を考へ出し、遂に國民性となつたものである。

又支那の部落は自治自衞で堅まり、一切のことを處理し、同時に血緣團體であることが多いから、血緣と同鄕觀念は非常に强く政治經濟すべての方面に作用し、蔣政權の如きも一門同鄕で固めてゐる好例である。民國になつて支那の政權を握つたのは北洋軍閥であり、それから安徽、直隷派が分れ奉天派が加はり、南方には廣東派、廣西派雲南派があり、北伐後蔣介石の浙江派が勢を得、久しきに亘る排日獨裁政治の後遂に支那事變の勃發を見たものである。

昭和十二年十二月北支に民國臨時政府、昭和十三年三月中支に民國維新政府が夫々樹立され、共に民主國家を恢復し、一黨專制を芟除して共產主義を排擊し、東亞の道義を發揚してその結實を圖る決心を表明し昭和十五年三月三十日汪精衞を主班とする南京中央政府樹立に至るまでの政務を行つて來たのである。

支那新中央政府の樹立を決定する歷史的中央政治會議は昭和十五年三月二十日南京に於て開催され、主席代理汪精衞以下「中央政治會議委員」として國民黨十名、臨時政府五名、維新政府五名、國家社會黨二名、中國靑年黨二名、蒙古聯合自治政府二名、無黨無派四名計三十名が招聘され、三日間に亘り新政治體制の審議を進め、多大なる成果を收めて三月三十日新政府還都の成立を見るに至つたものである。

そして此の晴の日、國民政府改組還都の軍大宣言と共に、新國民政府の政綱は發表され、新しき東亞建設への互步が踏み出された。

新國民政府の機構は法統繼承の原則に基き五院制を執り、別に各院と同列の「軍事委員會」を創設し、行政院の各部は從來の訓政期に於ける九部制を廢し、憲政實施に備へて十四部制とし、別に行政院に四委員會を設置せるものである。

要するに今回の國民政府の改組は、各黨各派を基礎として「中央政治委員會」を設け、蔣介石時代の一黨專制の弊を根本的に排除したこと、從來政府と併立又は政治以上の權力を持つてゐた「軍事委員會」を政府の五院と同列に置き、戰時體制を抛棄し平常體制に還元した點などに重點があるものと見られる。

又新政府と既成政權との關係も決定されたが、これに依れば、臨時政府は「華北政務委員會」に改組され、維新政府は解消して中央政府に合體された。

かくて北支の臨時政府は、三月二十九日解散宣言を發し、國民政府成立還都の日、三十日に「華北政務委員會」として生れ變り、臨時政府の公務員はこの委員會に全員任用された。また維新政府では三月二十八日成立二周年紀念式典を擧げた後、翌二十九日を期して、臨時政府と呼應して解散の宣言をなし、公務員は中央政府に引繼がれた。

新政府主腦部の顏ぶれは、汪精衞自ら主席代理に任ずると共に、行政院長に就任、かつて國民政府實業部長であつた陳公博が立法院長と軍事委員會政治訓練部長を兼ね、褚民誼は行政院副院長兼外交部長、周佛海は財政及經濟部長、梅思平は商工部長等、汪直系者が自ら責任ある地位につく一方、五院長のうち三名を臨時政府(王揖唐)と維新政府(梁鴻志、溫宗堯)とに分ち、國家社會黨上海支部長諸靑來の交通部長、中國靑年黨領袖趙毓松の農鑛部長、元暨南大學々長趙正平の敎育部長等の如く、各黨各派の代表人物、信望ある人々を迎へ入れて、國民黨の一黨專制を排し、眞に支那民衆を代表せんとする建前をとつてゐることは注目すべきことであり、新政府の樹立によつて重慶政府は玆に一地方政權としての存在に過ぎなくなつたものである。

【十大政綱】

外交

一、善隣友好ノ方針ニ基ヅキ和平建國ヲモツテ中國ノ主權、行政ノ獨立完整ヲ求メ以ツテ東亞永久ノ和平及新秩序ノ責任ヲ分擔ス

二、友邦各國ノ正當ナル權益ヲ尊重シ並ニソノ關係ヲ調整シモツテ友誼ヲ增進ス

三、友邦各國ト連結シ共ニ國際共產主義ノ陰謀及ビ其ノ他總テ平和擾亂ノ活動ヲ防遏ス

四、和平建國ヲ擁護スル軍隊及ビ各地遊擊隊ニ對シテハソレぐヽコレヲ收容安定セシメ且ツ國防軍ヲ建設シ軍政軍令兩大權ヲ明瞭ニ區分シモツテ軍事獨裁制ヲ打破ス

五、各級民意機關ヲ設立シ各界ノ人材ヲ網羅シテ全國ノ公意ヲ集中セシメモツテ民主政治ヲ助成ス

六、國民大會ヲ招集シ憲法ヲ定メ憲政ヲ實施ス

七、友邦各國ノ資本及ビ技術的合作ヲ歡迎シモツテ戰後經濟ノ回復ト產業ノ發展ヲ圖ル

八、對外貿易ヲ振興シ國際收支均衡ヲ圖リ並ニ中央銀行ヲ再建シ幣制ヲ統一セシメモツテ社會金融ヲ確立ス

九、稅制ヲ整理シ人民ノ負擔ヲ輕減シ農村ヲ復興シ難民ヲ救濟シ各ソノ生業ヲ安ンゼシム

十、反共和平建國ヲモツテ敎育ノ方針トナシ且ツ科學敎育ノ向上ヲ圖リ浮華妄動ノ惡風ヲ一掃ス

【政府組織】

- 中央政治委員會
  - 國民政府
    - 立法院
    - 行政院
      - 內政部
      - 外交部
      - 財政部
      - 軍政部
      - 海軍部
      - 敎育部
      - 司法行政部
      - 工商部
      - 農鑛部
      - 鐵道部
      - 交通部
      - 社會部
      - 宣傳部
      - 警政部
      - 秘書處
      - 振務委員會
      - 邊疆委員會
      - 僑務委員會
      - 水利委員會
    - 司法院—最高法院
    - 考試院
      - 銓敍部
      - 考選委員會
    - 監察院—審計部
    - 軍事委員會
      - 參謀本部
      - 軍事參議院
      - 軍事訓練部
      - 政治訓練部
  - 秘書處
  - 法制委員會
  - 內政委員會
  - 外交委員會
  - 軍事委員會
  - 財政委員會
  - 經濟委員會
  - 敎育委員會
  - 交通委員會

【華北政務委員會】 北支の有する防共、經濟上の特殊性に鑑み、河北、山東、山西三省及び北京天津、青島三特別市管内に於ける防共、治安、經濟その他國民政府より委任されたる各自の政務を處理し、且つ管下省市政府を監督せしむるために設置されたもので、その中央政府に於ける地位は五院並に軍事委員會と同列の中央政府直轄の地方行政機關ではあるが、その使命に鑑み相當廣範圍な權限が與へられてある。機構は內政、財政、治安、敎育、實業建設の六總署と政務、秘書の二があり、治安乃至軍事機構として治安總署の外に中央機構としての華北綏靖總司令部が北京に置かれ、總司令の下に治安軍剿共第一、第二、第三の各路軍、警防隊、縣警備隊、警察隊、陸軍軍官學校等の軍事勢力がある

【蒙古聯合自治政府】 昭和十二年十一月二十日成立した蒙疆聯合委員會に出發し昭和十四年九月一日蒙疆中央政權として樹立された蒙古聯合自治政府は主權的には國民政府の傘下に入つたが、蒙疆の特殊事情に鑑み高度の自治が許容されて居る

三　政治及文化團體

【中國國民黨】 中國國民黨は一九〇五年孫文等が東京に於て結成した中國革命同盟會に胚胎するもので一九一一年武昌に於ける革命の成功により民國となり國會が設けられ、茲に公黨たる國民黨が結成され、爾來幾多の變遷を經て、廣東地方に地方政權としての國民政府を建て、共產黨との合作下に一九二六年北伐に成功し、共產黨との合作を廢し南京に統一政權たる國民政府を樹立、國民黨の一黨專制を確立したのであるが、蔣介石の軍事獨裁と西安事件後の共產黨の合作に寄せられ、孫文の唱導せる大亞細亞主義を忘れ、黨是たる民族革命の理想たる三民主義をも曲解するに至り、日支事變の不幸を惹起したのである

仍つて重慶を離脫せる汪精衞は一四年八月二十八日上海に第六次國民黨全國代表大會（六全大會）を開き汪を中央執行委員會主席に推戴し、重慶國民黨に解散を命ずると共に黨綱領を修正し和平反共の大方針を宣明し、更に從來の一黨專制を廢し各黨各派と協力するの態度に出で純正國民黨として再出發したのである、良かれ惡しかれ國民黨三十年の歷史は支那民衆の中間に根强い地盤を占めて居り、今後の新中國建設にも同黨の指導力が强く發揮されるものと見られるから今後の動向が注目される

【國家社會黨】 一九三一年滿洲事變直後清朝時代の政聞社同盟會或ひは進步黨の幹部等が參加して結成されたもので、その目標とするところは民主主義であるが、人民に餘り大なる權能を與へると社會紊亂の基を爲す故選擧權のみを與へると言ふところに特徵があり且つ計畫經濟を主張し更に中國獨自の歷史、文化、傳統の高揚により國家統一を圖り國際地位を向上せんとして居る、仍つてその根本思想に於て共產主義と相容れず、憲政問題に於て舊重慶國民黨と對立して來たが、汪の純正國民黨に對しては協力態度に出で、居る

【中國青年黨】 一九二三年歐洲大戰後の澎湃たる民族運動に刺戟されたパリの中國留學生によつて始められたもので、昭和十三年まで非合法黨として運動をつゞけて來たものでその勢力は輕視出來ないものがある

その政綱は反共、反國民黨を旗幟として來たもので、國家社會黨と同じく國家主義、民主主義を主張し、國家權力を政黨階級個人等一切のもの、上位に置き、國家の統一を妨害毀損する如き一切の行動を許さゞる統一國家の出現を要望して居り、汪政權に對しては十五年一月支持の態度を明らかにした

【新民會】 新民會は舊臨時政府の政治スローガンたる大學の「明德を明かにし民を新にする」の倫理的方針の宣布機關として設置された思想乃至文化團體で、事變後の北支の治安文化の基礎工作に多大の足跡を殘したが更に二次的建設工作のために昭和十五年三月一日を以つて軍宣撫班と統合、茲に大新民會として誕生し、共組織機構を一新し華北政務委員會と表裏一體の關係に於て王道の實踐、新組織體の結成、民衆の把握、新民思想運動の徹底等を目的として再建中國の一元的工作への態勢を整へて再發足をなすに至つた。而して本會の綱領は左の如くである。

一、新民精神を發揚し王道を顯現す

二、反共を實行し、文化を復興し平和を確立す

三、產業を振興し人民生活を改善す

四、善隣締盟以つて東亞新秩序を建設す

尙地方機關として省總會四、道辦事處一五、特別市總會三、市總會七、縣總會三三二、特殊地區總會一特殊總會三、東京連絡所一、計三六七（昭和十五年六月現在）にして主なる工作內容は次の如し

一、防共新民主義の徹底敎化啓蒙　二、分會を基礎とする會組織の擴充と活動　三、聯合協議會に依る政治の援助並强化　四、思想再建と自衞能力增加の爲青少年の訓練所開設　五、選拔青訓生の日本留學生派遣　六、模範農村の設置、建設　七、合作社の組織輔導　八、農村道場の開設に依る農業經營方法改善指導　九、農村醫療所の設置と巡回醫療班の派遣　十、新民茶館の開設　十一、勞工協會の設置により勞働力斡旋、統制　十二、體制運動に依る體育の向上と指導方針の確立　十三、婦女會組織　十四、自衞團、保甲制度の組織强化　十五、職業の斡旋指導　十六、日華語學校檢定試驗制度實施

組織現況左の如し。

名稱	數	會員及團員數
分會	一四八〇	二四五、五九九
青年團	七四五	二九、一〇八
婦女會	九六	六、八〇〇
少年團	二六三	三四、九八四
青訓	一〇七　卒業者	一〇、五一五
青訓	受訓中ノモノ	一、二五八
合作社	四、一〇五	一四三、五三〇
勞工		六一、〇八〇
勞工	二	五一、一〇七

會長には民國二十八年十二月に至り王克敏の就任を見、超へて三十九年三月王輯唐と交替したが、爾後華北政務委員會委員長が歷代就任するものと見られてゐる。

新民會

- 會長
- 副會長
- 中央總會
  - 全體聯合協議會
  - 中央委員會
  - 秘書廳
  - 中央事務總部
    - 設計部
    - 敎化部
    - 訓練部
    - 厚生部
  - 監察部
  - 中央訓練處
  - 要地連絡處

【大民會】 大民會は北支に於ける新民會と略同樣の地位を占めるもので、事變勃發直後上海親日有志によつて設立された東亞會に發足し、同工部局の斷壓によつて一時活動を中止したが、十三年一月興亞會となつて再組織され、更に同六月內部を淸掃し大民會と改稱維新政府治下の民衆指導團體として新たなる發足をし、禮記の「大道の行はるや天下を公と爲す」に典據する良民主義、公民主義、農民主義、「群民主義に則る大民主義を奉じて維新政府治下に於て活動を續け十一聯合支部と四十支部を組織し、新中央政府成立と共に體制を一新第二段階の工作に入つた。その綱領は

一、民德ヲ實踐シテ社會ノ福利ヲ增進シ以ツテ民生ノ安定ヲ圖ル

一、大民主義ヲ貫徹シテ民衆ヲ善導シ之ヲ大同團結セシム

一、愛鄕愛民ノ精神ヲ發揮シ上下一致以ツテ中國ノ健全ナル發達ヲ期ス

一、善隣提携ヲ促進シテ友邦ト互助互惠ノ關係ヲ確立ス

一、東亞新秩序建設ニ協力シ世界平和ニ貢獻ス

產　業

支那は產業から見れば完全な農業國である。尤も西部高地の半乾燥地方には牧畜を主たる業としてゐる住民もあるが、近代國家の特徵とも云ふべき工業殊に重工業の發達は、未だ甚だ幼稚な段階にとゞまつて居り、全體としてみる支那の產業發達は近代國家の水準に達してゐない。

【產業不振の原因】 由來支那の資源に對しては世界各國共異常な關心を以てこれに注目し、支那自身も亦地大物博を以て任じて居り、西洋諸國の對支通商要望は遂に深刻なる利權獲得競爭にまで發展したのである。然るに近年支那に於ける多數民衆が極端なる貧窮狀況に陷り而も近き將來に於てこれが恢復の期待を持ち得ざる有樣であつたのが事變前までの狀態であつた。即ち全人口の約八割を占むる農民の徹底的疲弊を始めとし、商工業も著しい不振に陷り土地の尠からぬ面積がソビエト區域に變じ國內には無數の貧民が充溢するに至つた。而も貿易上に於て農業國でありながら食糧品の輸入が每年莫大な額に上り、また工業品の輸入も依然多く一方輸出方面に於ても連年輸出市場の閉塞に惱まさるに至つてゐたの

である。

凡そ支那は古來極端なる重農主義を採用し農を以て立國の礎となし來つた國で、今日でも支那經濟社會全般の基底的要素をなしてゐるのである。而も人口は多いとは云へ未だその面積に比し必ずしも過剩の域に達しないにも拘らず、國民の主要食糧品たる米及び麥を始めとし砂糖その他食糧品の供給を外國に仰いでゐるのみならず、棉花、石炭及び石油その他の原料天產品をも外國より輸入してゐる狀態である。

豐富なる資源を有する支那の產業が今日まで發達しなかつた原因は幾多存するであらうが、今これを概括すれば第一に舊國家の施政宜しきを得ず未だ中央集權的體制を採り得ず政治的に紊亂してゐたこと、第二に交通發達せざるため各地の經濟的發達が阻害されてゐた許りでなく、地方の發達はその程度を異にして孤立性を維持してゐたこと、第三に經濟組織上に缺陷の多いこと等がそのなる原因をなしてゐたものと云ふことが出來る。

【今後の問題】 支那の如き農業國では大體農業を盛にし農民大衆の生計を向上させるのは勿論緊要のことだが、漸次資本の蓄積吸收を計つて支那土着工業の勃興を助成するの必要がある。これによつて又農業にも國內市場を確保する指導的立場が生れてくる結果となり惹いては日本が、外國から搾取されない土着工業の興るを援助して、從來ソ聯の赤化工作や或は英國の搾取的植民的政策の立場から行はれて來た段階とは全く違つた新しい民族產業勃興の指導的立場が生れてくるのである。

一口に支那と云つても北支と中支とは經濟工作上の見地からは一應別々に考へねばならないが、北支は天然資源の關係から云へば割合に鑛業資源が多い。北支はその上地理的關係もあつて日本と提携してブロック的に經濟建設を助成して發展せしめて行く可能性が多く、重工業や化學工業を中心とした大產業部門が盛になるものと思はれる。

中支は貿易の中心地でもあり紡績とか、蠶絲業、製粉、雜貨業とか云ふ輕工業方面が盛になることが豫想される。然し中支にも鐵鑛石が相當豐富で又軍需的な輕金屬類もかなり多量に埋藏されて居り、その上揚子江岸にあつて船便の都合よく、かうした鑛工產業も勃興する可能性も亦充分にある。

然しさう云ふ產業開發の前に復興の第一着手として通貨と金融部門に於てこれまでのやうに、英米の資本に依存しない新しい親日的な獨立の幣制と金融機構を代表する機關として既に北京に中國聯合準備銀行あり、上海には華興商業銀行の設立を見、急速度に幣制統一工作は進みつゝある。

產業開發に對しても金融的援助機關が必要とされるのであるが、今北支と中支とに夫々產業開發及び振興の兩國策會社が登場して、幾多の子會社も動員し具體的な事業にとりかゝつた。又民間の支那銀行も日本及び外國の銀行も次第に新情勢に順應して夫々積極的に機能を發揮しつゝある。

【北支產業開發三年計畫】 北支最高當局では修正日滿產業五ヶ年計畫に合致せしむべく昭和十四年六月を第一年度とする北支生產力擴充產業開發三ヶ年計畫を樹立しこれが實行に邁進することとなつた。本計畫の大綱は資金十四億圓、鐵道は戰前三千七百キロを五千キロに、港灣戰前七百二十七萬トン呑吐能力を二千五百萬トン呑吐能力に、鐵は鑛石〇百萬トン、銑鐵〇十萬トン、鋼材〇十萬トン、出炭量三千五百萬トン、石炭液化〇萬キロリットル、鹽戰前百十萬トンを二千五百萬トンに、棉花五百萬ピクルとそれぞれ十六年度末までに生產の擴充をはかるもので、これが實現は日滿を含む新東亞建設の產業的基礎と實力を築くものとして各方面から多大の期待をもつて注目されてゐる。

農業

【耕地・農家】 全人口の八〇%が農民で、人口極めて稠密であるために、農法は極度に集約的となり、貧農が大部分である。併し土地の利用は甚だ進み、例の階段耕作や灌漑耕作が比較的發達してゐる。

大體支那の統計は不完全であるが、支那本部だけの耕地は七千萬陌乃至九千萬陌と稱され日本の約十一倍に當る。全面積に對する耕地も一八%乃至二五%位になつて居り日本內地よりも大きいのである。そして最大の耕地は北支那平野、揚子江三角洲、湖廣低地・四川盆地・珠江三角洲等にある。

又支那本部の農家戶數は約五千六百萬と見られ、日本內地の十倍に當る。一戶當りの耕地は一、一六陌で日本內地の一、〇六陌よりは少し多いが日本と同じやうに小農で勞力を集約的に用ひる所謂園農が行はれる。

【農業不振の原因】 農業不振、農村疲弊の原因として次の如きものがあげられてゐる。

一、外來的原因　近時支那の農村も自給自足を漸次脫して農產物を商品化した。然るに最近の國際貿易が萎縮したゝめに支那農產物の國際市場も縮少した而も外國食糧品のダンピング等もあり之等の事情が農村破壞を招來した。

二、內在的原因　主要なるものとして次の如きものがある。

1 土地の缺乏　人口過剩にして而も地主が土地を壟斷してゐる。

2 生產の減退　農具・農法の幼稚と失敗や土地の分散、天災、人禍等がこの原因である。

3 金融の枯渴　支那の資本は大都市に集中し、田舍はその便が少く且極めて高利である。

4 封建勢力の壓迫、田賦の激增、地價の低落、土地の兼併、農產物價格の人爲的操縱等が之である。

5 交通設備の貧弱　有無相通じないので一方で供給過剩、價格低下が起つてゐるが、他方では飢饉が生ずること多い。

【支那の農業地域】 ウイットフオーゲルに從へば支那本部は次の如き農業地域となる。

一、(西部及北部の國境地域)　雨量が不充分で荒蕪地、草原となつてゐる所では灌漑によつて小麥、黍作が可能となる。

二、(本來の北支那)　之は次の二つとなる。

1 西部　溫帶で雨量は少い。山岳の黃土地は大部分灌漑され得ない。西北部の谷間には沖積土や薄い黃土がある。

2 東部　大平野があり灌漑が行はれ小麥、黍が栽培される。

三、(中支那)　大平野は沖積土又は黃土で、補足的灌漑が行はれ、米を主產物とする。

四、(南支那)　米の二期作が行はれる。

五、(西南支那の蠻民諸省)　氣候區々としてゐるが主に溫帶的、亞熱帶的である。灌漑を伴つて米作が行はれるが農業には殆ど重要ではない。

農產物

氣候の關係で農產にも地方的な相違がある。北支那には高粱、粟、小麥、玉蜀黍、豆類、煙草、棉花等が多く栽培され、中支那では米を第一として棉花、茶、麻、煙草の栽培が行はれ、南支那では茶、甘蔗、柑橘類、バナナ、パイナップル等を產し、養蠶は中南支共に行はれてゐる。

【米】 中南支の氣候は年平均一五度乃至二〇度で、大體一、〇〇〇粍乃至二、〇〇〇粍に及ぶ雨量の季節的分配も比較的平均し、而も中支以南の土壤は河川によつて作られた沖積土壤である爲、四川、湖南、江蘇、湖北、安徽、浙江、廣西の七省には水田が多く、米は支那農產物の首位を占めてゐる。米は住民の主食物となつてゐるが、人口の極めて多いこと、從來の政治的不安定、栽培技術の拙劣等のために供給は常に需要を充すに足らず、防穀令を以て輸出を禁じてゐた許りでなくビルマ、佛領の印度支那等から年々輸入を仰いでゐる狀態である。米產額の確實な數字を知ることは出來ないが大約六千萬瓩と云はれてゐる。

【茶】 製法によつて綠茶、紅茶、磚茶の

別あり、輸出は綠茶が最も多く、蘇聯、英佛米等に向けられてゐた。茶は支那輸出品中重要なるものゝ一つをなし、又自國内で消費される額も莫大で、上下の階級を問はず喫茶の習慣あることはその程度日本の比ではない。斯くして到る處の都市には大小の茶館、茶亭が設けられ、茶は支那人生活と離すべからざるものとなつてゐる。

産地は溫暖な南東部の丘陵地、殊に浙江、湖南、湖北、福建、江西、安徽、廣東等の諸省に多く、産額は大凡二十五萬噸と推定され世界の首位にありうち約三萬七千噸を輸出してゐた。

【棉　花】東經一一〇度から以東北緯二〇度以東に栽培され、江蘇、河北の兩省が主産地で、産額約六十八萬噸乃至八十五萬噸に及び米國、英領印度に次いで世界第三位を占めてゐる。纖維が短くて良質ではないが、國内に於て多く需要され、日本にも相當額輸出されてゐる。

【粟】河北・河南・山西等北支諸省に多く産し地方民の主食糧品の一つである。

【玉蜀黍】河北省を第一とし河南、山東、山西、陝西地方に多く四川省にも作られてゐる。

【高　粱】山東河北等の北支平野に多く産し天津に於て集散されてゐるが、近年滿洲からの輸入額が次第に多くなつてゐる。

【小　麥】夏小麥、冬小麥の二種あり、前者は主に舊綏遠、舊察哈爾、河北省北部等に、後者は山東、河北省南部等より産し、天津に於て取引されるためそこに北支最大の穀物取引市場を作つてゐる。

【大　豆】山東省を第一にして河南、河北、北支平野に多く栽培され、中支の江蘇、安徽の兩省からも少からず産する。滿洲國と共に世界最大産出國の一つであるが輸出能力はない。

【落花生】廣く各地に栽培されてゐるが殊に山東、河南、廣東及び河北の諸省に多く、食糧用、製油用として國外に輸出される額も尠くない。

【煙　草】全國に亘つて栽培されてゐるが、北支では甘肅、河南、山東、中支では安徽、浙江、江西、湖南、湖北、四川、南支では福建、廣東、廣西の諸省が主産地である。

【麻　類】苧麻（ラミー）、大麻、亞麻等があり、苧麻が最も多く、揚子江の流域を主産地として九江、漢口は共にその輸出港である。

【繭】日本に次いで世界第二位を占め、その推定産額は二十萬噸と云はれる。中でも浙江省最も旺んにして廣東、四川、江蘇の諸省之に次ぎ、浙江、江蘇の繭産額は全支の四割を占めてゐる。殊に兩省境太湖の周圍一帶に行はれ、南京、鎭江、無錫、蘇州、杭州、上海等の製絲、絹織物工業の都市を生ぜしめてゐる。かくて生絲と絹製品は支那の主要輸出品となつてゐる。

尙山東省は支那全土中で最も多額の柞蠶絲とこれによる繭紬とを出してゐる。

【果　實】山東の棗、河北の梨、山西の葡萄、福建の柑橘等が代表的のものである。

【其　他】棉實、亞麻仁、菜種、胡麻、蘇子、草蔴、甘蔗等を多額に産する。

◇農産物の收量と百分比

一九三六・一九三八（單位千擔）

	戰前の收量（三六年）	戰後の收量（三八年）	戰後と戰前の百分比
米穀	1,033,103	821,333	81%
大麥	463,353	306,483	45%
小麥	146,343	95,103	58%
粟	135,487	126,441	20%
大豆	129,731	41,363	34%
高粱	153,809	136,170	33%
甘藷	354,435	266,758	76%
棉花	20,736	5,506	29%
落花生	55,333	33,391	47%
煙草	14,010	8,871	69%

◇農産物作付面積

（單位千畝、但全土總計のみ千陌下田氏による）

	小麥	米	大豆	高粱	粟	大麥	玉蜀黍
河北	32,336	601	9,804	22,659	24,330	3,943	15,502
山東	49,668	196	29,916	33,239	11,156	3,670	5,984
河南	59,538	4,039	14,353	15,439	19,220	10,373	8,626
山西	16,520	299	3,248	9,814	18,429	2,129	4,065
陝西	14,829	2,913	2,204	1,984	4,941	3,176	3,773
甘肅	8,659	449	1,294	1,531	3,554	2,513	1,287
江蘇	42,127	31,641	19,333	6,736	1,575	33,210	3,926
安徽	22,295	23,331	8,843	5,053	429	7,140	507
浙江	8,996	27,982	2,920	131	595	4,566	1,105
江西	4,389	33,190	4,618	143	760	2,325	0
湖北	18,748	24,453	5,380	3,659	2,270	10,234	6,556
湖南	3,444	26,490	2,963	1,465	814	1,984	1,790
四川	18,437	45,747	7,599	5,544	984	8,326	3,751
福建	4,027	13,655	1,659	19	1,039	698	—
廣東	1,199	33,371	1,563	168	795	340	143
廣西	—	—	—	—	—	—	—
雲南	4,444	13,655	2,671	718	644	2,047	3,888
貴州	2,645	11,924	2,308	664	691	1,921	3,136
支那本部	301,300	321,815	120,546	96,972	102,324	87,405	73,136
察哈爾	1,640	158	1,023	1,653	3,340	664	418
綏遠	2,676	—	—	1,997	4,109	974	51
寧夏	504	348	76	109	236	76	17
新疆	4,710	1,676	149	747	344	636	2,636
合計	19,650	19,294	7,482	8,235	6,774	5,514	4,686

◇農耕地と農家

（下田氏に依る）

	一九二八年耕地（千陌）	總面積に對する%（%）	張氏調査耕地（千陌）	總面積に對する%（%）	農家戸數（千戸）	總人口に對する%（%）	一戸當り耕地（陌）
河北	5,823	39.6	6,334	45.4	4,333	86.5	1.47
山東	6,853	44.6	6,799	44.1	5,918	88.9	1.16
河南	8,601	50.6	6,940	40.8	5,061	84.0	1.35
山西	3,061	19.0	3,730	23.0	1,874	82.8	1.96
陝西	3,325	16.5	2,057	10.5	1,364	73.0	1.47
甘肅	1,640	4.3	1,444	3.8	793	73.7	1.84
江蘇	4,546	43.0	5,653	53.3	5,056	78.5	1.10
安徽	6,260	43.7	3,387	23.9	2,682	70.8	1.23
浙江	3,072	30.4	2,531	25.0	3,164	69.4	0.79
江西	3,953	23.4	2,557	15.2	3,292	66.6	0.79
湖北	9,493	31.6	3,748	20.3	3,959	66.6	0.93
湖南	8,331	38.7	2,802	13.1	3,899	70.4	0.73
四川	9,381	23.2	5,926	14.6	4,975	68.5	1.16
福建	1,984	16.4	1,430	11.8	1,635	71.1	0.86
廣東	5,707	25.5	2,608	11.6	3,479	63.7	0.73
廣西	4,816	21.9	5,124	21.9	2,316	—	2.31
雲南	1,597	4.0	1,660	4.1	1,384	71.1	1.23
貴州	809	2.8	584	3.3	1,193	67.5	1.16
支那本部	90,858	24.8	65,309	17.8	53,968	74.3	1.16
察哈爾	719	4.0	1,033	4.0	307	78.4	3.31
綏遠	339	3.8	1,145	3.7	249	68.0	4.60
寧夏	—	0.4	133	0.4	54	71.3	2.27
新疆	657	0.5	841	0.5	344	62.2	2.45

◇各省自・小作農の分布（民國二六年度）

省別	小作農（％）	自作農（％）	半自作農（％）
四川	五二	二四	二四
廣東	四七	二一	三二
浙江	四五	二五	三〇
貴州	四四	三二	二四
湖南	四四	二七	二九
雲南	四二	三二	二六
福建	四二	二六	三二
江西	二八	二七	三五
湖北	三六	三九	二五
廣西	四四	四一	二五
河南	二〇	五八	二二
甘肅	一九	六一	二〇
青海	一九	五一	三〇
寧夏	一八	六八	一四
陝西	一八	六一	二一

◇全國及西南各省合作社數

省別		民國二五年	同二六年	同二七年
全國		三五、二二六	三六、四四九	四八、九三〇
西南四省	四川	一、三二二	二、三七四	六、六〇九
	貴州	二五	一、四八七	—
	雲南	三	一三九	—
	廣西	六	一〇	—

林業

西南部の人口稀薄な山地には大森林があるが、人口稠密な地方では森林は極めて少い。殊に北支や蒙古・新疆等には森林をみることは稀であり總じて林業は不振である。

支那の山野も決して昔から樹木が無かつたわけでなく秦、漢の時代以前には森林制度が整備してゐたと云はれる。併し元來支那人には森林經營の考が無かつた上に、永年惡政の影響で政府の施設殆ど行はれず、自然のまゝに放置されて居り、其間に濫伐、山火事等が續いたので森林は全く荒廢してしまつたのである。

斯くて今日では中南支の一部を除いては木材の產が少く、所要材は殆ど外材に仰いでゐる。

一般樹木の外支那林產中の特產加工品として次のものが擧げられ藥用、塗染料などに供されてゐる。

桐油、五倍子、甘草、大黃、木耳、漆、木蠟、茶油、八角油

◇各省森林地面積表（單位千畝）

省名	森林地	官林地	省總面積に對する割合
甘肅	三四、三一七	一三三、三九七	二三・〇
寧夏	一八、一四七	一一七、九五五	一六・〇
陝西	四六、八一八	七〇、三二七	二四・〇
山西	一四、五六五	八二、五三九	三四・〇
河南	一、五四九	七五、九三〇	二九・四
山東	一、六一三	六七、五五五	二九・三
河北	一、八九七	六一、三三九	二九・一
四川	二〇五、八五三	九〇、八一七	一五・〇
察哈爾	二、三三九	一一〇、一三五	二八・四
綏遠	三三、六四八	一三九、一一七	二九・三
江蘇	四、一一八	三七、五六三	一七・四
安徽	一〇、七〇一	五三、五〇八	三九・〇
浙江	一三、一一七	三一、八三四	三一・〇
湖南	六一、四〇五	一〇〇、一六八	四三・〇
江西	四〇、三八二	六八、二三六	二七・〇
湖北	三五、五二一	七三、七五五	二七・〇
南支五省	二四四、〇八四	五四二、四一四	

牧畜業

北部及び西部の高原地方には、風土に惠まれないから農業が出來ず、專ら羊、馬、騾、驢、駱駝、犛牛（ヤク）等の遊牧が行はれてゐる處がある。支那本部に於ては山西、陝西、甘肅の諸省の大部分は牧畜地帶をなし羊、山羊、牛、馬、驢、騾、豚、駱駝の飼育が盛んに行はれて、羊毛、駱駝毛、皮革等を出し、これ等は天津に運ばれて輸出され、その額は少くない。東部低地一帶は殊に豚と鷄との飼育が盛んで、其他牛、馬、羊、等の飼育も行はれる。

尙一九三五年の推定頭數は大體左記の通りである。

豚	六千三百萬頭
馬	〇〇百萬頭
牛	二千三百萬頭
水牛	一千二百萬頭
緬羊	二千二百萬頭
山羊	二千萬頭

【豚】各農家で之を飼養しないものはない程で、肉は漢人の最も好むところ、豚毛は支那重要輸出品の一をなし、漢口・天津がその輸出港である。

【牛】漢人は之を食用とせず、主に農耕、運搬に供される。蒙古人は乳を用ひ、回教徒は肉、乳を食用とする。牛皮、水牛皮も亦重要輸出品で上海・天津から日本、米國に向けられ、生牛の輸出は日本に來る山東牛で有名である。

【羊】大約四千萬頭の羊、山羊のうち內外蒙古の一千三百萬頭、新疆の四百六十萬頭、青海の七十萬頭を差引くと支那本部だけで二千萬頭內外となる。支那の羊は所謂在來種で採毛量が少く、濠州羊一頭平均採毛量八・六封度に對し二封度—三封度に過ぎない。

一九三四年には五萬一千瓲の產額があつたと云はれてゐるが之は濠州の四十五萬瓲に比し略九分の一に當る。

水產業

【漁業】支那の漁場は渤海より黃海、黃海より東支那海、東支那海より南支那海に亘る三區と內陸の淡水漁區であるが、海岸線短く且つ漁政の不備と往年海賊の橫行によつて斯業の發達を阻害されてゐた。國民政府となつてから漁業法規の制定、漁區の設置、一般水產業の保護獎勵計畫等により幾分進步の跡はあるが、著しき實績は擧つてゐない。殊に北支は中南支に比し海岸の屈曲少く、島嶼にも乏しく且つ河川湖沼の分布も極めて尠きため成績甚だ擧がらざる狀態である。

又中支は黃海より東支那海に亘り海に瀕し、海岸線は揚子江口以北を除きては屈曲甚しく海灣島嶼に富み好箇の漁場をなし、內陸は揚子江、錢塘江等の大河及び洞庭、鄱陽、洪澤、太湖等の湖沼多く淡水魚の棲息亦尠からざるも之又他の產業に比して盛大ならざるは漁法の幼稚、大陸の面積に比し海岸線の短きこと、鮮魚の輸送圈の狹小なること等其の原因をなし大多數の人々は獸肉及び鹽乾魚の輸入品を副食物となす狀態である。

◇沿海各地方漁獲量

	漁獲量（擔）	價格（元）
山東省	一、五九一、四五〇	一四、三九〇、三五〇
河北省	四四八、八八〇	五、三五〇、〇〇〇
青島市	七一、五七四	六五一、〇八六
計	二、一一一、八二四	二〇、二九一、四三六
江蘇省	二、九五六、七〇九	三九、八四六、三〇〇
上海市	一、四六六、三七七	一六、五九一、一七三
浙江省	四、八八四、一〇一	五六、八九〇、〇〇八
計	九、三〇七、一八七	一二三、三三七、三八一
福建省	五、七九二、六二四	一七、九三三、〇八六
廣東省	一、〇八六、六〇〇	二一、七五八、〇〇〇
計	六、八七九、二二四	三九、六九一、〇八六
鹽業	一八、二九八、二三五	一七三、三〇九、九〇三

【鹽業】支那に於ける鹽資源は極めて豐富で井鹽、石鹽、池鹽、海鹽の四種類に亘つて產出する。井鹽は鹽分が地下水に溶解せるのを汲上げて精製し、四川省の自流井或は雲南等に產する。石鹽は鹽分が岩石中に散浸してゐるのを水を以て流出し之を乾燥して製し湖南、湖北に多產す。又池鹽と稱するは別稱湖鹽とも云ひ山西、甘肅、青海、蒙古地方に產し鹽湖及び乾涸せる鹽湖より採取せるもの、海鹽は河北、山東、江蘇、浙江等が主產地である。

一九三三年に於ける全支の產鹽量は四千三百三十六萬五千擔であるが一九二八—一九三二年の五箇年間の平均年產鹽量は次の通りである。

◇各地平均產鹽額（單位千擔）

產地	數量
長蘆	三、八二六
河東（山西）	一、七一八
口北（察哈爾地方）	二一五
晉北（山西）	二一〇
山東	四、九九〇

淮北（江蘇）	六七九〇
揚州	七一一
松江	二六二
兩浙（江蘇、浙江）	三、八三〇
福建	一、八三〇
廣東	三、六三二
雲南	四九三
川南	四、七八七
川北	一、四七五
甘肅、青海 新疆、寧夏	一六二
計	三四、九三一

二 鑛業

【鑛業概觀】 國土の老大性と複雜な地形の構成とによつて數多の鑛產を豊かに埋藏してゐるが、交通不便、資本缺乏、工業不振のためその開發は殆ど行はれず、大規模な鑛業の經營は多くは外國の資本と技術とによつて行はれ全體としての生產は餘り多くない。

◇主要鑛物生產高 （事變前）

石炭	二〇、八九七、三四一瓲
河北省	七、七四九、四四六
山東省	三、五〇三、九四八
山西省	七、七〇〇、五四四
石油	二、六一三バーレル
陝西延長	二二八
鐵鑛	一、三五九、五八二瓲
湖北省漢冶萍鑛	三八二、〇〇〇
安徽省桃冲	二八〇、〇〇〇
同福利民公司	一二〇、〇〇〇
マンガン鑛	一、九二九瓲
廣西省武宜桂平	一、〇〇〇
湖南省湘潭等	六一八
廣東省欽縣防城	五〇
タングステン鑛	六、三〇五瓲
江西省	四、四八〇
廣東省	一、三二〇
湖南省	四五五
金	八六、九二六兩
四川省西康	三〇、〇〇〇
甘肅・青海	一五、〇〇〇
新疆・外蒙	二八、〇〇〇
銀	一二一、五〇四兩
銅	四一七瓲
雲南省東川	四三一
亞鉛鑛	一三、二九九瓲
湖南省常寧水口山	一二、八四六
鉛鑛	六、六七〇瓲
湖南省常寧水口山	六、四六〇
錫	八、〇〇四瓲
雲南省個舊	六、九四一
江西省大庾	六〇〇
アンチモニー	一三五、六一五瓲
湖南省	一三、六〇五
食鹽	三七、四八六千擔
淮北	七、六五〇
山東	八、〇〇〇
長蘆	四、四〇〇
硫黃	三、六四六瓲
山東省淄川・博山	一、五〇〇
山西省陽曲・盧縣汾西	六〇〇
石綿	二九〇瓲
河北省淶源	一五〇
螢石	五、〇五〇
浙江省	五、〇〇〇

【鐵】 埋藏量約三億二千萬瓩と云はれ、主として揚子江右岸の大冶、象鼻山、桃冲、銅官山、大凹山、馬鞍山等に多く產する。目下採掘されつゝある著名な鐵山は大冶を第一とし、安徽省の桃冲之につぎ、山東省の金嶺鎭も知られて居る。年產約百三十六萬瓩でその四割五分は大冶が占めてゐる。蓋し大冶の鐵鑛は含鐵分六五%內外の富鑛なるがためである。支那產鐵鑛の大部分は日本に送られ支那では餘り利用されてゐない。右の外北支の龍煙鐵鑛も有名である。

【石炭】 推定埋藏量は二千三百九十億瓩と云はれ、主要炭田は北支に多く、山西臺地では主として古生代の砂岩、頁岩、石灰岩等の水平層の間には無煙炭または半無煙炭の良質炭層あり、その埋藏量は殆ど無盡藏と云はれる。また北支那平野は陷沒して三角洲平野に堆積されてゐるが、恐らくその下部には大炭田があると信ぜられてゐる。河北省の開灤炭田は年產五百萬瓩內外で全支の三〇%內外を占め、其他群小炭田を合せて年產二千萬瓩位であり未だ國內需要を充すに足りない。

【石油】 新疆、甘肅、陝西、四川の各省には豐かな埋藏があると云はれてゐるが、未だ開發が行はれず、僅かに陝西省の延長油田が著名となつてゐるのみである。延長縣の油田は米國技師の報告によれば全世界に三百年間供給してなほ餘りあると云はれてゐる。

◇鐵鑛埋藏量 （單位千瓩）

察哈爾	宣化龍關	九一、六四五
河北	灤縣	三二、四二四
山東	金嶺鎭	一三、七〇〇
河南	江山	七四〇
江蘇	利國驛	三、〇〇〇
河北	易縣	一、五〇〇
河南	信陽	二、〇〇〇
河北	井陘	七、七五五
山東	登縣	六四〇
河北	開灤鑛區	一五〇
綏遠	固陽公義明	七〇〇
河北	撫寧臨楡間鷄冠山	三五〇
綏遠	白雲、鄂博及豫陝甘等	二〇、〇〇〇
安徽	銅官山	四、九二一
同	鷄冠山	四、〇〇〇
湖北	大冶、漢冶萍公司	一〇、五〇〇
同	大冶象鼻山	八、八〇〇
安徽	當塗	六、二九八
同	長龍山	四、六四五
江蘇	鳳凰山	四、四三七
江西	城門山	六、三〇〇
湖北	靈鄉	六、三四〇
同	鄂城	一〇、〇〇〇
浙江	長興	五、一三〇
江西	蓮花	六、二九九
同	萍鄉	二、〇〇〇
湖南	元陵	一、〇五〇
同	安化	二、一六〇
同	錫鑛山	三、六〇〇
同	茶陵	三、九〇〇
同	寧鄉	一、八四〇
江西	滿昌鋼登山	五八〇
湖北	宣都	四、〇〇〇
河南	縣	四、〇〇〇
四川	綦江	一・〇〇〇
廣東	香港馬鞍山	九二〇
福建	草安漳平	一三、一六〇
同	安溪潘田	七、八〇〇
同	安溪珍池	一、四六二
廣東	雲浮	六、〇一六
同	紫金	一、一四〇
浙江	建德淳安	八、〇三四
廣東	廉江鄉塘及其他	四、〇〇〇
合計		三三二、九一六

◇石炭埋藏量並生產高

（埋藏量單位百萬瓩、生產高單位千瓩、一九三四年）

省名	埋藏量	生產高
察哈爾（舊）	五〇四	二〇二
山西（舊）	一二七、一二七	二、七〇〇
綏遠（舊）	四七六	五八
河北	三、〇一七	七、七三九
山東	一、六三九	三、五〇四
河南	七、七六四	二、一三〇
陝西	七一、九五〇	二〇四
湖北	四四〇	四九八
安徽	三六〇	六三三
江西	九九二	三三二
浙江	一〇〇	二五〇
江蘇	二一七	二六七
湖南	一、七六二	八八九
四川	九、八七四	六三八
雲南	一、六二七	一一五
貴州	一、五四九	七三
廣東	四一二	三三八
寧夏	四八八	一五
甘肅	一、五〇〇	一〇〇
新疆	六、〇〇〇	五二〇（新疆・青海・廣西・福建計）
青海	五〇〇	
廣西	三〇〇	
福建	二九八	
合計	二三九、〇九九	二〇、八九七

三　工　業　三

大工業の行はれてゐるのは僅かに數個の都市にして、而も輕工業に限られ重工業は全く未發達である許りでなく之すらも多く外國資本によつて營まれてゐる狀態である。

即ち

一、農業國の常として國民が保守的であること
二、政治的不統一と政情不安なること
三、國內資本缺如によること
四、外資の壓迫あること

等の諸事情によるものである。

【支那工業の特色】　(一)工業が都市に集中してゐること、一九三三―一九三四年の統計に從へば、工場法標準に依據する工場二、四三五のうち一、二〇〇は上海に集中し、其他は殆ど天津、杭州、靑島、無錫、常州、廣東の諸市に集つてゐる。特に上海は工業資本の四〇%、勞働者の四三%、生產額の五〇%を占めてゐる。(二)紡績工業が偏重的に發達してゐること、上海の紡績工場は全上海勞働者の五五%生產者の三分の一、使用動力の六六%、資本の四〇%を占めてゐる。(三)中小工業が多いこと、紡績、製粉、造船、製鋼、セメント等を除いては、大體に小規模で、全上海平均で一工場當りの職工は、一九三人、馬力一二三、生產額五八三、七二六弗、資本一五〇、三四八弗である。(四)工場の興廢が頻繁なこと、好況等には工場が叢立されるが、不況になると續々倒潰する。

【支那の工業地域】　(一)上海附近、上海、南京、杭州の三角線間は輕工業の重要な地域であり、支那紡績業の三分の二はここに集中し、食糧品、化學、煙草工業等の外造船機械の如き重工業も興つてゐる。(二)天津附近、河北省東北部で、開灤炭坑が供給する石炭により、附近にセメント、硝子、紡織、食糧品等の諸工業が興つてゐる。(三)靑島附近、紡績製油等の輕工業を主とするが、ドイツの靑島經營以來發達し以後日本によつて培はれたものである。(四)漢口附近、紡績其他輕工業の他金屬製錬等の重工業があり、武漢、萍鄉、長沙の三角點間に行はれる。(五)香港廣東附近、輕工業が各地に行はれてゐる。

【支那工業の將來性】　有利な條件として次の如きものが擧げられてゐる。

一　豐かな工業原料及動力資源を持つこと
二　安價な勞働力が豐富なること
三　製品の市場たるべき人口が大なること

國民の工業的な訓練と政治の改善と資本の注入と交通の發達を條件として、支那將來の工業は確かに發展の素地を持つてゐるものと結論される。

【在來工業】　在來工業は小規模な家內工業として行はれて居り、近年次第に衰亡しつゝある。陶器、筆墨、紙、漆器、象牙細工、木細工、石材彫刻、麥稈眞田等の美術的家內工業が之に屬し、尙絹織物、生絲、絹織物業等も古くから行はれてゐるが、之も近年機械的生產方法に移りつゝある。之等は何れも中南支那に多く行はれてゐる。

【近代工業】　一八六〇年代に始まつたもので、殊に最近三十年足らずの間に發達した綿絲紡績を第一とし、金屬加工及び機械製造、煙草、製糖、製粉、製油、化學等の諸工業で、之等は多く外資によつて興り何れも上海、天津、靑島、漢口等の海岸又は揚子江の大都市に行はれてゐる。

就中紡績業は上海を第一とし、天津、漢口、靑島に行はれ、事變前は支那資本によるもの二百九十萬錘、日本資本に依るもの二百十一萬錘、英資本に依るもの十九萬錘計五百二十萬錘で錘數は世界第九位、棉花の消費量は二百三十萬俵で世界第五位を占めて居り、消費對象たる人口の稠密なることによつてその將來は頗る有望である。

商業金融

【國內商業】　個人主義で貨殖の念に富む支那人は商業に甚だ長じてゐる。商業上支那商人がよく信用を重んずるのは、同業等の關係で作られた會館とか公所等いふ一種の組合を持つてゐて違反者に對しては嚴罰を加へることにして鞏固な組合を作つてゐるからである。政治的に不安定な境遇にあつた支那人は、經濟的にはかゝる統制のとれた鞏固な組織を作つてこれに順應してゐる。

「地大物博」で各地各樣の資源と產物を有し、國內商業は古くから行はれてゐるが、政治組織の不完全と交通不便とは之に對する二大障碍となつてゐる。又各地軍閥は勝手に地方的な通貨を流通させ、度量衡も各地甚だ異つてゐて、この貨幣と度量衡の不統一が更に國內商業に對する障碍となつてゐた。

支那特有の商業機關として左の樣なものがある。

買辦　外國商人に傭はれる支那商人で外商の店舖內に事務所を有し、外商と支那商との間の取引周旋仲介業をなし、又雇主のために注文事項を完成し、一切の商行爲を自己の計算でする請負人のやうな業務に從ふもの。

牙行　行棧とも云はれ一種の仲買商で、客商のために賣買を周旋し、その委託販賣に應じたり客商を宿泊せしめたりする。其他倉庫業、廻漕業、蠶金代辦、代金取立、市場代理業等にも從ふ。

客商　一種の行商で鄉土產の財貨を携へて他鄉に之を賣却し、更に鄉土の需要品を仕入れてくるものである。

幇制度　幇とは同鄉者、同業者が團結し、相互の利益を增進するための組合で之に會館と公所とがあり、會館は同鄉者、公所は同業者を以て組織されてゐる。

【金融及金融機關】　支那は從來世界中で最も通貨の複雜な國で、これがため產業の開發、商業の發達、國家の統一が阻害されること少くなかつた。よつて一九二八年以來銀元(圓又は弗)が本位貨幣と定められ一九三三年以降商取引には元(弗)を單位とする事となつた。併し舊の兩や弗貨は相當に流通して居り、兩には上海兩、天津兩その他百種以上もあり、なほ海關兩も使用されてゐた。弗も孫逸仙弗その他數十種を數へてゐた。支那は世界唯一の銀本位國であり從つて支那の經濟界は銀相場によつて支配されてゐたのであるが、銀相場は近年下落する一方で、特に一九二八年以後は激しかつた。然るに一九三四年米國が銀國有法を發表して以來の銀相場は奔騰し、これがため、最近では支那は銀の國外流出に惱まされ、一九三五年四月以來支那の通貨は銀の國外流出によつて殆ど危機に瀕するに至つた。

そこで一九三五年國民政府は幣制の大改革を行ひ、硬貨制度を廢して紙幣本位とした。即ち中央、中國、交通三銀行の發行する銀行券を法貨即ち國幣とし銀貨の使用を禁じた。而してその對外價値は一元を英貨一志二片とし、上記三銀行は無制限に外國爲替の賣買に應ずることゝした。この幣制改革は英貨の後援によつて成功したもので、これを契機に英國は金融的に支配するに至つたのである。

然るに今次事變によつて北支、蒙疆、中支の各地區に於て、中國聯合準備銀行、蒙疆銀行、華興商業銀行の新設をみ、夫々新兌換券を發行し可及的速かに舊法幣の回收に努めたることにより舊紙幣は通貨としての價値を殆ど喪失するに至つた。

中國聯合準備銀行　昭和十三年春北京に開業せる特殊銀行であり同行は北支の中央銀行で唯一の發券行である。之によつて

日滿北支を含む廣大な地域が圓ブロックとして一元化され、日本の指導の下に遂行される北支那經濟建設の基礎が確立されたものである。

蒙疆銀行　蒙疆地區の中央銀行として昭和十二年末成立し、資本金一千二百萬圓、張家口に本店を設け僅か一年足らずにして地域内の舊紙幣を回收した。中國聯合、蒙疆銀行共に發行されてゐる新紙幣は圓と等價である。

華興商業銀行　昭和十四年五月資本金五千萬圓全額拂込、本店を上海に置く華興商業銀行の誕生をみた。新設銀行は新紙幣の發行をも司るものであるが法幣萬能の中支幣制に一つの輝しき光を與へ北支蒙疆と格段の惡環境にあるを一まづ克服するものと見てよい。

貿易

支那の對外貿易は、滿洲國の獨立以後、支那事變前までは輸出入を併せて、約十五億元から二十億元間を上下し、昭和十一年の貿易額は輸出入合計十六億四千七百萬元を示し、十二年には一月から七月迄に既に輸入七億三千萬元、輸出一億七千八百萬元の増加を見たが、事變勃發後の八月以降は急減十二月迄の五ヶ月間に僅かに輸入二億二千三百萬元、輸出二億六千六百萬元、合計四億八千九百萬元に激減した。之を以つて事變の支那對外貿易に及ぼした影響の甚大なるを推察し得るのである。

一九三九年の輸出入總額は十億四千二百七十餘萬圓であり、外國貿易の少い第一の理由は大國の故外國との貿易よりも國內取引の方が寧ろ重要であり、國內取引額は外國貿易額の數倍もあると云はれてゐる。第二に生活程度の低い支那人には外國貿易を十分に行ふだけの購買力を持つてゐないからである。人口割にすると支那の貿易額は日本の約十分の一に過ぎない狀態である。

◇支那輸出入貿易額（一九三九年は再輸出入を含まず、海關統計）

年次	輸入	輸出	合計	入超
	千元	千元	千元	千元
一九三一	二、二五六、二七五	一、四一六、九六二	三、六七三、二三七	八三九、三一三
一九三二	一、六五五、三五七	七六八、〇七六	二、四二三、四三三	八八七、二八一
一九三三	一、三五八、九七八	六一二、二九二	一、九七一、二七〇	七四六、六八六
一九三四	一、〇三八、九七八	五三五、七三三	一、五七四、七一一	五〇三、二四五
一九三五	九二四、六九四	五七六、二九八	一、五〇〇、九九二	三四八、三九六
一九三六	九四四、五三三	七〇六、七九一	一、六五一、三二四	二三七、七四二
一九三七	九五六、二三四	八三八、七七〇	一、七九五、〇〇四	一一七、四六四
一九三八	八九三、五〇〇	七六三、七三一	一、六五七、二三一	一二九、七六九
一九三九	五六八、九〇六、〇〇〇	四七四、八三五	一、〇四三、七四一	九四、〇七一

最近支那の經濟界は銀の國外流出のため殆ど恐慌の狀態に陷つたと云ふやうな事情で貿易は著しい減退を示したが、近頃稍增加してゐる。別表の通り支那貿易が年々入超を示してゐることは、要するに輸出を增大さるべき國內產業が振はないことを物語るものに他ならない。

輸出品の主なるものは動物及其產品、紡織纖維、油脂及蠟、鑛物、金屬其製品、皮革及毛皮、種子、茶、織絲、組物、編物類、織物等で重なる輸入品ば、金屬及鑛物、油脂、蠟、ゴム、書籍、紙、パルプ類、機械及工具、穀物穀粉、化學產品及製藥、車輛及船艇、雜金屬製品等である。

蒙疆大觀

略史

蒙古聯合自治政府は成吉思汗紀元七百三十五年（昭和十五年）の九月一日輝しい成立一週年記念日を迎へた。往年成吉思汗が大汗（元の太祖）の位に卽き、世界統一の鬐を立てたのは今から七百三十三年前である。爾後拔都、忽必烈、旭烈兀等の遠征により、其版圖はアジア大陸を橫斷して東は日本海から西はヨーロツパの東北部に達する空前絕後の大帝國を建設し、アジア民族のために史上不滅の光彩を放つたのであつた。然しながら小數の蒙古民族を以て廣汎な領域を統治するところに無理があり、後明朝の興るや忽ち北に追はれ、淸朝の擡頭に會つてこれに歸順した。支那事變直前に於て蒙古民族は露、滿、支三箇國の支配下に分割され滿洲國の治下に入つた者を除いては混沌たる政治、經濟、社會的諸情勢に彷徨しつゝあつたのである。

然るに昭和十二年支那事變の勃發により獨立した三自治政府首腦者が張家口に相會し、茲に蒙疆聯合委員會の結成となり更に昭和十四年九月蒙古聯合自治政府の成立を見たるのみならず、政治、產業、交通、金融等に亙り實に驚異的な回復と躍進を示し從來の支那地域に於ける一特殊境域をなすに至つたものである。

境域・人口

蒙疆地域とは東は滿洲國、西は寧夏省、南は長城線を隔てゝ陝西、山西、河北の各省に接し、北は遠く戈壁に限られた舊察哈爾省、綏遠省及山西省の北部を加へた所謂內蒙古の大部分を占めて廣袤六十萬平方粁の地域を指し、人口約六百萬に及ばんとしてゐる。

このうち蒙古人は約三十萬前後と推定され、全數の四％弱に過ぎないが政治的には往年の覇權を恢復した形である。

區別	面積	人口
察南地域	三三、〇〇〇方粁	一、四五六、四一七
晉北地域	一二、〇〇〇〃	一、五一五、一四六
內蒙五盟地域	五七〇、三六九〃	二、五三六、五四三
計	六一五、三六九〃	五、五〇八、二〇五

地勢

蒙疆一帶は略々一千米以上の高原を形成し、地勢割合に變化少き所であるが今南部京包線一帶の地勢に限りて述ぶれば大體次の如きものである。

鐵道沿線の地勢は大體大同から平地泉の間を最高線として東と西へ漸次に高度を減ずる。この地帶は陰山山脈の支脈に屬する部分であつて、平地泉の西約四十粁の十八臺驛は海拔千五百七十九米で本線に於ける最高の地點となつてゐる。

大同以東は陰山、大行兩山脈の接合地帶で、桑乾河が此間を貫流しその限界を劃してゐる。路線はその支流たる洋河及び南洋河の河谷に沿うて下り、東端に近く大行山脈の餘勢、七百五十五米の八達嶺を越え急降下して河北の平野に達する。

西は十八臺の稜線を越えると路線の北側に沿ひ、陰山の幹脈が屛風の如く聳立し內蒙古の地域を南北に二分しつゝ遠く西へ伸び、その南側は黃河の支流たる黑水河がそ

の流域を擱めつゝ黄河を越えて遙かに鄂爾多斯の平原に續いてゐる。

氣象

河北の平野から大行山脈を西に越ゆれば氣象は急に大陸的な特性を强め、晝夜の氣溫の變化、寒暑の差は次第に著しくなつて來るが大行、陰山の兩山脈の間に挾まれた鐵道沿線の地域ではその度合があまり目立たないものとなつてゐる。

氣溫に就いて見れば、北京附近では最低溫期間の一月の平均氣溫が攝氏零下四・五度、盛夏七月の月平均氣溫は二六・四度で張家口では一月の平均氣溫零下一五・三度、七月は一九・三度であるが、遙かに西に移つた厚和に於いても一月の平均零下一五・九度、七月の平均は二二・八度で、その差は極めて小さく、又降水量に就いて見ても北京附近では年に百五六十粍內外で、張家口、厚和は共に四百粍內外であるから空氣の乾燥度も、河北平野を劃する大行山脈を一線として相當な變化を見せてゐる。風は夏季に東南の季節風が吹く關係上降水量もこの期間に多く、多季は寒冷な西北風が吹き渡り降雪の量は極めて少い。

京包沿線一帶の氣候は概して地圖の上で想像されてゐる程に酷烈なものではなく、寒さに於ては滿洲の奉天以南位に相當し、暑さも日夕の差こそ激しいと云はれるが平均氣溫は遙に低くなつてゐるから夏季も凌ぎよい。このやうに降雨降雪が少いので空氣の乾燥甚しく、多は風多く所謂朔風胡砂を捲くの風景をば展開するが夏季滿目の綠野紅白の草花の點綴する風景は蒙古高原ならでは見られぬ絕景である。

住民

察南、晉北地域では住民は殆ど漢人で、內蒙五盟に屬する鐵道沿線は漢蒙雜居地帶となつてゐる。而し此の雜居地域も漢人移民の澎湃たる波に年々侵蝕され現在この地方に生業を營む蒙古人の影は寥々たるもので、それも殆ど漢人化し、定住して農業に從事してをり、かの游牧と包の生活は既に沿線では見られないものとなつた。內蒙古五盟全域の蒙古人は約三十萬人と推定されてゐるが、その大多數は黃河以南の伊克昭盟や陰山山脈の北側地域に退き昔ながらの游牧生活を續けてをり、舊綏遠省二百萬といはれる漢人が主としてこの沿線に入つてゐるのだから雜居地域とは言ふものゝ、事實上漢人の居住地域と言つて差支ないだらう。

尙、少數ながら沿線の西端に近い地方は白韃靼と稱ばれるトルコ系タタールが居住してゐる。

京包沿線地方は白耳義系カトリック敎の布敎區で、寺院はカトリックに屬するものが多いが察南地域には別派に屬するものもある。

後者は土地を持たぬがカトリック寺院は何れも廣大な土地を所有してゐる。

朔北の空に聳える尖塔は西歐資本主義の內蒙古へ侵入して來た道標の如くも見られるが、又その社會的、文化的な影響を思ふと、喇嘛敎と對照して極めて興味深いものがある。

言語

京包沿線一帶は支那語が通用語となつてゐる。蒙古人も沿線地帶居住のものは已に蒙古語を忘れてゐるといはれるが、嘗つて外蒙古方面と交易が盛んだつた頃には蒙古語はもつと廣く用ひられてゐたものらしく、今も商店の看板などに殘つてゐる蒙古文字はその當時の名殘でもあらう。蒙疆政權の確立後、蒙古語は公用語として認められて來てゐるが、これは蒙古民族の興隆に伴ふ自然の勢であらう。

會話用語は山西方面からの流入者が多い關係上自然山西の土語に近いと云はれる。

宗敎

漢人の多いこの地方では矢張り佛敎徒が一番多く、住民の七十%が佛敎であり、回敎徒が之に次いでゐる。

京包沿線一帶に於ける回敎徒の數はなほ明かでないが舊綏遠、察哈爾の兩省に於ける敎徒數は舊綏遠三十八萬五千、舊察哈爾十九萬五千で寺院數は兩省を合して約四百と謂はれてゐる。敎徒の分布狀態に就いて見れば大體本線を西へ進むに隨つて人口に對する敎徒の占む割合も漸次多くなり、厚和、包頭附近に於いては二十五%內外となつてゐる。

事變後、新政權下に聯日防共を標榜して蹶起した回敎徒の動きは次第に西北に向つて擴大の兆を見せてゐるが支那西北へ通ずる京包鐵道沿線に於いては、回敎徒の問題は政治的にも亦重要な意義を有つものと言はなければならない。

尙、復興民族蒙古人の喇嘛敎と西歐資本主義侵入の先驅をなすところの基督敎とはその社會的、政治的意義が大きいだけにこの地方に於ける宗敎としては見逃し得ないものであらう。

【喇嘛敎】 游牧民の社會的、經濟的生活に、そこに以前から存在してゐた薩滿敎を適應させ且つ單純化せられた北部佛敎の一宗派が即ち喇嘛敎である。喇嘛敎が蒙古に普及したのは十六世紀後葉からと云はれるが、最も盛大を極めたのは淸朝が蒙古懷柔策としてこの宗敎を政策的に利用し出してからである。そのかみ、元朝滅亡の一因が朝廷にあつた喇嘛の權勢とその浪費的な佛事供養の弊にあつたと云はれる樣に喇嘛が蒙古民族の搾取と弱化に演じて來た役割は極めて大きい。これまで敎徒達が北に南に遠く去つて敗殘の生活を送つてゐる時、沿線の隨處に見られる莊麗な廟宇は本沿線風景中の一の驚異である。

此の頹廢の喇嘛敎と對照されるのは基督敎、殊にカトリック敎の勢力である。

【基督敎】 基督敎がこの地方に入つたのは古く、十三世紀の中葉と云はれるが判つきりしてゐるのは一八二七年張家口北東にカトリック宣敎師が入つてからである。その後熱心な布敎と宣敎師達の苦心經營とによつて次第にその勢力を擴大し、本沿線を中心とし敎區は東は熱河から西は寧夏に及んでゐる。本沿線地區だけでも敎會數は百に近く信徒十萬を擁するといはれる。そしてこれ等の敎會は布敎のみでなく學校や病院や、孤兒院等の社會、文化施設を經營すると共に一方に廣大な土地を所有して、之を信徒に耕作せしめ經濟的にも確固たる基礎を築いてゐる。

包頭に近い薩拉齊縣の小巴拉蓋は敎會を中心として約二千人の信者のみによつて形成された部落で、施設經營に見るべきものがあるといはれる。その他、大同の天主敎修道院、厚和の育嬰堂、公醫院などは朔北の不幸な人々には有難き文化の惠であらう。敎徒の大多數は漢人であるが蒙古人の歸依する者も少くない。

政治

北支戰局の進展に伴れ戰後の各地には治安維持會の成立を見たが、永い間、軍閥の秕政に苦められた地方の民意は期せずして自治の要求へと進んで行つた。それに先鞭をつけたのが察哈爾省二百萬民衆の總意によつて組織された察南自治政府で、その成立の日は我が察哈爾作戰軍が張家口に入城して間も無い九月四日であつた。ついで十月十五日には大同を中心として晉北自治政府の宣言が發せられ、更に同月二十八日には綏遠に於いて蒙漢兩民族三百萬の熱烈な

要望によつて蒙古聯盟自治政府が結成された。蒙古聯盟の成立は、忘れ得ない成吉思汗への思慕をいだき永い苦闘を經て來た蒙古民族にとつては殊に感慨一入なものがあつたであらう。

この三自治政府は成立の當初、それぐ獨自の立場をとつて來たが、東洋平和の理想を目指す三政府の指導精神が、防共、民族協和並民生の向上であり、この共同の目的を一層有效に實現する爲には互に協力することが有利であつたので、十一月二十二日三政府の代表が張家口に會し相諮り蒙疆聯合委員會を組織した。

然るに緊迫せる內外の情勢に即して蒙疆政權の更に鞏固なる戰時體制を確保、以て防共特殊地域たる蒙疆を防共鐵壁の陣となすべく、新統一政府樹立の要望は澎湃として起つた。則ち昭和十四年九月一日成吉思汗紀元七三四年を期し德王を主席とし夏恭、于品卿を副主席とする蒙古聯合自治政府の誕生を見、一切の行政組織が中央集權下に置かれた。昭和十五年一月の青島會談並に三月の中央政治會議には夫々代表を派遣して新國民政府への積極的協力を確約、また特殊防共地域としての高度自治體制を中外に宣明、東亞共榮圈に占める蒙疆の地位强化に努力中である。

【蒙古聯合自治政府】

- 主席
- 副主席
- 顧問
  - 參議府
  - 政務院
    - 總務部
    - 民生部
    - 治安部
    - 司法部
    - 財政部
    - 產業部
    - 交通部
    - 察南政廳
    - 晉北政廳
    - 巴彥塔拉盟公署
    - 察哈爾盟公署
    - 錫林郭勒盟公署
    - 烏蘭察布盟公署
    - 伊克昭盟公署
  - 蒙軍總司令部

【蒙疆政權特殊性】 蒙疆地域は北方に赤化の外蒙に接し西方に寧夏、甘肅、新疆等ソ聯の赤化ルートに臨み南方はソ聯の容共地帶に接する關係上親日防共を使命とする蒙疆政權の成立は完全に此の赤化ルートを遮斷しソ聯の極東赤化政策に大打擊を與ふると共に之に依り日滿兩國は西方に一大防共の鐵壁を築いたのみならず、更に支那軍閥の壓迫より脫し蒙古民族多年の宿望を達成せしめることになつた。之等民族復興運動は蒙古民族のみならず回敎族に一大刺戟を與へ赤化ソ聯の羈絆を脫し亞細亞民族の亞細亞建設一大運動の原動力となり得るものである。また蒙疆地域は鐵、石炭、羊毛、阿片、穀物、鹽其の他の重要資源を有し一大寶庫を爲し北支の背後地として重要なるは勿論國防上資源的觀點より見ても日本帝國にとつて極めて重要な地位にあり、且つ京包線を通じて京津と結び、西方とは道路、水路其の他に依り中央亞細亞に通じ軍事、政治、經濟、交通上其の意義極めて深く一大躍進期にある東亞において演ずる役割は極めて重大視されてゐる。

【政府の施政大綱】 政府成立の根本義に則り東亞の道義を昂揚し民族協和を鞏固にし人民の福祉厚生を圖り、且共產主義を削除することを以て施政の根本方針としてゐる。而して政府組織の大綱は政府暫行組織法に規定せられ、大體滿洲國と大同小異であるが特に各民族の特異性を考慮しこれが運用に萬全の考究を拂つてゐる。

一、治安の確保　蒙疆は防共の第一線として地域內の治安確保はもとより外部より侵入せんとする赤色勢力の組織的攻勢に對抗するため相當の犧牲を拂ひ、今次の五原作戰に於ては駐蒙軍と協力し果敢なる討伐を斷行したが、治安の確保は當面の急務である爲、政府は三月一日を期して檢察廳暫行組織法及び關係法令を公布し檢察制度の施行と倂行して萬難を排して軍と協力治安の確立に邁進してゐる。

一、財政の確立　治安第一主義に基く警備力の增加、警備道路警備通信の開設に伴ふ治安費の增加並びに產業開發特に生產

力擴充に要する對日期待物資等の飛躍的增加は、從來樂觀的基礎に立つ蒙疆財政に相當重壓を加へてゐる現狀で、これが對策としては明年度豫算編成にあたり一般行政費の節減と稅制整理を斷行する方針を決定してゐる。

一、產業の開發　農產物の生產增加、地下資源の開發は京津及び日本に對する蒙疆の地理的經濟的關係より焦眉の急とし政府は之が對策として產業開發五ヶ年計畫を定め、之が遂行に遺憾なきを期してゐるが、之が計畫の成否は一面日本よりの資金資材の援助に俟つこと大なるものがあるので、當地域性の充分な認識に基く日本の對蒙援助も、大いに期待されてゐる。

二　產　業

農產、畜產、鑛產等の豐かな資源に惠まれた鐵道沿線の地帶も邊疆にあつて交通が不便なことや、永い間軍閥政治の弊害に禍され、全線開通已に十五年を經過した今日に於いても、產業の發達は遲々として殆ど見るべきものはない。資源の所在に從つて見れば大體本線東半、晉北地域以東の鑛業と察哈爾盟及び西半の內蒙地域に於ける農業、畜業との二つに大別されるであらう。

鑛產地帶に於ける代表的なものは大同の石炭と龍烟鐵鑛の二つがある。蒙古聯盟に於ける農業は漢人移民の進出によつて、近時非常な發展を遂げ、歸綏、五原の平野は殆ど開拓し盡されたかの感があるが、それだけ蒙古人の游牧地を侵したことゝなり、牧畜業は次第に沿線から影を沒しつゝある。

蒙古聯合自治政府に於いて目下蒙疆全般の產業開發につき調査立案を進めつゝあるが、大同の石炭、龍烟の鐵鑛及び畜產資源の維持改善等已に具體化されたものもあり遠からず面目を一新することゝならう。

【開發三箇年計畫】 昭和十三年三月產業五箇年計畫を樹て蒙疆產業資源の開發に着手したが、昭和十四年に入り國際情勢の變化、日本の物動計畫及び日滿支を繫ぐ生產力擴充など內外共に全面的に促進態勢をとるに至つたので新に新開發三箇年計畫を樹てた。右は日本の生產擴充に呼應すると共に蒙疆產業資源の開發に重點を置き、石炭、鐵、石綿、鉛の資源開發と之に關聯する石炭液化、セメント、羊毛、電力、交通、通信各事業の大擴充に向つて進むことゝなり終年度に於ける開發量の目標は大約次の如くである。

石炭	大同五百萬瓲、下花園五十萬瓲
鐵	大青山四十萬瓲、龍烟百七十萬瓲
石綿	二萬瓲
雲母	一萬瓲
鉛	十五萬瓲

石炭液化は大同炭を用ひ、電力は發電設備十四萬キロに上り、羊毛は在來種の增產とコリデール種の移入による改良と大量日本輸出とで鐵道、自動車、通信施設も亦之に應ずるものである。

○農　業

民國二十三年中國經濟年報によれば察哈爾、綏遠兩省の耕地面積は、察省一六、八三九千畝、綏省一八、六六九千畝で支那各省中寧夏、新疆に次いで最も少い地方となつてゐる。しかし兩省の農業は專ら漢人移民の經營であり、而も漢人の侵入地域が主として察哈爾と南半と歸綏平原、豐鎭高地、鄂爾多斯平野の東北部と河套(五原)地方であるから耕地も亦この地方に限られ、從つて沿線に接近した地方に於ける耕地は全面積に對して非常に多いことは瞭かで、事實鐵道沿線の範圍では農耕適地は殆ど開拓し盡され、僅かに鄂爾多斯平野の東部に未墾地を殘してゐるに過ぎない。「黃河は百害あり只一套を富ます」といはれる如く、殊に河套地方の開拓は古く最も富裕な農耕地帶と

なつてゐる。

主として乾地農業であり水田は舊察哈爾省内に一、八五五(千畝)綏遠省内に一、四〇〇(千畝)がある。黄河沿岸のオルドス地方は灌漑の便があるので將來水田の經營が有望視されてゐる。

種類	察南管內	晋北管內	內蒙五盟管內	計
	石	石	石	石
米	一三、七五四	—	—	一三、七五四
粟	九二三、九三六	三四五、〇〇〇	三二四、七一〇	一、四七三、六四九
小麥	一一八、九六〇	九八、〇〇〇	一、一六四、二〇四	一、三八一、一六四
大麥	四七、六六八	一〇七、〇〇〇	四〇五、五八八	五六〇、二五六
高粱	四八九、五七八	二二〇、〇〇〇	一九七、七一〇	九〇七、二八八
豆類	三三、三四〇	一三四、〇〇〇	五二九、三六八	六九六、七〇八

【商業植物】本沿線の特産と稱せられるものに各種の藥用植物がある。代表的なものとしては甘草と黄麻を擧げるがその他、知母、柴胡、大黄、赤芍、枸杞などがある甘草の産地は沿線近くでは包頭一帶から西へ五原、臨河に及んでゐるが、包頭に集散するものには更に寧夏方面より出廻り物が加はり、民國二十五年包頭驛の發送數量は四、八八七噸であつた。その他の藥草類も集散地は主として厚和以西の各地で、寧夏方面のものが集まる關係上包頭の數量が斷然多い。黄麻は下花園が主要集散地である。

作物の主なるものは粟、高粱、豆類、小麥、亞麻および馬鈴薯等で、毎年京包線一帶から京津方面へ移出される數量は約三十萬噸に達する。最近に於ける主要産額を示せば左の如くである。

○畜産業

農耕地の擴大につれ畜群は次第に沿線から遠ざかつて行つたが、畜産は內蒙に於ける最も重要な資源の一つである。本地域內家畜の概數は羊の四百萬頭を第一位とし山羊九十萬頭、牛八十萬頭、騾驢四十八萬頭、馬五十萬頭、豚六十五萬頭で沿線風景の特色とされる駱駝は五萬二、三千頭と見られてゐる。その他鷄の飼養二百六十萬羽があり、卵及びその加工品は沿線特産の一に數へられる。生産數量其他不明の點多いが民國二十五年本路によつて移出された數量及び主要集散地を示せば左の如くである。

(單位噸)

種類	主要集散地	輸送數量
羊毛	張家口、大同、綏遠、包頭	二五、九七四
駱駝毛	綏遠、包頭	一、六七七
皮革	綏遠、包頭、宣化	一、五九二
豚	康莊、察南一帶	四、四八九
羊	康莊、張家口、綏遠	一四、一一一
牛	張家口	一三一
卵及加工品	大同、豐鎭、平地泉	二、四七三

羊毛の數量中には黄河の水運によつて遠く甘肅、寧夏方面から運ばれたのを含むがその數量は明かでなく、包頭がこの集散市場となつてゐる。駱駝毛は嘗て外蒙産のものを多く見たが最近のものは主として伊克昭盟鄂爾多斯及び寧夏産のものが多い。駱駝は重量の負擔に耐へるもので馱獸としてよく沿線では專ら輸送に利用されてゐる。

牛は肉用として殆ど現地の需要に充てられ、境外に移出されるものは甚だ少い。

現在のところ蒙疆の畜産資源として最も重要なるものは羊毛であるが、元來蒙古人が羊を飼ふのは食用が主であるから毛質は粗剛で高級な織物には不適當とされてゐる。從來蒙疆の羊毛は主として米國に輸出されてゐたが、今後これを日滿蒙間のブロック内に確保することが必要とされるに至つたので、事變後日本側主要業者八社から

成る蒙疆羊毛同業會が組織され、現在已に同會の手により蒙疆羊毛の配給統制が行はれて居り、尚昭和十四年三月蒙疆畜産株式會社が設立され家畜及畜産物の賣買、輸出入並畜産物の處理、屠宰場の經營等畜産振興上必要なる事業を行つてゐる。

○鑛業

大同の石炭と龍煙の鐵鑛とは沿線に於ける鑛産資源の雙璧をなすものである。この二つとも既に開發が行はれてゐたものであるが、事變後我が國の資本と優秀な技術をもつて更に大規模な開發が行はれることゝなつた。

この他京包線一帶は殊に石炭の資源が極めて豐富であるが多くは小規模な土法採掘により僅に地方の需要を充してゐるに過ぎない。內蒙五盟地域には鐵鑛その他各種鑛産の存在が知られてゐるが、土地の關係上經濟的開發が不可能であるか若くは其他の理由によつて放棄されてゐるものが多い。

【石炭】埋藏量は察南五億噸、晋北大同二百億噸その他十億噸、內蒙五盟地域四億八千萬噸と推定されてゐる。察南では宣化、蔚縣、懷來等を主産地とし炭坑數三十箇所に上るが、下花園を除いては皆小規模な土法採掘が行はれてをり年産額は二十萬噸に達しない。下花園炭礦はもと京綏鐵路の經營で年産七萬噸、機械設備を有し、この地方有數の大炭礦であつたが、現在は蒙古聯合自治政府の管理下におかれ、目下滿洲炭礦株式會社をして之が經營に當らしめてゐる。

大同炭 大同炭と稱せられるのは、大同の西南約二十粁の口泉鎭一帶の礦區の産である。晋北全産額百萬噸の中本礦區の産は八十％を占め、年額四十萬噸を京津地方へ移出してゐる。

口泉の礦區は數箇所に分れ夫々經營者を異にし、主なるものは晋北礦務局、大同寶晋煤礦公司、同寶煤礦公司、協興煤礦公司の四公司で、晋北礦務局は最大且設備も最もよく本礦區全産額の七十％以上を出炭してゐる。

次に內蒙五盟地域では集寧二百萬噸、歸綏七千一百萬噸、薩拉齊三千八百萬噸、固陽一億五千三百萬噸、安北九千八百萬噸、鄂爾多斯五千九百萬噸、其他五千五百萬噸で埋藏量計四億七千六百萬噸と推定されてゐるが土法採掘によつて現地の需要を充す程度で年産額も僅に六萬噸に過ぎない。

【鐵】龍煙鐵鑛、龍煙炭礦は宣化縣煙筒山、龍關縣辛窰、龐家堡の鑛區より成り、これが採掘權は官商合辦龍煙鐵鑛公司の獨占に歸してゐた。同公司は民國七年の設立で、宣化煙筒山に製煉所を設け次いで民國十年春、京門支線の石景山に製煉場を建設、十一年その大部分を完成したが偶々時局の變動に遭つて工事を停止したまゝ今日に至つてゐる。民國十二年日本側に之を擔保として借款したゝめ、前直隷省長より執行を禁止され、十七年秋國有に收められたが、後鐵道部の所有となつてゐたものである。

現在は蒙疆聯合自治政府の管理下におかれ、興中公司によつて再開發が行はれてゐる。鑛質は赤鐵鑛、鐵分四十％—六十％平均五十三％の富鑛である。

內蒙五盟地域では固陽に七十萬噸、武川白雲山に三千二百萬噸の鑛脈のあることが確められてゐる。白雲鄂博の鐵鑛は赤鐵鑛及び輝鐵鑛が主で六十％以上の富鑛といはれるが、位置が邊疆に偏し開發の時期に至つてゐない。

【鹽】池鹽及び湖鹽で産地は內蒙五盟地域に限られてゐる。歸綏縣察素齊及び畢克齊以南、包頭西南の腦包灘、豐鎭、凉城境界の大海泊附近及び和林各爾が主産地として擧げられ年産額、凉城百萬斤、歸綏、包頭各十萬斤、豐鎭七、八萬斤、和林各爾は鹽のほか曹達も産し各十萬斤である。

【曹達】伊克昭盟鄂爾多斯地方の湖か

ら年額千八百噸の産出がある。又察哈爾は年産八千噸と云はれ、張家口北部の正藍旗地方産のものは張家口に運ばれて精製され口鹼と稱して京津に搬出販賣されてゐる。

【その他の鑛産】 內蒙五盟地域では未だ充分な調査が行はれてゐないが、既に知られてゐるものゝみでも次の樣なものがある

石綿は武川、薩拉齊、固陽、包頭、歸綏、安北一帶に産し、大靑山方面の埋藏量のみでも約六十八萬噸といはれる。榮豐公司、公盡棧等の經營する鑛區は各地にあるが、産額は少く年産二十噸內外を出でない。

その他鄂托克旗のアンチモニー、固陽、淸水河の磁土、陶林、武川、固陽、興和及び察哈爾の水晶、華麗石(五色晶瑩)、歸綏興和の石墨及び歸綏、興和、晉北天鎭の黑鉛等があるが採掘狀況、年産額その他不明である。

○工　業

電氣(張家口、大同、厚和、包頭)製粉(厚和、包頭)毛織(厚和)酒精(大同)等に若干近代的設備を有するものがあるほか本地方の工業は全般的に見てまだ原始的家內工業の域を脫してゐない。經營は全く漢人の獨占に歸してゐるが、その主要なものを擧げると粗紙又は麻紙、毛氈及び毡帽、製革、卵加工、製油、煙草、製繩、銅器、鹽、曹達の精製等である。この中、製毡、製革、曹達、鹽は原料が極めて豐富であるから適當な技術と資本を導き入れるならば充分發展の可能性を持つものであらう。

經　濟

【商業・貿易】 京包沿線の商業は大體、張家口を中心とする蒙古貿易と包頭を中心とする西北貿易とによつて代表される。

張家口は嘗て京津の大市場と內外蒙古及び甘肅、寧夏の所謂西北地方とを繫ぐ一大中繼市場として繁榮を誇つたものであつたが、外蒙古の獨立以來、庫倫方面との隊商交易が杜絕したこと、加ふるに京綏鐵路が平西に延びるに隨つて綏東方面の背後地が平地泉の勢力圈に移つた事及び更に西北貿易の中心が全く包頭へ移つて行つた事などの爲現在はその背後地關係も非常に狹められ僅に察哈爾、錫林郭爾方面を殘してゐるに過ぎないので自然落凋にあるを免れない。

之に反し包頭は黃河の水運に惠まれ、所謂西北貿易の中心地として本沿線に於ける最大の市場の一つであるが、綏遠の經濟的價値は綏西にあり、綏西の經濟は包頭の西北貿易によつて代表されると言はれる如く將來その地位は極めて重要視されるものがある。而して近年は新、甘、寧省から運ばれる土貨の賣行き惡く自然輸入雜貨の商況も不振となり、いはゆる貨業は一般に不況の狀態にあるといはれる。

京包沿線の商業を概觀するに、近來貿易關係が衰退の一途を辿つて來たのに地方農産關係を主とする糧業は比較的順調な發展を遂げて來たことが見られるが、これは沿線經濟の最近の情勢を示すもので極めて興味ある問題である。

蒙疆の主たる海外貿易港と推定さるゝ天津海關の統計に於ても當地域貿易の數字的全貌を知ることは至難であり、僅かに黃河の水運及び駱駝の隊商によつて行はれる包頭に於ける概況を知り得るのみである。

寧夏・甘肅・青海方面への輸出品

磚茶	五十一萬箱	洋油	七千箱
煙草	四千五百箱	雜貨	三萬五千梱
各種綿布	一萬五千梱		

前記各省地方からの輸入品

牛皮	一萬餘張	羊皮	三十萬張
各種絨毛	一千百萬斤	甘草	一千萬斤
糧食	五百萬斤	白麻	三十萬斤
鹽	一千萬斤	小烟	四百二十萬斤 (三萬箱)

【金融・通貨】 舊察南自治政府は支那事變始つて以來、自治政體の出現に先鞭をつけたものであつたが、政府成立以來當局が最も力を注いだのは紊亂せる金融の回復であつた。從來察哈爾地方に於いては軍閥の機關銀行が紙幣の發行權を擁し、各種の金融に相當手廣く携つてゐたものであるが、事變と共に地方金融を操縱してゐたこれ等軍閥の機關がいち早く逃亡して了つた爲、經濟界の活動は一時全く停止の狀態に陷つた。そこで舊察南自治政府はこの住民の窮狀と經濟界の恐慌を防止する見地から緊急通貨防衞令を發布すると共に十月一日察南銀行を設立し、滿洲國幣にリンクする新紙幣を發行して、舊通貨の回收を行ふと同時に戰後の金融工作に當つて來た。

その後、戰局の進展につれて察南銀行の活動範圍を擴大して行つたが、蒙疆聯合委員會の成立と共に、更に蒙疆全般の金融統制を行ふことが必要とされるに至つたので、之に綏遠平市官錢局、豐業銀行を合併し蒙疆銀行として新設されることゝなつたが、引續き幣制の統一と金融改善に努めた結果、今日既に蒙疆の幣制は完成の域に達し、又蒙疆銀行を唯一の爲替銀行として事實上の爲替管理が行はれてゐる。目下蒙疆地域に流通してゐる紙幣は蒙疆銀行紙幣一本制となり、之は日本銀行紙幣、鮮銀紙幣、滿洲中央銀行紙幣と何れも同價で兩替される。尙舊蒙聯に於いては更に庶民金融の改善を圖るべく同地方既存の各種群小金融機關を打つて一丸とし合理的な新機關の設立を企圖してゐたが、之が具體化として昭和十三年三月、張家口、大同、厚和の各地に夫々實業銀行の開設を見たので蒙疆の金融狀況は著しく改善され、全く舊來の面目を一新することゝなつた。

【蒙疆銀行】 昭和十二年十二月一日營業を開始し三自治政府の平等出資による株式組織で、公稱資本金一千二百萬圓、四分の一拂込、本店を張家口に置き、現在、懷來、宣化、涿鹿、大同、厚和、包頭、豐鎭の各地に支店を置いてゐる。昭和十五年五月現在同行紙幣竝貨幣發行高は六千二百萬圓で正貨準備高は一千六百萬圓である。

交通・通信

【鐵　道】 北京を起點とし察南、晉北を經て包頭特別市に至る延長八百十六粁の京包鐵道は蒙疆唯一の鐵道であつて、目下華北交通會社をして一般旅客、貨物の運輸に當らしめてゐる。(旅行機關・鐵道の部參照)

【自動車】 自動車輸送は事變の結果、既存の車輛が悉く支那軍の奪取するところとなつた爲、一時全くその機能を失ふに至つたが、目下蒙疆汽車公司の手により新式優良車を各地に配置し、漸次路線の擴張を行ひ、着々その實績を擧げつゝあり、現在營業路線約二千粁に達してゐる。

【郵　電】 事變の混亂により一時機能を停止してゐた郵政事務は昭和十二年九月、察哈爾交通委員會の成立直後、滿洲國側の援助を得て治安確保された地方より逐次接收を開始し、十月中旬には北支郵政との通郵成立し、一先づ中華制度に依る通常郵税の業務を開始するに至つた。

又、電信、電話はその性質上、當初一時的に軍の管理下に置かれてゐたが聯合委員會成立後、郵電の一元的經營の大方針が決定され、之が爲に曩に蒙疆郵電總局が設立されたが、其後蒙疆郵電の統制計畫は着々進捗を見、昭和十三年三月初、資本金一千二百萬圓、日蒙合辦の特殊法人蒙疆電氣通信設備會社の設立によつて全くその基礎を確立するに至つた。

電信設備は政府に於て之が恢復に努めた結果現在では通信可能路線二〇〇〇粁に達してゐる。

尙政府より各縣城に通ずる幹線の整備竝に對外との通信網裝置を計畫中であり、十五年秋東京張家口を開通せしめ、尙無線電信も一部通信を行ひつゝある。

昭和十六年五月一日印刷
昭和十六年五月四日發行

滿支旅行年鑑・・・奥付
㊄正價　金壹圓參拾錢

不許複製

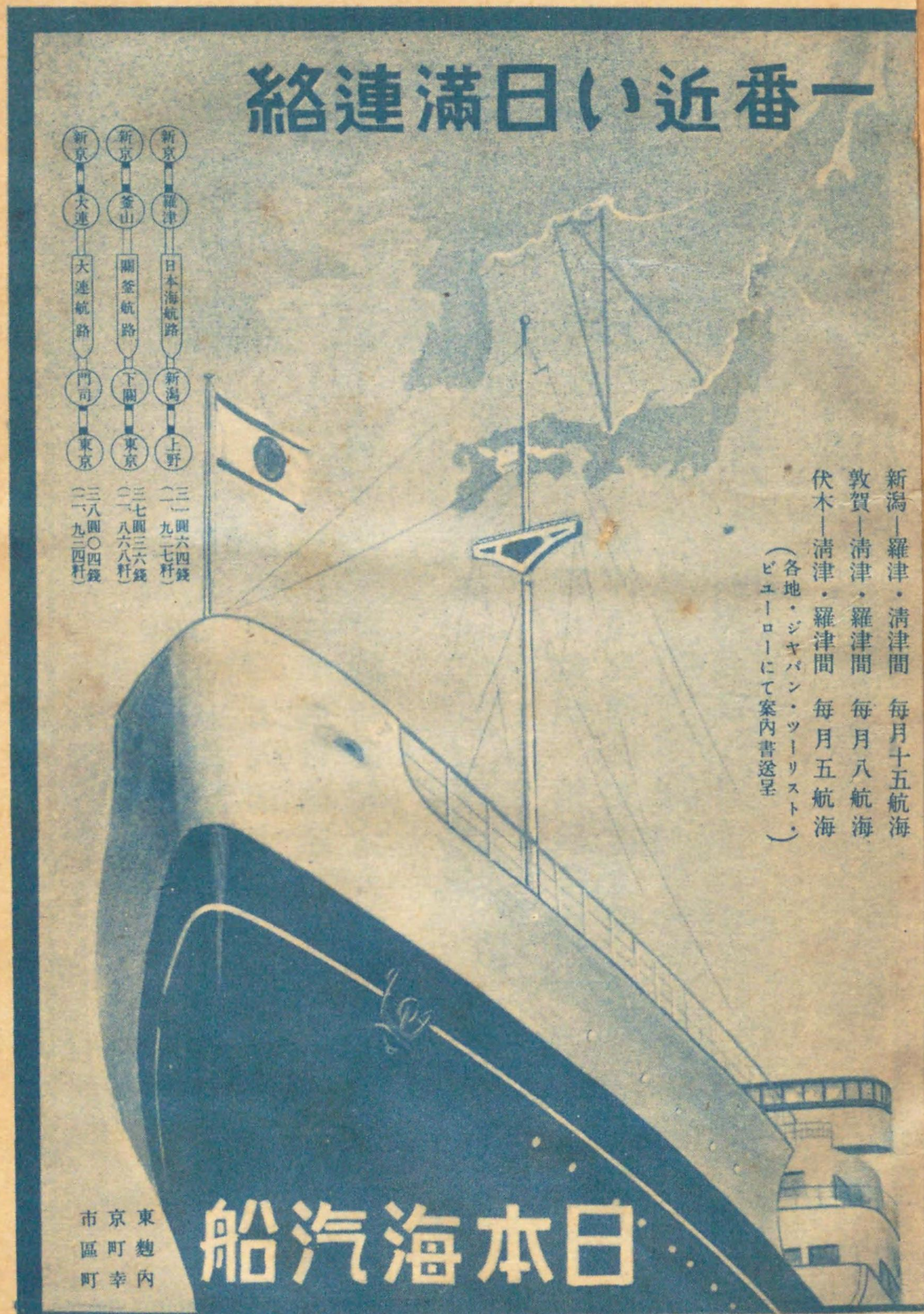
編纂者　財團法人　ジャパン・ツーリスト・ビユーロー（日本國際觀光局）滿洲支部
右代表者　北條保平

飜刻發行者　東京市日本橋區本町三丁目九番地　株式會社　博文館
右代表取締役社長　大橋進一

印刷者　東京市小石川區久堅町一〇八番地　大橋光吉

共同印刷株式會社印刷

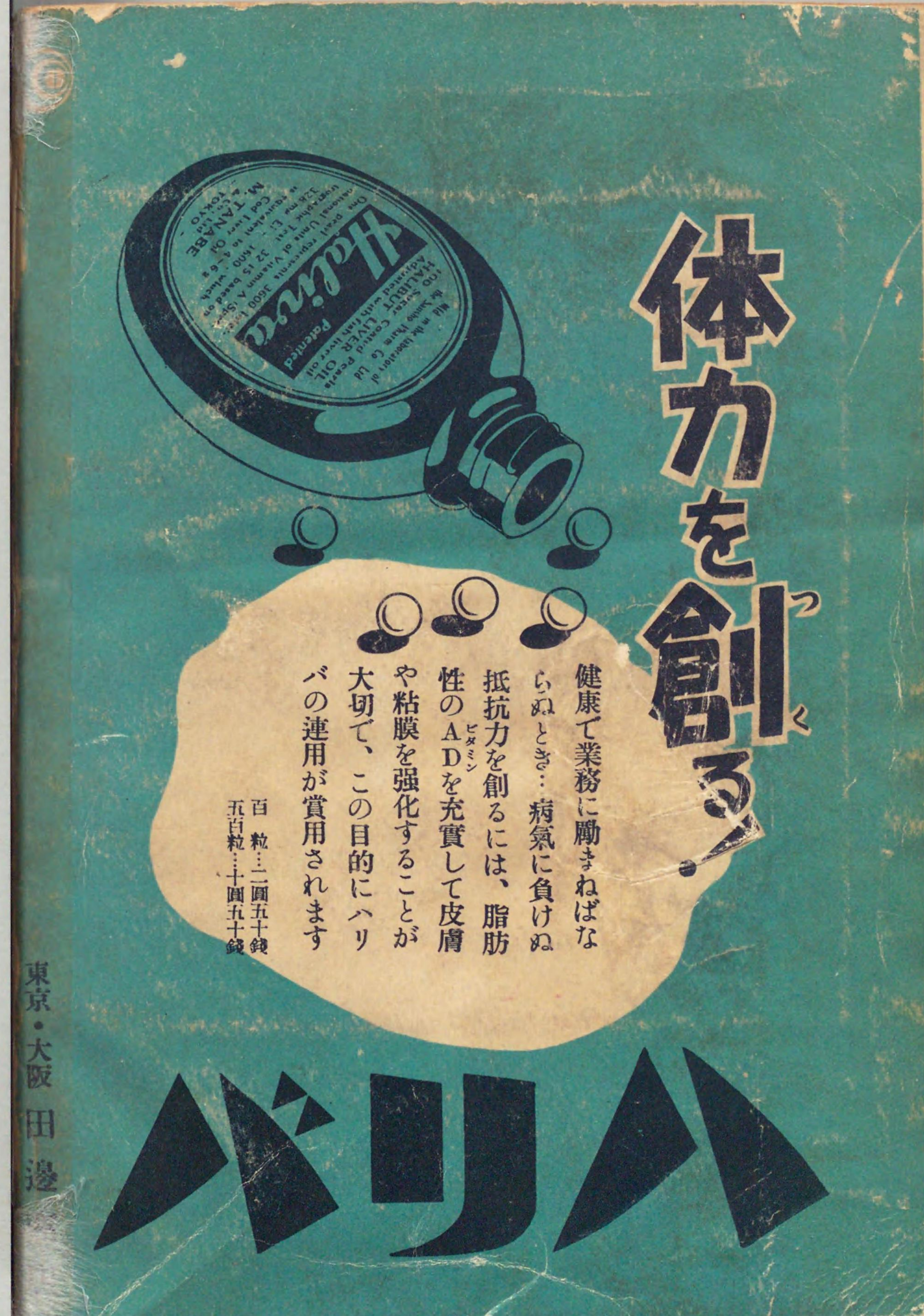
發賣所　東京市日本橋區本町　振替口座東京二四〇番　株式會社　博文館


一番近い日満連絡
新京—羅津—日本海航路—新潟—上野
三一圓六四錢（一、九二七粁）
新京—釜山—關釜航路—下關—東京
三七圓三六錢（一、八六八粁）
新京—大連—大連航路—門司—東京
三八圓〇四錢（一、九二四粁）
新潟—羅津・清津間　毎月十五航海
敦賀—清津・羅津間　毎月八航海
伏木—清津・羅津間　毎月五航海
（各地・ジャパン・ツーリスト・ビューローにて案内書送呈）
日本海汽船
東京市麹町區内幸町



安全！
快適！
空の旅
滿洲航空株式會社





体力を創る！
健康で業務に勵まねばならぬとき…病氣に負けぬ抵抗力を創るには、脂肪性のAD（ビタミン）を充實して皮膚や粘膜を強化することが大切で、この目的にハリバの連用が賞用されます
百粒…二圓五十錢
五百粒…十圓五十錢
ハリバ
東京・大阪 田邊